

房谷戸遺跡 I

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第27集 —

1989

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

房谷戸遺跡Ⅰ 正誤表 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

頁	行	誤	正
例言	4行目	東京第2建設局	→ 東京第二建設局
	16行目	白石保三郎	→ 白石保三郎
P99	80図中	668号土壙	→ 638号土壙
P107	右段3葉の写真キャプション		
	2段目	761号土壙	→ 762号土壙
	3段目	762号土壙	→ 761・762号土壙

資料	(財)群馬県埋蔵文化財	01-320
	調査事業団保管	
No. 1-1365	平成1年12月6日	(5)

ぼう がい と 房 谷 戸 遺 跡 I

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第27集 —

1 9 8 9

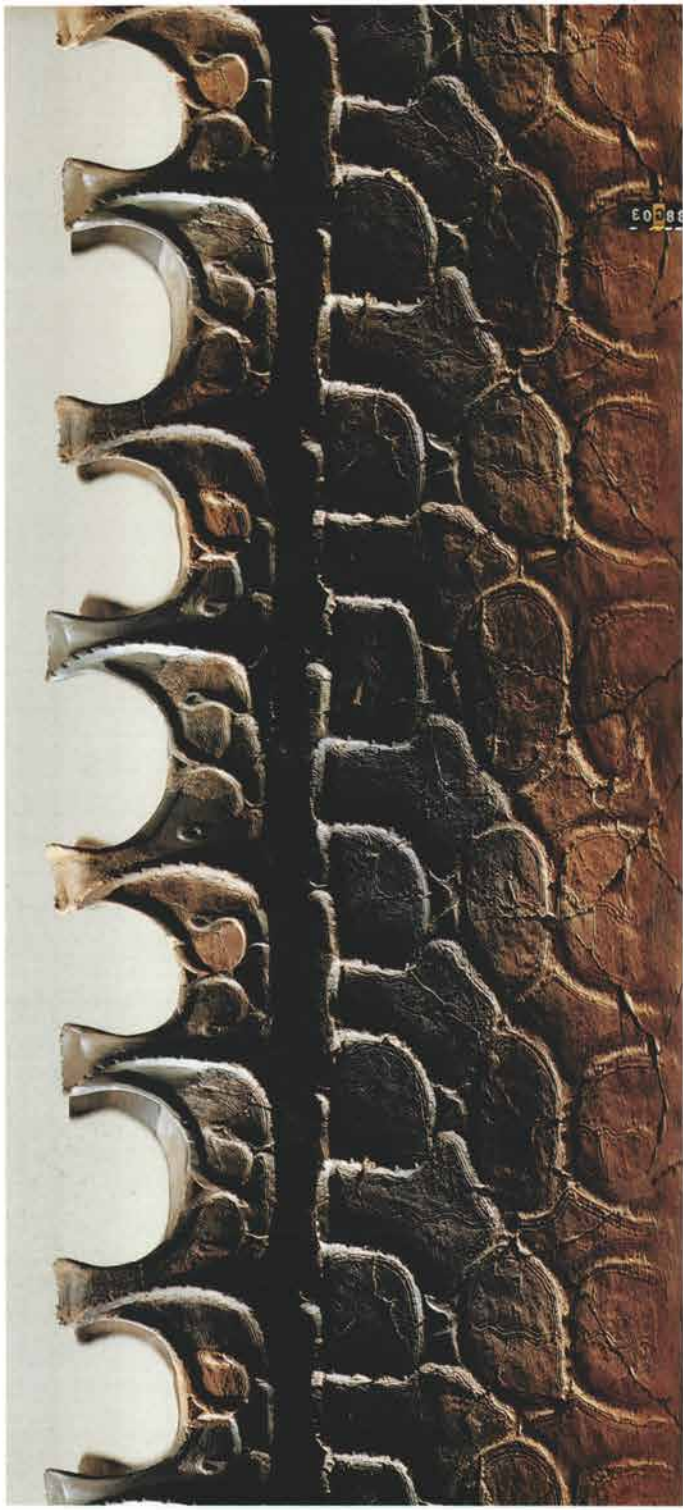
群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

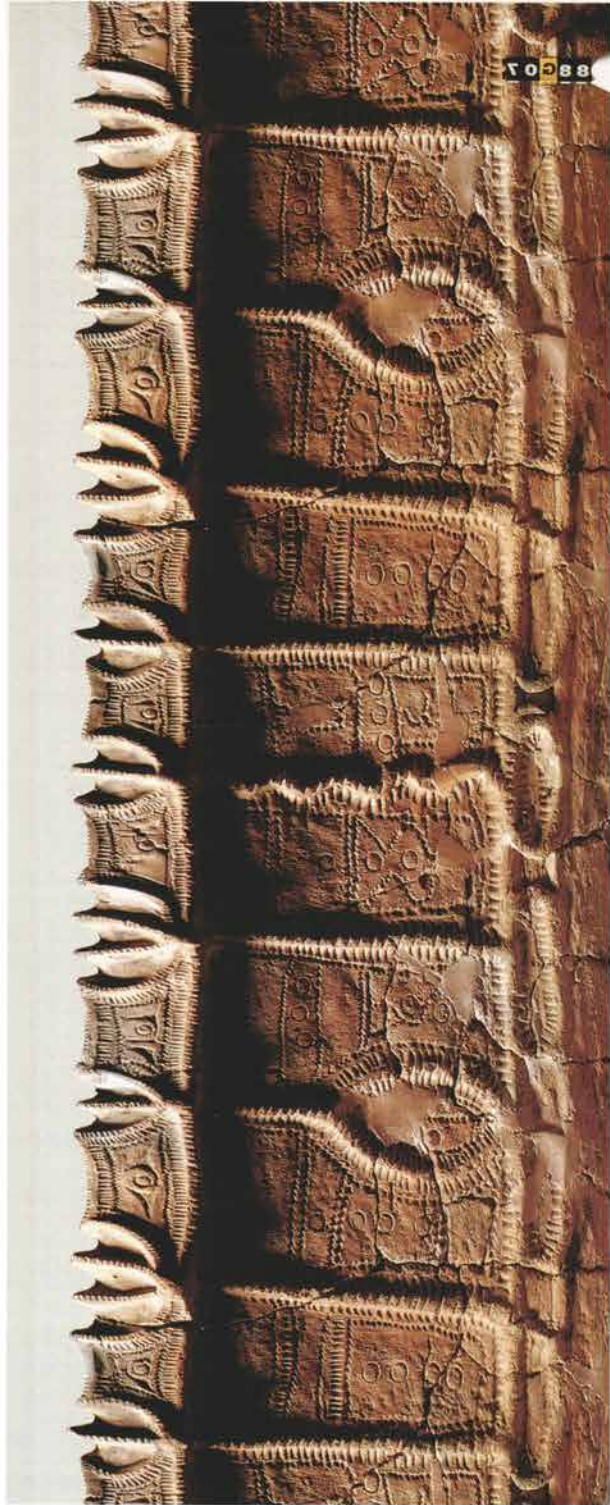


21号住



894号土罐







761号土墩



224号土墩

序

関越自動車道新潟線は、太平洋側の首都東京と日本海側の新潟市を結ぶ高速自動車道として、昭和60年10月1日に開通いたしました。本道路の開通に際しては、数多くの埋蔵文化財が、事前の道路建設工事に先立って調査されました。本県でも58箇所の埋蔵文化財包蔵地が発掘調査され、記録保存されています。

本報告によるところの房谷戸遺跡は、勢多郡北橘村八崎に所在する埋蔵文化財包蔵地であり、昭和58年2月から昭和58年11月にかけて、当事業団が調査しました。旧石器時代の石器群、縄文時代中期の住居跡、古墳時代から平安時代にかけて継続的に営まれた集落跡等が調査され、古代における本県の歴史を知る上での数々の貴重な資料が得られました。特に縄文時代の住居跡等から大量に出土した土器は、質的にも良好なもので、関係者の注目をひいている資料です。これら資料は、昭和63年2月から報告書作成のための整理作業が行われ、本年3月に縄文時代から平安時代にかけての遺構・遺物の整理が完了し、房谷戸遺跡の第1分冊としての報告書を作成することができました。

本遺跡の発掘調査及び報告書作成のための整理作業にあたっては、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、北橘村教育委員会、地元関係者等多くの方々からご援助、ご指導、ご協力を賜りました。ここに深く感謝の意を表し、本報告書が本県の歴史を解明するための資料として、広く県民各位、研究者、教育機関等に、活用されることを願い序とします。

平成元年5月31日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水一郎

例 言

1. 本書は、関越自動車道新潟線建設工事に伴い、事前調査された群馬県勢多郡北橘村八崎字上房谷戸・栗崎上に所在する房谷戸遺跡の縄文時代～中世の遺構・遺物を取り扱った調査報告書である。先土器時代に関する報告は、別冊として後刊の予定である。
2. 事業主体 日本道路公団東京第2建設局
3. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
4. 試掘調査 昭和56年6月1日～6月5日
本調査 昭和57年2月1日～昭和58年11月30日
5. 調査組織
事務担当 小林起久治、沢井良之助、白石保三郎、井上唯雄、松本浩一、大沢秋良、近藤平志、平野進一、国定均、笠原秀樹、須田(旧姓山本)朋子、吉田有光、柳岡良宏、野島のぶ江、吉田恵子、並木綾子、今井もと子
調査担当 真下高幸、小野和之、谷藤保彦、山口逸弘(調査研究員)
6. 発掘調査後の遺物・図面の整理は、昭和61年度～昭和63年度に整理した。
7. 本書作成の組織は以下の通りである。
事務担当 白石保三郎、梅沢重昭、井上唯雄、松本浩一、上原啓己、神保侑史、大沢秋良、田口紀男、平野進一、真下高幸、定方隆史、住谷進、国定均、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、小林昌嗣、柳岡良宏、野島のぶ江、今井もと子、松井美智子、大島敬子、小野沢春美
編集 小野和之、山口逸弘
本文執筆 真下高幸、小野和之、松村和男、山口逸弘 文責は目次に明記した。
8. 本書の作成および資料整理の担当は以下の通りである。
整理嘱託員 長沼久美子
整理補助員 安達好子、阿部由美子、市田武子、尾田正子、串渕すみ江、桑原恵美子、佐藤美代子、高梨房江、高橋とし子、高橋裕美、高橋美津子、千代谷和子、萩原鈴代、茂木範子、八峠美津子、吉原清乃
遺物写真撮影 佐藤元彦(技師)
遺物保存処理 関 邦一(技師)、北爪(旧姓宮沢)健二、小材浩一
9. 土器の胎土分析は井上 巖氏(第四紀地質研究所)、石材鑑定は飯島静男氏(群馬地質協会)、土器の展開写真は小川忠博氏(写真家)にお願いした。
10. 調査、整理に当たっては下記の方々にご協力、ご教示を頂いた。記して感謝いたします(敬称略、順不同)。
都丸十九一、茂木充視、都丸 肇、白石典之、山田八重子、赤山容造、能登 健、小宮俊久、竹本実希子、森下寿良、羽鳥政彦、大塚昌彦、三宅敦気、飯島克巳、高橋良治、寺内隆夫、野村一寿、小林真寿、堀田雄二、海老原郁雄、芹澤清八、塚本師也、佐藤雅一、鈴木徳雄、細田 勝、中山真二、植田 真
11. 出土遺物は現在群馬県埋蔵文化財センターに保管している。



遺跡位置図

群 馬	「房谷戸遺跡Ⅰ」 1989(平成元)年10月 駒群馬県埋蔵文化財調査事業団(〒377勢多郡北橋村大字下箱田784の2 TEL 0279-52-2511) A4判オフセット、本文543頁、折り込み1枚、写真図版138頁、付図3枚
遺跡名と地番	房谷戸(ぼうがいと)遺跡。勢多郡北橋村八崎字上房谷戸・栗崎上
調査期間など	試掘:昭和56年6月、本調査:昭和57年2月~昭和58年11月、調査面積:約16,000㎡
担 当 者	発掘担当者:真下高幸 小野和之 谷藤保彦 山口逸弘 整理担当者:小野和之 山口逸弘 嘱託員 長沼久美子
遺 構 と 遺 物	先土器時代のユニットを複数枚、縄文時代中期前半の住居址を18軒(20・21号住居址は該期の遺物を豊富に出土した良好な住居址である。)土壌を894基(遺物を主体的に出土する土壌を約120基、大石を伴う土壌を2基、陥し穴状土壌を6基)、古墳~平安時代の住居址を17軒、土壌1基、中世の館濠1、土壌3基を検出した。遺物は縄文時代中期前半のものが量的に多く、資的にも良好な資料である。個体図示し得た土器は434個体、石器は475個体である。古墳~平安時代、中世の遺物は147個体である。
分析・考察等	V章:胎土分析(第四紀地質研究所 井上 敏氏)で縄文土器の胎土分析を行った。VI章で、1.出土石器について(小野和之)、2.打製石斧について(松村和男)、3.中期前半の土器様相(山口逸弘)を抄録した。展開写真は小川忠博氏による。
後 刊 予 定	本遺跡で検出された先土器時代のユニットと出土石器は後刊の「房谷戸遺跡Ⅱ」に抄録する

凡 例

1. 遺構実測図の縮尺は住居址 $\frac{1}{60}$ 、土壇 $\frac{1}{20} \cdot \frac{1}{40}$ 、濠 $\frac{1}{30}$ とした。その他の遺構に関しては、図中に明記してある。

土器の実測図は

縄文時代完形土器、 $\frac{1}{4}$

同 土器片、 $\frac{1}{2}$

同 土製円盤、 $\frac{1}{2}$

古墳～平安時代完形土器、 $\frac{1}{3}$

石器の実測図は

石鏃、石錐、石匙の一部、 $\frac{1}{4}$

石匙、ピエス・エスキュー、 $\frac{1}{2}$

打製石斧、磨製石斧、スクレイパー、剝片石器、石核、磨石類（小形）、 $\frac{1}{3}$

磨石類（大形）、石皿、石棒、 $\frac{1}{4}$

として、実測図に明記した。

2. 挿図中の方位は座標北を示す。


3. 写真図版の縮尺は任意だが、各遺物毎に大きさは統一した。

4. 遺構番号は調査時の番号を重視したが、一部整理の都合変更した遺構もある。

5. 遺物出土状態図中の●は土器、▲は石器、自然石である。

6. 挿図中のスクリーントーンは

遺構図中  は焼土、灰

石器図中  は使用による磨面を表わす。

土器図中  は油煙を表わす。

7. 遺構の土層説明および断面水準値は表4・5にまとめた。

8. 表6の石器計測値では石材は次のように表わした。

雲母石英片岩＝雲石、花崗岩＝花崗、かんらん岩＝かん、軽石＝軽石、凝灰岩質泥岩＝凝泥、

輝緑岩＝輝緑、珪質頁岩＝珪頁、頁岩＝頁、黒色頁岩＝黒頁、黒耀石＝黒耀、

黒色安山岩＝黒安、黒色片岩＝黒片、細粒安山岩＝細安、砂岩＝砂、閃緑岩＝閃緑、

石英閃緑岩＝石閃、石英斑岩＝石斑、粗粒安山岩＝粗安、淡緑色石英質岩＝淡石、チャート＝チ、

点紋頁岩＝点頁、点紋緑色片岩＝点緑、灰色安山岩＝灰安、ひん岩＝ひん、変はんれい岩＝変はん、

変質蛇紋岩＝変蛇、変質玄武岩＝変質玄、変玄武岩＝変玄、文象斑岩＝文斑、ホルンフェルス＝ホ、

緑色片岩＝緑片、流紋岩＝流紋、溶結凝灰岩＝溶凝 とした。

9. 本文中の土器に対する群別は以下のとおりである。

尚、細かな類別はここでは行わない。

第I群 縄文時代前期の土器。遺構と密接な出土状態を示すものは少ない。破片の出土は極少量認められる。

第II群 前期末～中期初頭の土器。一群と同様に客体的な出土状態を示す。しかし、当遺跡で遺構が土器と密接な関わりを持つ初現がこの時期ではないだろうか。133号土壇で異系統の2個体の出土が認められる。また、22号住居址出土土器1個体も本群にあたる。その他、細沈線文、結節縄文を施した土器片

が出土している。十三菩提式～五領ケ台式に当る。

第Ⅲ群 阿玉台式土器を一括した。いわゆるⅠa式と言われる古手のものは、客体的な存在であろう。当遺跡で主体的な在り方を示す阿玉台式土器は、Ⅰb～Ⅱ式期の土器である。21号住居址に豊富な出土量が見られ、その他、土壌からも出土が多い。純粋な阿玉台式も多いが、本遺跡で特徴的な有り方を呈する本群は勝坂式の影響を受けた、楕円区画を配するものであろう。また、大形品の多さも目立つ。利根川流域であることなどが、主体的な出土量を物語るのだろう。

第Ⅳ群 勝坂式系土器 本群で取り上げる勝坂式土器は、直接に南関東および、八ヶ岳山麓部の影響を顕著に受けたものではなく、その多くは、従来の勝坂Ⅰ式土器が在地化したものであろう。例えば、新道式に近似するものが見られるが、八ヶ岳山麓部のものと比して、やゝ胴径が小さく不安定なもの(585号土壌)、截痕列を施すが、橋状把手を持たせ、器形も非常に特異なもの(20号住居址)などが見られる。また、勝坂式後半段階のもの(512、513号土壌など)も見られる。

第Ⅴ群 地域色の濃い、在地系の土器群を一括した。住居址、土壌、遺構外の出土があり、本遺跡の中核をなす。いわゆる焼町土器と呼ばれる土器群に代表されるものが著名だが、本遺跡出土のものはそれらの系統、出自などを呈示するのに好資料となり得ろう。特徴としては、環状突起と隆線によって巴状のモチーフを配し、隆線に沿って太めの沈線が施される。また、空白部には三叉文や短沈線が刻まれた円文などが埋められる。阿玉台式や勝坂式的な特徴を具備しながらも、その文様帯の有り方など例をあまり見ず、今後該期土器群のなかで北関東地方の一類型としてその位置を占めるであろう。併行する時期など、別項を設けて述べたい。

第Ⅵ群 大木系、北陸系の土器を当てる。出土量は、多くはないが8a段階の個体が29号住居址、761号土壌などから出土している。搬入品と思われるものは少ないが、明らかに関東地方の中期前半の土器様相とは顔付きを異にする。東北地方南部及び北陸地方の影響とばかりは短絡的にはいえないが、とりあえずは、従来とは別系統として捉えたい。

第Ⅶ群 浅鉢、および無文の深鉢を一括した。文様要素が少なく、細かな時期特定などが困難なものが多いが、出土量は多く、用途、機能など器形や成整形技法から考えなければならない。本書では一括して大別した。

第Ⅷ群 後期の土器 遺構を伴わずに極少量の土器片の出土を見た。加曾利B式である。

10. 本書を作成するにあたり次の文献、報告書を参考にした。

- | | | | |
|--------|------|-------------------------|--------------------------|
| 会田 進他 | 1972 | 『梨久保遺跡』 | 岡谷市教育委員会 |
| 会田 進他 | 1974 | 『扇平遺跡』 | 岡谷市教育委員会 |
| 安孫子昭二他 | 1969 | 『多摩ニュータウン遺跡調査報告Ⅶ』 | 多摩ニュータウン遺跡調査会 |
| 安孫子昭二他 | 1974 | 『貫井南』 | 小金井市貫井南遺跡調査会 |
| 伊藤富治夫他 | 1987 | 『中山谷遺跡』 | —第9次～11次調査— 小金井市中山谷遺跡調査会 |
| 岩井住男他 | 1970 | 「膳棚」 | 『鳳翔』7 |
| 海老原郁雄他 | 1980 | 『槻沢遺跡』 | 栃木県教育委員会 |
| 海老原郁雄 | 1986 | 『梨木平遺跡』 | 栃木県上河内村教育委員会 |
| 大山 柏 | 1927 | 「神奈川県新磯村字勝坂遺物包含地調査報告」 | 『史前学研究会小報』第1号 |
| 唐木孝男他 | 1988 | 『中央自動車道長野線 埋蔵文化財調査報告書2』 | 長野県埋蔵文化財センター |
| 川井正一 | 1986 | 『大境遺跡』 | 茨城県教育財団 |
| 川口正幸他 | 1980 | 『藤の台遺跡Ⅱ・Ⅲ』 | 藤の台遺跡調査会 |

- 川口正幸他 1983 『町田市木曾中学校遺跡』 町田市教育委員会
- 神沢昌二郎他 1983 『松本市内田雨堀遺跡』 松本市教育委員会
- 後藤信祐他 1985 『免の内台遺跡調査概報』 栃木県羽賀町教育委員会
- 小林真寿他 1986 『不動坂遺跡群II・古屋敷遺跡群II』 長野県東部町教育委員会
- 小林達雄他 1981 「シンポジウム北関東を中心とする縄文中期の諸問題」 日本考古学協会昭和56年度大会
- 小林康雄他 1986 『俎原遺跡』 塩尻市教育委員会
- 子和清水貝塚発掘調査団 1976 『子和清水貝塚・遺構図版編』 松戸市文化財調査報告 第7集
- 子和清水貝塚発掘調査団 1978 『子和清水貝塚・遺物図版編1』 松戸市文化財調査報告 第8集
- 佐藤達夫 1974 「土器型式の実態—五領ヶ台式と勝坂式の間—」『日本考古学の現状と課題』
- 佐藤雅一 1986 『川久保遺跡』 新潟県湯沢町教育委員会
- 実川順一他 1978 『貫井』 小金井市教育委員会
- 下総考古学研究会 1985 「勝坂式土器の研究」 『下総考古学 8』
- 白石浩之 1970 『日野吹上遺跡』 日野市吹上遺跡調査会
- 新藤康雄他 1982 『神谷原II』 八王子市栢田遺跡調査会
- 鈴木敏昭 1982 『下南原』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木敏昭他 1983 『台耕地(I)』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木保彦 1981 「勝坂式土器」
- 芹沢清八 1986 『御城田』 栃木県文化振興事業団
- 谷井 彪 1979 「縄文土器の単位とその意味」 『古代文化』31—2、3、
- 谷井 彪他 1982 「縄文中期土器群の再編」 『研究紀要』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 塚田 光 1964 「群馬県・新巻遺跡の中期縄文土器」 『下総考古学』1 下総考古学研究会
- 寺内隆夫 1987 「五領ヶ台式土器から勝坂式土器へ—型式変遷における一視点—」 『長野県埋蔵文化財センター紀要 1』
- 土井義夫他 1975 『栗山』 小金井市教育委員会
- 戸沢充則他 1970 『後田原』 岡谷市教育委員会
- 戸田哲也 1971 「勝坂式土器編年に関する試論」 『小田原考古学研究会会報4』
- 中島豊晴他 1980 『松本市笹賀牛の川遺跡—緊急発掘調査報告書—』
- 西村正衛 1972 「阿玉台式土器編年的研究概要」 早稲田大学文学研究科紀要18
- 能登 健 1981 「阿玉台式土器」 『縄文土器大成2 中期』 講談社
- 野村一寿 1984 「塩尻市焼町遺跡第1号住居址出土土器とその類例の位置付け」 『中部高地の考古学III』 長野県考古学会
- 服部敬史 1972 『岳ノ上遺跡』 東京都日の出村教育委員会
- 初山孝行他 1982 『石神遺跡』 栃木県教育委員会
- 林 かずお 1976 『東部町弥津油田遺跡出土の縄文中期土器』 『長野県考古学会誌』
- 伴 信夫 1974 「荒神山遺跡」 『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査包蔵報告書—諏訪市内その1・その2』
- 藤森栄一 1965 『井戸尻』 中央公論美術出版
- 松本 茂他 1985 『堂平B遺跡』 福島県玉川村教育委員会

三上徹也	1985	「梨久保式土器 再考」 『長野県埋蔵文化財センター紀要 1』
南 久和	1985	『北陸の縄文時代中期の編年 他9編』 一南 久和著作集第1集一 転形書房
武藤雄六他	1978	『曾利』 長野県富士見町教育委員会
武藤雄六他	1988	『唐渡宮』 長野県富士見町教育委員会
目黒吉明他	1982	「七郎内C遺跡」 『母畑地区遺跡発掘調査X』 福島文化センター

群馬県内では

赤城村教育委員会	1975	『寺内遺跡』
〃	1985	『見立溜井遺跡・見立大久保遺跡』
赤堀村教育委員会	1982	『多田山東遺跡発掘調査概報』
吾妻町教育委員会	1985	『郷原遺跡』
大胡町教育委員会	1986	『上大屋・樋越地区遺跡群』
桐生市教育委員会	1981	『三島台遺跡発掘調査概報』
群馬県企業局	1980	『三原田遺跡（住居編）』
群馬県史編纂委員会	1988	『群馬県史資料編 1』 一原始古代1一
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	1980	『庚塚・上・雷遺跡』
〃	1982	『十二原遺跡 大原遺跡 前中原遺跡』
〃	1984	『小町田遺跡』
〃	1984	『熊野堂遺跡第Ⅲ地区、雨壺遺跡』
〃	1985	『太田東部遺跡群』
〃	1986	『三後沢遺跡・十二原遺跡』
〃	1986	『中畦・諏訪西遺跡』
〃	1986	『下佐野遺跡Ⅱ地区(1)縄文時代・古墳時代編』
〃	1986	『大原Ⅱ遺跡・村主遺跡』
〃	1986	『上野国分僧寺・尼寺中間地域(1)』
〃	1987	『三原田城遺跡、八崎城、八崎塚、上青梨古墳』
〃	1988	『勝保沢中ノ山遺跡Ⅰ』
〃	1988	『深沢遺跡・前中原遺跡』
〃	1989	『下佐野遺跡Ⅰ』
〃	1989	『大平台遺跡』
渋川市教育委員会	1987	『御幸田山遺跡』
月夜野町教育委員会	1985	『関越自動車道月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』
沼田市教育委員会	1986	『寺入遺跡』
藤岡市教育委員会	1978	『F 1 竹沼遺跡』
富士見村教育委員会	1986	『富士見遺跡群 田中田遺跡 窪谷戸遺跡 見眼遺跡』
〃	1987	『向吹張遺跡・岩之下遺跡・田中遺跡・寄居遺跡』
北橘村教育委員会	1986	『分郷八崎遺跡』
〃	1987	『森山遺跡』
〃	1987	『揭示前遺跡』

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第 I 章 調査経過	
第 1 節 調査に至る経過	（真下） … 1
第 2 節 本調査の経過	（山口） … 2
第 1 項 昭和57年度の調査	（ 〃 ） … 2
第 2 項 昭和58年度の調査	（ 〃 ） … 2
第 II 章 環 境	
第 1 節 自然及び地理的環境	（ 〃 ） … 3
第 2 節 歴史的環境	… 4
第 1 項 北橘村、赤城村のこれまでの発掘調査	（ 〃 ） … 4
第 2 項 周辺の遺跡	（ 〃 ） … 6
第 III 章 調 査	
第 1 節 遺跡の地形	（ 〃 ） … 9
第 2 節 基本土層	（ 〃 ） … 9
第 3 節 調査の方法	（ 〃 ） … 11
第 IV 章 遺構と遺物	
第 1 節 遺跡の概要	（ 〃 ） … 12
第 2 節 縄文時代	（ 〃 ） … 12
第 1 項 住居址	（ 〃 ） … 19
第 2 項 土 壌	（ 〃 ） … 39
第 3 項 土器・土製品	（ 〃 ） … 192
第 4 項 石 器	（ 〃 ） … 335
第 3 節 古墳～平安時代	（小野） … 384
第 1 項 遺 構	（ 〃 ） … 384
第 2 項 出土遺物	（山口） … 397
第 4 節 中 世	（ 〃 ） … 412
遺構計測表・土層註・石器計測表・土器観察表	
第 V 章 胎土分析	（井上） … 503
第 VI 章 考 察	… 513
1 石器について	（小野） … 513
2 打製石斧について	（松村） … 515
3 房谷戸遺跡における縄文時代中期前半の土器様相	（山口） … 526
まとめにかえて	… 543

挿 図 目 次

<p>第I章</p> <p>1 図 試掘配置図…………… 1</p> <p>第II章</p> <p>2 図 赤城山西南、西麓域の地形模式図…………… 5</p> <p>3 図 周辺の遺跡…………… 8</p> <p>第III章</p> <p>4 図 遺跡の地形…………… 10</p> <p>5 図 土層柱状図…………… 10</p> <p>6 図 グリッド配置図…………… 11</p> <p>第IV章</p> <p>7 図 遺構配置図…………… 13</p> <p>8 図 // …………… 14</p> <p>9 図 // …………… 15</p> <p>10図 // …………… 16</p> <p>11図 // …………… 17</p> <p>12図 1号住居址…………… 19</p> <p>13図 1号住居址上層区…………… 20</p> <p>14図 20・22号住居址…………… 21</p> <p>15図 21号住居址・40号土壌遺物出土状況…………… 23</p> <p>16図 40・41・42号土壌…………… 25</p> <p>17図 21号住居址…………… 25</p> <p>18図 23号住居址…………… 26</p> <p>19図 24号住居址…………… 27</p> <p>20図 25号住居址…………… 27</p> <p>21図 26・27号住居址…………… 28</p> <p>22図 28号住居址…………… 29</p> <p>23図 29号住居址…………… 31</p> <p>24図 30号住居址…………… 32</p> <p>25図 31号住居址…………… 32</p> <p>26図 32号住居址…………… 33</p> <p>27図 33号住居址…………… 33</p> <p>28図 34号住居址…………… 34</p> <p>29図 34号住居址遺物出土状況…………… 35</p> <p>30図 35号住居址…………… 36</p> <p>31図 35号住居址遺物出土状況…………… 37</p> <p>32図 36号住居址…………… 38</p> <p>33図 土壌分類模式図…………… 40</p> <p>34図 遺物を主体的に出土した土壌…………… 42</p> <p>35図 // …………… 43</p> <p>36図 // …………… 44</p> <p>37図 // …………… 45</p> <p>38図 // …………… 46</p>	<p>39図 遺物を主体的に出土した土壌…………… 48</p> <p>40図 // …………… 49</p> <p>41図 // …………… 50</p> <p>42図 // …………… 52</p> <p>43図 // …………… 53</p> <p>44図 // …………… 54</p> <p>45図 // …………… 56</p> <p>46図 // …………… 57</p> <p>47図 // …………… 58</p> <p>48図 // …………… 59</p> <p>49図 // …………… 60</p> <p>50図 // …………… 62</p> <p>51図 // …………… 63</p> <p>52図 // …………… 64</p> <p>53図 // …………… 66</p> <p>54図 // …………… 67</p> <p>55図 // …………… 68</p> <p>56図 // …………… 69</p> <p>57図 // …………… 70</p> <p>58図 // …………… 72</p> <p>59図 // …………… 74</p> <p>60図 // …………… 75</p> <p>61図 // …………… 76</p> <p>62図 // …………… 77</p> <p>63図 // …………… 78</p> <p>64図 // …………… 79</p> <p>65図 // …………… 80</p> <p>66図 // …………… 81</p> <p>67図 // …………… 83</p> <p>68図 // …………… 84</p> <p>69図 // …………… 85</p> <p>70図 // …………… 86</p> <p>71図 // …………… 88</p> <p>72図 // …………… 89</p> <p>73図 // …………… 90</p> <p>74図 // …………… 91</p> <p>75図 // …………… 92</p> <p>76図 // …………… 94</p> <p>77図 // …………… 95</p> <p>78図 // …………… 96</p> <p>79図 // …………… 98</p> <p>80図 // …………… 99</p>
---	---

81図	遺物を主体的に出土した土壌	100	127図	遺物を客体的に出土する土壌	162
82図	〃	102	128図	〃	163
83図	〃	103	129図	〃	165
84図	〃	104	130図	〃	166
85図	〃	105	131図	〃	167
86図	〃	106	132図	〃	169
87図	〃	108	133図	〃	170
88図	〃	109	134図	〃	171
89図	〃	110	135図	〃	173
90図	〃	111	136図	〃	174
91図	〃	112	137図	〃	175
92図	〃	113	138図	〃	177
93図	〃	114	139図	〃	179
94図	遺物を客体的に出土する土壌	117	140図	〃	180
95図	〃	118	141図	〃	181
96図	〃	120	142図	〃	183
97図	〃	121	143図	〃	184
98図	〃	122	144図	〃	185
99図	〃	123	145図	〃	186
100図	〃	125	146図	〃	187
101図	〃	126	147図	〃、大石を伴う土壌	189
102図	〃	127	148図	陥し穴状土壌	190
103図	〃	129	149図	〃	191
104図	〃	130	150図	1号住居址出土土器	193
105図	〃	131	151図	1号住居址上層区出土土器	193
106図	〃	133	152図	20号住居址出土土器	194
107図	〃	134	153図	〃	195
108図	〃	135	154図	20号住居址出土土器	197
109図	〃	137	155図	〃	199
110図	〃	139	156図	〃	200
111図	〃	140	157図	〃	201
112図	〃	141	158図	〃	203
113図	〃	143	159図	22号住居址出土土器	203
114図	〃	144	160図	21号住居址出土土器	204
115図	〃	145	161図	〃	205
116図	〃	147	162図	〃	207
117図	〃	148	163図	〃	208
118図	〃	149	164図	〃	209
119図	〃	151	165図	〃	211
120図	〃	152	166図	〃	213
121図	〃	153	167図	〃	214
122図	〃	155	168図	〃	215
123図	〃	157	169図	〃	217
124図	〃	158	170図	40号土壌出土土器	219
125図	〃	159	171図	〃	220
126図	〃	161	172図	〃	221

173图	40号土壙出土土器	222	219图	土壙出土土器	284
174图	23号住居址出土土器	223	220图	〃	285
175图	24号住居址出土土器	223	221图	〃	287
176图	25号住居址出土土器	223	222图	〃	289
177图	26号住居址出土土器	225	223图	〃	290
178图	28号住居址出土土器	225	224图	遺構外出土土器	293
179图	〃	227	225图	〃	294
180图	29号住居址出土土器	227	226图	〃	295
181图	32号住居址出土土器	227	227图	〃	297
182图	34号住居址出土土器	229	228图	1号住居址土器片拓影	299
183图	〃	231	229图	1号住居址上層区土器片拓影	300
184图	35号住居址出土土器	232	230图	〃	301
185图	36号住居址出土土器	232	231图	20号住居址土器片拓影	301
186图	土壙出土土器	235	232图	20号住居址土器片拓影	302
187图	〃	236	233图	〃	303
188图	〃	237	234图	〃	304
189图	〃	239	235图	21号住居址土器片拓影	305
190图	〃	240	236图	〃	306
191图	190图—7・9展開图	241	237图	〃	307
192图	土壙出土土器	243	238图	22号住居址土器片拓影	308
193图	土壙出土土器	245	239图	23号住居址土器片拓影	308
194图	〃	246	240图	24号住居址土器片拓影	309
195图	〃	247	241图	25号住居址土器片拓影	309
196图	〃	249	242图	26号住居址土器片拓影	309
197图	〃	251	243图	27号住居址土器片拓影	309
198图	〃	253	244图	28号住居址土器片拓影	310
199图	〃	254	245图	29号住居址土器片拓影	310
200图	〃	255	246图	31号住居址土器片拓影	310
201图	〃	257	247图	32(1~3)・33(4)号住居址土器片拓影	310
202图	〃	259	248图	34号住居址土器片拓影	311
203图	〃	261	249图	〃	312
204图	〃	263	250图	35号住居址土器片拓影	313
205图	204图—4・206图—1展開图	265	251图	36号住居址土器片拓影	313
206图	土壙出土土器	266	252图	土壙土器片拓影	315
207图	〃	267	253图	〃	316
208图	〃	269	254图	〃	317
209图	〃	270	255图	〃	318
210图	209图—2(533壙)展開图	271	256图	〃	319
211图	土壙出土土器	273	257图	〃	320
212图	〃	274	258图	〃	321
213图	〃	275	259图	〃	322
214图	〃	277	260图	〃	323
215图	〃	279	261图	〃	324
216图	〃	280	262图	〃	325
217图	〃	281	263图	〃	326
218图	〃	283	264图	〃	327

265図	遺構外土器片拓影第Ⅰ～Ⅲ群	328	311図	14石棒(1)	377
266図	遺構外土器片拓影第Ⅲ群	329	312図	14石棒(2)	378
267図	〃	330	313図	15磨石類(1)	379
268図	遺構外土器片拓影第Ⅳ群	331	314図	15磨石類(2)	380
269図	遺構外土器片拓影第Ⅳ・Ⅴ群	332	315図	15磨石類(3)	381
270図	遺構外土器片拓影第Ⅴ～Ⅶ群	333	316図	15磨石類(4)	382
271図	土製円盤	334	317図	15磨石類(5)	383
272図	石材組成図	335	318図	16丸石	383
273図	1石鏃(1)	337	319図	2号住居址	385
274図	1石鏃(2)	338	320図	3号住居址	385
275図	2石錐	340	321図	4号住居址	386
276図	3ピエス・エスキーユ	340	322図	5号住居址	387
277図	4石匙	341	323図	6号住居址	388
278図	5尖頭器状石器	341	324図	7号住居址	389
279図	6石核(1)	341	325図	8・10号住居址	390
280図	6石核(2)	342	326図	9号住居址	391
281図	7スクレイパー(1)	344	327図	11号住居址	392
282図	7スクレイパー(2)	345	328図	11・12号住居址	392
283図	7スクレイパー(3)	346	329図	13号住居址	394
284図	8加工痕のある剥片石器(1)	348	330図	13・14号住居址	394
285図	8加工痕のある剥片石器(2)	349	331図	15号住居址	395
286図	9使用痕のある剥片石器(1)	351	332図	15・16号住居址	395
287図	9使用痕のある剥片石器(2)	352	333図	17号住居址	396
288図	10装飾品	352	334図	17・19号住居址	396
289図	11打製石斧(1)	354	335図	2号住居址出土土器	398
290図	11打製石斧(2)	355	336図	3号住居址出土土器	398
291図	11打製石斧(3)	356	337図	4号住居址出土土器	400
292図	11打製石斧(4)	357	338図	5号住居址出土土器	401
293図	11打製石斧(5)	359	339図	6号住居址出土土器	402
294図	11打製石斧(6)	360	340図	7号住居址出土土器	402
295図	11打製石斧(7)	361	341図	8号住居址出土土器	403
296図	11打製石斧(8)	362	342図	9号住居址出土土器	403
297図	11打製石斧(9)	363	343図	12号住居址出土土器	405
298図	12磨製石斧	363	344図	13号住居址出土土器	405
299図	13石皿(1)	365	345図	14号住居址出土土器	405
300図	13石皿(2)	366	346図	14号住居址出土土器	406
301図	13石皿(3)	367	347図	15号住居址出土土器	406
302図	13石皿(4)	368	348図	〃	408
303図	13石皿(5)	369	349図	〃	409
304図	13石皿(6)	370	350図	16号住居址出土遺物	410
305図	13石皿(7)	371	351図	17号住居址出土土器	410
306図	13石皿(8)	372	352図	19号住居址出土土器	411
307図	13石皿(9)	373	353図	遺構外出土土器	411
308図	13石皿(10)	374	354図	7号住居址出土鉄滓	411
309図	13石皿(11)	375	355図	土壙出土遺物	411
310図	13石皿(12)	377	356図	館濠	413

357図	橋脚遺構	413	2-第2図	打製石斧法量分析グラフ	517
358図	館濠北壁土層図	414	2-第3図	〃	518
359図	古墳時代以降の土壌	415	2-第4図	打製石斧法量分布グラフ	519
V章			2-第5図	打製石斧長幅相関図(国分寺・国分 尼寺中間地域遺跡)	521
第1図	三角ダイヤグラム位置分類図	505	3-第1図	県内の阿玉台式土器(III群)	527
第2図	菱形ダイヤグラム位置分類図	505	3-第2図	III群土器	528
第3図	Mo-Mi-Hb 三角ダイヤグラム 位置分類図	507	3-第3図	〃	529
第4図	Mo-Ch、Mi-Hb 菱形ダイヤグラム 位置分類図	507	3-第4図	〃	530
第5図	石英(Qt) - 斜長石(Pl) 相関図	509	3-第5図	県内の勝坂式土器(IV群)	530
第6図	X線回折図型	512	3-第6図	IV群土器	531
VI章			3-第7図	〃	533
1-第1図	器種別組成図	513	3-第8図	県内のV群土器	535
1-第2図	遺構別器種組成図	514	3-第9図	V群土器	536
2-第1図	打製石斧分析百分率グラフ	516	3-第10図	VI・VII群土器	538
			3-第11図	長野県東部町久保在家遺跡出土土器	540

表 目 次

表1	当該地域の発掘調査一覧表	4	表5	縄文時代土壌土層註	425
表2	土壌計測表	416	表6	古墳・平安時代住居址土層註	447
表3	住居址計測表	423	表7	石器計測表	449
表4	縄文時代住居址土層註	424	表8	縄文土器片拓影図観察表	461

付 図

- 付図1 縄文時代遺構配置全体図
- 付図2 古墳～中世遺構配置全体図
- 付図3 房谷戸館址

写真図版目次

- 図版 1 赤城山山麓台地と蛇流する利根川
遺跡遠景(手前は三原田遺跡)
- 図版 2 遺跡遠景(南から) 遺跡遠景(北西から)
- 図版 3 1号住居址 遺物出土状態
- 図版 4 20・22号住居址遺物出土状態 同全景
- 図版 5 21号住居址遺物出土状態 同全景
- 図版 6 23号住居址全景 24号住居址全景
- 図版 7 25号住居址全景 26・27号住居址全景
- 図版 8 28~32号住居址遺物出土状態 同全景
- 図版 9 29号住居址遺物出土状態 同全景
- 図版 10 30号住居址全景 31号住居址全景
- 図版 11 33号住居址全景 34号住居址全景
- 図版 12 35号住居址全景 同中央部近接
- 図版 13 36号住居址遺物出土状態 同全景
- 図版 14 1、4、3・5、6・7・10、8号土壌
- 図版 15 12、14、15・16、17、18、18~20・23・24、19、
20号土壌
- 図版 16 30、40~42号土壌
- 図版 17 53、77号土壌
- 図版 18 88、91号土壌
- 図版 19 110、111、115、117・132、118号土壌
- 図版 20 124、125号土壌
- 図版 21 126、127、128・129、130、133号土壌
- 図版 22 135、134、136、137、140号土壌
- 図版 23 142、151号土壌
- 図版 24 152、157号土壌
- 図版 25 154、155、165、170、172、175、180、184号土
壌
- 図版 26 187、191、198、203、205号土壌
- 図版 27 204、214号土壌
- 図版 28 220・221、224号土壌
- 図版 29 217、218・219・254、223、228、232、236、242
号土壌
- 図版 30 244、245、250、251、255号土壌
- 図版 31 270、273、275、278、279号土壌
- 図版 32 281、282号土壌
- 図版 33 283、285、288、292号土壌
- 図版 34 293、299号土壌
- 図版 35 302、311、313、314、317、328号土壌
- 図版 36 332、333号土壌
- 図版 37 338、341、342、343、344号土壌
- 図版 38 345、348、349、355、356・357号土壌
- 図版 39 361、372、374、395、378号土壌
- 図版 40 400、402、403、406、408号土壌
- 図版 41 414、419、422、424、432号土壌
- 図版 42 425、429号土壌
- 図版 43 432、433号土壌
- 図版 44 445、446号土壌
- 図版 45 454、461号土壌
- 図版 46 463、464号土壌
- 図版 47 464・466~468、470号土壌
- 図版 48 481、484号土壌
- 図版 49 486、510号土壌
- 図版 50 512、513号土壌
- 図版 51 530、533号土壌
- 図版 52 514、524、541、558、563号土壌
- 図版 53 585号土壌
- 図版 54 573、575、578・579、589、591、592、598、601
号土壌
- 図版 55 600、625号土壌
- 図版 56 631、634、638、648、645号土壌
- 図版 57 655・724、657号土壌
- 図版 58 663、664、690、691、693号土壌
- 図版 59 724、729号土壌
- 図版 60 726・727、730、734、736、737号土壌
- 図版 61 738、744・745号土壌
- 図版 62 743、746、750、758、759号土壌
- 図版 63 761、762号土壌
- 図版 64 763、767号土壌
- 図版 65 766、769、877、878、887号土壌
- 図版 66 888、890、892、893、894号土壌
- 図版 67 1号大石(318号土壌)、2号大石(351号土壌)
- 図版 68 1号住居址、1号住上層区、20号住居址出土土
器
- 図版 69 20号住居址、22号住居址出土土器
- 図版 70 21号住居址出土土器
- 図版 71 //
- 図版 72 //
- 図版 73 40号土壌出土土器
- 図版 74 23~32号住居址出土土器
- 図版 75 34号住居址、35号住居址、36号住居址出土土器
- 図版 76 土壌出土土器
- 図版 77 //
- 図版 78 //

図版 79	土壙出土土器	図版109	打製石斧
図版 80	〃	図版110	〃
図版 81	〃	図版111	〃
図版 82	〃	図版112	〃
図版 83	〃	図版113	〃、石皿
図版 84	〃	図版114	石皿
図版 85	〃	図版115	〃
図版 86	〃	図版116	石棒
図版 87	遺構外出土土器	図版117	磨石類
図版 88	石鏃	図版118	〃
図版 89	石錐、ピエス・エスキーユ、石匙、尖頭器状石器	図版119	〃
図版 90	石核	図版120	〃、土壙出土炭化粟
図版 91	〃	図版121	2号住居址、3号住居址全景
図版 92	スクレイパー	図版122	4号住居址、5号住居址全景
図版 93	〃	図版123	6号住居址、8・10号住居址全景
図版 94	〃	図版124	12号住居址、13号住居址全景
図版 95	〃	図版125	14号住居址、15号住居址全景
図版 96	〃、加工痕のある剥片石器	図版126	17号住居址、19号住居址全景
図版 97	加工痕のある剥片石器	図版127	濠全景
図版 98	〃	図版128	2～7号住居址出土土器
図版 99	使用痕のある剥片石器	図版129	18～19号住居址、遺構外出土土器、土壙出土遺物
図版100	〃	図版130	展開写真
図版101	〃	図版131	〃
図版102	〃	図版132	〃
図版103	〃、装飾品、磨製石斧	図版133	〃
図版104	打製石斧	図版134	〃
図版105	〃	図版135	〃
図版106	〃	図版136	〃
図版107	〃	図版137	〃
図版108	〃	図版138	〃

第I章 調査経過

第1節 調査に至る経過

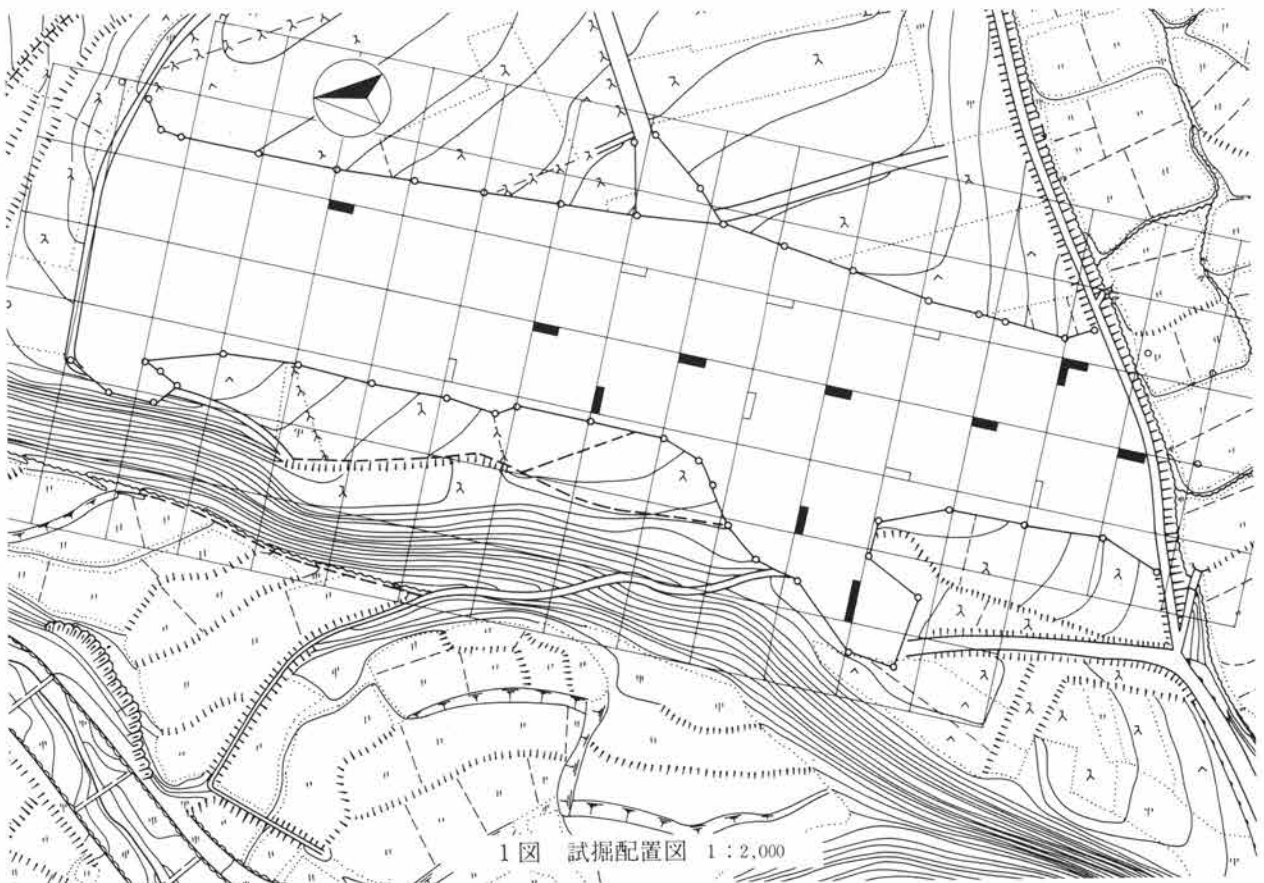
房谷戸遺跡の試掘調査は昭和56年6月に行われた。当年度は関越自動車道の供用開始が近づき、赤城山西麓一帯の遺跡の確実な有無、性格、範囲等の把握が急務となり、試掘調査により開発との調整を図った年度である。これによって、群馬県埋蔵文化財調査事業団が、勢多郡北橘村分郷八崎遺跡より利根郡昭和村糸井宮前遺跡の間の試掘調査を約5ヶ月余を要して行った。

試掘の方法は20m方眼を調査区全体に網羅し、1方眼に1ヶ所を基本とした約1.5×8.0mの試掘坑を設定した。そして、的確な遺構の有無と時期などの性格を捉え、また、遺構の破損、遺物の散逸を防ぐため必要最小限の掘削を念頭において、表土からF P層まで順次除去を行い、遺構有無の確認を主体に調査をした。

1図は試掘配置図だが、黒抜きで表わした試掘坑は

遺構が検出された箇所である。白抜きの試掘坑箇所においても本調査時で縄文時代の遺構が検出されたが、試掘はF P面までの調査で留め、以下の調査は本調査時に委ねたためである。この際、古墳時代の住居址（6号住）の竈周辺が検出されたが、時期の特定が必要なため、竈部分だけを調査した。

この試掘調査によって、房谷戸遺跡は北から南にかけて傾斜する洪積台地上に立地した遺跡であり、路線にかかる台地全面が調査対象となった。また、調査にあたってはF P面とローム面上下の複数面調査が必要であることが確認された。遺跡の内容は縄文時代中期、及び古墳時代の集落址が予想され、特に縄文時代の遺構は、密度の濃い良好な遺跡として捉えられた。尚、先土器時代の確認は、充分その存在が予想されたが、遺物包含層の破壊と、調査深度が大きくなるため、本調査において試掘を実施することとした。5日間の短期の試掘調査であったが、遺跡の内容を本調査に生かせるよう試掘坑全ての土層、検出遺構を $\frac{1}{50}$ 図化し、本調査に期待をかけた。



第2節 本調査の経過

第1項 昭和57年度の調査

当初は、調査対象区全体を重機による表土剥ぎを主体とした。表土掘削はF P面まで行い、古墳時代～奈良・平安時代の住居址17軒をこの面で確認できた。調査区南側の傾斜面ではF Pが流されており、遺構の残存状況は悪く、8～10号住居址は重複状況の把握が困難を極めた。

F P面の調査と同時に調査区西端の緩傾斜面に検出された中世館濠の調査を行った。館濠は深く、危険な箇所もあるため、一部を重機による掘削に頼った。また、実測は業者に委託し、周辺地形との関連も調査対象とした。

この後、東側道の先行調査も行い、この部分は下位の縄文時代の遺構、先土器時代の調査を行った。その結果、縄文時代の住居址、土壌、先土器時代の遺物集中分布が見られた。また、調査区西側にあたる55～62 C18～28グリッドもローム面までの調査を行った。これは、調査事務所用地であり、後に1号住上層区と名称した。遺構は1・24号住居址と土壌を検出した。

調査日誌抄

2月1日 本日より調査開始。重機でF P面まで表土掘削。グリッド杭設定。
 ～15日 表土掘削進む。作業員による遺構プラン確認と同時に、1～19号住居址などを調査。
 ～21日 中世館濠調査。降雪のため足下等不安定。遺跡全体図作成。事務所用地調査。
 2月28日 セスナによる航空撮影
 3月4日 住居址・土壌実測図作成。
 ～16日 東側道部の調査。土壌などB～C区に集中。先土器時代の調査も平行する。
 ～25日 各遺構の実測図、写真撮影終了。
 ～29日 先土器時代の調査ほぼ終了。
 3月31日 57年度の作業終了。安全柵等を設営。二次堆積ローム下の黒色土サンプル採取。
 4月20日 本日より58年度の調査を開始。F P～ローム層上面まで重機による掘削。ローム層上面での遺構確認を同時に行う。グリッド杭設定。
 ～25日 側道部調査縄文面終了。先土器時代の試掘。B～C区遺構多数検出。20～29住等。特に20、21住は出土量多い。
 5月6日 C～D区の30、31住調査終了。B区～C区土壌が密集分布する。袋状を呈するものが特徴的である。東側道部の調査もほぼ終了。
 5月16日 雨のため室内作業。脆弱土器の補強処理等。
 6月6日 B～C区 土壌調査実測作業へ C～D区の遺構プラン確認。

第2項 昭和58年度の調査

継続調査となり、主に縄文時代と先土器時代の調査をローム面より着手し、遺跡全体に渡って行った。

縄文時代の遺構は、中期前半の所産であり、B区とC区南半分に集中が見られた。これは、先年度調査で検出された、古墳～平安時代の住居址分布と近似し、当遺跡が集落遺跡として良好な立地条件を付帯することを物語る。縄文時代の住居址は先年度検出されたものと合わせて18軒検出し、土壌は700基以上を数えた。住居址のうち調査区南端に位置する20～22号住などは急斜面に対するため一部が壊されていた。土壌からは完形土器が出土する例が多く、非居住域としての集落空間のあり方などを考えさせられる遺構配置である。

先土器時代の調査は縄文時代の遺構実測、写真が終了した箇所より順次試掘坑を設定し、その結果5箇所を拡張調査し、2箇所に濃密な石器分布が認められた。調査区北側で板鼻横色軽石層（Y P）直上に槍先形尖頭器を中心として、2箇所のユニットが検出され、南側ではA T極大値層下暗色帯上部から下部にかけてナイフ形石器など多数の石器が出土した。また、八崎火山灰層（H A）下より調整痕のある片岩製の石器が2点出土している。その他、中世館濠の道路下部分を調査した。

6月20日 降雨日多し。晴間を選んで作業するが、実測作業等に支障が生じる。C～D区土壌実測作業へ
 ～29日 B～C区 重複遺構を再度確認。C～D区34、35住実測。
 7月14日 縄文時代面の航空写真撮影
 7月16日 現地説明会。地域住民に調査成果を見て頂く。
 17日 約400名来跡
 7月25日 B～C区 地形測量。先土器時代の試掘。
 8月2日 C～D区 先土器時代の試掘調査も平行する。D区北でY P直上でユニット検出。
 ～20日 C区の残りの土壌ほぼ調査終了。
 8月30日 D区北のユニットは南へ拡張調査。B・C区は全面調査を要する。
 9月2日 C区でナイフ形石器出土。B区のユニット確認調査続く。
 9月13日 D区北のユニット赤外線写真撮影。
 9月20日 遺跡を横断する道路下調査に入る。
 9月29日 道路下にかかる中世館濠実測、写真撮影。同時に安全対策を講じる。
 10月5日 先土器時代調査続く。土層転写。36微細図による遺物分布図も同時に実測。
 ～15日 道路下の縄文時代の遺構調査終了。36号住等。
 ～31日 A T下の調査ほぼ終了。H A下の調査試掘へ。
 11月8日 H A下より片岩質の石器片出土
 11月30日 調査終了。安全柵等を設営し撤収。

第II章 環 境

第1節 自然及び地理的環境

利根川は上越国境をなす三国山脈に源流を見る。上流域では月夜野町で赤谷川、沼田市で薄根川、尾瀬より流れ出で昭和村において見事な河岸段丘を形成する片品川と合流する。綾戸峠を通過する頃には、水量を増し、流れを早め、岩を削り、溪谷美を作り出す。そして、草津・吾妻の小溪流を集めて東走する吾妻川と合流する地点である子持村尖野では川幅125mの大川となり、関東平野へと南流する。最下流では太平洋に河口を広げる大河川である。

この利根川左岸にあたる赤城山西南麓から西麓では、多くの小河川が湧水等に端を発し、赤城山中腹より勾配約12°の傾斜を利根川に注ぎ下る。これらの小河川は、赤城山の裾野を侵食し幾条もの小溪谷や放射谷を形成し、扇状・舌状の台地を形作る。赤城山西南～西麓の裾野は山麓斜面、上位段丘、下位段丘に分けられ、扇状・舌状の台地は山麓斜面に連続し、複雑な地形を形成する。また、山麓斜面の末端は発達した山麓崖で終り、その直下には利根川河岸段丘である上位段丘・下位段丘や氾濫原が展開する。山麓崖と利根川との比高差は約60mを測る。このように、赤城山の裾野では横列する山麓台地、それらを刻む放射谷・小溪谷・湧水、利根川の河岸段丘、遠望するとなだらかな裾野とはうらはらに、起伏の多い、変化に富んだリズムカルな地形である。

遺跡は、これらの台地、河岸段丘上に連綿と存在する。時代を生きた人間の痕跡は、集落址・生産址・墳墓等によって埋蔵されている。また長大な利根川は、重要な交通路として古来より多くの地域と密接に関連してきたことは言うまでもない(註1)。現在でも、この赤城山西～西南麓にあたる北橋村・赤城村の集落はこれらの台地、河岸段丘に集中し、放射谷・氾濫原を利用して水田が営まれている。交通路としては利根川沿いに国道17号線、JR上越線が北走し、新潟と関東平野を結ぶ。

当地域は、冬季乾燥温帯気候に属する。現状の植物相を概観すると、赤城山山体部ではブナ・ミズナラの群落、山麓斜面ではクヌギ・コナラの群落に属す(註2)。このような森林は、戦時下において供出用の薪炭製造のため乱伐されたり、火入(野火、焼畑)があったため樹令は若い。その他、ニセアカシヤなどの落葉広葉樹林、カシ・ツバキなどの常緑広葉樹が目立つ。スギ・アカマツなどの常緑針葉樹は少ない。また、ツツジ・シャクナゲなどの灌木類、クズ・ヤマブドウ・アケビといった蔓茎植物もみられ、スギナ・ヨモギ・エノコログサ・タラノキ・イタドリ・セリ・ワサビ・フキなどは丘陵帯に、ナデシコ・キキョウ・ツリガネソウ・ユウスゲなどは低山帯に分布する。

次に動物相だが、絶滅またはそれに近い状態のものが多い。家畜類を除いて列挙すると、哺乳類は、リス・ムササビ・ネズミ・ムジナ・イタチ・ウサギ・イノシシ・シカ・キツネ。鳥類は多くホトトギス・カッコウ・ウグイス・アオゲラ・シジュウカラ・キジ・ヤマバト・キジバト・スズメ・カラス・カワセミ・マガモ・タカ・トビなど種類も豊富である。魚類は当然コイ・フナ・ヤマメ・ウグイ・ウナギ・ドジョウ・ナマズといった淡水魚が生息する。絶滅した動物としてはオオカミがいたとされるが、江戸時代末期～明治維新の頃の伝承なので定かではない。また、以前は春にアユ・サクラマス、秋にはサケの遡上があったがダム、堰堤、水質の汚濁により、現在では見られない。

註1 石墨遺跡 II-1 利根沼田地方の地理的環境(水田 稔 他 1985 沼田市教育委員会)

註2 群馬県植生図 文化庁
参考文献 横野村誌・敷島村誌・北橋村誌

第2節 歴史的環境

第1項 北橋村、赤城村のこれまでの発掘調査

当地域の発掘調査は関越自動車道建設に伴うそれ以前では必ずしも多くない。そのなかで、滝沢石器時代遺跡、樽遺跡、寺内遺跡、三原田遺跡は著名である。本格的な行政発掘は、寺内遺跡以後であり、台地を全面発掘した三原田遺跡は住宅団地建設に伴う発掘調査である。

関越自動車道建設に伴う発掘調査が当地域に集中した昭和57・58年には、北橋・赤城両村で13遺跡の調査が行われた。関越自動車道は利根川を渡り、昭和村にいたるまで、横列する山麓台地を横断する形となり、各台地の考古学的様相が明らかになった。

一連の関越自動車道調査に伴う調査終了後、昭和60年代に入り、当地域も徐々にではあるが開発の波が迫りつつある。土地改良、土砂採取、ゴルフ場造成、宅地開発など周辺の景観も変わりつつある。

これらの開発に対し、北橋村教育委員会・群馬県教育委員会は分布調査及び発掘調査を実施している。昭和62年度では圃場整備事業に対し水泉寺地区遺跡群（縄文時代、古墳～奈良・平安時代の住居跡など）、城山遺跡（縄文時代早期～前期の住居跡、屋外炉など）の調査が行われた。

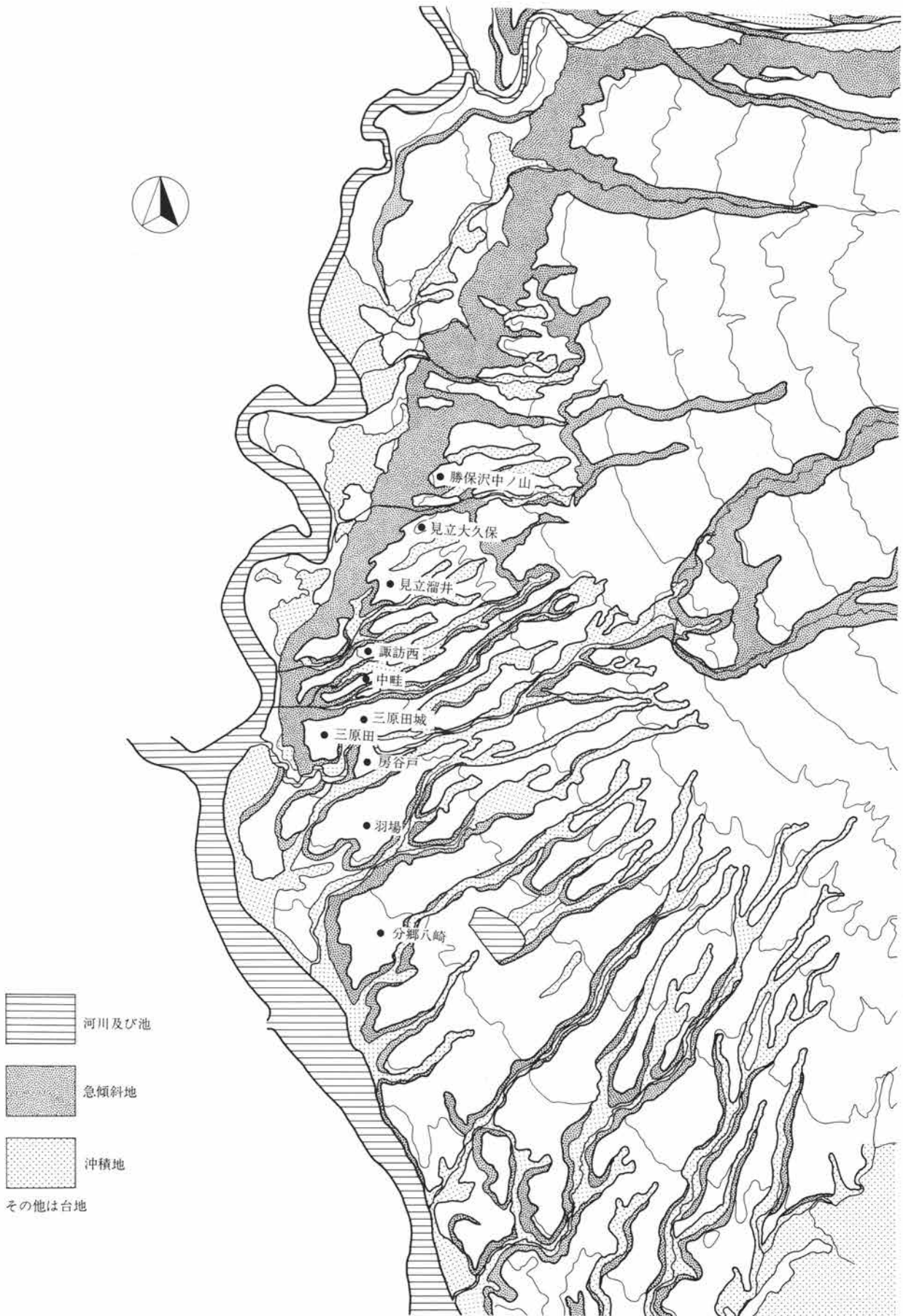
また、表に掲載しなかったが、赤城村でも岩石採取

表1 当該地域の発掘調査一覧表

調査年	遺跡名・所在地	内 容 等	報 告 書 ・ 文 献
大正15年	滝沢石器時代遺跡 赤城村見立・滝沢	縄文中期～晩期の炉址3など。 土偶、岩版など好資料 昭和2年 国指定	群馬県史跡名勝天然記念物 調査報告一輯。横野村誌
昭和13年 14年	樽遺跡 赤城村樽	杉原荘介調査。弥生時代後期住居址 2。樽式土器の標識遺跡	考古学集刊10の10。横野村誌
昭和22年	小池原遺跡 赤城村津久田	群大調査。古墳時代住居址。	敷島村誌。勢多郡誌 古墳のはなし
昭和36年	宮田畦畔遺跡 赤城村宮田	群大調査 古墳時代F P 下水田	群大史学時報25号 横野村誌
昭和42年	小室遺跡 北橋村小室	群大調査。縄文時代中期末葉～後期 初頭の敷石住居址2	北橋村教委「小室遺跡」 北橋村誌
昭和45年	群馬用水分郷八崎遺跡 北橋村分郷八崎	弥生時代後期の住居址1、古墳1等	考古学雑誌59-1 北橋村誌
昭和47年	越後坂古墳 北橋村真壁	上毛古墳総覧106号。横穴式石室を持つ 円墳。	北橋村誌
〃	八幡山遺跡 北橋村箱田	縄文時代の住居址3等	北橋村誌
〃	寺内遺跡 赤城村寺内	村教委調査。古墳時代住居址11、祭 祀遺構、木炭窯など	赤城村教委「寺内遺跡」
昭和47～ 49年	三原田遺跡	県、企業局調査。縄文時代中～後期 の環状集落。	企業局「三原田遺跡」遺構編
昭和57年	森山遺跡	縄文時代前期の住居址、土壌。村教 委調査。	北橋村教委「森山遺跡」
昭和57～ 58年	関越道関係 分郷八崎遺跡。羽場遺跡。 見立溜井・大久保遺跡。 三原田城遺跡。八崎城。 八崎塚。中畦遺跡。諏訪 西遺跡。勝保沢中ノ山遺 跡、房谷戸遺跡	分郷八崎遺跡は北橋村教委。羽場遺 跡は県教委が調査。 見立溜井・大久保遺跡は赤城村教委 が調査。 他は事業団	北橋村教委「分郷八崎遺跡」 (羽場遺跡含む) 赤城村教委「見立溜井・大久 保遺跡」 他は事業団で既刊及び刊行予 定。
昭和58年	朝日塚古墳 北橋村箱田	県・村教委調査。葦石を持つ円墳自 然石乱石積み両袖型横穴石室	北橋村教委「朝日塚古墳」
昭和61年	水泉寺地区遺跡群 北橋村真壁	県教委調査。範囲確認調査。	
〃	揭示前遺跡 北橋村箱田	県・村教委調査。弥生時代土壌。近 世墓。近世溝状遺構。	北橋村教委「揭示前遺跡」
昭和62年	城山遺跡 北橋村城山	縄文時代早期～前期。前期の住居址 等	

のため梨木平遺跡の調査が県教育委員会によって行われ、縄文時代の住居跡を検出している。昭和63年度、北橋村教育委員会では、圃場整備事業に対し発掘調査を行い、縄文時代中期の遺跡を調査した。

以上のように、房谷戸遺跡周辺地域の開発とそれに伴う発掘調査は関越道関連の調査後も年々増加しつつある。開発側との綿密な対応と詳細な調査が今後も必要であろう。



2図 赤城山西南・西麓域の地形模式図(5万分の1)

第2項 周辺の遺跡

赤城山西～西南麓の遺跡は第1節で述べたような放射谷に挟まれた山麓台地、利根川河岸段丘にほとんどが立地する。しかしその多くが耕作、道路工事等によって発見される例が目立った。前項で述べたように近年になっての本格的な分布調査は北橋村教育委員会の行ったものだけである。赤城村の場合は全域に榛名山二ツ岳の噴出物（FP、FA）が堆積し地表に土器片などの遺物の散布が多く認められず、明瞭に把握できない。このため、踏査による分布調査を行っても遺跡の認定、範囲確定が難しく、明確な遺跡分布図を呈示できないのが現状である。しかし反面、軽石、火山灰下の遺跡は保存状態が良好で、なかには当時の生活をそのまま遺存していた例もあるが、周知化されないため、開発行為によって破壊されてしまう可能性が強く、当地域の綿密な分布調査、試掘調査が急務であろう。

また、北橋村、赤城村とも背後に赤城山が迫っているが、この高標高部の遺跡は皆無に等しい。これは、急斜面で、山林部のため開発の手が入りにくい場所であり、なおかつ分布調査がしづらい条件でもあるためだが、俗に標高500m以上は無遺跡地帯と呼ばれる所以でもある。しかしロームの遺存度も良く、先土器時代の遺跡や、縄文時代の遺跡の存在は予想され、今後、注目を要する地域である。

以下、赤城、北橋村の遺跡について、大時期別に概観を述べる。補足的に富士見村、子持村、渋川市内の一部の遺跡を分布図に落した。なお、古墳・塚、城址については分布図には載せてない。

●先土器時代

本遺跡である房谷戸遺跡（3）、関越道分郷八崎（1以下分郷八崎）、中畦遺跡（5）、諏訪西遺跡（6）、見立溜井遺跡（7）、勝保沢中ノ山遺跡（9）が主な遺跡である。いずれも、関越道関連の調査である。その他、渋川市御幸田山遺跡（15）、富士見村龍ノ口遺跡で数点の該期の遺物の出土をみている。

●縄文時代

○草創期；遺跡としては見立溜井遺跡があげられる。8点の有舌尖頭器、尖頭器の出土が報告されている。本遺跡でも尖頭器を主体とするブロックを検出した

が、これが先土器時代の所産か当該期のものかは後編の報告で分析されるものである。

○早期；勝保沢中ノ山遺跡、見立溜井遺跡で捺糸文系・押型文系土器などが比較的まとまった状態で出土している。諏訪西遺跡では遺構外ではあるが、半完形の山形文を施す押型文土器が出土している。遺構に伴う例としては、城山遺跡（16）で捺糸文系土器に伴う住居址・屋外炉が検出されている。その他、分郷八崎遺跡、三原田城遺跡（4）などで破片が出土している。

○前期；赤城山麓域では遺跡数が増加する時期である。初頭の花積下層式期では、三原田城遺跡で住居址8軒、土壌を検出した。今後、県内の資料増加に伴い明らかにされる土器群であろう。関山式期の遺跡としては、諏訪西遺跡、勝保沢中ノ山遺跡、分郷八崎遺跡、富士見村田中田遺跡、窪谷戸遺跡（17）、子持村黒井峰遺跡（27）がある。黒浜式期の遺跡は、中畦遺跡、見立溜井遺跡、分郷八崎遺跡、森山遺跡（18）、八幡山遺跡（19）などがあげられよう。北橋村分布調査でも32の遺跡を確認しており、有尾式系と呼ばれる一連の土器群の存在もあり、注目される時期である。前期後半の諸磯式期になると、諏訪西、中畦、勝保沢中ノ山、分郷八崎、三原田城、田中田、など各遺跡で住居址が検出されている他土壌・包含層の出土も多い。群馬県内でも山麓、平野部を問わず出土例が多く報告されている。しかし、諸磯c式期、十三菩提式期になると遺跡数は減少する傾向にあるようだ。三原田城遺跡ではc式期の住居址を1軒調査している。

○中期；中期の遺跡は、前期と比べるとやや少なくなるが、立地はより広い台地を選ぶ傾向がある。中期初頭の五領ケ台式期の土器を伴出した遺跡としては、諏訪西、分郷八崎、見立大久保遺跡（8）、三原田遺跡（13）などがある。住居址からの出土は少なく、土壌、包含層の出土が目立つが、従来資料の少なかった時期であり、今後の分析、資料増加に伴い次第に様相が明らかになるであろう。また、三原田城遺跡で1個体であるが中期初頭に比定される土器（5号土壌）の存在も無視できない。

前葉から中葉の勝坂・阿玉台式期の遺跡は、三原田、御幸田山、諏訪西、見立大久保、本遺跡がある。住居

址からの出土もあるが五領ケ台式期と同様に土壌からの出土が多い。見立大久保、三原田城の阿玉台式土器は前期の住居址覆土上層に掘り込まれた土壌からの出土であろう。住居址は、三原田、諏訪西、本遺跡などで検出されているが、三原田遺跡は台地を環状に囲む集落形態が看取され、該期の集落占地、空間利用の特徴をよく具現化している。加曾利E式初現のものとの共伴、勝坂式と阿玉台式の共伴など興味深い出土が各遺跡で確認されている。また、在地系の土器群、特に当地域を含む山麓域に多く分布する土器群であるが、阿玉台式や勝坂式にも属さない別系統が目されている。焼町土器と呼称される1群もこの在地系の土器群に包括されるが、現段階ではその実体、分布も不明点が多く、詳細に語ることができない。当地域が山間部であること、利根川流域であることなど、また東北地方南部に近い地理的条件を考えて、異系統の土器型式との共伴関係も捉えなければならぬだろう。

中期中葉～後葉の遺物を出土した遺跡は多い。三原田遺跡は後期まで続く大集落址として著名である。滝沢石器時代遺跡(11)もおそらく中期から後～晩期の良好な遺跡であろう。また三原田遺跡や、空沢遺跡(21)、小室遺跡(20)などからは敷石住居址が検出されている。土器様相も若干南関東とは異にするようである。

○後期；上記の三原田、小室、滝沢石器時代遺跡、子持村押出遺跡(26)で出土例があるが遺跡数は少ない。

○晩期；北橘・赤城村内では未確認である。僅かに押出遺跡で後～晩期の石棺墓群と集落址を調査している。

後～晩期の遺跡は中期の遺跡数より明らかに少なくなる。しかし、後～晩期の遺跡の立地条件を低地まで拡大すれば、おのずと少ないながらも遺跡数は増加するはずである。利根川下位段丘の晩期の遺跡立地が明らかになれば、次代の水田稲作の下地を形成した集落址の存在をも想起することができよう。残念ながら現状では未確認である。

●弥生時代

中期の遺跡は、田中田、押出、渋川市南大塚遺跡、がある程度で、集落址の検出は皆無に等しい。後期に

入ると増加するが、実像は明確ではない。群馬用水分郷八崎遺跡、樽遺跡(14)、滝沢石器時代遺跡、渋川市中村遺跡(22)、有馬遺跡(25)、有馬条里遺跡(24)などで住居址の調査がされている。このうち、中村、有馬、有馬条里遺跡では、いわゆる礎床墓も検出されており注目される。

●古墳時代

前半の遺跡としては、見立溜井で9軒の住居址が検出されている。出土遺物は樽式土器の影響下で成立した土器群が目につく。分郷八崎17号住の出土土器も同様であろう。田中田では、石田川期の住居址が確認されている。後半の遺跡は多い。群集墳と共に鬼高期の集落は主要な台地に占地する傾向が強い。赤城山西麓域の古墳時代前半の集落はFP、FA下に埋没している例が多く、勝保沢中ノ山、寺内遺跡(10)などは良好な出土状態を呈示している。その他、渋川市中筋遺跡ではFA、子持村黒井峰遺跡ではFP下からの集落検出で、当時の村落景観、上屋構造などまでが確認され話題を呼んだ。

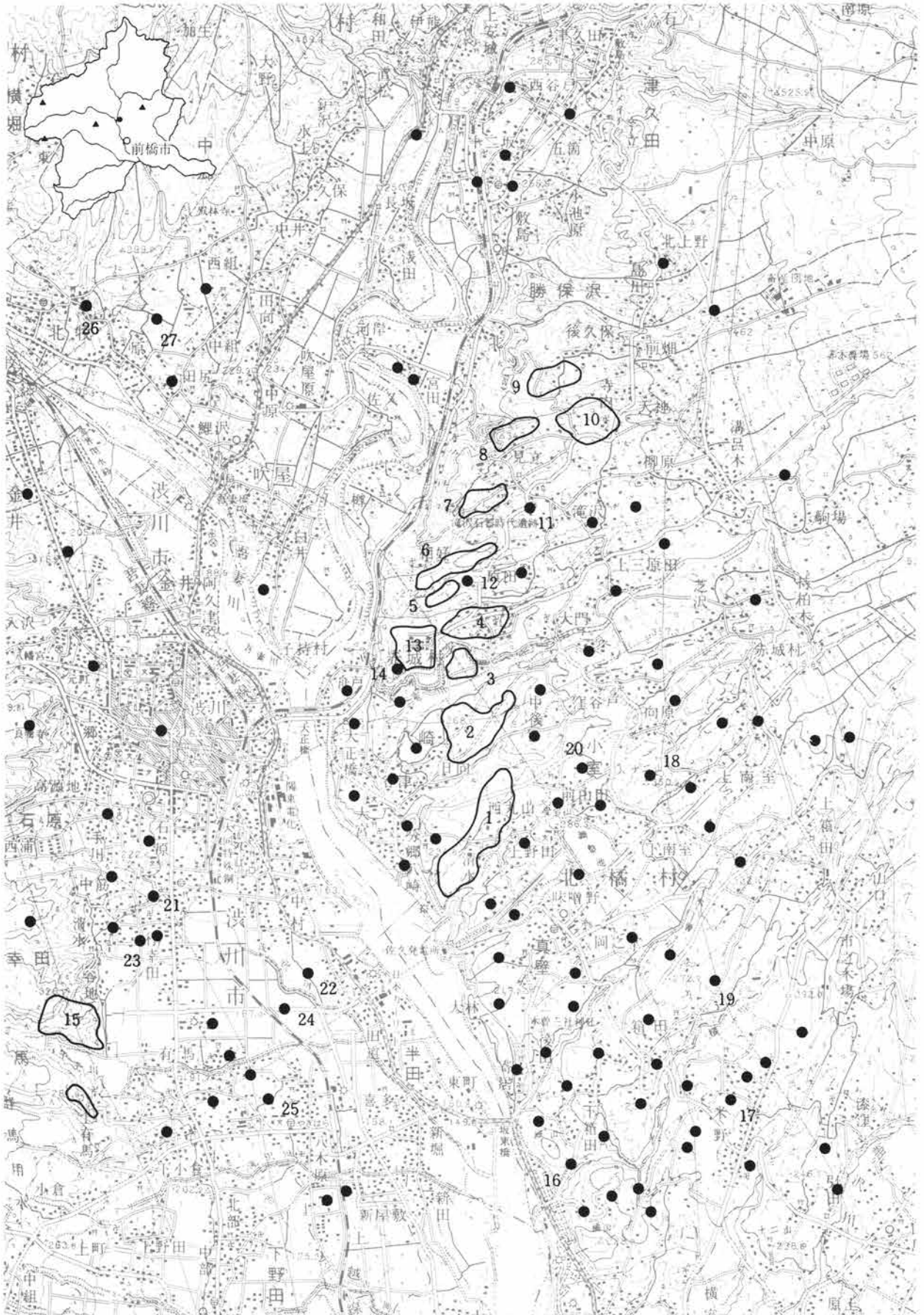
●奈良・平安時代

各台地に集落は分布するようだが調査例は少ない。平野部のように大集落は営まないようである。遺跡としては、本遺跡、中畦、分郷八崎、羽場遺跡(2)、窪谷戸などがある。分郷八崎、羽場では8世紀代の小鍛冶遺構が検出されている。その他、諏訪上遺跡(12)では瓦塔の出土が知られ、寺院址の存在が予想される。

●中～近世

周辺には、白井城、三原田城、八崎城、真壁城など城館址が多い。このことは、戦国時代における要害の地として当地域が重要な役割を担っていたことを物語る。本遺跡でも該期の館址の濠と見られる大溝を検出している。

近世の遺跡としては揭示前遺跡(28)において幕末の民家の一部や、墓墳を検出している。



3 図 周辺の遺跡 (国土地理院5万分の1「前橋」「沼田」「中之条」「榛名山」を使用)

第III章 調査

第1節 遺跡の地形

房谷戸遺跡は北橋村八崎字房谷戸・栗崎上に所在し赤城山西麓斜面の端部に近い洪積台地に占地する。北端と東側、西側を赤城山中腹に源をもち、本遺跡を囲むように蛇流し利根川に下る天竜川、南側を現状は水田に使用されている放射谷に挟まれ、西方1.5kmに利根川と吾妻川の合流点を高視野に望む。天竜川と放射谷は遺跡の東と西において接近し、あたかも本遺跡の占地する台地は独立台地のような景観を映しだす。

遺跡内の地形は、北東に高く南西に傾斜する。調査区内の標高差は13mである。この比高差は、後述する調査区北東部のローム泥流の堆積も大きな要因になっている。南西の傾斜はそのまま南の放射谷に続き、また西の天竜川が形成した急斜面に落ちる。その台地西端部には、中世の館址遺構が存在すると見られ、大きく地形を変化させている。

第2節 基本土層

本遺跡の基本層位は5図のとおりである。周辺の遺跡も同様な堆積状態を示す。しかし、火山性噴出物の堆積状況は、地形などによって異なり、各遺跡の特質をも現わしているといえよう。本節では、ローム面までの層序説明をおこない、周辺遺跡との対比を試みたい。尚、ローム面下の層位分析は、後刊の先土器編で述べられる予定である。

第I層 表土層 耕作土、多量のFPを混入する。

第II-1層 軽石層 (FP) 榛名山二ツ岳を給源とする降下軽石。淡褐色～白色。6世紀後半に降下。

II-2層 暗褐色土層

II-3層 火山灰層 (FA) 榛名山二ツ岳を給源とする降下火山灰層。6世紀前半に降下。

第III層 黒色土層 縄文時代の遺物を包含する。

第IV層 褐色土層 ローム漸移層。中位において縄文時代の遺構を確認した。

第V層 黄褐色ローム層

調査区内では、II-3層のFA層の堆積は著しく未発達であり、中央部の緩やかな傾斜地においてのみ確認された。また、調査区北のD区では、1m近いローム泥流層を確認している。このローム泥流層下に黒色土層が薄く堆積し、泥流層上からは縄文時代前期の土器片が採集されたことから、泥流形成時期は縄文時代草創期～早期にあたるのではないだろうか。

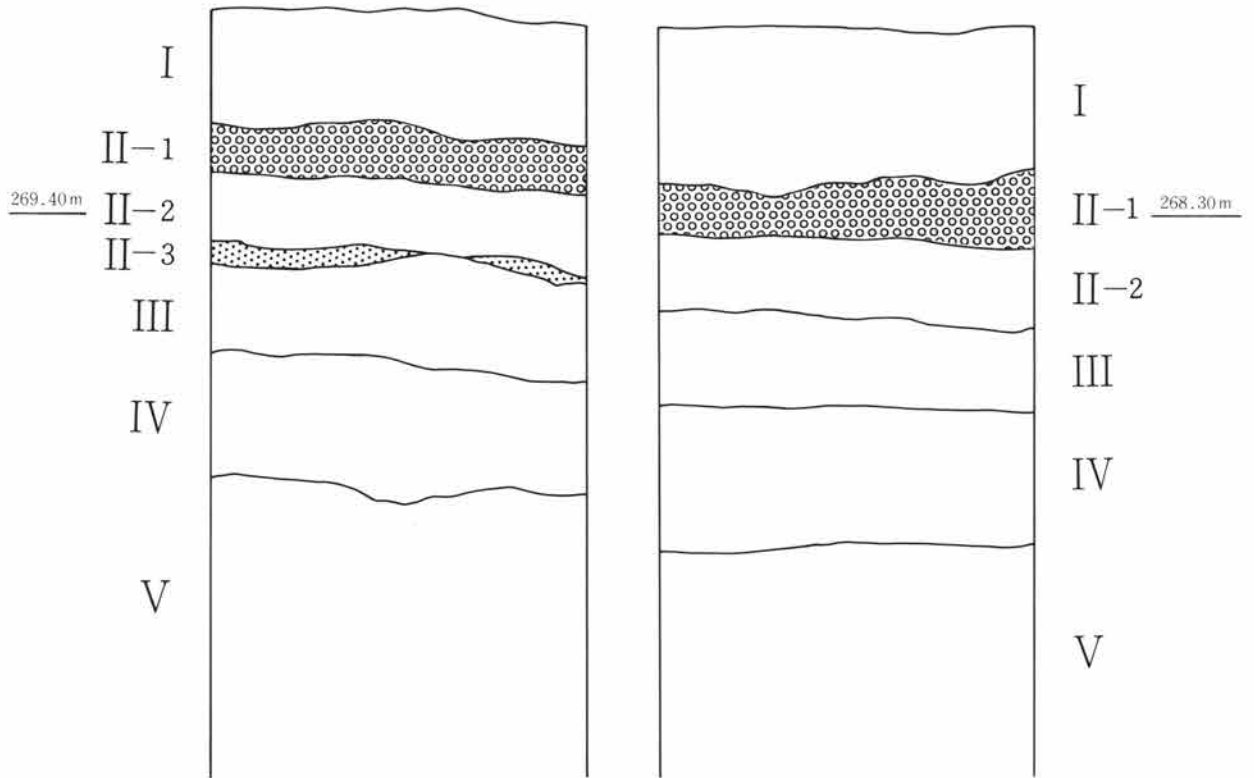
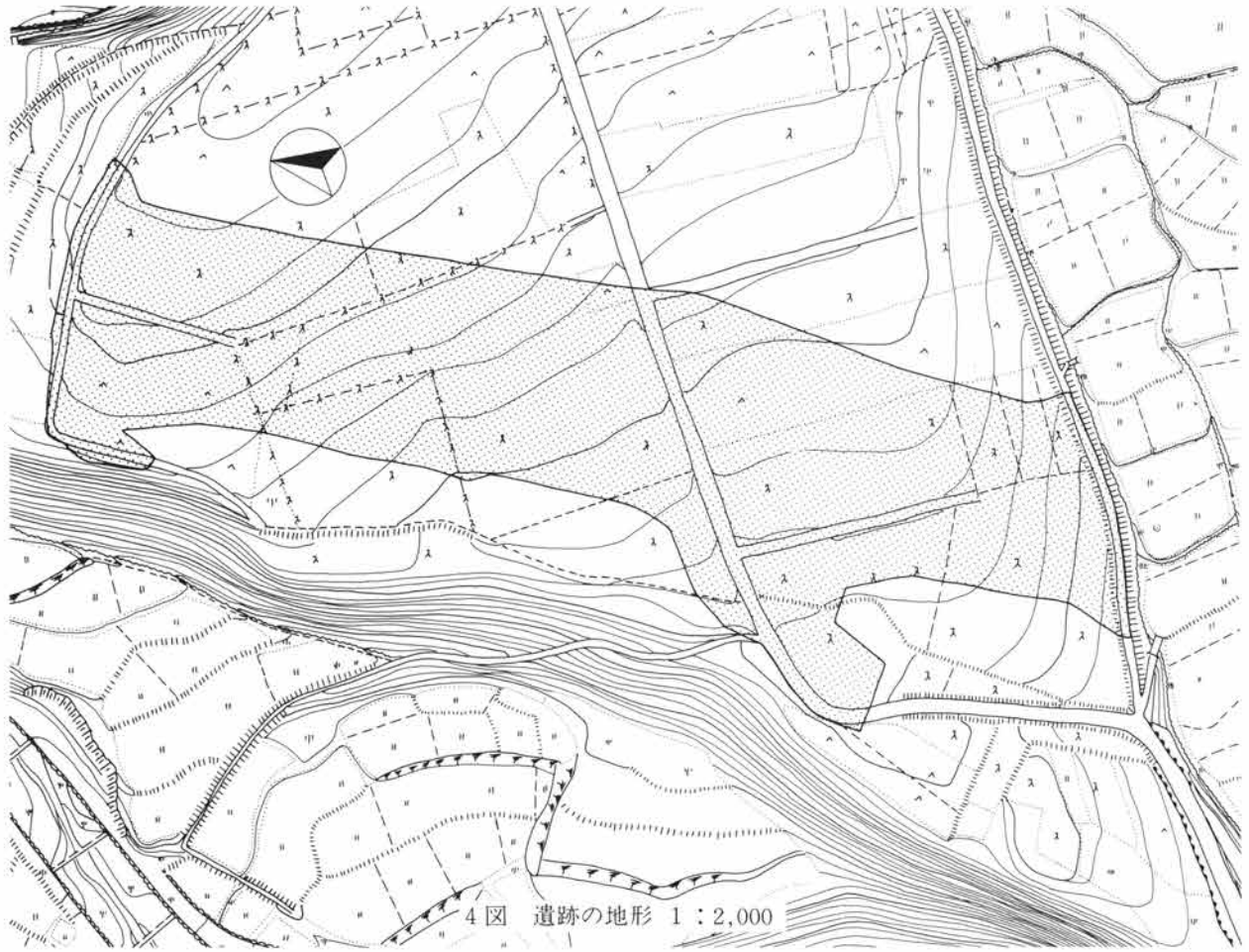
次に周辺の遺跡の層位を概観すると、赤城村中畦、諏訪西、三原田城遺跡ではFP、FAの堆積が認められ、特にFPの堆積が顕著である。三原田城遺跡の場合は、深耕、城址に伴う堀の為、遺存状態は良くない。本遺跡の南に対する台地に立地する北橋村羽場遺跡ではFAの堆積は認められているが、FPは純層では確認されていない。分郷八崎遺跡では、FP、FAとも良好な層序を形成していないが、住居址内の覆土に純層を確認している。図示できなかったが、赤城村寺内遺跡ではFPの層厚が厚く、1m以上である。

つまり、赤城山西麓ではFPの堆積が顕著であり、FAも薄く堆積している。しかし、西南麓になるとFPの堆積は徐々に薄くなり、地点によってはまったく見られず、表土層、遺構覆土に混入する程度である。FP降下の際の風向きが主な要因であろうが、降下後の集落復興にも多大な影響を及ぼし、地域差に現れたと思われる。

本遺跡では前述のように、FAの堆積が認められてはいるがそのありかたは地点的である。FPの状態が良好なことからも層位的な特徴は赤城山西麓の様相に近いと言えよう。

遺構では、2～19号住居址がFP上面で調査されている。FP降下後の住居址ではあるが、降下直後の集落ではなく、平安時代のものが主体を占める。

本遺跡第III層の黒色土層に関しては、各遺跡で確認されている層位である。FP直下の土層ではあるが、遺跡によってはやや褐色味を帯びることからも、2～3層に細分されるようである。本遺跡では縄文中期の遺物を出土するが、遺跡によって包含遺物の差があることから、第III層の細分の捉え方を今後統一する必要がある。



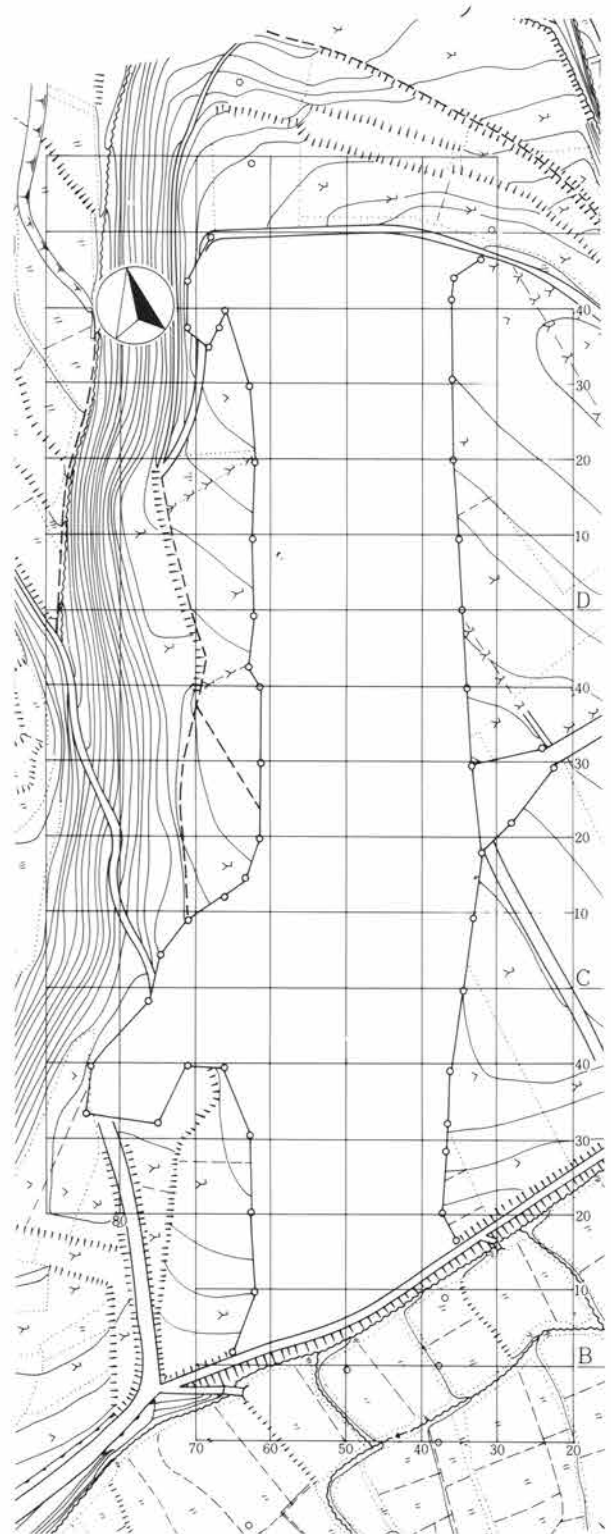
第3節 調査の方法

本遺跡の調査は、試掘調査の資料に基づき二ツ岳降下軽石（FP）層を調査第一面とし、第二面のローム層上面、以下先土器時代の各文化層毎の複数面調査を行った。第一面では古墳～平安時代、中世の遺構、第二面では縄文時代の遺構を確認した。

遺構平面図、断面図は20分の1、及び10分の1を原則とし、調査区西で確認された中世館址の濠は業者に一部を委託し、200分の1で作成した。遺構写真は各担当者が随時撮影し、遺跡全体の附観写真、垂直写真は航空撮影を業者に委託した。

遺物の取り上げは、各遺構毎の取り上げを基本とし、遺構外のものについてはグリッドによる。縄文時代中期の土器については、脆弱な土器があり、薬品処理による取りあげをせざるを得なかった。しかし、残念ながら、遺失してしまった土器も数片ある。また、一部の土壌については、覆土を水洗し、自然遺物の発見に努めた。

グリッドは2m単位を基本とし、調査対象地区内に打たれている工事中センター杭を中心に100m毎の基本杭を設定し、これを結んで基本ラインとした。選定された基本杭はSTA28+00、STA29+00であり、このラインを中心とし、両側へ、グリッドラインを振り分けた。次に調査区をグリッドに沿って100m毎にA区～D区と分割し、各区に2mグリッドを設定した。グリッド呼称方法については、各グリッドの右下を読んでそのグリッドを指した。



6図 グリッド配置図 1：2,000

第IV章 遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

房谷戸遺跡の今回の報告は縄文時代から中世に至るまでの遺構、遺物を中心に記載する。本遺跡は先土器時代の文化層を複数枚検出しているが、その報告は後刊にまとめる。

遺跡の概要は

縄文時代中期の住居址18軒

同土壙894基

古墳時代後期の住居址3軒

同土壙1基

平安時代の住居址14軒

中世の館濠

同土壙3基

である。

このうち縄文時代の住居址、土壙から多くの遺物が出土し、特に120基あまりの土壙は当時の生活形態を従来の住居址からの視点とは違った角度の資料を呈示してくれる。また、縄文時代の住居址は多数型式の土器を出土しており、良好な伴出資料ではないが、当地域と他地域の連関性を想起させる。土壙群はいわゆる中央土壙群ともいわれる空間を意識しての1群ではなく、土壙はある程度のまとまりを持って地点的に群在する。住居址との関連、土壙同志の関連に有機的な繋がりがあると思われるが、出土遺物だけを扱った類推は避けたい。近接、あるいは重複する土壙同志に密接な関連が認められ、「隣合う土壙」として考えてみたい。

古墳時代から平安時代の住居址は17軒を確認したが、榛名山二ツ岳を給源とする降下軽石層（FP）上面で検出された。東竈を基本とし、北竈は1軒のみであった。出土遺物は貧弱だが、地域の集落相を考える際の一助としたい。

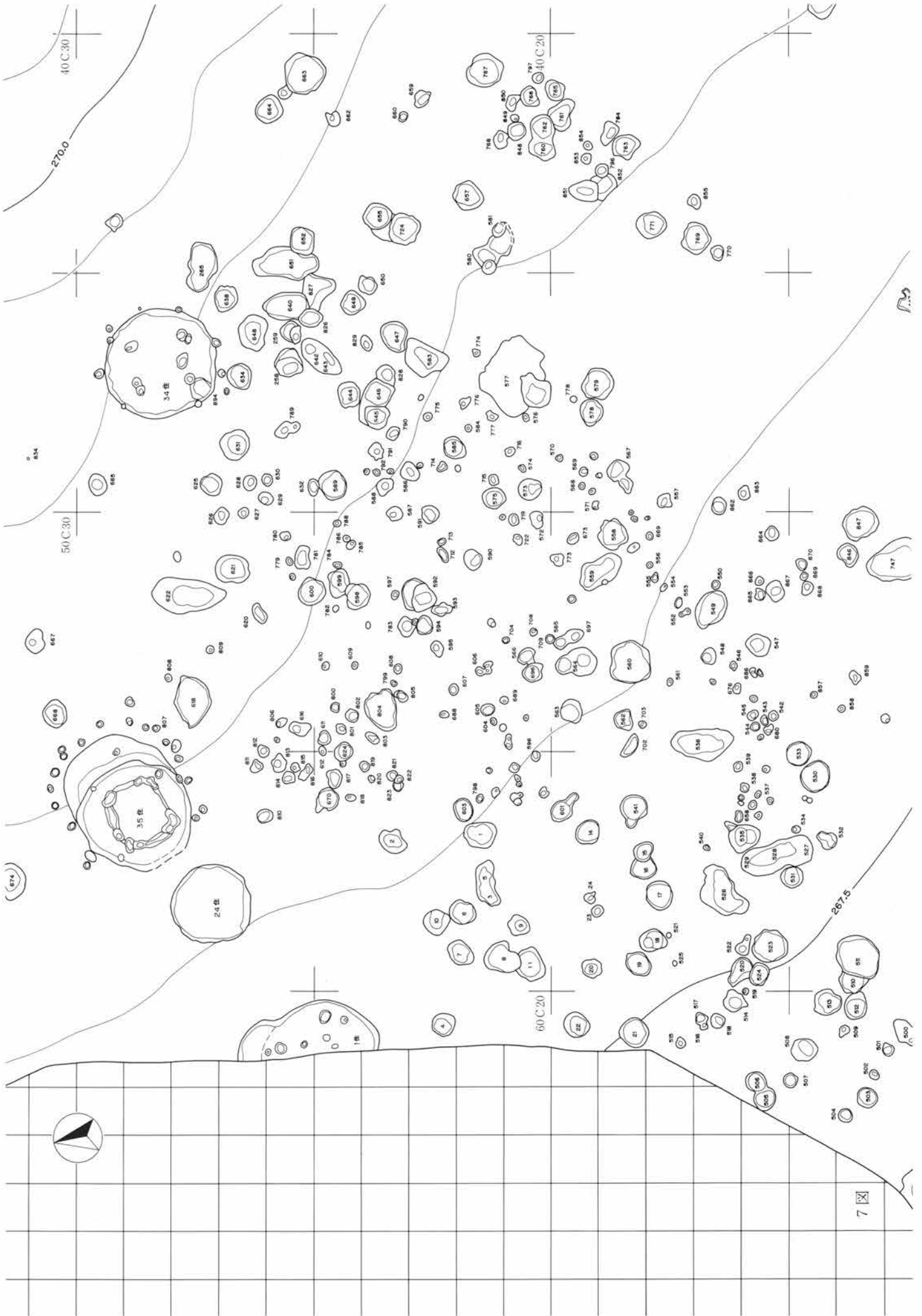
中世の館濠は新知見のものであり、周辺の三原田城、八崎城との関係など興味深い。

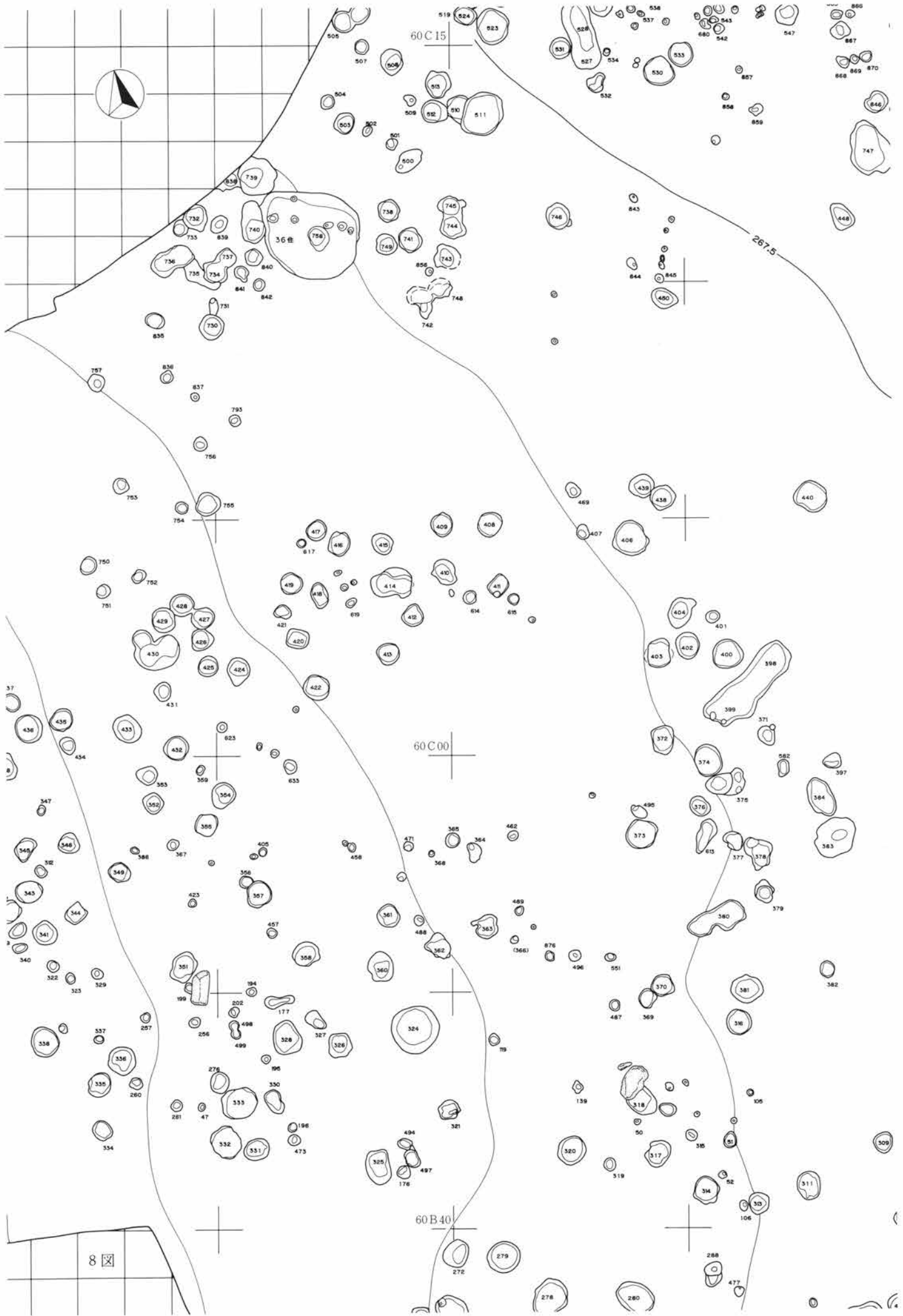
第2節 縄文時代

本遺跡の縄文時代の遺構は大半が中期前半の所産であり、住居址18軒、土壙894基を検出した。そのあり方は他の同時期の集落構成と同様に台地縁辺に住居址を配置し、土壙群はやゝ中央よりに群として構成される構造を呈す。環状に配置される住居址の内側に、ある一定の規則性を設け群をなすと思われるが、その構造は複雑である。概要で述べたが「隣合う土壙」などの近接した土壙群は把握できる可能性はあるが、巨視的な構造把握は判然とせず、遺構配置、出土遺物、接合関係などを加えた総合的な分析が必要であるが、本編では時間と紙面の都合もあり試みるができなかった。また、方形柱穴列に関しては、発掘時、整理段階でも、その存在を明らかにしようと努めたが、良好なpitの配列は見いだせなかった。

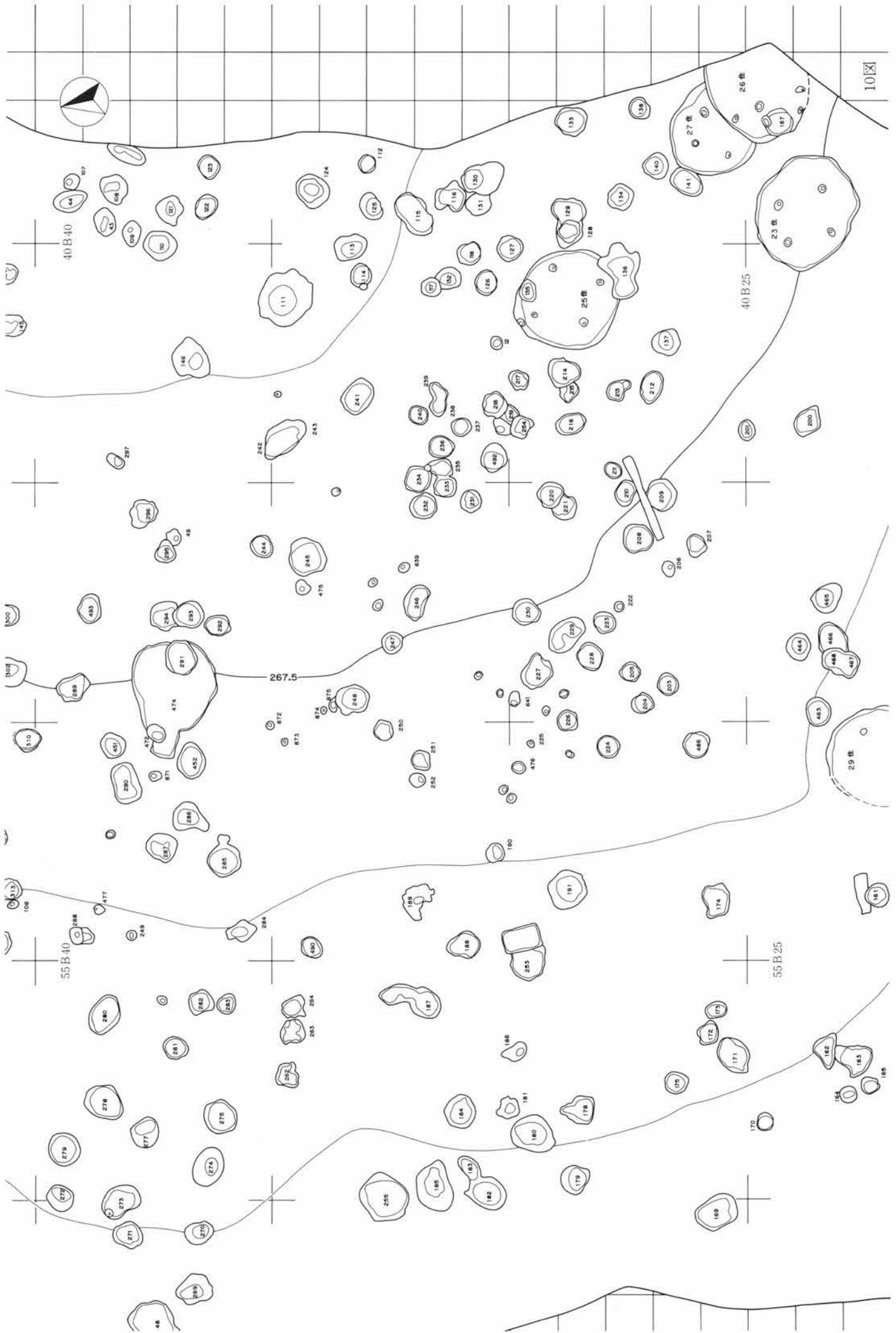
周辺の該期の遺跡は、第II章 第2節で述べたが、天竜川対岸に位置する三原田遺跡と三原田城遺跡、赤城村に分布する諏訪西、勝保沢中ノ山、見立大久保遺跡、北橋村では五領ケ台式土器2個体を出土した土壙で知られる分郷八崎遺跡などが報告されている。三原田遺跡は環状集落の全容を調査された遺跡として著名だが、房谷戸遺跡の遺構遺物と時期的な比較をすると、三原田遺跡はその主体を加曾利E式に求められ、勝坂式、阿玉台式といった中期前半の出土土器は本遺跡に比してやゝ量的に少ない。しかし、在地系の「焼町土器」系統などの出土土器は良好な出土量を誇る。本遺跡も20・28号住居址を始め645号土壙などから、この在地系の土器は出土しており、三原田遺跡との対比が今後の課題であろう。

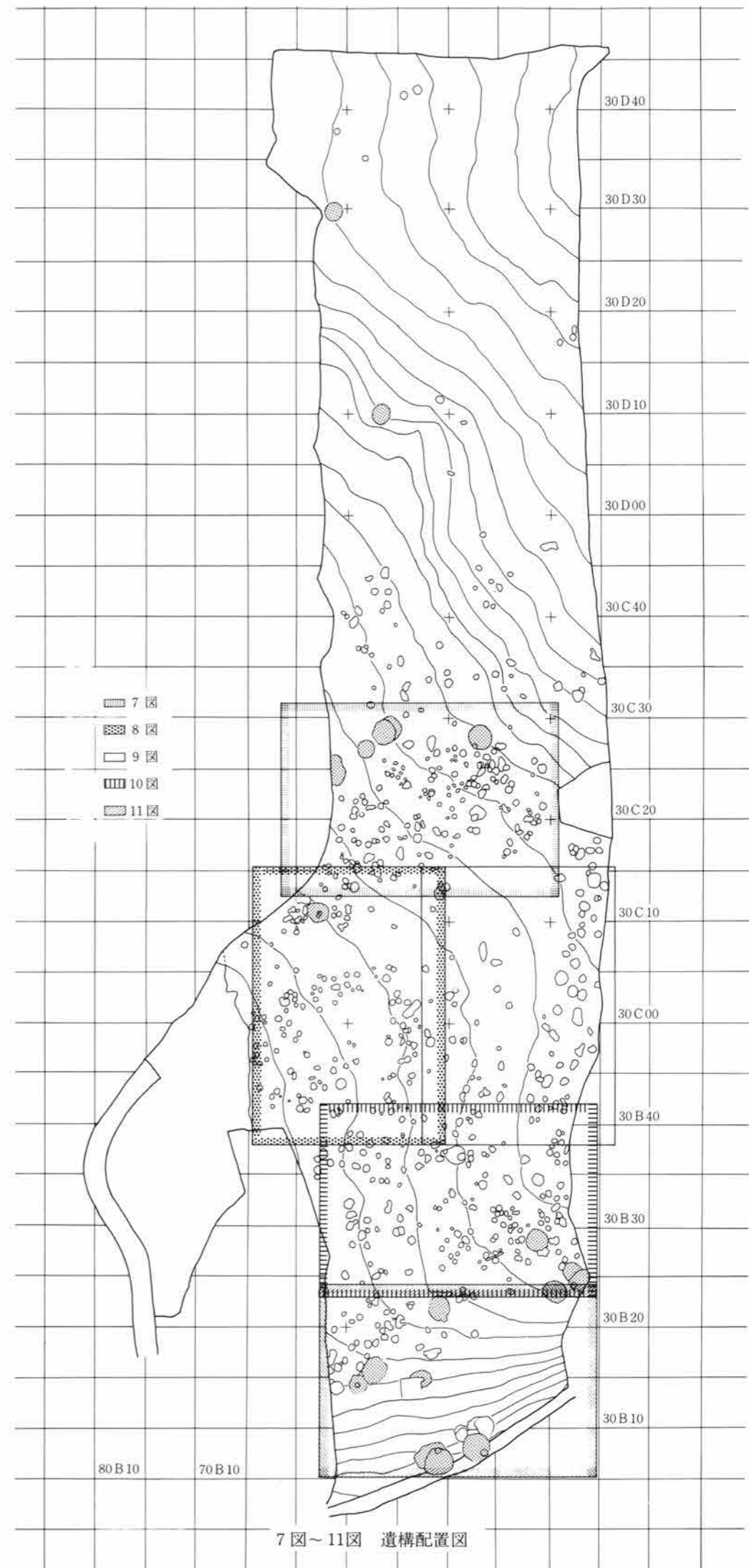
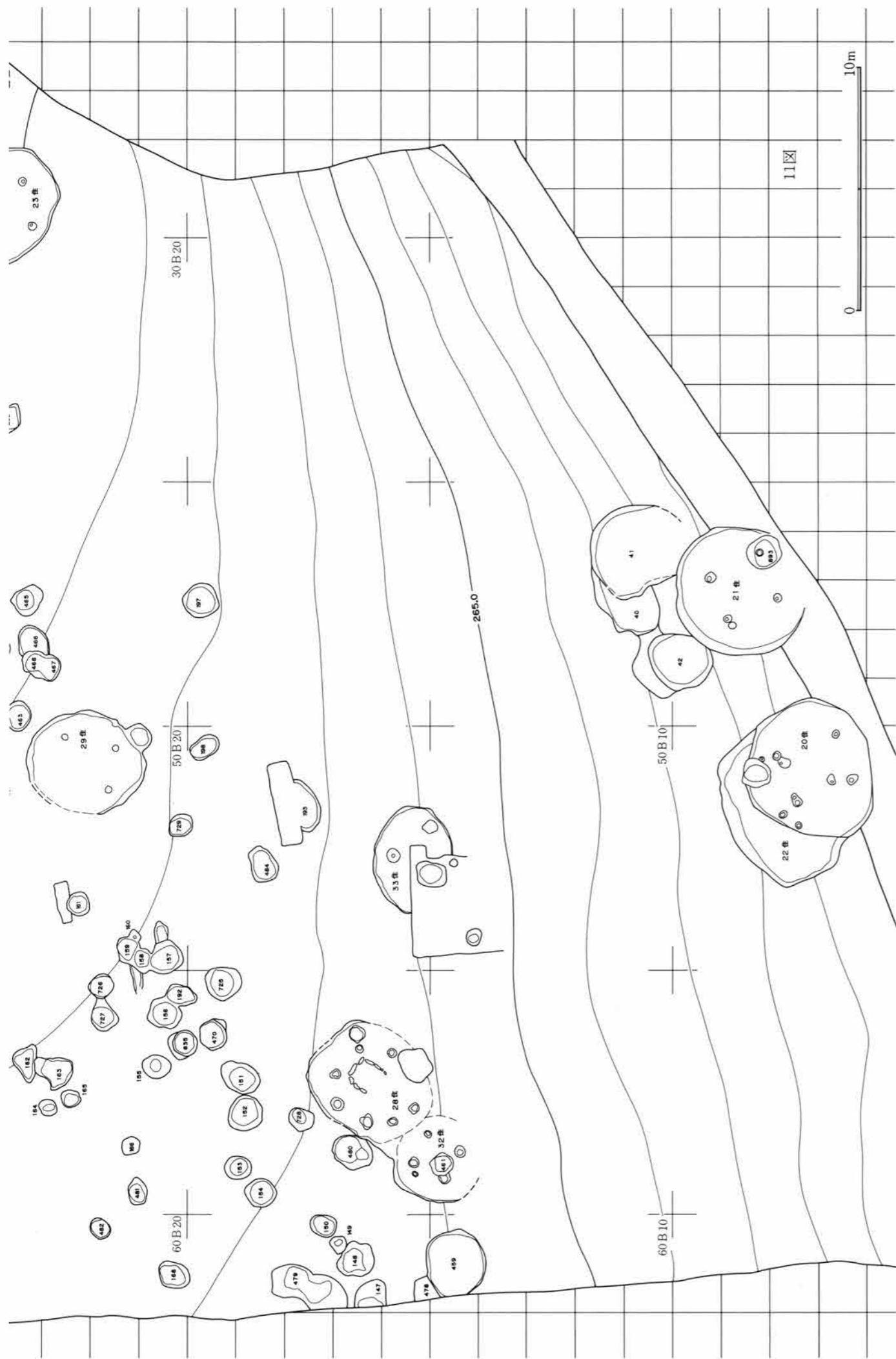
本項では、住居址、土壙の順に説明し、出土遺物は3項にまとめた。説明順は調査時における遺構番号を重視したが、一部整理の都合で、40～42号土壙に住居址の説明に加えた。また、遺物を主体的に出土した土壙は先行して述べている。遺構の記述では詳しい計測値には言及していない。巻末の遺構計測表を参照していただきたい。











7 図 ~ 11 図 遺構配置図

第1項 住居址

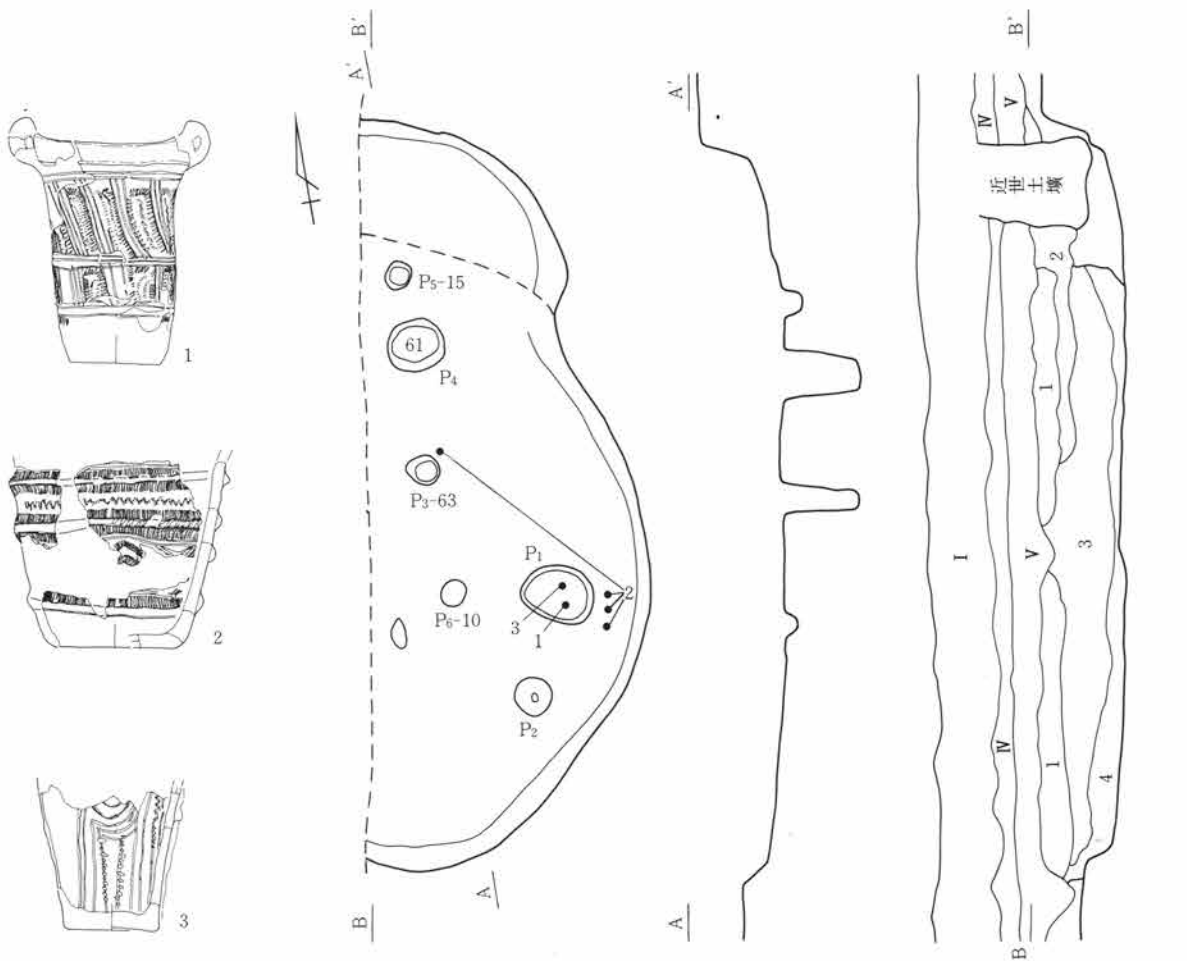
1号住居址(12図)；調査区中央東端の比較的平坦な部分で検出した。60～61C23～27グリッドに位置する。平坦部であるが天竜川の崖線が東に臨み、台地縁辺といえよう。本住居址は調査事務所在地にあたり先行して調査された。遺物の出土が調査当初より顕著であり、周辺の上層を含めて1号住居址上層区として扱った。

住居址は東半分が調査区域外にかかるため未調査であるが円形の平面形を呈し、北側に円形の土壇あるいは小型の住居址が重複する。新旧関係は1号住居址が新しい。規模は北側が重複のためはっきりとしないが、径約400cm程度で壁高は70cmを測る。土層観察による壁高も75cm程度で大きな差は無い。

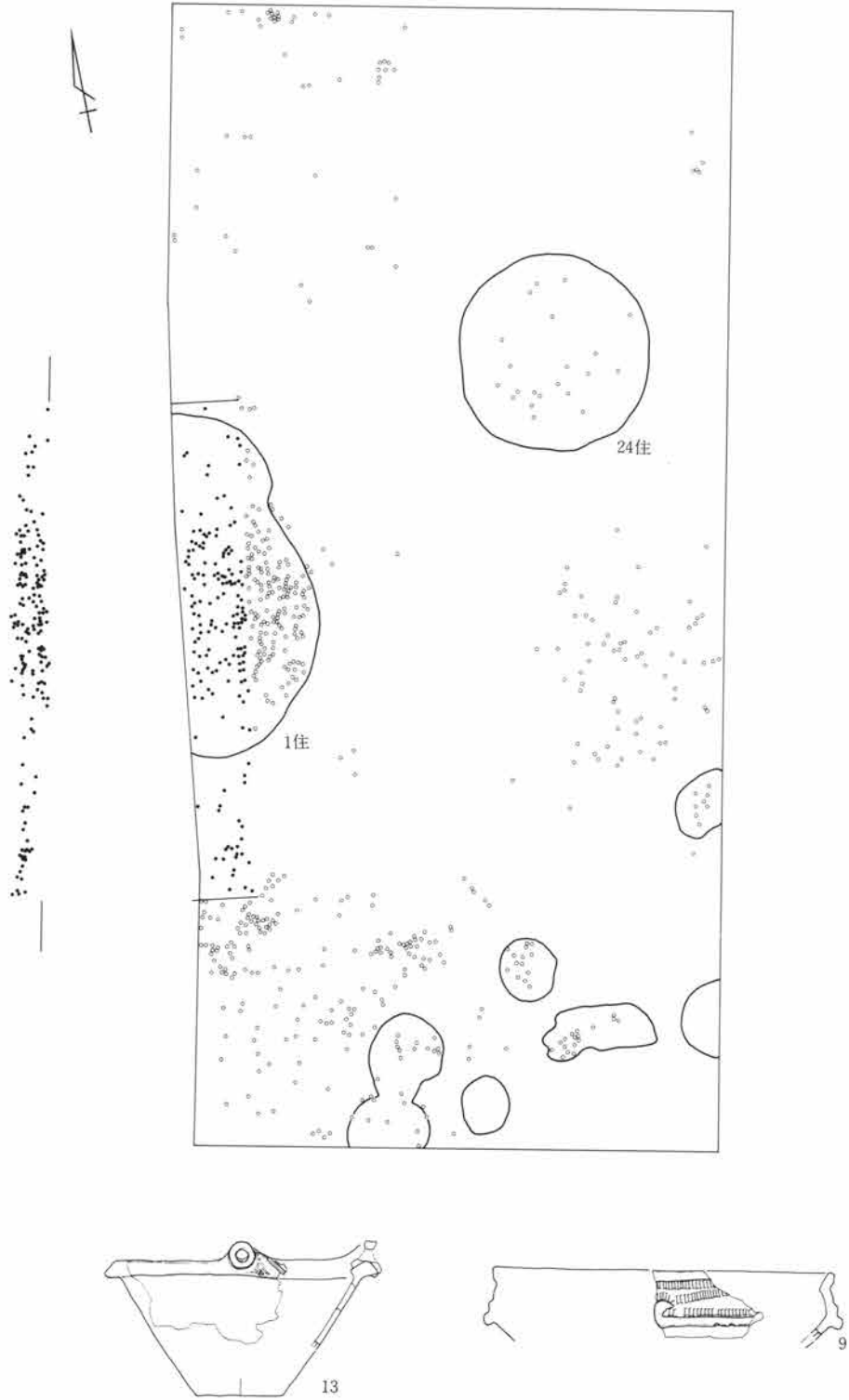
床面はやや軟弱で中央部にかけて緩やかに低くな

る。炉址は未確認である。柱穴はP1～P5に可能性が求められるが規則性は判然としない。深さはP1、3、4が良好である。土層は表土より観察できたが、上面は多くの攪乱、木の根の影響を受けており詳細な観察はできなかったが、住居址覆土は黒褐色土を中心に自然埋没状態を呈する。

遺物は上層区から床面にかけて多くの破片が出土したが、完形資料となり得る個体は少ない。その中でP1の壁際より横位で並列して出土した小型の深鉢2個体は時期が特定できる資料であろう。両者とも脆弱な土器で、1個体の小型の橋状把手1個は遺失してしまった。石器では石鏃2、打製石斧7、磨石類3、スクレイパー5点が出土した。

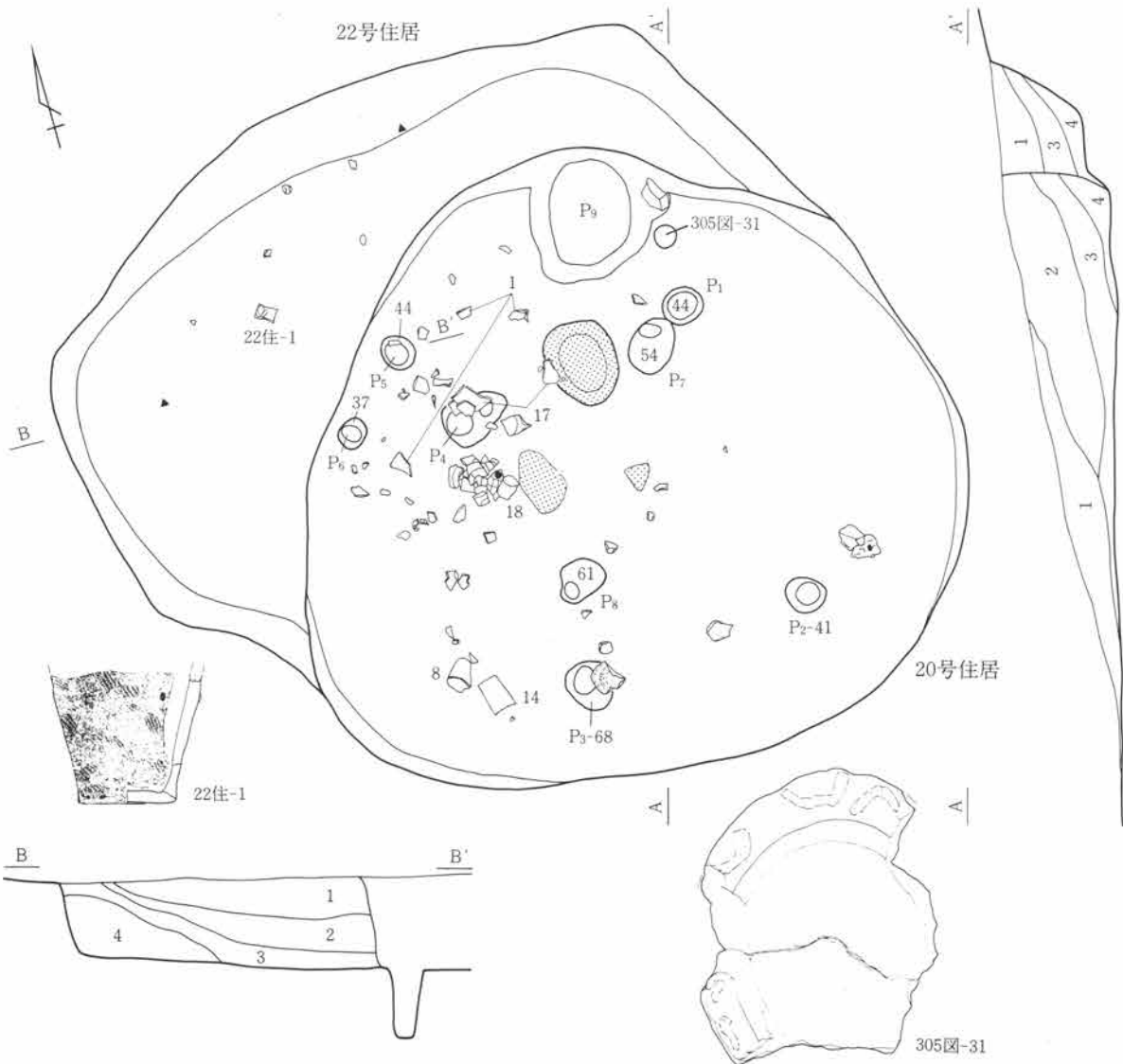
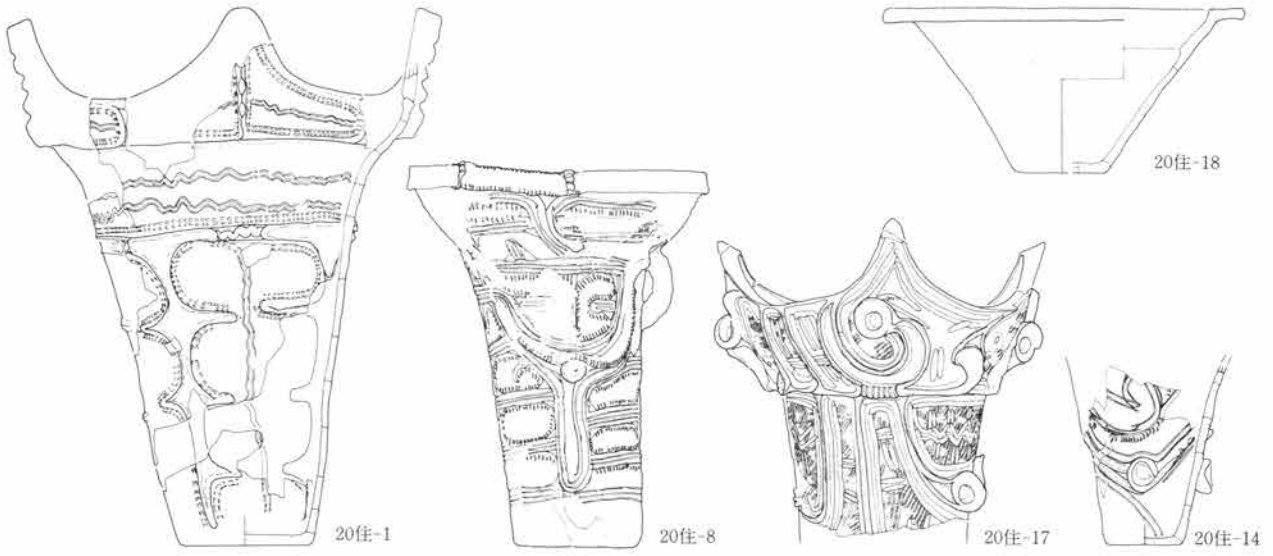


12図 1号住居址



13図 1号住居址上層区

0 4m



14図 20・22号住居址

0 2m

第IV章 遺構と遺物

20、22号住居址(14図)；調査区南端の傾斜地で検出された。49～53C 05～08グリッドに位置する。東約3mに21号住居址が隣接する。重複住居址であり、新旧関係は20号住が22号住を切る。南側に低地を臨み、20号住の南壁は傾斜地のため遺失している。

平面形は20住はややいびつな円形を呈し、22住は判然としなが不整形を呈す。規模は20住が550×520cm、22号住は現存径600cmを測る。壁高は20住の最良好な部分で35cm、22住は比較的深く85cmである。

床面は両住居址とも平坦で、20住は比較的よくしまっており中央部が顕著である。対して22住は軟弱である。炉址は20住の中央やや北よりに地床炉を確認した。浅く掘り込まれており、若干量の焼土、炭化物が認められた。22住は中央部が20住に切られているため不明である。柱穴は22住には確認されなかったが、20住には良好な配置が検出された。P1～P4は規則性を持って配置される支柱穴であろう。P5、P6は入口部などの補助穴であろうか。P7、P8は規則性を持たないが深さも良好であり補助穴として考えたい。なおP9は本住居址とは時期を別にする土壌であり、付属施設ではない。新旧関係は不明である。

遺物は20住に豊富な出土量が見られる。覆土中の出土も多く200点あまりを数える。床面、床直上からの出土にも良好な資料が揃う。出土土器もバラエティーに富み、阿玉台式、新道式系、在地系の土器が混在して出土している。また、2は21号住居址周辺から出土した破片の多くとも接合した。石器も多く、石鏃4、石匙1、打製石斧36、スクレイパー18、石皿4が認められる。22住は著しく出土量が乏しく、図示した前期末葉の深鉢胴部下半が1点と石鏃、石匙が各1点見られたのみである。

21号住居址(15・17図)；20、22号住居址と同様に南側の傾斜地で検出した。やはり南壁を傾斜のため遺失している。後述する40～42号土壌と接するが新旧関係は判然としなが。また南端に893号土壌とP2が重複する。P2が新しくP2を本住居址の支柱穴とすれば893号は21住床下の土壌である。

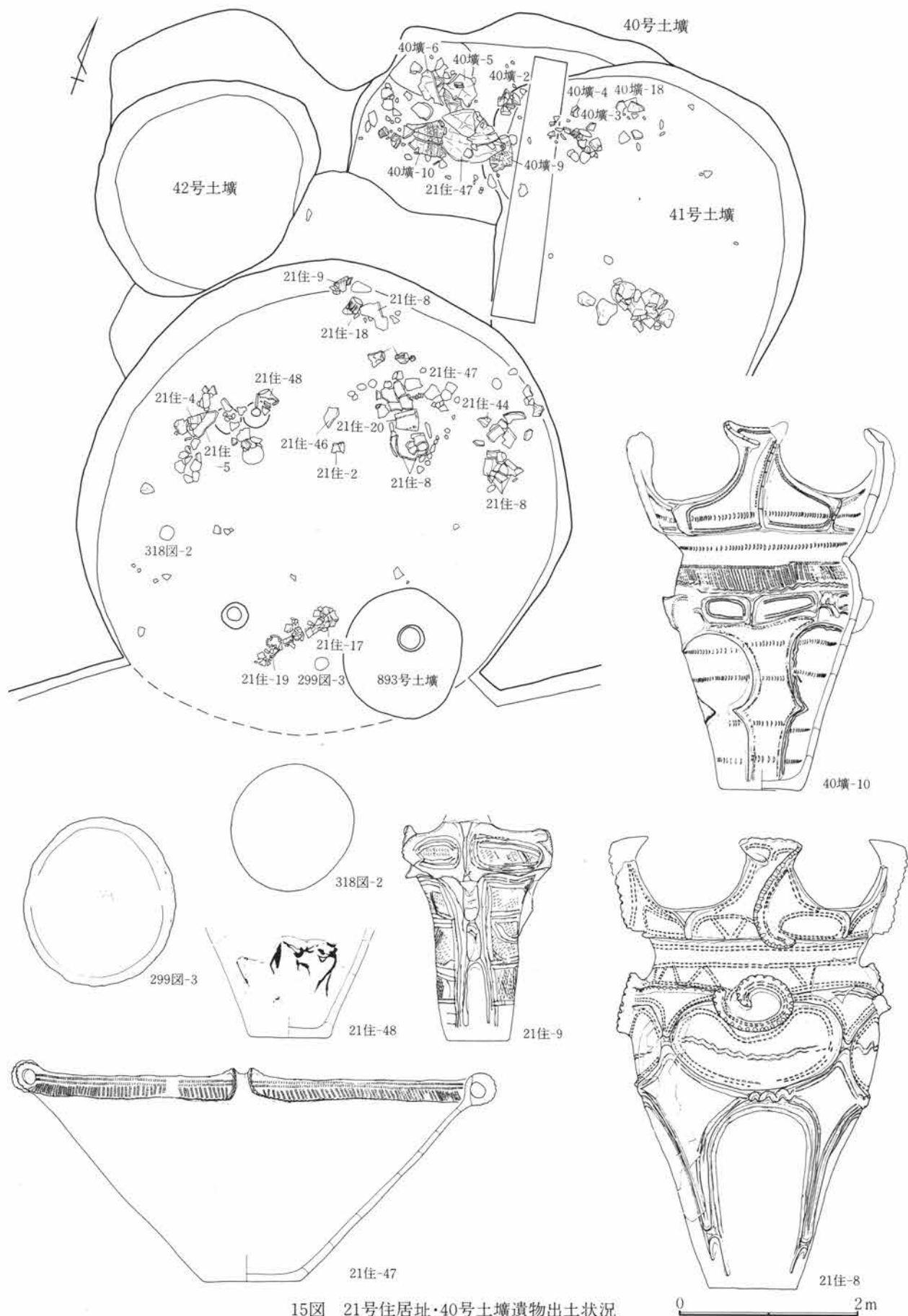
平面形は径約535cmを測るほぼ円形のプランを呈し、壁高も北側で115cmで良好な遺存である。炉は確認され

なかった。柱穴は5本検出され、P1～P4が支柱穴であろう。P5も深く立替などに伴うP4の移動とも考えられよう。

遺物は本遺跡の住居址中最も豊富な出土量を誇る。復元し得る個体が48個体、土器片などが300点以上、石器は110点余り出土した。覆土中の出土が圧倒的に多いが、覆土中位より大型の破片が目立ち、一括廃棄された可能性が高い。土器は阿玉台式が多く、8、47などの大型のものも出土した。勝坂式、在地系の土器との折衷も見られる。47は後述する40号出土の破片とも接合した。その他では床直より丸石が出土し、北側には自然石による石組が認められる。石組状遺構の東側72cmには石皿と覆土中ではあるが逆位の土器底部4が認められる。いわゆる丸石信仰であれば住居址埋葬の痕跡であるが、ここではその可能性の指摘に留めたい。石器は石鏃2、打製石斧45、スクレイパー17、磨石類3、石皿4、石棒片1などを見る。

40～42号土壌(16図)；21号住北に接して検出された。大型の土壌で41、42号土壌はほぼ円形の平面形を呈す。40号土壌は41号に切られる。敢えて住居址の項で説明する理由は、本土壌の墳底は平坦であり周辺には土壌群が分布しないことから、21住、隣接する20、22住と性格的にも極めて近い遺構として考えられ、土壌名を付してはいるが、例えば本遺跡の24、30、31号住居址などとも類似した小型の住居址としての位置付けも可能であり、住居址様の遺構として取り扱った。遺物は40号に顕著に出土し、21号住居址と同様一括廃棄的な様相を示す。21住との遺物関連は深くおそらく廃棄はほとんど同時期に行われたのであろう。

20～22号住居址、40～42号土壌は南側の傾斜地に位置し、22号住居址を除き遺物の出土量が極めて多い。このことは、本遺跡の時間的位置である縄文時代中期前半の遺物廃棄の一例としてとらえることができよう。また、20号住居址の遺物伴出のありかたは多数型式にまたがっており、共伴遺物による該期土器編年を試みる際には良好な伴出例といえよう。21号住居址は阿玉台式土器を多数出土し、県内の阿玉台系統の土器群を扱う際の好資料である。



15図 21号住居址・40号土境遺物出土状況



40号土壙遺物出土状態



40号土壙遺物出土状態



40号土壙遺物出土状態



41号土壙遺物出土状態



21号住居址遺物出土状態



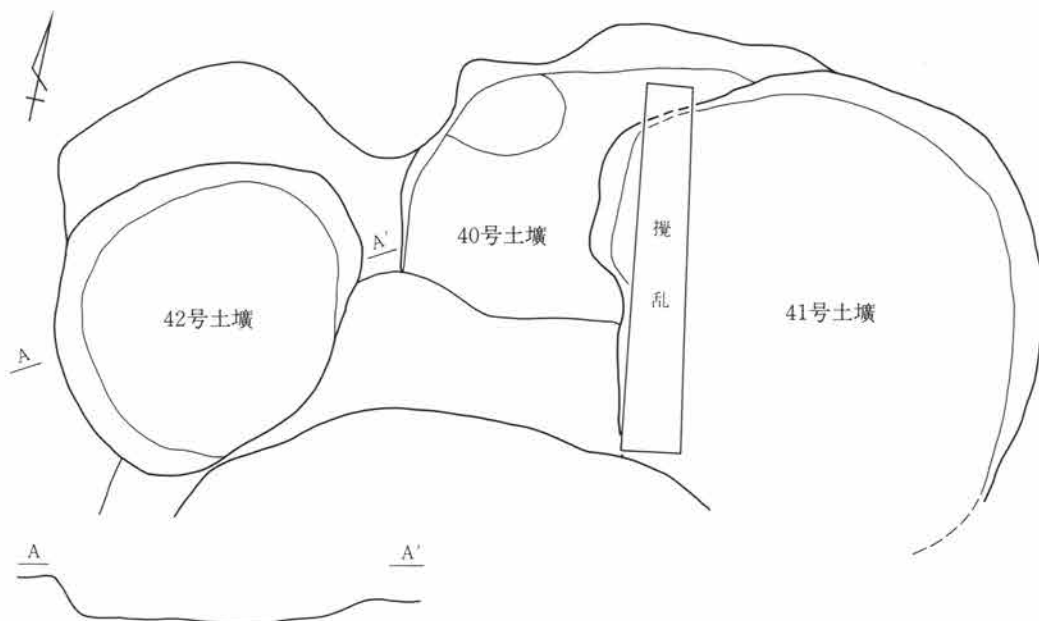
21号住居址遺物出土状態



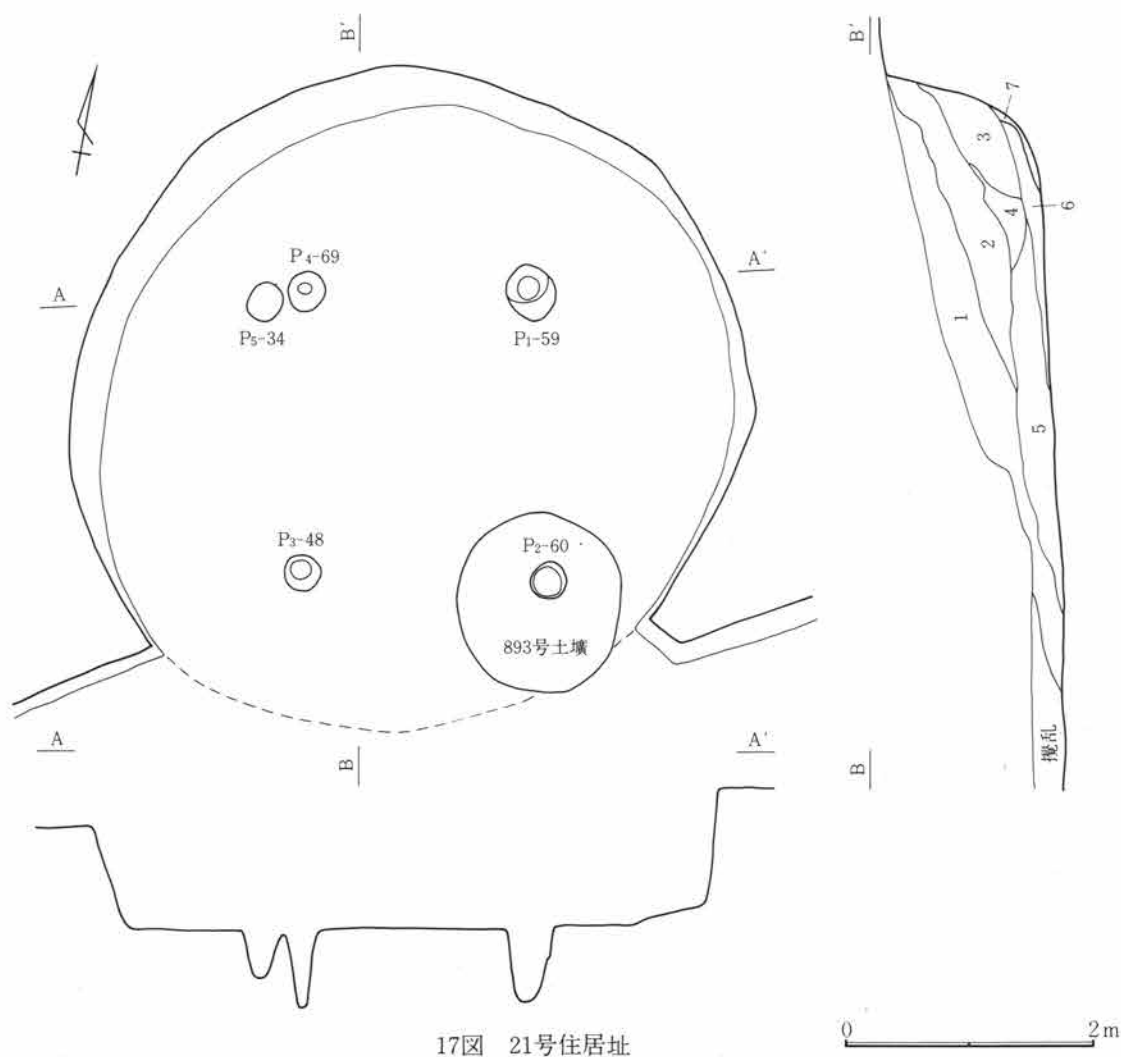
21号住居址遺物出土状態



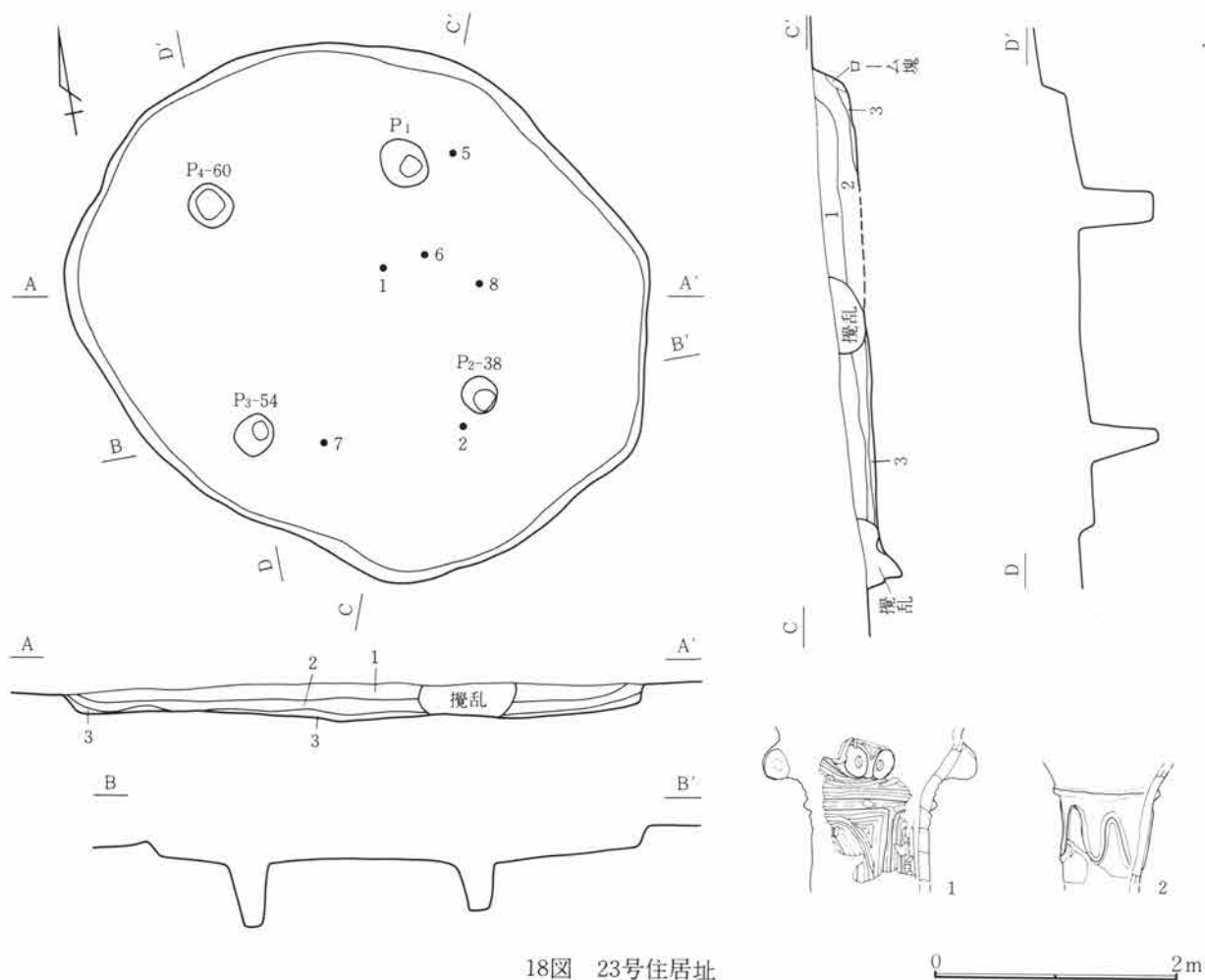
21号住居址遺物出土状態



16図 40・41・42号土壇



17図 21号住居址



18図 23号住居址

23号住居址(18図)；調査区東南端の傾斜変換点で検出した。38～40B22～24グリッドに位置する。東約1mに26・27号住居址が近接する。平面形は南東壁が若干歪み不整円形を呈す。規模は470×410cm、深さはやや浅く35cmを測る。

床面は平坦で軟弱だが、中央部分にかけて若干硬化し、盛り上がる。炉址は確認されなかったが、中央部にかけて極少量の焼土粒が散布しており、掘り込みを持たない地床炉が存在していた可能性もある。柱穴はP1～P4があたり、深さも規模もしっかりしていた。

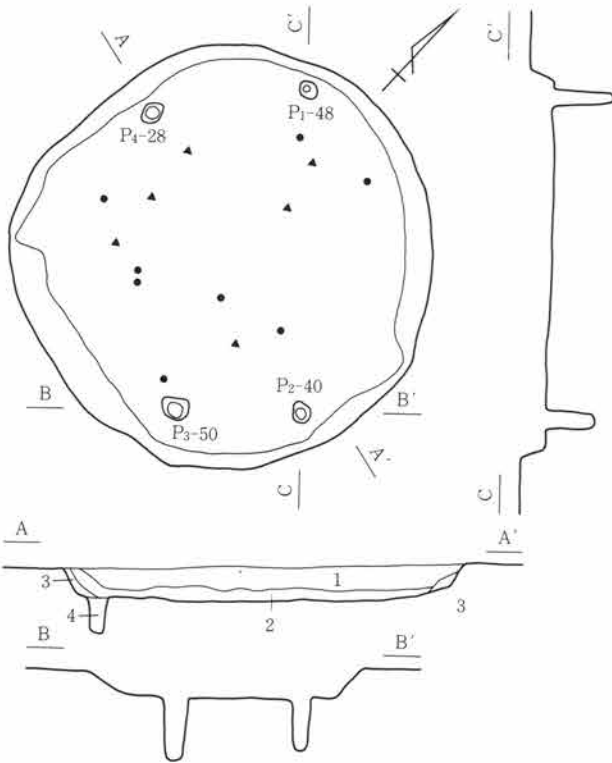
尚、東壁に接して1基の小ピットが検出されたがこれは遺構確認時より検出されていたピットであり、本住居址に伴うものではない。

遺物の出土量は少ない。図示し得た個体は底部を中心として13個体で、破片は60片を数える。石器は打製石斧が9、スクレイパー3、磨石2などが出土した。

遺物のほとんどが覆土中、下層からの出土であり、明確な本住居址の時期特定を示す遺物は出土しなかった。1の双環状突起を持つ深鉢胴部破片も覆土下層の出土である。



23号住居址遺物出土



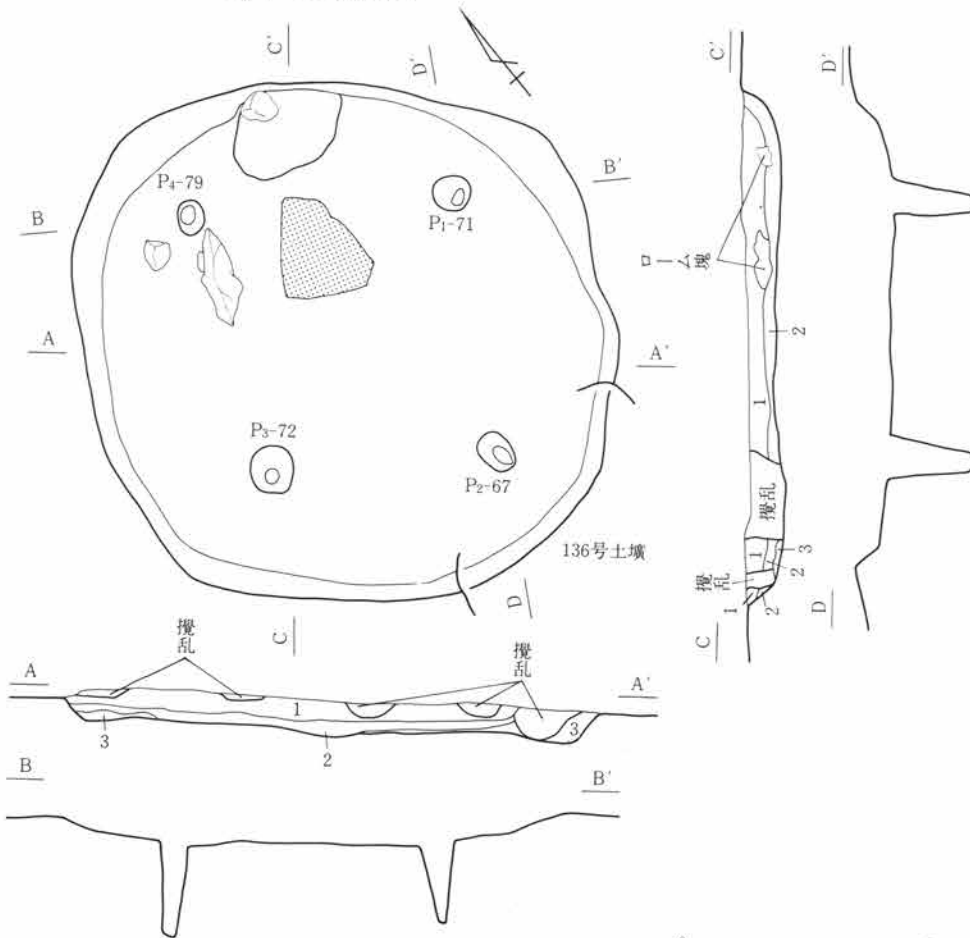
19図 24号住居址

24号住居址 (19図)；1号住の北東約3.8mで確認され、57・58C26・27グリッドに位置し、北東約1mに35号住居址が近接する。平面形はほぼ円形を呈し、径約330cm、深さ20cmを測る小型の住居址である。床面は平坦で軟弱である。柱穴は小型のものを北壁と南壁に2本1対で計4本検出した。小型であるが支柱穴として考えられよう。炉址は確認されなかった。

遺物は床直上より8点の土器片の出土を見たが、個体としては底部を2個体図示し得た。

本住居址は調査時においては炉址が無いことから、土壌として名称されていたが、本遺跡の他の住居址にも炉を持たない住居があり、また底面も平坦で、柱穴を持つことから整理段階で住居址として取り扱った。

25号住居址 (20図)；調査区南東の23・26・27号住居址の一群内で検出された。40～42B27～29グリッドに位置し、27号住の北西約5mに占地する。周辺には土壌が群在し、135、136号土壌が本住居址と重複する。一



20図 25号住居址

部の壁、床面を近世の耕作によって攪乱されていたが本址に与える影響は少ない。平面形はほぼ円形を呈し、径約450cm、深さ70cmを測る。

床面は平坦だが、若干凹凸を持ち中央部が固くしまっていた。炉址は中央より北よりに焼土が範囲として確認されたが、堆積は薄く掘り込みも持たない。柱穴は4本検出し、配列も良好なことから支柱穴であろう。壁は北壁がややなだらかな傾斜を呈す。

遺物は少なく底部を5個体図示し得た。破片は40点ほど出土して



第IV章 遺構と遺物

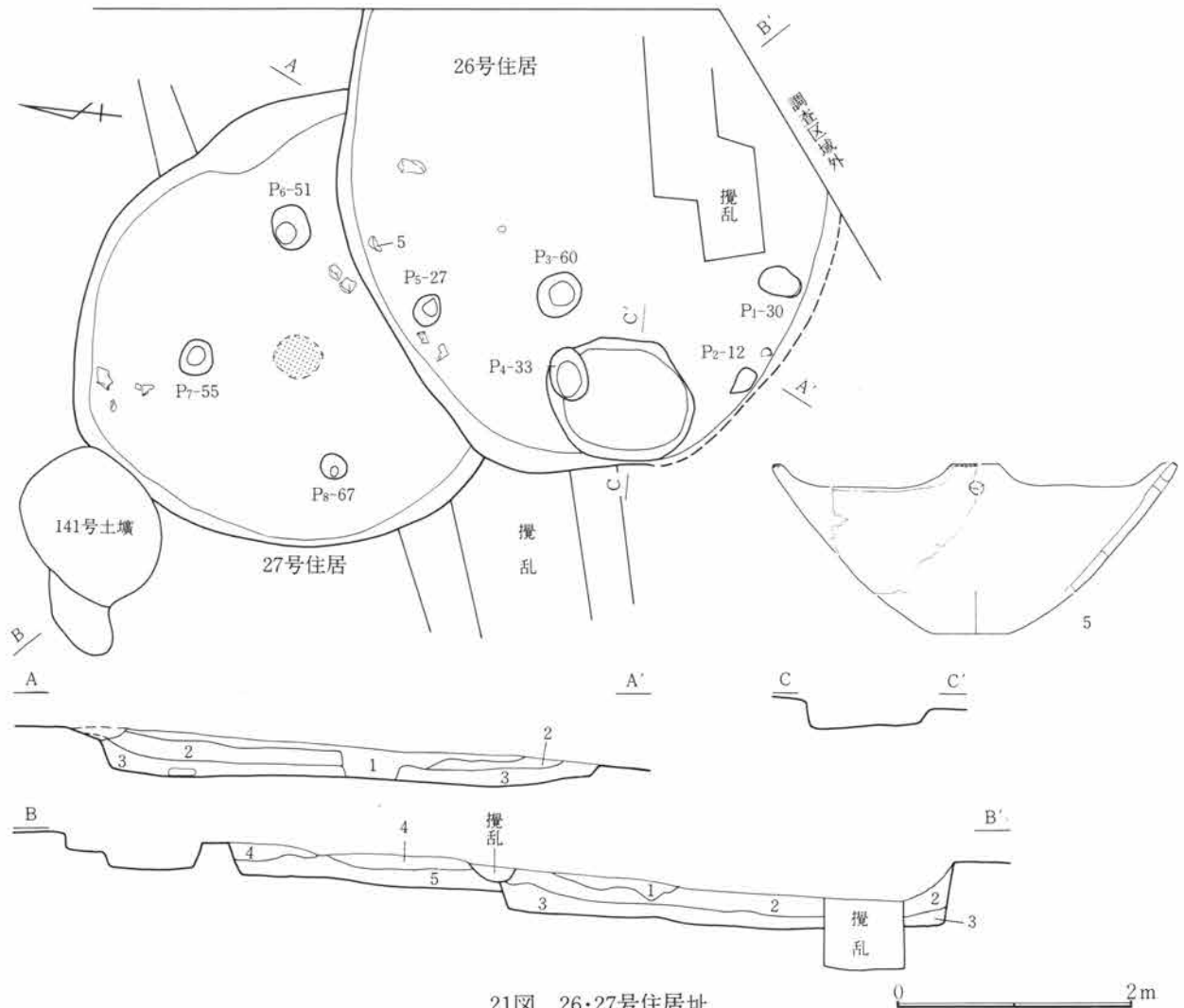
いる。石器は打製石斧を3、スクレイパー2、凹みを持つ石皿を1点出土した。いずれも覆土中の出土である。また、炉址の西側には大型の自然石が覆土中より出土したが、周辺の土壌群との関係も考えられ、本址に伴うものか判然としない。

26・27号住居址 (21図)；調査区南東の壁際で検出した。24号住と近距離にあり一群をなすのであろう。35～38 B 23～26グリッドに位置する。重複住居であり、新旧関係は26号住が27号住を切る。また、26号住には167号土壌、27号住には141号土壌が重複する。両土壌とも住居址を切る関係にある。平面形は未調査部分もあり判然としないがおそらく両住居とも円形を呈し、規模は26号住 径約450cm、壁高約40cm、27号住 径約

370cm、壁高約40cmを測る。26号住の南壁は傾斜と東西に走る攪乱溝のため壁の確認に困難が伴い過掘になった。

床面は両住居とも平坦だが26号住の中央部はやや凹み、固くしまる。27号住はやや軟弱である。炉址は27号住の中央部に薄い焼土の堆積が認められた。掘り込みは持たず、床面が若干焼けた状態である。26住には認められなかった。柱穴も27住に良好な配置が認められた。P5～P8の4基は支柱穴として認められよう。26住は北東の床面が未調査のため不明点が多いがP1～P4の配置は不規則で深さも一定していない。

遺物は両住居とも少なく、26住で浅鉢の大型破片が西壁端の床面より出土している。



21図 26・27号住居址



22図 28号住居址

第IV章 遺構と遺物

28号住居址(22図)；調査区西南の傾斜変換点で検出された。56～58B15～17グリッドに位置し、32号住居址と西壁を重複する。周辺には土壇群が一群をなし、本住居址も南側に460号土壇が重複する。本住居址の占地する部分は最も攪乱溝が多く東西に走り、また表土の堆積も薄いことから、住居址の遺存は必ずしも良好とはいえ、南壁は遺失していた。また攪乱溝のため北東側の壁も破壊されているが、攪乱は床面にまで達しておらず、浅い壁高ながらも平面形などを確認することができた。

平面形は北東に長軸を持つやや円形に近い隅丸方形を呈し、500×440cm、深さ25cmの規模を測る。床面は僅かな凹凸を持つが、おおよそ平坦である。硬度は軟弱である。炉址は中央よりやや北東よりに大型の石囲い炉を持ち他の住居址の炉形態とは様相を異にする。掘

り込みを持ち、焼土、炭化物も比較的多く検出した。炉石は自然石を使用しており、礫面を持つものと板石状のものがある。柱穴は多くP1～P7が炉址を囲むように検出された。間隔を意識しての配列だがP5、P6間は広い。460号のため確認ができなかったためである。柱穴はP4を除きいずれも浅い。なおP8は床面で確認され、本址に伴う浅い土壇であろう。用途、機能などは不明である。壁は前述のとおり遺存が悪く北～東壁が浅く確認されたのみだが、立ち上がりはしっかりしていた。

遺物はV群である曲隆線文系の土器を中心に出土した。出土量は少ない。いずれも床面よりやや浮いた状態の出土である。覆土中からもV群土器を中心に出土したが、阿玉台、勝坂式系の土器片も若干見られた。



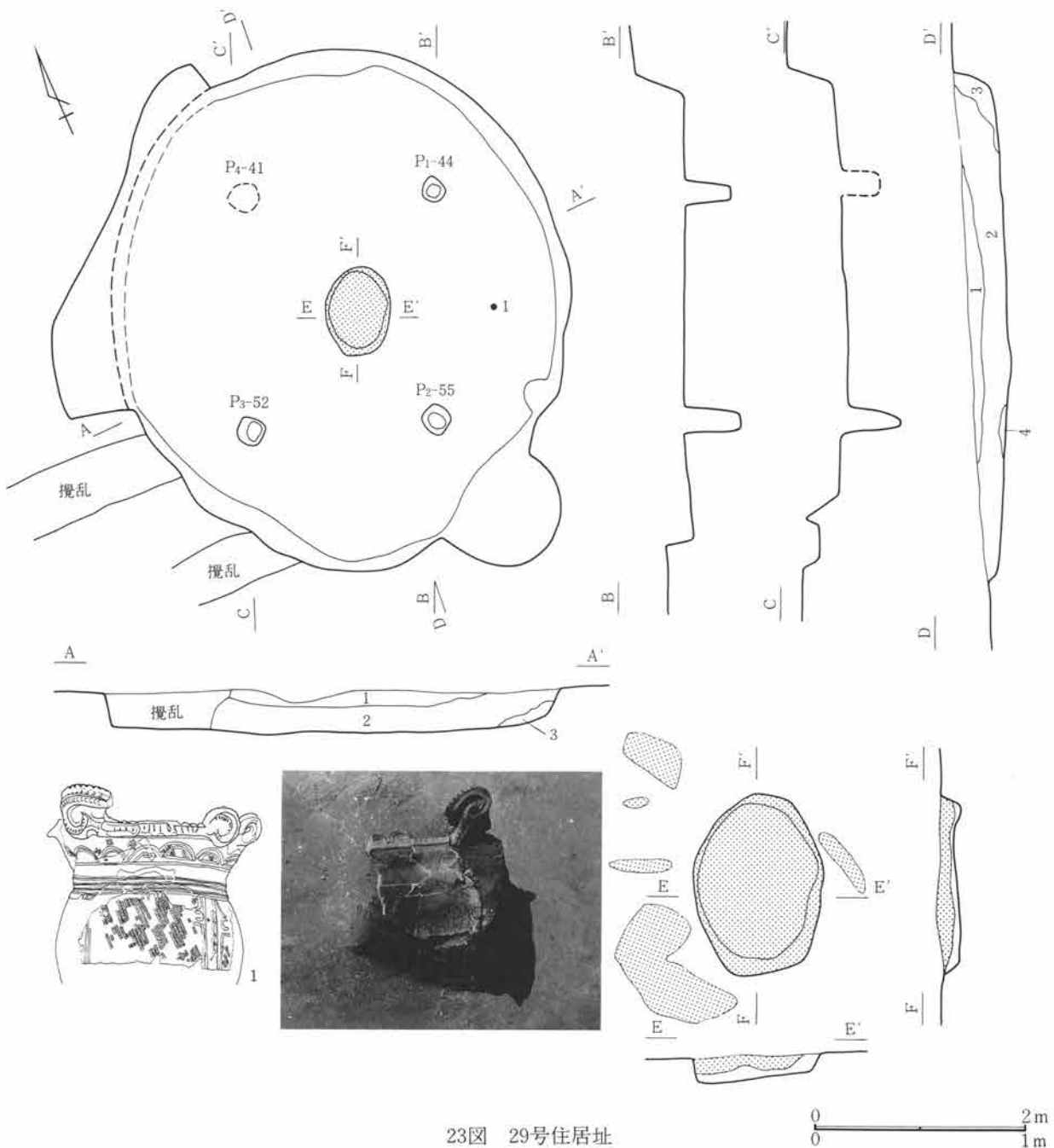
28号住居址

29号住居址(23図)；調査区南傾斜を立ち上がった比較的平坦な場所に占地する。49～51B20～23グリッドに位置し、近接する他の住居址はなく、南約10mの距離に33号住居址がある。485×430cmのやや縦長ではあるがほぼ円形の平面形を呈す住居址である。深さは約45cmを測る。北西の壁と床面は風倒木址のため、壁は過掘、床面のP4のプランは不鮮明だった。住居址は風倒木址より新しいが、風倒木址に混入する黒色土が遺構の確認に困難を与えた結果である。

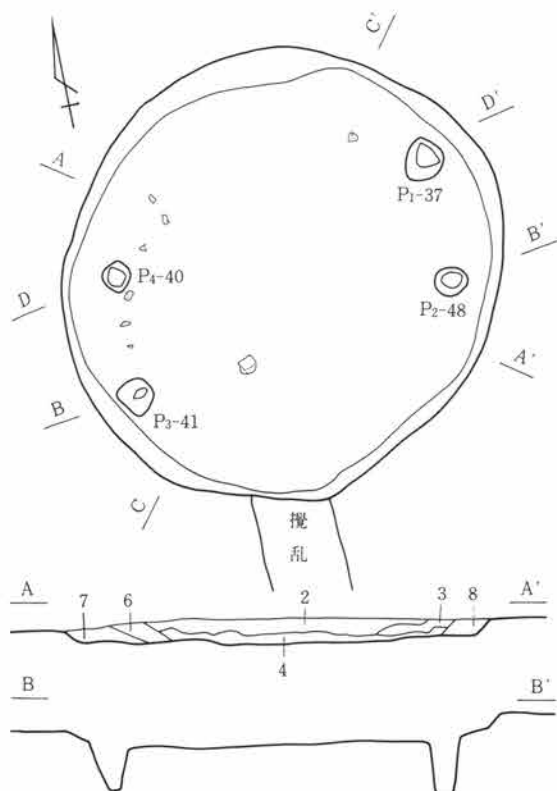
床面は平坦で、比較的固くしまる。炉址はほぼ中央

に地床炉を設ける。掘り込みを持ち、焼土、炭化物を上層に多く含む。炉址周辺からも焼土をまとまって確認できた。柱穴は規則的配列の主柱穴を4基(P1～P4)検出した。前述のとおりP4はやや判然としない。なおP2とP4の間に小穴を1基確認したが木根による穴であり、平面図からは除外した。

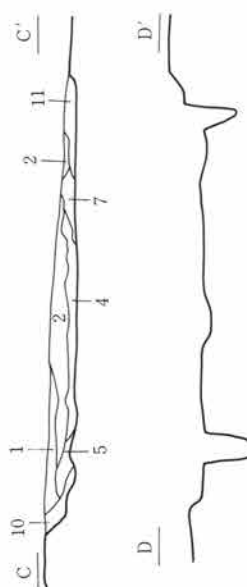
遺物は少なく個体として図示し得る土器は半欠した深鉢1点のみである。大木系の土器で、突起を2個付し頸部の括れを持つ特徴的な個体である。



23図 29号住居址

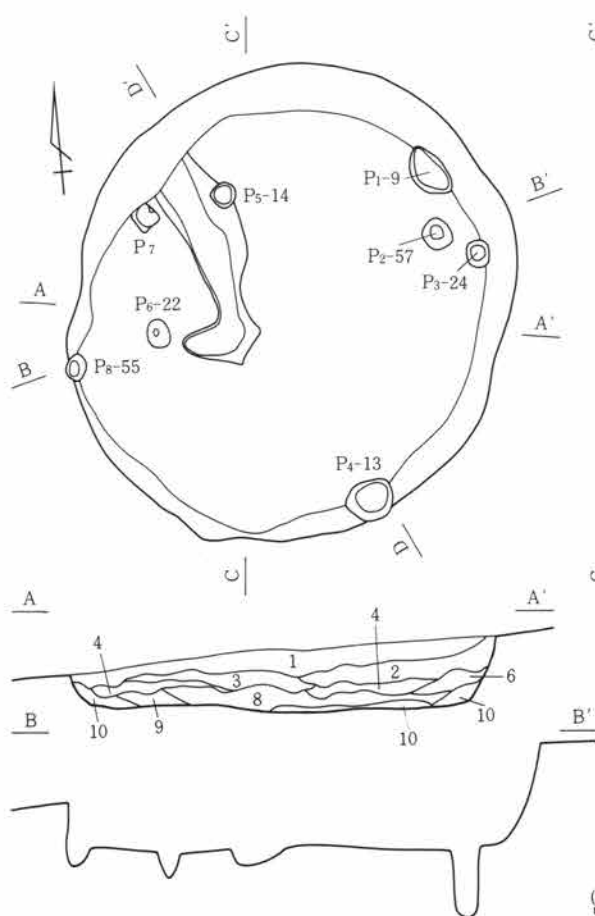


24図 30号住居址

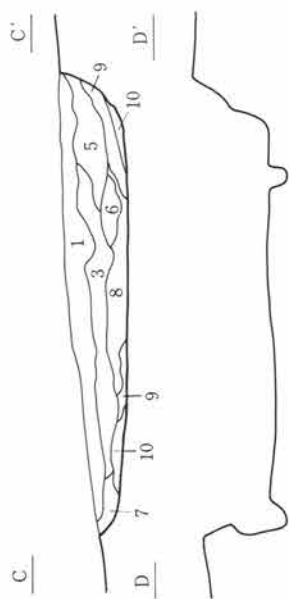


30号住居址(24図)；調査区北側の泥流丘上の比較的平坦面で確認された。57・58D28・29グリッドに位置する。周辺に遺構は無く単独の住居址である。平面形は円形を呈し径約350cm、壁高は約25cmを測る。表土の堆積が浅くやや遺存は悪い。

床面は平坦だが凹凸が有り軟弱である。炉は無い。柱穴はP1～P4が2基1組で東西の壁下に1対ずつ検出され、これが主柱穴であろう。その他床面には小穴が多く見られたが木根などの過掘であり、平面図には載せていない。遺物は小片が数点出土したのみである。石器はスクレイパーが1点出土した。尚、本址南壁より溝状遺構が伸びるが自然営力によるものであろう。



25図 31号住居址

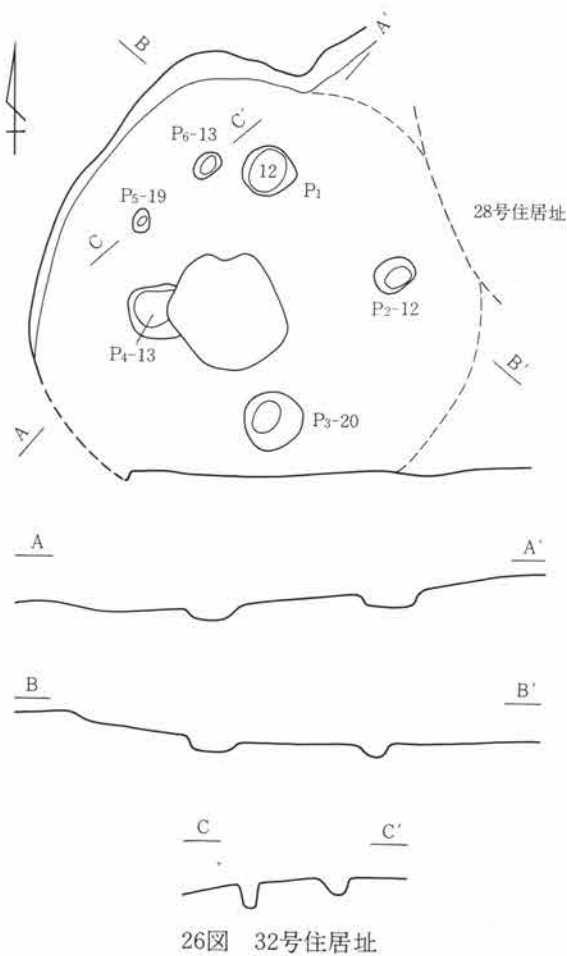


31号住居址(25図)；調査区北よりの泥流丘落ち際に検出された。55～57D09・10グリッドに位置する。北から東側に泥流丘の斜面を控える。ほぼ円形の平面形を呈し径約360cm、壁高約60cmを測る。

床面は平坦でやや軟弱である。炉は無い。柱穴は特定できないがP2、P4～P6が比較的規模も掘り込みもしっかりしており主柱穴の可能性が考えられる。P1、P3、P7、P8は壁際に検出されたことから壁柱穴ともいえよう。なお北壁より溝状の落ち込みが床面中央にかけて検出されたが性格は不明である。

遺物は小片が数点出土したのみである。

0 2m



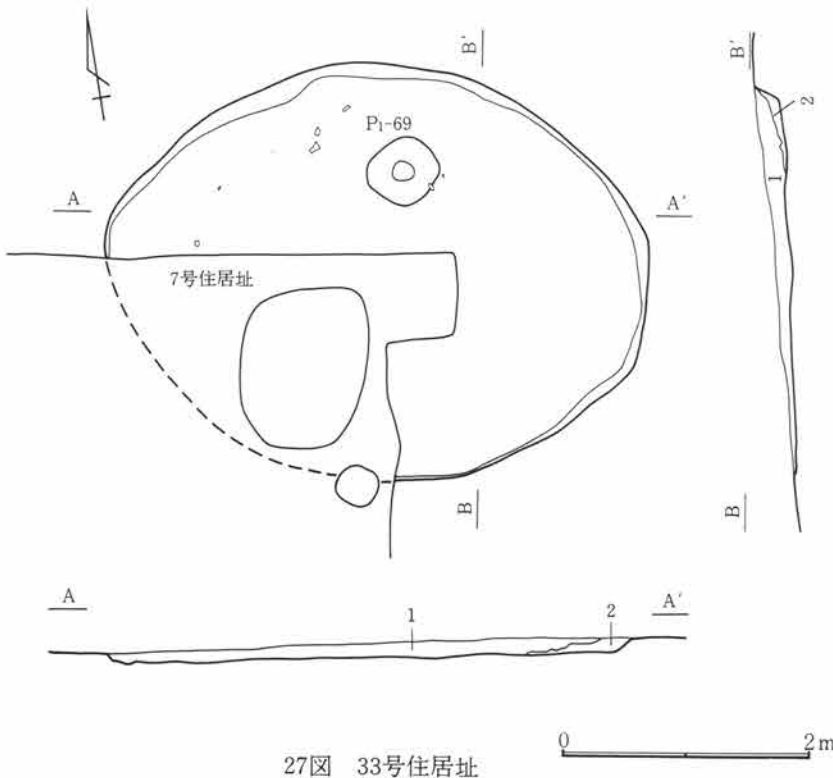
26図 32号住居址

32号住居址 (26図)；南側の傾斜変換点で検出した。57～59 B14・15グリッドに位置する。前述の28号住と東壁を接し、住居址中央には461号土壌が重複する。傾斜のため西壁、南壁が遺失し、また平安時代の7号住居址が南壁と床面を破壊する。ゆえに残存状態は極めて悪く、僅かに残る北壁と床面から類推すると、小型の住居址であり平面形は円形で径約350cm、壁高約35cmの規模を測る。

床面は南西に傾斜し、28号住に比してやや硬度を持つ。炉址は確認されなかった。柱穴は比較的大型のピット4基 (P1～P4) が配置、間隔も良好で支柱穴と考えられる。深さは一定するが浅めの柱穴である。またP5、P6も壁からの距離も一定であり、P1、P4の間に設けられており、入口部などの補助穴を想起させる。

遺物は少ない。覆土中より破片が数点出土し、図示し得る個体は有段の浅鉢1個体である。石器は打製石斧が5点出土した。

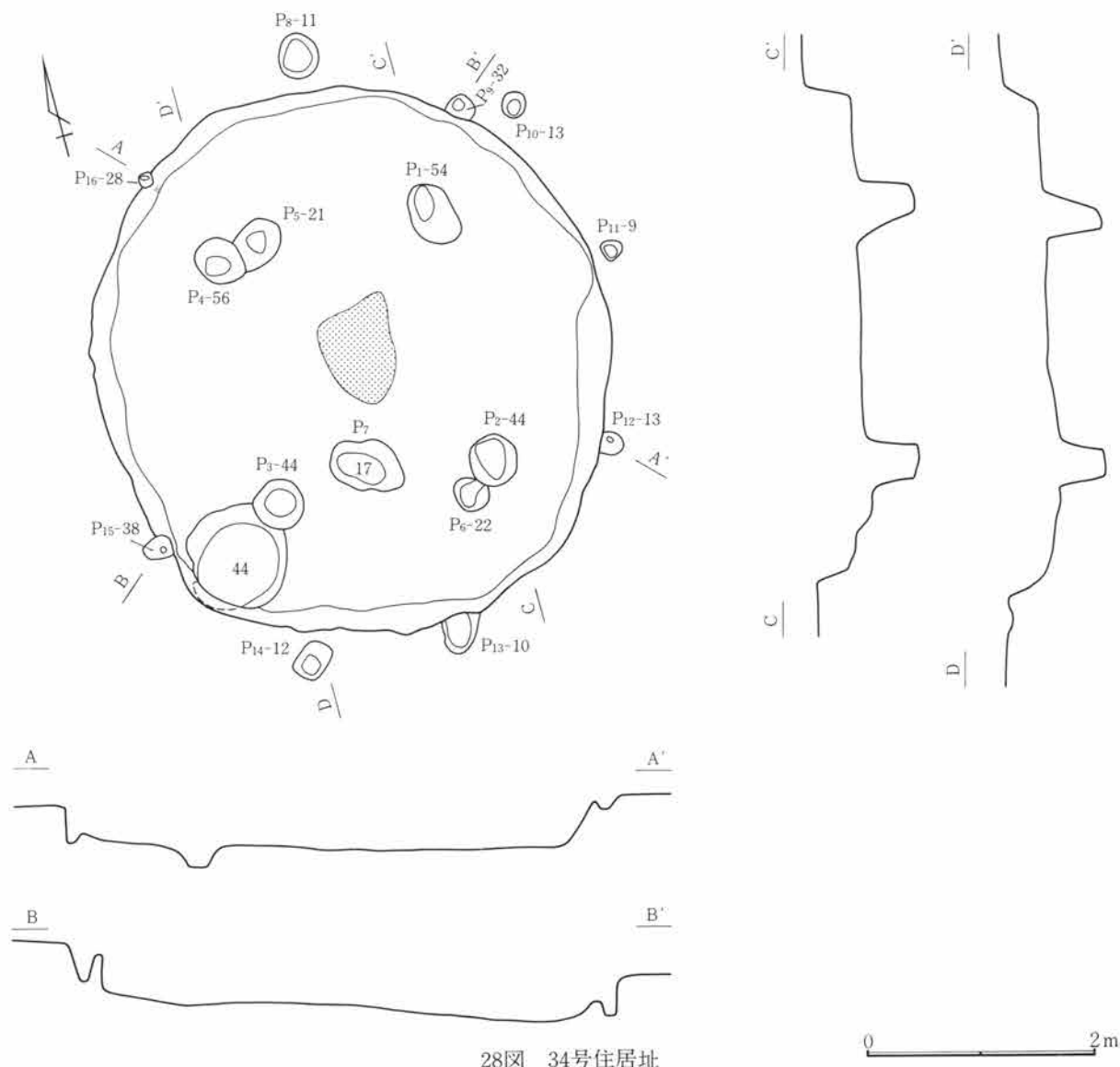
33号住居址 (27図)；調査区南の28・32住の一群とともに検出された。51～53 B14～16グリッドに位置する。1/4以上を平安時代の11号住居址に破壊され、正確なプランは不明だが、430×325cm、壁高約40cmを測る小判形を呈する小型の住居址である。



27図 33号住居址

床面は中央部分が若干固いが、壁周辺などは軟弱で、ローム面を床面とした。炉址は中央部が攪乱されているため確認されなかった。柱穴と考えられるピットは1基のみ確認したが判然としない。

遺物は阿玉台系の土器細片が2点、打製石斧が3点出土した。



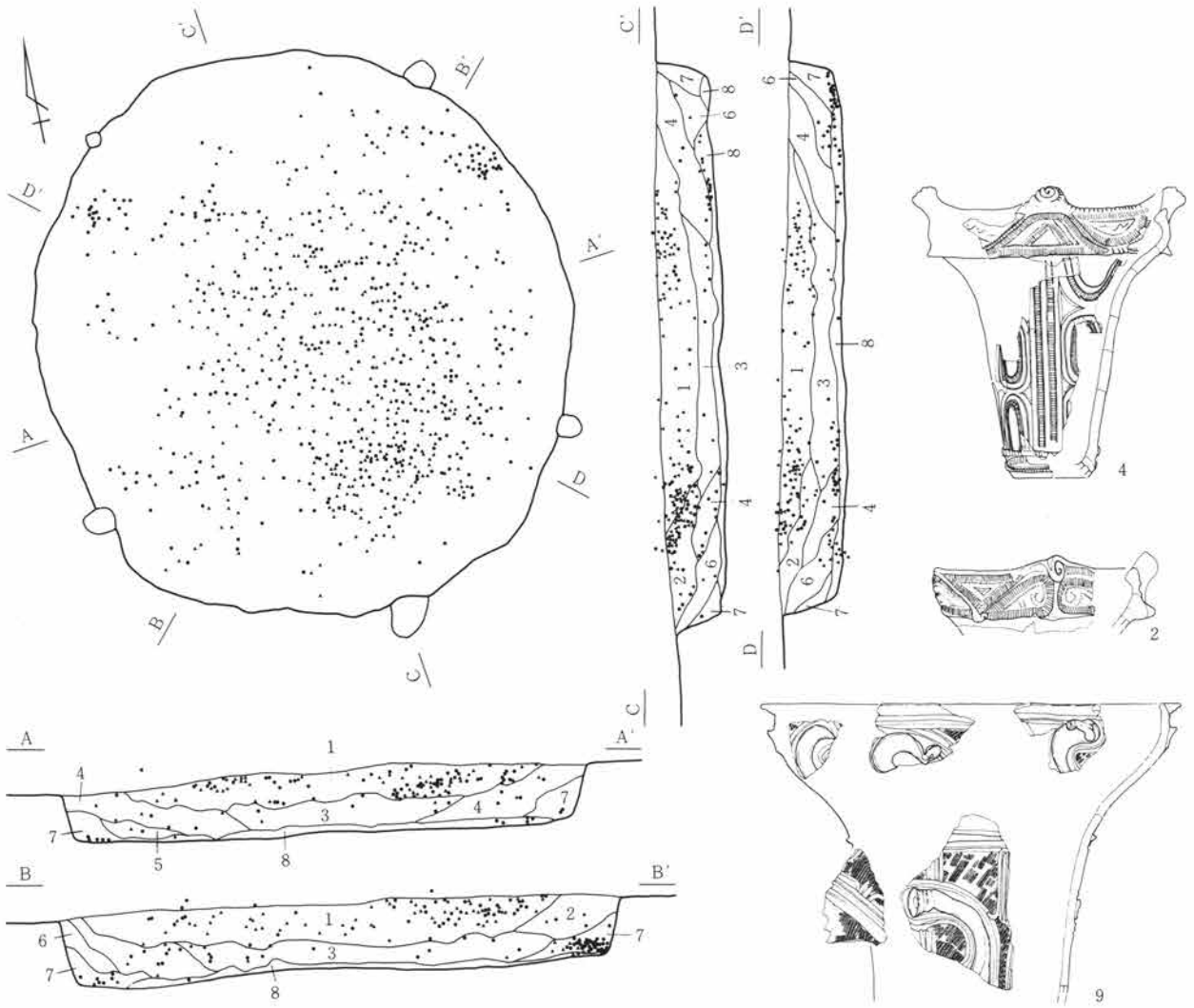
28図 34号住居址

34号住居址 (28・29図)；調査区中央やや東よりの平坦面で検出した。南側には土壌群が展開し、本住居址にも894号土壌が重複する。近接する住居址はなく西約14mに35号住居址が存在する。また、東側に泥流丘斜面が控える。遺存状態は良好で、平面形は円形を呈す。規模は径約460cm、壁高約60cmを測る。

床面は平坦だが西側がやや凹み、若干緩やかな立ち上がりを示す。硬度も良好で、特に中央部周辺は固くしまっていた。炉址はほぼ中央に地床炉がある。掘り込みを持たず、床面が著しく焼土化した状態で検出された。柱穴はP1～P4を主柱穴とする。間隔、深さもほぼ一定で良好な配置を呈す。P2、P4の脇にはP5とP6が接するが両者とも浅く、建て替えに伴う柱穴の移動と捉え難い、おそらくP2、P4の支柱穴と考えるのが妥当

であろう。その他壁外に小ピットが多く検出された(P8～P16)。住居址に伴う壁外柱穴の可能性はあるが断定はできない。尚、炉址南のP7は本址に伴う落ち込みであるが用途、機能などは特定できない。遺物も見ず、覆土も褐色土を中心とし焼土粒などは確認できなかった。また、894壙との新旧関係は主柱穴であるP3が土壌を切り、また土壌上面に床面の硬化面が検出されたことから本住居址に新しい時期を与えたい。

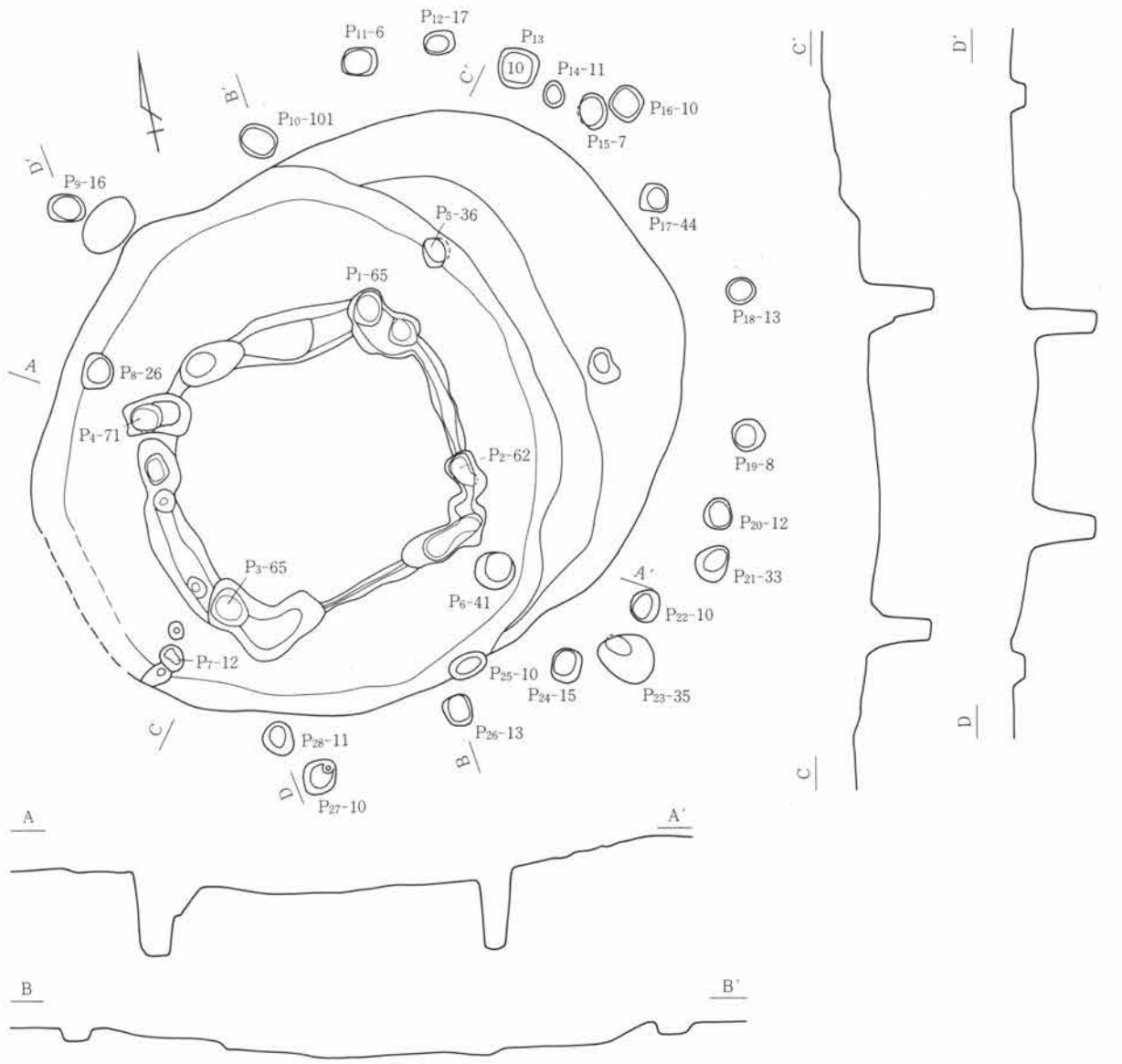
遺物は覆土中より多くの土器片、自然石が出土した。土層観察軸を4本設定し、覆土中の遺物を投影してみたが、覆土の堆積状態は自然堆積を示し、上層(黒褐色土)と壁際の床上層(黄褐色土)に集中が見られる。中層である暗褐色土層はやや出土量が少ない。このことは住居址廃絶後の土層堆積において無遺物層の存在



29図 34号住居址遺物出土状況

が指摘できよう。しかし、住居址背後に控える泥流丘や周辺の土壌群からの流れ込みなどの関連は分析が困難であり、また整理段階での遺物投影方法にも問題点が残る。ここでは中層の無遺物層の存在を指摘しておきたい。また、床直～直上よりの出土破片も多いが、全て破片出土で完形個体の出土は見られなかった。覆土中より自然石を比較的多く出土したが集石土壌との重複なども考えられよう。土層観察では確認されなかったが周辺に同様な出土を呈す土壌が数基検出されている。石器は石鏃が3、打製石斧9、スクレイパー2などが出土している。

本住居址は完形土器や特徴的な遺物は出土していないが、遺構の遺存状態も良く、住居址の規模、上屋構造などを考えるうえでの好資料であろう。また、覆土中の遺物の有り方も今後調査方法を模索して、更により確かなデータを蓄積しなければならないだろう。



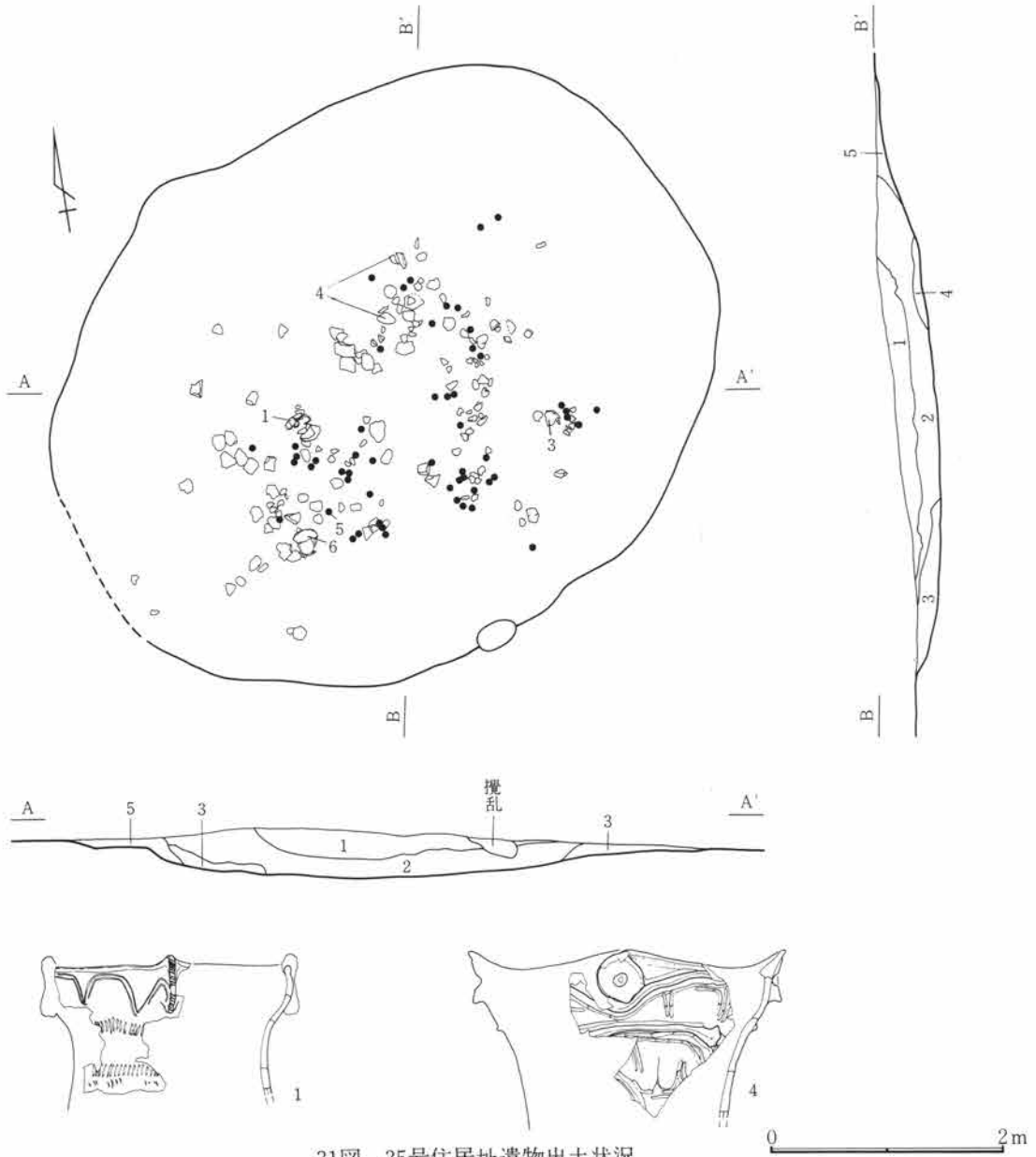
30図 35号住居址

35号住居址 (30・31図)；調査区中央の西寄りで検出した。56～58 C 27～30グリッドに位置し、24号住居址が西約1mに近接する。南へ3m程の距離をおいて土壇群が展開する。北東に長軸を持つ楕円形状を呈し、規模は径約585×470cm、壁高約50cmを測る。楕円形状を呈するが、北東側は緩やかな立ち上がりでテラスを持ち有段の壁となる。2段目の壁を本住居址の平面形とすれば480cmを測るやや不整の円形となる。床面は中央部にかけて緩やかに凹み中央部は比較的固くしめる。炉址は確認されなかった。

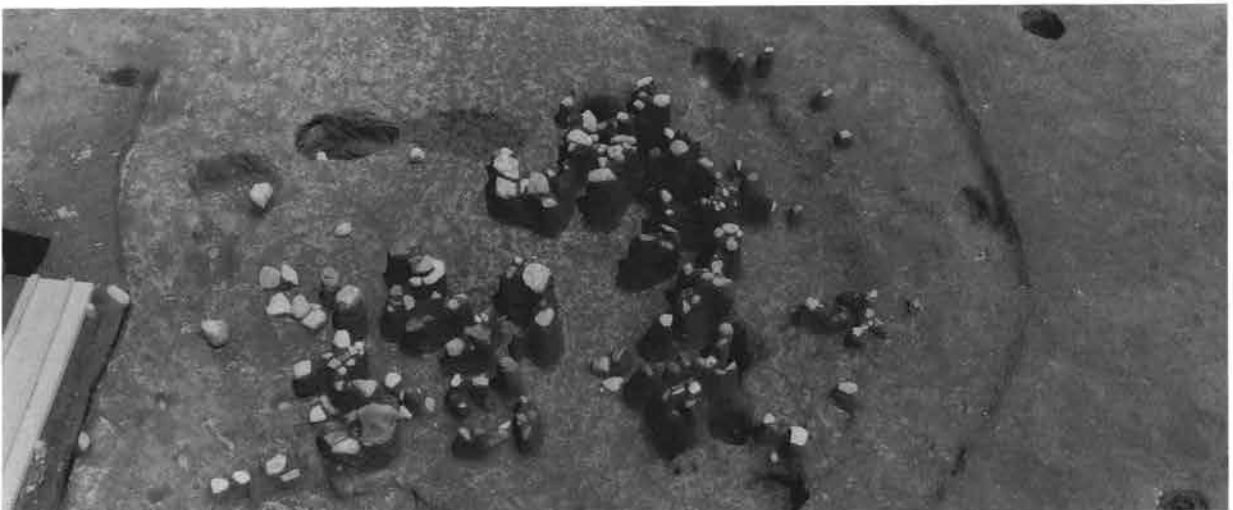
柱穴は多く主柱穴と考えられるP1～P4は規模、深さもしっかりしており良好な配置である。4基の主柱穴

を結ぶように周溝が設けられ、溝内には小ピットが付される。主柱穴壁際には小ピット (P5～P8) が相対するように開けられ、おそらく補助柱穴の役割であろう。また、本住居址も34住と同様に壁外柱穴が検出された (P9～P28)。平面図に掲載した全てを柱穴とは断定し難い。浅い掘り込みで規則性も認められない。なお、本址南西部の壁、壁外柱穴は調査事務所のため検出が不可能であった。反省材料である。

遺物は覆土中からの出土が多く、阿玉台式土器と在地系の土器などが個体図示し得た。石器は打製石斧が8、スクレイパー7、小型の丸石1などが出土した。



31図 35号住居址遺物出土状況



35号住居址遺物出土状況

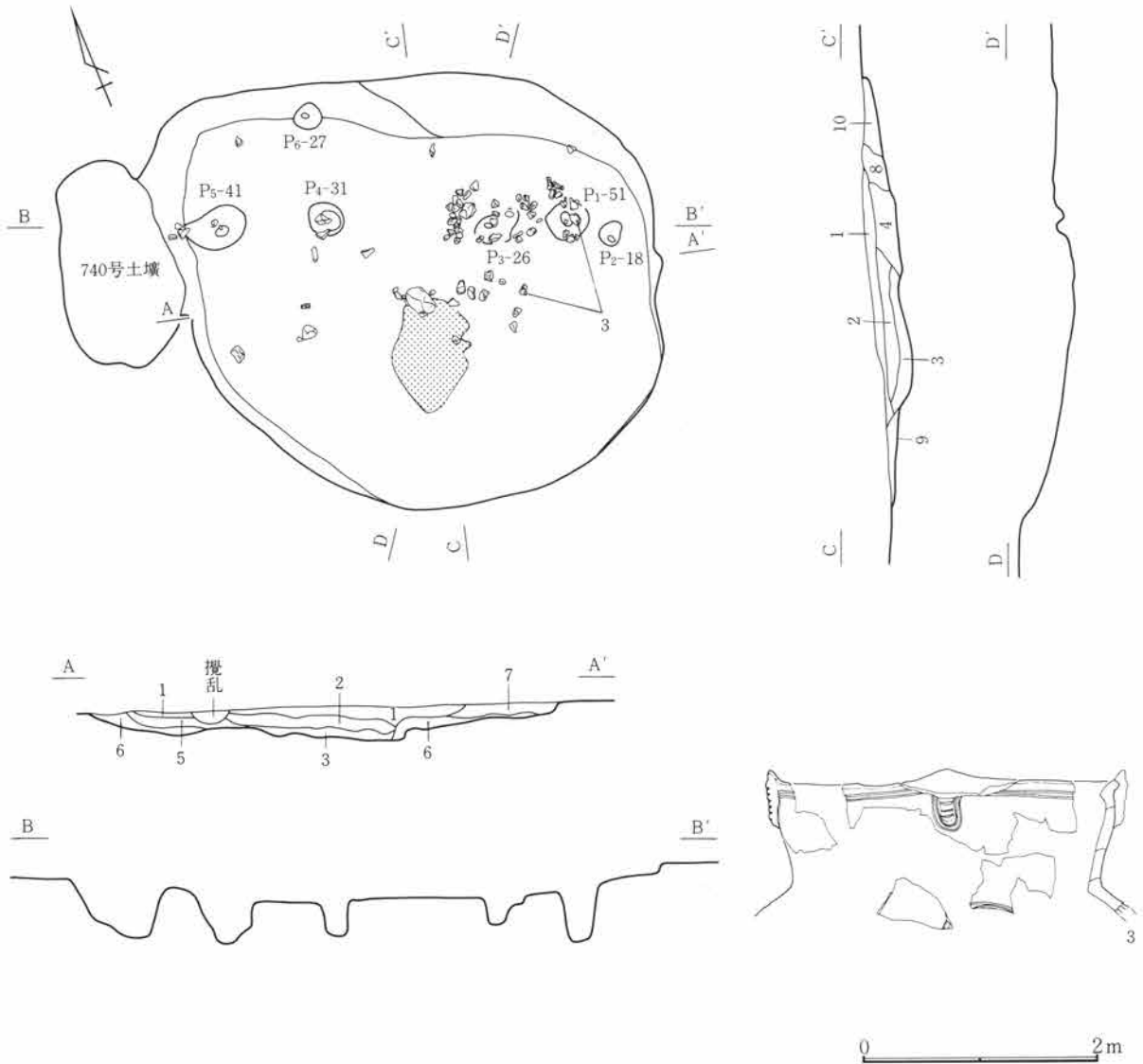
36号住居址 (32図)；調査区西側の平坦地で検出した。北側に天竜川の崖線があり台地縁辺といえよう。62～64C10・11グリッドに位置し、周辺には土壇群が群在し、本住居址中央にも758号土壇、北壁に740号土壇が重複する。758壇は住居址の炉址に切られており本住居に先行するものである。平面形は不整楕円形を呈し、規模は径約420×360cm、壁高約30cmを測る。

床面は中央部にかけて凹み、炉址を中心に固くしまっていた。炉址は前述の758壇を切るが、中央部や南寄りに検出された。掘り込みは持たないが比較的少量の焼土粒を確認した。柱穴は特定できない。P1、

P3～P6が列をなし比較的深さもしっかりしているが、対極する南側床面に相対するピットが検出されなかった。壁は全体に緩く立ち上がる。特に北壁が顕著である。

遺物は大型の深鉢口縁部が覆土中より出土した。石器は石鏃2、打製石斧1などを出土している。

本住居址は形状、壁高など貧弱な部類に入り、また分布も他の住居址とは異なる。北西側に新たな住居址群が占地する可能性も示している。また出土土器の特異さからも軽視できない住居址である。



32図 36号住居址

第2項 土 壌

本遺跡では894基の土壌を検出し多くの遺物が出土した。その分布は縄文時代中期前半の集落形態の一般にあるように、環状集落とその内側に占地する土壌群という構造が看取できよう。

赤城山西～西南麓域の該期の遺跡では、土器などの主体的遺物は住居址からの出土以外に、土壌からのものが多い(第II章)。しかし、栃木県槻木沢遺跡などに見られる袋状土壌からの多数型式土器の共伴といった編年研究などに多大な影響力を持つ出土状態は現状のところまだ未実見であり、土器は単独出土であったり、2～3個体の出土であったりする。このことは地域差と捉えることができよう。1～2個体の共伴関係でも、周辺遺跡との類例を蓄積することによって、量的な時間軸設定を試みることもできよう。今後の資料増加を待つこととしたい。

房谷戸遺跡における800基以上の土壌群のうち、当時の人間の行動と有機的な関連を持つ土壌群は約120基が予想され、その形態や遺物出土状態などバラエティーに富む。ここでは、それら土壌群を大まかに分類し、まず無機的な土壌を排除することを目的とし、残った有機的な土壌の用途、機能などを類推する基礎作業としたい。

土壌分類基準

A群 平面形が径1m前後の円形の土壌。

- 1類 壁は直立に近く、断面が方形を呈す。
 壙底は平坦なものが多い
- 2類 断面形が袋状を呈すもの。内傾する壁が特徴である。壙底は平坦なものと同凹むものがある。
- 3類 断面形が台形を呈すもの。1類との区別が難しいが緩やかな立ち上がりを呈す。
 壙底は平坦なものが多い。
- 4類 皿状の断面形を呈す。壙底より徐々に緩やかな立ち上がりを呈す。

B群 平面形が円形、不整形を呈し大型のもの。

C群 楕円状、不整形を呈するもの。

- 1類 楕円状を呈し、平面規模に比して浅い。
- 2類 不整形を呈し、浅い。壙底は凹凸が多い。

大型のものや小型のものがある。

D群 いわゆる陥し穴状の土壌

E群 小ピット

1類 掘り込みがしっかりしており深いもの。

2類 浅いもの。壙底がはっきりしないもの。

また、遺物の出土に対しても簡単ではあるが分けた。

a；完形、半完形土器を出土した土壌。

b；大型の石(石皿、大型の磨石、自然石など)を出土したもの。

c；小型の石が集中的に出土したもの。いわゆる集石土壌

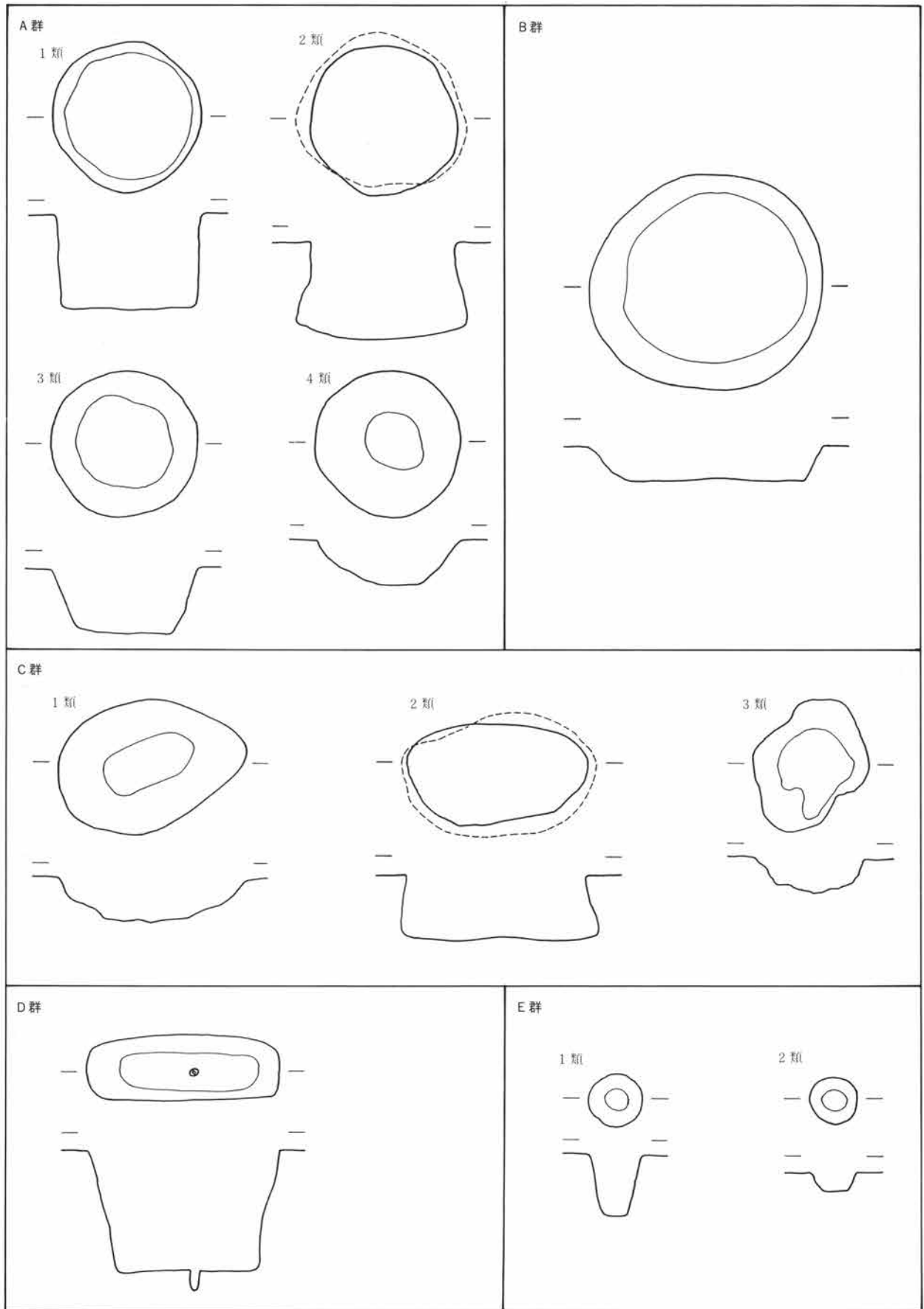
d；土器片、小型の石器の出土を見たもの。

e；無遺物の土壌

例えば、円形の袋状土壌で大型の自然石と完形土器が伴出した場合はA群2類a bという名称を与えることになる。文中では多くは使用しないが土壌観察表に掲載した。

調査において、完形土器を出土した土壌や、集石土壌など特徴的な土壌は $\frac{1}{10}$ の図面を作成した。本書でもこの図面を使用し、 $\frac{1}{10}$ 図として掲載した。他の土壌は $\frac{1}{40}$ 図である。 $\frac{1}{40}$ 図の土壌の中にも遺物を多く出土した土壌や大型の石を伴出したものがあり、均等性に欠ける。文中でその都度指摘を行っていきたい。また、小ピットに対しても土壌の名称を与えた。これは調査時における遺構確認の際、小型の土壌と小ピットの区別が難しく統一性に欠けたためである。

土壌の掲載順序は1、遺物を主体的に出土した土壌を最初に掲載し($\frac{1}{10}$)、以下2、少量の遺物出土、無遺物の土壌を $\frac{1}{40}$ で掲載した。前述にもあるとおり $\frac{1}{40}$ 図の土壌の中にも有機的な土壌があるため文中で指摘を行う。次に、3、大石を伴う土壌。4、陥し穴状土壌が続く。尚、文中ではグリッド位置、規模は特に明示しなかった。表を参照していただきたい。



33図 土壌分類模式図

1. 遺物を主体的に出土した土壌

4号土壌(34図)；1号住の南で検出した集石土壌である。やや不整形円形を呈し、壙底は若干の凹凸があるが平坦である。壁は緩く立ち上がる。集石は比較的大型の円礫を主体にしており、若干焼けた痕跡を持つ礫も出土している。石皿を出土した。

3・5号土壌(34図)；重複土壌であるが重複状態は判然とせず、新旧関係も不明である。楕円状の平面形を呈し、皿状の壙底面を持つ。壁は緩く立ち上がる。遺物は覆土中より破片で出土したが、接合関係が比較的良好で深鉢2個体、浅鉢1個体が個体図示できた。

8号土壌(35図)；南壁を僅かに11号土壌と重複する。平面形は楕円状を呈するが北側はほぼ円形を呈し、断面形も下半が袋状である。壁や上端などの崩壊が影響したのであろうか。壙底面は僅かな凹凸を持つが平坦である。小型の自然石が中央南より出土したが、集石土壌ほど密接ではなく覆土中位に敷かれるような形態で検出された。石敷の上層北側に大型の自然石が出土しており、意識的な設置とも受け取れる。土器は底面と口縁の一部を欠損する双波状口縁の浅鉢が石敷上面と土壌南上端より出土している。

10号土壌(35図)；1号住の南に位置し、6号土壌が南壁に近接する。深さ106cmを測る深い井戸状の土壌である。壙底面は凹凸があり、壁の立ち上がりは下位で変換する。変換の一部は東壁をオーバーハングしている。遺物は覆土中位より少量の土器片、下位より顔料の付着した半欠の石皿が出土した。

12号土壌(36図)；25号住居址北で検出した。平面形は小型でやや不整形円形を呈し、断面形は皿状を呈す。壁は緩やかに立ち上がる。遺物は、自然石2個の他、土圧で押し潰されたような状態で、半完形の無文深鉢が横位に出土した。非常に脆弱な土器で、覆土の粘性に堪えられず、復元できたのは胴部上半までである。

15・16号土壌(36図)；重複土壌である。新旧関係は15壙が16壙の東壁を切る。両土壌ともやや不整形円形を呈し、断面形は方形を呈すしっかりした掘り込みである。壙底面は僅かな凹凸を持つが平坦である。壁は直立する箇所が多いが、15壙の南北壁、16壙の北壁が若干オーバーハング気味である。遺物は、両土壌とも大

型の自然石を覆土下位より出土させ、共通するようである。その他、15土壌より片岩製の磨石、16土壌より浅鉢口縁部破片などが出土している。

17号土壌(37図)；15・16壙、18号土壌に挟まれた位置で検出した。平面形は円形を呈し、方形の断面形状である。壙底面は中央部にかけて盛り上がり壁は僅かに内傾気味に直立する。遺物は土壌外北に大型の浅鉢が出土したが本土壌に伴うものかは不明である。遺構外の扱いも考えられるが本土壌が最も近くに位置するため敢えて17号土壌に帰属を求めた。土壌内からは周縁を打ち欠いた状態の石皿が壙底より出土した。覆土上層からは大型の自然石を見る。

18号土壌(37図)；17号土壌と19号土壌に挟まれた位置で検出された。不整形円形を呈し、壙底面は凹凸を持つ。南北壁は外傾気味に、東西は直立気味に立ち上がる。北よりには1段深くなる箇所があるが性格は不明である。遺物は北西側に大型の自然石2個と無文の深鉢胴部下半が破片で出土した。また、壙底面の南東よりには小型の深鉢口縁部破片が出土した。土層は残念ながら観察できなかった。

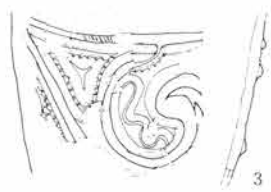
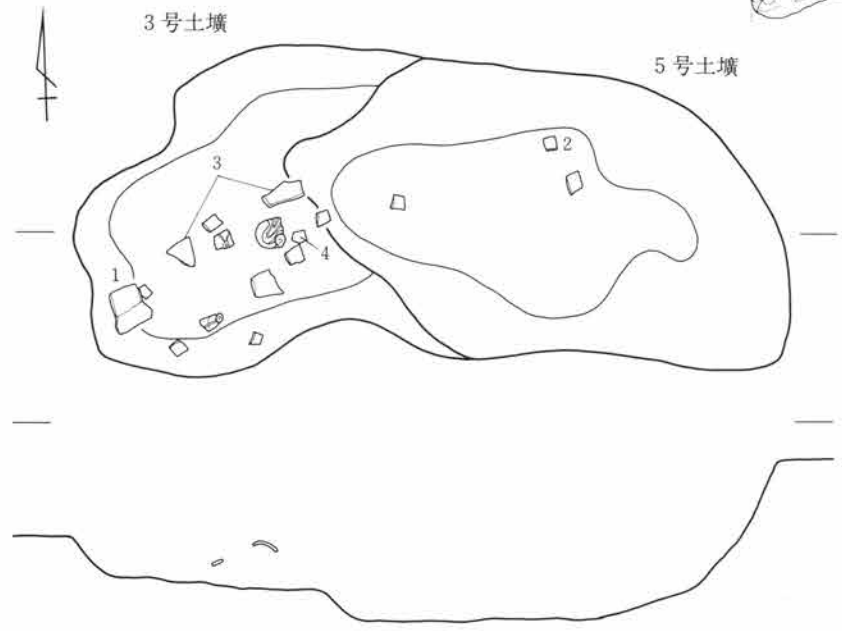
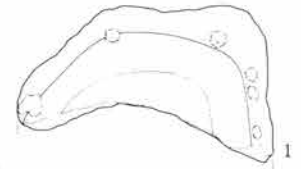
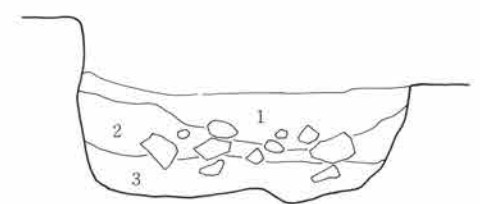
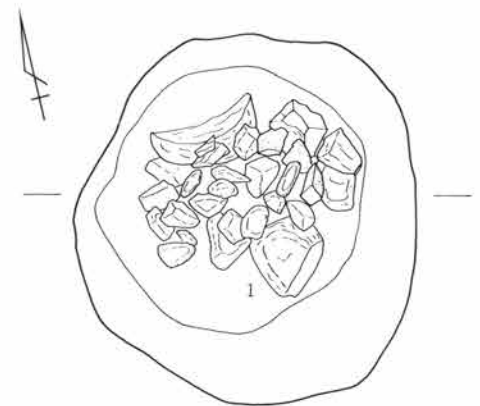
19号土壌(38図)；18号土壌の西に近接する位置で検出した。平面形は不整形円形を呈し、長軸を北東に持つ。断面形は袋状を呈し、壙底面は平坦である。壁は直立するが一部は内傾し、袋状土壌として性格づけられる。遺物は大型の自然石4個とともに多量の土器片が出土した。土器は浅鉢が主な器種だが、全て破片で完形のものはない。

15～19号土壌は一群をなし、北側に位置する1～11号土壌と対極するのではなかろうか。土壌分布から細かな検証が必要であろう。

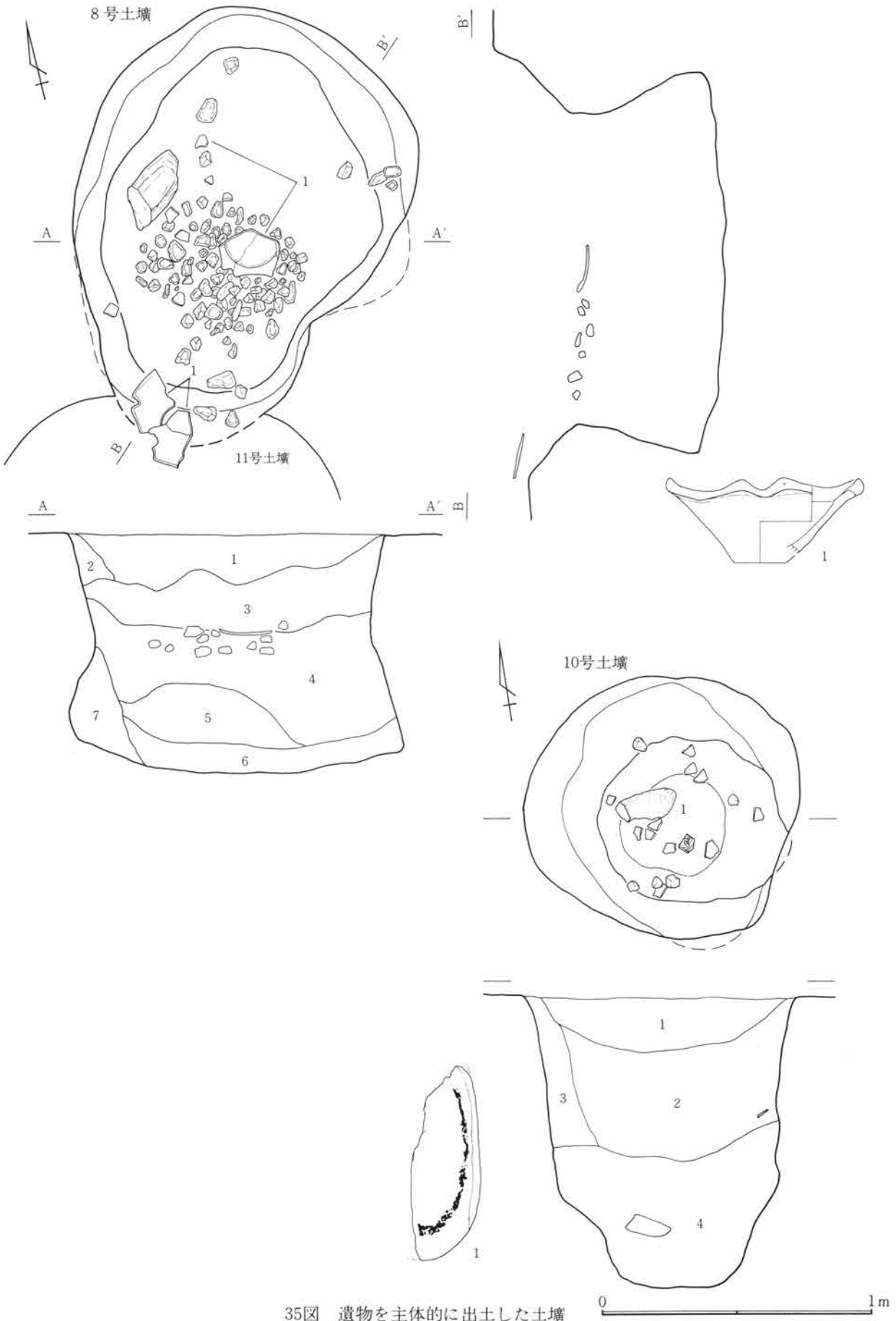


15・16号土壌

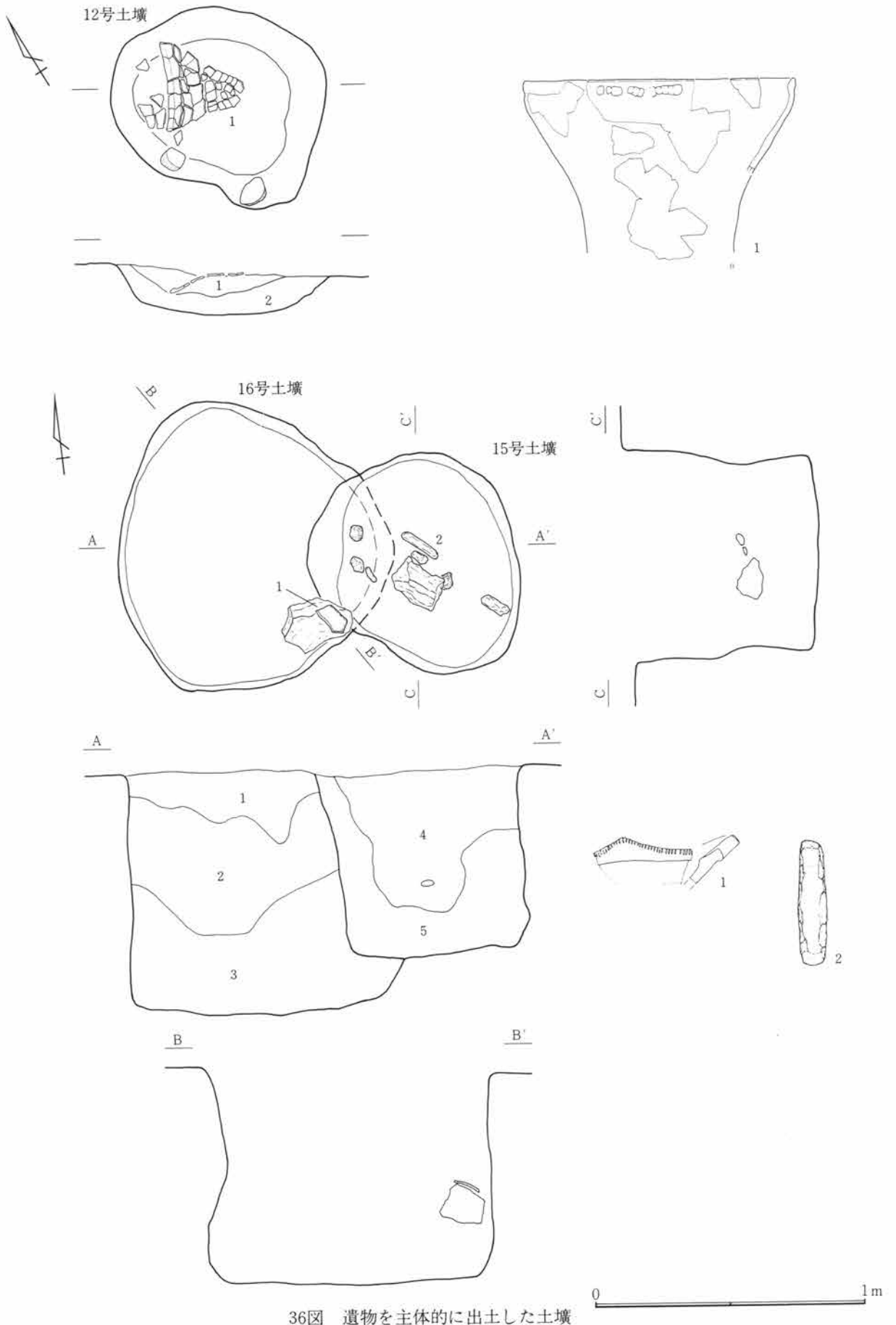
4号土壇



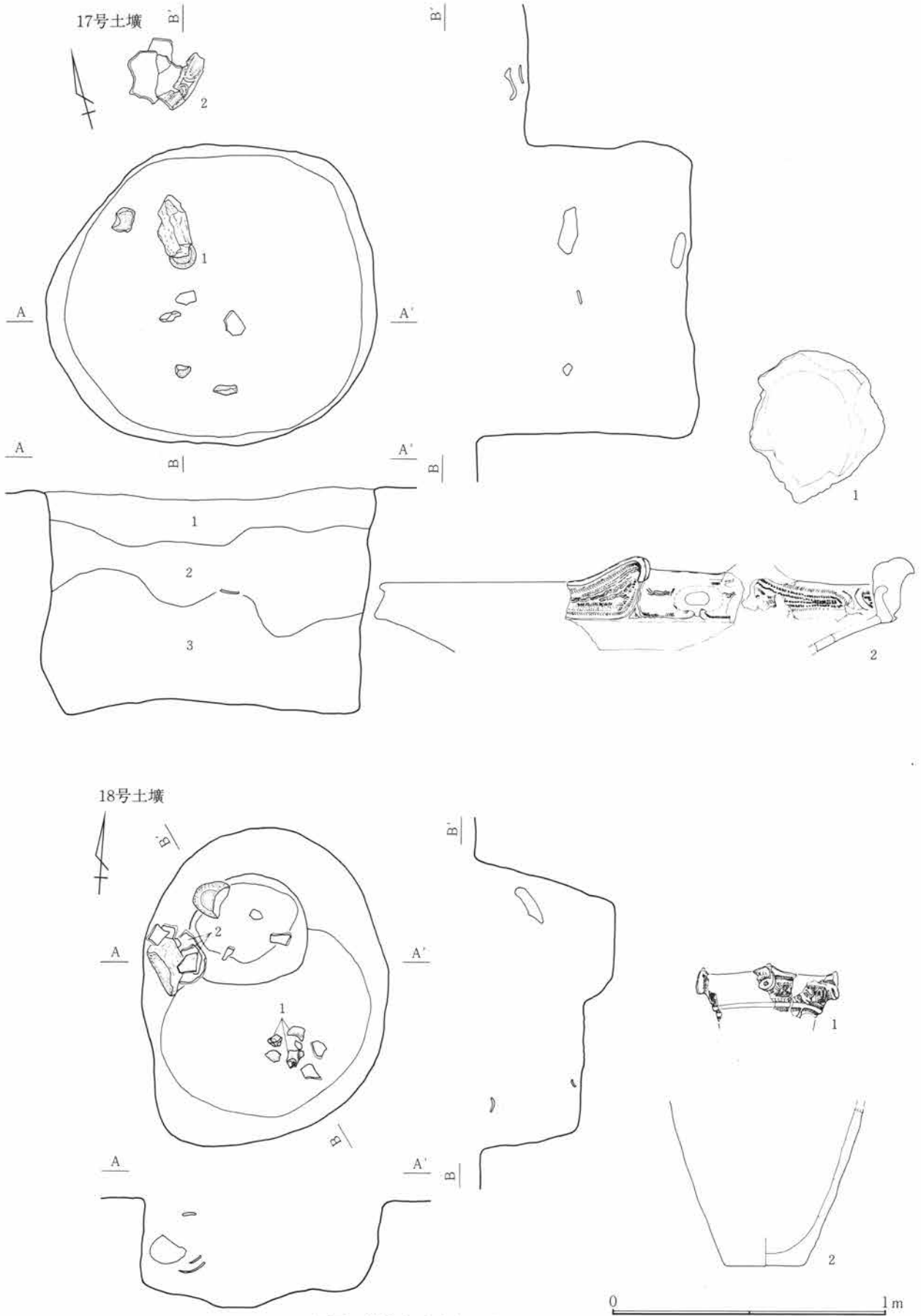
34図 遺物を主体的に出土した土壇



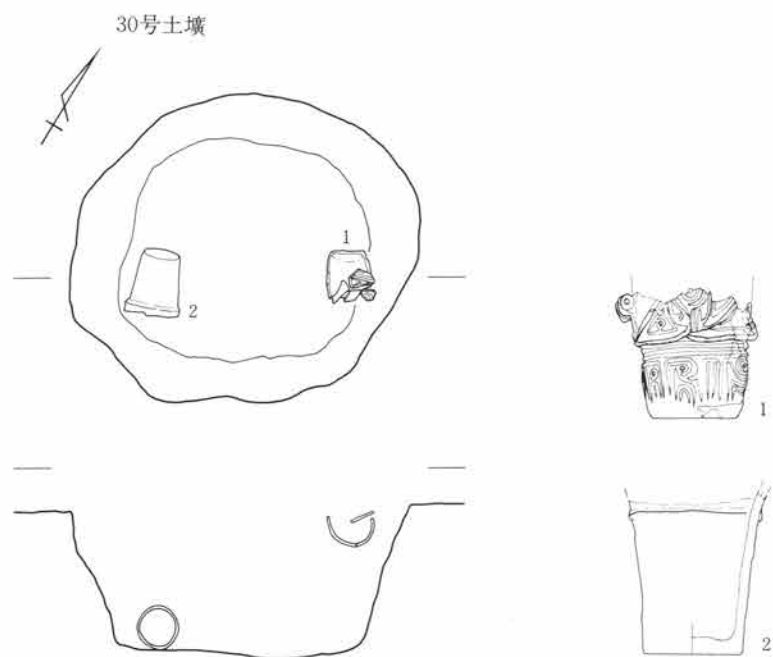
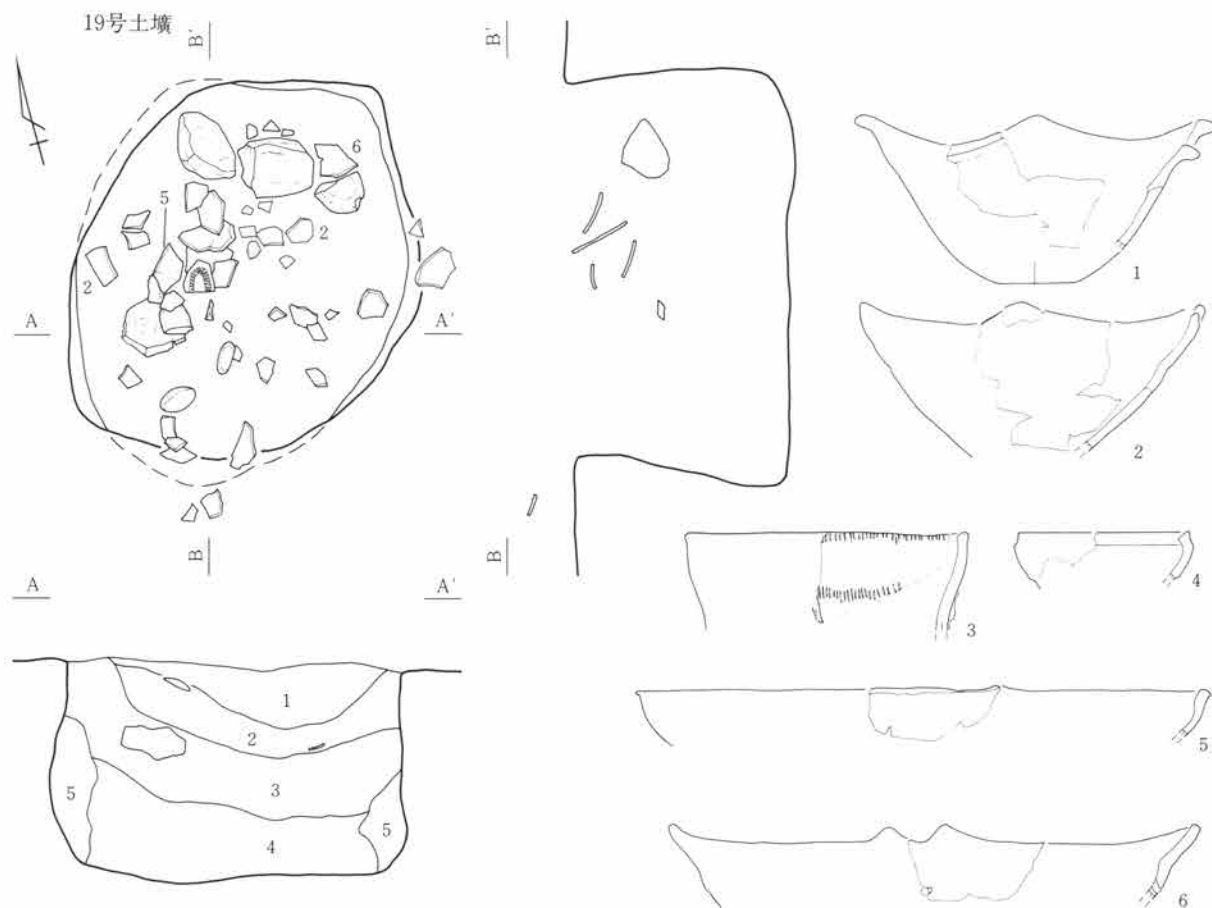
35図 遺物を主体的に出土した土壌



36図 遺物を主体的に出土した土坑



37図 遺物を主体的に出土した土壌



0 1m

38図 遺物を主体的に出土した土壌

30号土壙(38図)；中世の濠東側で検出した。周辺には29号土壙などが位置するが密接な分布ではない。平面形は小型でやや不整形円形を呈す。壙底面は平坦で、壁は外傾気味に立ち上がる。土層は暗褐色土を主体とした堆積状態を呈していたが、観察軸の設定を誤り図示にはいたらなかった。遺物は小型の深鉢胴部が2個体、南東と北西の壁よりにそれぞれ出土した。1は北陸系の施文であろうか、覆土上位より出土した。2は無文で横位に倒置された状態で出土した。

53号土壙(39図)；調査区中央東端で検出した。南には54～59号土壙が集中して位置する。平面形はやや楕円状に近い不整形円形を呈し、長軸を北西に持つ。断面形は皿状で浅い。壙底面は中央部にかけて凹む。壁は東壁は直立気味だが、他は緩やかな立ち上がりを呈し、特に南壁が顕著である。遺物は北東壁際に大型の自然石が4個集中して検出された。4個のうち中央の2個の上には半完形の突起を付す浅鉢が置かれていた。また、南壁よりにやはり大型の自然石がやや浮いた状態で出土したがこれも設置されたものであろうか。

77号土壙(39図)；調査区中央やや東よりに検出された。周辺には75、76、78～80号土壙が分布する。平面形は大型の円形を呈し、掘り込みも比較的深い。壙底面は北と東に傾斜し、やや凹凸を持つ。壁は緩やかに立ち上がる。遺物は土壙中央に大型の自然石が置かれ、北よりの壙底面からは突起を欠損するがほぼ完形の小型深鉢がやや斜めであるが横位で出土した。

88号土壙(40図)；調査区やや南東よりの調査区境の壁よりで検出された。西側に89号土壙が位置する。平面形は不整形を呈すが、下端、中端のプランは円形である。断面形は上位が屈曲し開き、下位は北～東壁が内傾し、他は外傾する。壙底面はほぼ平坦面を築く。北東壁に小ピットがあるがおそらく重複であり本土壙に伴うものではなさそうである。遺物は壙底面中央に大型の自然石とその直下に石皿が置かれ、北東よりに口縁部を欠く小型の深鉢が横位で出土した。

91号土壙(40図)；調査区東南で検出した。88号土壙が北東約5m、後述する94号土壙が南西約1.5mに位置する。平面形は長楕円形を呈し長軸を北東に持つ。やや深めの皿状の断面形である。壙底面は南西に向って傾斜し、北壁はそのままなだらかに立ち上がる。対して南側の壁は急激な立ち上がりである。東壁、南壙底面にそれぞれ小ピットが開けられるが、これも88壙同様重複ピットであろう。遺物は北よりに大型の石皿と逆位の浅鉢が出土した。浅鉢は口縁部を欠損する。

94号土壙(41図)；調査区東南の91号土壙南西で検出した。西約2mに95号土壙が位置する。平面形は方形に近い不整形を呈し、断面形も皿状を呈し浅い。壙底面は平坦で、小ピットなどで僅かな凹凸が見られ、壁は緩やかに立ち上がる。小ピットは本土壙壙底面の調査途中で検出されたが、木根などの可能性も高く、土壙に伴うものではない。遺物は壙底面直上の北東よりに胴部下半を欠き、半欠の深鉢が押し潰された状態で検出された。北よりにはやや浮いた状態で小型の自然石が出土した。

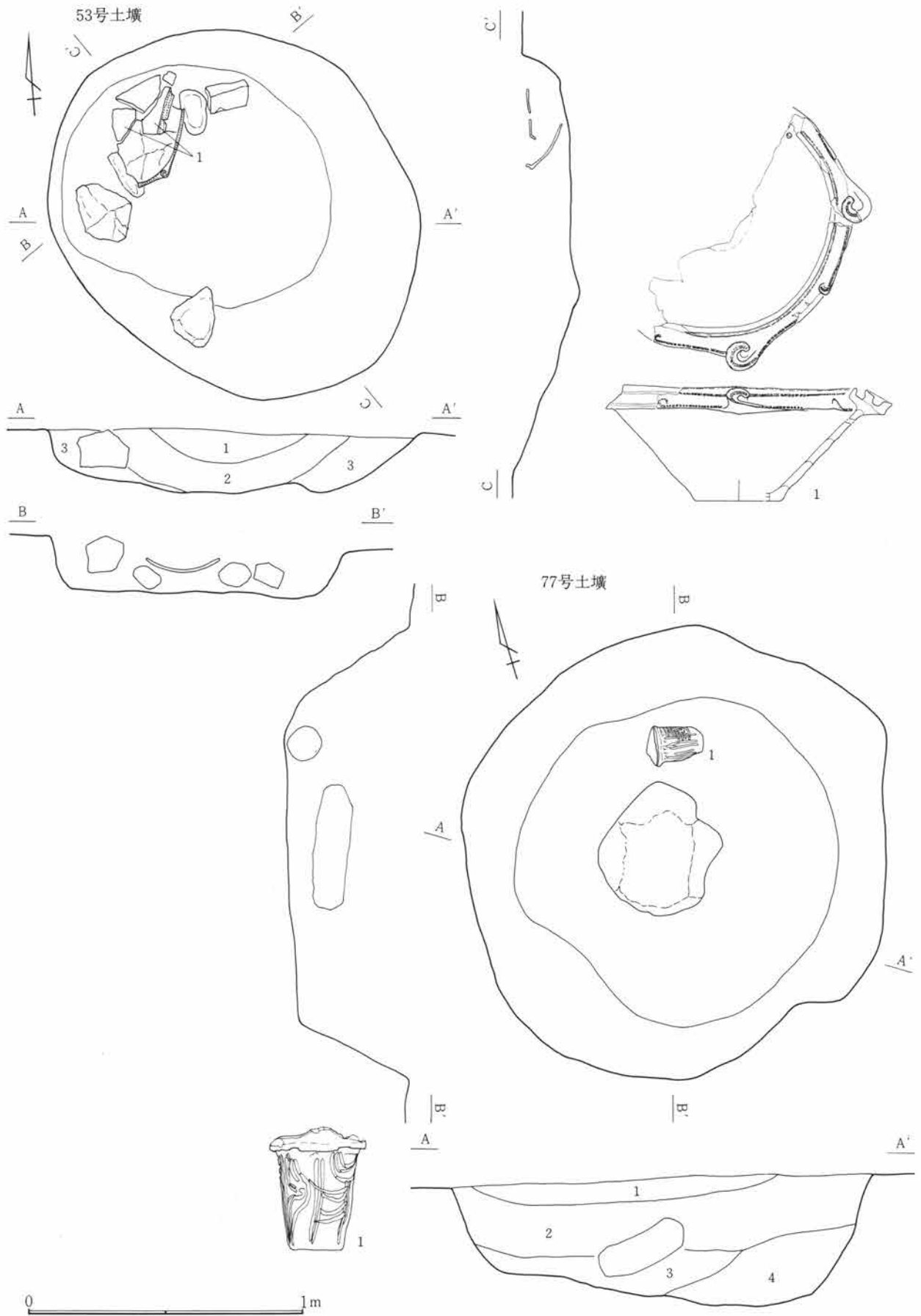


77号土壙



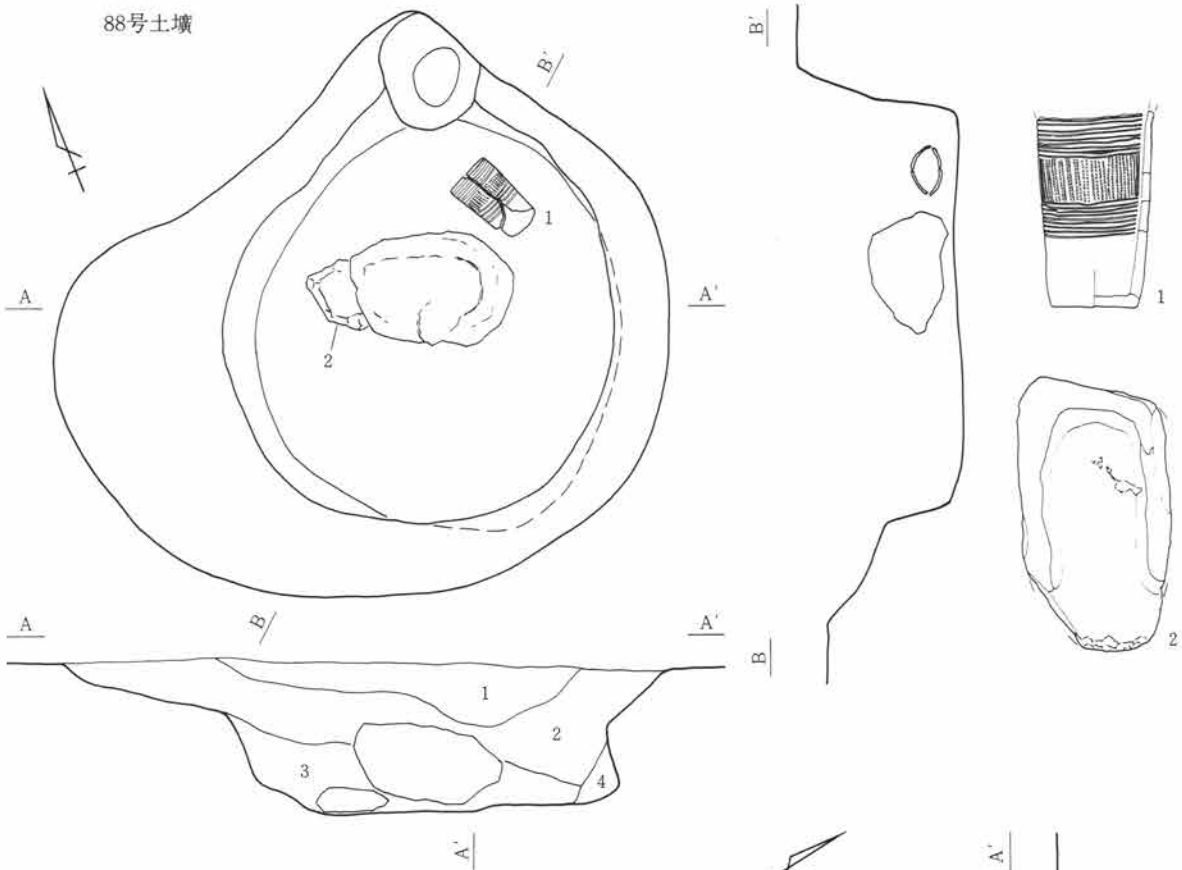
91号土壙

第IV章 遺構と遺物

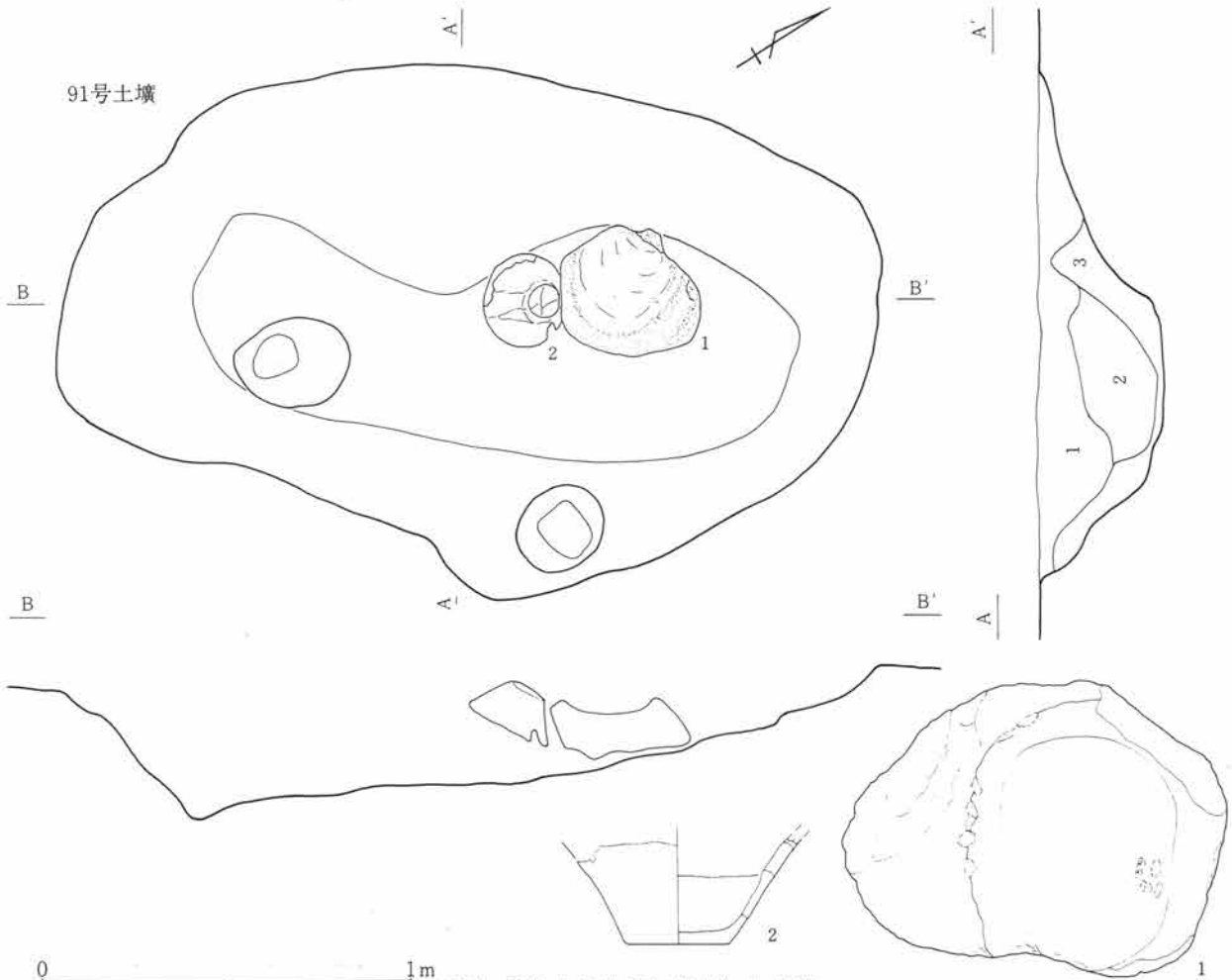


39図 遺物を主体的に出土した土坑

88号土壇

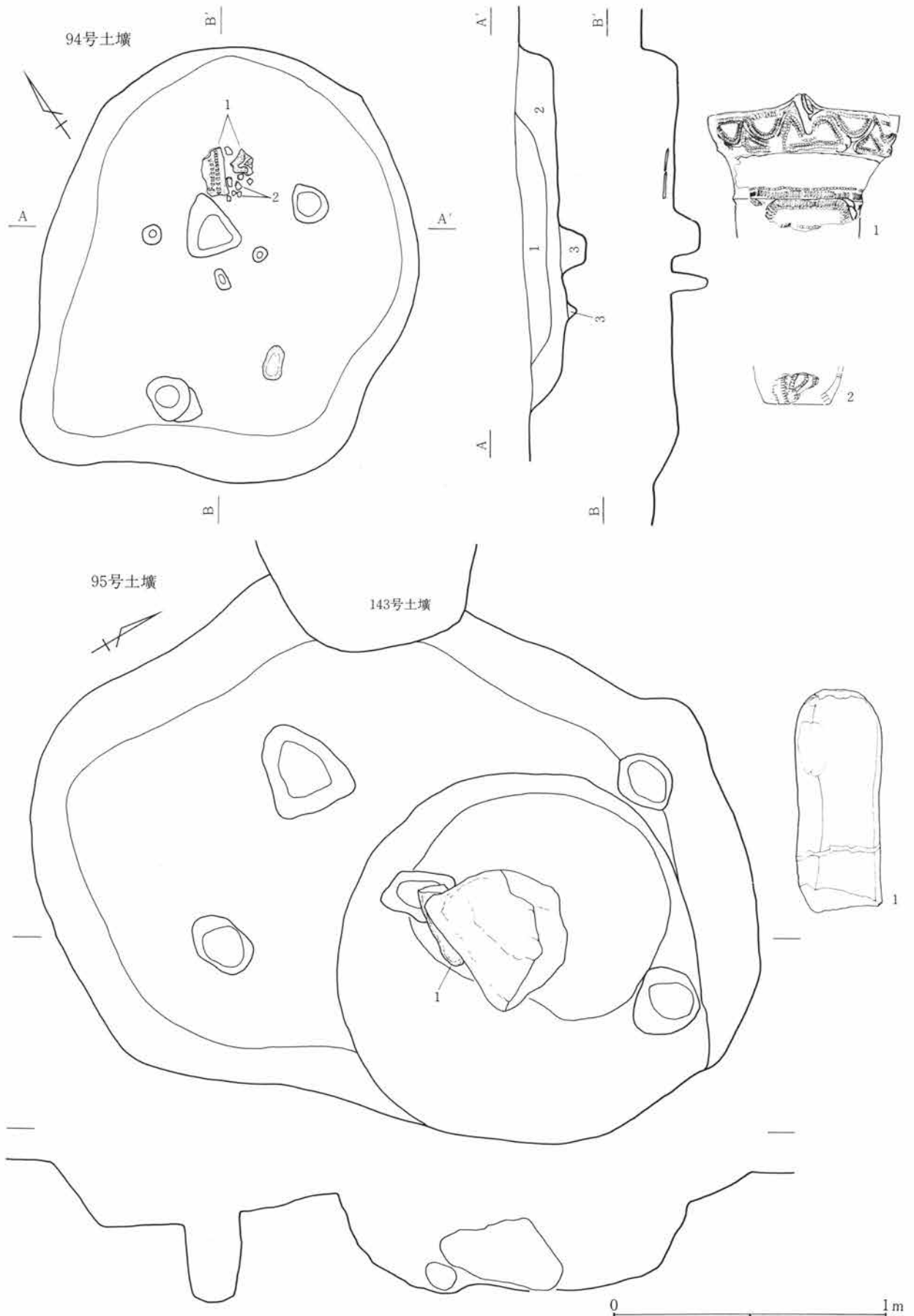


91号土壇



0 1m

40図 遺物を主体的に出土した土壇



41図 遺物を主体的に出土した土壌

95号土壙(41図)；調査区東南の土壙群内で検出した。143号土壙と重複し、本土壙も大型の土壙と小型のものの重複土壙であろう。土層による新旧関係などは判然としないがプランと断面形状から類推した。大型のものをa、小型のものをbと名称する。aは東西に長軸を持つ楕円状の平面プランを呈し、比較的等間隔に小ピットを付す。ピットを柱穴と考えれば上屋を持つ土壙として捉えることができるが、不明な部分も多く断定はし難い。壙底面はやや中央にかけて盛り上がる。壁はなだらかな立ち上がりである。bはほぼ円形のプランを呈し、壙底面は中央にかけて緩やかに凹む。壁の立ち上がりも緩やかであるが掘り込みはしっかりしており、aとは別種の土壙と考えられよう。遺物は大型の自然石が壙底中央に置かれ、直下より石棒の上半が出土している。

110号土壙(42図)；調査区東南の大型の風倒木址南端で検出された。風倒木址の黒色土の為、プラン、断面形など調査に困難が伴った。平面形は円形を呈し、皿状の断面形を見る。壁は緩やかに立ち上がるが、北壁は判然としなかった。土層は黒色土を主体とするが土層軸から本土壙がはずれてしまったため図示し得なかった。遺物は壙底面より大型の深鉢が破片で出土したが、粘性の強い黒色土の影響で小破片と化していた。

124号土壙(42図)；調査区南東で検出された。円形を呈し、掘り込みのしっかりした深い土壙である。上位に段を持ち、段より急激に落ちる。壙底面は平坦であ

る。遺物は覆土上層の南東壁よりに自然石と小型の深鉢2個体が出土した。阿玉台式系の土器は口縁部と底部を欠損し、無文の深鉢は自然石の下位より半欠の状態出土した。2は覆土出土の破片と接合し、底面を欠損するが完形に近く復元できた。

125号土壙(43図)；124号土壙南約1.5mの位置で検出した。平面形は不整円形を呈し、凡そ東西に長軸を持つ。掘り込みのしっかりした土壙で、東壁中位に段を持つ。壙底面はやや傾きを持ちながら平坦面を築く。壁は東～南壁が直立し、他は緩やかな立ち上りを呈す。遺物は覆土中位から下半にかけて勝坂系の突起を付す深鉢と大型の角礫が出土した。深鉢は口縁部文様帯の耳状突起を欠損しているがほぼ完形である。

126号土壙(43図)；25号住居址北東約1mの位置で検出した。南東約3mに128・129号土壙が位置する。平面形は円形で、掘り込みのしっかりした断面が方形を呈す深い土壙である。遺物は小型の深鉢口縁部、胴部破片と、浅鉢口縁部破片などが覆土下位より出土している。また、中型の自然石も同レベルで見ることができる。

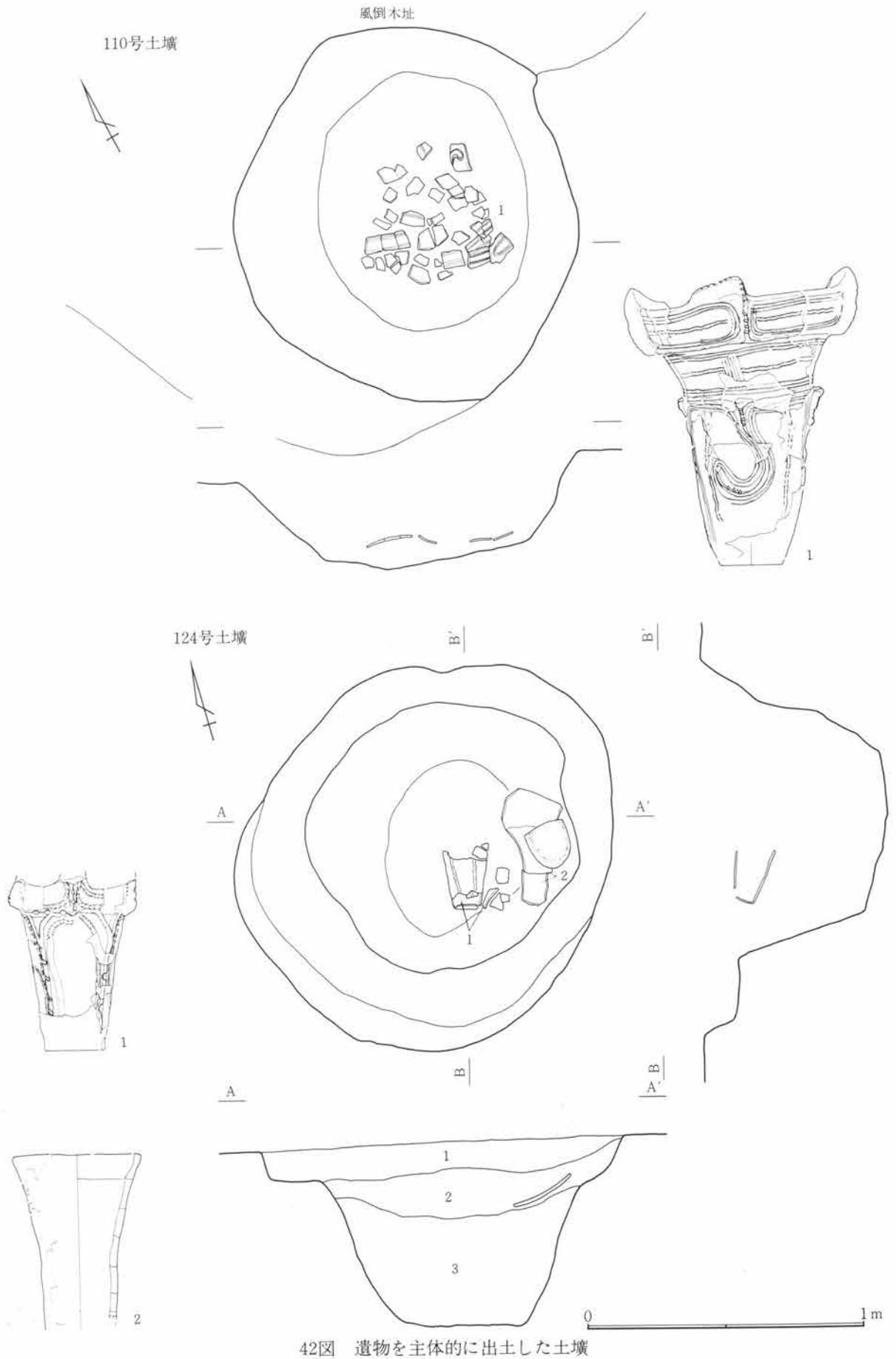
128・129号土壙(44図)；重複土壙である。新旧関係は128壙が129壙を切る。25号住居址の東壁に接し検出された。両者ともやや不整円形を呈し掘り込みのしっかりした土壙である。壙底面は平坦で、壁は外傾する。遺物は129壙の大型の自然石3個が特徴的である。覆土上層から下層にかけて出土した。

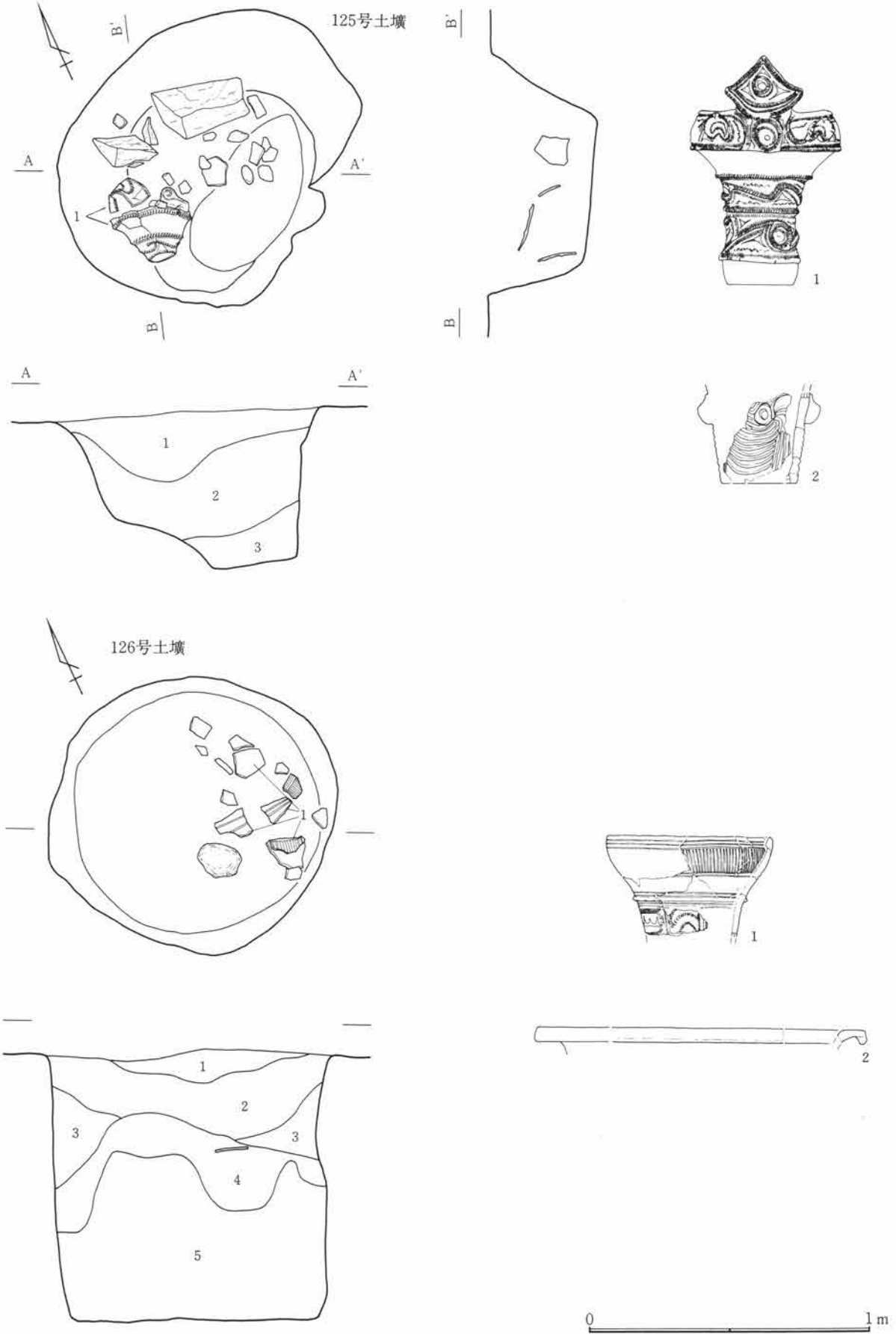


124号土壙

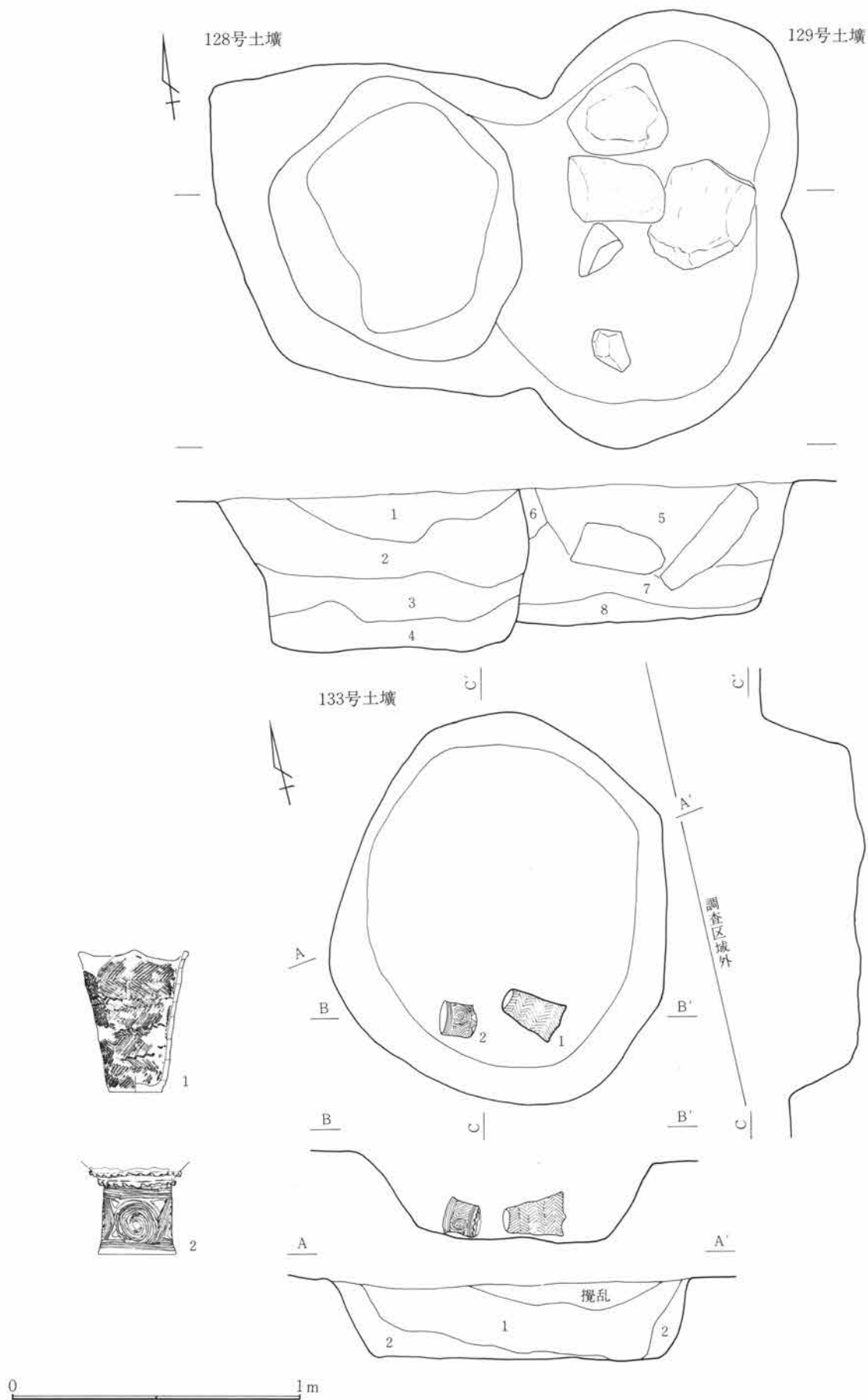


125号土壙





43図 遺物を主体的に出土した土壇



44図 遺物を主体的に出土した土壌

133号土壙(44図)；調査区東南端の調査区境で検出した。他の土壙群と若干距離を持ち単独の様相が強い。平面形は南北に僅かな長軸を持つ円形で、比較的浅い。壙底面は凹凸を持ちながらも平坦面を築き壁は外傾気味に立ち上がる。遺物は前期終末の小型の深鉢2個体が壙底面南壁よりに横位で出土した。2は口縁部を欠損する。

135号土壙(45図)；25号住居址内北壁に重複して検出された。小型の土壙で、不整形を呈すが掘り込みはしっかりしている。断面形は方形に近い。壙底面は平坦で、壁は内彎気味に立ち上がる。遺物は大型の自然石と小型の深鉢が2個体出土した。1は口縁部を欠損し、2は胴部下半～底部のみの残存である。

137号土壙(45図)；25号住居址南西約2mで検出された。他の土壙とやや距離を置く。不整円形を呈し、東壁以外は段を持つ。段によって上方は開くが下位は直立する。壁崩壊を考えると断面形は方形を呈していたのであろう。壙底面は僅かな凹凸があるが平坦面を築く。遺物は覆土上層～中層にかけて深鉢が破片ではあるが比較的まとまって出土した。口縁部の大半を欠損するが胴部は全周する。

142号土壙(46図)；調査区南東で検出した。143号土壙と重複し、143壙を挟んで95号土壙と隣接する。143壙との重複関係は不明である。平面形は北東に長軸を持つ楕円状を呈し、断面形は方形に近い。壙底面は平坦で、壁はやや外傾気味に立ち上がる。遺物は大型の自然石、深鉢と浅鉢を各1個体ずつ壙底面の北東よりに見ることができる。深鉢は在地系のものである。

151号土壙(46図)；調査区南西の28号住居址北約2mで検出された。西壁に152号土壙が接する。本土壙を中心にして一群の土壙群を看取できる。平面形は円形を呈し、壙底面は北東から南西にかけて傾斜する。壁はやや内彎気味に立ち上がり断面形は方形に近い。遺物は大木系の深鉢が覆土下位よりまとまって出土した。口縁部を欠く。壙底面には角礫を置く。

152号土壙(47図)；前述の151号土壙と接して検出された。やや不整円形を呈し、しっかりした掘り込みで深い土壙である。壙底面は僅かに東に傾斜し、壁は外傾気味に直立する。遺物は口縁部文様帯を持つ浅鉢が

覆土下位で東よりにまとまって出土した。対する西側には自然石が壙底面に置かれた状態で5個並ぶ。

154号土壙(47図)；152号土壙西約2mに検出された。楕円状を呈するが主体となるプランは円形である。西側に重複するかのように浅い平坦なテラスを持つが土層断面観察で見ると切り合い関係はない。壁は西から南にかけて袋状を呈するが、他は外傾気味に立ち上がる不定形な断面形態を呈する。壙底面は平坦である。遺物は覆土中位より小型深鉢の口縁部が出土している。

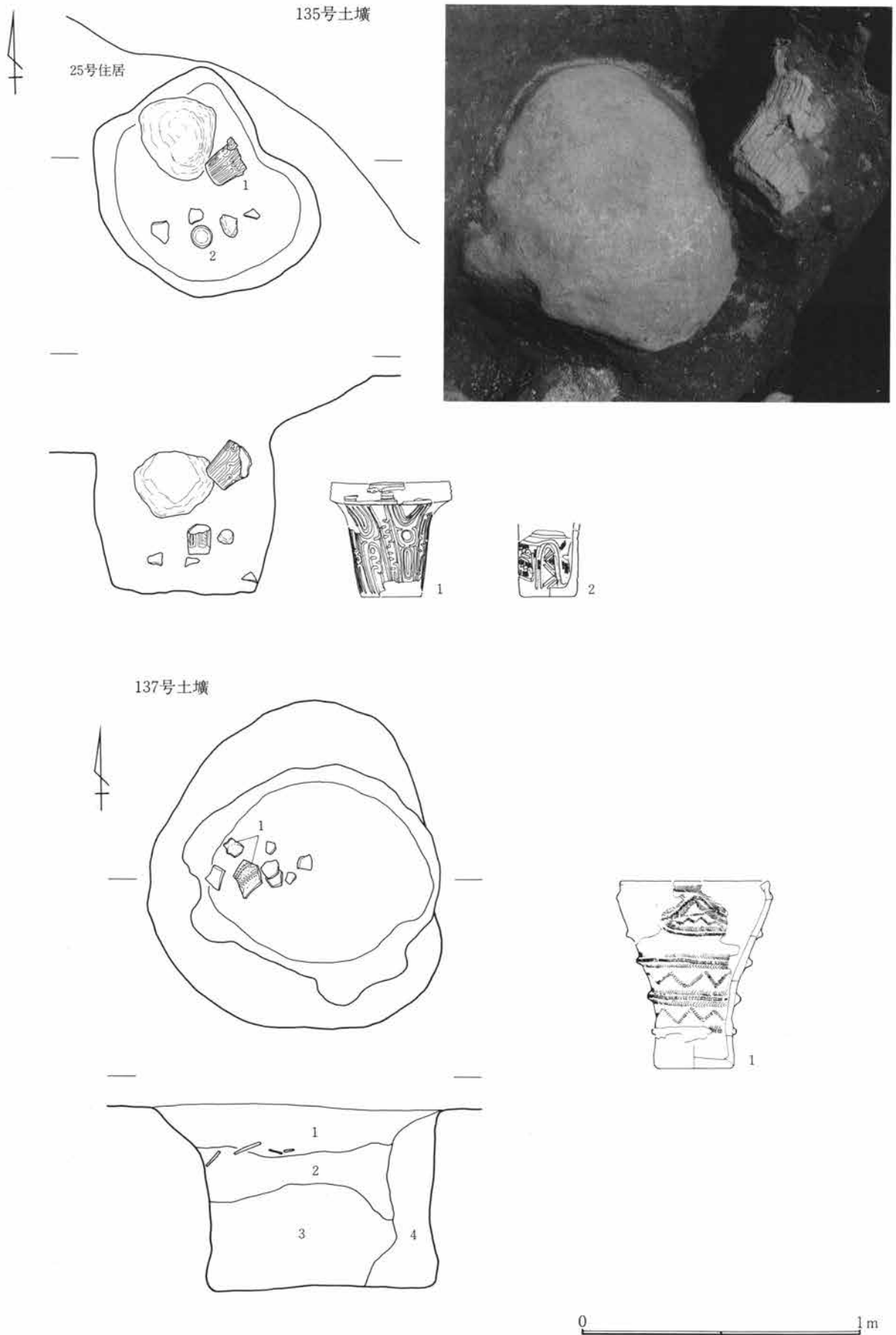
157号土壙(48図)；29号住居址南西約6mで検出した。151号土壙を中心とする土壙群の東方である。浅い158号土壙と重複し新旧関係は本土壙が新しい。中央を東西に現代の耕作溝に攪乱されるが溝は浅いため平面形などに対しても大きな影響はなかった。やや不整円形を呈し、壙底面は平坦で壁は外傾する。掘り込みはしっかりしている。遺物は東壁際の覆土上層より半欠した深鉢が出土している。

184号土壙(48図)；調査区南西のややまばらな土壙群の中で検出した。185、183号土壙が西に位置する。平面形は円形を呈し、壙底面は中央部にかけて凹む。壁は緩やかに外傾し、断面形は深い皿状を呈す。遺物は少なく、角礫と小型の深鉢胴部下半が壁に貼りつくようにして出土した。

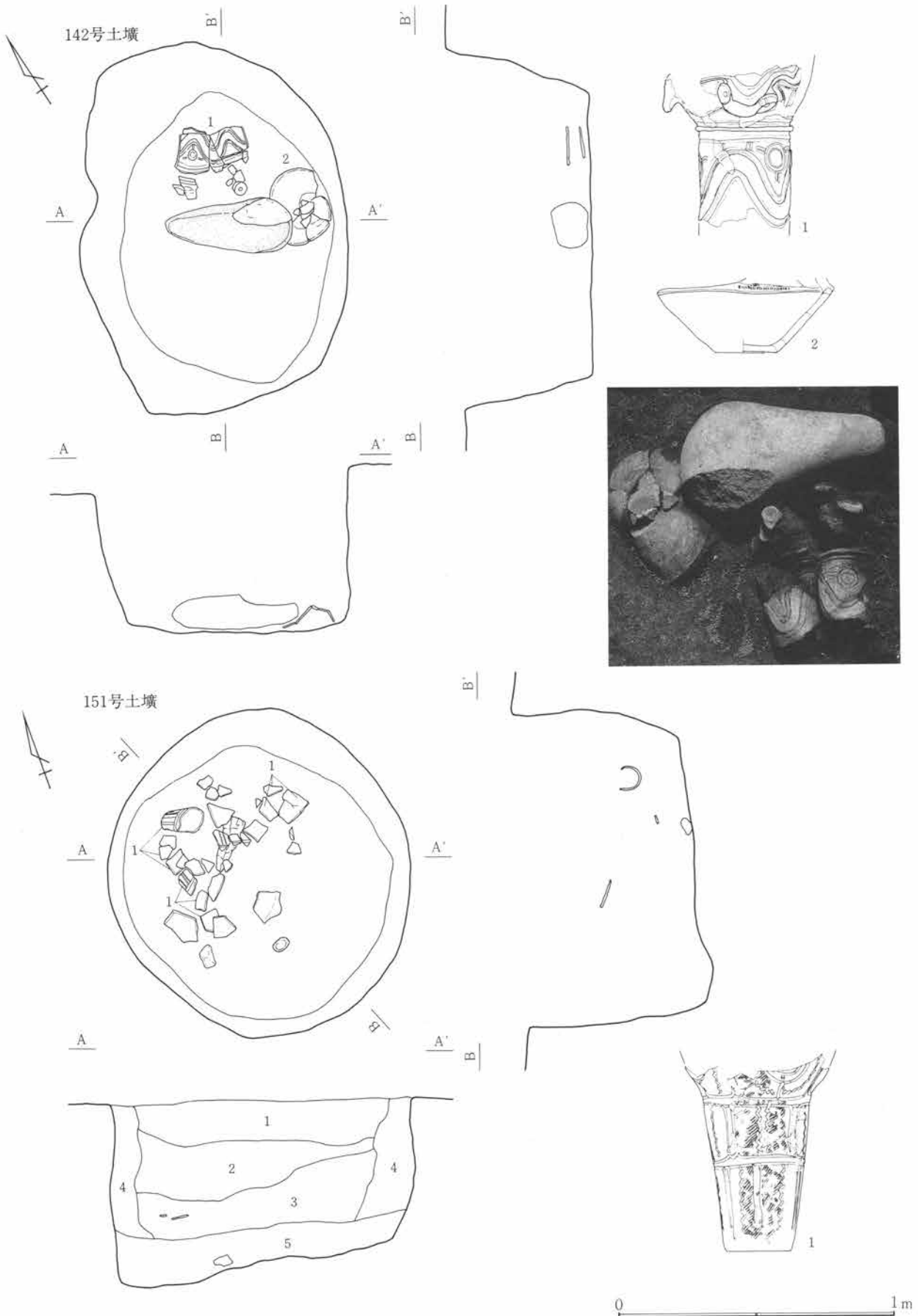
198号土壙(49図)；29号住居址南約2mで検出した。周辺の土壙群と距離を置いた位置にある。平面形は楕円状を呈し、南北に長軸を持つ。壙底面は平坦で、北壁は直立するが他は外傾気味である。遺物は覆土中位より下位にかけて中央部で大型の深鉢がまとまって、南壁に寄りかかるようにして小型の深鉢胴部下半が出土した。



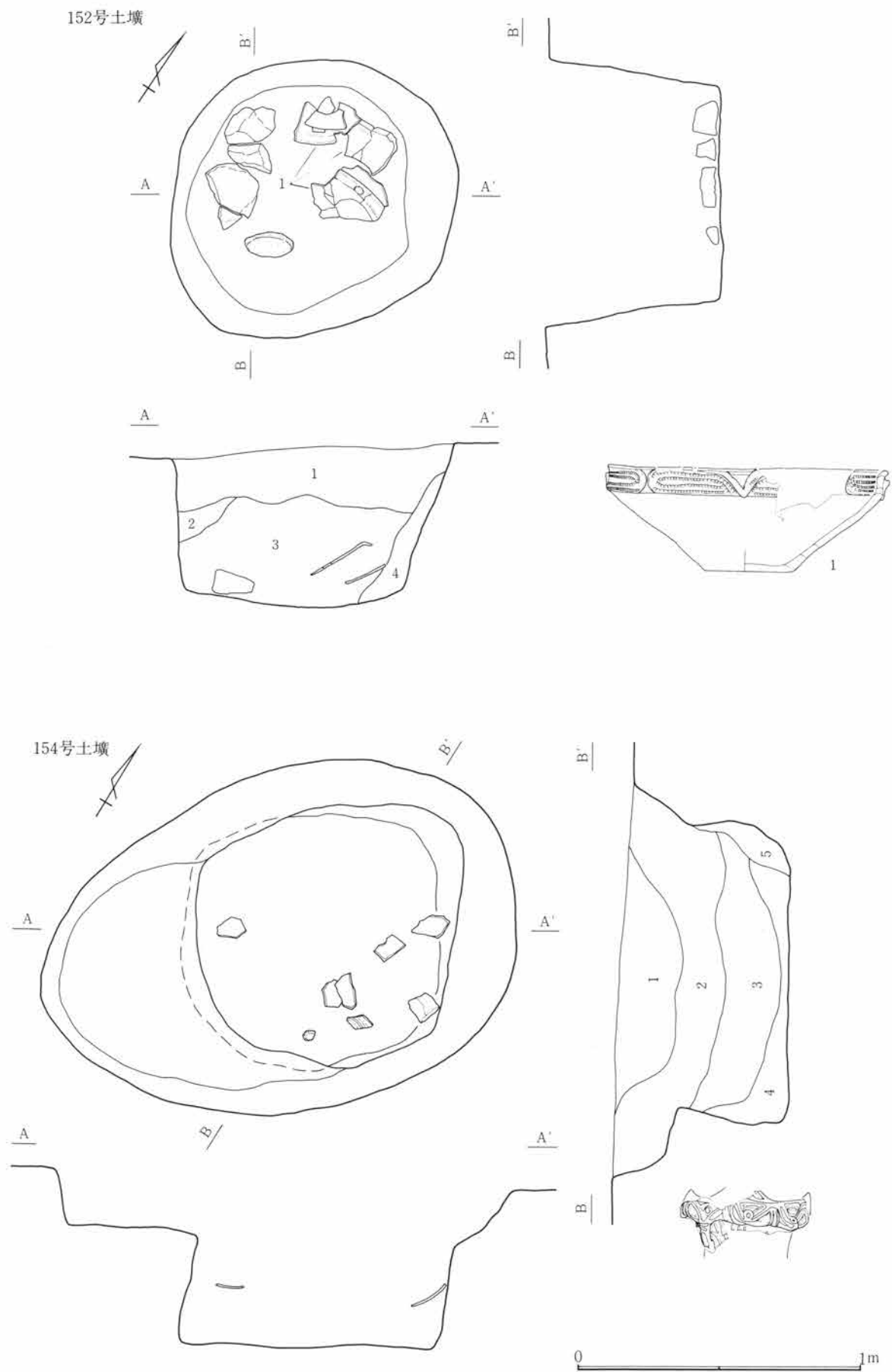
198号土壙



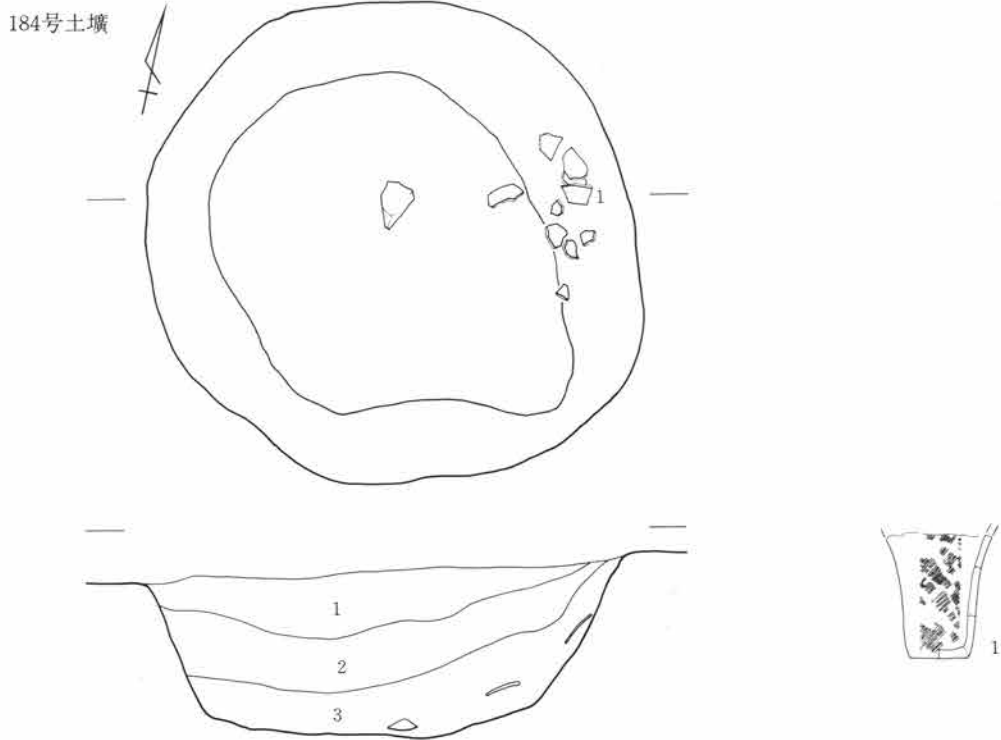
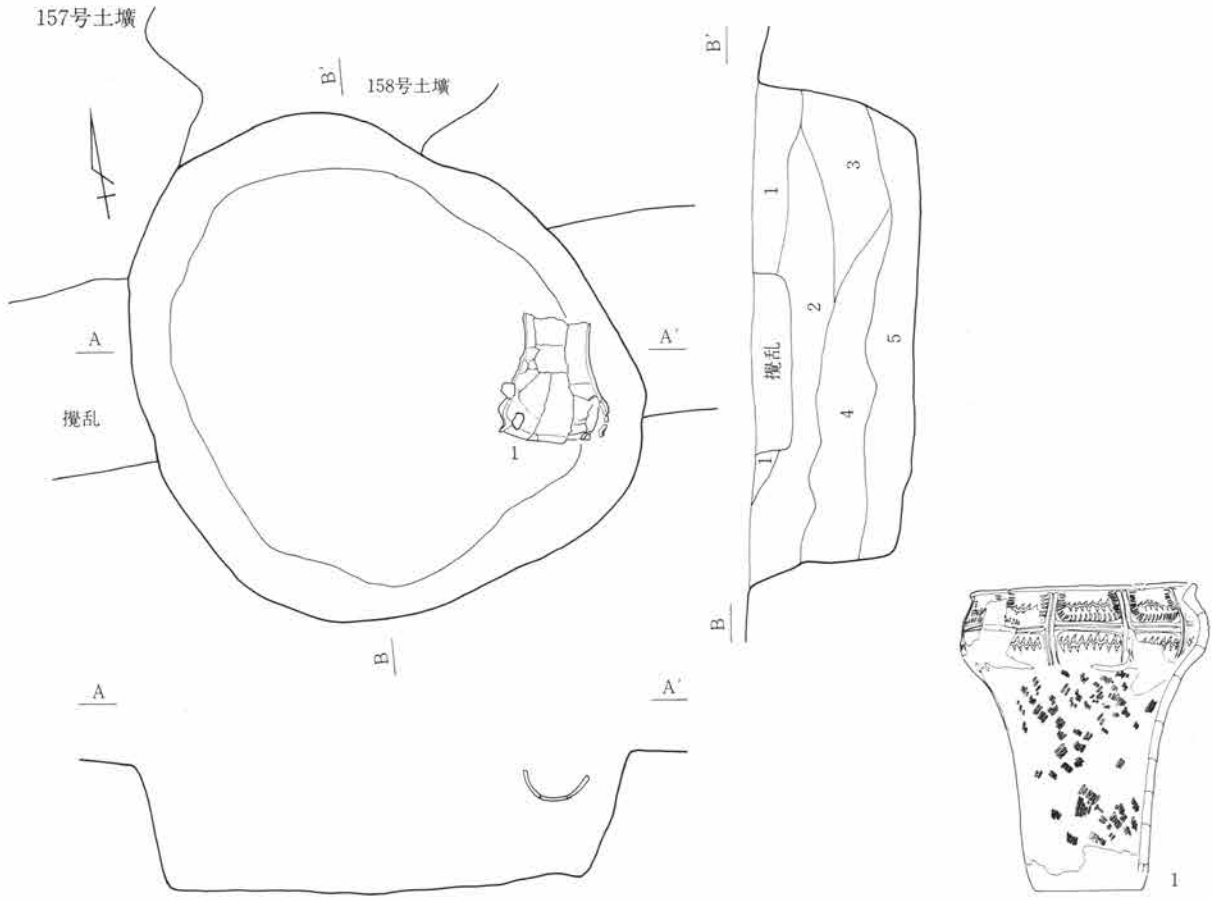
45図 遺物を主体的に出土した土壌



46図 遺物を主体的に出土した土坑



47図 遺物を主体的に出土した土壌

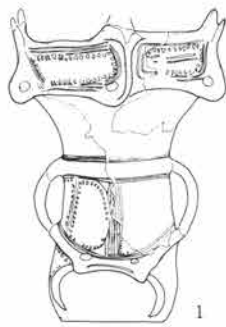
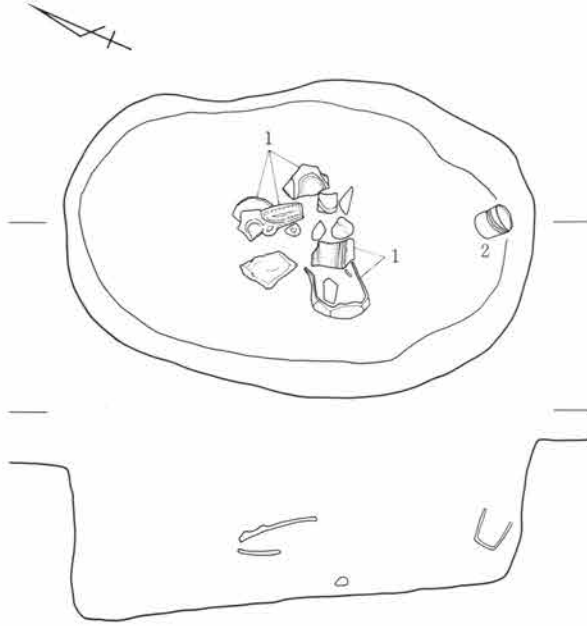


0 1m

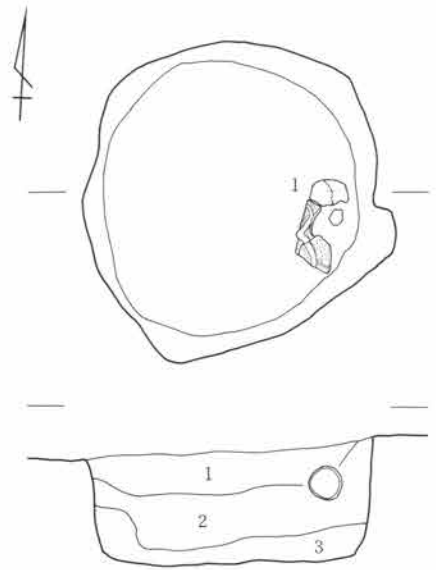
48図 遺物を主体的に出土した土坑

第IV章 遺構と遺物

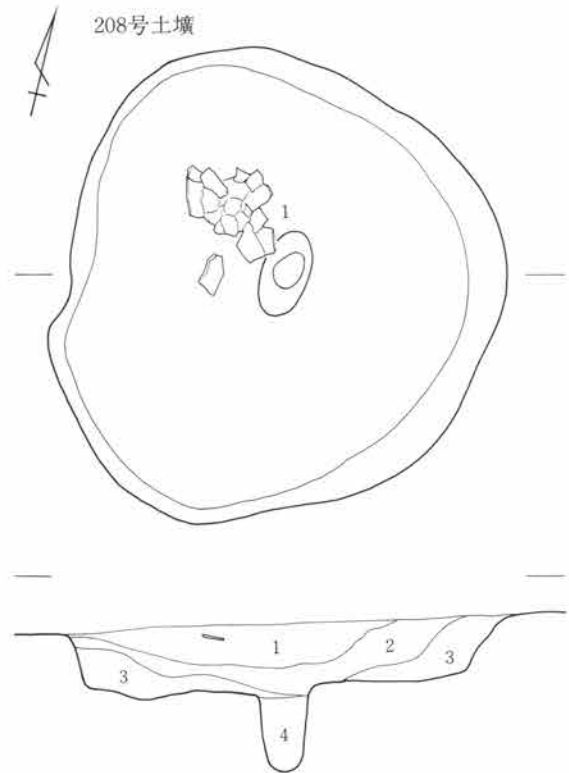
198号土壇



204号土壇



208号土壇



0 1 m

49図 遺物を主体的に出土した土壇

204号土壙(49図)；調査区南側のほぼ中央で検出した。29号住居址北約7mに位置する。周辺には円形の土壙(205、224号土壙)が分布する。本土壙の平面形も小型の円形を呈し、壙底面はほぼ平坦である。壁は直立し断面形は方形を呈す。遺物は小型の深鉢が口縁部と胴部の半分を欠損して、覆土上層の東壁よりから横位で出土した。

208号土壙(49図)；調査区南側のほぼ中央で検出した。25・29号住居址の中間に位置し、西6mに204号土壙が位置する。平面形はやや大型の不整円形を呈し、壙底面は凹凸を持つがほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。中央に小ピットが開けられる。遺物は壙底面中央よりやや北よりに浅鉢の底部が土圧で押し潰されたように出土した。

214号土壙(50図)；調査区東南よりに検出された。東に25号住居址が近接する。重複土壙で西壁に215号土壙が重なる。新旧関係は215壙が本土壙を切る。平面形はやや大型の不整円形を呈す。壙底面は平坦で、壁は南壁が直立し、他は緩やかな立ち上がり呈す非対称な断面形である。遺物は大型の自然石、深鉢と人面状突起が出土した。自然石は覆土中位より、深鉢と人面状突起は壙底面の南東よりに置かれていた。

220号土壙(50図)；調査区南東よりの土壙群の中央で検出した。221号土壙と重複し、本土壙の方が新しい。平面形は不整円形を呈し、壙底面は凹凸を持ち壁は外傾する。深さ57cmを測るしつかりした掘り込みである。遺物は覆土下層で東寄りに深鉢が破損した状態で、対する西寄りには大型の自然石が出土した。



214号土壙

224号土壙(51図)；調査区南側の中央で検出した。204号土壙の北西約2mに位置する。土壙群の西端とも考えられる。平面形は円形を呈し、壙底面は平坦で壁はやや内彎気味に立ち上がる方形の断面形を見る。遺物は上層から下層にかけて比較的多く出土した。特に中位から下位にかけて、小型の深鉢と浅鉢がほぼ完存の状態出土した。両者とも横位～斜位の傾きで発見された。

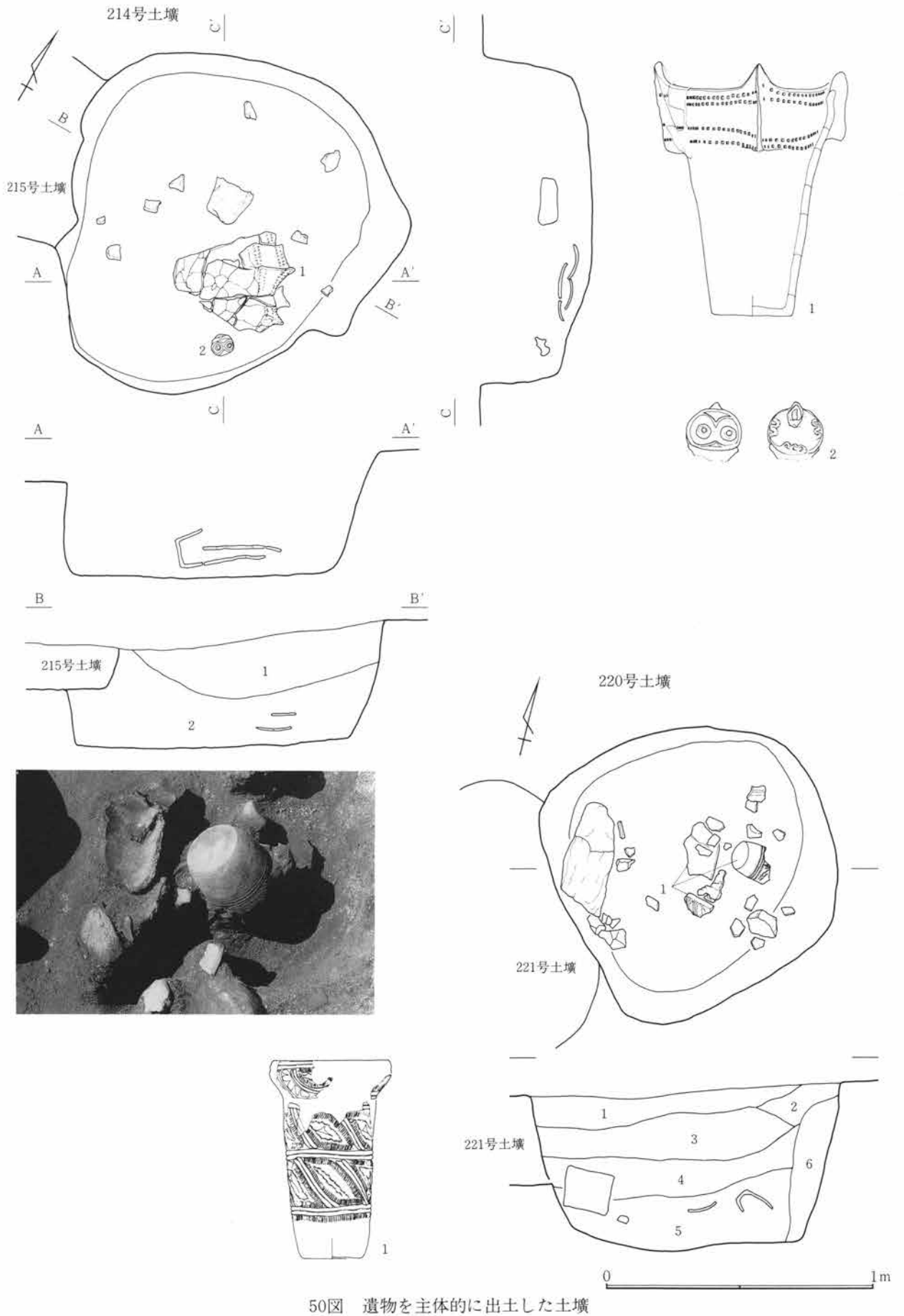
232号土壙(51図)；調査区南東のやや中央よりに検出された。周辺の土壙群の北辺に位置し、223、225号土壙が近接する。円形を呈し、壙底面は凹凸を持ち、壁は直立気味であるが北～西壁は外傾する。遺物は大型の自然石が覆土中位で3個見られ、その直下に小型の深鉢が横位で出土した。深鉢は自然石で口縁部を壊された状態で見つかった。

236号土壙(52図)；232号土壙と同一の土壙群にあり、西に235号土壙が近接する。長軸を北西に持つやや不整円形の平面形を呈し、浅い。壙底面は平坦で壁は比較的強く外傾する。西壁に小ピットが付せられるが本土壙に伴うものかは判然としない。遺物は北壁よりに小型の深鉢底部が壙底面直上より出土した。

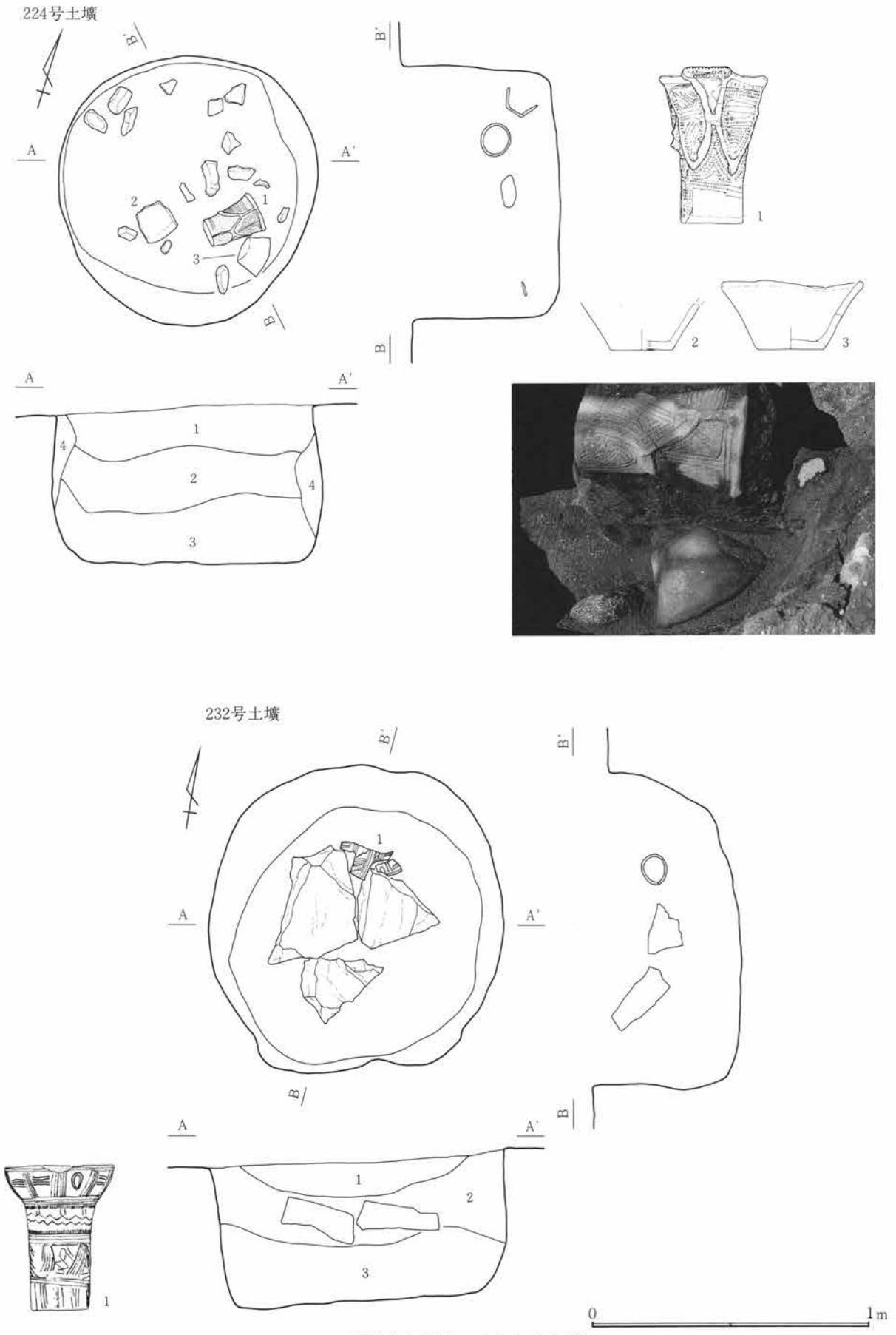
244号土壙(52図)；調査区南東のやや中央よりに検出した。南西1mに245号土壙が位置するが周辺には有機的な土壙はない。平面形は小型の円形で、断面形は袋状を呈す。壙底面は凹凸を持つがほぼ平坦で、立ち上がりは丸味を帯びる。遺物は覆土下位から壙底面にかけて縄文施文の深鉢と石皿が出土している。深鉢は破損した状態で出土した。石皿はやや傾いて西壁に寄りかかるようにして出土した。



224号土壙

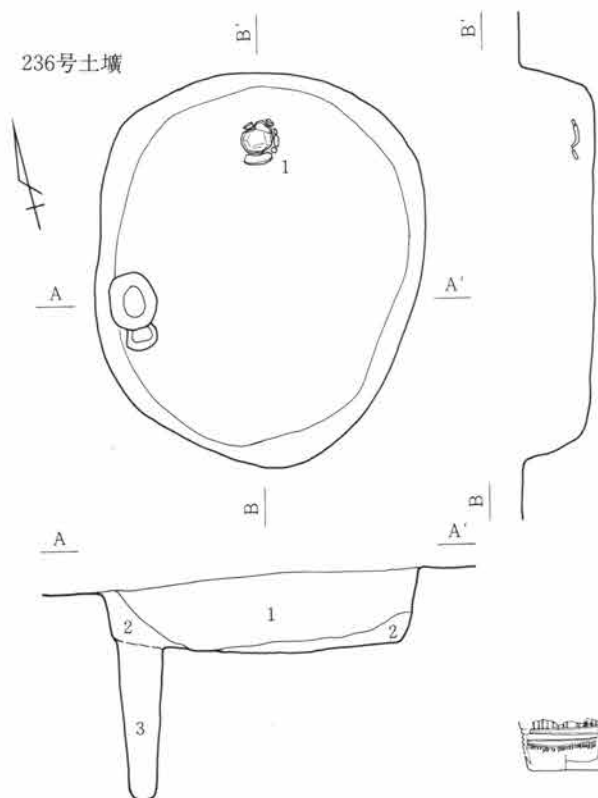


50図 遺物を主体的に出土した土壇

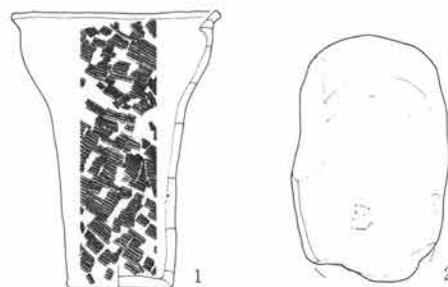
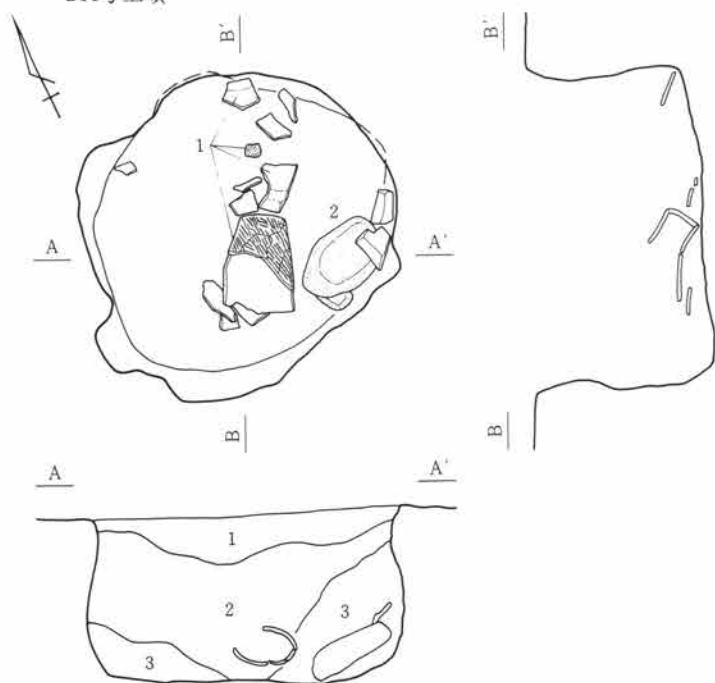


51図 遺物を主体的に出土した土壌

236号土坑



244号土坑



0 1 m

52図 遺物を主体的に出土した土坑

255号土壙(53図)；調査区西南で検出された。南東約3 mに184号土壙が位置する。大型の円形を呈す土壙で、比較的深い。壙底面は若干の凹凸を持ちながら平坦である。壁は外傾する。遺物は大型の自然石が壙底面の西より出土した。

273号土壙(53図)；調査区南西よりで検出された。西に271号土壙が近接する。やや不整楕円状の平面形状を呈す。壙底面は平坦で壁は西壁が緩やかに立ち上がり、南壁は直立気味である。遺物は大型の細長い自然石が軸を東西にして壙底面よりやや上り気味に出土した。

279号土壙(54図)；調査区南西で検出した。前述の273号土壙が南西約2 mに位置する。平面形は円形を呈し壙底面は緩やかに凹み、壁は直立する。遺物は壙底面直上で、ほぼ中央に浅鉢が逆位に置かれていた。口縁部の一部を欠損する。また、自然石が覆土上層より出土している。尚、浅鉢は赤色処理されている。



279号土壙

281号土壙(54図)；調査区南西で検出され、後述する282、283号土壙と一群をなすようである。平面形はほぼ円形を呈し、方形の断面形状である。壙底面は僅かな凹凸を持つが平坦である。遺物は覆土上位より中型の自然石や、深鉢破片が出土した。1個体を図示した。

282号土壙(55図)；調査区南西で検出した。南に283号土壙が近接し、北西約1 mに281号土壙が位置する。平面形はやや不整円形を呈す。壙底面は平坦で、壁は西壁が袋状を呈し、他は直立気味に外傾する。遺物は覆土中位で西壁際に頸部より上を欠損した深鉢が横位出土した。

283号土壙(55図)；282号土壙と北壁を接するように検出された。小型で、北東に長軸を持つ不整円形を呈し、断面形は皿状である。遺物は自然石が4個出土している。

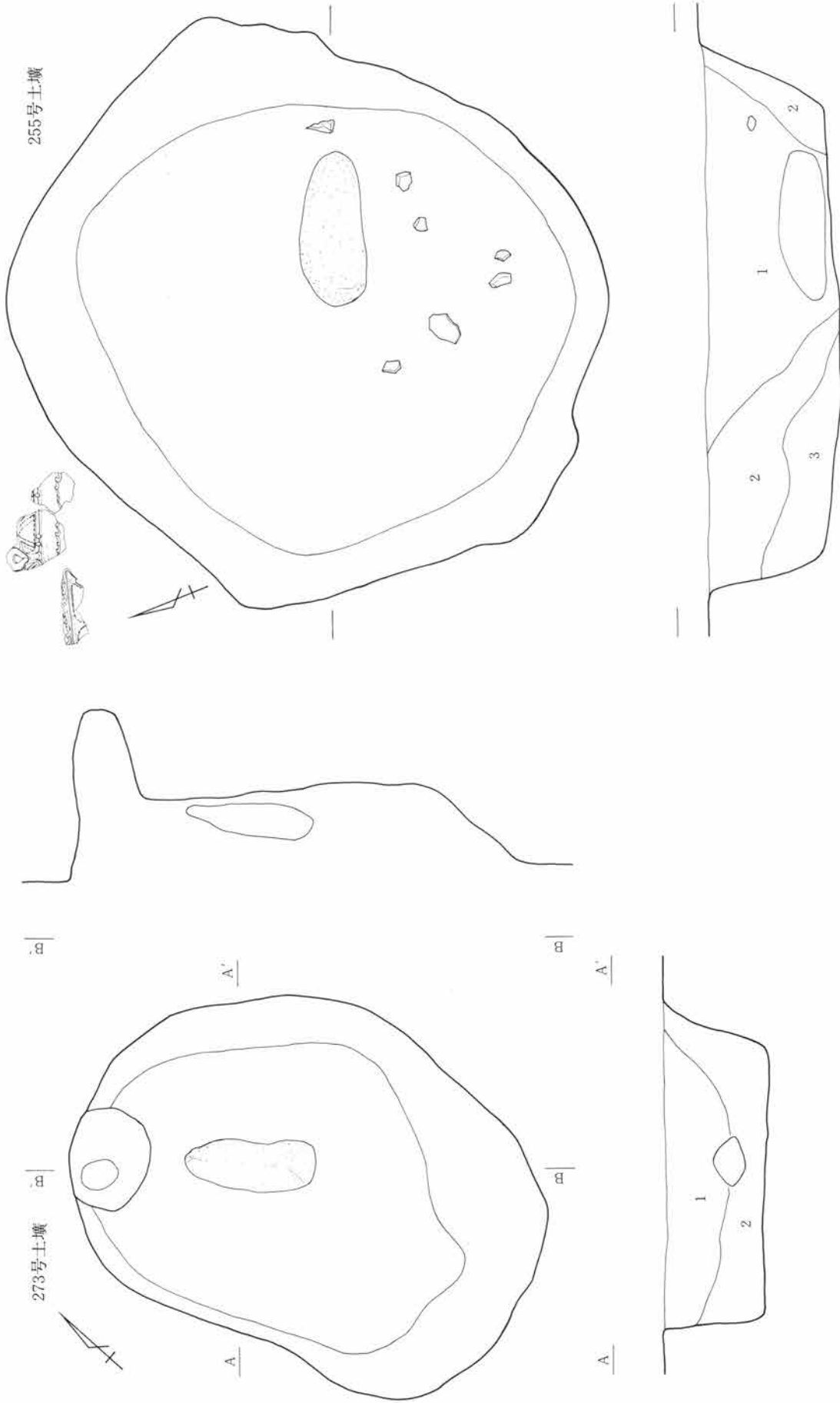
291号土壙(55図)；調査区南のほぼ中央で検出された。大型の474号土壙と重複しており、474壙調査途中で確認された。東側には292～294号土壙が南北に並ぶ。本土壙も比較的大型の円形である。壙底面は凹凸を持ち、壁は直立気味に外傾する。遺物は壙底面よりやや浮いた状態で東より深鉢底部が出土した。この底部にはタール状の煤が詰まっていた。

292号土壙(56図)；調査区南のほぼ中央で検出された。北に293号土壙が近接し、北西約1 mに291号土壙が位置する。平面形は長軸を南北に持つ楕円状に近い不整円形を呈す。壙底面は凹み、壁は僅かな屈曲を持ちながら緩やかに立ち上がる。西側の壁が直立気味である。遺物は南壁に逆位で寄りかかるように小型の深鉢胴部下半が出土した。

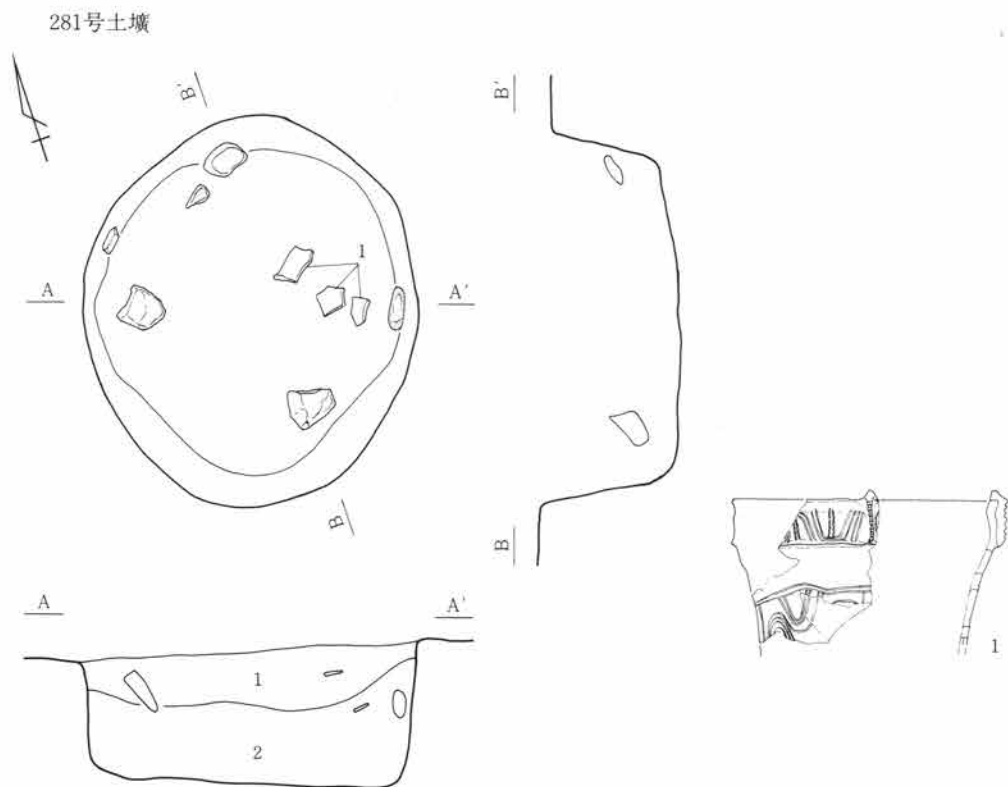
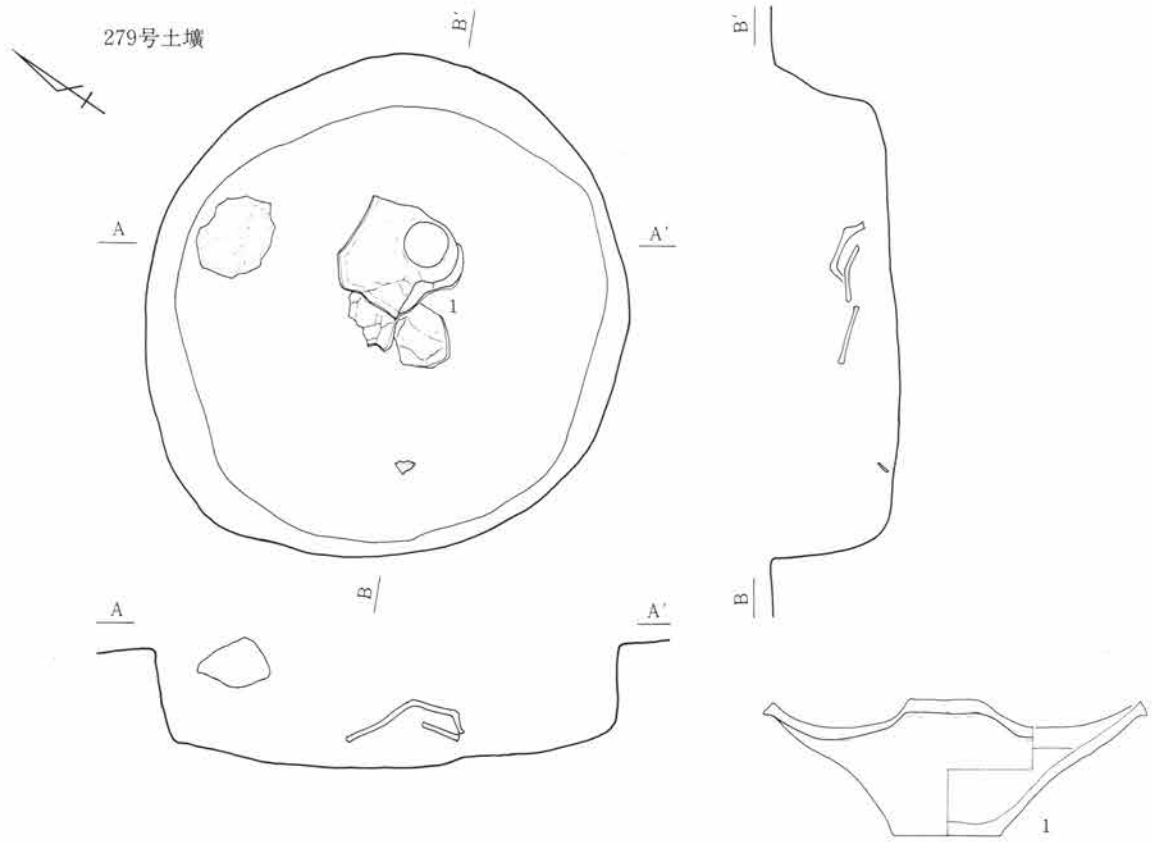
293号土壙(56図)；重複する294号土壙を挟んで292号土壙の北約1 mに位置する。294号土壙との新旧関係は本土壙が新しい。ほぼ円形の平面形を呈し、壙底面は南に若干傾斜する。壁は南西側が直立に近く、他は外傾気味に立ち上がる。遺物は覆土中より大型の自然石が多数出土したが、下位より小型の深鉢胴部下半が横位で出土した。

299号土壙(57図)；調査区中央で検出され、大型の深鉢を出土した454号土壙が北西に近接する。また、前述の294号土壙は南西約7 mに、後述する310号土壙は西約6 mに位置する。平面形はやや大型の円形を呈す。断面形は深く方形を呈すが壁の一部は袋状を呈する。遺物は覆土中位より土器片が多く見られ、北東の壁よりには小型の深鉢がやや斜位で出土した。

310号土壙(58図)；調査区中央で検出した。南6 mに前述の291号土壙が位置する。平面形は若干楕円状を呈し北東に長軸を持ち、北壁が著しくオーバーハングし袋状の断面形となる。ただ、南壁は直立気味に立ち上がり、南北の断面形は非対称である。壙底面は南側から西側にかけて凹む。遺物は覆土中より土器片が多数出土した。

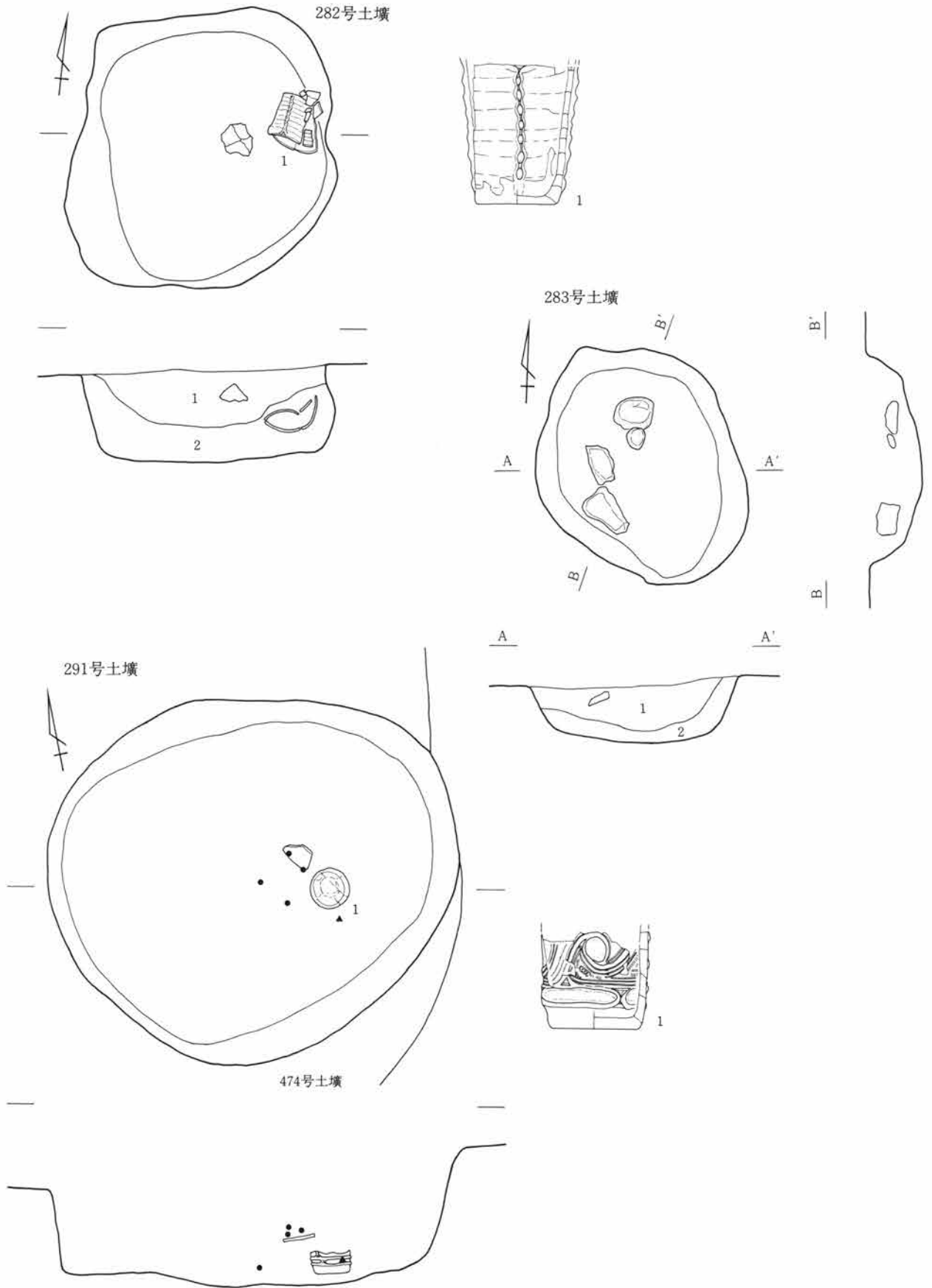


53図 遺物を主体的に出土した土壇

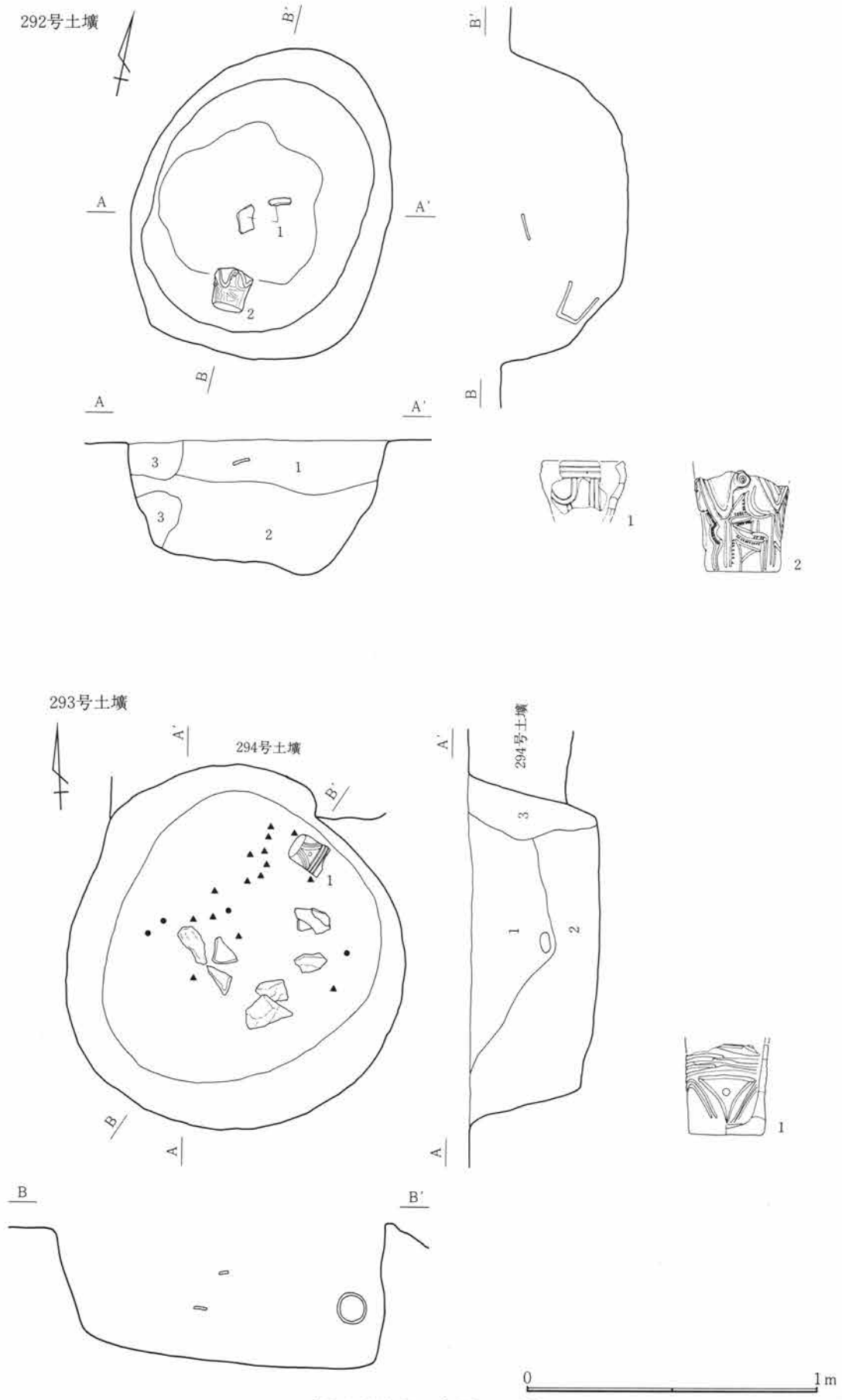


0 1m

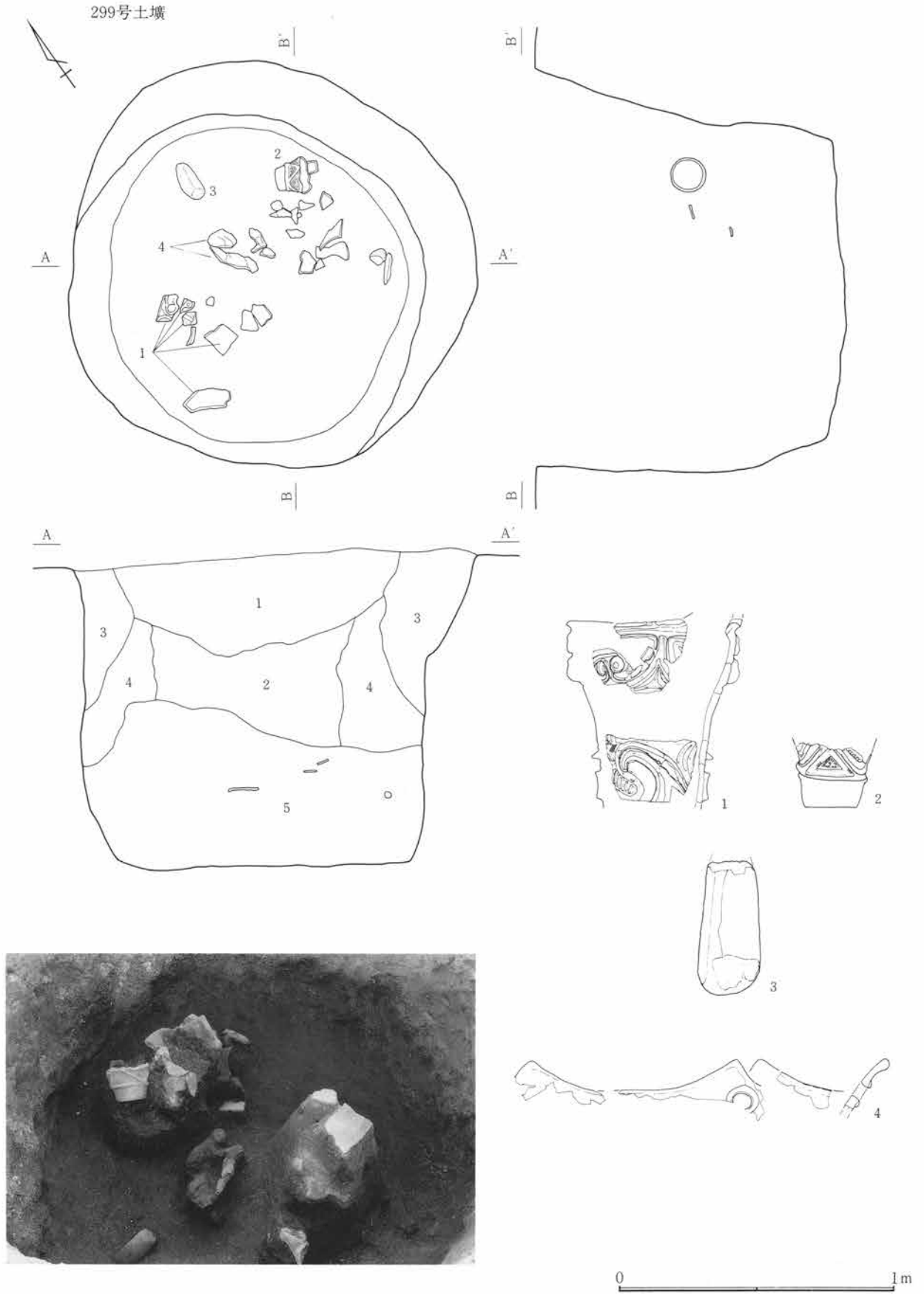
54図 遺物を主体的に出土した土壌



55図 遺物を主体的に出土した土坑



56図 遺物を主体的に出土した土壌



57図 遺物を主体的に出土した土坑

313号土壙(58図)；調査区中央やや西寄りで検出した。311号土壙と314号土壙に挟まれた位置にあり、106号土壙が西側に近接する。集石土壙であり、小型の自然石が多量に出土した。石は半数以上が加熱を受けており、覆土上層に集中した。平面形は小型の円形を呈し、壙底面は凹凸を持つ。壁は外傾する。土層は黒褐色土を中心に堆積し、集石以外には炭化物が多く見られた。

332号土壙(58図)；調査区西側で検出された。北に後述する333号土壙が近接する。本遺跡の袋状土壙の典型であり、平断面形、土層の状態などが良好なことから、遺物は客体的な出土ながら敢えて図示した。平面形はやや不整形円形を呈し、壙底面は平坦ながらも凹凸を持つ。内傾する壁もオーバーハングしながら立ち上がる。

333号土壙(59図)；前述の332号土壙の北に位置する。上端の平面形は円形を呈するが、西、南の壁中位が大きくオーバーハングし袋状を呈す。壁崩壊を因とするためか。その他の壁は外傾する。遺物は大型の自然石が覆土下位より多量に出土した。

332号土壙と333号土壙は平断面形状が類似し、位置関係も隣合うように近接する。両土壙の用途、機能などは特定できないが非常に密接な関連性が考え得る。

338号土壙(59図)；調査区西で検出した。南東約2mに335、336号土壙が位置する。南北に長軸を持つ不整形円形を呈し、壙底面はほぼ平坦で壁が直立する方形の断面形である。しかし、北東と南西の壁は内傾気味であり袋状の意識は持たせる。遺物は覆土中位より大型の自然石に混じって、小型のものも多量に出土した。313号土壙のように密な集中ではないが一応集石土壙としたい。

341号土壙(59図)；調査区西側で検出された。後述する342、343号土壙が北西約1mに位置する。平面形はやや小型の円形を呈す。壙底面は凹凸を持ち凹み、壁は直立気味に外傾する。遺物は覆土中位より下位にかけて土器片を多く出土した。個体として図示できるものはなかったが、意匠的な深鉢突起などが出土している。また、下層北西寄りで大型の自然石の出土を見る。

342号土壙(60図)；調査区西で検出され、東に後述する343号土壙が近接する。不整形円形を呈し、壙底面は東に傾斜する。大型の自然石を覆土中位に置き、深鉢が破片で出土した。2個体を図示した。

343号土壙(60図)；調査区西側に位置し342号土壙が近接する。平面形は円形を呈し、断面形は若干袋状を呈す。壙底面は平坦で壁は内傾気味に直立する。遺物は覆土中位から下位にかけて土器片が多く出土した。深鉢頸部破片と胴部破片を個体図示し得た。

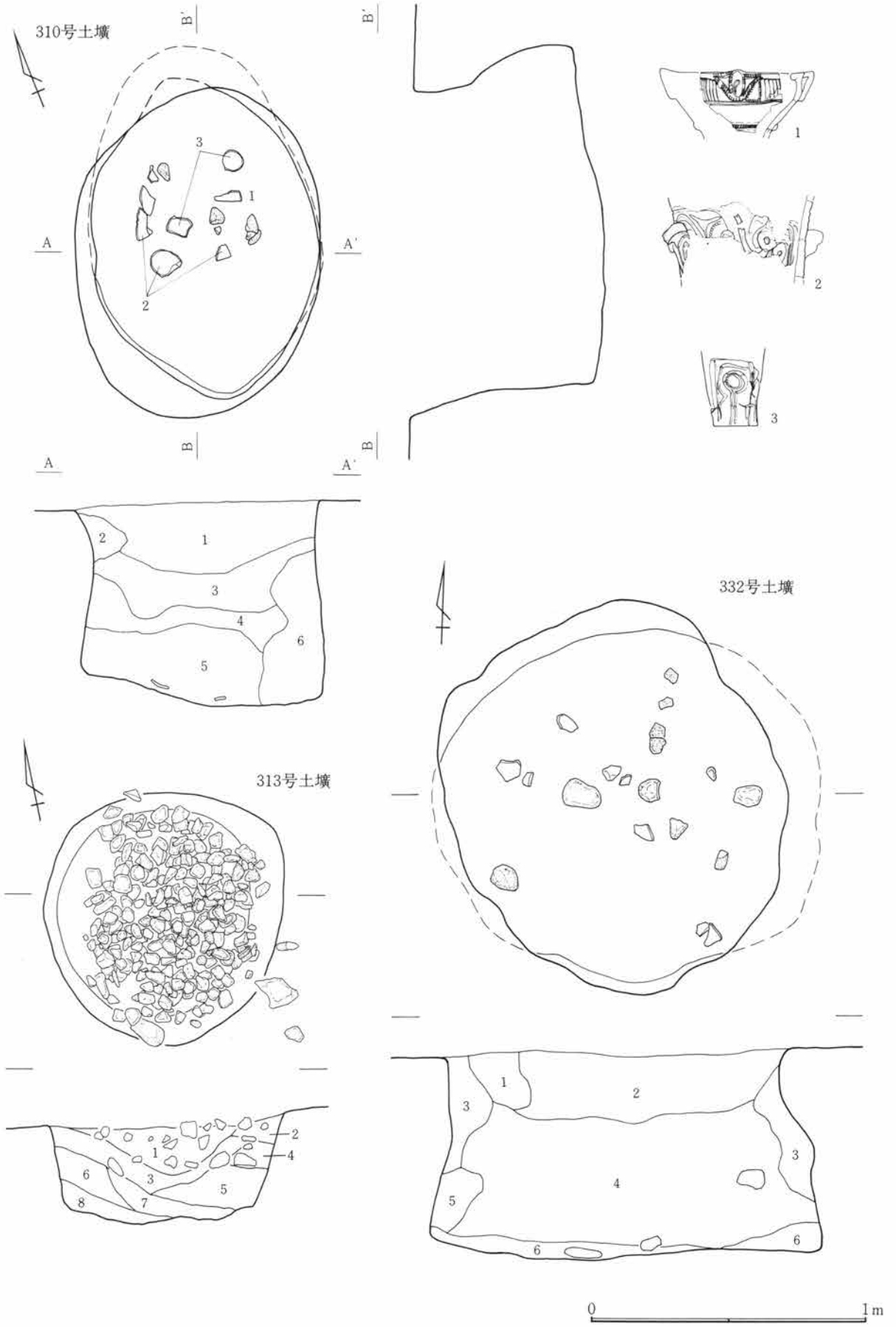
349号土壙(61図)；調査区西で検出し、343号土壙が西約3mに位置する。不整形円形を呈し深さも浅い。遺物は深鉢の口縁部破片が覆土上層から出土した。

352号土壙(61図)；調査区西側で検出された。小型の円形を呈し、浅い掘り込みである。壙底面は凹凸を持ち、壁は外傾する。遺物は小型の深鉢底部が覆土上層より、下層からは無文の深鉢胴部が出土した。

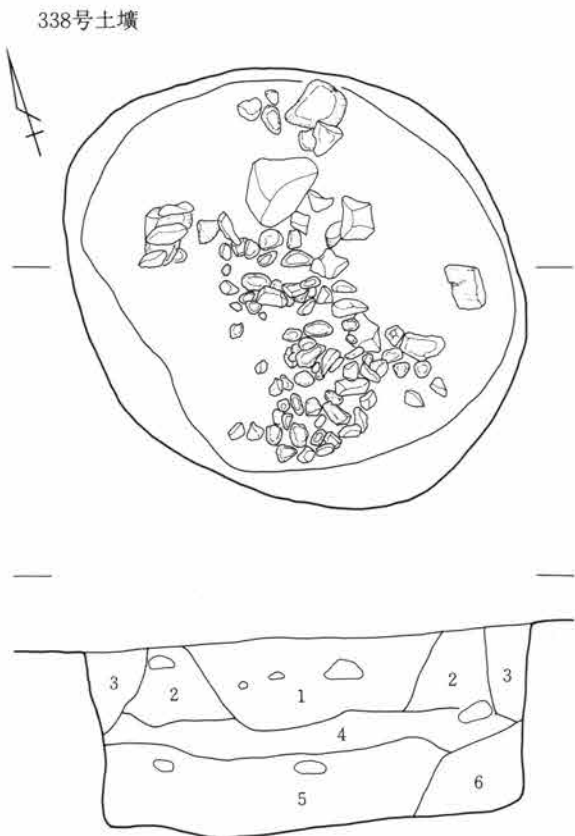
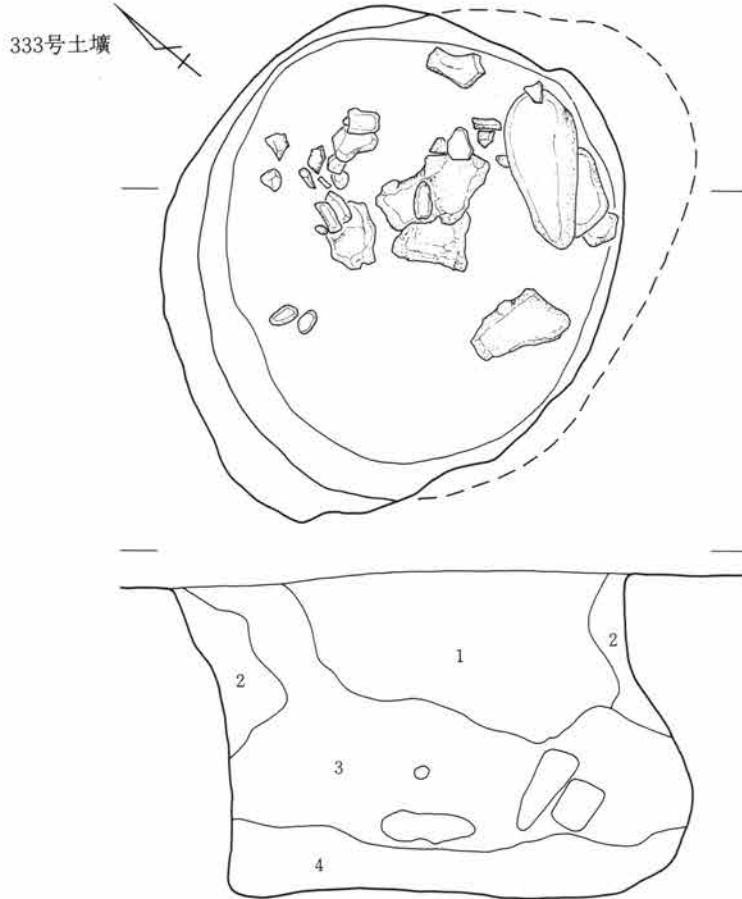
356・357号土壙(61図)；調査区西側やや中央よりで検出された。北西約5mに前述の352号土壙が位置するように周辺の土壙群の中にあってやや距離を置く。重複土壙である。357号土壙が356号土壙を切る。356壙は小型の不整形円形で浅く皿状である。遺物は覆土より浅鉢の破片が出土した。357壙は円形の平面形を呈し方形の断面形態をとる。壙底面は平坦である。遺物は覆土下位から壙底面にかけて自然石とともに深鉢が破片で出土した。

361号土壙(62図)；調査区中央やや西寄りで検出した。南約3.5mに大型の324号土壙が位置する。小型の不整形円形を呈し、僅かに長軸を南北に持つ。断面形は皿状で浅い。遺物は深さに反して上面より多く出土した。破片が主体であるが完形となるものがなく、3個体が図示し得た。また、上面から下層にかけて多くの炭化物が看取されたのも特徴的である。

369号土壙(62図)；調査区中央で検出された。東側に370号土壙が接し、南西約2.5mに1号大石が位置する。平面形は小型の不整形円形を呈し、僅かに長軸を北東に持つ。壙底面は西側に傾斜し、西壁は緩く立ち上がる。その他の壁は直立気味に外傾する。遺物は北東壁際に自然石が壙底面直上に置かれ、覆土中位から浅鉢口縁部破片が出土した。

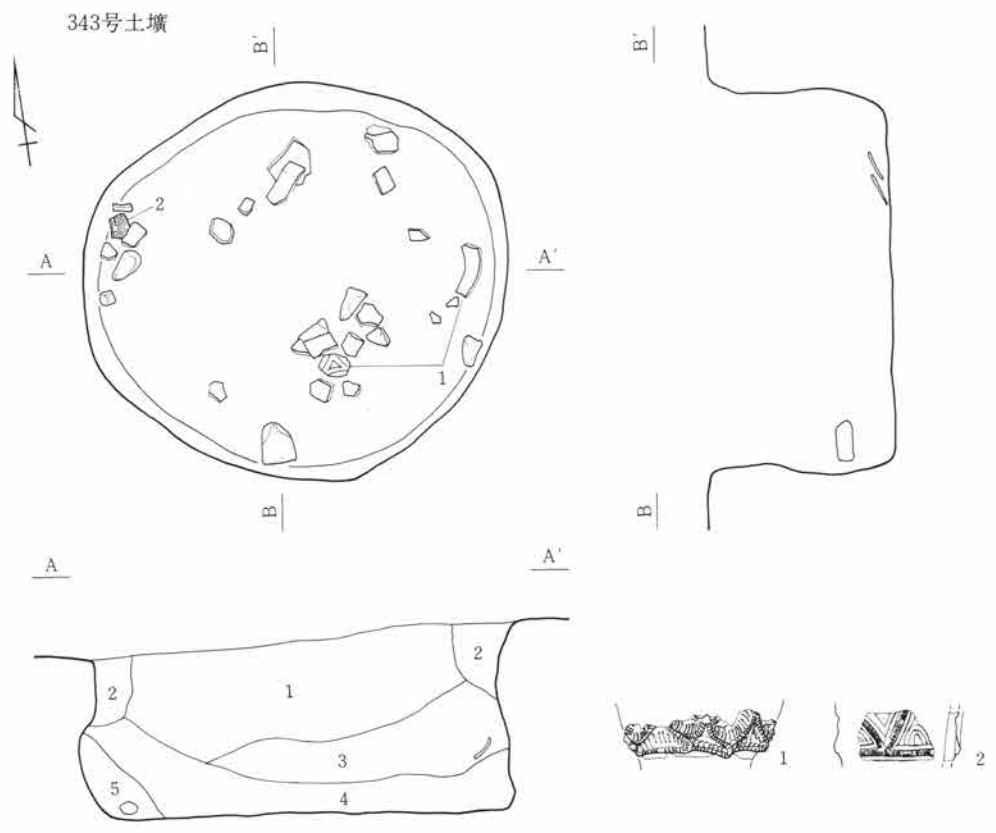
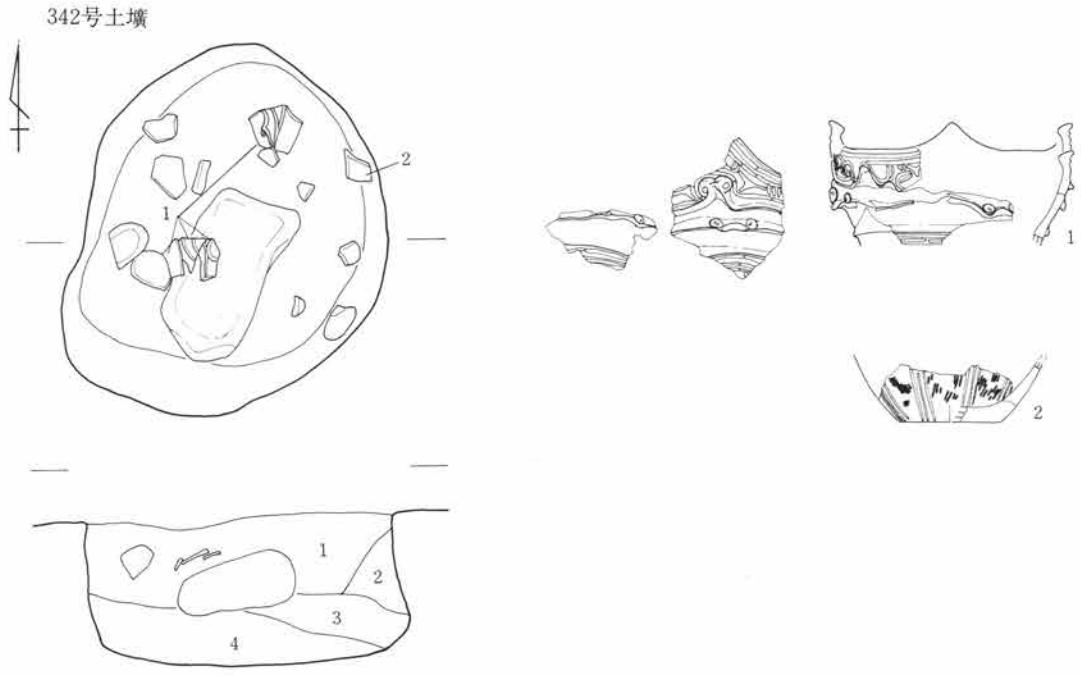


58図 遺物を主体的に出土した土壌



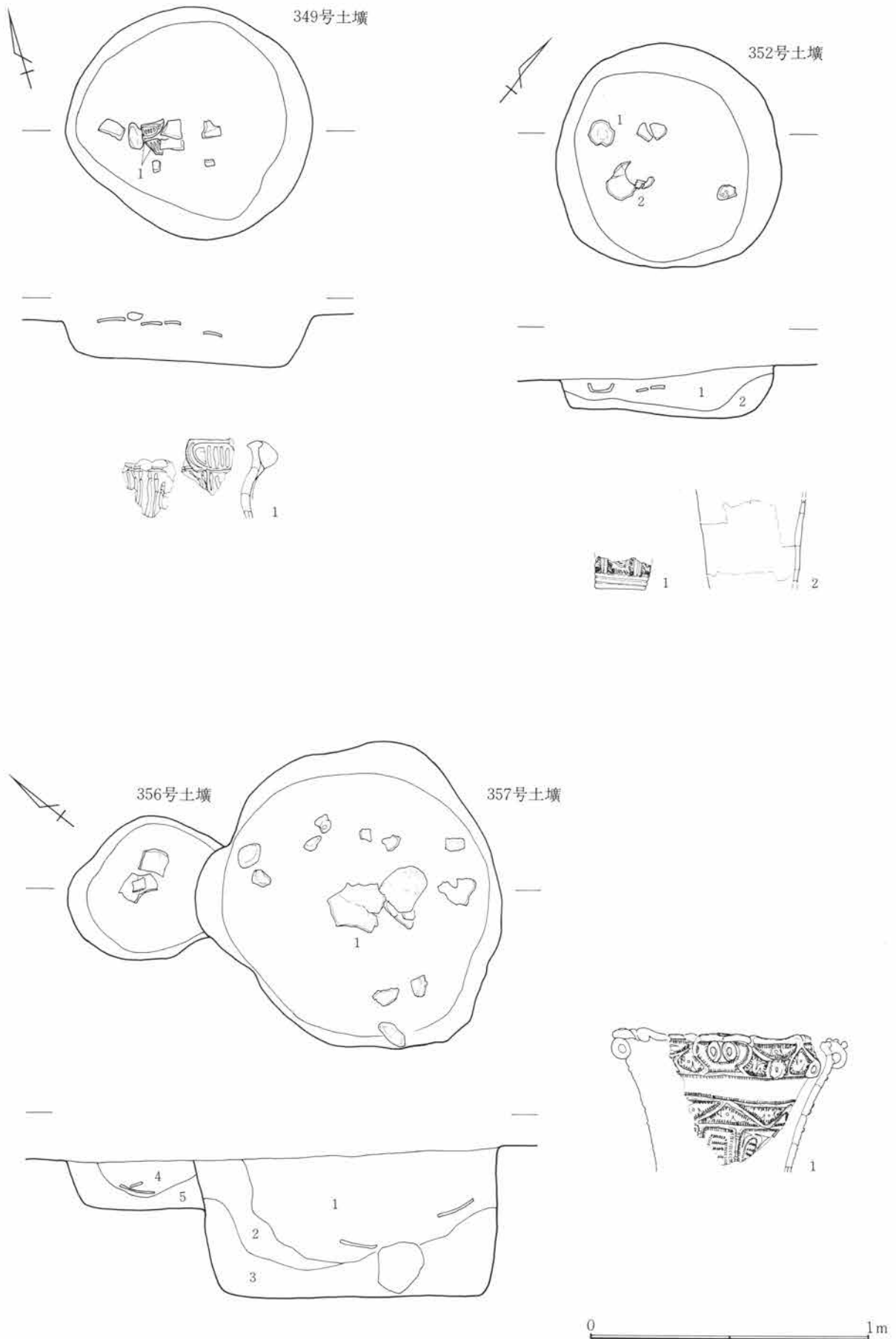
59図 遺物を主体的に出土した土壇

第IV章 遺構と遺物

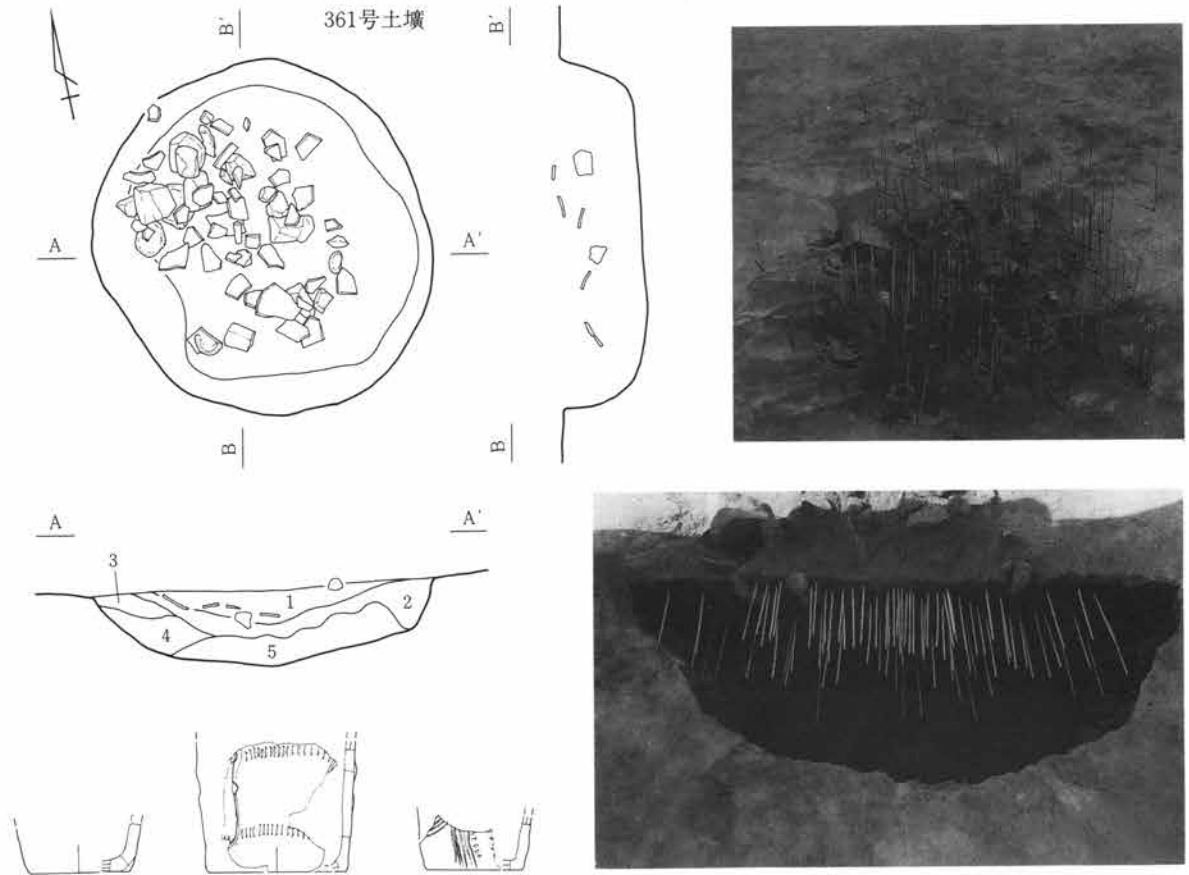


0 1 m

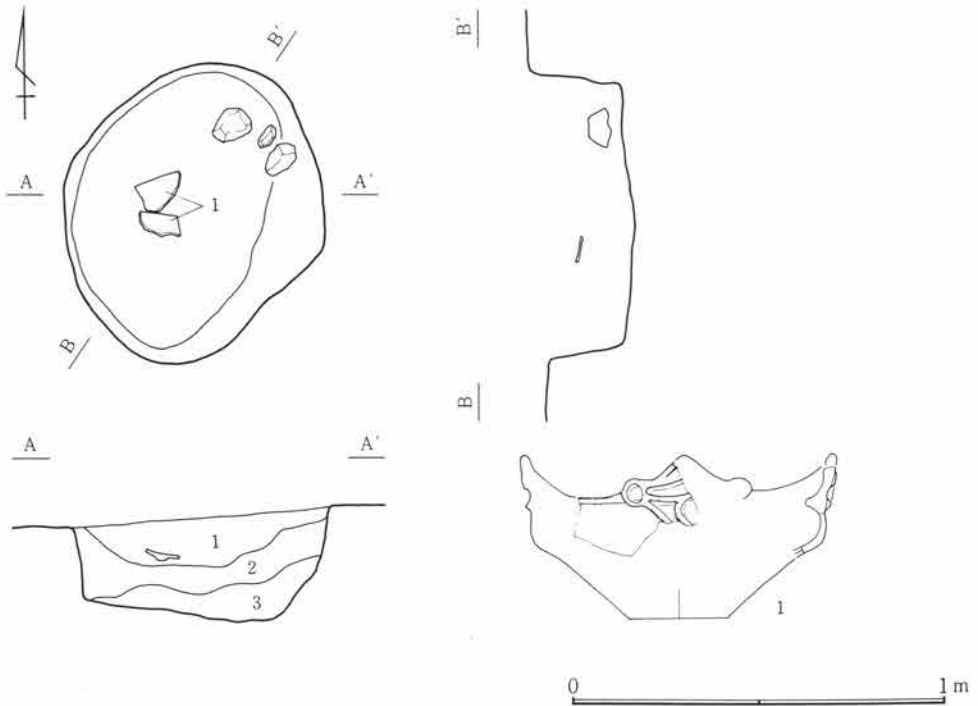
60図 遺物を主体的に出土した土壌



61図 遺物を主体的に出土した土壌



369号土壌



62図 遺物を主体的に出土した土壌

372号土壙(63図)；調査区中央で検出された。長軸を南北に持つやや楕円状の平面形態を呈し浅い。壙底面は平坦である。遺物は大型の自然石が中央よりやや北寄りに壙底面直上で集中して出土した。

378号土壙(63図)；調査区中央で検出された。周辺には不整形の土壙や浅い楕円状の土壙が多く分布し、本土壙も平面形は不整形である。掘り込みは比較的しっかりしており、壙底面は平坦である。遺物は覆土中位より多量の土器片が出土した。復元個体は小型の深鉢2、浅鉢1であるが深鉢は両者とも口縁部を欠いていた。浅鉢も口縁部を $\frac{1}{2}$ 欠く。

400号土壙(64図)；調査区中央やや北よりで検出された。南西約3mに378号土壙が位置する。平面形は円形を呈し、浅い皿状の断面形状である。壙底面は凹凸を持ち、中央部へ凹み、壁も緩やかな立ち上がりを呈す。遺物は壙底面から僅かに浮いた状態で自然石が多数出土した。大型のものが主体だが、小型のものも混じる。また、覆土全体に炭化物が多量に散布していた。

408号土壙(64図)；調査区中央やや南西寄りで検出された。本土壙北から36号住居址周辺の土壙群にいたる8~10mは遺構が無く空白地帯である。西約2mに後述する414号土壙が位置する。平面形は円形を呈し、壙底面は凹凸を持ち、緩やかに凹む。壁は直立気味であるが西壁が若干オーバーハングする。立ち上がりの部分は丸みを帯びる。遺物は自然石が多数出土し、石皿が混じる。また、石鏃も出土したが覆土中であり、置かれたものではなさそうである。

414号土壙(65図)；調査区中央の南西よりで検出された。前述の408号土壙、後述する419号土壙などと一緒に群をなす。平面形は東西に長軸を持つ楕円状で、中間に括れを持つことから、重複土壙にも捉えられるが土層断面の観察で見ると単体の土壙である。しかし、括れ部の壙底面では段差があり、また遺物も東側に片寄ることからも重複土壙として考えることも可能である。本図では土層観察を優先して単体として掲載した。壙底面は段差を持つが平坦である。壁は東壁が若干オーバーハングするがほぼ直立した方形の断面形を呈す。遺物は覆土中から多くの土器片が自然石とともに出土したが、ほぼ1個体であり、在地形の小型の深

鉢である。

419号土壙(65図)；調査区中央のやや南西寄りで検出された。平面形は小型の円形を呈す。壙底面は凹凸が大きく、壁は直立気味に外傾する。大型の自然石を北、南壁際にそれぞれ覆土中位に配す。土器片も出土したが、客体的な出土であり、主体は大型の自然石であろう。

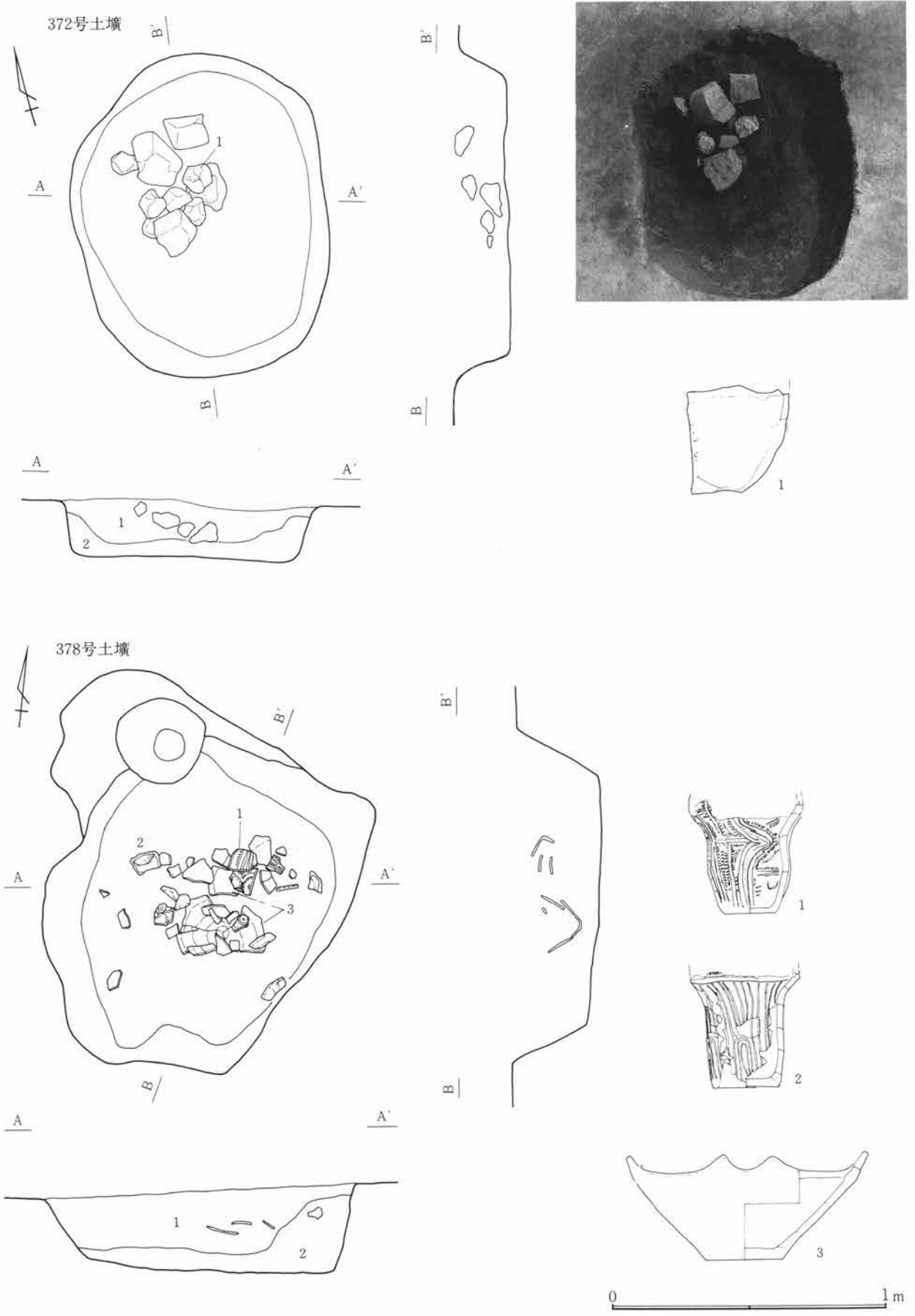
421号土壙(66図)；419号土壙の南に近接する小型の土壙である。平面形は円形を呈し、壙底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がり外傾する。遺物は中型の自然石が5点程度壙底面からやや浮いた状態で出土した。

425号土壙(66図)；調査区中央やや南西よりで検出された。周辺には円形で遺物を主体的に出土する土壙が密に分布しており、本土壙も小型であるが平面形は円形を呈す。壙底面は平坦で、壁は直立気味に外傾する。遺物は壙底面北よりに大型の自然石と勝坂系の深鉢口縁部が裏面を向けて、南よりには同深鉢が表面を向けて出土した。

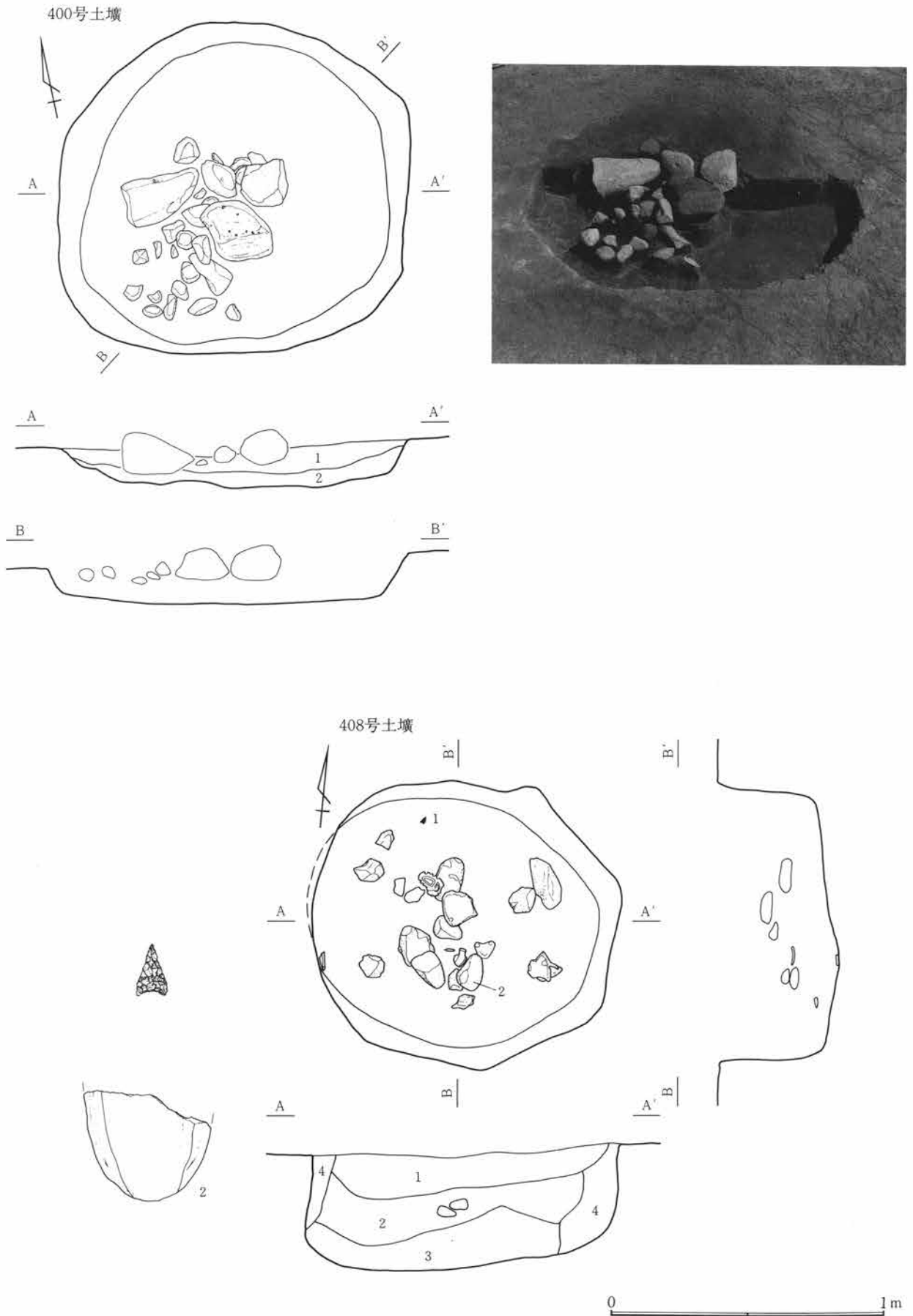
428号土壙(66図)；前述の425号土壙の北約2mに位置し、南西壁に429号土壙が接する。また、427号土壙とは南東壁を接する。平面形は円形を呈し、やや浅く壙底面は平坦である。壁は外傾し、断面形は皿状に近い。出土遺物は半欠した浅鉢が壙底面からやや斜位に浮いた状態で出土した。

429号土壙(66図)；前述の428号土壙と接し、規模もほぼ同規模の円形を呈する。深さもほぼ同一であり、断面形も類似する。遺物も428号土壙出土の浅鉢と同一個体の破片が壙底面よりやや斜位に浮いた状態で出土している。尚、この浅鉢は脆弱で取り上げ時の過失でかなりの部分を遺失してしまい、接合が不可能であった。

428、429号土壙は上記のように共通項が多く、おそらく同時性を持った土壙であろう。前述の332、333号土壙のように隣合う土壙として密接な関連性が考えられよう。

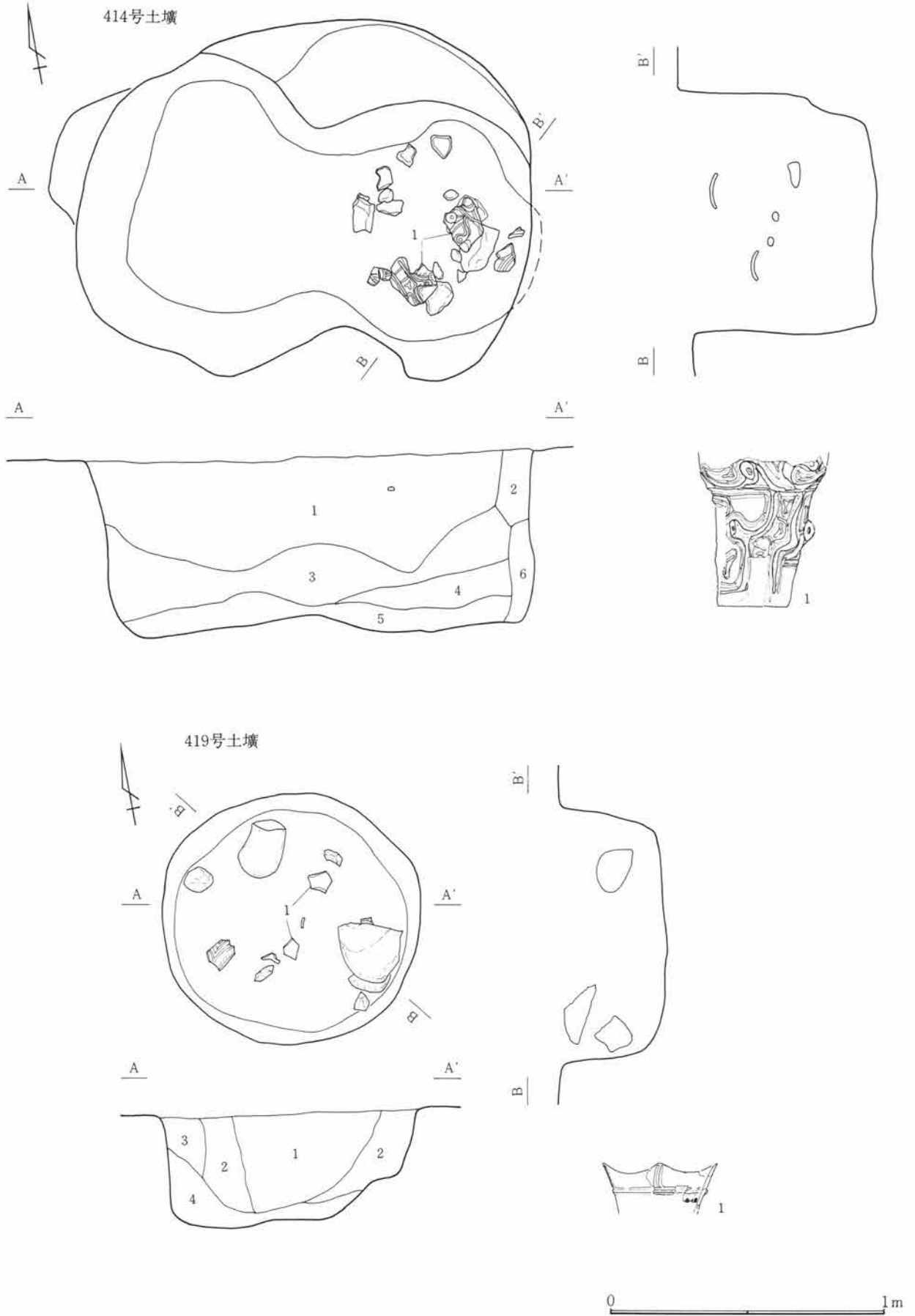


63図 遺物を主体的に出土した土壌

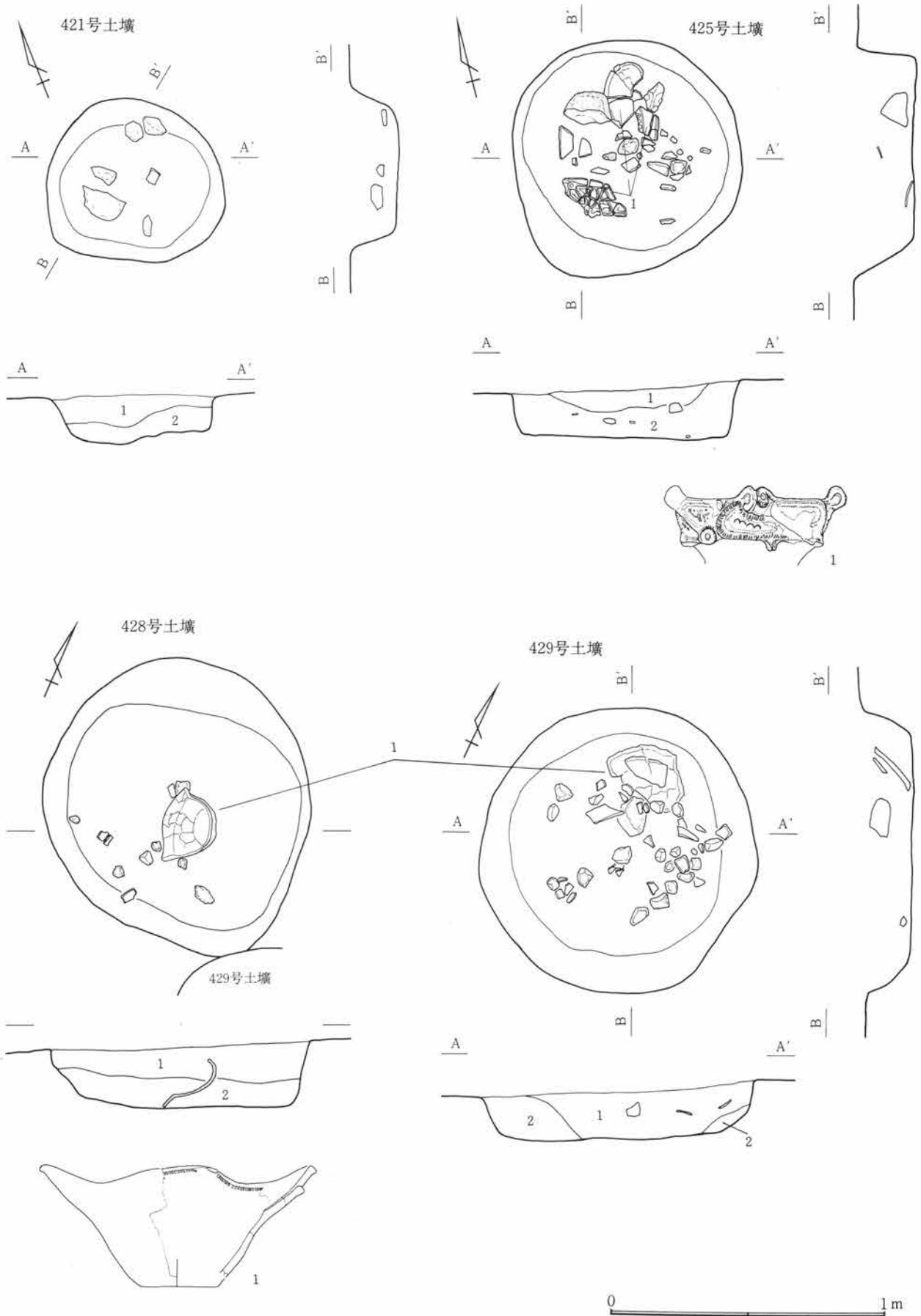


64図 遺物を主体的に出土した土壇

第IV章 遺構と遺物



65図 遺物を主体的に出土した土坑



66図 遺物を主体的に出土した土壌

432号土壌(67図)；調査区やや南西よりで検出された。428号土壌などの円形の土壌群とやや距離を置く南に位置するが、おそらく同一の土壌群であろう。平面形は円形を呈し、断面形は袋状である。墳底面は緩やかに凹み、立ち上がりは丸みを帯びる。内傾する壁は崩壊土が目立ち、5層などがそれに当たるのであろう。遺物は大型の角礫と破損した石皿が覆土上位より出土している。

433号土壌(67図)；432号土壌の北西約1mに位置する。北西に長軸を持つ楕円状の平面形を呈し、断面形は袋状に近い。墳底面は緩やかに凹み、壁は西から南壁が直立～外傾気味であるが、他は袋状である。遺物は土器片、石器片などが出土したが、客体的な出土であろう。

454号土壌(68図)；前述した299号土壌の北西に接する。平面形は円形であり、墳底面は緩やかに中央にかけて凹む。壁は中位より下位がオーバーハングし断面形は袋状を呈する。遺物は勝坂系の深鉢が墳底面より土圧に押し潰されたように出土した(1)。この深鉢上位より大型の破片が出土したが1点が個体図示できた(2)。

461号土壌(68図)；調査区南西斜面に占地する32号住居址のほぼ中央に重複して検出された。新旧関係はおそらく本土壌が新しい。平面形は円形を呈し、深い深度を測る。墳底面は凹凸を持ち、緩やかに凹む。壁は丸みを帯びて立ち上がり外傾する。遺物は覆土中位より自然石と石皿、深鉢突起類、小型の鉢が出土した。鉢は大木式系で、雲母末を多量に含む。



461号土壌

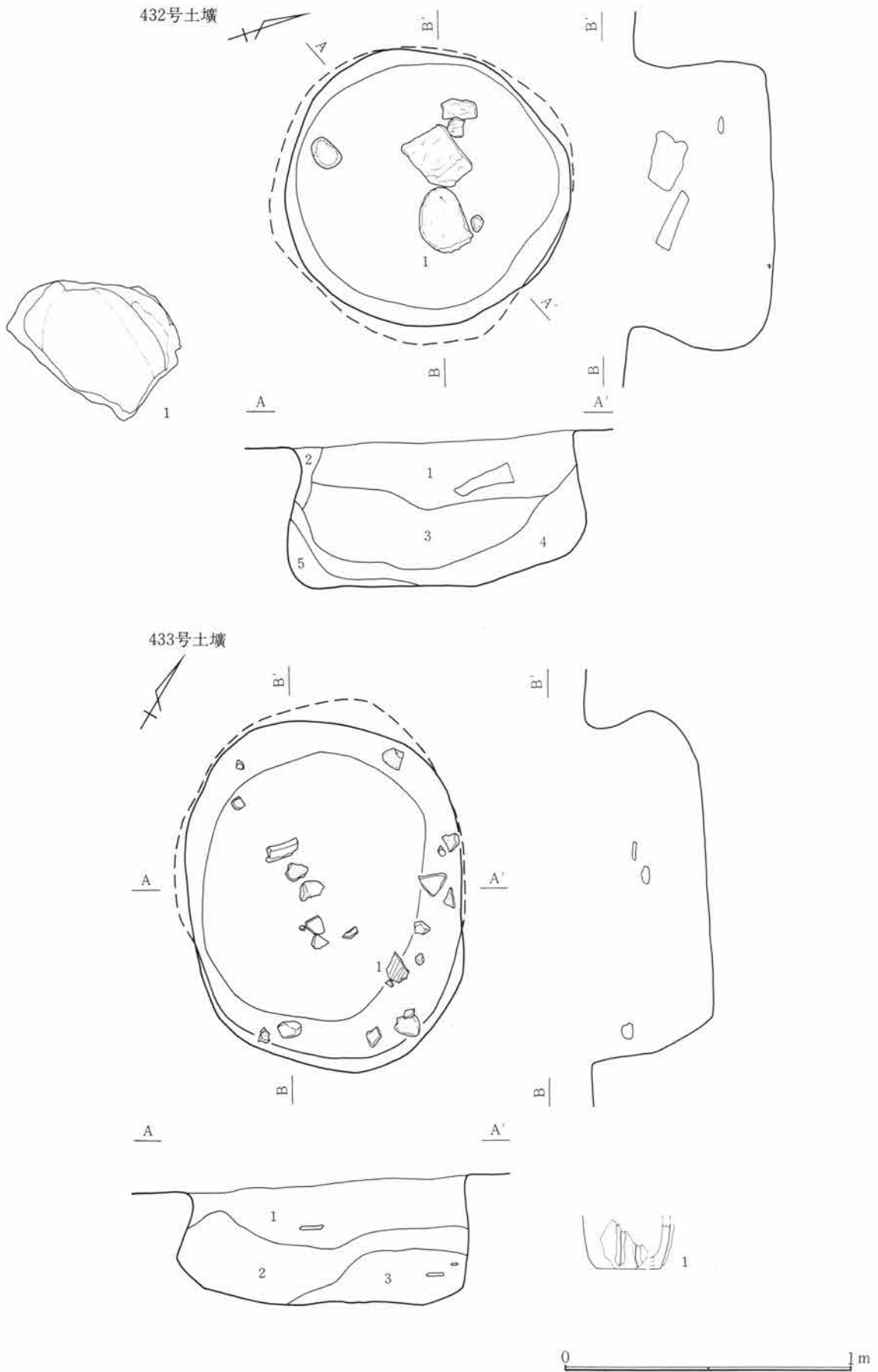
463号土壌(69図)；南傾斜の変換点に位置する29号住居址北約50cmに位置する。東約1mに466～468号土壌が近接する。平面形は円形を呈し、墳底面は東から南にかけて凹む。壁は緩やかに外傾し、断面形は皿状に近い。遺物は覆土中位より土器片と自然石が比較的多く出土したが、接合関係は薄く個体図示し得たものは阿玉台式土器1個体であった。尚、平面図の西上端が扇状に突出しているがこれは土層観察の際の過掘であり、内側の線が正しい。

464号土壌(69図)；466号土壌の北に近接する。平面形は円形を呈し、断面形は皿状である。墳底面および土壌状上面は地形に沿って南側に傾斜する。遺物は大型の自然石が墳底面よりやや浮いた状態で南に置かれ、その上位より在地系の深鉢胴部下半が出土した。覆土は粘性に富み、そのため遺物の残存はやや悪い。

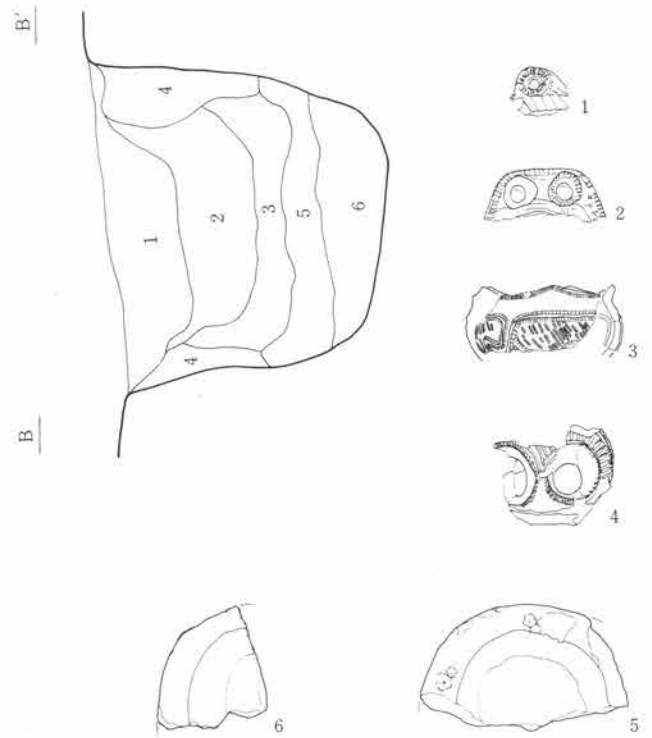
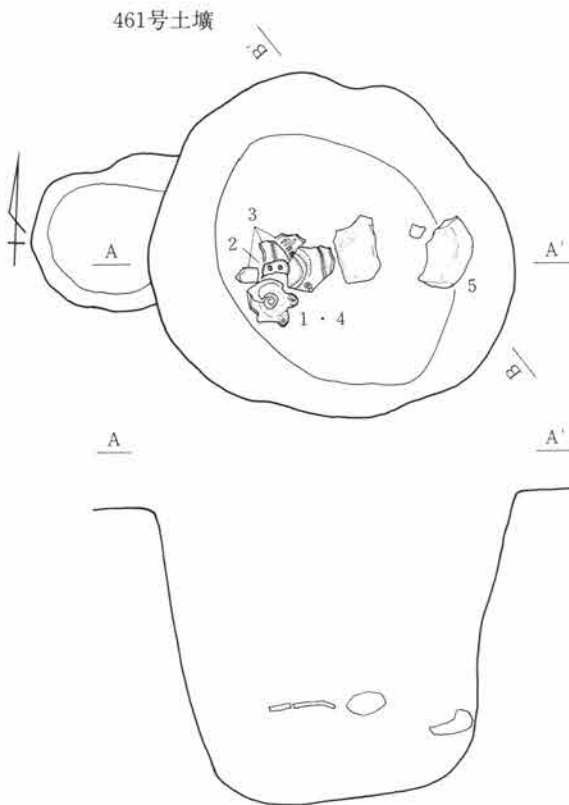
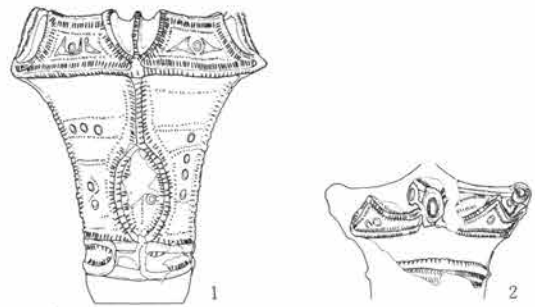
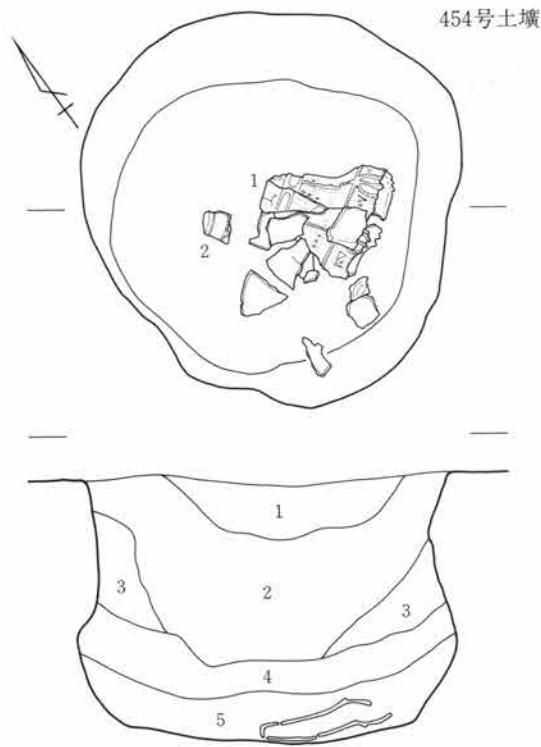
466号土壌(70図)；後述する467、468号土壌の西に重複する。平面形はやや大型の不整形円形を呈し、断面形は浅く皿状に近い。墳底面は中央に向かって緩やかに傾斜する。遺物は上面より大型の自然石が2個重なるようにして出土した。この自然石に重なるようにして、内面施文される浅鉢口縁部破片が出土した。小型の角礫が覆土中から多数出土したが石皿片が混じる。

467・468号土壌(70図)；29号住居址の東約1.5mに位置する。重複土壌であるが新旧関係は判然としない。467墳は南側の土壌で、不整形円形を呈し掘り込みもしっかりした土壌である。468墳は北側に位置し、東壁を466号土壌と重複する。断面観察では468墳が新しい。平面形は円形を呈し、墳底面は東側に傾斜する。壁は比較的強く外傾する。遺物は覆土上層から土器片や小型の角礫が出土したが、個体として図示できる接合関係は見られなかった。

470号土壌(71図)；調査区南西斜面に占地する28号住居址北東約4mに位置する。西には151、152号土壌、北には635号土壌などが近接し一群をなす。北上端を現代の耕作による攪乱溝によって大きく破壊されるが、平面形は円形を呈し、断面形も方形に近いしっかりした掘り込みである。墳底面は僅かに凹む。遺物は土器片、小型の自然石などとともに小型の深鉢胴部下半が覆土中位より出土した。西寄りの出土である。

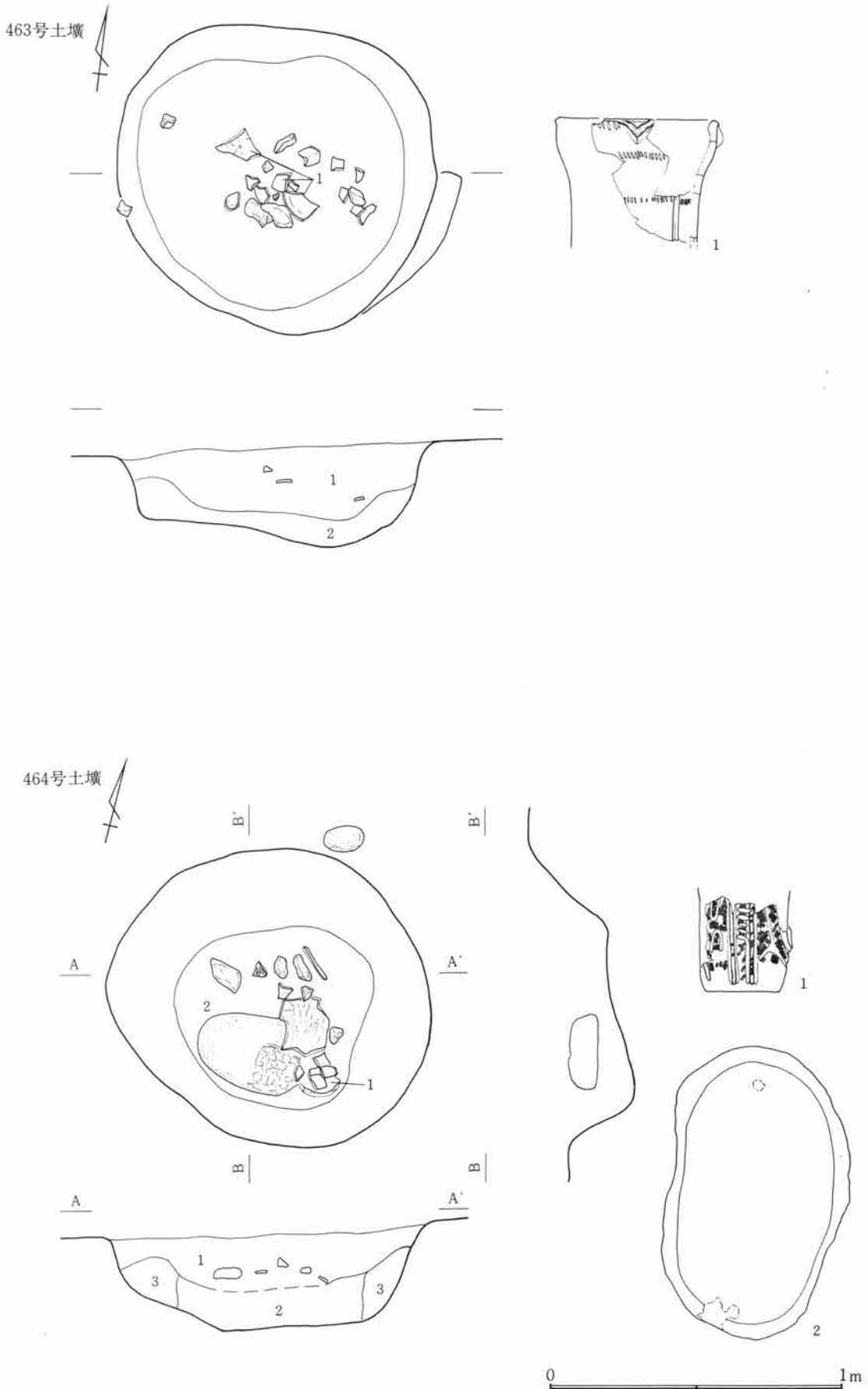


67図 遺物を主体的に出土した土壌

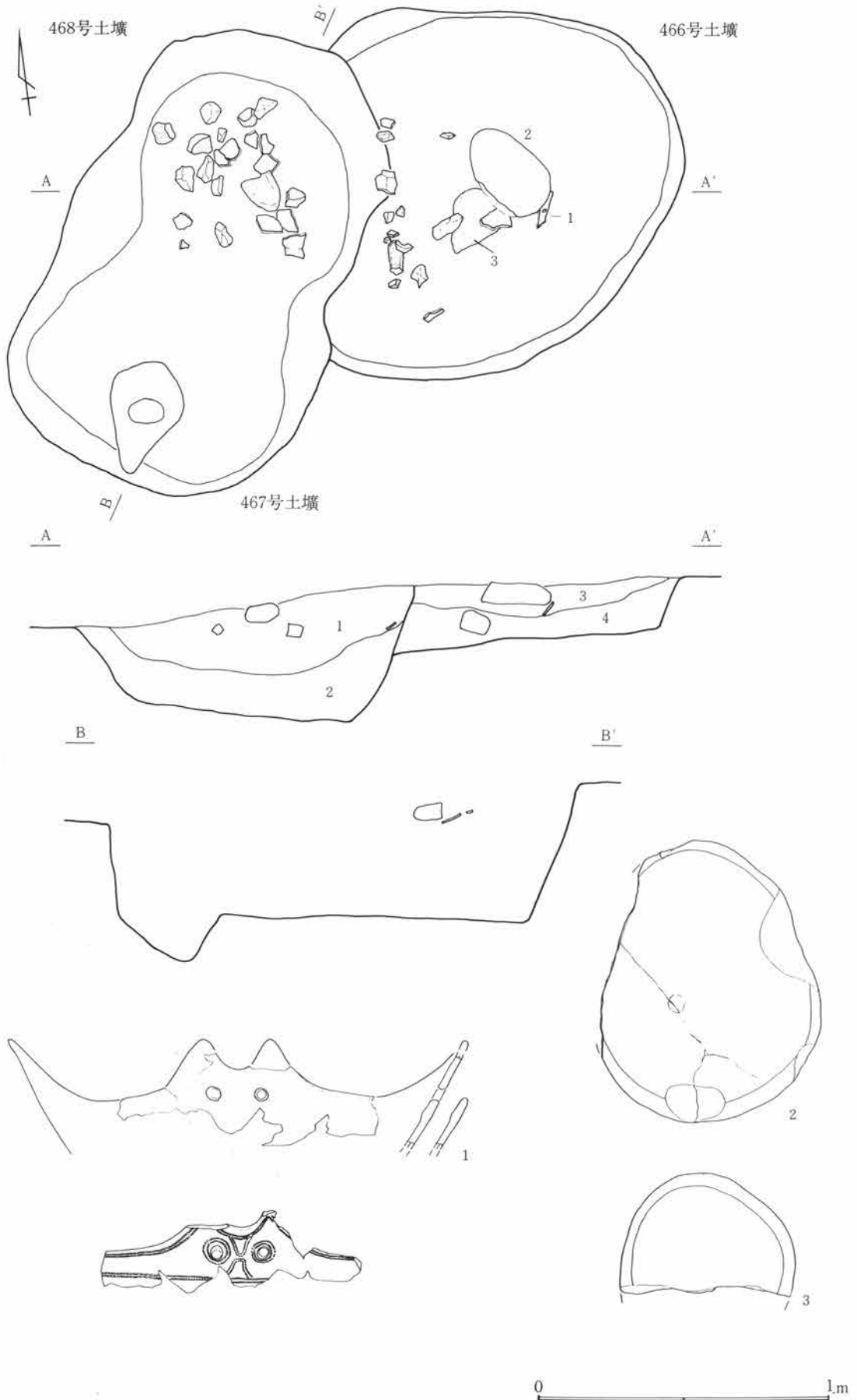


0 1 m

68図 遺物を主体的に出土した土壇



69図 遺物を主体的に出土した土壌



70図 遺物を主体的に出土した土坑

481号土壙(71図)；調査区西南寄りで検出された。北約1mに482号土壙が位置するが、他の土壙群とはやや距離を置く。平面形は小型でやや不整の楕円形状を呈し、断面形は僅かに袋状を呈す。平面形に反して深い。壙底面は中央に向かって凹む。遺物は大型の自然石が北西壁に突き刺さるように寄りかかって置かれ、覆土中位より意匠文を施す小型の深鉢胴部下半が出土した。

479号土壙(72図)；調査区西南端の調査区境にかけて検出された。32号住居址の北約5mに位置する。重複土壙であろう。新旧関係は土層軸の誤設定のため判然としないが、両者とも集石土壙であり、時期的にも極めて近い関係にある。隣合う土壙と考えることも可能である。集石は中位より多量に集中し、大型の自然石も混じる。また、壙底面直上より2個体の阿玉台式の深鉢が出土したが、破片出土であり、2個体とも加熱を受けていた。



479号土壙

484号土壙(73図)；調査区南西の傾斜変換点で検出する。29号住居址と33号住居址の間に位置する。長軸を東西に持つやや不整楕円状の平面形を呈す。中央を現代の浅い攪乱溝が走るが平面形の影響は少ない。壙底面は南に緩やかに傾斜し、壁は外傾する。遺物は北壁際に深鉢2個体、浅鉢1個体が出土した。深鉢2個体のうち1個体は底部であり在地系の施文である。他の1個体は脆弱でやや歪みがあり、口縁部の一部、底部を欠損する。

486号土壙(73図)；調査区南側に占地する29号住居址北約5mで検出した。北から西にかけて2～3mの距離を置いて204号土壙や224号土壙が位置する。平面

形はやや不整の円形を呈す。壙底面は平坦で、壁は直立気味に外傾する。断面形は方形に近い。覆土中位より下位にかけて大型の自然石が多く出土した。焼けておらず、一連の集石土壙とは性格を異にするのであろう。

493号土壙(74図)；調査区中央のやや南寄りで検出された。南約3mに293、294号土壙が位置する。平面形は東西に長軸を持つ不整楕円形状を呈し、断面形は袋状である。壙底面は緩やかに凹み、僅かな凹凸を持つ。出土遺物は破片類が主体で、壙底面よりやや浮いた状態で西壁際に石皿片を見る。

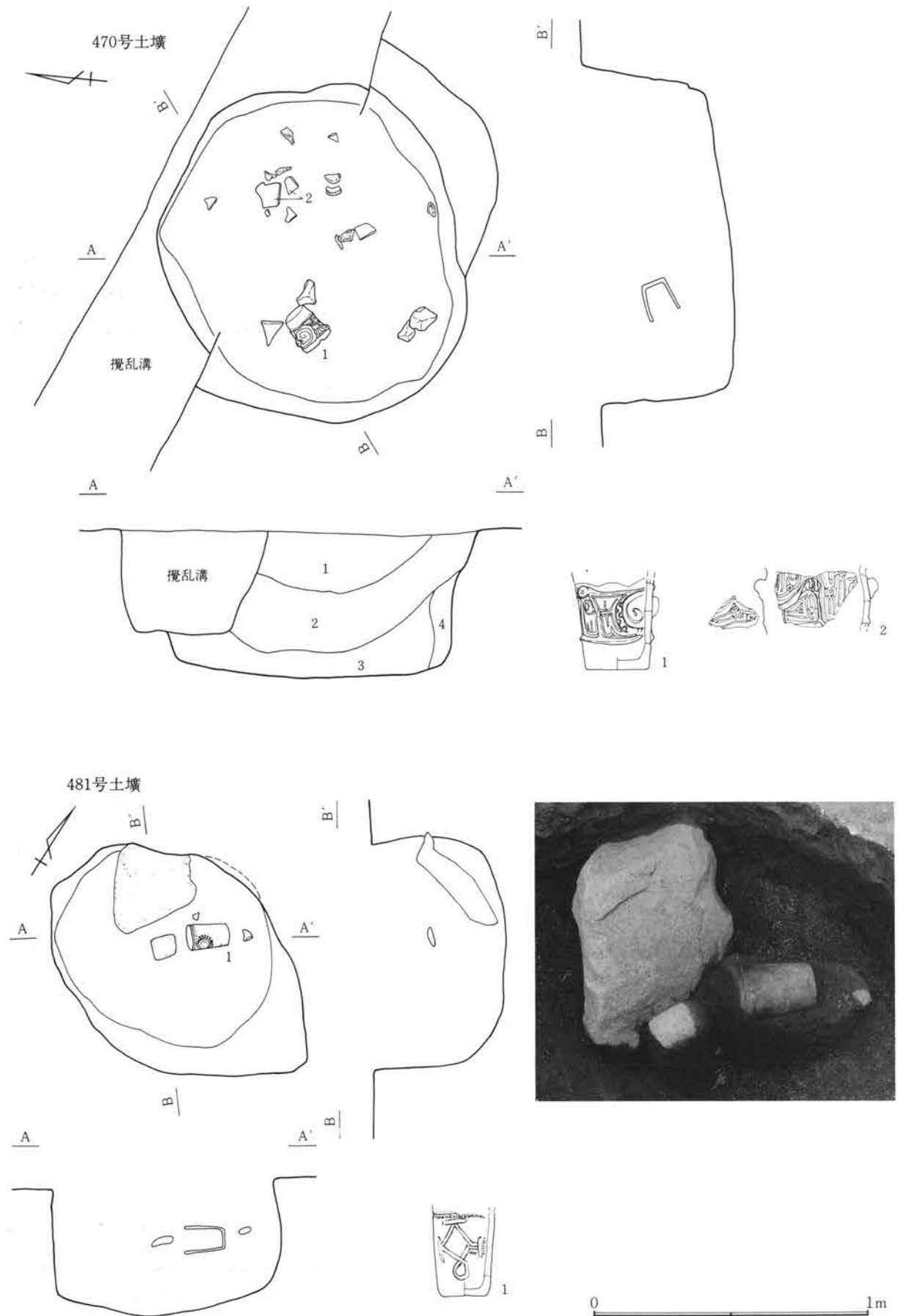
510号土壙(74図)；調査区中央西寄りの平坦地で検出した。36号住居址の北東約6mに位置し、511～513号土壙などが群在する。511号土壙と西壁を重複し、新旧関係は511壙が新しい。平面形は円形を呈し、断面形は袋状である。壙底面は僅かな凹凸を持つがほぼ平坦である。遺物は覆土上層北東壁寄りに大型の石皿が斜めに出土した。

512号土壙(75図)；前述の510土壙と東壁を接する。平面形は円形を呈し、深い方形の断面形である。壙底面は凹凸を持ち、立ち上がりは丸みを帯びる。壁は上位になるとやや外傾するがほぼ直立する。遺物は上層より大型の自然石が出土し、壙底面の北壁際からは小型の深鉢が横位に置かれていた。

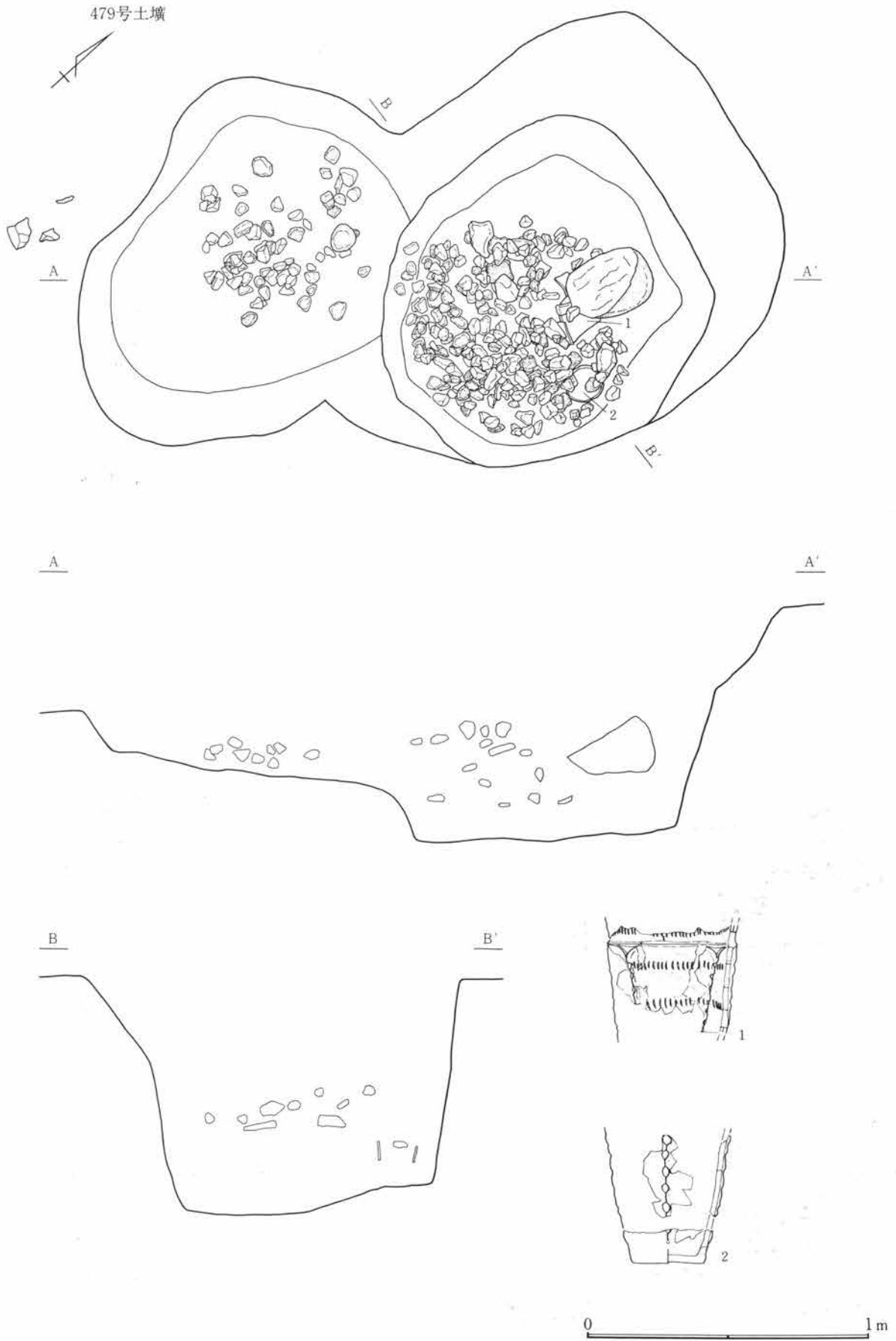
513号土壙(75図)；512号土壙の北に近接する。やや不整円形を呈し、断面形は方形である。壙底面は僅かな凹凸を持つがほぼ平坦で、壁は西壁の一部が若干オーバーハングしているが壁崩壊のためか。遺物は自然石は見ないが512号土壙と同様に小型の深鉢が横位に壙底面より出土した。

530号土壙(76図)；調査区中央のやや西よりで検出された。北には小ピット群や不整形の土壙群が多く分布する。平面形はやや大型の円形を呈し、袋状の断面形である。壙底面は凹凸を持つがほぼ平坦である。壁の立ち上がりは大きくオーバーハングし、東壁以外は上位が外反する。遺物は壙底面北東壁際に自然石が置かれ、覆土下位に大型の深鉢口縁部破片が散らばって出土した。これらの破片の多くは後述する533号土壙出土の阿玉台式土器と接合した。

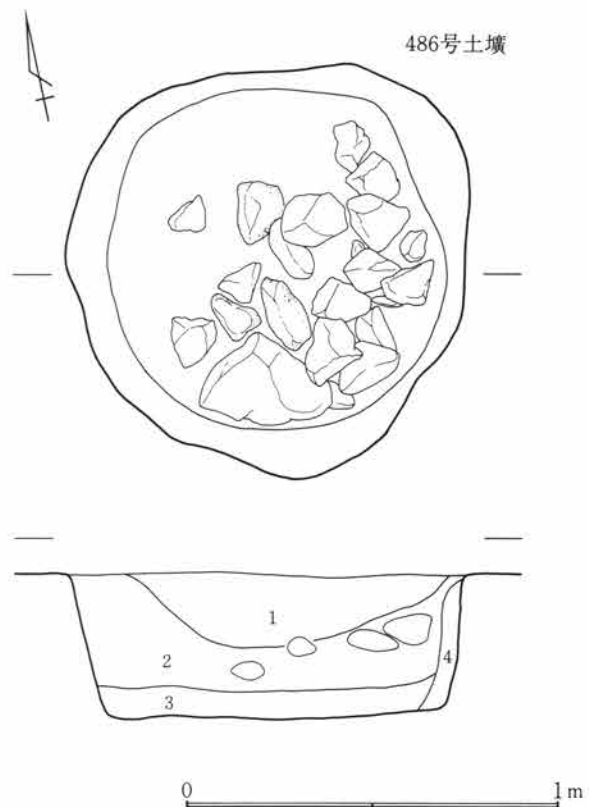
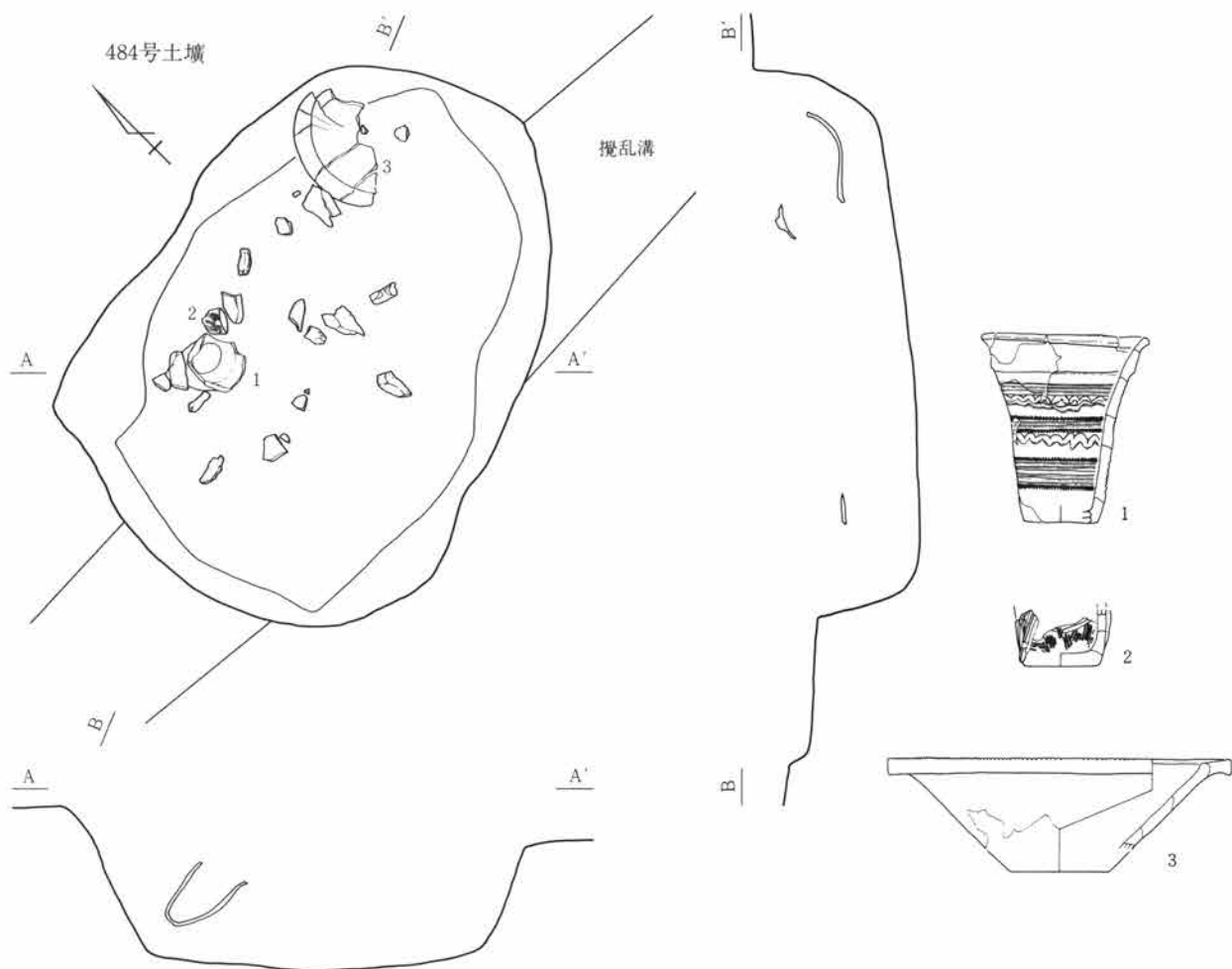
第IV章 遺構と遺物



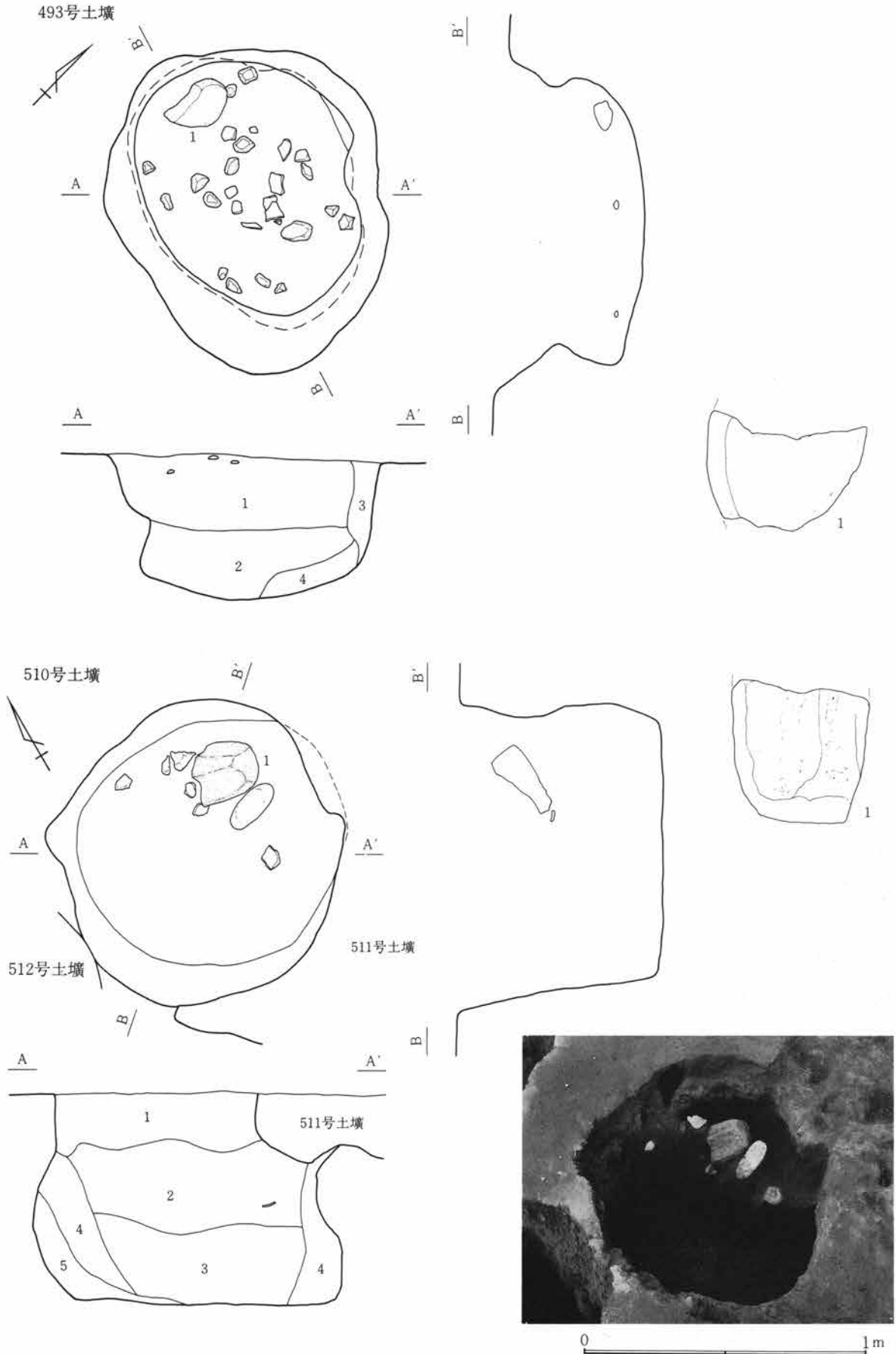
71図 遺物を主体的に出土した土壌



72図 遺物を主体的に出土した土壌

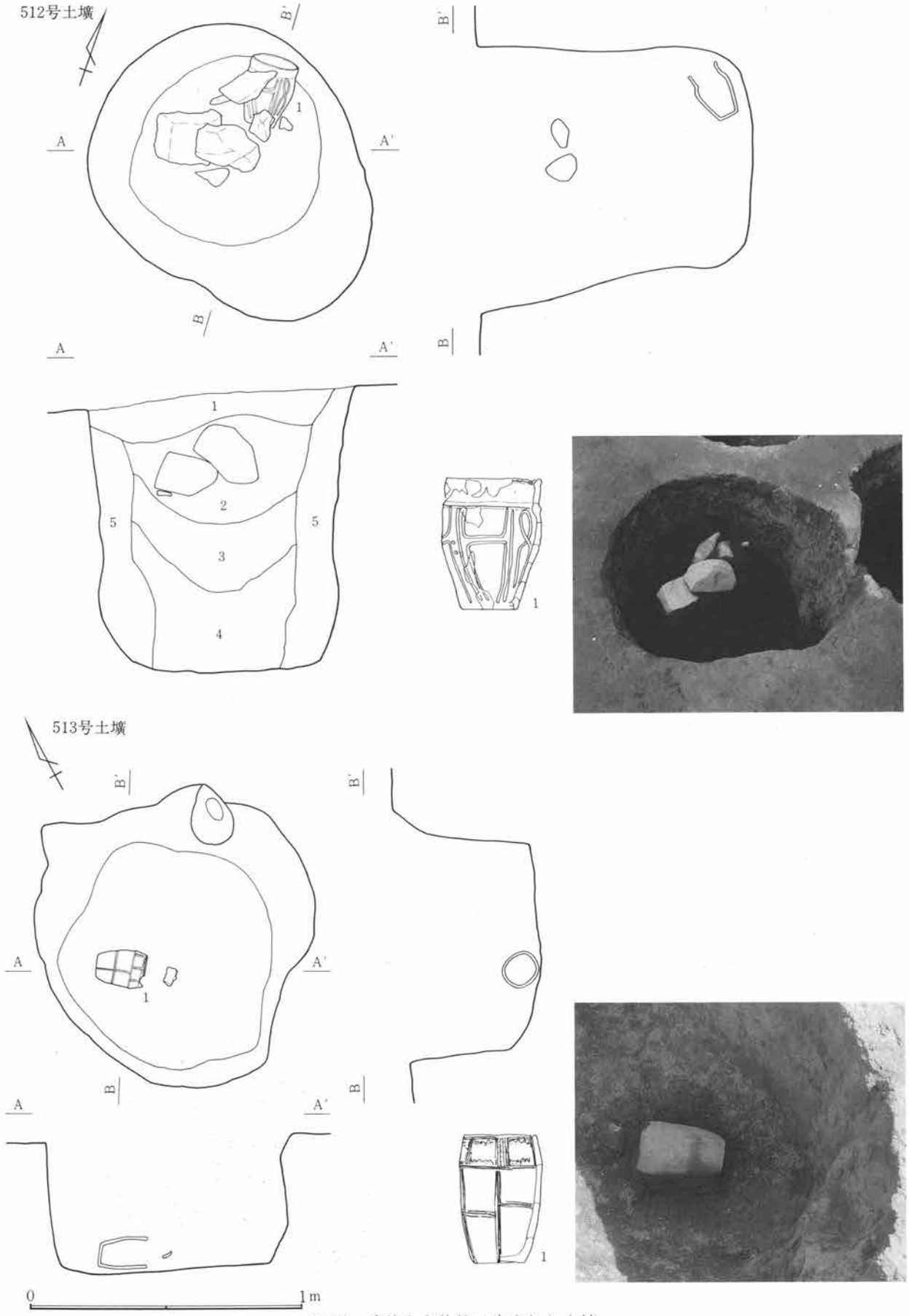


73図 遺物を主体的に出土した土坑



74図 遺物を主体的に出土した土壌

第IV章 遺構と遺物



75図 遺物を主体的に出土した土壌

533号土壙(76図)；530号土壙の北東に接して検出された。平面形は小型の円形を呈す。壙底面は僅かに凹凸を持つがほぼ平坦で、壁は直立気味に外傾する方形に近い断面形態を取る。出土遺物に自然石は見られないが、大型の阿玉台式の深鉢と口縁部を打ち欠いた勝坂式系の小型の深鉢が出土した。

530、533号土壙は平面形状、断面形状とも相違だが、近接すること、遺物の接合関係があることから有機的なつながりが想起されよう。



533号土壙

563号土壙(77図)；調査区中央やや北西寄りに検出された。前述の15、16号土壙の土壙群は西に位置し、また東側にも多数の土壙群、ピット群が密集する。平面形は小型の円形を呈し、断面形状は深く方形である。壙底面は凹凸を持つ。遺物は覆土上層より大型の自然石3個とともに勝坂系の深鉢が出土した。胴部下半を欠損しており、斜位の出土状態を呈す。また小型の深鉢胴部破片もほぼ同レベルで出土した。尚、本土壙は覆土の水洗別作業を行った結果、炭化した栗が確認できた。貯蔵穴としての用途も考えられよう。

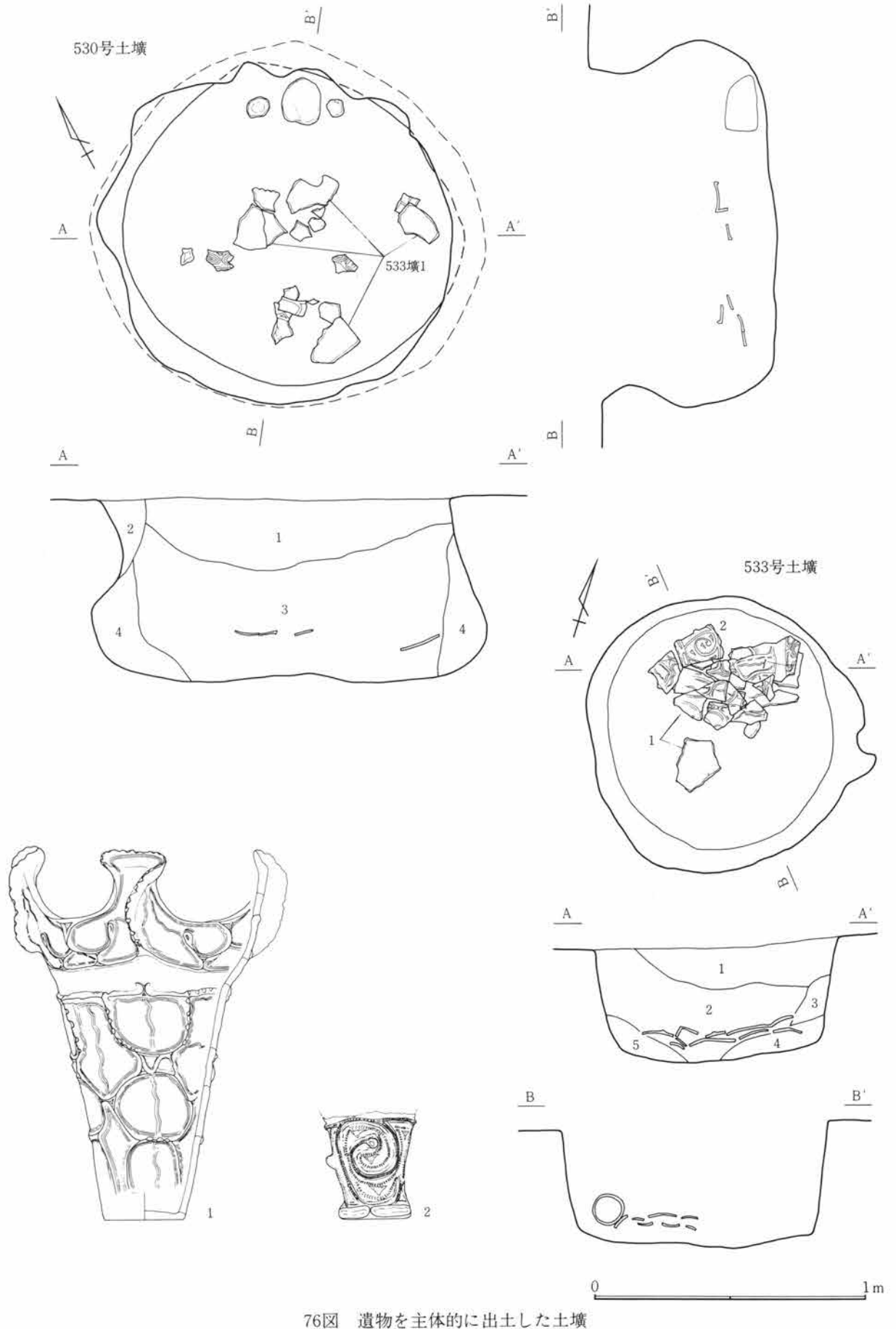
598号土壙(77図)；調査区中央やや北西よりで検出された。35号住居址の南東約10mに位置する。後述する600号土壙は北約1mに近接する。北東壁に599号土壙が僅かに重複するが新旧関係は重複部が僅小のため判断としない。平面形は円形を呈し、壙底面は平坦で壁はほぼ直立する方形の断面形状である。遺物は覆土上層より大型の自然石が重なるように出土した。また、鉢形のミニチュア土器も覆土中位より出土している。

600号土壙(77図)；前述の598号土壙の北に近接する。平面形は円形を呈す。壙底面は凹凸を持つが平坦である。壁もやや凹凸が見られ外傾する。やや浅いが掘り込みはしっかりしている。遺物は大型の自然石3個と在地系の深鉢胴部下半が覆土上層より出土した。

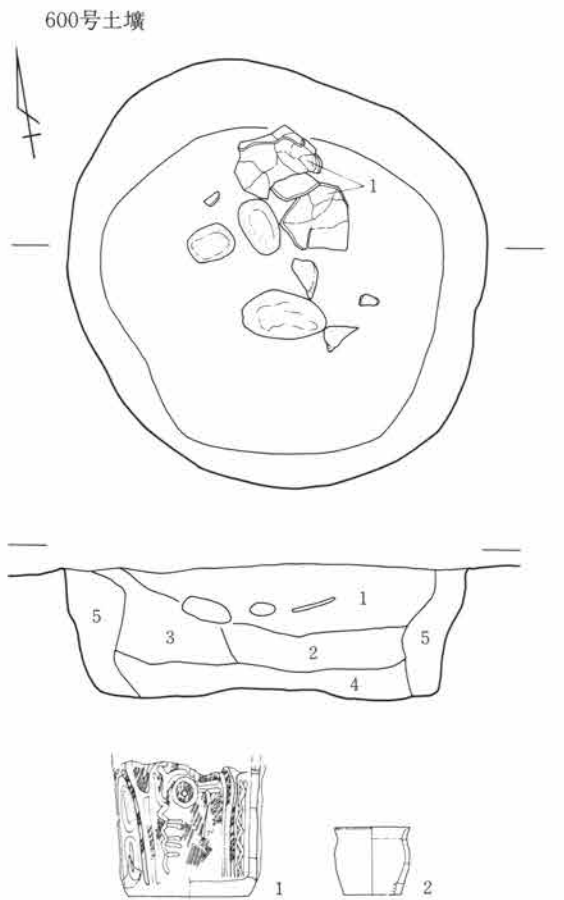
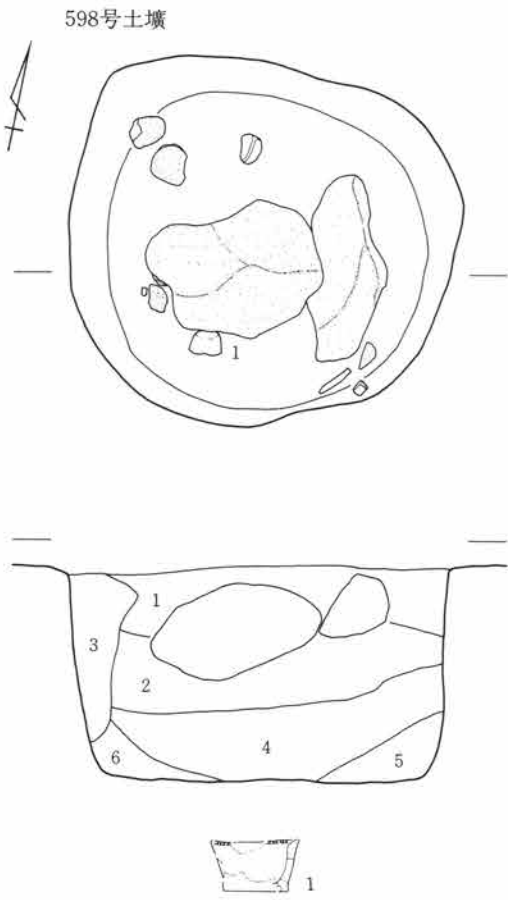
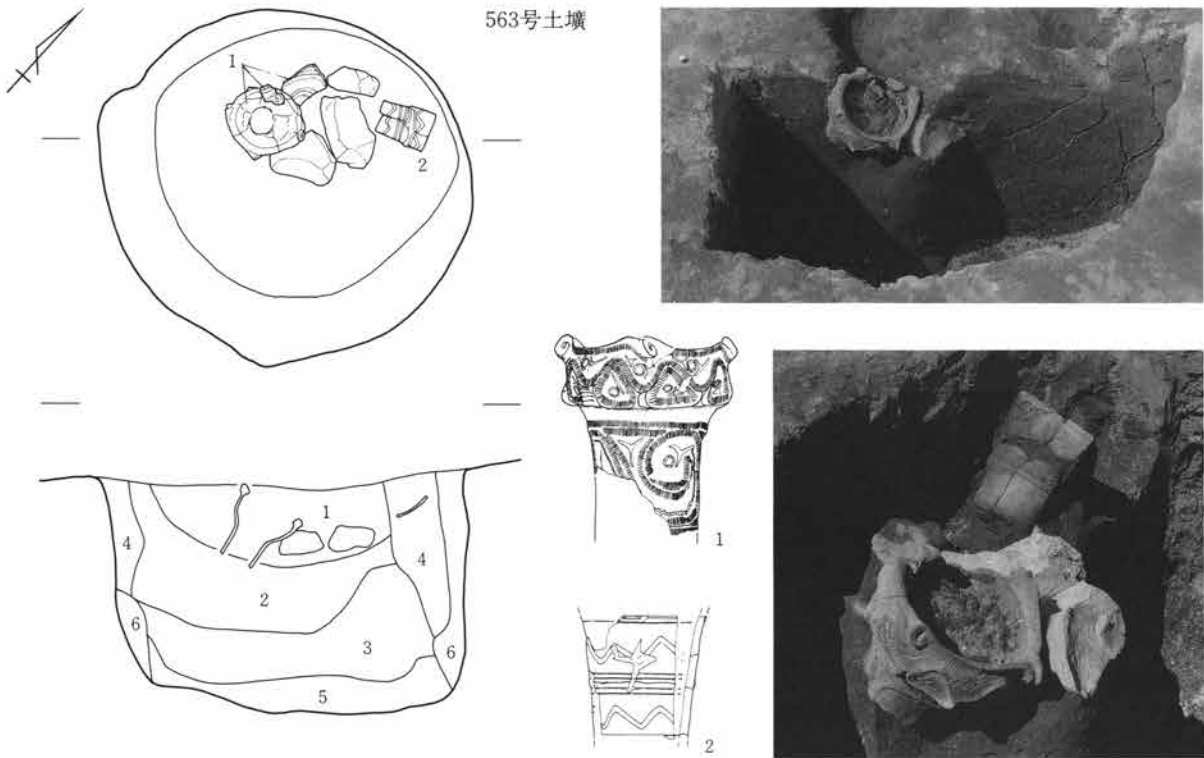
585号土壙(78図)；調査区中央、34号住居址の南に展開する土壙群の中核的な位置で検出された。北東約5mに645、646号土壙が位置する。平面形は小型の円形を呈し、方形の断面形状である。壙底面は中央に緩やかに凹む。本土壙の特筆すべき点は、覆土中位から底面にかけての多量の遺物出土である。覆土中位には深鉢底部が小型の自然石とともに出土し、周辺の土器片も小型のものが多い。出土遺物の主格は新道式系の大型の深鉢であろう。壙底面に逆位に伏せた状態で出土した。口縁部に突起が付くが突起は打ち欠かれていた。この逆位深鉢の内部に意匠文を施す小型の深鉢、赤色塗彩を施す浅鉢が出土している。この3個体は同時性を示す好資料である。



585号土壙(上下とも)

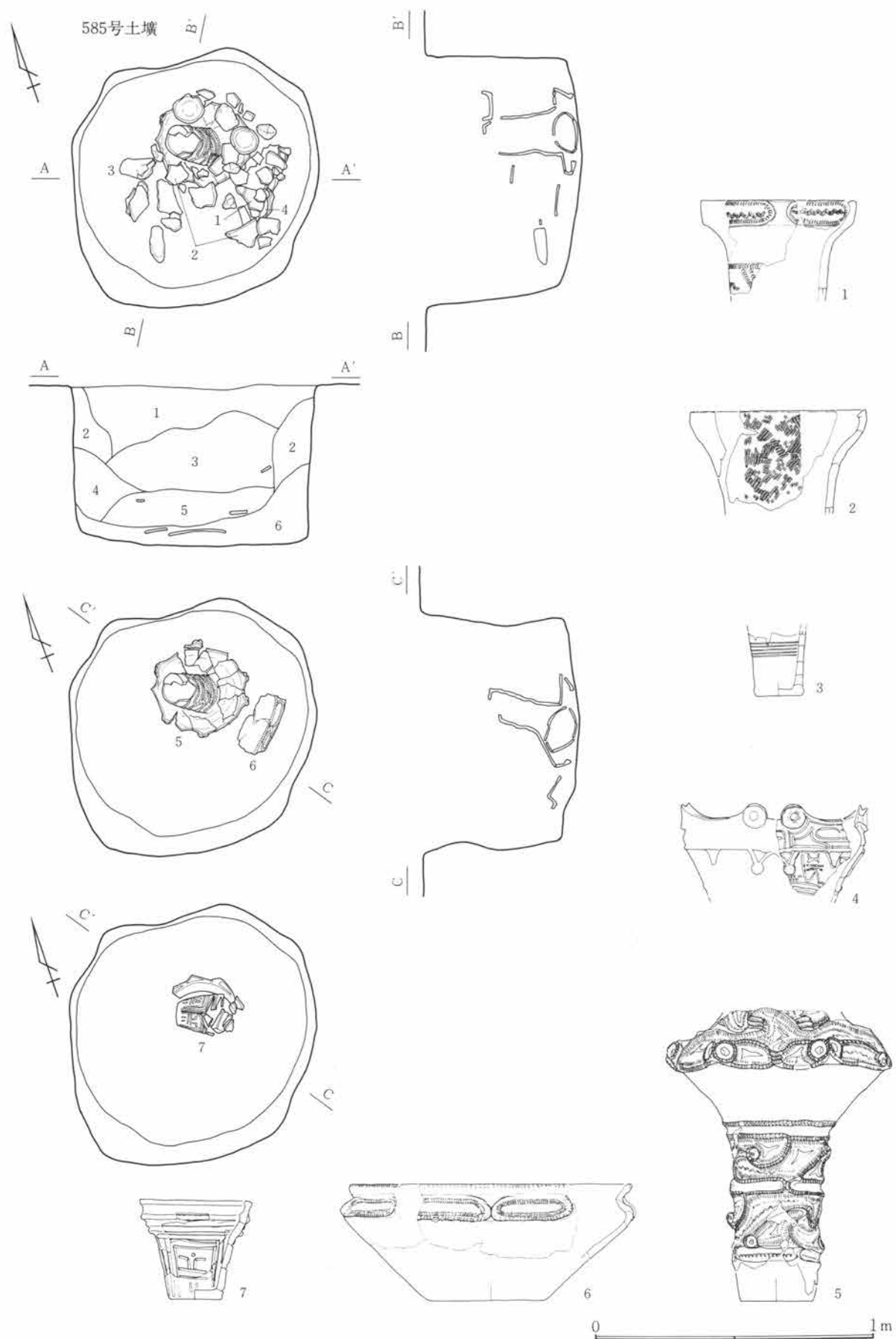


76図 遺物を主体的に出土した土坑



0 1m

77図 遺物を主体的に出土した土壌



78図 遺物を主体的に出土した土壇

625号土壙(79図)；調査区中央の北寄りで検出された。34号住居址が東約3mに位置する。南には後述する627、631号土壙が近接する。平面形は小型の円形で、やや浅く、壙底面は平坦である。壁は外傾する。出土遺物は小型の自然石が比較的集中して覆土中位より見られ、深鉢が壙底面より破片で出土した。非常に脆弱な土器で、取り上げに困難を伴いまた接合は殆ど不可能であった。



625号土壙

627号土壙(79図)；625号土壙の南西約1mに位置する。小型の土壙である。平面形は円形を呈し、壙底面は平坦である。壁は外反気味に立ち上がる。遺物は壙底面より石棒の胴部片が出土した。

631号土壙(79図)；調査区中央やや北寄りで検出された。北東1.5mには34号住居址が位置する。平面形はやや不整形円形を呈し、下端も乱れている。断面形状は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。壙底面は僅かに凹凸を持ち平坦である。遺物は上面より大型の自然石と阿玉台式の深鉢口縁部破片が出土した。土器は個体図示し得たが主体的な出土とは考えにくい。

638号土壙(80図)；調査区中央のやや東寄りで検出された。北西約1mに34号住居址が位置する。平面形はやや不整形円形を呈し、浅く皿状の断面形状である。遺物は覆土中位やや北寄りで小型の自然石が集中して出土したが、集石土壙ほどの密度ではなく、やや個数も少ない。しかし礫の大半が焼けており、本土壙も集石土壙として捉えたい。

645・646号土壙(80図)；調査区中央で検出された。631号土壙が北約5mに位置する。重複土壙であり、645号土壙は集石土壙である。両土壙とも不整形円形を呈し、

646壙は方形の平面形に近い。断面形状は類似し、壙底面は中央に緩やかに凹み、壁は外傾する。新旧関係は646壙が645壙の東壁を切る。646壙の東壁には828壙が接するが重複部分が僅小のため新旧は判然としない。遺物は645号土壙の覆土中位北寄りに集石が集中し、また大型の在在系の深鉢が破損した状態で出土した。胴部は比較的完存に近い。その他無文の小型深鉢口縁部破片が出土したが、この土器片は646壙の壙底面出土の破片と接合した。新旧関係がありながら両土壙の密接な関わりが考えられよう。



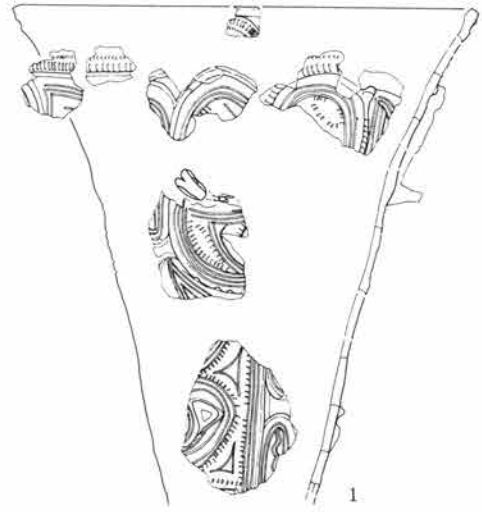
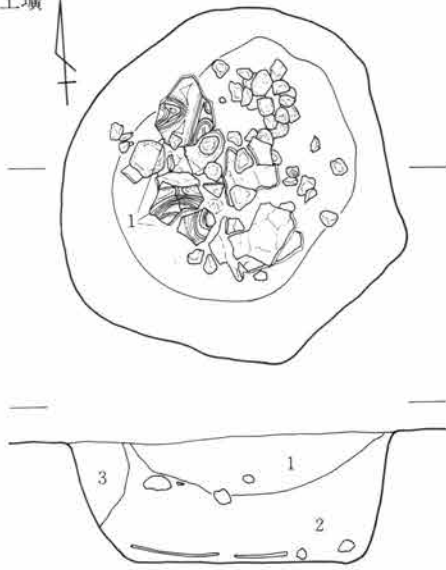
645号土壙

648号土壙(81図)；34号住居址の南約1mの位置で検出した。周辺には不整形の土壙群や集石土壙が分布し、本土壙も平面形状は不整形を呈す。浅い皿状の段面形態を呈し、壁の立ち上がりも比較的緩やかである。遺物は覆土中位より小型の自然石や土器片が多数出土したが、他に見られるような主体的な出土ではない。

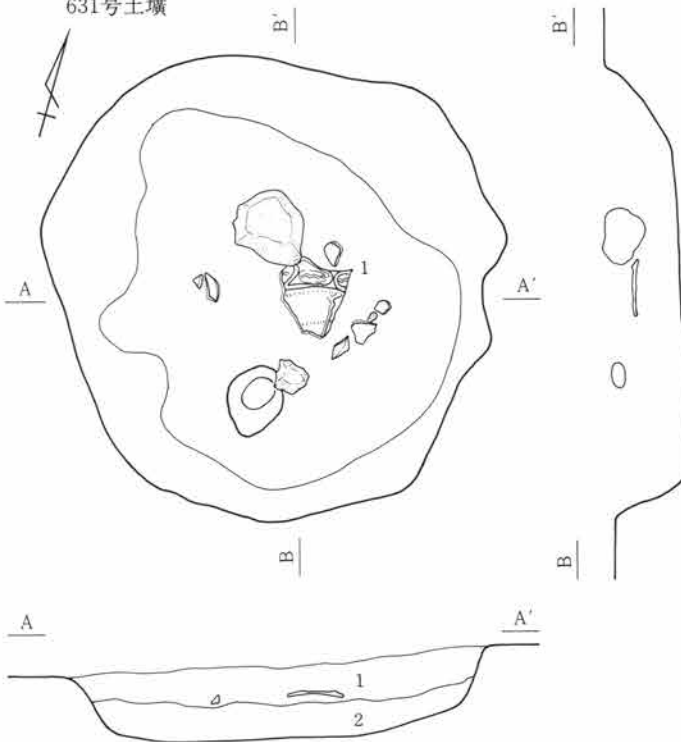
655号土壙(81図)；調査区中央やや東寄りで検出した。34号住居址の南東約8mに位置する。南壁に724号土壙が接する。また、3m南には657号土壙が位置する。平面形は円形を呈す。壙底面は僅かな凹凸を持ち、ほぼ平坦である。壁は直立気味に立ち上がり断面形状は方形を呈するが、西壁の中位がオーバーハングし袋状となる。遺物は覆土上層より土器片とともに小型の自然石が集中した。集石土壙と考えたい。尚、724壙も集石土壙である。

657号土壙(82図)；調査区中央東寄りで検出した。前述の655号土壙の南3mに位置する。本土壙の南には761、762土壙などがやや距離を置いて群在する。平面形は六角形の不整形を呈し、下端も上端に沿う。壙底

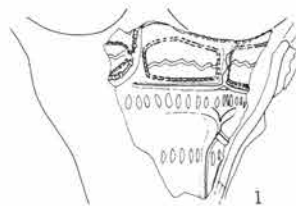
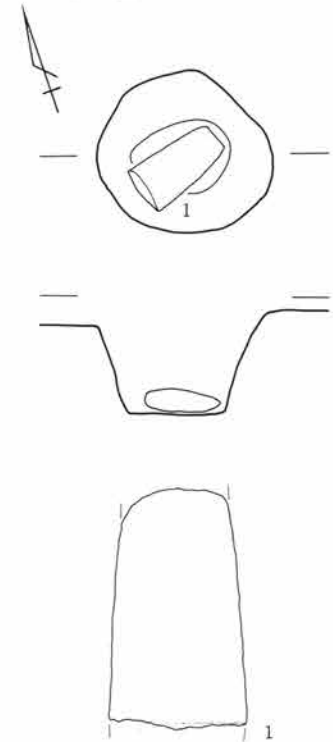
625号土壌



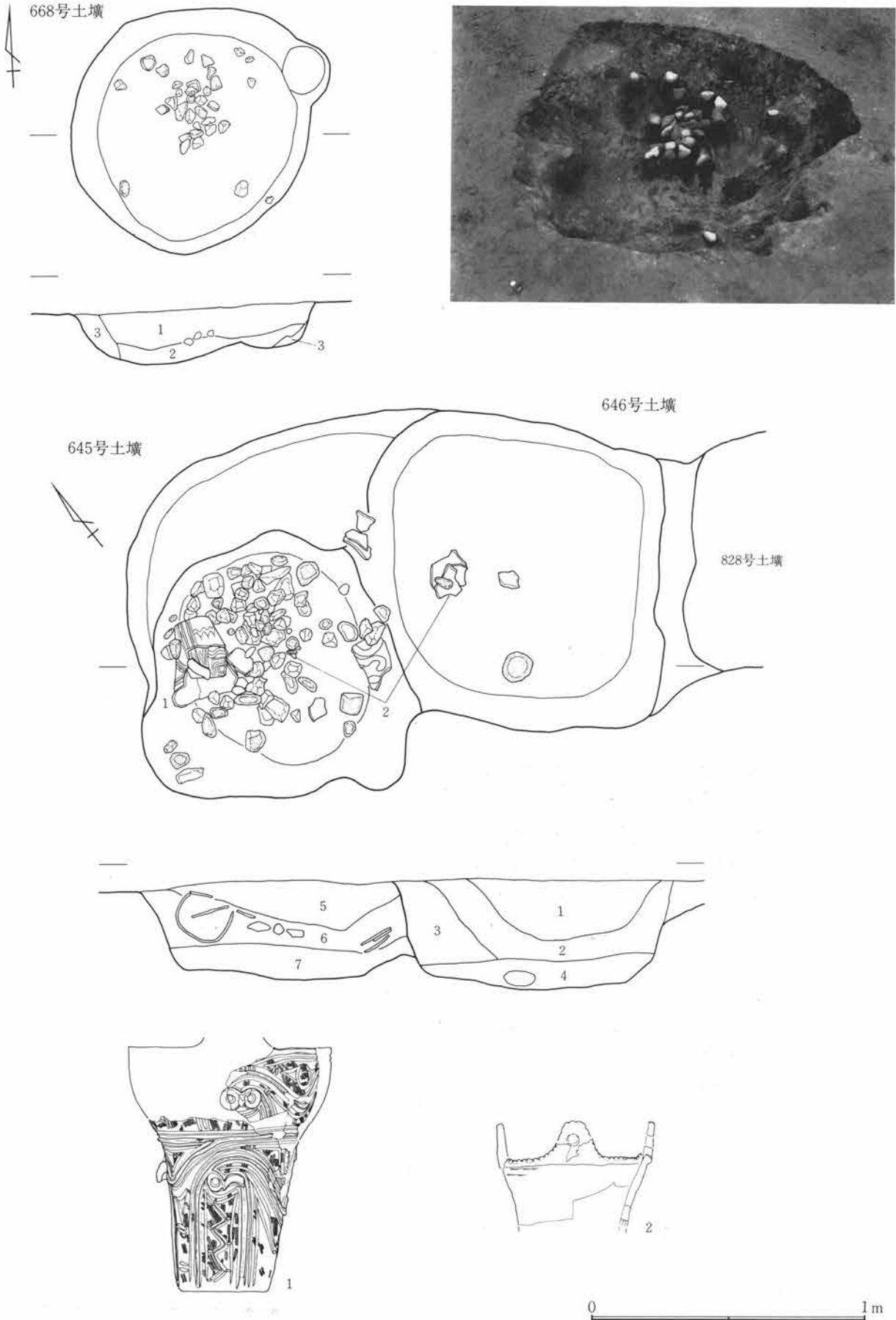
631号土壌



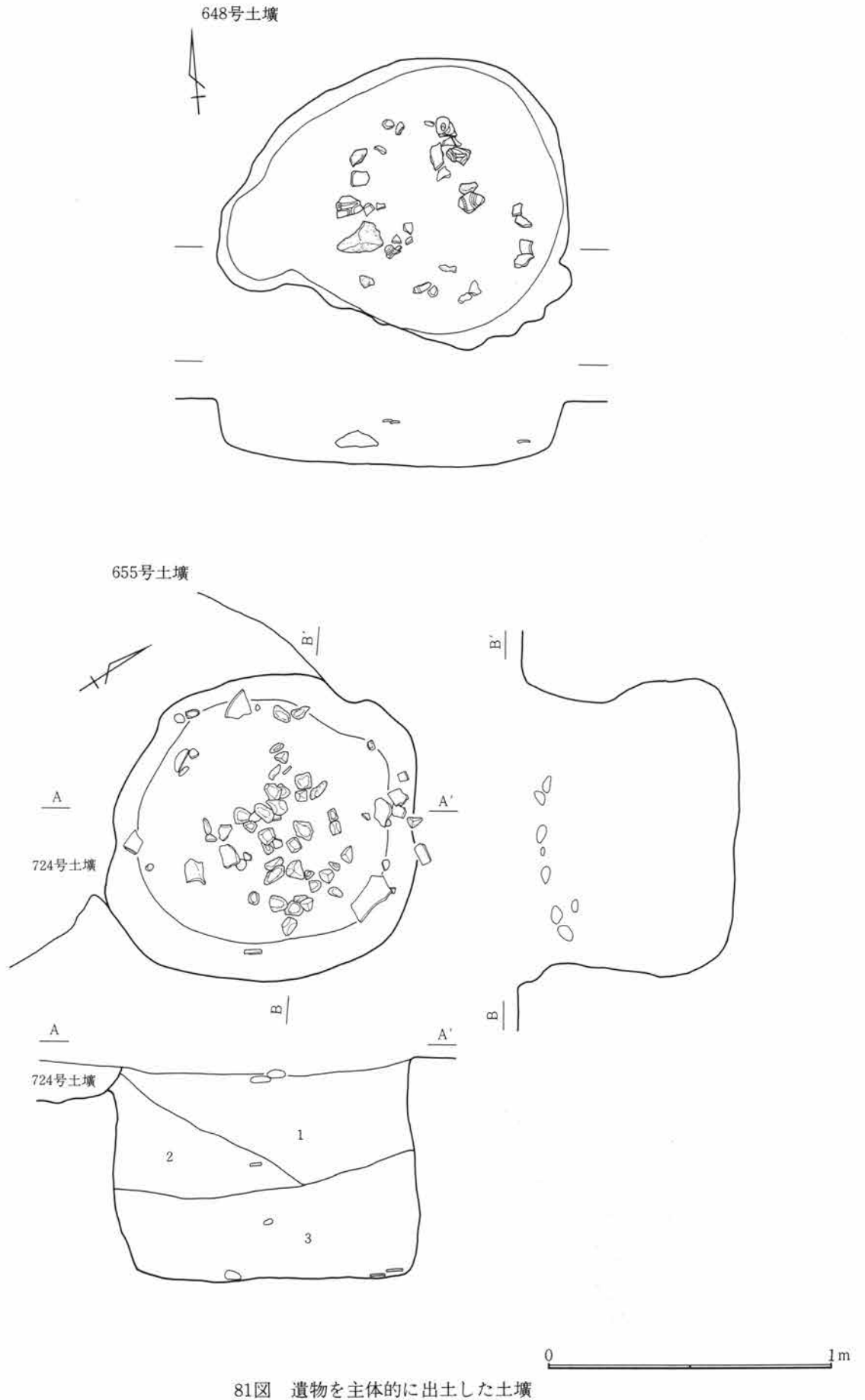
627号土壌



79図 遺物を主体的に出土した土壌



80図 遺物を主体的に出土した土坑



81図 遺物を主体的に出土した土壌

面は平坦で、壁は直立気味に外傾する。遺物は上面より大型の自然石が多数出土した。また、壙底面中央からは小型の深鉢が破損した状態で出土した。



657号土壙

724号土壙(82図)；前述の657号土壙と北壁を接する集石土壙である。平面形は円形を呈し、断面形はやや浅く皿状に近い。壙底面は中央に向って緩やかに凹み、凹凸も持つ。集石は小型の自然石で半数以上が加熱を受けていた。土器は中層から壙底面にかけて3個体の深鉢下半が出土した。いずれも上半を打ち欠いた状態である。3は脆弱な土器で壙底面に押し潰された状態で出土した。尚、4の浅鉢は覆土上層の出土で主体的なものではない。



724号土壙

729号土壙(83図)；調査区南側の傾斜変換点に位置する。北東約2mに29号住居址が位置する。南東に位置する198号土壙とは2mの距離を置く。平面形は小型の円形を呈し、段面形状は方形に近い。壙底面は東から南にかけて傾斜し、僅かな凹凸を持つ。壁は直立気味に外傾する。遺物は小型の自然石とともに阿玉台式の深鉢がやや斜位で出土した。ほぼ完形だが、突起の一

部を欠く。

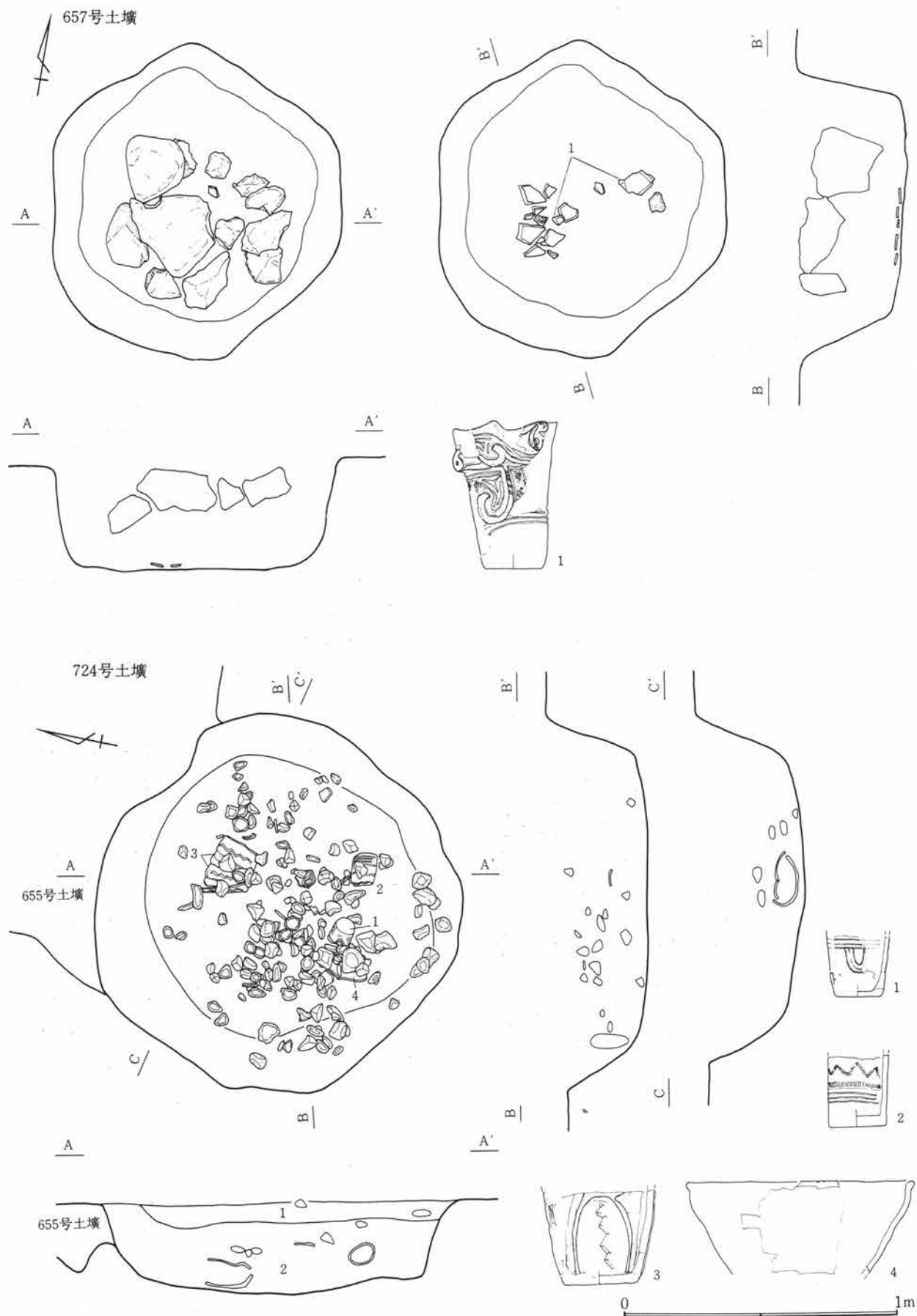
734号土壙(83図)；調査区西よりの突出部にかかる位置で検出した。36号住居址が東約2mに占地する。737号土壙と東壁を重複するが新旧関係は判然としない。平面形はやや不整円形を呈し、壙底面は東側へ緩やかに凹み、壁は直立気味に外傾する。覆土中位より集石が認められ比較的密に集中する。また、覆土下位から壙底面にかけて阿玉台式の深鉢と、勝坂系の小型深鉢が並列して出土した。両土器ともやや脆弱である。

736号土壙(84図)；734号土壙の西約1mに近接して検出された。間にシミ状を呈する734号土壙が重複するが新旧関係などは不明である。本土壙自身も重複土壙の形態を呈し、双円状であるが土層軸の誤設定のため不明点が多く、敢えて単体の土壙として処理した。壙底面は平坦で段差は認められない。壁は外傾するが北壁の一部はオーバーハングする。遺物は覆土上層より脆弱な土器が比較的まとまって破損した状態で出土した。波状口縁を呈する在地系の土器であろう。

737号土壙(84図)；前述の734号土壙と重複する土壙である。734土壙は集石土壙だが本土壙より出土する礫量は少なく、覆土上層より出土したやや大型の自然石が目立つ。尚、734壙との境に集石を集中するが帰属がどちらの土壙かは不明である。小型の平面形を呈し、東壁がオーバーハングする。

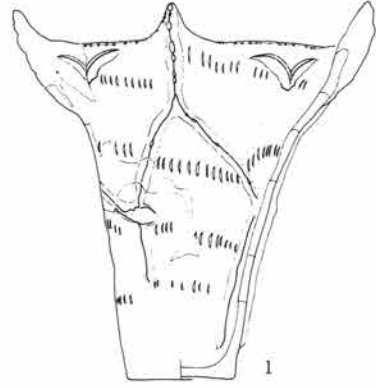
738号土壙(85図)；調査区西側で検出した。36号住居址の東約1mに近接する。東側と南側を745号土壙などが囲むように分布する。平面形は小型の円形を呈し、断面形状は方形である。壙底面は中央部が若干盛り上がり、壁際に向って緩やかに傾斜する。遺物は585号土壙と並び良好な出土量を誇る。ほぼ完形の深鉢4を中心にして、小型の深鉢と脆弱な浅鉢が覆土上層からまとまって出土した。土器の下位には大型で板状の自然石が置かれていた。

740号土壙(85図)；36号住居址西壁に接して検出された。周辺には後述する739号土壙や737号土壙が近接して分布する。平面形状は上端では楕円状を呈するが浅い皿状の落ち込みとの重複も考えられ、主体的なプランは円形を呈する。壙底面は平坦で壁は外傾する。しっかりした掘り込みである。遺物は覆土中位より大

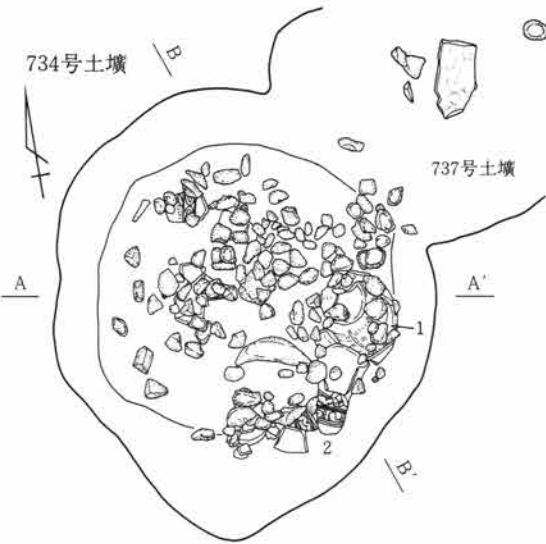


82図 遺物を主体的に出土した土壌

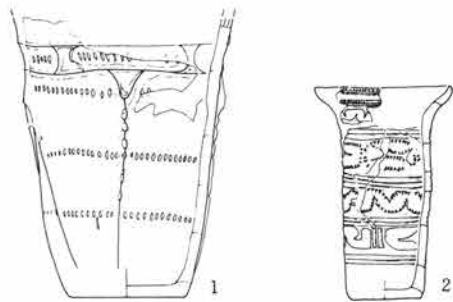
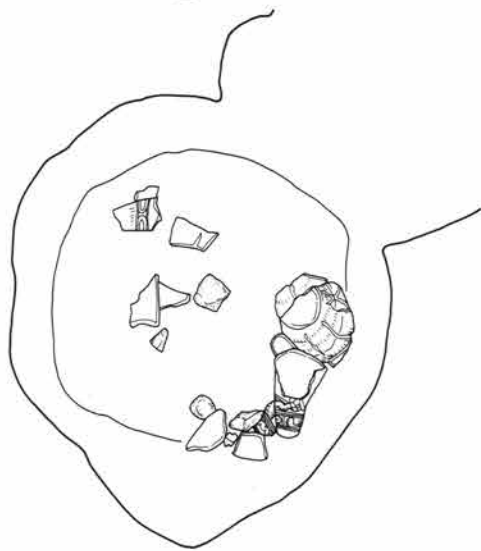
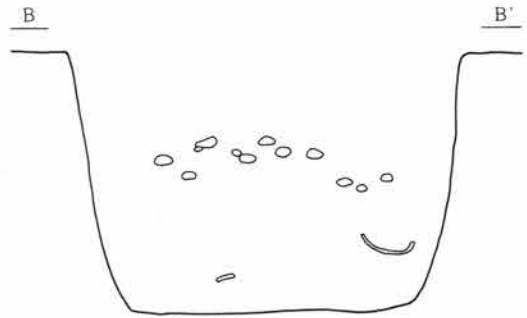
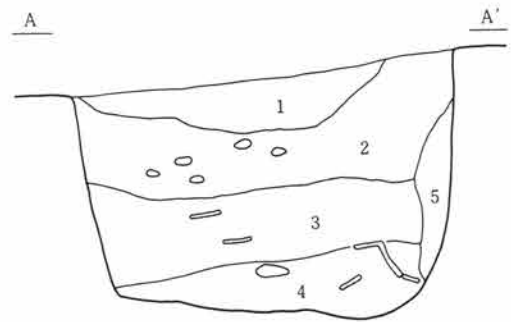
729号土壇



734号土壇

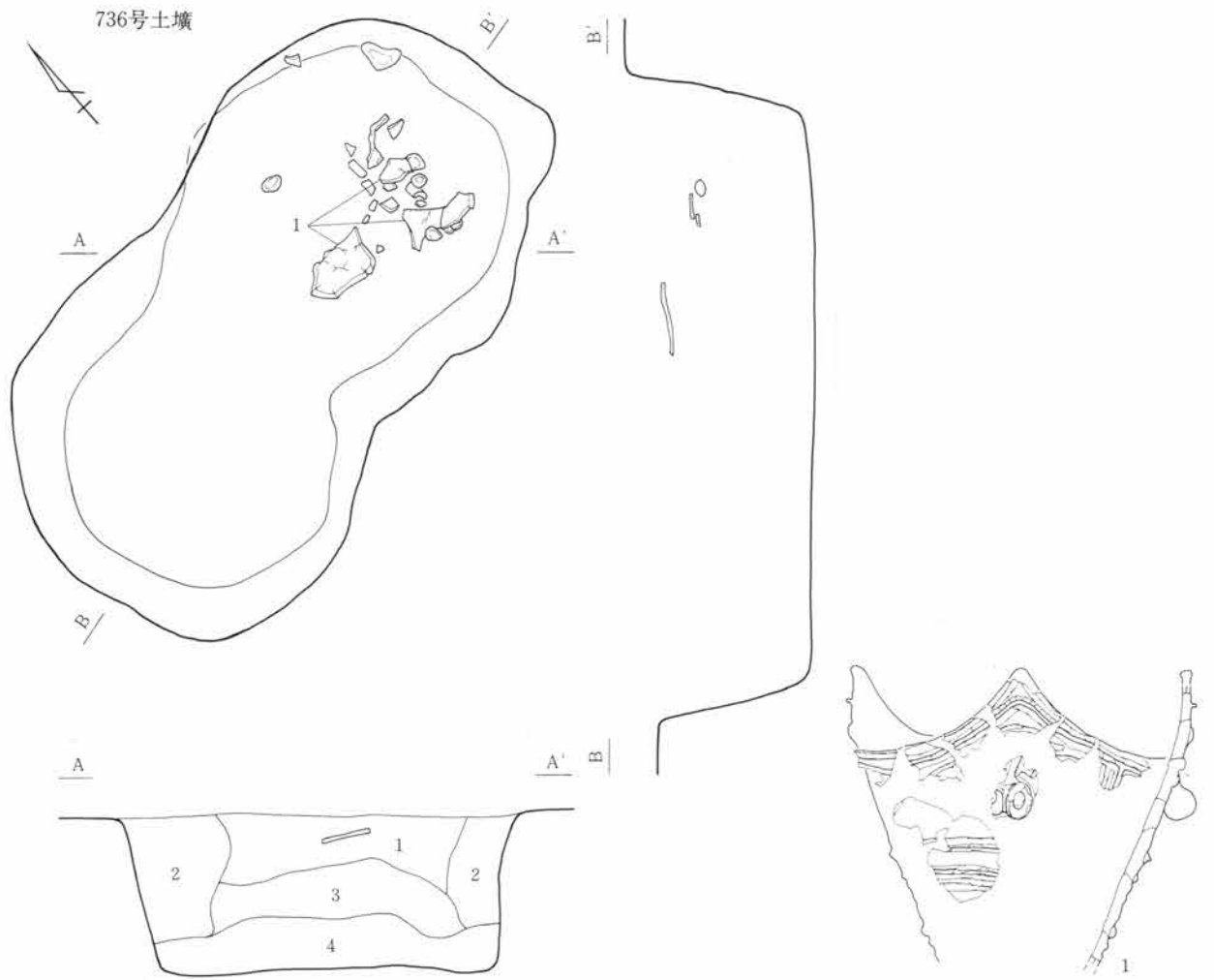


737号土壇

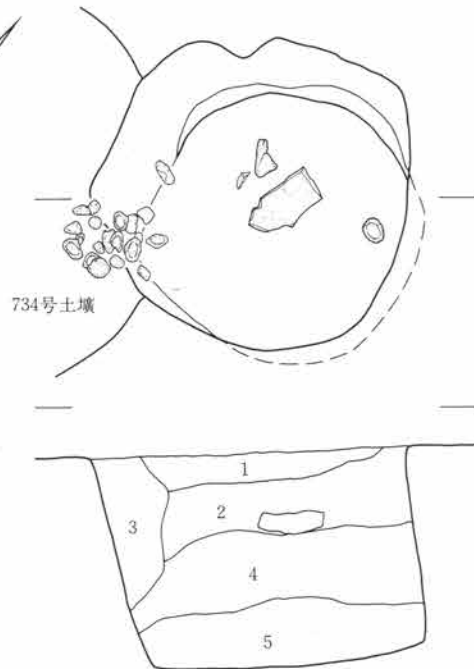


0 1m

83図 遺物を主体的に出土した土壇

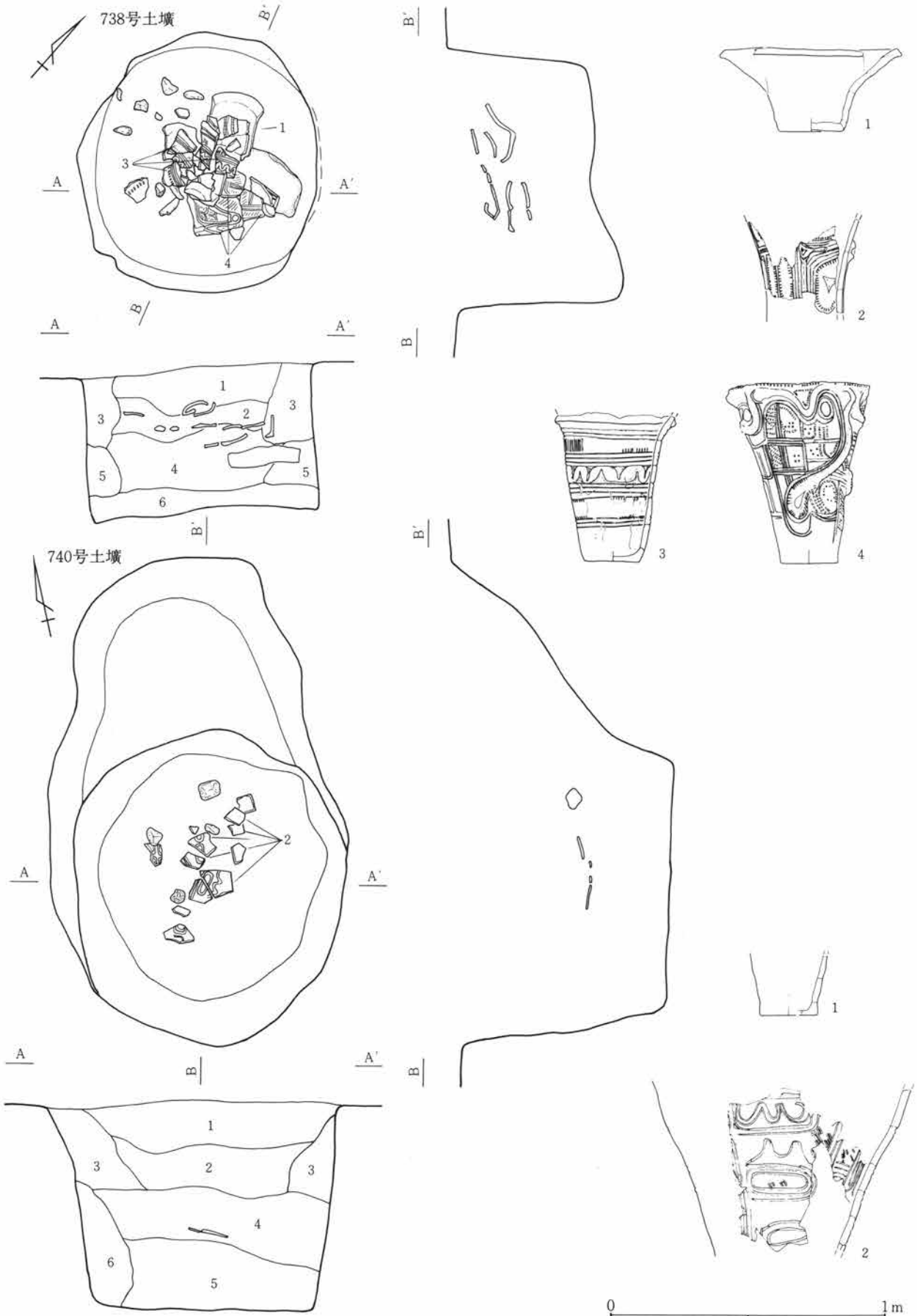


737号土壇

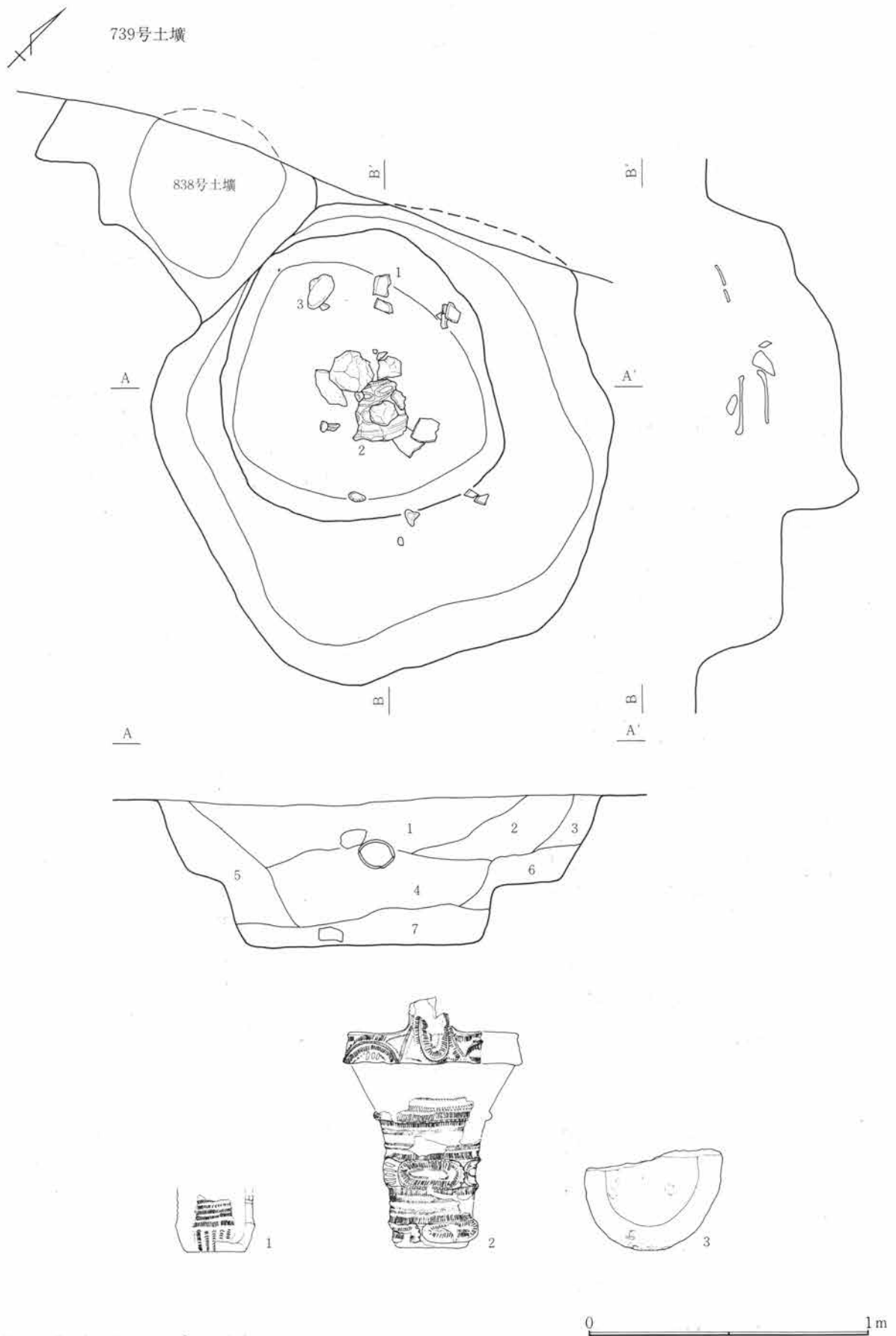


0 1m

84図 遺物を主体的に出土した土壇



85図 遺物を主体的に出土した土坑



86図 遺物を主体的に出土した土壇

型の深鉢胴部破片が比較的まとまって出土した。

739号土壙(86図)；36号住居址北に接し、北壁が調査区外にかかる。西壁を838号土壙と重複するが新旧関係は不明である。平面形は大型の円形を呈す。断面形は段を持ち、テラスを東側に持つ特徴的な形態である。断面観察で重複が認められないことから単体の土壙として考えられよう。出土遺物は中空状の突起を持つ勝坂式系の深鉢と小型の深鉢胴部下半が覆土中位より出土した。また、西壁寄りからは石皿片を見る。



739号土壙

744・745号土壙(87図)；調査区西寄りで検出された。前述の738号土壙は西約2mに位置する。重複土壙で新旧関係は745壙が744壙を切る。両土壙ともシミ状の落ち込みや小ピットの影響は受けるが、円形の平面形を呈し、断面形は緩やかな袋状を呈する。壙底面は745壙が平坦で、744壙は緩やかに凹む。遺物は両土壙とも自然石の出土を見る。特に745壙の北壁から大型のものをみる事ができる。また、744壙の覆土中位からは底部を欠いた小型の深鉢が横位で出土した。

750号土壙(87図)；調査区西の突出部で検出された。約3m南に429号土壙などの一群が分布する。平面形は小型の円形を呈するが、北側を水道管による攪乱溝で大きく破壊され、遺存状態は不良である。断面形は方形を呈し浅い。壙底面は平坦である。遺物は壙底面に接してやや斜めに小型の深鉢が半欠状態で出土した。

761・762号土壙(88図)；調査区東寄りの平坦地で検出された。周辺には後述する763、765号土壙といった集石土壙などが分布する。766号土壙は東側に近接する。重複土壙であり新旧関係は762壙が761壙を切る。762壙の西に760壙が重なるが新旧は不明である。

761壙は長軸を東西に持つやや不整形円形を呈す。西側に浅い落ち込みがかかるがシミ状であり本土壙とは関係が薄い。壙底面は中央部に向かってなだらかに凹み、壁も緩やかな立ち上がりを呈す。遺物の出土状態は良好である。壙底面直上より勝坂系の深鉢と、大木系の深鉢が折り重なるように伴出した。両深鉢とも口縁部を欠く。勝坂系の深鉢は北壁寄りに斜位に置かれ、その直下に大木系の深鉢胴部が横位に潰された状態で出土した。この深鉢の底部はやや離れた中央部に見る。

762壙はほぼ円形を呈し、断面形は方形であるが、761壙と重複する南壁は若干袋状を呈す。壙底面は平坦で壁は直立する。遺物は壙底面より僅かに浮いた状態で深鉢胴部下半が横位で出土した。勝坂系の小型深鉢である。



761号土壙

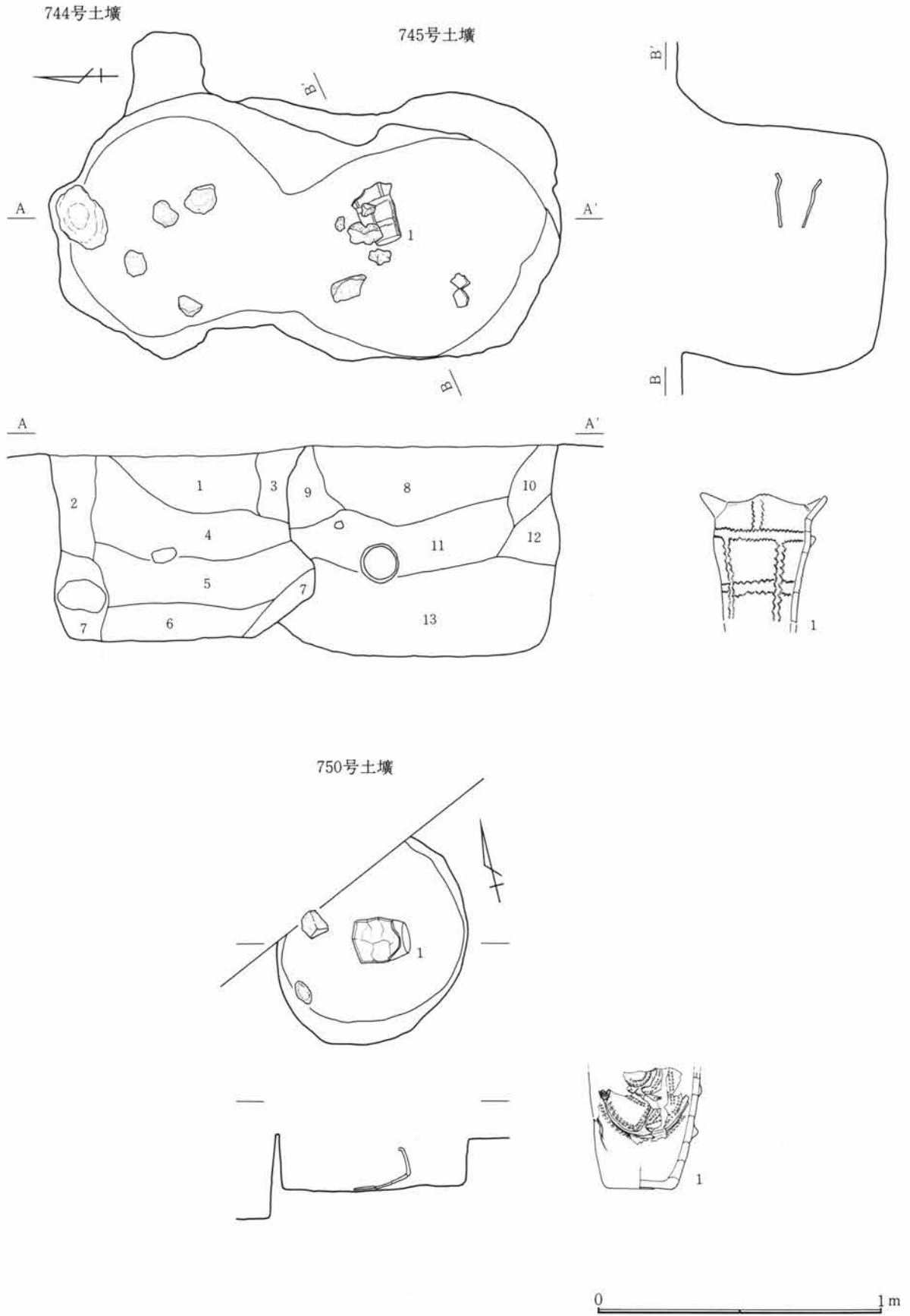


761号土壙

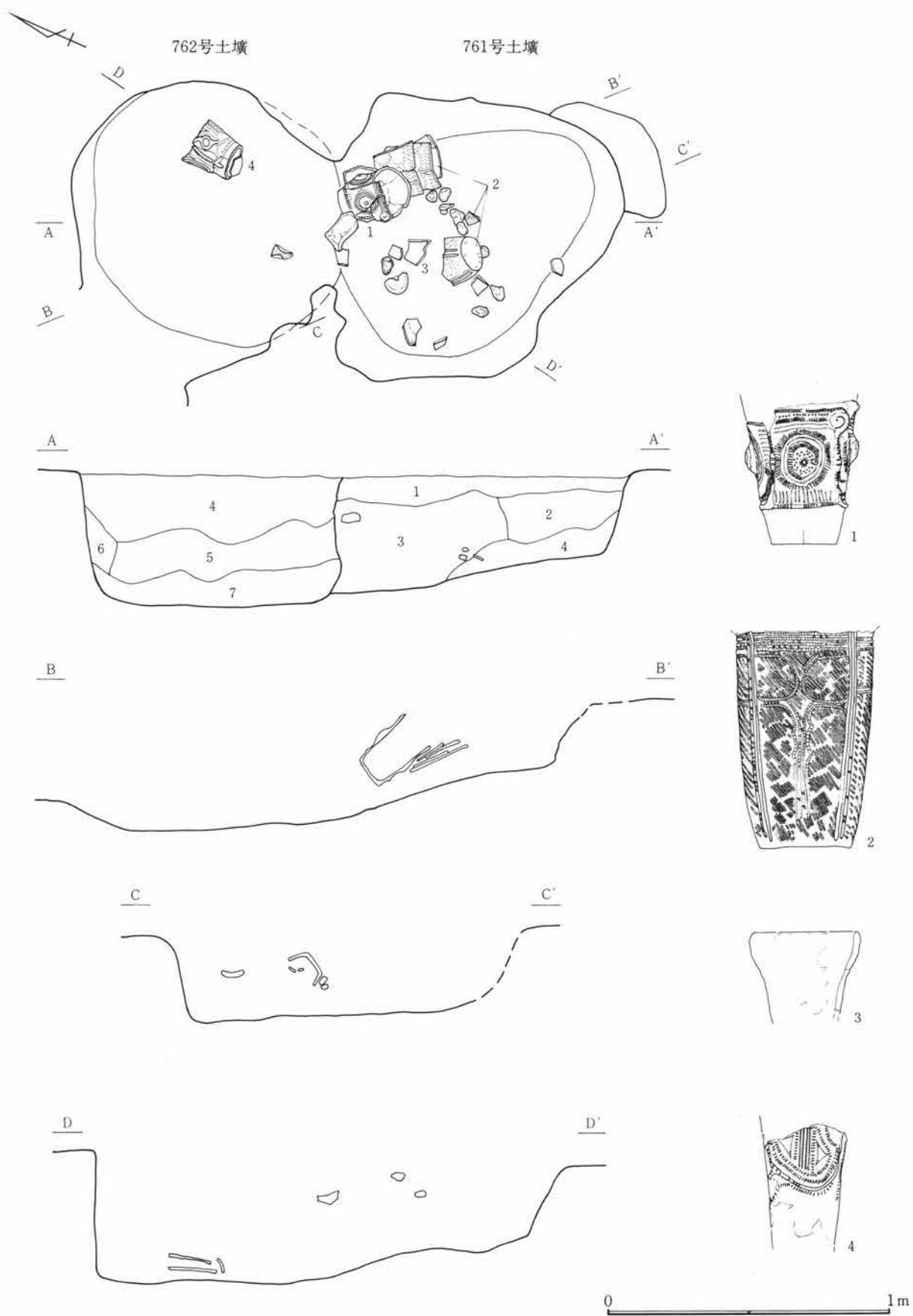


762号土壙

第IV章 遺構と遺物

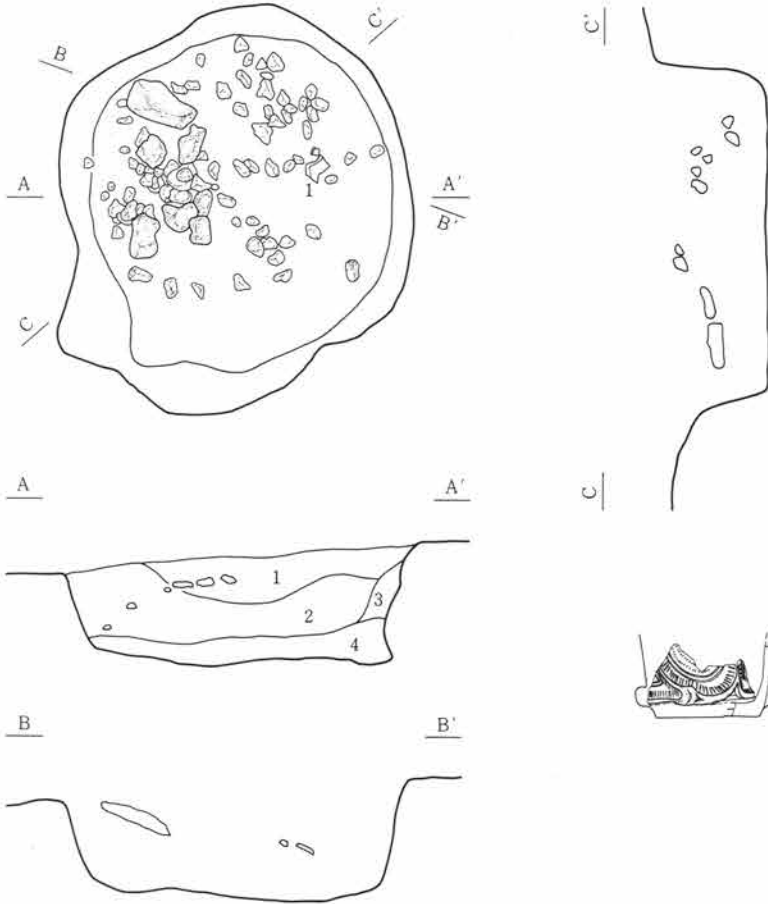


87図 遺物を主体的に出土した土壇

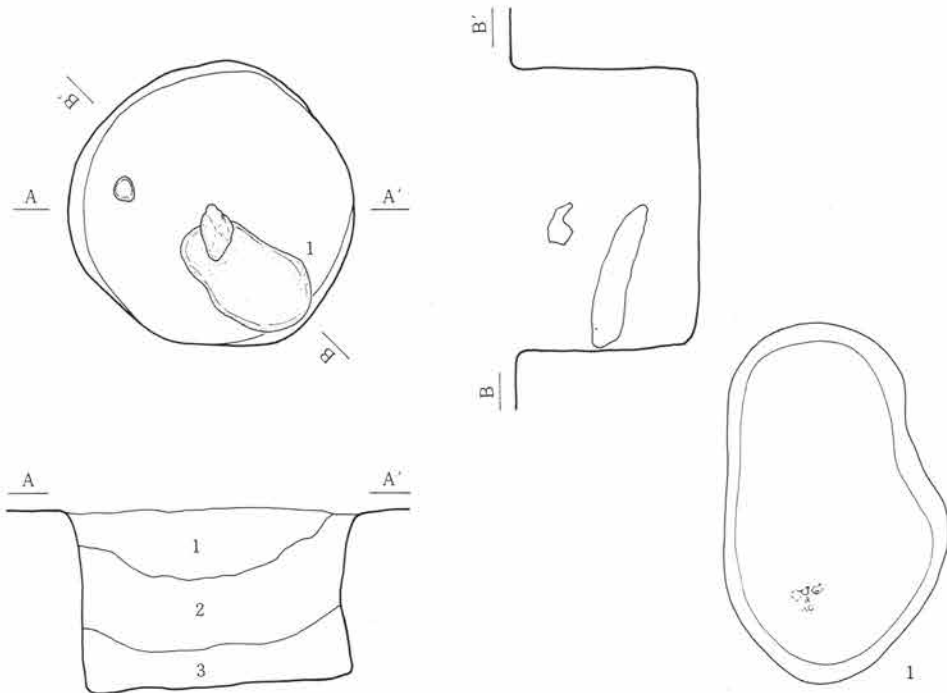


88図 遺物を主体的に出土した土壌

763号土壌

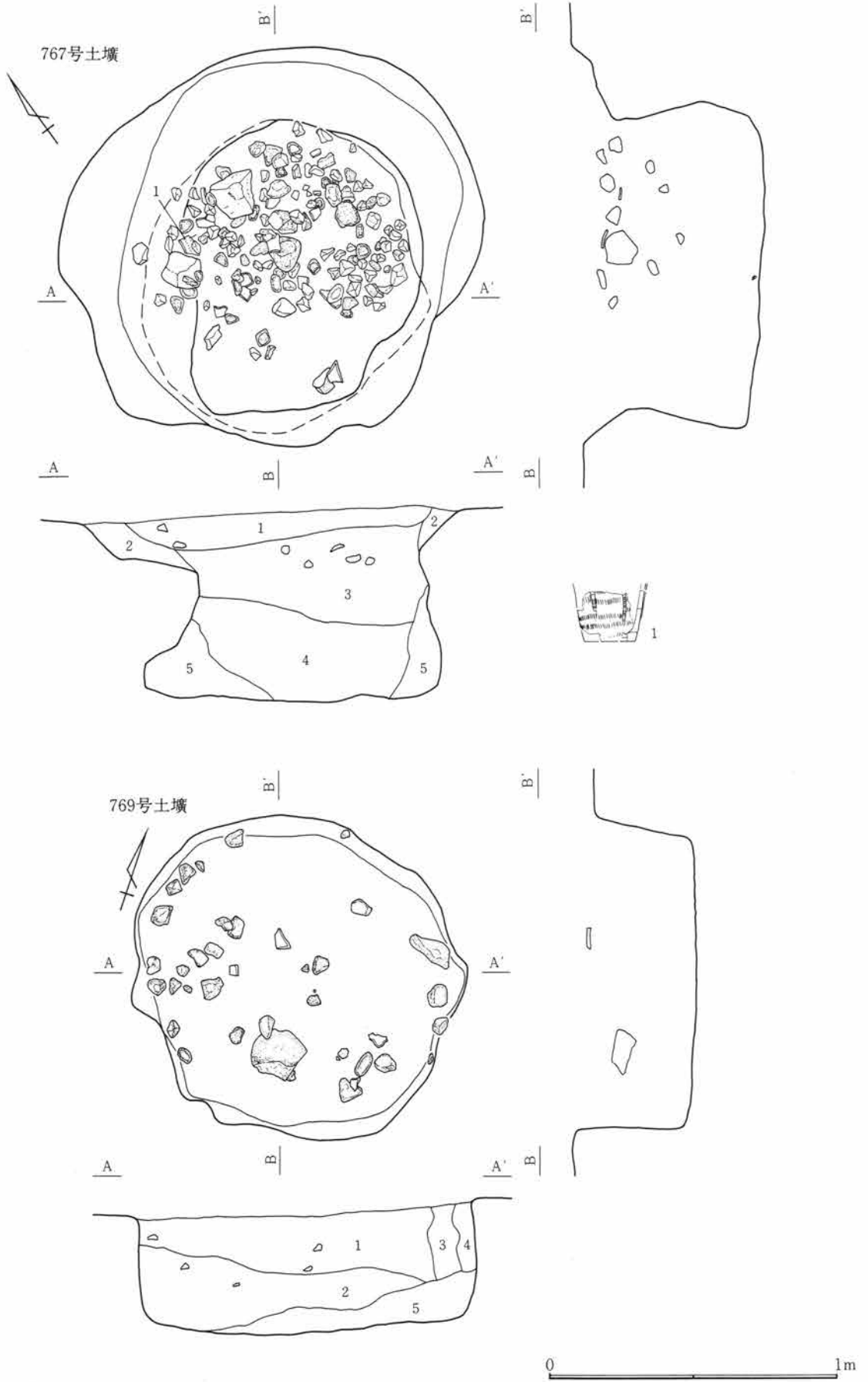


766号土壌



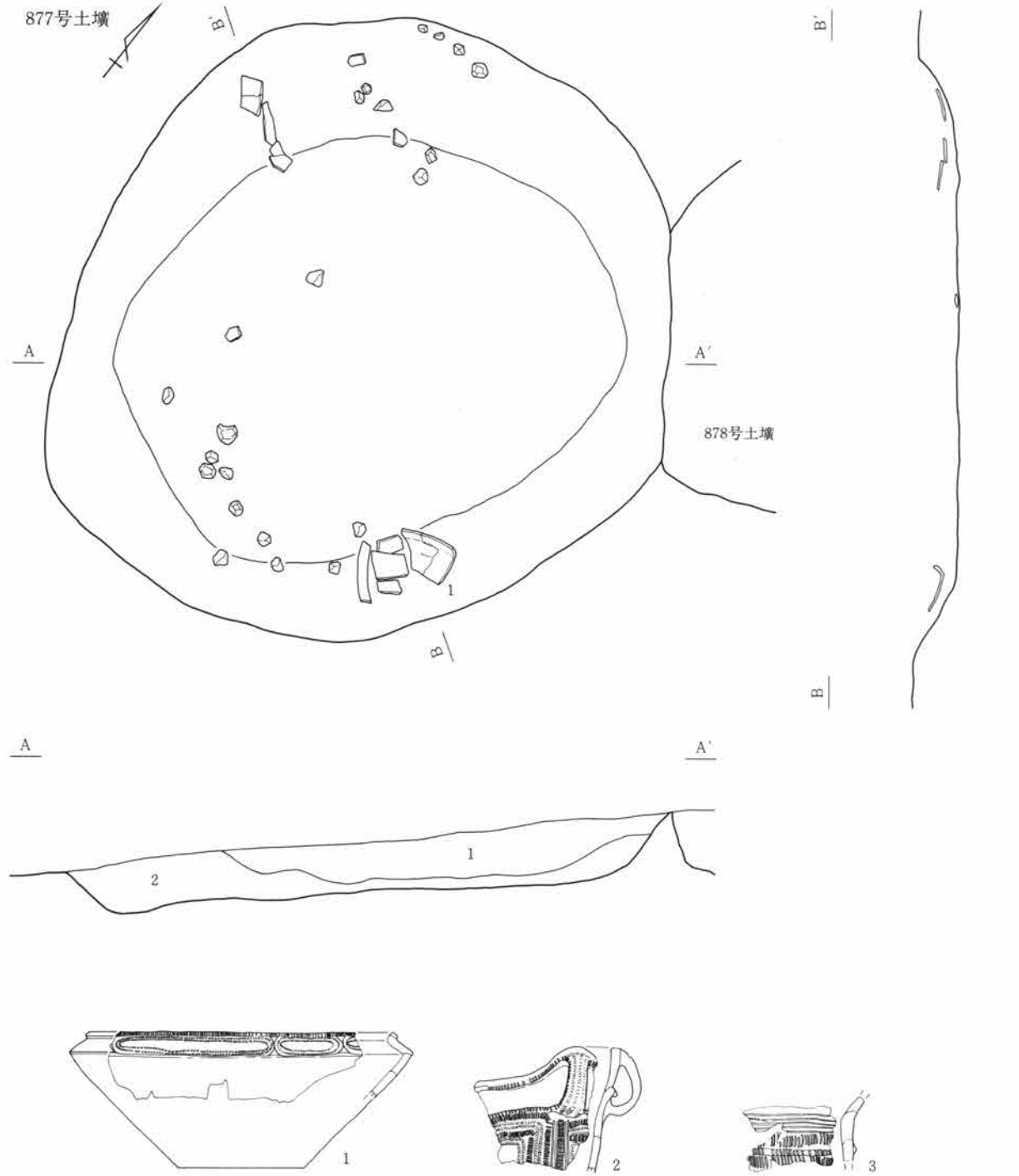
0 1m

89図 遺物を主体的に出土した土壌



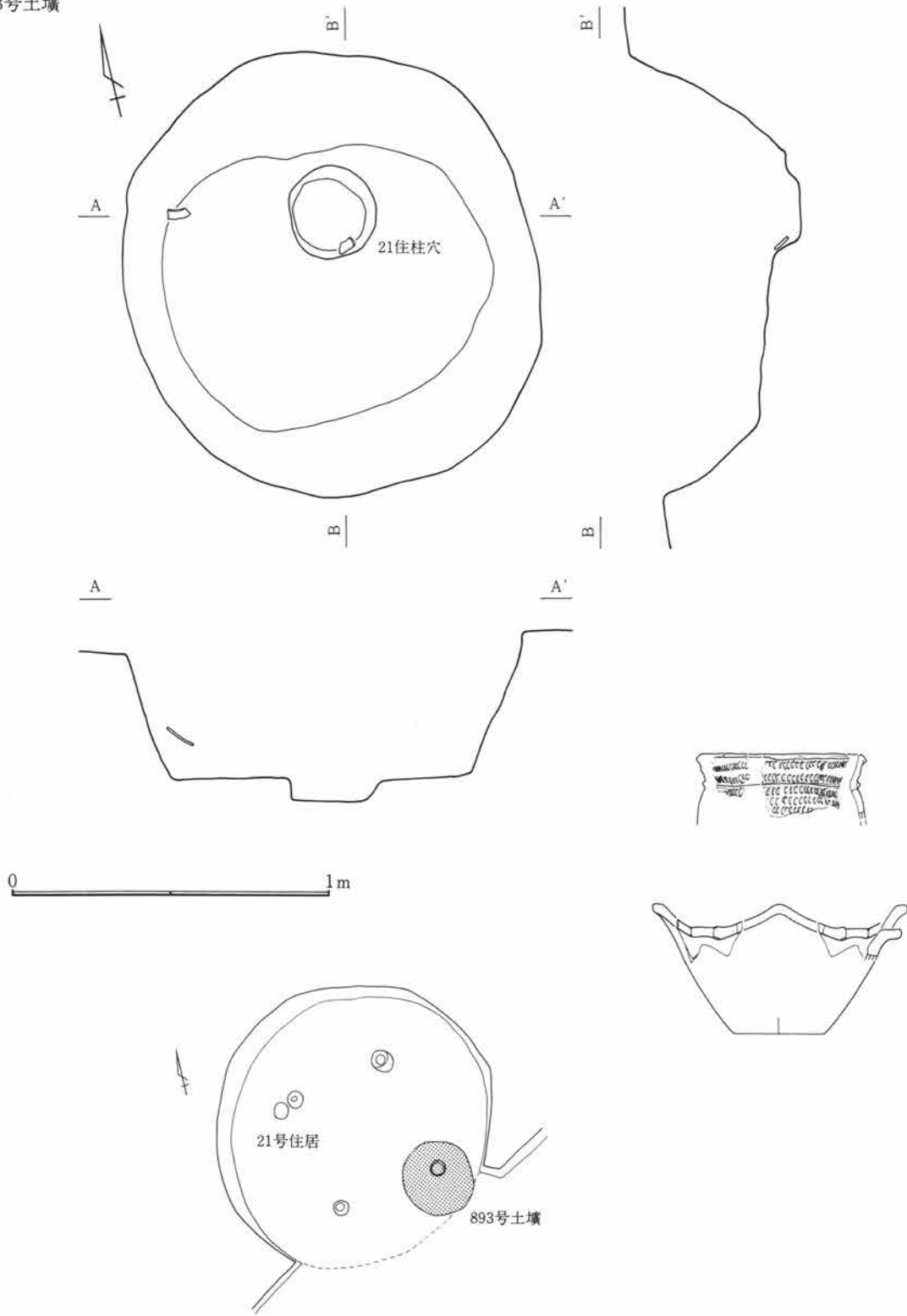
90図 遺物を主体的に出土した土坑

第IV章 遺構と遺物



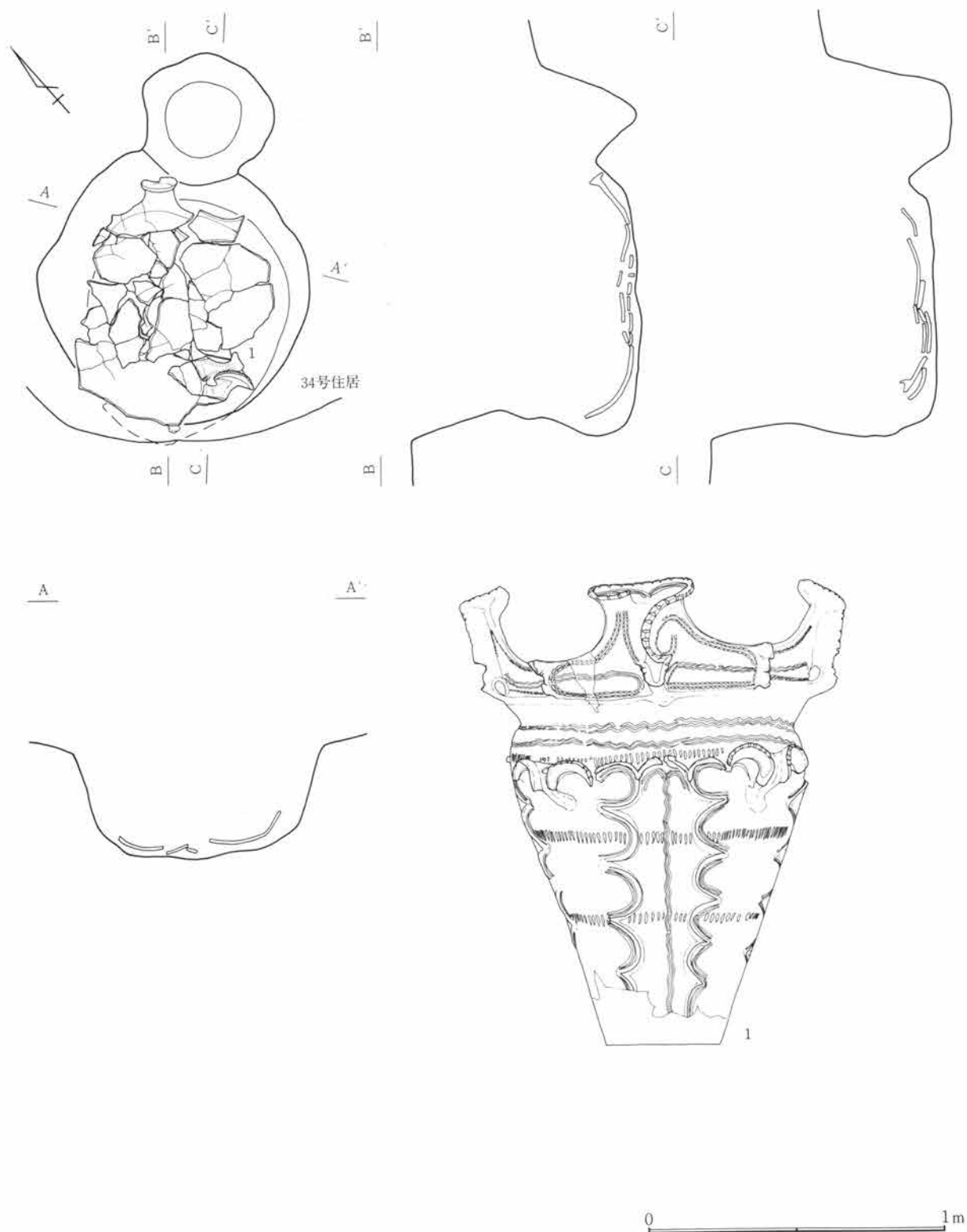
91図 遺物を主体的に出土した土壇

893号土壇



92図 遺物を主体的に出土した土壇

894号土城



93図 遺物を主体的に出土した土城

763号土壙(89図)；前述の761、762号土壙南約2mに位置する。本土壙の南西にやや距離を置いて769、771号土壙などが分布するがその南は無遺構の空白部分が展開する。本土壙は集石土壙であり、やや小型の不整形円形を呈す。南側の上端プランにやや乱れがあるが、他は円形に近い。壙底面は東に若干傾斜するがほぼ平坦である。壁の立ち上がりも直立気味に外傾し、断面形は方形に近い。集石は覆土中位に集中して認められ、加熱の痕跡がある。密集した集中ではないが集石土壙として捉えたい。

766号土壙(89図)；762号土壙の東約1mで検出された。平面形は小型の円形を呈し、断面形は深く方形である。壙底面は平坦で、壁は直立する。遺物は大型の台石状の石皿が覆土中位より出土している。

767号土壙(90図)；調査区中央東寄りで検出された。南西1mに前述の766号土壙が近接する。周辺に761号土壙など集石土壙が多く分布する。本土壙も集石土壙であり、礫は比較的密に集中する。平面形は大型の円形を呈し、断面形は段を持つ袋状である。段は土壙を全周し、北から西にかけてテラス状となる。壁崩壊によるものであろうか。壙底面は僅かな凹凸を持つがほぼ平坦で、壁の立ち上がりはオーバーハングする。集石は北半分に集中する。ほとんどが覆土上層から中層にかけて出土した。小型の自然石を主体にして加熱を受けたものが多く見られた。土器片は小片のものが多く個体図示し得たものは底部の1個体のみであり、主体的な出土ではないだろう。

769号土壙(90図)；調査区中央東寄りで検出された。前述の761～767号土壙の南端に位置し、本土壙より南は空白部となる。平面形はやや不整形円形を呈し、断面形は方形に近いが東壁は僅かに袋状に内彎する。壙底面は凹凸を持ち緩やかに凹み、壁の立ち上りは若干丸みを帯びる。遺物は小型の自然石を中心に土器片が混じる程度である。礫は加熱を受けた痕跡がなく、一連の集石土壙とは区別が必要であろう。

877号土壙(91図)；調査区東側で検出された。泥流丘の上に位置し、周辺には不整形の土壙がまばらに分布する。平面形は大型の円形を呈し、浅く皿状の断面形状を呈す。出土遺物は土器片が壙底面直上より出土した。ほとんどが主体的な出土状態ではないが、南東壁に寄りかかるように出土した浅鉢は比較的良好で個体図示し得た。尚、小型の自然石が多く見られるが、地山の泥流丘からの流れ込みであろう。

893号土壙(92図)；調査区最南端で検出された。21号住居址のP2が重複する。平面形は大型の円形で、壙底面はほぼ平坦である。遺物は深鉢、浅鉢片が出土したが、主体的な出土ではなく混入の可能性が高い。

894号土壙(93図)；34号住居址の床面下より検出された。柱穴が重複することから住居址に伴うものではない。ピットとの重複から本土壙が切られる。平面形は小型の円形を呈す。断面形状はおそらく袋状であろう。壙底面はほぼ平坦だが、中央に僅かに凹む。遺物は大型の阿玉台式深鉢が底部を欠損して壙底面より出土した。



894号土壙

2. 遺物を客体的に出土する土壌

1号土壌(94図)；調査区西側で検出し、3・5号土壌の東に位置する。不整形を呈し、深い。遺物は土器片などの出土を見る。

2号土壌(94図)；調査区西で検出された。1号土壌の北に位置する。不整形を呈し、掘り込みはしっかりしているが浅い。遺物の出土はない。

6号土壌(94図)；調査区西の3・5号土壌などの土壌群内に位置する。やや不整形を呈し、深く方形の断面形である。土器細片の出土を見る。

7号土壌(94図)；6、8号土壌と同様の土壌群に位置する。不整形を呈し、断面形は非対称ながら深い。遺物は土器片を多く出土した。

9号土壌(94図)；同様の土壌群に位置し、8号土壌が西に近接する。不整形を呈し、断面形は非対称ながら深い。遺物は数片の土器片の出土である。

11号土壌(94図)；8号土壌の南に重複する。調査時の手違いで、半掘調査となった。浅く、円形を呈すると思われる。

14号土壌(94図)；15～17号土壌の北西に位置する。円形を呈し、断面形は一部が袋状であるが急激なオーバーハングをしない。遺物は小型の自然石が主体で集石土壌といえよう。

20号土壌(94図)；調査区西の19号土壌の北に位置する。円形を呈しやや大型の自然石の出土を見る。

21号土壌(94図)；調査区西端に位置する。円形を呈し、方形の断面形状を見る。大型の自然石を覆土中位より出土した。

22号土壌(94図)；21号土壌の北に位置する。不整形を呈し若干量の土器片を出土した。

23、24号土壌(94図)；1～19号土壌の土壌群内の中央の空白部に位置し、2個並列で検出された小ピットである。

28号土壌(95図)；調査区西端の突出部に位置する。小判状の楕円形を呈し浅い。遺物は出土しなかった。

29号土壌(95図)；調査区西の突出部に位置する。不整の楕円状を呈し浅い。少量の土器片の出土を見た。

31号土壌(95図)；28、29号土壌と同様の位置に分布する。円形で浅い皿状の断面形である。

32号土壌(95図)；28号などと群在する。30号土壌が南に位置する。小ピットである。

34号土壌(95図)；調査区中央東寄りに位置し、56～59号土壌が重複する。不整形を呈し、浅く皿状の断面形だが大型の自然石を壙底面に置く。

38号土壌(95図)；調査区東寄りで検出され、71、72号土壌が近接する。大型の不整形を呈し浅い。遺物はない。

39号土壌(95図)；調査区南東寄りで検出された。浅い小ピットである。

43号土壌(95図)；調査区東南端の風倒木址内で検出された。不整形を呈し、浅く、皿状の断面形を見る。

44号土壌(95図)；同様の風倒木址内に位置する。楕円状で無遺物である。

47号土壌(95図)；調査区西端の332、333号土壌に近接する小ピットである。

48号土壌(95図)；調査区西端に位置し、268号土壌と重複する。不整形を呈し、壁の断面形はやや袋状である。

49号土壌(95図)；調査区中央のやや南寄りで検出された。295号土壌と重複する小ピットである。

50号土壌(95図)；調査区中央やや西寄りの1号大石南に近接する。小ピットである。

51号土壌(96図)；1号大石の南東に位置する小ピットである。掘り込みはしっかりしている。

52号土壌(96図)；52号土壌の南、314号土壌の北に近接する。小ピットである。

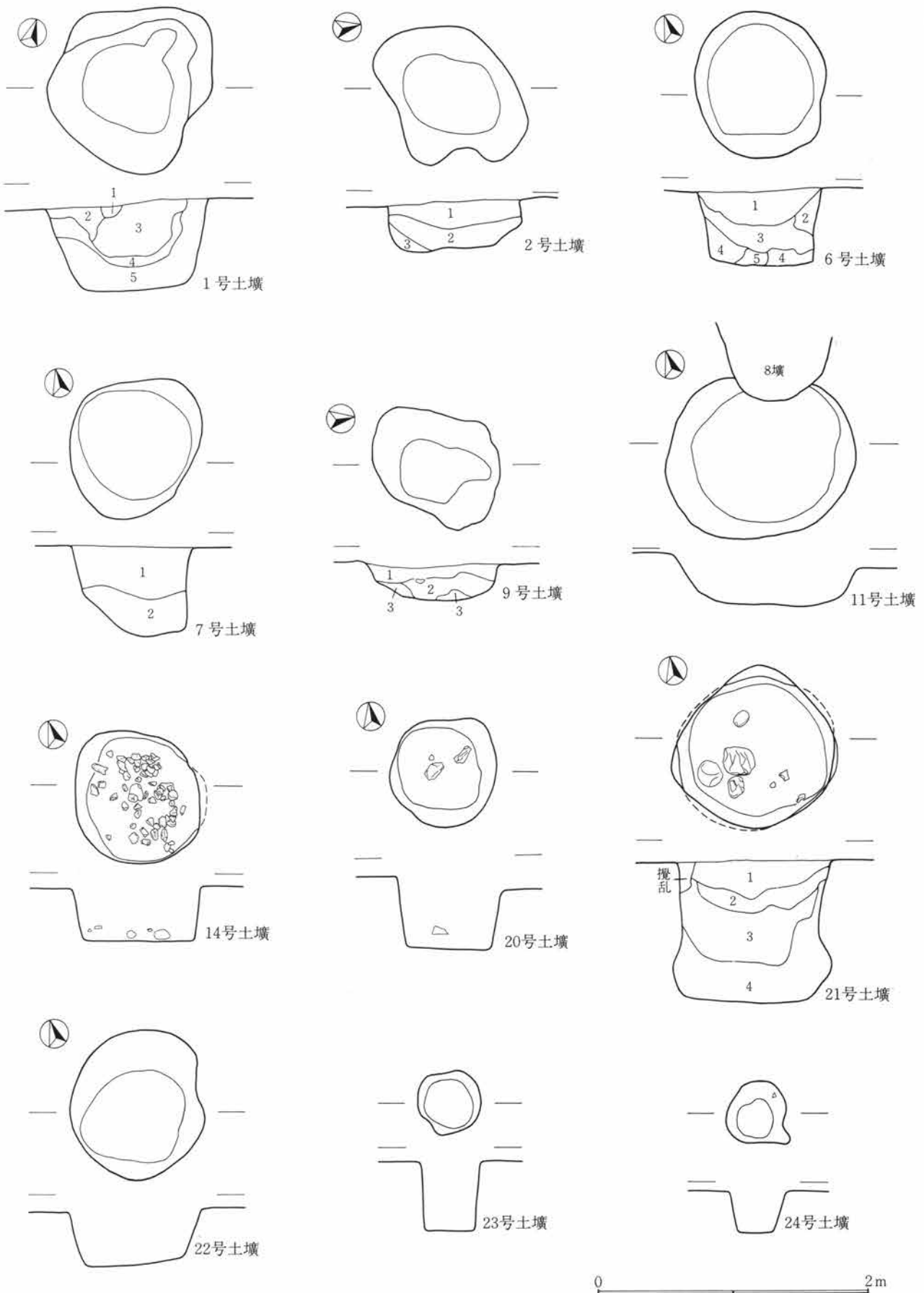
54号土壌(96図)；調査区東端に位置し、北に53号土壌が近接する。円形を呈し、やや深めの皿状の断面形を見る。出土遺物は無い。

55号土壌(96図)；54号土壌と56号土壌の中間に近接する。楕円状を呈し、浅く皿状である。

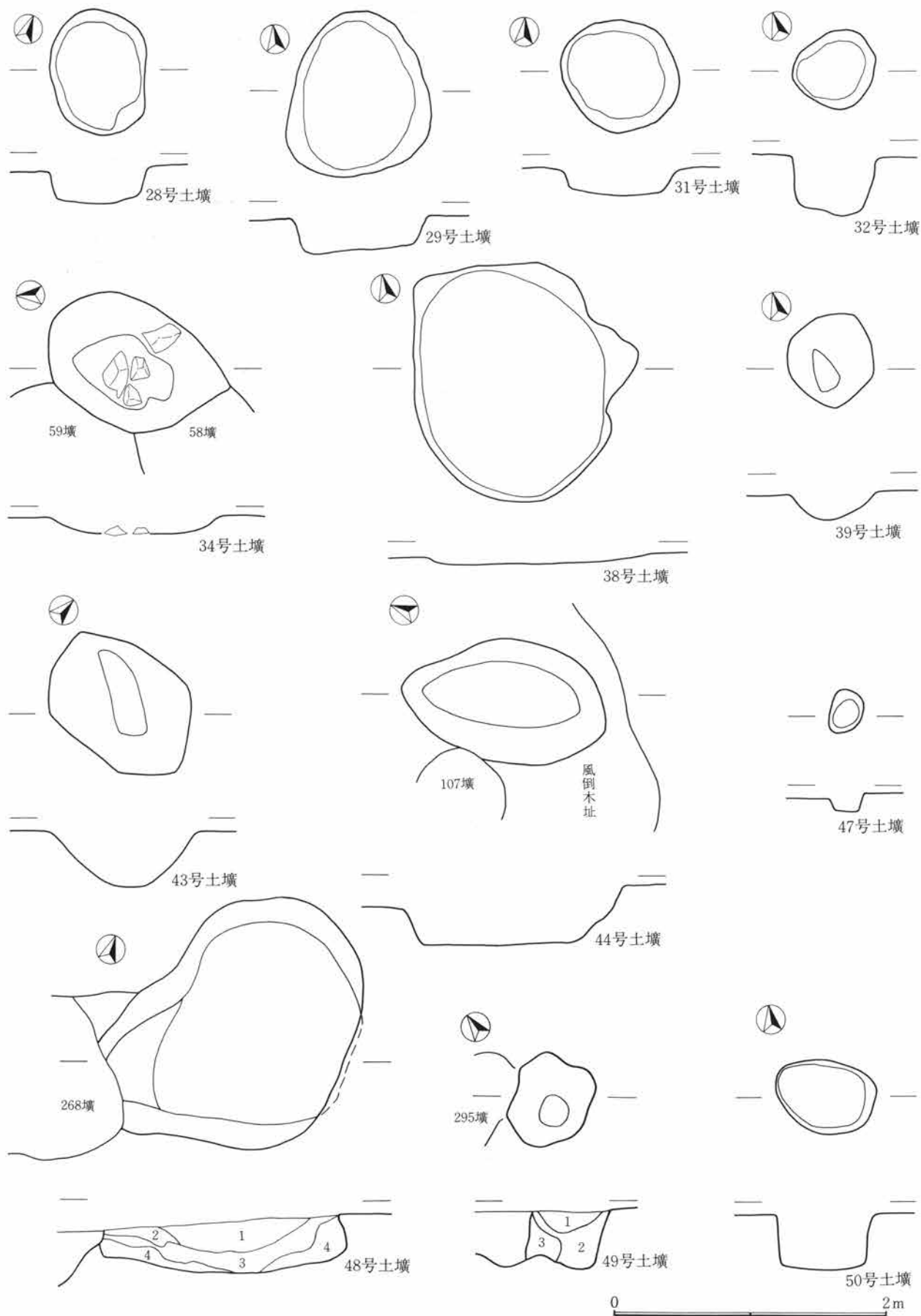
56号土壌(96図)；57号土壌と重複する。楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

57号土壌(96図)；56号土壌の南に重複する。小型の円形で、浅い皿状の断面形である。

58号土壌(96図)；34、59号土壌と重複する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。



94図 遺物を客体的に出土する土坑



95図 遺物を客体的に出土する土壇

59号土壌(96図)；58号土壌の北に重複する。やや深めの皿状の断面形である。

60号土壌(96図)；調査区東端に位置し、前述の53～59号土壌の南に位置する。円形を呈し、墳底面に小ピットを開ける。断面形は段を持つ。

61号土壌(96図)；60号土壌の南に位置し、64号土壌と重複する。不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

62号土壌(96図)；60、61号土壌の西約4mとやや距離を置く。不整形の楕円状を呈し、墳底面に小ピットを開ける。浅い皿状の断面形である。

63号土壌(97図)；東端の調査区境に位置する。西側に64号土壌が近接する。やや大型の不整形円形を呈し浅い皿状の断面形である。

64号土壌(97図)；東端に位置し、大型の不整形円形を呈する皿状の土壌である。

65号土壌(97図)；64号土壌の南西に位置する。円形で浅い皿状の断面形である。

66号土壌(97図)；64号土壌の南東に位置する。小ピットの複合か。西側は浅い。

67号土壌(97図)；65号土壌の南に位置する。やや大型の不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。墳底面に小ピットを持つが浅い。

68号土壌(97図)；67号土壌の南に近接する。浅い皿状の断面形で、墳底面に小ピットを持つが浅い。

69号土壌(97図)；68号土壌の東に位置する。不整形円形を呈し浅い皿状の断面形である。

70号土壌(97図)；69号土壌の南に位置する。不整形円形を呈し浅い皿状の断面形である。

71号土壌(98図)；68号土壌の南、38号土壌の北に近接する。不整形円形を呈し浅い皿状の断面形である。

72号土壌(98図)；38号土壌の西に近接する。不整形円形を呈し浅い皿状の断面形である。

73号土壌(98図)；72号土壌の南に位置する。不整形円形を呈し浅い皿状の断面形である。

74号土壌(98図)；73号土壌の南西に位置する。不整形円形を呈し、やや深めの皿状の断面形である。

75号土壌(98図)；74号土壌の南東に位置する。やや大型の不整形円形を呈し、浅く不定形な断面形である。

76号土壌(98図)；75号土壌の南西、77号土壌の西に位置する。大型の円形を呈し、調査当初は住居址の可能性を持った土壌である。墳底面は凹凸が多く、その中で比較的良好な小ピットを図示した。小ピットは配置も良く、あるいは上屋を持つ構造も考えられる。出土遺物は無い。

78号土壌(98図)；77号土壌東の調査区境で検出された。東半分は調査区外のため未調査である。比較的深い皿状の断面形である。

79号土壌(98図)；77号土壌の南に位置し、80号土壌と近接する。円形を呈し、浅い皿状の断面形である。墳底面に小ピットを持つが木根であろう。

80号土壌(99図)；79号土壌の西に近接する。不整形円形を呈し北側に段を持つ。浅い皿状の断面形である。

81・82号土壌(99図)；調査区東南端のやや西寄りで見出された。重複土壌だが新旧は不明である。81墳は楕円状を呈し浅い皿状の断面形である。82墳は不整形円形で浅い皿状の断面形である。

83号土壌(99図)；81号土壌の西に位置する。やや不整形円形を呈し、断面形上位は大きく開き、下位はやや袋状を呈す巾着袋状であり、比較的深い。

84号土壌(99図)；83号土壌の南西に位置する。方形に近い不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。南東壁際に自然石が出土した。小ピットを墳底面に持つ。

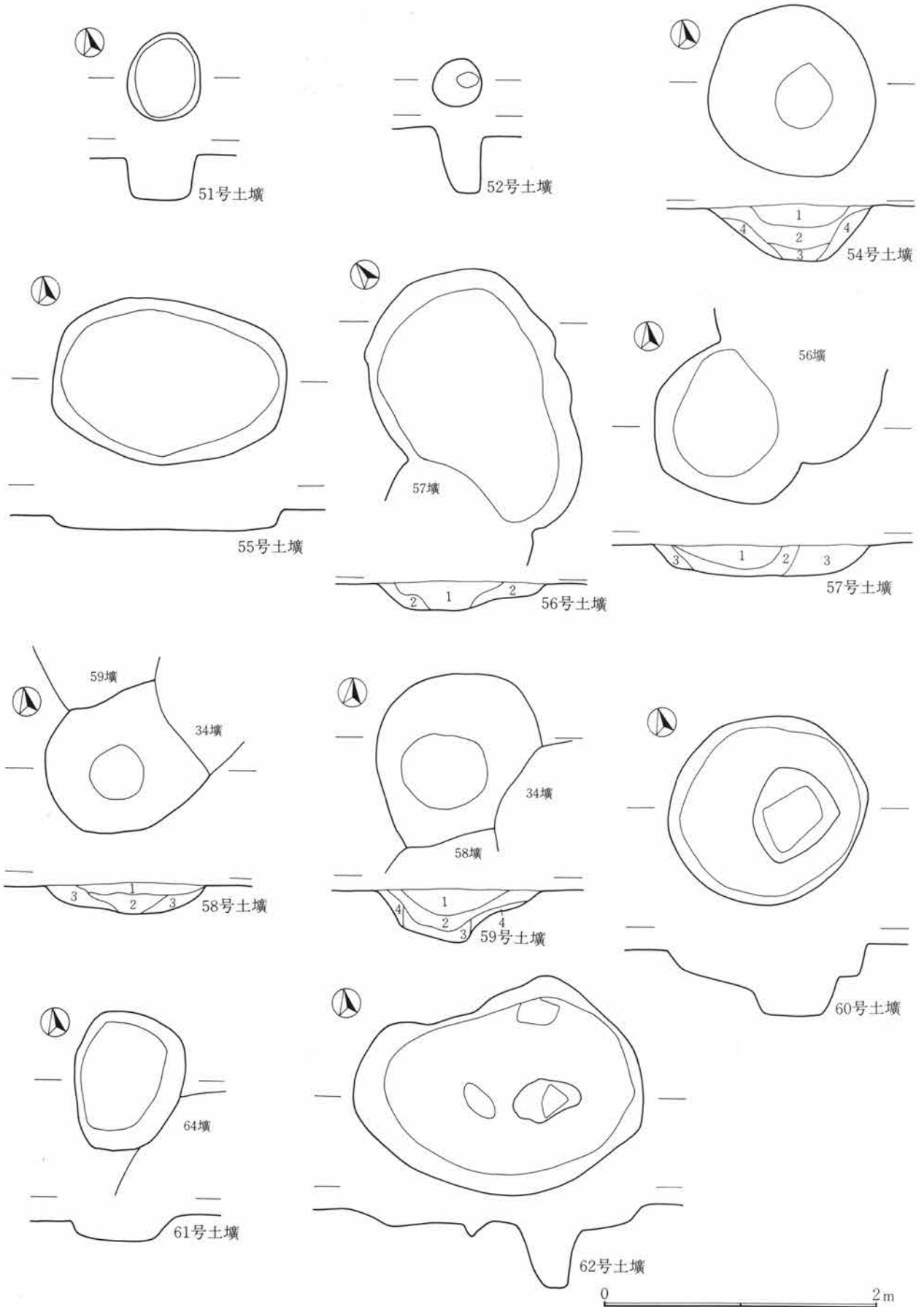
85・86号土壌(99図)；81・82号土壌の南に近接する。重複土壌だが新旧は不明である。両土壌とも不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

87号土壌(100図)；86号土壌の東に位置する。不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。シミ状の遺構か。

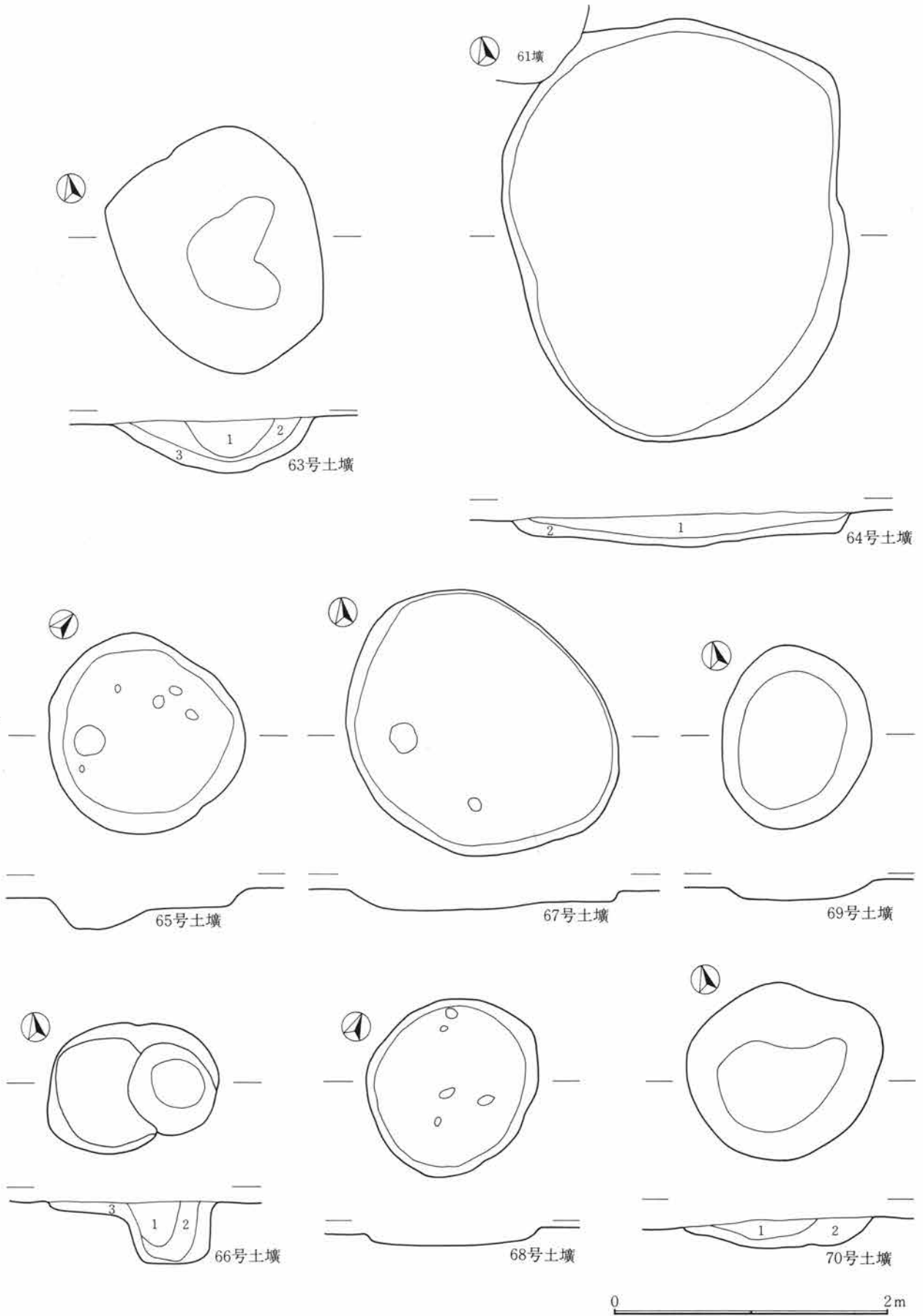
89号土壌(100図)；87号土壌の南に位置する。88号土壌は東約1mに近接する。不整形楕円形を呈し、皿状の断面形である。

90号土壌(100図)；91号土壌の北に位置する。小型の不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。墳底面に小ピットを持つ。

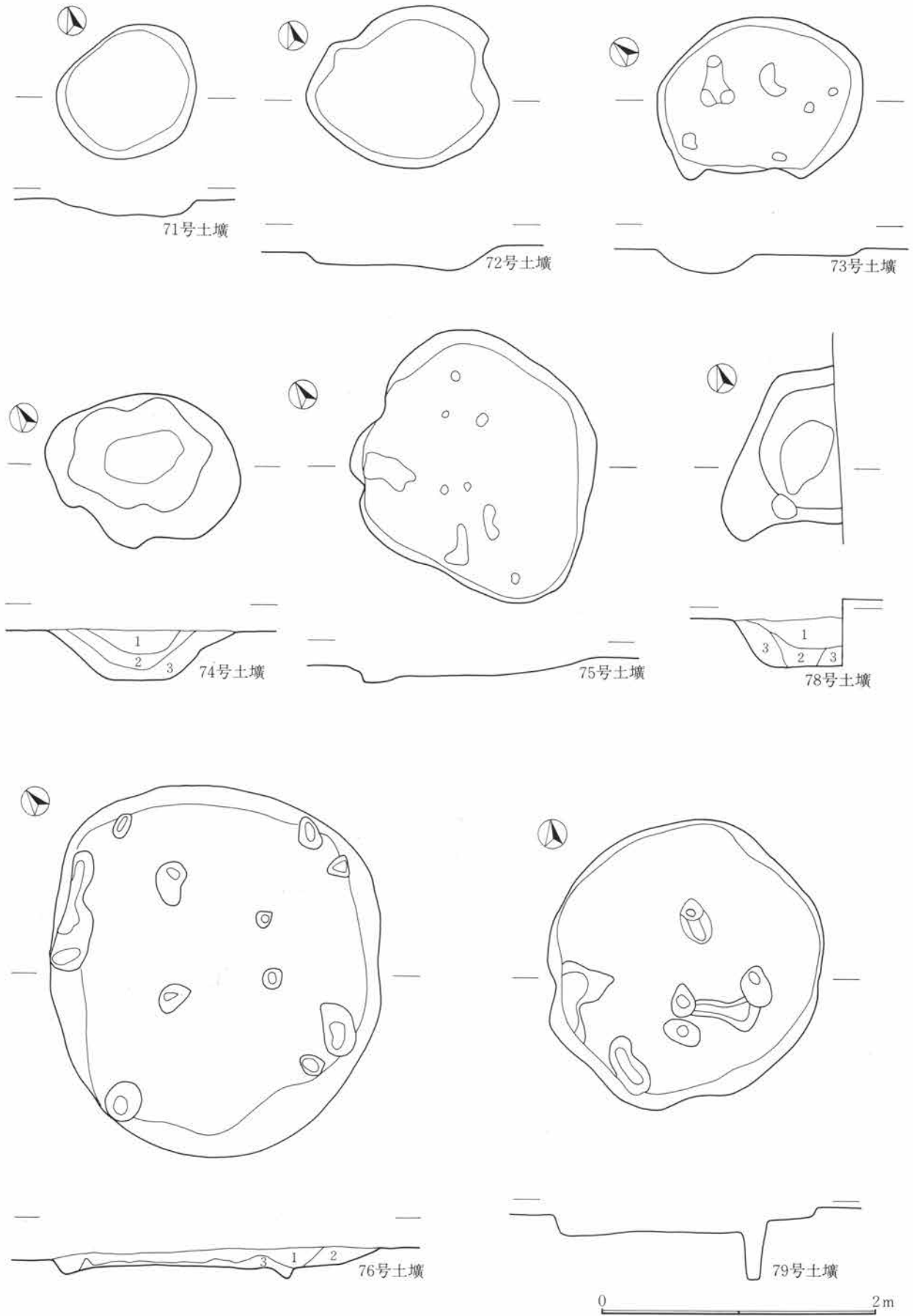
92号土壌(100図)；91号土壌の西に位置する。不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。墳底面に小ピットを持つが木根であろう。



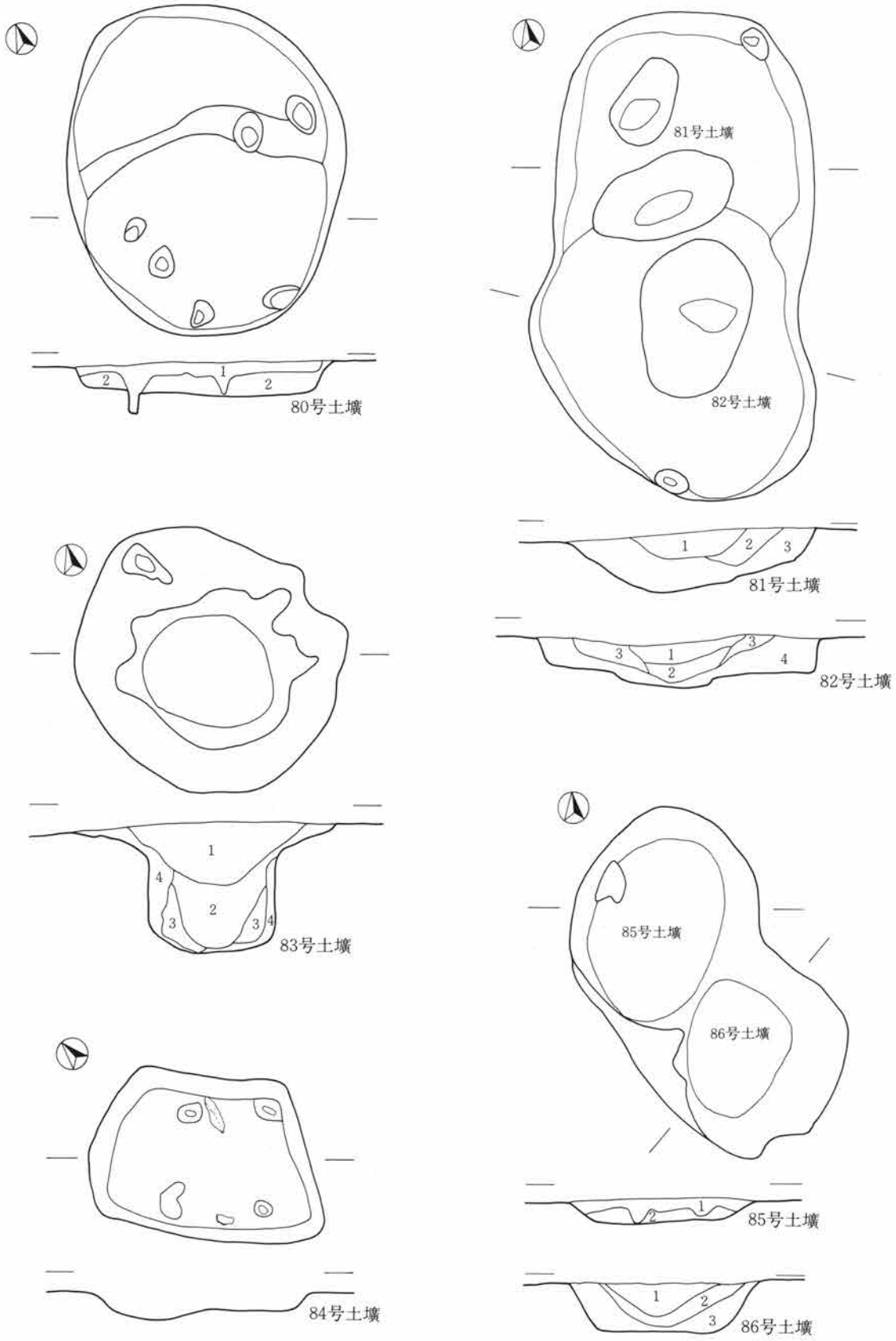
96図 遺物を客体的に出土する土壇



97図 遺物を客体的に出土する土坑



98図 遺物を客体的に出土する土壌



0 2m

99図 遺物を客体的に出土する土壌

第IV章 遺構と遺物

93号土壌(100図)；92号土壌の西にやや距離を置いて位置する。南東に142号土壌が近接する。不整形を呈し、木根などの小ピットの重複のため断面形も不定形である。

96号土壌(100図)；調査区西南に位置する。不整形の小ピットである。人為的なものではない。

97・98号土壌(100図)；96号土壌の南西に近接する。周辺には不整形の土壌が多く、本土壌も例にもれない。浅い皿状の断面形で小ピットであろう。

99号土壌(100図)；98号土壌の南に位置する。小型の不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

100号土壌(100図)；97・98号土壌の西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。小ピットは重複であろう。

101号土壌(100図)；100号土壌の西に近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。下端も乱れている。出土遺物は土器片を数点見る。

102号土壌(100図)；95号土壌の南に位置する。楕円状を呈し、皿状の断面形である。中央の小ピットが比較的良好である。

103号土壌(101図)；102号土壌の南に位置する。円形を呈し浅い皿状の断面形である。土器細片の出土。

104号土壌(101図)；北に103号土壌、南に大型の風倒木址が近接する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

105、106号土壌(101図)；調査区中央西寄りで見出された1号大石周辺の小ピットである。

107号土壌(101図)；調査区南東の風倒木址内に位置する。44号土壌が近接する。小ピットである。

108号土壌(101図)；風倒木址にかかり、107号土壌の南に位置する。不整形を呈し、東側が深い。遺物は自然石の他、土器細片を出土した。

109号土壌(101図)；風倒木址内に位置する。小型の楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

111号土壌(101図)；調査区南東で見出された。大型の円形を呈す。断面形は深い、シミ状の落ち込みなどが重複し、やや乱れている。土器細片の出土。

112号土壌(102図)；南東の調査壁際で見出された。125号土壌が西に位置する。円形を呈し、壙底面中央が

凹むが皿状の断面形である。

113号土壌(102図)；125号土壌の北西に位置する。不整形楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

114号土壌(102図)；113号土壌の西に近接する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

115号土壌(102図)；125号土壌の南に位置する。双円形の兆しを見せる楕円状の平面形を呈す。あるいは重複か。浅い皿状の断面形である。

116号土壌(102図)；115号土壌の南に近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

117号土壌(102図)；115号土壌の西に位置し、南に132号土壌が重複する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

118号土壌(102図)；116号土壌の西に位置し、126、127号土壌が近接する。円形を呈し、方形の断面形状である。良好な土壌だが出土遺物は無い。

119号土壌(102図)；調査区中央で見出された。1号大石と2号大石の間に位置する。小ピットだが掘り込みはしっかりしている。

120号土壌(102図)；調査区南東の風倒木址南に位置する。楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

121号土壌(102図)；風倒木址南に位置する。不整形円形を呈し、やや深めの皿状の断面形である。

122号土壌(102図)；121号土壌の南に位置する。小型の楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

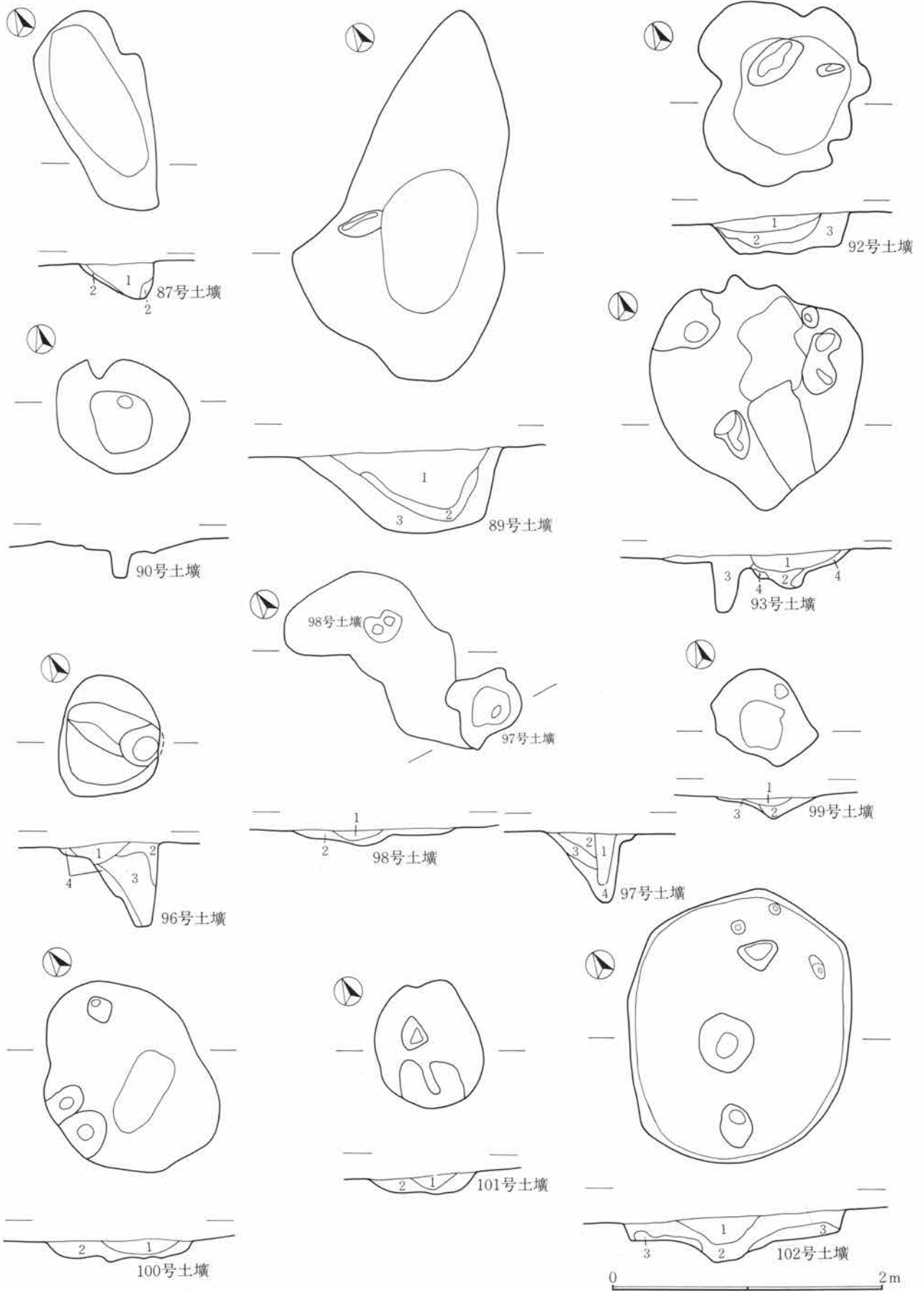
123号土壌(102図)；122号土壌の東に位置する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

127号土壌(103図)；25号住居址の北東に位置する。円形を呈し、方形の断面形状を見る。土器片が数点出土する。

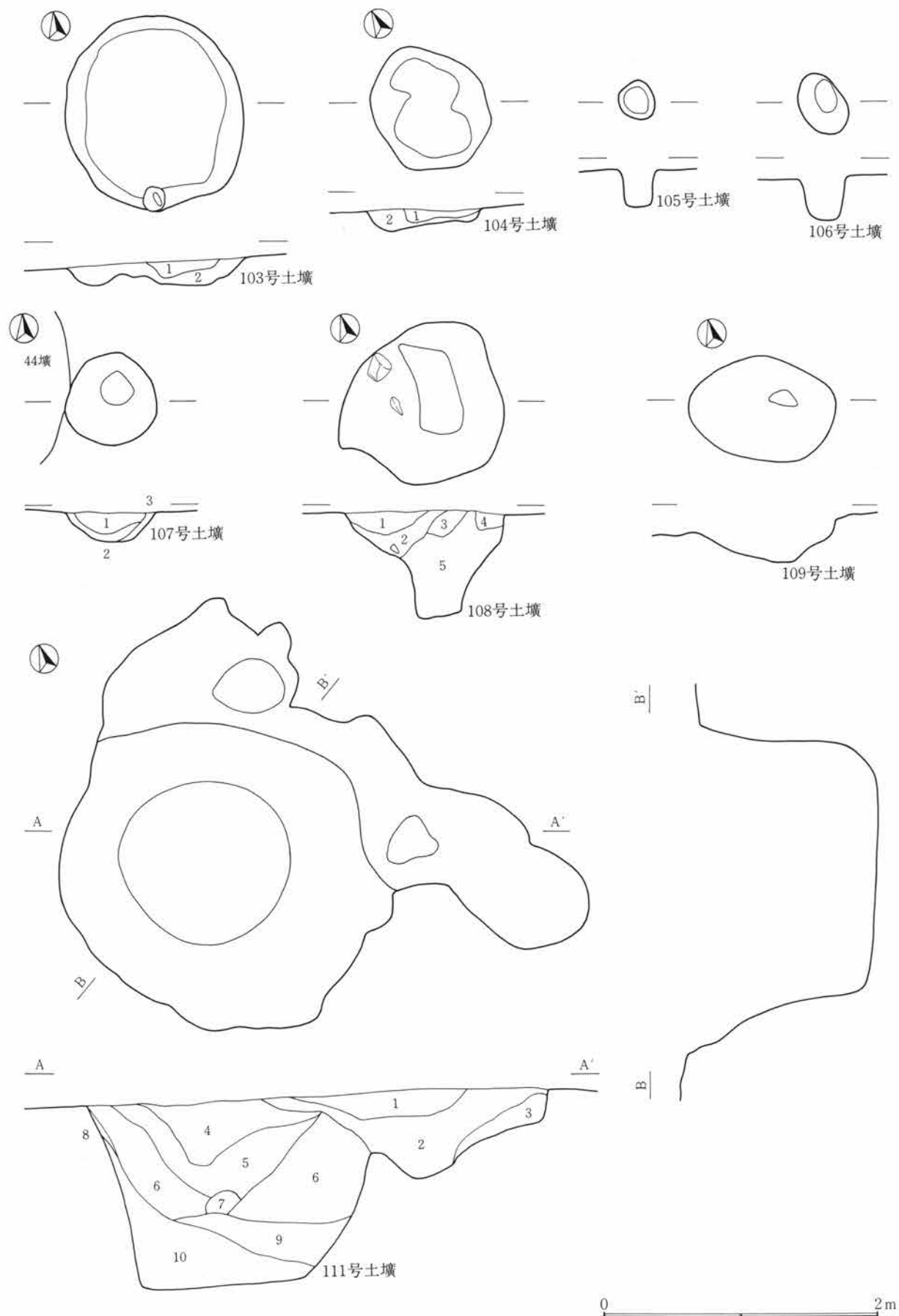
130号土壌(103図)；調査区東南に位置し、116、131号土壌が近接する。不整形楕円状を呈し、断面形は方形に近いが土層などに乱れがある。土器小片の出土。

131号土壌(103図)；130号土壌と重複するが僅かな幅の重複のため新旧は判然としない。小型の円形を呈し、壙底面は不定形である。土器小片の出土。

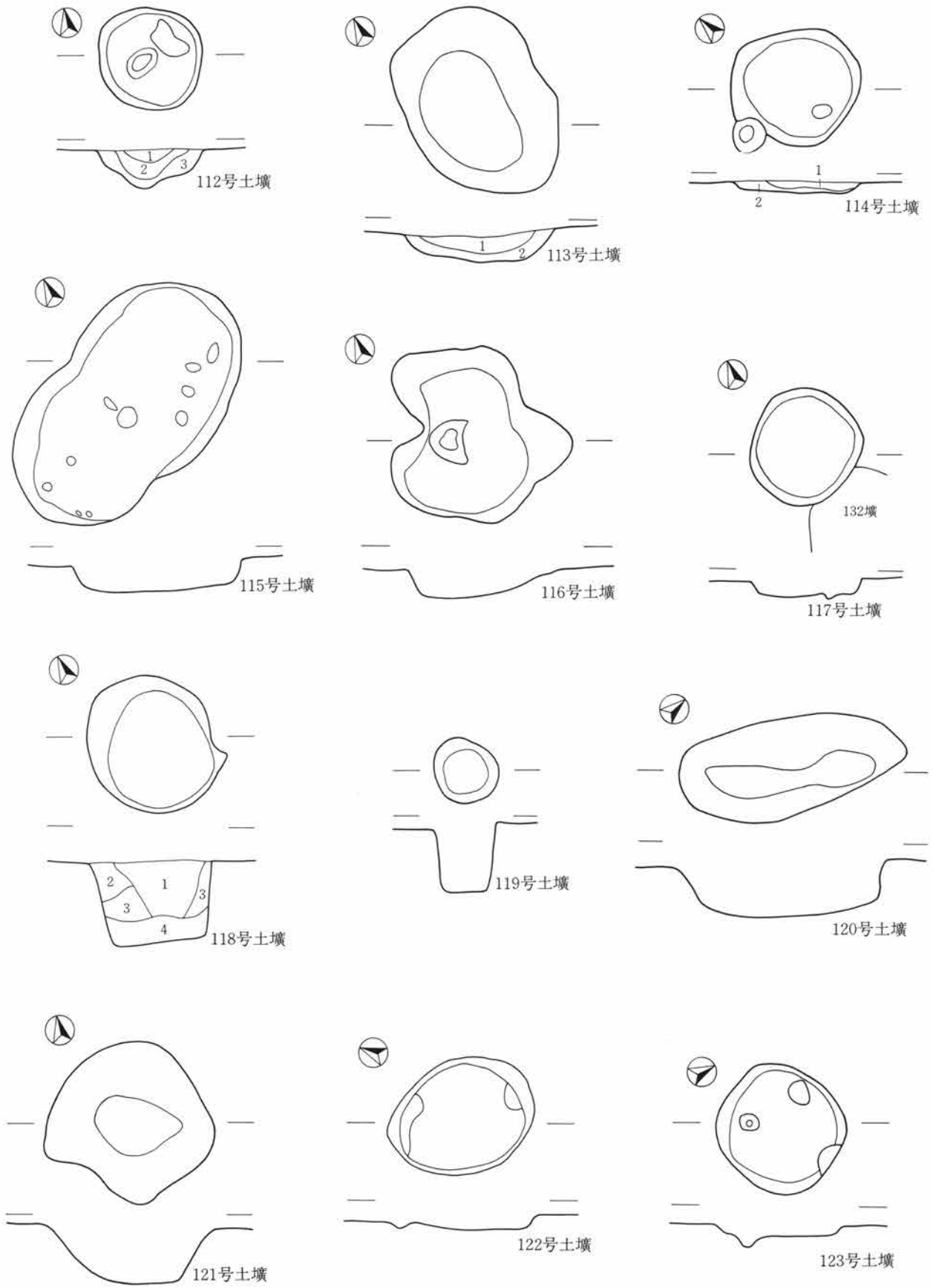
132号土壌(103図)；25号住居址の北に位置し、117号土壌が重複する。小型の楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。



100図 遺物を客体的に出土する土壇



101図 遺物を客体的に出土する土壌



0 2m

102図 遺物を客体的に出土する土壇

第IV章 遺構と遺物

134号土壌(103図)；25号住居址の東南に位置する。方形に近い小型の円形を呈し、断面形は方形である。

136号土壌(103図)；25号住居址の南壁に重複する。重複土壌の可能性はあるが、壙底面には明瞭な段差はない。自然石を壙底面に出土する。

138号土壌(103図)；27号住居址北に位置する。小型の円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。10数点の土器片の出土を見る。

139号土壌(103図)；1号大石の西に位置する。小ピットである。

140号土壌(103図)；27号住居址北に近接する。円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。遺物は無い。

141号土壌(103図)；27号住居址の北壁に接する。やや不整形円形を呈し、方形の断面形である。遺物は無い。

143号土壌(103図)；調査区南東の142号土壌と重複して検出された。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

144号土壌(103図)；143号土壌の南、102号土壌の西に位置する。不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

145号土壌(104図)；144号土壌の南、104号土壌の西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

146号土壌(104図)；調査区南東の風倒木址の南西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。小ピットは人為的なものではない。

147号土壌(104図)；南西端の調査区境に位置する。西半分は区域外のため未調査である。壙底面は段を持ち、掘り込みはしっかりしている。

148号土壌(104図)；147号土壌の東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

149号土壌(104図)；148号土壌の北東に近接する。小ピットで浅い。

150号土壌(104図)；149号土壌の北東に近接する。やや不整形円形を呈し、皿状の断面形を呈す。上面より自然石が出土した。

153号土壌(104図)；28号住居址の北西に位置する。断面形は深く良好な遺存だが土器片の出土はない。

155号土壌(104図)；28号住居址北東の土壌群内に位

置する。円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。無文の土器片の出土を見るが図示はしていない。

156号土壌(104図)；調査区南西に位置し、192号土壌と重複する。円形を呈し、やや浅いが掘り込みはしっかりしている。遺物は突起を付す深鉢胴部破片などが出土している。

157・158号土壌(104図)；157号土壌の北壁に重複して位置する。現代の攪乱溝が大きく破壊するが、両土壌とも小型の円形を呈し、掘り込みは良好である。

160号土壌(104図)；159号土壌の西に重複する小ピットである。深く、数点の土器片の出土を見る。

161号土壌(105図)；29号住居址西に位置する。現代の攪乱溝が走るが、大きな影響はない。円形で掘り込みはしっかりしている。土器片を1点出土した。

162号土壌(105図)；161号土壌の西に位置する。163号土壌と重複する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

163号土壌(105図)；162号土壌の南に重複する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

164、165号土壌(105図)；163号土壌の西に近接する小ピットである。

166号土壌(105図)；165号土壌の南西にやや距離を置いて位置する。円形を呈し、比較的良好な遺存である。遺物は細片の出土を見る。

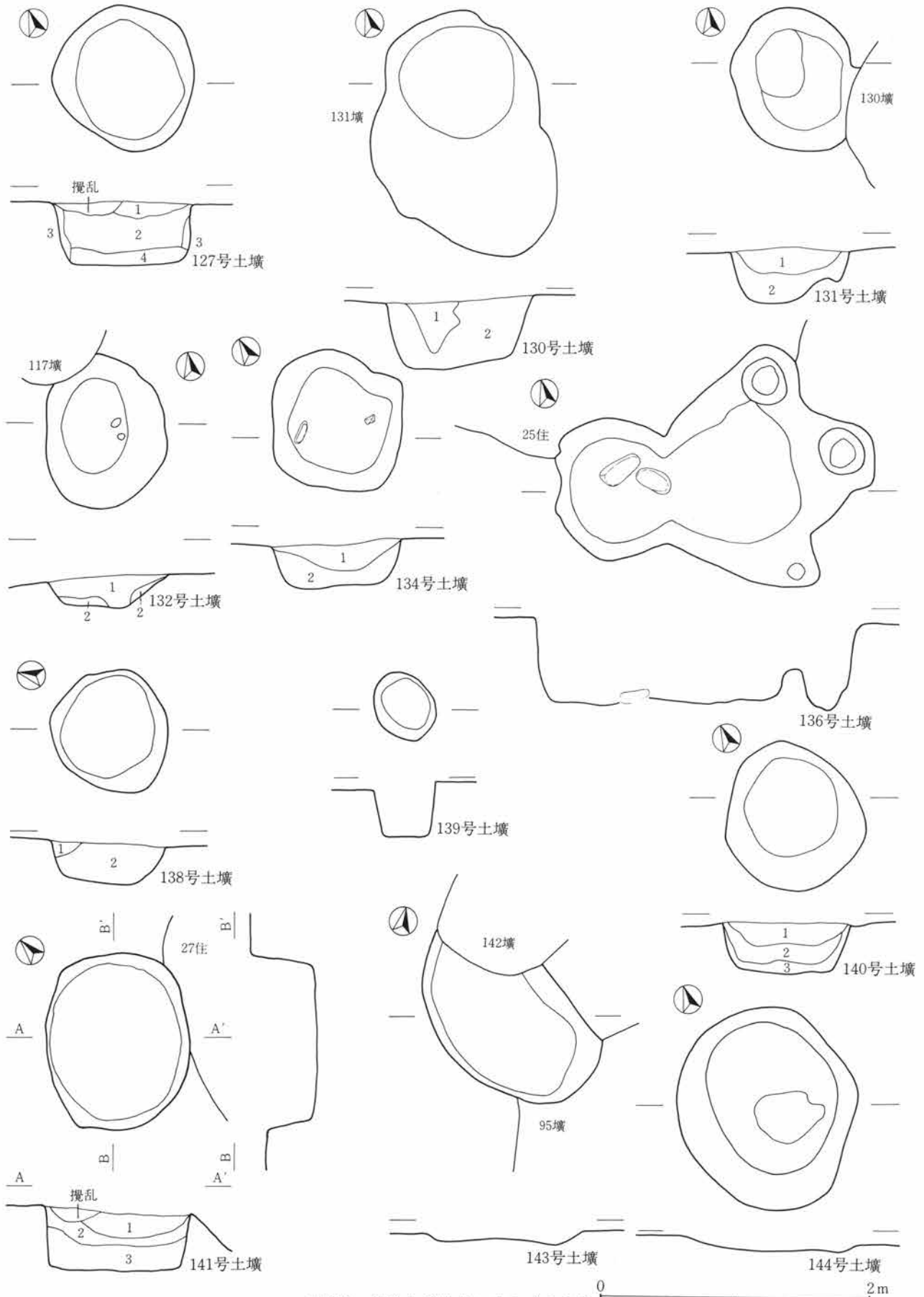
167号土壌(105図)；調査区南東の26号住居址床面で検出された。やや不整形の円形を呈し浅い。遺物は数点の土器片が出土した。

168号土壌(105図)；調査区南西端に位置する。他の土壌とはやや距離を置く。不整形を呈し、皿状の断面形である。

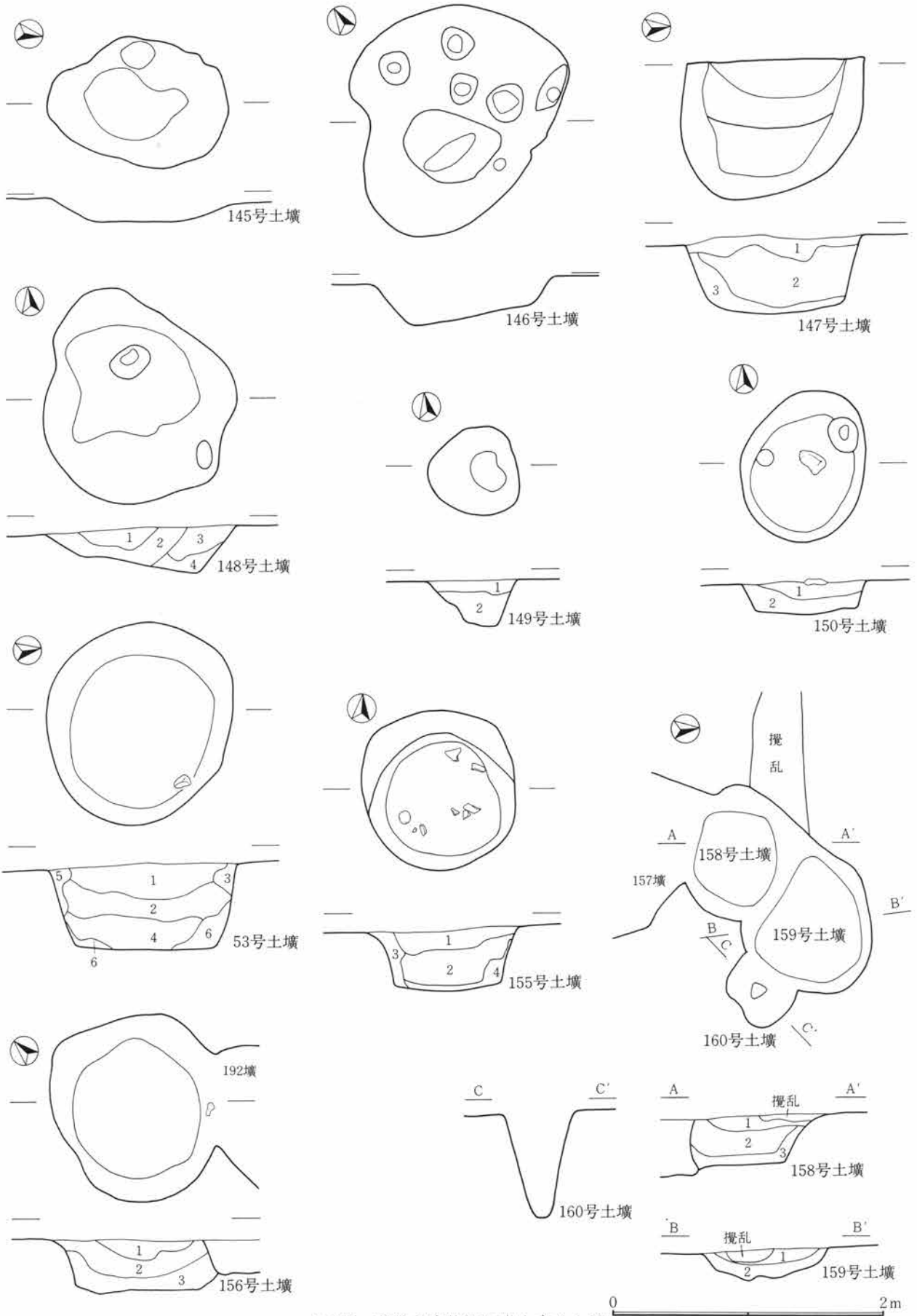
169号土壌(105図)；調査区南西端に位置し、本土壌も他の土壌と距離を置く。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

170号土壌(105図)；169号土壌の東に位置する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

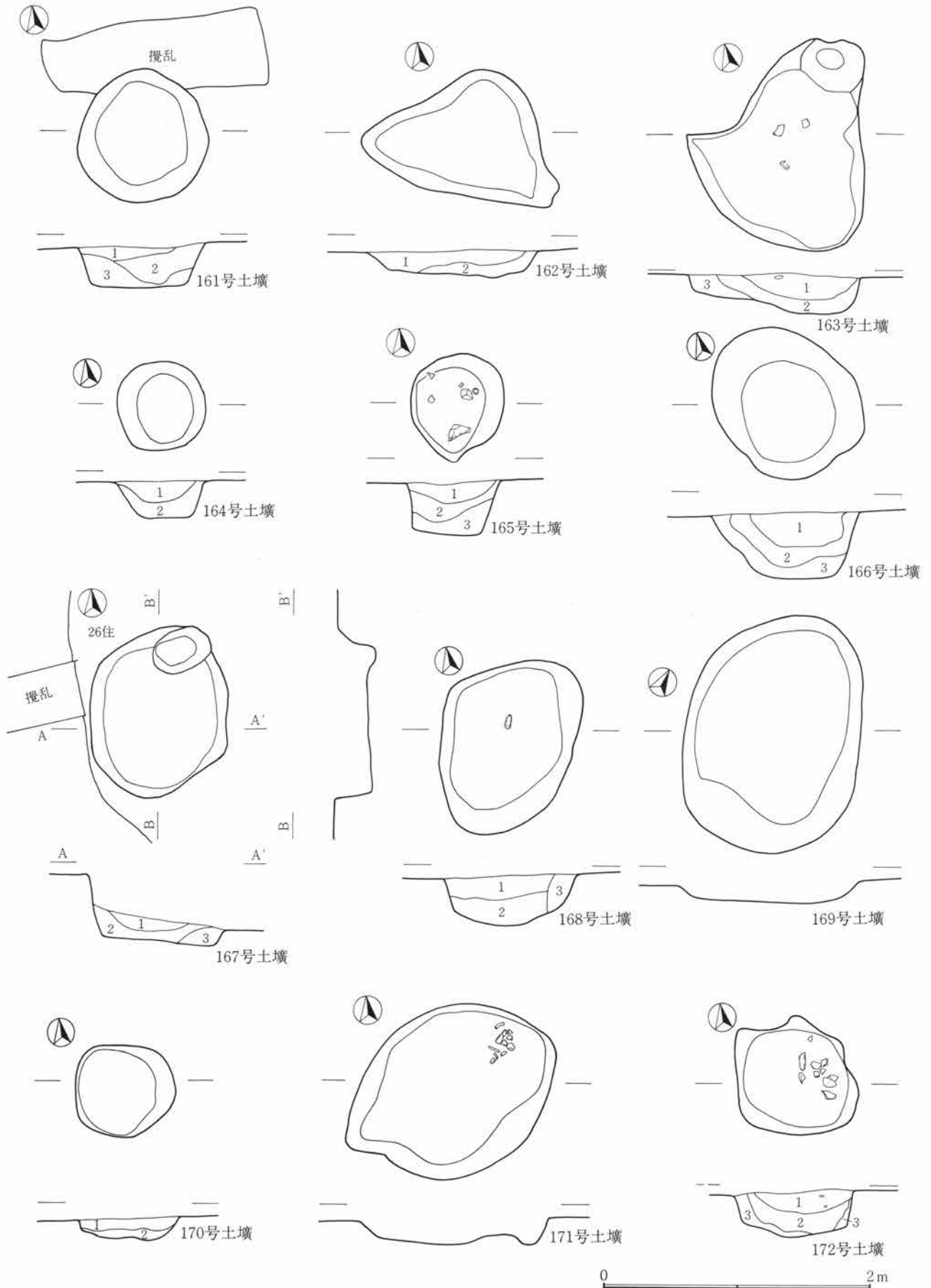
171号土壌(105図)；170号の東に位置し、172号土壌などが近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形だが、遺物は阿玉台式土器破片を中心に20数点出土。



103図 遺物を客体的に出土する土壇



104図 遺物を客体的に出土する土壌



105図 遺物を客体的に出土する土坑

第IV章 遺構と遺物

172号土壌(105図)；171号土壌の北東に近接する。小型の不整形円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。遺物は10数点の土器片の出土を見た。

173号土壌(106図)；172号土壌の東に近接する。小型の不整形円形を呈し、皿状の断面形である。1点の土器片出土。

174号土壌(106図)；173号土壌の東に位置し、他の土壌とはやや距離を置く。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

175号土壌(106図)；171号土壌の北西に位置する。円形を呈し皿状の断面形である。

176号土壌(106図)；調査区南西に位置する。小ピットである。

177号土壌(106図)；2号大石の東に位置する。不整形楕円状を呈し、皿状の断面形である。

178号土壌(106図)；調査区南西の175号土壌の北西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

179号土壌(106図)；178号土壌の西に位置する。やや不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

180号土壌(106図)；178号土壌の北に位置する。不整形の楕円形を呈し、皿状の断面形である。大型の自然石を墳底面より出土した。

181号土壌(106図)；180号土壌の東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

182号土壌(106図)；180号土壌の北西に位置し、183号土壌と重複する。不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

183号土壌(106図)；182号土壌の東に重複する。不整形を呈し、不定形な断面形である。

185号土壌(106図)；182号土壌の北に位置する。やや不整形楕円形を呈し、やや深い皿状の断面形である。

186号土壌(107図)；181号土壌の東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

187号土壌(107図)；186号土壌の北東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。大型の自然石を出土する。

188号土壌(107図)；187号土壌の南東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

189号土壌(107図)；188号土壌の北東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。小ピットは自然的なものであろう。

190号土壌(107図)；189号土壌の南東に位置する。浅い小ピットである。

191号土壌(107図)；190号土壌の南西に位置する。円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。20点ほどの五領ケ台式の土器片、小型の自然石を出土した。

192号土壌(107図)；調査区南西に位置する。156号土壌と重複する。小型の楕円状を呈し、皿状の断面形である。

193号土壌(107図)；29号住居址と33号住居址の間に位置する。攪乱溝によって北半分を遺失するが、楕円形状を呈し、皿状の断面形であろう。

197号土壌(107図)；29号住居址の南西に位置する。他の土壌とはやや距離を置く。円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。遺物は20数点の土器片が出土した。

194～196号土壌(107図)；2号大石の東～南東に位置する。小ピットである。

199号土壌(107図)；2号大石直下で検出された小ピットである。

200号土壌(108図)；調査区南東の23号住居址西にやや距離を置いて位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

201号土壌(108図)；200号土壌の北に位置する。やや不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

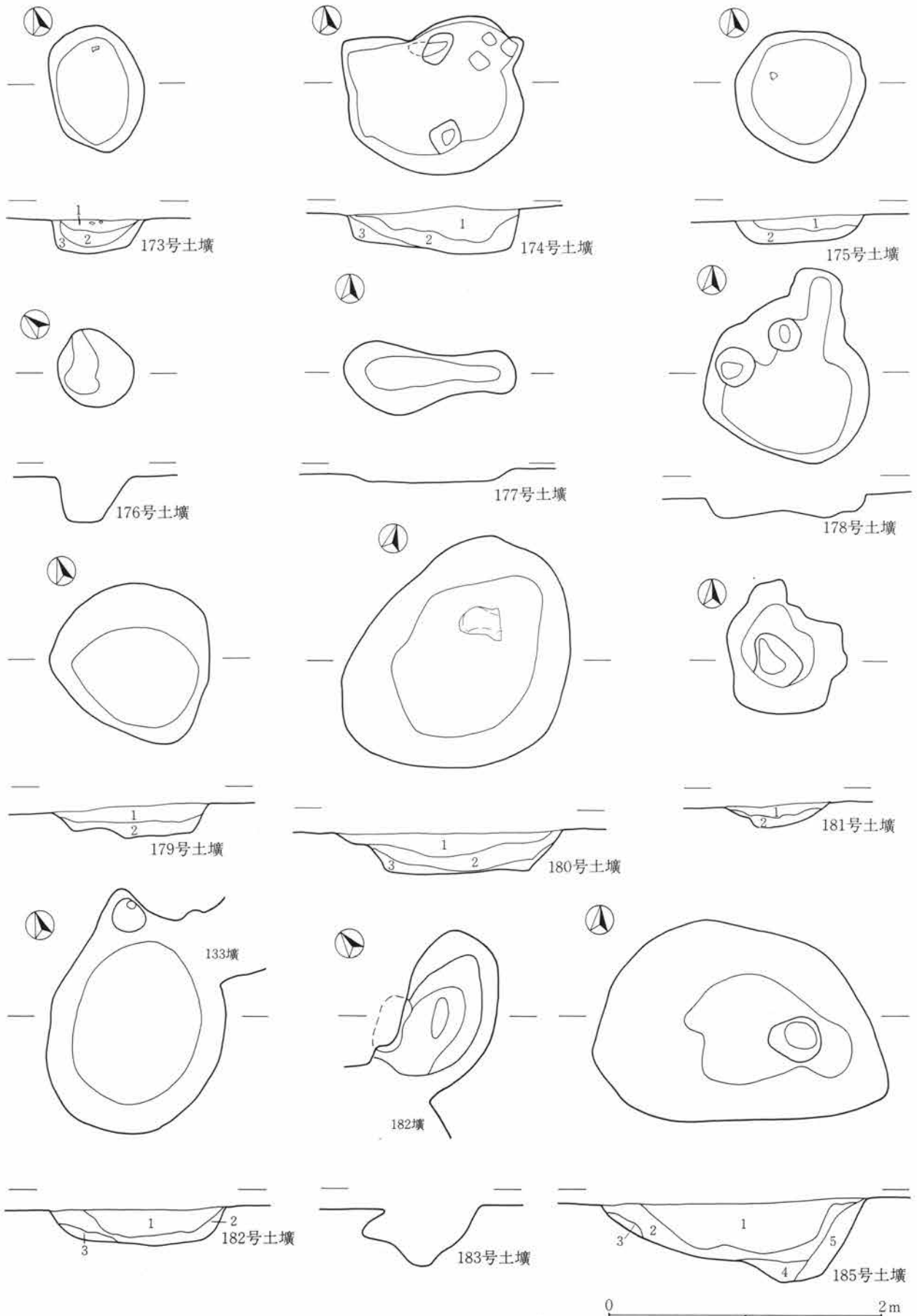
202号土壌(108図)；2号大石南に位置する。小ピットである。

203号土壌(108図)；調査区南の29号住居址北に位置する。周辺には204号土壌など円形の土壌が多く分布する。本土壌も円形で、方形の断面形を呈す。遺物は土器片(V群)を多く出土した。

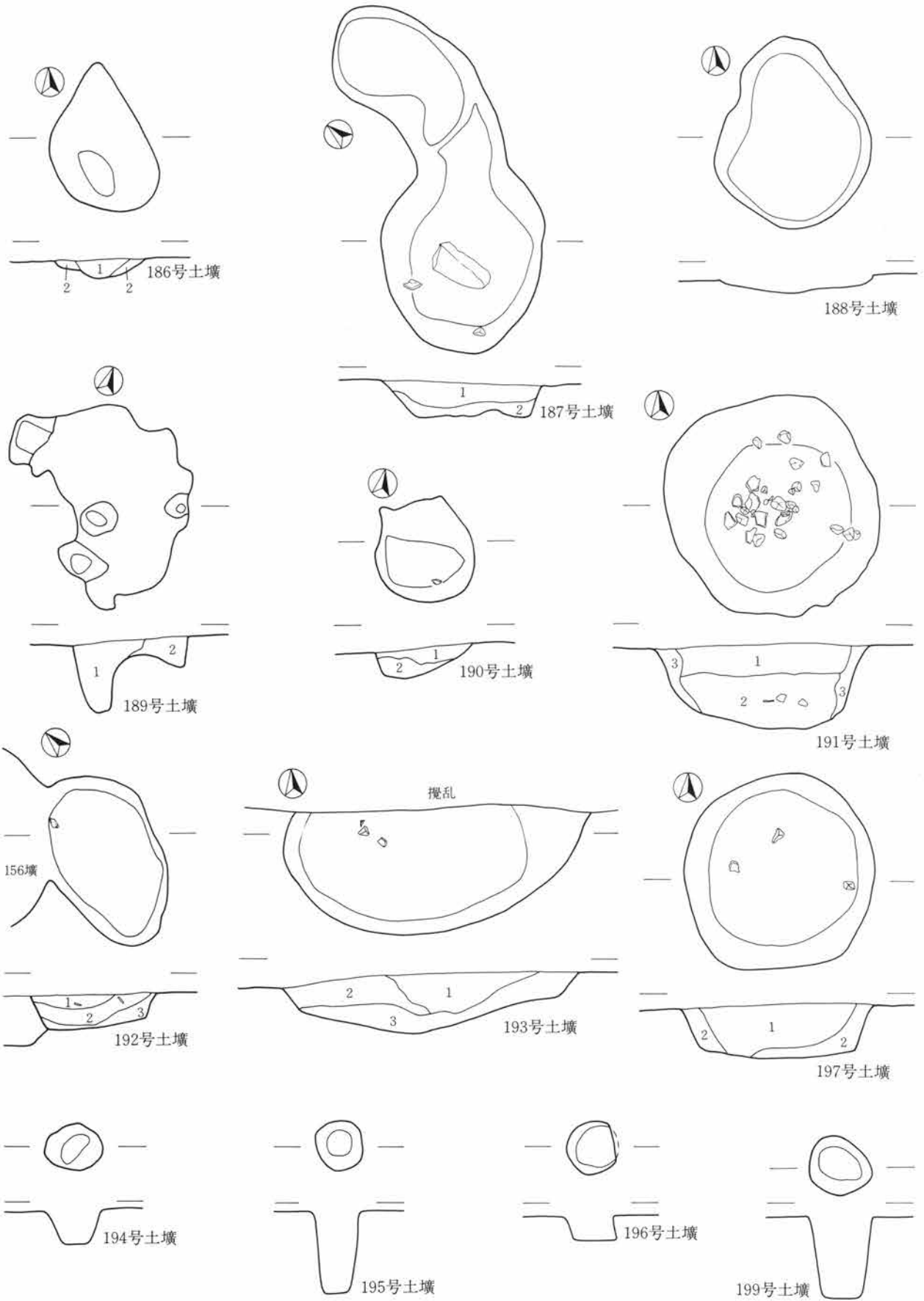
205号土壌(108図)；203号土壌の北東に位置し、一群をなす。円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

206号土壌(108図)；205号土壌の南西に位置する。小型の円形を呈し、皿状の断面形である。

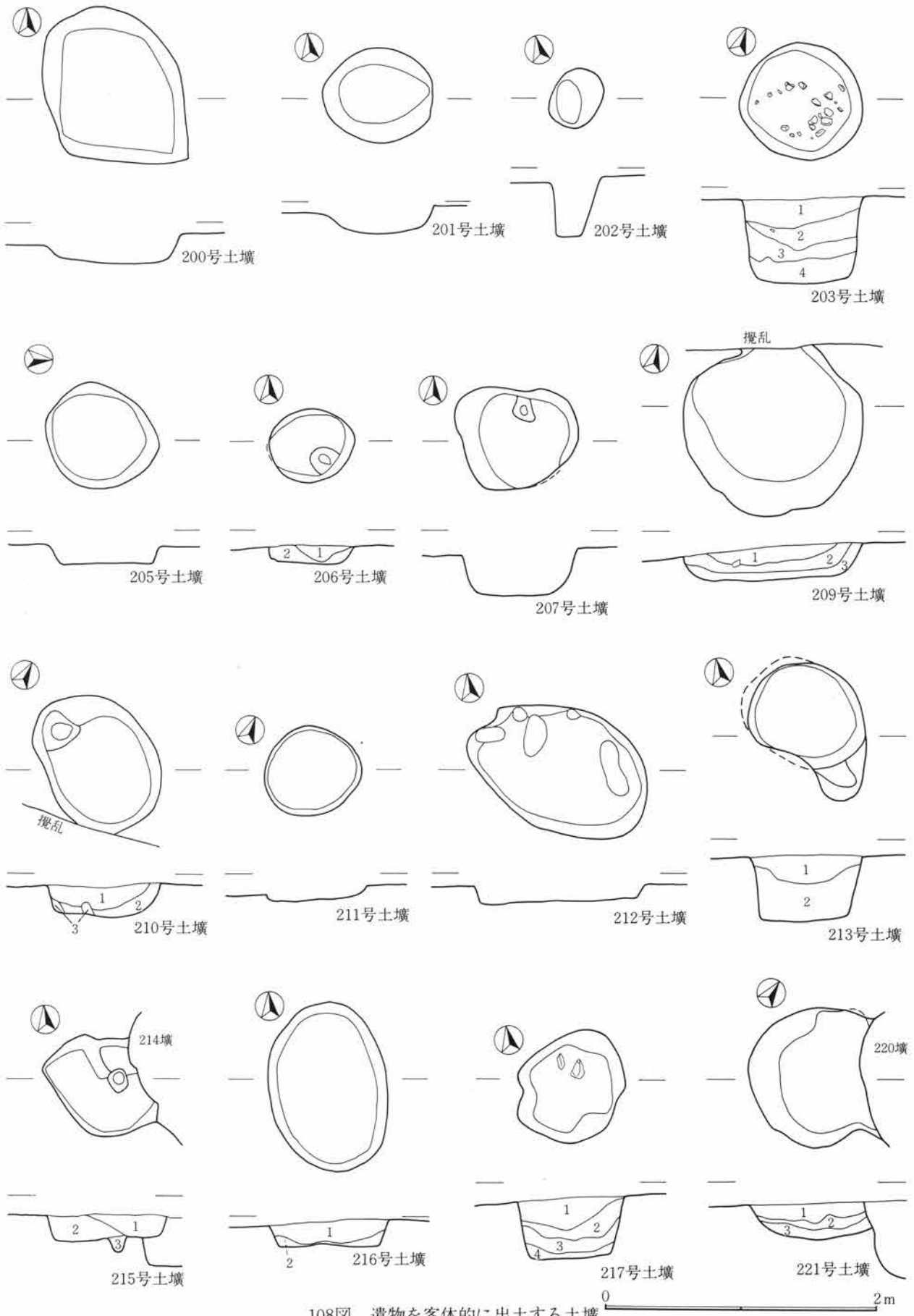
207号土壌(108図)；206号土壌の南に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。遺物は1点。



106図 遺物を客体的に出土する土壇



107図 遺物を客体的に出土する土壇



108図 遺物を客体的に出土する土壌

209号土壌(108図)；207号土壌の東に位置する。攪乱溝が北壁を壊す。円形で皿状の断面形である。

210号土壌(108図)；209号土壌の北に位置する。不整形円形を呈し、皿状の断面形である。10数点の土器片が出土した。

211号土壌(108図)；210号土壌の東に近接する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

212号土壌(108図)；25号住居址の南西に位置する。不整形楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。

213号土壌(108図)；212号土壌の北に位置する。不整形を呈するが断面形状は方形、一部を袋状にし、良好である。遺物は20数点を出土したが無文の浅鉢片が多い。

215号土壌(108図)；25号住居址西に位置し、214号土壌と重複する。不整形で浅い皿状の断面形である。

216号土壌(108図)；215号土壌の西に位置する。楕円形状を呈し、皿状の断面形である。

217号土壌(108図)；214号土壌の北に位置する。不整形円形を呈し、やや深めの皿状の断面形である。自然石を出土した。

221号土壌(108図)；216号土壌の西に位置し、220号土壌と重複する。円形で皿状の断面形である。

218・219号土壌(109図)；217号土壌の北西に位置し、254号土壌と重複する。219号土壌は両土壌に切られる。218号土壌は円形を呈し、掘り込みもしっかりしている。遺物は大型の自然石を出土する。219号土壌は形状など不明点が多い。

222号土壌(109図)；208号土壌の北西に位置する。小ピットである。

223号土壌(109図)；222号土壌の北西に位置し、203～205号土壌と一群をなすのであろう。やや小型の円形を呈し、掘り込みもしっかりしている。大型の自然石をみる。

225号土壌(109図)；224号土壌の北に位置する。小ピットである。

226号土壌(109図)；224号土壌の北東に位置する。円形を呈し、方形の断面形で遺存は良好である。遺物は数点の破片が出土したが細片のため図示し得なかった。

227号土壌(109図)；226号土壌の北東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形だが、遺物の出土量は多く、小片ながら50点程度を見る。

228号土壌(109図)；223号土壌の北西に位置する。円形を呈し、方形の断面形である。遺物は大型の自然石が覆土中より出土した。

229号土壌(109図)；228号土壌の北東に近接する。楕円形を呈し、壙底面は大きく凹凸を持つ。あるいは重複土壌か。遺物は大型の自然石が出土する。

230号土壌(109図)；229号土壌の北東に位置する。円形を呈し、皿状の断面形である。小ピットは壙底面で検出された。

231号土壌(109図)；25号住居址北西の土壌群内に位置する。小型の円形を呈し、皿状の断面形である。10点程度の土器片を出土したが細片のため図示し得なかった。

233・235号土壌(109図)；231号土壌の北西に近接する。234号土壌とも接する。235号土壌が新しい。233号土壌は円形で皿状の断面形である。遺物は1点のみ出土。235号土壌は不整形で皿状の断面形である。

234号土壌(109図)；235号土壌の北に接する。円形を呈し、断面形は皿状であるが掘り込みはしっかりしている。遺物は自然石と少量の土器片を出土した。

237号土壌(110図)；236号土壌の南に近接する。小型の円形を呈し、皿状の断面形である。

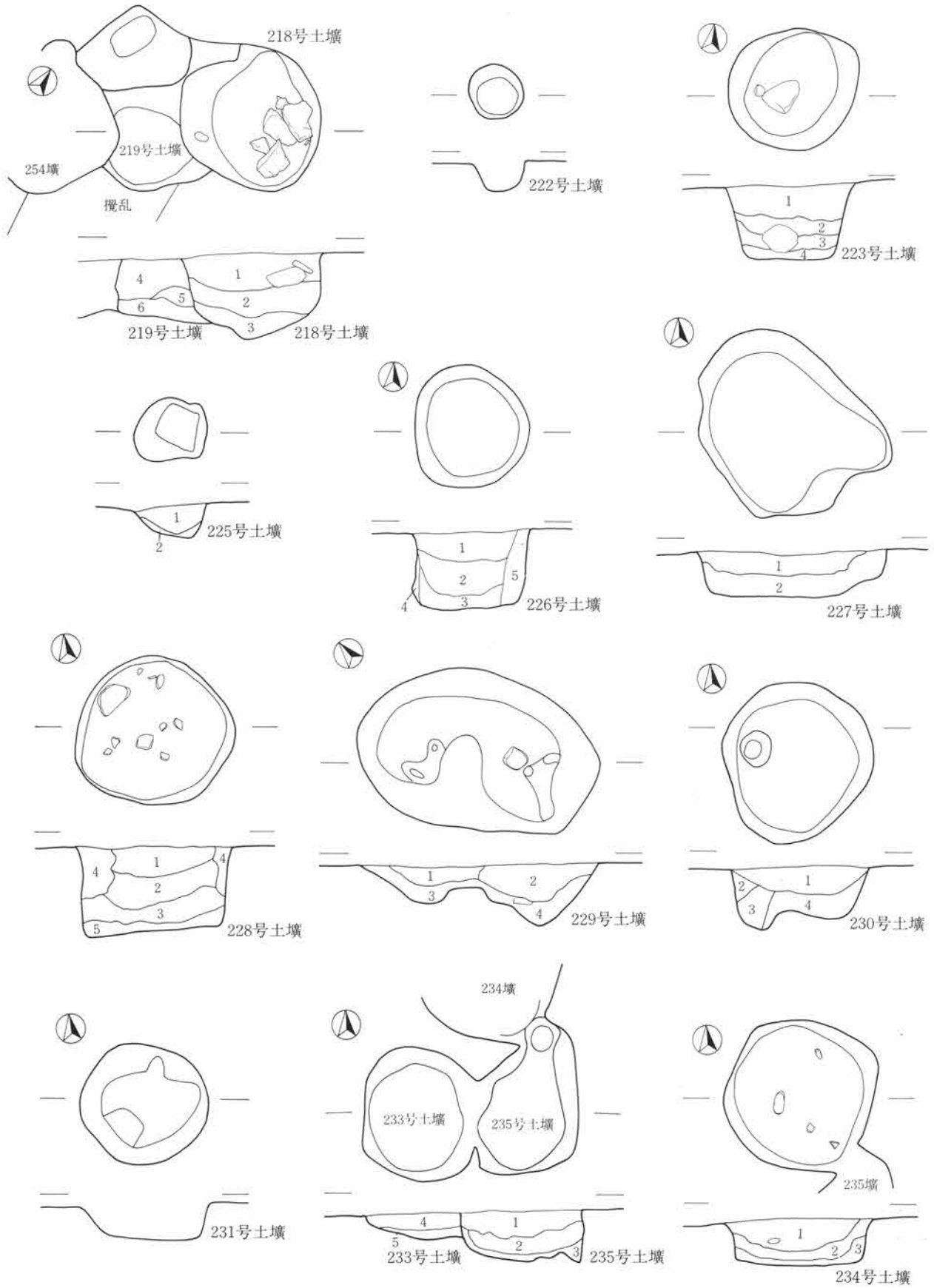
238・239号土壌(110図)；237号土壌の北東に位置する。重複土壌で、239号土壌が新しい。両土壌とも不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

240号土壌(110図)；238号土壌の北に近接する。小型の円形を呈し、皿状の断面形である。

241号土壌(110図)；240号土壌の北東にやや距離を置いて位置する。楕円形状で、皿状の断面形である。

242・243号土壌(110図)；241号土壌の北西に位置する。重複土壌として取り扱ったが、土層の観察では重複は認められず、単体の土壌かもしれない。楕円状を呈し、皿状の断面形である。

245号土壌(110図)；244号土壌の南に位置する。円形を呈し、断面形は深く、方形に近い。遺物は10数点の土器片の出土を見る。



109図 遺物を客体的に出土する土坑

第IV章 遺構と遺物

246号土壌(110図)；245号土壌の南西にやや距離を置いて位置する。楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

247号土壌(110図)；246号土壌の西に位置する。小型の円形で、浅い皿状の断面形である。

248号土壌(110図)；247号土壌の北西に位置する。円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。

249号土壌(110図)；調査区南西の288号の南に位置する。小ピットである。

250号土壌(110図)；248号土壌の南西に位置する。やや不整形を呈し、浅い。遺物は細片の出土。

251号土壌(110図)；250号土壌の南西に位置する。小型の不整形を呈し、細片の出土を見る。

252号土壌(111図)；251号土壌の西に近接する。小ピットである。

253号土壌(111図)；調査区南西の188号土壌の南に位置する。攪乱坑に東側を破壊される。大型の自然石が出土する。

254号土壌(111図)；25号住居址北西に位置し、219号土壌と重複する。やや方形に近い不整形を呈し、皿状の断面形である。大型の自然石と数点の土器片が出土した。

256、257号土壌(111図)；2号大石の南に位置する小ピットである。

258号土壌(111図)；調査区中央やや東寄りに占地する34号住居址南に位置する。不整形を呈し、断面もやや不定形である。細片の出土を見る。

259号土壌(111図)；258号土壌の東に位置する。不整形を呈し、断面形も不定形である。

260・261号土壌(111図)；2号大石南に位置する。小ピットである。

262号土壌(111図)；調査区南西に位置し、255号土壌の北東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

263・264号土壌(111図)；262号土壌の東に位置する。重複土壌だが、新旧関係は不明。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

265号土壌(111図)；34号住居址の東に位置する。不整形の楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。

266号土壌(111図)；調査区南西の255号土壌北西に位置する。267号土壌が近接する。やや不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

267号土壌(111図)；266号土壌の北に近接する。不整形の楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。

268号土壌(112図)；267号土壌の北に位置する。やや不整形を呈し、皿状の断面形である。

269号土壌(112図)；268号土壌の西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

270号土壌(112図)；269号土壌の西に位置する。やや不整形を呈し、掘り込みはしっかりしている。遺物は細片の出土を見る。

271号土壌(112図)；270号土壌の北に位置する。やや不整形を呈し、皿状の断面形である。

272号土壌(112図)；271号土壌の北東に位置する。やや不整形を呈し、皿状の断面形である。

274号土壌(112図)；270号土壌の東に位置する。楕円形状を呈し、皿状の断面形である。

275号土壌(112図)；274号土壌の東に位置する。円形で、掘り込みはしっかりしている。壙底面は凹む。

276号土壌(112図)；1号大石の南に位置し、333号土壌が近接する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

277号土壌(112図)；275号土壌の北に位置する。不整形を呈し、断面形も不定形である。

278号土壌(112図)；277号土壌の北東に位置する。楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。大型の自然石を出土する。

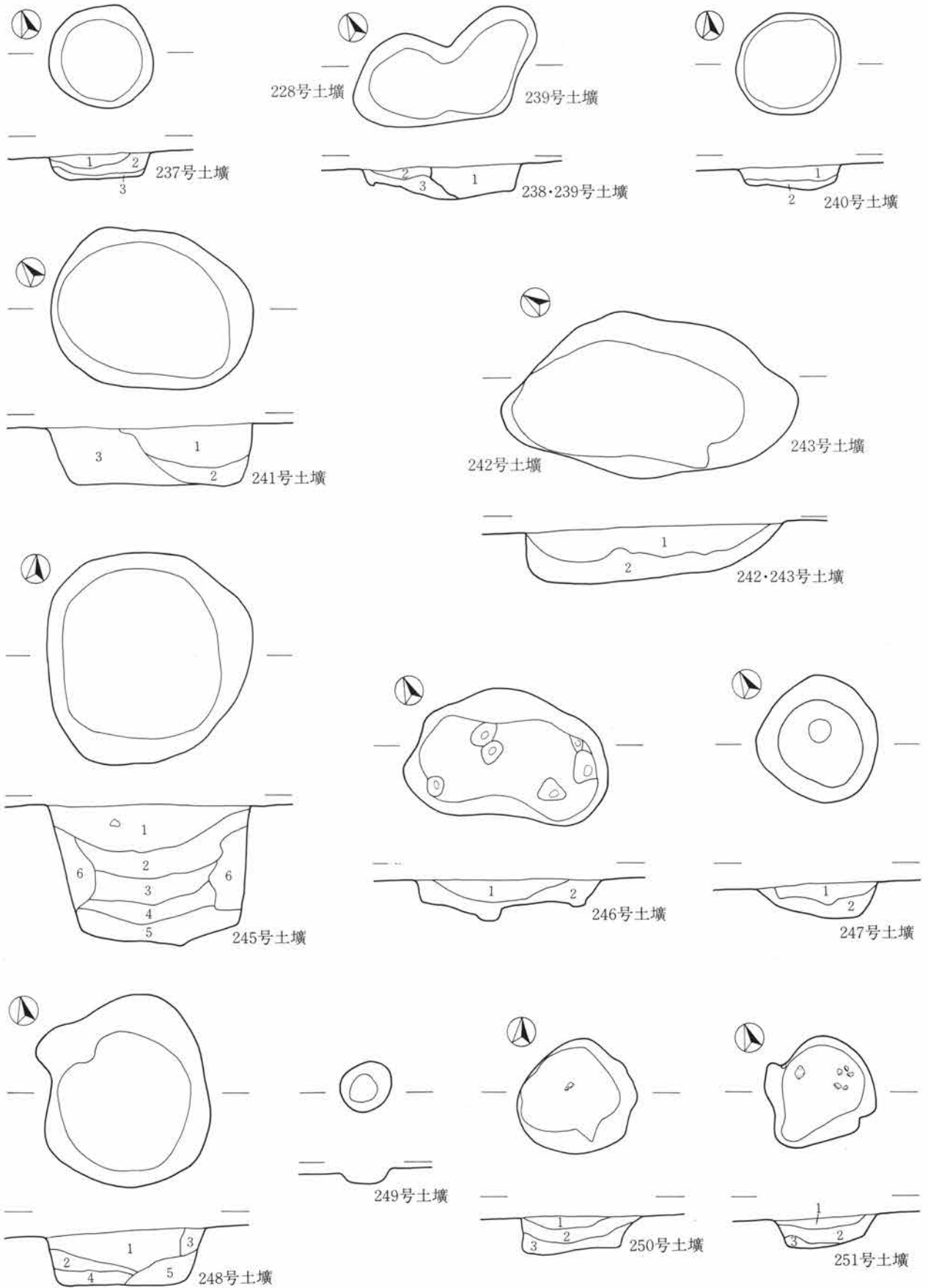
280号土壌(112図)；278号土壌の東にやや距離を置いて位置する。楕円状で浅い皿状の断面形である。

284号土壌(112図)；283号土壌の東にやや距離を置いて位置する。不整形で浅い皿状の断面形である。

285号土壌(113図)；284号土壌の東にやや距離を置いて位置する。円形で、掘り込みはしっかりしている。小ピットが重複する。小片の出土を見る。

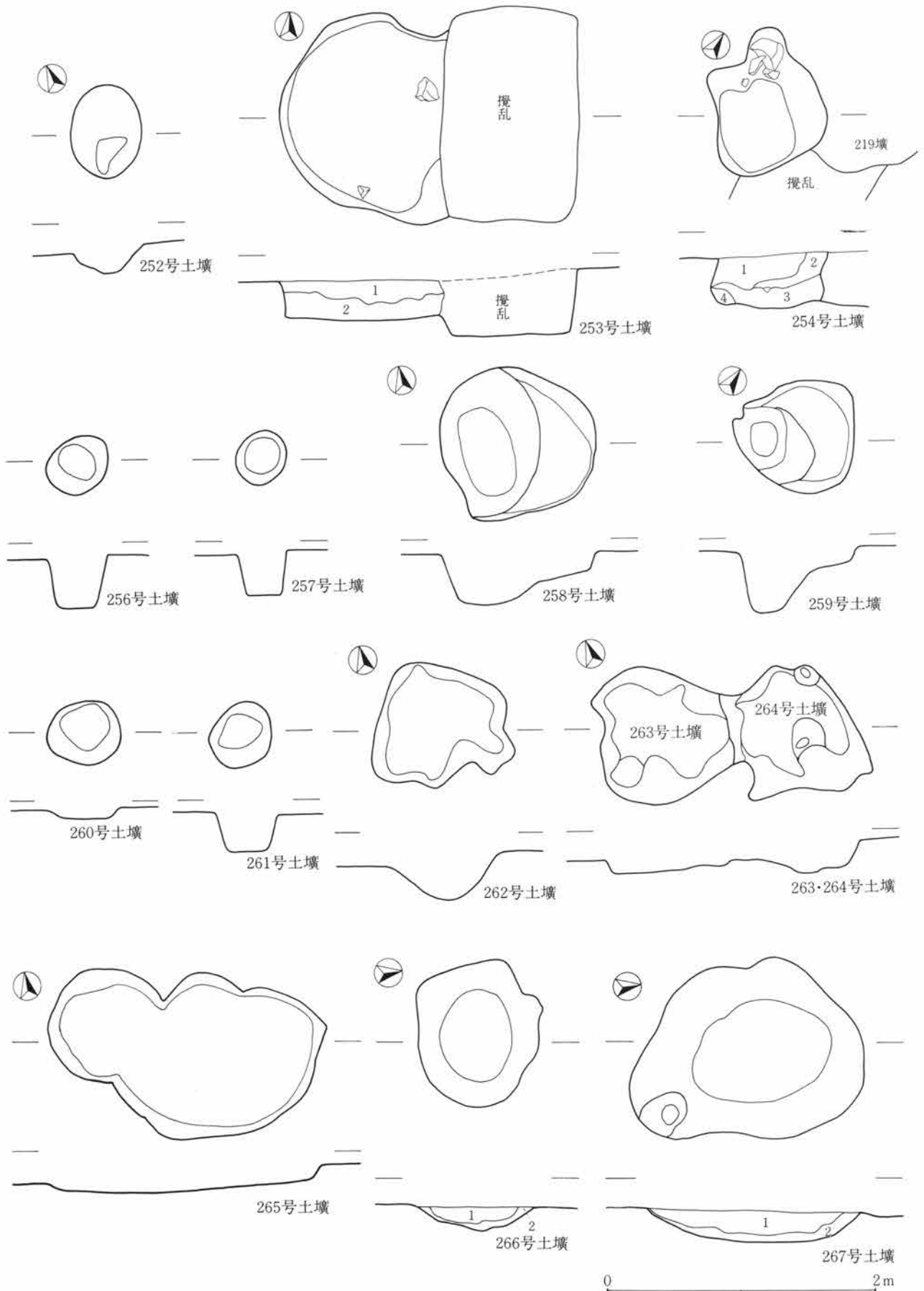
286号土壌(113図)；285号土壌の北東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

287号土壌(113図)；286号土壌の北西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

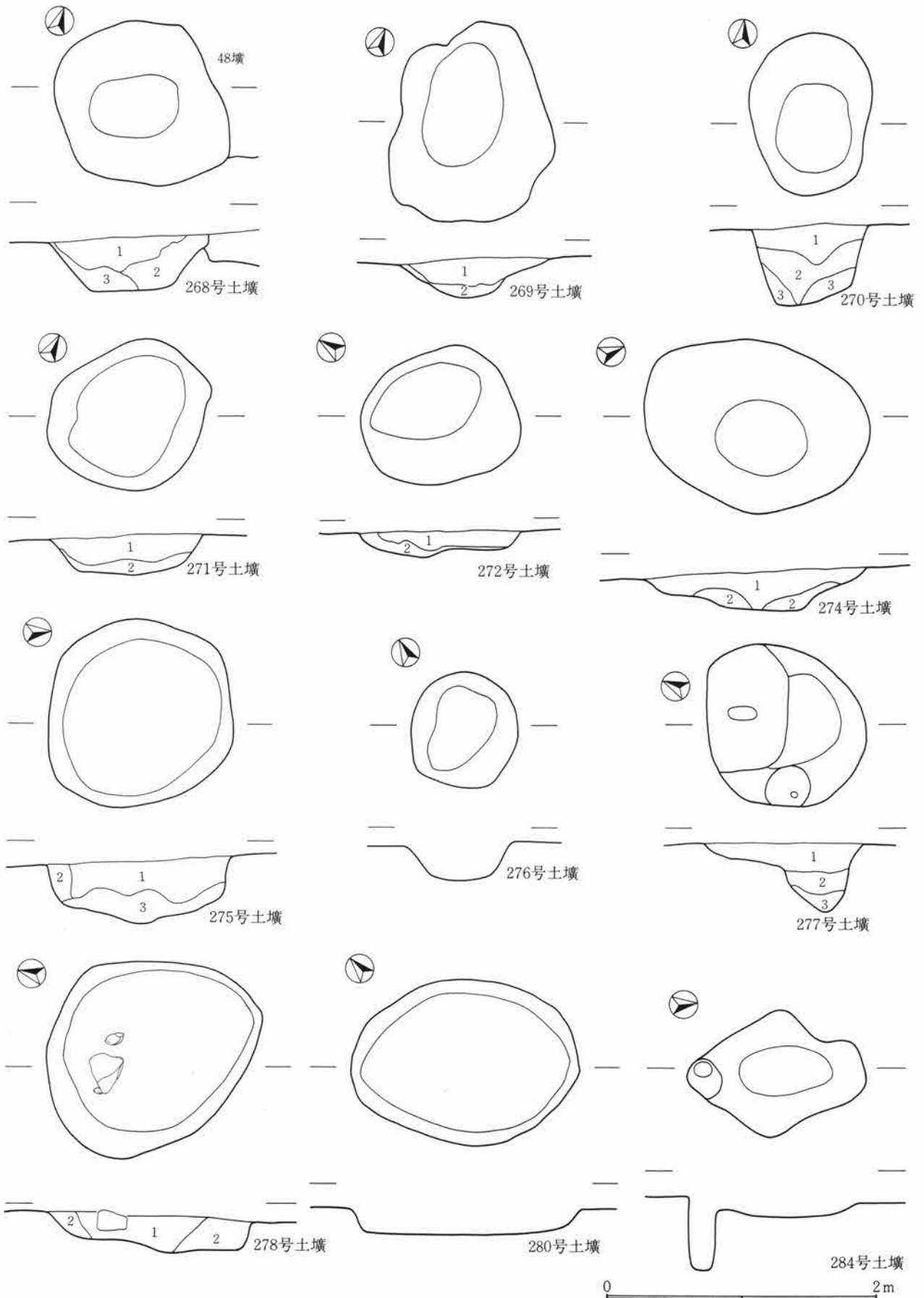


0 2m

110図 遺物を客体的に出土する土壇



111図 遺物を客体的に出土する土壌



112図 遺物を客体的に出土する土壇

第IV章 遺構と遺物

288号土壌(113図)；280号土壌の北東に位置する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

289号土壌(113図)；調査区中央南寄りの310号土壌の南東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

290号土壌(113図)；287号土壌の北東に位置する。楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。細片の出土を見る。

294号土壌(113図)；291号土壌の東に位置し、293号土壌と重複する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

295号土壌(113図)；293号土壌の東に位置し、49号土壌と重複する。小型の円形で皿状の断面形である。

296号土壌(113図)；295号土壌の北東に位置する。やや不整形を呈し、皿状の断面形である。

297号土壌(113図)；296号土壌の北東に位置する。小ピットである。

298号土壌(113図)；調査区南東に位置する。周辺には不整形の土壌がまばらに分布する。楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。

300号土壌(113図)；299号土壌の南西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

301号土壌(114図)；300号土壌の北西に近接する。小ピットである。

302号土壌(114図)；301号土壌の西に位置する。不整形を呈し、皿状の断面形である。細片1点のみの出土。

303、304号土壌(114図)；298号土壌の西にやや距離を置いて位置する。両土壌とも不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

305号土壌(114図)；304号土壌の西にやや距離を置いて位置する。不整形で浅い皿状の断面形である。

306号土壌(114図)；305号土壌の北に位置する。楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。

307号土壌(114図)；306号土壌の北東に位置する。浅い小ピットである。

308号土壌(114図)；307号土壌の西に位置する。円形で浅い皿状の断面形である。

309号土壌(114図)；310号土壌の北西にやや距離を置いて位置する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

311号土壌(114図)；309号土壌の西にやや距離を置いて位置する。不整形で浅い皿状の断面形である。

312号土壌(114図)；調査区西の突出部に位置する。343号土壌が近接する。小ピットである。

314号土壌(114図)；1号大石南に位置する。円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。自然石片、土器細片が出土する。

315号土壌(115図)；1号大石南に位置する小ピットである。

316号土壌(115図)；1号大石の北東に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。細片の出土。

317号土壌(115図)；1号大石の南に位置する。やや不整形で掘り込みもしっかりしている。大型の自然石を出土する。

319号土壌(115図)；317号土壌の西に位置する。浅い小ピットである。

320号土壌(115図)；319号土壌の西に位置する。円形で浅い皿状の断面形である。

321号土壌(115図)；320号土壌の北西にやや距離を置いて位置する。不整形を呈し、不定形の断面形である。

322、323号土壌(115図)；調査区西の突出部に位置する。小ピットである。

324号土壌(115図)；321号土壌の北に位置する。大型の円形を呈し、掘り込みもしっかりしている。土器細片の出土。

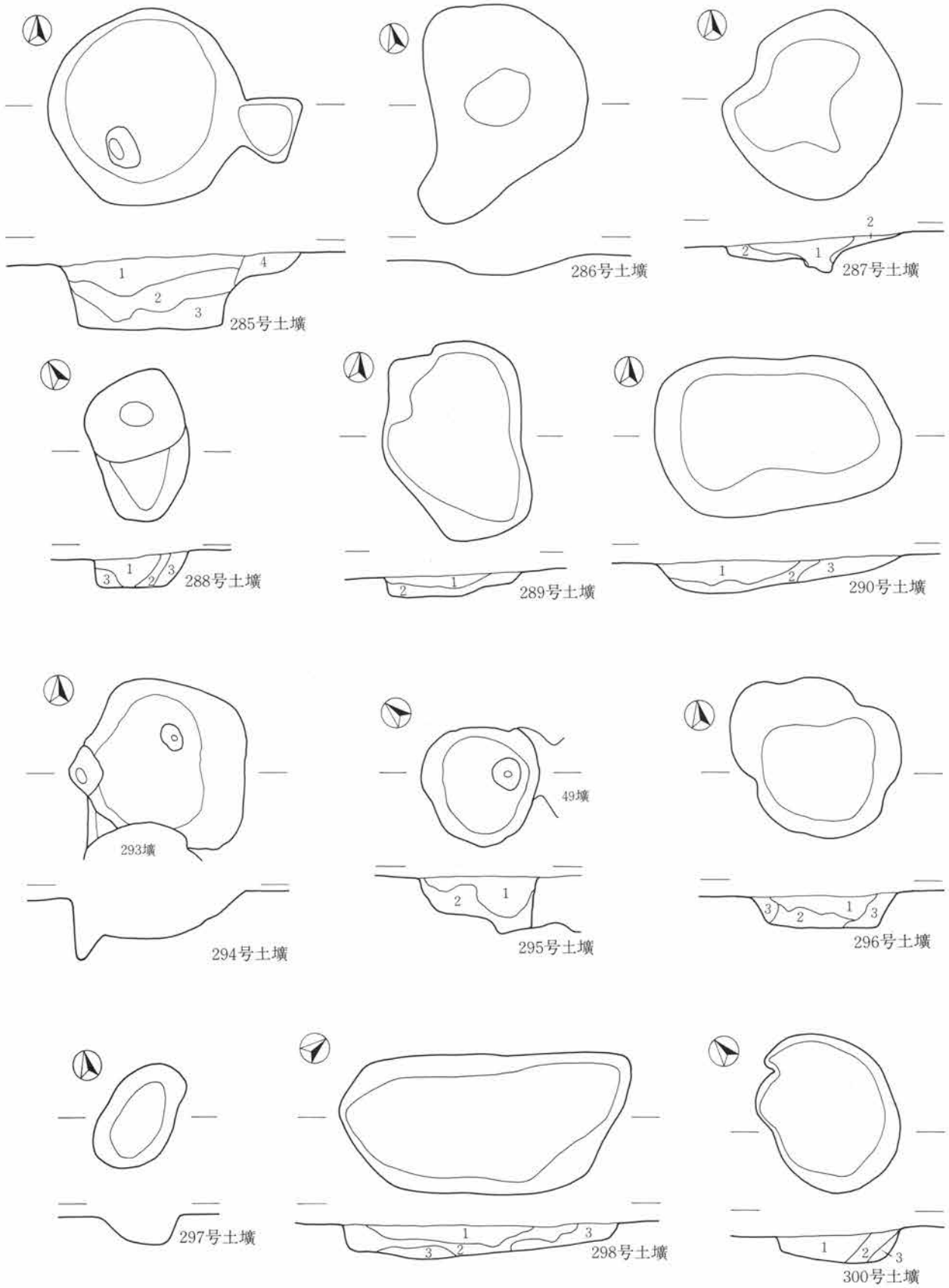
325号土壌(115図)；324号土壌の南西に位置する。楕円形状を呈し、皿状の断面形である。

326号土壌(115図)；324号土壌の西に位置する。円形を呈するが掘り込みは判然としない。

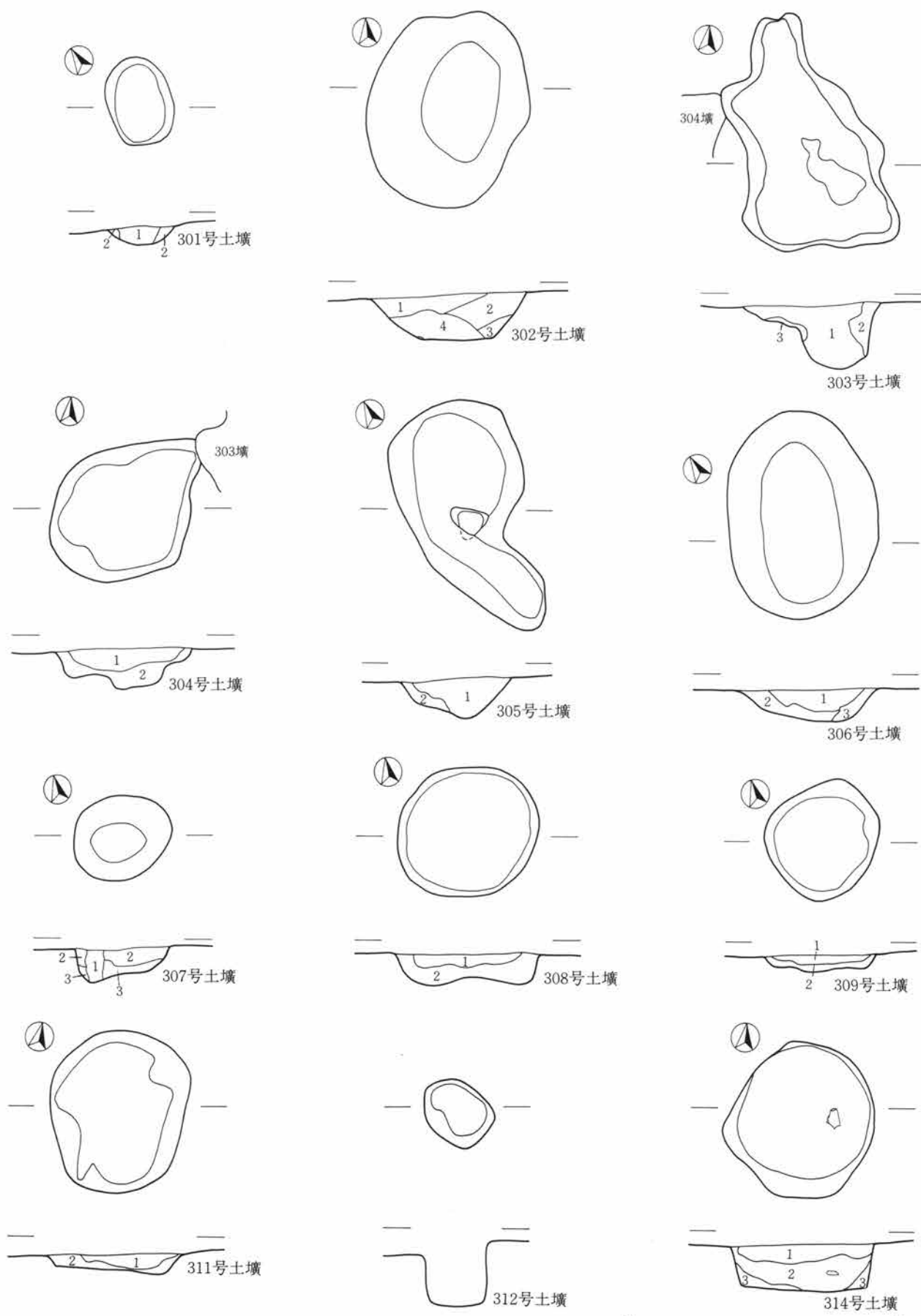
327号土壌(115図)；326号土壌の北西に位置する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

328号土壌(116図)；326号土壌の西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

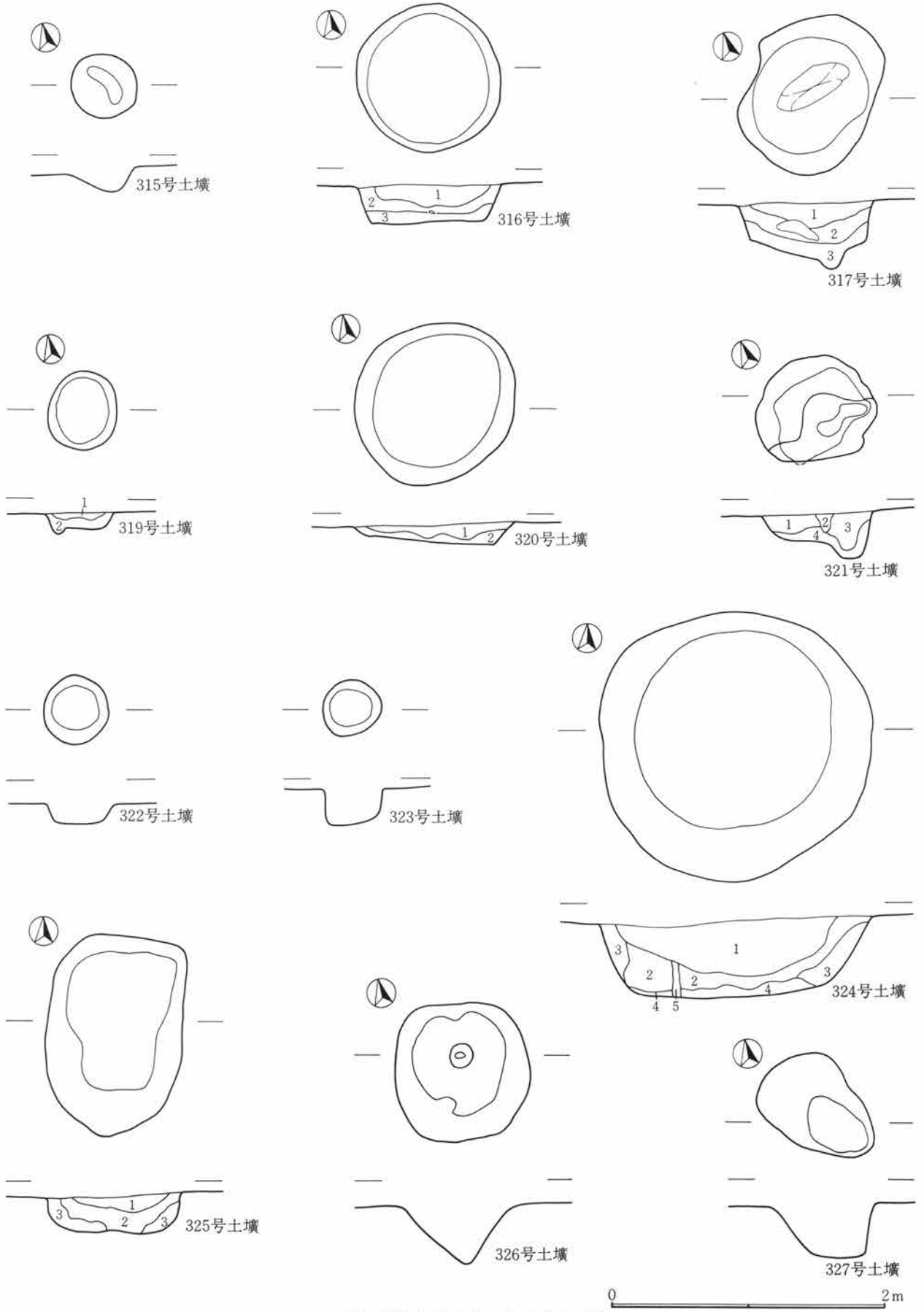
329号土壌(116図)；1号大石の西にやや距離を置いて位置する。小ピットである。



113図 遺物を客体的に出土する土壇



114図 遺物を客体的に出土する土壇



115図 遺物を客体的に出土する土壌

第IV章 遺構と遺物

330号土壌(116図)；328号土壌の南に位置する。333号土壌が近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

331号土壌(116図)；330号土壌の南西に位置する。332号土壌が近接する。やや不整円形を呈し、皿状の断面形である。

334号土壌(116図)；2号大石の南西に位置する。小型の円形で掘り込みもしっかりしている。数点の土器片の出土。

335号土壌(116図)；334号土壌の北に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。土器片1点の出土を見る。

336号土壌(116図)；335号土壌の北東に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。

337号土壌(116図)；336号土壌の北西に位置する。小ピットである。

339号土壌(116図)；調査区西の突出部に位置する小ピットである。

340号土壌(116図)；339号土壌の南に位置する不整形の小ピットである。

344号土壌(116図)；341号土壌の東に位置する。不整円形を呈し、断面形状は袋状である。自然石片などが出土した。

345号土壌(116図)；343号土壌の北に位置する。不整円形を呈し、方形の断面形状である。大型の自然石が出土した。また、覆土中位から炭化物がまとまって確認された。

346号土壌(116図)；345号土壌の東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

347号土壌(116図)；346号土壌の北西に位置する。小ピットだが炭化物、土器片を数点出土している。

348号土壌(117図)；345号土壌の北にやや距離を置いて位置する。円形を呈し、袋状の断面形である。自然石と土器片を数点出土する。

353号土壌(117図)；352号土壌の北に位置する。円形で皿状の断面形である。

354号土壌(117図)；353号土壌の東に位置する。不整円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

355号土壌(117図)；354号土壌の南に位置する。352号土壌は北西約1.5mに近接する。円形で断面形は袋状である。小型の自然石とともに数点の土器片も出土している。

358号土壌(117図)；2号大石の東に位置する。不整円形で掘り込みはしっかりしている。

359号土壌(117図)；354号土壌の北西に位置する小ピットである。

360号土壌(117図)；358号土壌の東に位置する。不整楕円形状を呈し、皿状の断面形である。

362号土壌(117図)；360号土壌の東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。大型の自然石を出土する。

363号土壌(117図)；362号土壌の東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

364号土壌(117図)；363号土壌の北に位置する。不整形を呈し、小ピットが重複する。

365、366、368号土壌(117・118図)；363号土壌の北～東に散在する小ピットである。

367号土壌(117図)；355号土壌の西に位置する。小ピットである。

370号土壌(118図)；1号大石の北にやや距離を置いて位置する。369号土壌と接する。やや不整円形を呈し、方形の断面形状を見る。

371号土壌(118図)；調査区中央やや南寄りに位置する。周辺には不整形の土壌が分布する。円形を呈し、皿状の断面形である。

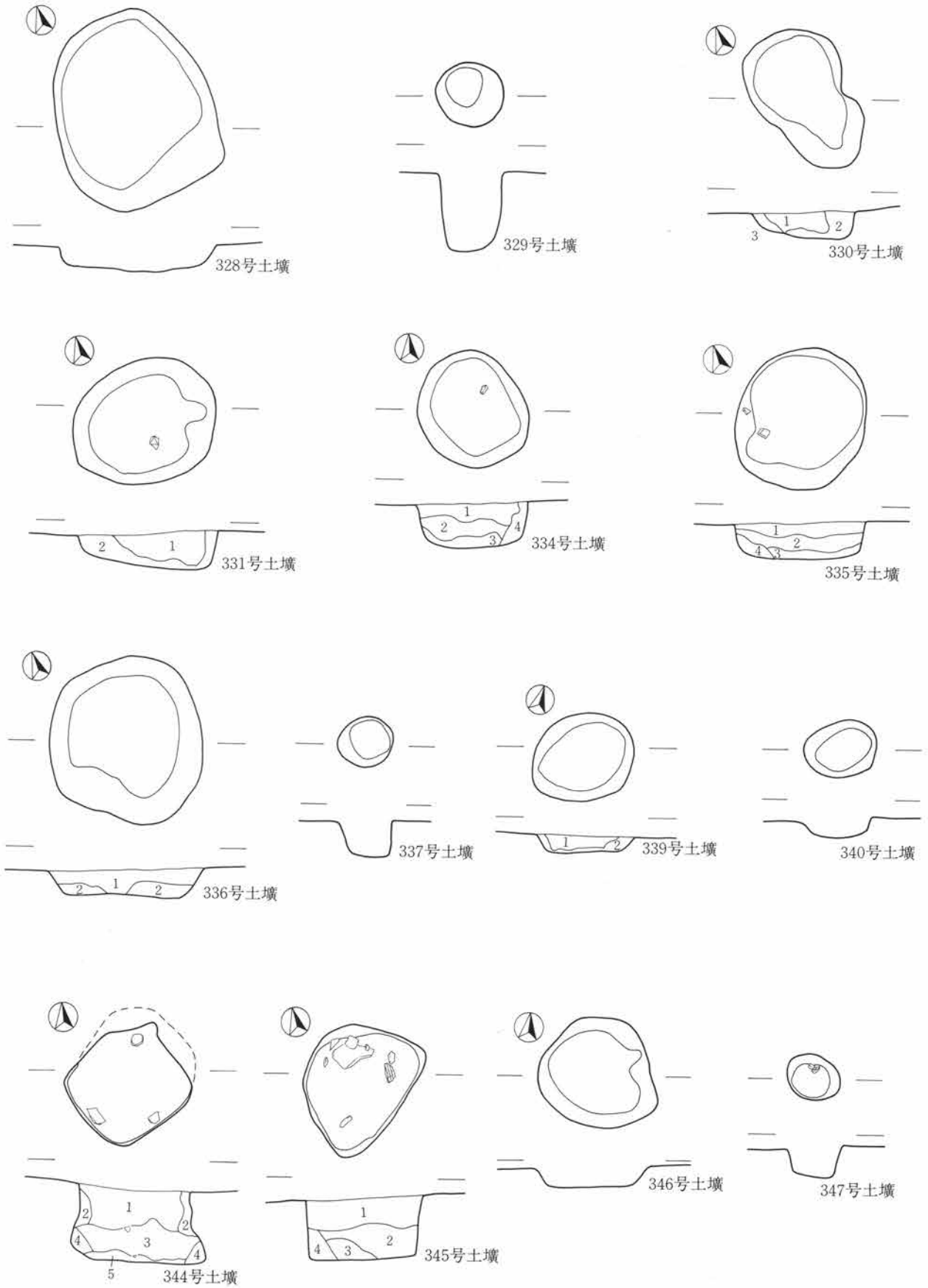
373号土壌(118図)；372号土壌の南西に位置する。円形で掘り込みもしっかりしており、方形の断面形を見る。細片が出土。

374号土壌(118図)；372号土壌の南東に位置する。円形を呈し、方形の断面形を見る。細片の出土。

375号土壌(118図)；374号土壌の南に近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

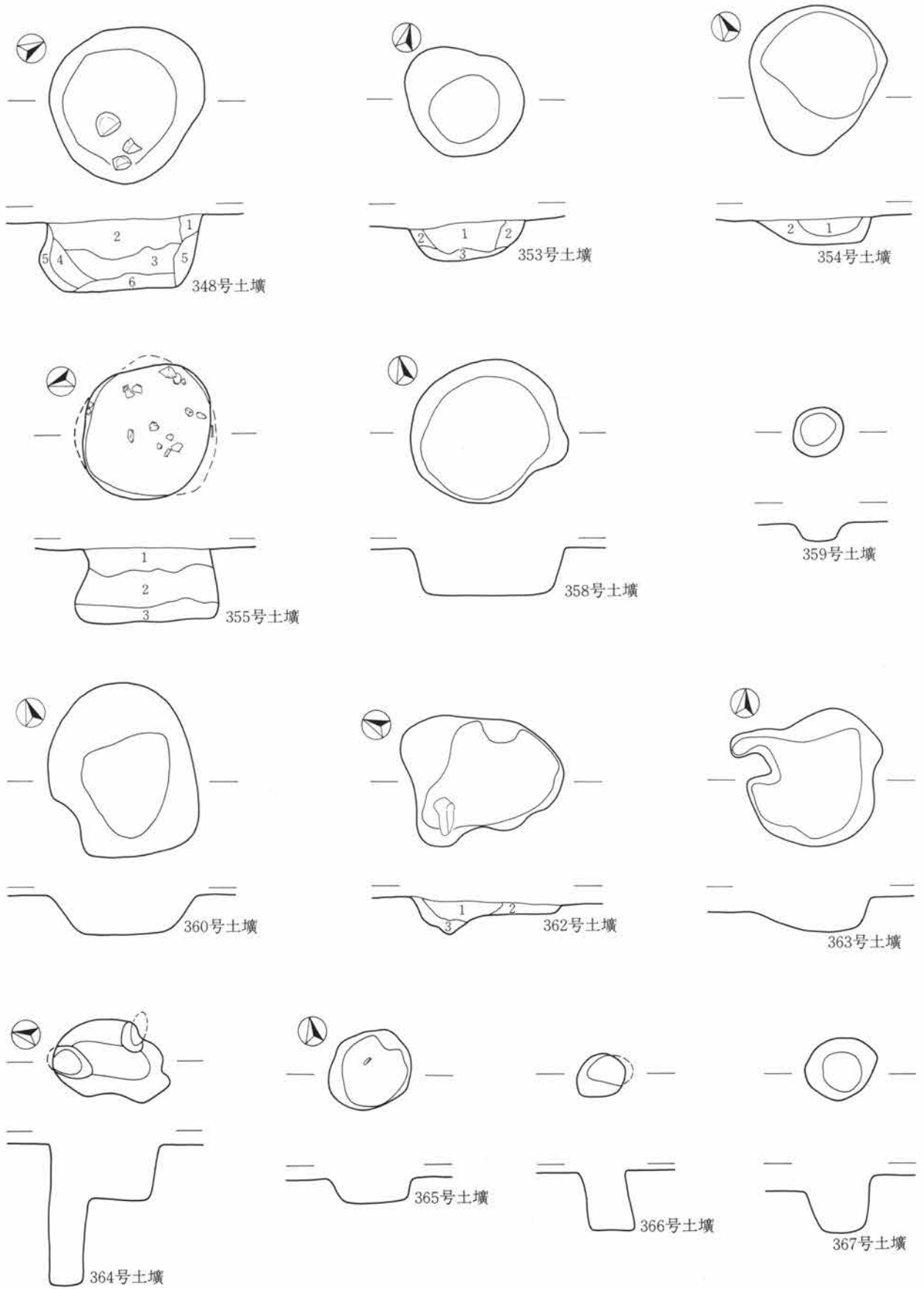
376号土壌(118図)；375号土壌の南西に近接する。やや不整円形を呈し、皿状の断面形である。

377号土壌(118図)；375号土壌の南に位置し、398、613号土壌に東西を挟まれる。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

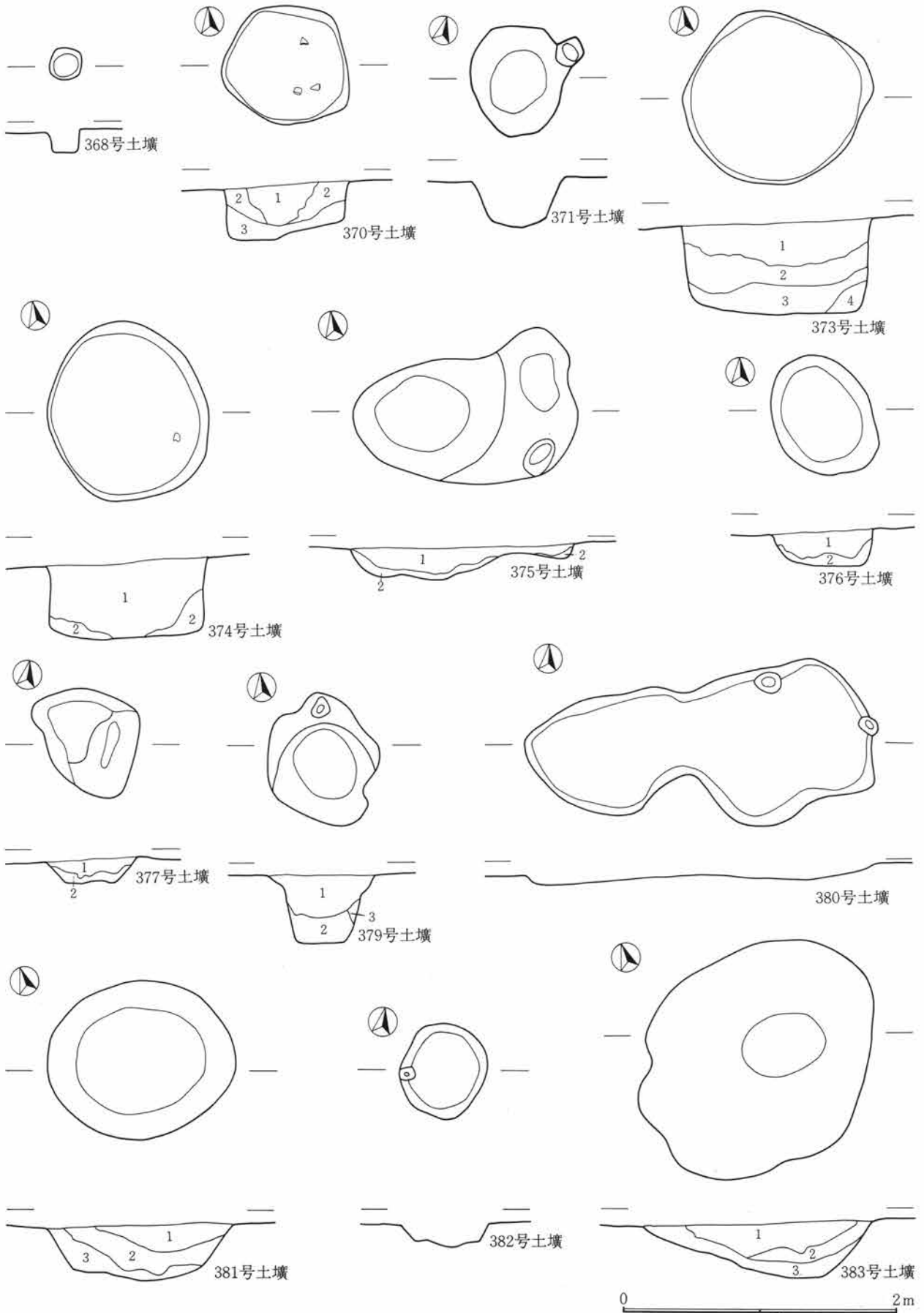


116図 遺物を客体的に出土する土壇

0 2m



117図 遺物を客体的に出土する土坑 0 2m



118図 遺物を客体的に出土する土坑

第IV章 遺構と遺物

379号土壌(118図)；398号土壌の南に位置する。不整形だが、掘り込みはしっかりしている。

380号土壌(118図)；379号土壌の南西に位置する。不整楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。

381号土壌(118図)；380号土壌の南に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。

382号土壌(118図)；381号土壌の西にやや距離を置いて位置する。小ピットである。

383号土壌(118図)；379号土壌の北東に位置する。不整楕円状を呈し、皿状の断面形である。

384号土壌(119図)；383号土壌の北に近接する。不整楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

385号土壌(119図)；383号土壌の東に位置する。不整楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。

386号土壌(119図)；調査区西の突出部に位置する。小ピットである。

387号土壌(119図)；385号土壌の南西にやや距離を置いて位置する。シミ状遺構と重複するが、円形で皿状の断面形である。

388号土壌(119図)；385号土壌の東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

389号土壌(119図)；388号土壌の南東に距離を置いて位置する。不整形で浅い皿状の断面形である。

390号土壌(119図)；389号土壌の北東に距離を置いて位置する。不整形で浅い皿状の断面形である。

391号土壌(119図)；390号土壌北東に距離を置いて位置する。不整楕円形で浅い皿状の断面形である。

392号土壌(119図)；391号土壌の北西にやや距離を置いて位置する。円形で掘り込みも良好。

393号土壌(119図)；388号土壌の北東にやや距離を置いて位置する。不整形で浅い皿状の断面形である。

394号土壌(119図)；388号土壌の北西に位置する。円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

395号土壌(119図)；394号土壌の北に位置する。やや大型の不整楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。大型の自然石を出土する。

396号土壌(119図)；395号土壌北東壁に接する。不整楕円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

397号土壌(120図)；384号土壌の北に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

398・399号土壌(120図)；調査区中央やや南寄りに位置する。400号土壌が北に近接する。重複土壌として捉えたが、墳底面の段差はない。両土壌とも不整楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

401号土壌(120図)；400号土壌の北に位置する。小ピットである。

402号土壌(120図)；400号土壌の西に位置する。後述する403、404号土壌とともに一群をなす。平面形は円形を呈し、方形の断面形をみる。墳底面は緩やかに凹み、壁は直立する。遺物は大型の自然石を覆土下位に置き、土器片も多く出土した。

403号土壌(120図)；402号土壌の西に近接する。平面形は不整円形だが、下端は円形で、断面形は袋状を呈す。墳底面はほぼ平坦で立ち上がりはオーバーハングする。遺物は自然石とともに、多くの土器片を覆土中位から下位にかけて出土した。

404号土壌(120図)；402号土壌の北に位置する。不整円形を呈し、方形の断面形である。

405号土壌(120図)；調査区西の357号土壌の北に位置する。小ピットである。

406号土壌(120図)；404号土壌の北西に位置する。やや不整円形を呈し、浅い皿状の断面形である。自然石とともに細片の出土を見る。

407号土壌(120図)；406号土壌の西に位置する。小ピットである。

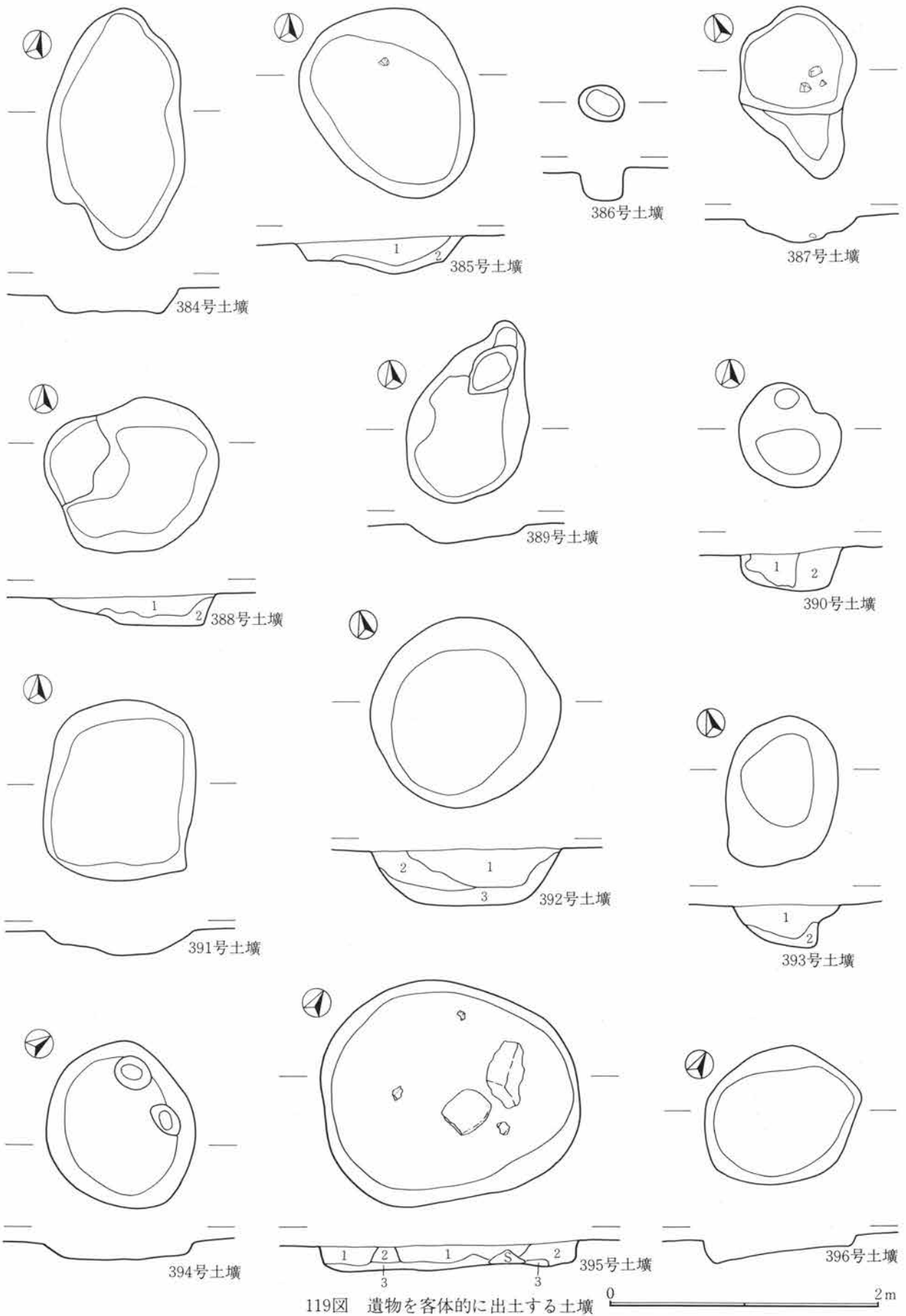
409号土壌(120図)；408号土壌の西に位置する。本土壌北は無遺構の空白部がある。円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

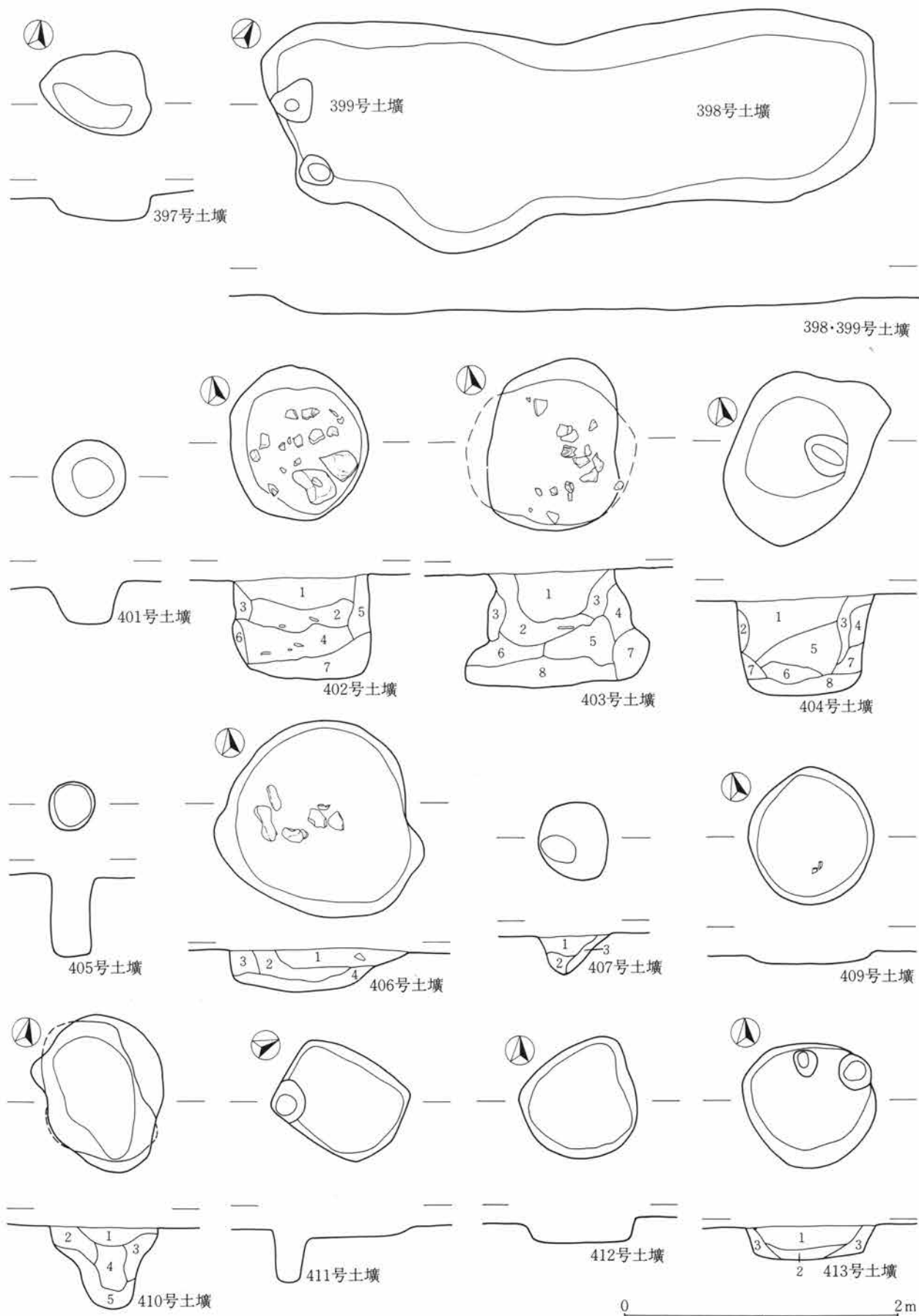
410号土壌(120図)；409号土壌の南に位置する。小型の楕円形を呈し、壁は外傾するが、一部が袋状である。

411号土壌(120図)；410号土壌の東に位置する。方形を呈し、浅い皿状の断面形である。

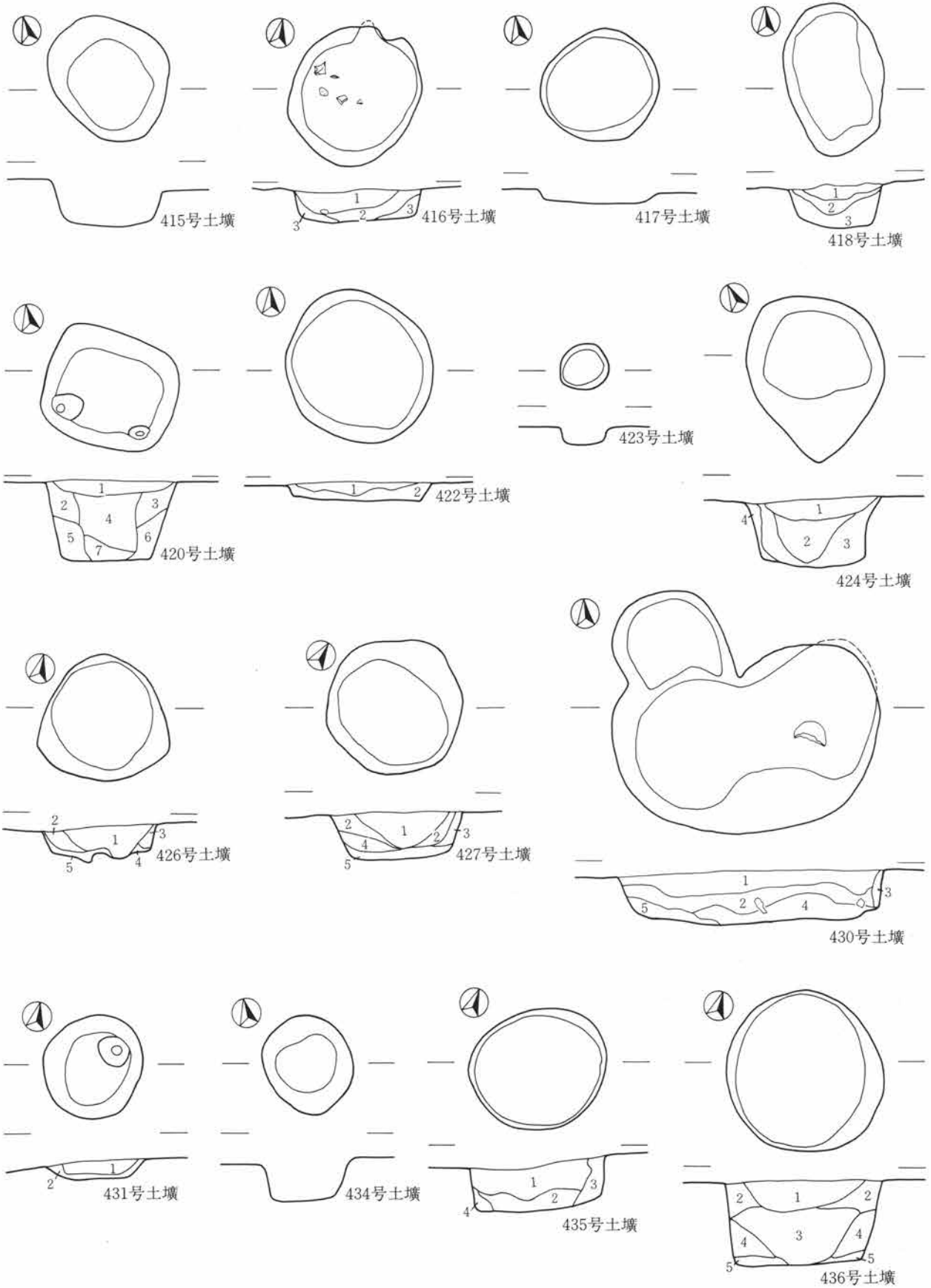
412号土壌(120図)；410号土壌の南西に位置する。不整円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

413号土壌(120図)；412号土壌の南西に位置する。円形を呈し浅いが、掘り込みはしっかりしている。





120図 遺物を客体的に出土する土壇



121図 遺物を客体的に出土する土坑

第IV章 遺構と遺物

415号土壌(121図)；414号土壌の北に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。

416号土壌(121図)；415号土壌の西に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。自然石を出土。

417号土壌(121図)；416号土壌の西に位置する。円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

418号土壌(121図)；416号土壌の南に位置する。小型の楕円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。

420号土壌(121図)；418号土壌の南に位置する。やや方形気味の不整形円形を呈し、掘り込みもしっかりしている。

422号土壌(121図)；420号土壌の南に位置する。円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

423号土壌(121図)；2号大石北に位置する小ピットである。

424号土壌(121図)；420号土壌の南西に位置する。やや不整形円形を呈し、方形の断面形である。土器片の出土も多い。

426号土壌(121図)；424号土壌の北西に位置し、427号土壌と接する。不整形円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。細片の出土を見る。

427号土壌(121図)；426号土壌の北に接する。円形で掘り込みもしっかりしている。

430号土壌(121図)；426号土壌の西に近接する。双円形の平面形を呈し、北に浅い落ち込みが重複する。本土壌自体も重複土壌の可能性はあるが土層観察では重複は認められなかった。墳底面は平坦で、壁の一部はオーバーハングする。墳底面直上より大型の自然石が、覆土下位より土器片が数点出土した。

431号土壌(121図)；430号土壌の南に位置する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

434号土壌(121図)；調査区西の突出部に位置する。小型の円形を呈し、皿状の断面形である。

435号土壌(121図)；434号土壌の北に位置する。円形で掘り込みもしっかりしており、方形の断面形である。

436号土壌(121図)；435号土壌の西に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。方形の断面形である。細片の出土。

437号土壌(122図)；463号土壌の北に位置する。小型の円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。

438号土壌(122図)；調査区中央に位置し439号土壌と重複する。円形で浅い皿状の断面形である。

439号土壌(122図)；438号土壌と重複するが僅小な重なりのため新旧は不明。円形で皿状の断面形である。

440号土壌(122図)；438号土壌の東に距離を置いて位置する。不整形円形で浅い皿状の断面形である。

442号土壌(122図)；調査区中央やや南東寄りに位置する。不整形の楕円状で浅い皿状の断面形である。

441号土壌(122図)；442号土壌の西に位置する。小型の楕円形で断面形は袋状である。墳底面に小ピットを開けることから、また、位置的なことからも陥し穴としての可能性も考えられるが、やや小型すぎる。

443号土壌(122図)；442号土壌の南に位置する。小ピットである。

447号土壌(122図)；442号土壌の北に大きく距離を置いて位置する。不整形で浅い皿状の断面形である。

448号土壌(122図)；442号土壌の北西に大きく距離を置いて位置する。小型の楕円状を呈し、皿状の断面形である。

450号土壌(122図)；調査区中央に位置する。不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

451号土壌(122図)；調査区中央南寄りの大型の474号土壌の北に位置する。円形で、浅い皿状の断面形である。

452号土壌(122図)；474号土壌の南西に位置する。楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

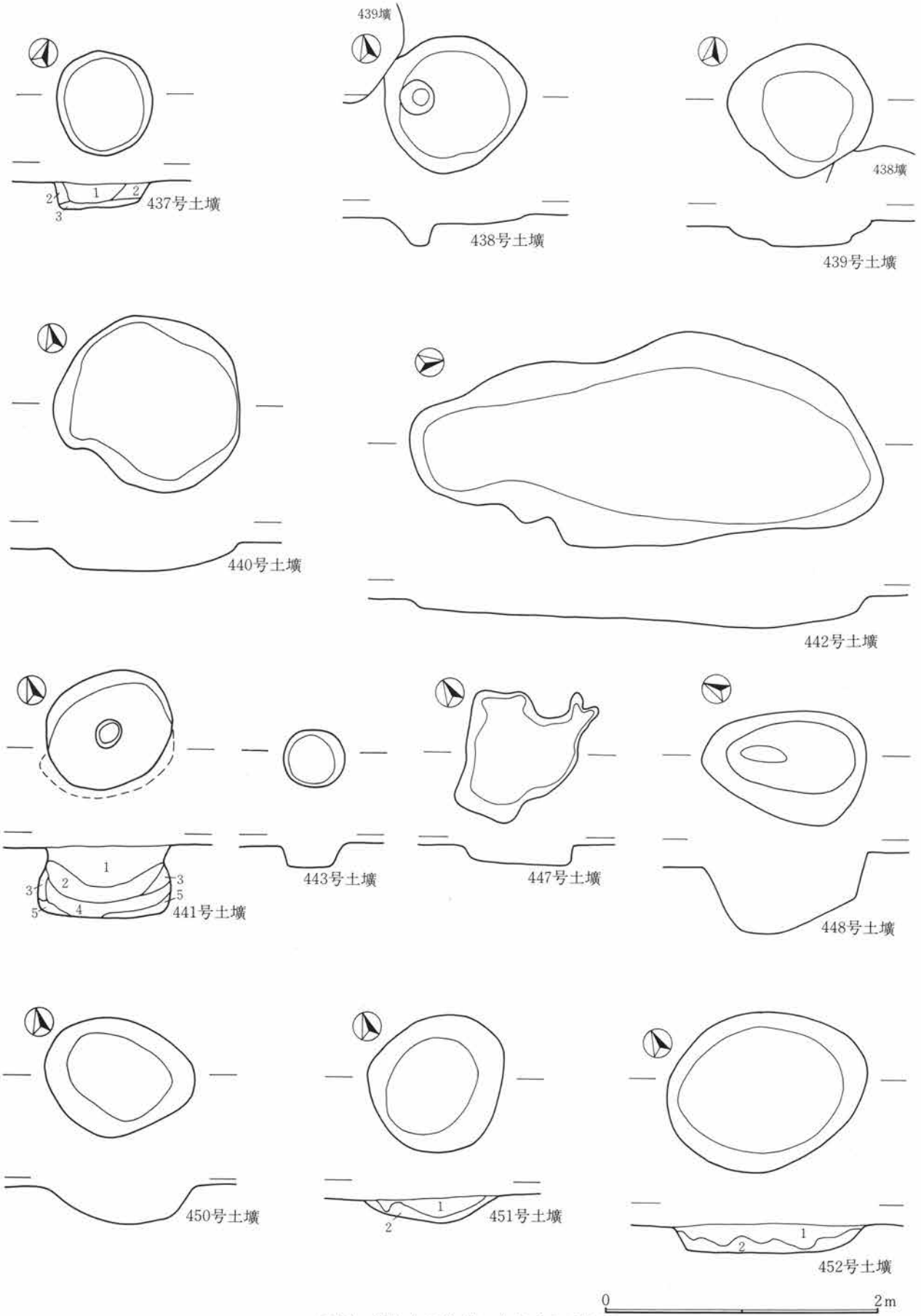
453号土壌(123図)；調査区南東の298号土壌の北に位置する。小ピットである。

456号土壌(123図)；453号土壌の北にやや距離を置いて位置する。楕円状を呈し、皿状の断面形である。

457号土壌(123図)；2号大石の北東に位置する。小ピットである。

458号土壌(123図)；457号土壌の北東にやや距離を置いて位置する。小ピットである。

459号土壌(123図)；調査区南西端の傾斜地に位置する。32号住居址が東に近接する。大型の円形を呈し、皿状の断面形である。遺物は数点の土器片が出土した。



122図 遺物を客体的に出土する土壇

第IV章 遺構と遺物

462号土壌(123図)；調査区中央のやや南西よりに位置する。周辺には小ピットが多く、本土壌も小ピットである。

465号土壌(123図)；調査区南の29号住居址東に位置する。不整形円で掘り込みもしっかりしている。細片を10数点出土。

469号土壌(123図)；406号土壌の北西に位置する。小ピットである。

471号土壌(123図)；調査区西寄りの361号土壌の北に位置する。小ピットである。

473号土壌(123図)；2号大石南にやや距離を置いて位置する。小ピットである。

475号土壌(123図)；調査区やや南東寄りの245号土壌の西に位置する。小ピットである。

476号土壌(123図)；調査区南東寄りに位置する小ピットである。南東に225号土壌が近接する。

477号土壌(123図)；1号大石の南東に距離を置いて位置する小ピットである。

480号土壌(123図)；調査区南西の28号住居址北に接する。不整形円で掘り込みもしっかりしている。小ピットが重複する。

472・474号土壌(124図)；調査区中央南寄りで検出された大型の土壌である。浅い皿状の断面形である。北壁に小ピットである472墳が重なる。遺物は無い。

482号土壌(124図)；南西の28号住居址北に距離を置いて位置する。481号土壌が南に近接する。小型の円形で、浅いが方形の断面形を見る。

487号土壌(124図)；2号大石の北に位置する小ピットである。

488、489号土壌(124図)；調査区やや西寄りの361号土壌の東に位置する。小ピットである。

490号土壌(124図)；調査区南西寄りの264号土壌の東に位置する。不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

492号土壌(124図)；調査区南東の25号住居址北の土壌群内に位置する。不整形円状を呈し、皿状の断面形である。

494号土壌(124図)；調査区西に位置し、497号土壌と重複する。小ピットである。

495号土壌(124図)；調査区中央や、南寄りに位置する小ピットである。373号土壌が接する。

496号土壌(125図)；1号大石の北西にやや距離を置いて位置する。小ピットである。

497号土壌(125図)；調査区やや南西寄りに位置する。325号土壌の東に位置する。小ピットである。

498・499号土壌(125図)；2号大石の南に位置する。両者とも小ピットである。498墳より細片が出土。

500号土壌(125図)；調査区中央西寄りの36号住居址北東に位置する。不整形円状を呈し、皿状の断面形である。

501、502、504号土壌(125図)；500号土壌の北～北西に群在する小ピットである。

503号土壌(125図)；502号土壌の北西に位置する。不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

505・506号土壌(125図)；504号土壌の北にやや距離を置いて位置する。重複で505墳が新しい。両者とも円形で掘り込みもしっかりしている。

507号土壌(125図)；505号土壌の南に位置する。小ピットである。

508号土壌(125図)；507号土壌の南東に位置する。不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

509号土壌(125図)；508号土壌の南に位置する。深い小ピットである。

511号土壌(125図)；509号土壌の東に位置する。510号土壌が重複し、512号土壌が近接する。本土壌が新しい。不整形円状を呈し、浅い皿状の断面形である。墳底面に小ピットを開ける。

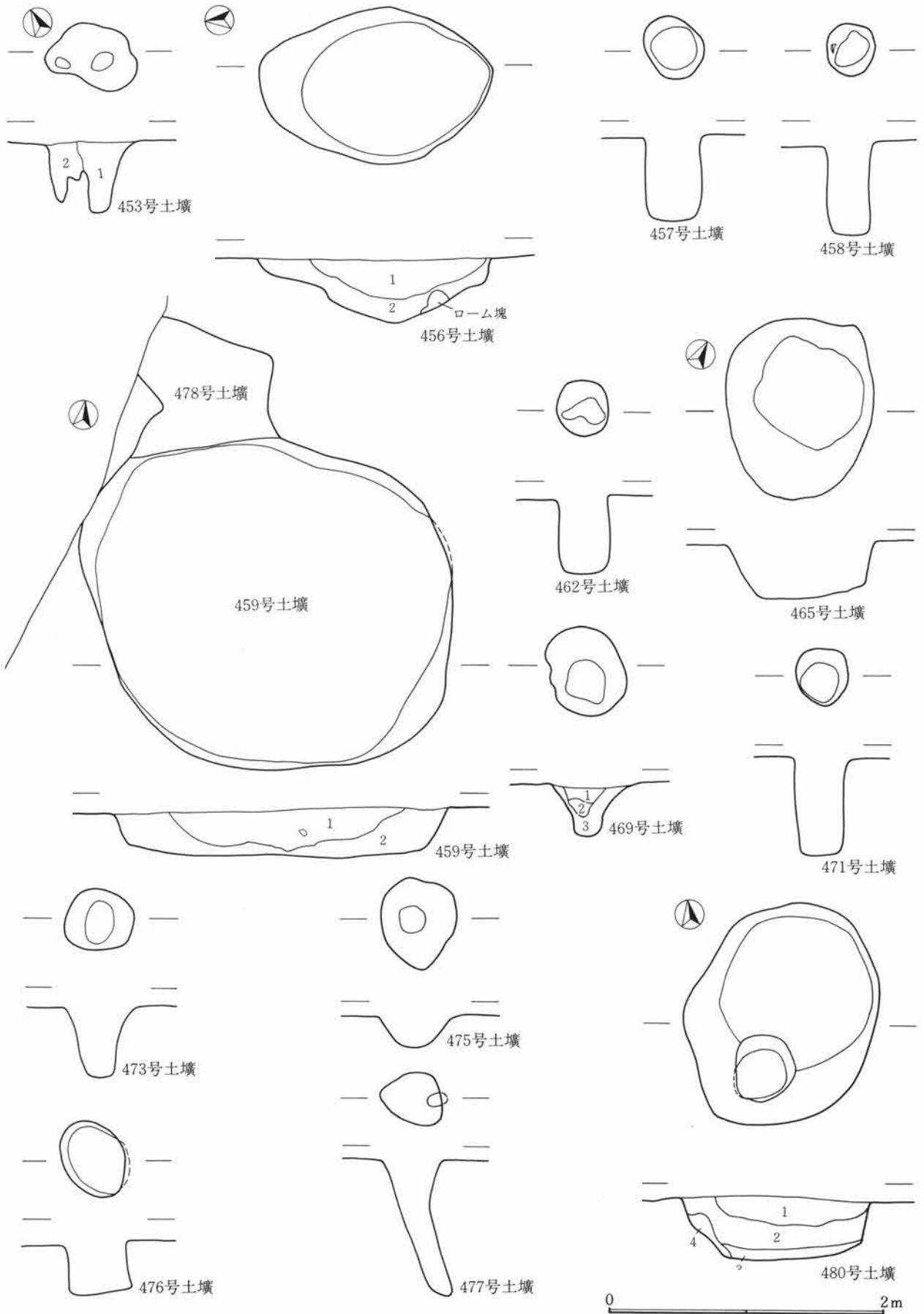
514号土壌(125図)；506号土壌の東に位置する。やや不整形円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。

515～519号土壌(125・126図)；調査区西側の21号土壌の南に位置する。小ピットである。

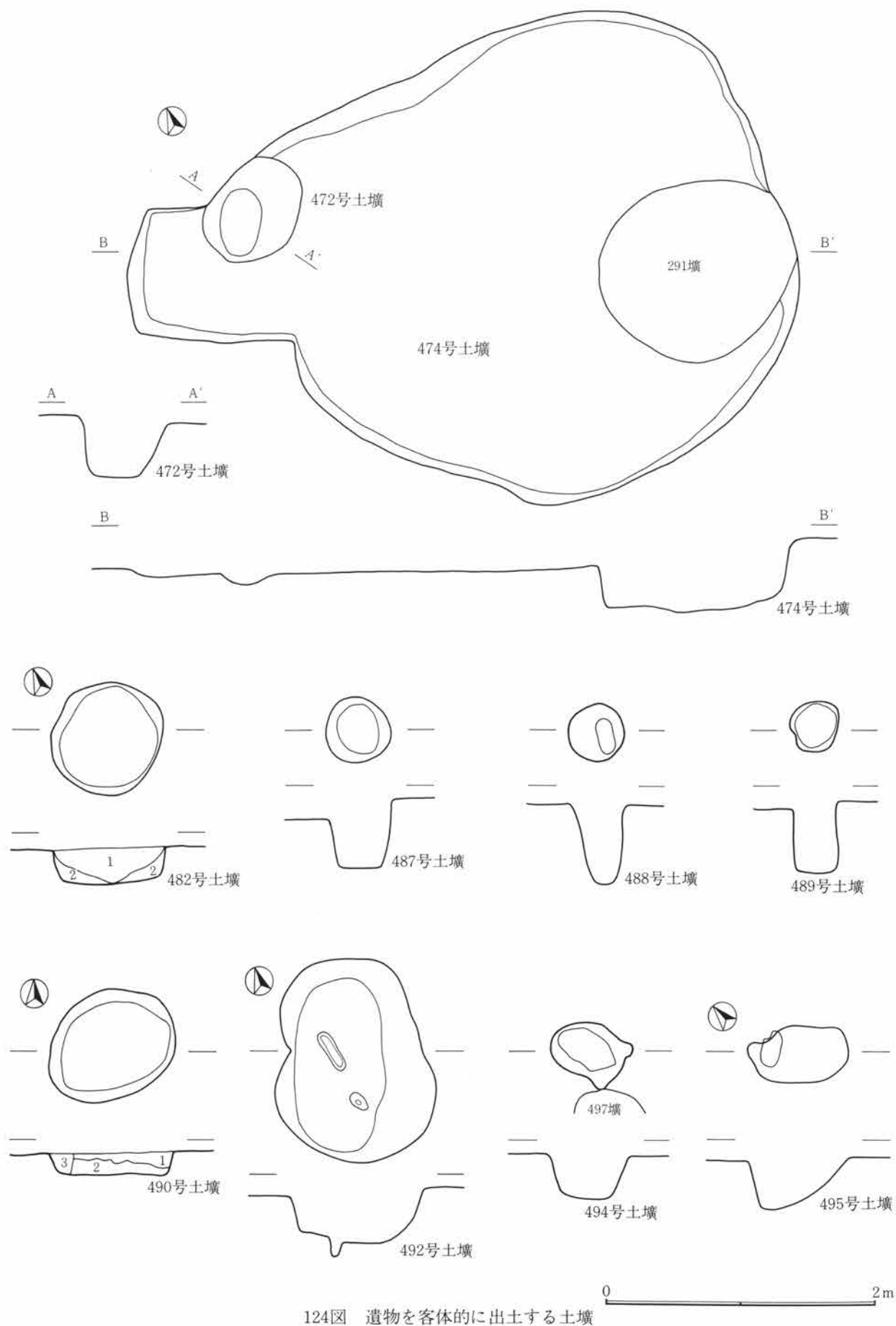
520号土壌(126図)；514号土壌の東に位置する。不整形形を呈し、浅い皿状の断面形である。

521号土壌(126図)；18号土壌に近接する。小ピットである。

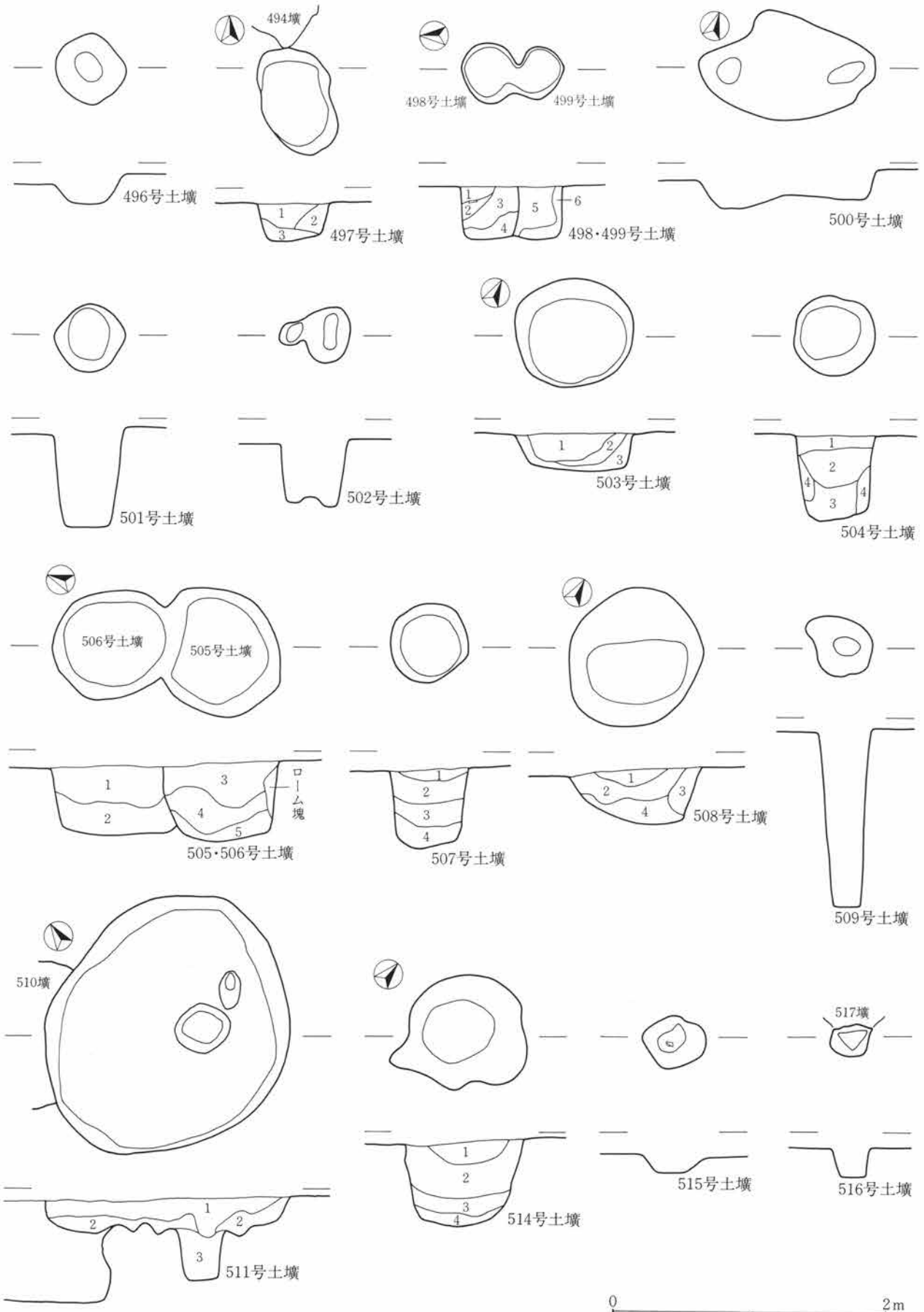
522号土壌(126図)；520号土壌の東に位置する。近接した小ピットである。



123図 遺物を客体的に出土する土壇



124図 遺物を客体的に出土する土壇



125図 遺物を客体的に出土する土壇

第IV章 遺構と遺物

523号土壌(126図)；522号土壌の南に近接する。円形で、皿状の断面形である。細片の出土。

524号土壌(126図)；520号土壌南に重複する。不整形円形を呈し、やや袋状の断面形を見る。

525号土壌(126図)；521号土壌の西に位置する小ピットである。

526号土壌(126図)；17号土壌南に位置する。不整形円状を呈し、皿状の断面形である。

527～529号土壌(126図)；526号土壌南に重複して検出された。527、529号土壌は浅く、図示し得たものは楕円状を呈する528号土壌である。断面形は皿状である。

531号土壌(126図)；528号土壌の西に近接する。円形で浅い皿状の断面形である。細片の出土を見る。

532号土壌(126図)；528号土壌の南に位置する。不整形の小ピットである。

534号土壌(126図)；528号土壌の東に位置する。小ピットである。

535号土壌(126図)；528号土壌の北東に位置する。不整形を呈するが重複のためか。断面形は深く、掘り込みはしっかりしている。

536号土壌(127図)；535号土壌の東にやや距離を置いて位置する。不整形楕円状で皿状の断面形である。中央にやや深めの別土壌が重複する可能性がある。

537～539号土壌(127図)；528号土壌と536号土壌に挟まれた位置に群在する小ピットである。

540号土壌(127図)；535号土壌の北に位置する小ピットである。

542、543号土壌(127図)；536号土壌南に群在する小ピットである。

541号土壌(127図)；15・16号土壌の東に位置する。円形の平面形で断面形は方形に近く深い。大型の自然石とともに10数点の土器片が出土した。

544～546号土壌(127図)；前述の542号土壌とともに群在する小ピットである。

547号土壌(127図)；536号土壌の南東に位置する。不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

548号土壌(127図)；547号土壌の北に位置する。平面面とも不整形の土壌である。

549号土壌(127図)；548号土壌の東に位置する。楕円状を呈するが、重複であろう。土層1、2が新しい浅い落ち込みの覆土。

550～557号土壌(127・128図)；547号土壌の北東に群在する小ピットである。

558号土壌(128図)；549号土壌の北東にやや距離を置いて位置する。円形を呈し、方形の断面形で掘り込みはしっかりしている。数点の土器片が出土。

559号土壌(128図)；558号土壌の西に位置する。不整形楕円状を呈し、皿状の断面形である。小ピットが重複する。

560号土壌(128図)；559号土壌の西にやや距離を置いて位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。墳底面の小ピットは重複か。

561号土壌(128図)；560号土壌の南に位置する小ピットである。

562号土壌(128図)；560号土壌の西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

564号土壌(128図)；560号土壌の北に位置する。重複の可能性はある。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

565号土壌(128図)；564号土壌の東に位置する。南に697号土壌が重複する小ピットである。

566号土壌(128図)；564号土壌の北東に位置する。木根の影響が強い不整形の土壌である。

567号土壌(128図)；558号土壌の東に位置する。重複土壌である。両土壌とも不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

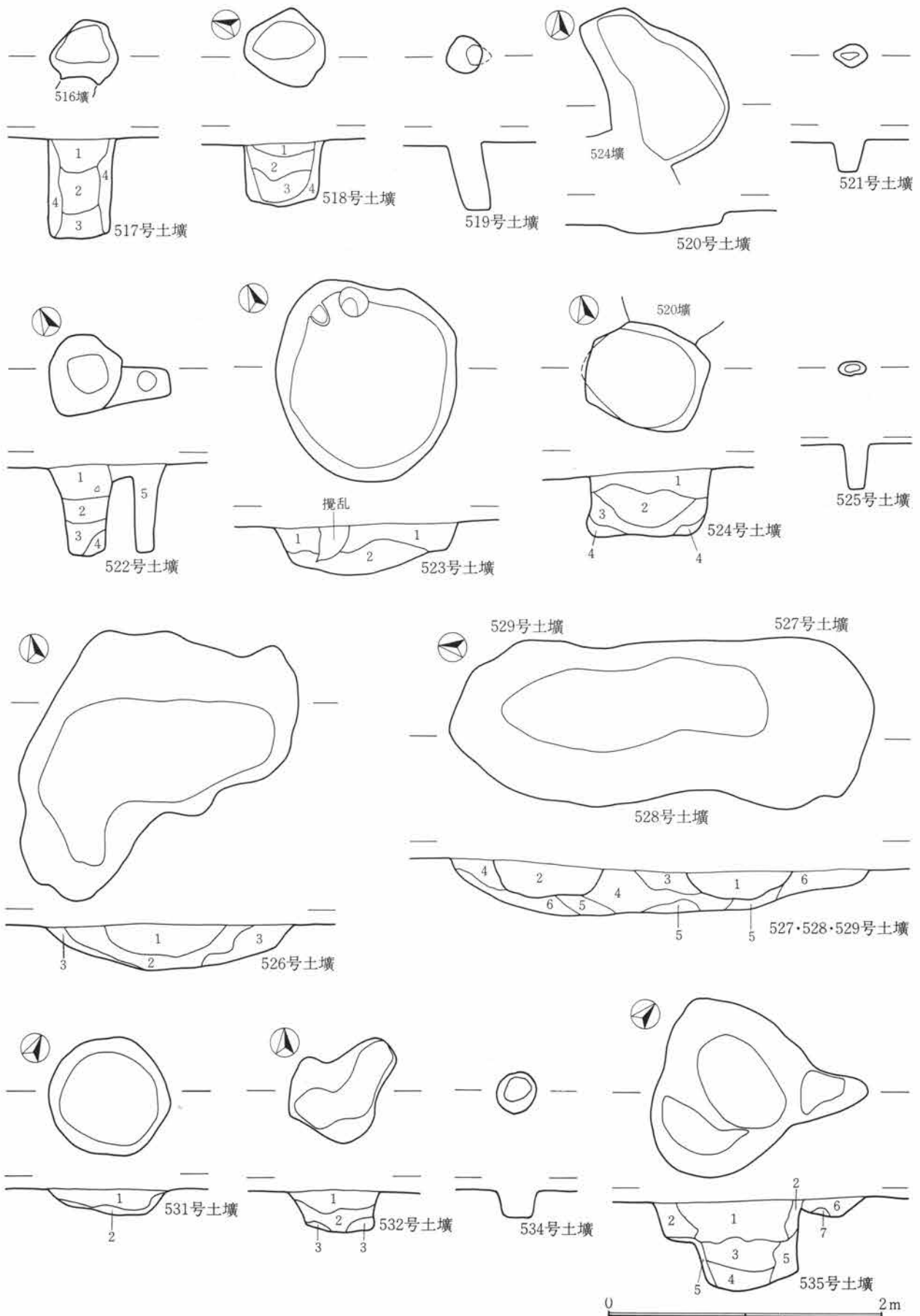
568～571号土壌(128図)；567号土壌の北に群在する小ピットである。

572号土壌(129図)；558号土壌の北に位置する。平面面とも不整形を呈する。

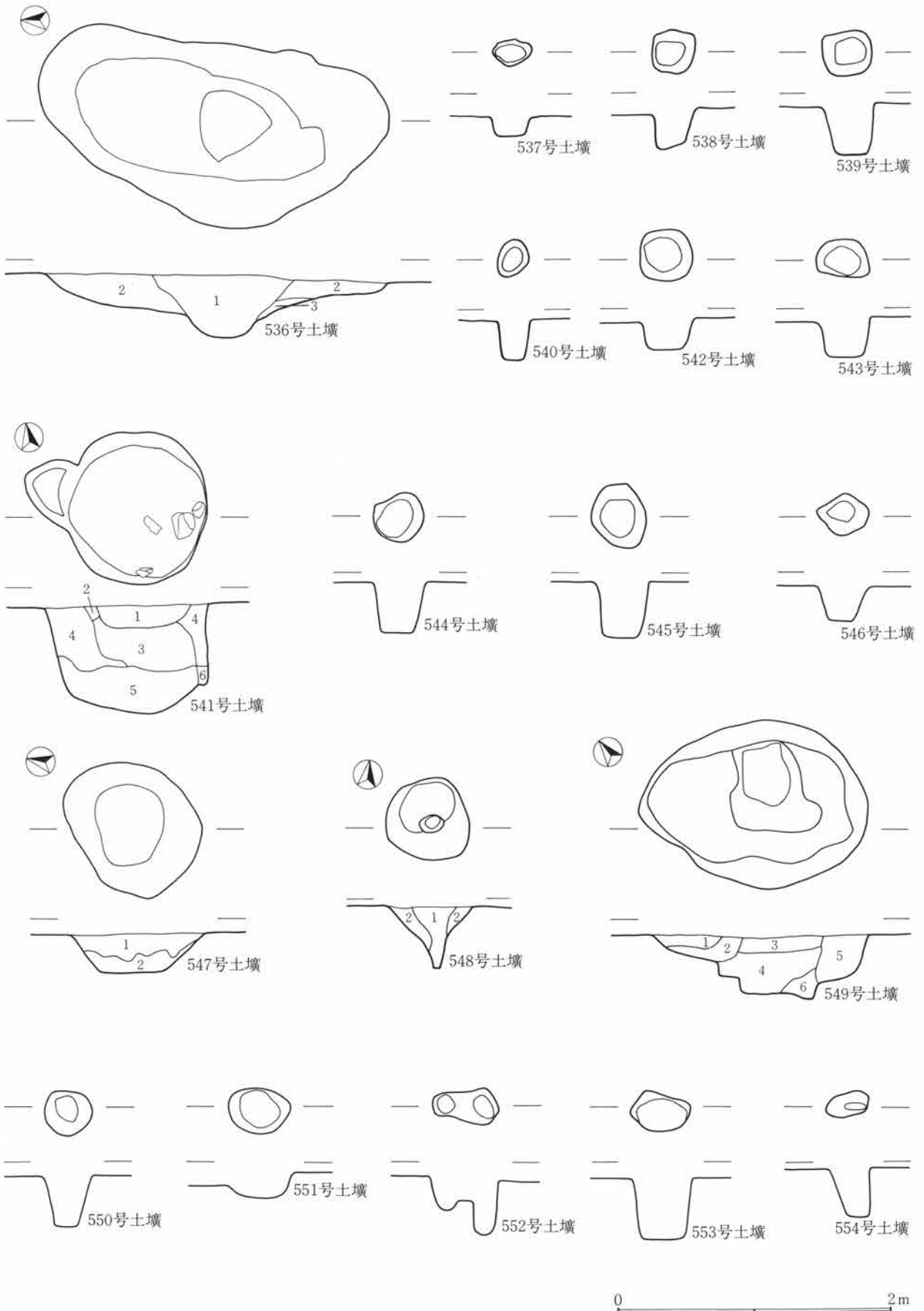
573号土壌(129図)；572号土壌の東に位置する。不整形円形を呈し、皿状の断面形である。自然石の出土を見る。

574号土壌(129図)；573号土壌の東に位置する小ピットである。

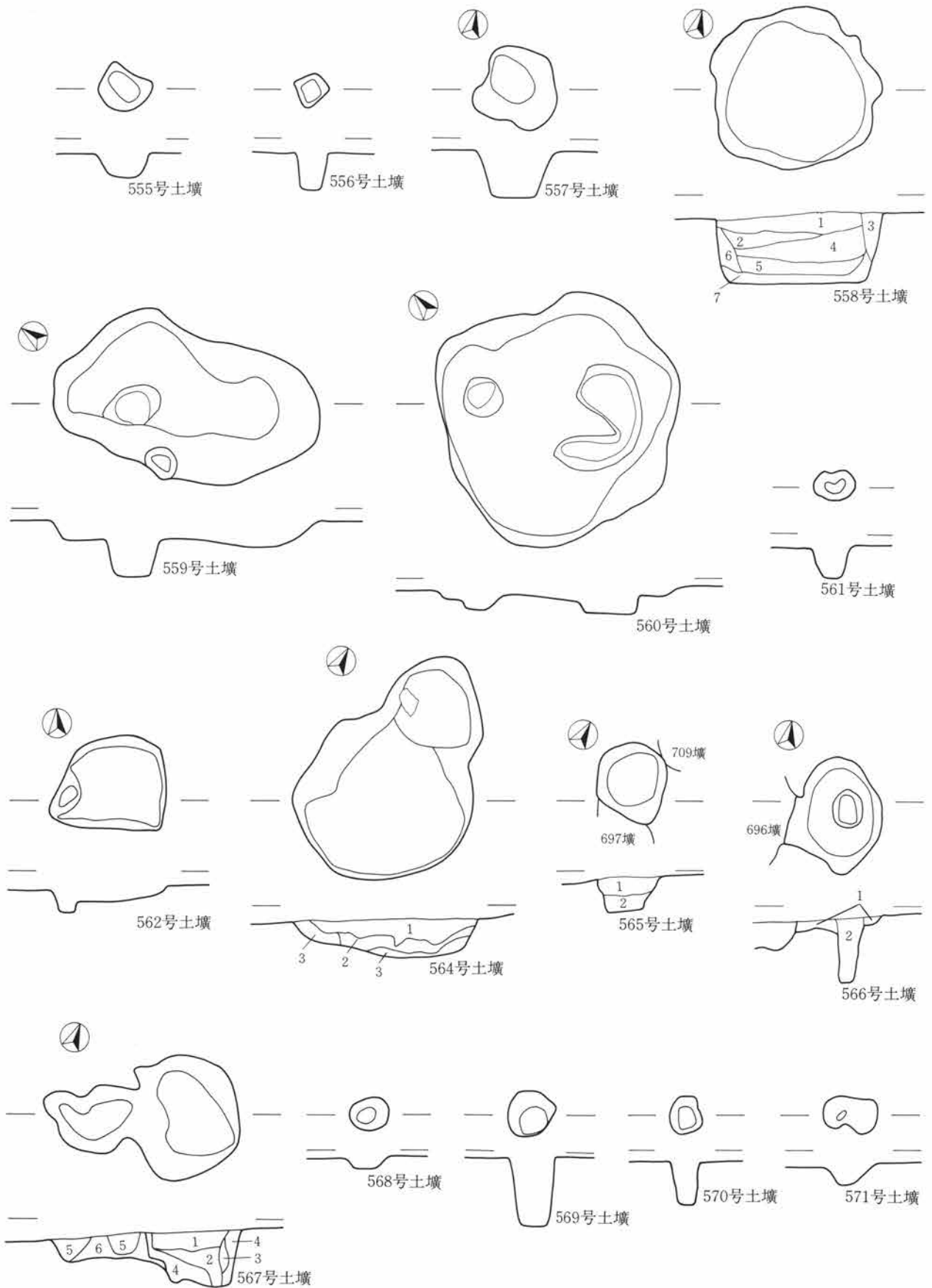
575号土壌(129図)；573号土壌の北に位置する。円形を呈し、断面形は方形に近い。



126図 遺物を客体的に出土する土壌



127図 遺物を客体的に出土する土壌



128図 遺物を客体的に出土する土壇

第IV章 遺構と遺物

576号土壌(129図)；573号土壌の東にやや距離を置いて位置する小ピットである。

577号土壌(129図)；576号土壌に接し、浅いシミ状の落ち込みがからむため、プランなど判然としない。皿状の断面形である。細片の出土。

578号土壌(129図)；577号土壌の南に位置する。円形で浅い皿状の断面形である。

579号土壌(129図)；577号土壌の南に位置し、578号土壌が近接する。攪乱溝が僅かに南端を壊す。不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

580・581号土壌(129図)；577号土壌の東に距離を置いて位置する。調査区中央を横断する道路のため未調査部分がある。580号は不整形円形を呈し、礫が集中した。581号は不整形を呈し、浅い。

582号土壌(129図)；調査区中央南寄りに位置し、371号土壌などが近接する。不整形円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

583号土壌(130図)；577号土壌の北に位置する。不整形円状を呈し、皿状の断面形である。数点の土器細片が出土。

584号土壌(130図)；577号土壌の北西に位置する浅い小ピットである。

586号土壌(130図)；585号土壌の北に位置する。不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

587号土壌(130図)；586号土壌の西に位置する。小型の不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

588号土壌(130図)；586号土壌の北に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

589号土壌(130図)；588号土壌の北に位置する。やや不整形円形を呈し、掘り込みもしっかりしている。

590号土壌(130図)；575号土壌の西に位置する。小型の不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

591号土壌(130図)；587号土壌の南に位置する。小型の不整形円形で掘り込みもしっかりしている。

592号土壌(130図)；590号土壌の北西に位置する。不整形円形を呈し、深い皿状の断面形を呈す。小型の角礫を出土する。

593号土壌(130図)；592号土壌の南西に近接する。不整形円状を呈し浅い。

594号土壌(130図)；592号土壌の西に近接する。小型の不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

595号土壌(130図)；594号土壌の西に位置する。小型の不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

596号土壌(130図)；563号土壌の北西に位置する小ピットである。

597号土壌(130図)；592号土壌の北に位置する小ピットである。

599号土壌(130図)；600号土壌の南に位置し、598号土壌と重複する。不整形円形で掘り込みもしっかりしている。

601号土壌(130図)；14号土壌の北東に位置する。円形で掘り込みもしっかりしており、方形の断面形を見る。自然石が出土する。小ピットが重複する。

603号土壌(131図)；1号土壌の東に近接する。不整形円形で掘り込みもしっかりしており、方形の断面形を見る。小型の自然石を出土した。

604～607号土壌(131図)；595号土壌の南西に群在する小ピットである。

608～610号土壌(131図)；598号土壌の西に群在する小ピットである。610号は深く65cmを測る。

611号土壌(131図)；調査区中央西に占地する35号住居址南に展開する土壌群内に位置する。小型の不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

612号土壌(131図)；611号土壌の西に近接する小ピットである。

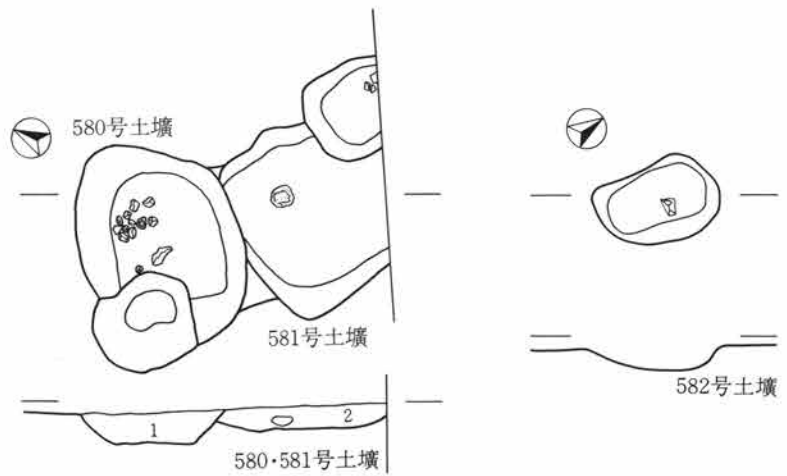
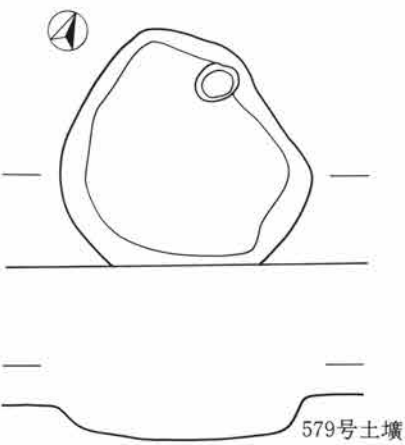
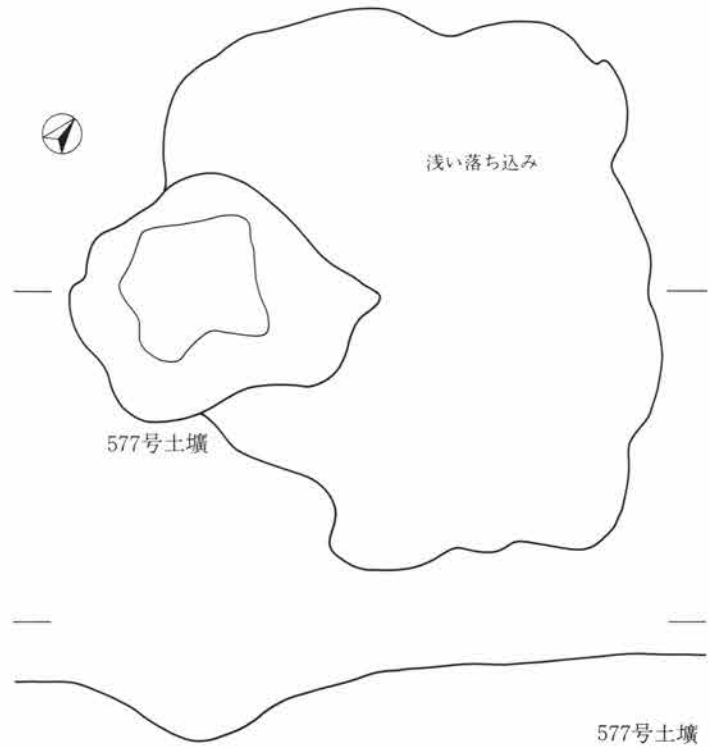
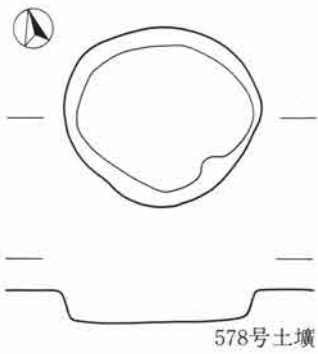
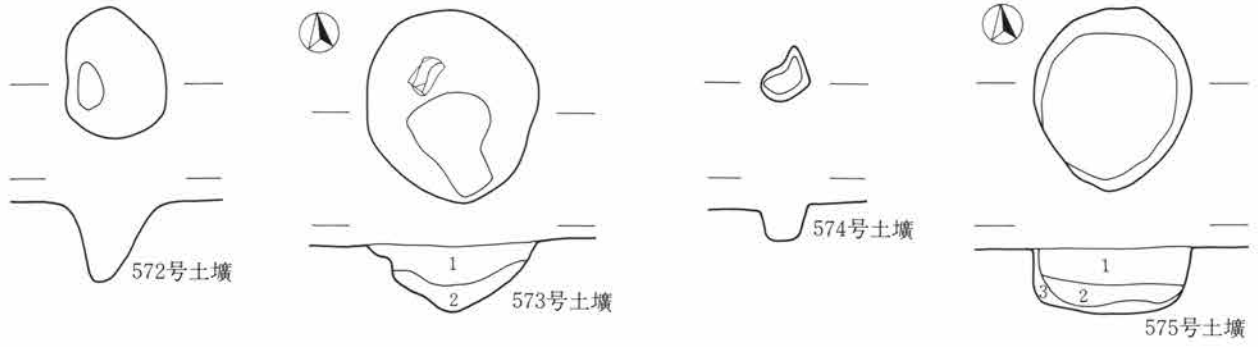
613号土壌(131図)；調査区中央南寄りに位置する377号土壌の西に近接する。不整形円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

614号土壌(131図)；調査区中央やや西寄りに位置する411号土壌の西に近接する。小型の不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

615号土壌(131図)；411号土壌の東に位置する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

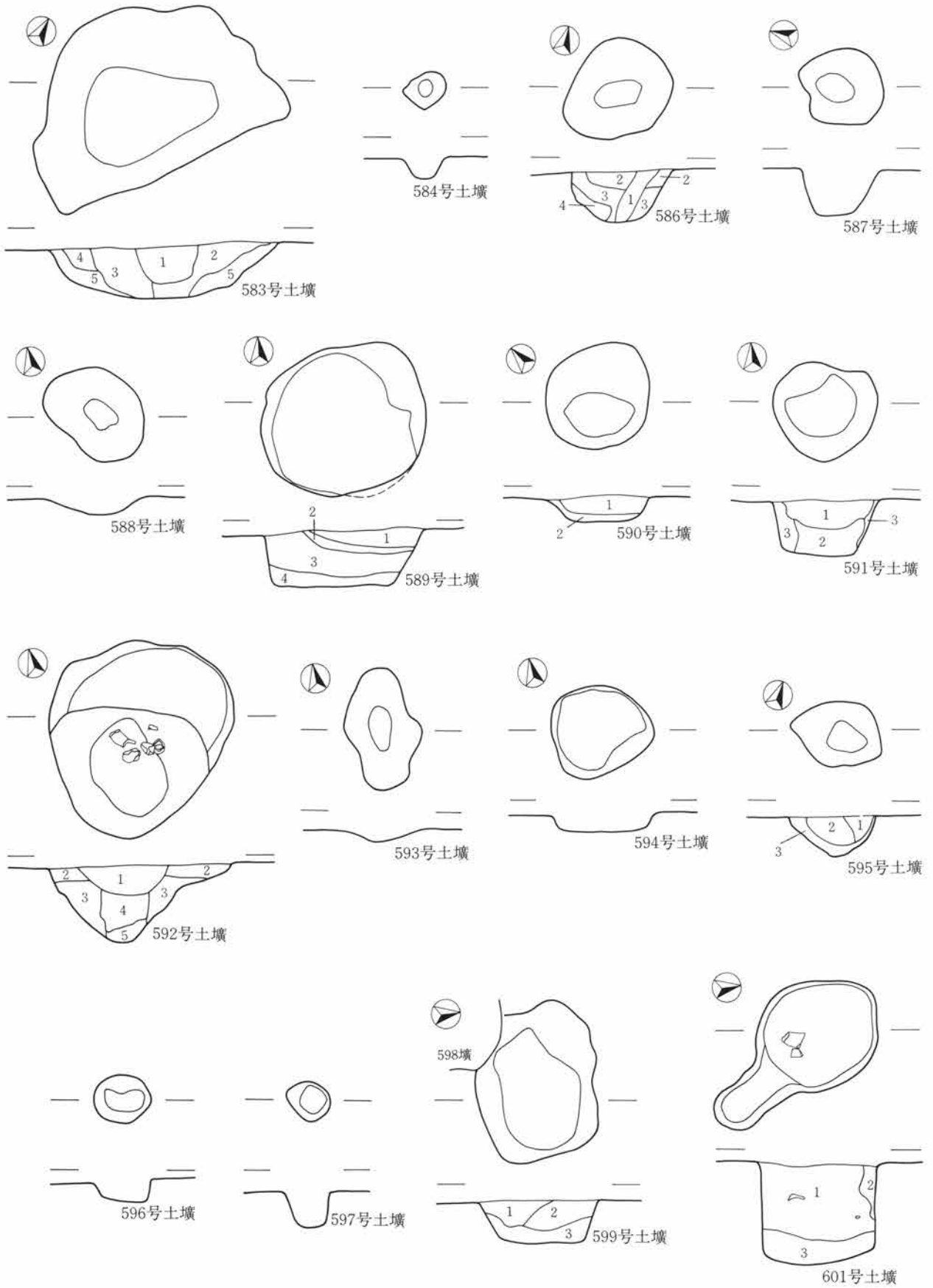
616号土壌(131図)；35号住居址南の土壌群内に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

617号土壌(131図)；調査区中央西寄りの417号土壌と近接する小ピットである。

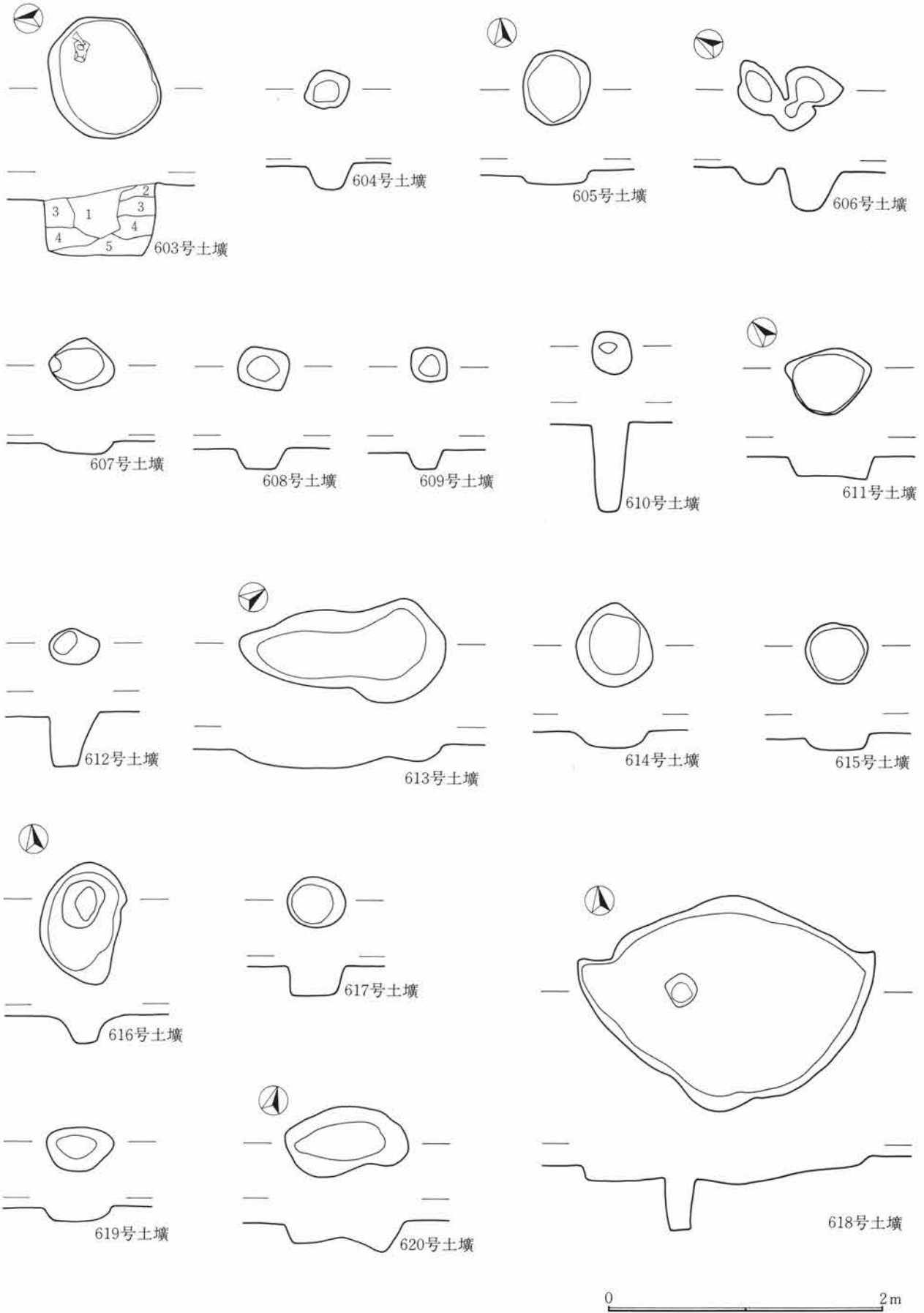


0 2m

129図 遺物を客体的に出土する土坑



130図 遺物を客体的に出土する土壇



131図 遺物を客体的に出土する土壌

618号土壌(131図)；35号住居址の東に位置する。やや大型の不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。墳底面に小ピットが開けられる。

619号土壌(131図)；調査区中央やや西寄りの414号土壌西に近接する。小ピットである。

620号土壌(131図)；618号土壌の南東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

621号土壌(131図)；620号土壌の北東に位置する。不整形を呈し、浅い。

622号土壌(132図)；621号土壌の北西に位置する。楕円形状を呈し、浅い皿状の断面形である。

623号土壌(132図)；調査区中央西寄りに位置する。424号土壌の南にやや距離を置く。小ピットである。

624号土壌(132図)；35号住居址南の土壌群内ほぼ中央に位置する。円形を呈し、掘り込みもしっかりしている。小ピットが重複する。

626号土壌(132図)；621号土壌の東にやや距離を置いて位置する。円形を呈すが、掘り込みは不定である。

628号土壌(132図)；625号土壌の南に位置する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

629号土壌(132図)；627号土壌の南に位置する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

630号土壌(132図)；629号土壌の東に位置する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

632号土壌(132図)；629号土壌の南にやや距離を置いて位置する。小型の不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

633号土壌(132図)；調査区中央西寄りの354号土壌東に位置する小ピットである。

634号土壌(132図)；34号住居址南に位置する。やや不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

636号土壌(132図)；調査区中央北東寄りの泥流丘斜面上に位置する。不整形を呈し浅い。

637号土壌(133図)；636号土壌の南にやや距離を置いて位置する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

639号土壌(133図)；調査区中央南東寄りで検出された。246号土壌の東に位置する。小ピットである。

640号土壌(133図)；34号住居址南の土壌群内に位置する。826、827号土壌と重複する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

641号土壌(133図)；調査区中央南寄りの227号土壌に近接する。小ピットである。

642・643号土壌(133図)；34号住居址南の土壌群内に位置する。重複土壌だが新旧は不明。642は不整形を呈し、643は楕円状を呈す。いずれも浅い皿状の断面形である。

644号土壌(133図)；643号土壌の南西に位置する。645土壌に接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

647号土壌(133図)；645号土壌の東に位置する。南に583号土壌が接する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

649号土壌(133図)；647号土壌の北東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。土器片の出土を見る。

650号土壌(133図)；649号土壌の南東に位置する。小型の円形を呈し、皿状の断面形である。小型の自然石が出土する。

651号土壌(133図)；34号住居址の南東に位置し、652、827号土壌と重複する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

652号土壌(133図)；651号土壌の東に重複する。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

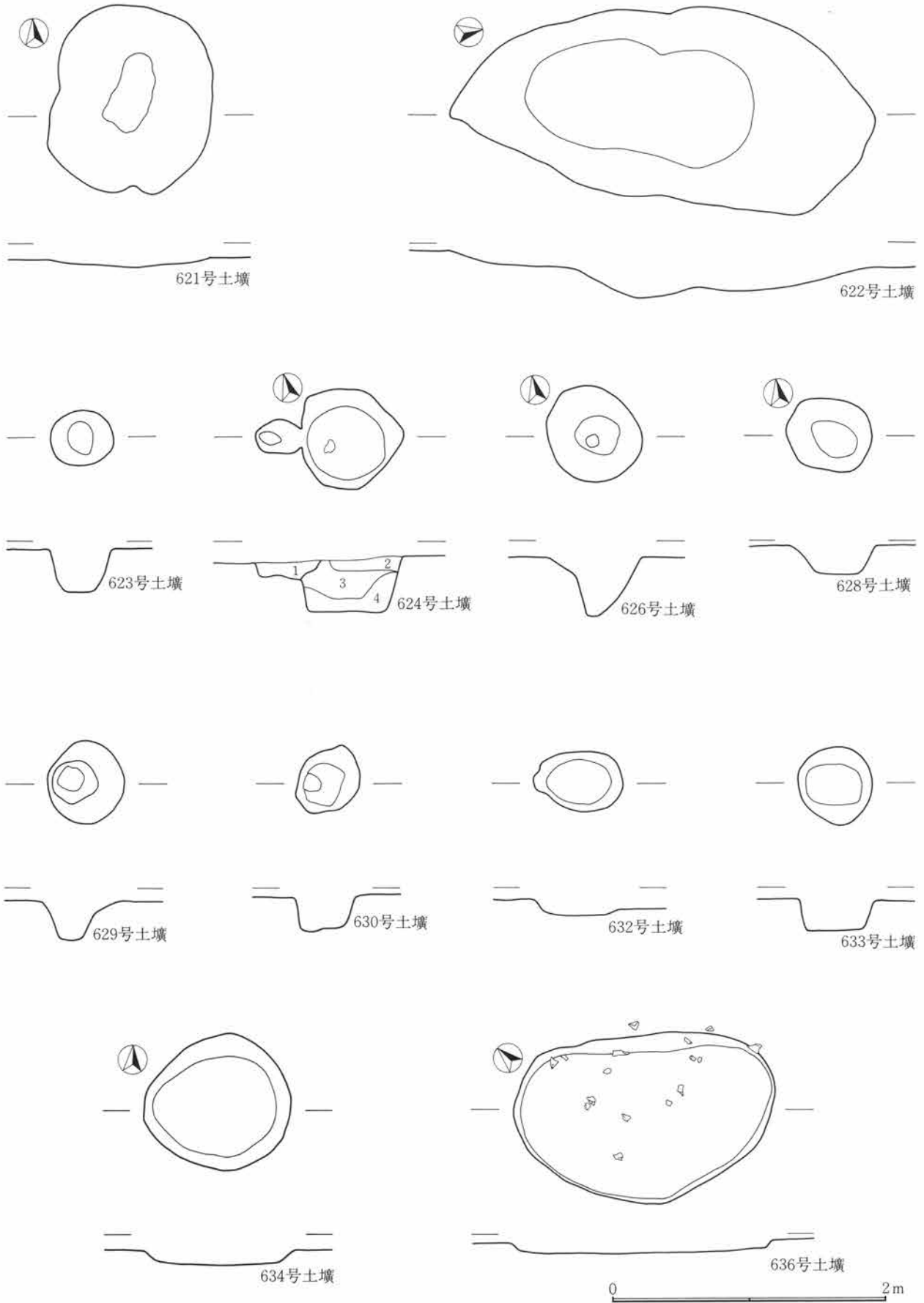
653号土壌(133図)；調査区北側の泥流丘傾斜地で検出された。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。自然石が出土する。

654号土壌(133図)；653号土壌の西に近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。自然石が出土する。

656号土壌(134図)；654号土壌の南西に位置する。小ピットである。

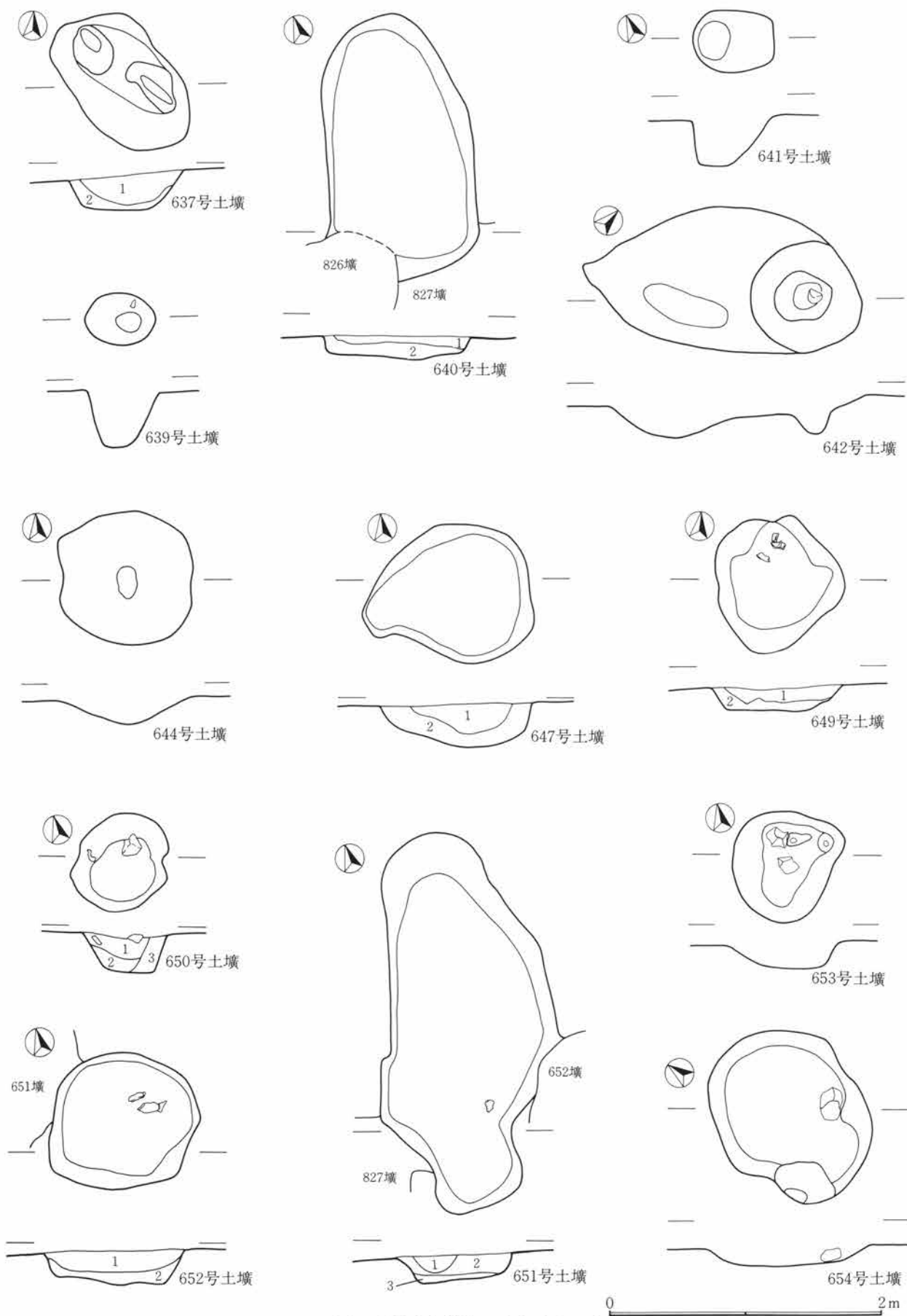
658号土壌(134図)；調査区西の535号土壌の東に位置する。小ピットである。

659号土壌(134図)；調査区東に位置し、南にやや距離を置いて767号土壌がある。不整形を呈す小ピットである。

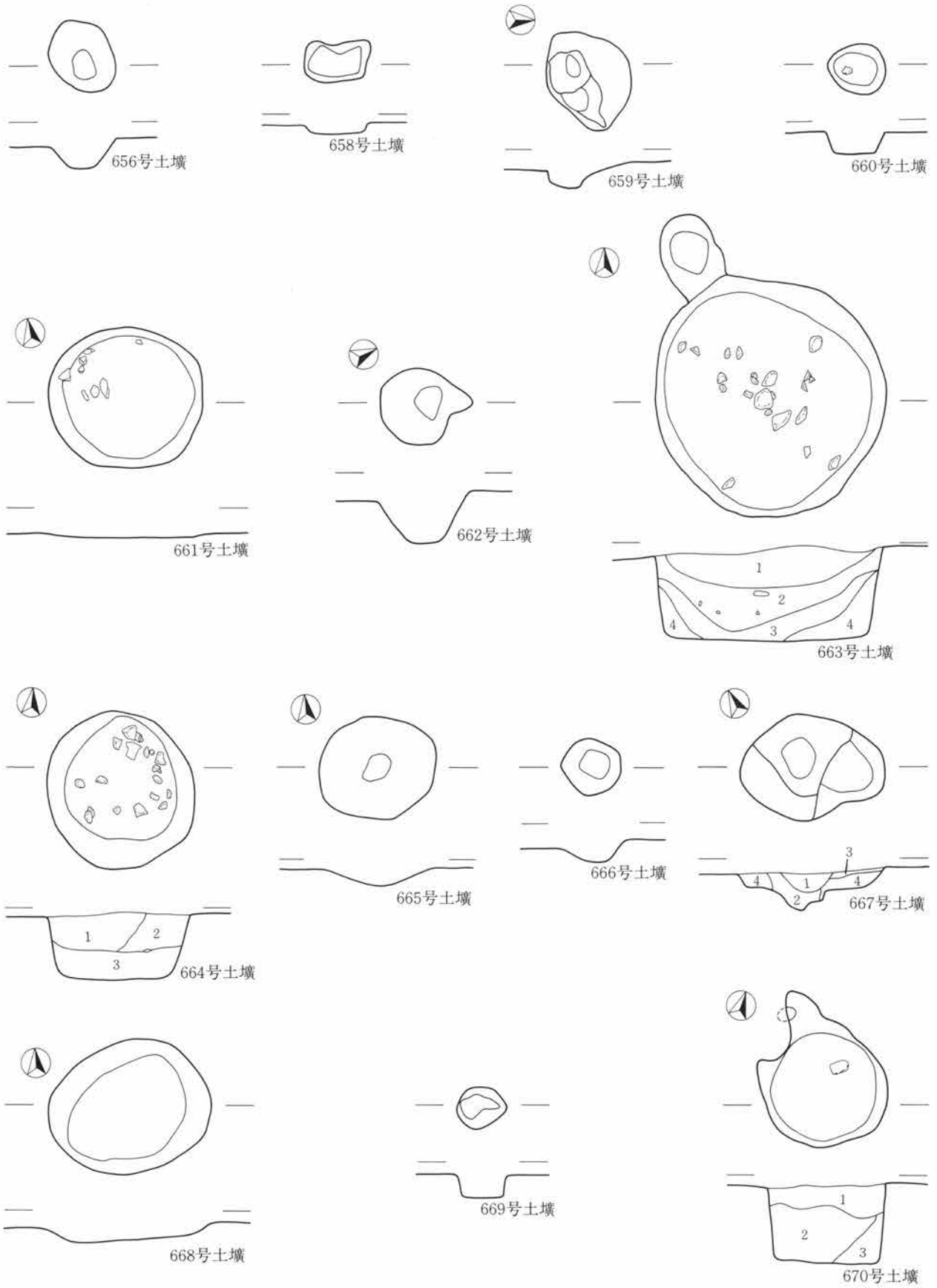


132図 遺物を客体的に出土する土坑

第IV章 遺構と遺物



133図 遺物を客体的に出土する土壇



0 2m

134図 遺物を客体的に出土する土壌

第IV章 遺構と遺物

660号土壌(134図)；659号土壌の北西に位置する小ピットである。

661号土壌(134図)；調査区北側の泥流丘斜面に位置する。円形を呈し、浅い。自然石が出土するが、地山からの流入か。

662号土壌(134図)；調査区東側の660号土壌の北に位置する。小ピットである。

663号土壌(134図)；662号土壌の東に位置する。やや大型の円形を呈す。墳底面は平坦で、壁は直立する方形の断面形である。遺物は小型の自然石が覆土中位より集中して出土した。焼礫が多く、集石土壌として考えたい。

664号土壌(134図)；663号土壌の北西に位置する。小型の円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。方形の断面形である。遺物は663号土壌と同様に自然石が多く出土した。集石土壌であろう。その他、大木系の深鉢片も出土している。

665号土壌(134図)；34号住居址の北西に位置する。他の土壌とは距離を置く。小型の円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

666号土壌(134図)；661号土壌の北に位置する。小ピットである。

667号土壌(134図)；35号住居址北東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

668号土壌(134図)；35号住居址北東に近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

669号土壌(134図)；調査区中央の558号土壌の南に位置する小ピットである。

670号土壌(134図)；35号住居址南の土壌群内に位置する。円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。断面形は方形である。

671・672号土壌(135図)；35号住居址北東にやや距離を置いて位置する。重複土壌だが、新旧は判然としない。両土壌とも不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

673号土壌(135図)；調査区中央の558号土壌の北に位置する小ピットである。

674号土壌(135図)；35号住居址北に位置する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

675号土壌(135図)；675号土壌の北にやや距離を置いて位置する小ピットである。

676号土壌(135図)；調査区中央やや西寄りの536号土壌の東に位置する。小ピットである。

677号土壌(135図)；672号土壌の北にやや距離を置いて位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

678号土壌(135図)；677号土壌の東に位置する。楕円状を呈し、皿状の断面形である。

679号土壌(135図)；678号土壌の東に位置する小ピットである。

680号土壌(135図)；調査区中央西寄りの533号土壌の北東に位置する。小ピットである。

681号土壌(135図)；677号土壌の北西にやや距離を置いて位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

682・683号土壌(135図)；681号土壌の北西に位置する。重複土壌である。新旧は不明。682墳は円形で浅い皿状の断面形である。683墳は不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

684号土壌(135図)；683号土壌の西に位置する。小型の円形を呈し、皿状の断面形である。

685号土壌(135図)；684号土壌の北にやや距離を置いて位置する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

686号土壌(136図)；調査区中央の547号土壌の西に位置する。小ピットである。

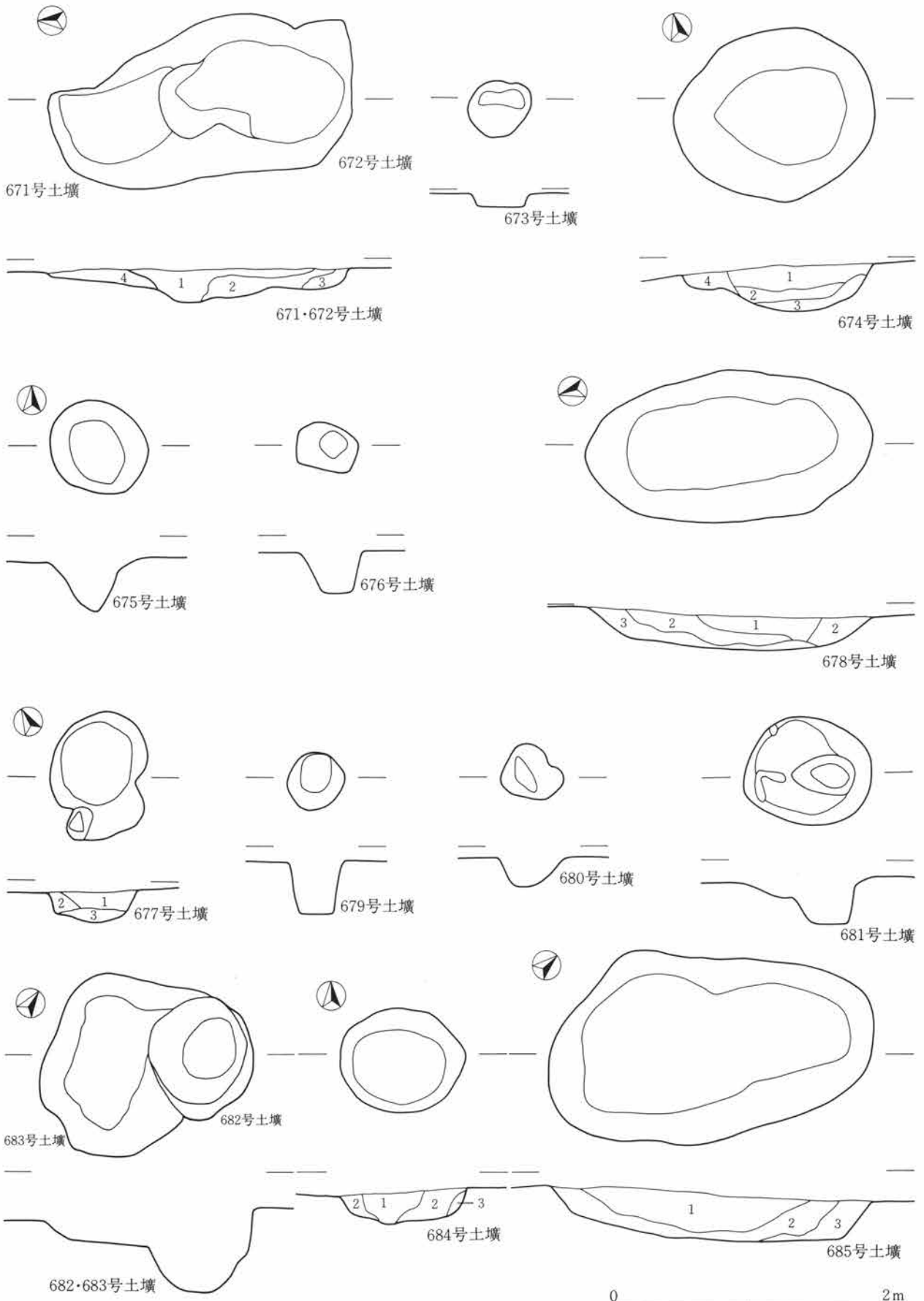
687号土壌(136図)；685号土壌の北西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

688、689号土壌(136図)；605号土壌周辺の小ピットである。

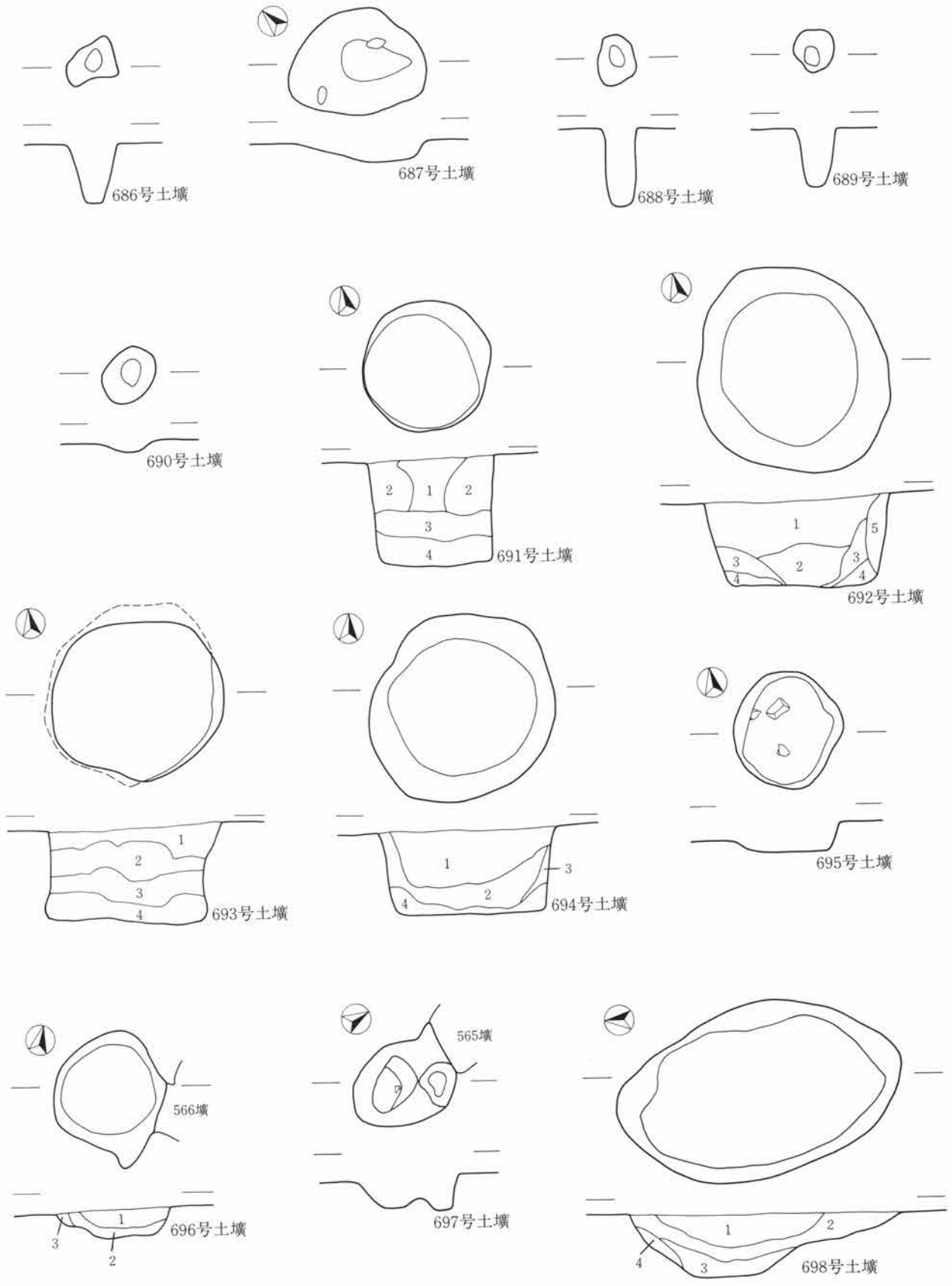
690号土壌(136図)；調査区北側に位置する小ピットである。

691号土壌(136図)；685号土壌の北東に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。方形の断面形を見る。

692号土壌(136図)；691号土壌の北東に近接する。円形で掘り込みもしっかりしている。

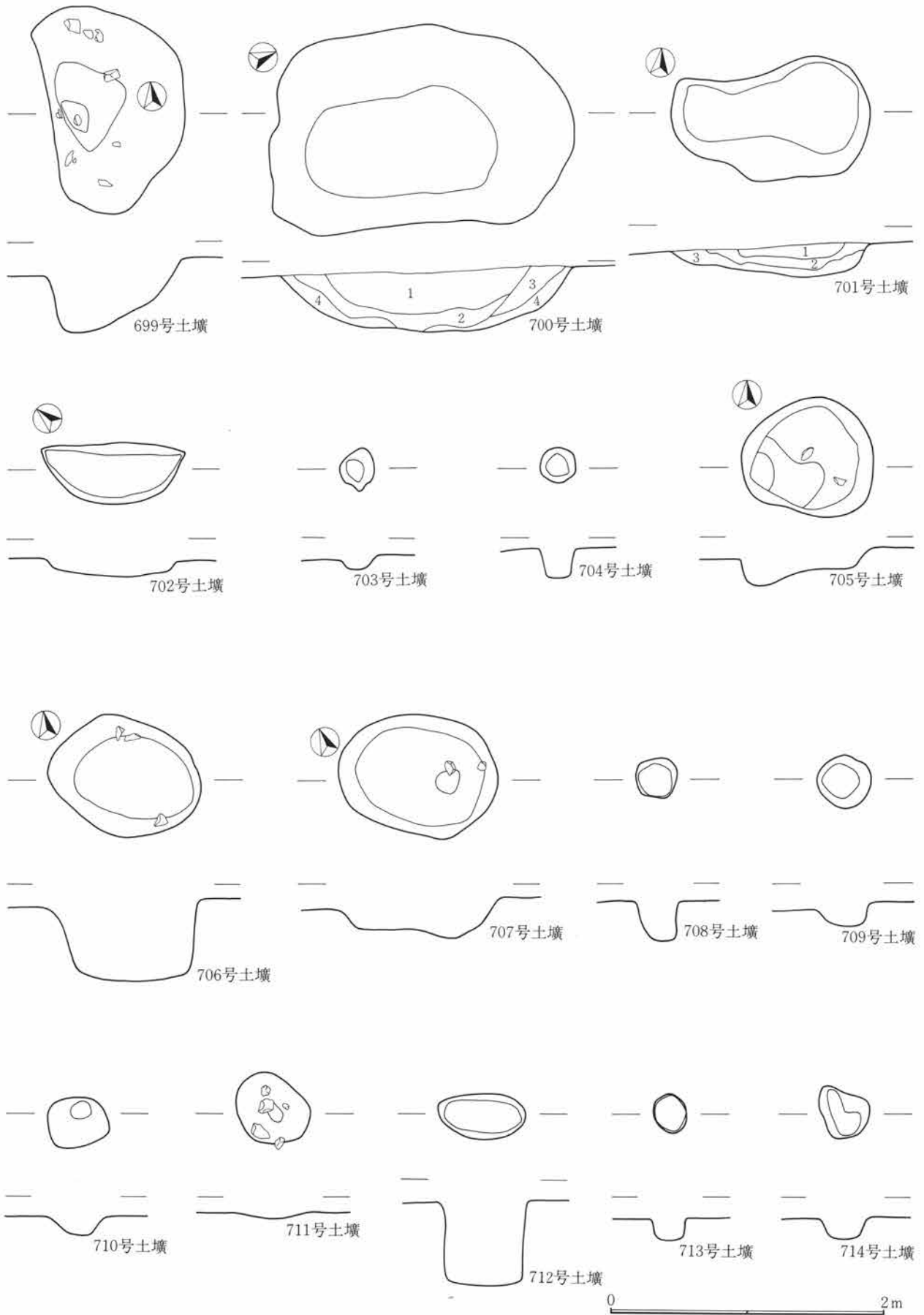


135図 遺物を客体的に出土する土壌



0 2m

136図 遺物を客体的に出土する土壇



137図 遺物を客体的に出土する土坑

第IV章 遺構と遺物

693号土壌(136図)；692号土壌の北に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。袋状の断面形を呈す。

694号土壌(136図)；693号土壌の西に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。方形の断面形である。

695号土壌(136図)；調査区北の泥流丘斜面に位置する。小型の不整円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

696号土壌(136図)；調査区中央やや西寄りに位置する。566号土壌が近接する。小型の円形を呈し、皿状の断面形である。

697号土壌(136図)；696号土壌の南西に位置する。565号土壌と重複する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

698号土壌(136図)；調査区北西の685号土壌の北東に位置する。不整楕円状を呈し、皿状の断面形である。

699号土壌(137図)；695号土壌の東に位置する。不整楕円状を呈し、断面形も不定形である。

700号土壌(137図)；693号土壌の北に位置する。不整楕円状を呈し、皿状の断面形である。

701号土壌(137図)；700号土壌の西に位置する。不整楕円状を呈し、皿状の断面形である。

702号土壌(137図)；調査区中央西の536号土壌の北に位置する。不整楕円状を呈し、浅い皿状の断面形である。

703号土壌(137図)；702号土壌の東に位置する小ピットである。

704号土壌(137図)；566号土壌の北東に位置する小ピットである。

705号土壌(137図)；699号土壌の北西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

706号土壌(137図)；705号土壌の東に位置する。やや不整円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。

707号土壌(137図)；705号土壌の北西に位置する。楕円状を呈し、皿状の断面形である。

708、709号土壌(137図)；調査区中央の566号土壌の東に位置する小ピットである。

710、711号土壌(137図)；調査区北の泥流丘斜面に位置する小ピットである。

712、713号土壌(137図)；調査区中央の590号土壌の北に位置する小ピットである。

714～716、719号土壌(137・138図)；調査区中央の585号土壌周辺の小ピットである。

717、718号土壌(138図)；調査区北の泥流丘に位置する小ピットである。

720号土壌(138図)；34号住居址北に大きく距離をとる。不整楕円状を呈し、皿状の断面形である。

721号土壌(138図)；720号土壌の西にやや距離を置いて位置する。円形で皿状の断面形である。

722号土壌(138図)；調査区中央に位置する小ピットである。

723号土壌(138図)；35号住居址北の672号土壌に近接する。不整楕円状を呈し、皿状の断面形である。

725号土壌(138図)；調査区南西の傾斜地に占地する28号住居址北西の土壌群内に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。

726号土壌(138図)；725号土壌と同一の土壌群の北端に位置する。727号土壌と接する。円形を呈し断面形は袋状である。

727号土壌(138図)；726号土壌の西に接する。やや不整円形を呈し、皿状の断面形である。

728号土壌(138図)；28号住居址北に近接する。不整円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

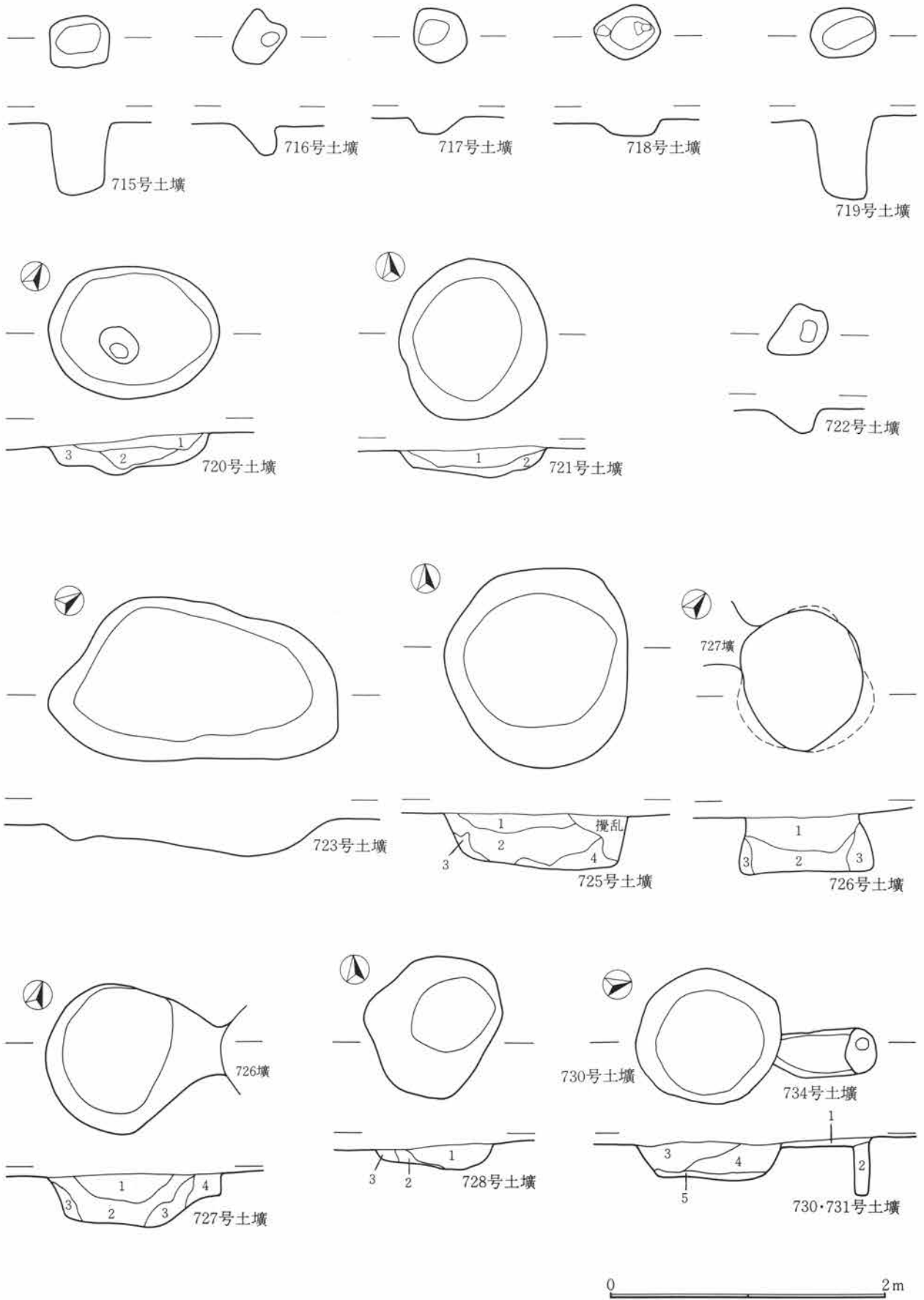
730・731号土壌(138図)；調査区西の36号住居址南西に位置する。重複土壌だが、731号は小ピットである。730号は円形でやや深い皿状の断面形である。

732、733号土壌(139図)；36号住居址西に位置する。重複部分が僅小なため新旧は判然としない。732号が新しいか。732号は円形で掘り込みもしっかりしている。733号は小ピットである。

735号土壌(139図)；732号土壌の南に位置する。734号土壌と736号土壌を繋ぐような形のシミ状の落ち込みである。

741号土壌(139図)；36号住居址の東に位置し、749号土壌が近接する。円形で掘り込みもしっかりしており、方形の断面形である。

742・748号土壌(139図)；36号住居址の南東に位置する。中央を攪乱溝で破壊されており、不明な部分が多いが、両土壌とも不整形を呈し、742号の掘り込みはしっかりしている。748号は皿状の断面形である。



138図 遺物を客体的に出土する土壌

第IV章 遺構と遺物

743号土壌(139図)；748号土壌の北に位置する。不整形で掘り込みもしっかりしている。

746号土壌(139図)；743号土壌の東に距離を置いて位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。遺物は土器片が数点出土。

749号土壌(139図)；741号土壌の西に近接する。小型の円形で掘り込みもしっかりしている。

751～754、756、757土壌(139・140図)；調査区西の突出部に散在するやや大型のピットである。

755号土壌(139図)；754号土壌の東に位置する。円形で皿状の断面形である。細片の出土を見る。

758号土壌(140図)；36号住居址床面中央に重複する。円形で掘り込みもしっかりしている。数点の土器片が出土した。

760号土壌(140図)；調査区東の集石土壌を中心とする土壌群内に位置する。762号土壌と重複する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

764号土壌(140図)；760号土壌の南に位置する。763号土壌と近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

765号土壌(140図)；761号土壌の東に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。

768号土壌(140図)；760号土壌の北に位置し、848号土壌と接する。不整形を呈し皿状の断面形である。

770号土壌(140図)；調査区東の土壌群の東端に位置する小ピットである。

771号土壌(140図)；769号土壌の北に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

772号土壌(140図)；調査区北の泥流丘斜面に位置する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

773号土壌(140図)；調査区中央の559号土壌の北に位置する。小ピットである。

774～778号土壌(140図)；調査区中央の585号土壌南に散在する小ピットである。

779、780号土壌(140図)；600号土壌の東に位置する小ピットである。

781号土壌(140図)；779号土壌の南に接する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

782号土壌(140図)；600号土壌の南西に位置する小ピットである。

783号土壌(140図)；594号土壌の北に位置する。不整形で、浅い皿状の断面形である。小ピットが重複する。

784～786、788号土壌(141図)；600号土壌東に散在する小ピットである。

789号土壌(141図)；34号住居址南西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

790号土壌(141図)；34号住居址南の土壌群内に位置する小ピットである。

791号土壌(141図)；790号土壌の北西に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

792号土壌(141図)；791号土壌の西に位置する小ピットである。

793号土壌(141図)；756号土壌の北東に位置する小ピットである。

794号土壌(141図)；調査区北の31号住居址の東にやや距離を置いて位置する。泥流丘上である。円形を呈し、皿状の断面形である。

795号土壌(141図)；794号土壌の北東にやや距離を置いて位置する。小型の円形で、断面形は不定である。

796号土壌(141図)；調査区東の763号土壌北西に位置する。小ピットである。

797号土壌(141図)；796号土壌と同一の土壌群内東端に位置する。小ピットである。

798号土壌(141図)；1号土壌の東に位置する小ピットである。

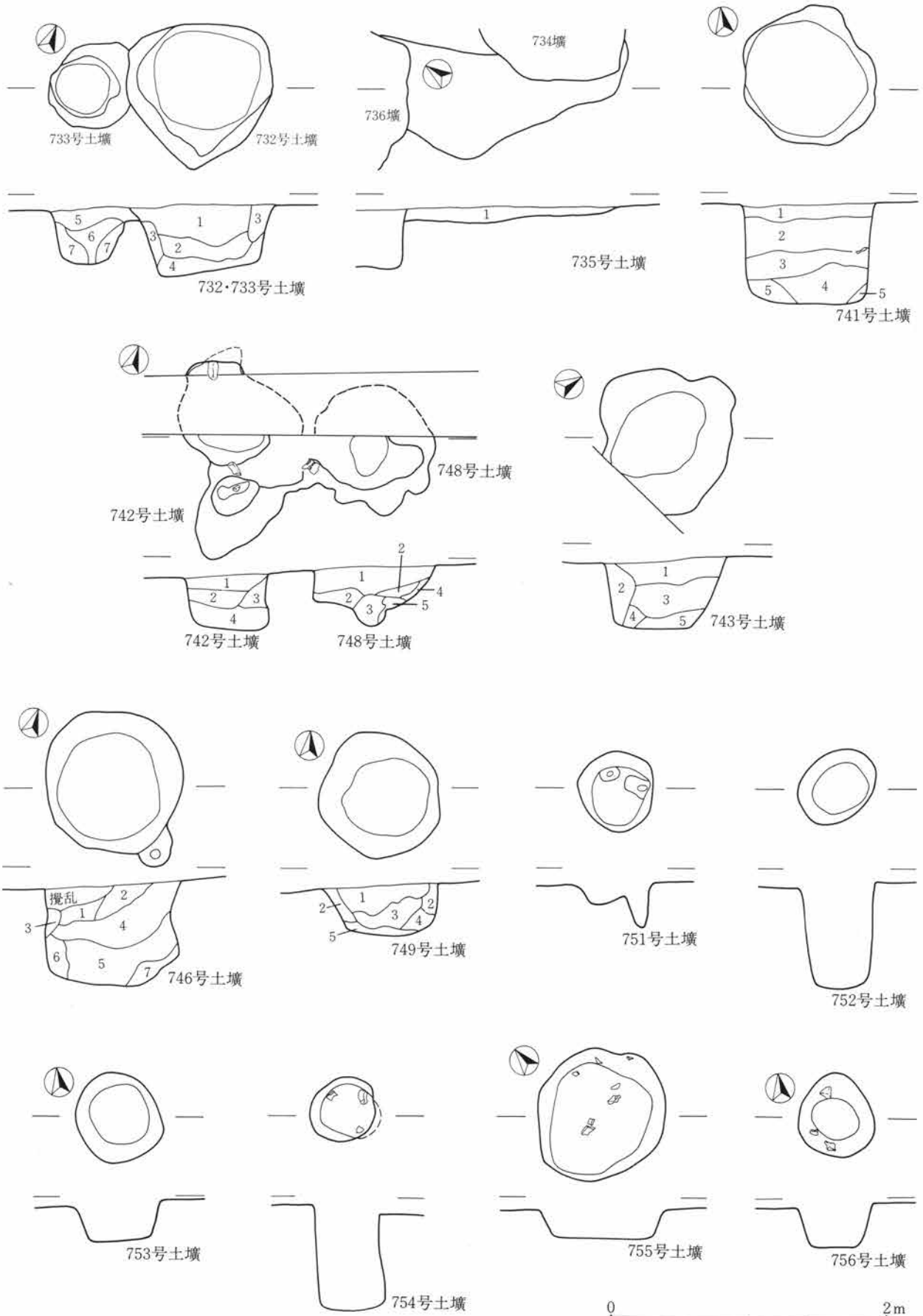
799～803、805、806号土壌(141・142図)；35号住居址南の土壌群内に散在する小ピットである。

804号土壌(141図)；34号住居址南の土壌群内に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

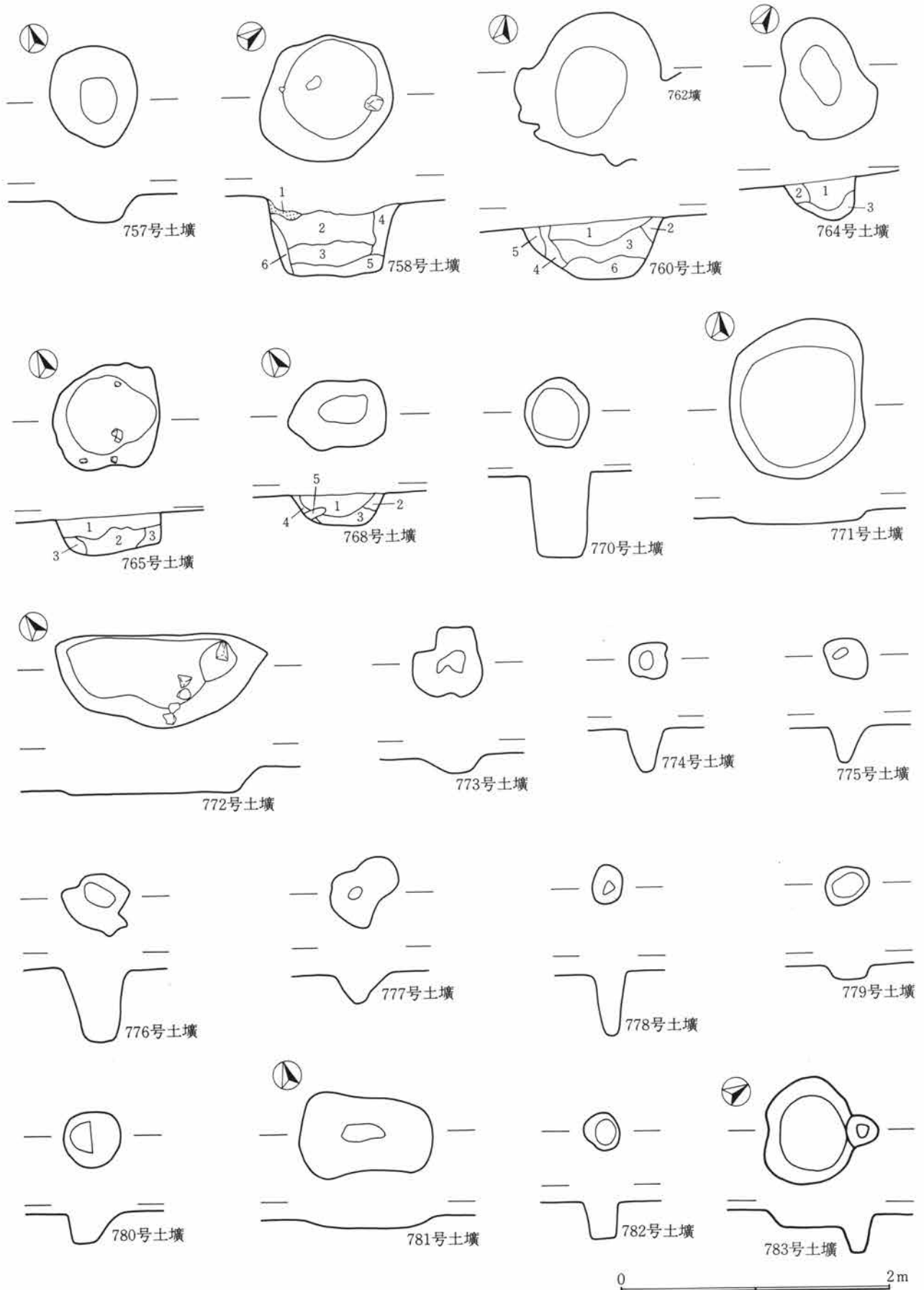
807～809号土壌(142図)；35号住居址東に散在する小ピットである。807号は35号住居の壁外柱穴か。

810～823号土壌(142図)；35号住居址南に群在する小ピットである。

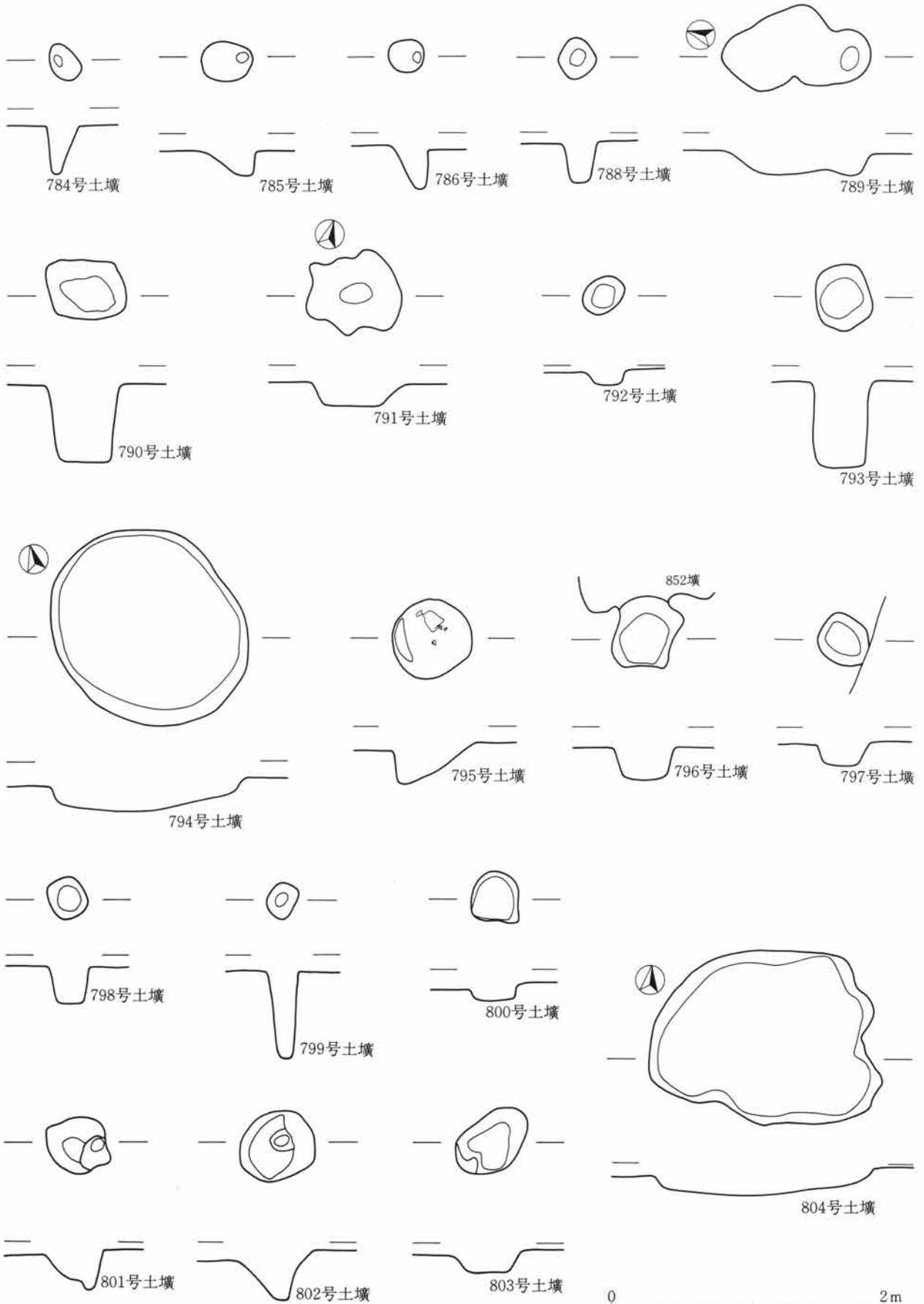
824号土壌(142図)；34号住居址の北東にやや距離を置いて位置する。不整形を呈し、皿状の断面形である。



139図 遺物を客体的に出土する土壇



140図 遺物を客体的に出土する土壇



141図 遺物を客体的に出土する土坑

第IV章 遺構と遺物

825号土壌(142図)；824号土壌の南西に位置する。不整形円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

826号土壌(142図)；34号住居址南の土壌群に位置する。640号土壌と重複する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

827号土壌(142図)；826号土壌東に接する浅いシミ状の落ち込みである。

828号土壌(143図)；34号住居址南の土壌群内に位置する。645号土壌と接する。不整形だが掘り込みはしっかりしている。

829号土壌(143図)；828号土壌の東に位置する小ピットである。

830号土壌(143図)；35号住居址北に大きく距離を置いて位置する。小型の円形で浅い皿状の断面形である。

831号土壌(143図)；830号土壌の西に距離を置いて位置する。687号土壌と接する。円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

832号土壌(143図)；34号住居址北に距離を置いて位置する。不整形円状を呈し、断面形は一部が袋状である。

833号土壌(143図)；34号住居址の北西に距離を置いて位置する。不整形円形を呈し浅い皿状の断面形である。

834号土壌(143図)；34号住居址の北西に位置する。単独の小ピットである。

835号土壌(143図)；調査区西側の突出部に位置する。円形で浅い皿状の断面形である。

836、837号土壌(143図)；805号土壌の南に位置する小ピットである。

838号土壌(143図)；36号住居址北に位置する。調査区境にかかり北半分は未調査である。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

839号土壌(143図)；36号住居址北西に位置する。732号土壌に近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

840号土壌(143図)；36号住居址西に近接する。小型の不整形円形を呈し、皿状の断面形である。

841・842号土壌(143図)；840号土壌の南西に位置する小ピットである。

843～845号土壌(143・144図)；調査区中央やや西寄りに、450号土壌北に位置する小ピットである。

846号土壌(144図)；調査区中央やや南寄りの747号土壌に近接する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

847号土壌(144図)；846号土壌の東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

848号土壌(144図)；調査区東の集石土壌群内に位置する。円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

849、850号土壌(144図)；848号土壌の東に位置する小ピットである。

851号土壌(144図)；集石土壌群内にあり、760号土壌南西に位置する。不整形円状を呈し、皿状の断面形である。

852号土壌(144図)；851号土壌と重複する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

853～855号土壌(144図)；852号土壌東の小ピットである。855号土壌は南に位置する。

856号土壌(144図)；36号住居址東に位置する小ピットである。

857～859号土壌(144図)；調査区中央やや南西寄りに位置する小ピットである。

860号土壌(144図)；調査区中央北側の泥流丘斜面下に位置する。円形で浅い皿状の断面形である。

861号土壌(145図)；860号土壌の南西に距離を置いて位置する。円形を呈し皿状の断面形である。

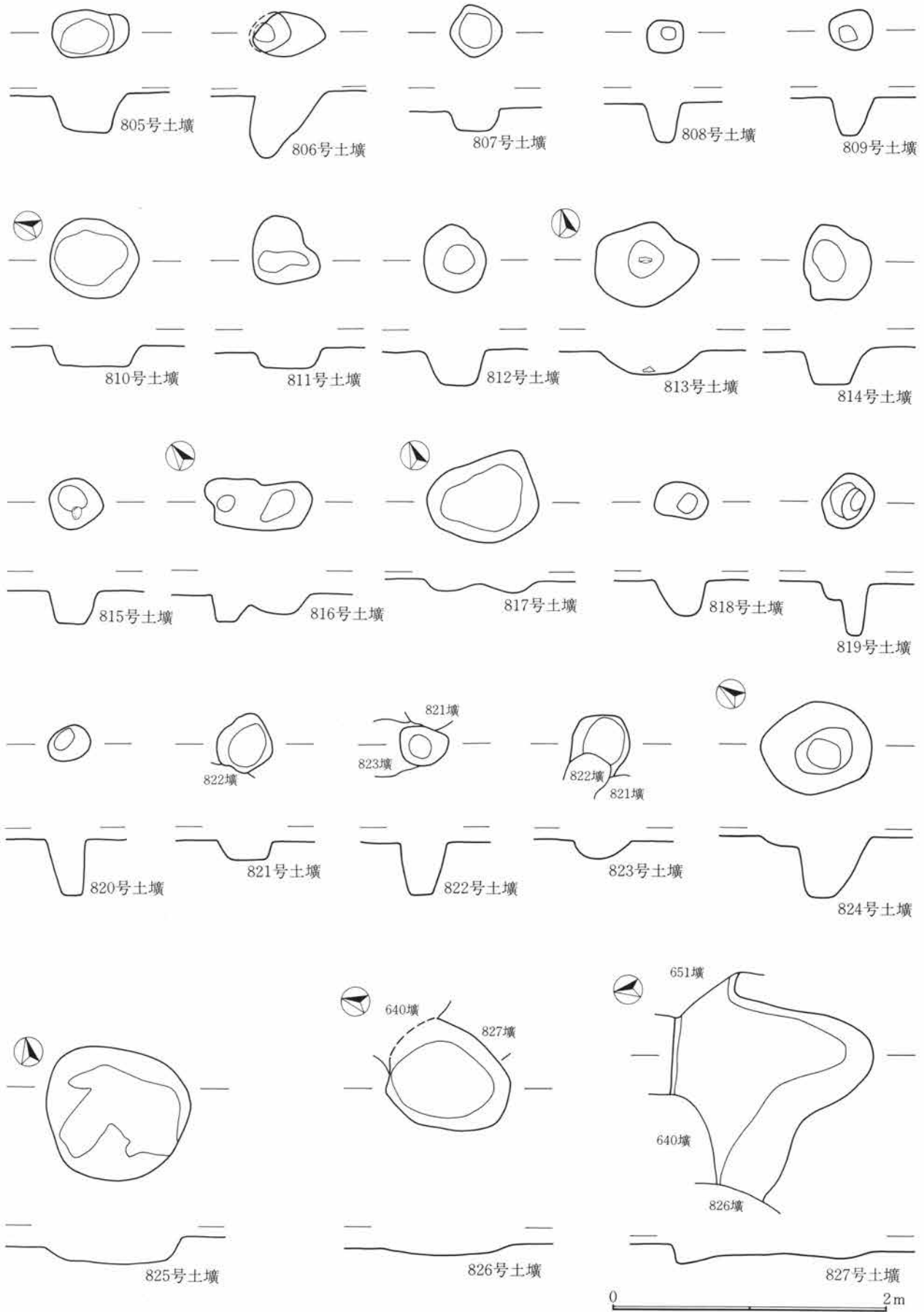
862～864号土壌(145図)；調査区中央に位置するやや大型の小ピットである。863、864号土壌は深い。

865～870号土壌(145図)；調査区中央やや西寄りに集中する小ピットである。868号土壌からは自然石が出土した。

871号土壌(145図)；調査区南寄りの中央に位置する474号土壌東に近接する。小ピットである。

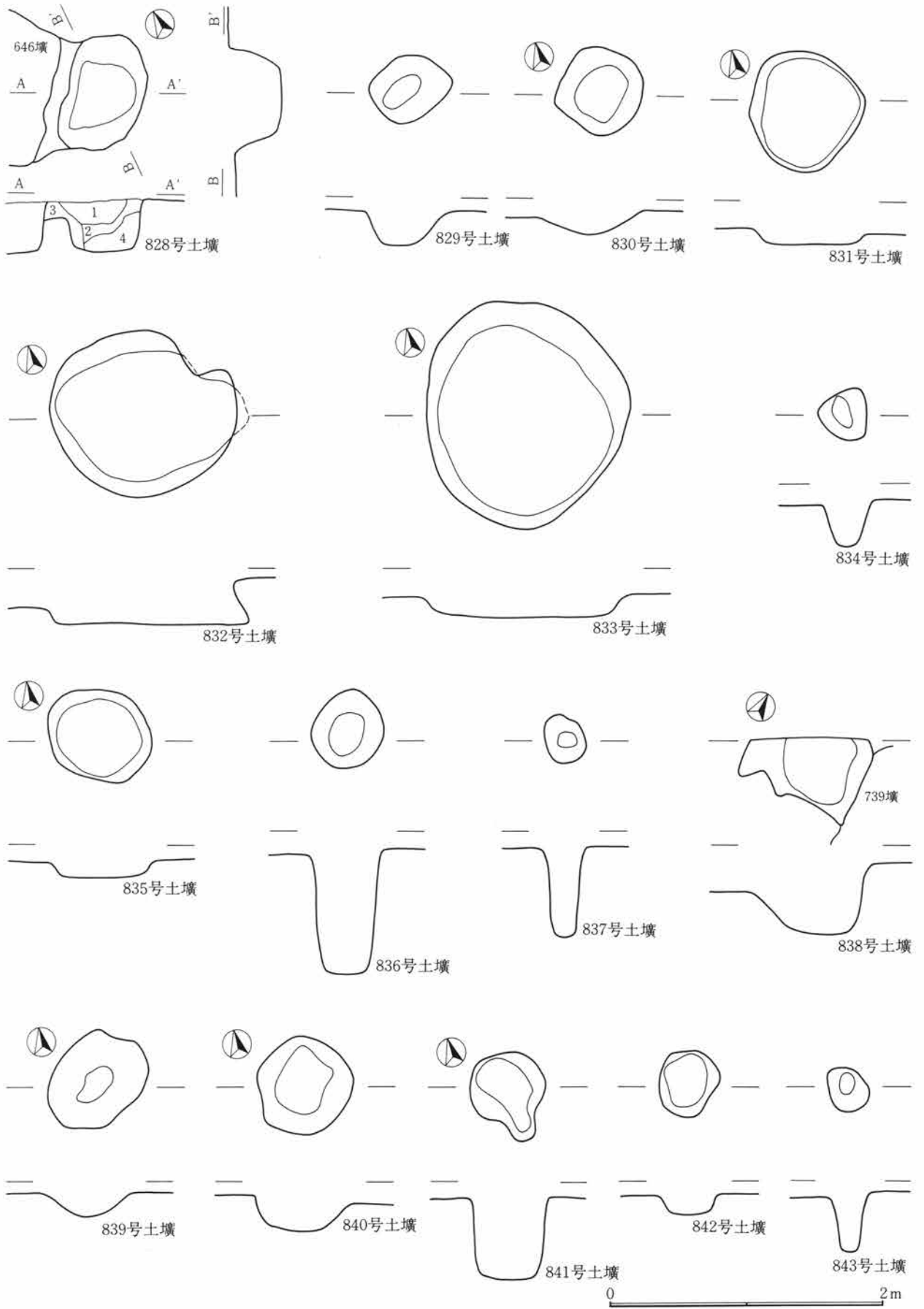
872～875号土壌(145図)；474号土壌南にやや距離を置いて位置する小ピットである。

876号土壌(145図)；1号大石北西にやや距離を置いて位置する小ピットである。

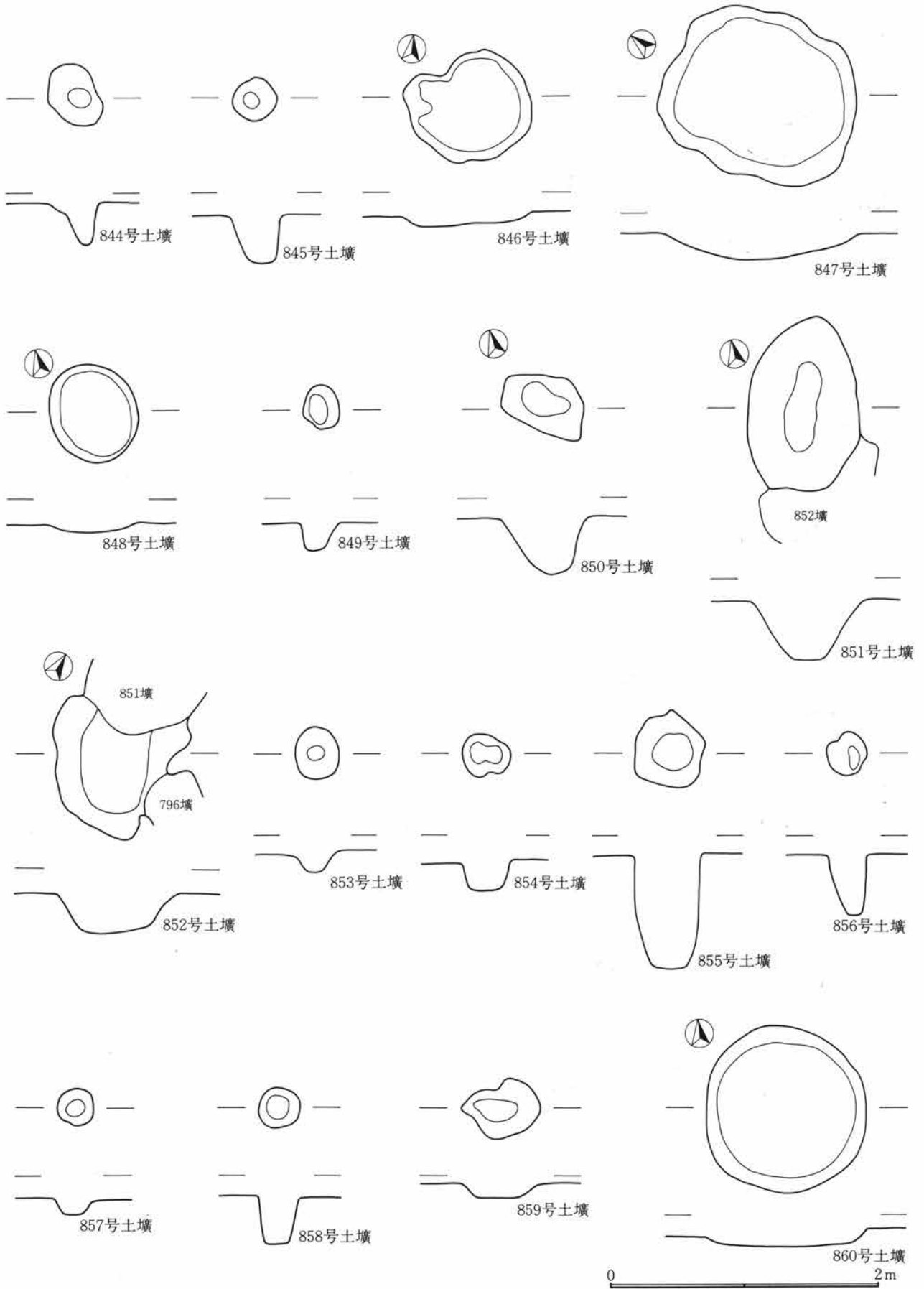


142図 遺物を客体的に出土する土壇

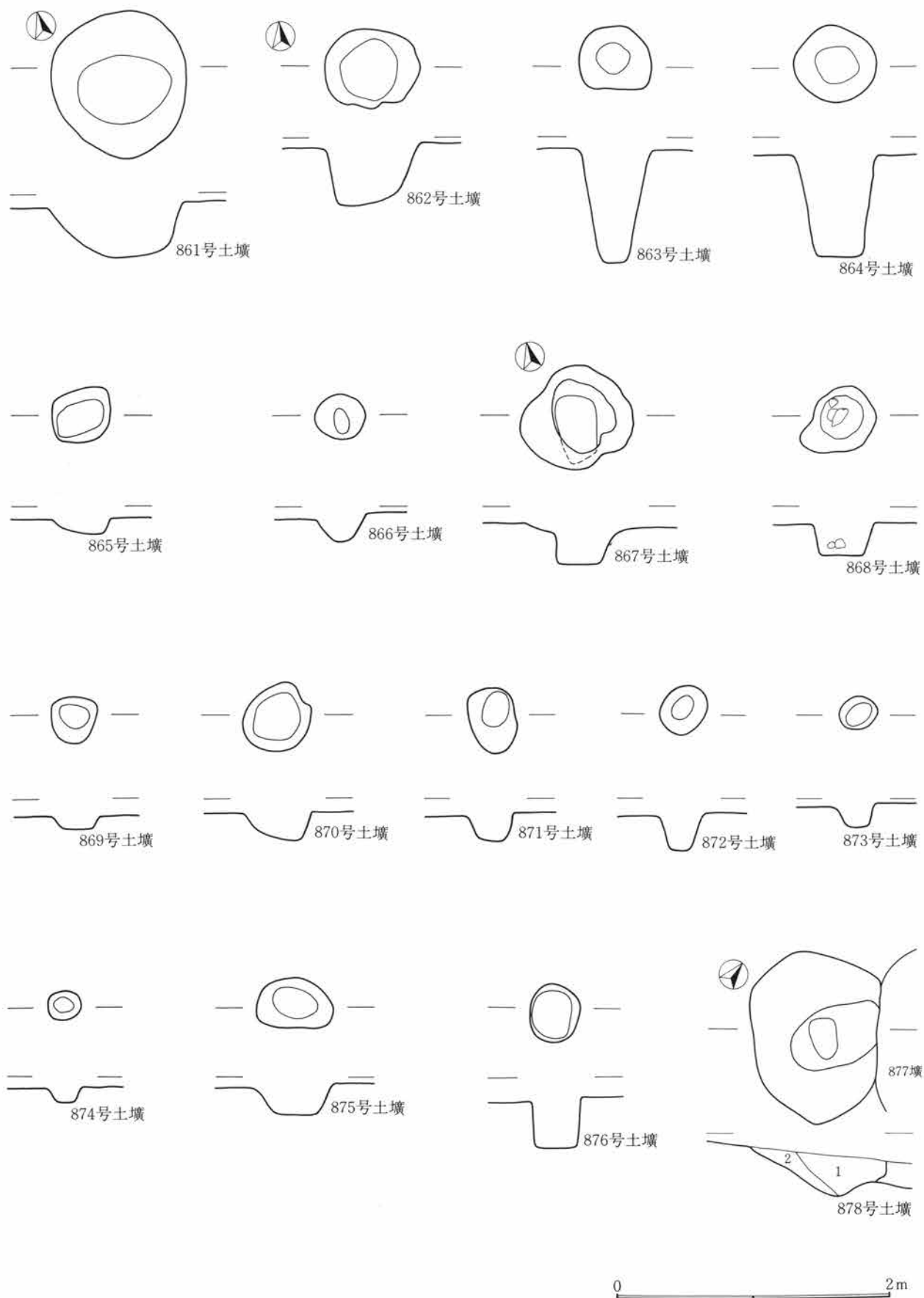
第IV章 遺構と遺物



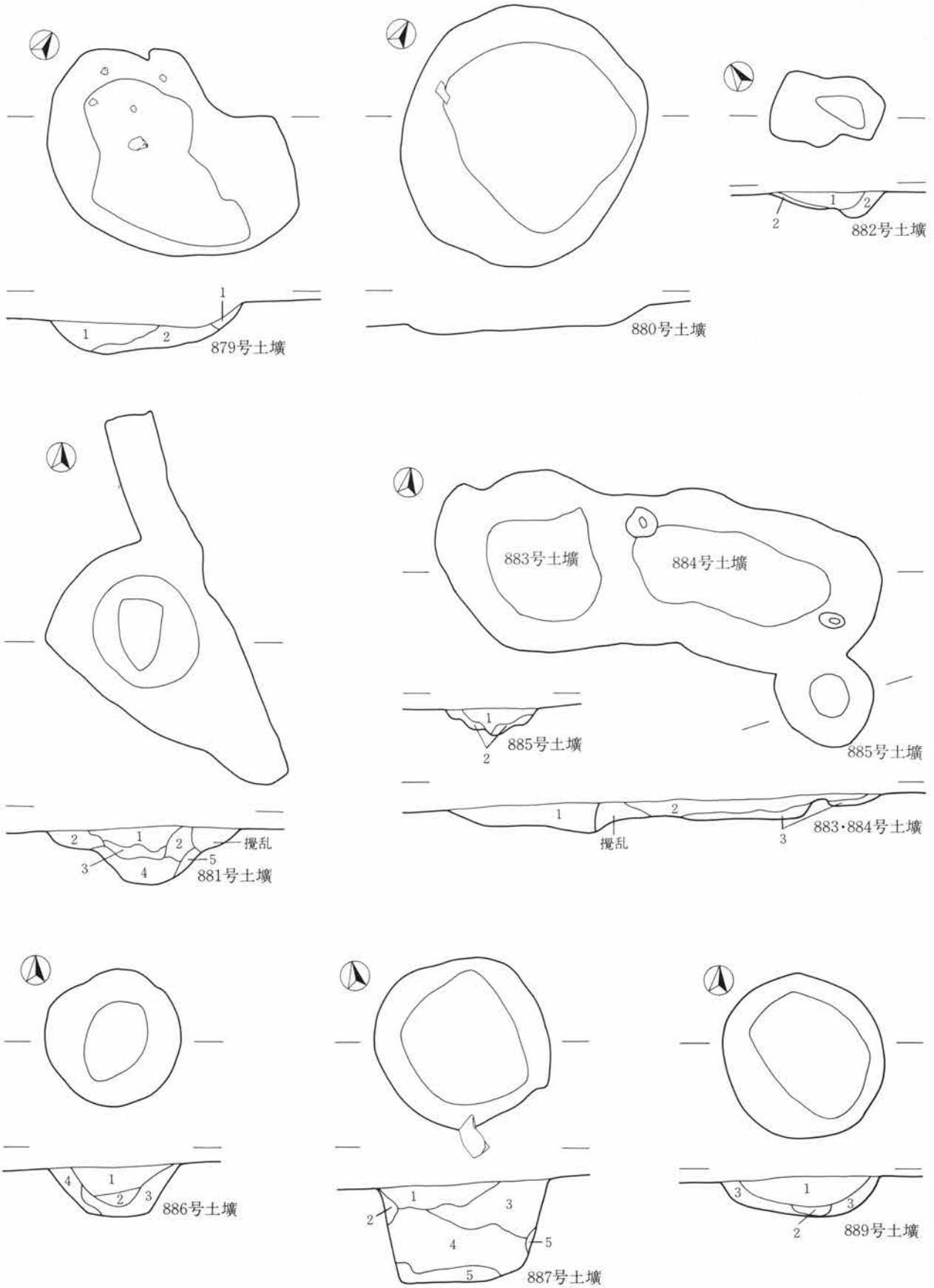
143図 遺物を客体的に出土する土壌



144図 遺物を客体的に出土する土壌



145図 遺物を客体的に出土する土坑



146図 遺物を客体的に出土する土壇

0 2m

第IV章 遺構と遺物

878号土壌(145図)；調査区中央の北東寄り、泥流丘上に位置する。877号土壌と重複する。本土壌が新しい。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

879号土壌(146図)；878号土壌の東に位置する。不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

880号土壌(146図)；877号土壌の北西に位置する。大型の不整形を呈し、皿状の断面形である。

881号土壌(146図)；879号土壌の北に位置する。不整形を呈し、皿状の断面形である。

882号土壌(146図)；878号土壌の北に位置する。小型の不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。

883・884・885号土壌(146図)；調査区北側の泥流丘上で検出された。883号は不整形を呈し、884号は不整形を呈す。浅い皿状の断面形である。885号は小ピットである。

886号土壌(146図)；調査区北東の泥流丘上で検出された。円形を呈し、皿状の断面形である。比較的掘り込みはしっかりしている。

887号土壌(146図)；886号土壌の北東に位置する。やや不整形を呈し、掘り込みはしっかりしている。

889号土壌(146図)；調査区北端の泥流丘上に位置する。南西に距離を置いて30号住居址が位置する。円形を呈し、皿状の断面形である。

890号土壌(147図)；調査区最北端に位置する。円形で掘り込みもしっかりしている。覆土中位より大型の自然石の出土を見る。

891号土壌(147図)；890号土壌の西に位置する。円形を呈し、皿状の断面形である。

892号土壌(147図)；889号土壌の北西に位置する。円形を呈し、浅い皿状の断面形である。

3. 大石を伴う土壌

調査区中央の南から西寄りにかけて、巨石が2個検出された。調査時においてF P面による平安時代の遺構を調査途中より上面が露出していたもので、当初は中世館濠に伴う何等かの施設とも考えられていた。しかし、その後の調査で、この巨石は縄文時代の遺物包含層に置かれたものであることが判明し、帰属時期を縄文時代中期の所産とした。ドルメン状の遺構としても捉えられようが、ここでは大石を伴う土壌として考

え、用途、機能などには言及しない。

1号大石(318号土壌)(147図)；調査区中央南西寄りの平坦部で検出された。直下に318号土壌と3個の大型の自然石が検出された。また、土壌内墳底面にも同様な自然石が置かれ、この巨石と直下の土壌との関連は密接なものと考えられよう。土壌は不整形を呈し、皿状の断面形である。遺物は10数点の土器片を出土した。

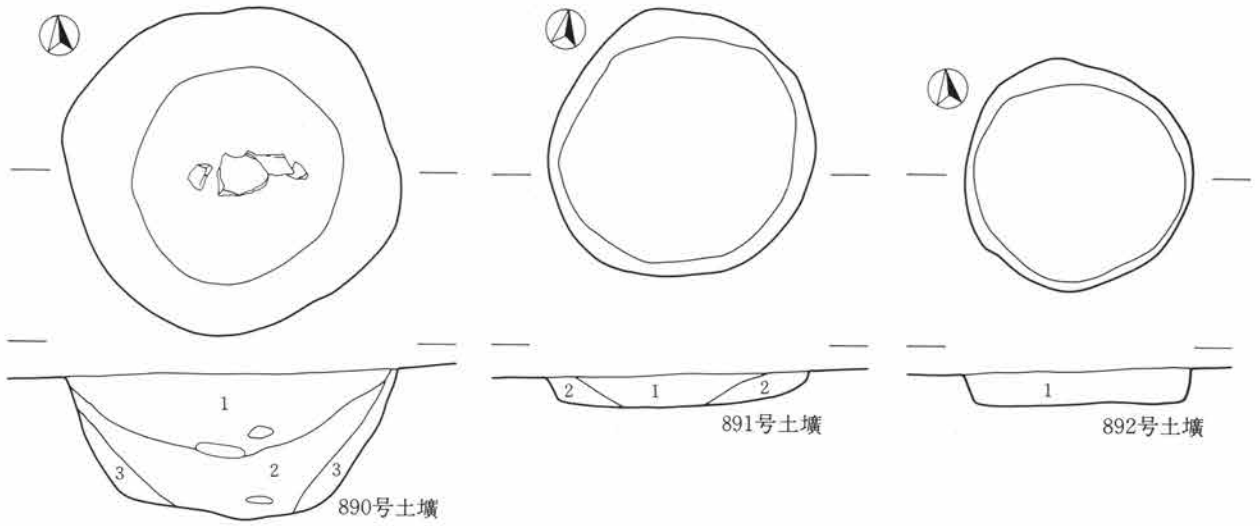
2号大石(351号土壌)(147図)；1号大石の西約18mに位置する。排土作業の際、重機によって原位置が若干動いている。北に351号土壌が位置する。土壌は不整形を呈し、浅い皿状の断面形である。遺物は出土しなかった。

4. 陥し穴状土壌 合計6基が検出された。調査区南東寄りの遺構密度の薄い平坦地と北側の泥流丘に占地する傾向がある。いずれも1、2個の小穴を墳底面に設け、確認面より墳底面までの深さは1m前後と深い。

445号土壌(148図)；調査区中央南東寄りの平坦地で検出された。隅丸方形を呈し、長軸を東西に向ける。深さは1.2mを測る遺存の良好な土壌である。墳底面は平坦で、2個の小ピットを開ける。壁の立ち上がりは長軸壁が直立に近く、短軸の壁は急激に外傾する。土層は9層に分層され、自然堆積状態を呈す。ピット上位のいわゆる杭痕は確認されなかった。

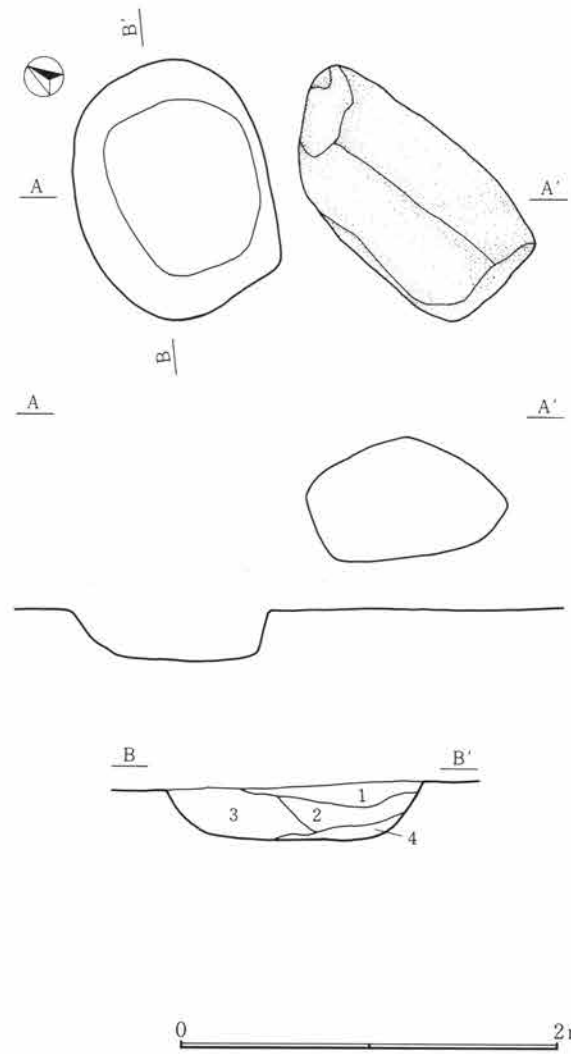
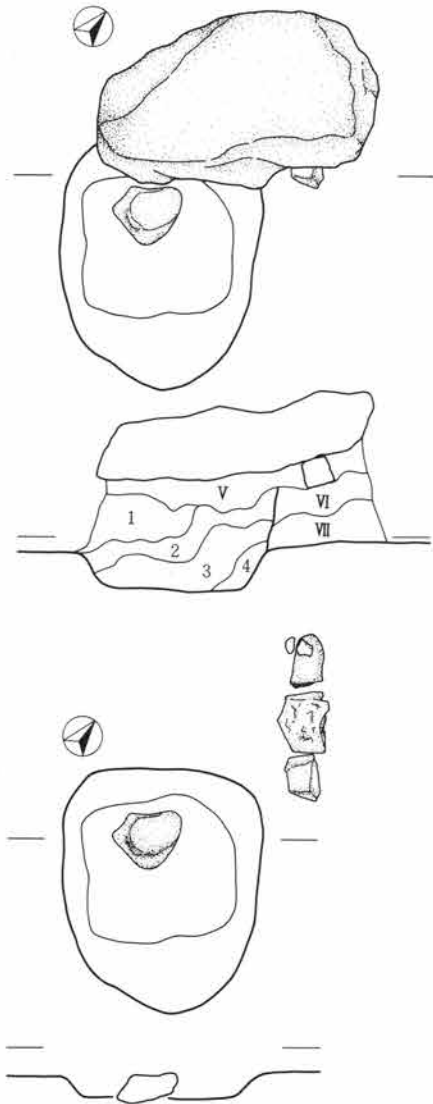
446号土壌(148図)；445号土壌の北西約6mに位置する。445号と同様に隅丸方形を呈し、長軸を北西に向ける。深さは1.16mを測る。墳底面は僅かな凹凸を持つがほぼ平坦で、1個の小ピットを開ける。ピットはやや浅い。壁は長軸壁にオーバーハングが認められ、おそらく壁崩壊であろう。短軸壁は中位から下位にかけて直立し、上位は外傾する。土層は12層に分けられ、自然堆積状態を呈す。杭痕は認められなかった。

787号土壌(148図)；調査区北側の泥流丘上で検出された。西に距離を置いて31号住居址が占地する。小型で、方形を呈す。長軸を凡そ東西に向ける。深さは70cmと陥し穴としてはやや浅いが、掘り込みはしっかりしている。墳底面に小ピットを1個検出した。

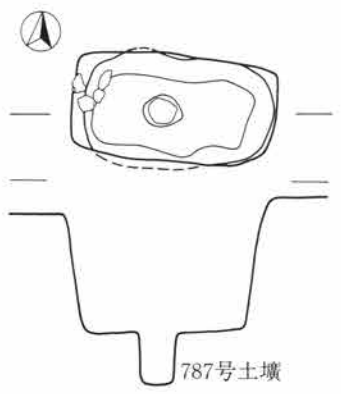
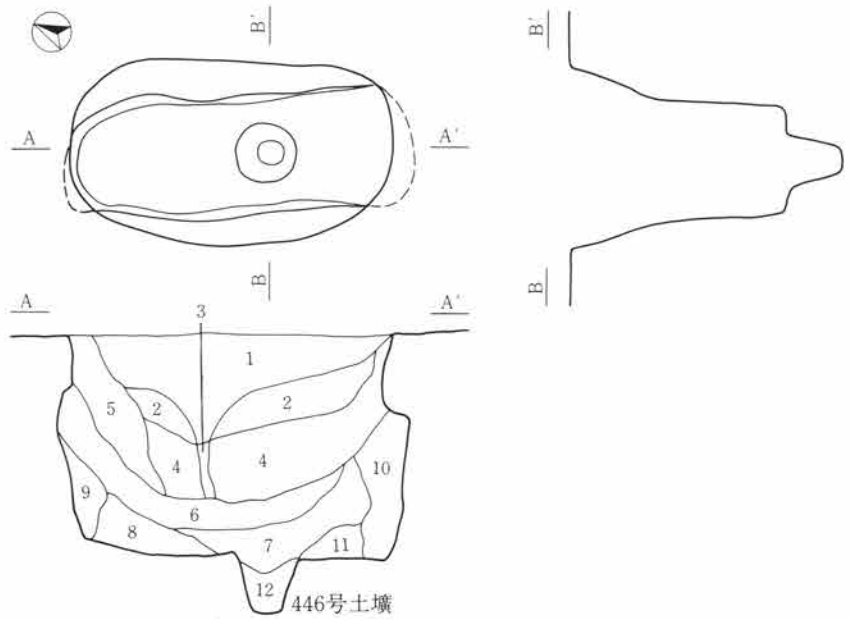
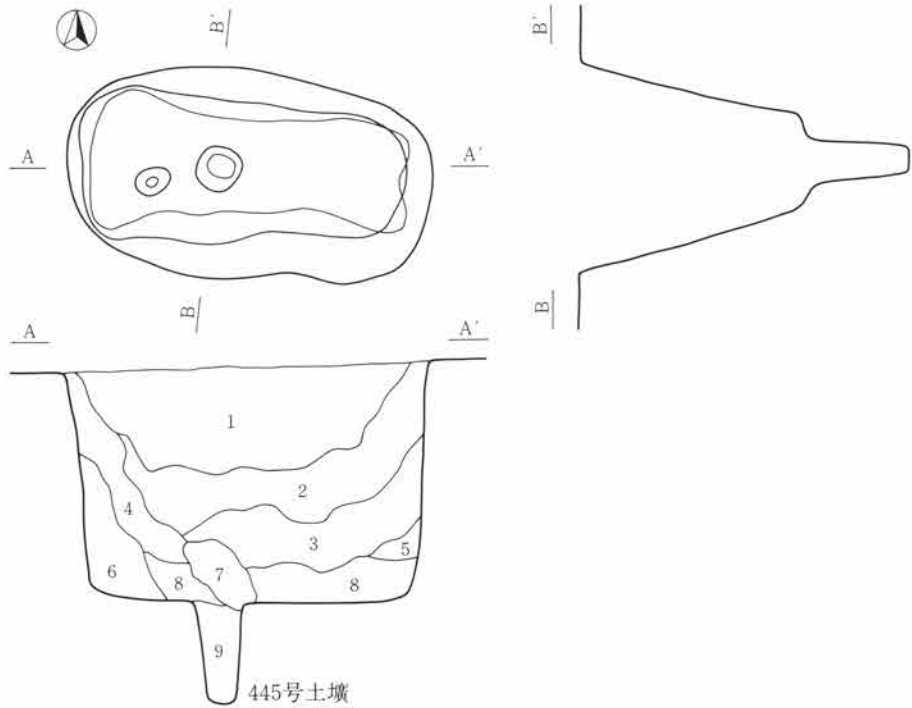


1号大石(318号土壌)

2号大石(351号土壌)

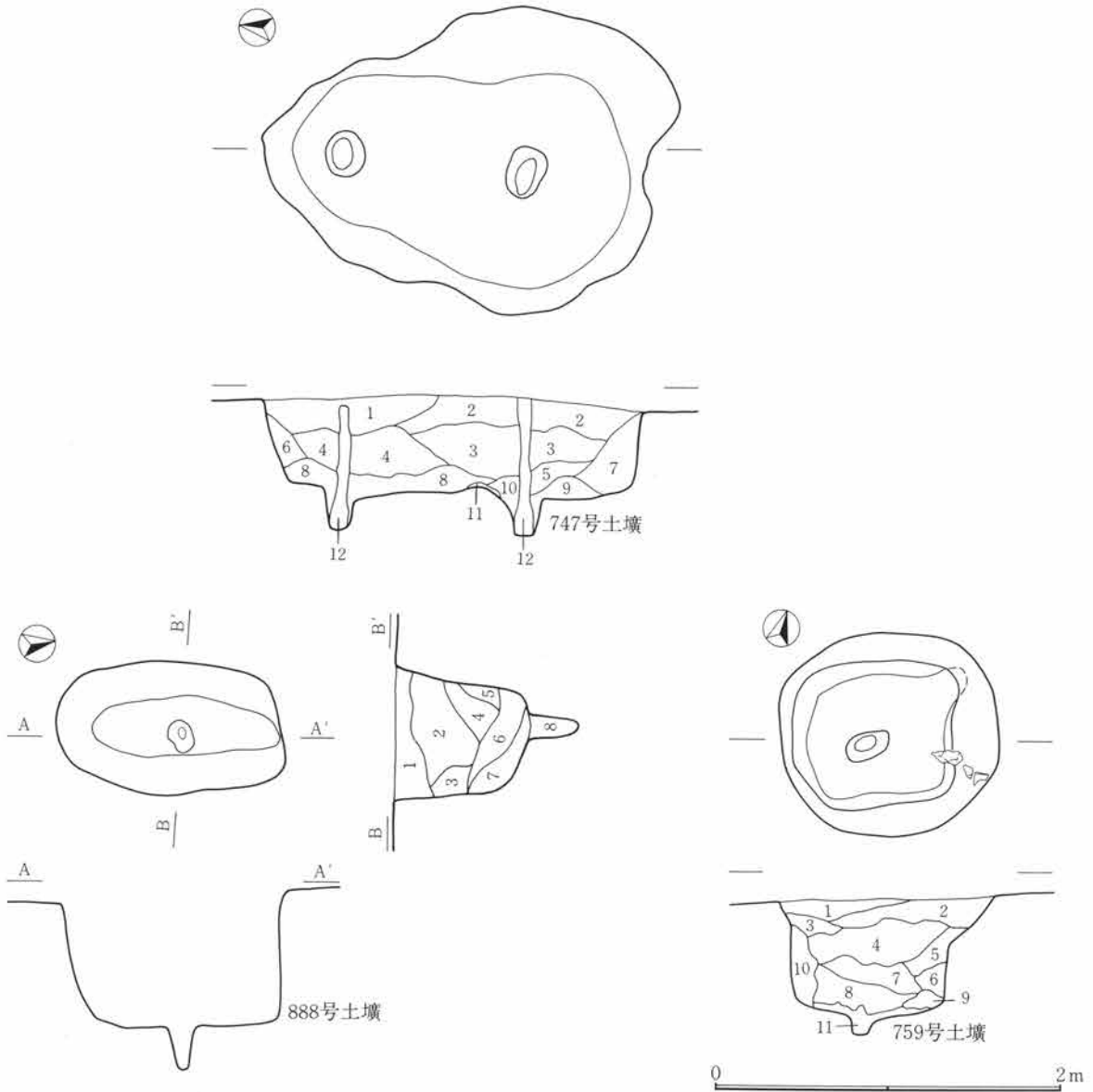


147図 遺物を客体的に出土する土壌、大石を伴う土壌



148図 陥し穴状土壇

0 2m



149図 陥し穴状土壌

888号土壌(149図)；泥流丘上で検出した。887号土壌が南に近接する。楕円状を呈し、長軸を南北に持つ。壙底面は平坦で小ピットを1個開ける。壁は外傾気味に直立する。土層は8層に分層され、自然堆積状態を呈す。

747号土壌(149図)；調査区中央南寄りの平坦地で検出された。本土壌は他の土壌検出後、再度調査面を下げて確認作業を行った際に検出されたものである。ゆえに、調査深度も56cmと浅く、平面形状も不整楕円状を呈す。壙底面は凹凸を持ち、小ピットを2個開ける。壁は直立気味である。土層は自然堆積状態を呈し、小ピット上位にはしまりの乏しい層が直上する。杭痕の

可能性はあるが、木根の重複も考えられ、ここでは否定する。

759号土壌(149図)；調査区西側の突出部で検出された。本土壌のみ他の陥し穴とは分布を異にする。隅丸円形を呈し、深さは67cmとやや浅めである。壙底面は平坦で、小ピットを1個中央に開ける。壁は下位が直立し、上位は外傾する。土層は自然堆積状態を呈し、杭痕は認められなかった。

その他、前述した441号土壌(122図)も陥し穴としての可能性はあるが、小型のため陥し穴には含めなかった。

第3項 土器・土製品

本項では各遺構より出土した土器、土製品を説明する。出土土器の大半は縄文時代中期前半の所産であり、遺構も該期のものと考えられよう。ここでは、検出遺構に付せられた番号順に図示し、各資料の細かな時間的位置付けを別項で検証するため、完形資料（径が測りだされたもの）を中心として説明し、破片資料の説明は表組として後述する。また、概括的な分類を凡例中に明記してある。

1号住居址（150図1～8）

1. 深鉢。口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損。

壁際より3と並ぶように横位に出土。橋状把手を2対付す深鉢。橋状把手は出土時には2対確認されたが、脆弱な土器のため、1対は接合できず欠失した。口縁部は若干外傾し無文である。胴部は下半でやや膨らみを持たせ2段の文様帯を設ける。両段とも3条の平行沈線によって区画される。おそらく半截竹管状工具によるものであろう。上段の文様帯は方形の区画を11、下段は小型の方形区画を10単位設ける。区画内は幅広の半截竹管文とペン先状の刺突による鋸歯状文が充填される。下段の文様帯には1単位のみ無文区画があり、対称性を崩している。

2. 胴部下半～底部約 $\frac{1}{2}$ 残存。

復元実測。大型の深鉢底部であろう。底部端部は丸みを帯びる。両脇を幅広の半截竹管文で飾られた数条の隆帯が胴部を巡り、多段の横帯文を構成すると思われる。上位の文様帯内はペン先状の刺突で鋸歯状文が巡り、下位の文様帯は隆帯が波状文を描き、三角の空白部にはペン先状の刺突文、三叉文が埋められるのであろう。全体に脆弱な土器である。

3. 胴部下半～底部残存。底部 $\frac{1}{2}$ 欠損。

直線的に落ちる胴部形態。垂下する隆線によって5分割される。図反対面は隆線以外は施文されず、施文区画と無文区画の2単位構成であろうか。施文区画は環状の突起が看取され、胴部上半の複雑な文様構成を示唆する。区画内は細沈線が幾条も垂下し、また鋸歯状に垂下する沈線もある。沈線に沿って小型の半截竹管による截痕列が施される。無文区画内は撫でられており、意識的な無文を表わす。やや脆弱な土器。

4. 深鉢胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

地文にLR縄文が施され、胴部より垂下した太めの沈線と分岐する沈線が看取される。沈線が施された後も撫でが加えられ、沈線の一部は潰れている。

5. 深鉢。底部 $\frac{1}{4}$ 残存。

底部端部は極僅かに開く。無節縄文rが施される。内面には煤付着。

6. 小型の深鉢底部。約 $\frac{1}{2}$ 残存。

底部端部は丸みを帯び、僅かな膨らみを持って立ち上がる。垂下沈線と平行沈線が施される。

7. 深鉢。底部 $\frac{1}{2}$ 残存

底部端部僅かに張り出す。底面は平滑だが一部に凹凸があり端部にまで及ぶ。胴部下半は器面調整の撫で痕と、条線が看取されるが判然としない。

8. 深鉢底部。約 $\frac{1}{2}$ 残存。

丸みを帯びる。やや脆弱な土器で、器面も荒れている。RL縄文を施す。

1号住居址上層区（151図9～14）

9. 深鉢。口縁部破片

口唇部は外傾し、口縁部は内傾する。頸部で著しく屈曲するため、浅鉢の可能性もある。口縁部文様帯は、頸部屈曲部の横走隆線で画される。隆線は、小渦巻状の動きをする箇所もあるが、おそらく文様帯内を区画する隆線に派生するのであろう。文様帯内は幅広の角押文が結節沈線状に連続する。

10. 深鉢。底部破片

小型である。腰部には僅かな凹凸がある。

11. 深鉢。底部約 $\frac{1}{2}$ 残存

開き気味に立ち上がる。底部内面中央は肥厚する。

12. 浅鉢。体部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存

やや大き目の浅鉢。体部は大きく開き、内面は緩やかに彎曲する。内外面とも丁寧に磨かれ、内面は黒褐色を呈する。底面には網代痕残存。

13. 浅鉢底部。約 $\frac{1}{2}$ 残存

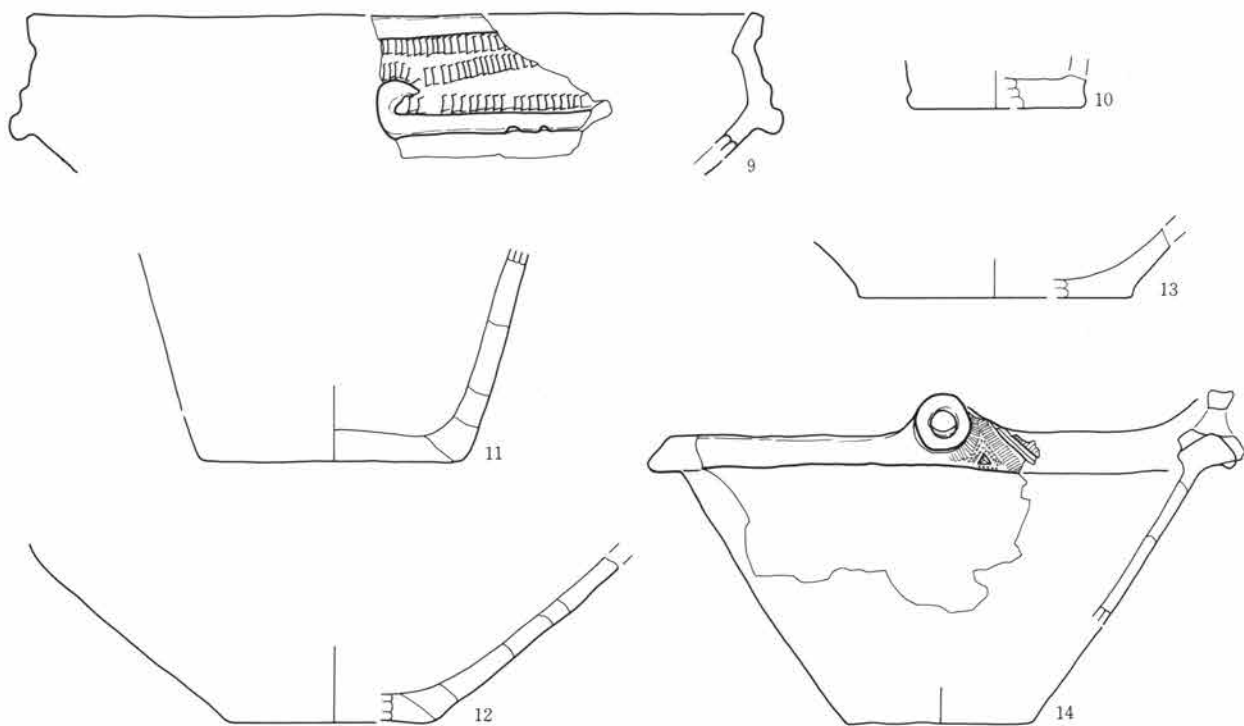
底部端部は僅かに立ち上がり、体部は大きく開く。外面は雑な撫で、内面は丁寧に磨かれる。

14. 浅鉢。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存

口縁部に円環の突起を付す。口縁部は幅を持たせ、著しく突出して外稜となす。体部は直線的に落ちる。

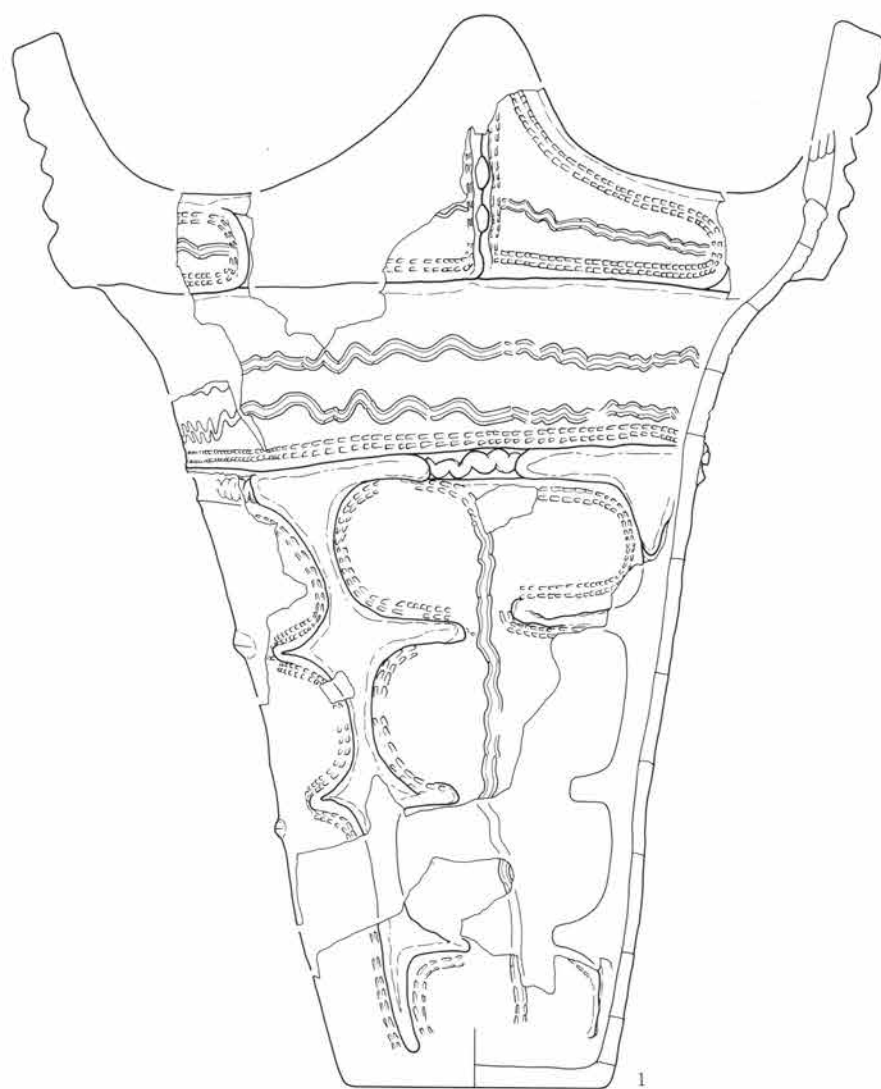


150図 1号住居址出土土器

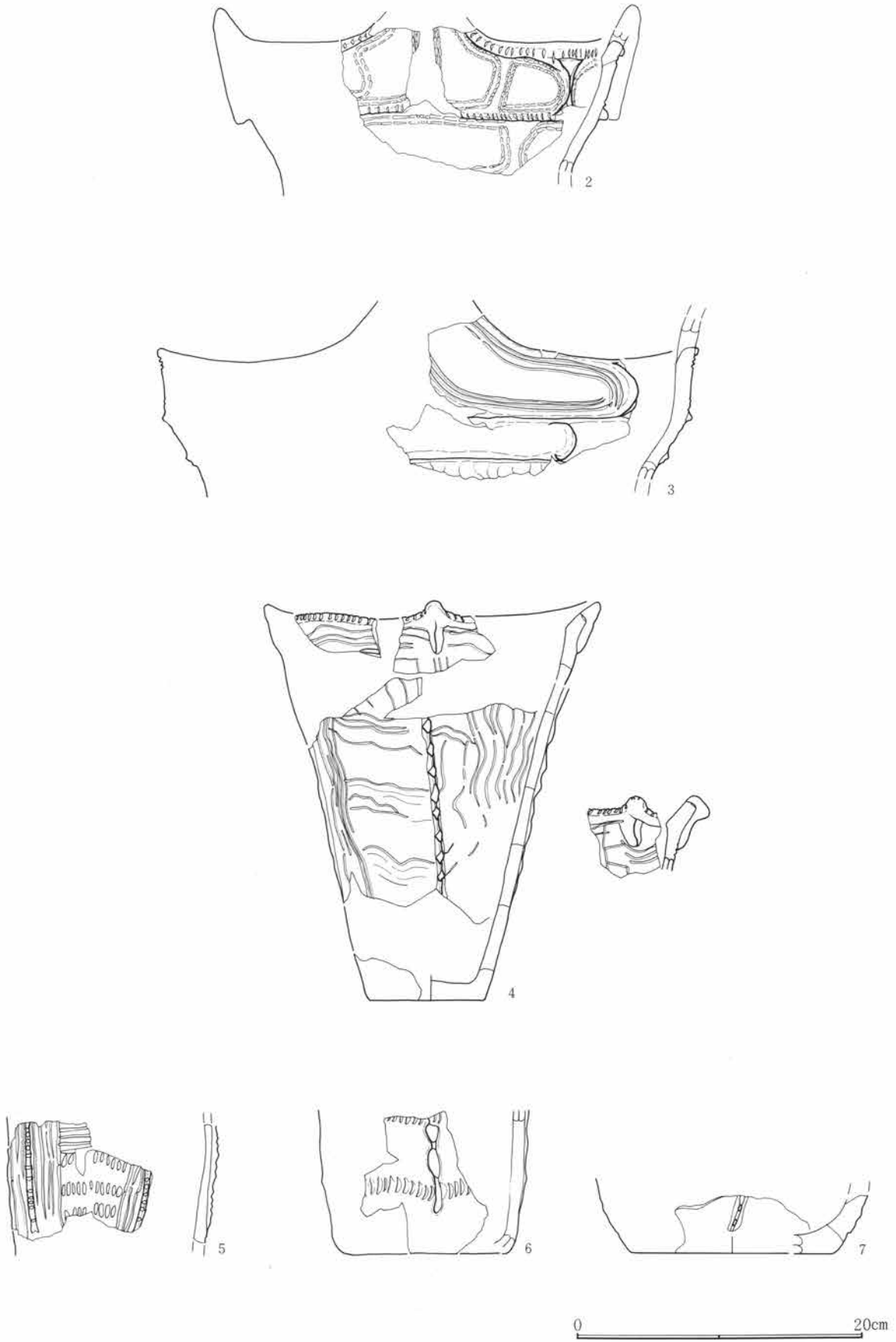


151図 1号住居址上層区出土土器

0 20cm



152図 20号住居址出土土器



153図 20号住居址出土土器

円環突起は貫孔する。口縁部文様帯は突起を中心として片側は文様が充填され、一方は無文である。文様は、3本の粘土紐による隆線を斜位に貼り付け、隆線の間を沈線で調整し、おそらく三角区画を交互に配するのであろう。隆線に沿って半截竹管文（キャクピラ文）、小型のペン先状刺突文が密に沿い、中位に三角文が沈刻される。内面、口縁部外面は丁寧な磨きが施され、口縁部外面の突起と無文部には赤色塗彩が残る。完形であれば美しい浅鉢であろう。

20号住居址（152図1～158図37）

1. 胴部下半～底部が床面より横位に出土。21号住、40号土壌と接合。山形の突起を持つ大型の深鉢。口縁部約 $\frac{1}{4}$ 、胴部約 $\frac{1}{2}$ 残存。

隆線で口縁部、頸部、胴部と3分割され、隆線の脇は2本1組の結節沈線が沿う。山形の突起はおそらく4単位付されるのであろう。刻みのある隆帯が垂下し、頸部との境の隆線と接す。口縁部文様帯は、粘土紐指撫でによる隆線で区画される。口縁部の区画内および、頸部文様帯には、半截竹管による波状沈線が2条横走する。頸部と胴部の境は隆線で分けられ、蛇行隆帯も付される。胴部文様帯は、隆線が波状に垂下し、2対1組となり連接する楕円を描き出す。楕円内は波状沈線が縦位に落ちる。底部には網代痕がある。

2. 深鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存。

突起は波頂部が欠損しているが山形であろう。突起から延びる隆帯は、剥落しているがおそらくつまみ状の突起となり、頸部の刻みを持つ隆線と接する。口唇部の隆線にも刻みを施し、撫でられた隆線でX字状の区画をなし、2本の結節沈線が隆線に沿う。胴部は、やはり2本の結節沈線が楕円状のモチーフを描き出す。

3. 深鉢。覆土出土。口縁部約 $\frac{1}{4}$ 残存。

おそらく山形の突起を付す深鉢であろう。口縁部文様帯は、隆線で区画され、3本単位の沈線が沿う。頸部は撫でた隆線によって楕円状に区画される。区画内は、無文である。胴部上半は指頭押圧によるヒダ状圧痕が見られる。器面はやや荒れている。

4. 深鉢。覆土出土。底部、胴部下半は21号住出土。口縁部の一部。胴部上半と底部残存。

復元実測。口唇部は刻みを施し、小突起を付す。直

線的に開く胴部形態を呈す。指頭押圧を施す細隆線が垂下し、器面を4分割する。分割された区画内は、櫛歯状工具？による細沈線が縦位、横位に施される。図の反対面には幅広の半截竹管文が、縦にやや雑に施される。外面は丁寧に磨き、内面は撫でが施される。

5. 深鉢胴部破片。覆土出土。

薄手の器肉。小型の刻みを施す垂下隆線とそれに沿う数条の平行沈線で器面を数単位に分割するのであろう。分割された区画内は、横位の平行沈線で更に多段に分けられ、小区画内は小型の刻み目列が横位に充填される。

6. 深鉢胴部下半～底部上端残存。覆土出土。

指頭押圧を施した隆線が垂下し、刻み目列が横位に施文される。内面は剝落が著しい。

7. 深鉢底部 $\frac{1}{4}$ 残存。覆土出土。

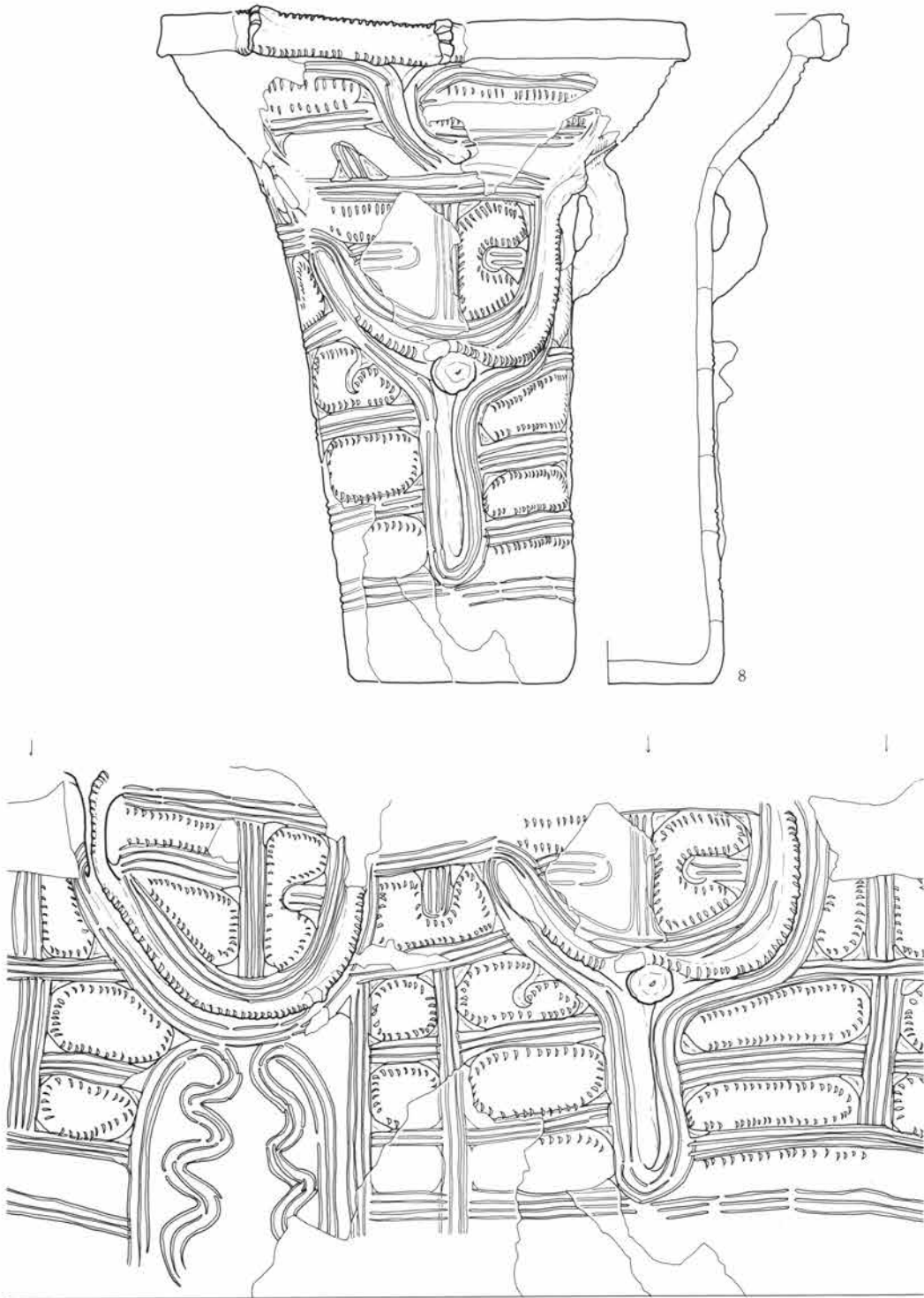
6と同様な指頭押圧を施した垂下隆線が看取される。

8. 深鉢。床面より横位に押し潰されて出土。口縁部 $\frac{1}{4}$ 、胴部下半～底部 $\frac{1}{4}$ 欠損。

口縁部は幅が狭く、直立する。頸部は緩やかに開き、頸部と胴部に橋状把手が2・3対設けられる。胴部は直線的に落ちる。口唇部、口縁部の下端は半截竹管による刻みを施す。口縁部文様帯は無文だが、やや大き目の刻みを施す突起が突出する。頸部～胴部文様帯は同一の文様要素で1文様帯で占められる。橋状把手を中核として、口縁部から派生した刻みを持つ隆帯が弧状に延び、U字状のモチーフを描く。図正面のモチーフの下端からは、環状突起より刻みを持たない隆帯が垂下するが、反対面では垂下しない。隆帯に沿って3条の沈線が沿い、同様な沈線で器面を小分割する。頸部と胴部上半では隆帯と器形曲線の制約で三角や不整形の区画を呈するが、胴部下半では方形の区画となる。図反対面の胴部下半は方形区画ではなく垂下する波状沈線が対称的に配される。小区画内は、小型の半截竹管文が沿い、円形モチーフ等が施される。区画の隅は三角文等が沈刻される。

9. 深鉢。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。その他破片数点。

口唇部上に渦巻状の突起が直立する。突起には円環の小突起が付加する。口唇部は面を持ち外方に著しく



154図 20号住居址出土土器

突出し、渦巻状突起の下でめくれ上るように内彎し尖る。口縁部には、渦巻状突起下に双環状の突起が発達した嘴状の突起が付され、渦巻状の突起と共に正面観を強調している。口縁部側面には、円環状の突起が設けられ、口唇部から派生する隆線と接し、口唇部上に突出し小突起となる。各突起間は、連続半截竹管文が密に施され、短沈線も看取される。突起裏面には大型の三叉文が刻まれる。

10. 小型の深鉢。覆土出土。口縁～頸部 $\frac{1}{2}$ 残存。

渦巻の小突起を口縁部に付し、そのため緩やかな波状縁を呈すが、基本は平縁である。小突起はおそらく5個付されると思われる。小突起から派生した隆線が逆三角枠を作り、三角の下端に捩りを加えた小突起を付すことによって逆三角と三角枠が交互配列される。図正面の区画は三角枠を崩し、五角形となる。各区画内は小型の半截竹管による結節文が二重に沿う。

11. 小型の深鉢。覆土出土。胴部～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

胴部下半は僅かに括れ、丸みを帯びて底部にいたる非常に特徴的な器形である。刻みを持つ細隆帯は弧状に落ち、胴下半の膨らみ部において様々なモチーフを描くと思われる。また、胴上半から延びた隆帯は渦巻小突起に纏まるのであろうか。細隆帯の脇は、幅広の半截竹管文が沿い、やや浅めの波状沈線文も施される。

12. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

波状口縁深鉢だが口縁部のほとんどは欠損している。残存部はおそらく波底部であろう。口唇部には刻みを有し、幅広の隆帯が三角の区画を造る。区画内はやや雑な三叉文が沈刻される。胴部は一文様帯である。隆帯が弧を描き半楕円状の区画が垂れ下がる。隆帯には半截竹管状工具による沈線、半截竹管文が沿い、同様な沈線で小区画をなし半截竹管文が沿う。

13. 小型の深鉢。覆土出土。胴部上半～底部約 $\frac{1}{2}$ 残存。

底部端部僅かに張りだす。頸部は外傾し、胴部は直線的に落ちる。胴部は一文様帯である。垂下する隆線と半肉彫的手法による蛇行文、渦巻文で器面全面を充填するのであろう。内外面とも磨きを丁寧にし、優品である。

14. 深鉢。床面出土。胴部中位～底部端部残存。

胴部は直線的に落ちる。無文部の多い土器である。

上半から弧状に落ちる2本の隆帯が下半の渦巻状突起に終末する。図示し得なかったが、反対面では斜位に垂下する隆帯が認められる。隆帯に沿って半截竹管による2本の平行沈線が施され、その他の空間も同一の沈線で渦巻状のモチーフなどが描かれる。また、やや大きめのペン先状刺突による刺痕列がまばらに沈線に沿う。器面はやや荒れておりザラザラしている。

15. 深鉢底部破片。覆土出土。

端部に平行する半截竹管による平行沈線が施される。

16. 深鉢底部破片。覆土出土。

15よりやや大形。数状の平行沈線が腰部に沿う。

17. 深鉢。床面炉址脇より出土。口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

波状口縁を呈す。おそらく4単位であろう。波頂部は山形の突起となる。口唇部は面を持ち、内外面に僅かであるが突出する。山形突起下にはやや大きめの環状突起が付される。口縁部は若干内彎し、胴部は直線的に落ちる。口縁部文様帯は頸部の隆帯で画され、口唇部から派生した隆線は弧状、巴状のモチーフを描き頸部隆帯と接す。頸部隆帯と接する点には小型の環状突起や刻みを持たせるアクセントを付ける箇所もある。隆線の脇は、1・2条の太めの沈線が沿い、区画内は短沈線、三叉文などが施される。頸部隆帯より派生する隆線は、垂下するもの弧状を描くものがあり胴部文様帯を区画する。胴部中位に巴状モチーフが描かれ、巴の中心に環状突起が付される。区画内は、短沈線を波頂部に2個施した波状平行沈線が見られる。口縁部、胴部とも地文にLR縄文が施される。

18. 浅鉢。床面出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 、底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

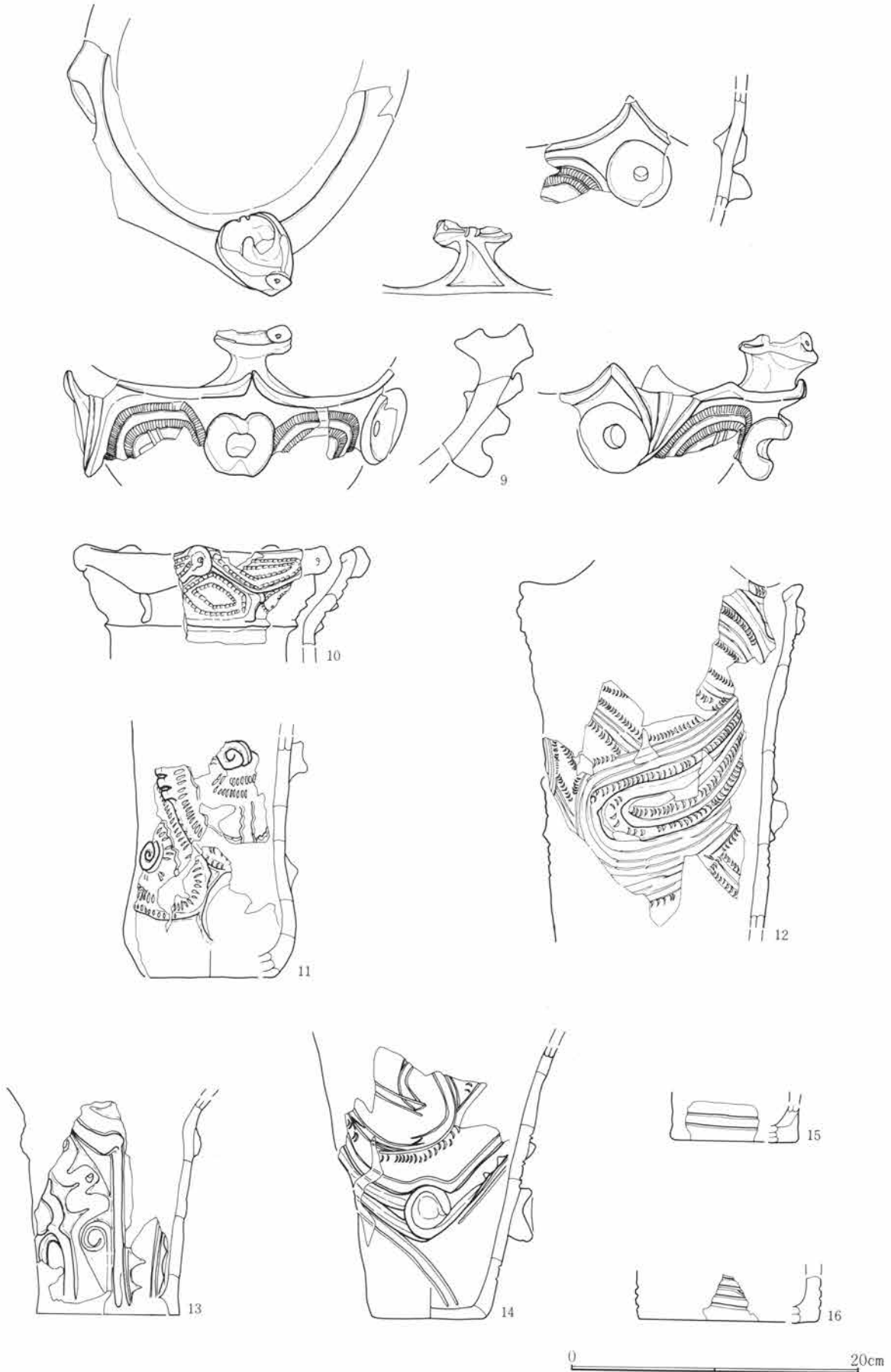
口縁部に巾35mmほどの面を持たせ、体部は直線的に開く。内面には稜を持ち、内外面とも磨きを施す。

19. 浅鉢。覆土出土。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

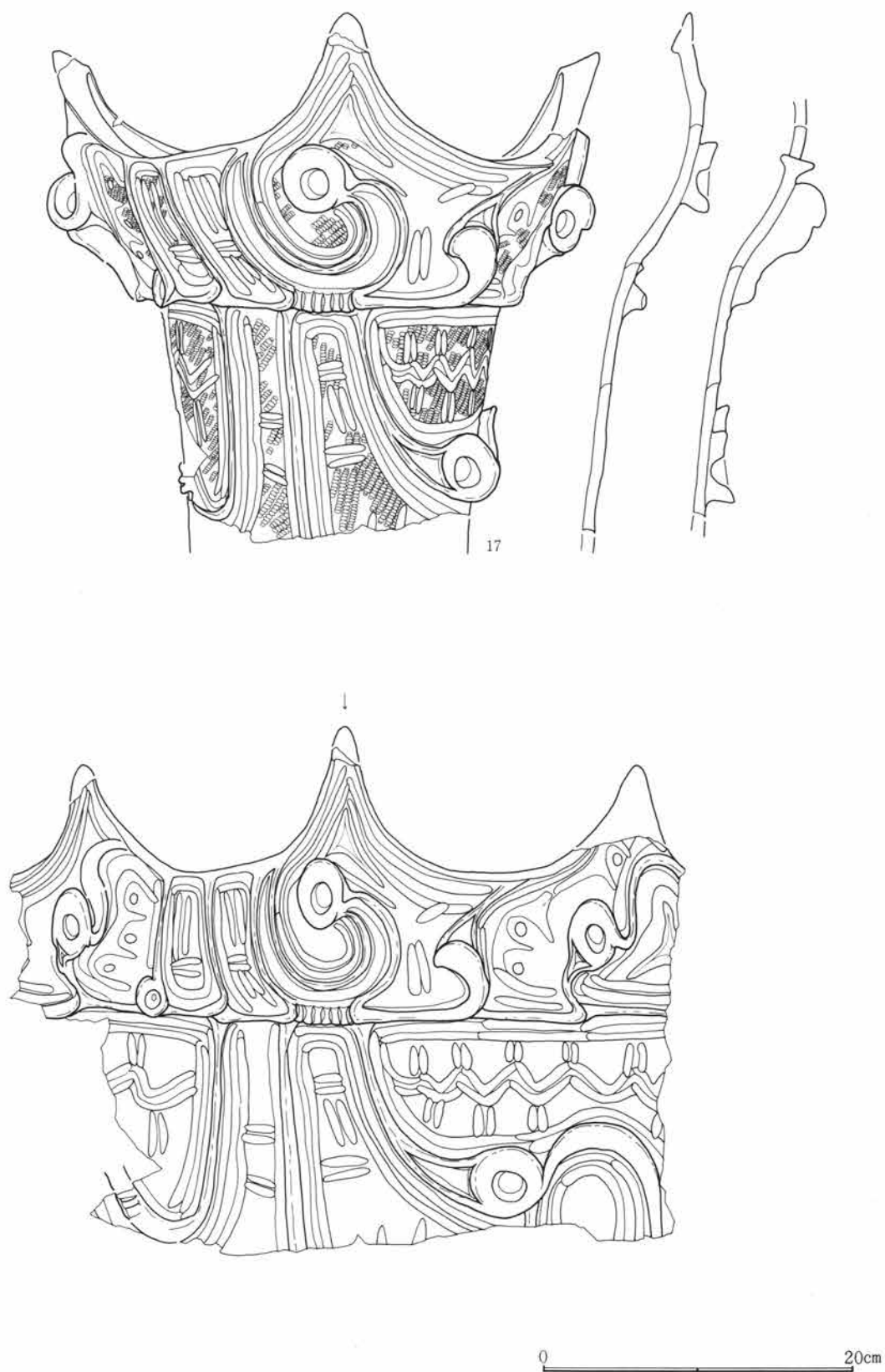
平縁を呈するが、内稜が一部盛り上がり、突起が付されるのであろうか。内外面、特に口唇部は丁寧に横磨きが施される。

20. 浅鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

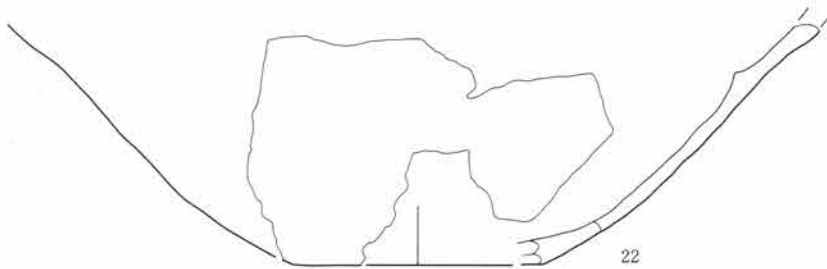
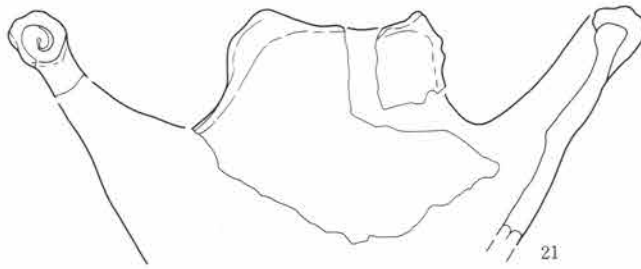
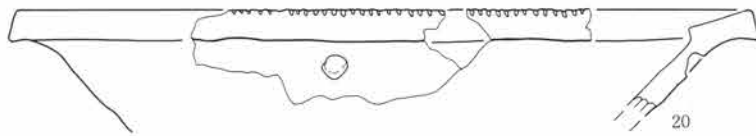
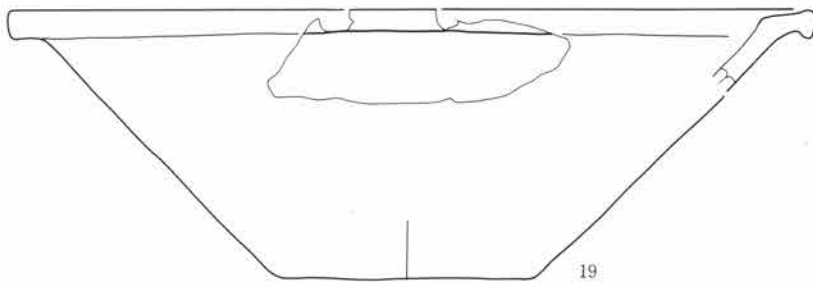
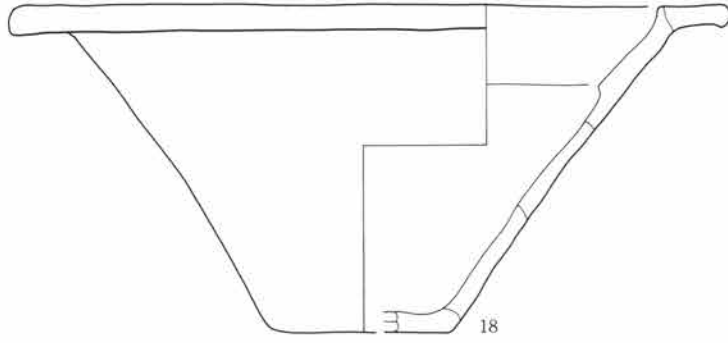
口縁部内面は面を持ち内傾する。口唇上端部に浅い刻みを施し、体部上半には、未貫孔の補修孔がある。



155図 20号住居址出土土器



156図 20号住居址出土土器



0 20cm

157図 20号住居址出土土器

21. 浅鉢。覆土上層出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

渦巻状の突起をおそらく2個1単位として波状口縁を造る浅鉢。残存率が少ないので形態、傾きなど判然としないが敢えて図示した。内面に稜を持つ。内面の磨きは丁寧。

22. 浅鉢。体部～腰部 $\frac{1}{2}$ 残存。

内面体部上半に稜を持つ。内外面とも丁寧に磨きを施す。

23. 深鉢。覆土出土。胴部上半～底部残存。

筒形で若干開き気味の胴部形態。無文である。外面は撫で調整後縦磨き。内面は丁寧な撫で。雲母末の含有量多い。

24. 深鉢。床上出土。胴部約 $\frac{1}{2}$ 残存。

反るように開く胴部形態を呈す。1条の隆線が胴部下半を巡る他は無文である。隆線上位は横方向の撫で、下位は縦方向の撫でで成形している。

25. 深鉢。底部破片。

直立する。端部は摩滅して丸みを帯びる。器面は荒れておりざらついている。底面に網代痕。

26. 深鉢。底部。

やや上げ底で内面中心で肥厚する。無文だが雲母の含有量は多い。

27. 深鉢底部。 $\frac{1}{2}$ 残存。

腰部は僅かに丸みを帯び、緩やかに直立する。底面は丁寧な撫でで平滑である。

28. 深鉢底部。覆土出土。約 $\frac{1}{2}$ 残存。

端部は張り出し、著しく内傾する。底面は平滑。

29. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{3}{4}$ 残存。

器肉は厚い。外面は雑な縦磨きが施される。底面は平滑である。

30. 深鉢底部残存。

端部突出する。やや外反するように立ち上がる。底面は平滑。

31. 深鉢底部。床直上。 $\frac{1}{2}$ 残存。

おそらく小型の深鉢であろう。無文だが丁寧な撫でを施す。底部端部は鋭い。

32. 深鉢底部破片。覆土出土。

底部端部にまで達する垂下隆線の剝落痕が看取できる。

33. 深鉢底部。覆土出土。

丸みを帯びて立ち上がる。やや上げ底で、底面には網代痕が残るが判然としない。外面は丁寧に撫でられている。

34. 深鉢底部。床直上。

端部は比較的鋭い。底面は平滑である。

35. 深鉢底部。覆土出土。底面中位欠損。

底部にしてはやや薄手の作り。端部は強い撫でによって削りだされている。

36. 深鉢底部破片。覆土出土。

開くように立つ。内外面とも丁寧に撫でられている。

37. 浅鉢底部破片。覆土出土。

外反するように立つ。端部は丸みを帯びる。

22号住居址 (159図1)

1. 深鉢。床面出土。胴部下半 $\frac{1}{2}$ 、底部残存。

底部端部は僅かに張り出し、やや厚めの器肉を呈す。円形の小貼付文を付し、地文にRL縄文を施す。縄文施文後撫でを加える。内面の器壁は荒れている。

21号住居址 (60図1～169図48)

1. 深鉢。覆土、40墳と接合。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

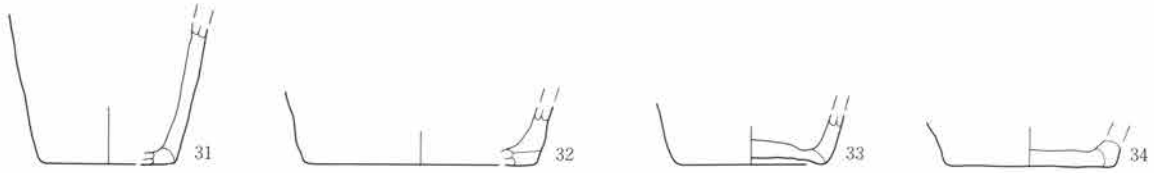
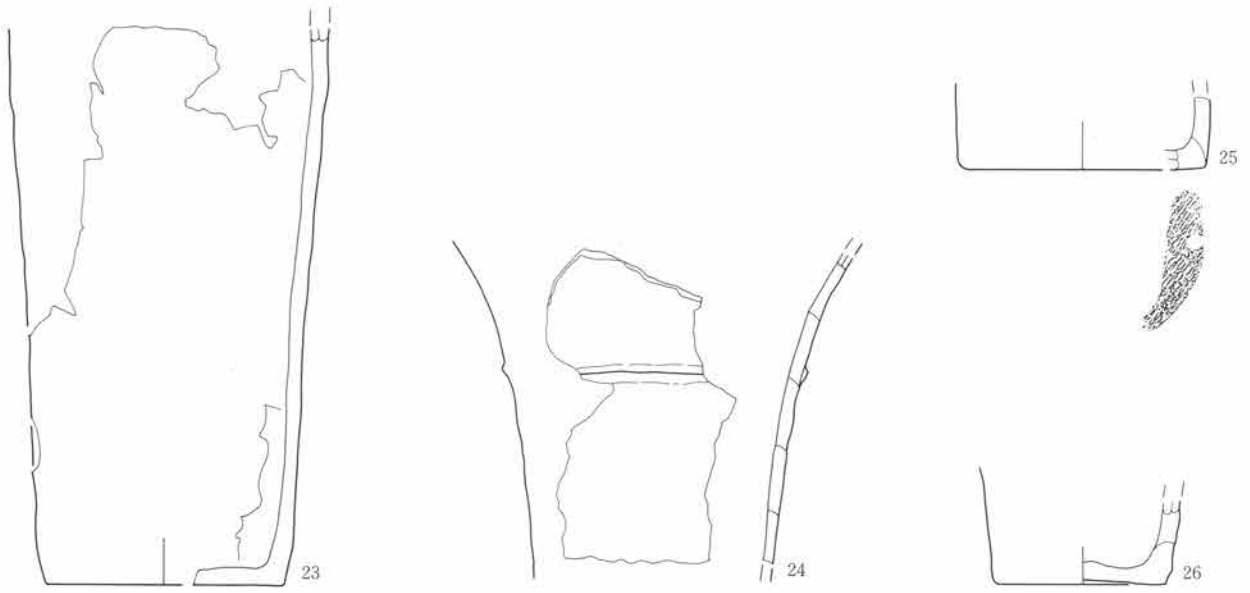
平縁を呈す。口唇部端部にペン先状の刺突文が連続する。口唇部は隆線を貼り付け丁寧に撫でられている。粘土紐を芯棒とした魚鱗状の突起には、棒状工具による太い刻みが施され、おそらくこの突起で口縁部文様帯を4分割するのであろう。口縁部文様帯は、1条のペン先状刺突文が沿い、同一工具で、波状文を連続させる。

2. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

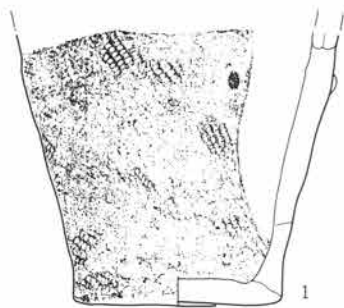
波状縁を呈し、波頂部は突起が付されるのであろう。突起は破損され全容は明らかではない。突起下に渦巻状の隆帯が付され、おそらく4単位を構成すると思われる。口縁部文様帯は、隆帯で垂直方向に分けられ、文様帯内は1本の結節沈線が小区画文を描出する。胴部は、Y字状の隆帯が垂下するが、他方隆帯ではなく1列の結節沈線がY字状に垂下する。胎土に多量の雲母を含む。

3. 深鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

平縁を呈す。口唇部は肥厚し、内面に稜を持つ。口縁部は極僅かに内彎し、胴部は若干膨らむ兆しを見せ



158図 20号住居址出土土器

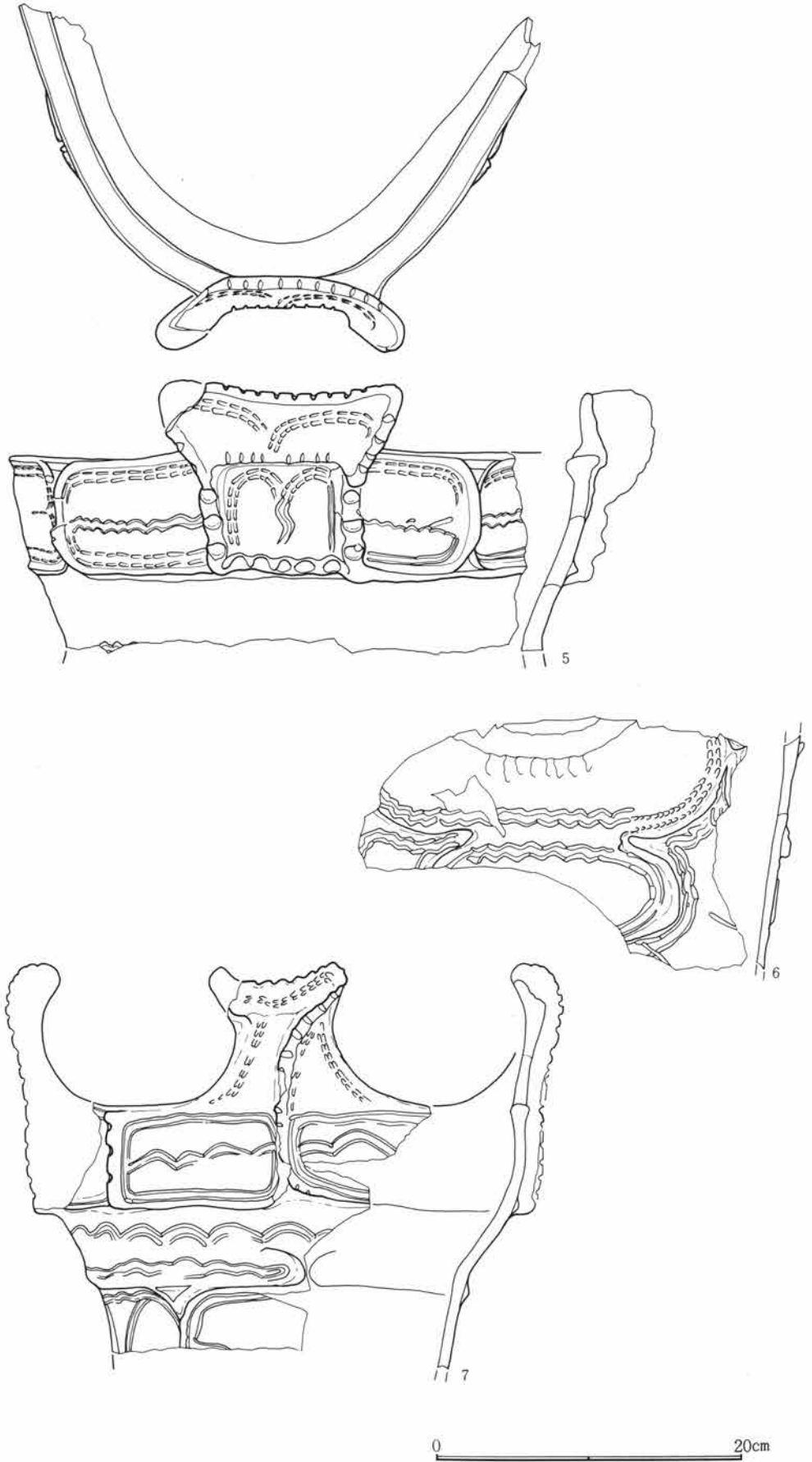


159図 22号住居址出土土器





160図 21号住居址出土土器



161図 21号住居址出土土器

るが全体に筒形を呈すのではなからうか。口唇部下に2本1組の結節沈線が巡り、鋸歯状文を描く。胴部は無文であるが、指頭押圧によるヒダ状圧痕が施される。

4. 大型の深鉢。床直上より押し潰されて出土。口縁部、胴部欠損。

刻みのある□状の突起が口縁文様帯を4区画し、区画内を2本1組の結節沈線が連続する。頸部文様帯は半截竹管による交互回転で波状沈線を横位施文する。やや、だれた施文である。頸部と胴部は断面三角の隆線で区切られ、粘土紐指撫でによるX字状の小突起を付す。胴部文様帯は、蛇行しながら垂下する隆線で区切られ、その間をばらつきのある横位刻み目列が施文される。横位刻み目列の一部は竹管状工具の小口断面の痕跡が看取される。

5. 深鉢。床直上。4と折り重なるように出土。口縁部欠残存。

大型の扇状把手を付した深鉢。扇状突起下は指による刻みを施した隆帯が平行して垂下し、□状の区画をなす。口縁部文様帯は、1条の隆線によって頸部と画され、X字状の隆線で半楕円状の区画が配される。おそらく突起間に2個配されるのであろう。扇状突起縁は深い刻みを施し、突起内には2条の結節沈線が対照的に施される。突起下の区画内は2条の結節沈線が沿い、中央で蛇行垂下する。X字状隆線で画された楕円状の区画内は、口唇、隆線に沿って2条の結節沈線が沿い、中位を同沈線が波状を描く。口縁は正円を取らず歪んでいる。

6. 深鉢胴部破片。覆土出土。

おそらく大型の深鉢であろう。器肉は薄い。波状に垂下する隆線とそれに沿う2本1組の結節沈線文、横位の波状沈線が施される。5と同一個体であろう。

7. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半欠残存。

扇状把手を持つ波状口縁深鉢。把手には2本1組の結節沈線が沿う。把手より弧状に延びた刻みを施す隆帯は口縁部を区画する隆線に接し、口縁部文様帯は波底部より垂下する小隆帯でも区画される。区画内は、2本1組の沈線で矩形を描き、矩形内は半截竹管による波状沈線が横走する。頸部には、上位に波状沈線、下位にX字状の隆線貼り付けと波状沈線が施される。

胴部は、Y字状の隆線が垂下しやはり波状沈線が沿う。

8. 大型の深鉢。床直上、40土壌と接合。把手欠、口縁～胴部欠損。

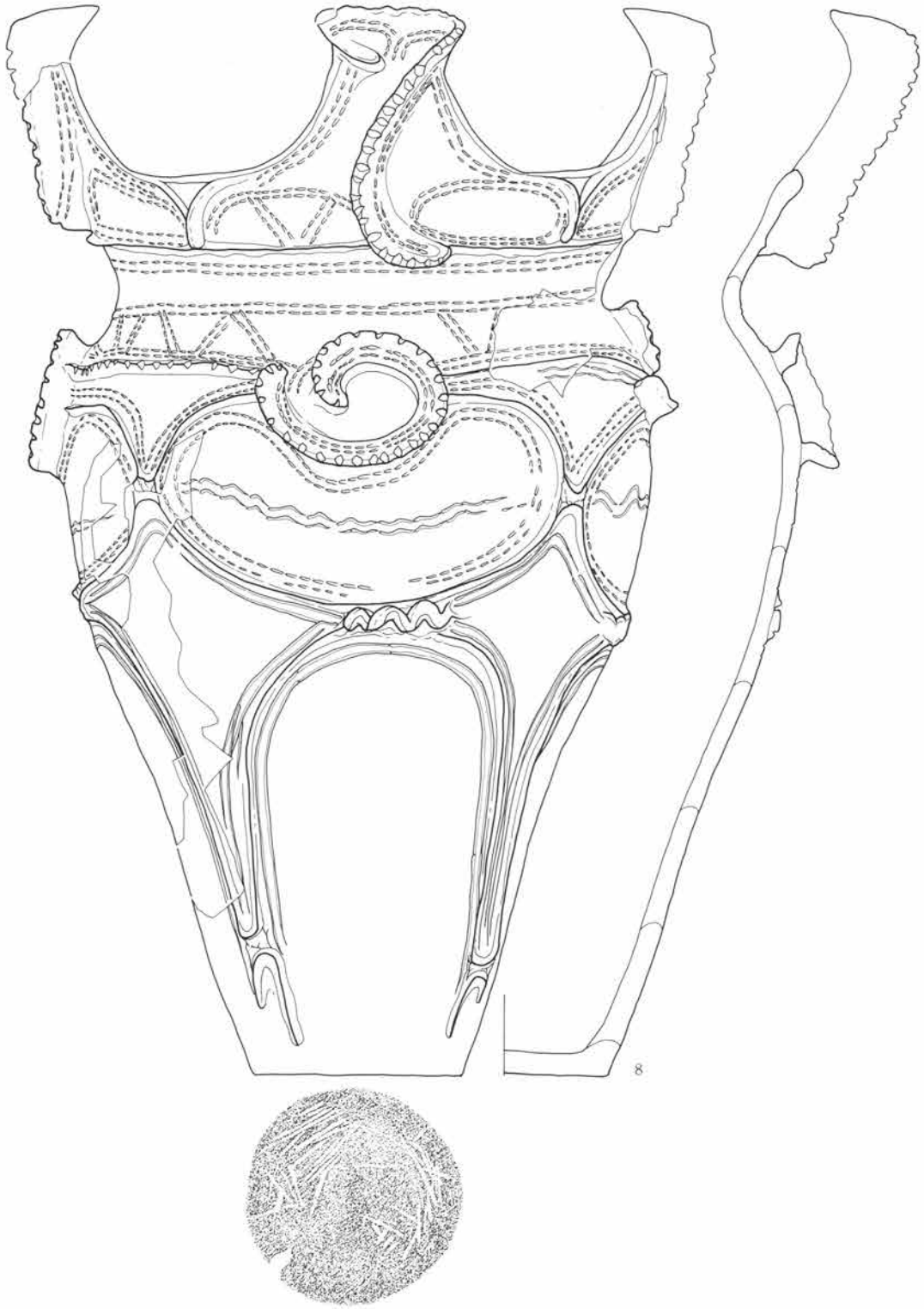
扇状の把手が4個配される。口縁部は外傾し、頸部で丸みを帯びて括れる。胴部上半で膨らみを持たせ、下半で著しくすぼまる。扇状の突起から、鼻高の隆帯が弧状に垂下し口縁部下端を巡る隆線と接し、口縁部文様帯を4分割する。さらに波底部口唇部より、V字状の隆線が貼り付けられ2分割する。区画内は、口唇部、隆帯に沿って2本の結節沈線が連続し、同様に楕円文を描く。頸部には3条の2本1組の結節沈線が巡り、2段の幅の狭い文様帯を設ける。上位の文様帯は無文である。下位の文様帯には、結節沈線による山形文が連続する。頸部と胴部文様帯の境には、大型の渦巻状突起が1個欠損しているが4個付せられる。渦巻状突起を1本の隆線が繋ぎ頸部と胴部を画している。胴部文様帯は、渦巻状突起下を巻くように隆線が楕円区画を作り、隣合う楕円区画と粘土紐撫でによって接続する。楕円の下は隆線によって∩状のモチーフを描き、∩の両下端とも隣合う∩と×状の撫でによる小突起で繋がる。楕円文と∩状モチーフとの接点は、粘土紐貼り付けによる小波状隆線で接続される。楕円文と∩状のモチーフが接続することによって生じた空間は逆三角と菱形の区画となる。区画内は、2条の結節沈線や沈線が沿い、楕円文内は2条の波状沈線が横位に施される。底面に網代痕。

9. 平縁の深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半欠、胴部下半欠残存、底部欠損。

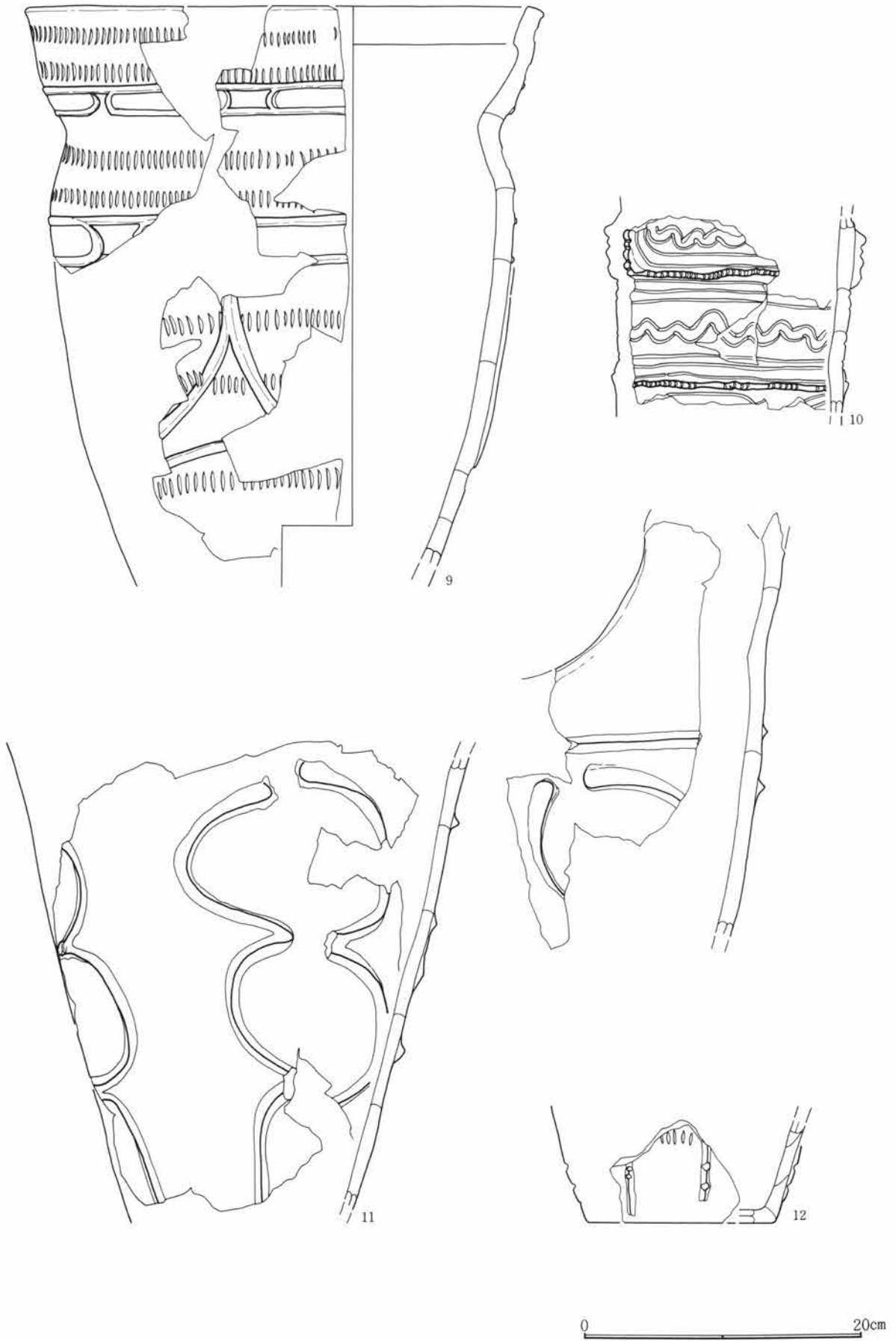
口唇部は厚く、平坦面を持つ。口縁部はやや丸みを持ち、頸部でゆるく括れ、胴部上半で膨らみを持たせる。口縁～胴部に幅広の爪形文が横位施文される。頸部上位、胴部上位において、細隆帯の楕円区画が配される。区画内は無文である。胴下半では細隆帯が弧を描きながら、分岐し、何らかのモチーフを描くと思われるが判然としない。全体に器肉が厚く、ポッテリした感がする。

10. 深鉢。覆土出土。胴部破片欠残存。

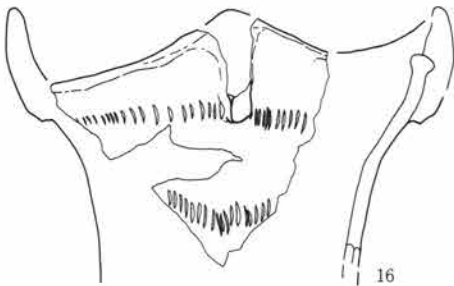
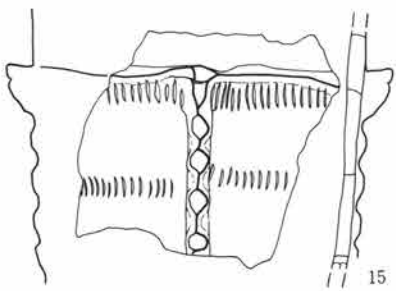
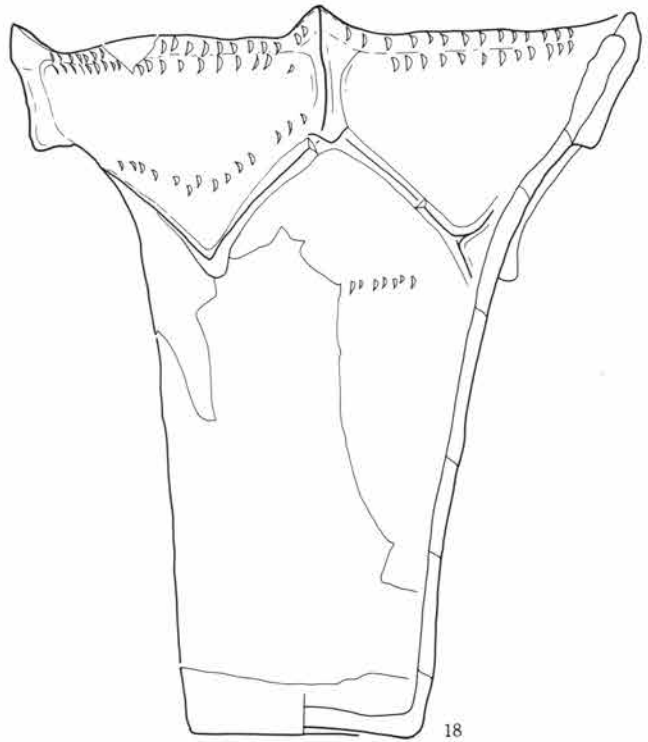
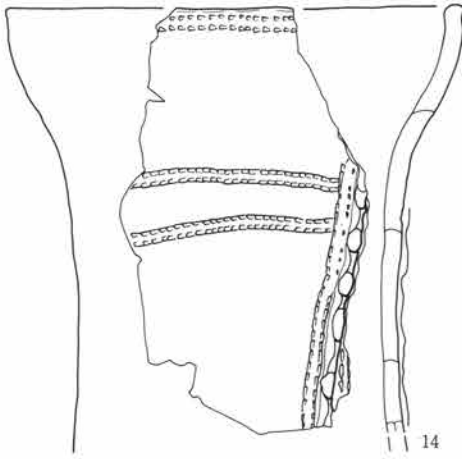
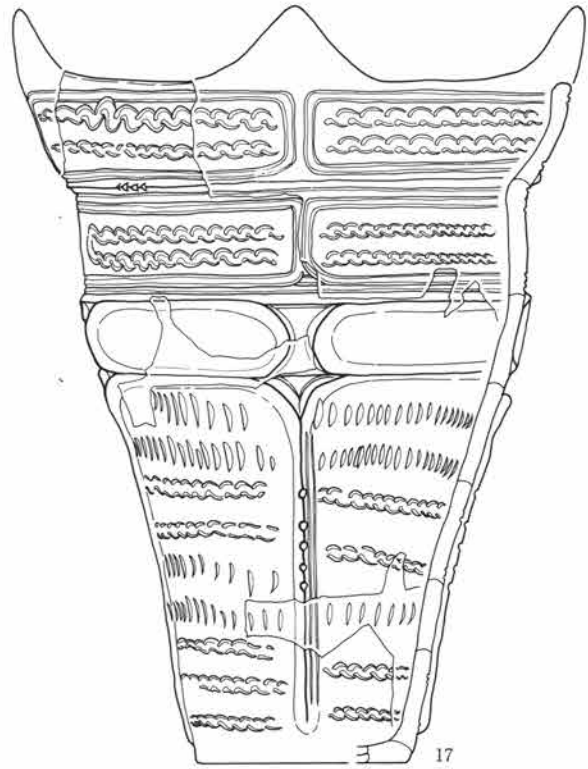
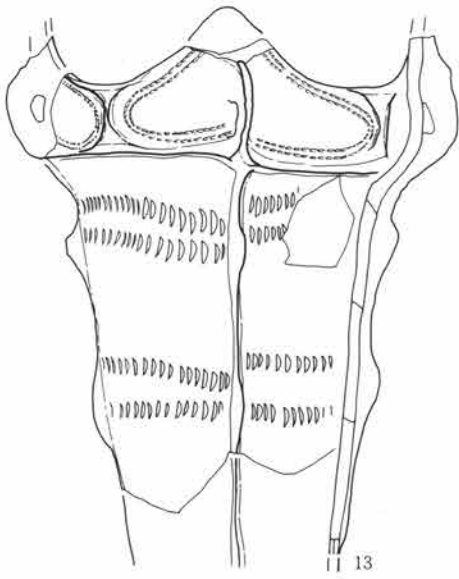
円筒形の胴部形態である。半截竹管による刻みを持つ隆帯が2条巡り、胴部を分帯する。少なくとも3文



162図 21号住居址出土土器



163図 21号住居址出土土器



0 20cm

164図 21号住居址出土土器

第IV章 遺構と遺物

様帯は確認でき、上段は垂下隆帯で区画され区画内は、半截竹管による2条の波状沈線文が施される。中段は、上段と同様な波状沈線文が巡る。下段は隆帯下に2条の弧を描く沈線が看取されるが、判然としない。また、Y・V字状の隆線が垂下する兆しもあり、何らかの区画がなされるのであろう。

11. 深鉢。覆土出土。把手 $\frac{1}{2}$ 、胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

復元実測。把手は富士山形の形態か。把手以下直線的に胴部にいたると思われる。頸部に1条の隆線が巡り、胴部と画する。胴部文様帯は、隆線が波状に垂下し、2本1組で対となり、3段の接続楕円を描く。

12. 深鉢底部破片。覆土出土。

底面は丁寧に削りだす。胴部から垂下した刻みをまばらに施す隆線と、幅広の刻み列が横位施文される。

13. 深鉢。床直上。口縁部 $\frac{1}{2}$ 、底部欠損。

山形の突起波頂部下に橋状把手を造る。突起、把手とも4単位配される。口縁部文様帯は隆線によっても区画がなされ、2本1組の細い結節沈線が、区画に沿う。胴部は、断面三角の隆線が垂下し、口縁部と同様に4単位区画する。区画間は、幅広の刻み目列が2条横位施文される。

14. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

平縁を呈す。口縁部は緩やかに内彎し、胴部はやや反り気味に落ちる。胴部に指押圧を施した隆帯が垂下し器面を数分割する。口唇部、胴部上位に2本1組の結節沈線が横位に施される。垂下する隆帯にも同様な沈線が沿う。

15. 深鉢。覆土出土。頸部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

頸部は無文のようである。頸部を巡る隆線が纏まり瘤状の突起となり、そこから指頭押圧された隆帯が垂下する。胴部は幅広の刻み目列が横位施文される。

16. 深鉢。覆土上層出土。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

つまみ状の突起を持ち胴部は幅広の爪形文が施される。つまみ状の突起は摩滅している。

17. 深鉢。覆土出土。口縁 $\frac{1}{2}$ 、底部 $\frac{1}{2}$ 、胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部は現存部では平縁に近いが、口唇部の形態から波状口縁—おそらく山形の突起を持つと思われる。口縁部文様帯は、平行沈線、細隆線によって2段に分けられ、おそらく矩形に区画されるのであろう。区画

内は、半截竹管による交互回転で波状沈線を描きだす。胴部上半は粘土紐貼付け後撫でて造りだした楕円状の区画が配される。胴部文様帯は、垂下するY字状の隆線によって4単位に区画される。区画内は、波状沈線、幅広の爪形文が横位に施文される。各区画を構成する隆線の所々には、竹管による刻みがまばらに施される。

18. つまみ状突起を持つ深鉢。覆土出土。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損。

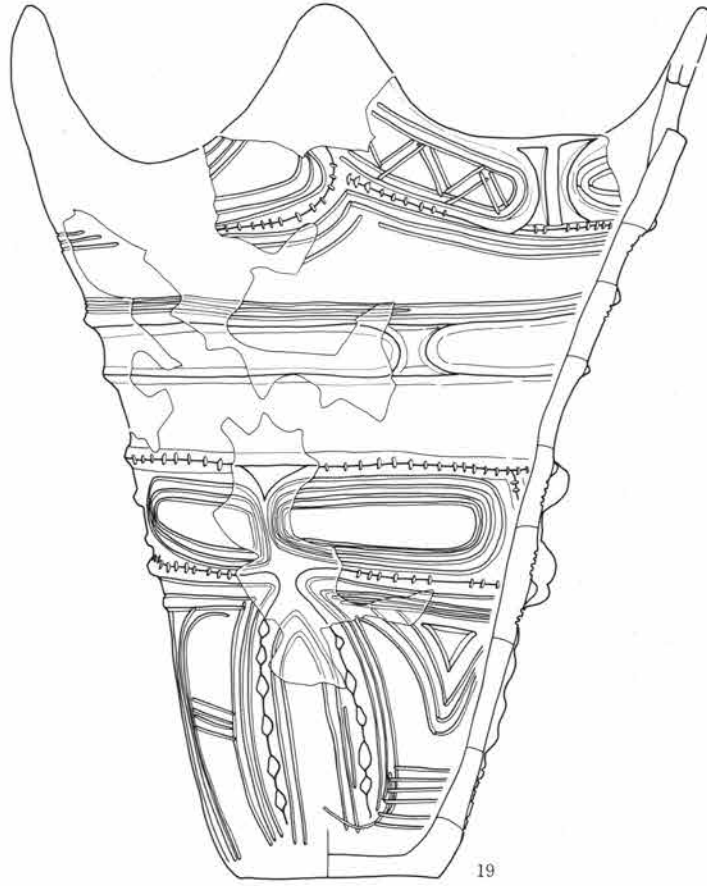
つまみ状突起は、粘土紐を芯棒とし口縁上に小突起となって4単位配される。突起下に延びた隆線は胴部に至り、逆三角形を描き各突起を結ぶ。三角形の頂点よりやはり隆線が延び、弧を描くが欠損部にあたるため全容は判然としない。口唇部下、胴部には、まばらな爪形文が施される。器面はざらついている。

19. 大型の深鉢。床面出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 、胴部 $\frac{1}{2}$ 、底面 $\frac{1}{2}$ 欠損。

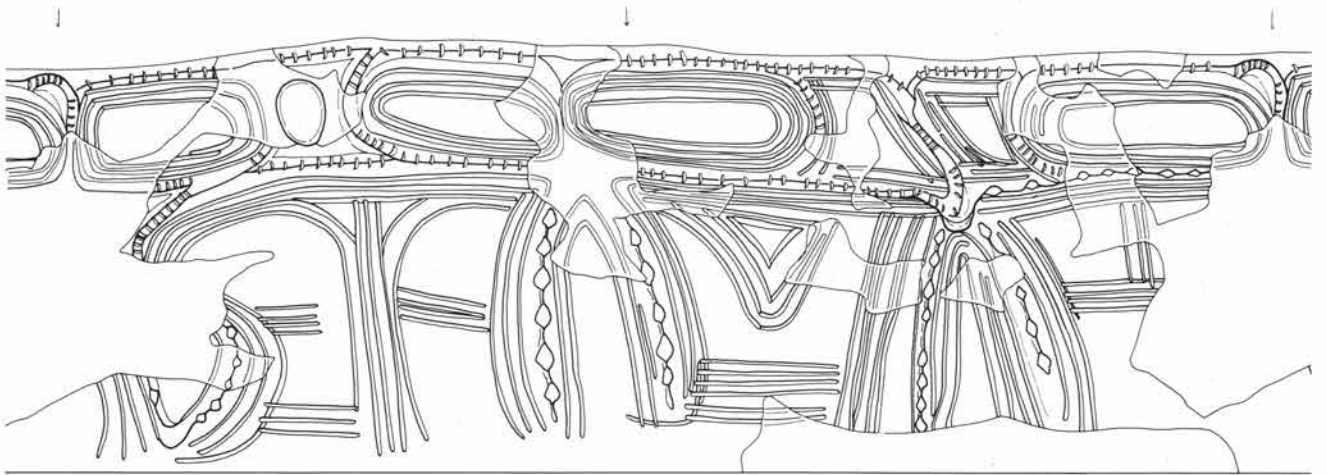
波状口縁を呈し、突起（山形？）を4個配するのであろう。口縁部は、僅かに内彎し、胴部は直線的に底部にいたる。突起より垂下する隆帯が分岐し、刻みを持って頸部を巡る。突起より垂下する隆帯によって口縁部文様帯は分割され、区画内を更に隆線で楕円状に小区画する。区画内は、半截竹管による2・3条の沈線が沿い、同沈線で山形のモチーフを描く区画もある。頸部上位は無文帯であり、下位は2条の隆線によって横帯区画され、区画内をX字状の隆線で長楕円区画すると思われる。胴部上半で再度無文帯を設け、下半～底部に2文様帯を設ける。上位の文様帯は2本の刻みを持つ隆帯で画される。文様帯内は、隆線による楕円区画が基調となるが、瘤状の突起、円形突起の貼り付けなどで非対照的な単位構成をとる。下位の文様帯は幅広い、 \cap 字状に垂下する隆線2とY字状に垂下する隆線1が認められ、3単位の構成を取る。 \cap 字状の隆線の上端は瘤状の突起となる。隆線の両脇、空白部には3・4条の沈線が施される。口縁～胴部上半は脆弱である。

20. 深鉢。床面出土。底部欠損。

口縁部はやや外傾し、胴部は凹凸がありながらも直線的に落ちる。口唇部には、指頭による刻みが施され、胴部にはやはり刻みを施した隆線が貼り付けられる。



19



0 20cm

165図 21号住居址出土土器

第IV章 遺構と遺物

図正面の隆線は、Y字状に垂下するが、反対面は大きくU字状のモチーフを描く。Uの両端は、外へ巻く。反対面の隆線に沿って浅く細い沈線が雑に施され、Uに囲まれた区画内は垂下する数条の沈線で2分割され、右側は更に小区画し、左側は2条の幅広沈線で、渦巻状のモチーフを描く。

21. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 、底部欠損。

口縁部は内彎し、頸部で括れ、胴上半に膨らみを持たせるキャリバー形の深鉢。口縁部文様帯は、振りを加えた突起をアクセントとして隆線による三角枠状文の交互配列が構成される。枠内は、小型の半截竹管文が隆線に沿い、三叉文などが沈刻される。頸部には、半截竹管による平行沈線が2・3条巡る。胴部の文様帯は沈線と細隆起線が弧状に延び、沈線で画された小区画内は、三叉文や鋸歯状文が沈刻される。胴部は凹凸が少ない。

22. 深鉢口縁部破片。覆土出土。

欠損するが、口唇部は外傾し、口縁部は内彎する。三角枠の交互配列で、枠内にはペン先状刺突文が丁寧に沿い、中央には、三叉文や円形の刺突文が沈刻される。三角枠の上位には円環状の突起に発達する高まりが見られる。胎土は緻密。

23. 深鉢。覆土出土。口縁下位～頸部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部文様帯はおそらく三角枠の交互配列であろう。下端の三角枠の一端には、沈線を斜位に平行させた瘤状小突起を付す。枠内は、大きめのペン先状刺突文が沿い、三叉文などが沈刻される。頸部はペン先状刺突文と幅広の半截竹管文が2種類、横位施文される。胴部上半にかけての文様は判然としませんが、ペン先状刺突文の動きから、波状文が描かれるのであろう。

24. 小型の深鉢。覆土出土。胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

直線的に落ちる胴部形態を呈す。1条の幅広の隆帯で横帯文区画する。隆帯には指頭による押圧文が施される。横帯文区画された中を、更に小型の半截竹管文を刻んだ隆線と数条の沈線で分帯し、多段の文様帯が重畳すると思われ、3段の文様帯を観察する。上位の文様帯は無文である。中位の文様帯は、半截竹管による平行沈線を4条巡らし、最下位に小型の半截竹管文を沿わせる。幅広の隆帯を挟んで下位の文様帯は、平

行沈線による平行四辺の区画が配されるようである。区画内は半截竹管文が沿う。器面は荒れており、やや脆弱な土器である。

25. 深鉢。覆土出土。胴下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

2条の隆線を巡らし、隆線に沿ってアナガラ属の貝殻背圧痕が連続する。中位には同一の貝殻による刺突文が横位施文される。

26. 深鉢底部破片。覆土出土。

なだらかに丸みを帯びて立ち上がる。3条の平行沈線が横位施文され、それを切るように斜位の沈線が施される。

27. 深鉢底部破片。覆土出土。

底部上端で張り出す小型の器形。器肉は薄い。胴部下半に1条の細隆線が巡り、両脇を幅広の半截竹管文が沿う。また隆線に平行にペン先状刺突文が施される。

28. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{2}$ 残存。

底部端部は隆線貼り付による楕円枠の配列であろう。隆線によって、底部端部は突出する印象を受ける。胴部文様帯は、垂下隆線によって分割され、小型の半截竹管文、深い沈線が区画内に施される。また区画内におそらく三叉文などの沈刻文が彫りだされるため、器肉が薄い箇所がある。

29. 突起。覆土出土。

双環状突起が発達した大型の嘴状の突起。縁辺を半截竹管による刻みで飾り、突起下位から隆線が派生する。隆線の脇には、ペン先刺突文が沿う。

30. 小型の深鉢。床直上。胴部下半～底部残存。

直立する胴部形態だが、極僅かに膨らむ。無文でやや軟質な胎土である。

31. 深鉢。覆土出土。頸部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

隆帯が波状に4単位の波頂部を持って巡るのであろう。隆帯の断面は三角に近い。

32. 深鉢底部破片。覆土出土。

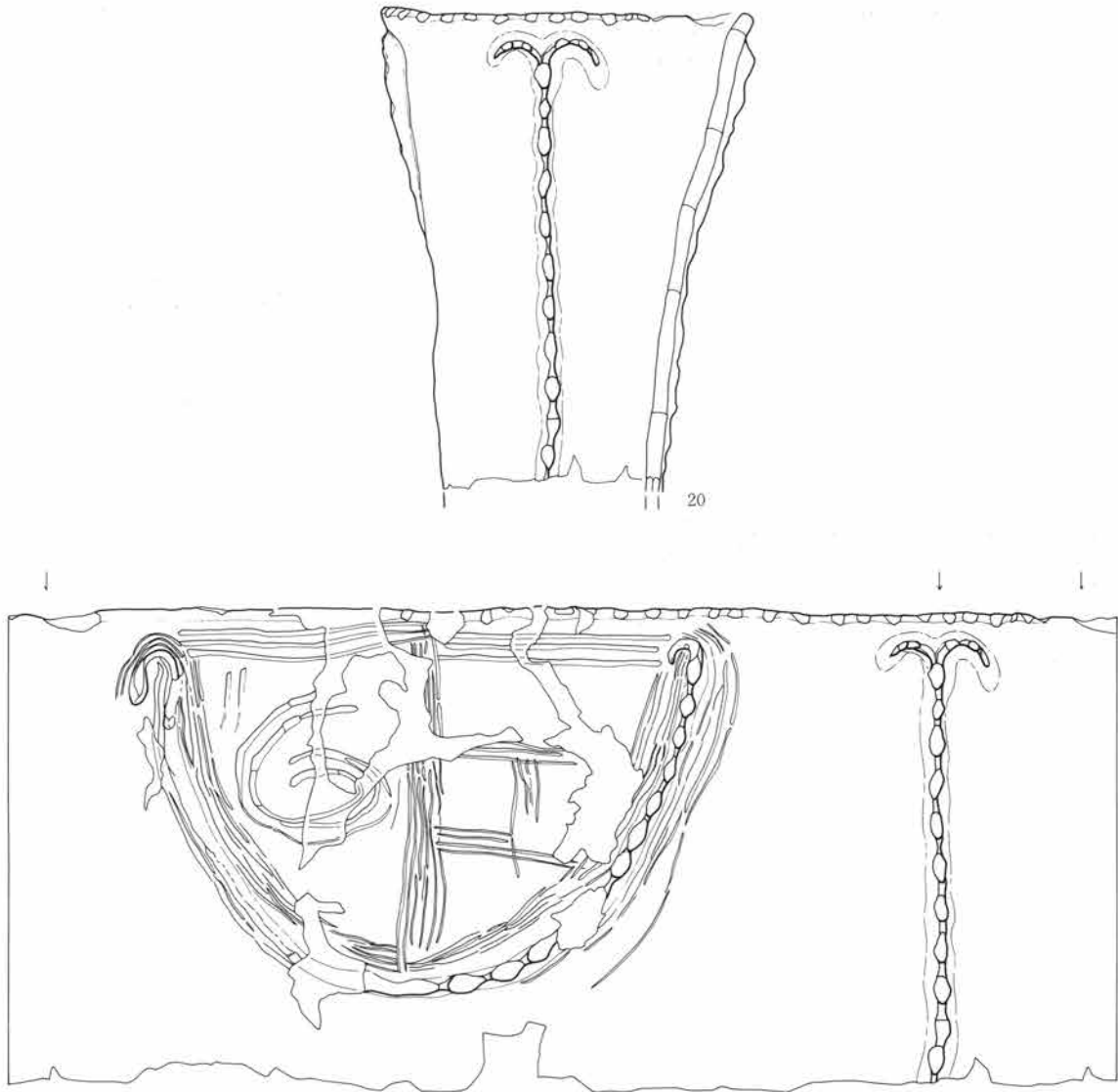
緩やかに開く。底面に網代痕残存。

33. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

立ち上がりは僅かに内傾する。胴部の器面は凹凸があり、底面は撫でにより平滑である。

34. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{2}$ 残存。

底面の器肉は薄く、内面において肥厚する。底部端

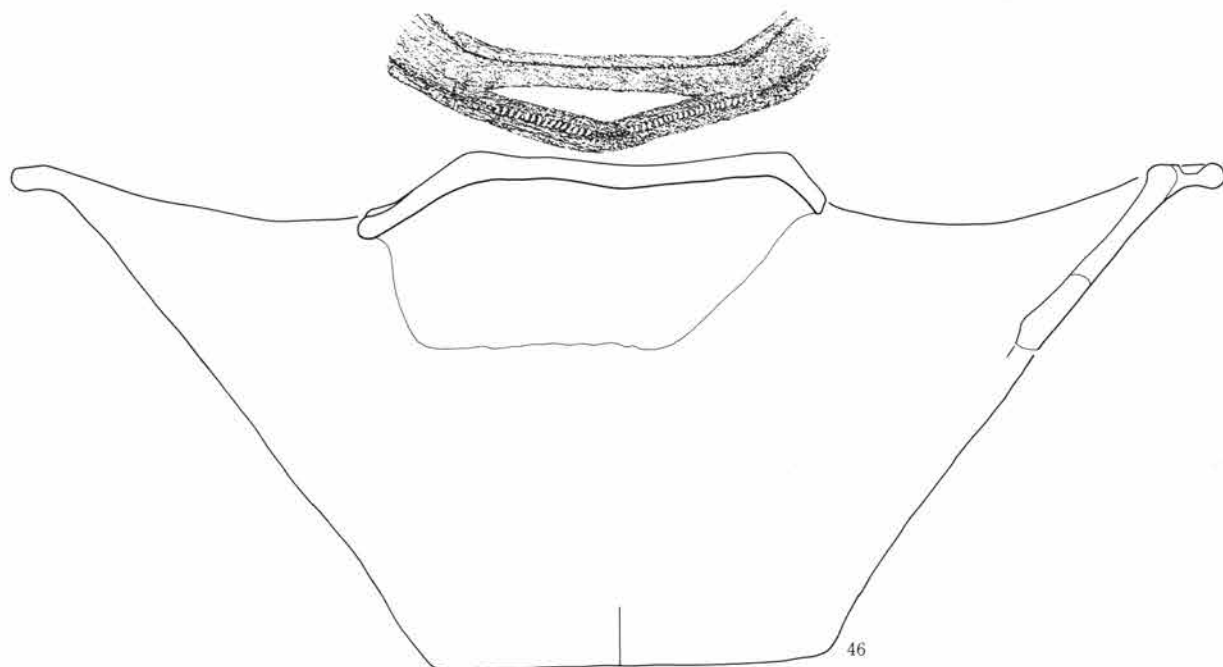
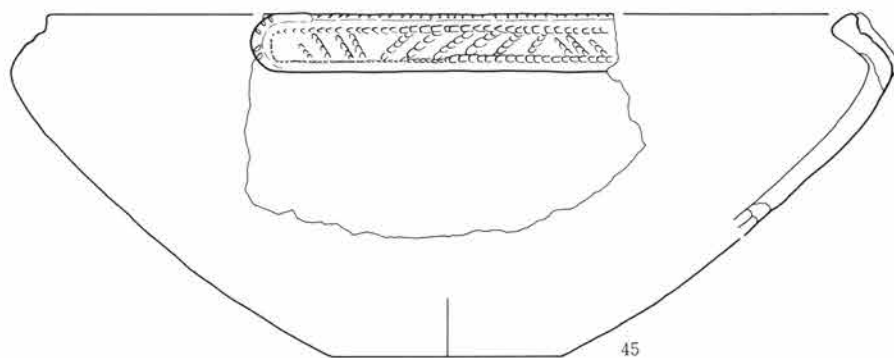
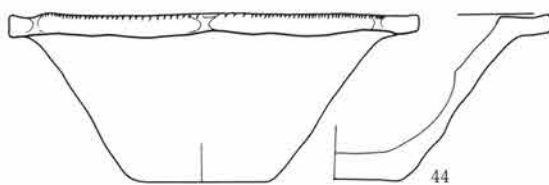


166図 21号住居址出土土器





167図 21号住居址出土土器



0 20cm

168図 21号住居址出土土器

第IV章 遺構と遺物

部は丸みを帯び、若干開き気味に立ち上がる。底面は平滑。

35. 深鉢底部。覆土出土。1/4残存。

若干開き気味に立ち上がる。腰部にかけて刺突状の凹凸が看取されるが工具の当りか。

36. 深鉢底部。覆土出土。1/2残存。

僅かに丸みを帯びて立ち上る。底面は平滑である。

37. 深鉢底部破片。覆土出土。

開き気味に立ち上がる。底面は平滑だが端部に凹凸が見られる。

38. 深鉢底部。覆土出土。1/2残存。

器肉が厚く、ポツペリした感じ。直立する胴部形態を呈し、端部は丸みを帯びる。底面は平滑で研磨している。

39. 深鉢底部破片。覆土出土。

一部に胴部破片接合。無文。底面は平滑だが、内面は中央が盛り上がる。

40. 深鉢底部破片。覆土出土。

丸みを帯びて立ち上る。RL縄文が端部にまで施される。

41. 深鉢底面のみ残存。

丸みを帯びる端部だが判然としない。内面中央は盛り上がる。

42. 深鉢底部破片。覆土出土。

直立する立ち上がり。横位、斜位の集合沈線が充填される。

43. 浅鉢底部。覆土出土。1/4残存。

体部の器肉は薄い。外面は雑な調整だが、内面は丁寧な撫でを施す。

44. 小型の浅鉢。床直上出土。口縁～底部1/4欠損。

口縁部は5単位に突出し、口唇部に刻みを施す。口縁部は丸味を帯びた平坦面を造りだし、内面体部中に稜を持つ。特殊な用途を想起させる浅鉢である。

45. 浅鉢。覆土出土。口縁～胴部1/4残存。底部欠損。

口唇部に刻みを施し、隆線を \cap ・ \subset 字状に貼り付けることによって楕円に区画するのであろう。口縁部文様帯内は、半截竹管による押し引きで楕円区画に沿い、空白部を同一工具で斜位に連続する。口唇部の上端一部に赤色塗彩の痕跡が残る。体部内外面とも磨いてい

るが、内面の器壁はやや荒れている。

46. 大型の浅鉢。覆土出土。口縁～体部上半1/2残存

富士山形の大型突起をおそらく4単位持つ浅鉢。口縁部内面は平坦面を持ち、三叉文を施す。

47. 大型の浅鉢。床直上、40土壇と接合。口縁部1/4欠損。

口径62.0cm、器高32.6cmを測る大型の浅鉢である。縁辺に刻みを持つ橋状把手を4単位付すのであろう。口縁部は内傾し、2列の結線沈線が口唇部に平行する。また同一の結線沈線が斜位に連続する。

48. 深鉢底部。胴部下半～底部残存。

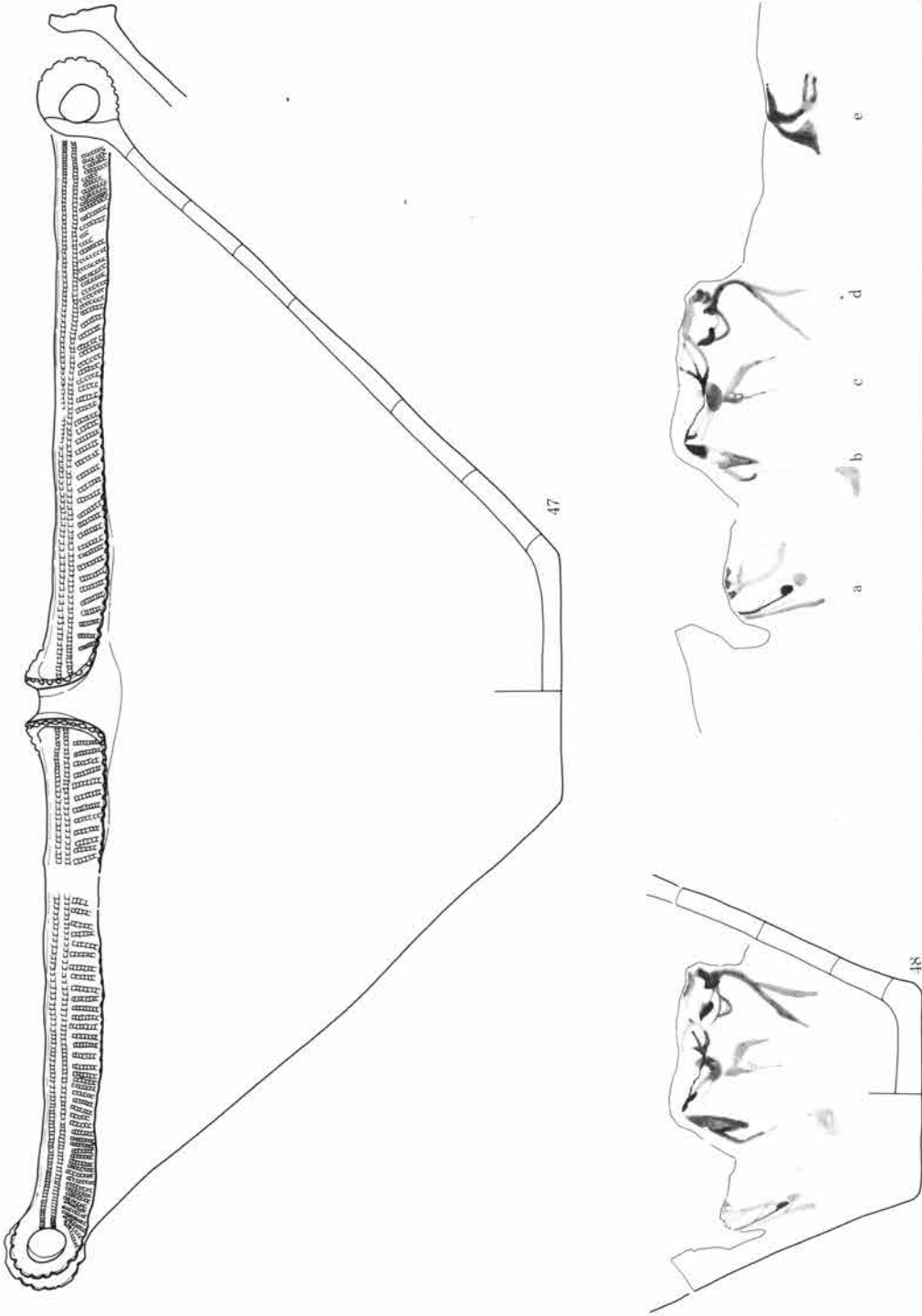
開き気味に立ち上がり、器肉は厚い。内面の器壁は荒れている。彫塑的な文様は施していない。しかし、黒色のシミ状の筋があきらかに看取できる。黒色のシミの成分は確認していないが、焼成、木根を生因とするには、黒色の濃淡が意識的であり人為によって描かれたものと考えられよう。おそらく、焼成後描かれたものであろうが、顔料の一部は器肉に浸透している。描かれたモチーフを個々に観察すると2種の解釈が可能である。

①. 非常に動的な人体状のモチーフが4個判読できる(図中a・c・d・e)。aは、上端を欠失しているが、腰を折り曲げ、cは両手を挙げ、dも腰を屈める動きであろうか。eは人体には見えないが、うづくまり、祈りを捧げる静的な動きとも見えよう。

②. b・c・dを1体のモチーフとして、立位出産のポーズの下半と解釈することも可能である。

絵画とするにはあまりにも稚拙な表現であり、例えば洞窟壁画のタッチにも共通項が見出せよう。アフリカ、ヨーロッパなどの壁画の人動物には側面像が目立つが、縄文時代中期の土器に描かれる抽象文は比較的正面像が主に採用されるようである。①の解釈は側面像としての解釈であり、より絵画的に捉えられよう。②の解釈は該期の土器文様構造と同様な意識解釈であり、文様として捉える解釈である。ただ、該期の抽象文に見られる歪曲された写実主義的な文様描出技法とは趣を異にするようである。土器文様の位置する意識レベルでは解釈が困難である。

この種の“絵画”を施した土器は、本例の他に長野県



169图 21号住居址出土土器

富士見町唐渡宮遺跡出土の曾利式土器に描かれた“分婉”のポーズに例があるだけである。このように、類例資料に乏しく、また、顔料、筆などの工具の推定など不明な部分が多いが、我々が該期の絵画の存在を否定しない限り、この種の資料は“原始絵画”として取り扱わなければならないであろう。ともあれ、本例は出土状態も併せて再考する必要がある。

40号土壇(170図1～173図18)

1. 深鉢。21住覆土と接合。口縁部 $\frac{3}{4}$ 欠損。

波頂部の突起は山形状の突起か。垂下する鼻高状の刻みを持つ隆帯で区画され、区画内を撫でによる隆線により2分割し、楕円状の小区画をなす。区画内は、2列の結節沈線が沿い、斜行沈線が充填される。頸部は幅が狭く口縁部・胴部の境は、隆帯によって分けられる。突起下より垂下した隆帯が延長し、口縁部文様帯と同様な分割をする。隆帯の内側は結節沈線が沿う。胴部上端は隆帯下に波状沈線が横走り、胴部は垂下する2本の隆線によって4単位構成をとる。隆線の他の1本は垂直には落ちずに波状、ないしはクランク状に落ちる。隆線に沿って浅い沈線が沿う。

2. 深鉢。21住と接合。口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

口唇部に平坦面を持ち、口縁部はラップ状に開き、胴部は直線的に落ちる。口縁部は無文で、1条の頸部隆線が巡る。頸部隆線より鼻高の隆帯が2本分岐するが、頸部隆線との接点は橋状把手となるのであろう。橋状把手は1個のみである。胴部文様帯は隆線が垂下、蛇行し区画を構成すると思われる。区画内は、半截竹管による沈線が沿い、小型の半截竹管文、棒状工具の刺突文が連続する。胎土に多量の砂礫を含み、器面も荒れている。

3. 深鉢。壙底より出土。口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

波状口縁の波底部。口縁部は内彎し、頸部は緩く屈曲する。口縁部文様帯は頸部隆線で画され、V字状の貼り付けで区画される。波頂部が山形の凸状の区画を呈するのであろう。口唇部には刻みが施され、区画内は半截竹管状工具による結節沈線が区画に沿う。頸部には、平行沈線による波状文が横位施文され、頸部と胴部の境には細隆線が横走り小突起を付す。細隆線の両脇を複列の結節沈線が沿う。全体に器肉は薄

い。

4. 深鉢口縁部～頸部。壙底直上出土。把手3個残存。

扇状把手を中心として、鼻高の隆帯が垂下し頸部隆線に接す。口縁部文様帯内は2本1組の結節沈線が区画に沿い、同様の結節沈線が把手頂部に施される。

5. 深鉢。壙底出土。胴部下半～底部欠損。

突起を4単位付し、口縁部は内彎する。口唇部には刻みを有し、突起下には粘土紐を振り、刻みを加えた鼻高状の突起が付けられる。胴部は無文。やや軟質な土器である。

6. 浅鉢口縁破片。覆土出土。

口唇端部は若干突出する。内稜を持ち、内外面とも磨きが施されるが、外面は凹凸が目立つ。

7. 深鉢底部破片。覆土出土。

やや開き気味に立ち上がる。垂下隆線と沈線の末端が看取される。

8. 器台破片。覆土出土。

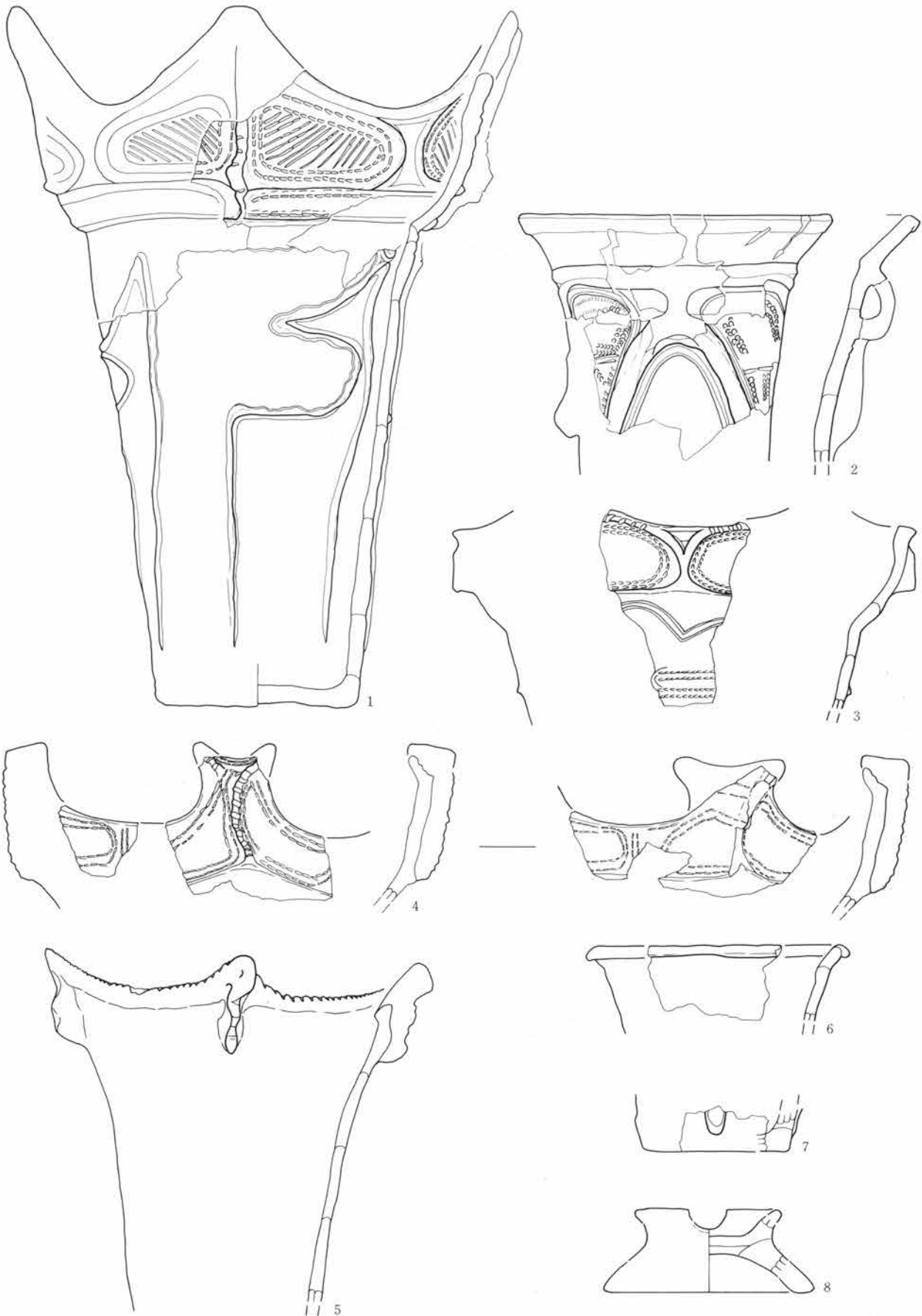
体部と脚部端部が欠損する。小型で、体部は椀状である。半円形の孔を穿つ。

9. 深鉢。壙底直上出土。口唇部の突起・口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 欠損。

胴部上半に橋状把手を2段重ねる深鉢。口唇上に大突起が付されるのであろう。口縁部文様帯は隆帯で区画される。隆帯は口唇部に突出し、小突起となる。口縁部文様帯の区画は楕円状を呈し、半截竹管による平行沈線、小型の半截竹管文が区画内を沿い、空間は棒状工具による刺突文が充填される。頸部を巡る隆帯も山形に突出する。大突起からは、隆帯が垂下し、前述の胴部中位の橋状把手に接続する。橋状把手の下端は分岐し2股の隆線が垂下する。裏面は断面幅広の隆帯がU字状に垂れ下がり、下端はY字状に垂下する。隆帯の両脇は、半截竹管による沈線が2～4条沿う。裏面のU字状の区画は、平行沈線と、棒状の刺突が施される。その他の空間は3段に分帯され、1・2段は弧を描く平行沈線と棒状刺突、最下段は細沈線を格子目に充填する。

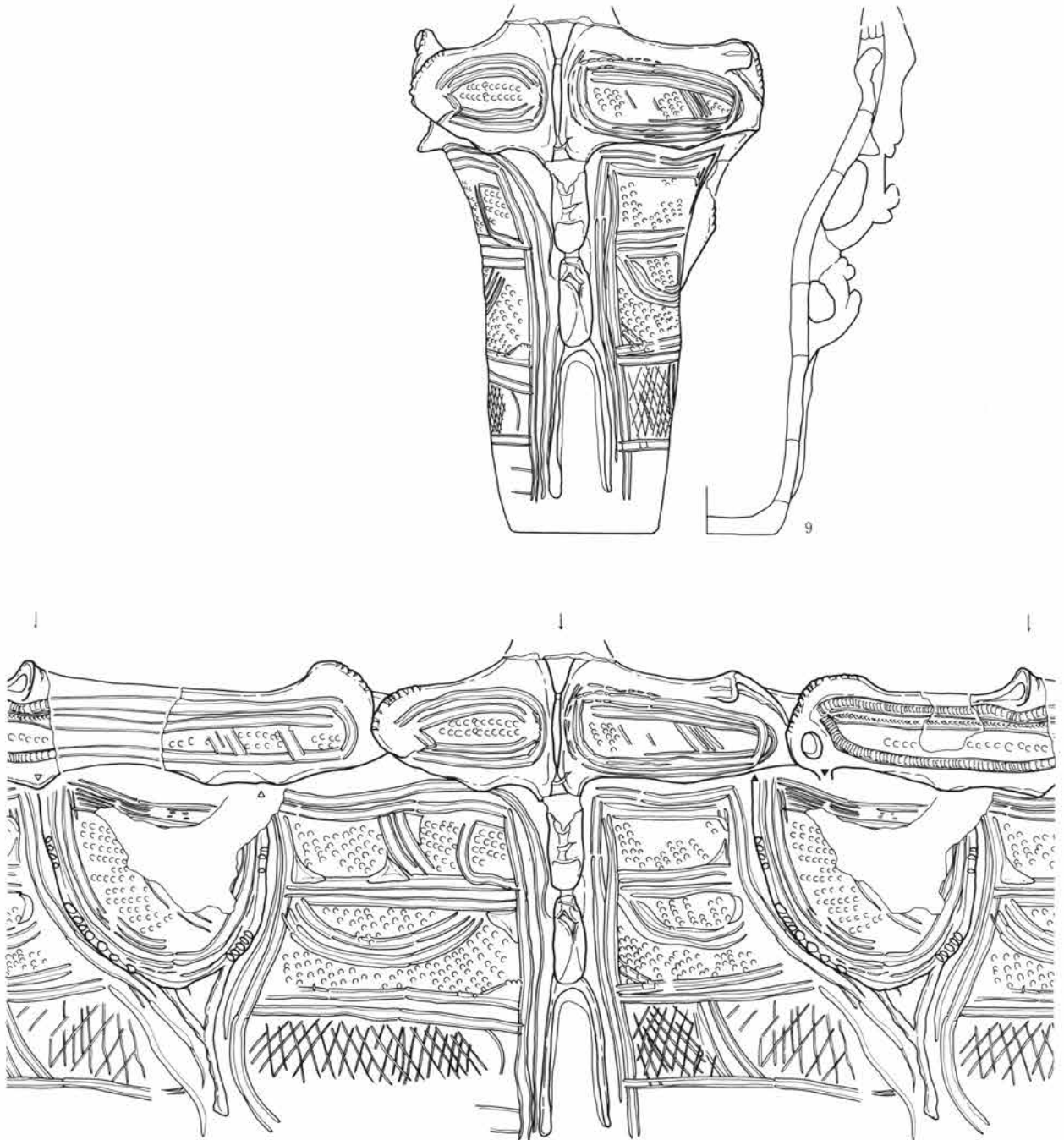
10. 大型の深鉢。壙底直上出土。扇状把手4個のうち2個を欠損。

頸部中位で括れ胴上半で膨らみを持たせる。扇状把



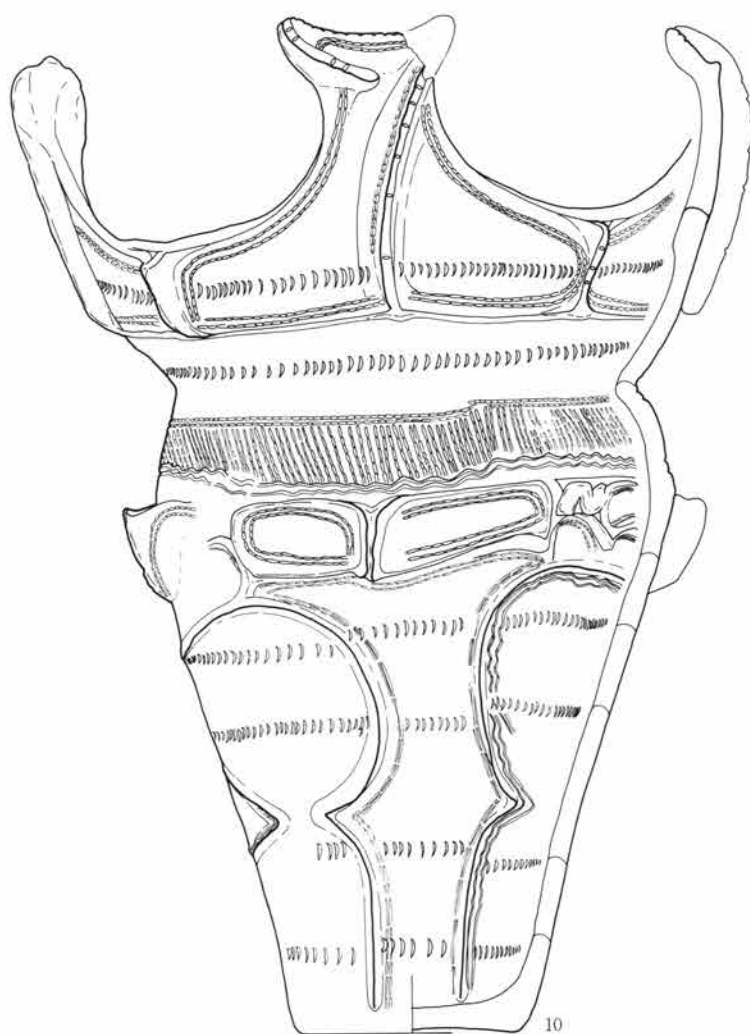
170図 40号土壇出土土器

0 20cm



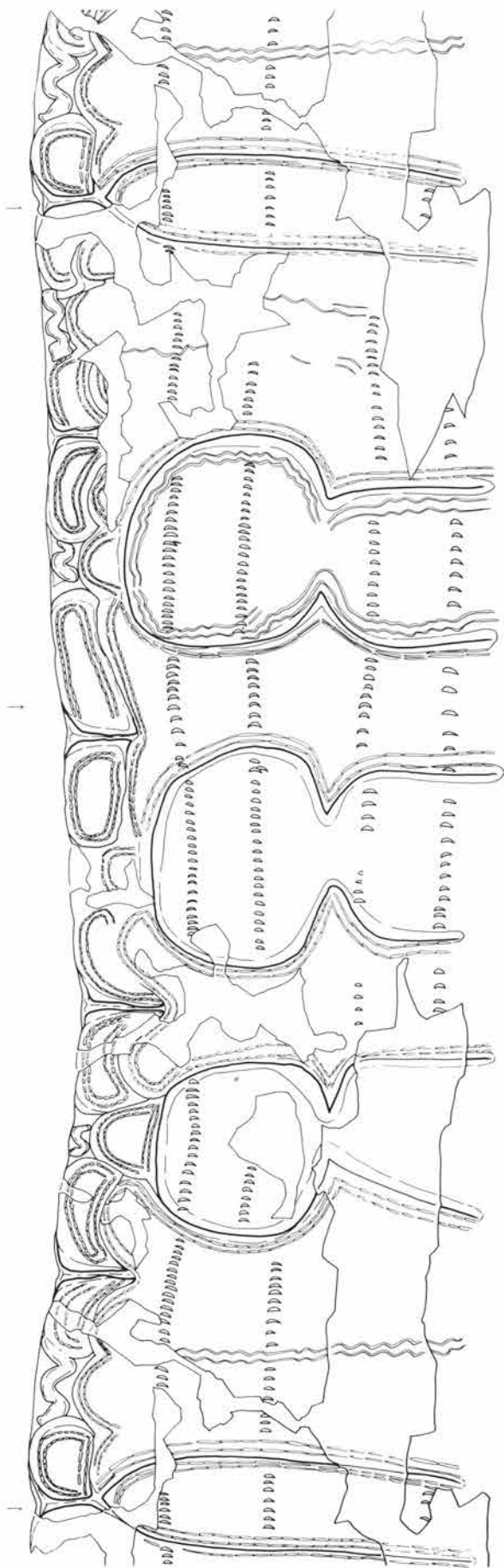
0 20cm

171図 40号土壇出土土器

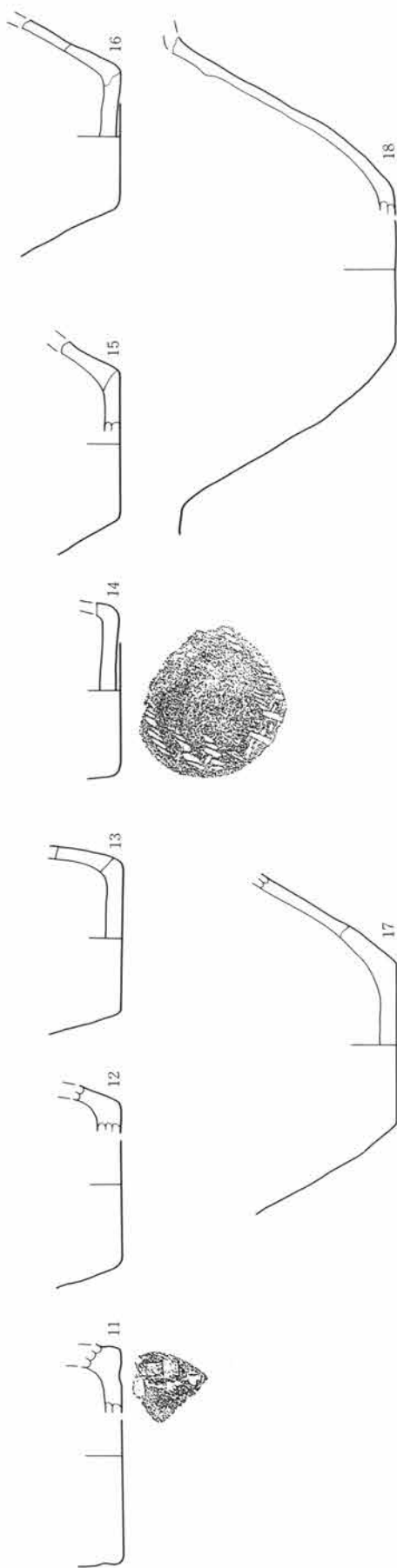


0 20cm

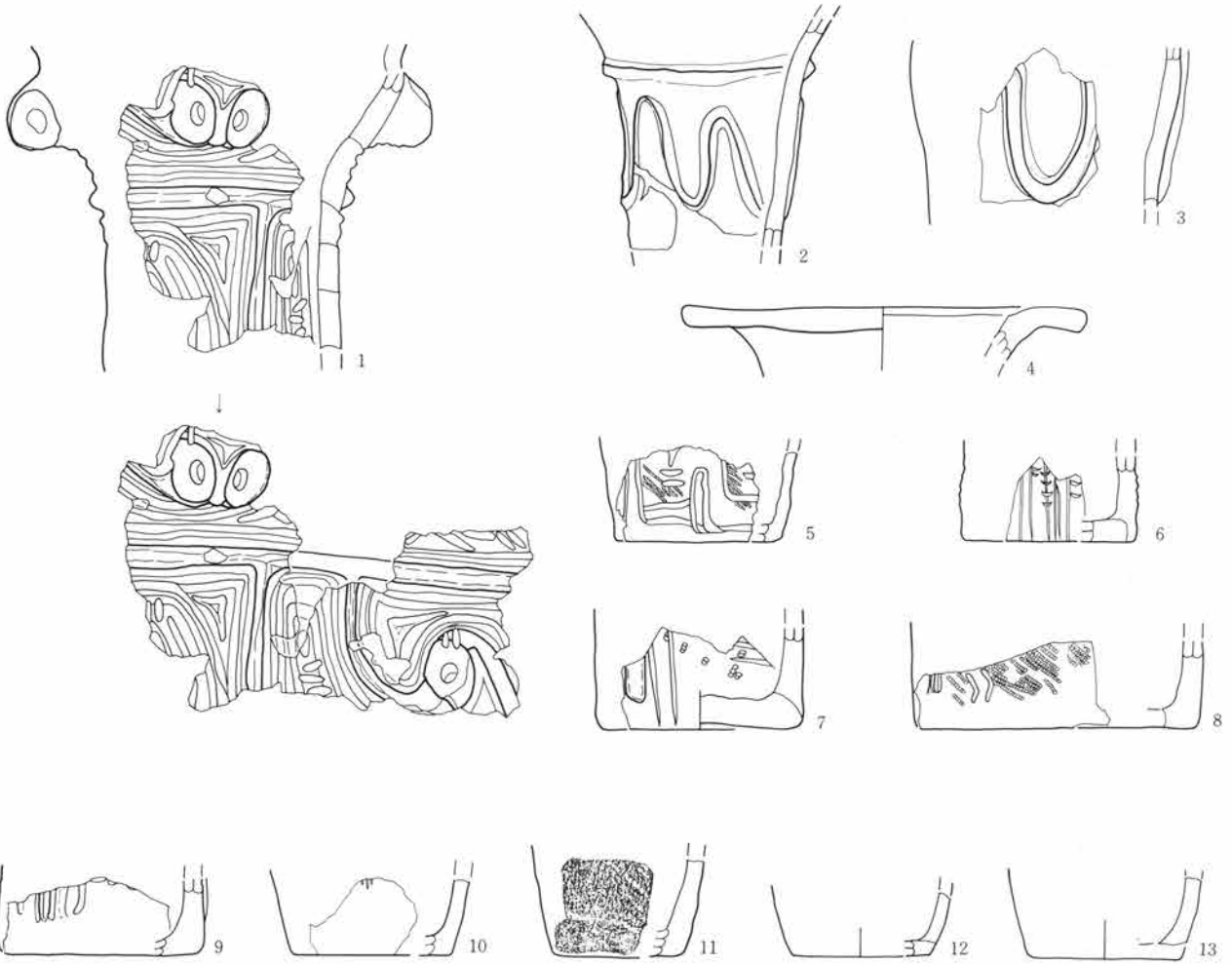
172図 40号土壇出土土器



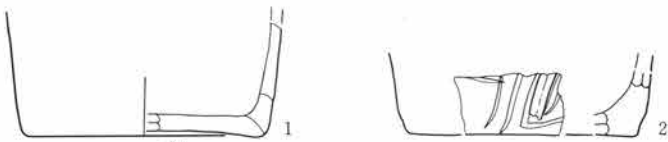
10



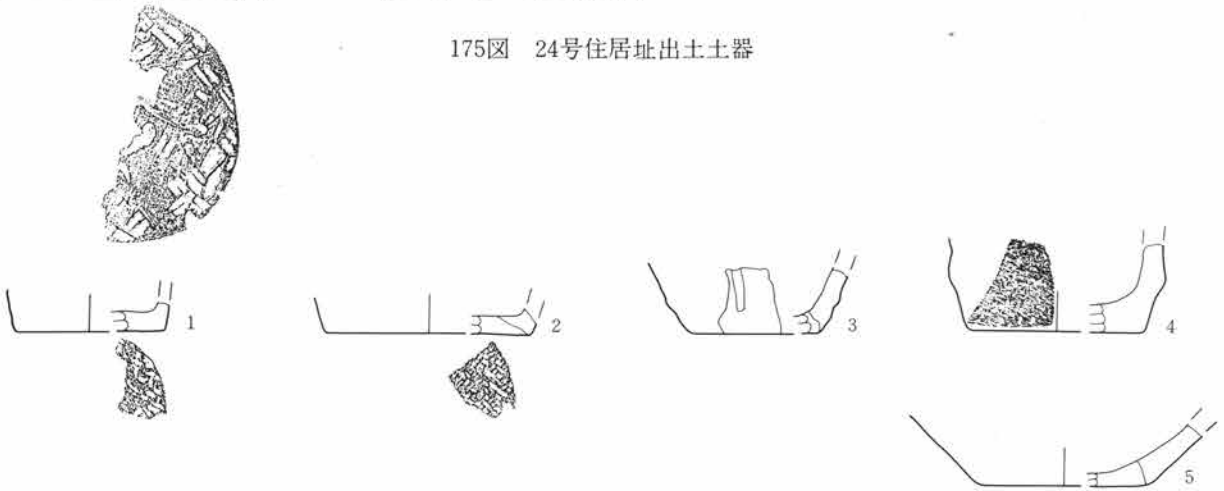
173図 40号土坑出土土器



174図 23号住居址出土土器



175図 24号住居址出土土器



176図 25号住居址出土土器

0 20cm

第IV章 遺構と遺物

手より垂下する隆帯は頸部隆線と接し口縁部文様帯を4分割する。分割された区画内はさらに小突起によって2区画され、口唇部・隆帯・隆線に沿って2列の結節沈線が連続する。区画内は刻み目列が横位施文される。頸部文様帯は、刻み目列、結節沈線、波状沈線の横位施文、結節沈線の斜位施文が施される。頸部と胴部の境には隆線でいびつな楕円区画が連続し、小突起、蛇行隆線が5個付される。胴下半に落ちる隆線は、弧を描きながらモチーフを描く、モチーフの単位は3A+Cである。隆線の脇は結節沈線、沈線が2列沿い、爪形文は輪積に沿って横位施文される。底部に網代痕が残存するが摩滅が著しく判然としない。

11. 深鉢底部破片。覆土出土。

底部端部は丸みを帯び、底面は平滑である。網代痕残存。

12. 深鉢底部破片。覆土出土。

端部は丸みを帯びる。やや軟質な焼成。

13. 深鉢底部。覆土出土。

平滑な底面、やや直立気味に立ち上がる胴部形態を呈す。砂粒の混和が目立つ。

15. 浅鉢底部。覆土出土。1/3残存。

端部は比較的鋭い。立ち上がりは開き、内面の磨きは丁寧である。焼成はやや軟質。

16. 浅鉢胴部下半1/3～底部。壙底直上。

僅かに上げ底。内面は若干盛り上がる。底部端部は丸みを帯び、開き気味に立ち上がる。外面は無文で雑な縦磨きが施される。内面は丁寧に撫でられている。

17. 浅鉢。壙底直上出土。体部下半～底部約1/2残存。

体部は僅かな膨らみを帯びて立ち上がる。外面は雑な横磨き、内面は丁寧な研磨が施される。

23号住居址出土土器 (174図1～13)

1. 深鉢。胴部破片、床直上出土。1/3残存。

双環状突起が口縁部下位に付される。胴部上端には、1条の隆線が巡り、そこからやや細めの隆線が垂下、あるいは、巴状のモチーフを描く。巴状モチーフの中央には、環状突起が付される。隆線に沿って太めの沈線が2条沿い、短沈線がアクセントを加え、空間には三叉文が沈刻される。

2. 小型の深鉢。床面出土。口縁部欠損、胴部1/3、底

部欠損。

頸部に隆帯が廻り胴部文様帯は、隆帯が蛇行波状を描く。波頂部はおそらく5箇所を数えるのであろう。隆帯以外は無文である。

3. 深鉢胴部破片。覆土出土。

やや歪みがある。隆帯によるU字状のモチーフが描かれる。隆帯は、丁寧に撫でられており、断面蒲鉾状である。

4. 深鉢。覆土出土。口縁部1/4残存。

口縁部は大きく外反し、頸部は直立する。内外面は丁寧に磨かれており、浅鉢、鉢の可能性もある。

5. 深鉢。床直上出土。胴部下半～底部1/4残存。

やや雑な作りの小型底部。器面の凹凸も著しく、底部端部は撫でによってめくれ上る印象を得る。地文に無節縄文rを施し、太めの沈線で方形を基調とした区画文を配すると思われる。器肉は薄く、内面の色調は黒色である。

6. 深鉢底部破片。床面。

小型の深鉢か。僅かに凹凸を持って立ち上がる。幾条もの垂下沈線が施され、小型の半截竹管による截痕列が沿う。

7. 深鉢。床面。胴部下半～底部1/3残存。

やや内傾気味に立ち上がり、直線的である。垂下隆線は端部直上にまで達し、平行して細沈線が2条垂下する。また、横位の沈線も2条施される。

8. 深鉢底部。床直上。1/4残存。

直立する胴部形態を呈する。底面は平滑で、端部は摩滅している。垂下隆線とそれに沿う2条の沈線が看取でき、おそらく器面を等分割するのであろう。また、垂下波状沈線も中位に施される。地文は細縄文LR。

9. 深鉢底部。覆土出土。1/3残存。

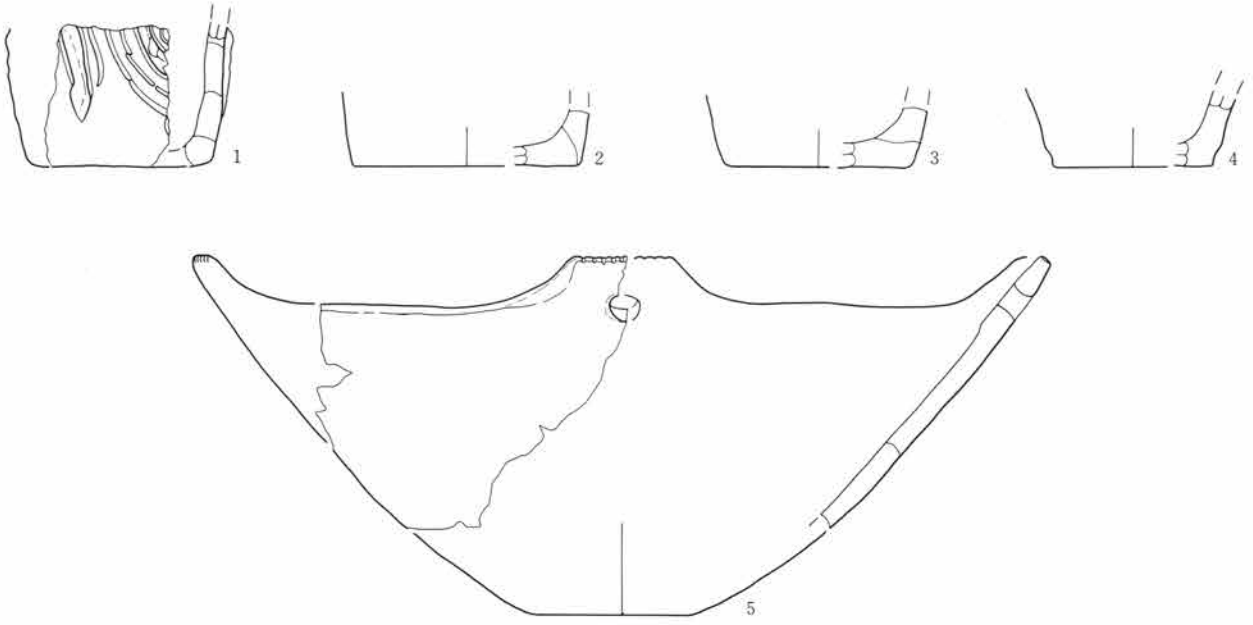
丸みを帯びる端部。直立気味に立ち上がる。垂下隆線が付され、太めの沈線が沿うようである。

10. 深鉢底部破片。覆土出土。

僅かに丸みを長びて立ち上がる。垂下沈線の末端が看取できる。

11. 深鉢底部破片。床直上。

直立気味の立ち上がり。器面が荒れており判然としないが、地文に縄文LRが施される。



177図 26号住居址出土土器



0 20cm

178図 28号住居址出土土器

12. 深鉢底部破片。覆土出土。

丸みを帯びて、開き気味に立ち上がる。無文。

13. 深鉢底部破片。覆土出土。

底面欠損。器面は荒れており、凹凸が大きい。小型の深鉢であろう。

24号住居址 (175図1・2)

1. 深鉢底部。床直上出土。1/2残存。

やや開き気味に立ち上がる。底面は平滑で、胴部の器肉は薄い。

2. 深鉢底部破片。床直上出土。

端部は鋭く立ち上がる。垂下隆線とそれに沿う平行沈線が施される。

25号住居址 (176図1～5)

1. 深鉢底部破片。覆土出土。

小型である。底面に網代痕残る。

2. 深鉢底部破片。覆土出土。

端部は鋭い。底面に網代痕残る。

3. 深鉢底部破片。覆土出土。

やや開き気味に立ち上がる。端部は丸みを帯びる。垂下隆線の末端が看取される。

4. 深鉢底部破片。覆土出土。

やや開き気味に立ち上がり、底部端部は摩滅のためか丸みを帯びる。横位の隆線が施され、最下端の楕円状の区画文であろうか。器面は荒れており、器肉は厚い。

5. 浅鉢底部破片。覆土出土。

底面の器肉は比較的薄い。端部は摩滅しており、丸みを帯びる。

26号住居址 (177図1～5)

1. 深鉢。覆土出土。胴部下半～底部1/2残存。

底部端部はやや丸みを帯びる。降線が垂下、弧を描き、2・3条の平行沈線が沿う。

2. 深鉢底部。覆土出土。27住と接合。1/2残存。

器肉は厚く、直立気味に開く。底部端部は鋭い。内面は丸みを帯びる。

3. 深鉢底部。床直上。1/2残存。

直立気味に開く。器肉は厚く、底部端部は鋭い。底面は平滑で、内面は丸みを帯びる。

4. 深鉢底部破片。覆土出土。

凹凸のある器面で全体に雑な作り。底部端部は僅かに突出する。

5. 浅鉢。口縁～体部上半1/2残存。

山形の波状口縁を呈す。頂部には浅い刻みを施し、直下に孔を穿つ。薄い内稜を持ち、内外面とも磨かれている。

28号住居址 (178図1～179図5)

1. 深鉢。床直上出土。32住と接合。口縁部～胴部1/2、底部1/2残存。

復元実測。口縁上に突起を付す。口縁部文様帯は隆帯と沈線による文様構成を取ると思われるが、剥落が著しいため判然としない。頸部には狭い無文部を設け、胴部も隆帯による弧線文、太目の沈線文が施される。胴部下半は、隆帯、沈線とも垂下する。胎土は、比較的緻密で、焼成も堅く良好である。

2. 深鉢。床直上出土。口縁～底部1/2残存。

口縁部は内彎し、頸部は隆線で屈曲する。胴部はすぼまり、底部で立つ。口唇部は面を持ち内折し、小環状の突起を付す。口縁部文様帯は、幅が狭く振りを加えた小突起を中心に細隆帯が接続する。胴部は、細隆帯が巴状に垂下し、左右対称的なモチーフに見取れる。細隆帯に沿って細い沈線が数条施され、特に巴状のモチーフの中核は、渦巻状となる。また隆帯、集合沈線の間を生じた隙間には、三叉文、円形刺突文などが施される。胴下半は無文であるが、分帯する細隆帯には双環状の小突起が付される。28住3の土器と色調も類似しており、同一製作者であろうか。

3. 小型の浅鉢。床面出土。口縁部～体部約1/2残存。

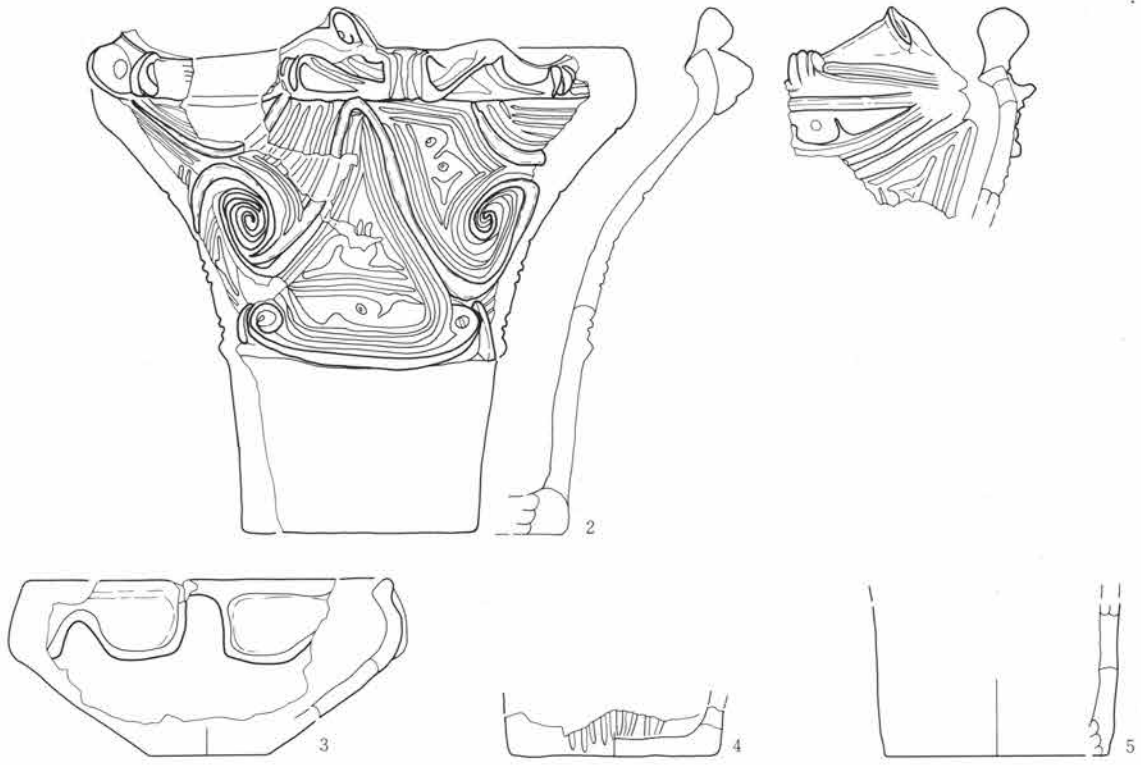
平縁を呈し、口唇部は僅かに外反する。口縁部は内彎し、丸みを帯びて屈曲する。口縁部文様帯は隆帯によるW字状のモチーフが描かれるのであろう。口唇部内外面に赤色塗彩が残る。浅鉢の割には器面はざらついている。

4. 深鉢底部。覆土出土。1/2残存。

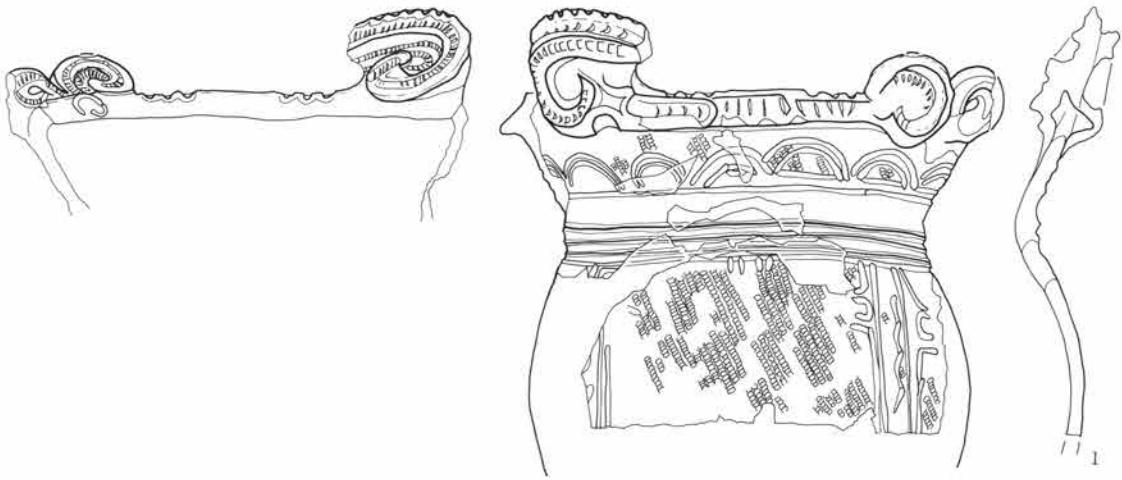
直立気味に立ち上がる。端部は鋭く、底面は平滑である。垂下沈線が幾条も施されるが、腰部の横撫でによって磨消す。

5. 深鉢。胴部下半～底部端部残存。

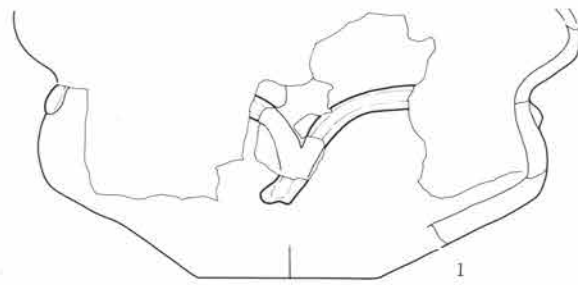
直立する胴部下半形態を呈する。無文で、器面は荒



179図 28号住居址出土土器



180図 29号住居址出土土器



181図 32号住居址出土土器



れている。内面の剝落も著しい。

29号住居址 (180図1)

1. 深鉢。床直上出土。口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

残存部の関係で中心線を突起間に設けた実測図である。2個の突起を口唇部に付す。口縁部は「く」の字に屈曲し、頸部の2条の隆線で画される。胴部は、膨らみを持たせ球胴状を呈す。突起はの字状の形態を呈すものと渦巻を相対称的に配するもの2種がある。の字状のものが大きく正面であろう。口唇部、突起縁辺には、棒状工具により刻みが施され、突起の内外面には小型の半截竹管文が施される。口縁部の上位の文様帯には縦位の沈線施文後に細隆線がクランク状に貼り付けられる。下位の文様帯は2条の沈線が連弧状に繋がる。頸部の2条の隆線の外側には、沈線が沿う。隆線間の頸部文様帯は無文である。胴部文様帯は垂下沈線が施される。沈線は2条1組で垂下するが、1条が直角に屈折し、2条1組として、背向うように相対称する。また鋸歯状に垂下する沈線もその間に看取される。頸部と画する下端の沈線には、4個の刺突文が施される。地文はLR縄文の縦位施文。

32号住居址 (181図1)

1. 浅鉢。床面出土。口縁～頸部 $\frac{1}{2}$ 、体部 $\frac{3}{4}$ 残存。

口縁部内彎し、頸部で括れ、体部上位で屈曲する。内外面とも磨きを施した土器である。口縁部・体部下半は無文である。体部上半に隆帯によるモチーフが看取されるが、おそらく半楕円を描くのであろう。

34号住居址 (182図1～183図16)

1. 深鉢。床面出土。頸部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

復元実測。頸部で屈曲し、胴部上半は膨らみを持つ。屈曲部に波状結節沈線が2条横走し、屈曲部下に隆線が巡る。隆線は弧状の突起に発達し、2本1組の結節沈線が沿う。下位の結節沈線は、波底下において垂下する。胴部は縦位波状隆線が垂下し、爪形状の刻み目列が横位に施される。

2. 深鉢。床面出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

渦巻状の小突起を付し、口縁部は内彎し、内面で内折する。小突起より三方へ派生する隆線で口縁部文様帯は三角枠の交互配列が構成される。枠内は幅広のキャタピラ文とペン先状刺突文が沿い、三叉文も沈刻

される。頸部隆線はやや張る。

3. 深鉢。覆土出土。胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

胴径はやや小さく長胴形を呈する。横走隆線によって横帯文区画されるのであろう。隆線には小型の突起が付され、キャタピラ文と2条のペン先状刺突文が沿う。空間には円形刺突文と、連続三叉文が施される。

4. 深鉢。覆土下位出土。299墳と接合。口縁部 $\frac{1}{2}$ 、胴部 $\frac{1}{4}$ 、底部 $\frac{1}{4}$ 残存。

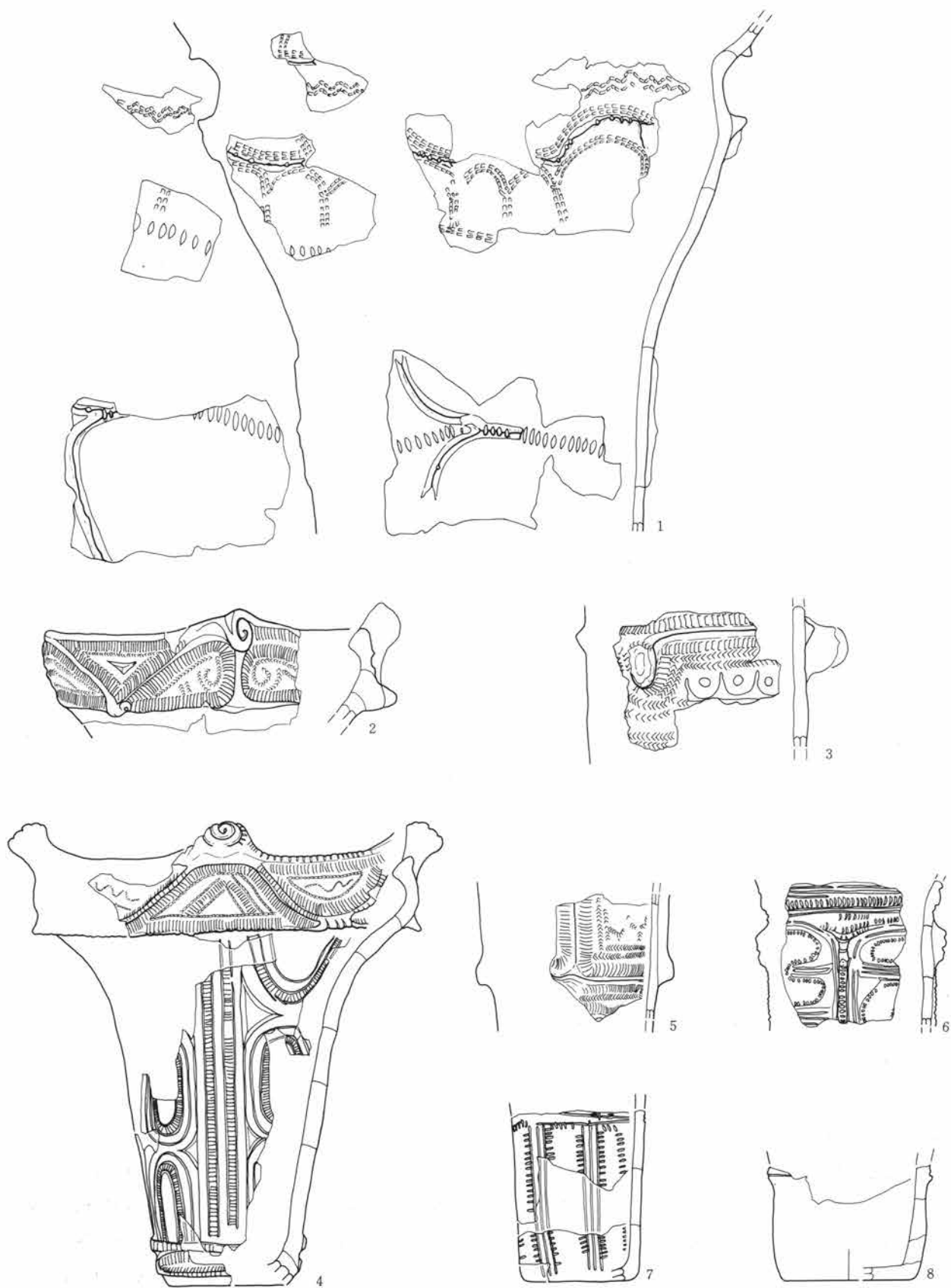
渦巻状の突起はおそらく4個配されるのであろう。口縁部はやや膨らみを持たせ、頸部は隆帯の貼付けによって張り出す。突起、口唇部、隆線には刻みを施す。突起から両脇に派生した隆線は、頸部隆線を経て各突起と連結され、半円形、三角形の区画を交互に配す。区画内は、キャタピラ文、ペン先状の刺突文が連続し、特に半円形の区画内にはペン先状の刺突による波状沈線が特徴的である。頸部隆線は張り出し、口縁部文様帯を浮き立たせる。胴部文様帯は、沈線と連続竹管文によって4単位区画され、単位モチーフとして楕円、半円のモチーフが沈線、連続竹管文によって描き出されている。楕円と垂下する沈線の接することによって生じた隙間は、三叉文が彫りだされる。底部上端は楕円状の区画が配される。口唇部および内面は磨き込まれている。

5. 深鉢胴部。床面出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

直線的な胴部形態を呈する。断面が丸い隆線で方形区画され、キャタピラ文が沿う。その内側にはペン先状刺突文が2条連続し、区画中位にはペン先状刺突文による波状文が施される。方形区画の下位には、楕円区画が連続し、やはりキャタピラ文が縁どられ、ペン先状刺突文が横位施文される。

6. 小型の深鉢。覆土下位出土。胴部 $\frac{1}{4}$ 残存。

頸部で開き、胴部はほぼ垂直に落ちる形態を呈す。胴部上半に薄い隆線を1条巡らし、その上を半截竹管文の刻みが施される。隆線には半截竹管による平行沈線が沿う。隆線以下魚鱗状の突起より、細隆線が垂下し、やはり平行沈線が沿う。垂下隆線によって胴部文様帯は数単位に分割され、更に横位の平行沈線で小区画文を配するのであろう。各区画は隅取りされ、楕円状の区画となる。この楕円に沿って小型の刺痕列が施



0 20cm

182図 34号住居址出土土器

される。

7. 深鉢。床直上出土。胴部下半 $\frac{1}{2}$ ～底部残存。

3条の沈線で矩形に区画した内部を小型の半截竹管の刺痕列が沿う。区画文は、重畳し単位を構成するのであろう。

8. 深鉢。覆土出土。胴部下半～底部残存。

緩やかな丸みを持って立ち上がる。横位隆線に細沈線がトレースされる。

9. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半5片。

復元実測。口唇部は突出し、面を持つ。図では平縁だが波状縁を呈す可能性もある。緩やかに内彎する。口唇部下に2条の太めの沈線をめぐらせ、口縁部文様帯には幅広の撫でを加えた隆帯が弧状のモチーフを描く。頸部に無文部があるのであろう。胴部と1条の細隆線で画される。胴部文様帯は、環状突起が付され、そこから派生する撫でを加えた隆帯が弧を描く。隆帯に沿って、2条の沈線が沿い、空白部は2・3条の沈線で小区画される。また各所に短沈線が2・3個施される。地文はLR縄文であらう。

10. 深鉢。覆土出土。胴部下半～底部のみ残存。

円筒形の胴部形態を呈し、底部端部は僅かに突出する。地文にRL縄文を施す。垂下隆線から派生する幅広の隆帯とそれに1・2条の沈線が沿う。地文の縄文は隆線の上に残る箇所もある。

11. 浅鉢。床直上出土。口縁～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部はほぼ直立し、頸部で屈曲する。体部は凹凸を持ち、やや反り気味に落ちる。口縁部文様帯は頸部の屈曲で画され、口唇部より、V字状に垂下する隆線で区画される。区画は、大小2対あり、小型の区画は台形状を呈し、正面と思われる。区画内は、先端の丸いペン先状刺突文が充填される。外面体部、内面は丁寧に研磨される。内稜を持たないことも特徴的である。

12. 浅鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部が直立する浅鉢。頸部は粘土紐貼付けによる張り出し。口縁部文様帯は、丁寧な撫での後削られて施文されたようである。3本1組の波状結節沈線文と1条の角押文が横走する。内外面赤色処理。

13. 浅鉢。覆土下位出土。口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

双波状口縁の浅鉢である。内面に稜はなく、口縁部

に緩やかな膨らみがあるが比較的直線に底部に至るのであろう。

14. 浅鉢底部。覆土出土。

開き気味に立ち上がり、比較的器肉は薄い。内外面とも丁寧に研磨する。

15. 深鉢底部。床直上出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

大型の深鉢か。大きく開く胴部形態を呈する。端部は丸みを帯びる。若干上げ底状。

16. 浅鉢。覆土出土。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

山形の波状口縁を呈する。口縁部下位が僅かに膨らみ、内面になだらかな稜を持たせる。波底部下位には補修孔が穿たれ、内外面は丁寧な横磨ぎが施される。

35号住居址 (184図1～6)

1. 深鉢。覆土出土。口縁～胴上半部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部にやや膨らみを持たせ、胴上半において再び膨らむ兆しをみせる。つまみ状突起を配する。つまみ状突起は刻みを施す垂下する隆帯によって口唇部上に突出し、隆帯は頸部でたれさがる。口縁部文様帯は、半截竹管による2本1組の沈線が∩字状のモチーフを描きだす。胴部は幅広の爪形文が横位施文される。この爪形文に沿って異種工具による爪形文も看取される。ラフデッサンであらうか。

2. 小型の深鉢。覆土出土。口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

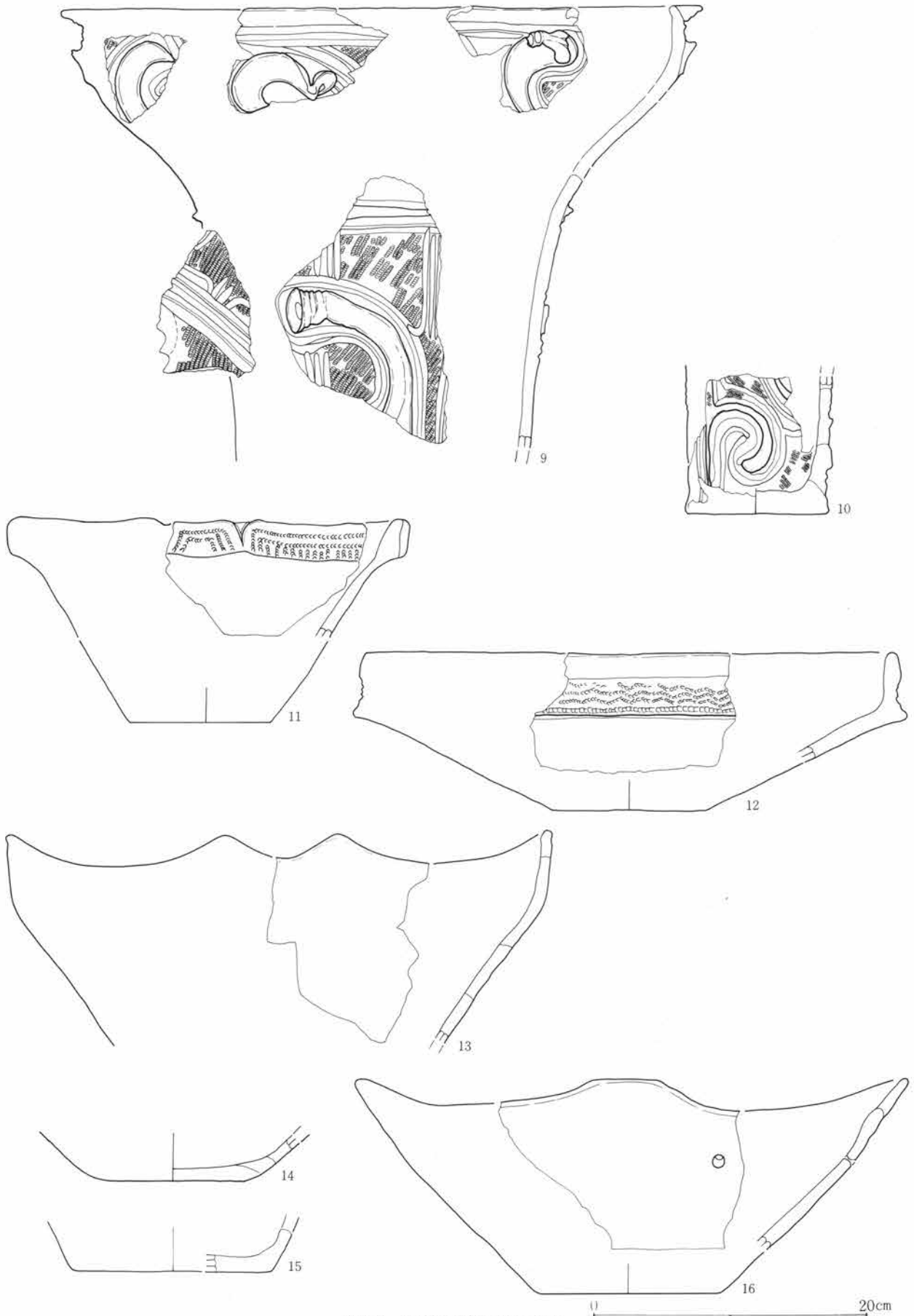
平縁を呈す。口唇部は粘土紐を貼り付けて僅かな突出部とする。口唇下、断面三角の細隆線が左右に落ち、下方から延びる隆線と交わり、菱形?の区画を成すのであろうか。胎土、隆線の形状から阿玉台系統の土器であらうが、異質な器形である。

3. 深鉢底部。床直上出土。 $\frac{1}{2}$ 残存。

底部端部は僅かに突出し、胴部下半はやや反り気味に立ち上がる。無文である。

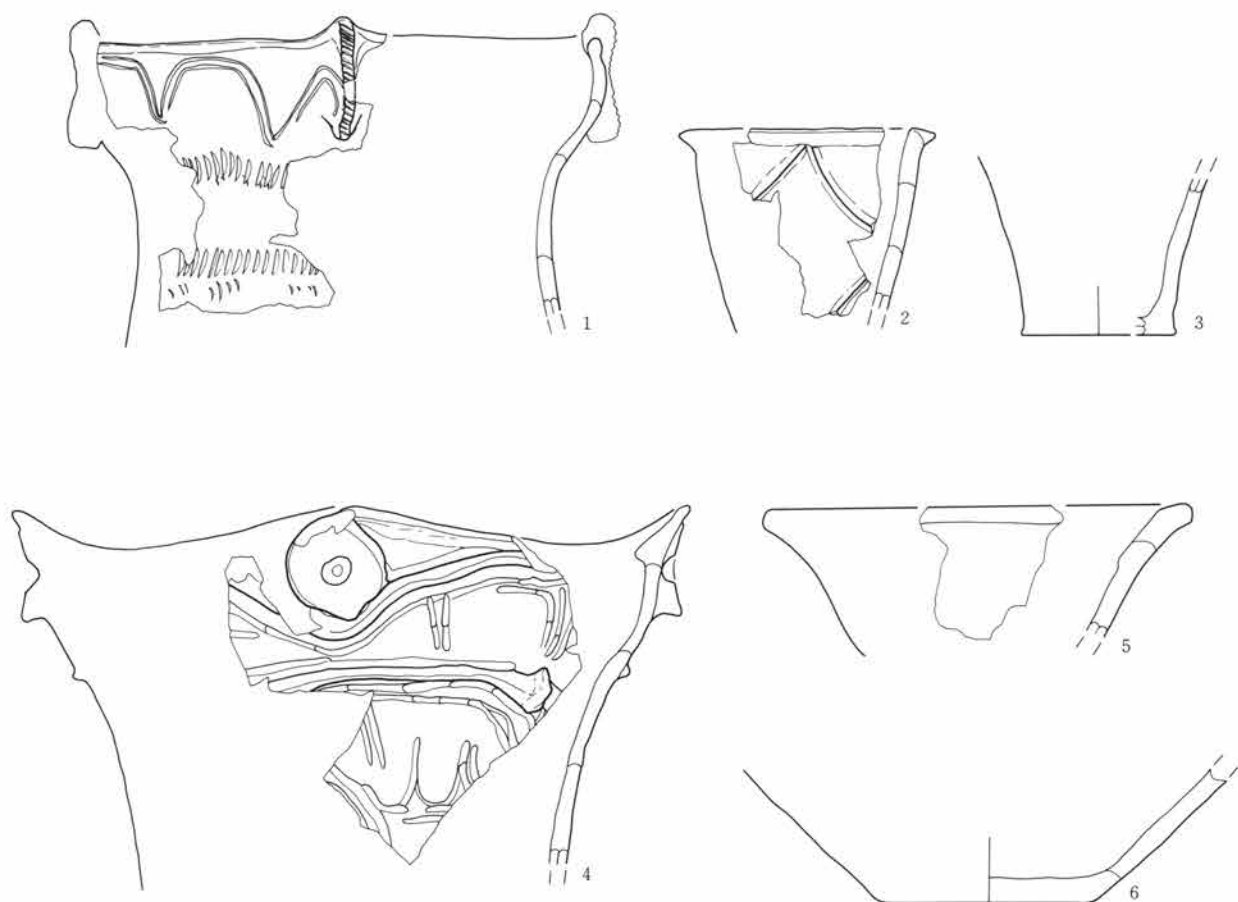
4. 深鉢。床直上出土。口縁 $\frac{1}{4}$ ～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

波状口縁を呈し、口縁部は緩やかに内彎し、胴部はやや反り気味に落ちる。波頂部には、円環状の突起を付す。口唇部より派生した隆線は、突起下端に接し、突起を巻くように再び口唇部に延びる。口縁部文様帯は頸部に巡る1条の隆線で画され、隆線に沿って太めの沈線が施され、その沈線の上から短沈線がアクセントを加える。頸部を巡る隆線には小突起が付される。

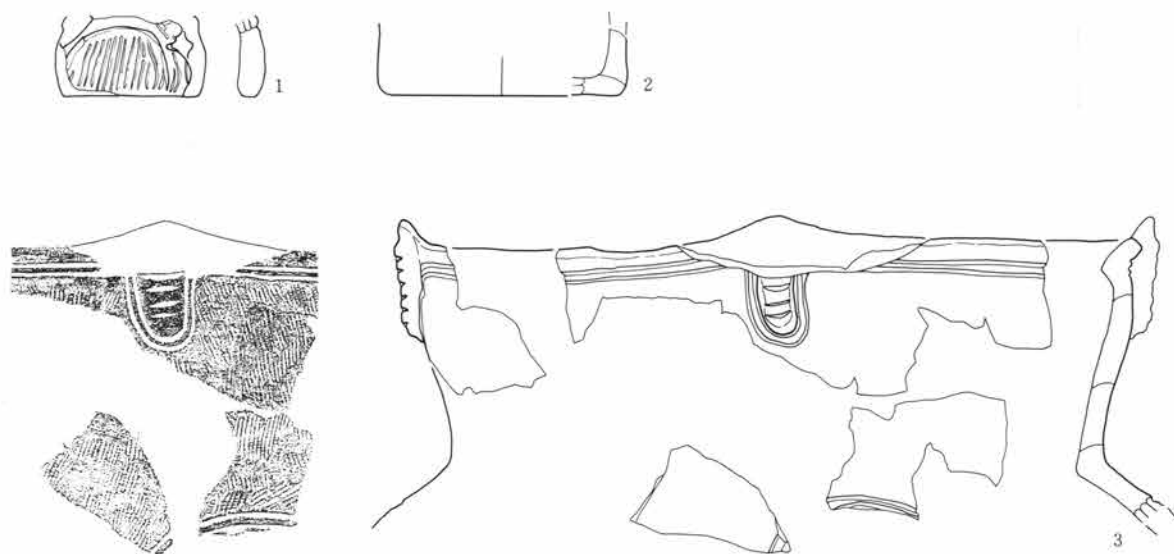


183図 34号住居址出土土器

0 20cm



184図 35号住居址出土土器



185図 36号住居址出土土器

胴部文様帯はやはり、太めの沈線で連続三叉文が描かれたりする。

5. 浅鉢口縁部破片。

口縁部は開き、内面に2段の稜を持つ。無文で内外面とも撫でによる整形にとどまる。

6. 浅鉢。床直上出土。体部 $\frac{1}{2}$ ～底部残存。

端部は丸みを帯び、開き気味に立ち上がる。体部中位の輪積で欠損しており、疑口縁状となる。内面は特に丁寧に研磨され、煤が少量付着する。

36号住居址(185図1～3)

1. 台付土器の台部ないしは器台。約 $\frac{1}{3}$ 残存。

形態は判然としないが、2箇所透かし孔が穿たれる。一方は菱形か?、全体に丸みを帯びて接地面はや

や荒れている。半截竹管による平行沈線で半楕円の区画を描き、区画内は集合沈線が縦位に施される。

2. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{3}$ 残存。

直立する立ち上がりを呈し、腰部は僅かに丸みを帯びる。底面は平滑。

3. 深鉢。床直上出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 、頸部 $\frac{1}{3}$ 残存。

復元実測。口唇部に山形の突起を付す。口縁部は緩やかに内彎し、頸部で括れ、胴部上半で著しく張る兆しを見せる。地文にLR縄文を縦位、斜位に施す。突起は粘土紐を巻きつけた隆帯となって口縁部に垂れ下がる。口唇部下に半截竹管による2条の平行沈線が沿う。胴部上半も同様の沈線で円弧を描くが判然としない。



3・5号土壙(186図1～7)

1. 深鉢口縁部破片。覆土出土。

口唇部は内折し、口縁部は内彎する。無文で外面の横撫で痕著しい。内面は雑な横磨き。

2. 浅鉢口縁部破片。覆土出土。

口唇部は若干外折し、口縁部は内彎し内稜を持つ。内面の横磨きは丁寧。

3. 浅鉢口縁部破片。覆土出土。

口唇部は肥厚する。口縁部は内彎し内稜を持つ。内面は丁寧な横磨き。

4. 浅鉢底部。覆土出土。

腰部は緩やかに膨らみ、大きく開く。内面の研磨は丁寧。

5. 浅鉢。壙底直上。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部は僅かに外傾し、丸みを帯びて屈曲する。屈曲部は磨滅している。体部は直線的に落ちる。内外面とも丁寧な研磨を施す。

6. 深鉢。壙底直上出土。胴部破片 $\frac{1}{2}$ 残存。

頸部の無文帯が看取される。1条の浅い刻みを有する隆線が巡り、胴部文様帯と分離する。胴部は、蛇行隆線が幅広の隆帯に発達し巴状のモチーフを描く。隆線間の空間は、平行沈線、半截竹管状工具の刺突による波状文が隆線に沿い、三叉文や蛇行沈線が施される。

7. 深鉢。壙底出土。頸部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

頸部は無文である。断面三角の隆線が巡り、そこから同様の隆線が小突起を経て胴部に分岐する。分岐した隆線は、胴部下半で纏まり小突起状となり、その区画は三角形となる。隆線の脇は、幅広の半截竹管文、小型の半截竹管文が沿う。堅緻な土器である。

7号土壙(186図8)

8. 深鉢底部破片。覆土出土。

丸みを帯びて立ち上がる。器肉は比較的薄く、内外面とも丁寧に撫でられている。

8号土壙(186図9)

9. 浅鉢。集石上面出土。底部欠損。

双波状口縁の浅鉢。4単位。口唇部は外折し、断面四角形。外面の体部上半は横方向の磨き、下半は器面が荒れているが、縦方向の磨き。内面の口縁部は横方向の磨き。体部は縦・横方向の磨き。

12号土壙(186図10)

10. 深鉢。壙底出土。口縁～胴部上半約 $\frac{1}{2}$ 残存。

口唇部は尖り、口縁部は緩く内彎する。頸～胴部はなだらかに落ちるキャリパー形の深鉢。無文であるが、口縁部には指頭押圧痕が残る。内外面とも研磨。

17号土壙(187図1)

1. 大型の浅鉢。土壙外。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

大型の突起を付す。突起数は判然としないが、4～8個と思われる。口唇部は粘土紐貼り付によって肥厚し、そのまま蛇行し突起となる。口縁部文様帯は、粘土紐をX状に貼り付け、区画を構成する。区画内は、ペン先状の連続刺突文、3条1組の細結節沈線が充填される。また楕円の窓状の孔が穿たれたのも特徴的である。浅鉢としては、重量感がある。

18号土壙(187図2・3)

2. 小型の深鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

波状口縁を呈し、波頂部は尖り4単位を配する。頸部隆線で口縁部文様帯を画し、口縁部文様帯内は強調された区画線は設けず、波頂部より垂下した環状突起と頸部隆線に接する柱状の小突起で4単位を数えるのであろう。口唇部、隆線、突起には1条の角押文が沿い、空白部を半截竹管腹面使用の平行沈線が弧状のモチーフを描く。地文の縄文は横位LR。内面は丁寧に研磨され、煤が付着する。異系統の土器であり、色調は灰黄褐色を呈し、胎土も緻密である。北陸系か。

3. 深鉢。覆土出土。胴部～底部。

復元実測。無文で、立ち上がりは大きく開き、底部の器肉は厚い。内面は丁寧に研磨を施す。

19号土壙(187図4～188図11)

4. 深鉢。覆土出土。口縁部破片。約 $\frac{1}{2}$ 残存。

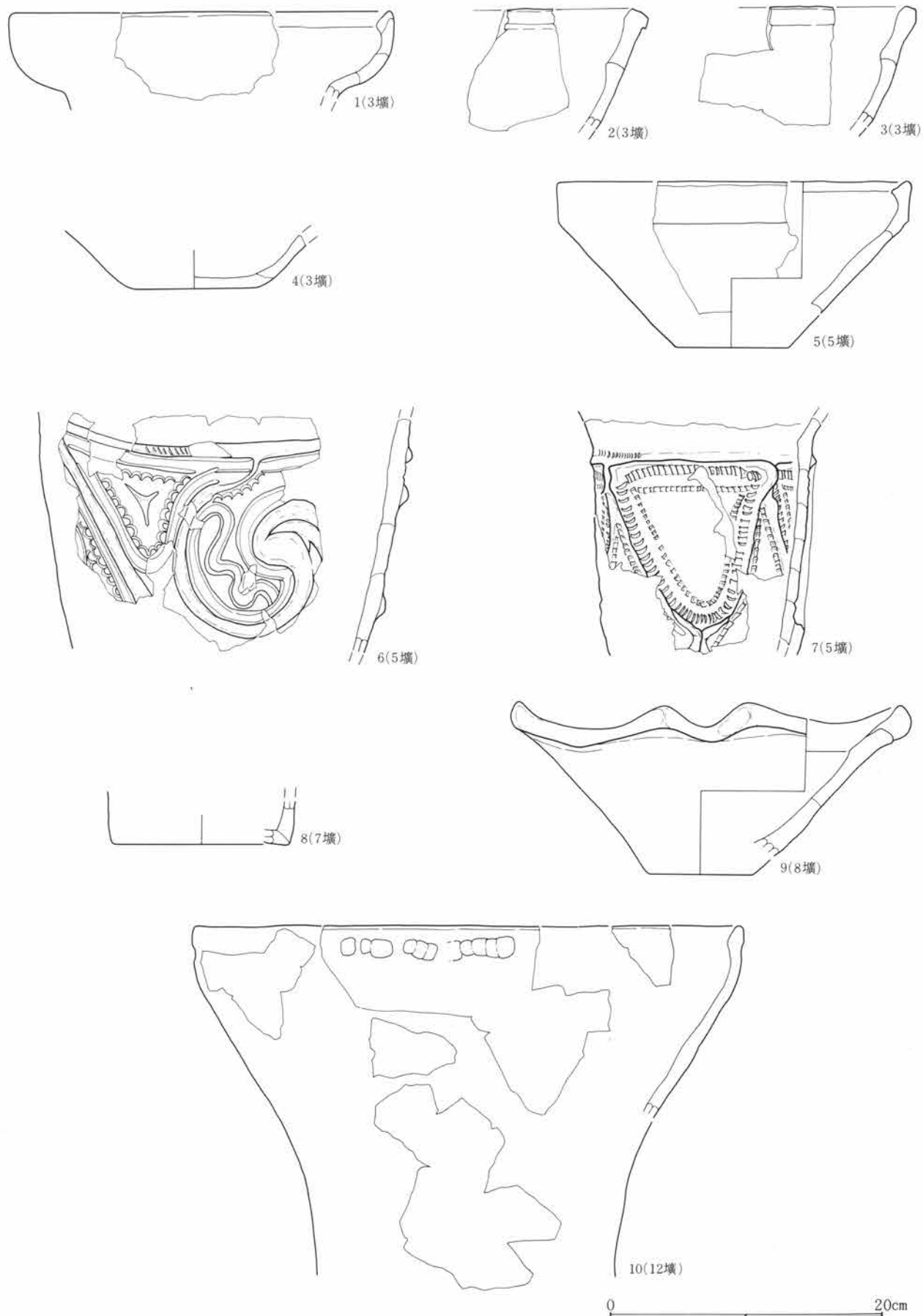
口縁部にやや膨らみを持たせる。口唇部以下、幅広の刻み目列が横位施文されるのであろう。口縁部からは指頭押圧を施した隆線が垂下する。

5. 小型の鉢。覆土出土。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

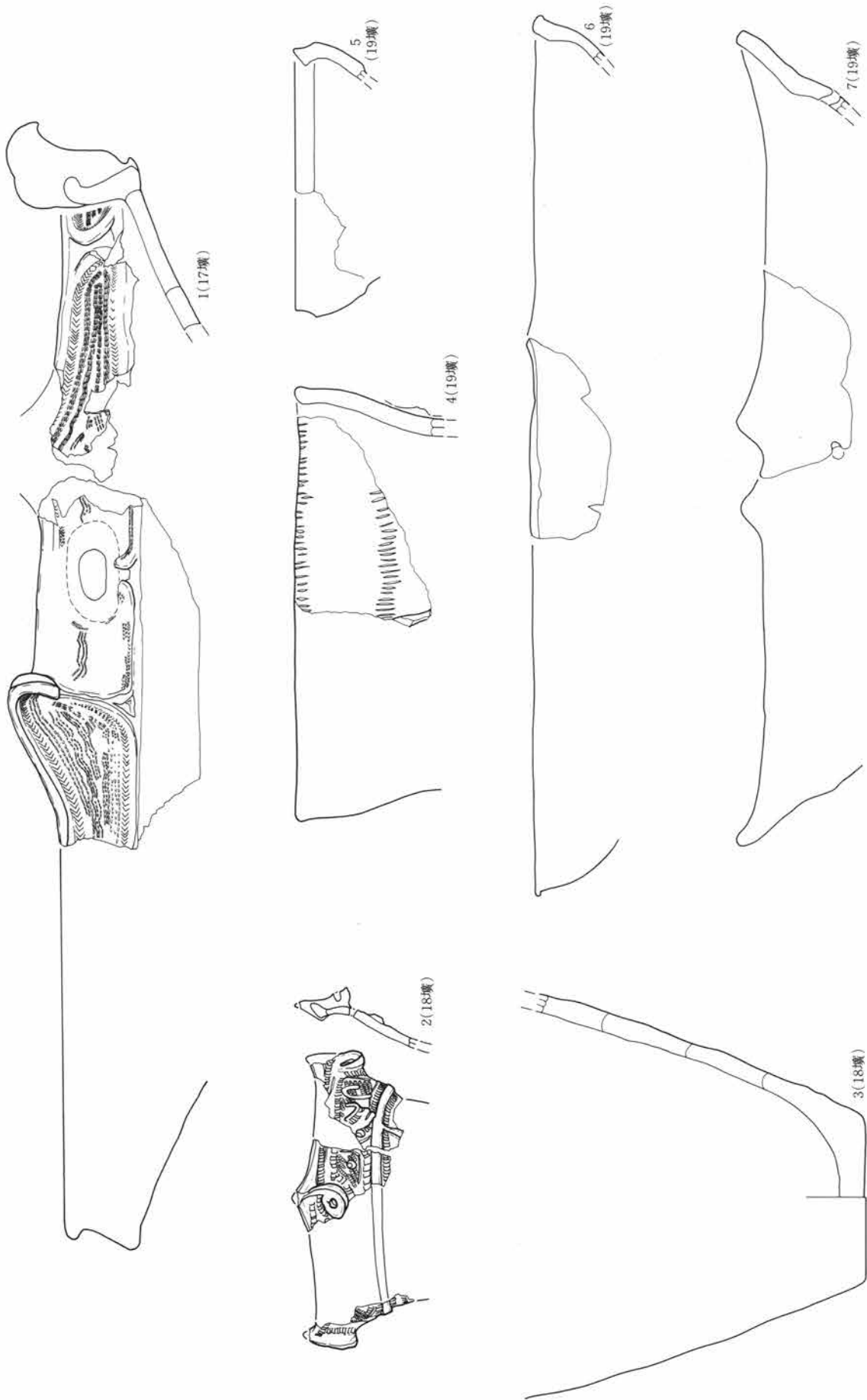
平縁を呈し、口縁部は内彎する。外稜を2段持ち、体部で直立する兆しを見せるが、これも、外稜の影響であろうか。無文で、内面は丁寧に横磨きが施され、内外面とも赤色塗彩される。薄手の器肉である。

6. 浅鉢口縁部破片。覆土出土。

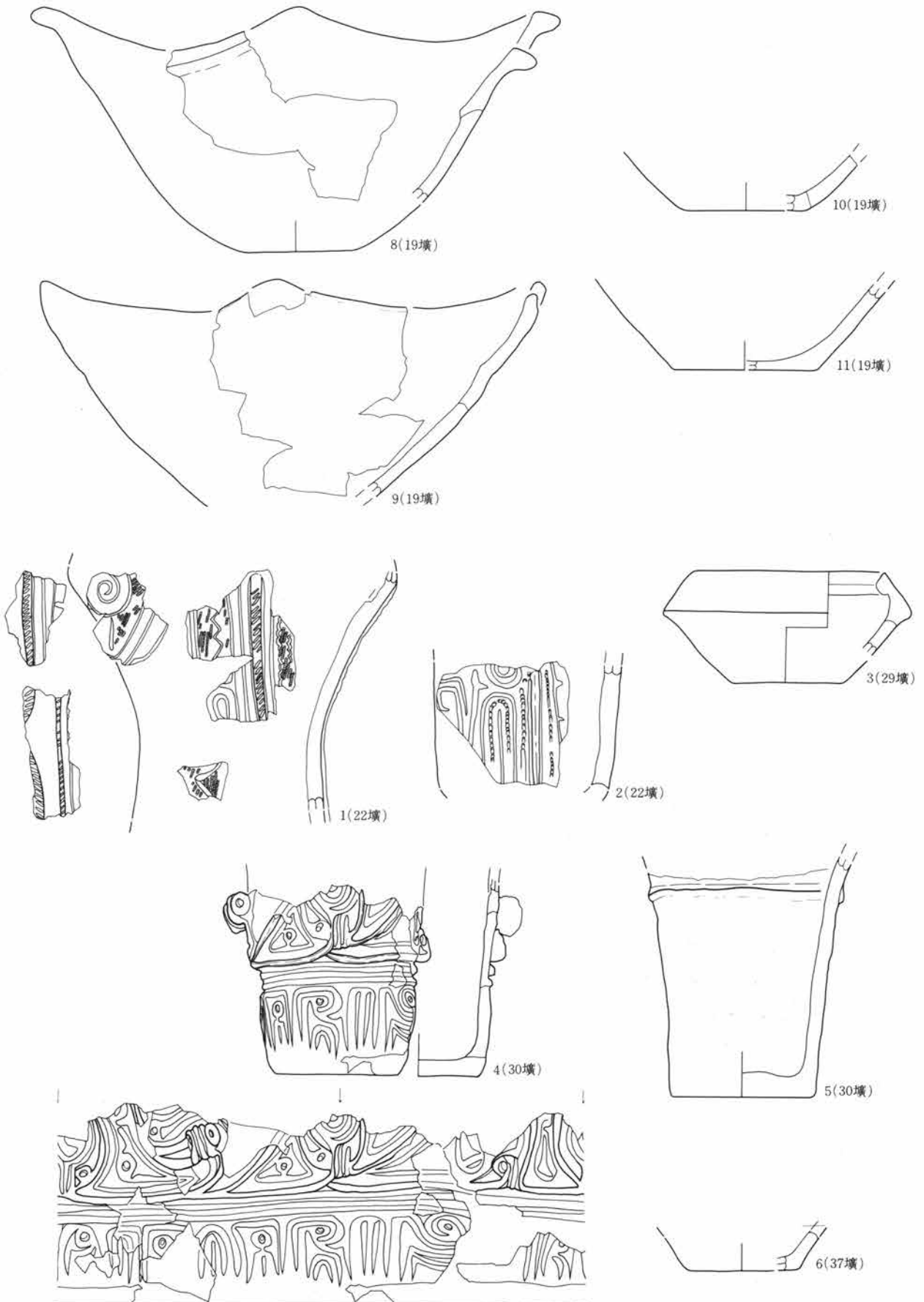
第2節 縄文時代



186図 土壇出土土器



187図 土壙出土土器



188図 土壙出土土器

0 20cm

第IV章 遺構と遺物

口径は大きく、緩やかな波状縁を呈する。内外面とも丁寧に研磨する。口唇部は、僅かに突出するが、波頂部にかけて平滑になる。

7. 浅鉢口縁部破片。覆土出土。

双波状口縁を呈する。口縁部は外傾し、体部は若干膨らむ。内稜を持ち、内外面とも丁寧な横磨きを施す。

8. 浅鉢。覆土出土。口縁～体部上半 $\frac{1}{4}$ 残存。

波状口縁を呈する。口唇部は突出し、平坦面を造る。内外面とも丁寧な磨きを施す。

9. 浅鉢。覆土出土。口縁～体部 $\frac{1}{4}$ 残存。

波状口縁を呈する。口縁部は緩く内彎し、頸部で僅かに括れる。内稜を持ち、内面は丁寧な磨きを施すが、外面は雑な横磨きである。

10. 浅鉢底部破片。覆土出土。

比較的器肉は厚い。大きく開く立ち上がりを呈し、内面は丁寧な研磨を施す。

11. 浅鉢。覆土出土。体部下半～底部 $\frac{1}{3}$ 残存。

直線的に落ちる体部形態を呈し、底部中央の器肉は薄い。内面は丁寧に研磨されている。

22号土壙(188図1・2)

1. 深鉢胴部破片。覆土出土。

復元実測 胴部上半で膨らみ、中位で括れるキャリパー形深鉢であろう。刻みを施す垂下隆線で数単位に分割され、半截竹管による平行沈線が沿う。全体観は、縦位区画であろう。各区画内は、地文に細縄文LRを施し、半截竹管による渦巻文、鋸歯状細沈線文などが施される。

2. 深鉢。覆土出土。胴部下半 $\frac{1}{4}$ 残存。

水流で流されたのか摩滅している。直線的に立ち上がる。1条の隆線が垂下し、細沈線が沿う。二重円、縦位半楕円のモチーフが描かれ、小型の刺突文も施される。

29号土壙(188図3)

3. 小型の鉢。覆土出土。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

平縁を呈する。口唇部は内折し、先端は尖る。内傾する口縁部から体部上半にかけて算盤玉状に屈曲し、屈曲部端部も鋭く尖る。内外面とも丁寧な横磨きを主体に研磨する。美しい仕上げである。

30号土壙(188図4・5)

4. 深鉢。覆土出土。胴部下半～底部 $\frac{1}{3}$ 残存。

ほぼ円筒形の器形を呈す。環状の突起、瘤状突起を中核として、細隆線、太めの沈線で複雑に器面全体を埋める。文様帯は、太めの隆線を1条巡らせることによって分帯される。上位の文様帯は、環状突起、瘤状突起より派生した隆線が円形や、三角の小区画をなす。区画内を沈線が沿い、円形の刺突も施される。突起には、振りから発達したと思われる短沈線が2・3条刻まれる。下位の文様帯は主に沈線による描出技法が施される。渦巻や、人形のモチーフが配される。内側に少量の煤が付着する。文様単位は剥落のため判然としないが4～5単位であろう。

5. 深鉢。壙底出土。胴部下半～底部残存。

直線的に開く。胴部中位に横位隆線が巡る他は無文である。器面は凹凸があり、やや雑な造り。器肉は厚い。

37号土壙(188図6)

6. 浅鉢底部。壙底出土。 $\frac{1}{3}$ 残存。

大きく開く立ち上がり。端部はやや丸みを帯び、内外面は丁寧に研磨する。

53号土壙(189図1)

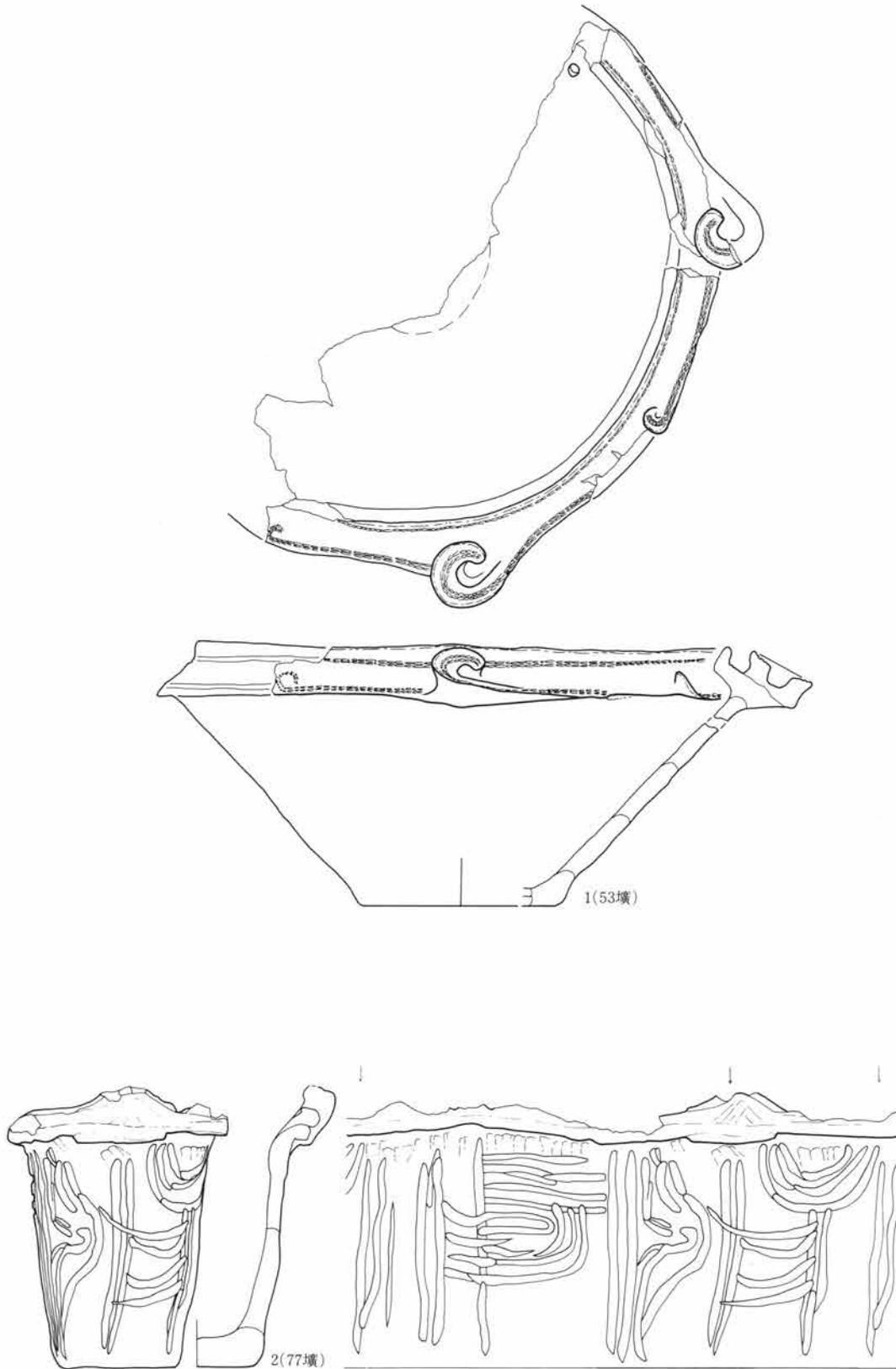
1. 浅鉢。壙壁際より出土。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部は内曲する。口縁部文様帯は、渦巻状の突起をおそらく4単位配し、小渦巻が中間に付されるのであろう。口唇部、突起に沿って細い結節沈線が2本1組で施される。胎土に雲母末を多く含み、内外面とも磨きの施された美しい浅鉢である。体部上半に補修孔を穿つ。

77号土壙(189図2)

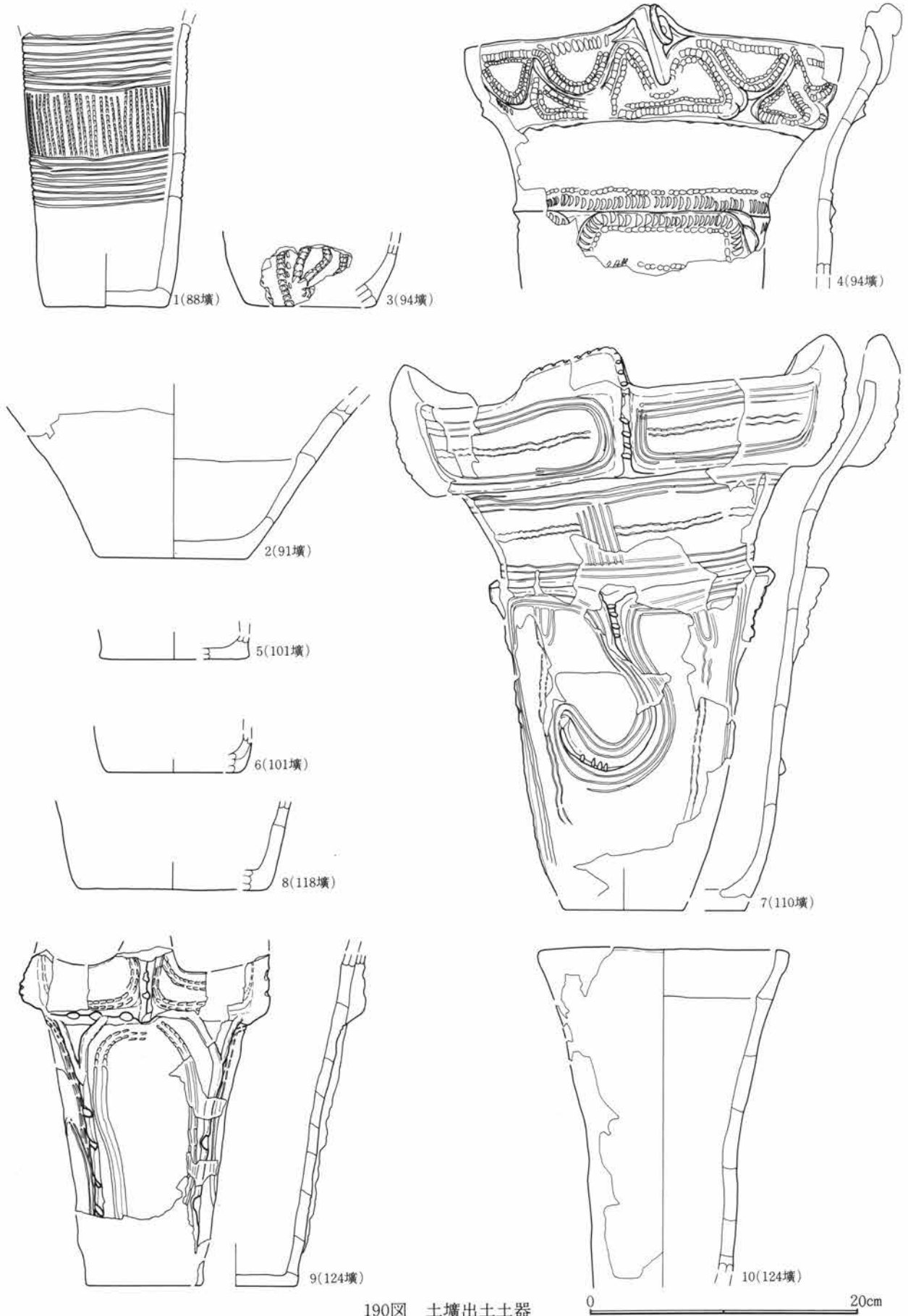
2. 小型の深鉢。壁際より出土。口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠損。

突起を2対口縁上に付す。突起は欠損していて判然としないが、1・2個の孔を穿つと思われる。口縁部は外傾し、頸部は隆帯貼付により僅かに突出する。胴部以下は緩やかに底部にいたるが全体像は非対象でやや不揃な感がする。胴部の文様は太めの沈線文で充填される。2本1組の沈線で文様分割され基本的には、4単位の文様構成であるがラフな施文である。内面は口縁～頸部に撫で、磨きが施される。

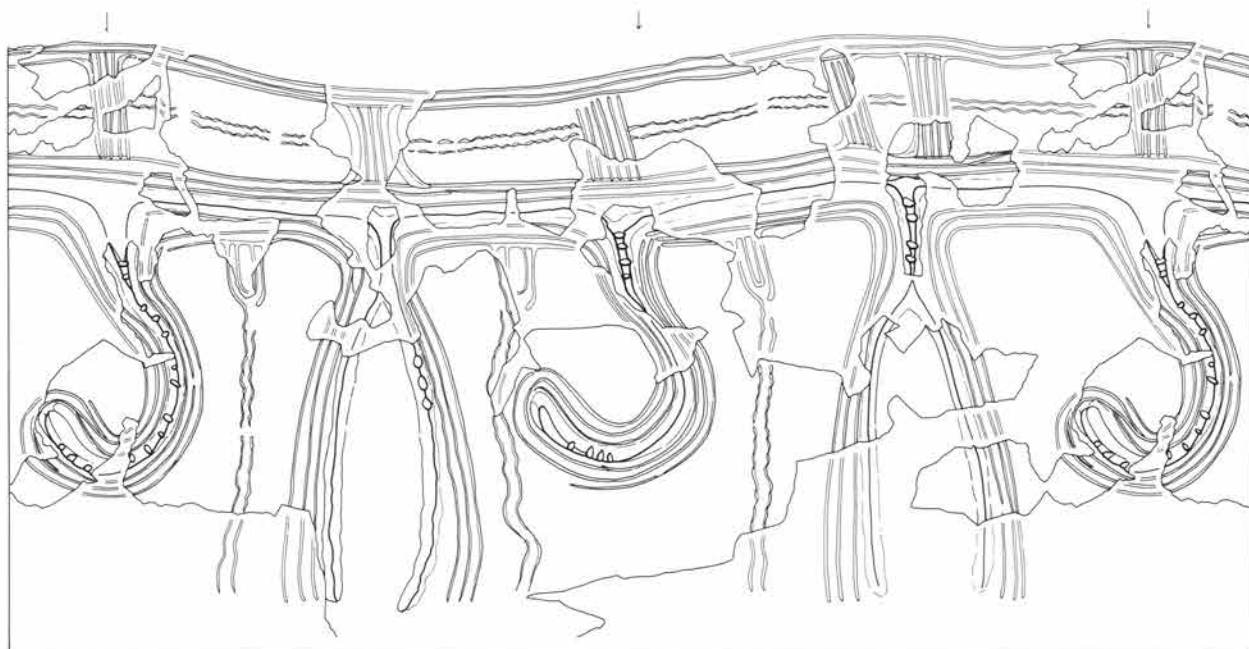


189図 土壇出土土器

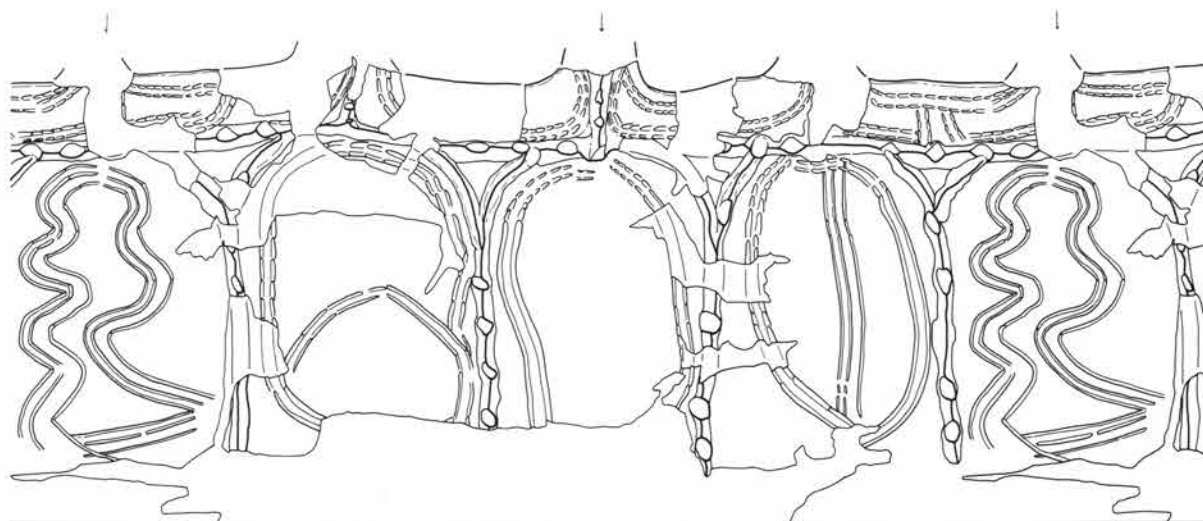
0 20cm



190図 土壇出土土器



190図-7(110墳)



190図-9(124墳)

0 20cm

191図 190図-7・9展開図

88号土壙(190図1)

1. 深鉢。壙底出土。口縁～頸部欠損。

円筒形の胴部を呈す。幾条もの細沈線が巡る文様帯に挟まれ、縦位の結節沈線を充填する文様帯が特徴的である。おそらく沈線と結節沈線は同一工具であろう。

91号土壙(190図2)

2. 浅鉢。壙底出土。口縁部を欠損。

僅かに反り気味に立ち上がる体部形態。内外面とも丁寧に磨きが施され、内面体部中位には稜を持たせる。

94号土壙(190図3・4)

3. 底部破片。壙底直上出土。

小型の底部で、胴部は開く兆しを見せる。胴部の器肉は薄い。胴部下半より、半截竹管による結節沈線が垂下する。

4. 深鉢。壙底出土。口縁～胴部上端 $\frac{1}{4}$ 残存。

口縁部が内彎するキャリパー状の深鉢。口唇部の突起は渦巻を片側に付したものである。おそらく4単位であろう。口縁部文様帯は隆線による三角の区画と半円の区画の交互配列。突起下のみ三角区画を接続し \square 状にする。区画内は3種の連続竹管文が隆線に沿う。巾4mmの角押文と棒状刺突文である。突起右側の口唇に沿って幅広の連続竹管文が1条施される。三角区画の一端は振りを加えた小突起となる。頸部は無文帯となる。胴部は、隆線に沿って幅広の竹管文と棒状刺突文が連続する。胴部隆線にも振りを加えた小突起を付し、Y字状に垂下する。

101号土壙(190図5・6)

5. 深鉢底部破片。覆土出土。

端部僅かに突出する。底面は平滑で、器肉は薄い。

6. 深鉢底部破片。覆土出土。

やや開き気味に立ち上がる。端部は丸みを帯びる。

110号土壙(190・191図7)

7. 深鉢。壙底出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 、頸部～底部 $\frac{1}{4}$ 残存。

口唇部に突起を付す。扇状突起の退化したものであろうか?、突起より派生する垂下隆帯は1本のみである。口縁部は僅かに内彎し、頸部は反る。胴部は緩やかな膨らみを持たせ、底部にいたる。突起より垂下する隆帯は、頸部に巡る1条の隆線と接し、口縁部文様帯をおそらく4分割する。分割された区画内は、3条

の沈線が沿い、区画中位には、半截竹管による波状沈線が横位施文される。頸部文様帯は、5・6条の垂下沈線で分割され、区画単位を数えれば4A+aである。区画内は口縁部文様帯と同様に波状沈線が横位施文される。頸部と胴部は1条の隆線で画され、隆線に付せられた小突起より胴部下半に向って隆線が垂下する。隆線は \cup 状を描くもの、2股に分岐し \cap 状になるもの2種があり各々交互配列される。隆線に沿って2・3条の沈線が施され、各モチーフ間には波状沈線が垂下する。

124号土壙(190・191図9・10)

9. 深鉢。覆土出土。突起、口縁部、胴部の一部、底部 $\frac{1}{4}$ 欠損。

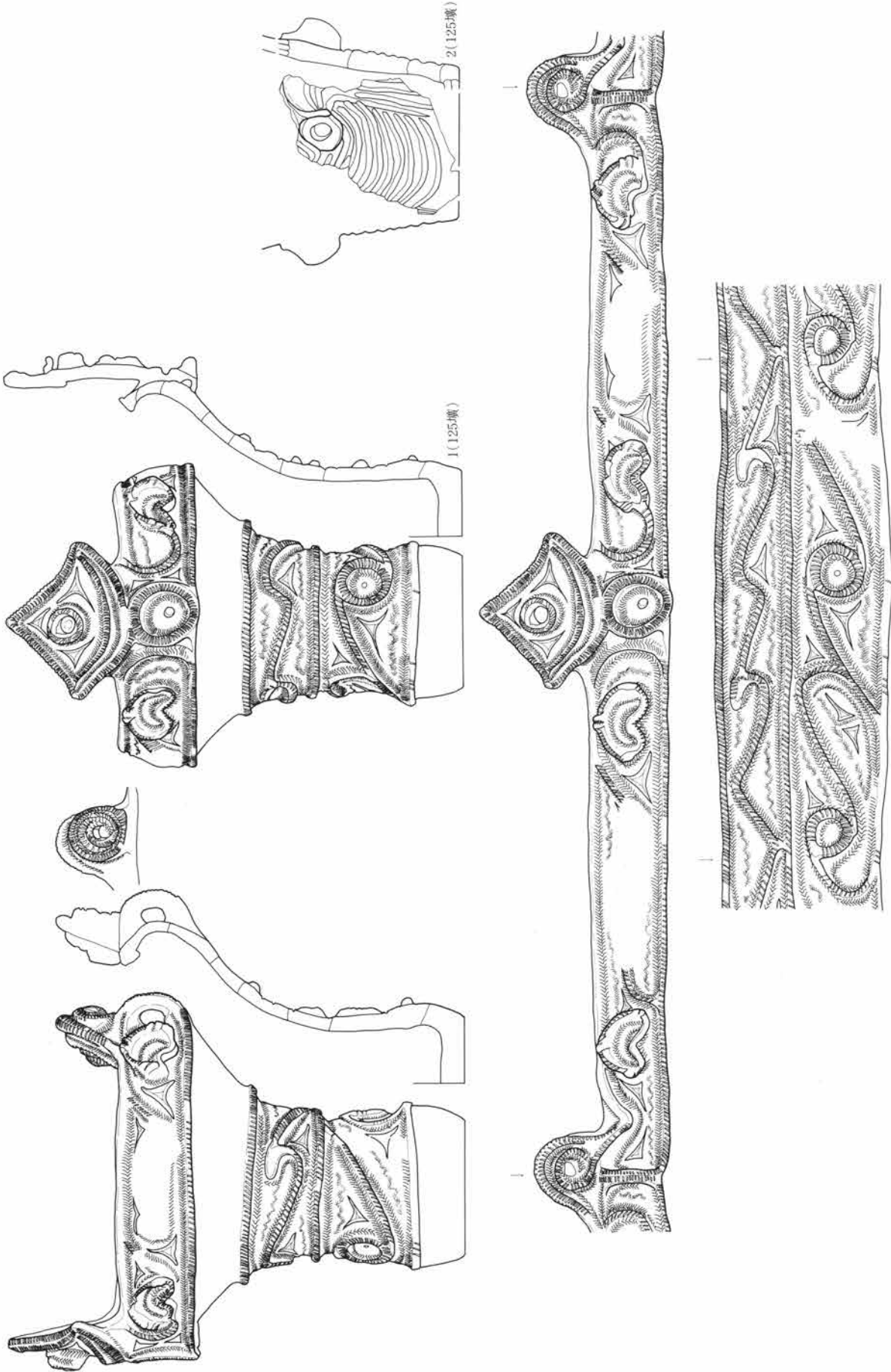
突起は扇状か山形か突起上半が欠損しているため判断としない。頸部を巡る隆帯よりY字状隆帯が垂下し、口縁部、胴部の隆帯に沿って2本1組の結節沈線が連続する。隆帯は刻みによる凹凸が施される。口縁部文様帯は突起から垂下する凹凸を持ったつまみ状の隆帯によって区画され、各区画内は2本の結節沈線によるラフなモチーフが施されると思われる。胴部の区画内は、2本1組の沈線による波状文などやはりラフなモチーフが施される。焼成は悪く脆弱な土器である。10、小型の深鉢。口縁部 $\frac{1}{4}$ 、胴部 $\frac{1}{2}$ 、底部欠損。

無文の深鉢。底部から口縁に向ってラップ状に開く。輪積痕は撫で消しており、外面の器壁は荒れている。内面に外傾の稜。

125号土壙(192図1・2)

1. 深鉢。覆土出土。完存。突起の一部剝落。

2種類の把手を口縁上に飾る装飾効果の著しい土器。口唇部は内折し、口縁部はゆるやかに内彎する。頸部から胴部上半にかけてカーブを描きながら落ち、下半においてやや膨らみ、底部にいたる。把手は正副2対の構成を取り、正は菱形で周縁に連続竹管文、ペン先状の刺突文を沿わせ、中央に円形の突起を付す。円形突起の外縁にもペン先状の刺突文が沿い、周りを三叉文が囲む。副は半円形の渦巻を基調とした把手である。内外面とも隆帯を右巻に巻いたもので、連続竹管文とペン先状の刺突文で飾られる。副把手の下位より橋状把手が設けられ、頸部の隆帯に繋る。菱形の把



192 土壇出土土器

20cm

手も下位の円形の突起で頸部隆帯と接続する。口縁部文様帯は、4個の耳状突起を配す。この突起間は、剝落しており判然としなないが三叉文や鋸歯状のペン先状の刺突文で囲まれた何らかの突起が付されたのであろう。頸部は、刻みを持つ隆帯で画されるが、無文である。胴部文様帯は、2段に分かれる。1段目の正面は蛇行する隆帯、背面は三角の空間を造りだす隆帯で構成される。正・背面の隆帯は接する点で右に巻く。隆帯によって生じた空間は三叉文、鋸歯状のペン先状刺突文で埋められる。2段目の文様帯は、隆帯貼付による円形のモチーフを直・曲線の隆帯が繋ぐ。空間は1段目と同様に三叉文や鋸歯文が充填される。底部上端との区画は隆帯が巡る。以下は無文である。内面煤付着。逸品である。

2. 深鉢。覆土出土。胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

環状突起を中心として、隆線と幅広の撫でを加えた隆帯が巴状のモチーフを描くのであろう。隆帯には、2本の太めの沈線が沿い、空白部には、同様な数条の沈線が縦位あるいは弧を描く。

126号土壙(193図1・2)

1. 深鉢。覆土出土。口縁～頸部 $\frac{1}{2}$ 、胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

おそらく平縁であろう。口縁部は内彎し直線的な胴部と1条の隆線で画される。2・3条の沈線で画された口縁部は、縦位の平行沈線が密に施される。頸部は無文である。頸部の隆線の両脇には2条の沈線が沿う。胴部文様帯は、やはり沈線で矩形の区画をなすと思われる。区画内は、ペン先状の連続刺突文、小型の半截竹管文が区画に沿い、半肉浮彫的手法による鋸歯状文が沈刻される。

2. 浅鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口唇部の平坦面のみ残存。口唇部端部は垂れ下がり、彎曲しながら体部に至るのであろう。内面は丁寧な磨かれるが、外面は雑である。

130号土壙(193図3)

3. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

胴部下半より垂下した刻みを施す隆帯が、底部上端の楕円杵状文に接する。杵状文は、細粘土紐を貼付ることによって作りだされ、雑な仕上げである。

133号土壙(193図4・5)

4. 小型の深鉢。壙底出土。口縁部欠損。

口縁部は開くのであろう。胴部は直線的に落ち、底部外方に開く。頸部に波状隆帯が2条平行する。胴部文様帯は集合沈線による意匠文を主体とし、各モチーフの間に生じる隙間には、三角・円形等の印刻が埋められる。単位は渦巻文をa、斜位の楕円文をb、三角文をcとすると、 $A(a+b)+A'(a'+b')+c$ の2単位+1の構成をとる。文様は底部端部にまでは及んでいない。内面は雑な磨きを施す。

5. 小型の深鉢。壙底出土。波頂部2個欠損。

波状口縁を呈し、波頂部は4個設けられる。胴部下半で、僅かな凹凸はあるが、直線的に開く器形を呈す。器面全体をLR・RLの結節縄文が覆う。原体は長く、5cm前後であろうか。結束第1種で片端をZ字状、1方をS字状に縛った結節回転文である。内面は磨かれ、下半に煤が付着する。また外面の口縁～胴部上半にかけても煤が認められる。

135号土壙(193図6・7)

6. 小型の深鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 、頸部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 欠損。

口唇部は内折する。口縁部は直立し、頸部以下ならかに落ちる。口縁部文様帯は、横方向の沈線が主体となるが判然としなない。頸部の文様帯は無い。胴部文様帯は、縦方向の太めの沈線で分割され、空間は同様の沈線で意匠文が描かれる。底部端部にまで文様が及ぶ。内面は黒褐色を呈し、よく磨かれている。

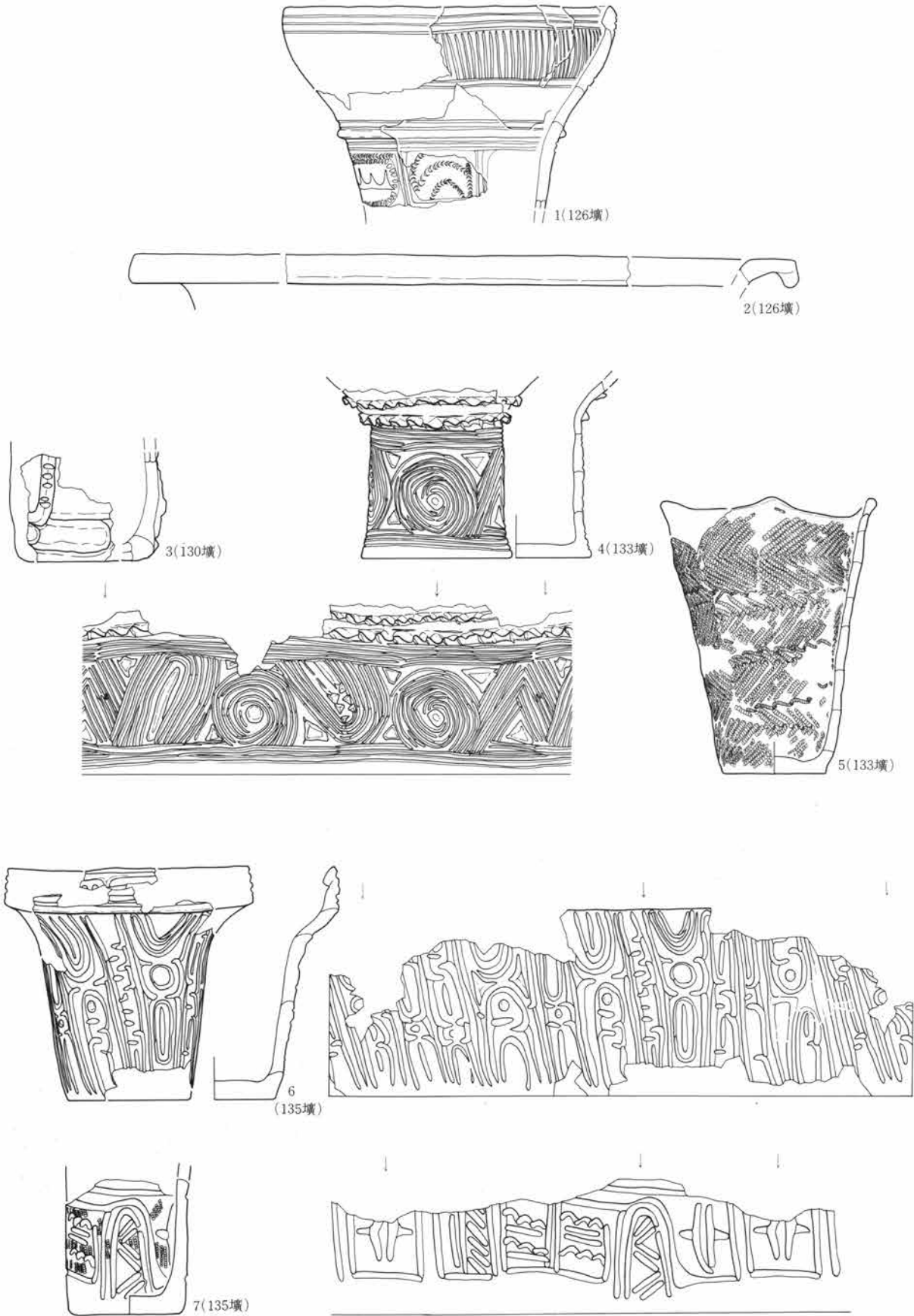
7. 小型の深鉢。壙底直上出土。胴部下半～底部残存。

直線的に落ち筒状を呈す。地文にRL縄文を施し、太めの沈線で方形、 \cap 字状の区画をなす。方形の区画内には、三叉文を2対配するものと、波状沈線と短沈線を埋める二者がある。 \cap 字状の区画内は2条の短沈線が鋸歯状に垂下する。 $A(a+a'+c)+B(b+b'+c)$ の2単位構成であろう。

137号壙(194図1)

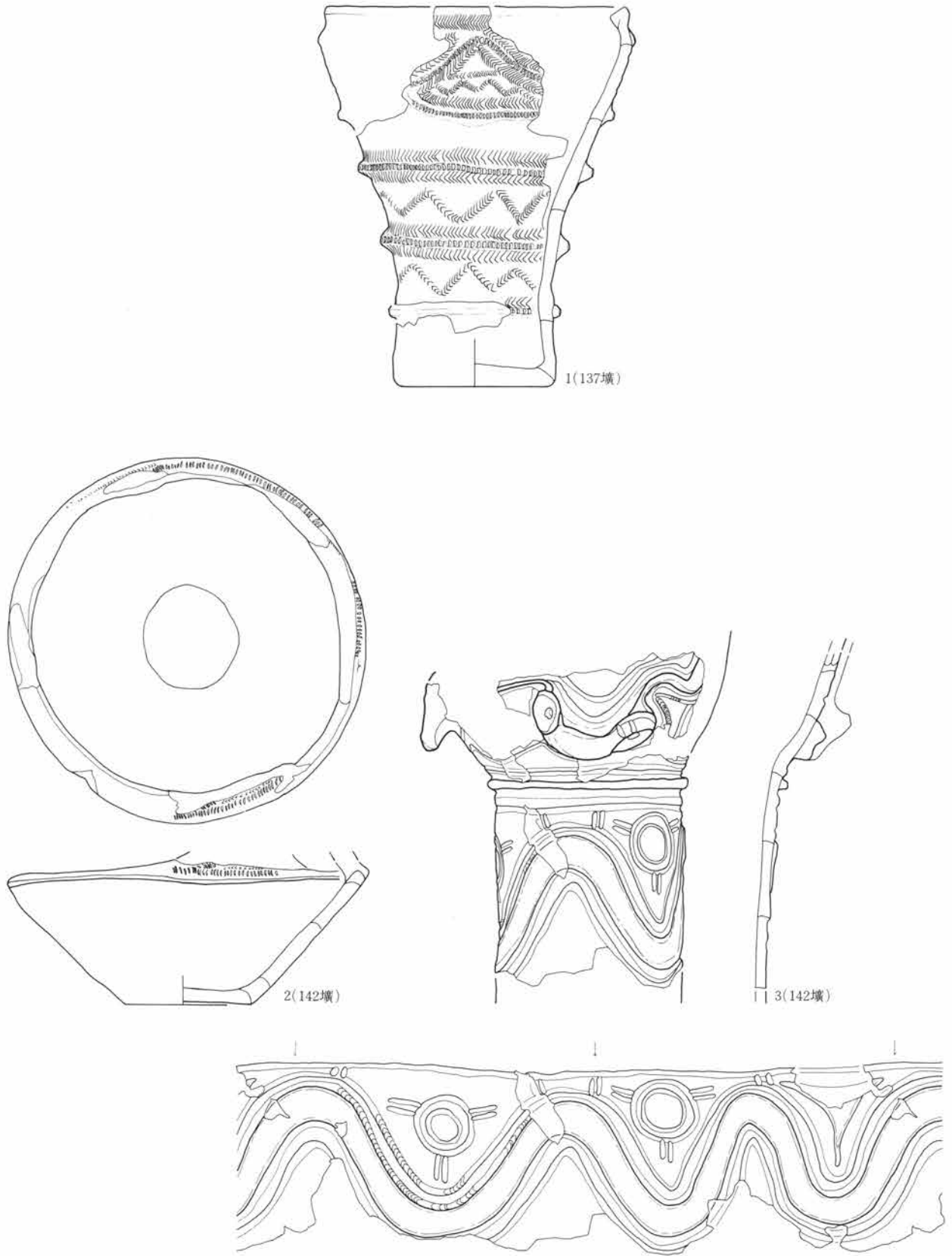
1. 深鉢。覆土出土。口縁 $\frac{1}{2}$ 、頸～胴部 $\frac{1}{4}$ 、底部残存。

口縁部は緩やかに内彎し、胴部は反り気味に落ち、底部は若干開く。口縁部文様帯は隆帯により三角杵、半楕円?の区画を交互に配するのであろう。区画内は、細かいペン先状の刺突文が沿い、同一工具による波状



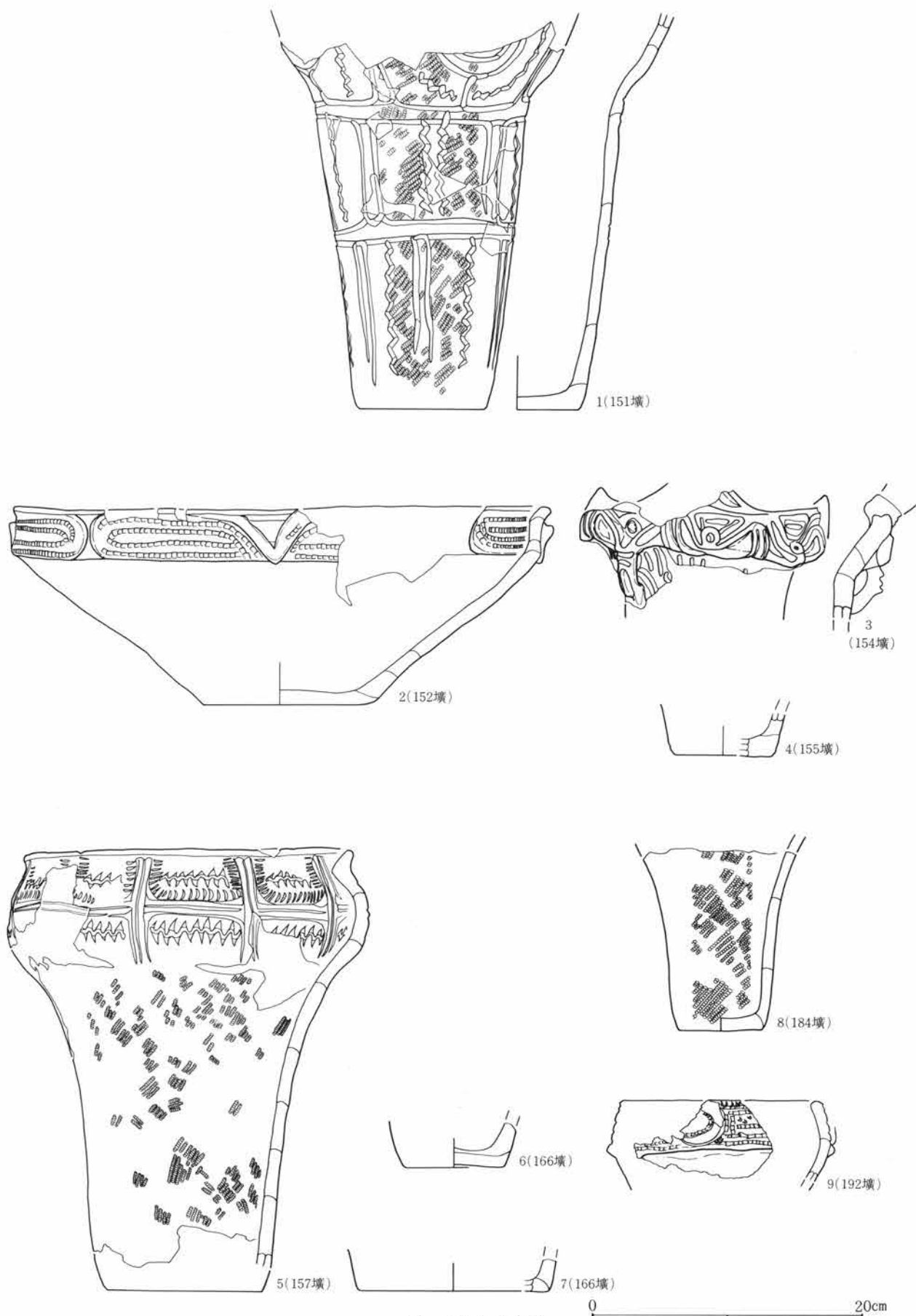
193図 土壇出土土器

0 20cm



194図 土壇出土土器

0 20cm



195図 土壇出土土器

第IV章 遺構と遺物

文も見られる。頸部は無文である。胴部文様帯は、3本の核みを持つ隆帯によって横帯区画され、2文様帯を持つ。隆帯の両脇は、大きめのペン先状刺突文が沿い、両文様帯内とも小型のペン先状の刺突によって、横位の波状文が施される。全体に脆弱な土器であり、調査時に含侵処理を施した。

142号土壙(194図2・3)

2. 浅鉢。壙底出土。突起を欠損。

突起は2対配されると思われる。欠損後も使用されており、口唇部は磨滅している。口唇部は面を持ち、極端に内折する。所々に幅広の半截竹管文を疎らに連続させ、ペン先状刺突文も施される。内外面とも丁寧に研磨するが、全体にポツリした感の土器である。

3. 深鉢。壙底出土。頸部 $\frac{1}{2}$ 、胴部残存。

胴部は直に立ち、頸部で外へ屈曲し、口縁部は内彎すると思われる。頸部文様帯は、環状突起を付し、隆帯でその間をつなぐ。隆帯に沿ってやや太めの沈線が1～2条沿う。胴部と頸部の境には隆帯を1条巡らし、2条の沈線が両脇に沿う。胴部には幅広の隆帯が大きく波状に付けられ、空間に円形の意匠文が配される。円形文には2本1組の沈線が3個接する。その他、三叉文も充填される。隆帯脇の2条の沈線は一部において連続竹管文となり、沈線の工具が背圧によるものであることが看取される。

151号土壙(195図1)

1. 深鉢。覆土下位出土。口縁部欠損。

口縁部は丸みを帯びて開き、胴部は直線的に落ちるキャリパー形の深鉢。地文に縄文LRを施す。口縁部、胴部文様帯は、棒状工具による2条の沈線で区画される。口縁部の区画内は、沈線による二重円・渦巻?のモチーフが描かれ、4単位を配す。胴部文様帯は2段設けられる。各段とも7区画され、区画内は、鋸歯状の沈線が1条垂下する。1区画のみ2条平行して垂下するが、正面であろうか。内面は磨かれている。

152号土壙(195図2)

2. 浅鉢。口縁～体部約 $\frac{1}{2}$ 欠損。

口縁部はやや内傾し、口唇部が外反する。口縁部文様帯は、V・X字・円環状の隆線で区画され、その間を太めの結節沈線で横位施文する。内面の横磨きは丁

寧である。

154号土壙(195図3)

3. 小型の深鉢。覆土出土。口縁～頸部 $\frac{1}{2}$ 残存。

平縁を呈し、口唇部上に突起を付す。口縁部はやや外傾し、頸部は突出して口縁部文様帯を画する。頸部～胴部上半を小型の橋状把手で繋ぐ。口唇部端部には、1条の沈線が彫り込まれ、溝状となる。口縁部文様帯は、短沈線を縦位に施す瘤状の小突起が等間隔に配され、方形の区画を連続させる。区画内は、円形の貼付文を付し、円形の下端から細隆線が瘤状突起に延びる。細隆線に因って形成された半楕円の空白には、やや太めの沈線が沿い、短沈線となって横位に施文される。橋状把手は、2本の粘土紐を合せて撫で、横位に刻みを施したもので、やや粗雑な作りである。頸部下には短沈線を縦位に連続させ、橋状把手の下端を巻くように2条の沈線が施される。

155号土壙(195図4)

4. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

端部は丸みを帯び、直立気味に立ち上がる。底部と比して胴部の器肉は薄い。内面に少量の煤付着。

157号土壙(195図5)

5. 深鉢。壙底直上出土。口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。底部欠損。

口縁部は膨らみ曲線を保ちつつ胴部にいたるキャリパー形の深鉢。口唇部は僅かに外傾する。口縁部文様帯は、半截竹管による3条の沈線で矩形の区画文が2段配される。区画内は幅広の竹管文によって縁どられ、鋸歯状沈線文が施される。胴部はRL縄文が横位・斜位とまばらに施され、施文後簡単に撫でられている。口唇部は内面で内折するが、稜を持つほどではなく丸みを帯びる。

166号土壙(195図6・7)

6. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{2}$ 残存。

丸みを帯び、開き気味に立ち上がる。底面は僅かに上げ底状で、端部は鋭い。

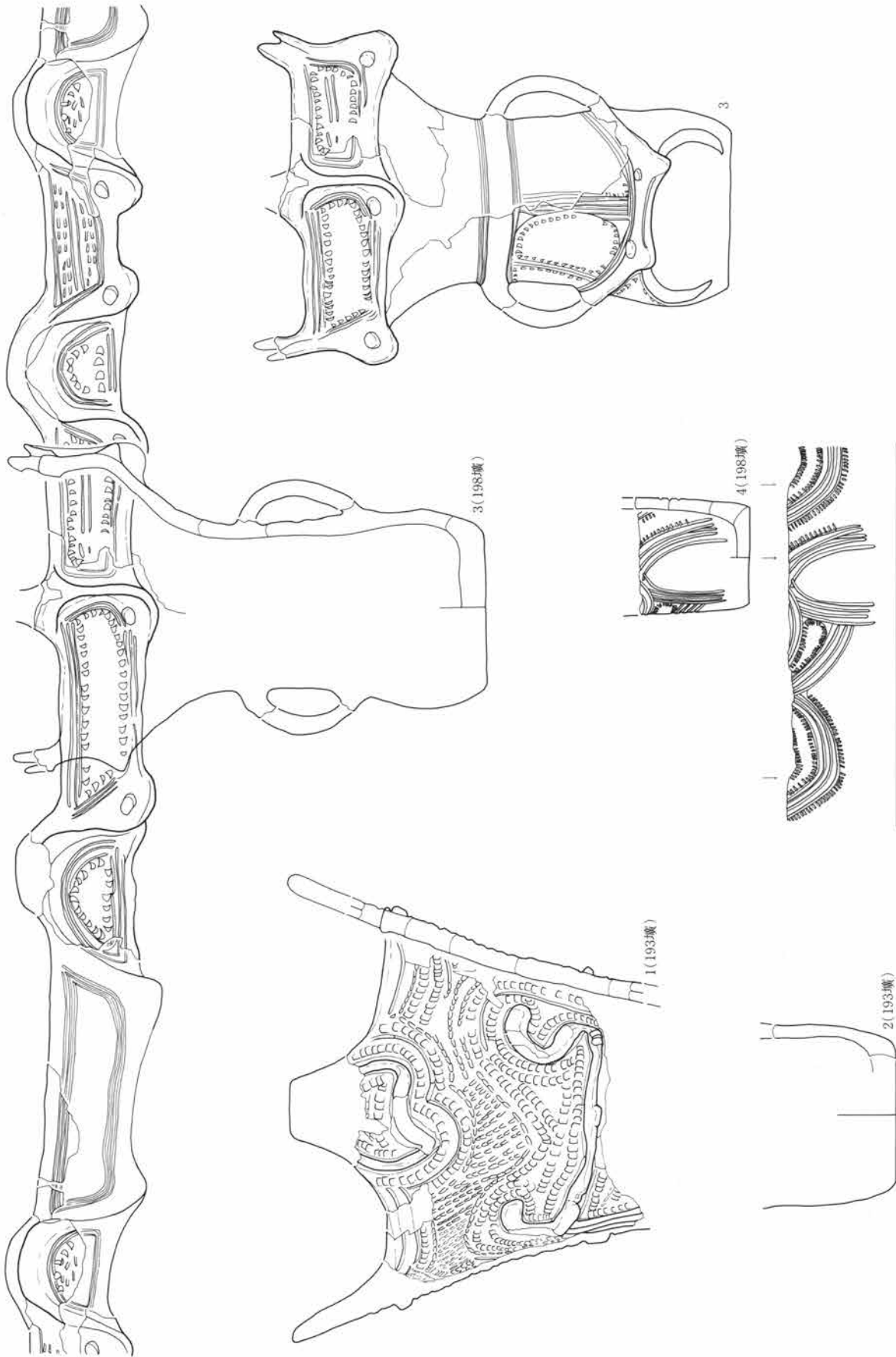
7. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

大型の底部だが器肉は薄い。底面は平滑である。

184号土壙(195図8)

8. 小型の深鉢。壁際出土。胴～底部残存。

胴部上半で緩やかに開き、下半では僅かな膨らみを



196図 土壙出土土器

持たせる器形。器面全体にLR縄文を施す。内面に少量の煤付着。

192号土壙(195図9)

9. 小型の鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

突起を付すのであろうか、口唇部は若干彎曲する。口縁～胴部上半は内彎し、頸部の断面三角形の隆線で口縁部文様帯を画する。口縁部文様帯には、蛇行隆線が付せられ、文様帯を分割するのであろう。隆線に沿って、1・2条の結線沈線が施され、区画内も結節沈線が充填する。

193号土壙(196図1・2)

1. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

波状口縁の深鉢。山形の突起となるのであろう。口唇部と波頂部モチーフ下端に1・2条の沈線が沿う。口縁以下胴部にかけて1文様帯である。波頂部には隆線が垂下し、幅広の隆帯で結束する。胴部中位でも隆線とC字状を描く幅広の隆帯を構成する。隆線には垂下するもの、幅広隆帯を連結するものがある。隆帯、隆線に沿って幅広の角押文が連続し、また一部には、結節沈線が斜位に充填される。全体にポツリした土器で分厚く、多孔質である。

2. 深鉢。覆土出土。胴部下半残存、底面欠損。

底部端部は丸みを帯び、胴部下半もなだらかな曲線を描く。やや砂質。

198号土壙(196図3・4)

3. 深鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{4}$ 、胴部～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口唇部上に突起を4個付す。そのうち3個は∩字状の突起であり、残りの1個は欠損のため不明。口縁部は僅かに内傾し、頸部は隆帯で突出する。頸部～胴部上半は緩やかに外反し、欠損しているが橋状把手を2対設ける。胴部下半で丸みを帯びて終束する。∩字状の突起は隆帯で二重構造となり、内側の隆帯は頸部で半円の突起となる。突起内は、円形の凹文が沈刻される。この凹文は、∩字状突起の内面にも付される。口縁部文様帯の区画は、半円、矩形の区画をなし、区画内は3条の沈線が内側を沿い、D・逆Dの半截竹管文が連続する。頸部は幅の広い無文帯である。胴部と頸部は1条の隆帯で分けられ、胴部文様帯も波状隆帯が橋状把手を中心に巡るため2段構成をとる。上位の文

様帯は、3本1組の細沈線で方形に区画され内側を口縁部のそれよりやや小型の半截竹管文が沿う。下位の文様帯と画する波状隆帯は、波底部において2個の三角突起となって突出し大きなアクセントとなる。この突起にも口縁部と同様な円形の凹文が施される。下位の文様帯は、2本の蛇行隆帯が対称的に垂下する。1区画のみ、小型の半截竹管文と細沈線が隆帯に沿う。

4. 小型の深鉢。壙底直上出土。胴下半～底部残存。

4条の沈線とそれに沿う小型の半截竹管文で∩字状・弧状のモチーフを描く。底部端部は削り込まれており、比較的しっかりした造りである。内面は煤が付着する。

201・203号土壙(197図1)

1. 浅鉢。覆土出土。口縁～体部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

双波状口縁を呈する。口縁部下位で屈曲し、体部上半で膨らむ。屈曲部内面には稜を持つ。外面は横位横磨き。内面は密な磨きを施す。

204号土壙(197図2)

2. 深鉢。壁際覆土出土。胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

緩やかに開く胴部形態を呈す。胴部上半より幅広の撫でを加えた隆帯が渦を巻く。渦の下端の瘤状の小突起より分岐垂下した隆帯で菱形の区画を配す。隆帯には小型の半截竹管文、沈線が沿い、空白部は沈線による格子目文、斜位の結節沈線文が施される。

208号土壙(197図3)

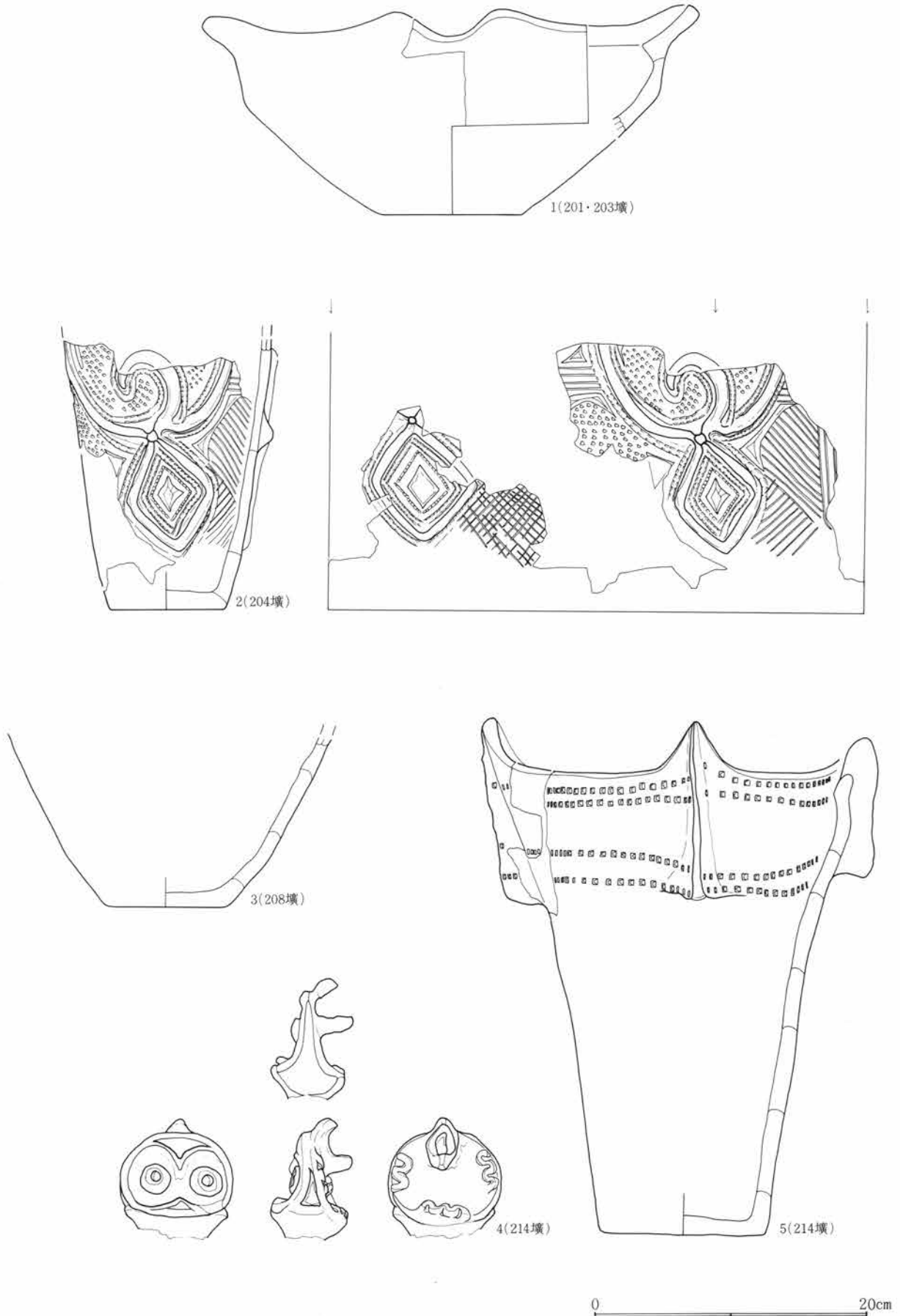
3. 浅鉢。覆土出土。体部下半～底部残存。

丸みを帯びて立ち上がる。内面も丸みを帯びる。内稜を持ち、丁寧に磨かれる。外面も底部上は縦方向の磨きが施される。

214号土壙(197図4・5)

4. 顔面突起。壙底直上出土。

人面であろうか。楕円状の粘土板上部を合せ、下半を開き、側面形は二等辺三角形の中空突起である。正面、裏面とも丁寧に撫でを加え凹面とする。正面は円形の眼を持ち、撫でを加えた隆線で眉毛と三叉状の口の表現をなす。裏面は、三方の縁辺に蛇行隆線を貼付し、上端に嘴状の突起を付す。正面は顔表現であるが、裏面は正反対の表象である。後頭部の表現とすれば、蛇行隆線、嘴状突起は髪型となるのだが我々の具象観



197図 土墳出土土器

第IV章 遺構と遺物

念を押し付けることは避けたい。しかし、一部に赤色塗彩の痕跡が残り、朱色の映えた珠玉の作品であろう。

中期前半の顔面突起、土偶などに見られる顔表現では、中部山岳地方のものが著名であるが、本資料はやや“顔付き”が違い、柔和な情感を語りかける。地域の個性であろうか、群馬県での類例では十二原II遺跡J-8号住に同様な突起が出土している。

5. 深鉢。墳底出土。ほぼ完形。

突起より断面三角のつまみ状の隆帯が垂下し、頸部において鼻高に纏まる。口縁部文様帯は2列の角押文が横位に連続する。胴部は無文である。焼成はやや脆弱な感じがする。口縁部～胴部上半の一部、底部内面に煤が付着する。

220号土壙(198図1)

1. 深鉢。墳底直上出土。胴部 $\frac{3}{4}$ 、底部完存。

円筒形の胴部形態を呈す。3条の半截竹管状工具による沈線が平行四辺形の区画をなし、数段の文様帯を構成するのであろう。区画内は、幅広の半截竹管文が沿い、三叉文やペン先状刺突文が施される。底部は無文である。非常に丁寧な作りの土器である。内面には少量の煤が付着する。

224号土壙(198図2～5)

2. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{3}{4}$ 残存。

開き気味に立ち上がり、底面は平滑である。内面中央はやや盛り上がる。

3. 浅鉢。覆土上位出土。体部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

比較的器肉は厚く、やや軟質。底部端部は鋭く立ち上がり、内外面とも磨きを施さない。

4. 小型の深鉢。覆土上位出土。口唇～胴部の一部、底面 $\frac{1}{2}$ 欠損。

口唇部に楕円状の小突起を2個配し、緩やかに開く器形を呈す。口唇部の突起は縁辺に刻みを施し、ペン先状の刺突文を充填したものを主とし、棒状工具でやや大きめの刻みを口唇に直に施した突起を副とする。主突起は扇状把手の退化したものであろうか。主突起の両端より胴部下半に延びた隆帯は、胴部上半の瘤状の突起で接する。垂下した隆線は口縁に向って弧状に続き三角あるいはいびつな円の区画をなす。隆線に沿って1～2列の結節沈線が施される。区画内は、細

沈線、やや太めの沈線、結節沈線によって充填される。

5. 浅鉢。覆土上位出土。

極緩やかな波状縁を呈し、上面観は三角形に近いいびつな不正円である。口縁部の造りも粗雑で、疑口縁であろう。内外面とも撫で調整のみで、3と同様に他の浅鉢と種類が違うようである。

227号土壙(199図1・2)

1. 深鉢底部破片。覆土出土。

直立気味に立ち上がる。端部は丸みを帯びる。軟質。

2. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

丸みを帯びて直立気味に立ち上がる。やや軟質で、内面には少量の煤が付着する。

232号土壙(199図3)

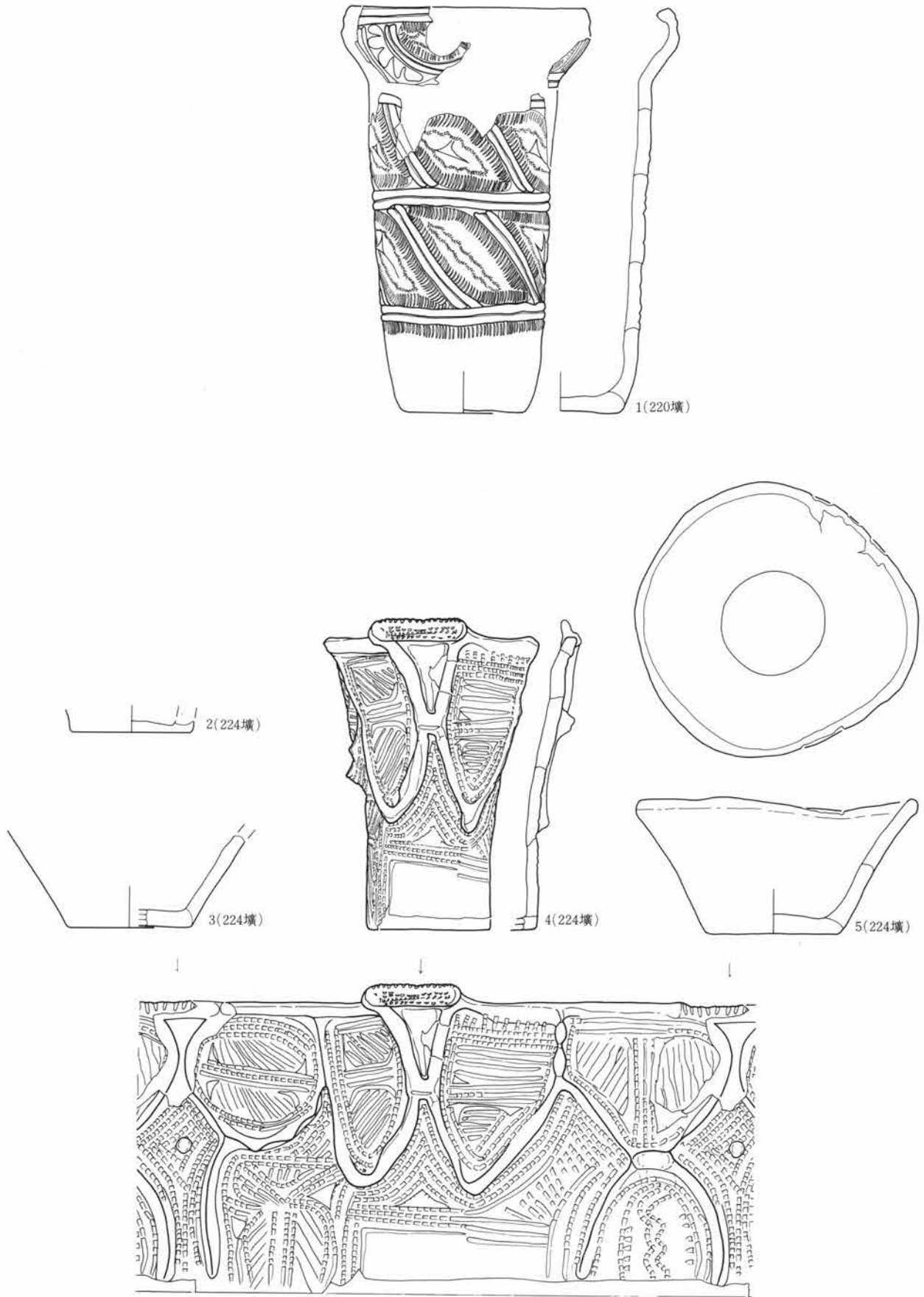
3. 小型の深鉢。覆土上位出土。底部 $\frac{1}{2}$ 欠損。

平縁を呈す。口縁部は緩やかに内彎しながら開き、胴部は筒状を呈す。口縁部文様帯・胴部文様帯は4条の沈線が巡り分帯される。口縁部文様帯は、垂下する半截竹管工具の沈線によって小区画され、9区画を数える。区画内は、細いペン先状の刺突によって、木葉状のモチーフ(A)・4条の沈線(B)が各4区画配され、1区画に意匠文(C)が施される。単位構成としては、 $4(A+B)+C$ である。2単位+ α と言えよう。胴部文様帯は、沈線によって3段に分帯される。上段は小型の半截竹管文が分帯する沈線に沿い、細いペン先状刺突によって波状沈線文が2状巡る。所々に短い沈線を2条施すが、V群土器の短沈線の影響であろうか。中段は、3・4条の沈線が半円のモチーフを描く。モチーフ内は4条の沈線が垂下し、ペン先状の刺突による意匠文が施される。 $A+A'$ の2単位である。3段目は欠損部が多いため判然としないが、おそらく4条の垂下沈線が1組となり、数単位配されるのであろう。内面の磨き著しく、煤が胴下半～底面に少量付着する。

234号土壙(199図4)

4. 浅鉢。覆土出土。体部～底部端部 $\frac{1}{4}$ 残存。

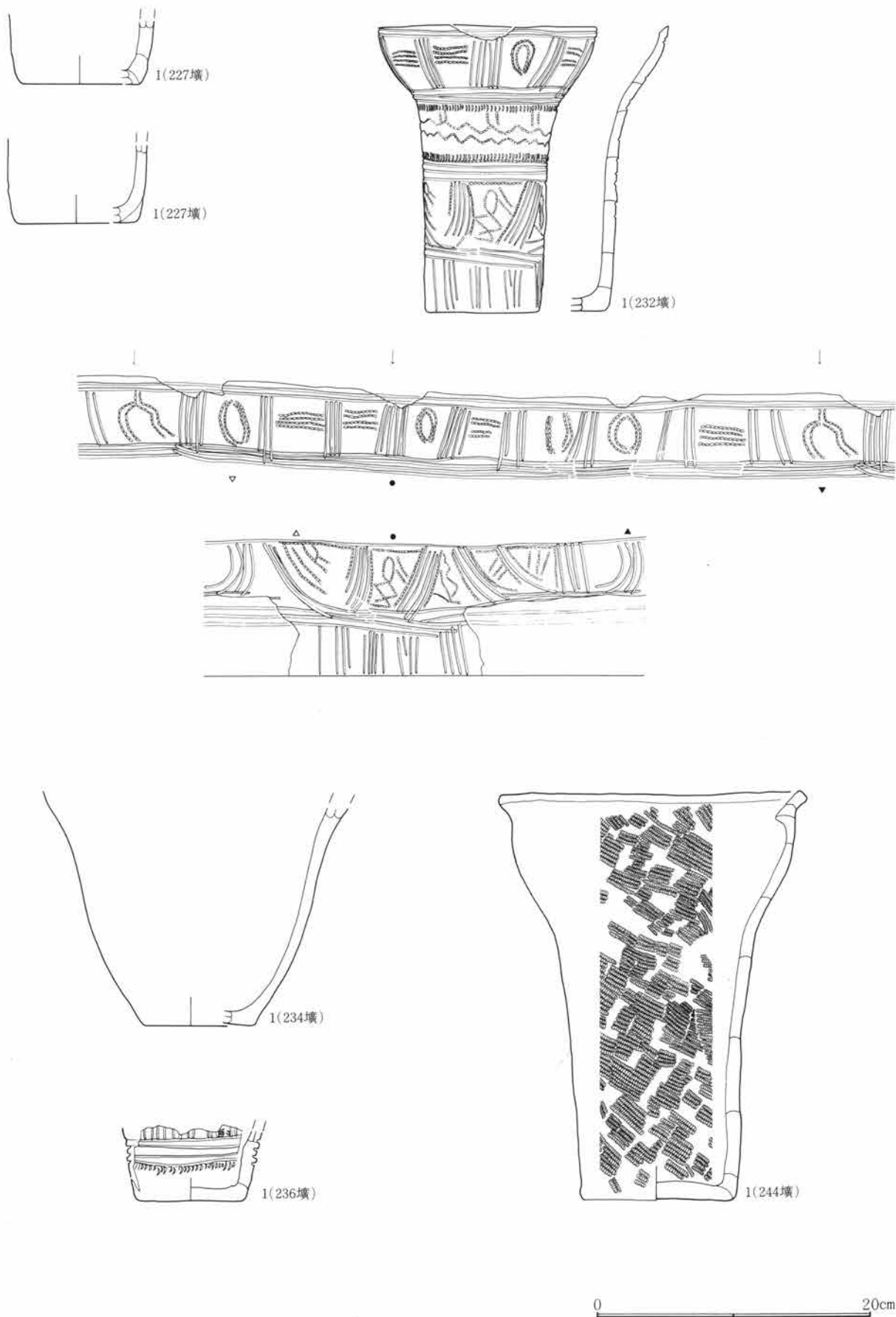
上半は僅かに外反し、下半にかけて緩やかに膨らむ。無文で、外面は雑な整形であるが内面は丁寧に研磨される。



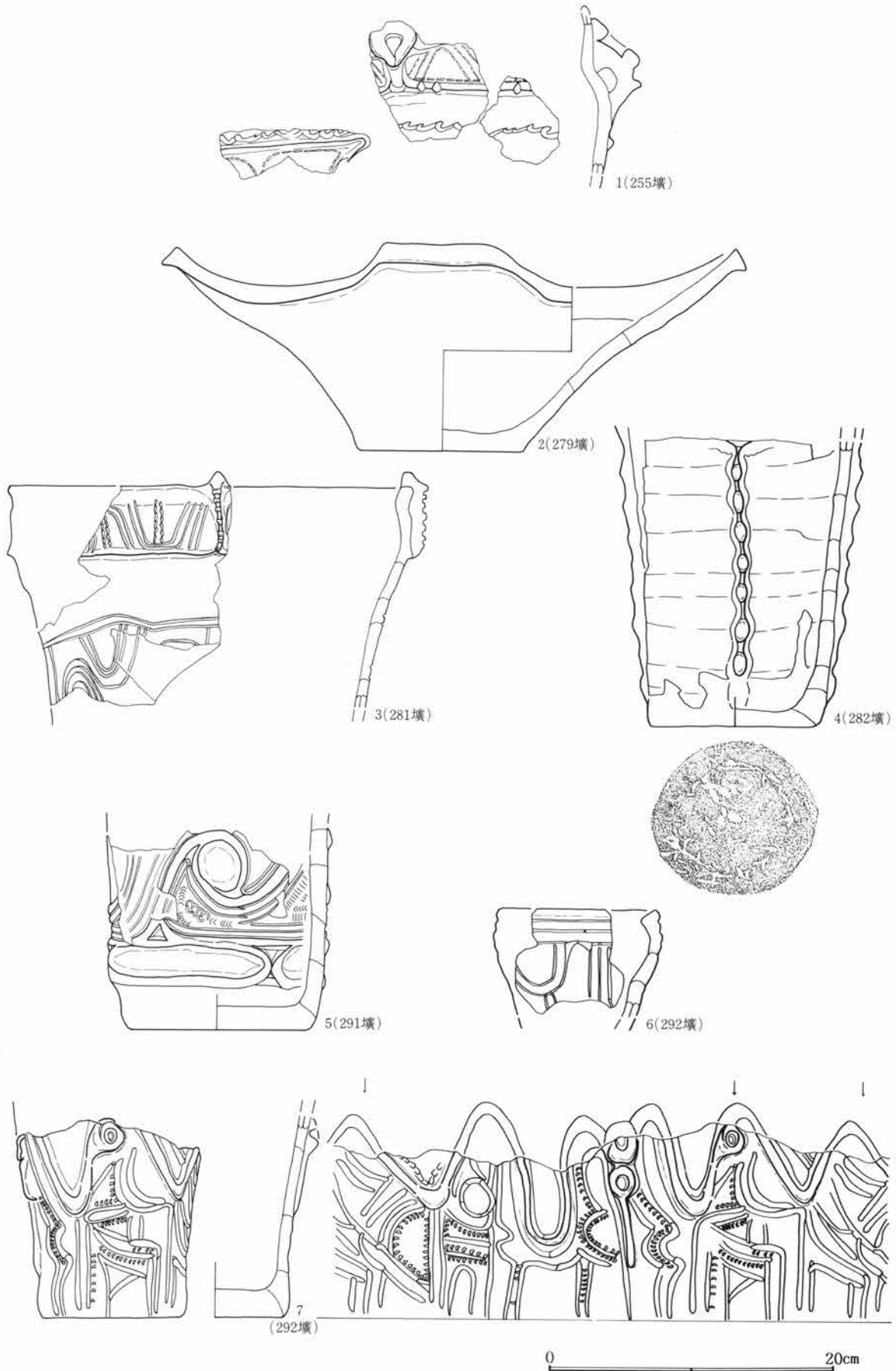
198図 土境出土土器

0 20cm

第IV章 遺構と遺物



199図 土墳出土土器



200図 土壇出土土器

236号土壙(199図5)

5. 深鉢。壙底直上出土。底部のみ残存。

小型の底部である。底部端部上には4条の沈線が巡り、最下端の1条には、半截竹管が沿い刺痕列が施される。胴部下半は、沈線によって縦区画され、やはり刺痕列が沿う。

244号土壙(199図6)

6. 深鉢。壙底直上出土。口縁～胴部上半残存。

口唇部は外傾し、内面で稜を持つ。口縁部は膨らみを持ち、胴部は直線的に落ちる。器面全体をRL縄文を密に施す。内面の胴下半部には煤が付着する。

255号土壙(200図1)

1. 深鉢。覆土下位出土。口縁～胴部上半残存。

口縁部は緩やかに内彎する。器肉は薄い。円環状の突起を付し、突起と頸部隆線を橋状把手で結ぶ。頸部隆線は口縁部文様帯を画し、所々に刻みを施す。口縁部文様帯内は結節沈線で三角形モチーフが連続するのであろう。頸部文様帯は波状沈線が1条巡る。頸部文様帯と胴部文様帯間はやはり隆線で画され、その隆線から垂下隆線が派生し、胴部を分割するのであろう。胴部には単列の結節沈線文が看取される。

279号土壙(200図2)

2. 浅鉢。壙底出土。口縁部の一部が欠損。

山形(八)の波状口縁浅鉢。4単位。口唇部は外折し、15mm程の面を持つ。内面体部上半に稜を持たせる。内外面磨き。口唇部の一部に赤色顔料が僅かに残存するが遺物取り上げ時には体部にもその痕跡が確認されている。

281号土壙(200図3)

3. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半残存。

扇状把手を付し、平縁を呈する。口縁部は緩やかに内彎し、頸部で僅かに括れる。口縁部文様帯は扇状把手と頸部隆線で画され、区画内は平行沈線によるU字状の連続モチーフが交互に配される。モチーフの中位には平行波状沈線が垂下する。頸部は無文帯で、胴部文様帯との境には平行沈線が横走することによって分帯される。胴部文様帯は数段の文様帯に分帯されるが、上段のみ看取でき、口縁部文様帯と同様にU字状モチーフの交互連続が施される。

282号土壙(200図4)

4. 深鉢。壁際出土。口縁部欠損、底部 $\frac{1}{2}$ 欠損。

垂下するY字状の隆線によって区画される。隆線は指頭による凹凸が連続する。胴部には、輪積痕が薄く残るが、文様効果を意識したものではなさそうであろう。乱雑に器面を撫でている。やや粗雑なつくり。内面には少量の煤が付着する。

291号土壙(200図5)

5. 深鉢。壙底直上出土。胴部下半 $\frac{1}{2}$ 、底部残存。

円筒形の胴部形態を呈する。底部端部は丸みを帯びる。胴部文様帯は隆線を巴状に貼り付け、中核に円環状のモチーフを配する。隆線には半截竹管による平行沈線が沿い、隆線によって区画された三角状の区画内は、キャタピラ文、ペン先状刺突文が施される。胴部下端の文様帯はX字状の細隆線で分割され、楕円棒状文を4単位配する。脆弱な土器で、内面には煤が多量に付着する。

292号土壙(200図6・7)

6. 小型深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半残存。

口唇部は内傾し内稜を持たせ、口縁部は内彎する。口縁部に3条の平行沈線を横走させ、胴部は同様の沈線を垂下させる。また、U字状のモチーフを描く。地文にRL縄文を施す。内面に少量の煤が付着する。全体に丸みを帯びる。

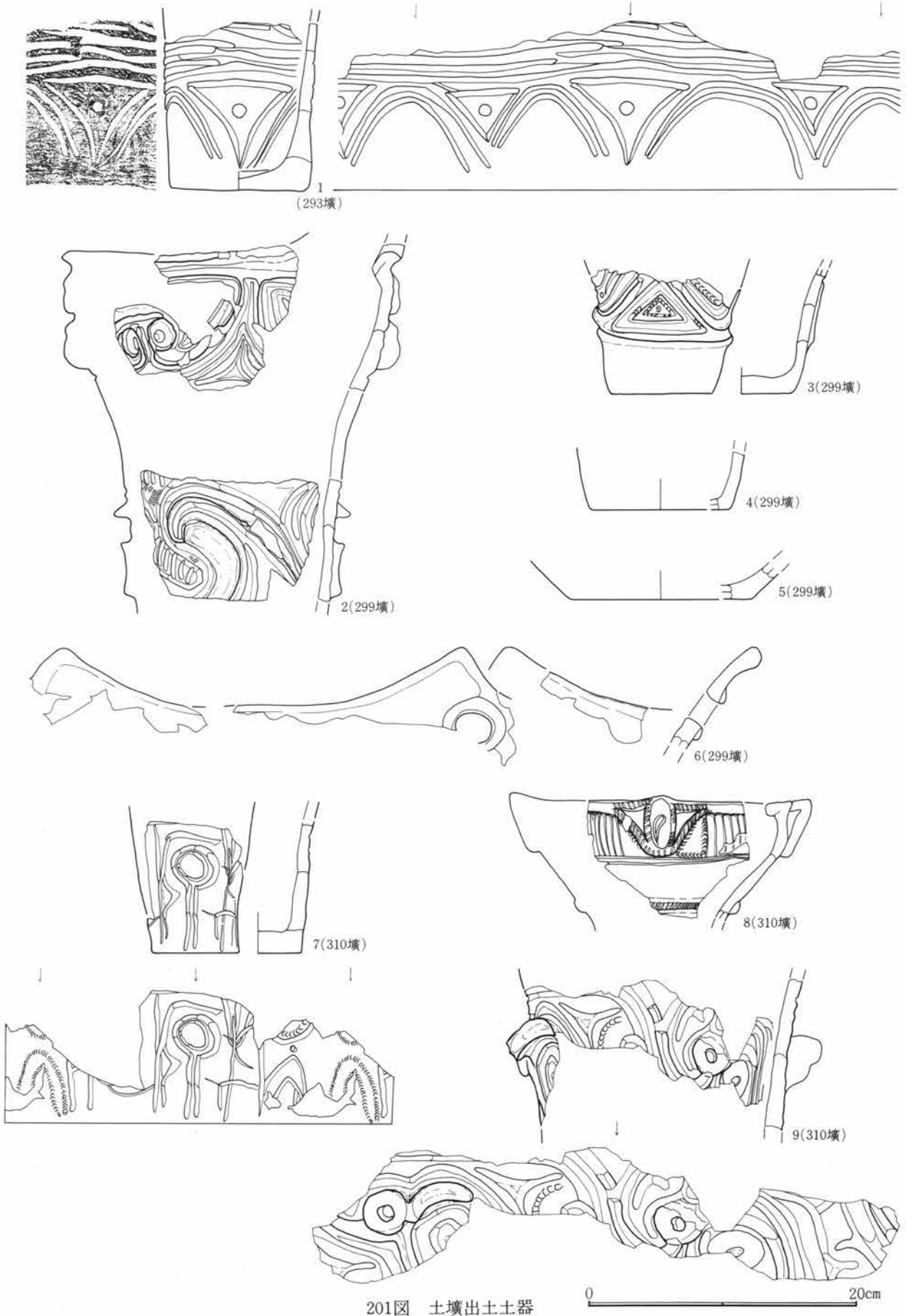
7. 深鉢。壙底出土。胴部下半～底部残存。

胴部は、緩やかに開き下位において若干の膨らみを持たせる。隆帯が波状を描き、波状の下端がV字状になるもの、U字状になるもの、垂下するものがある。隆帯の各所に円形の小突起を付すのであろう。波状文の上側は、1条の沈線が沿う他は施文されていない。波状の下側～底部上端まで太めの沈線や棒状工具による刺突文が充填される。

293号土壙(201図1)

1. 深鉢。壁際覆土出土。胴部下半～底部残存。

地文に無節縄文rを施す。幾条もの浅い太めの沈線で胴部上半・頸部?と分帯し、下半の文様帯は、やはり沈線で弧状のモチーフと三角のモチーフが3単位配される。三角のモチーフ内には小円が印刻される。全体にシャープさに欠ける土器である。



201図 土壇出土土器

299号土壇(201図2～6)

2. 深鉢。覆土下位出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

復元実測。波状口縁を呈す。口縁部は僅かに内彎し、緩やかな曲線を描き胴部にいたるのであろう。口唇部は隆線が巡り、幅狭の無文帯が平行する。口縁部文様帯は、双環状突起を中核として隆線が巴状モチーフを描き、太めの沈線が沿う。空白部には、三叉文が沈刻される。胴部文様帯は、隆線から発達した幅広の隆帯が弧状に付せられ、沈線が沿う。空白部には短沈線が数条施される。

3. 小型の深鉢。覆土下位出土。胴部下半～底部残存。

下半から上半にかけてやや反り気味の器形を呈す。1条の隆帯が底部上端に巡り、下半の無文帯と画する。上半の文様帯は隆線による三角区画の交互配列で6区画を数える。三角の区画内は沈線と棒状工具による連続刺突文が隆線に沿って三重に設けられる。三角の中位、域は頂部に小円の刺突を沈刻する箇所もある。内面には煤が付着する。

4. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{2}$ 残存。

直立気味に立ち上がり、底部の器肉は比較的薄い。

5. 浅鉢底部破片。覆土出土。

大きく開く。内面はなだらかに彎曲し、丁寧な磨きが施される。

6. 浅鉢口縁部破片。覆土出土。

大型の浅鉢だが、残存部に歪みがあり、径は測りだせない。双波状口縁で径2.5cm程度の孔が穿たれる。内外面とも丁寧な磨きを施す。

310号土壇(201図7～9)

7. 小型の深鉢。壇底直上出土。胴部～底部 $\frac{2}{3}$ 残存。

雑な作りの土器。胴部上端でやや外反する。底部端部も僅かに開く胴部上端には1条の沈線が巡り、頸部と画すると思われる。胴部文様帯は、明瞭な区画がされておらず一文様帯である。沈線による二重円から2本の沈線が垂下するモチーフとそれに反するようにペン先状刺突によるU・ \cap 字状のモチーフが描かれる。基本的には2単位構成であろう。

8. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

緩やかな波状縁を呈し、口縁部は内彎する。頸部～胴部は直線的に落ちる。隆帯で囲まれた中空状の突起を

付す。突起は、正面が縦位楕円状、側面が三角形を呈する。突起の隆帯には、小型の刻みが施され、ペン先状刺突文が沿う。口縁部文様帯は半截竹管による平行沈線で画され、同様の平行沈線が縦位、斜位に充填される。頸部は無文帯を設け、1条の刻みを施す隆線で胴部と画される。

9. 深鉢。壇底直上出土。胴部破片 $\frac{2}{3}$ 残存。

胴部中位に環状突起を付し、突起を中核として、細隆帯が弧を描き、あるいは垂下する。太めの沈線が沿い、空間を三叉文、半截竹管文、沈線による円環状のモチーフなどが施される。比較的しっかりした作りの土器である。

324号土壇(202図1)

1. 浅鉢底部破片。覆土出土。

大きく開く。器肉は厚く、内面はなだらかに彎曲し、丁寧に研磨される。

332号土壇(202図2)

2. 深鉢。覆土出土。337壇と接合。胴部破片。

蛇行垂下する隆線と、横位の波状細沈線が施される。

333号土壇(202図3)

3. 深鉢底部破片。覆土出土。

大きく開きながら立ち上がる。内面もなだらかに彎曲し、底面は平滑である。

341号土壇(202図4・5)

4. 深鉢突起。覆土出土。

中空の突起である。縁辺を小型の半截竹管文の刻みで飾り、空間を半肉浮彫的手法で各文様を刻みこむ。交互刺突による波状文(連続コ字文)なども見られる。外面中位の円形の刺突は貫通している。内面は双環状突起が付され、一方は円環を呈さずやや楕円気味の形態である。

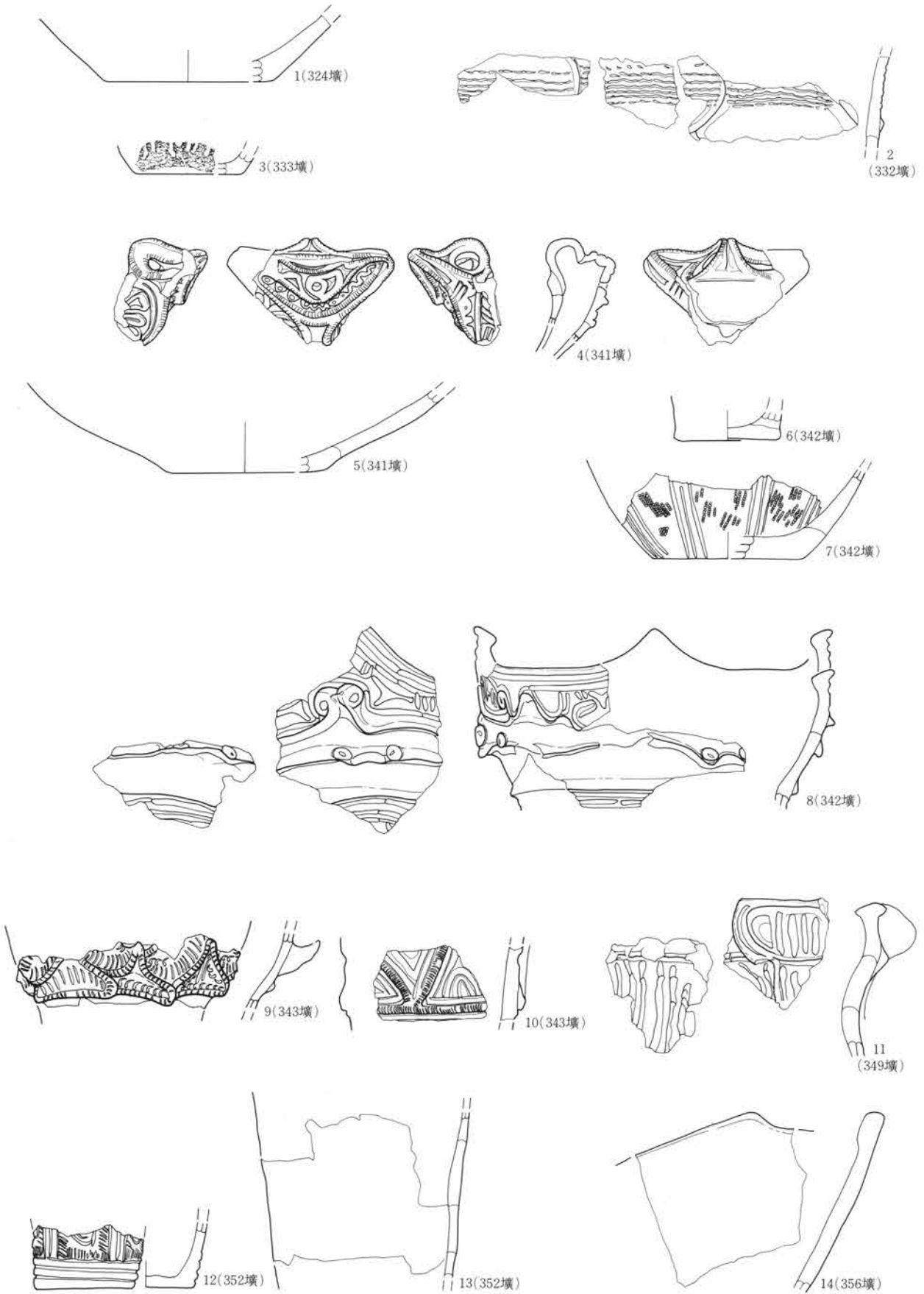
5. 浅鉢。覆土出土。体部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

やや反り気味に立ち上がり、体部中位で僅かな膨らみを持たせる。底面の摩滅著しい。内外面とも丁寧に研磨される。

342号土壇(202図6～8)

6. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{2}$ 残存。

直立気味に立ち上がる。底面は平滑で、端部は極僅



202図 土壇出土土器

0 20cm

第IV章 遺構と遺物

かに突出する。

7. 深鉢。覆土出土。胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

大きく開き、底部も厚めのため大型の深鉢と思われる。地文にRL縄文を斜位、横位に施文する。半截竹管による3条の沈線は、底部端部にまで及ぶ。

8. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上位 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部はやや内彎し、波状口縁を呈する。波頂部は欠損。口縁部は、波状隆線で画される。波状隆線は波頂下において双状に突出し、小円の貼付文が付される。口縁部文様帯は細隆線が横位に繋り、波状や渦巻状のモチーフを描く。また、波頂下は双環状の小突起が付されるのであろう。細隆線に沿って沈線が施され、2本1組の短沈線や三叉文が施される。頸部は無文である。胴部は判然としないが弧を描く隆線と、それに沿う沈線が看取される。

343号土壙(202図9・10)

9. 深鉢。覆土出土。口縁部下位～頸部のみ残存。

半截竹管文を施した隆帯で三角枠、半楕円枠を交互配列した口縁部文様帯である。枠内は幅広の半截竹管文、半截竹管の回転による小波状文が沿い、短沈線の縦位施文も見られる。頸部は、無文のようである。やや脆弱な土器。

10. 深鉢。壙底直上出土。胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

半截竹管文を施した隆線が三角形を描き、交互に配列されるのであろう。隆線に沿って半截竹管による平行沈線が走り、区画中位には三叉文や、半楕円文が描かれる。

349号土壙(202図11)

11. 深鉢口縁部破片。覆土出土。

口唇部が持ち上がることから突起が付されるのであろう。口縁部は外反し、頸部の屈曲部位で文様帯を作る。胴部は緩やかに外反する。口縁部文様帯は隆帯を橋状に付すことによって分割され、内部を太めの沈線で縦位に充填する。胴部も、垂下隆線に平行するように、沈線・刺突文が縦位に施される。

352号土壙(202図12・13)

12. 深鉢底部。壙底直上出土。

小型の深鉢であろう。3条の半截竹管による沈線が底部端部を巡り、同様の沈線で胴部を5区画縦位に分

ける。各区画内は、小型の半截竹管文が沈線に沿い、中央に何等かの意匠文が埋められるのであろう。

13. 深鉢胴部。覆土出土。中位約 $\frac{3}{4}$ 残存。

直立気味に開く胴部形態を呈するが判然としない。無文で縦方向の磨きが密に施されるが、内面は撫でのみである。

356号土壙(202図14)

14. 浅鉢口縁部破片。覆土出土。

双波状口縁を呈する。薄い内稜を持ち、内外面の磨きは丁寧である。

357号土壙(203図1・2)

1. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部がやや内彎するキャリパー形深鉢。口縁部文様帯上位には、双環状突起が付され、小突起が下位に付される。小突起は、振りを加えた突起に類似するが沈線を数条平行させることによって振りと同様の効果を生みだしている。突起間を結ぶ隆帯には、小型の半截竹管文が沿い、文様帯上位では半円形の区画が連続するようである。区画内は、三叉文と円形刺突文が充填される。双環状の突起の頭部には、円形の貼付文が付される。頸部文様帯は、無文である。胴部上半には、三角形の区画が連続する文様帯が設けられる。その下は、方形の区画などで構成されると思われる。胴部文様帯の区画内も、小型の半截竹管文と三叉文・円形の刺突文が充填される。

2. 深鉢。覆土出土。底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

開き気味に立ち上がる。内面はなだらかに彎曲し、丁寧な研磨を施す。無文で、器肉は薄い。身深の浅鉢の可能性もある。

361号土壙(203図3～5)

3. 深鉢。覆土出土。胴部下半～底部端部 $\frac{1}{2}$ 残存。

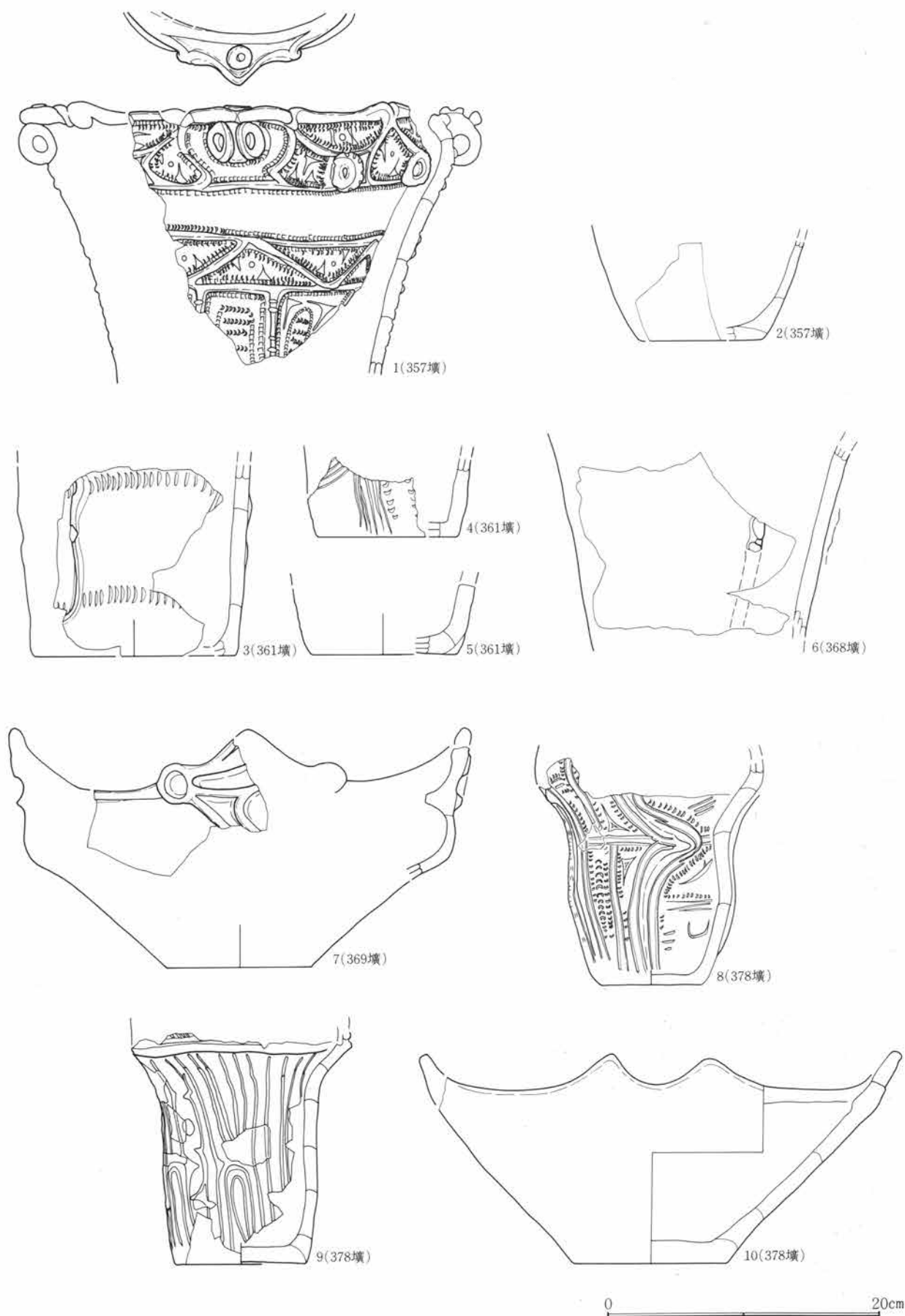
垂下隆線が波状に落ちる。爪形状の刻み目列が横位施文される。底面には僅かではあるが網代痕が看取され、おそらく大型の深鉢であろう。

4. 深鉢。覆土出土。胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

やや丸みを帯びて直立気味に立ち上がる。垂下する平行沈線、小型半截竹管による刺痕列が施される。

5. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

丸みを帯びて開き気味に立ち上がる。底面は僅かに



203図 土壙出土土器

上げ底状である。

368号土壌(203図6)

6. 深鉢。覆土出土。胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

押圧文を施した垂下隆線が貼り付けられる。他は、無文である。

369号土壌(203図7)

7. 浅鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口唇部は幅を持たせ、内折し大型の突起へ発達する。突起には、円環が内外面に付され、隆線で何等かのモチーフを描くのであろう。内外面とも丁寧に磨かれ、美しく成形されている。

378号土壌(203図8～10)

8. 深鉢。覆土出土。口縁部、胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損。

小型の深鉢。頸部に膨らみを持たせ、胴部上位でなだらかに括れ、中位で丸みを帯び、底部にいたるキャリパー形の深鉢。頸部以下1文様帯であろう。垂下する隆帯に沿って半截竹管による2条の沈線が施され、隆帯間を同一の沈線で小区画する。区画内は、半截竹管文が沿い、三叉文などが沈刻される。やや厚手でポツテリした感じの土器である。

9. 深鉢。覆土出土。口縁部、胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損。

小型の深鉢。口縁部はおそらく直立するのであろう。頸部以下屈曲しやや膨らみを持って底部にいたる。頸部には細い隆帯が巡り、口縁部文様帯と画する。胴部文様帯は1段であり、頸部下より、幾条もの細い沈線が垂下し、底部端部にまで達する。垂下する沈線は、半楕円を描くものや小波状を交互に描くものがあり変化に富む。

10. 浅鉢。覆土下位出土。口縁部約 $\frac{1}{2}$ 欠損。

双波状口縁を呈し、4単位を数える。口縁部になだらかな膨らみを持たせ、底部まで直線状に落ちる。口唇部は外折し、狭い面を持たせる。内面口縁下には稜を持つ。内・外面とも磨きが著しい。外面は縦・斜め、内面は横・斜めに施す。

402、403土壌(204図1)

1. 深鉢。覆土出土。頸部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

頸部で屈曲し、胴部は膨らみを持たせる。胴部上半より隆線が垂下しU字状のモチーフを描くと思われる。隆線の両脇には、2本1組の半截竹管による結節

沈線が沿う。

414号土壌(204図2)

2. 深鉢。覆土出土。頸部 $\frac{1}{2}$ 、胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口縁部は内彎し胴部は直線的に落ちる。全体が斜めになる土器である。頸部に1条の隆線が巡り、口縁部文様帯と胴部文様帯を画する。両文様帯とも環状突起と蛇行隆線・幅広の隆帯、それらに沿うための沈線が施される。隙間には三叉文が沈刻される。胴部の隆線は蛇行垂下し環状突起が1個毎に付される。胴部文様帯にはその他、短沈線、連続刺突文が施される。

419号土壌(204図3)

3. 深鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存。

波状口縁を呈し、4単位を数える。口縁部は頸部に巡る1条の隆線で画される。波頂部より、2本の沈線が垂下する。胴部はLR縄文を施す。

425号土壌(204・205図4)

4. 深鉢。墳底直上出土。双環状突起2個欠損。口縁～頸部のみ残存。

口縁部に双環状突起を4単位付し、口縁部はゆるく内彎し、口唇部は内折する。双環状突起より延びた隆線が口縁部文様帯下端の小型の環状突起に結ぶ。口縁部文様帯内は隆線で区画され、内側は、やや幅広の連続竹管文とペン先状竹管文が2～3条隆線に沿って、密に連続する。区画内は三叉文、半截竹管の押圧による波状文などが埋められる。口縁部文様帯の単位は4単位。頸部は無文帯である。

428、429号土壌(204図5)

5. 浅鉢。墳底直上出土。口縁～体部下半 $\frac{1}{2}$ 残存。

波状口縁を呈し、4単位の波頂部を持つのであろう。口唇部は、平坦面を持ち、端部内外面に刻みを施す。

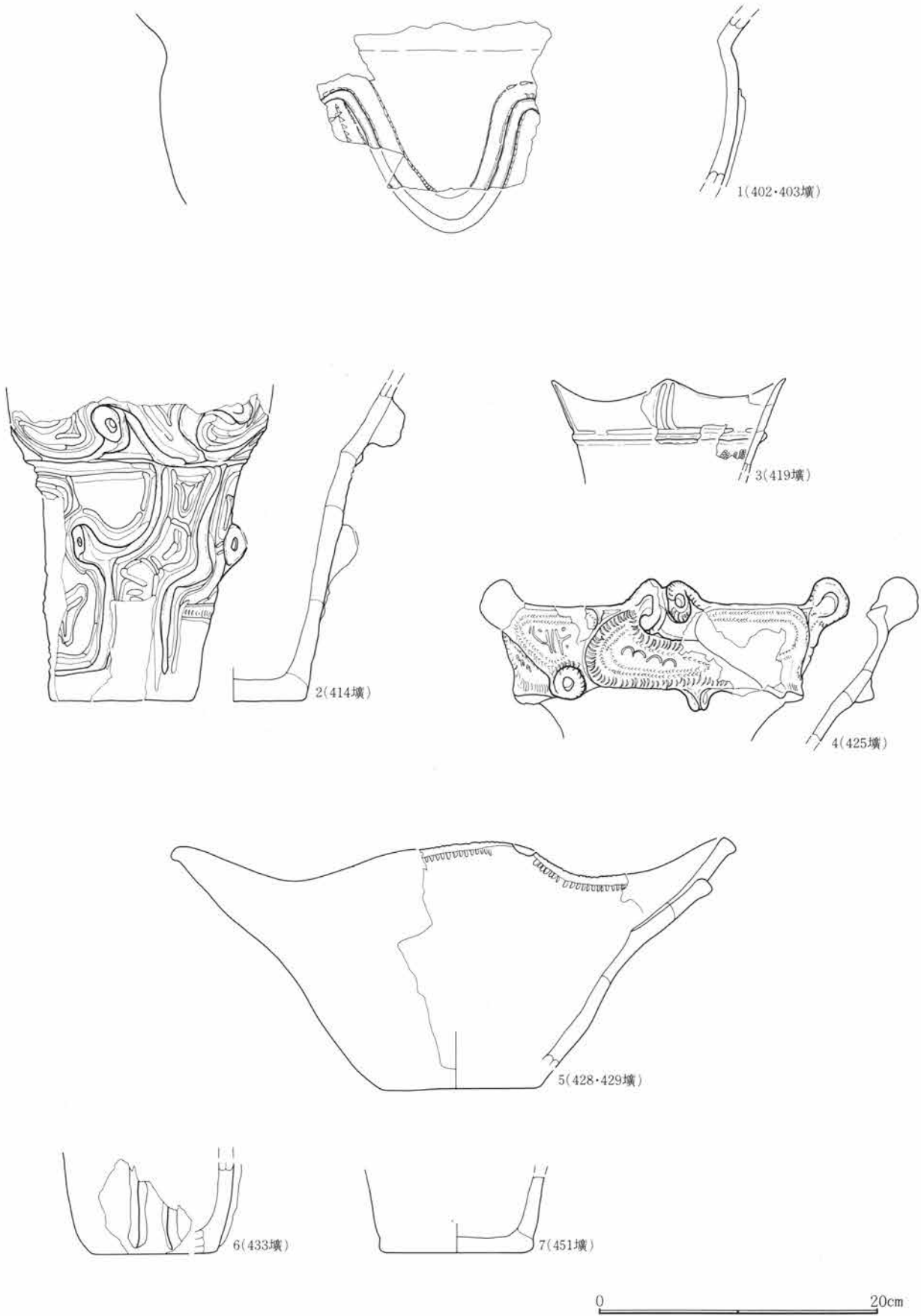
外面：口縁～体部上半は横磨き。体部下半は縦磨き。

内面：体部上位に稜を持ち、丁寧な横磨きを施す。

433号土壌(204図6)

6. 深鉢底部。覆土下位出土。 $\frac{1}{2}$ 残存。

丸みを帯びて直立気味に立ち上がる。太い隆帯が2本1組で垂下し、末端は底部端部にまで及ぶ。



204図 土壇出土土器

451号土壙(204図7)

7. 深鉢底部。覆土出土。

端部は丸みを帯び、開き気味に立ち上がる。底面は平滑で、比較的器肉は薄い。

454号土壙(205・206図1・2)

1. 深鉢。壙底直上出土。ほぼ完形。

胴部は上方にゆるやかに開き、口縁部は内傾する。刻みを持ち脇に幅広の竹管文とペン先状の刺突文が沿う隆帯によって飾られる手の込んだ土器である。口唇部には楕円枠が5個配され、各楕円間に3・4本指のモチーフが配される。口縁部文様帯は頸部の隆帯によって画され、指のモチーフが展開する。各指モチーフの間は台形の区画となり、区画内は、玉抱き三叉文が施される。指のモチーフは、頸部の隆帯に接する所で突出し、胴部を区画する隆帯として垂下する。垂下隆帯は、蛇行するものや、抽象的な木葉状のモチーフを描くものもあるが口縁部文様帯と同様に5単位を画する。区画内はペン先状の刺突文、円形竹管文が施される。胴部下位には刻みのない隆帯で楕円枠状文が4個配される。枠内は、隆帯にそって幅広の竹管文が連続する。内面は、丁寧に撫でられており、胴部下半は煤が付着している。

2. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上位 $\frac{1}{2}$ 残存。

口唇部は、内折する。口縁部が内彎するキャリパー形の深鉢。口縁部の形態は、波状口縁を呈する。波頂部は欠損。波頂部下に中空の突起を付し、左側に円形の孔を穿つ。突起中位には、隆線による小楕円の小区画を配し、正面観を強調する。口縁部文様帯は、突起から派生する細隆線によって半楕円、三角の区画が交互に連続し、隆線上、区画内には、やや大きめのペン先状の刺突が施される。区画中央には、半截竹管による小円が施される。頸部は1条の隆帯で胴部と画されるが、無文である。胴部隆帯の上位には、半截竹管の縦位施文による刻みが施され、下位は、ペン先状の刺突文と幅広の竹管文が沿う。

459号土壙(207図1)

1. 浅鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存。

平縁を呈する。やや身深の浅鉢である。口唇部は、1.5cm程度の平坦面を持ち、内折する。

461号土壙(207図2)

2. 深鉢。壙底直上出土。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

波状口縁を呈し、おそらく5単位を数えるのであろう。口縁部は外反し、頸部で屈曲を持たせ、胴部で丸みを帯びて内彎する。口唇部には1条の角押文が連続し、また胴部の隆線の両脇にも沿う。口縁～頸部の文様帯は、無文である。胴部の隆線は口縁部と画するように巡るが、波頂下やや左で垂下蛇行しJ字状を描く。胴部の地文には、RL縄文が施される。内面は煤が頸部以下に付着している。小型の鉢の可能性もある。

463号土壙(207図3・4)

3. 小型の深鉢。覆土出土。口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

現存部では、平縁を呈する。口縁部は緩く内彎し、胴部は直線的に落ちる。口唇部、頸部、胴部上半に幅広の爪形文が横位施文され、その後口唇部のV字状の貼付による突起、垂下隆線が付される。内面は丁寧に撫でている。

4. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{2}$ 残存。

直立する立ち上がり、胴部に比して底面の器肉は薄い。

464号土壙(207図5)

5. 深鉢。覆土下位出土。胴部～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

直線的に底部にいたる。隆線とそれに沿うための沈線が主な文様要素である。隆線は弧状となり隆帯に発達するものもある。隆帯間は三叉文、U・O字状のモチーフを描く沈線などが埋められる。地文にLRの縄文が施される。

466号土壙(207図6)

6. 大型の浅鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存。

双波状突起を持つ。やや薄手の器肉。突起下に2対の円孔を穿つ。外面は無文。内面は内稜まで2本1組の結節沈線が施される。丁寧な作りの浅鉢である。

468号土壙(207図7)

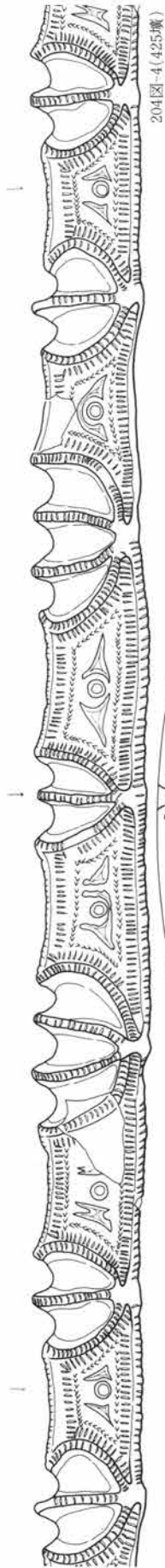
7. 浅鉢底部破片。覆土出土。

底部端部は丸みを帯び、大きく開く。内外面の研磨はやや雑。

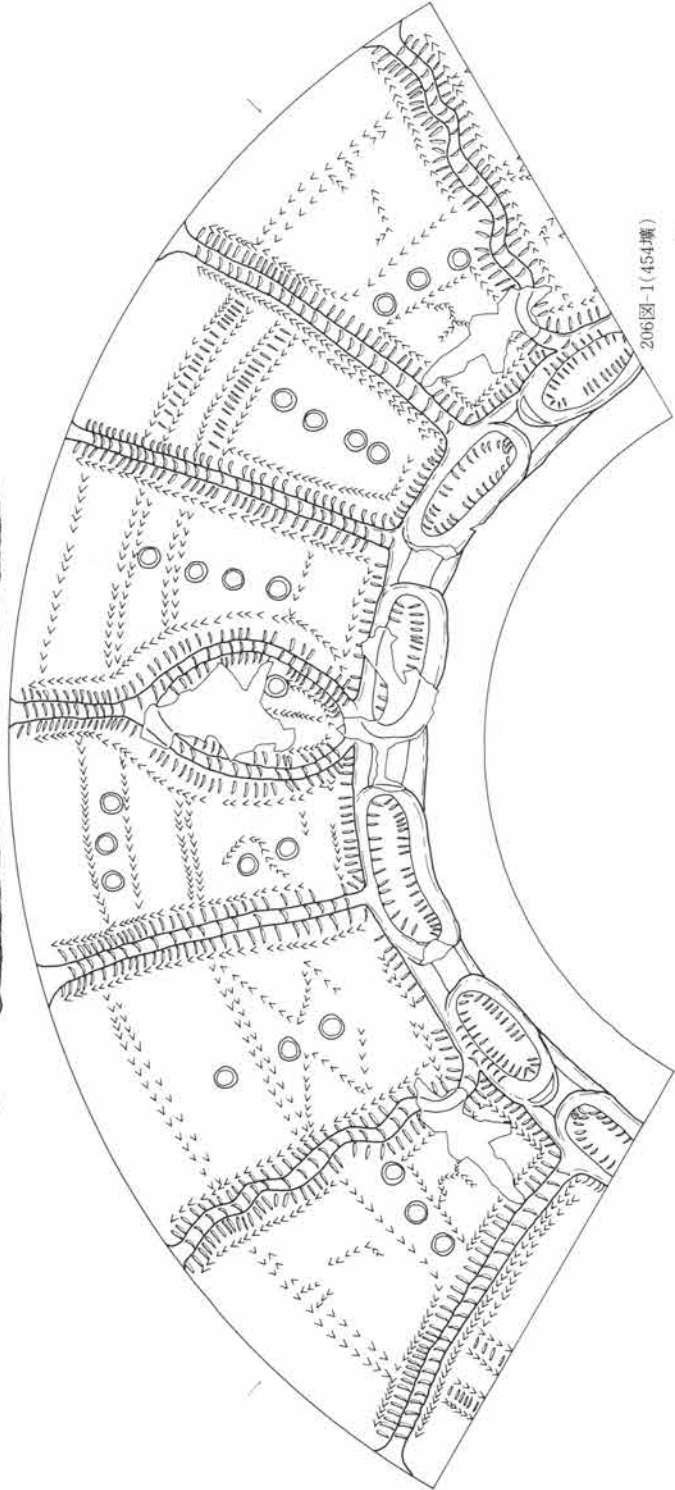
470号土壙(207図8・9)

8. 深鉢胴部破片。覆土出土。約 $\frac{1}{4}$ 残存。

緩やかに膨らむ胴部形態を呈す。瘤状の小突起から



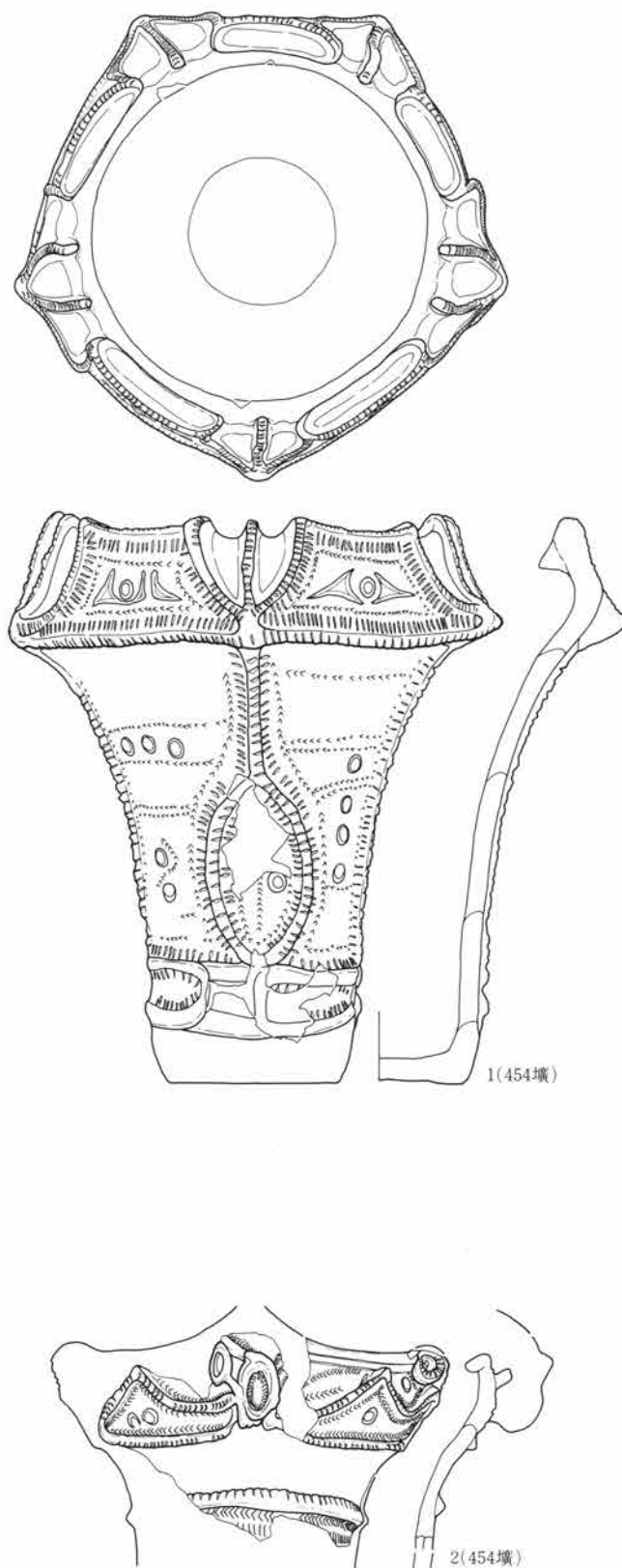
204図-4(425横)



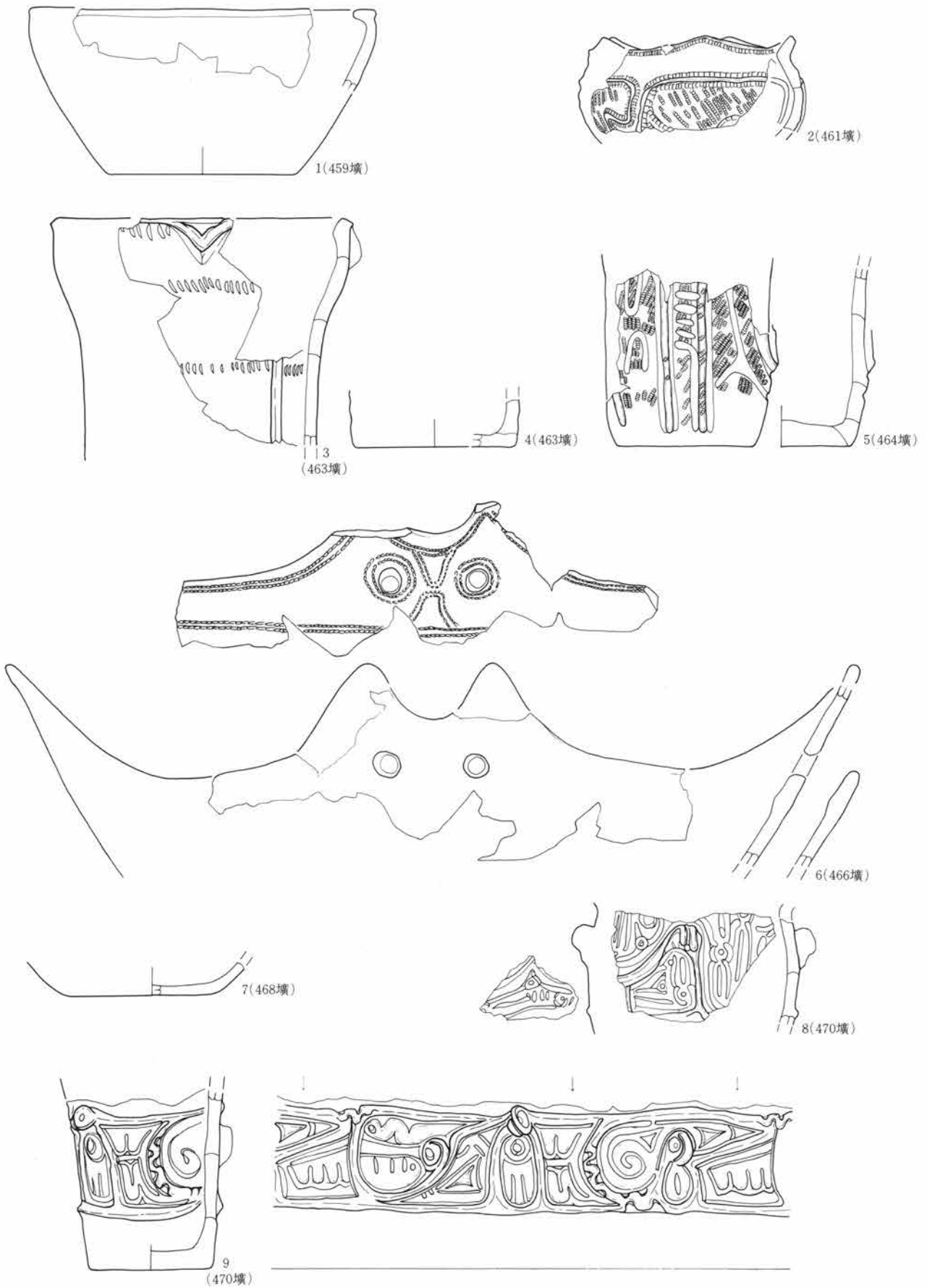
206図-1(454横)



205図 204図-4・206図-1展開図



206図 土壇出土土器



207図 土壇出土土器

0 20cm

派生する垂下隆線と太めの沈線を多用した三叉文や円形刺突文などの半肉彫文が器面全体を埋める。

9. 小型の深鉢。覆土出土。口縁部欠損。

頸部は開くと思われる。胴部文様帯は2条の横位隆線で分帯され、振りを入れた環状突起、蛇行隆線を中心に、隆線で文様帯を区画する。単位は大きく2単位であろう。区画内は棒状工具による沈線で、三叉文、渦巻文などが充填される。

479号土壙(208図1・2)

1. 深鉢。壙底直上出土。胴部破片及び底部。

指頭押圧を施した垂下隆線が付される。底部はやや上げ底で、開き気味に立ち上がる。内面は煤が付着。

2. 深鉢。壙底直上出土。胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

胴部上半の破片。頸部・胴部には幅広の爪形文が横位施文され、頸部と胴部の境には隆線が巡る。この頸部隆線よりY字状の垂下隆線が派生する。

481号土壙(208図3)

3. 深鉢。覆土出土。胴部上半を欠損。

筒形をした胴部。半截竹管による沈線と小型の半截竹管文を巡らす。胴部の文様帯は、半截竹管による沈線文によって抽象文が描かれる。単位は、2単位である。内面は、雑な縦の磨きが施される。

484号土壙(208図4~6)

4. 小型の深鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{3}{4}$ 、底面欠損。

口縁部はやや外反しながら開き無文。頸部に薄い外稜を持つ。胴部文様帯は、平行沈線と、半肉浮彫りによる波状文の交互施文により3分帯される。また、小型の半截竹管による刺痕列が沈線に沿う。

5. 小型の深鉢。覆土出土。底部 $\frac{3}{4}$ 残存。

地文にLR縄文を斜位、縦位、横位に施文する。斜めに垂下する隆帯とそれに沿う太めの沈線が施される。

6. 浅鉢。口縁~体部上半約 $\frac{1}{2}$ 残存。

断面四角形の口縁が突出し32mm程の面を持たせる。口唇部には浅い刻みが連続する。内面の磨きは丁寧。

512号土壙(208図7)

7. 小型の深鉢。口縁部 $\frac{3}{4}$ 、底面欠損。

口縁部は僅かに内彎し直立する。胴部上半に膨らみを持たせ、底部に至る。口縁部は無文である。頸部に

1条の隆線を巡らし、胴部文様帯と画する。胴部は地文にLR縄文を施し、太めの沈線が描かれる。基本的には2段の方形区画文を4単位配し、1単位のみ意匠文を描く小区画がある。また隣合う方形区画の間には小円文が刻まれる。非常に脆弱な土器である。

513号土壙(208図8)

8. 小型の深鉢。壙底直上出土。ほぼ完形。

口唇部は丸みを帯び、平縁である。口縁部は僅かに内傾し、頸部は心持ち屈曲する。胴部は膨らみを持たせ底部にいたる。地文に無節の縄文rが施される。口縁部文様帯と胴部は2条の沈線で画される。口縁部文様帯は、4~6条の沈線で矩形に小区画され、7区画を数える。区画内は、波状沈線文が上下に施される。胴部は3条の沈線が巡り、器面を2文様帯に分け、垂下する同一の沈線が4分割する。底部はやや上げ底である。胴下半~底部内面に煤が付着する。

530号土壙(208図9)

9. 深鉢底部。覆土出土。

小型の深鉢であろう。直立気味に立ち上がり、底面は平滑である。内面に煤付着。外面は荒れている。

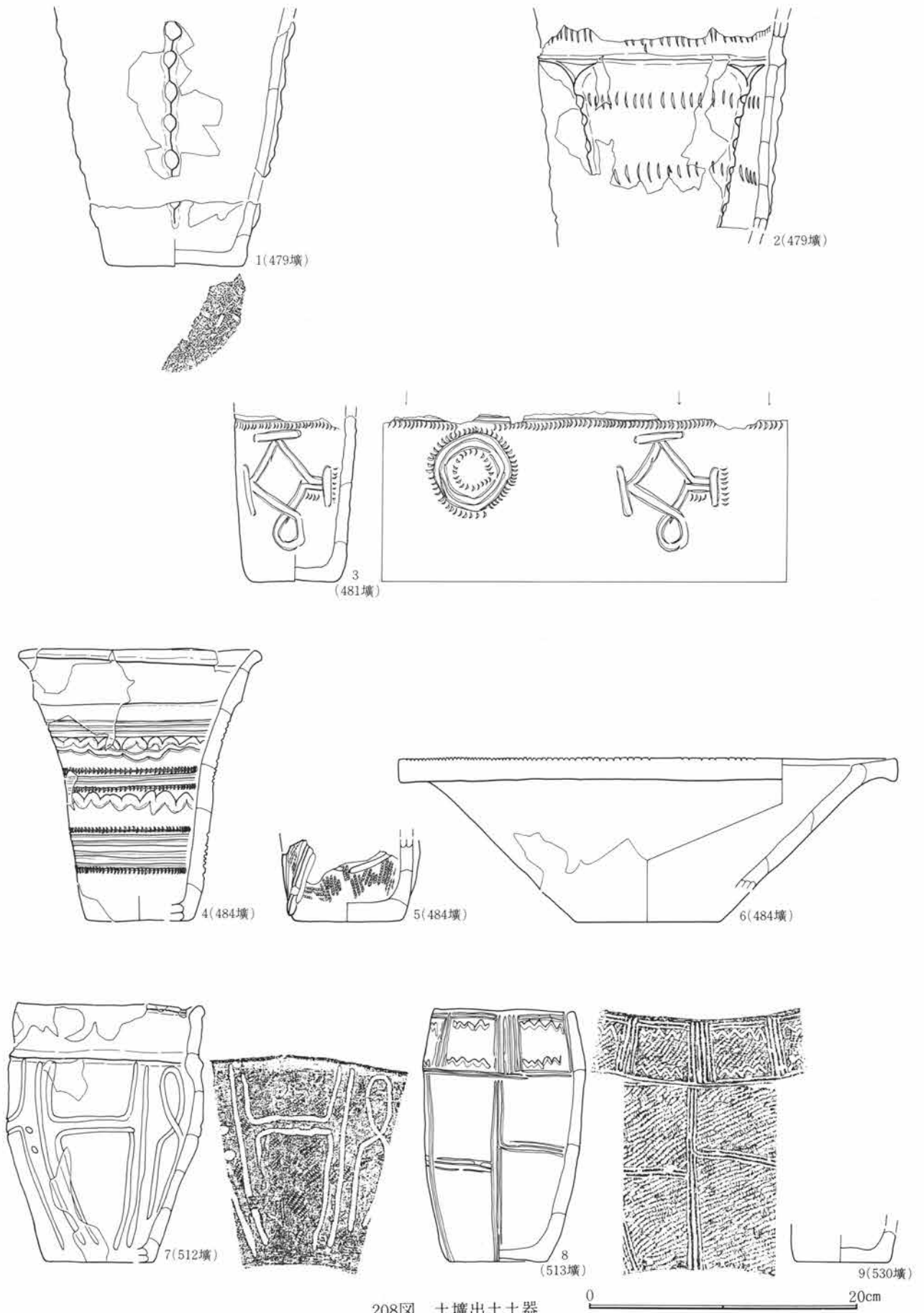
533号土壙(209・210図1・2)

1. 小型の深鉢。壙底直上出土。胴部~底部残存。

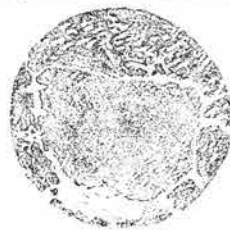
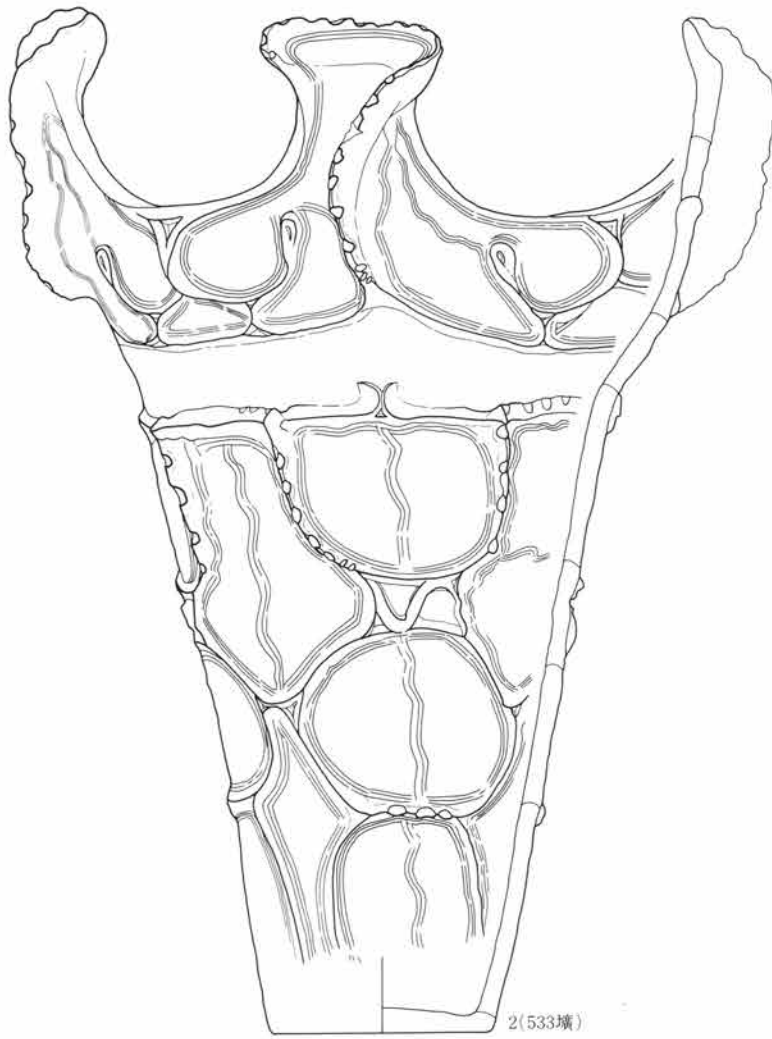
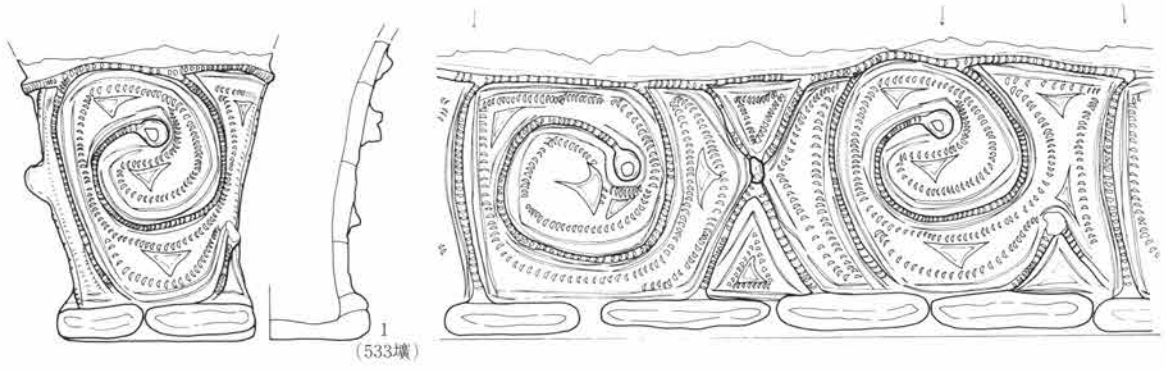
底部は突出し、胴部は緩やかに外反する。頸部は無文であろうか、丁寧な磨きを施す。胴部文様帯は、1条の隆線で画され、底部上は楕円棒状文が連続する。胴部文様帯は単帯で、隆線で渦巻状・X字状のモチーフを描く。渦巻の先端は円形の突起が付される。またX字状のモチーフの交点は瘤状の小突起を造りだす。渦巻状のモチーフは2単位配され、X字状の隆帯を文様分割線とすれば2単位構造である。隆線上は小型の竹管文が連続し、脇には2条を基本とした沈線、小型の連続竹管文が施される。隙間には、三叉文が施される。底部上の楕円棒状文の枠内は無文で4個配される。底部内面に煤付着。

2. 大型の深鉢。531土壙と接合。突起2個欠損の他ほぼ完存。

扇状の突起を4個配す。口唇部は丸みを帯び、突起となるころは面を持たせる。口縁部は僅かに内彎する。胴部は直線的に底部にいたる。刻みを持つ扇状突

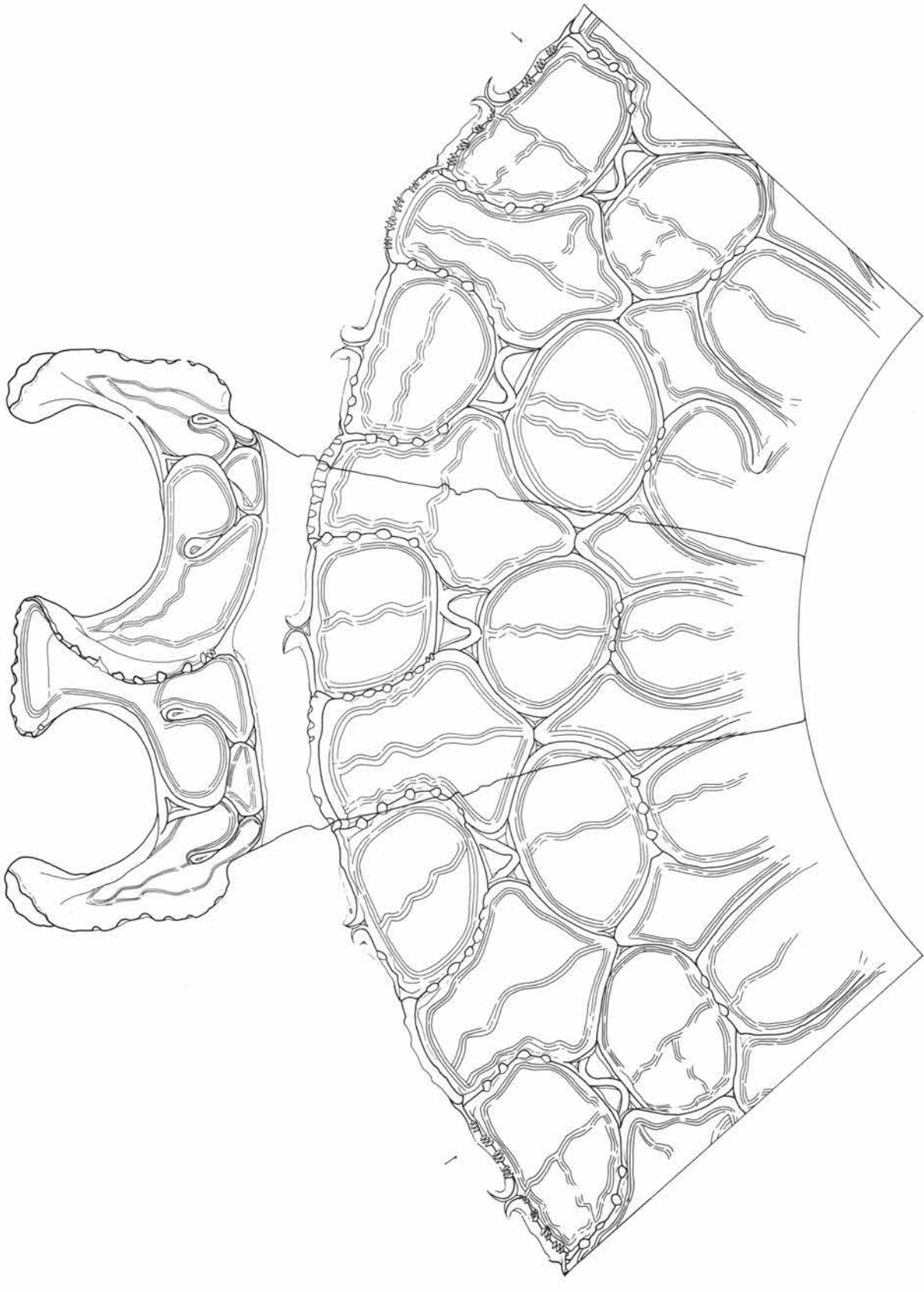


208図 土壇出土土器



0 20cm

209図 土壇出土土器



210図 図-2(533墳)展開図

第IV章 遺構と遺物

起より派生した弧状の隆帯が二股に分岐し、1条の隆線となって頸部を巡ることによって口縁部文様帯が画される。口縁部文様帯は弧状の隆帯で4分割される。波底部の口唇部には、V字状の隆帯が貼り付けられ、先端から2本の隆線が分岐し、左右対称に弧状に延び、先端部は丸まり小穴を付す。またこの隆線と頸部を巡る隆線との接続部に粘土紐撫でによるX字状の隆線が付けられる。扇状の突起、弧状隆帯、隆線の両脇には3本の細沈線が沿う。頸部は無文であるが胴部文様帯との境に撫でによるX字状の隆線が付せられる。胴部文様帯は隆線によって円形の区画、菱形の区画が交互に配され各々接続する。菱形区画の上端は、幅を持たせ、 \square 状となる。隣合う円形の区画も半楕円状となり、刻みも著しい。円形区画は3個縦に接続するが、上位のものの中位のものとの接点は、隆線がの字状に付される。区画内は3本1組の細沈線が沿い、また縦・横に同沈線が施される区画もある。底面に網代痕が僅かに残る。内面の磨きは丁寧に施される。また、口縁部の色調は、黒褐色であるが、明褐色を呈す破片が2片接合した。

541号土壙(211図1)

1. 深鉢底部破片。覆土出土。

小型の深鉢。内面は彎曲する。外面は丁寧に研磨される。

558号土壙(211図2)

2. 小型の浅鉢。覆土出土。口縁部～体部上半残存。

平縁であろう。口縁～体部はやや内彎する。口唇部は内傾し幅の狭い面を持つ。口縁部文様帯は、粘土紐をV字状に貼り付け撫でることによって区画文を配するのであろう。区画内は無文である。内外面とも丁寧に撫でられている。

563号土壙(211図3・4)

3. 深鉢。覆土上位出土。胴部下半欠損。

口唇部が内折し、口縁部が内彎するキャリパー状の深鉢。胴部下半は僅かに張り出す。小渦巻を中心とした突起を4単位配す小波状口縁。口縁部文様帯は、三角の区画を隆線で交互に配し、口唇、隆線に沿って幅広の連続竹管文(キャタピラ文)を施す。三角の区画内は、沈線で円形、T、Y字状の文様を入れる。おそ

らく、玉抱き三叉文を意匠したものであろう。口縁部文様帯下端には小突起を持つが2個のみに沈線で刻みを施す。頸部は無文であり、頸部と胴部の境には隆線を1条巡らし分離する。胴部文様帯は、隆線による渦巻と矩形の区画文を主モチーフとして2単位の構成をなす。隆線に沿って幅広の竹管文が連続し、各モチーフ内部には、三叉文、円形文、鋸歯状の沈線文(波状沈線)が施される。

4. 小型の深鉢。覆土上位出土。胴部約 $\frac{1}{4}$ 残存。

直線的に開く胴部形態。数条の隆帯によって多段に分割される胴部文様帯である。隆帯の両脇を半截竹管による平行沈線が2条沿い、各文様帯内は、同様の沈線で波状文を描く。

585号土壙(211図5～213図15)

5. 深鉢。覆土出土。頸部～胴部6片。

復元実測。口縁部は外傾し頸部で屈曲し、胴部は若干の膨らみを持たせる。頸部隆線より斜位の隆線が派生し、胴部の弧状突起などに接続する。隆線には太めの沈線や小型の半截竹管文が沿い、隆線による小区画内は円文、三叉文、波状沈線文が埋められる。横位LR縄文を地文とする。

6. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半 $\frac{1}{4}$ 残存。

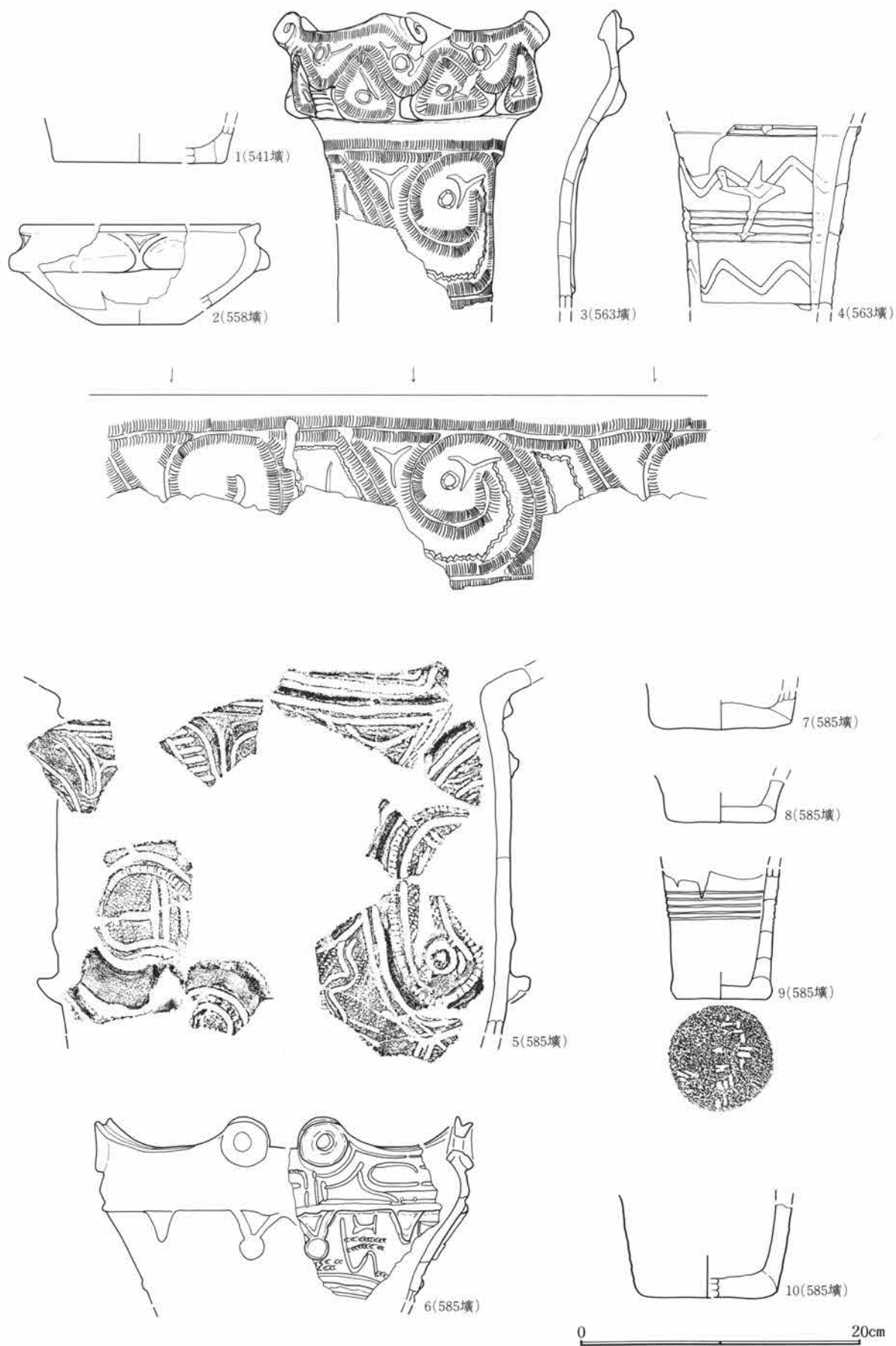
円環状突起を付す。おそらく2個1組であろう。口唇部は僅かに外傾し、口縁部は緩く内彎する。口唇部上端には沈線が走り、口縁部文様帯は1条の頸部隆線で画される。円環状突起は粘土板を内外面から貼り付け、中央に径1.2cm程度の孔を穿つ。口唇部には1条の沈線が沿う。口縁部文様帯内は沈線で描かれるが、全容は判然としない。頸部隆線下位にはV字状に粘土紐を付し、下端に円形の貼付文が付けられる。また、胴部上半には、隆線が弧を描くようである。空間には横位のペン先状刺突文、連続三叉文が施される。

7. 深鉢底部。覆土出土。

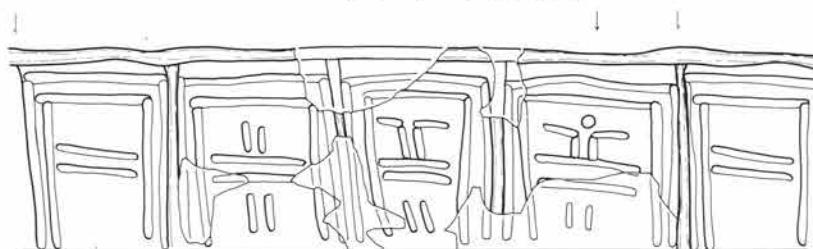
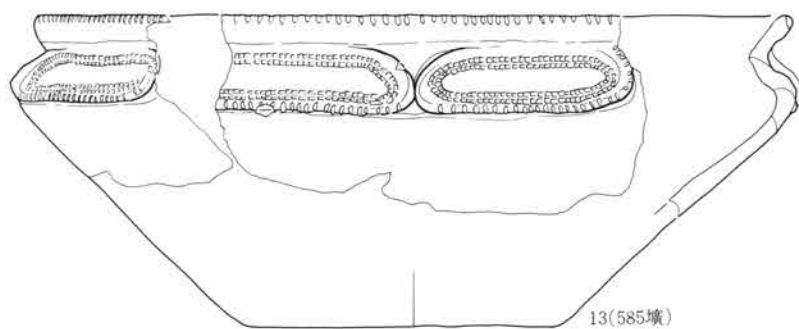
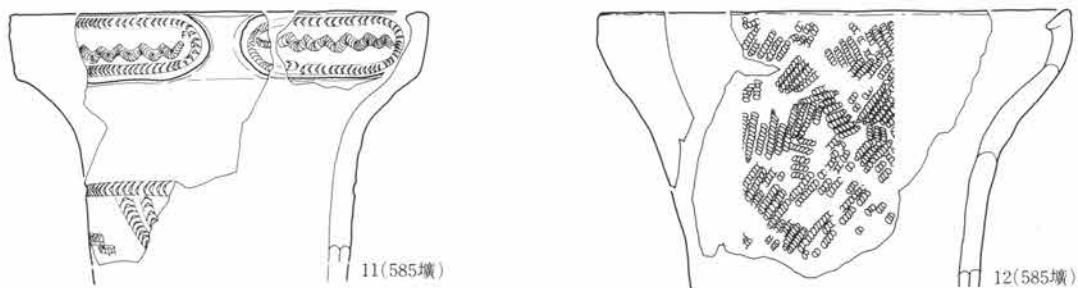
直立気味に立ち上がり、底部端部は丸みを帯びる。底面は平滑で、内面中央は盛り上がる。内面煤付着。

8. 深鉢底部。覆土出土。

やや小型。端部は丸みを帯びる。厚手でしっかりした作り。底面は丁寧に撫でられているが圧痕であろうか、植物繊維の一部が痕跡として残る。

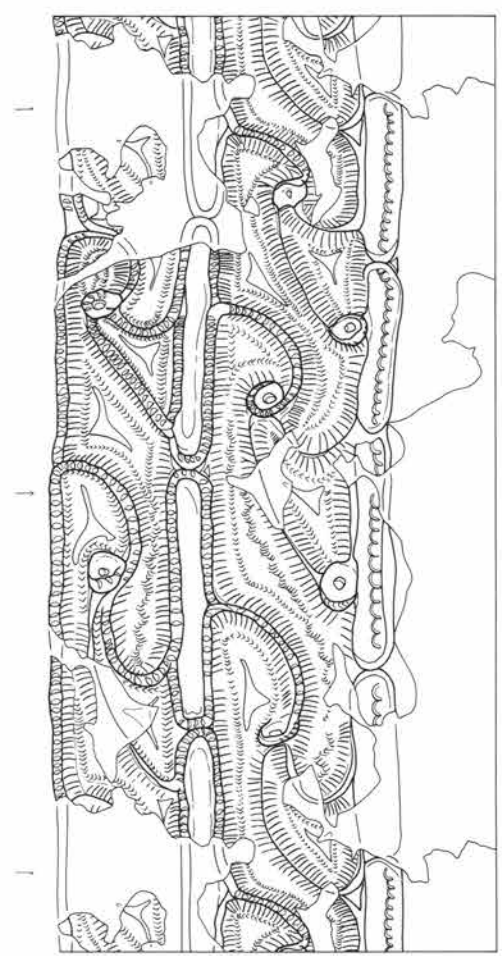
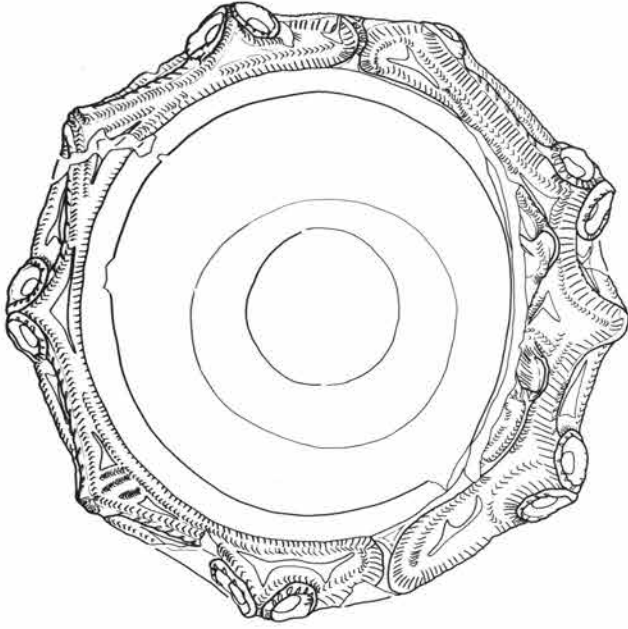


211図 土壙出土土器

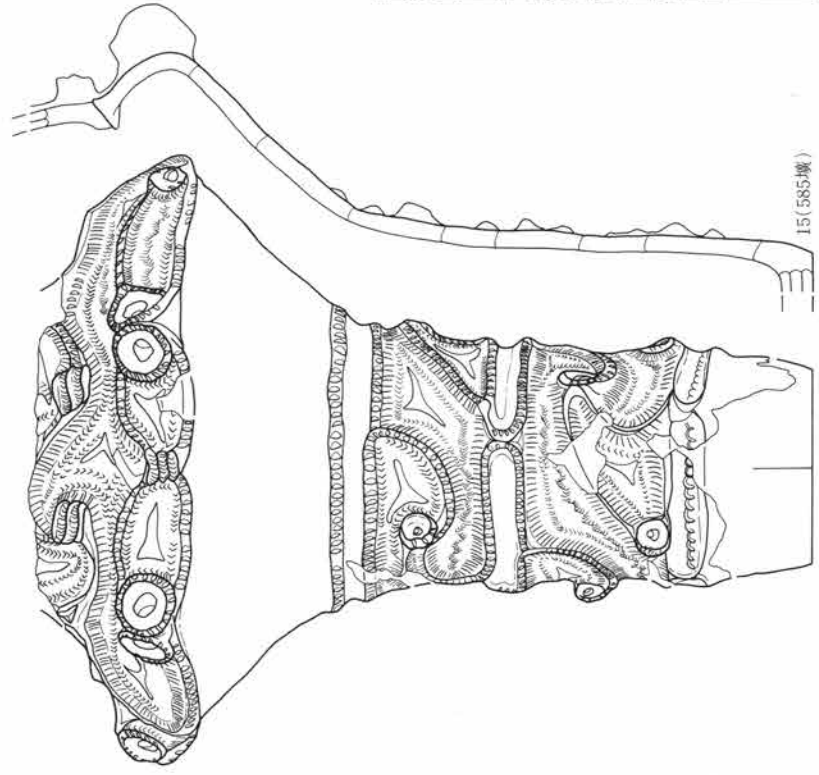


0 20cm

212図 土壇出土土器



0 20cm



15(585塚)

213図 土壇出土土器

第IV章 遺構と遺物

9. 小型の深鉢。胴部下半～底部残存。

直線的に落ちる胴部形態。底部端部で若干張り出す。径が小さい割りに器肉は厚い。半截竹管による平行沈線が5条巡る。

10. 深鉢底部。覆土出土。1/2残存。

底部端部は丸みを帯び、直立気味に立ち上がる。やや脆弱な土器で砂質である。内面に煤付着。

11. 小型の深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半1/4残存。

口縁部は、緩やかに内彎し、頸部は強く外反する。胴部は、やや径が小さく直線的に落ちる。口縁部文様帯は、隆線によるおそらく楕円杵文が配列するのであろう。杵内は、ペン先状刺突文が沿い、小波状文を描く。頸部は無文である。胴部文様帯は、ペン先状刺突文が横位、斜位、または波状に施される。器面はやや荒れている。

12. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部上半1/2残存。

復元実測。口唇部は内折し、口縁部は緩やかに内彎する。頸部以下なだらかなカーブを描きながら落ちる。器面はLR縄文を横位・縦位に施す。内面の器壁は荒れている。

13. 浅鉢。壙底出土。口縁～体部1/2残存。

口縁部中位で外傾し、頸部で屈曲する。体部は僅かに膨らむ。口唇部には刻みが連続し、口縁部中位の屈曲部より派生したV字状の隆線で口縁部文様帯は楕円杵の配列となる。杵内は、2本1組の結節沈線が沿う。頸部には口唇部と同じ刻みを持つ1条の隆線が巡る。口縁部内外面には赤彩が残る。

14. 小型の深鉢。壙底出土。口唇部1/4、口縁～頸部1/4、胴部下半1/4、欠損。

口縁部は無文と思われる。頸部に不揃いな3本隆帯が平行して巡る。隆帯間は沈線によって調整されているが雑な押し引きである。胴部は隆帯と2本の沈線によって4区画され、各区画に沈線による意匠文が施文される。区画毎に筆順を示すかのように沈線を増やしている。

15. 深鉢。壙底出土。突起、底部1/4欠損。

欠損しているが大型の突起が口唇部上に1個付される正面観を強調した土器。口縁部は内傾し頸部との境の隆線で突出する。頸部は直線的に落ち、胴部は径が

狭い円筒形を呈す。突起が各所に配され、器面を走る隆線は刻みで飾られ、幅広の竹管文やペン先状の刺突文が沿う装飾性の多い土器である。口唇部上の突起は板状を呈し、瘤状の小突起が2個付され口唇部から派生した隆線で結ぶ。口縁部文様帯には5個の双環状突起を配し、内2個は板状突起の下位に相対するように設けられ、残りは反対面に配され、正面観を強調する。正面の2対、反対面の3対は各々弧状の隆線で結ばれ、突起間中位には瘤状の小突起を付す。瘤状突起は板状突起に付された小突起と同様に、ペン先状刺突文が刻まれ、振りを加えた突起と同様の効果を出す。空白部には三叉文やペン先状刺突文が施される。頸部は幅の広い無文帯である。胴部文様帯は、幅狭のものと幅広のものが交互に隆線で横帯文区画され、5分割される。1段目は無文帯である。2・4段目の文様帯は、逆の字状に延びた隆線の中核に環状の小突起が付される。小突起から隆線は鋭角に分岐し二股となる。隆線で小区画された空白部には、三叉文やペン先状の刺突による鋸歯状文が施される。3・5段目は、幅狭の楕円杵状文が設けられる。3段目は正面に1個配されるのみで、ここでも正面観が強調される。5段目の楕円杵は4個連続する。杵内の下端には半截竹管の刺突による半円文が連続する。迫力のある施文である。

598号土壙(214図1)

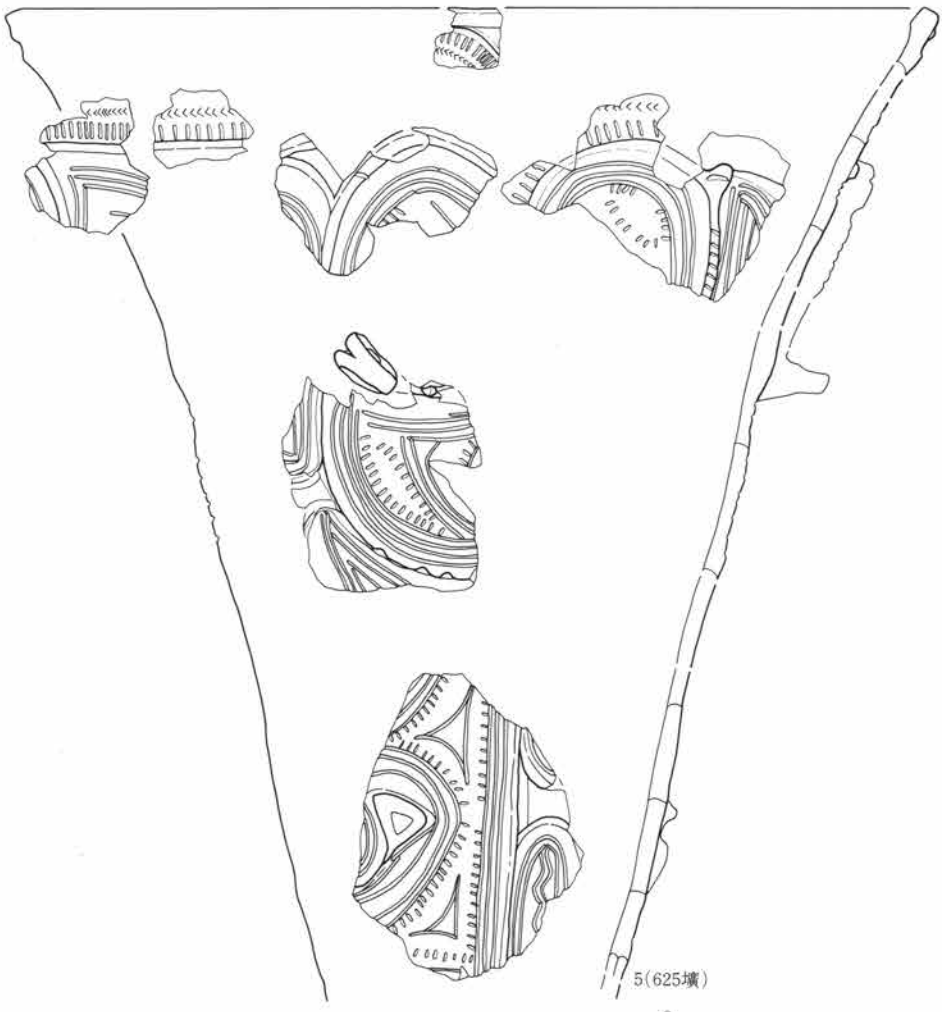
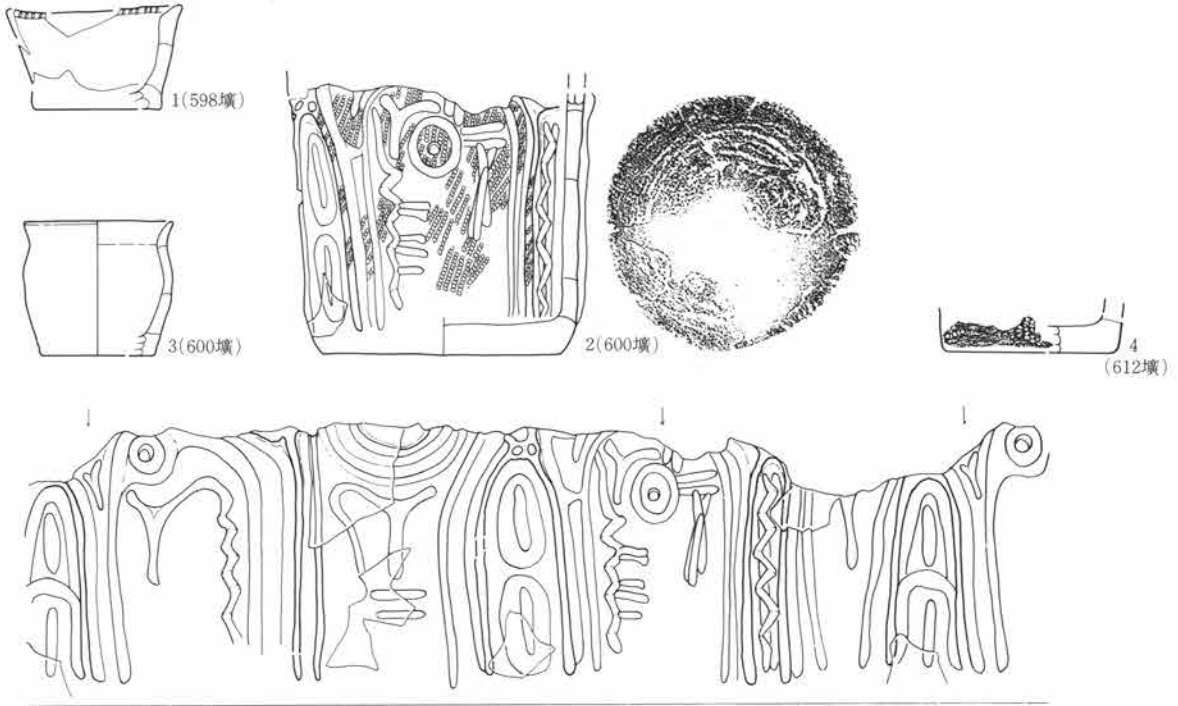
1. 袖珍土器。覆土出土。口縁部1/4、底部欠損。

推定口径9.4cm、器高5.2cmを測る。平底で、口唇部は僅かに外反する。内面に稜を持つ。口唇部に刻みを施し、体部は指押えによる成形。内面は比較的丁寧な磨かれている。

600号土壙(214図2・3)

2. 深鉢。壙底直上出土。胴部下半～底部のみ残存。

大型の土器底部であろう。隆帯貼付後、RL縄文を施し、太めの沈線で隆帯間を意匠文などで埋める。隆帯は∩字状に垂下するもの(A)と、直に垂下するもの(B)とがあり、単位は3A+Bの構成をとる。隆線に沿って太めの沈線が沿い、同沈線によって、短沈線、円形のモチーフ、三叉文、鋸歯状文などが施される。胴上半の隆線は判然としないが、おそらく幅広になって、弧を描くのであろう。



214図 土壇出土土器

0 20cm

第IV章 遺構と遺物

3. 袖珍土器。小型深鉢。覆土出土。1/2残存。

口縁部は外傾し、短い。頸部で緩く屈曲し、胴部中に膨らみを持って底部に至る。内外面とも丁寧な撫でを施す。

612号土壙(214図4)

4. 深鉢底部破片。覆土出土。

直立気味に立ち上がり、底部端部は鋭い。僅かであるが地文の縄文が看取できる。

625号土壙(214図5)

5. 深鉢。覆土下位出土。口縁～胴部6片。

出土時は器形判断も可能な個体だったが、非常に脆弱なため取り上げ時、接合作業時にかなりの部分を欠失してしまった。故に復元実測であり、器形などに、疑問点が残る。

僅かに残る口縁部は平縁を呈す。屈曲部などは無く、直線的な器形であろう。文様は隆帯に腹面使用の平行沈線と疎らな刺痕列が沿い、区画中位、空白部には三叉文が沈刻される。また、縦位楕円配列も設けられる。

631号土壙(215図1・2)

1. 深鉢。覆土中位出土。口縁～胴部上半1/2残存。

波状口縁を呈す。おそらく扇状把手を付すのであろう。頸部隆線で口縁部文様帯を画し、波底部より垂下する隆線、扇状把手で文様帯内を区画する。区画内は2本1組の結節沈線が区画に沿い、中位を同様の沈線で波状文を描く。胴部文様帯は横位の刻み目列が多段に施され、波底部下位よりY字状の隆線が垂下し、上位より隆線が斜位に派生する。

2. 深鉢底部。覆土出土。1/2残存。

直立気味に立ち上がる。端部に刻み状の当て目が刻まれる。底面に網代痕残る。比較的器肉は薄い。

632号土壙(215図3・4)

3. 深鉢底部破片。覆土出土。

やや内傾気味に立ち上がる。底面は平滑であるが、内面は剝落している。

4. 深鉢底部。覆土出土。1/2残存。

端部は張り出し、やや反り気味に立ち上がる。地文の縄文は横位RL。器肉は厚い。

657号土壙(215図5)

5. 小型の深鉢。壙底出土。口縁部の一部、胴部1/2、

底部が残存。

底部のつくりから全体が斜めになっている。小突起を持つ波状口縁か。口縁部文様帯と胴部文様帯は隆帯によって分かれる。口縁部文様帯は、数個の環状突起から派生する隆帯、隆帯間を埋めるように三叉文、沈線で構成される。胴部文様帯は、地文にRL縄文が施され、上半部に、隆帯で区画された4～5単位のモチーフが展開するのであろう。区画内は、沈線が2条隆帯に沿い、三叉文、刺突文、3本沈線などで充填される。胴下半にまで垂下する隆帯は2・3本とみられ、上半と区画の無い単位は1単位のみ看取できる。原則として、地文の縄文が残るのであろう。

660号土壙(215図6)

6. 深鉢底部破片。覆土出土。

直立気味に立ち上がる。平滑な底面で端部は鋭い。

661号土壙(215図7)

7. 深鉢底部。覆土出土。底面中央欠損。

胴部下半の平行沈線と、刺突文が看取される。

645号土壙(216図1～3)

1. 深鉢。壙底出土。口縁～頸部1/2残存。胴～底部完存。

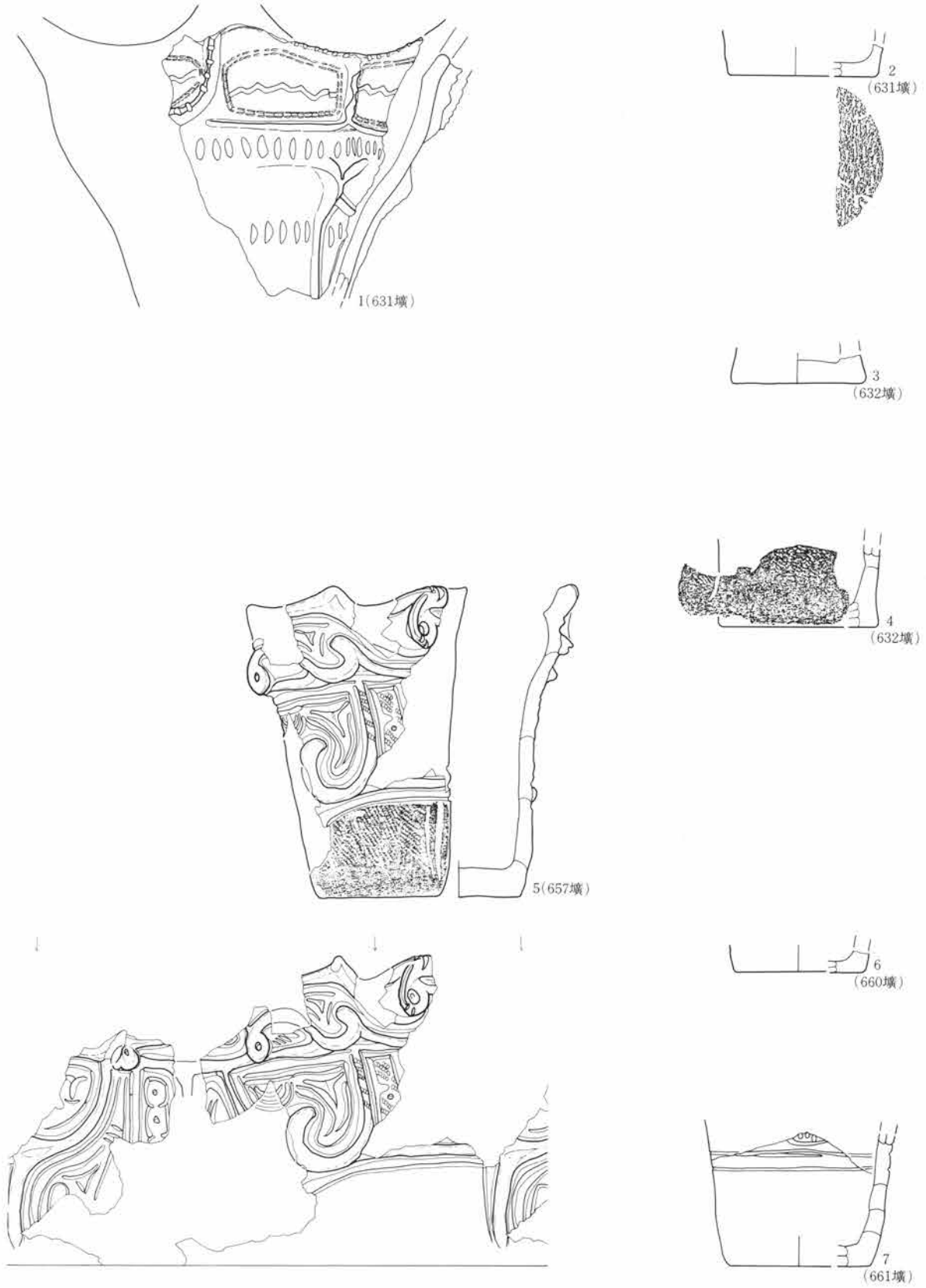
欠損しているが突起を持つのであろう。口縁部は内彎し、平縁を呈す。胴部は直線的に底部にいたる。頸部に1条の隆線を巡らせ、口縁部文様帯と、胴部文様帯を分帯する。両文様帯とも眼鏡状の環状突起、蛇行隆線が主体で、地文にRL縄文を施す。蛇行隆線で生じた空間には三叉文、2個1対の短沈線・鋸歯状の沈線が施される。胴部文様帯は、環状の突起と垂下する隆線で3+1単位が意識されるようである。口唇部内面は内折し稜を持たせる。

2. 深鉢。壙底直上出土。口縁部1/2残存。

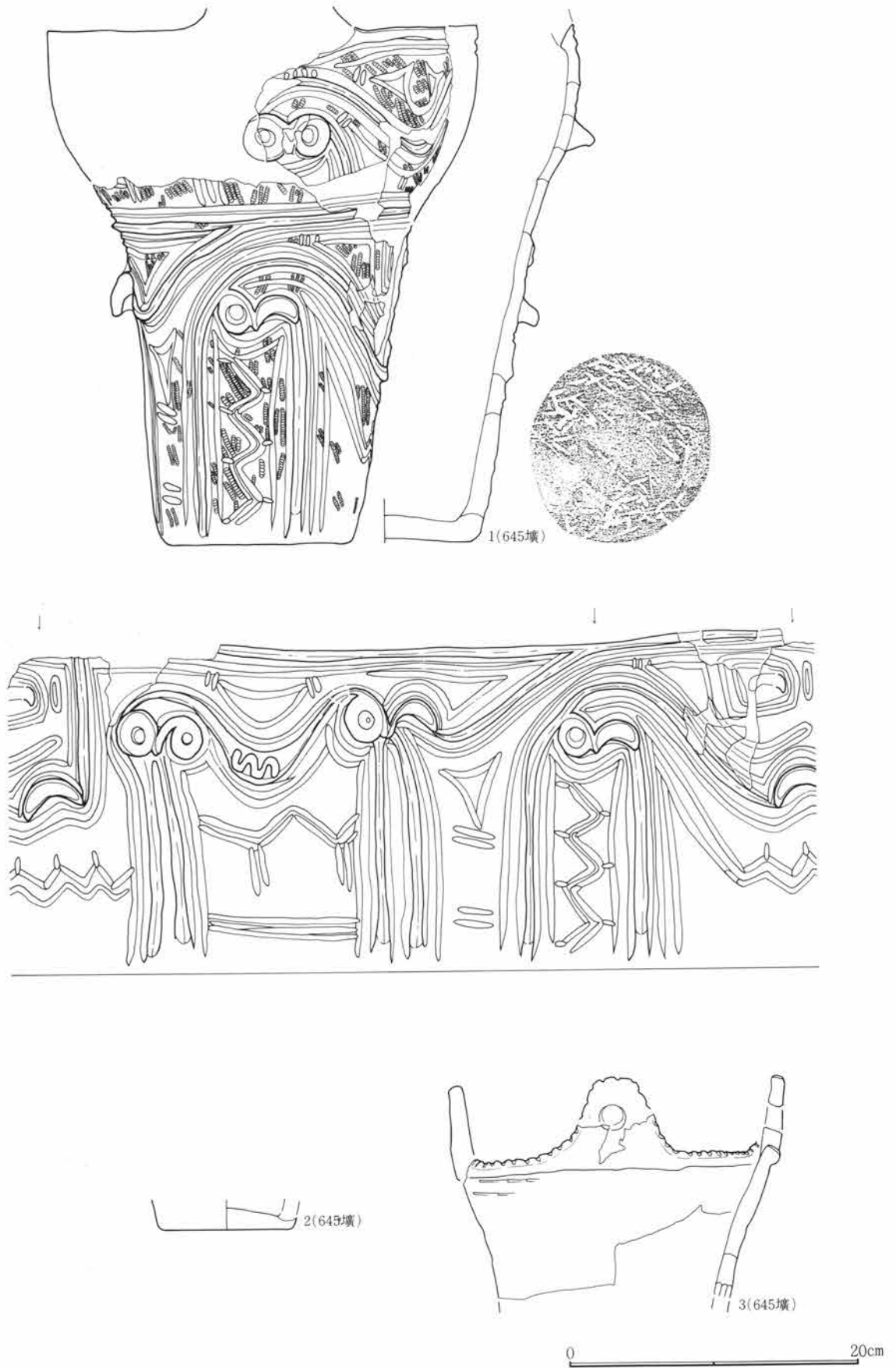
山形状の突起を口縁部上に付す。突起中央には、径2cm程の孔が穿たれる。突起、口唇部には大きめの刻みを施す。口唇部はおそらく貼付で幅の狭い段を持つ。胴部は無文であるが、口縁下に薄い結節沈線が2条横位施文される。

3. 深鉢底部。覆土出土。底面のみ残存。

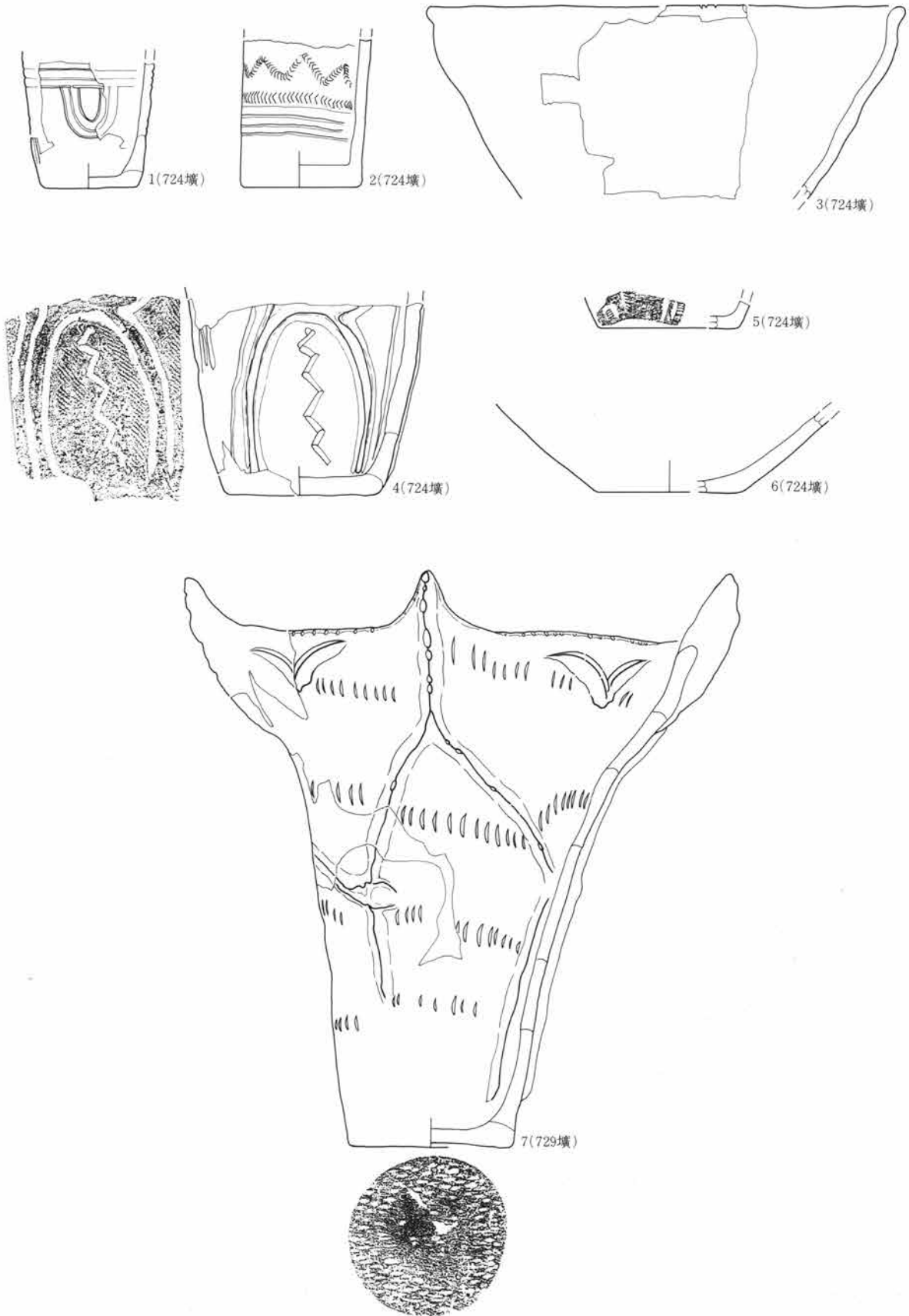
底面は平滑で内面中央は盛り上がる。



215図 土壙出土土器



216図 土壙出土土器



0 20cm

217図 土壇出土土器

724号土壙(217図1~6)

1. 小型の深鉢。壙底直上出土。胴部下半 $\frac{1}{4}$ 、底部残存。

半截竹管による沈線が数条巡り、上半と下半の文様帯を画する。下半の文様帯は、垂下する3本1組の沈線2条で2分割される。モチーフとしては、下半を巡る沈線より、3条の沈線でU字状のモチーフが配される。図反対面にもUの下端部が看取されるが詳細は不明である。内外面とも磨きが丁寧に施される。

2. 小型の深鉢。壙底直上出土。胴下半~底部のみ残存。

直立する胴部形態を呈す。ペン先状刺突文による連続波状文と同一工具による平行沈線文が横位施文されている。

3. 浅鉢。壙底直上出土。口縁~体部 $\frac{1}{4}$ 残存。

口唇部は短く外傾し、口縁部は緩やかに内彎するが下位において僅かに屈曲する。口唇部には浅い刻みを施す。内外面とも丁寧に磨かれる。

4. 深鉢。壙底直上出土。胴部下半~底部残存。

脆弱な土器である。垂下する隆帯は5分割する。1単位は分岐し二股となり半楕円状の区画をなす。区画内は、棒状工具による沈線が鋸歯状に垂下する。地文にRL縄文が雑に施され、撫で消された部分もある。脆弱な土器のため含浸処理を施した。

5. 深鉢底部。壙底直上出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

やや開き気味に立ち上がる。底面は平滑で丁寧に撫でられている。文様は底部端部までおよび、半截竹管による平行沈線、小型の半截竹管文が施される。

6. 浅鉢底部。覆土出土。727壙と接合。 $\frac{1}{4}$ 残存。

大きく開く立ち上がり呈し、端部は丸みを帯びる。内外面とも丁寧に研磨する。

729号土壙(217図7)

7. 深鉢。壁際に立位で出土。口唇部3個欠損の他、ほぼ完存。

口縁部は緩やかな膨らみを持ってラッパ状に開く。胴部は、直線的に落ちる。刻みを持つ口唇部上に尖鋭な山形状突起を付し、そこから胴部へ断面三角の隆線が派生する。突起間の口縁部にはV字状の撫でを加えた隆線が付される。突起から派生・分岐した隆線は、

胴部中位で纏まり瘤状の小突起となり、そこから垂下隆線となる。瘤状の小突起と山形状の突起を結ぶ隆線のモチーフは三角形となる。口縁部、胴部とも幅広の爪形文がまばらに施される。脆弱な土器であり、含浸処理を施した。内面底部に煤付着。

734号土壙(218図1~3)

1. 深鉢。壙底出土。口縁~頸部・胴部 $\frac{1}{4}$ 欠損。

胴部上端は幅の狭い楕円状区画が隆線によって配される。各区画より胴部下端へY字状の隆線、および二股に分岐する隆線が垂下する。楕円区画内、胴部には、やや幅狭の爪形文が横位に連続する。器肉は厚く、全体にポツリした感じ。

2. 深鉢底部破片。覆土出土。

開き気味に立ち上がり、腰部で僅かに屈曲する。斜位の細沈線が施される。

3. 深鉢。壙底直上出土。口縁~胴部上位欠損。口縁部一部残存。

口縁部はやや膨らみを持って外傾する。頸部~胴部は円筒形である。口唇部には刻みが連続し、口唇下は小型の半截竹管文が2条平行する。胴部は、半截竹管による3条の沈線によって4段に横位区画される。各段とも三叉文の交互配列による半肉浮彫的手法で蛇行文や楕円文を描きだし、2・3段目は截痕列が加わる。脆弱な土器である。

736号土壙(218図4・5)

4. 深鉢。覆土出土。28片。

12片を復元実測した。波状口縁を呈し、口縁に沿って隆線と太めの沈線が施される。おそらく波頂部下に環状突起が付され、突起を中核として口縁部文様帯が展開されるのであろう。胴部は頸部隆線によって画され、口縁部文様帯と同様に隆線と太めの沈線が主文様であろう。

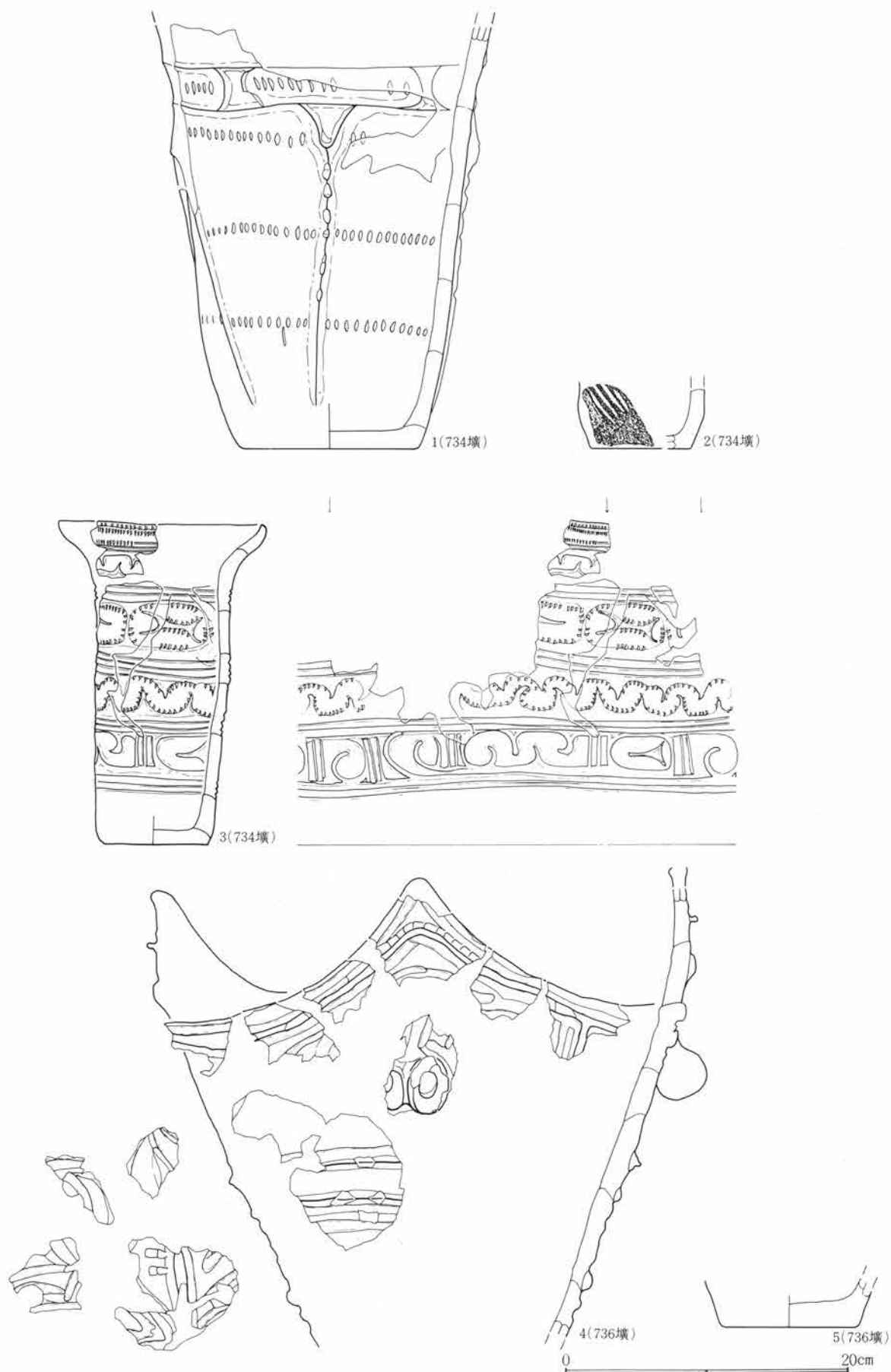
5. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

端部は丸みを帯び、やや開き気味に立ち上がる。底面は平滑だが、極僅かに上げ底状となる。脆弱である。

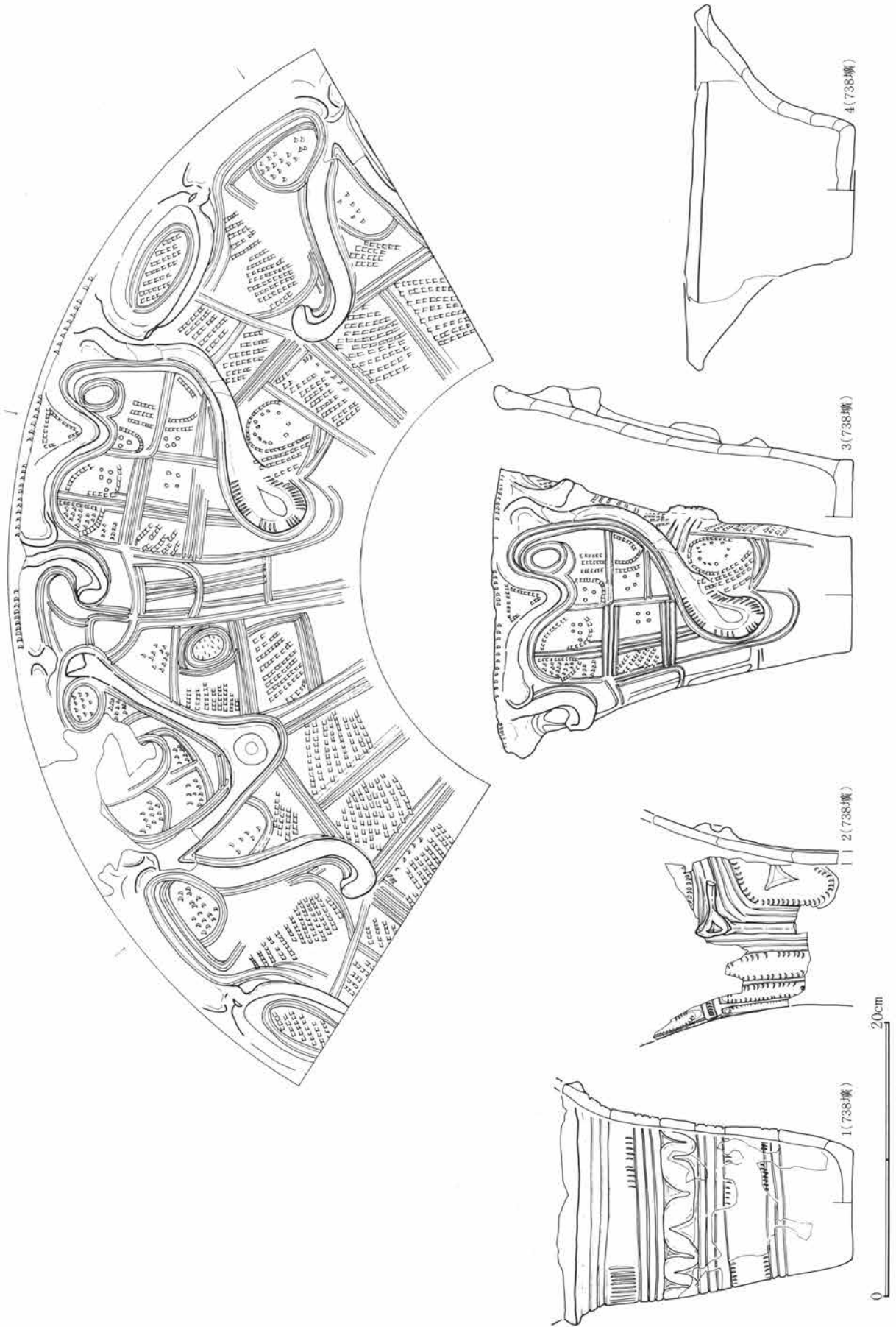
738号土壙(219図1~4)

1. 深鉢。覆土出土。口縁、頸部 $\frac{1}{2}$ 、胴部 $\frac{1}{4}$ 欠損。

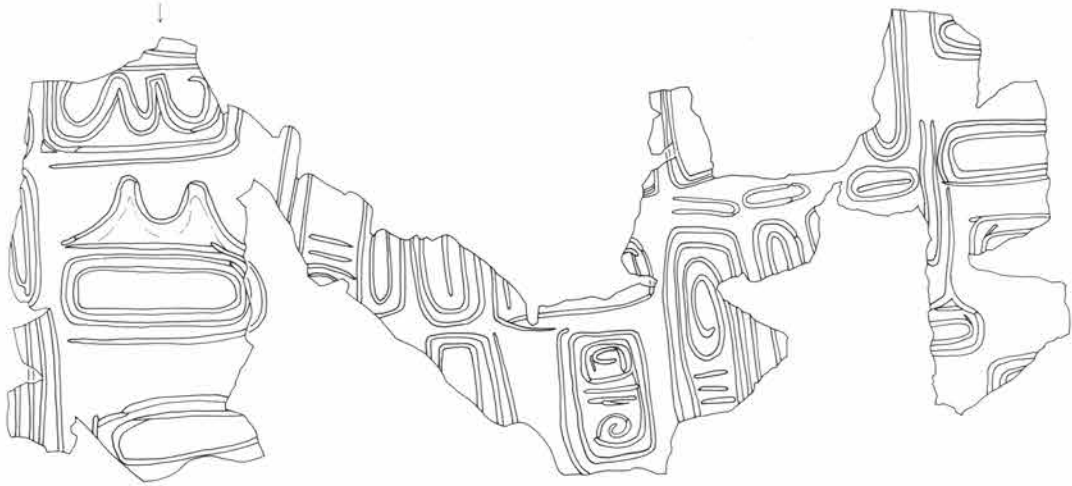
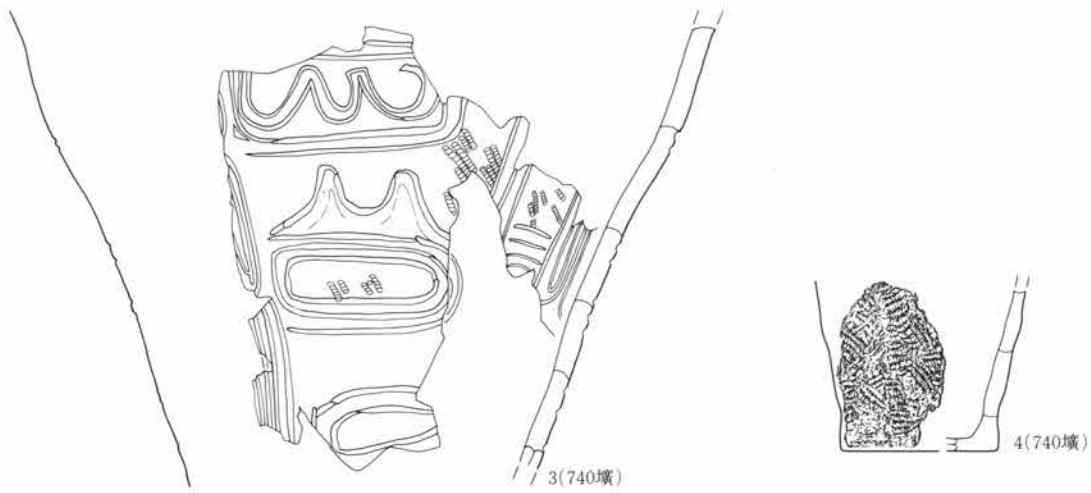
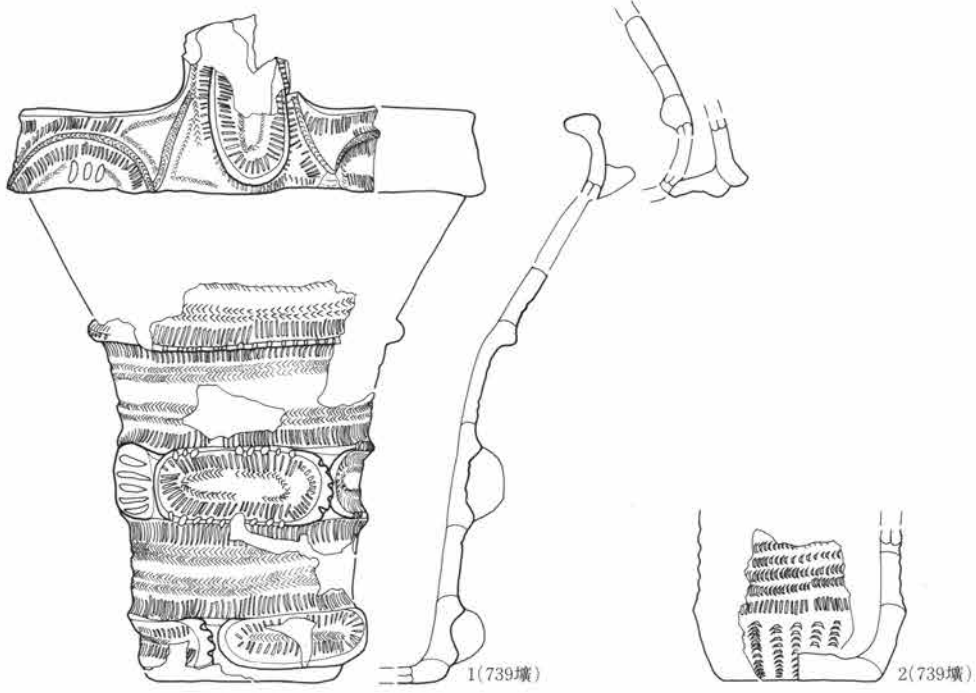
頸部隆帯上は、おそらく外反するのであろう。胴部は直線的に落ちる。頸部の隆帯は断面三角で張り出す。



218図 土壙出土土器



219図 土壙出土土器



220図 土墳出土土器

0 20cm

胴部文様帯は、4条の沈線によって3区画に横位区画され、底部の無文帯に続く。1段目の文様帯は、集合沈線が縦位に施され、半截竹管文による刺痕列もある。2段目は、三叉文の交互配列により半肉浮彫的手法で蛇行文を浮き立たせる。3段目は、刺痕列が上下に連続する。内面煤付着、脆弱な土器である。

2. 深鉢。覆土出土。胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

薄手の器肉を呈す。反りながら開く胴部形態。垂下する隆線は三角の突起より直角に分岐し方形の区画をなすと思われる。また、半截竹管による沈線で縦に小分割された区画もあり、複雑な文様構成を示唆する。区画内は、小型の半截竹管による刺痕列が沿う。

3. 深鉢。覆土出土。口縁部の一部を除いてほぼ完形。

ラッパ状に開く器形。口唇部はまばらに刻みを有し、僅かに外傾する。口縁部文様帯は、隆帯による楕円区画文・V字状の突起などがあるが、明確に胴部と分帯されておらず、1文様帯である。主な文様モチーフは、蛇行垂下する隆帯で描かれる。先端が円環状になるもの、渦を巻くものなど意匠的なモチーフがあるが単位は2単位と見てよいだろう。その他の空間は、2~3条の浅い沈線で小区画され区画内は小型の角押文、円形竹管の斜め刺突による竹管文、同一工具による円形刺突文が充填される。

4. 浅鉢。覆土出土。口縁~体部 $\frac{1}{2}$ 欠損。

平縁を呈し、口唇部は僅かに外反する。体部は反り気味に開き、底部に垂直に落ちる。口縁部内面に薄い内稜を持つが、内外面とも無でのみの調整である。脆弱。

739号土壙(220図1・2)

1. 深鉢。覆土出土。口縁部 $\frac{3}{4}$ 、胴部~底部 $\frac{1}{4}$ 、頸部と底面を欠損。

復元実測。口唇部は面を持ち、U字状の中空突起を口唇上に付す。口縁部は直立し、頸部はハ字状に開く。胴部は垂直に落ち、径は小さい。文様は、幅広の竹管文、ペン先状の刺突文が隆帯を縁取り、飾られた土器である。口縁部文様帯は、U字状の突起を中核として、細隆帯が半円のモチーフを連続するのであろう。突起両脇は、三角となる。半円の区画内は、幅広の竹管文、ペン先状の刺突文が沿い、3条の短沈線も施される。頸部文様帯は、欠損して判然としないが、数条のペン

先状刺突文が巡るのであろうか。胴部文様帯は、4段に横位分割される。2条1組のペン先状刺突文が巡る文様帯と、短沈線を5・6条施した小突起を一端とする楕円区画文を4単位配する文様帯が交互に重畳する。短沈線を施した小突起は、振りを加えた突起と意匠が類似し、振り→短沈線への変化が窺われる。やや脆弱な土器である。

2. 小型の深鉢。覆土出土。胴部下端~底部 $\frac{1}{4}$ 残存。

胴部下半で屈曲し、底部上で緩やかに彎曲する。文様は、ペン先状の刺突文。半截竹管文が器面全体を充填し、特に底部上はペン先状の刺突文が縦位に施される。器形、施文方法とも異色を放つ土器である。

740号土壙(220図3・4)

3. 深鉢。壙底直上出土。胴部のみ $\frac{1}{2}$ 残存。

バケツ形の胴部器形を呈す。地文にRL縄文を施し、沈線で方形の区画文を描く。方形の区画は、縦位・横位に配される。区画内は、沈線で渦巻状のモチーフを描く。その他沈線は、双波状、C・∩字状のモチーフを描く。

4. 深鉢。覆土出土。胴部下半~底部 $\frac{1}{4}$ 残存。

僅かに張り出しながら立ち上がり、胴部にかけて開く。底面の器肉は比較的薄く、小型の土器であろう。RL縄文が横位・縦位に施され、一部は結節状となる箇所もある。

744号土壙(221図1~3)

1. 深鉢。壙底直上出土。口縁部 $\frac{1}{2}$ 、底部欠損。

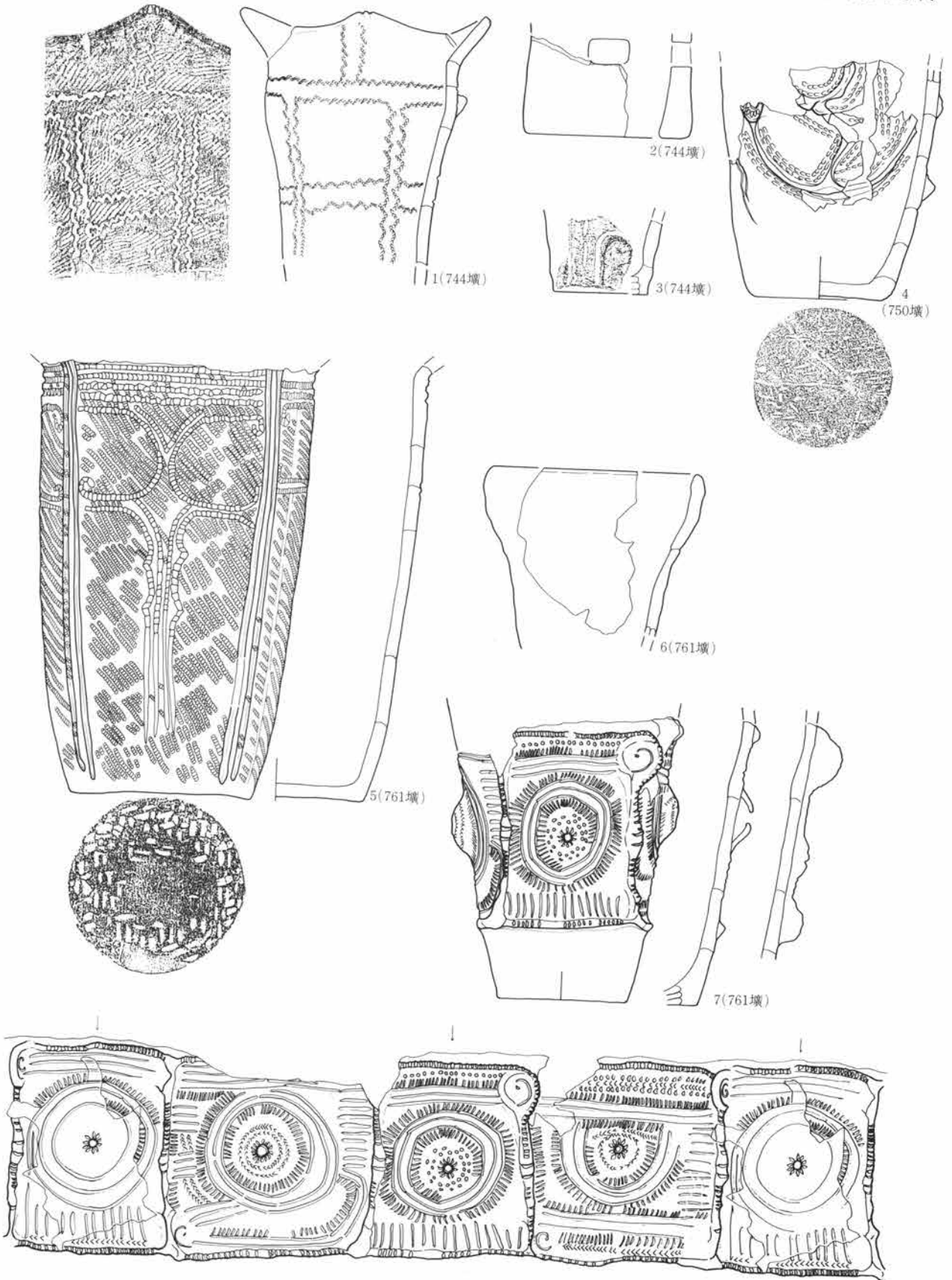
波状口縁を呈し、頸部で緩やかに括れ、胴部上半では膨らみを持たせる。図示していない図反対面には瘤状の小突起を付す。波頂下には2個の刻みを有し、ペン先状刺突を連続した鋸歯状文が2条頸部にまで垂下する。胴部も鋸歯状文が垂下し4分割され、下位では2条の鋸歯状文が横位に施される。地文は無節縄文1が施される。内面頸部と底部上に煤付着。

2. 器台?。脚部 $\frac{1}{4}$ 残存。

直線的な脚部である。上部が欠損しているため判然としないが、方形の孔を持つ。

3. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{4}$ 残存。

端部は僅かに突出し、直線的に開く立ち上がり。隆線で∩字状のモチーフを下端に連続させ、外側を沈線



221図 土壙出土土器

0 20cm

第IV章 遺構と遺物

が沿う。垂下隆線も付される。空白部は短沈線が縦位に施される。

750号土壙(221図4)

4. 深鉢。壙底直上出土。胴部下半 $\frac{1}{2}$ 、底部残存。

丸みを帯びる隆線が弧を描き、2条1組の結節沈線が隆線の両脇に沿う。また、半截竹管による平行沈線が波状に垂下する。隆線同志の接点は瘤状となり、半截竹管文を施す円環状の小突起も付される。弧状の隆線は、何らかの意匠文を描くのであろうか、胴下半における隆線の処理方法としては特徴的である。底面網代痕。内面に煤が少量付着する。

761号土壙(221図5～7)

5. 深鉢。壙底出土。口縁部欠損。

頸部は、外反する兆しを呈す。胴部は、若干膨らみを持たせる長胴形の器形。2本1組の隆線が垂下し、器面を4分割する。2本の隆線の狭い間隔は、丁寧に撫でられる。隆線貼り付け後、LR縄文を縦位施文する。縄文には間隔施文の痕跡も見出せる。頸部下には小型半截竹管による角押文が3・4条横位施文され、下位の1・2条は鋸歯状文を描く。胴部は2本1組のいわゆる懸垂文を描く。懸垂文は左右ほぼ対称で、末端を小さく渦巻く処理をする箇所もある。非常に丁寧な施文である。内面の頸部には横方向の磨きも施される。

6. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部 $\frac{1}{4}$ 残存。

平縁を呈し、口縁部は緩やかに内彎するキャリパー形の小型の深鉢。無文であるが、口唇部は丁寧に横撫でしている。

7. 深鉢。壙底直上出土。口縁～頸部欠損、胴部の突起1個欠損。

胴部中位に中空の円錐状の突起を4個付す。胴部上端及び下端には、刻みを持つ細隆帯が1条巡り、垂下する隆帯との接点には渦巻状の突起を造りだす。垂下隆帯は胴部を4分割し、1単位毎に円錐状の突起が付される。単位の形状は方形で、内縁を幅広の竹管文、短沈線が沿う。円錐状突起の先端は単孔で、半截竹管状工具による刻み・円形の刺突文やペン先状の刺突文が縁取られる。その外縁を沈線、幅広の竹管文が沿う。輪積部で破砕されており疑口縁となる。

762号土壙(222図1)

1. 深鉢。土壙底面出土。胴部下半のみ残存。

隆帯が弧状に延び、円環および二股に分岐し、何等かの意匠文を表わすと思われる。隆帯に沿って、1・2列のペン先状刺突文が並列し、空白部を沈線、三叉文、連続三叉文と円形刺突文などが埋められる。やや軟質な土器である。

763号土壙(222図2)

2. 深鉢。覆土出土。底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

底部端部と1条の隆線で画する。胴部より垂下した隆線が接する箇所は、瘤状の小突起と三角の隙間となり、このパターンで交互に配列すると思われる。隆線によって画された区画内は、幅広の半截竹管文・平行沈線・ペン先状の刺突文が沿う。

767号土壙(222図3)

3. 小型の深鉢。覆土出土。胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$ 残存。

やや丸みを帯びて立ち上がる。半截竹管による刻みを施した隆線が垂下し幅広の刻み目列が間隔を狭く横位施文される。器肉は薄く、内面は丁寧に撫でられており黒色を呈する。

769号土壙(222図4)

4. 深鉢底部。覆土出土。 $\frac{1}{2}$ 残存。

端部は鋭い、やや膨らみを持って直立気味に立ち上がる。

877号土壙(222図5)

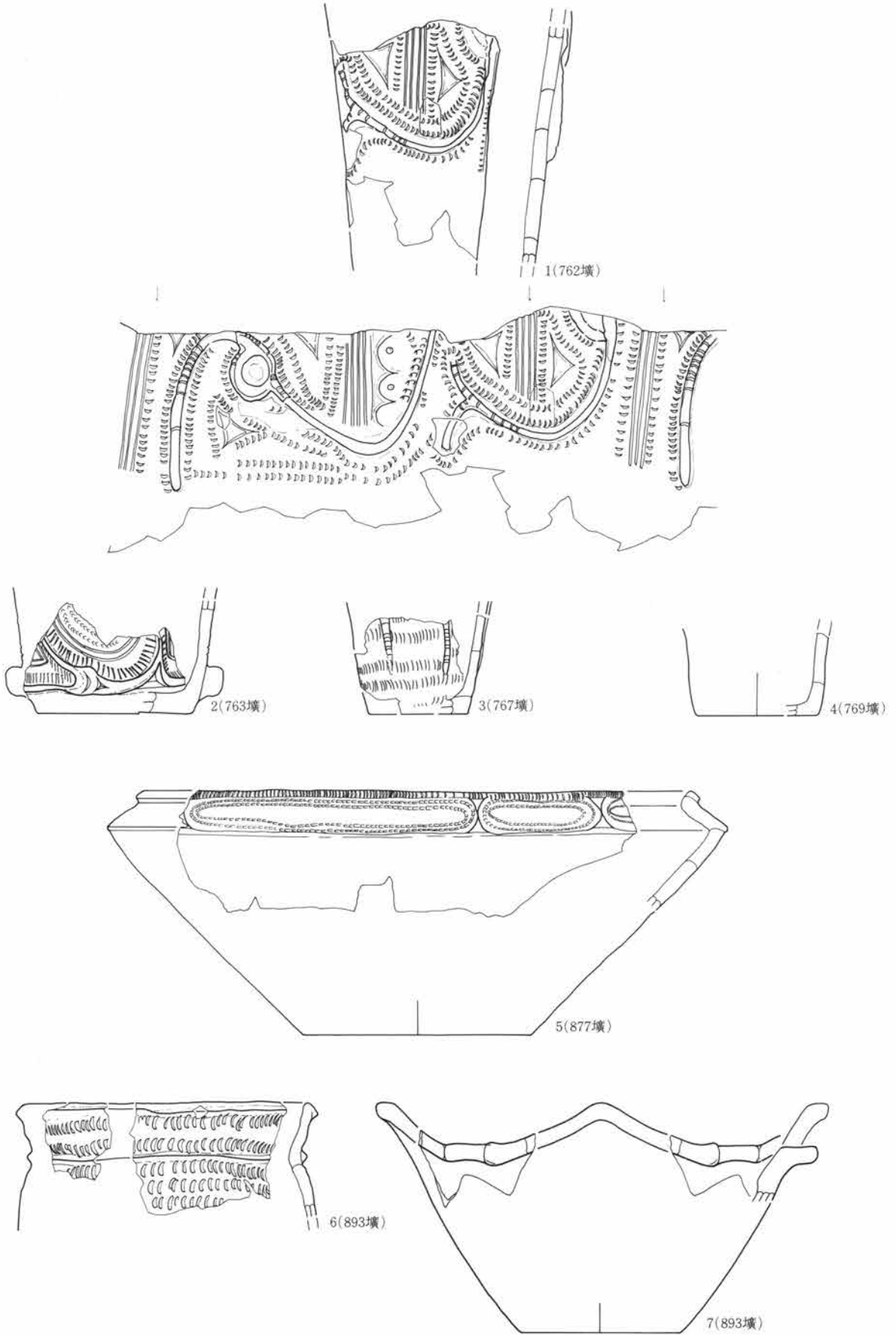
5. 浅鉢。壙底出土。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

口唇部は僅かに外折し、口縁部は内傾する。頸部で屈曲し、体部は若干丸みを持たせる。口唇部には、刻みが密に連続し、口縁部文様帯には、X状の隆線で楕円枠を配す。枠内は、2本1組の結節沈線が沿う。楕円枠は、小型のものと長楕円を呈するものがある。

893号土壙(222図6・7)

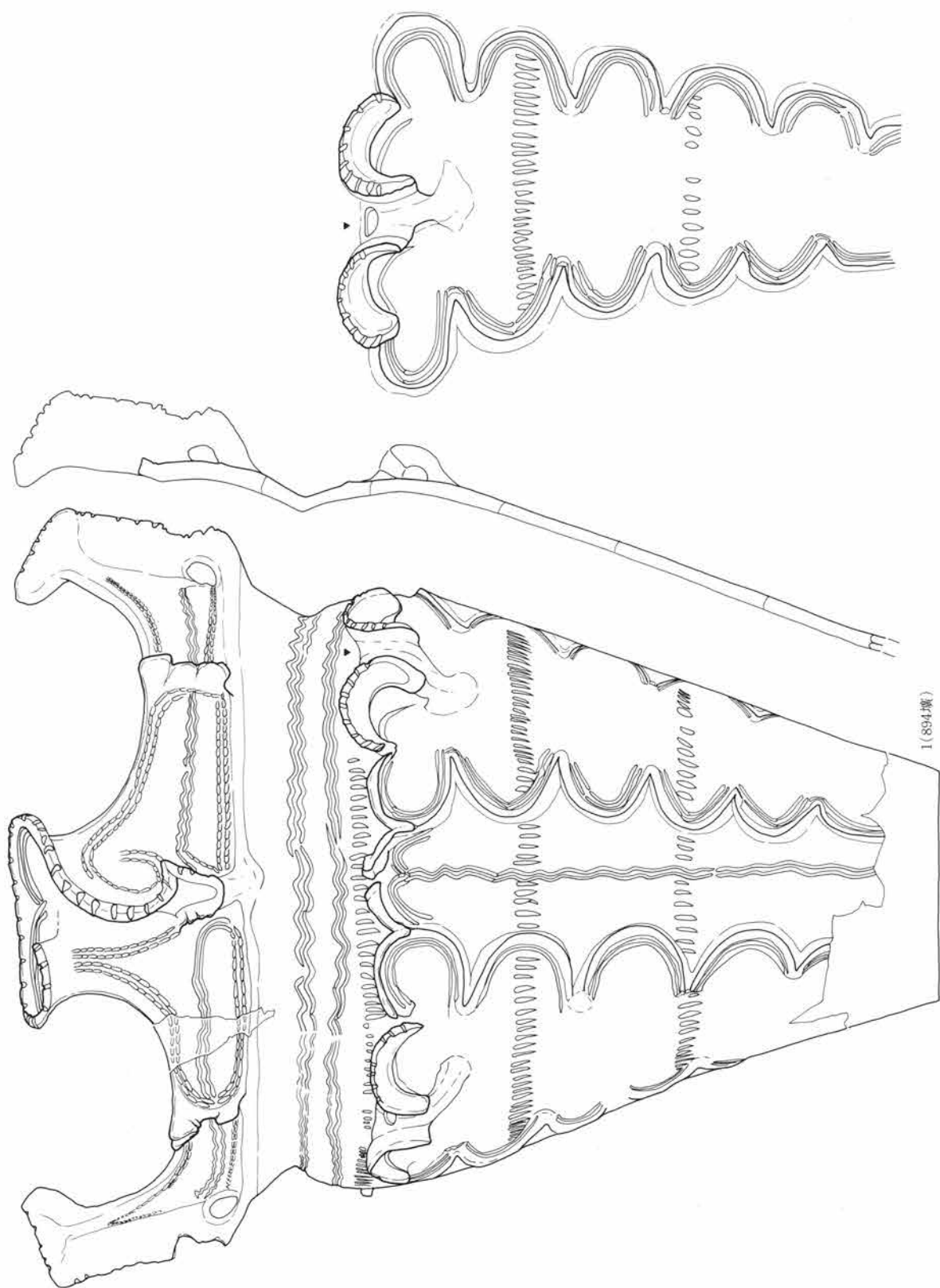
6. 深鉢。覆土出土。口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

平縁を呈す。口唇部に稜を持ち、口縁部は穏やかな丸みを帯びる。頸部で括れ、胴部で膨らみを持たせ最大径を胴部中位に持つのではなからうか。頸部に1条の断面三角の隆線が巡り口縁部と胴部を画する。口縁部文様帯・胴部文様帯とも文様は爪形文(C)の横位連続施文であり、特異な文様である。外面の一部に炭



222図 土墳出土土器

0 20cm



223図 土壙出土土器

1(894塚)

0 20cm

化物が付着する。

7. 浅鉢口縁部破片。覆土出土。

波状口縁を呈し、波頂部の小突起を2個付す部分。口唇部端部は面を持ち、丁寧に整形されている。内稜を持ち、口唇部内外面には赤色塗彩が残る。

894号土壌(223図1)

1. 大型の深鉢。墳底出土。底部欠損。

4個の扇状把手は大きく突出する。口縁部はやや内彎し、頸部で括れる。胴部上半で膨らみを持たせ、下半ですぼませる器形を呈す。扇状の把手から派生する隆帯は頸部に巡る1条の隆線と接し、接続部は橋状把手を作る。口縁部文様帯は扇状把手より垂下する隆帯で4分割され、波底下の魚鱗状の突起で更に分割され扇状の把手を中心とした区画文を配す。区画内は2本1組の結節沈線を巡らせ、一筆で横位の波状沈線を施す。扇状把手頂部にはM状のモチーフが描かれ、把手縁辺、隆帯上には深い刻みが施される。頸部の括れ部とその下位には、2本1組の波状沈線が2条巡る。胴部文様帯は、幅広の刻み列(爪形文)施文後隆線・突起を貼り付けている。突起は耳状の突起を2対張り合わせ、小型の橋状把手を作りだす。隆線は丁寧に撫でられ、断面三角とし、2本が対称的に垂下する。隆線片側には2本の細沈線が沿い、縦位の波状沈線がY字状に垂下する。内面も非常に丁寧に撫でられ、使用の痕跡は見当たらない。21号住8と並ぶ大作である。

土壌出土土器 小 結

本遺跡の出土土器は大半が縄文時代中期前半にその時期を当てることができよう。土壌出土土器も、個体として図示し得たものは全て中期に帰属する。しかし、その有り方は、複数型式にまたがる土器様相を呈す。複数個体の土器が伴出した土壌としては、

3・5号土壌：6、7の勝坂系と阿玉台Ⅲ式。

18号土壌：無文の深鉢底部と北陸系の口縁部

19号土壌：無文の浅鉢と阿玉台Ⅱ式

30号土壌：無文の鉢胴部下半と北陸系の小型深鉢

124号土壌：阿玉台Ⅱ式と無文の深鉢

125号土壌：勝坂系の深鉢と在地の土器片

133号土壌：前期末葉の小型深鉢2個体

135号土壌：北陸系と在地系の小型深鉢

142号土壌：勝坂系の浅鉢と在地系の深鉢

198号土壌：在地系の大型深鉢と勝坂系の小型底部

214号土壌：人面突起と阿玉台Ⅱ式

224号土壌：阿玉台系の小型深鉢と無文の浅鉢

299号土壌：在地系深鉢破片と勝坂系の小型深鉢底部

310号土壌：勝坂系の小型深鉢底部と在地系の土器片

342号土壌：在地系の深鉢底部と口縁部

352号土壌：勝坂系の小型深鉢底部と無文の胴部

361号土壌：阿玉台Ⅱ式と勝坂系の底部

378号土壌：勝坂系と北陸系の小型深鉢と浅鉢

454号土壌：勝坂系の深鉢2個体

470号土壌：在地系の小型深鉢胴部破片と底部

479号土壌：阿玉台Ⅱ式2個体

484号土壌：勝坂系の深鉢、在地系の底部と浅鉢

533号土壌：勝坂系と阿玉台Ⅱ式の深鉢2個体

563号土壌：勝坂系の深鉢と胴部破片

585号土壌：在地系3、勝坂系3、浅鉢1

645号土壌：在地系の深鉢と無文の深鉢

724号土壌：勝坂系の深鉢底部3

734号土壌：阿玉台Ⅱ式と勝坂系の深鉢

738号土壌：勝坂系の深鉢3と浅鉢

739号土壌：勝坂系の大型深鉢と小型の底部

761号土壌：大木系と勝坂系の深鉢

である。伴出資料としては、一括出土の住居址や、大型の袋状土壌からの多数個体の出土とは様相を異にする。編年作業などにはやや物足りない資料ではあるが、周辺遺跡の報告と併せて地道な資料蓄積をすれば、時間軸の設定などを試みることができよう。現状では、土器様相の把握作業が先行作業である。

遺構外出土遺物 (224~227図)

224図

1. 深鉢。濠内。口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存。

口縁部はやや膨らみを持ち、頸部において屈曲する深鉢。口唇部に円形竹管状工具の連続押捺による刻みが施される。おそらく突起、把手が付されたと思われるが剝落のため判然としない。口縁部文様帯は細隆帯によって区画され、小型の円形竹管状工具の連続刺突文が1条口唇部、隆帯に沿う。楕円区画であろうか。頸部文様帯も同様の工具で連続刺突文が見られるが、楕円ではなくY字状の接点を描く。頸部下位には波状沈線が巡り、胴上半部は指頭押圧が施される。指頭押圧痕以下に強い撫での痕跡が認められる。

2. 小型の深鉢。濠内。口縁部 $\frac{1}{4}$ 、胴部 $\frac{1}{2}$ 残存。

∩字状の突起を付す深鉢。口縁～胴部上半にかけて直線的に落ちる。突起は刻みを持ち、口縁部と頸部を分ける隆線に接す。口縁部文様帯は、楕円状文を基本とし、楕円間に円形の貼付文を付す。楕円枠内は、太い結節沈線が1条隆線に沿う。頸部は、波状沈線が横位施文される。胴部と頸部の境には隆線を巡らし、胴部は隆線が弧を描きながら垂下するのであろう。頸部下半および胴部には指頭押圧痕が施されるが、文様効果ではなさそうである。

3. 深鉢。80B40。口縁～底部端部 $\frac{1}{2}$ 残存。

平縁を呈す。柱状の突起を付す。口縁部文様帯は、交互刺突を施す頸部隆線と突起で区画され、区画内は1条の小型の角押文が沿う。口唇部に沿う角押文は2条だが、その間を交互刺突が施される。頸部は横位隆線で2段に分帯され、隆線に沿う角押文以外は無文である。胴部文様帯は、横位隆線から派生するY字状の垂下隆線で区画され、隆線には角押文が沿い、区画内を波状文やS字を接続したモチーフが描かれる。

4. 深鉢。50B10。口縁部のみ残存。

扇状の突起を4個付す。1個は欠損。突起及び垂下隆線には刻みが施される。突起間は1条の結節沈線が区画をなし、区画内は2条の結節沈線を斜位に施す。

5. 深鉢。60C30。胴部下半～底部端部 $\frac{1}{2}$ 残存。

直立気味に立ち上がる胴部形態。小型の半截竹管腹面使用の垂下沈線と横位沈線で方形区画され、区画内

を角押文が施される。

225図

6. 深鉢。70C00。口縁～胴部約 $\frac{1}{2}$ 残存。

復元実測。波状口縁を呈し、扇状あるいは山形の波頂部形態を呈するのであろう。口縁部文様帯、胴部文様帯を画する横位隆線、胴部の垂下隆線は雑に貼り付けられている。口縁部文様帯内の区画内は無文、頸部、胴部には横位刻み目列が施される。

7. 深鉢。濠内。口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残存。

欠落しているが突起を付し、口唇部は肥厚する。口縁部は内彎し頸部で屈曲する。胴部は八字状に落ちるが下位において、丸みを帯びる兆しを見せる。甕形の器形を呈する。口唇部には粘土紐を1条巡らし、上下より交互刺突を施すことにより、蛇行文を描く。口縁部文様帯は頸部を巡る1条の結節沈線で画され、斜位の結節沈線が充填される。胴部は、二重の波状文、鋸歯状文が結節沈線で横位施文される。

8. 深鉢底部。濠内。 $\frac{1}{2}$ 残存。

胴部垂下隆線が2本看取され、間隔から4単位である。底部端部は摩滅のため丸い。底面に網代痕が残る。

9. 深鉢底部。濠内。 $\frac{1}{2}$ 残存。

小型の深鉢か。やや丸みを帯びて立ち上がる。指頭押圧を施す垂下隆線が下半で止まる。

10. 小型の深鉢。濠内。胴部下半 $\frac{1}{2}$ 残存。

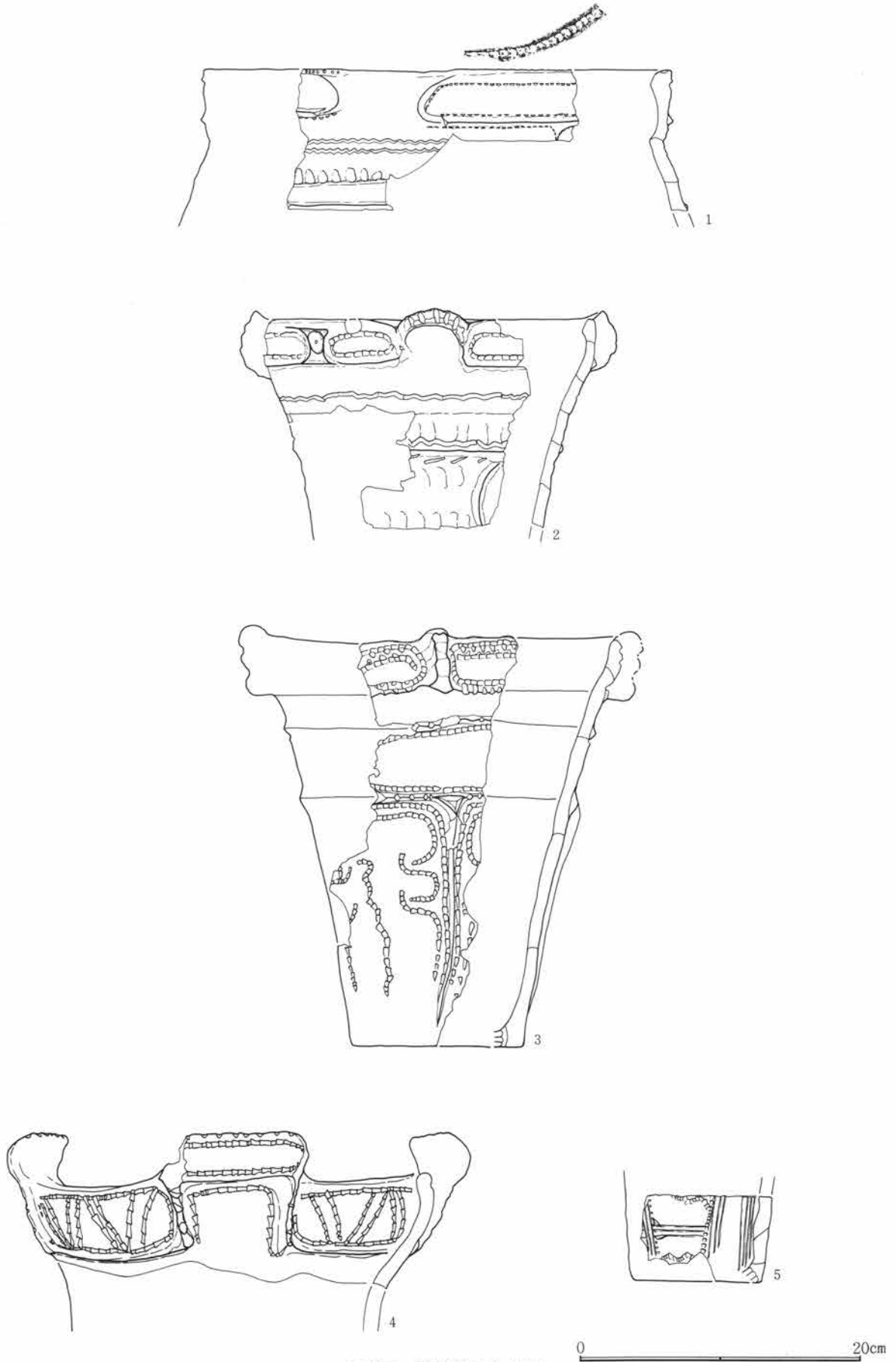
胴径は小さく、底部端部は開く。隆線が先端渦巻のモチーフを描き、結節沈線が沿う。結節沈線は斜位にも施される。渦巻のモチーフの図右側も幾分盛り上がっており、モチーフが対になるのかもしれない。

11. 深鉢底部。C区。 $\frac{1}{4}$ 残存。

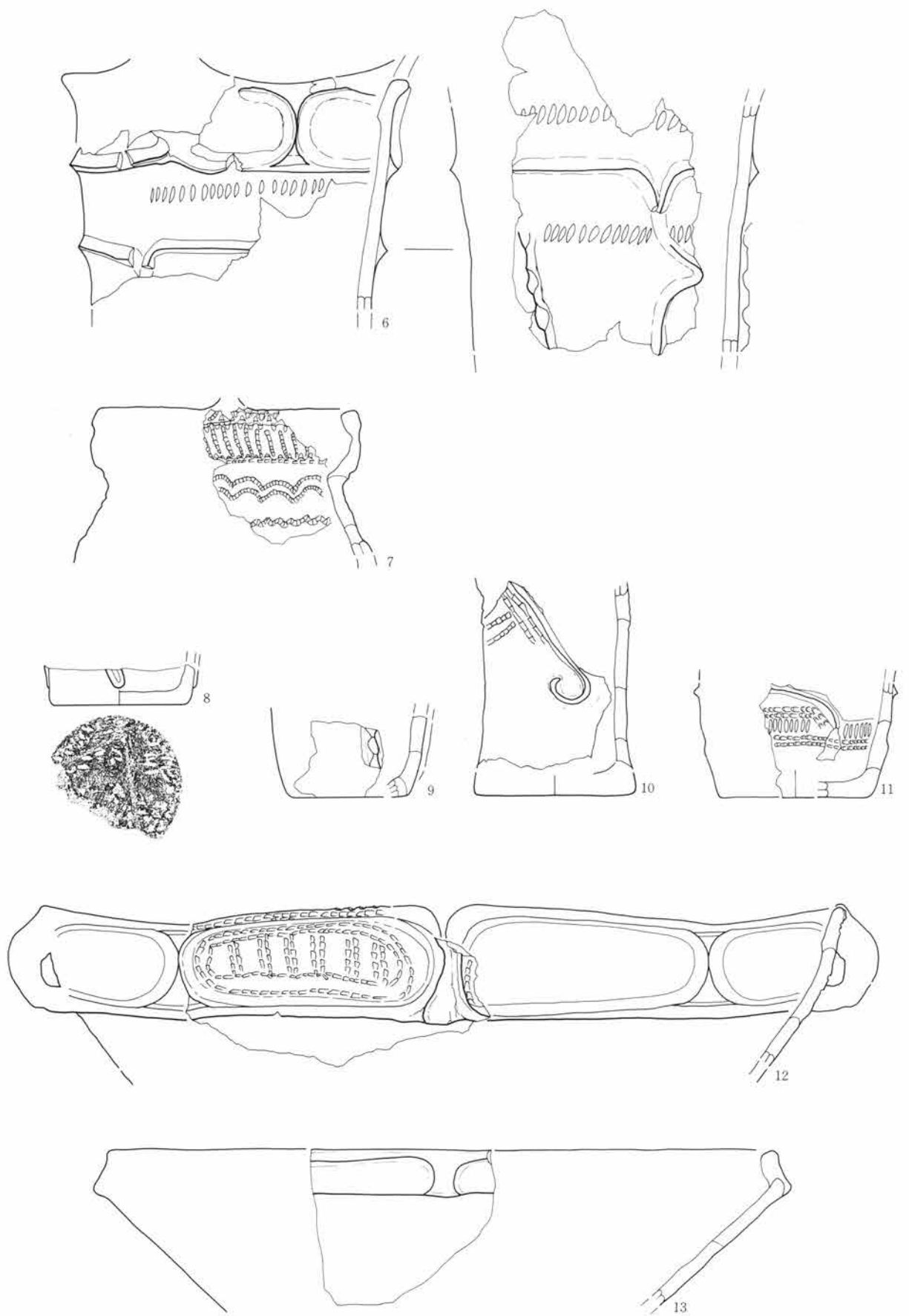
やや開き気味に立ち上がる。隆線が弧状に垂下し、胴部下端の文様帯を画する。文様帯内は2本1組の結節沈線と小型の爪形状刻み目列が横位に施される。

12. 浅鉢。50B10。口縁～体部上半 $\frac{1}{4}$ 残存。

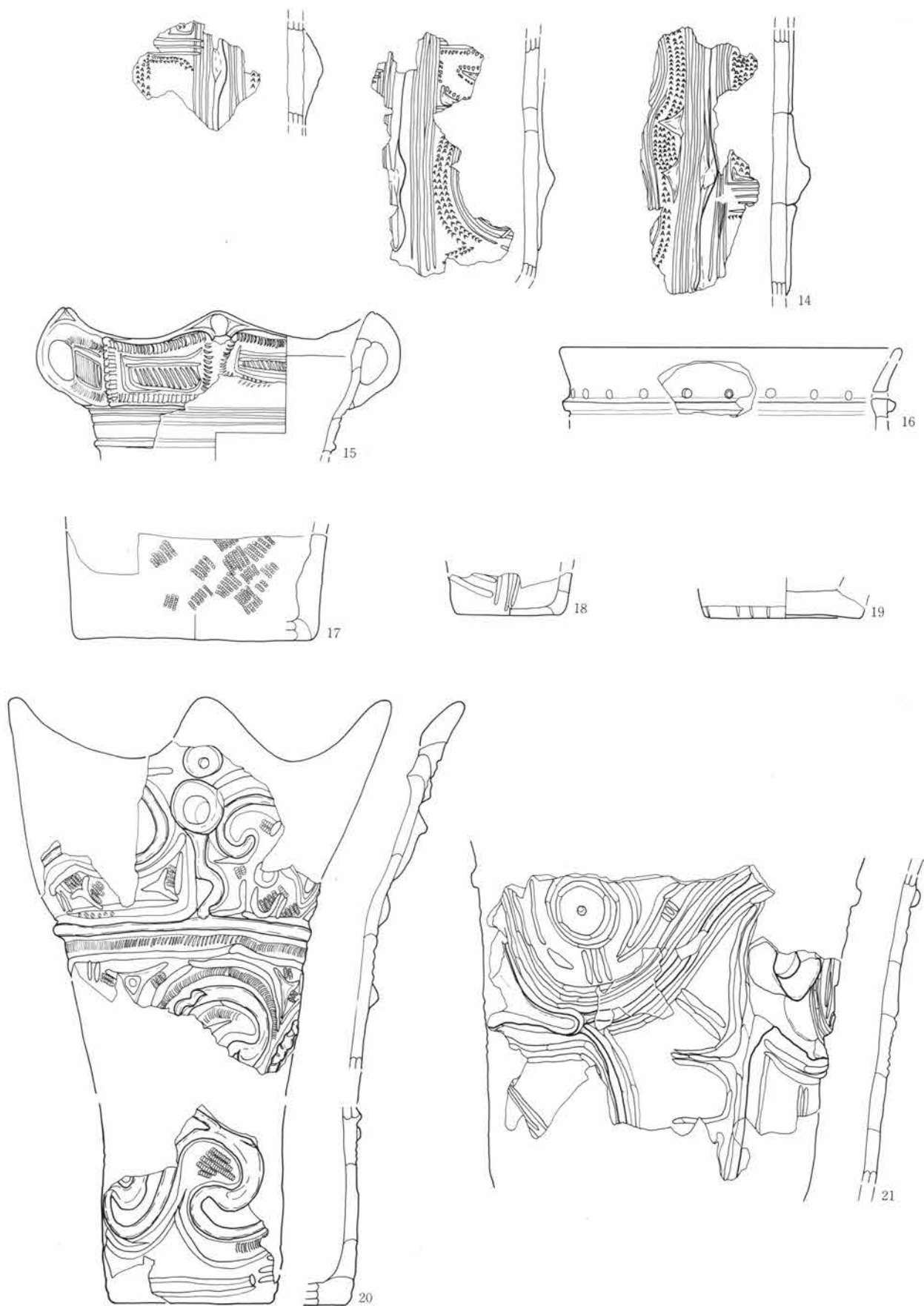
大型の浅鉢である。口縁部は緩やかに内彎し、頸部隆線と繋ぐ橋状把手が付せられる。平縁を呈するが、把手上位で緩やかな双波状口縁となる。口縁部文様帯はX字状の隆線により楕円状区画され、口唇部、区画内に結節沈線が沿う。区画中位は2条の縦位結節沈線が施される。把手の作りはやや雑で、3本の粘土紐が



224図 遺構外出土土器



225図 遺構外出土器



226図 遺構外出土土器

看取できる。内外面ともやや雑な横磨きを施す。

13. 浅鉢。表採。口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存。

平縁を呈する。内稜を持たず、口縁部は若干内傾する。頸部は強く屈曲し体部は直線的に落ちる。口縁部は屈曲部位で文様帯化するが、隆帯による楕円区画のみで区画内は無文である。内外面とも丁寧に磨かれる。

226図

14. 深鉢。50B10。胴部6片のうち3片を図示。

径は測りだせないが、長胴形の胴部であろう。瘤状の突起を付す垂下隆線が文様帯を分割し、隆線に沿って平行沈線が施される。平行沈線は縦位波状文も描き、空白部は細かいペン先状刺突文、連続三叉文が充填される。横位分割線は沈線が施されるのみで、横位隆線が看取されないため胴部は1文様帯であろう。

15. 深鉢。口縁～頸部 $\frac{1}{4}$ 残存。

波状口縁を呈し、波頂部より欠損しているが橋状把手が頸部隆線に繋ぐ。波底部にも隆帯が1条垂下し、口縁部文様帯を区画する。区画は方形を呈し、半截竹管文が区画に沿う。中位は沈線で方形の区画文が描かれ、斜位の沈線文が充填される。橋状把手頂部には、2対の三叉文が沈刻される。頸部には平行沈線が巡る。

16. 有孔罅付土器。濠内～口縁部破片。

口縁部は外反する。頸部隆線上に径5mm程度の孔が連続する。隆線下には、浅い凹線が施される。

17. 深鉢底部。遺構外。 $\frac{1}{2}$ 残存。

器肉は厚く大型の深鉢底部であろう。直線的に開く立ち上りを呈し、端部は丸みを帯びる。RL細縄文を疎らに施す。軟質で内面は剝落が著しく凹凸が大きい。

18. 深鉢底部。遺構外。 $\frac{3}{4}$ 残存。

丸みを帯びて立ち上り、底面の器肉は薄い。斜位と縦位の太めの沈線が施される。

19. 深鉢底部。49B37

胴部より底部端部まで延びた垂下沈線が看取できる。底面は平滑に撫でられている。

20. 深鉢。表採。口縁～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 、と胴部下半～底部 $\frac{1}{4}$ が残存。

復元実測。胴部上半と下半は接合不可。波状口縁を呈し、口縁部はゆるく内彎し、胴部は直線的に落ちる。口縁部文様帯と、胴部のそれは、頸部の1条の隆帯で

分帯される。口縁部文様帯は2ケの円環状突起と蛇行する隆線とそれに沿う沈線で構成され、三叉文・短沈線などが施される。また地文にはRL縄文が施される。胴部文様帯は、隆線から発達した幅広の隆帯が弧状となり、沈線、半截竹管文が沿う。空間には三叉文、円形の刺突文、2対の短沈線が埋められる。地文は縄文RL。底部端部には2条の沈線が巡る。

21. 深鉢。C区。胴部破片 $\frac{1}{2}$ 残存。

幅広の隆帯で突起を造り、そこから派生する細い隆帯と、沈線で構成される。隆帯は、弧を描くもの、垂下するものとバラエティーに富む。沈線も円形のモチーフや三叉文などが看取される。

227図

22. 浅鉢口縁部破片。10C40。

波状縁を呈す。体部は上半に僅かな膨らみを持たせ、底部に至る。外面は比較的雑だが内面は丁寧な研磨を施す。補修孔が穿たれる。

23. 小型の鉢。表採。口縁部破片。

平縁を呈し、薄い外稜を持つ。内外面とも丁寧に研磨されている。

24. 浅鉢底部。遺構外。 $\frac{1}{2}$ 残存。

底部端部は丸みを帯び、直立気味に立ち上がり、体部下半で大きく開く。外面は撫で、内面は丁寧な研磨を施す。

25. 深鉢底部。64B39。

大型の深鉢底部。やや反り気味に立ち上がり、内面中央は僅かに盛り上がる。底面に網代痕残存。

26. 深鉢底部。遺構外。 $\frac{1}{4}$ 残存。

端部は極僅かに突出し、開き気味に立ち上がる。底面に網代痕残存。

27. 深鉢底部。濠内。 $\frac{1}{4}$ 残存。

緩やかに立ち上がる。底面に網代痕が残る。

28. 深鉢底部破片。遺構外。

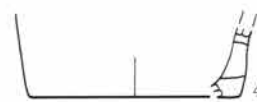
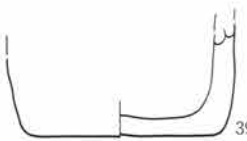
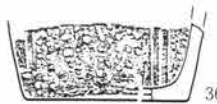
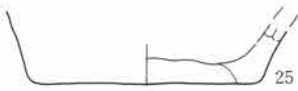
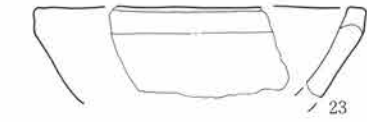
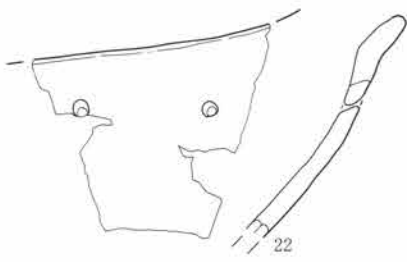
開き気味に立ち上がる。底面に網代痕が残る。

29. 深鉢底部破片。

小型の深鉢。開き気味に立ち上がり、端部は鋭い。底面は平滑である。

30. 深鉢底部。遺構外。 $\frac{1}{2}$ 残存。

底部径は著しく小さい。底径に比して、器肉は厚い。



227図 遺構外出土土器

第IV章 遺構と遺物

31. 深鉢底部破片。濠内。

端部は張り出し、内傾気味の胴部形態を呈す。

32. 深鉢底部。表採。1/2残存。

垂下隆線と、平行沈線が看取される。

33. 深鉢底部。遺構外。底面のみ残存。

端部は丸みを帯び、底面は平滑である。

34. 深鉢底部破片。遺構外。

底部径は小さい。直立気味に立ち上がり、器肉は比較的厚い。網代痕が残るが撫での為判然としない。

35. 深鉢底部。遺構外。1/2残存。

直立気味に立ち上がり端部は丸みを帯びる。脆弱。

36. 深鉢底部。濠内。1/2残存。

端部は鋭く、開き気味に立ち上がる。胴部の器肉は比較的薄い。

37. 深鉢底部。濠内。底面欠損。

輪積部で欠損。器肉は薄く、緩やかな膨らみを持って開き気味に立ち上がる。内面は丁寧な撫でを施す。

38. 深鉢底部。濠内。1/4残存。

緩やかな丸みを帯び立ち上がる。LR縄文を施す。

39. 深鉢底部。60B-10。

端部に丸みを帯び、直立する胴部形態を呈す。

40. 深鉢底部。濠内。1/2残存。

若干の膨らみを持たせ、開き気味に立ち上がる。端部は僅かに突出する。

41. 深鉢底部。B区。1/4残存。

底面の器肉は薄く、やや開き気味に立ち上がる。端部の処理は雑である。

42. 深鉢底部。濠内。

輪積部で欠損。大型の深鉢であろう。内面中央は肥厚し、盛り上がる。

43. 深鉢底部。濠内。1/4残存。

外面は凹凸が多く、垂下隆線の剝落した痕跡がある。底面は平滑で、端部は鋭い。

44. 深鉢底部。濠内。1/2残存。

やや反り気味に開く立ち上がり。底面の器肉は薄い。軟質な土器で、内外面の器壁は荒れている。

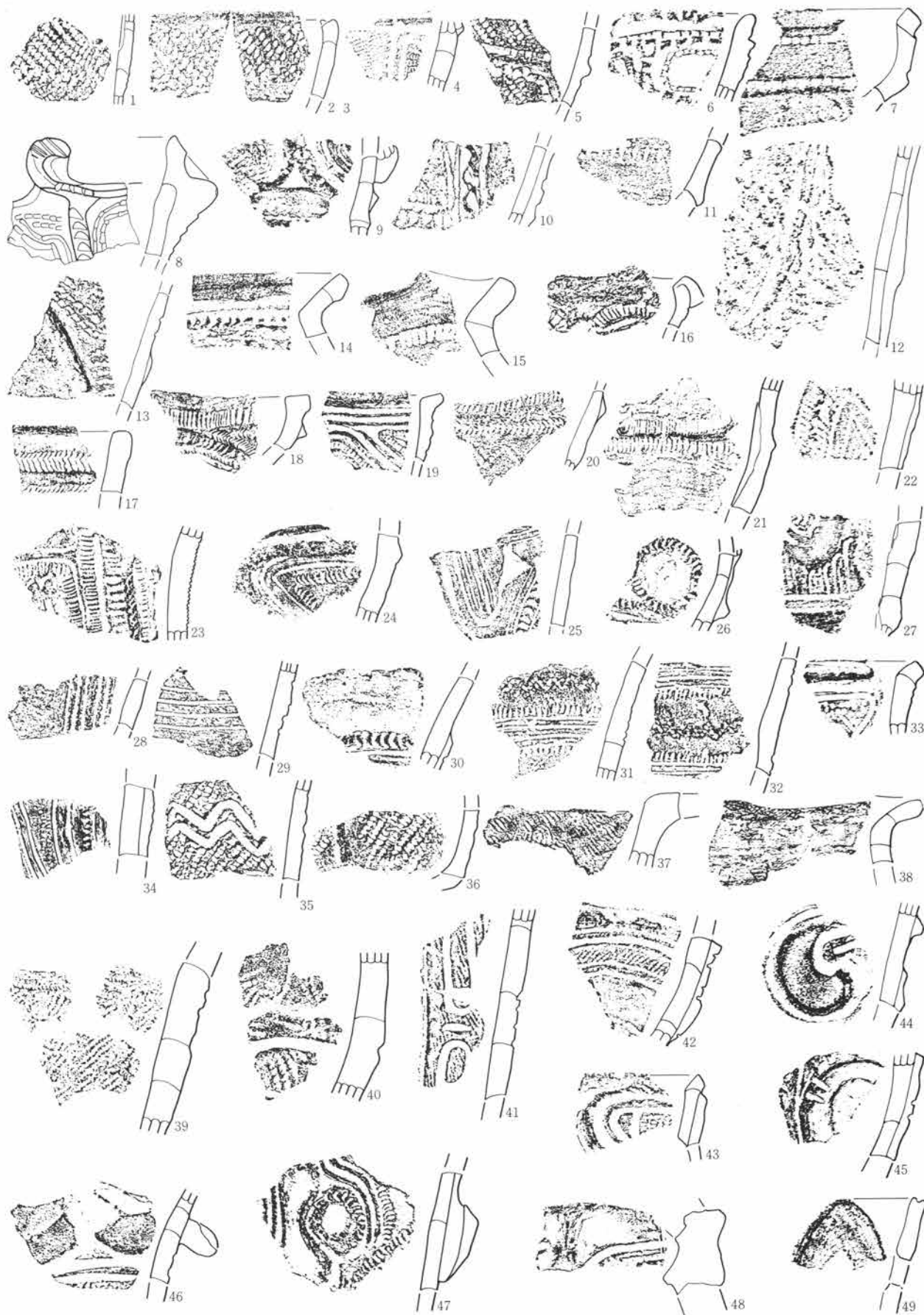
45. 深鉢底部。遺構外。1/2残存。

直立気味に立ち上がり、端部は若干丸みを帯びる。底面はやや上げ底状。

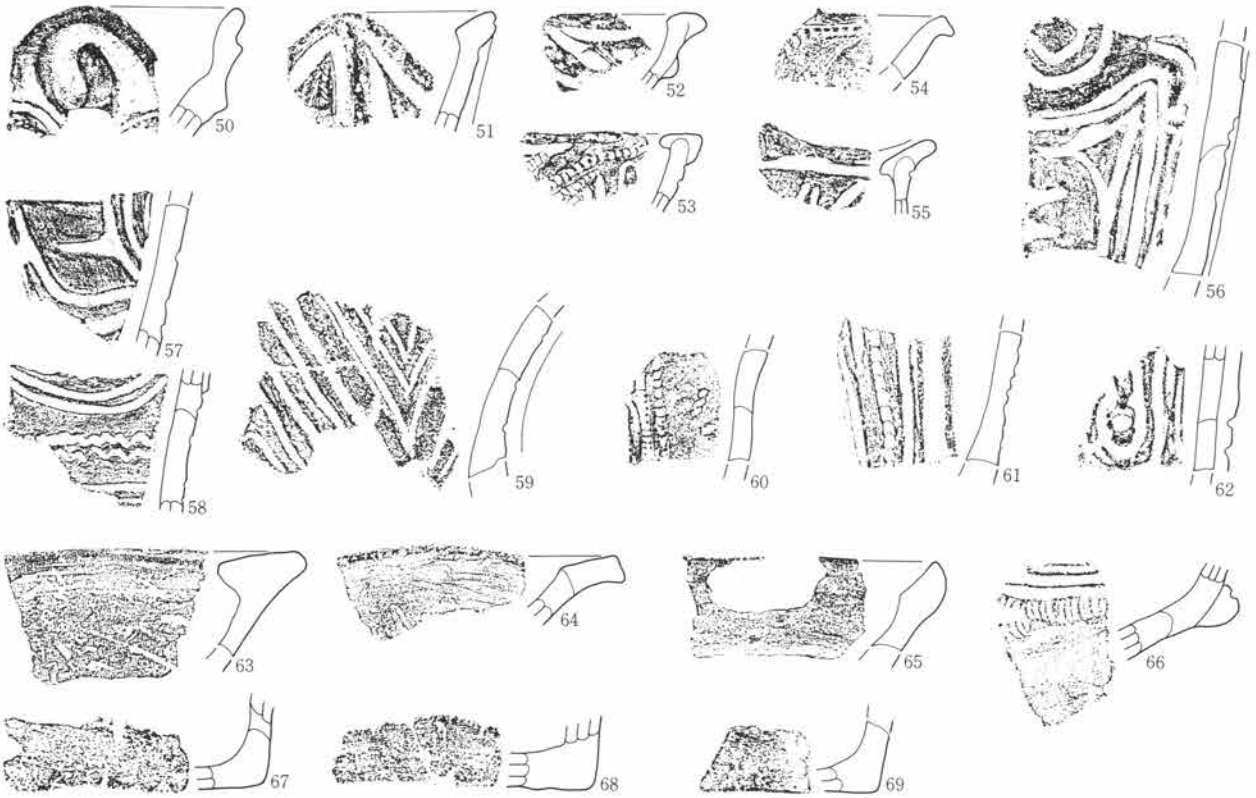




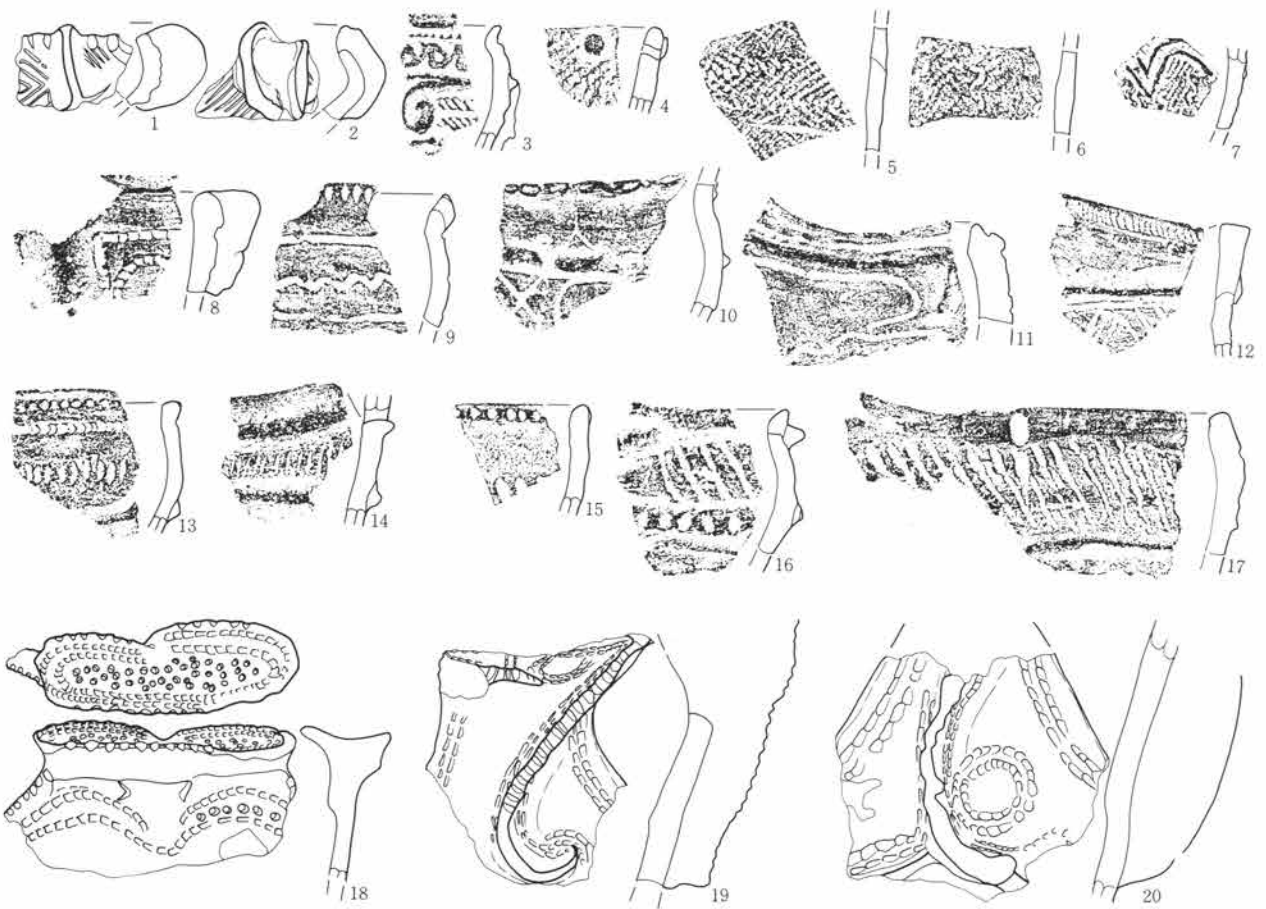
228図 1号住居址土器片拓影



229図 1号住居址上層区土器片拓影

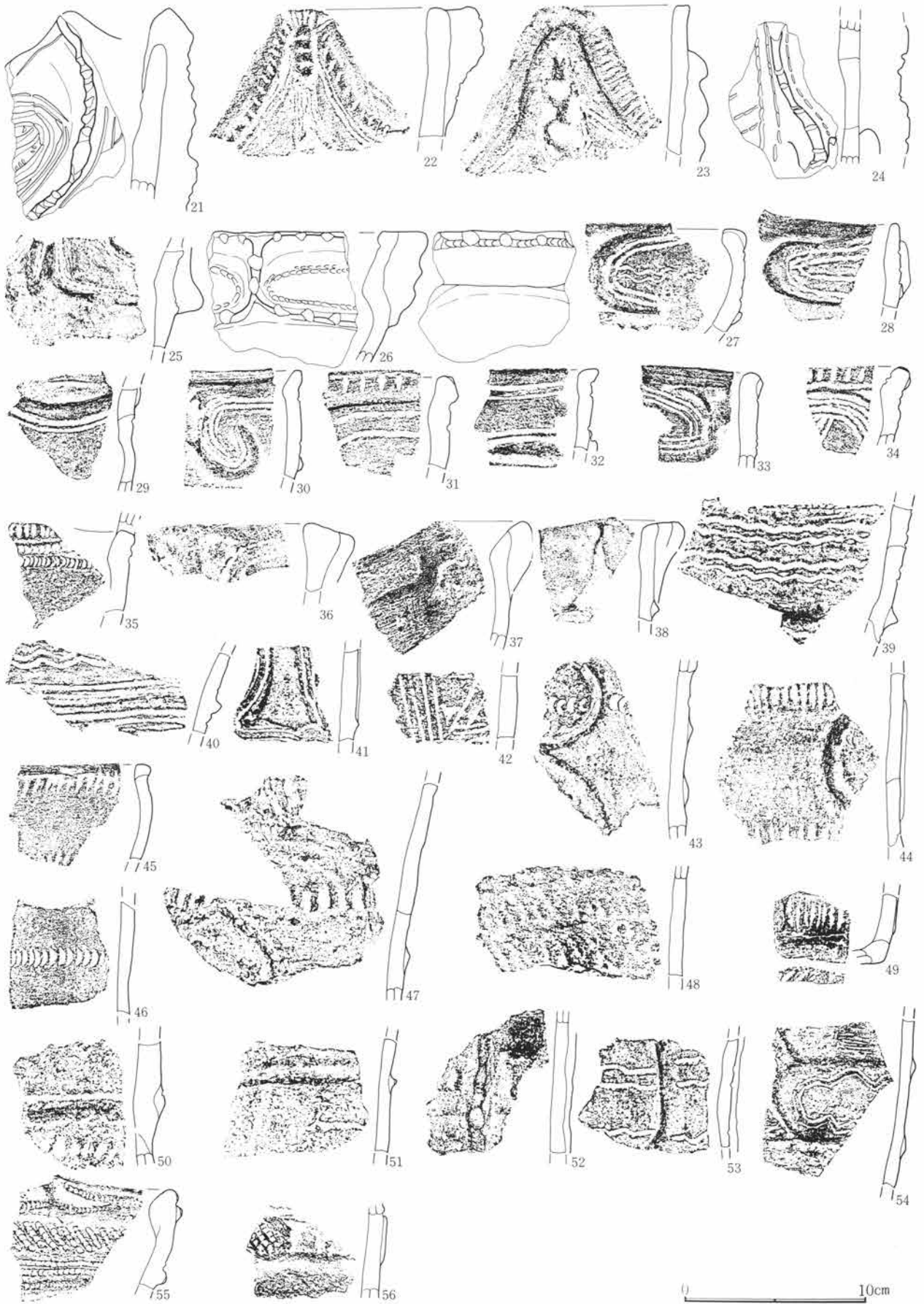


230图 1号住居址上層区土器片拓影



231图 20号住居址土器片拓影

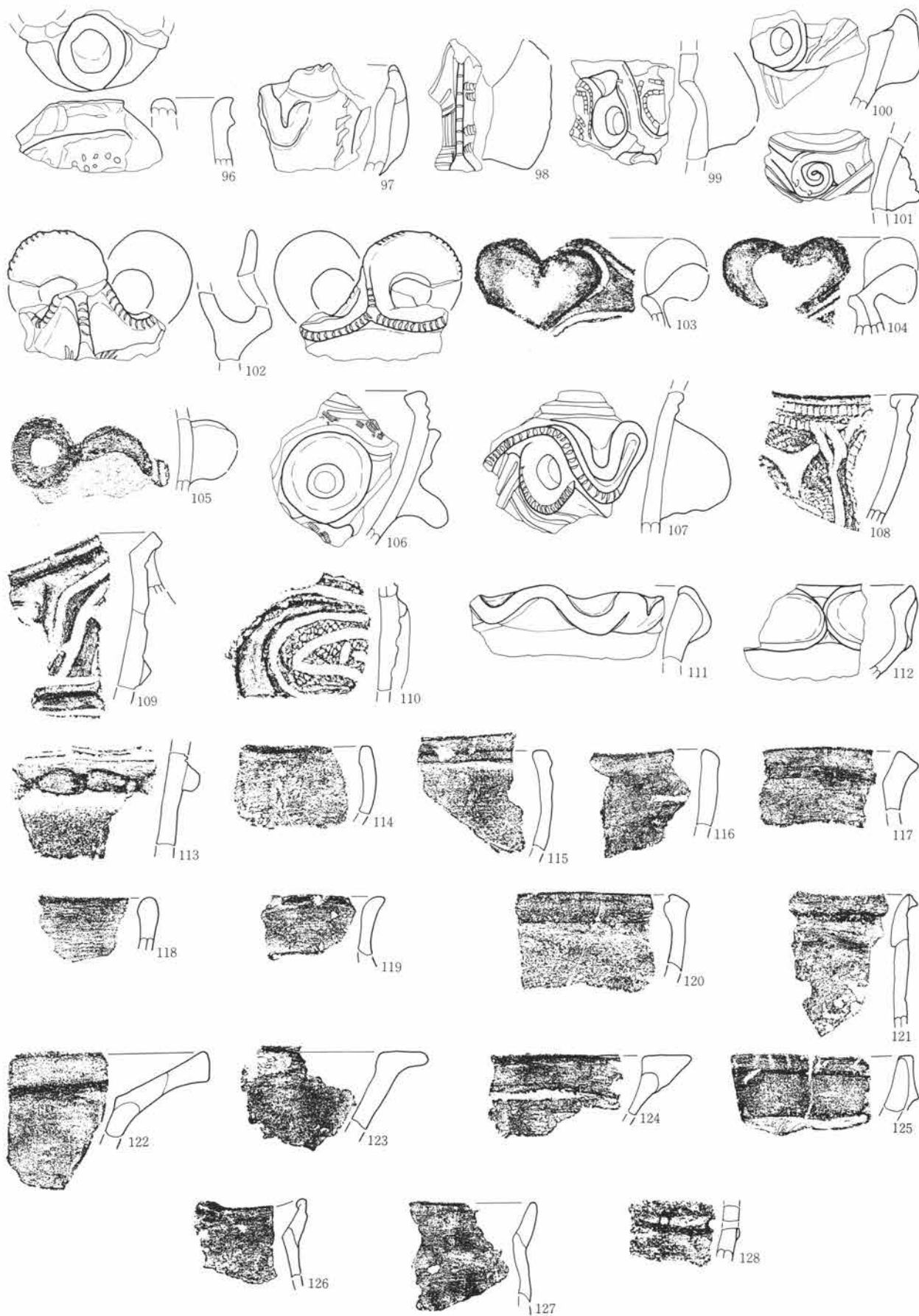
0 10cm



232図 20号住居址土器片拓影



233図 20号住居址土器片拓影



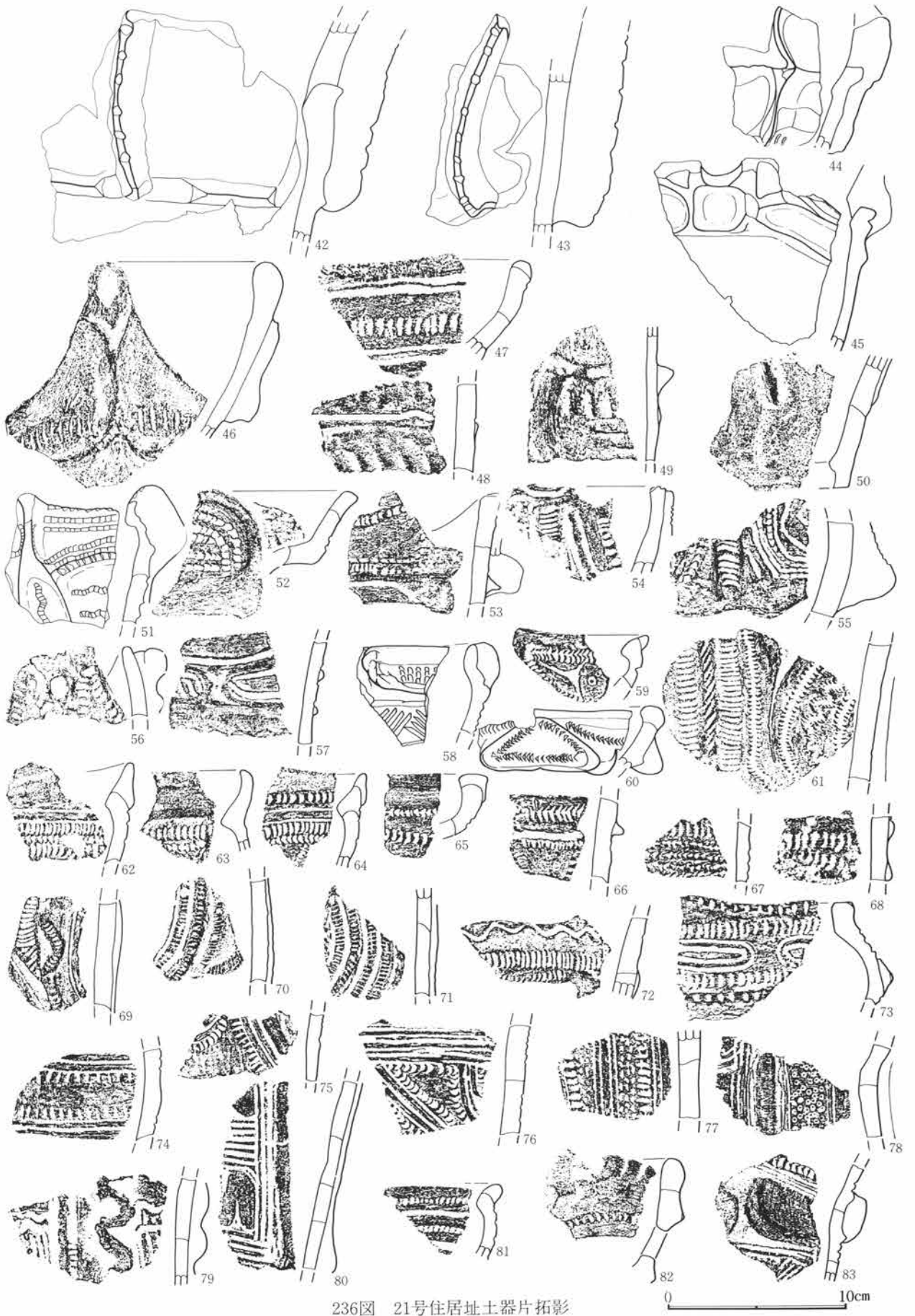
234図 20号住居址土器片拓影

0 10cm



235図 21号住居址土器片拓影

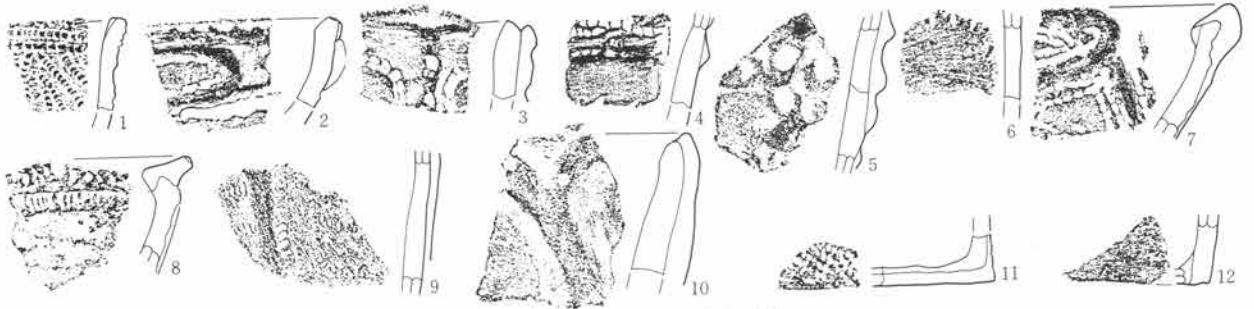
0 10cm



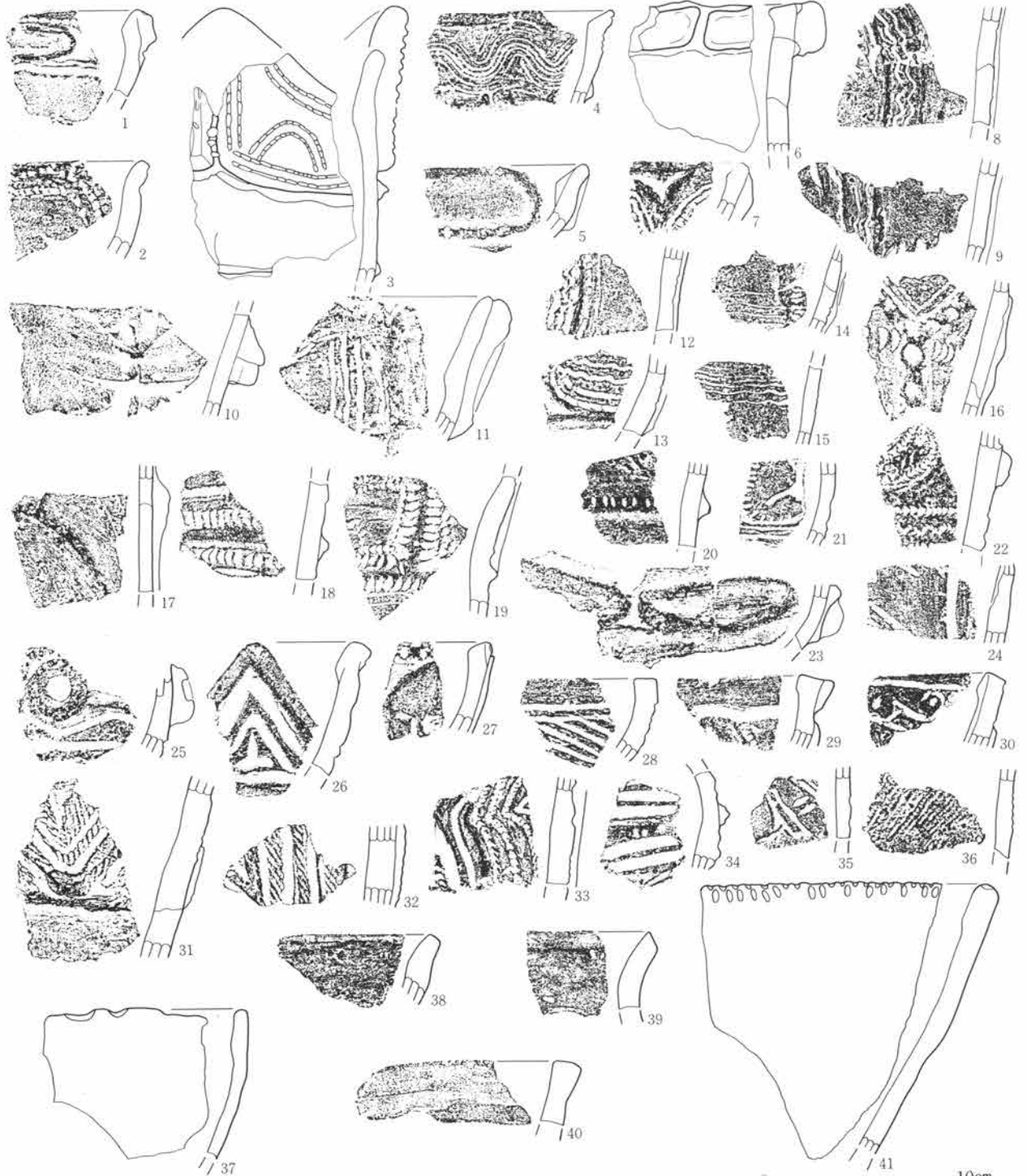
236図 21号住居址土器片拓影



237図 21号住居址土器片拓影



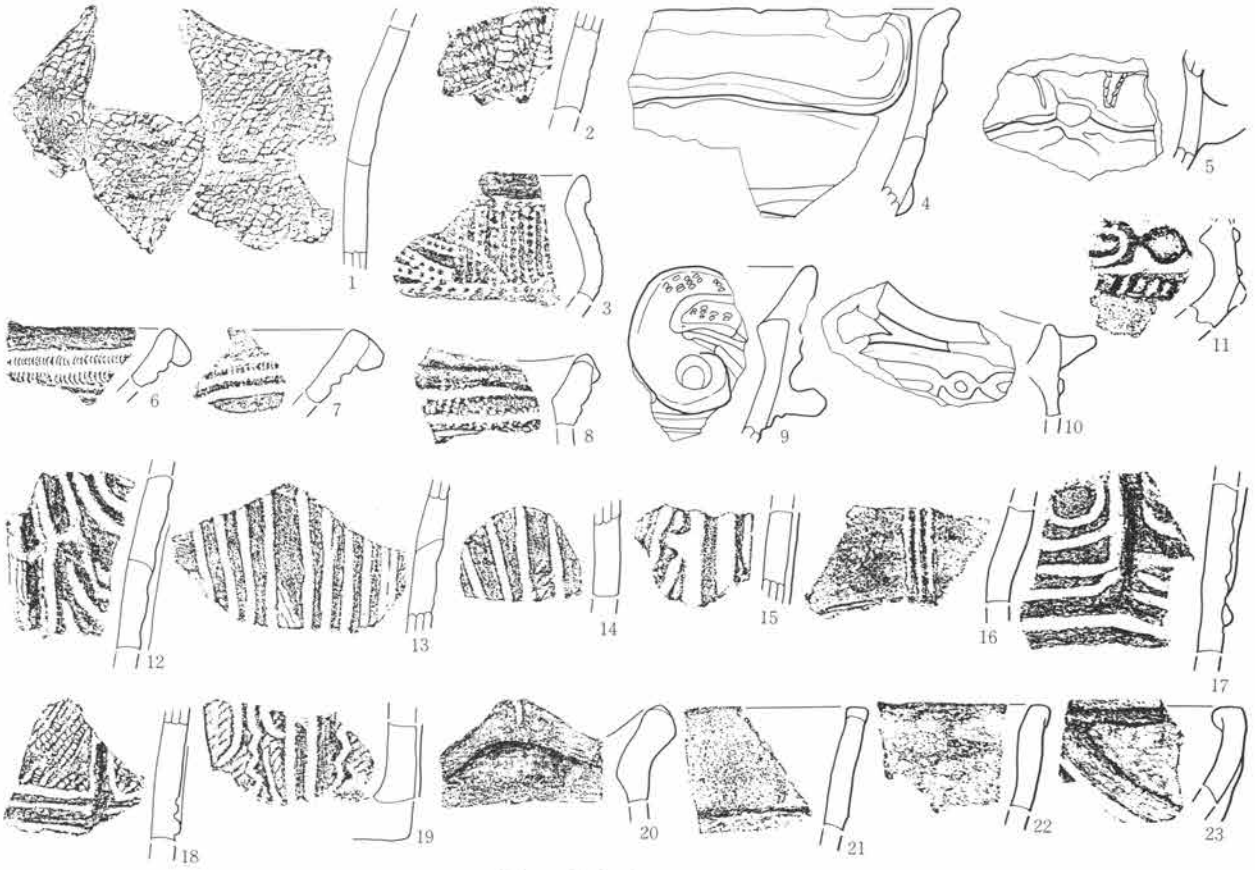
238図 22号住居址土器片拓影



239図 23号住居址土器片拓影



240图 24号住居址土器片拓影



241图 25号住居址土器片拓影

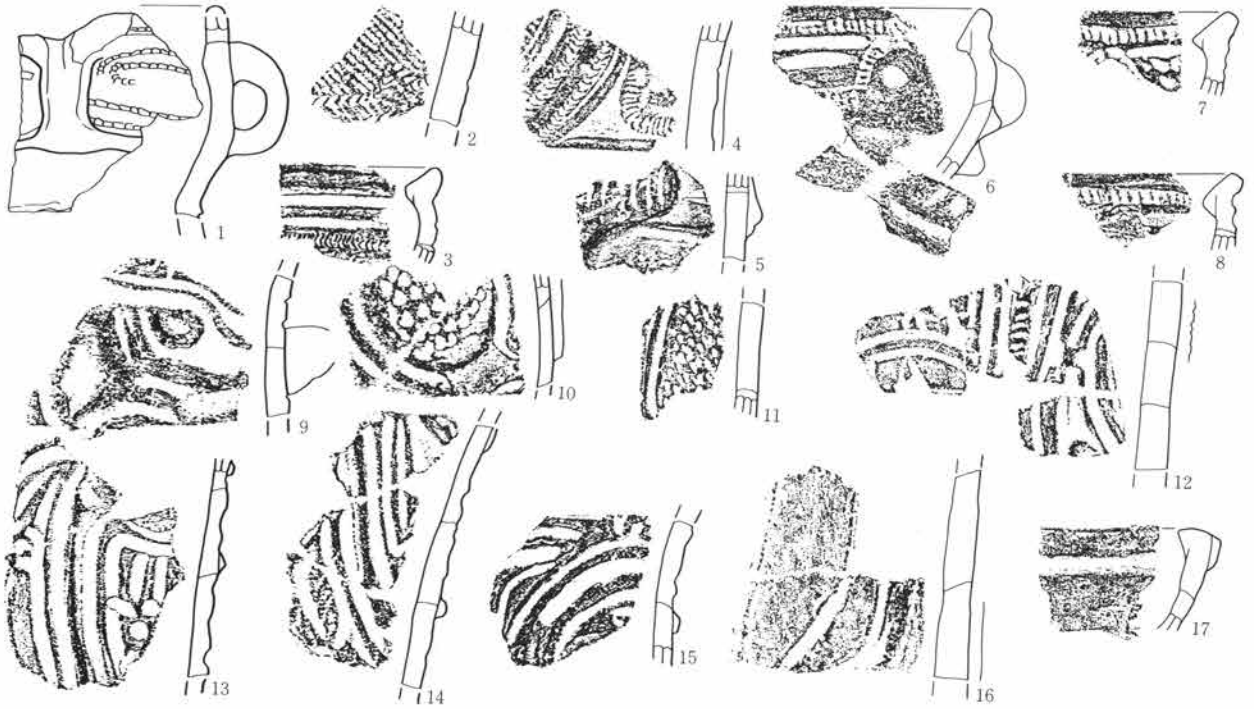


242图 26号住居址土器片拓影

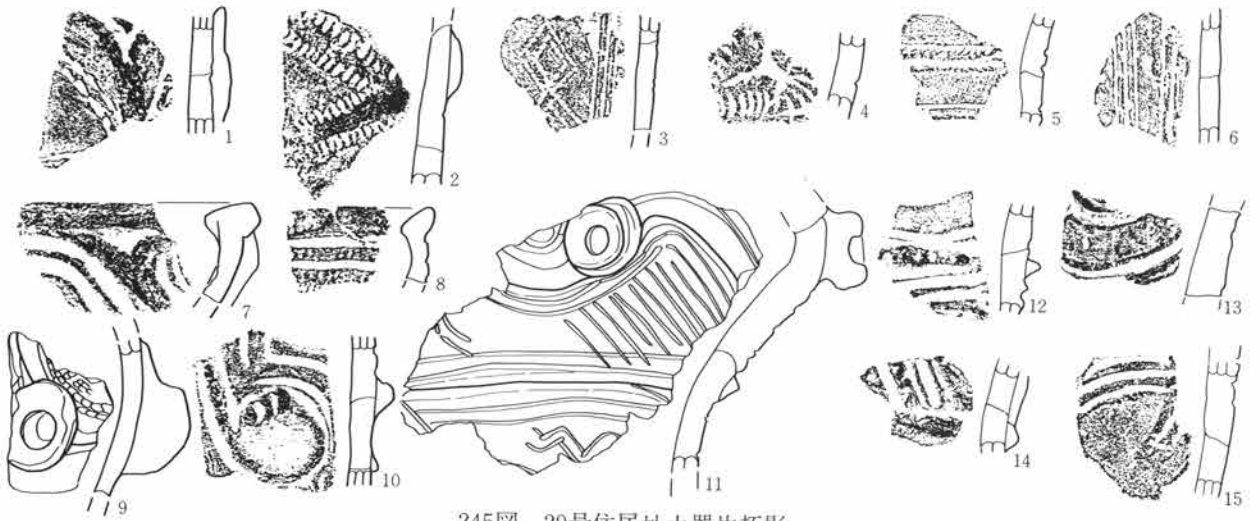


243图 27号住居址土器片拓影

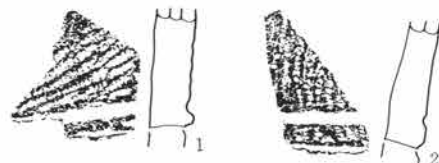




244図 28号住居址土器片拓影



245図 29号住居址土器片拓影



246図 31号住居址土器片拓影



247図 32(1~3)・33(4)号住居址土器片拓影

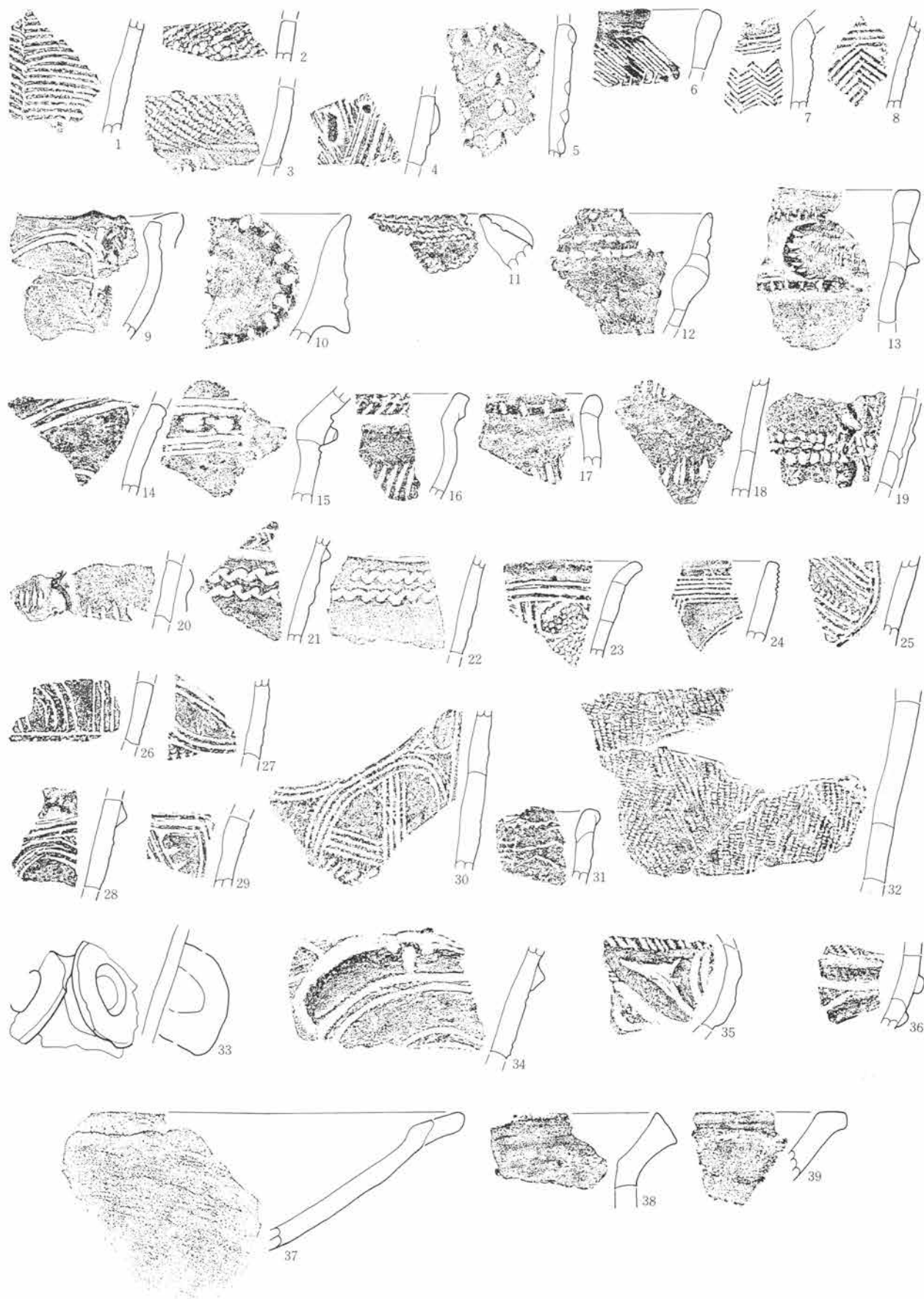




248图 34号住居址土器片拓影

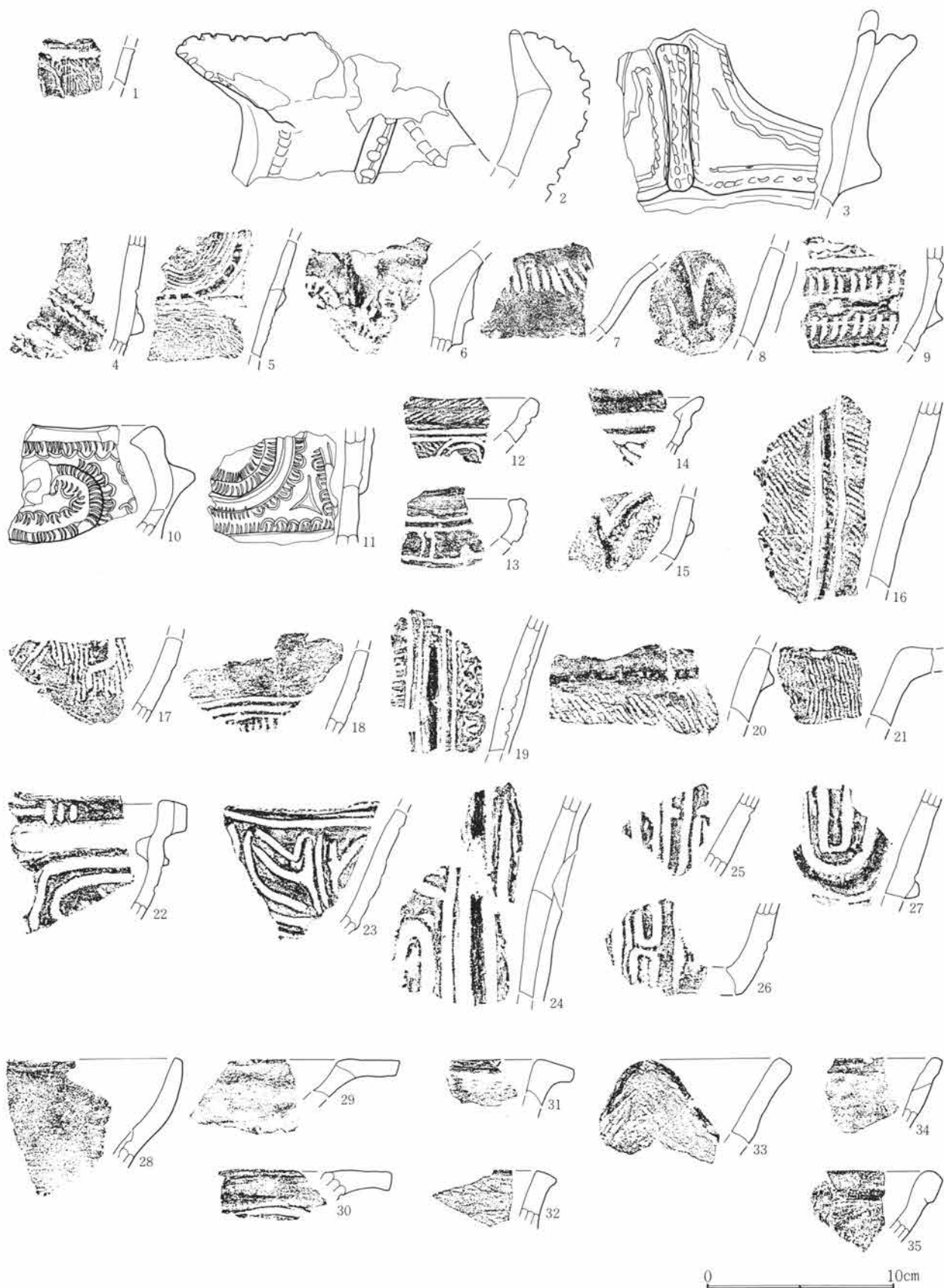


249図 34号住居址土器片拓影



0 10cm

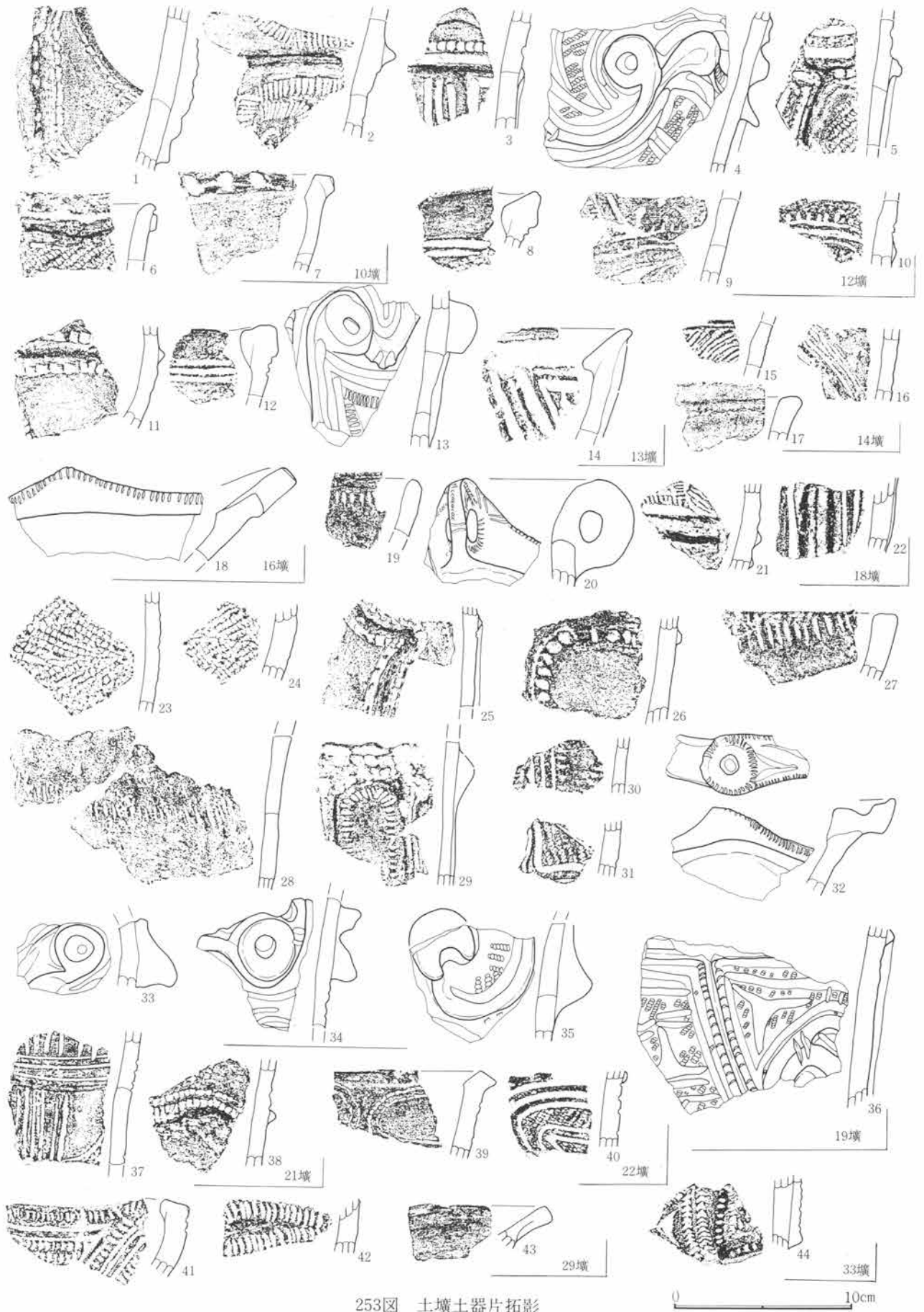
250図 35号住居址土器片拓影



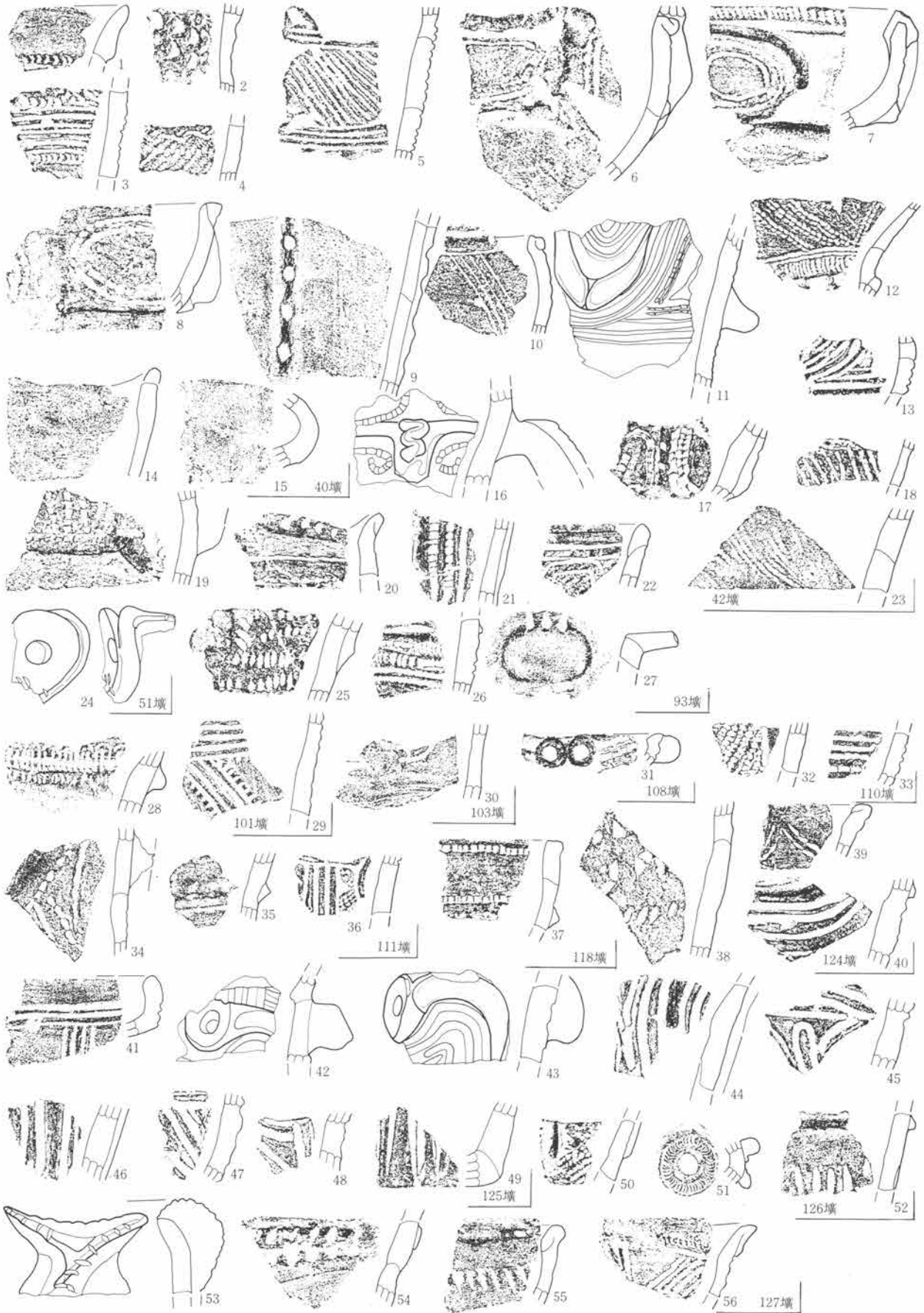
251図 36号住居址土器片拓影



252図 土壙土器片拓影

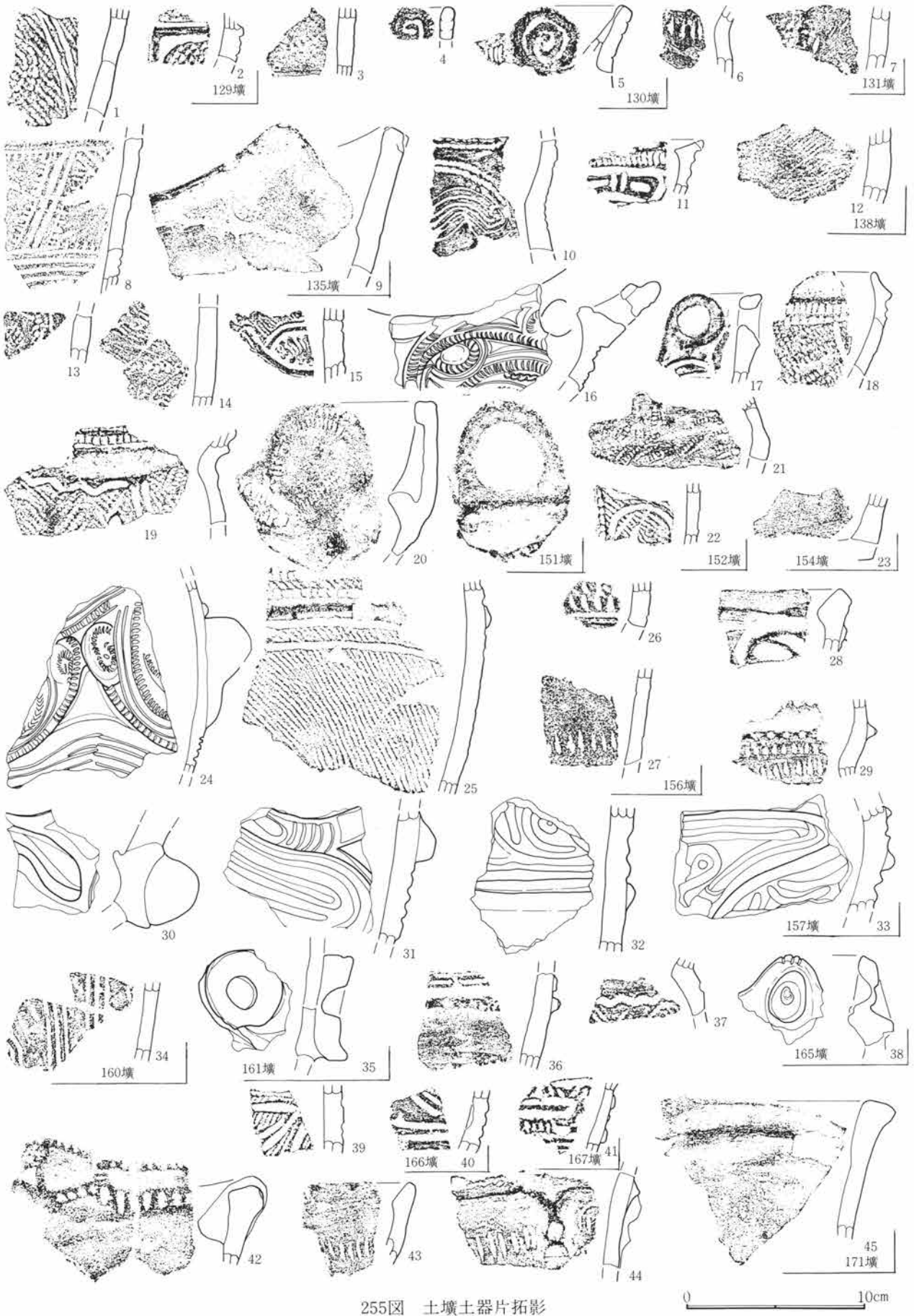


253図 土壌土器片拓影

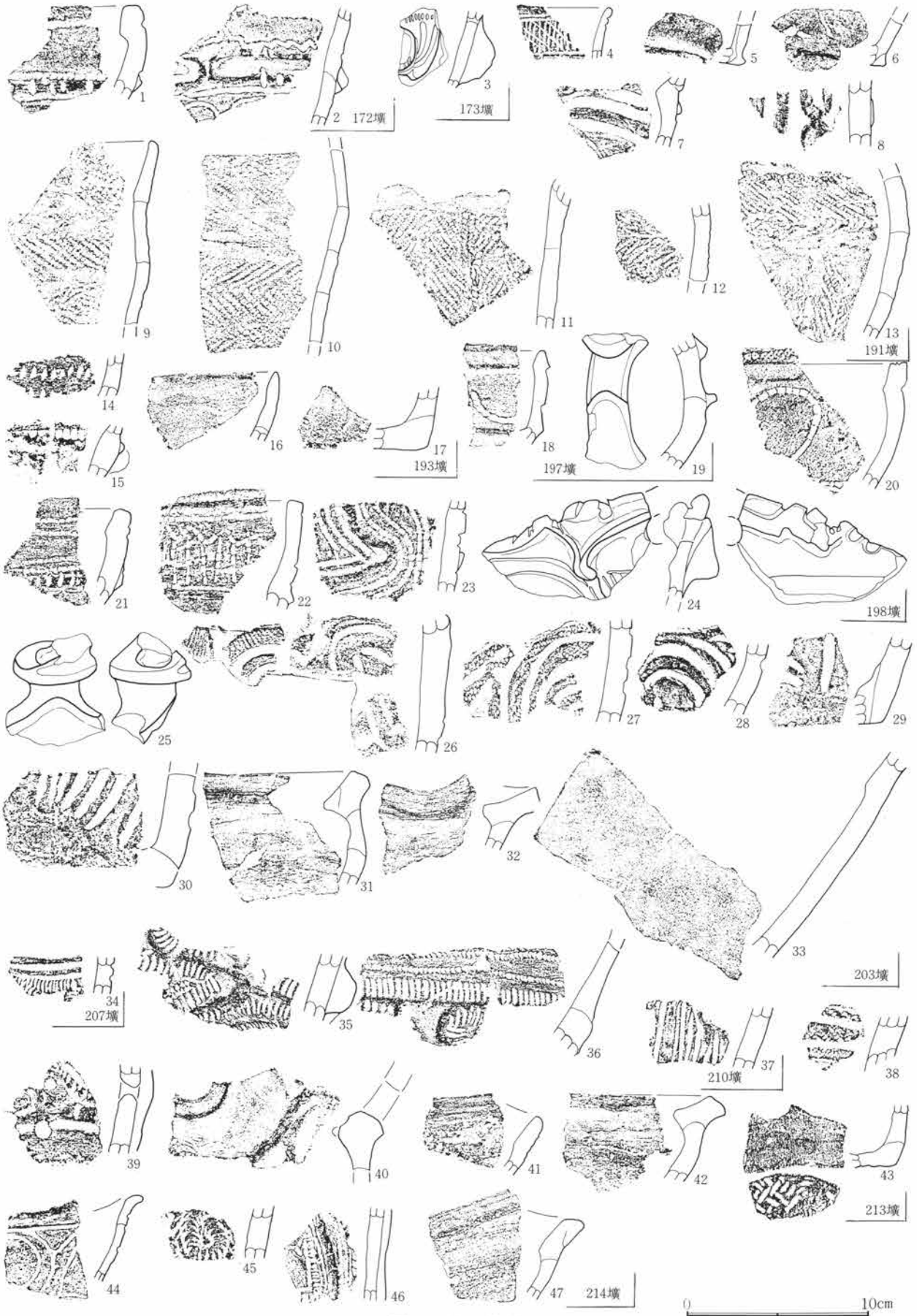


254図 土壌土器片拓影

0 10cm



255図 土壌土器片拓影



256図 土壇土器片拓影

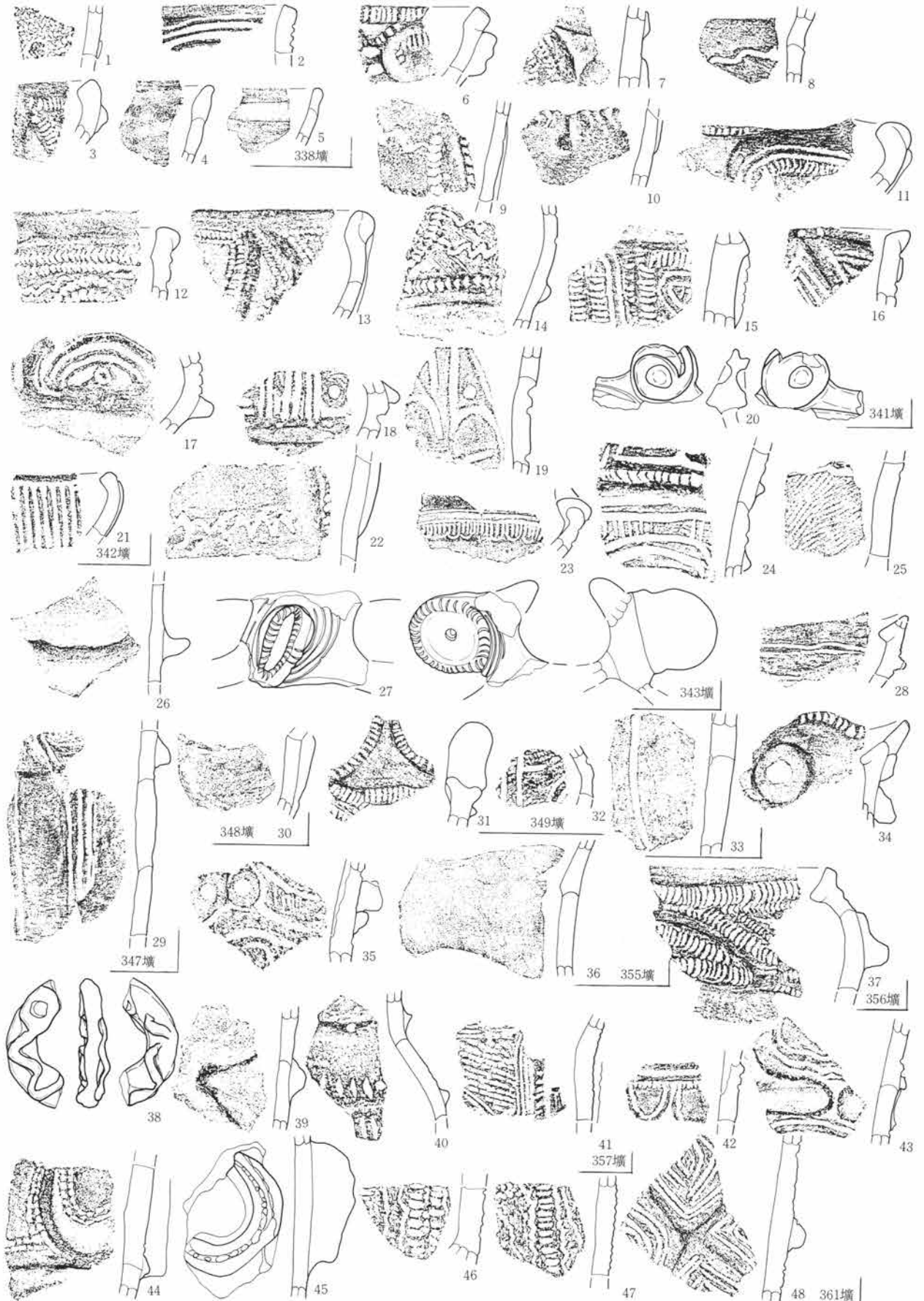


257図 土壌土器片拓影



258図 土壇土器片拓影

0 10cm

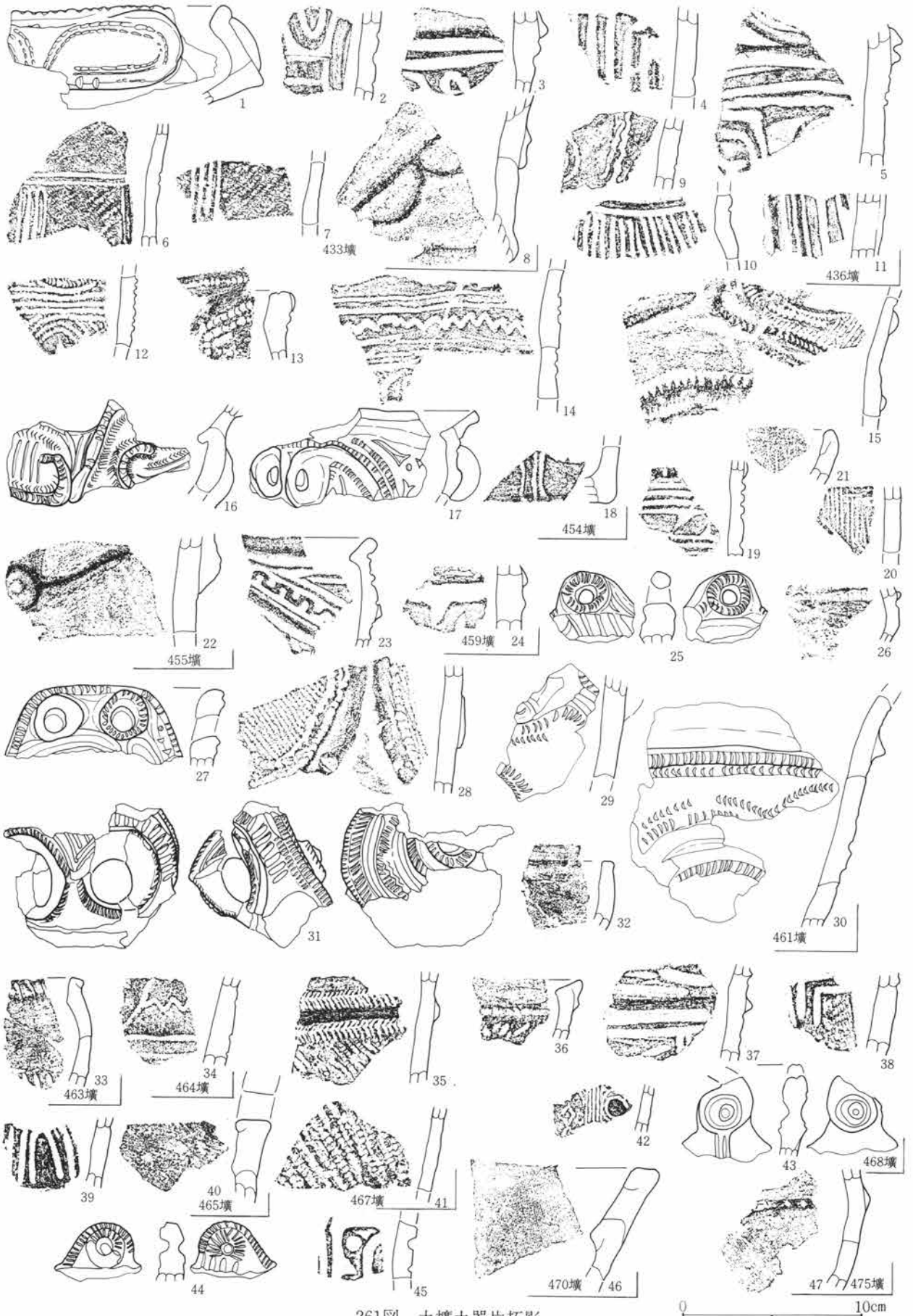


259図 土器土器片拓影

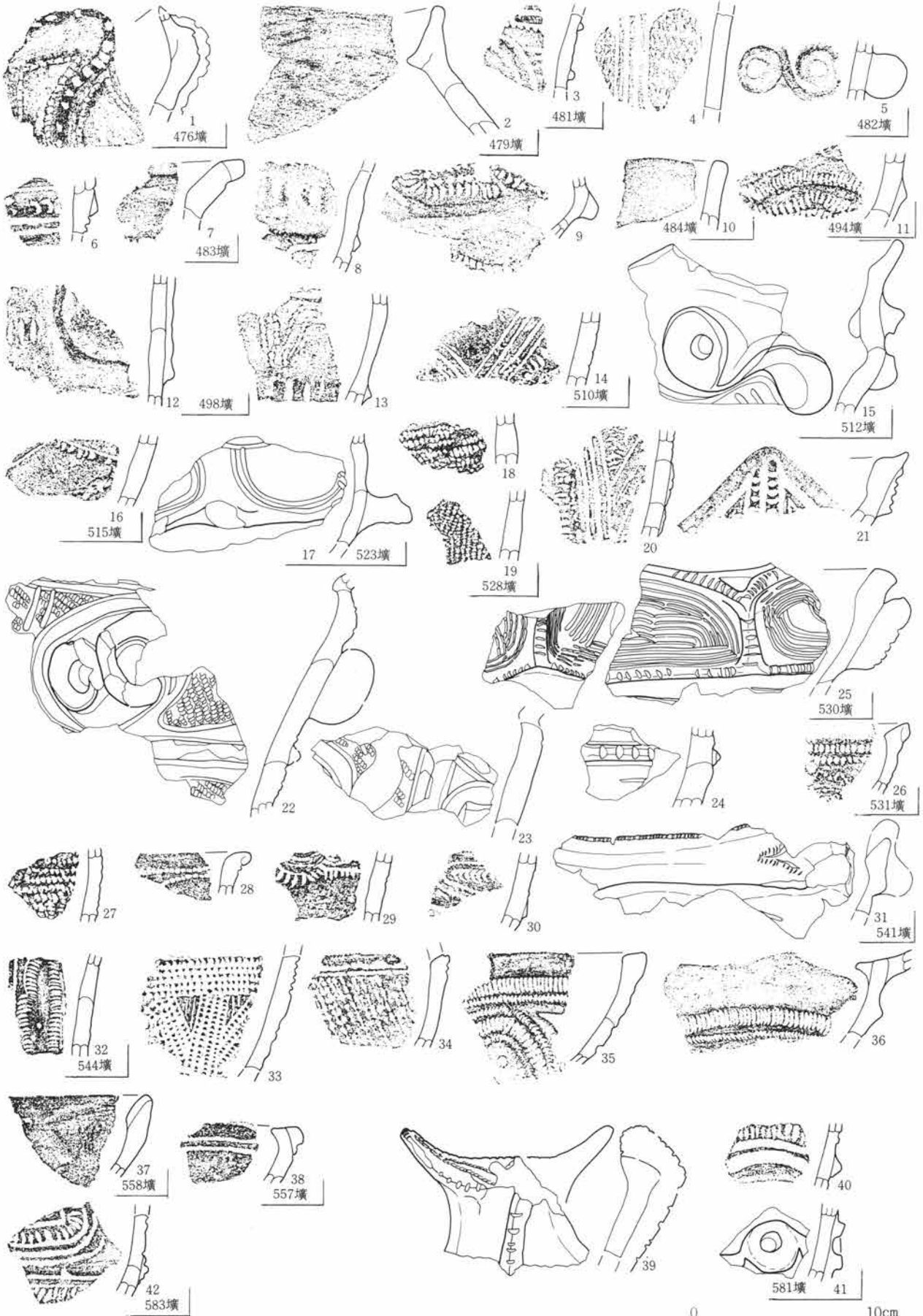
0 10cm



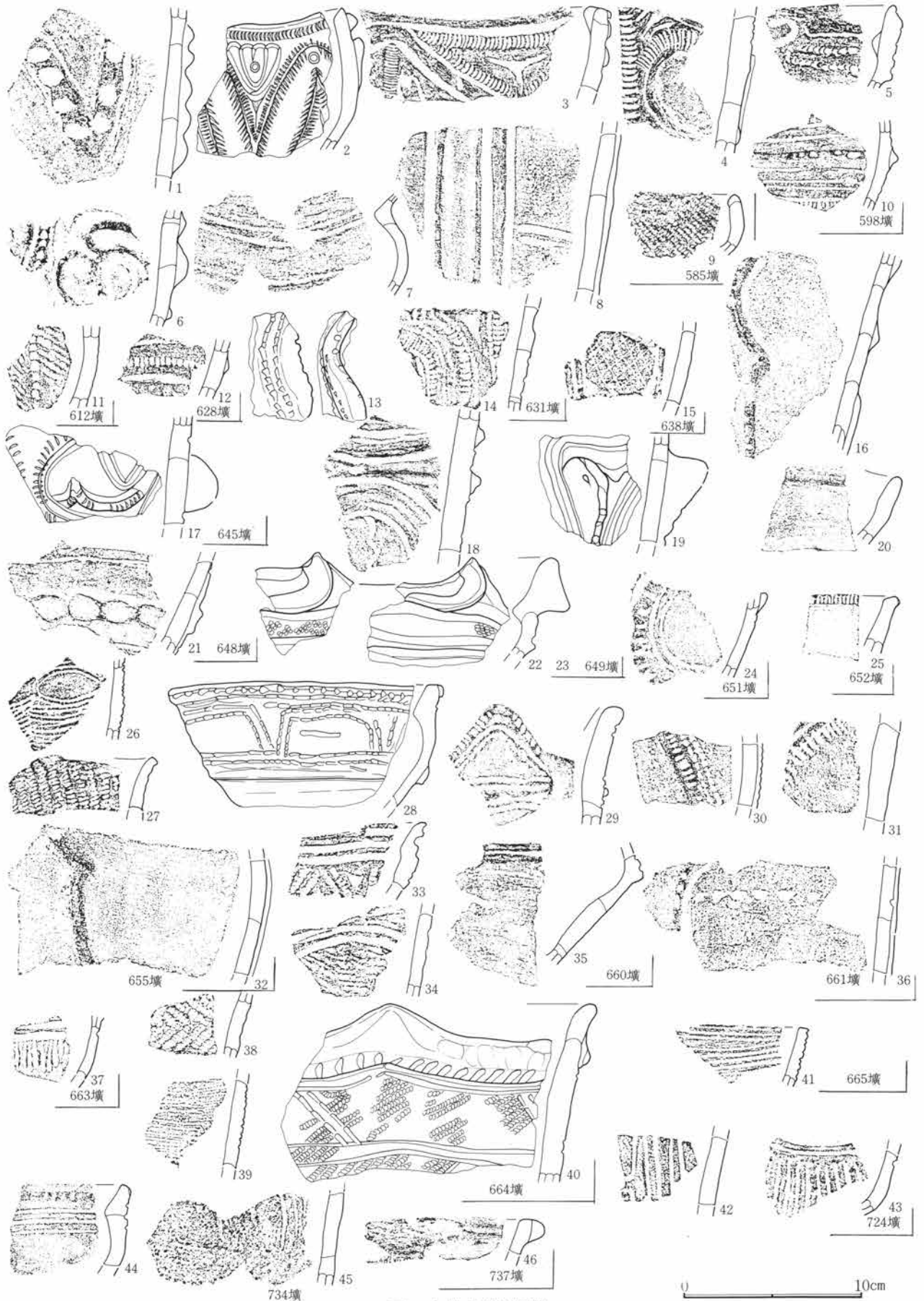
260図 土壙土器片拓影



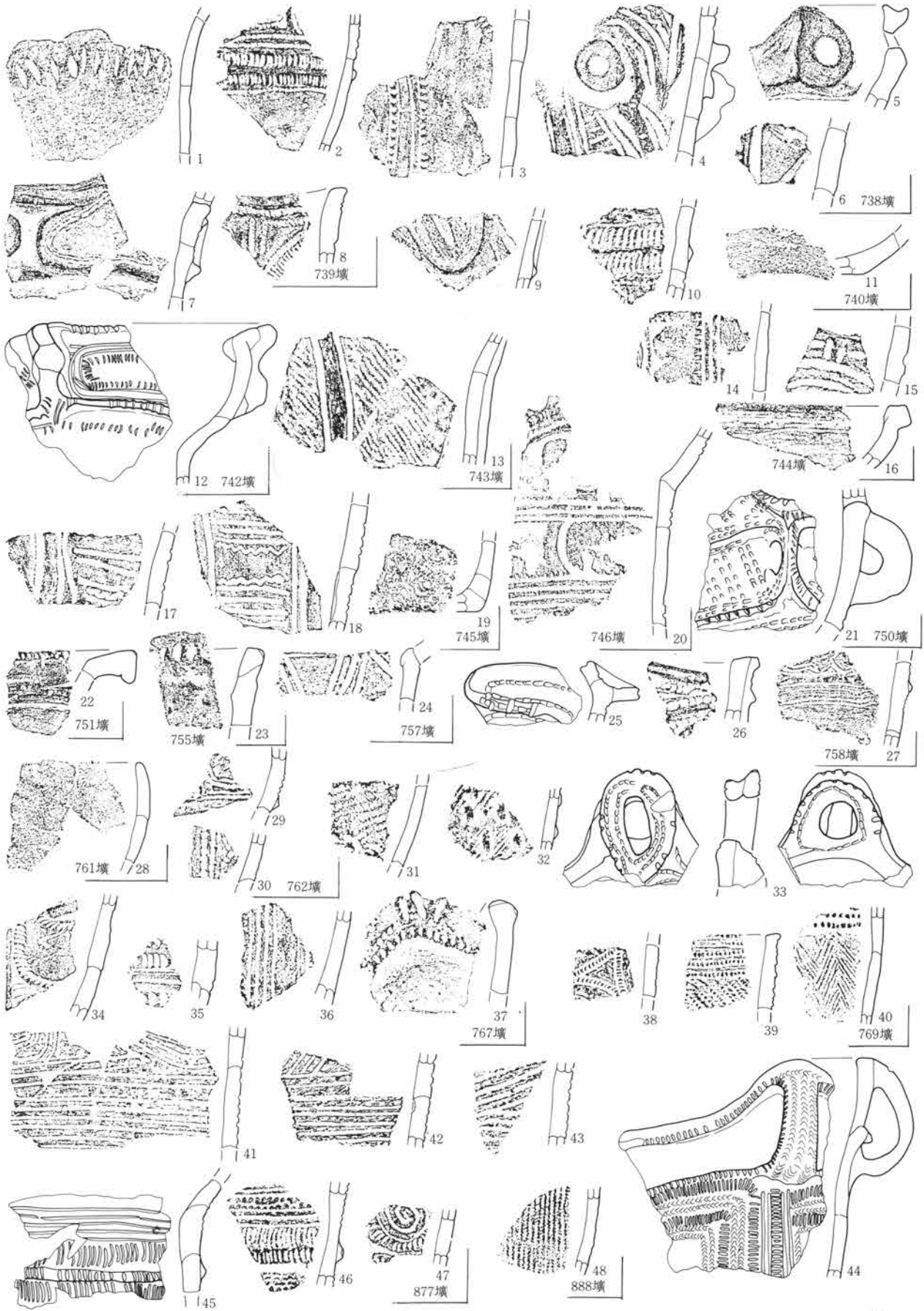
261図 土器土器片拓影



262図 土境土器片拓影

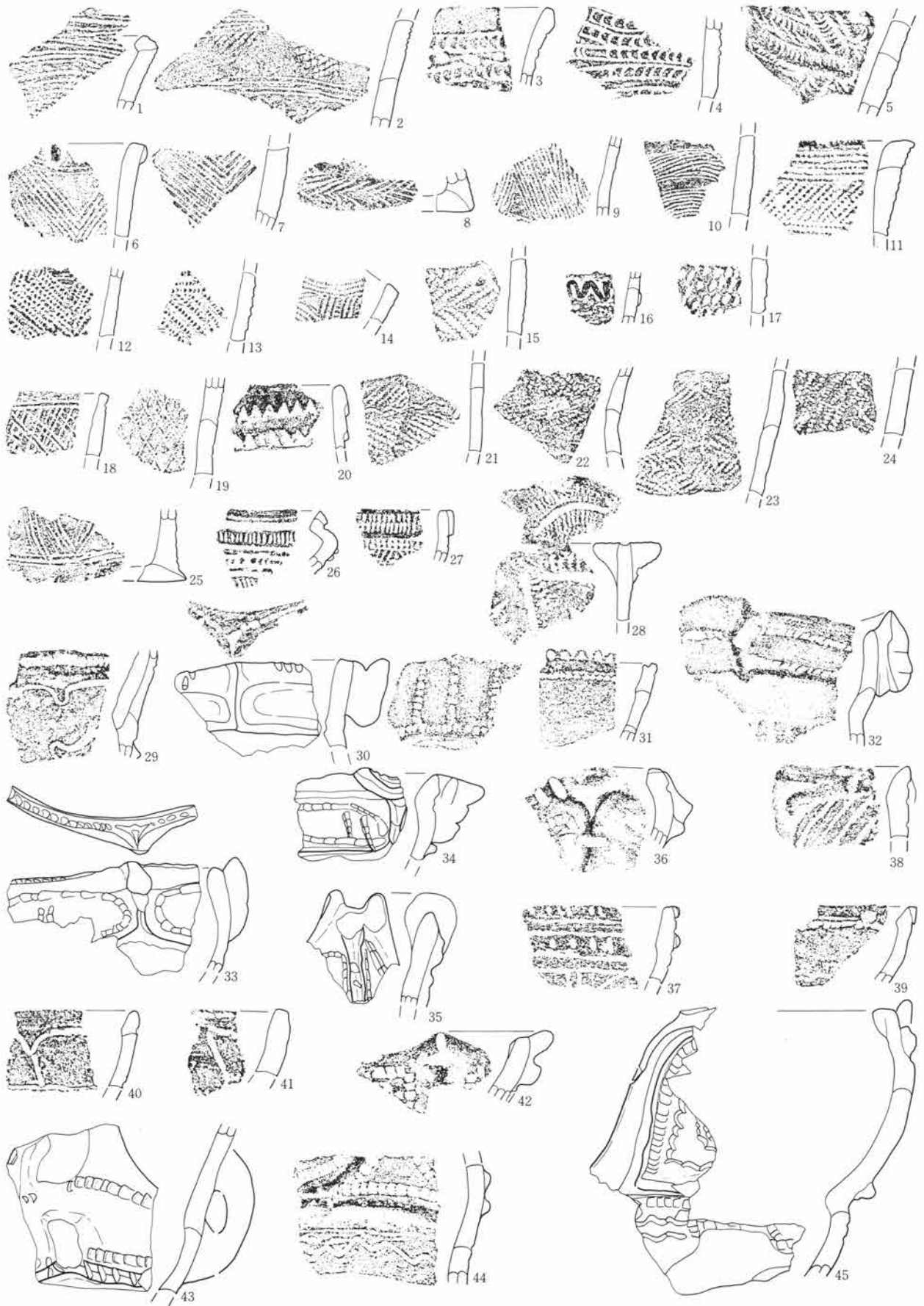


263図 土壌土器片拓影

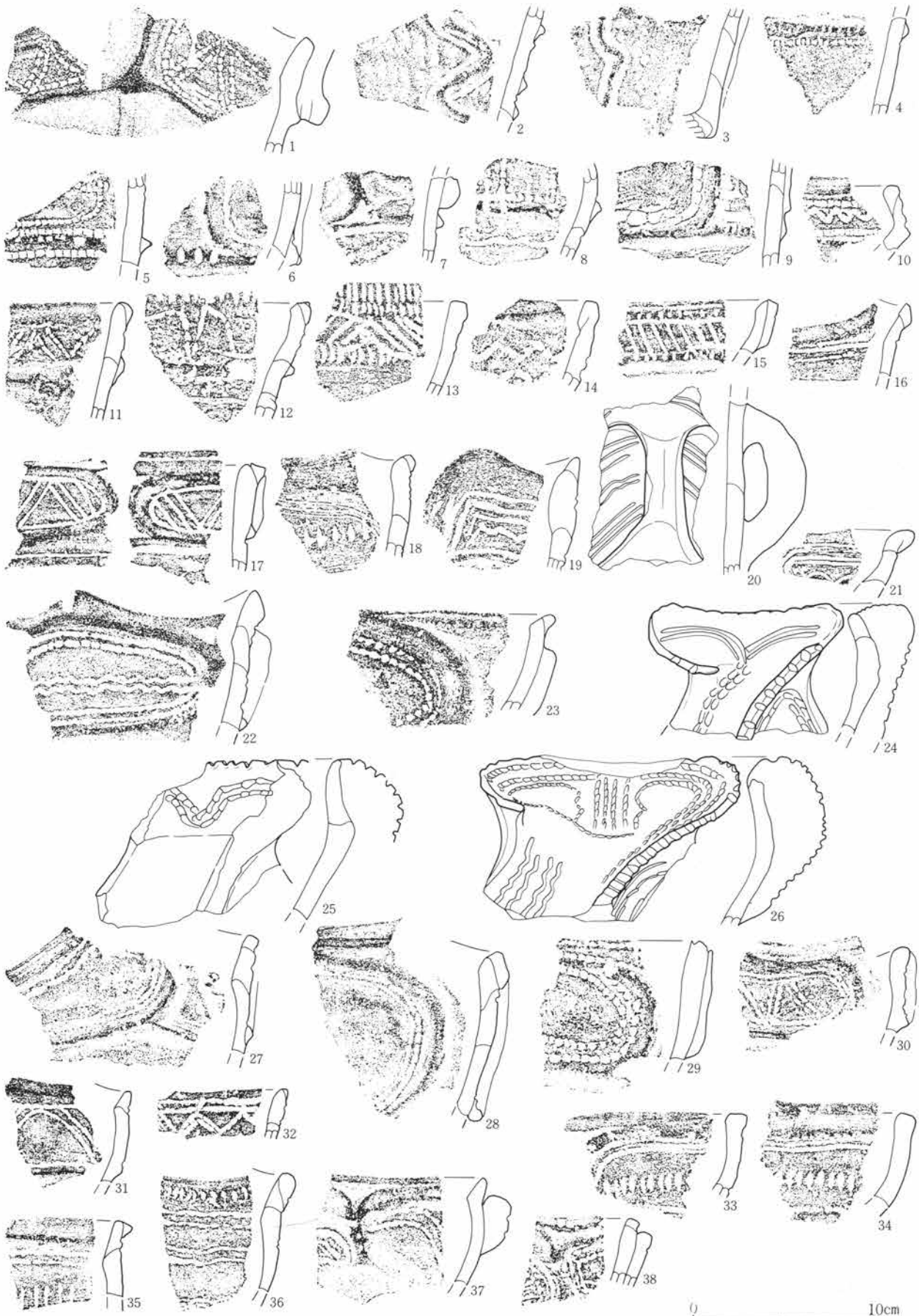


264図 土器土器片拓影

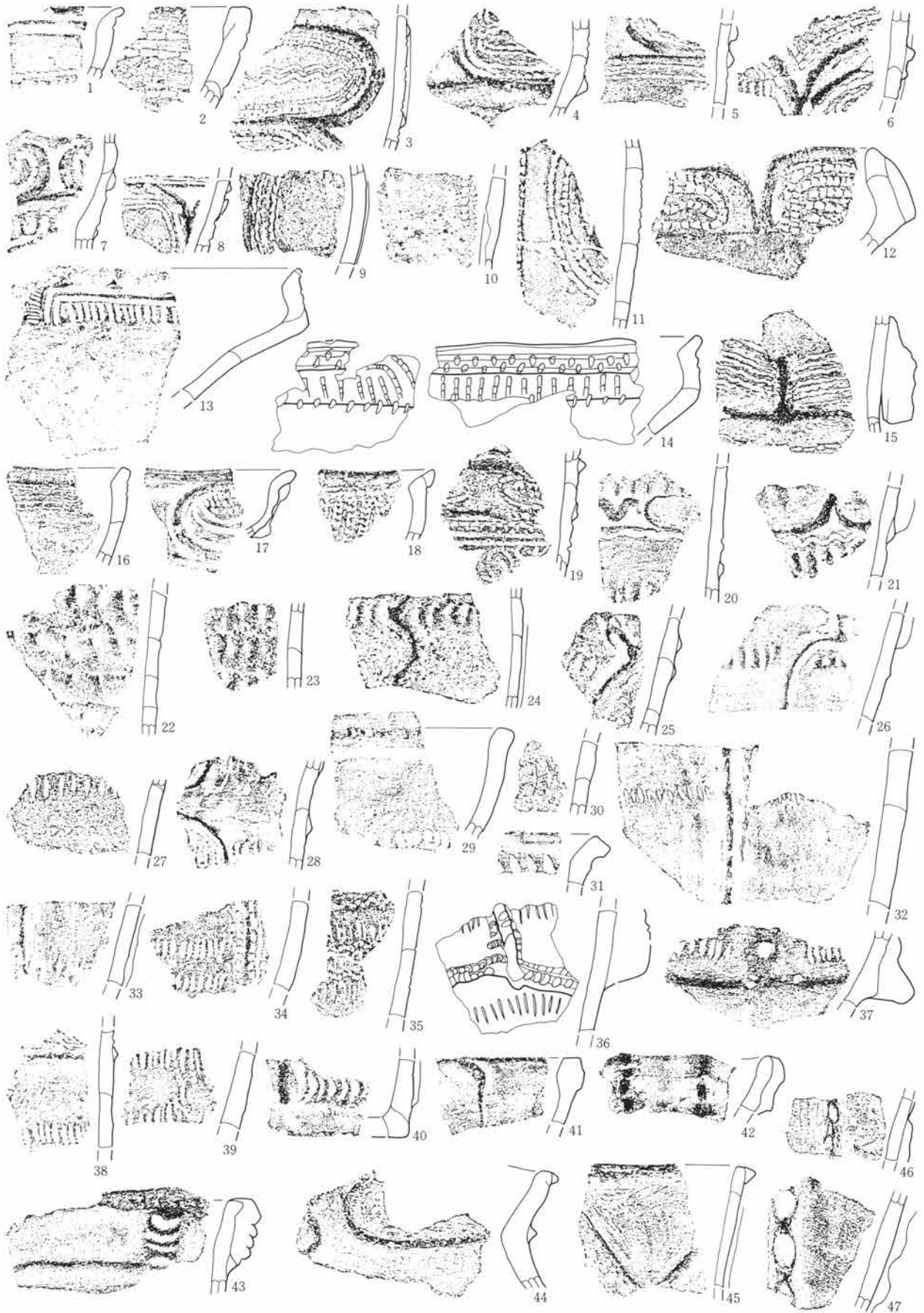
0 10cm



265図 遺構外土器片拓影第I~III群

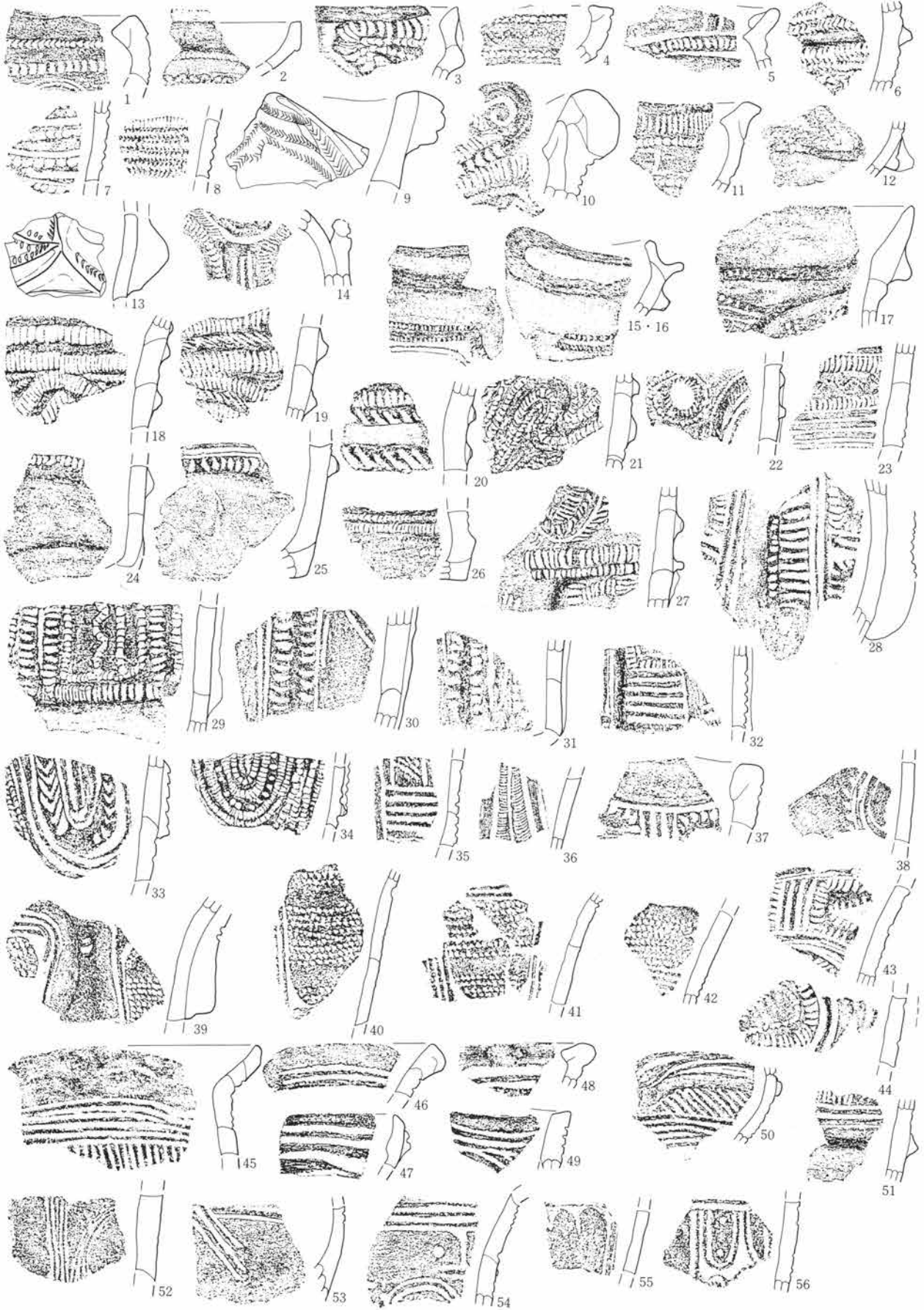


266図 遺構外土器片拓影第Ⅲ群



267図 遺構外土器片拓影第三群

0 10cm



268図 遺構外土器片拓影第四群

0 10cm



269図 遺構外土器片拓影第IV・V群

0 10cm



270図 遺構外土器片拓影第V~VII群



271図 土製円盤

第4項 石 器

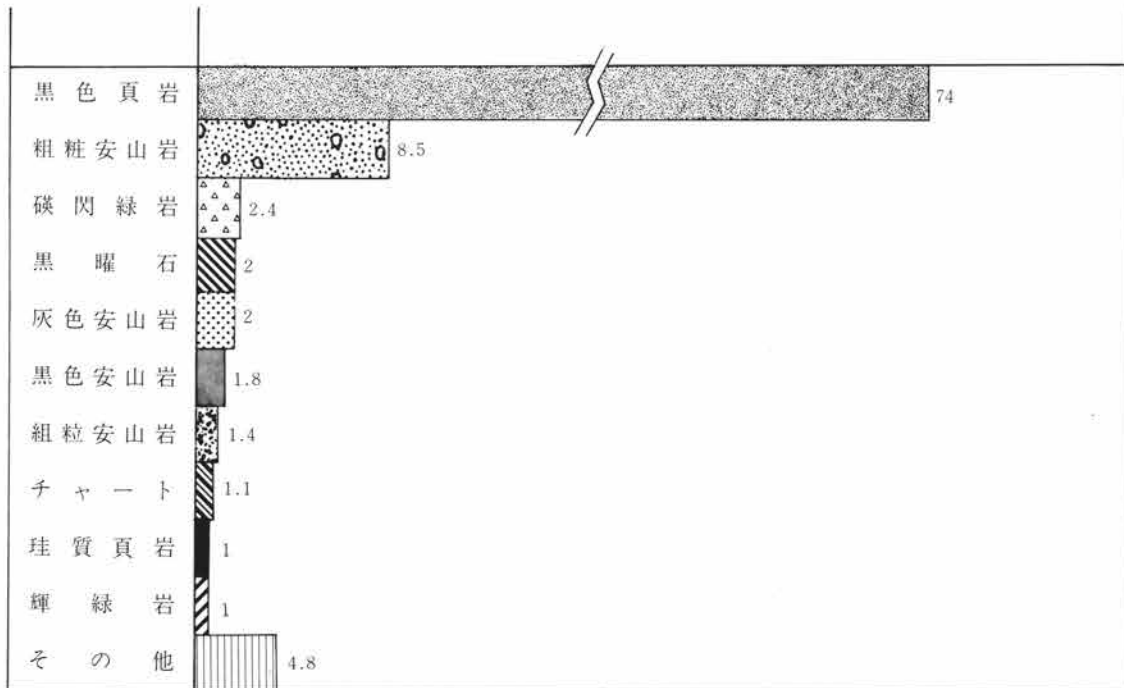
房谷戸遺跡で検出された石器、剥片類は総計14200点である。そのうち、分類可能な石器は1556点であり、住居址より出土した石器は550点、土壌出土のものは600点、遺構外が350点である。3項で呈示されたように、本遺跡の出土土器は中核を中期前半に時期を求められ、出土石器も同様に該期に帰属が求められよう。ここでは、出土石器の時期を一定と考え、各器種毎の説明を加えていきたい。また、各遺構よりの出土位置も、覆土中の出土が圧倒的に多く、石皿などを除き意識的に置かれた。あるいは、廃棄された出土状態とは判断出来ない為、表記していない。

記載方法は

1. 石鏃
2. 石錐
3. ピエス・エスキュー
4. 石匙
5. 尖頭器
6. 石核

7. スクレイパー
8. 加工痕のある剥片石器類
9. 使用痕のある剥片石器類
10. 装飾品類
11. 打製石斧
12. 磨製石斧
13. 石皿・台石類
14. 石棒
15. 磨石類（凹み石含む）・敲石類
16. 丸石

の順で行い、形態、製作技術などで大まかな分類を試み、各項目の説明を行う。なお、石核、剥片石器類、打製石斧、磨石類は整理期間、紙面の制約等により出土個体すべてを図示できなかった。特徴的な器種等、出来る限りは図示に努めたが残念である。しかし、細片を除き全てを写真図版には掲載した。計測表とともに参考にしていただきたい。また、各遺構出土別石器計測は表7、石材別の組成は272図のとおりである。



272図 石材別組成図 数字は%

1. 石鏃 (273図1～274図37)

36点を図示した。遺跡の規模の割には、出土量は少なく、打製石斧などの大形の剥片石器との出土量対比は対象的である。平面形態から分類する。

第I群 無茎鏃で小形のもの。

1類 正三角形に近い平面形状。

273図1。平基に近い基部だが、やや彎入する。黒耀石製で丁寧な調整である。

2類 底辺が広い二等辺三角形を呈す。(凹基)

273図2～4。黒耀石製で丁寧な調整を施す。2は若干厚みを持つ。3は脚部が大きく開く。側縁は直線的であり、右脚端部は僅かに欠損。4、先端部、片脚部を欠く。

3類 底辺が狭い二等辺三角形を呈する。(凹基)

273図5～8。5、厚みを持ち、入念な仕上げ。黒耀石製で、片脚端部を欠く。6、チャート製でやや雑な調整。脚部は丸みを帯び、片脚部欠損。7、側縁に膨らみを持たせ、入念な調整を施す。チャート製。8、側縁に膨らみを持たせ、厚みもある。黒耀石製で入念な調整を施す。

第II群 無茎鏃で中形のもの。(全て凹基)

1類 正三角形に近い平面形状を呈す。

273図9～11。9、10は黒耀石製で側縁、脚部に丸みを持たせ、やや雑な調整。11、黒色安山岩製。脚部は開き、片脚欠損。

2類 二等辺三角形を呈し、側縁が直線状。

273図12～17。12、黒色頁岩製。僅かに、右側縁は内彎し、左側縁は外彎する左右非対称な形態である。13、両側縁とも僅かに外彎する。丁寧な調整である。チャート製。14、薄く、入念な調整を施す。黒耀石製。15、側縁の調整は丁寧。片脚欠損。黒色頁岩製。16、剥片形状を基部調整に巧みに利用している。黒耀石製で厚みもある。17、厚みが有り、短脚である。脚端部が欠損。黒耀石製。

3類 二等辺三角形を呈し、側縁が外彎状を呈す。

273図18～22。18、先端部欠損のため判然としないが、下半は外彎し、上半は直線状を呈す。黒色頁岩製。19、表面と比較して裏面の調整は少ない。主要剥離面が多く残る。先端部は僅かに反る。チャート製。20、やや

反り身。素材剥片形状を多く残し、調整も雑である。黒色安山岩製。21、22、薄手で、細かな調整は縁辺が主で中央にまで及ばない。黒色頁岩製。22、先端部欠損。

第III群 無茎鏃で大形のもの

1類 正三角形に近い平面形状を呈す。

274図23・24。23、チャート製で丁寧な調整を施す。脚部に厚みを持ち、その為か基部の抉入は浅い。片脚が欠損。24、薄手で入念な調整を施す。長脚。黒耀石製。

2類 二等辺三角形形状を呈す。

274図25～27。縁辺の調整が著しく鋸歯状を呈す。片脚、先端部が欠損。黒耀石製。26、表裏面とも加熱による剝落を受ける。先端部欠損。黒色頁岩製。27、薄手で若干外彎する。黒色頁岩製で片脚欠損。

3類 長二等辺三角形形状を呈す。

274図28～31。28、厚みを持ち、直線状の縁辺を呈す。丁寧な調整を施す。黒色頁岩製。29、チャート製。装着痕であろうか基部が若干磨滅する。片脚端部が欠損。30、抉部は大きく彎入する。縁辺を丁寧に調整する。黒色頁岩製で先端部を欠損。31、チャート製で入念な調整を施す。抉部は大きく彎入し、直線的な脚部である。

4類 側縁が外彎する。概して粗雑な作り。すべて、黒色頁岩製。

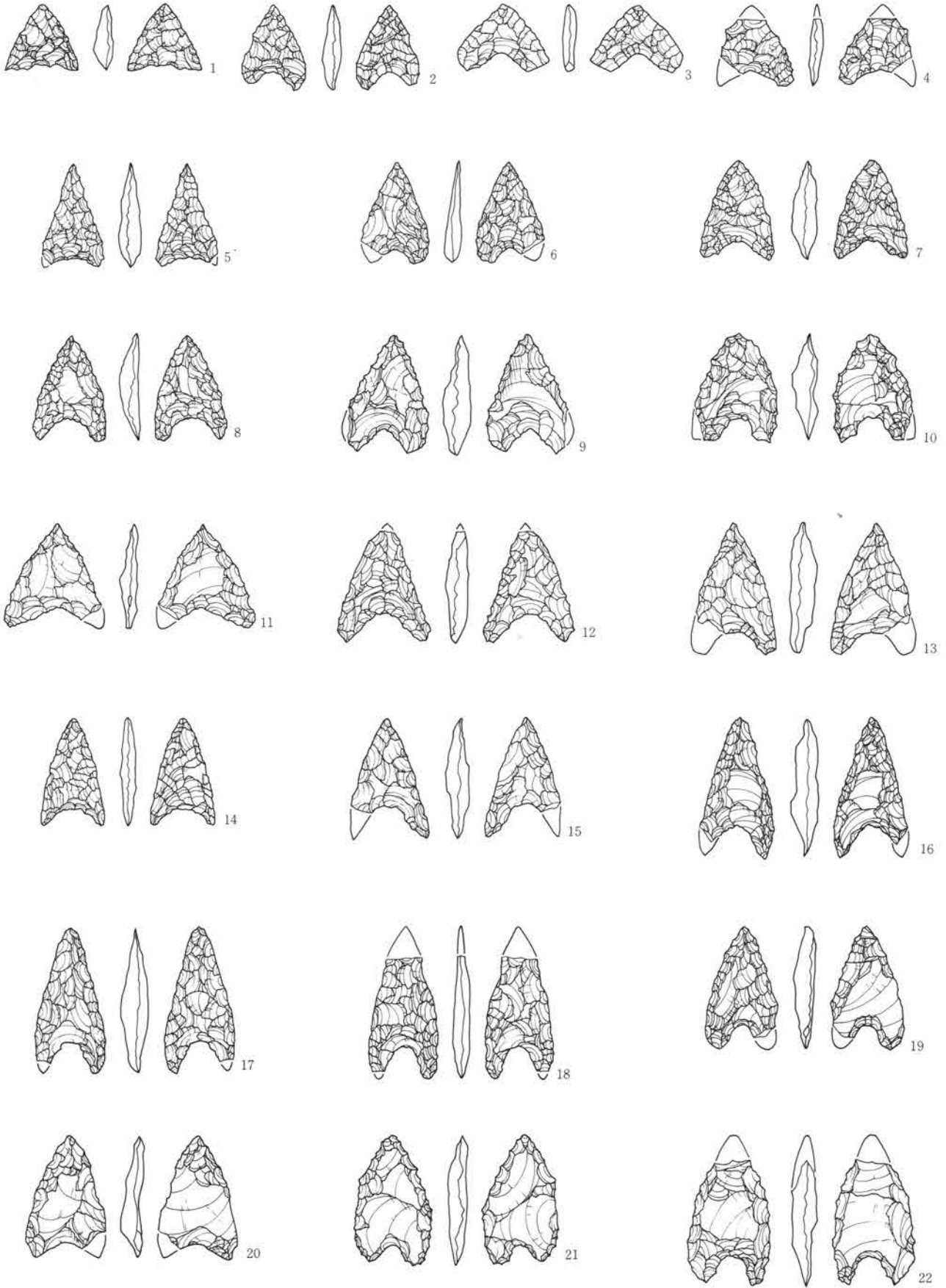
274図32～35。32、薄手で自然面を残す。素材剥片形状をそのまま利用している。33、薄手で左右非対称な粗製品。濠内出土のため磨滅している。片脚欠損か。34も非対称であるが側縁の調整は丁寧である。35、やや厚手で、基部調整は抉部を作り出していない。

第IV群 脚部が丸みを帯びるいわゆる円基鏃

274図36 1点のみ確認された。黒耀石製で小型である。素材剥片形状を利用し、縁辺の調整は丁寧。先端部を僅かに欠損。

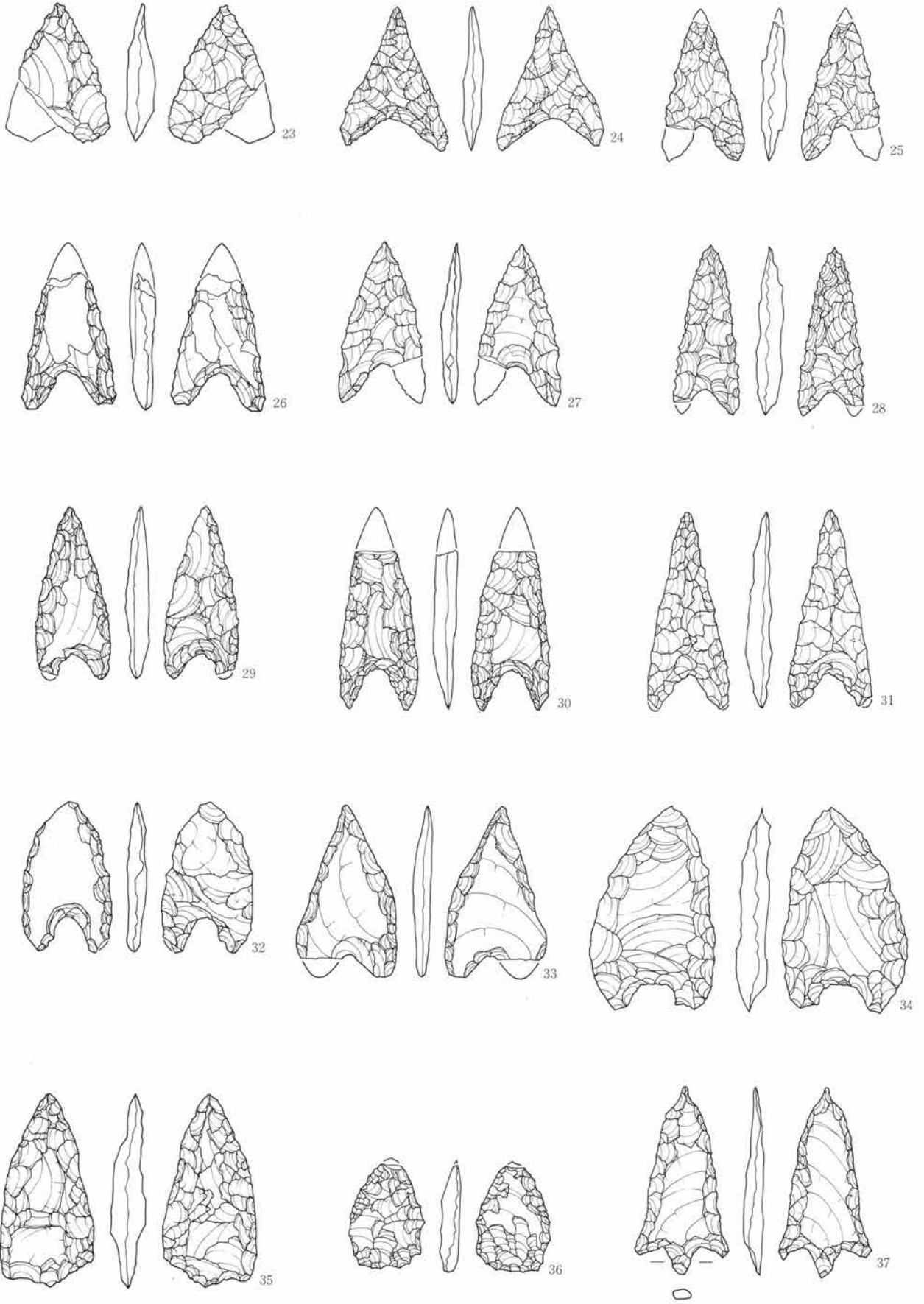
第V群 有茎鏃

274図37 1点のみの出土である。先端部に錐状の突出を設け、縁辺の調整は丁寧である。舌部も細かな調整で作りだす。黒色頁岩製。



273図 1. 石鏃(1)

0 5cm



274図 1. 石鏃(2)

2. 石錐 (275図1~13)

13点出土し、全てを図示した。石材は、8を除き黒色頁岩である。

第I群 小形のもので、主に縦長剥片を素材とする(1~5)。

1類 つまみ部を持たない(1・2)。

1は自然面を持ち、側縁を丁寧に調整する。錐部は短い。片側縁を欠損する。2、比較的粗製の石錐。錐部の作出も雑である。

2類 つまみ部を持つ(3~5)。3、薄手で上半を欠損する。側縁の調整は交互剥離を行う。4、つまみ部の一部を欠損。錐部側縁は比較的雑な調整だが、先端部は丁寧。5、横長剥片を素材とし、錐部は長い。先端部の調整は丁寧。

第II群 中形のもの(6~12)。6、縦長の不定形剥片を素材とし、自然面を持つ。錐部先端は欠損するが、側縁は丁寧な調整を施す。7、8とも横長剥片を素材とし、短脚の錐部を持つ。8は粗粒安山岩製。9~11は濠内出土のため磨滅している。9は厚みを持ち、縦長剥片を素材とし、つまみ部にまで調整が及ぶ。10、11は横長剥片を素材とし、9とともに錐部が突出する形態を呈す。12は上端に自然面を残す。つまみ部から、錐部にかけての調整は丹念にされており、鋭利な先端を持つ。つまみ部の両側を欠損する。

第III群 大形のもの(13)。1点の出土である。自然面を持ち、縁辺を調整する。錐部は三角形を呈し、入念に調整する。

3. ピエス・エスキュー (276図1~3)

楔形石器ともいわれ、両極打法により、剥片の上下端に剥離痕の認められるものを取り上げた。4点を出土し3点を図示した。

1は側面に自然面を残す。黒色安山岩製。2、楕円状の断面を有し、側縁にも細かな剥離が及ぶ。黒色頁岩製。3、厚みのある縦長剥片を素材とし、両側縁に自然面を残す。

4. 石匙 (277図1~6)

出土した6点を図示した。うち2点は未製品である。前期に目立つ出土量を誇る本器種であるが、中期の出土量は概して少ない。素材剥片形状から一応分ける。

第I群 縦長剥片を素材とする(1・2・5)。1はやや粗雑な調整を施し、つまみ部、側縁刃部の剥離も粗い。2、先端部は欠損ではなく自然面である。右側縁刃部、つまみ部の調整は比較的丁寧である。左側縁刃部は無調整。5、未製品である。小型でつまみ部の調整が認められる。黒色頁岩製。

第II群 横長剥片を素材とする(3・4・6)。3、刃部を欠損するが、丁寧な調整で、つまみ部に細かな調整が集中する。4、薄手で反り身である。表面の調整は細かく丁寧で、つまみ部も入念に作出している。3・4とも黒色頁岩製。6、小型で、石鏃か、石匙の未製品であろう。形状から石匙とした。利器としての機能は疑問が残る。刃部に細かな調整が施される。

5. 尖頭器状石器 (278図1~3)

いわゆる柳葉状のものや、木葉状のものは出土しておらず、粗製品である。3点とも黒色頁岩製。

1、2は上半を欠損し、欠損部位で彎曲する兆しを見せることから鎌状の形態を呈するのであろうか。横長剥片を素材とし、側縁に細かな調整を施す。3、やや反り身で、厚みがある。先端部、基部とも尖っておらず、尖頭器としての機能は失われている。

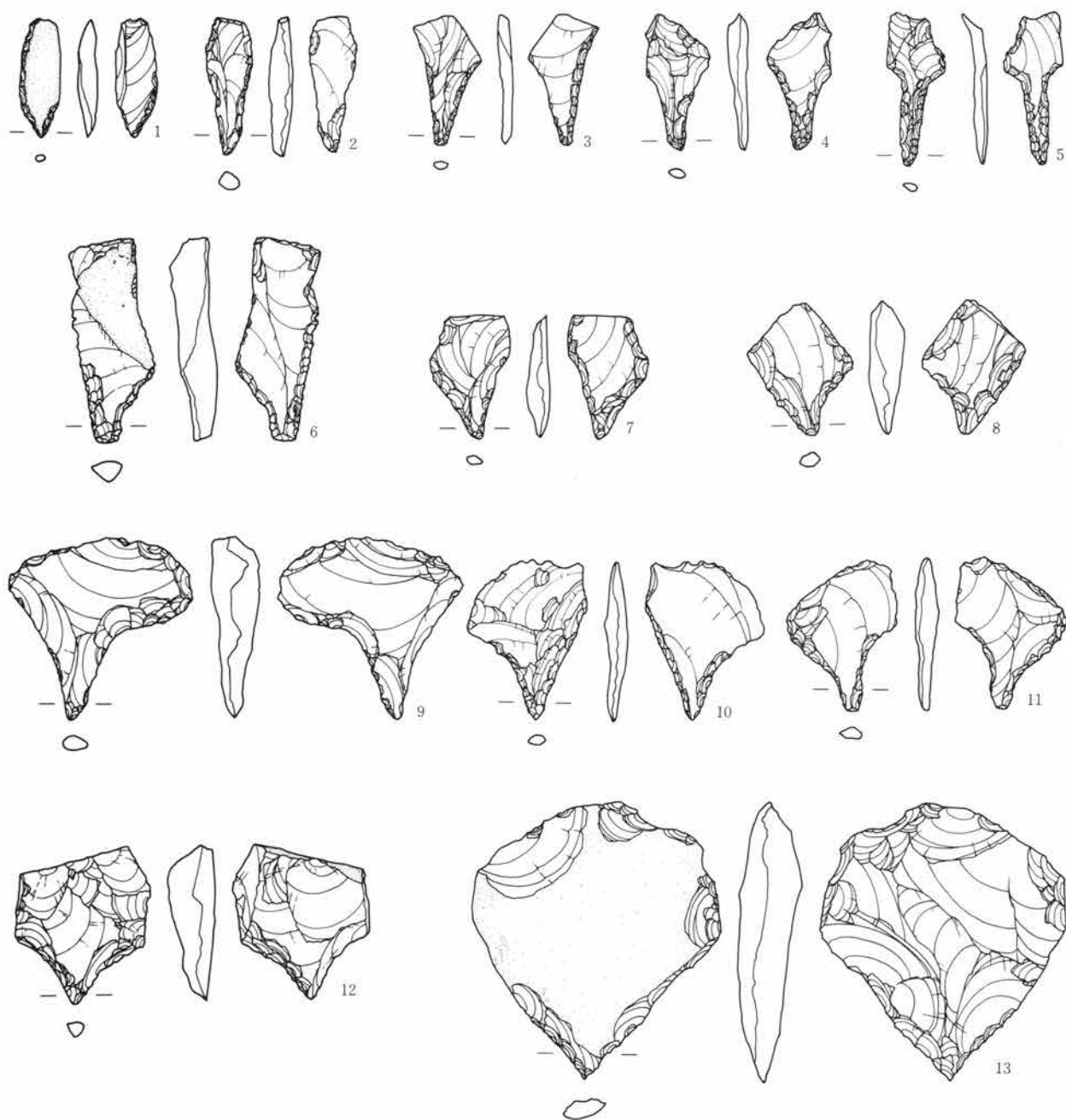
6. 石核 (279図1~280図15)

31点出土した。多くが黒色頁岩製で黒耀石製のものは5点、黒色安山岩製のものは1点と少ない。一定方向の剥片剥離を看取できる資料は少なく、不定方向から剥取し、礫器状のものが多く。

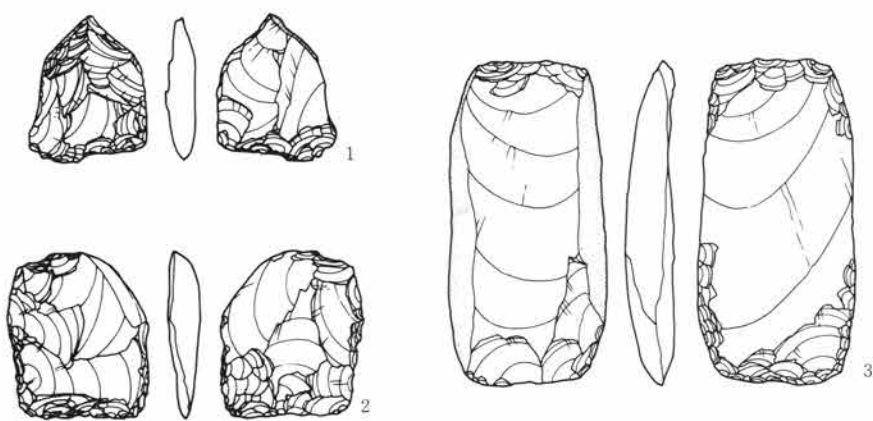
279図1~5は、比較的大形の剥片を剥離しており、方向にも規則性が認められよう。4は加熱などによる自然剥離がある。280図6~11は、あらゆる方向より打撃が加わる。6・7は比較的大形の剥片が作出されるが、8・9は小形である。10・11は縁辺に調整が施され、刃部状となる。

12・13は黒耀石製の小形の石核である。両者とも打撃方向は不定である。

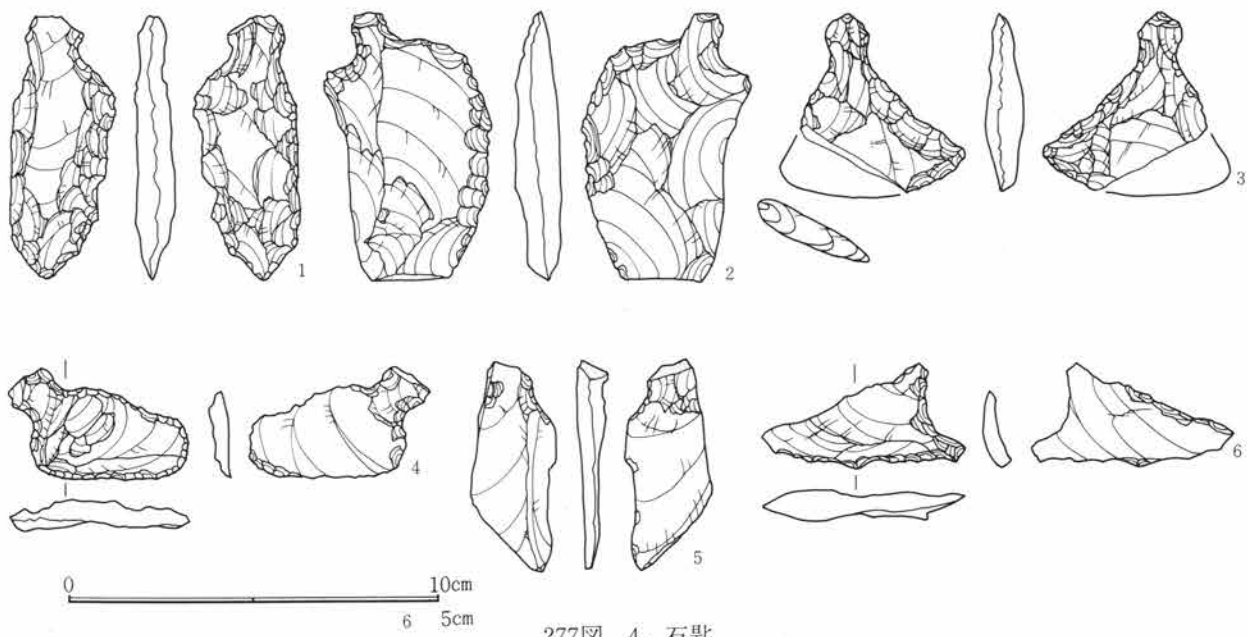
14・15は大形であるが、作出される剥片は小形であり、端部は調整が施され礫器状である。



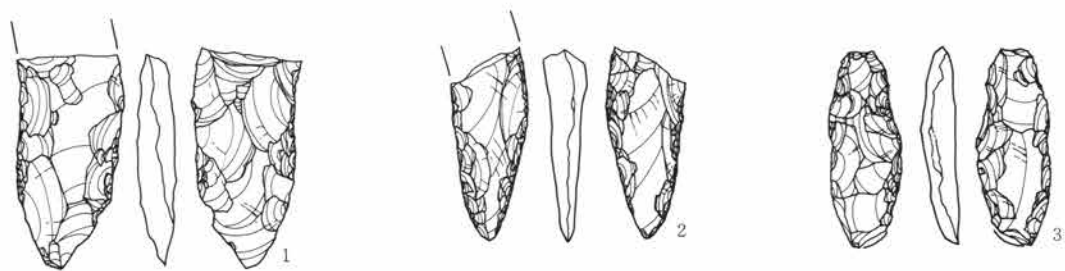
275図 2. 石錐



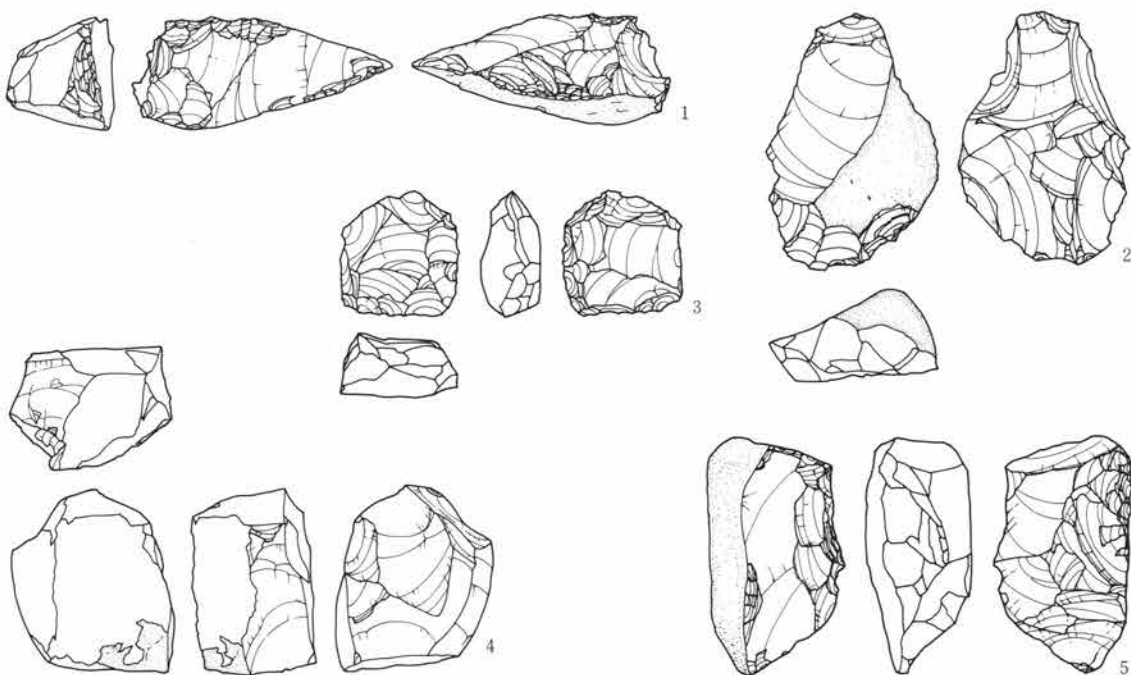
276図 3. ピエス・エスキーユ 0 10cm



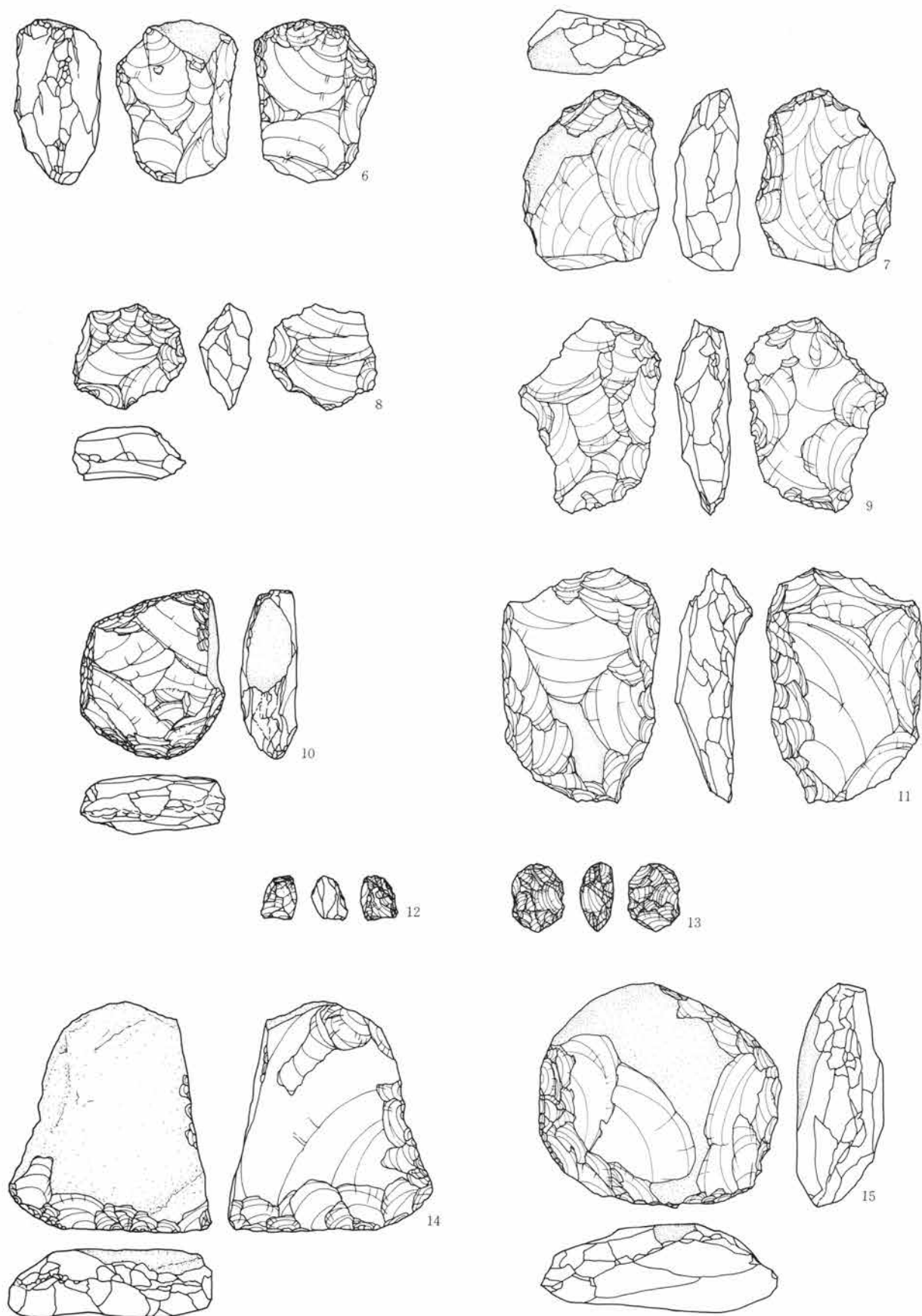
277图 4. 石匙



278图 5. 尖頭器状石器



279图 6. 石核(1)



280図 6. 石核(2)

7. スクレイパー (281図1～283図34)

本来、搔器、削器と使用方法を意識した分類をするべきであるが、当地域（赤城山西～西南麓域）のスクレイパー、剥片石器類は形態、調整剥離等バラエティーに富んでおり、資料を取り扱う我々の段階でも未だ整理がついていない。近年の資料増加に伴い、各報告で個々の研究者がアプローチしているが、試論、仮説段階の模索状況である。本遺跡でもスクレイパーは207点と出土量は豊富であり、後述する剥片石器類、打製石斧とともに主体となる石器群である。ここでは、素材となる剥片形状と調整加工の集中する部位で分類を試み、傾向を探りたい。

なお、規則的な剥離を有する機能部を持つものを一応スクレイパーとしたが、加工痕のある剥片石器との選別は曖昧であり、今後丁寧な分類基準を設けるべきであろう。反省材料である。

第I群 横長剥片を素材とする (281図1～282図19)

1類 剥片端部に機能部を持つ (1～11)。

a種 直刃を呈する (1～4)。

26点を出土した。1、側縁に自然面を残し、両面から調整を施す。2、刃部の調整は細かいがやや雑である。3、表面の調整が主で、鋸歯状の刃部を作出する。4、小形で薄手である。裏面の右側縁にも調整が施される。

b種 凸刃を呈する (5～9)。

42点と豊富な出土を見る。5、丁寧な調整を刃部と基部の表面に施す。6、刃部、側縁、基部に調整が施されるが、刃部は両面から施される。7、素材が影響し、やや厚めの刃部である。8、自然面を刃部とし、一部に調整が集中する。9、厚めでやや雑な調整を施す。

c種 凹刃を呈する (10・11)。

11点出土した。10、大形の剥片を使用し、側縁に自然面を残す。刃部の凹部は比較的ラフな調整が施される。11、平面形が鎌状である。凹部の調整は片面のみだが丁寧に施される。

2類 側縁に機能部を持つ (12)。

2点出土した。板状の剥片を素材とし、側縁に調整が集中する。端部は厚みがあるが、僅かな調整痕が有

り、未製品の可能性もある。

3類 横長の台形状剥片を素材とする (13～15)。

a種 剥片端部に機能部を持つ (13・14)。

5点出土した。13、やや縦長に近い剥片素材を使用し、刃部を雑な調整で作出する。凹刃を呈する。14、側縁に調整が見出せるが、刃部を作り出してはおらず、端部調整を丹念に集中し刃部を作出する。

b種 側縁に機能部を持つ (15)。

厚手の素材を使用し、両側縁に調整が施される。端部は欠損している。

4類 横長の三角形剥片を素材とする (16・17)。

a種 側縁、剥片端部に機能部を持ち、直刃を呈する (16)。

3点出土。厚手で端部と左側縁自然面に調整が施されるが、側縁は雑である。

b種 側縁に機能部を持ち、凸刃を呈する (17)。

1点のみの出土。両側縁に調整が施され、裏面に集中する。

5類 調整加工により打面部を除去し、この部分および剥片端部に機能部を持つ (18・19)。

12点出土。18、薄手で刃部は凹刃状となる。打面部の調整は丹念である。19、薄手で直刃状を呈する。端部の調整は細かく、打面部は粗い。左側縁を欠損する。

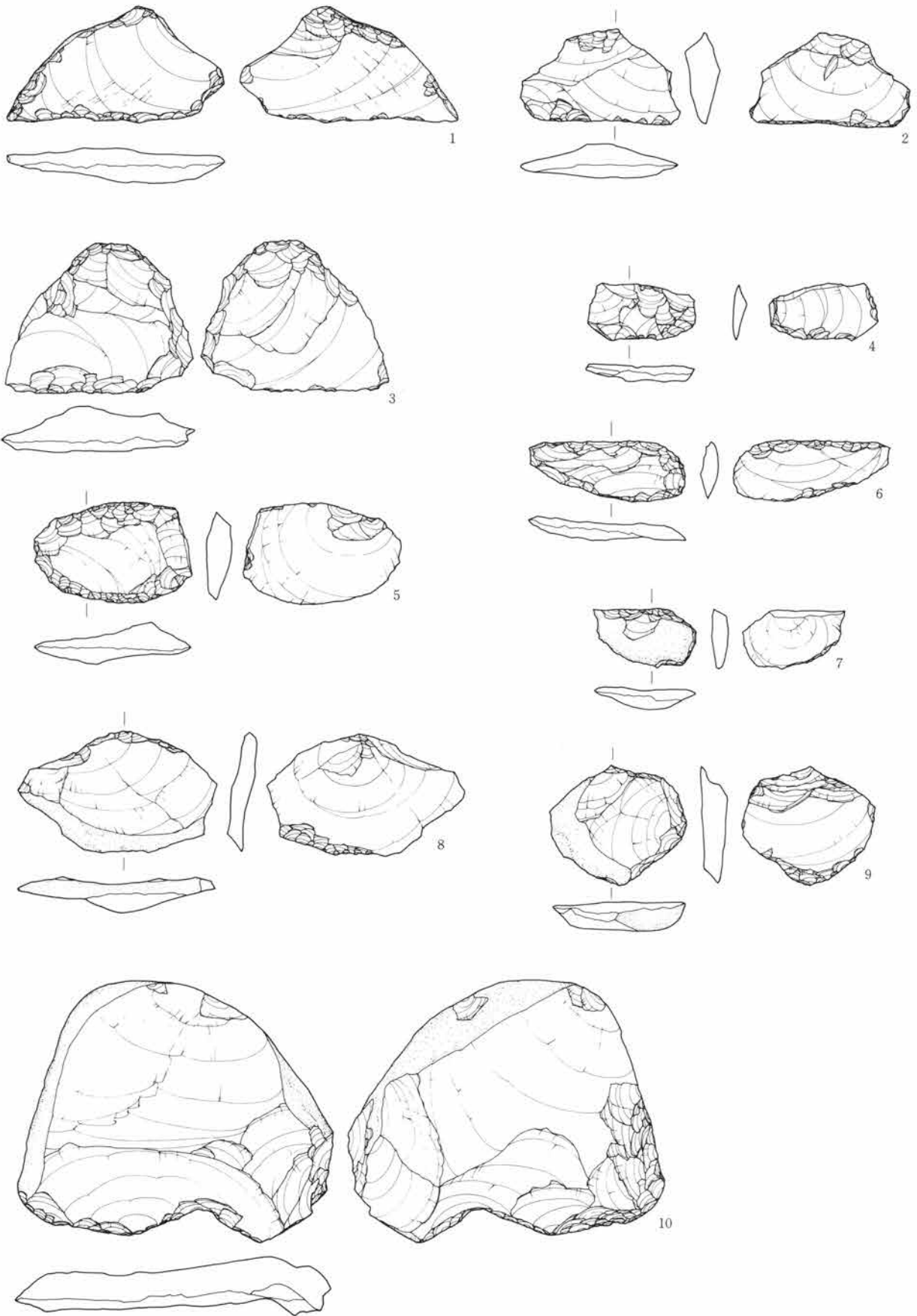
第II群 縦長剥片を素材とする (282図20～283図29)。

1類 大形の剥片素材のもの。側縁に機能部を持つ (20～22)。

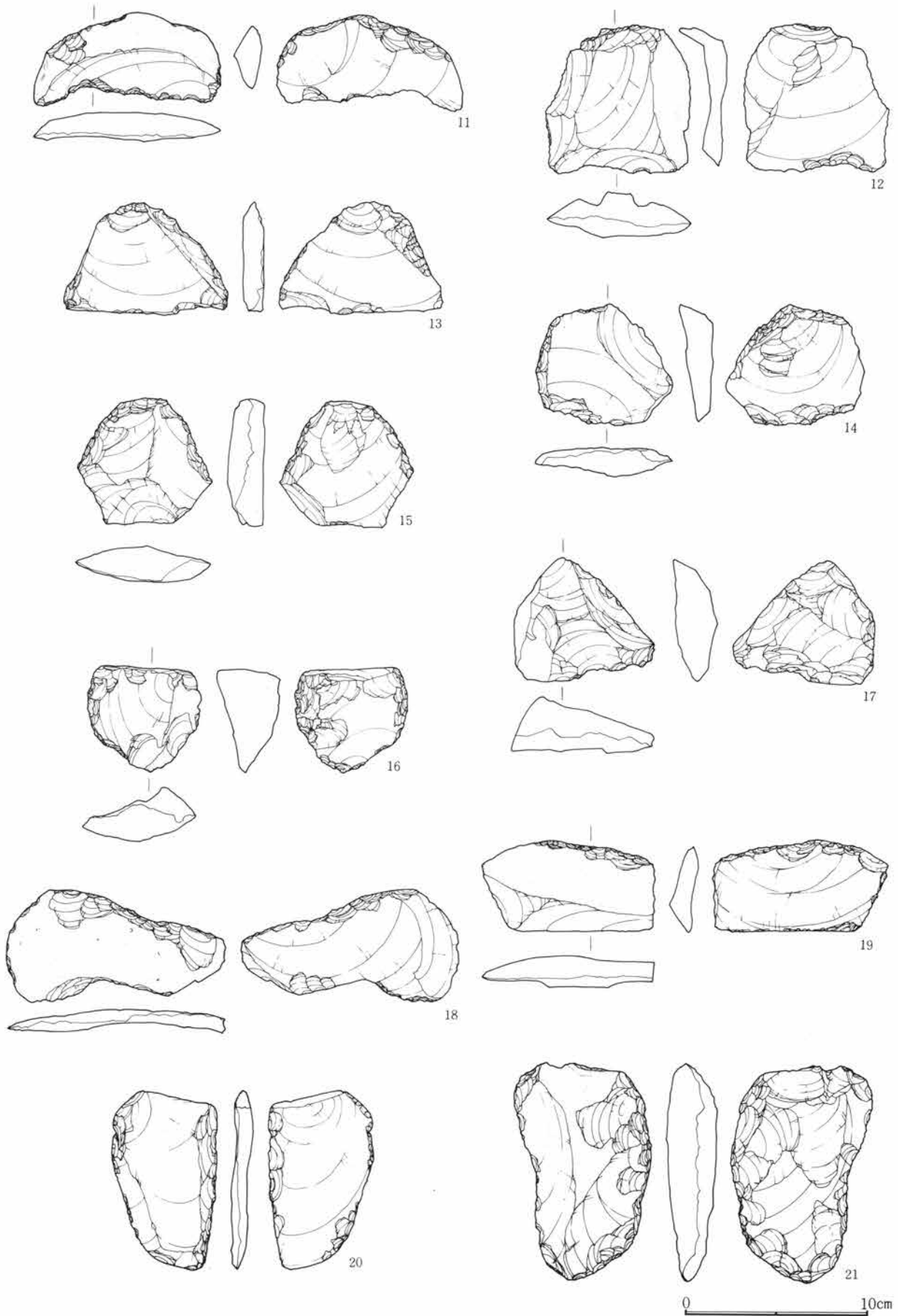
26点が出土した。20、薄手で基部に自然面を残す。両側縁とも調整が施されるがやや粗い。21、厚手で自然面が剥片端部にも残る。おそらく扁平な河原石を素材としたのであろう。両側縁の調整は端部近辺にまで及ぶ。22、右側縁に凹刃状の機能部を持たせ、調整は端部にまで及ぶ。

2類 小形の剥片素材のもの。側縁に機能部を持つ。 (23～26)。

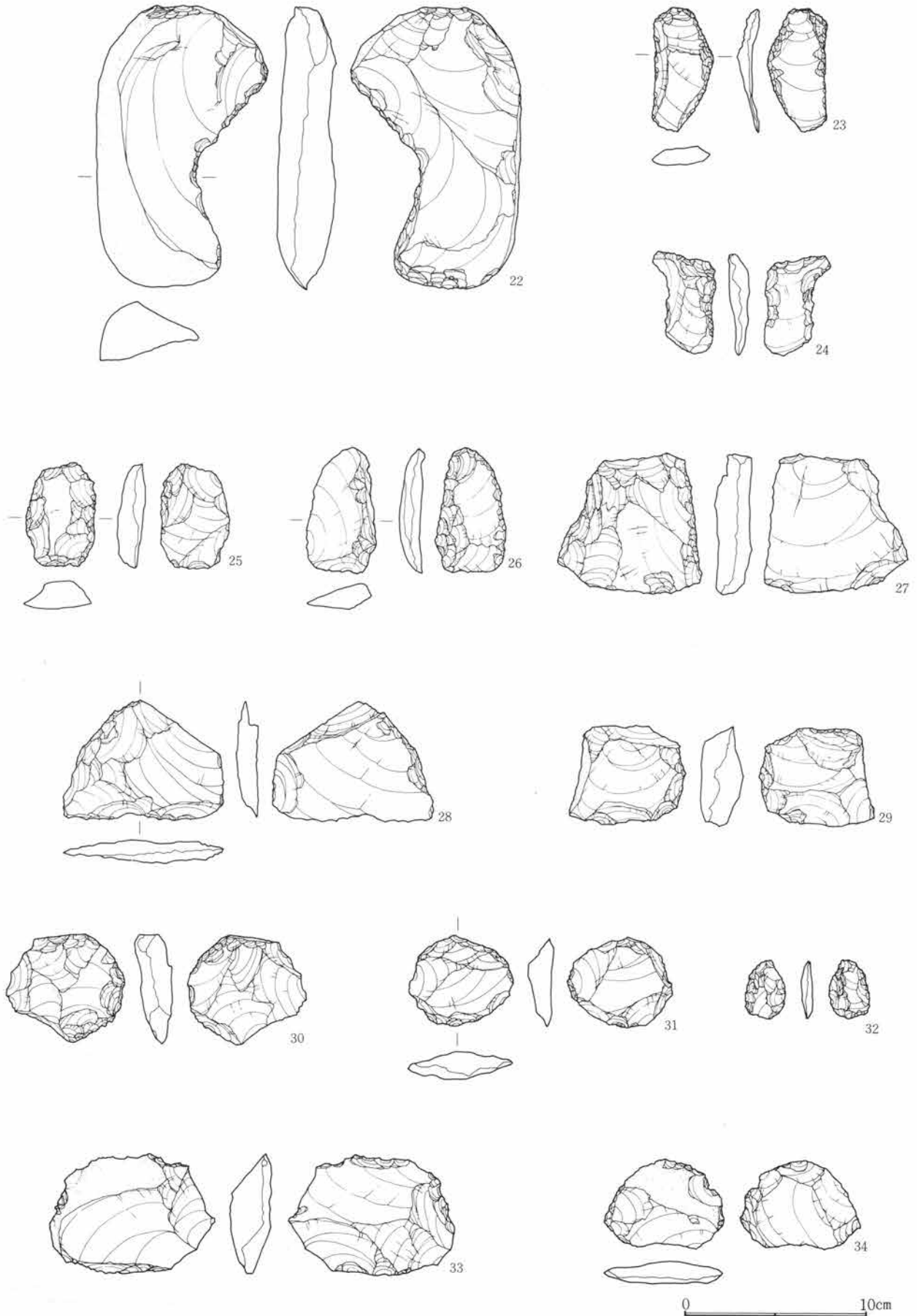
35点の出土を見る。23、薄手でやや反り身である。両側縁に調整を施す。24、つまみ状の突起を作出し、右側縁を刃部状とし機能部とするようである。石匙状の機能を果たしたのか。25、やや厚手で、両側縁、端部に調整が施される。26、両側縁に調整がされるが、



281図 7. スクレイパー(1)



282図 7. スクレイパー(2)



283図 7. スクレイパー(3)

左側縁が刃部状となり機能部であろう。

3類 台形状剥片を素材とする(27~29)。

a種 側縁に機能部を持つ(27)。

4点が出土した。27、厚手で両側縁に調整が施され、特に右側縁は表面のみの調整ながら丁寧である。端部は欠損後、再調整が行われるが雑である。

b種 剥片端部に機能部を持つ(28)。

2点出土した。28、薄手の大形剥片の上半を素材とし、左側縁は両面、端部は表面の調整が施される。

c種 側縁と剥片端部に機能部を持つ(29)。

5点出土。29、右側縁に自然面を残す。厚手で大まかな調整が施される。

第III群 周縁加工のもの(283図30~34)。

いわゆるラウンドスクレイパー。12点が出土。30、厚手で刃部の一部が欠損しているが周縁を調整し、円形に仕上げている。基部には自然面を残す。31、円形に仕上げる。32、小形で薄く、断面は紡錘状を呈す。33、大形の横長剥片を素材とし、周縁を粗く調整する。34、薄手の横長剥片を素材とし、半円形の形態を呈す。端部は無調整だが刃部状である。

第IV群 素材剥片の形状が不明。14点の出土を見たが、磨滅、欠損により素材の形状が判然としないものが主体である。

8. 加工痕のある剥片石器(284・285図)

第I群 横長剥片を素材とする(284図1~19)。

1類 剥片端部に機能部を持つ。

a種 直刃を呈する(1~5)。31点が出土した。1、図は裏面である。表面は自然面が主体を占める。厚手で裏面刃部に調整が集中する。2、表面は自然面である。端部である刃部に調整が施される。また、打面部の周辺にも雑な調整が施される。輝緑岩製。3、小形で薄手である。刃部、側縁に調整が施される。4、裏面。薄手の剥片を素材とし、端部を刃部とし雑な調整が施される。5、裏面。打面部に細かな調整が施される。

b種 凸刃を呈する(6~9)。28点の出土。6、やや厚手。調整は表面に集中し、裏面は雑である。7、やや厚手。端部である刃部には鋸歯状のおおまかな調整が施される。8、大きく彎曲する剥片を素材とする。図は裏面だが、表面の調整も刃部に施される。9、刃

部と打面部に調整が施される。

c種 凹刃を呈する(10)。2点の出土。側縁から端部にかけてを刃部とし、凹刃状とする。

2類 側縁に機能部を持つ(11・12)。10点の出土。11、側縁から刃部にかけて調整を施す。薄手の素材。12、打面部に自然面を残し、側縁、端部とも刃部状を呈す。右側縁に調整が施される。

3類 横長の台形状剥片を素材とする。

a種 側縁に機能部を持つ(13)。両側縁から端部にかけて比較的丁寧な調整が施される。

b種 剥片端部に機能部を持つ(14~16)。14、やや厚手で、側縁の調整は端部におよび、端部は尖る。15、裏面。片側縁に調整を集中し、ノッチ状にする。16、厚手で、左側縁上半に自然面を残すが、下半は調整が丁寧に施される。

4類 横長の三角形状剥片を素材とする。

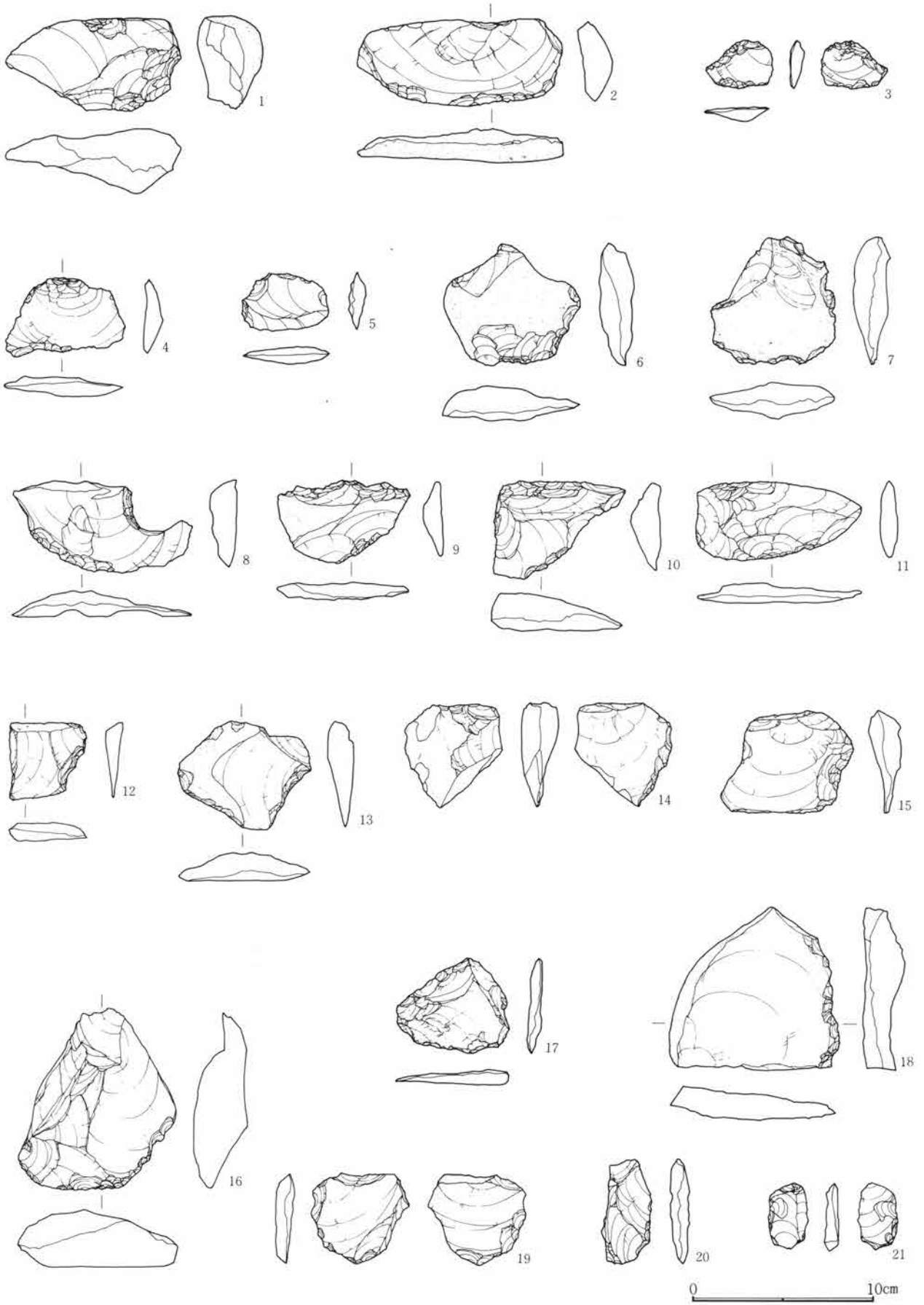
a種 側縁に機能部を持ち直刃を呈する(17・18)。17、薄手の素材を使用する。端部と側縁に調整を施し、左側縁から端部にかけて使用痕が看取される。18、図は表面。端部を欠損するが、刃部状の側縁に調整を施す。

b種 側縁に機能部を持ち、凸刃を呈する(19)。薄手で両面より調整を施す。側縁から端部にかけて刃部状とし、特に端部は尖り気味である。

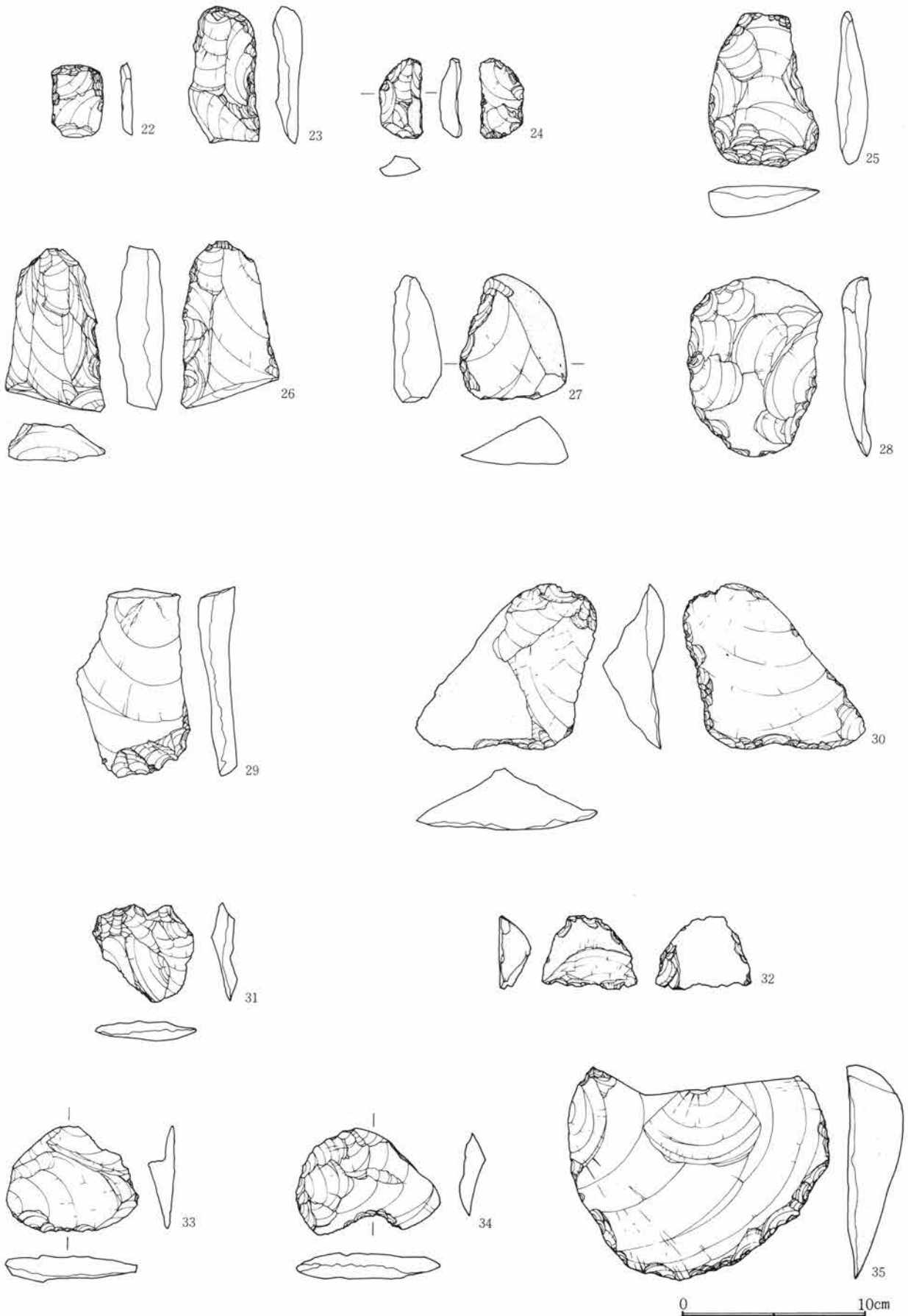
第II群 縦長剥片を素材とする(284図20~285図29)。

1類 小形の剥片素材のもの(20~24)。出土量は多い。20、片側縁は欠損する。21、左側縁を刃部状とし、右側縁に細かな調整を施す。22、表面は自然面が主体。両側縁に調整が施され、打面部にまで及ぶ。薄手である。23、表面は自然面を多く残す。下半を欠損する。左側縁に調整を集中させる。24、やや反り身。両側縁とも刃部状を呈し、細かな調整を施す。珪質頁岩製。

2類 大形の剥片素材のもの(25~29)。27、厚手で左側縁を刃部状とし、片側縁は自然面を残す。両面からの調整が施され、端部も僅かながら調整が及ぶ。28、表面の調整が著しい。側縁、端部とも刃部状を呈するが、両側縁に調整が施される。薄手である。29、風化。端部に調整が施されるが、分厚く機能部ではなからう。両側縁が刃部状で、特に左側縁は再調整が行われてい



284図 8. 加工痕のある剥片石器(1)



285図 8. 加工痕のある剥片石器(2)

る。

3類 剥片端部に機能部を持つもの(30・31)。30、節理による剝落のため判然としないが、おそらく縦長剥片の下半を欠き、刃部状の機能部として果たしたのであろう。31、大形で厚手の素材を使用し、側縁と端部に調整が施される。裏面の調整は丁寧である。

4類 縦長の三角形剥片を素材とする(32~34)。

a種 直刃を呈する(32)。基部を欠損する。端部は若干内彎するが、調整を施し、直刃状とする。

b種 凸刃を呈する(33)。右側縁は刃部状を呈し、左側縁はやや厚く、裏面に雑な調整が施される。

c種 凹刃を呈する(34)。表面に自然面を残す。側縁にノッチ状の凹部が設けられる。

第III群 円形の剥片形状を呈し、側縁に機能部を持つ(35)。大形の円形剥片を素材とし、縁辺に調整を施す。表面は大きく自然面を残す。

第IV群 素材剥片の形状が不明のもの。スクレイパーと同様に磨滅、欠損によって判別が困難な石器を一群とした。

9. 使用痕のある剥片石器(286~287図)

第I群 横長剥片を素材とする(286図1~287図24)。

1類 剥片端部に機能部を持つ。

a種 直刃を呈する(1~6)。1、大形の素材を使用し、比較的薄手である。端部を刃部とし、細かな調整が施される。2、やはり薄手で細かな調整が刃部に集中する。右側縁も刃部状となる。3、方形の素材で、端部と左側縁が刃部状となり、端部に調整が施される。

4、小形で薄手の素材。端部は刃部状になり、雑な調整が施される。5、やや厚手で端部と右側縁は鋭い刃部状を呈し、端部には使用による歯こぼれが看取される。6、片側縁が欠損。薄手で端部は細かな調整が施される。

b種 凸刃を呈する(7~11)。7、比較的薄手。端部を刃部状にし、歯こぼれも看取される。8、薄手で楕円形状の素材を使用し、側縁から端部が刃部状となる。調整は左側縁と特に端部に集中する。9、大形で薄手の素材を使用し、楕円形状を呈す。周縁を刃部状とし、側縁から端部にかけて雑な調整が施される。10、端部を刃部状とし、鋸歯状の調整が施される。11、表

面は自然面を多く残す。右側縁と端部を刃部状とし、端部には細かで雑な調整が施される。

c種 凹刃を呈する(12・13)。12、右側縁を大きく欠損する。厚手で端部を刃部状とし、凹部には雑な調整が施される。13、厚手で左側縁と端部を刃部状とする。右側縁は自然面である。端部裏面に鋸歯状の調整が施される。

2類 側縁に機能部を持つ(14)。5点の出土。左側縁から端部が欠損。右側縁を刃部状とし、細かな調整が雑に施される。

3類 横長の台形状剥片を素材とする。

a種 剥片端部に機能部を持つ(15・16)。4点の出土。15、やや厚手で左側縁と端部を刃部状とする。端部は直刃を呈する。16、大形で厚手の素材を使用し、打面部から右側を大きく剝離する。端部は尖り、端部に向って両側縁に調整が施される。

b種 側縁に機能部を持つ(17)。2点の出土。やや厚手で、右側縁を刃部状とし、雑な調整が施される。端部も調整が行われるがやや鈍角である。

c種 剥片端部と側縁に機能部を持つ(18)。4点の出土。薄手で、両側縁と端部に調整が施される。

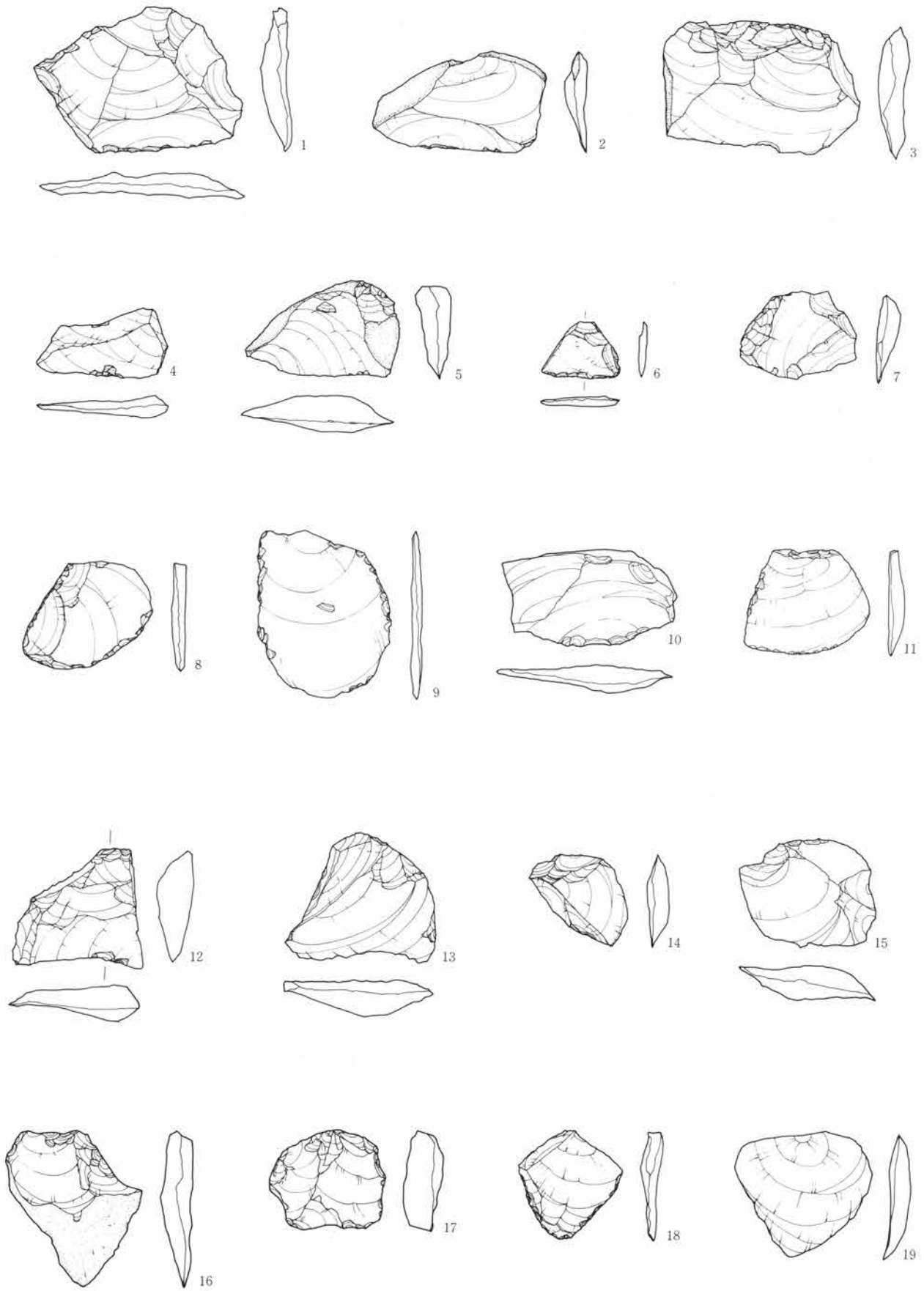
4類 三角形剥片を素材とする。

a種 側縁に機能部を持つ(19~21)。10点の出土を見る。19、表面に自然面を大きく残す。側縁を刃部状とし、端部は尖る。20、両側縁を刃部状とし、右側縁には両面より調整が施される。21、小形でやや厚みを持つ。両側縁が刃部状となり調整も行われるが、端部も厚みを持ちながらも円形に細かな調整が施される。

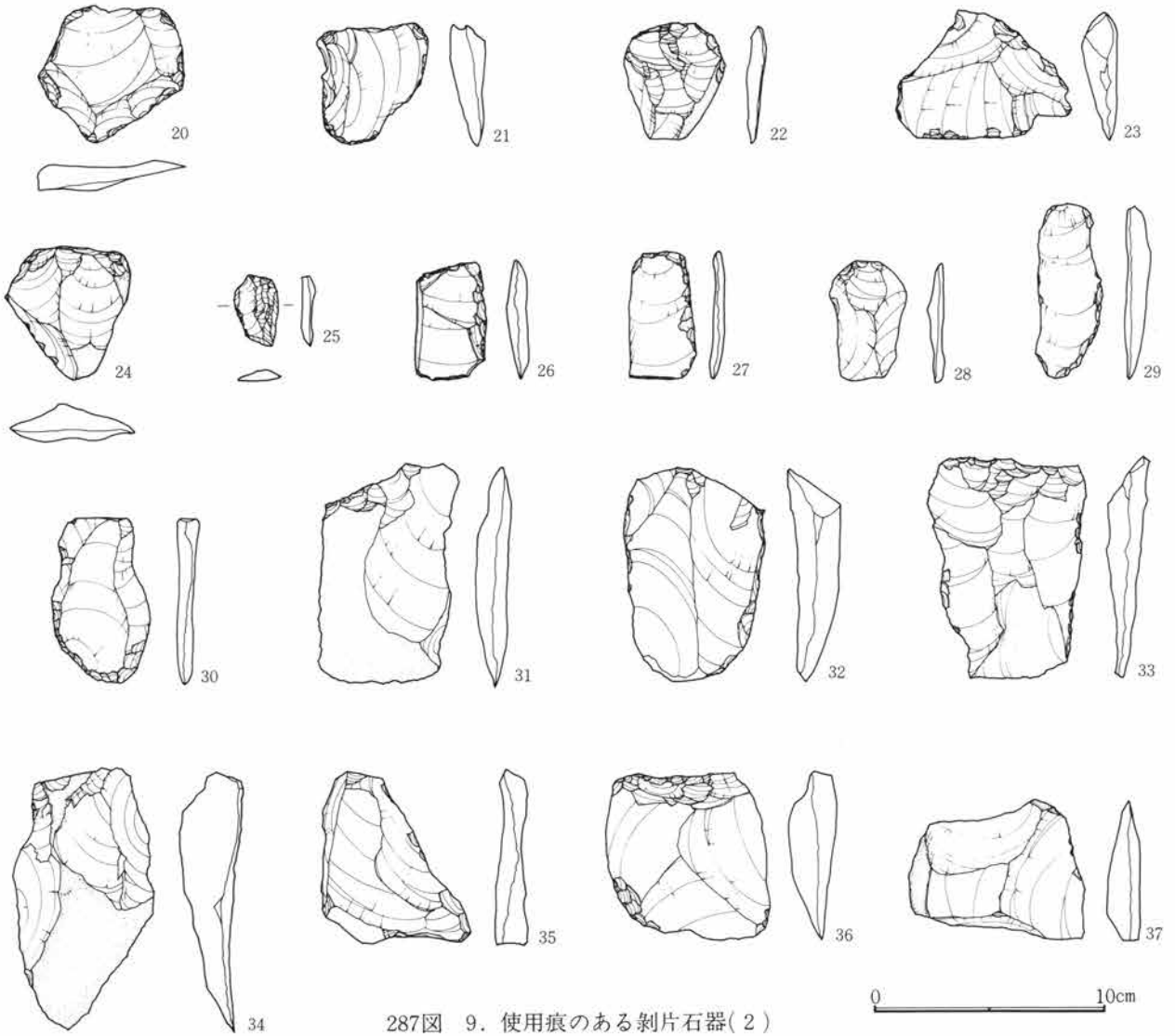
b種 やや縦長で側縁に機能部を持つ(22~24)。6点出土。22、珪質頁岩製で滑らかな器肌。側縁の一部に自然面を残すが、両側縁とも刃部状を呈す。左側縁には歯こぼれが看取される。23、やや大形の素材。側縁と端部を機能部とする。24、両側縁を刃部状とし、左側縁には調整が施される。

第II群 縦長剥片を素材とする(287図25~37)。

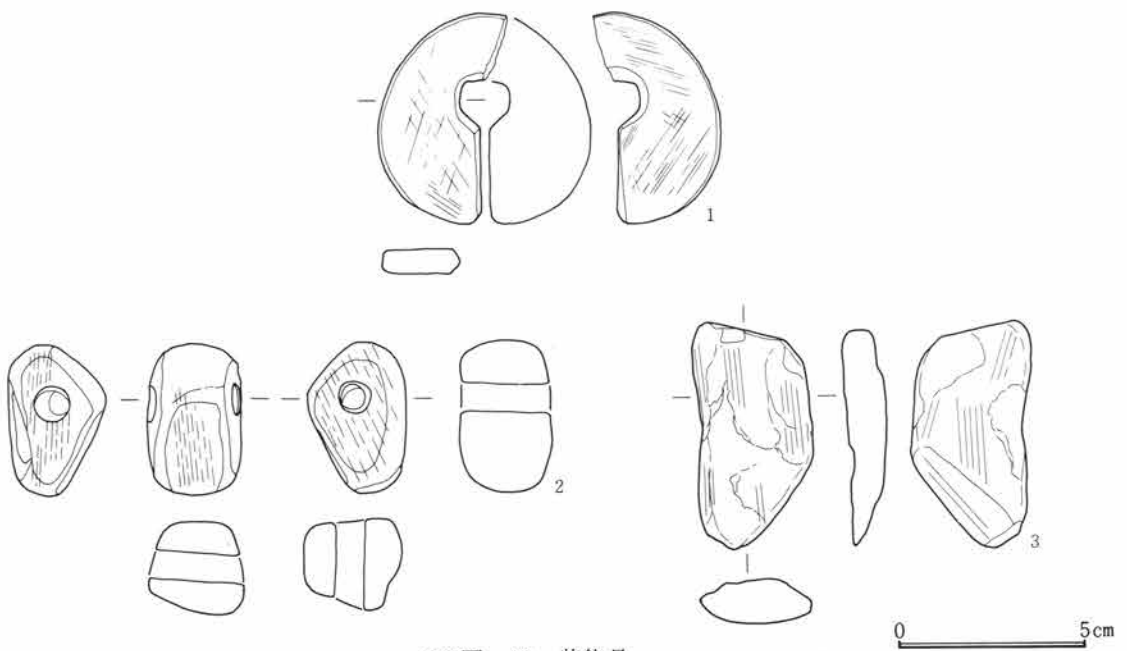
1類 小形のもの。側縁に機能部を持つ(25~30)。25、黒耀石製で、両側縁とも歯こぼれがある。26、左側縁は自然面であり、機能部としては右側縁であろう。端部にも僅かであるが調整が施される。27、右側縁に



286図 9. 使用痕のある剥片石器(1)



287図 9. 使用痕のある剥片石器(2)



288図 10. 装飾品

調整が施される。薄手。28、表面に大きく自然面を残す。両側縁とも刃部状を呈し、右側縁には調整が施される。29、内彎する両側縁とも比較的丁寧な調整が両面より施される。30、濠内出土の為磨滅が著しい。両側縁とも刃部状を呈す。

2類 大形のもの。側縁に機能部を持つ(31~35)。31は端部も直刃を呈し、両側縁に調整が施される。32、厚手で打面部に自然面を残す。端部にかけてやや反り気味の断面形態を呈し、両側縁から端部にかけて細かな調整が施される。33、両側縁とも若干外彎する。側縁、端部とも刃部状を呈する。34、両側縁とも刃部状を呈し、調整を施す。右側縁は直線的である。35、厚手で端部にかけて尖る。側縁は自然面を残すが刃部状である。

3類 台形状剥片を素材とする(36・37)。

a種 側縁に機能部を持つ(36・37)。36、打面部に自然面を僅かに残す。厚手で、両側縁、端部とも刃部状を呈す。調整は側縁に疎らに施される。

b種 剥片端部に機能部を持つ(37)。左側縁を欠損。打面部と、右側縁に自然面が残り、端部には雑な調整が施され刃部状となる。

第III群 素材剥片の形状が不明のもの。

10. 装飾品(288図)

量的に貧弱である。時期的なものか、集落の性格か特定はできないが、土偶などの出土が見られないことも同時に本遺跡の特徴であろう。

1、玦状耳飾り。変質蛇文岩製で右半分を欠損する。表面は光沢を持ち、中央の孔も丁寧に磨き込まれる。

2、垂飾である。かんらん岩製で、38.5gとやや重い。側面に不揃いな孔が穿たれる。

3、未製品と思われる。淡緑色石英質岩製で軟質な石材である。全面に擦痕が認められる。

11. 打製石斧(289~297図)

出土量は多く、その主体的な出土量は他の縄文時代中期の遺跡と同様な傾向を占めず。形態の小形のものから大形のものまでバラエティーに富み、当時の生活必需品としての打製石斧の位置付けが伺えよう。詳しい論述は後節で述べる事とし、ここでは概略程度の種類を試み全体の傾向を把握してみたい。

第I群 いわゆる短冊形と呼ばれるもの(1~134)。

1類 小形のもの。

a種 薄手のもの(1~31)。

長さが4cm、幅2.5cm程度の楕円状を呈し、薄手で主に小形の横長剥片を素材とするもの(1~4)。4の刃部には自然面に使用痕が看取できる。5は自然面の彎曲をそのまま残し、側面は反り身でやや肉厚である。方形~長楕円形の平面形を呈するものは多く、短冊形の意識をそのまま踏襲しているのであろう(6~27)。6は直刃を呈し、僅かだが使用痕が刃部に看取される。その他、17、25~27には使用痕が見られる。9は縦長剥片を素材とし、反り身の側面を呈す。11、24も縦長剥片が素材。13、21は側面がS字状に彎曲する。21~23は左右非対称。28は刃部が剥落しており判然としないが、横長剥片を素材とし、薄手である。25は、点紋頁岩製。

b種 やや厚手のもの(32~45)。

楕円状を呈するもの(32~35)。方形に近いもの(36~45)。肉厚のためか、a種よりやや大形。34、36、41のように素材剥片の端部をそのまま刃部としたものもあるが多くは刃部に調整が施される。38は黒色安山岩製。やや薄手。39、44には使用痕が看取される。

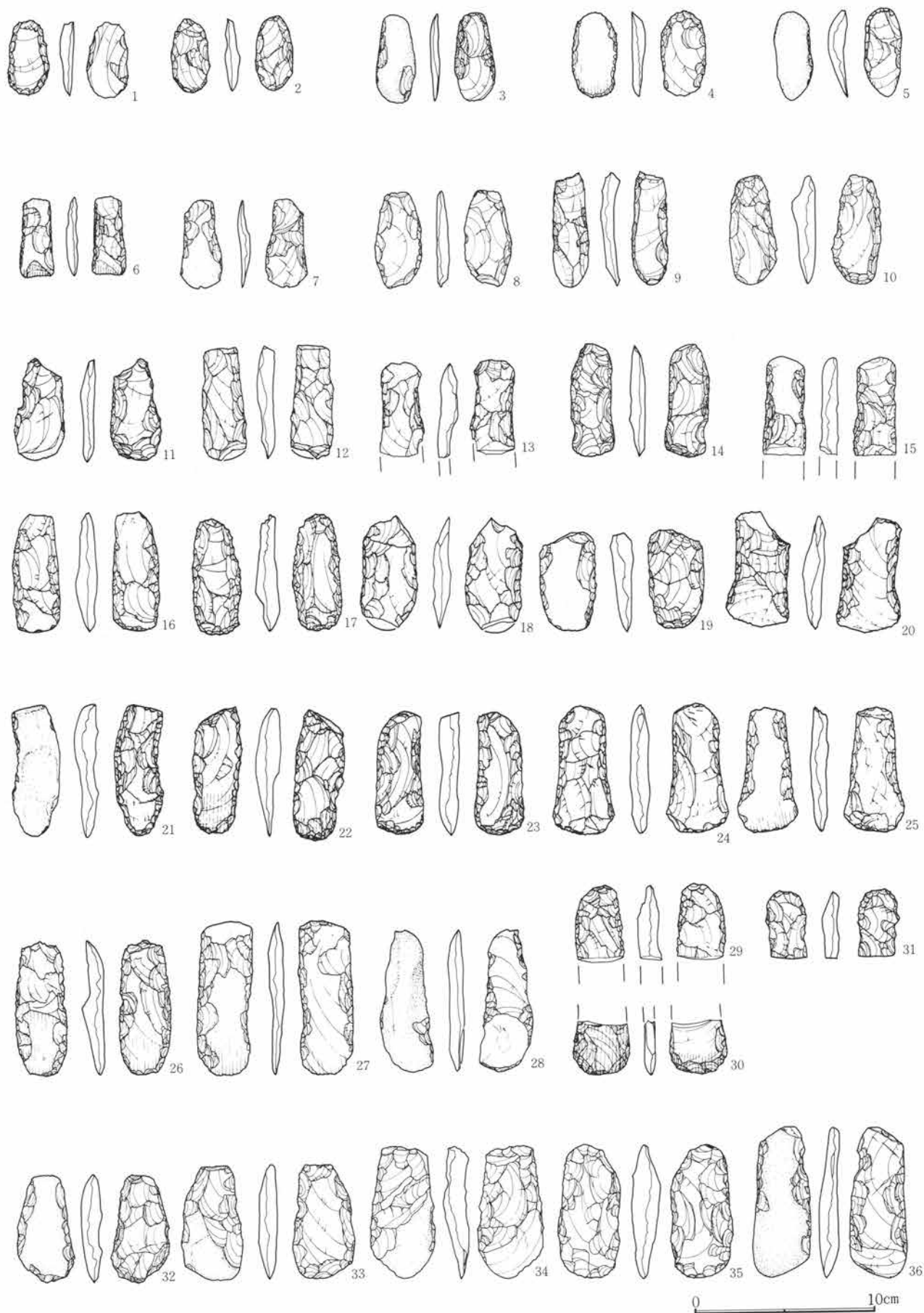
2類 やや小形に近いもの。中形との亜形態。

a種 厚手で側面形が直線的(46~48)。

側縁が平行する典型的な短冊形の平面形態を呈す。47には使用痕が見られる。

b種 厚みのあるもの(49~80)。

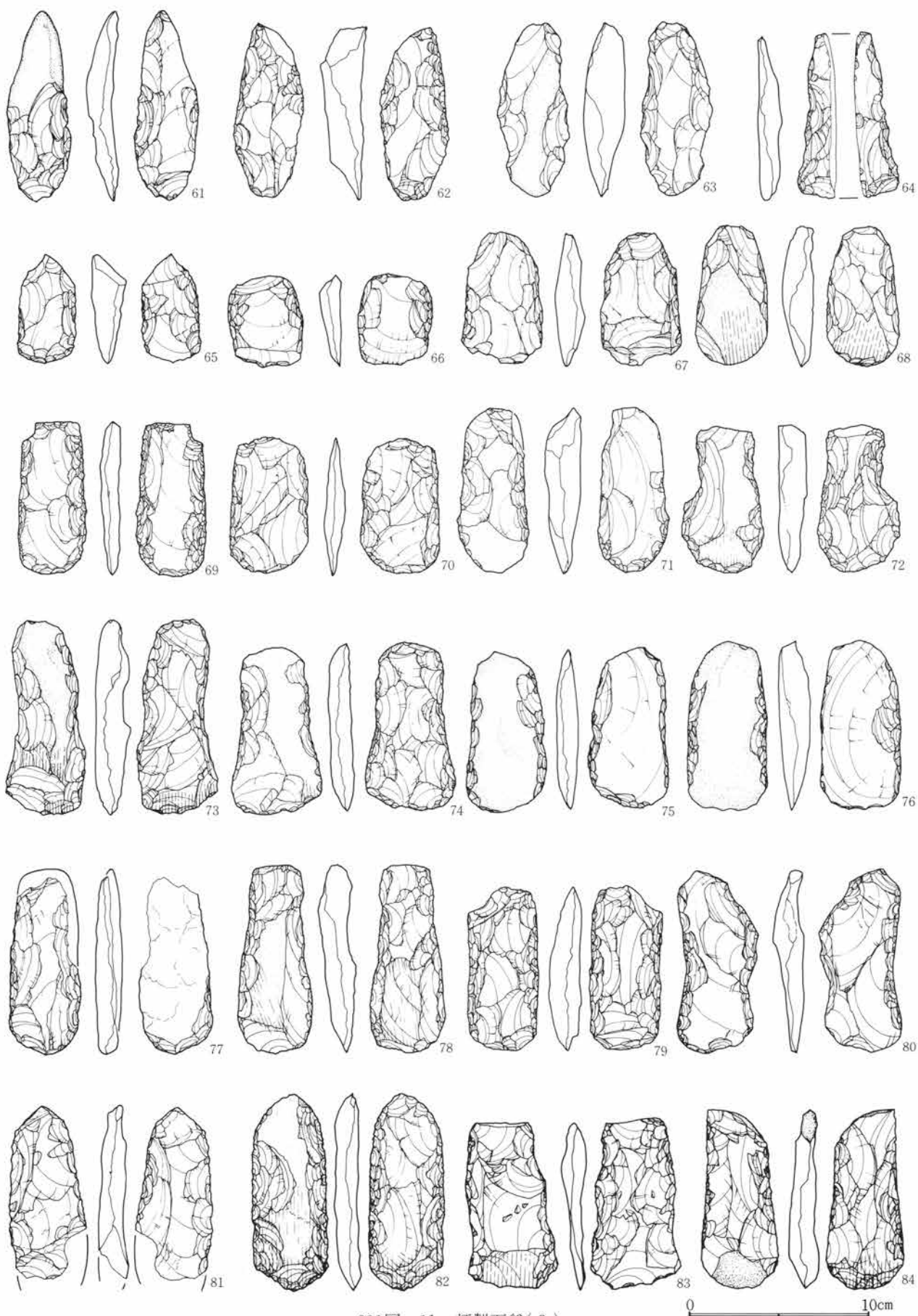
種々の形態があり、使用痕のあるものも本種が多いようである。頭部が非対称で、凸刃を呈する(49~51)。51はやや反り身。52~56は方形の平面形を呈し、側面形も直線的である。50~56は使用痕が見られる。51は頭部付近にも磨滅痕が看取され、装着痕であろうか。56、細粒安山岩製。57は左側縁が厚く無調整である。未製品か。58~62は反り身の側面形。いずれも素材剥片の彎曲を利用し、比較的雑な調整を施す。58はやや薄手、59の左側縁は雑な調整のみで刃部は無調整。60の刃部も無調整。61は自然面のカーブを利用している。62、63は厚手で調整も大まかである。64~69は欠損品。64は縦割れ、65、66は上半欠損、67は下半欠損。65~66



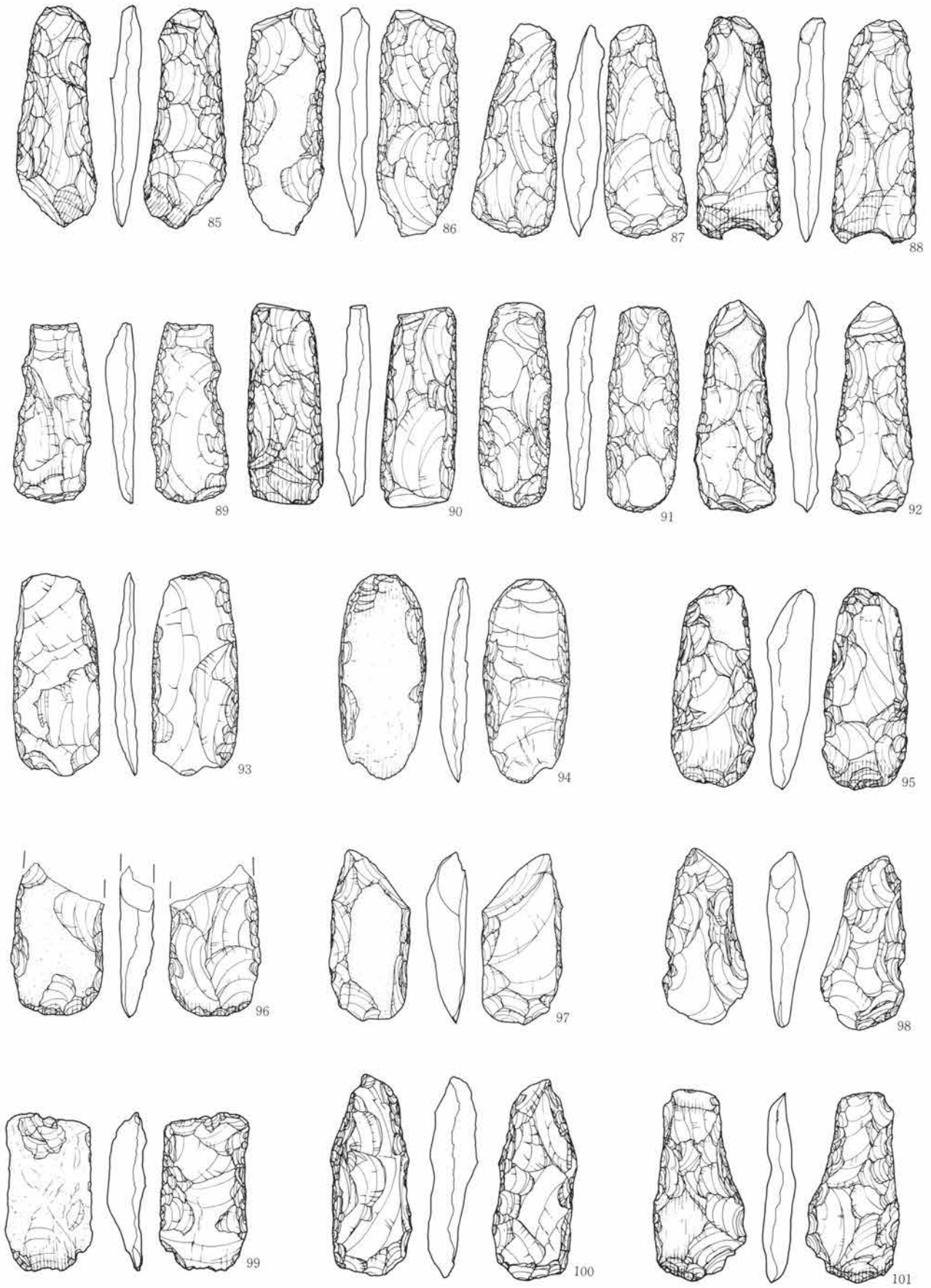
289図 11. 打製石斧(1)



290図 11. 打製石斧(2)



291図 11. 打製石斧(3)



292図 11. 打製石斧(4)

第IV章 遺構と遺物

は欠損部を調整し、再利用している。68、使用痕が看取される。69、71は直線的で平行する側面形態。71は輝緑岩製。72～74は側縁が彎入する。使用痕も認められる。75、76は楕円状を呈し、大きく自然面を残し、調整も側縁に集中する。77は裏面が加熱による剥落を受けている。78は刃部に斜位の使用痕が見られる。80は両側縁が彎入し、II、III群の様相も見られる。

3類 中形のもの。本類も出土量が2類とともに多く、打製石斧のなかでも中核的存在であろう。

a種 薄手のもの (81～94)。

側縁は直線的なものが多い。81～84はやや小振りである。82～84に使用痕が認められ、81も刃部が欠損しているため使用頻度は高かったのであろう。84は自然面が頭部と刃部に残り薄手の横長剥片を素材としたのであろう。85～94は本類の典型である。側縁が斜行気味で刃部が僅かに広がるもの(85、87～89、92)。側縁が外彎気味に平行するもの(86、90、91、93、94)がある。93は細粒安山岩製。94の裏面は自然的営力による剥落が大きい、刃部と側縁には使用による磨滅痕が著しく、かなり使いこまれた感がある。

b種 厚手のもの (95～106)。

側縁は非対称なものが目立つ。95～97は比較的直線的な側縁。96、97、灰色安山岩製。97の側縁は厚みを持つ。98～100はやや雑な調整が施される。99は裏面の調整が主体で、自然面を生かしたやや反り身の形態を呈す。101～103は側縁下半から刃部が丸みを帯び、II群的な様相が強い。104は右側縁が直線的で、左側縁は内彎するが全体的な反りは無い。105、106は上半を欠損する。105は再調整が行われ、106は灰色安山岩製で、使用痕が認められる。

4類 大形のもの。比較的出土量は少ないが本群の典型ともいえるものもあり、他類との対比などに問題点、不明点を残す。

a種 やや小振りで平面形も本群の典型(107、108)。

b種 尖頭器状の平面形態を呈するもの(109～111)。頭部が尖鋭な形態を呈するもの(109、110)。109は使用痕が著しく、若干反り身である。111は刃部が凸刃を呈する。

c種 大形で厚みのあるもの(112～121)。

112～116は両側縁がほぼ平行する。112と115には使用痕が認められる。113は灰色安山岩製。114は細粒安山岩製。116は重量感があり重い。輝緑岩製。

117、118は楕円状を呈し、表面には自然面を大きく残す。117の調整は雑である。変質玄武岩製。118は自然面のカーブを利用しやや反り気味の側面形態を呈する。119～121は刃部が開き気味の形態を呈す。119、120とも32号住出土で、石材も同一の可能性が高い。121は接合資料で、欠損後も側縁を調整している。

5類 本類は打製石斧の形態の中でも分類しづらいものを敢えて短冊形系統として捉えたものを一括した。

a種 片面の彎曲を利用し、胴部が大きく膨らむもの(122～127)。

122、123は表面の自然面のカーブを利用する。123は灰色安山岩製。124は中央が著しく肥厚し、未製品の感もする。125、灰色安山岩製。126は下半が欠損。127は薄手で平面形態が彎曲し、素材剥片の形状をそのまま踏襲し、雑な調整を施す。刃部から胴部には使用痕が認められる。

b種 鎌状の形態を呈するもの(128～132)。

128～132は胴部から頭部にかけて彎曲する鎌状の平面形態を呈する。128は頭部に自然面を残し、彎曲部に調整が集中する。使用痕も見られる。129、130は自然面を利用し、厚みながらもやや反り身である。131は上半を欠損するが彎曲の兆しは看取できよう。132は接合資料。

c種 片側縁のみに調整が集中する(133、134)。

第II群 撥形の形態を呈する一群である。出土量は少なくやや客体的な存在であろう(135～155)。

1類 小形のもの。

a種 薄手のもの(135～141)。

136はやや反り身を呈す。137には使用痕が認められる。138は若干厚手だが、周縁には比較的丁寧な調整が施される。139は縦長の素材剥片をそのまま利用し、調整は裏面に集中する。140は加熱による剥落が及ぶ。141、鋸歯状の直刃を呈する。やや反り身。

b種 やや厚みのあるもの(142、143)。

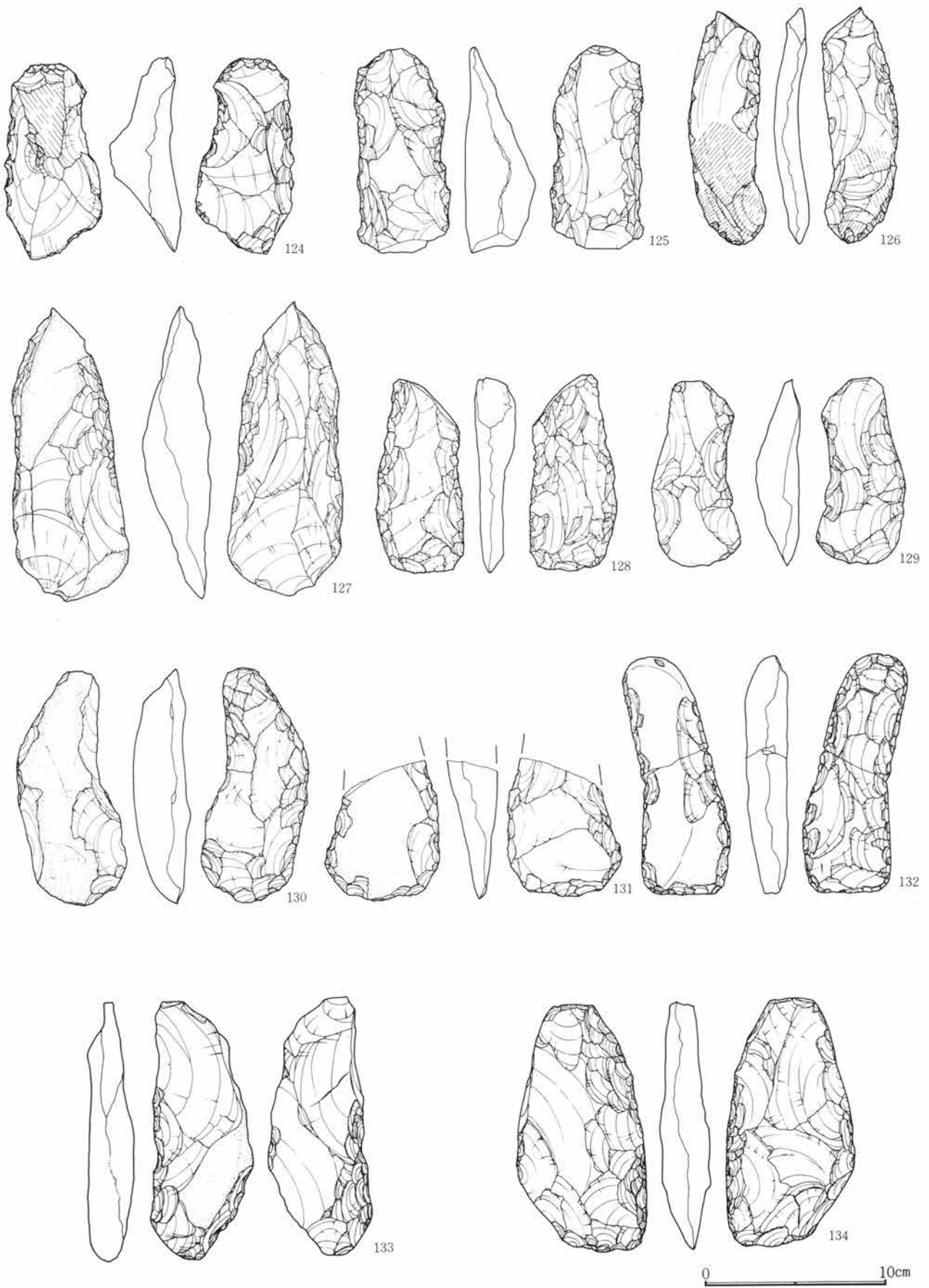
142は下半欠損。欠損後も僅かではあるが調整を施し



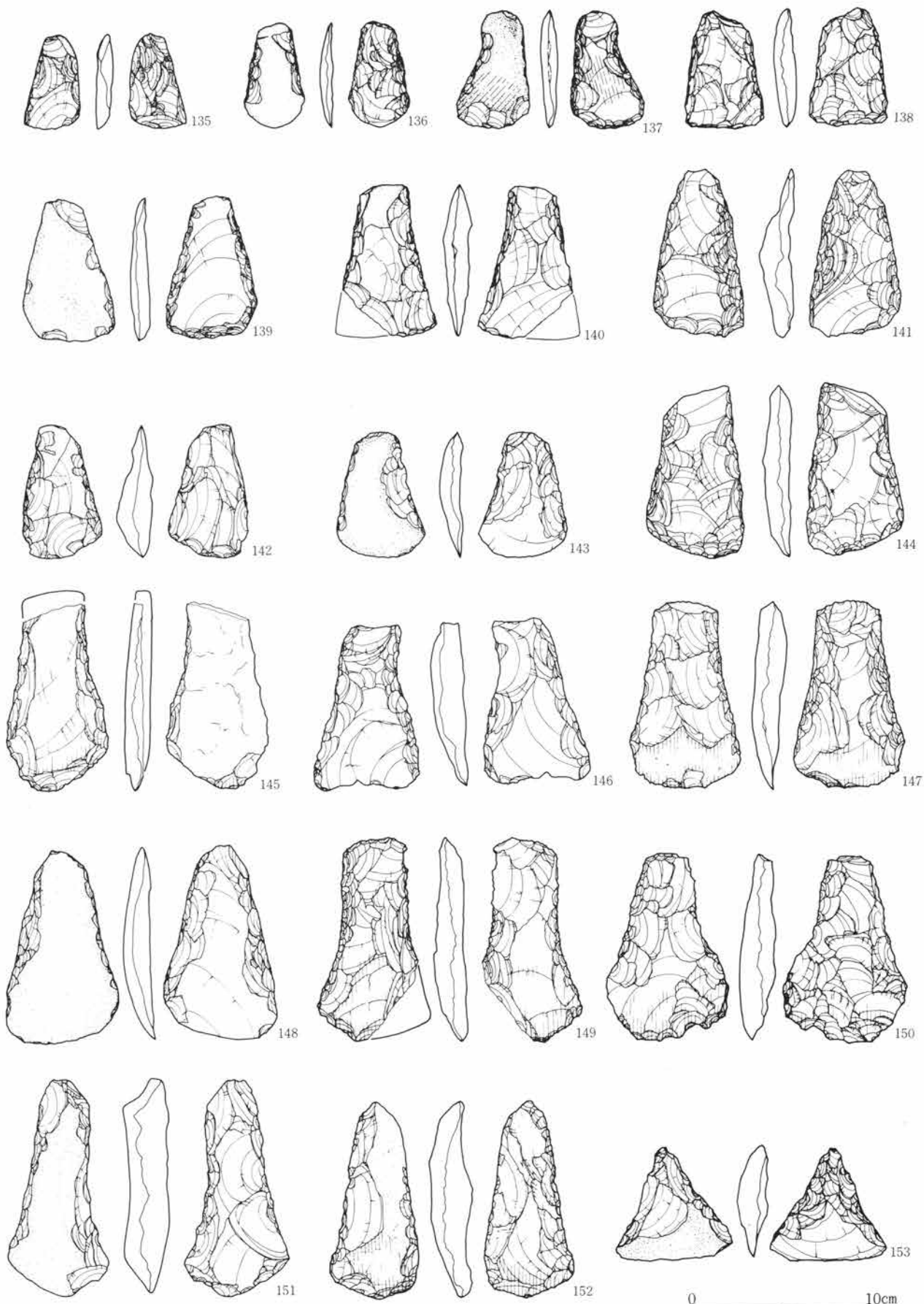
293図 11. 打製石斧(5)



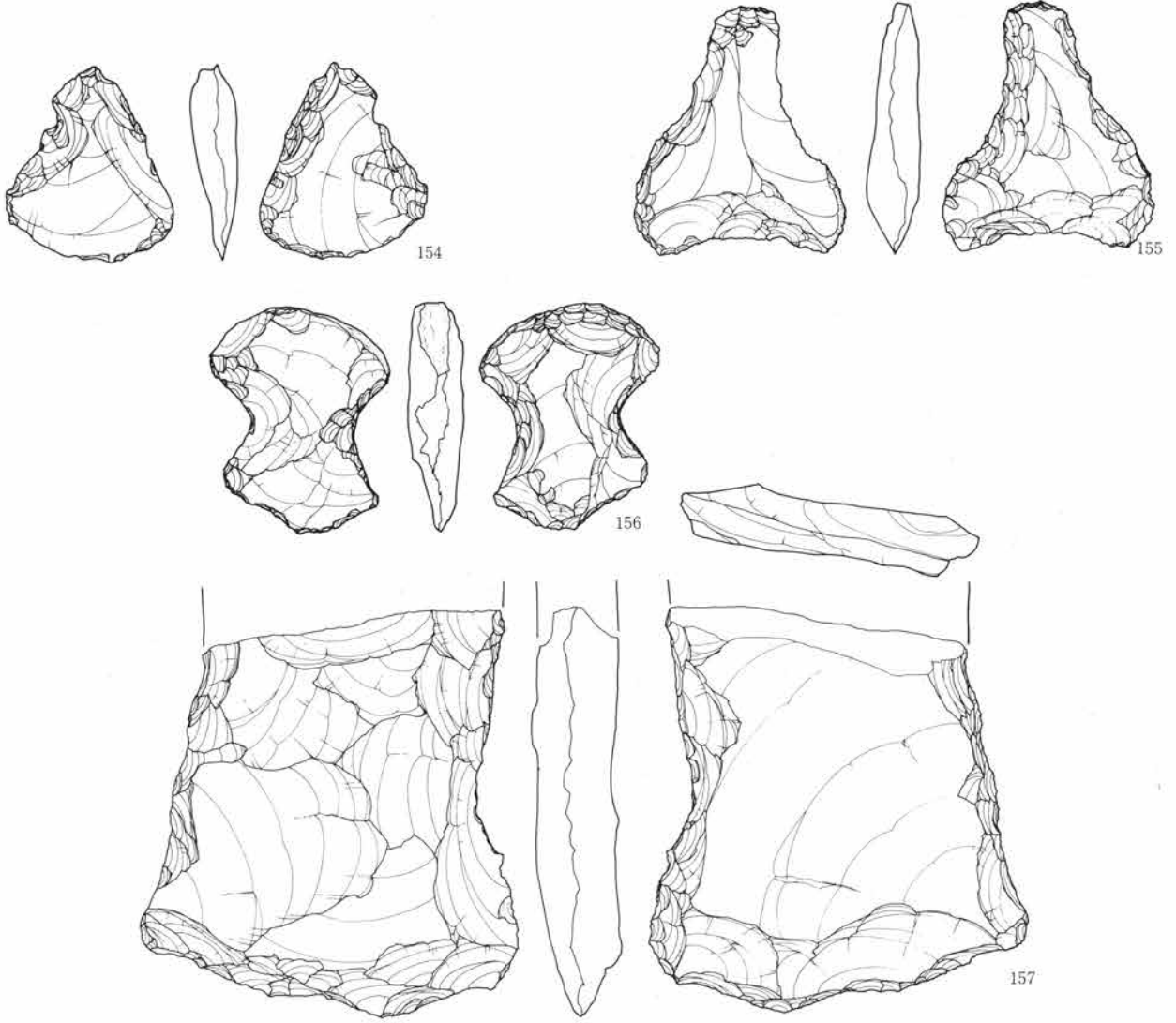
294図 11. 打製石斧(6)



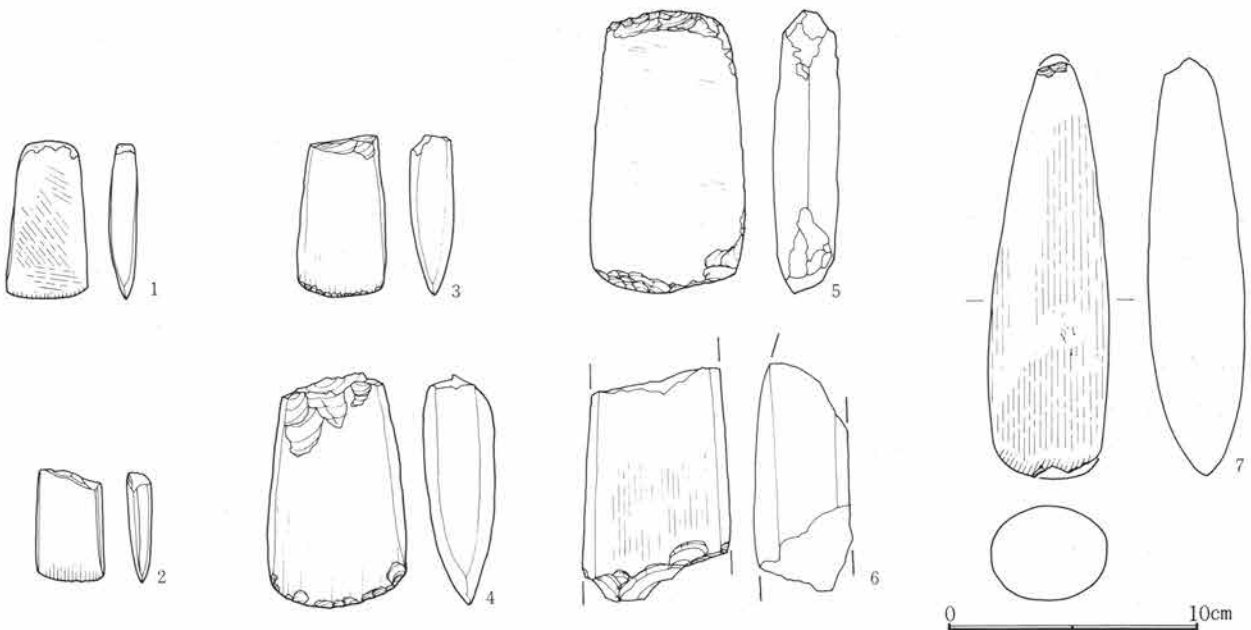
295図 11. 打製石斧(7)



296図 11. 打製石斧(8)



297図 11. 打製石斧(9)



298図 12. 磨製石斧

第IV章 遺構と遺物

刃部としている。143、自然面を利用し、反り身を呈する。

2類 中形のもの。

側縁が直線的なもの(144、147、148)と、彎曲し洋梨状の形態を呈するもの(145、146、149、150)。及び、頭部が細く尖り気味のもの(151、152)がある。本類の典型的な形態を呈しながら、出土量は一群に比して多くなく、剝片周縁に入念な調整を必要とする本類の形態は敬遠されたのであろうか。

3類 三角形の平面形を呈するもの(153~155)。153、刃部無調整で頭部は尖る。154、横長剝片を素材とし、刃部は雑な調整が施される。155、三方に突出し、三脚形を呈する。打製石斧としたが、石匙、スクレイパーと同様な機能も考えられよう。

第III群 分胴形である(156・157)。2点の出土であり、少数派である。156、刃部欠損後再調整を施す。36号住出土であるが、周辺に後期加曾利B式の土器片も少量見られたことから別時期の所産かも知れない。157、大形品で上半を欠損する。これも表採品で、中期前半の所産とするのは早計であろう。

12. 磨製石斧 (298図)

9点が出土し、7点を図示した。

1~5は、定角式磨製石斧。1、ほぼ完形で、変質蛇文岩製。2、小形で、頭部を欠損し、側縁に擦り切り状の浅い溝が沿う。刃部の歯こぼれが顕著である。変質蛇文岩製。3、やや厚手で頭部を欠損する。刃部に歯こぼれ。輝緑岩製。4、大形で頭部を欠損する。厚手で、刃部には歯こぼれが見られる。5、頭部と刃部が欠損し、平面の大きさに比してやや薄手である。変玄武岩製。6、7は乳棒状の磨製石斧。6、胴部のみ残存である。変玄武岩製。7、頭部と刃部が僅かに欠損する。変玄武岩製。

13. 石皿 (299~310図)

石皿は総点数64点を出土した。このうち土壌からの出土は31点で、製粉具としての石皿とともに二次利用的な用途も考えなければならぬだろう。ここでは3分類したが、台石、磨石などとの区別は判然としないものもある。なお、石材の記述がない場合は粗粒安山岩製である。

第I群 いわゆる盤状石皿に近いもの(1~14)。表面の磨痕は不定方向のものが多く、概ね長軸方向を意識するようである。

1、2は長楕円形状を呈し、小孔が僅かに持たれる。両者とも完形で裏面の磨痕は顕著ではない。2は石英閃緑岩製。3、4は円形の平面形を呈す。3の周縁は敲打痕であろうか周縁調整されている。5~7は不正円形を呈するが底辺が広く、統一的な形態であろう。6は石英閃緑岩製。5、7には小孔が付される。8~14は大きく欠損するもの。8は石英閃緑岩製。10、方形を呈し裏面も磨面を持つ。13は孔を2個持つ。

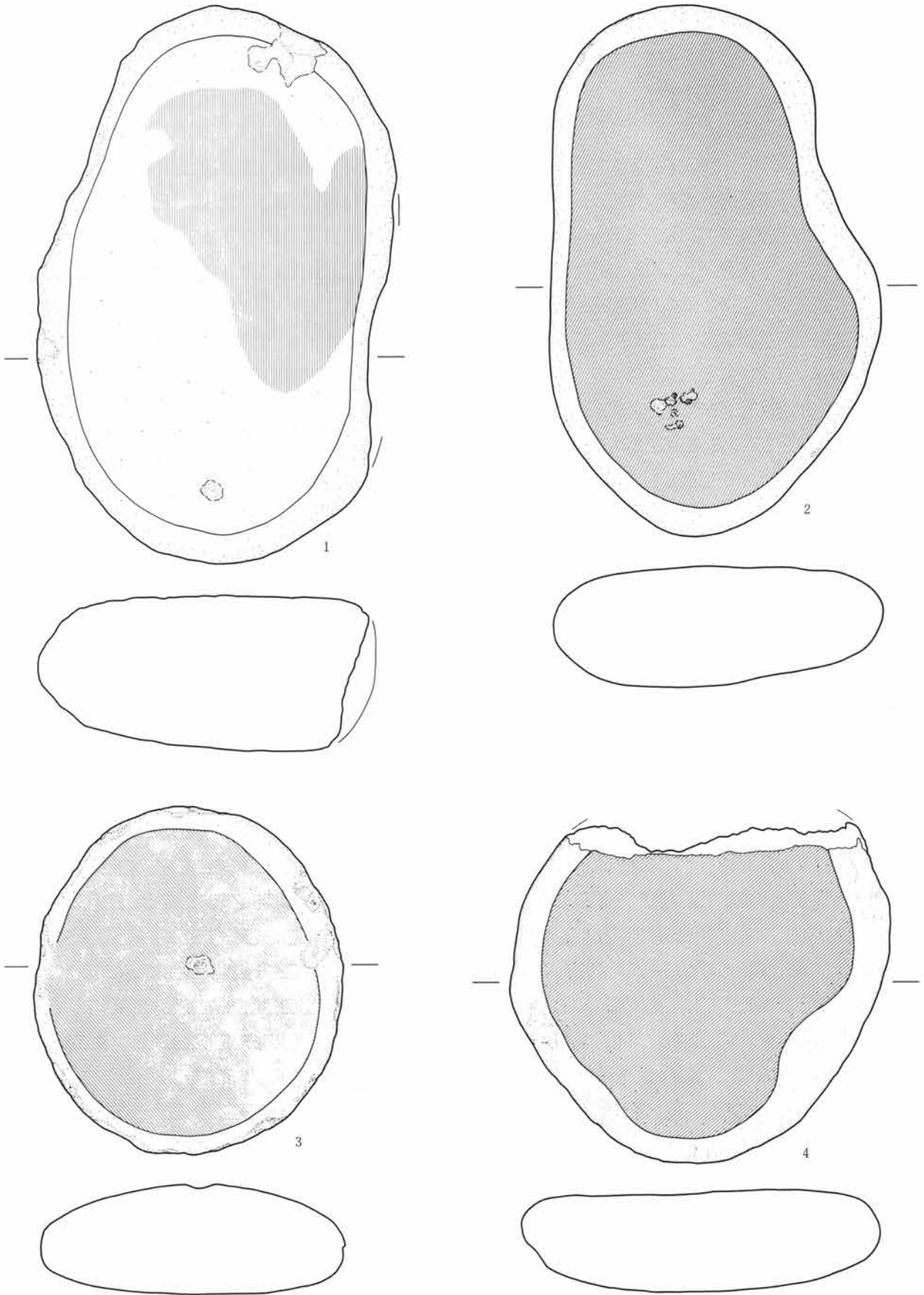
第II群 磨面が全体に浅く凹むもの(15~30)。

15は小形で厚みを持ち、やや不安定な断面形態をとる。16、17は欠損品。16、表面は僅かに凹む程度だが磨痕は著しい。17は小孔が多数付される。18は表裏面とも小孔が設けられる。欠損するが縦長の形態をとる。19~24も同様な縦長の平面形で吐出口を底辺に設ける。20~22は裏面にも小孔が付される。20は点紋緑色片岩、21は緑色片岩で縁辺に黒色顔料?の付着が見られる。23は上半を欠損する。24~30は著しい欠損品。25、磨面は凹み、次群に包括されるものともいえるがやや縁辺が判然としないため敢えて本群に入れた。28は図右半分を欠損後再使用しており細長い形態をとる兆しを見せる。26~29は濠内出土のため全体に磨滅している。

第III群 磨面が著しく凹み、いわゆる有縁状のもの(31~45)。

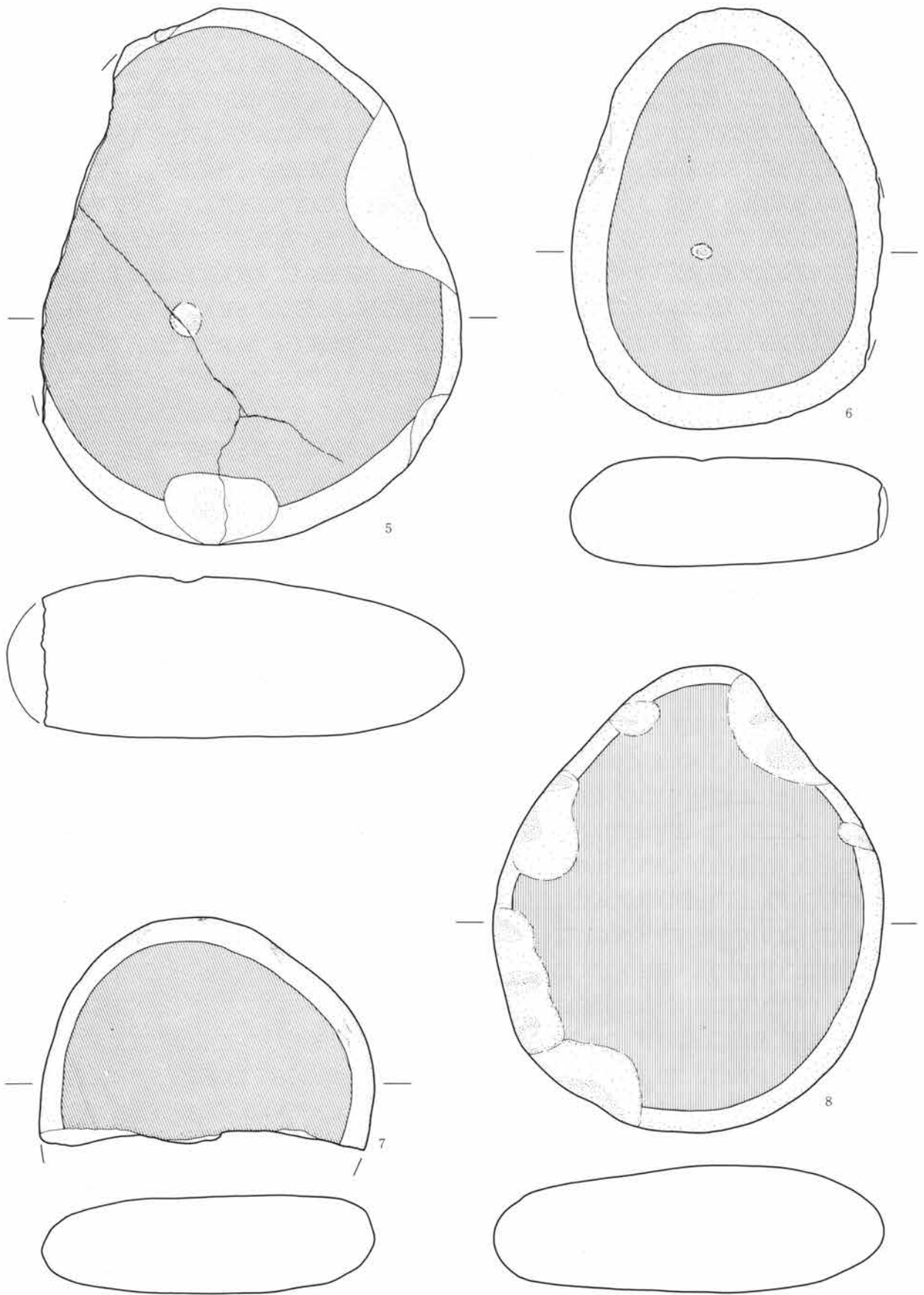
31~34は縁辺に敲打による連弧状の文様が彫られるもの。三原田遺跡にも類例があり、当地域の特徴であろうか。35は大型のもので、粗粒安山岩製の自然石右半分を磨面としている。重量も21.2kgと最も重い。36、37は器厚が薄く、36の裏面には小孔が深く持たれる。38、39は厚い。41、42は薄く小孔が付される。特に42に著しい。41は溶結凝灰岩製。43は縁辺に小孔を持つ。

46~64は著しい破損石皿を集めた。各群取り混ぜているが、概ねII・III群が多い。51は緑色片岩製、59は砂岩製である。加熱を受けているものもある。



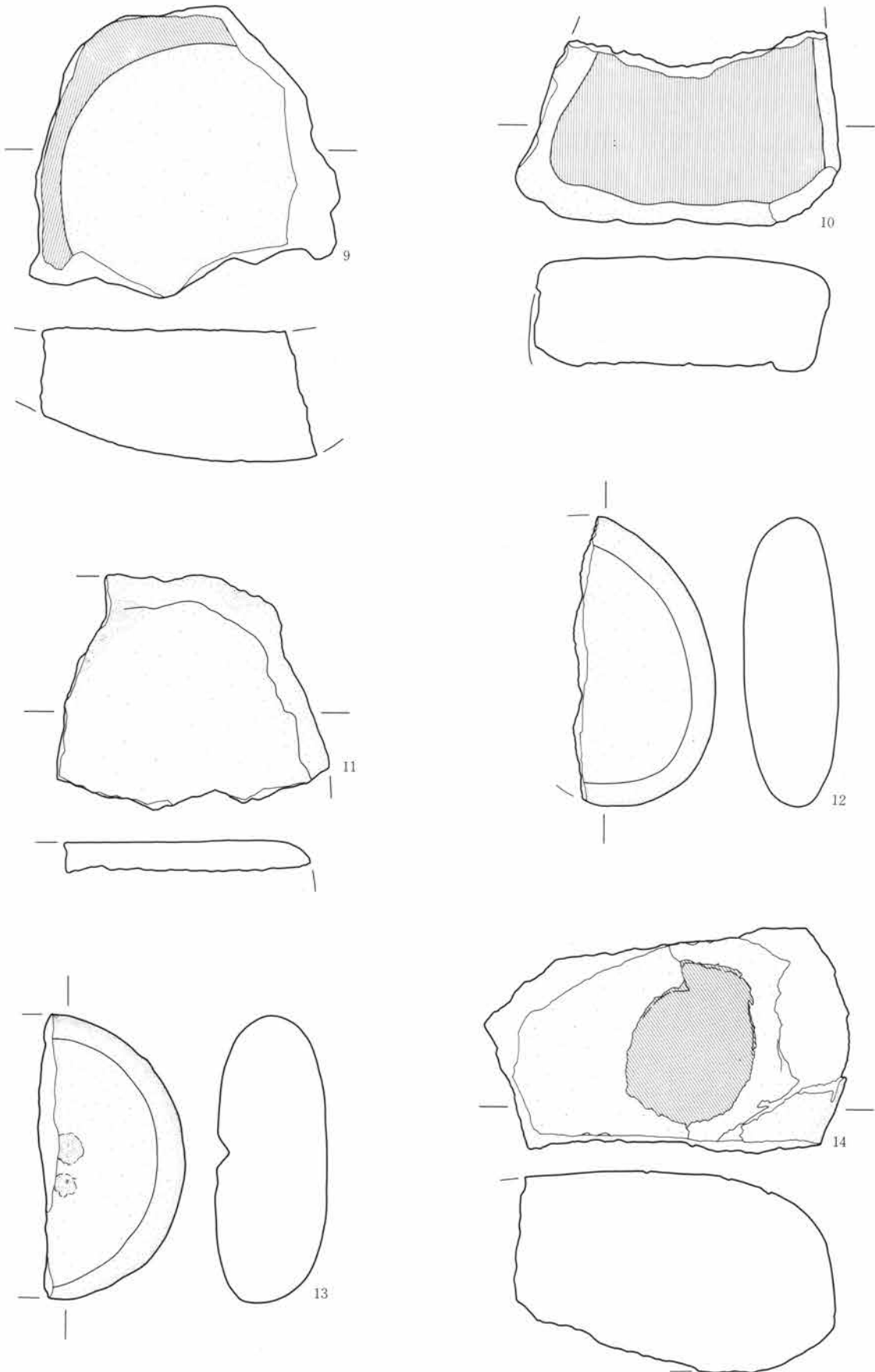
299図 13. 石皿(1)

0 20cm



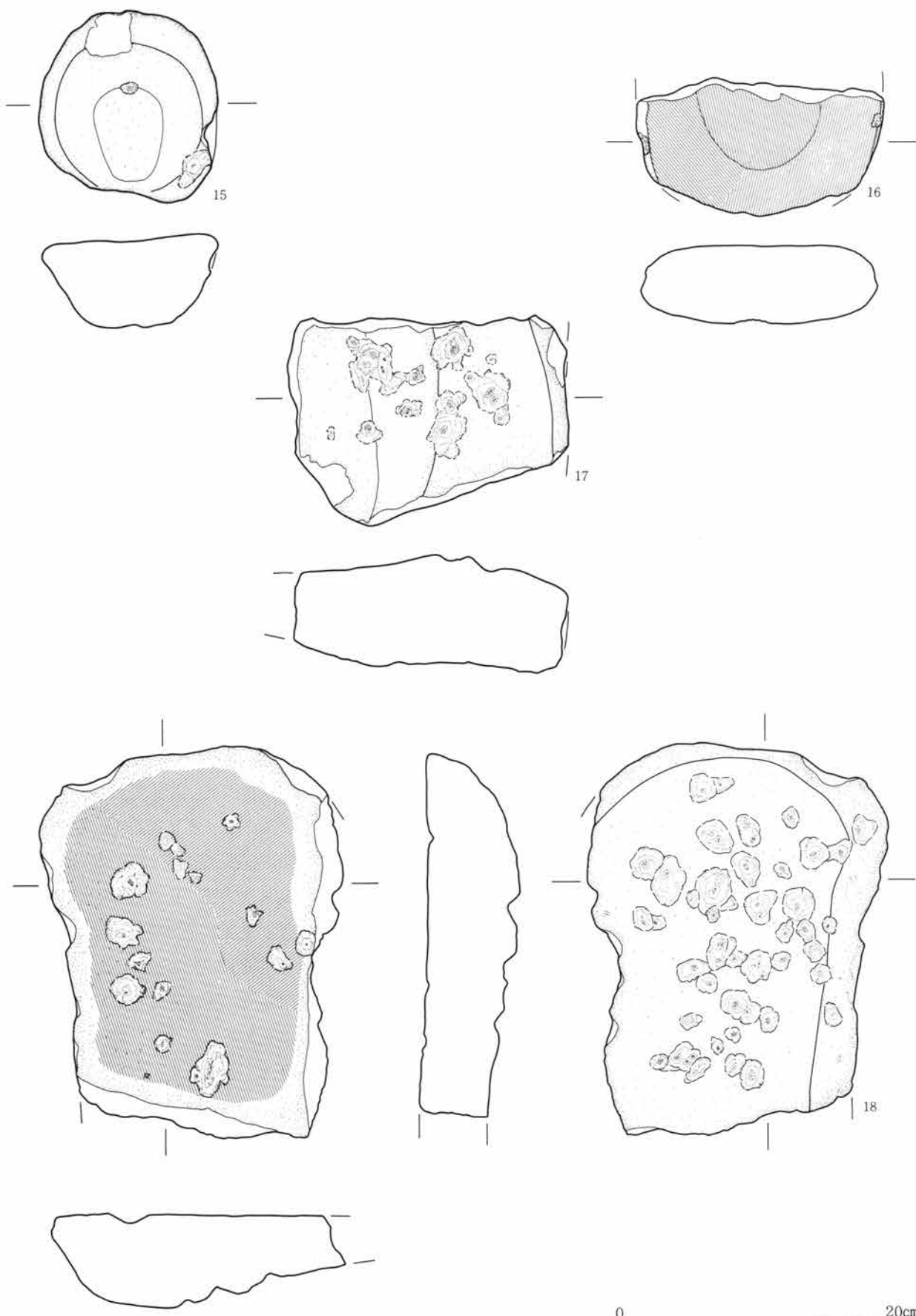
300図 13. 石皿(2)

0 20cm

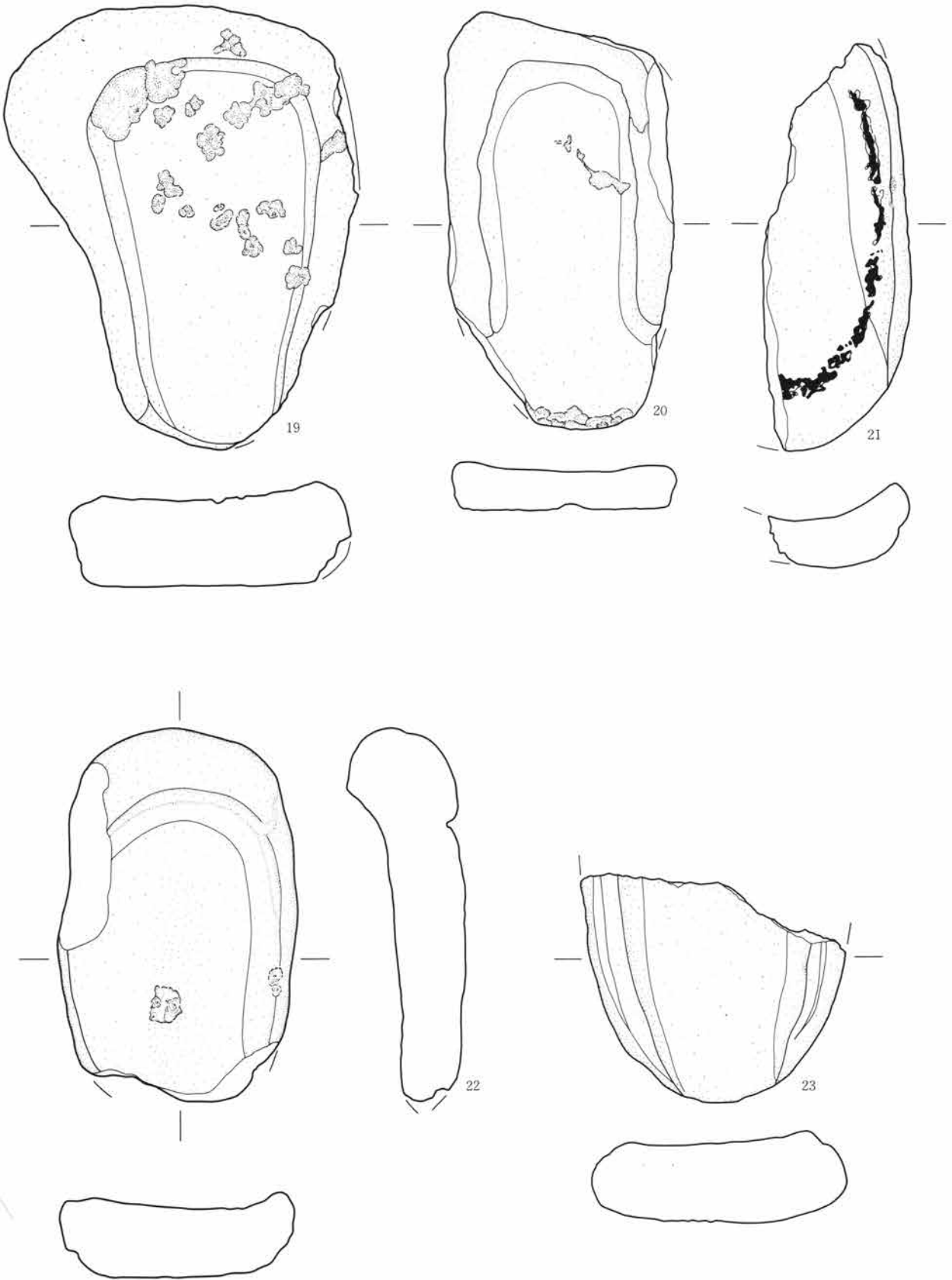


301図 13. 石皿(3)

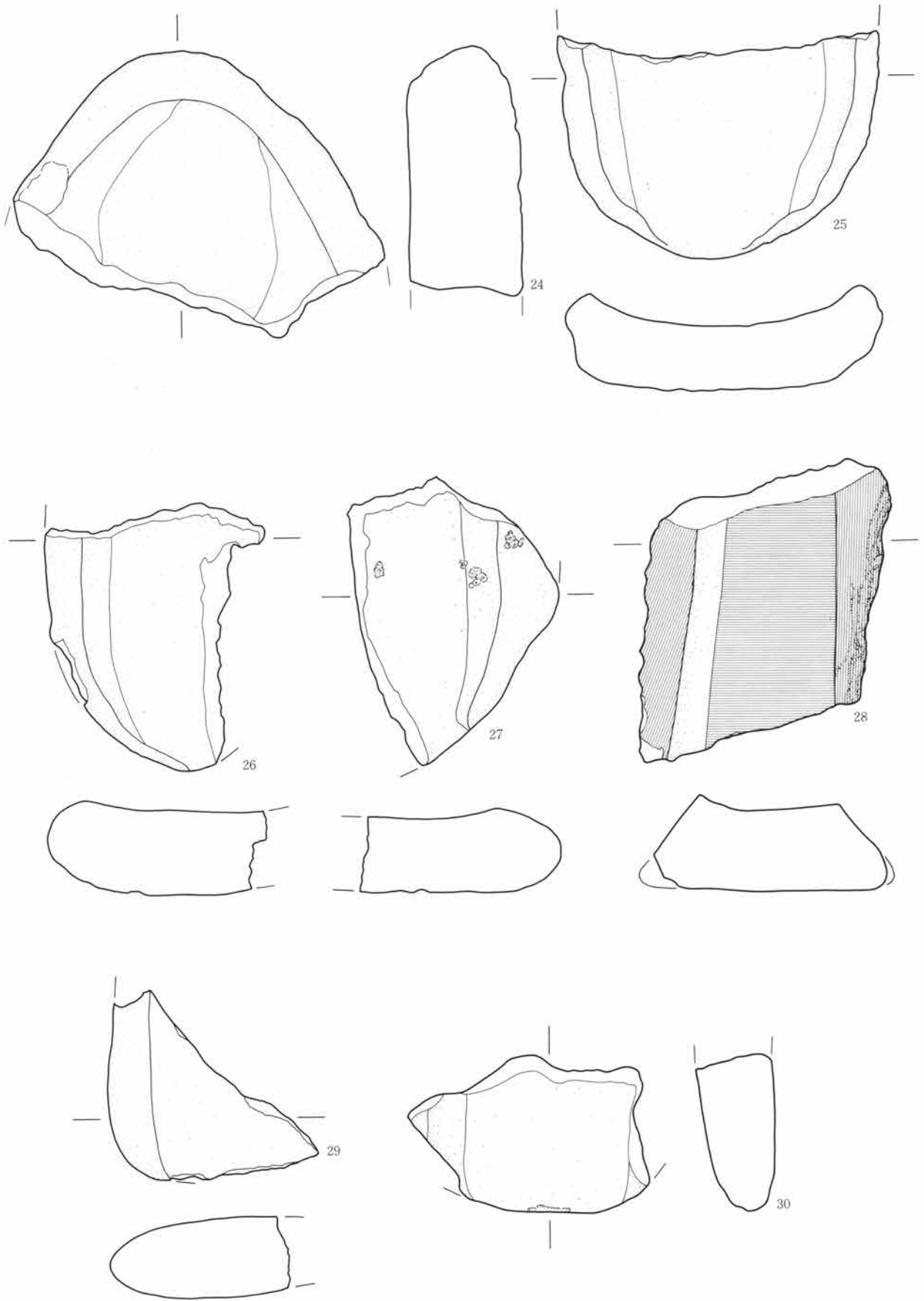
0 20cm



302図 13. 石皿(4)

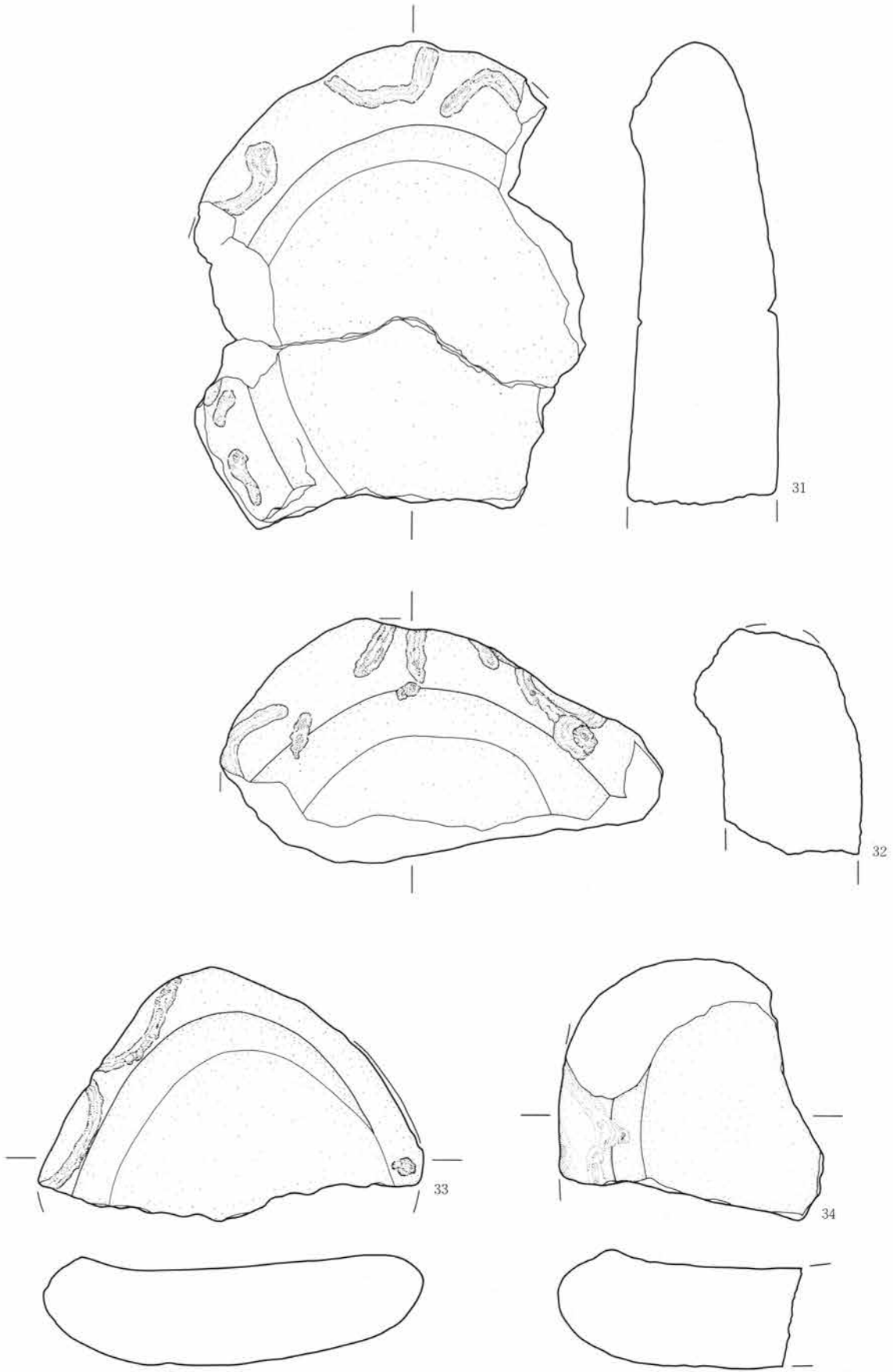


303図 13. 石皿(5)



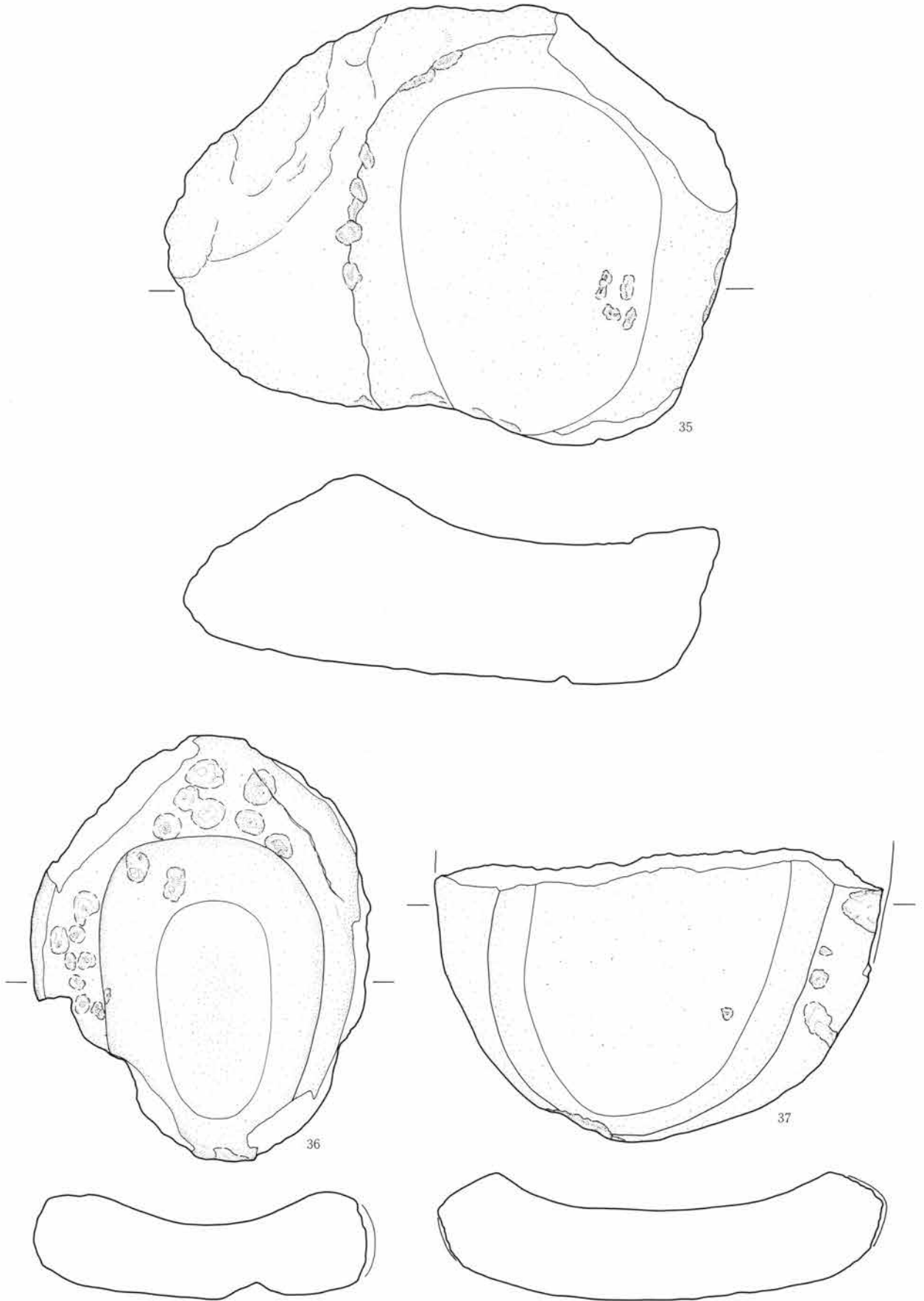
304図 13. 石皿(6)

0 20cm



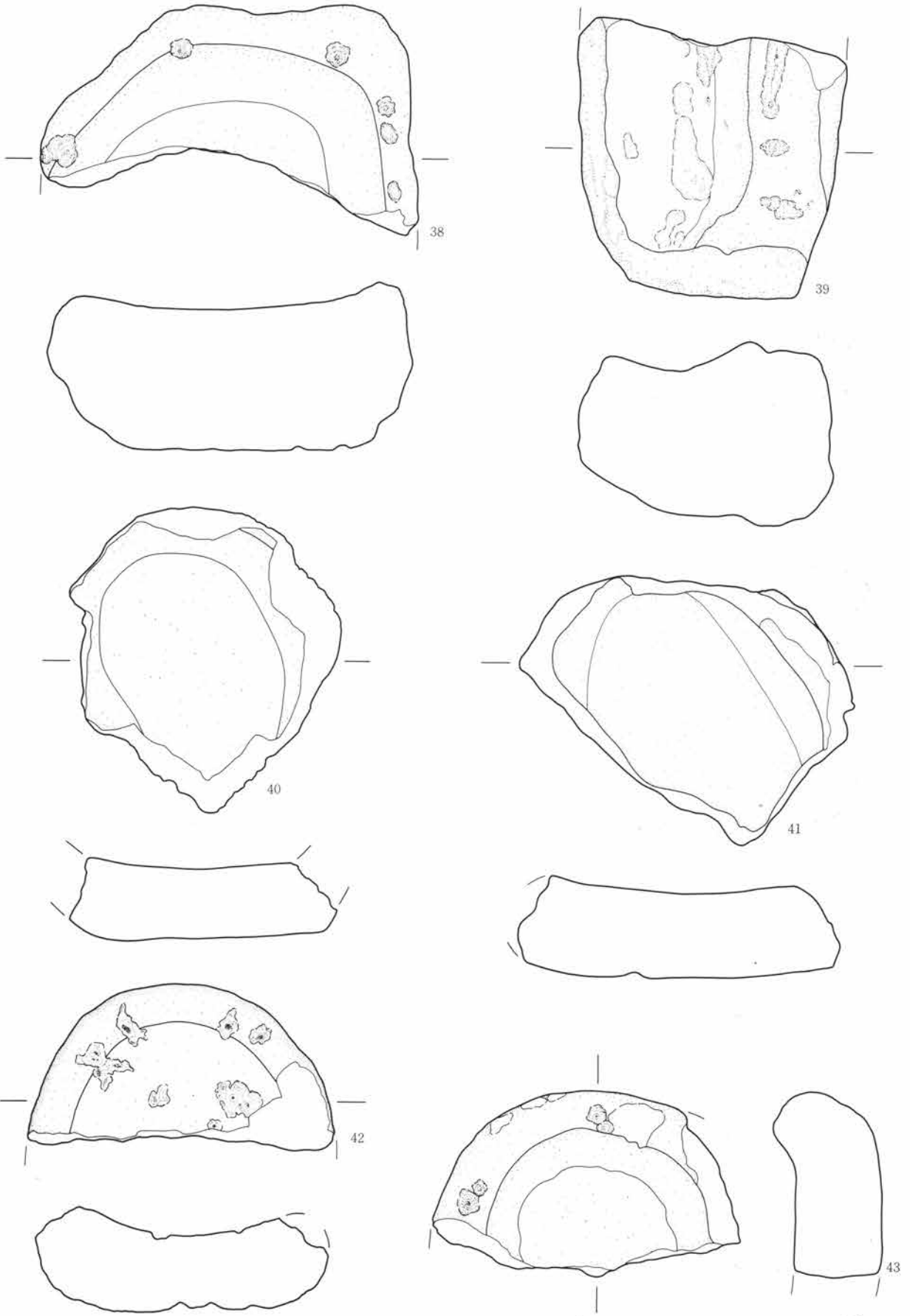
305図 13. 石皿(7)

0 20cm

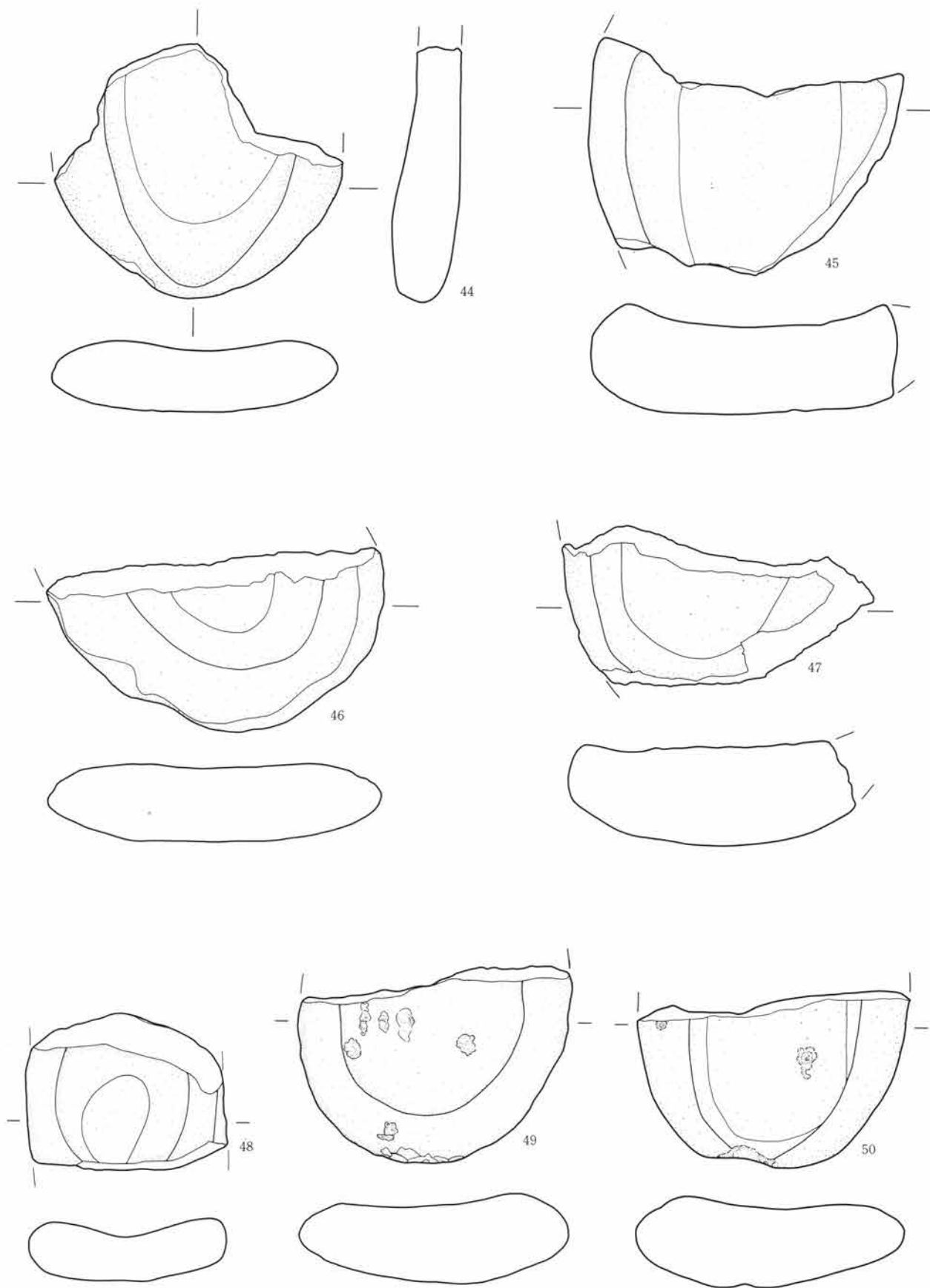


306図 13. 石皿(8)

0 20cm

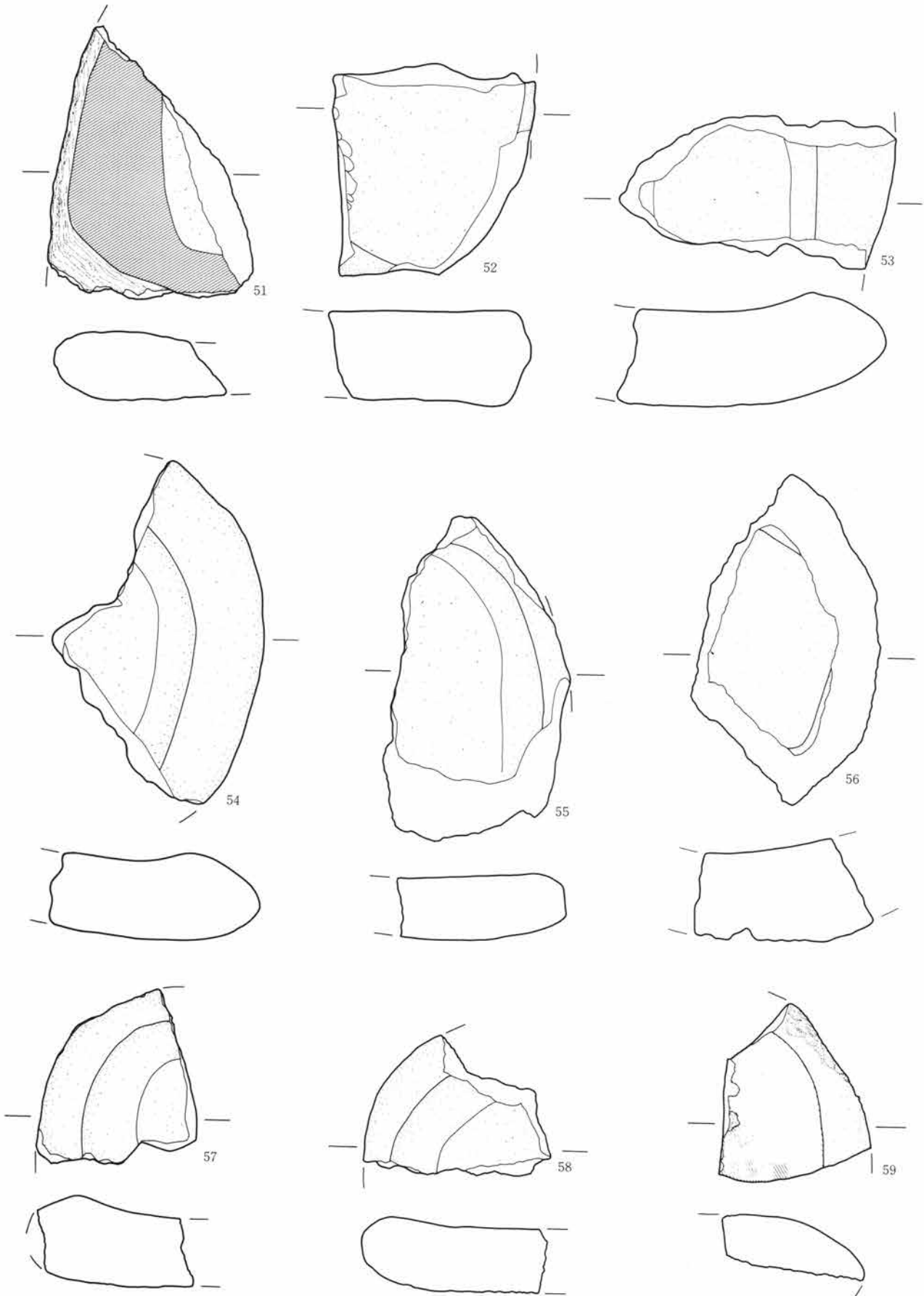


307図 13. 石皿(9)



308図 13. 石皿(10)

0 20cm



309図 13. 石皿(11)

0 20cm

14. 石棒 (311・312図)

石棒は総点数10点を出土した。完形のものではなく、また、典型的な形状を呈するものも見当たらない。また、ここでは柱状の細長い大形の自然石に磨痕などが認められるものをもとりあえず石棒として取り扱った。

1、ひん岩製で石材内の石目模様を利用し、棒状に磨り上げる。2、胴部のみが残存。大形のものであろう。粗粒安山岩製。3、敲石に近似するがやや大形のため石棒とした。全面を磨る。石英閃緑岩製。4、これも全面を磨る敲石状の形態。石英閃緑岩製。5、閃緑岩製。6、粗粒安山岩製。7は頭部片であろう。粗粒安山岩製。8～11、胴部片。8は輝緑岩製。9～11粗粒安山岩製。9、大形のものであろう。加熱による剝落が著しい。

15. 磨石類 (313～317図)

磨石類の出土も多い。住居址、土壌覆土の出土が目立ち、床面や、土壌底面などの遺構の時期特定、使用状態を示唆するものは少ない。分類は概略程度であるが平面形で分けた。

第I群 円形を呈するもの(1～5)。1、小形で径3.5cmを測る。砂岩製。2、3は中形。3の片側縁には敲打痕がある。粗粒安山岩製。4、5は大形のもの。全面に磨痕が認められる。

第II群 楕円状、あるいは俵状のもの(6～24)。磨石類で最も量的に多い形態である。磨痕は長軸方向を取ることが多い。6～8、小形のもので磨痕は著しい。7は頁岩製で光沢を持つ。9～12、本形態で凹みを持たないもの。9には小形の凹みがあるが浅い。磨痕は比較的全面に見られる。13～20、凹みを持つもの。凹みと磨痕の新旧は判然としない。13、片面、他は両面に凹みを持つ。19は両側の凹みが接近する。17、石英閃緑岩製。他は粗粒安山岩製。21～24、本形態の中で大形のものである。凹みを多く持たないことも特徴的である。23には敲打痕が認められる。24、流紋岩製。

第III群 長軸を持つもの(25～32)。25～27、いびつな形態を呈す。素材に左右されたものであろう。25、扁平で、全面に磨痕が認められる。26、断面三角形で特徴的である。両面に凹みを持つ。27、厚みを持ち大形

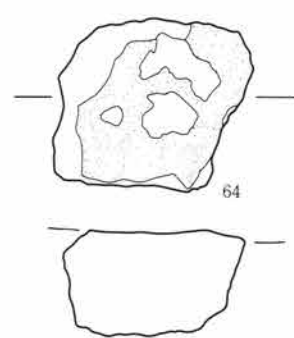
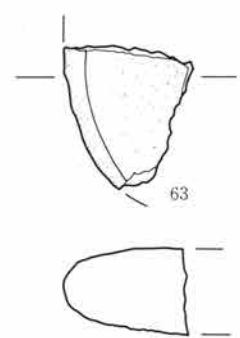
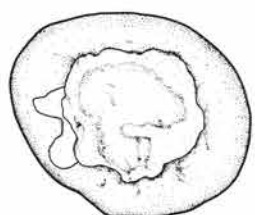
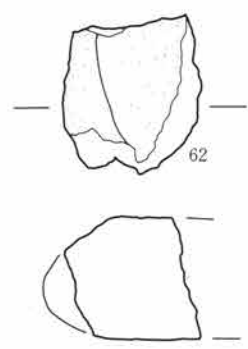
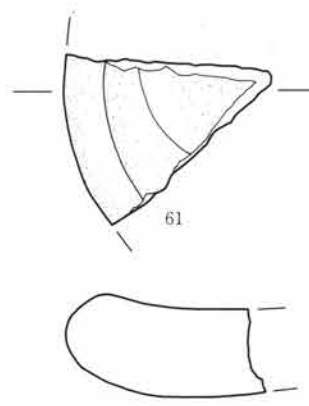
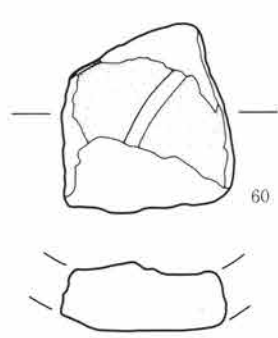
である。28、29は隅丸長方形を呈す。厚く、片面には凹みを持つ。端部には、僅かではあるが敲打痕も認められる。30、31は乳棒状の素材を使用したもの。30の磨痕は所々に認められる。31の端部には敲打痕がある。32は不定形な形態を呈し、断面形は三角である。端部の敲打による剝落は著しい。

第IV群 珓りを両側縁に持つもの(33・34)。33、敲打による凹凸が広い。両側縁の珓りはやや磨滅も加わる。34の珓りは著しく石錘とも考えられる。粗粒安山岩製。

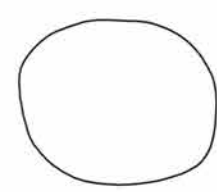
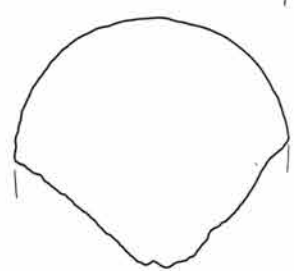
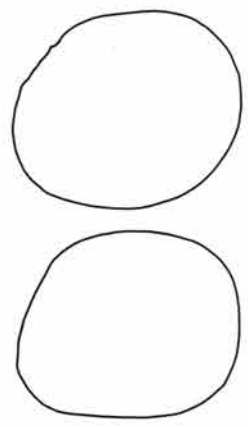
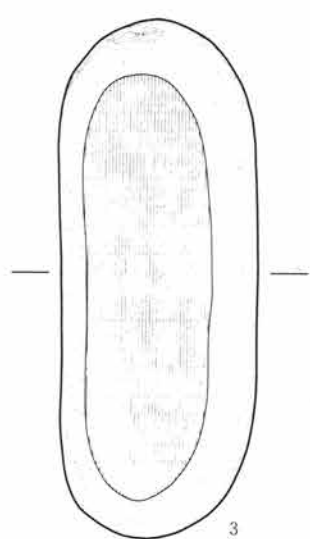
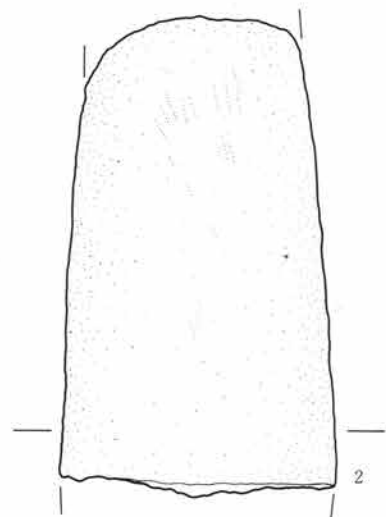
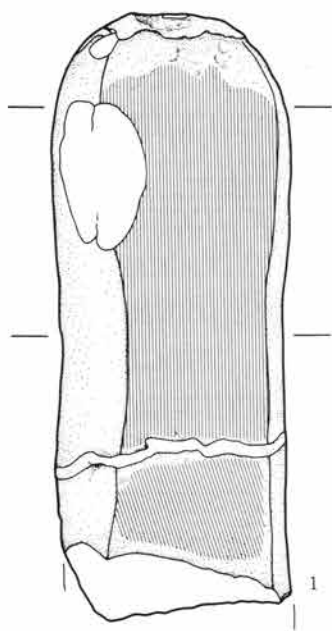
第V群 特殊な形態を呈するもの(35～40)。35、端部が大きく膨らむ素材を使用し、敲石としての機能が強い。36、黒色片岩製で、側縁には調整痕も認められる。端部は、敲打痕があるが薄く、敲石としての機能は持たない。37、砂岩製で扁平である。石包丁のような形態を呈するが、刃部などは持たず、磨痕が全面に認められることから、砥石状の磨石として捉えた。38、39は全面に磨痕が認められ、断面が方形であることから砥石的な役割が考えられる。40、扁平な河原石、全面に磨痕が及ぶ。小形の台石的な機能も考えられよう。第VI群 大形のもの及び欠損品(41～48)。大形の河原石に磨痕が認められるもの。41～44は台石、石皿などとの区別は難しい。また、土壌より大形の自然石とともに出土したものもある。41、風化による剝落が著しい。43、台石状である。44、142号土壌の墳底面より出土した。45～48は欠損品であるが、石皿片とも考えられるものもある。

16. 丸石 (318図)

合計2点が出土した。1、小形であり、用途など特定できない。2、21号住居址床面より出土した。ひん岩製で一部に磨痕が認められる。丸石については菊池氏の詳しい分析があるが、本遺跡の21号住居址においても“住居址埋葬”とも捉えられる丸石出土が認められた。

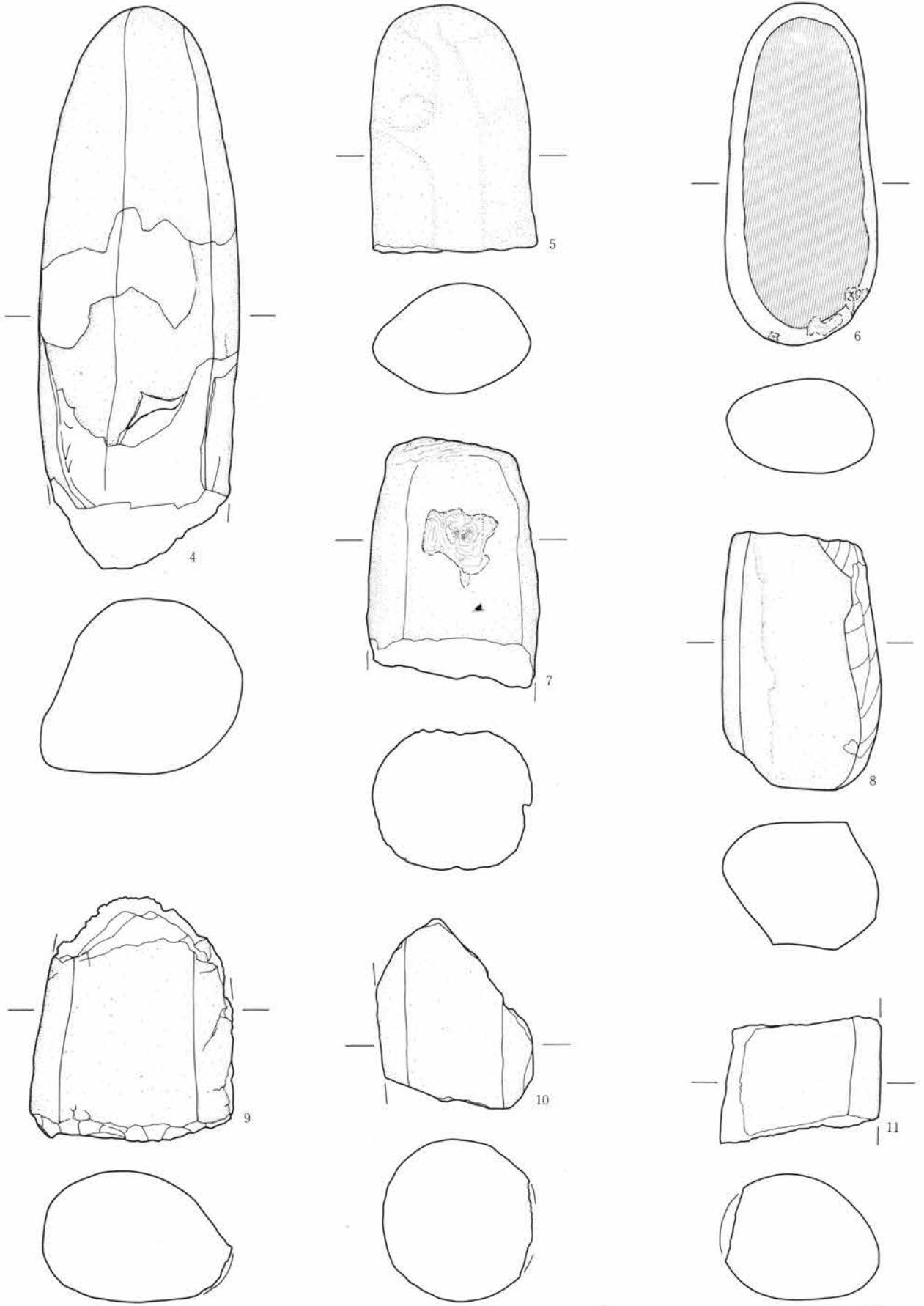


310図 13. 石皿(12)

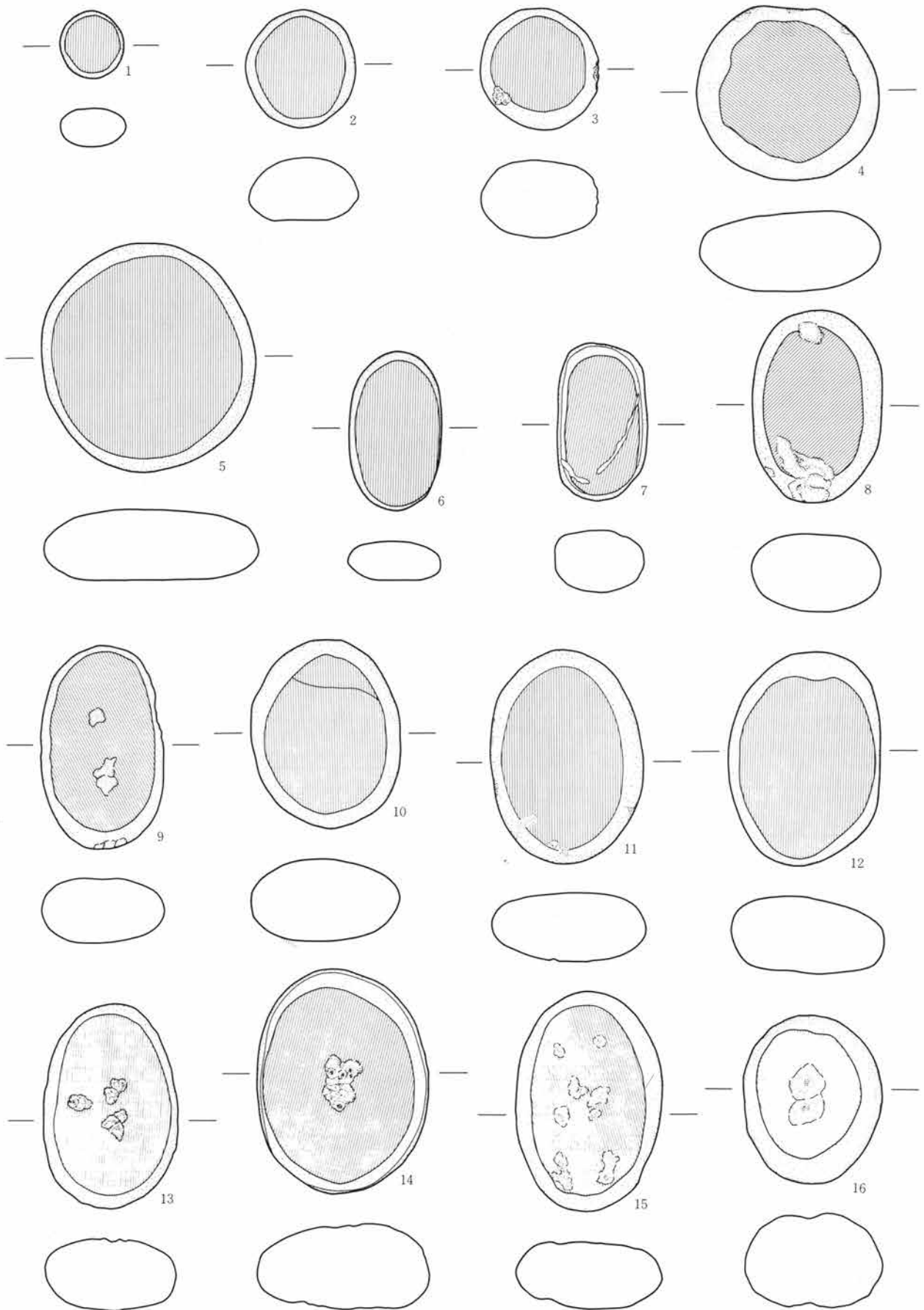


311図 14. 石棒(1)

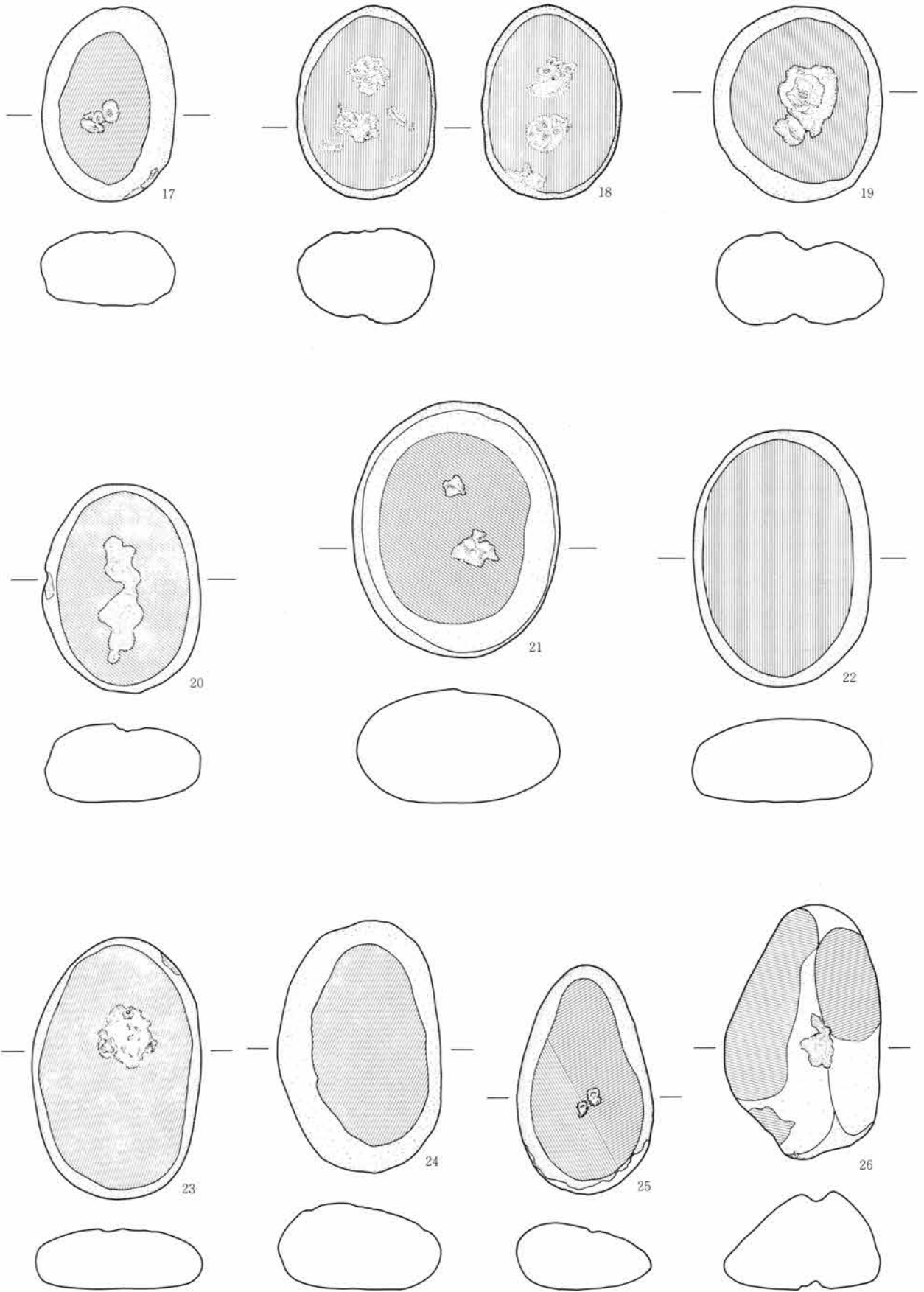




312図 14. 石棒(2)

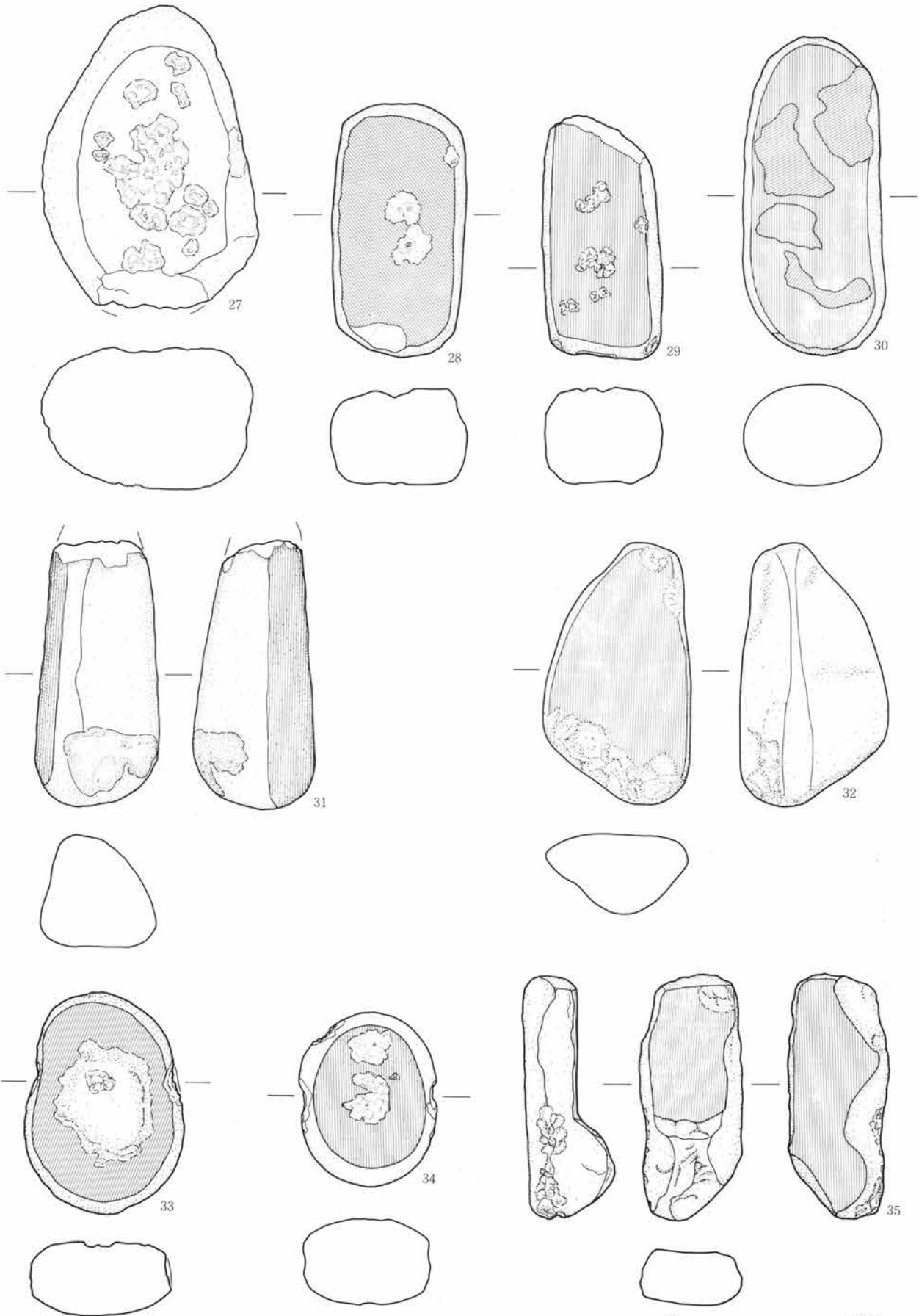


313図 15. 磨石類(1)

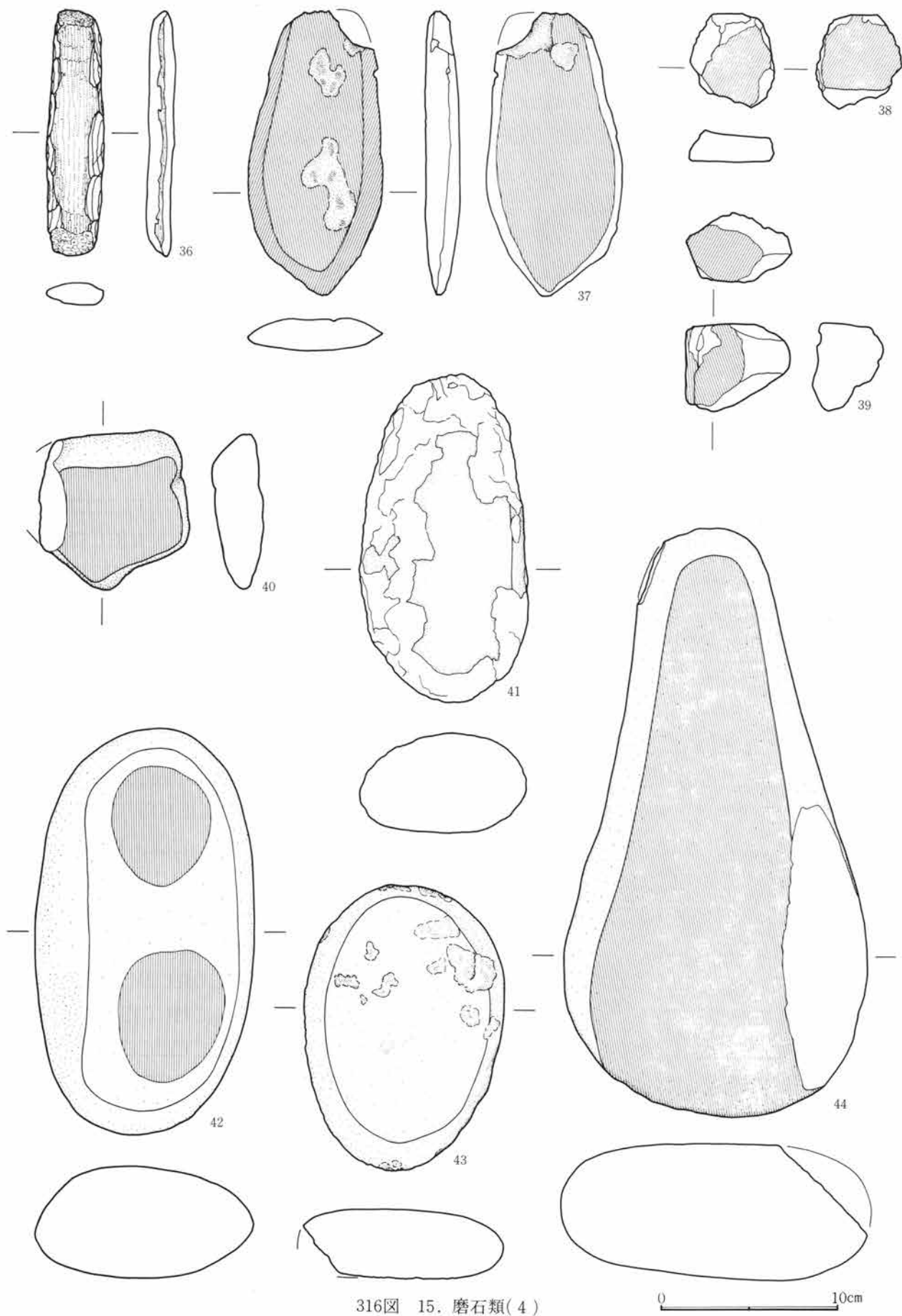


314図 15. 磨石類(2)

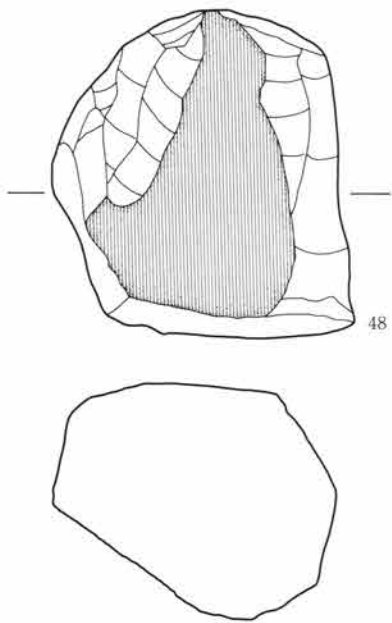
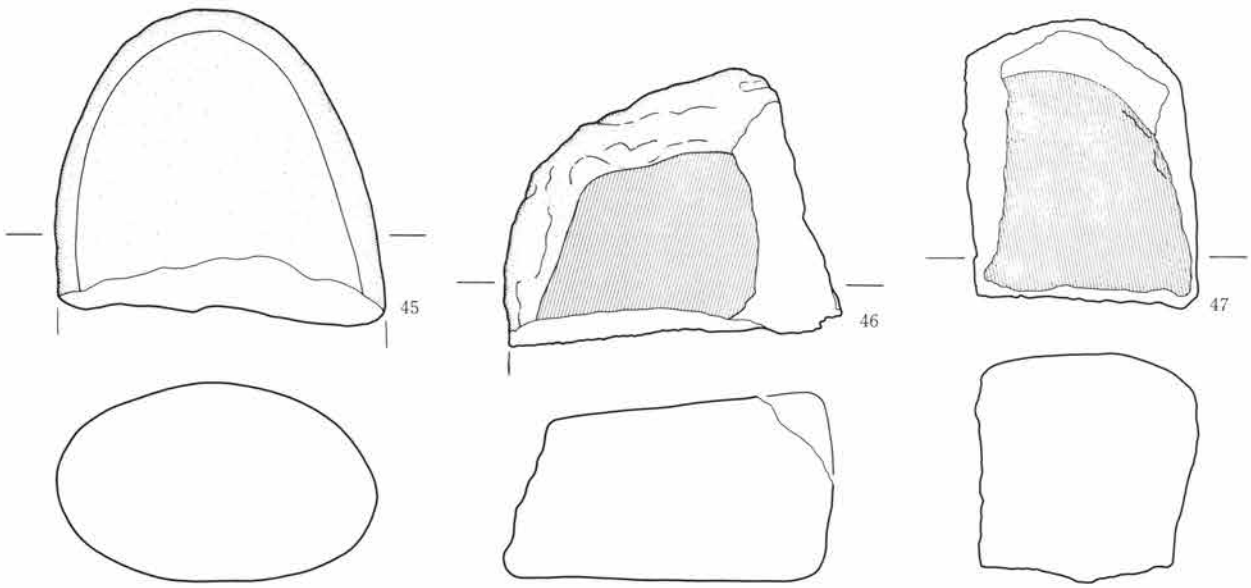
0 10cm



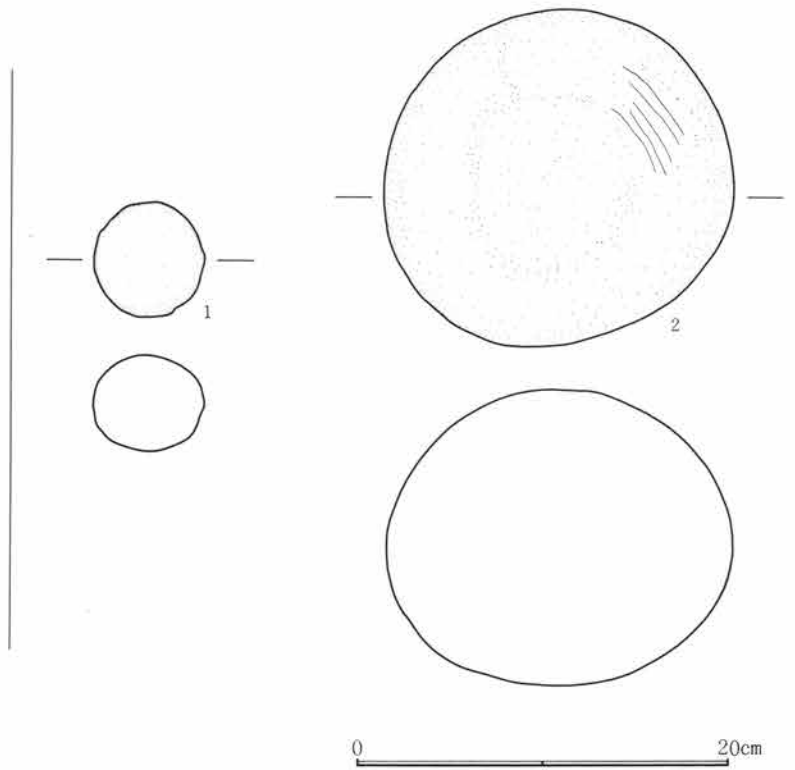
315図 15. 磨石類(3)



316図 15. 磨石類(4)



317図 15. 磨石類(5)



318図 16. 丸石

第3節 古墳～平安時代

房谷戸遺跡の第一面調査であるF P降下後の文化層においては、古墳時代後期の住居址を3軒、土壇1基、平安時代の住居址13軒(小鍛冶1)、時期不明の住居址1軒が検出された。主体となるのは平安時代の住居址である。遺構の分布は南側の傾斜地に固まる群と北側の泥流丘から平坦地に散在する群がある。このなかで、南側の住居址群では5号住居址が距離を置いて北に位置する。北側の住居址は疎らに分布するが、北端の12号住居址が他の住居址と距離を置き、また竈を持たないことから住居としてではなく、他の用途としての施設が考えられよう。5号住の北には小ピットが群在するが、規格性がなく、掘立柱建物遺構や柵列としての配置ではない。

周辺の遺跡には同時期の住居址が数軒ずつ検出されており、南の台地に立地する羽場遺跡では8世紀の住居址6軒と小鍛冶遺構1が報告されている。また、北の天竜川を挟んだ対岸の台地に立地する三原田城遺跡では、古墳時代の住居址1軒と円墳の周堀が確認されている。このように、本遺跡が立地する赤城山西麓～西南麓域では該期の大規模集落は少なく、各台地に小規模な集落が占地するようである。ただ、赤城村寺内遺跡、北橋村水泉寺遺跡群のように、集落としてまとまって検出される場合もあり、一概に当地域の集落密度を低く考えるのは早計であろう。おそらく、集落域である台地と生産域である低地の面積バランスに大きく左右されるのであろう。また、これら山麓台地下段の利根川河岸段丘では、比較的広い低湿地が控えることから、古墳時代以降の集落の中心を求められるのではなからうか。周辺の群集墳との関係、北域の山麓部と、南部の平野部との接点にあたる当地域の地理的位置からも、周辺遺跡との対比、出土遺物の集成などを行うことによって、当地域の特徴が浮かび上るのではなからうか。

本遺跡では、17軒の住居址を調査したが、周辺遺跡との対比から、比較的まとまった集落ではある。しかし、出土遺物、住居址の規模や配置の有り方を見ると貧弱であり、未調査部分を考慮にいれても大規模集落

に発展する要素は少ない。拠点集落と考えられよう。住居址の遺存状態などは前述の南側の傾斜地に位置する住居址群は、表土が流されており、遺存状態は極めて悪い。対して、北側の平坦地に位置する住居址の遺存は良好である。ただ、南側には天竜川につながる支谷があり、住居址立地としては南側が優位であろう。

出土遺物は甕、坏類、羽釜、土釜などが代表されるが、量的には少なく、図示しえたものもほとんどが破片からの復元実測である。そのなかで7号住居址出土の11世紀に比定される坏類は従来カワラケ、土師質土器とも呼ばれていた一群であり、まとまった出土であり、墨書も施されていることから好資料である。なお、12号住居址出土の鉄製品は取り上げ時における遺失で図化できなかった。

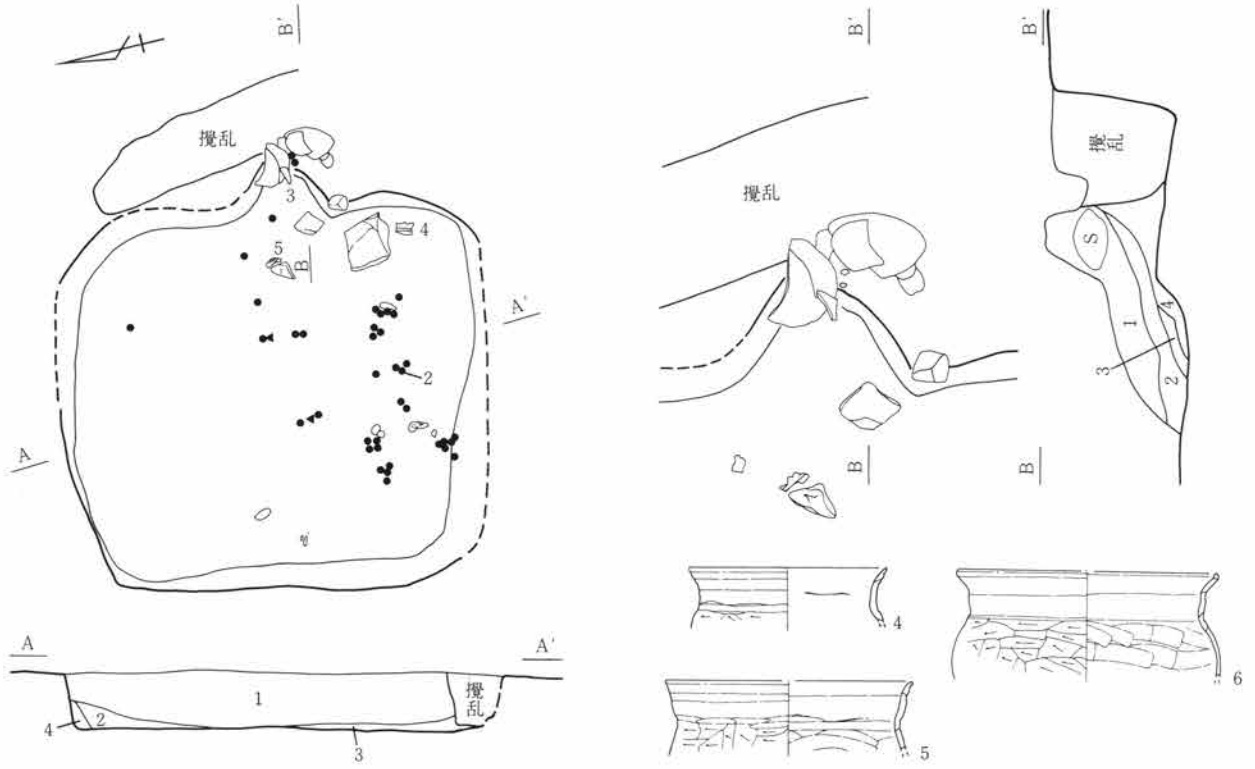
第1項 遺 構

2～17、19号住居址がこれにあたる。すべてが竪穴住居址で、このうち6、8号住居址が古墳時代後期に帰属し、(10号住居址も8号住と軸を同一にし、重複することから、8号住と近接した時間位置にあるかもしれない)、時期不明の12号住居址、その他は平安時代に当該時期が求められる。6号住居址を除き竈は東側に軸を向ける。6号住は北に軸を持つ。なお、18号住居址は調査当初は命名されていたが、その後中世の土壇(35号土壇)と判明したため、欠番である。

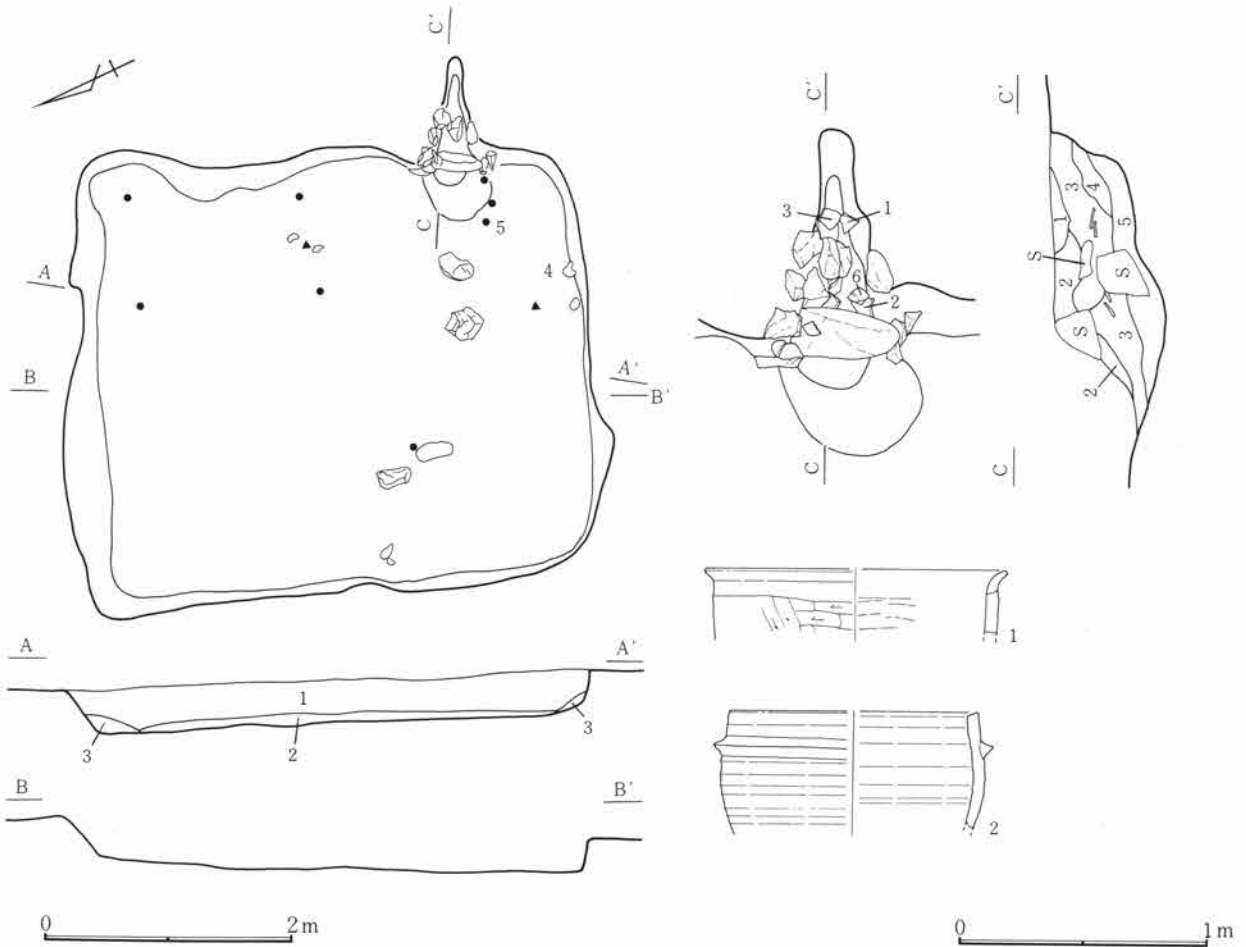
また、本文中の説明では、住居址の規模などに詳しい数字を入れていないものもあるが、巻末の住居址計測表を一覧していただきたい。

2号住居址 (319図)

調査区の中央西寄り、61・62C11～13グリッドに位置する。形状はやや南北に長い隅丸長方形を呈し、規模は南北3.4m×東西3.1mで深さは約25cmである。覆土はかなり大粒のF Pを多量に混入した土で、床面直上までほとんど変化は見られなかった。床面はほぼ平坦でやや軟質である。竈は東壁中央に作られており、前面に竈の袖材に使用されていたと思われる石が散在している状況であった。また竈前部は近代の掘り込みにより壊されていた。本址からの出土遺物は土師器甕の破片が主であった。



319図 2号住居址



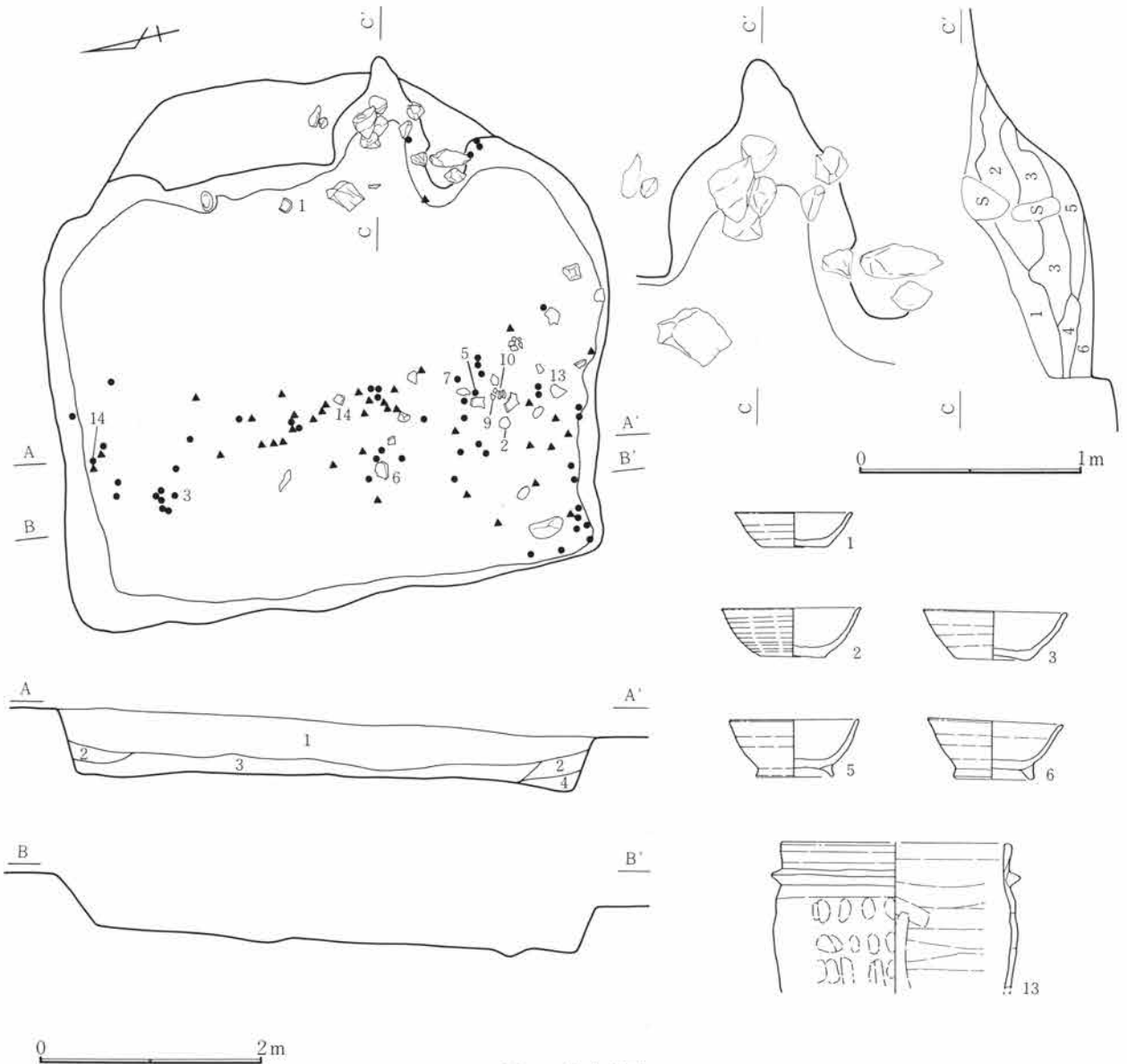
320図 3号住居址

3号住居址 (320図)

形状は南北に長い隅丸長方形で、規模は南北4.0m×東西3.4mで東および北壁はやや波打っていた。壁高は25~30cmである。覆土はF Pを混入した土で、ほぼ1層で埋められていた。床面の状況は平坦であるが、余り踏み固められた状況ではなかった。竈は東壁の南隅寄りに作られており、両壁に石を並べ、焚口天井部に長さ45cm程の河原石を載せている。焚口幅は約40cm、煙道部を含めて長さ1mで、火床部はややくぼんでいる。焼土、炭化物は余り多く見られなかった。本址からの出土土器は極めて少なく10点程であったが、鉄製品1、鉄滓2点が出土している。

4号住居址 (321図)

本址は試掘時のトレンチでその存在が確認されていたものである。49~51C 35~38グリッドに位置する。平面形状は南北に長い隅丸長方形で、規模は5.0m×4.0mで壁高は約40cmである。壁は西壁以外はやや斜めに立ち上がり、東壁外側には凹凸のある浅いテラス状の張り出し部分を持つ。床面には細かな凹凸が見られ、堅く踏み締められた状況は見られなかった。竈は東壁中央やや南よりに作られており、袖に使われていたと思われる石が散在していた。火床面には焼土を混入したF P混じりの土が見られた。出土土器は坏、甕の破片を中心に出土している。

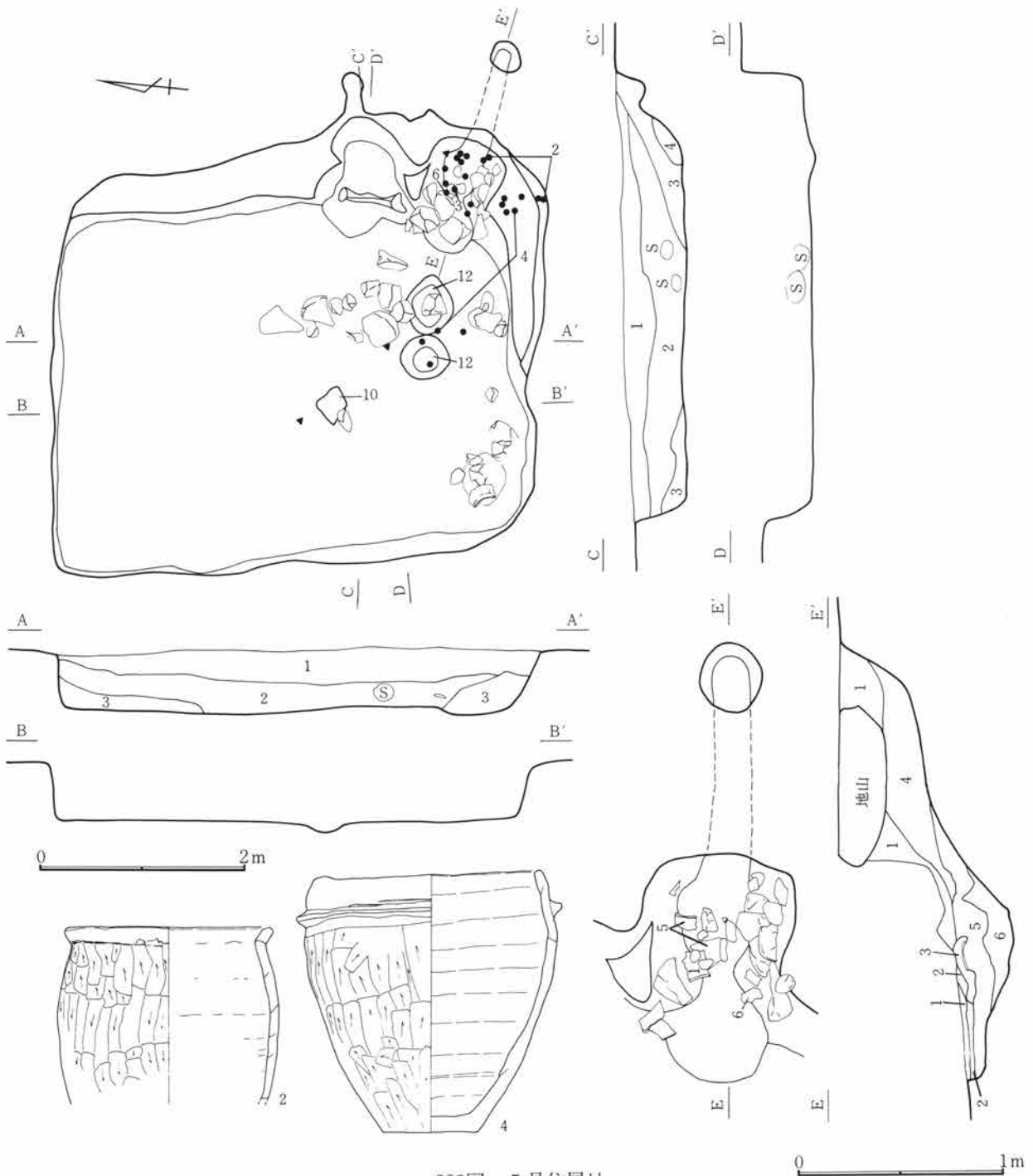


321図 4号住居址

5号住居址 (322図)

平面形状は隅丸長方形を呈し、規模は4.5m×3.5mである。深さは45cm程で、東壁を除き各壁はほぼ垂直に立ち上がり、南東コーナーから東壁にかけてテラス状の中段が見られる。床面はかなり平坦で比較的堅く状態は良好であった。竈は南東コーナーに作られており、煙道部も確認されている。竈の構築材に用いられていたと思われる石が崩れた状態で前面より出土している。

いる。竈の規模は焚口幅約40cmで、煙道部を含めた全長約1.6mである。またこの竈の左側で竈の掘り方状のものが検出されている。石などは見られなかったが袖石を据えたと思われるへこみが両側に見られる事などから、竈跡であると考えられ、作り替えが行われたと考えられる。出土遺物は竈内より羽釜、土釜が出土している。

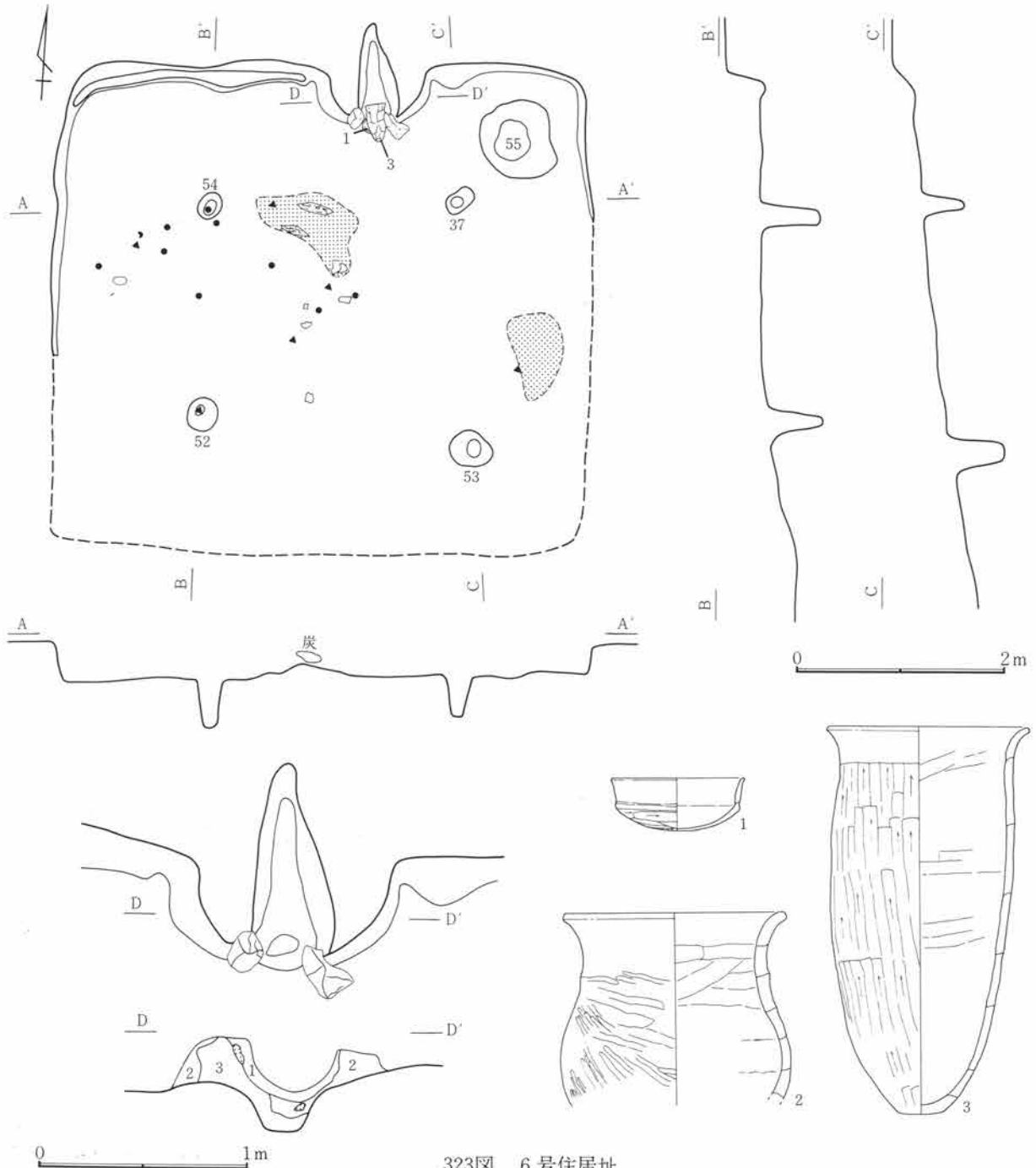


322図 5号住居址

6号住居址 (323図)

試掘時にその存在を確認した住居址である。調査区南東寄り、南への緩傾斜地で検出された。住居址南半分の壁、および床面は削平されており、確認できなかった。平面形状は方形を呈すものと思われ、規模は5.1 m×(5.1) mである。壁高は遺存状態の良い北壁で約30cmである。床面はやや凹凸があるものの比較的平坦であった。中央および東端に炭化材、焼土が検出され

ている。ほぼ対角線上に4本の柱穴が検出されている、規模は径約20cmで深さは40~50cmで、下部は細くなっている。貯蔵穴は北東隅にあり、径約70cm深さは50cmである。竈は北壁のほぼ中央に作られており、地山のロームを掘り残して袖とし、両側に石を据えてある。焚き口幅20cm、全長は約1mである。内面は良く焼けており、焼土化が著しい。出土土器は竈内より長甕、坏の完形が出土した他にはほとんど無い。



323図 6号住居址

7号住居址 (324図)

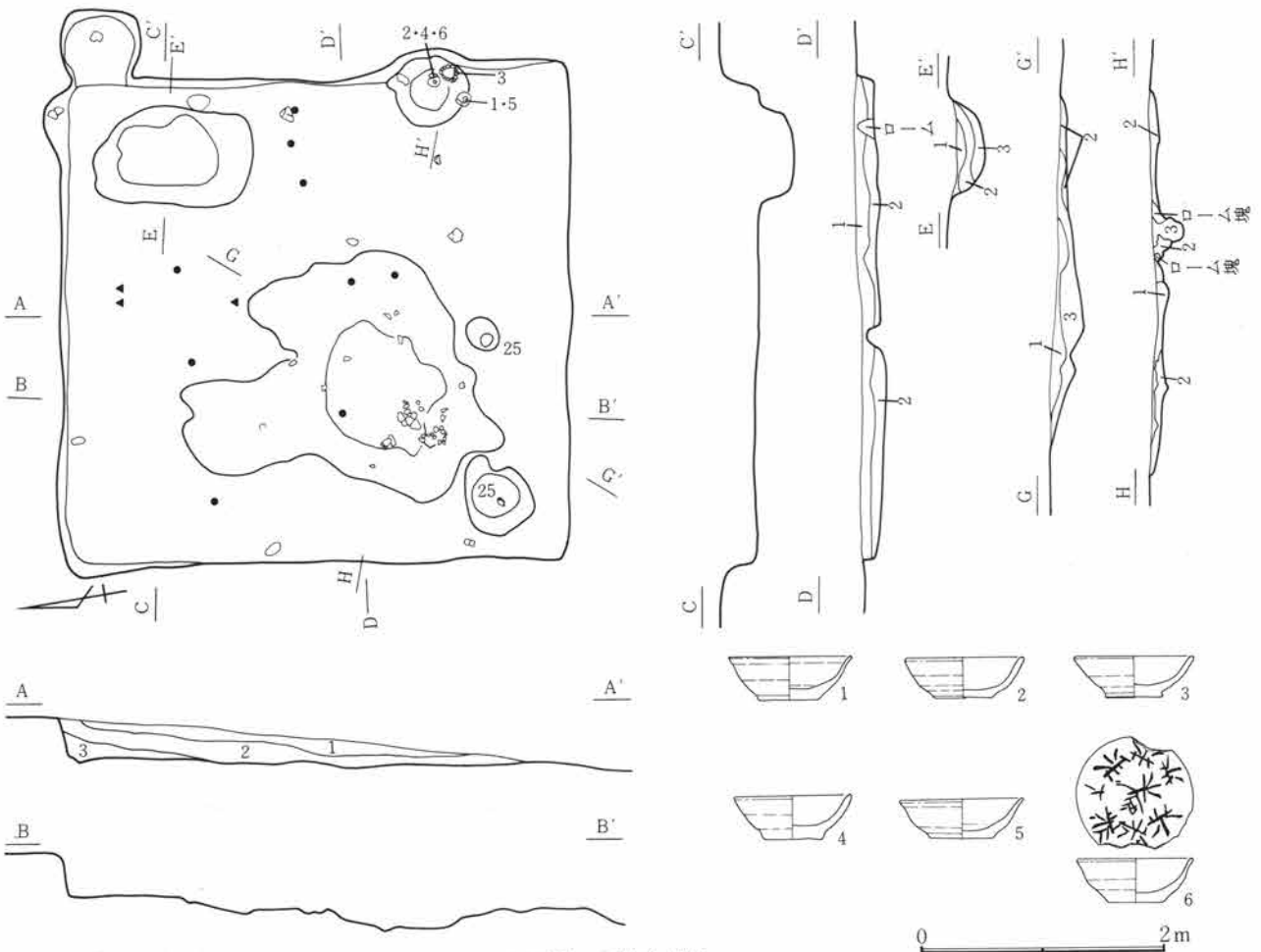
小鍛冶跡である。方形を呈し壁高は最も遺存状態の良好な北壁で30cmであるが、南壁は削平されている。内部施設としては、中央に上幅2m程の不定形な落ち込みが、さらに南西隅には径50cm程の小さなピットがみられ、中には多量の焼土、炭化物、F P に混じって多量の鉄滓が出土している。また北東隅には長径1.25m、短径0.8mで深さ0.25mの長円形を呈す掘り込みが見られ、埋土の最下層には木灰が約10cmの厚さで検出されている。竈ははっきりとしたものは見られなかったが、東側中央やや南寄りに焼土を伴うわずかな落ち込みがあり、接する部分の壁が僅かに外側へ膨らんでいた。落ち込み部には小型の土師器坏が2点づつ重なって、計4固体分が出土している。4点中2点の坏には内外面に同一文字複数の墨書が見られる。



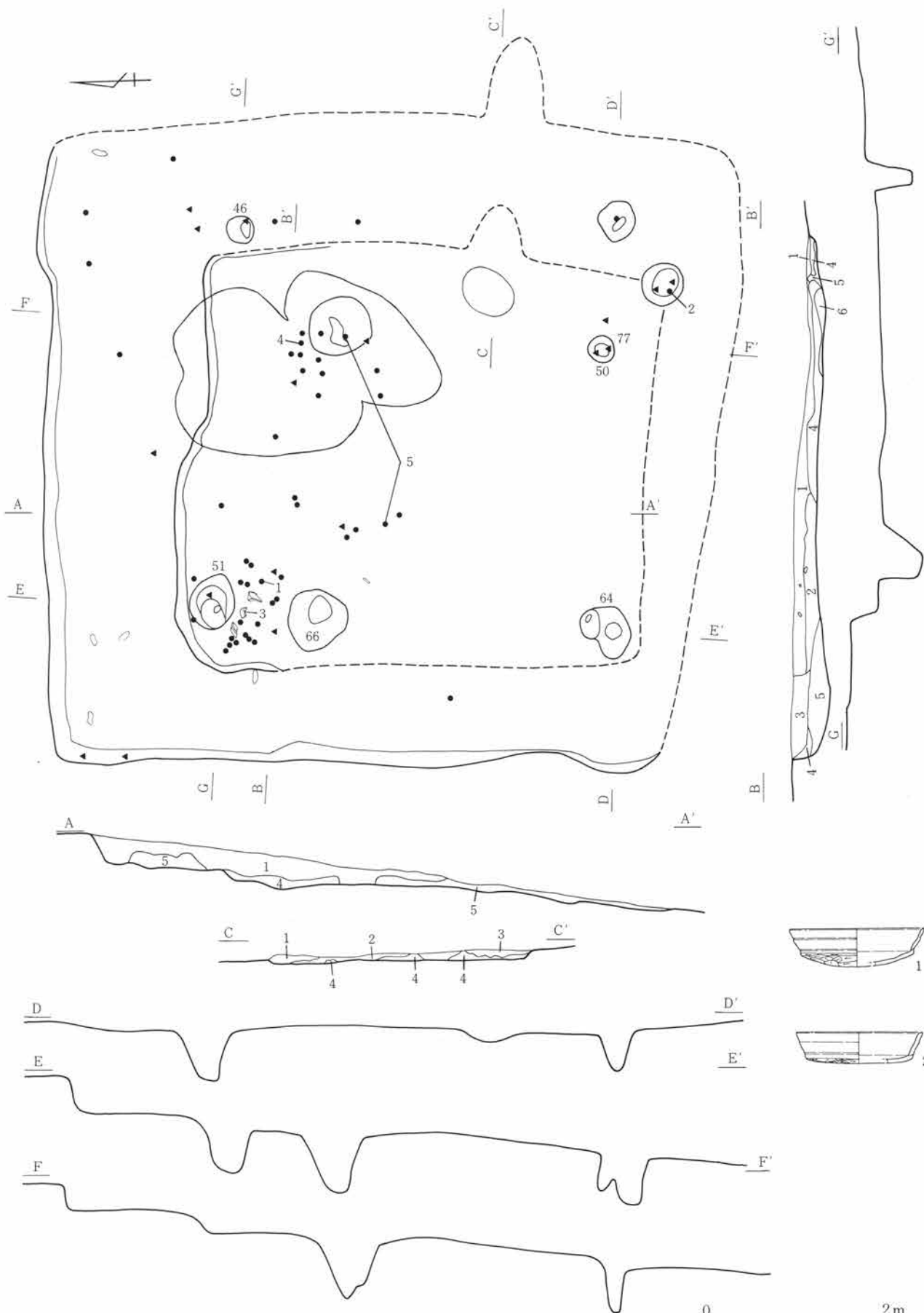
7号住居址遺物出土状態



7号住居址鉄滓出土状態



324図 7号住居址



325図 8・10号住居址

8号住居址 (325図)

平面形状は方形を呈すと思われるが、東および南壁は削平されており全容は不明である。規模は(4.5)m×(4.5)m程であろうか、この中に収まる形で10号住居址が検出されている。床面は北側の幅1m程が確認できたのみで、それ以外は検出できなかった。壁高は北壁部で約25cmを測る。柱穴は4箇所を検出した。径20cm～30cmで深さは30cm前後であった。竈は確認できなかったが、火床面下の焼土が僅かに東壁と推定される部分に認められた。出土土器は坏の小破片が若干出土している。

10号住居址 (325図)

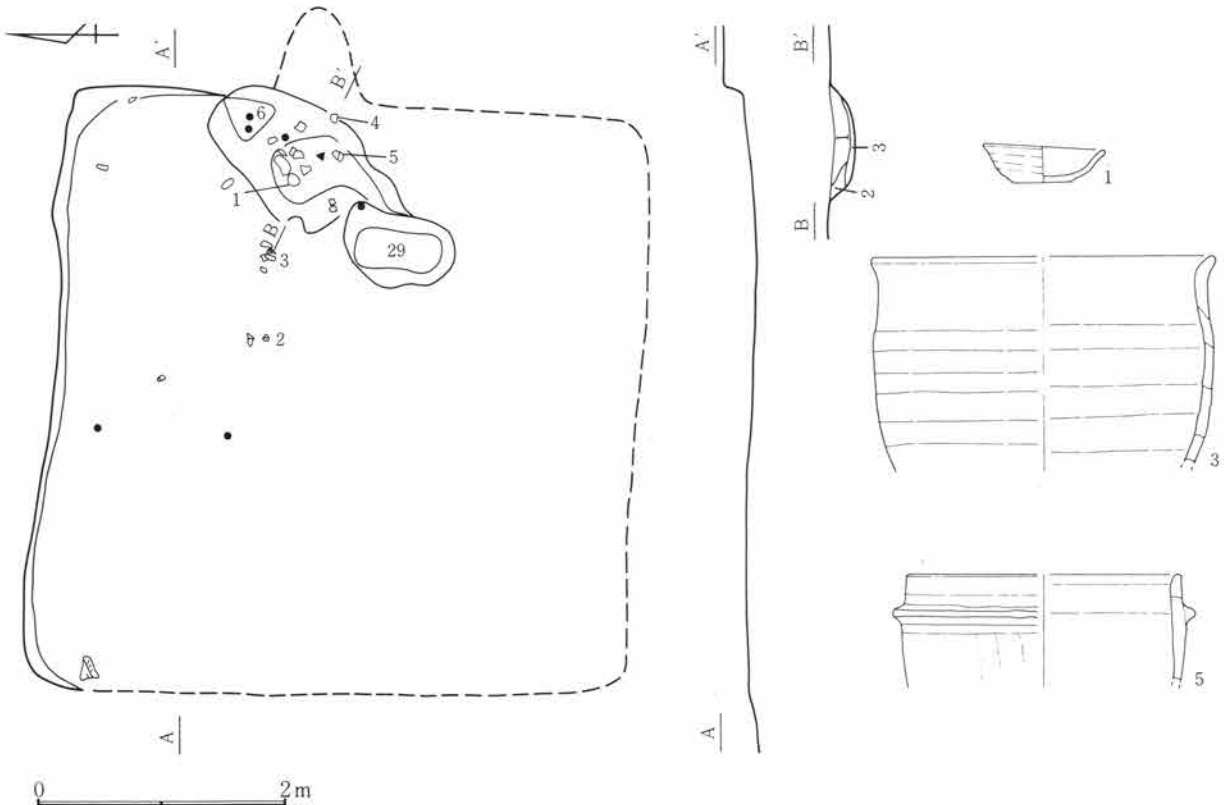
8号住居址の中に重複して作られているが、削平が著しく、北壁が確認された以外は規模、形状は不明である。竈が推定される位置に若干の焼土が検出されている。

9号住居址 (326図)

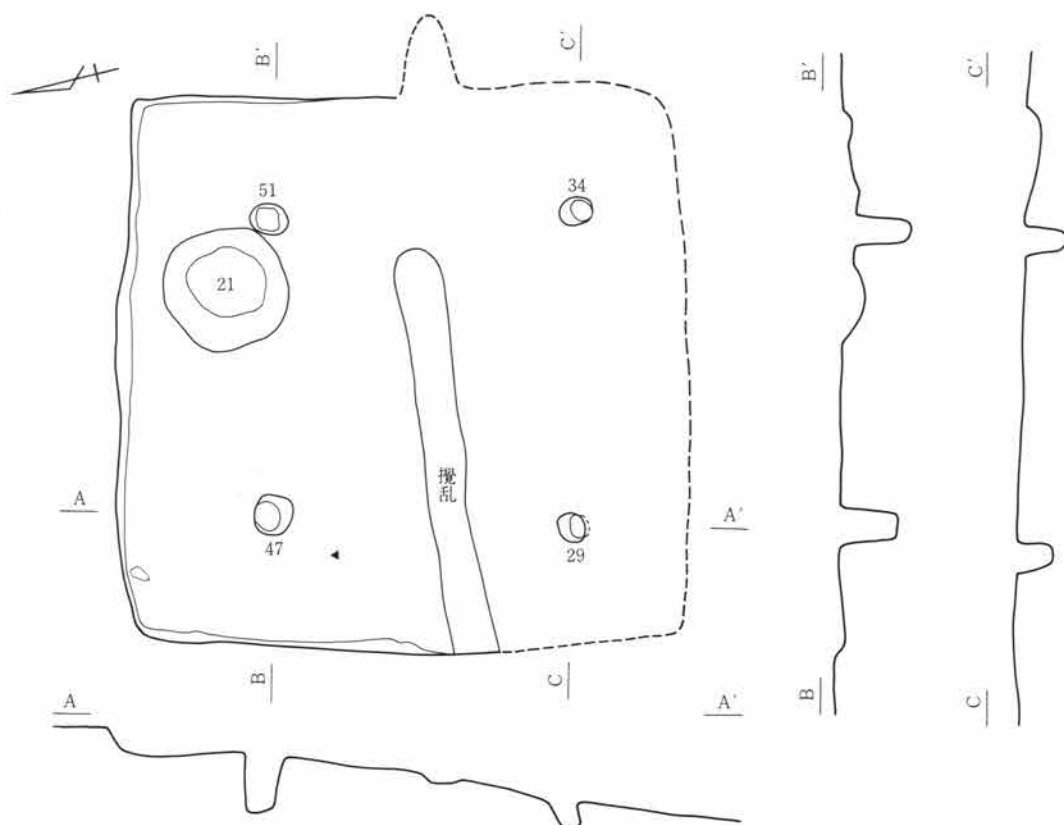
8、10号住居址の東に検出された。北壁および東壁の一部が確認されたのみで、他の壁は削平されており規模、形状は不明である。床面も南半分以上は失われている。東壁の竈位置推定部分に若干の焼土痕が認められた。出土遺物は羽釜、坏類である。竈前面部分に集中して出土している。



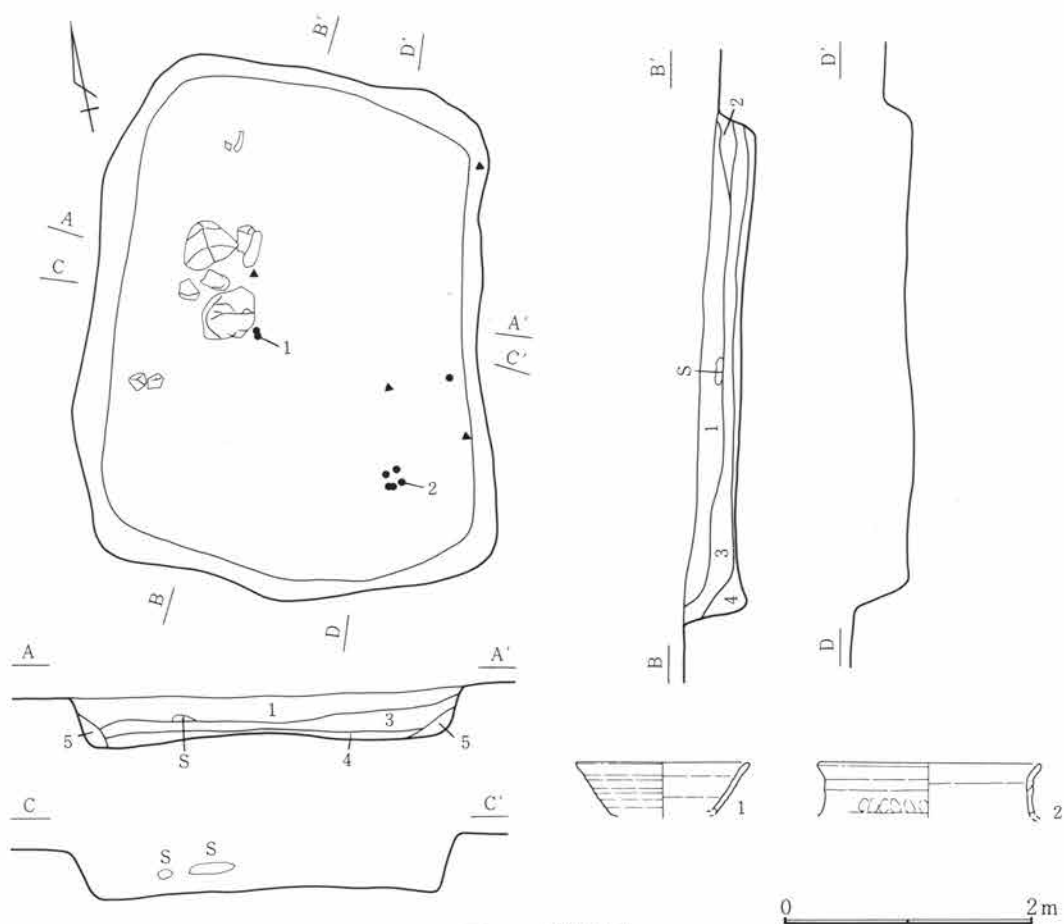
9号住居址遺物出土状態



326図 9号住居址



327図 11号住居址



328図 12号住居址

11号住居址 (328図)

南側半分以上が削平されている。規模は推定で(4.5)m×(4.5)m程と思われる。壁高は残りの良好な北側で25cmである。床面も北側の一部に認められたのみで、他は失われている。柱穴は対角線上に4本が検出され、径は25cm程で深さは40～45cmである。竈の位置は特定できなかつた。出土土器はほとんど見られなかつた。

12号住居址 (328図)

長辺約4m短辺約3mの長方形を呈す。各壁はやや斜めに立ち上がり直線的ではない。床面は中央が僅かに高まるがかなり平坦である。西よりに河原石が数個やや浮いた状態で検出されている。出土遺物は土器はほとんど無かつたが、鉄鎌が北西隅寄り出土している。竈、柱穴等の施設は無く、住居址としてあるが、竪穴状遺構としたほうが適当であろう。

13号住居址 (329図)

平面形は隅丸長方形を呈す。規模は3.7m×3.2mで、壁高は約40cmを測る。床面の状態は中央が僅かに高

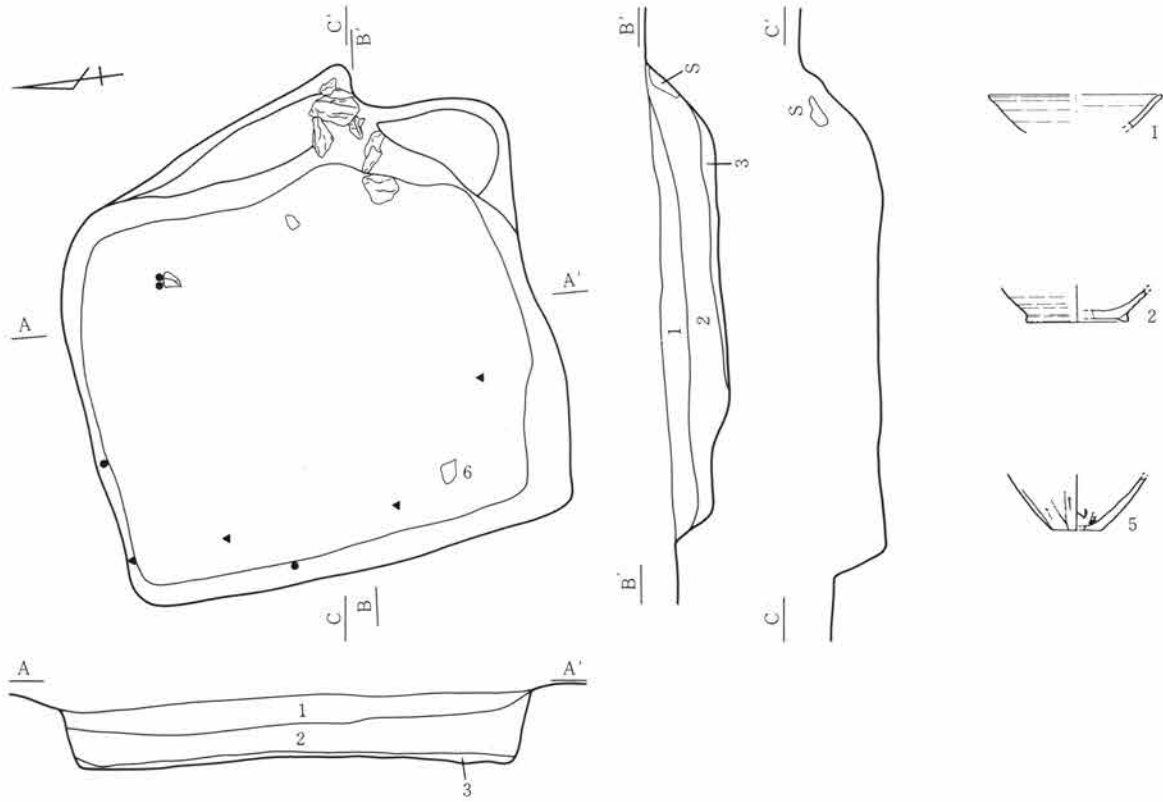
まっているが、比較的平坦である。柱穴、貯蔵穴等は検出されていない。竈は東壁の中央やや南寄りにあり、焚口部には石を鳥居状に組み、作り付けている。幅は40cm、奥行きは60cm程である。あまり焼土、炭化物は見られなかつた。出土遺物は少なく、坏の底部片や甕の破片が若干出土している。

14号住居址 (330図)

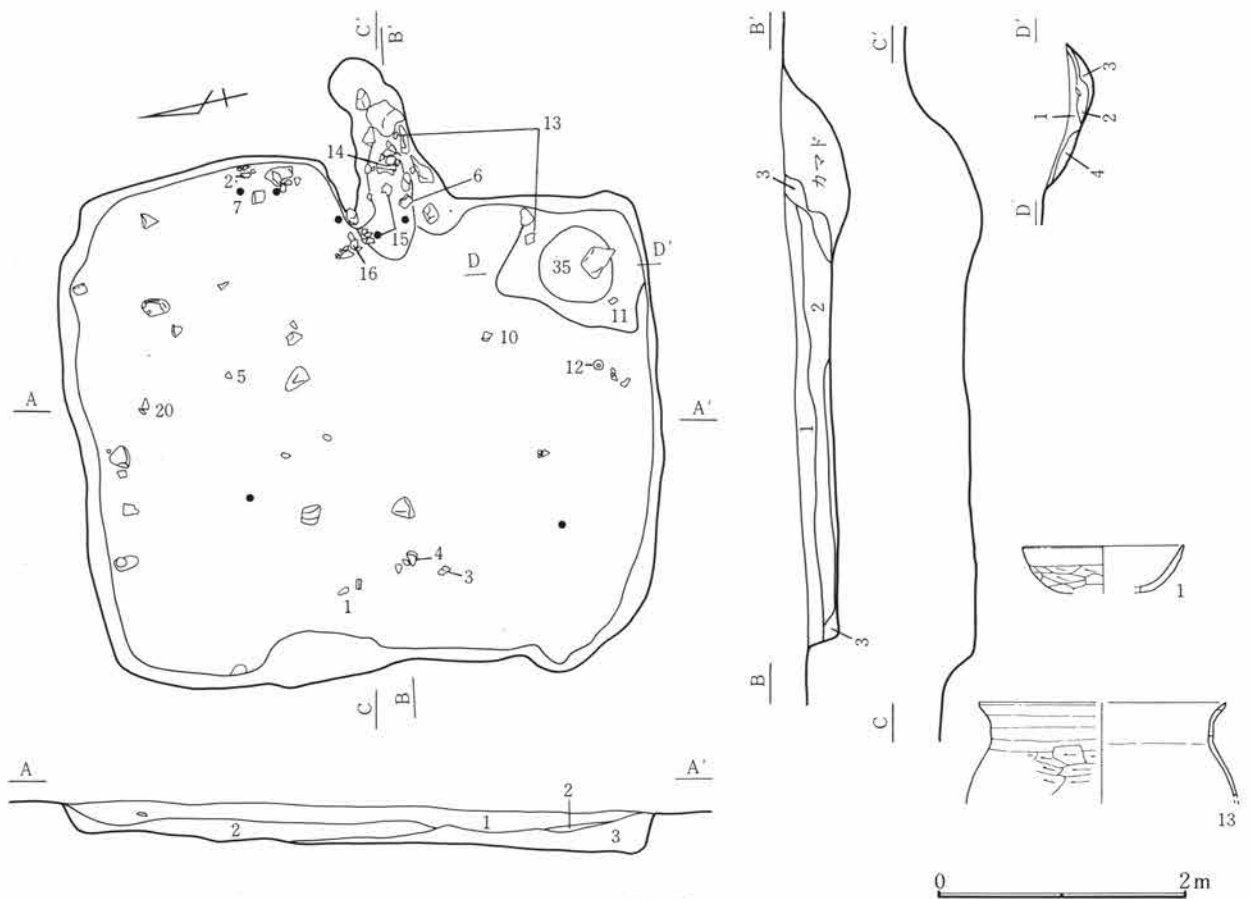
平面形状は隅丸長方形を呈す。検出状況がやや不明瞭であつた西壁以外は僅かに外側に膨らむ状況を呈す。規模は4.6m×4.0mで壁高は約30cmであつた。床面は僅かな凹凸を持ち、小さなピットが点在していた。中央部はかなり堅致であつた。南東隅に径が約1m、深さ20cm程の貯蔵穴と見られる落ち込みが確認されている。竈は東壁中央に作られており、両袖部、天井部には河原石が据えられている。焚口幅50cm、奥行き1mを測る。火床面には焼土、炭化物層の堆積が見られた。出土土器はやや床面から浮いた状態ではあつたが、全面に散在して見られた。竈の内部からも甕、坏の破片が出土している。



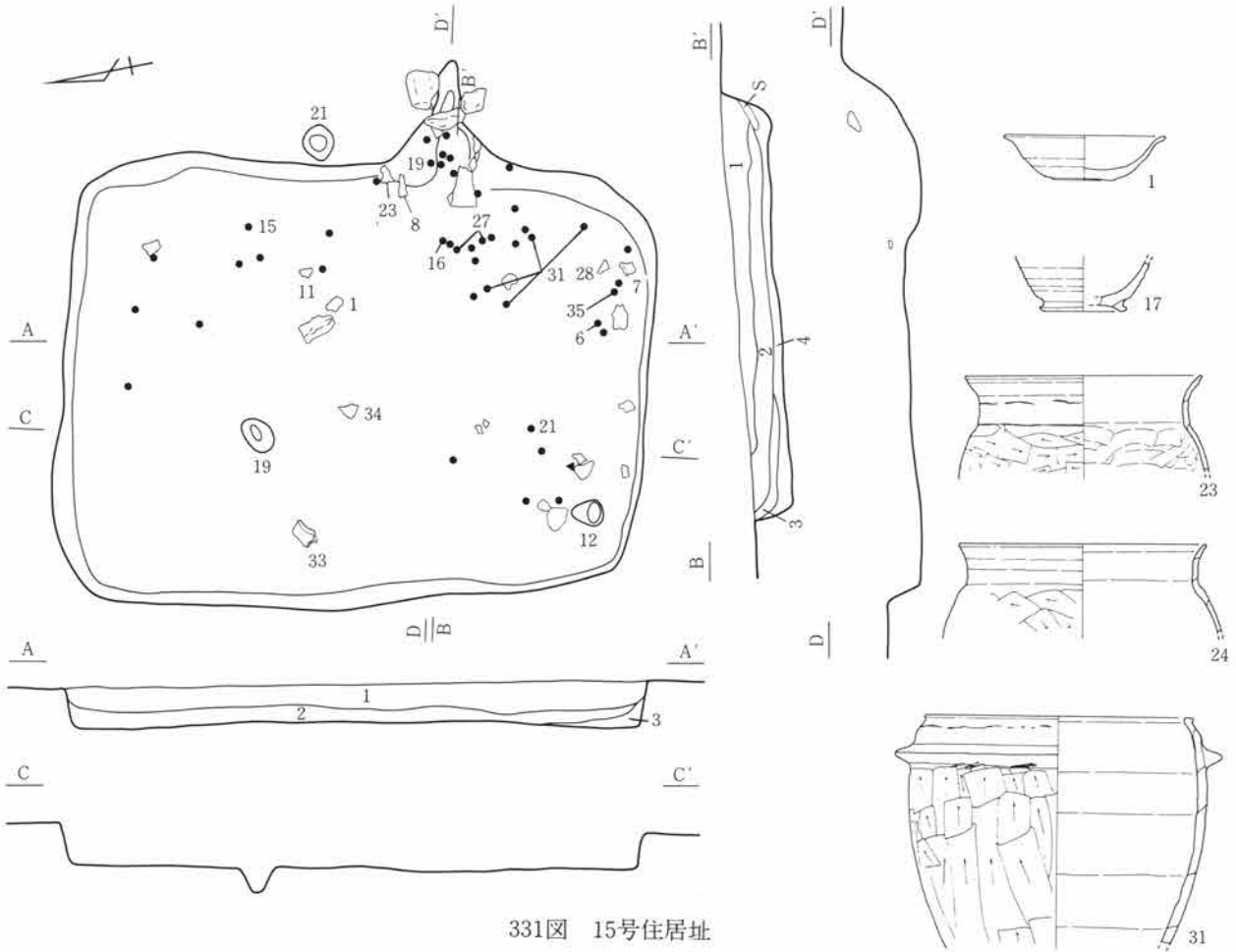
13～15・19号住居址遠景



329図 13号住居址



330図 14号住居址



331図 15号住居址

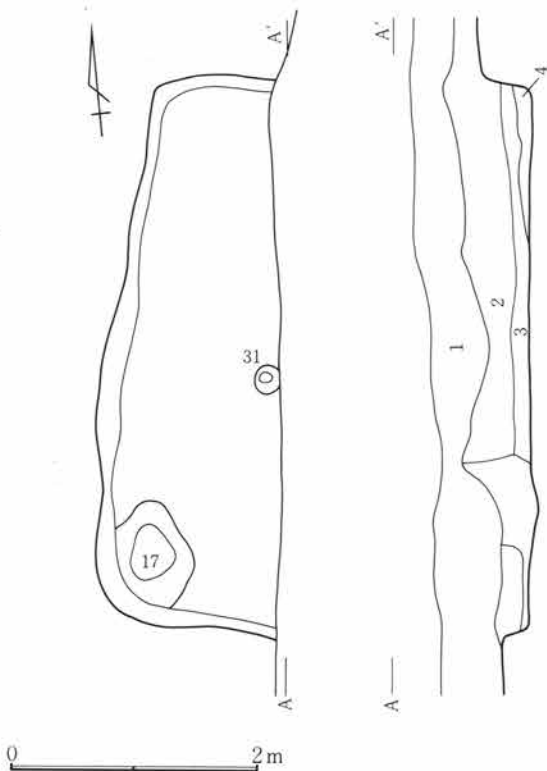
15号住居址 (331図)

平面形状は隅丸長方形を呈し、規模は4.2m×3.5mで壁高は約30cmである。床面は比較的平坦であるが、部分的にやや軟弱なところが見られた。柱穴、貯蔵穴は見られない。竈は東壁中央やや南寄りに作られており袖部は壊れていた。焚口幅は約40cmで奥行きは90cm程である。内部には若干の炭化物、焼土が認められた。

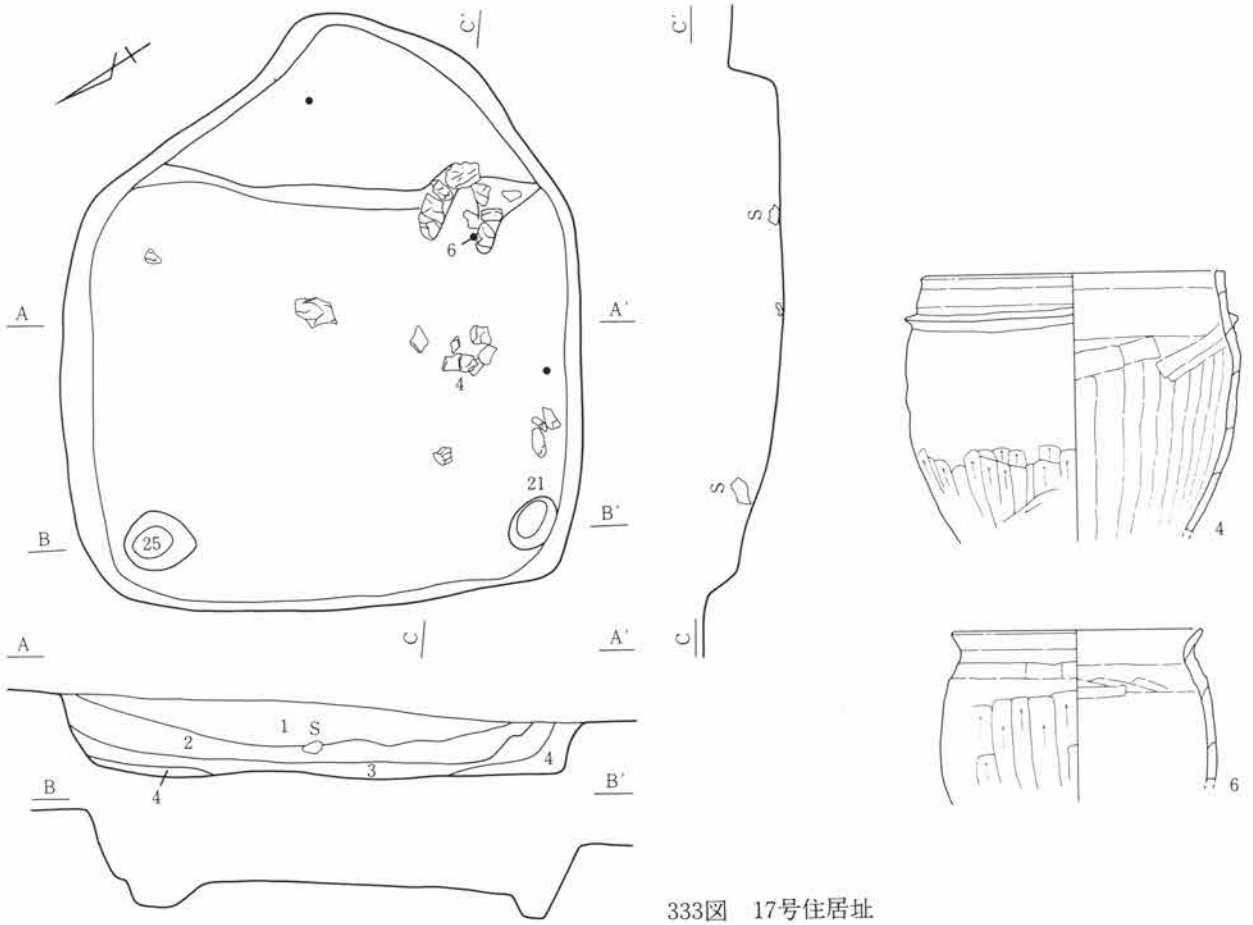
出土遺物は破片類が中心であったが比較的多く高台付椀、甕などが散在して検出されている。

16号住居址 (332図)

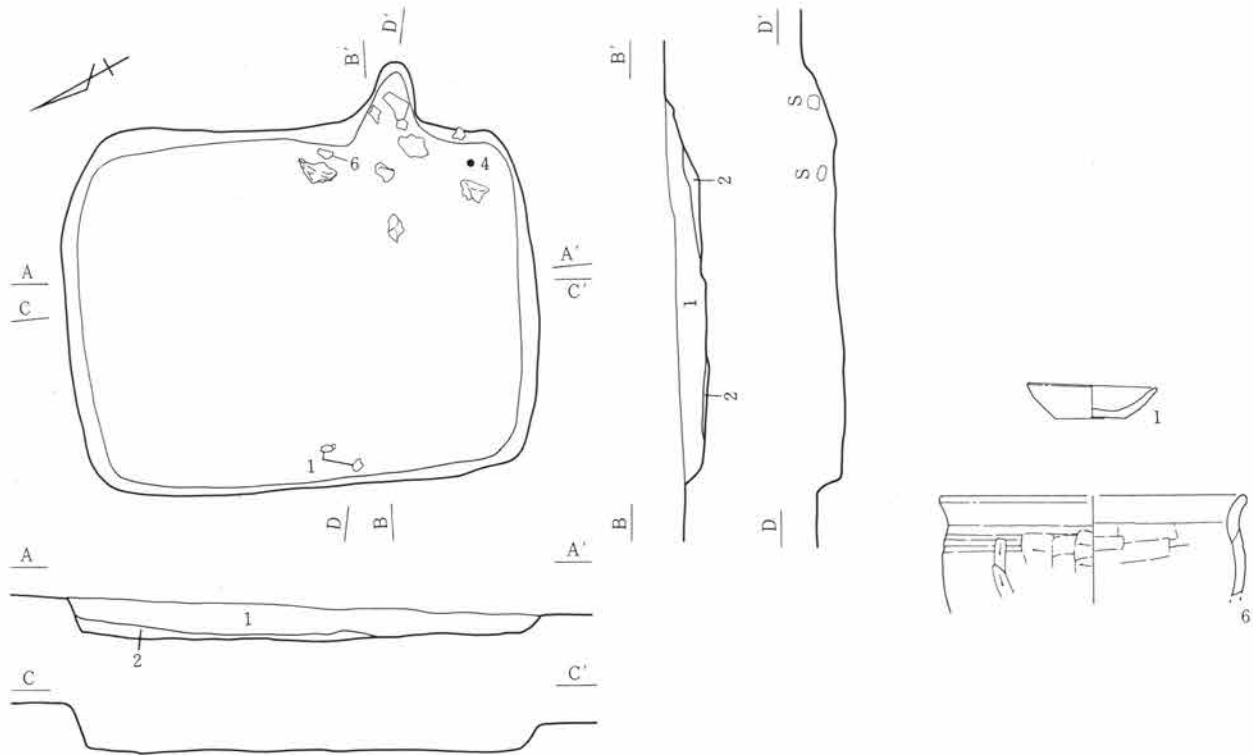
調査区の東端に検出されたが、東半分は調査区外となり約西半分の調査となる。全体の形状は不明であるが長方形になるものと思われる。規模は東西は不明であるが南北は4.4mである。壁高は約40cmが確認された。床面は平坦であるがやや軟らかく一部攪乱を受けている。南西隅に浅い落ち込みが見られた他は竈、柱穴、貯蔵穴は検出されていない。出土遺物もほとんど見られなかった。



332図 16号住居址



333図 17号住居址



334図 19号住居址

0 2m

17号住居址 (333図)

平面形状は隅丸長方形を基本にしていると思われるが、竈付近に住居構築以前の掘り込みがあり、東壁の検出ができなかったが全体的に遺存状態は良好である。規模は4.2m×(3.2)mである。壁高は40cm程であるが、東壁ではほとんど確認できなかった。床面はやや凹凸が見られるがかなり平坦である。竈は構築材の石がU字状に検出されている。焼土は少なく使用期間は短かったものと考えられる。出土遺物は羽釜、坏、甕類である。

19号住居址 (334図)

平面形状は隅丸長方形を呈し、規模は3.75m×2.8mで壁高は約20cmである。壁はかなり垂直に立ち上がり全体的に良く残っている。床面の状態は平坦でかなり固く踏み締められている。竈は東壁中央やや南よりで作られており、両袖はかなり壊れた状態で検出されている。焚口幅約40cm奥行きは約60cmである。出土遺物は竈周辺を中心に坏、甕の破片がわずかながら出土している。

第2項 出土遺物

本項ではF P面で調査された住居址を中心とした出土遺物を説明する。出土土器の大半は完形出土ではなく、破片出土であり図は復元実測が多い。各住居址に付せられた番号順に図示し、説明は住居址毎に行なった。出土状態は前項を参照していただきたい。

2号住居址 (335図1～7)

1. 坏底部。轆轤成形(右回転)で底部は回転糸切り。
2. 甕。灰釉である。口縁部は直立する。胴部上半は大きく張る。施釉は漬け掛け。
3. 甕底部。轆轤整形。底部は篋切り。
4. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部内外面は横撫で、胴部は篋削り。
5. 甕。やや外傾する「コ」の字状口縁。口縁部内外面は横撫で、胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。
6. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部内外面は横撫で、胴部は横方向の篋削り、内面胴部は横方向の篋撫で。
7. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部上位は大きく外傾する。口縁部内外面は横撫で、胴部は篋削り、内面胴部

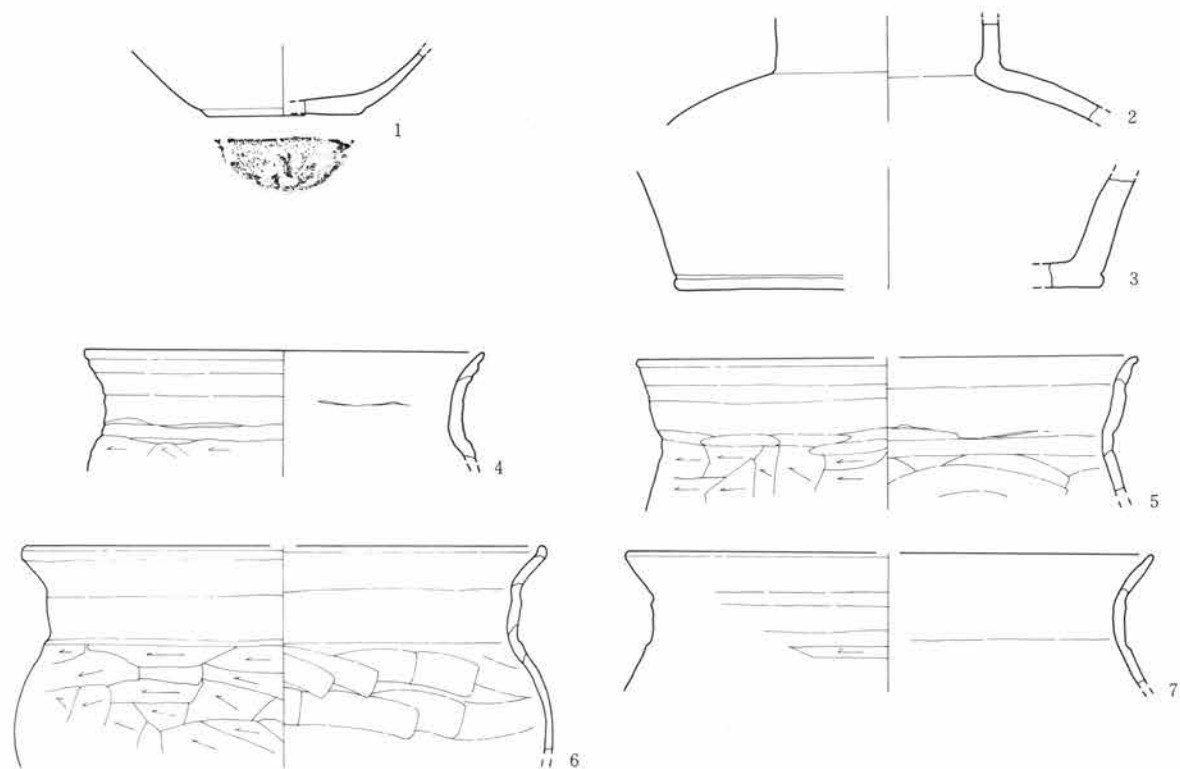
は篋撫で。

3号住居址 (336図1～6)

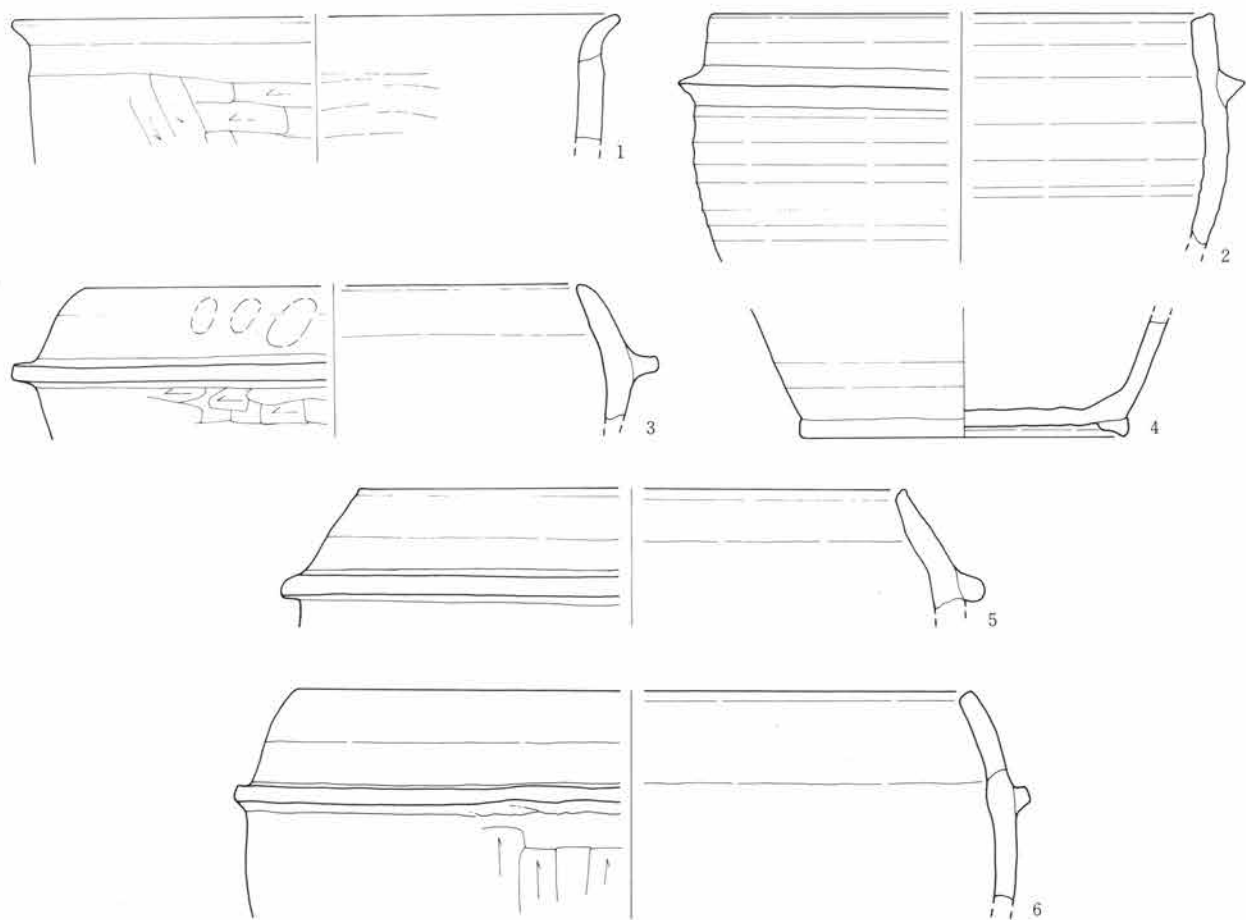
1. 土釜。口縁部破片。口縁部は外反する。口縁部内外面は横撫で。胴部外面は横方向の篋削り後縦方向の篋撫で。褐灰色を呈す。
2. 羽釜。口縁部はやや内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は小さく、貼り付け。橙色を呈す。
3. 羽釜。口縁部は著しく内傾する。胴部は横方向の篋削り。鏝は丸みを帯び、貼り付け。褐灰色を呈す。
4. 甕底部。灰釉で高台付。轆轤整形(右回転)。底部の器肉は薄い。施釉は漬け掛け。
5. 羽釜。口縁部破片。口縁部は著しく内傾し、鏝は丸みを帯び、貼り付け。やや軟質。にぶい橙色を呈す。
6. 羽釜。口縁部破片。口縁部は内傾する。胴部は縦方向の篋削り。鏝は貼り付けで、摩滅している。にぶい褐色を呈す。

4号住居址 (337図1～15)

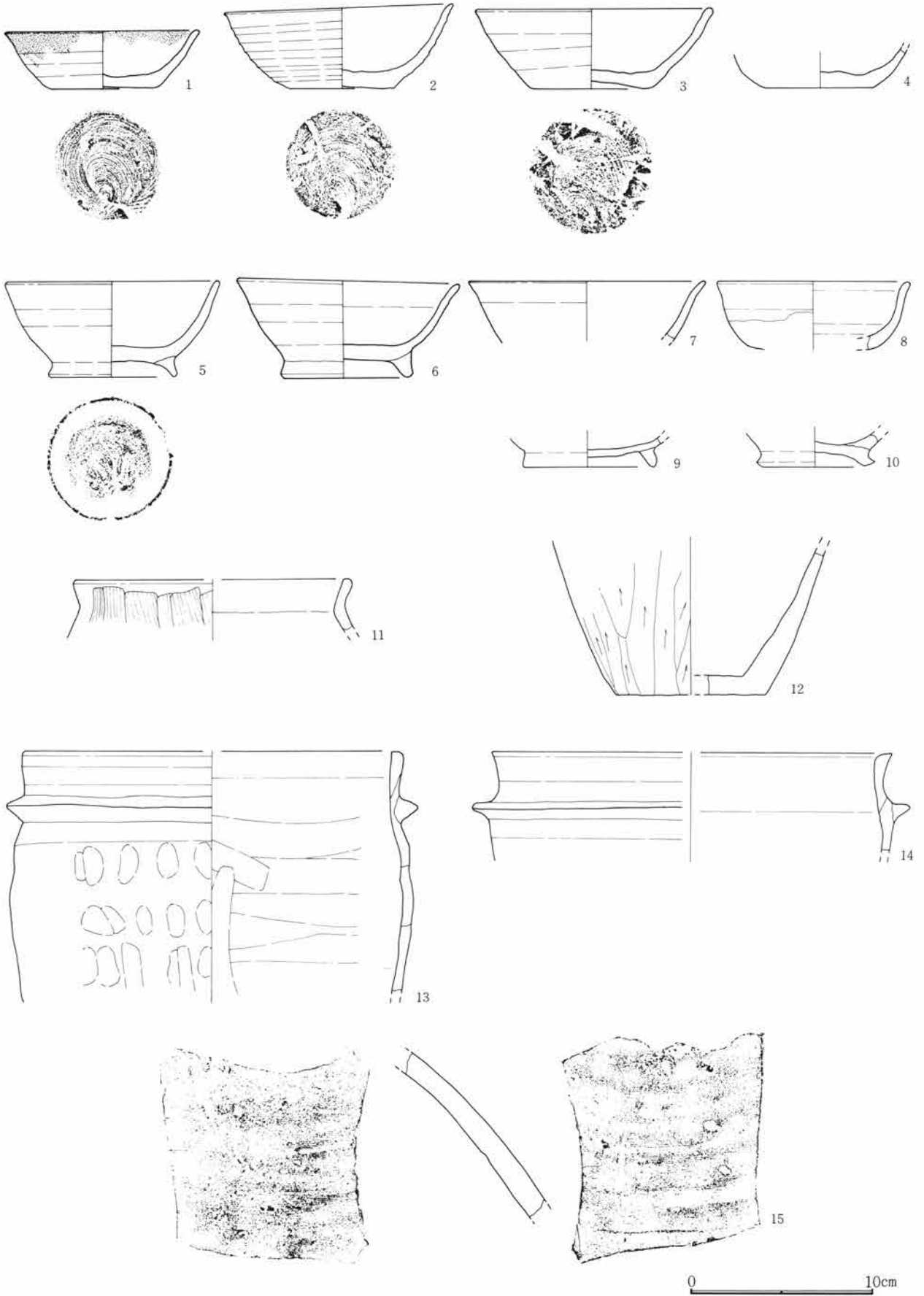
1. 坏。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。油煙の付着が口縁部に認められる。にぶい橙色を呈す。
2. 坏。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。灰褐色を呈す。
3. 坏。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部はやや上げ底。灰褐色を呈す。
4. 坏底部。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り後撫で。やや軟質で橙色を呈す。
5. 椀。轆轤成形(右回転)。付高台。やや軟質で、にぶい橙色を呈す。
6. 椀。轆轤成形(右回転)。高台貼付後撫でを丁寧に施す。やや軟質で、橙色を呈す。
7. 椀口縁部破片。轆轤成形。軟質で、橙色を呈す。
8. 椀口縁部破片。轆轤整形(右回転)。体部下半は雑な撫で。軟質でにぶい橙色を呈す。
9. 椀底部。高台部のみの残存。灰釉。
10. 椀底部。轆轤成形(右回転)。高台のみの残存。底部回転糸切り後高台貼付。撫でも丁寧。褐灰色。
11. 甕口縁部破片。口縁部は短く外傾する。口縁部外面は縦方向の篋撫で。内面は横撫で。褐灰色を呈す。
12. 甕底部。あるいは羽釜底部。還元炎焼成で固く焼締る。外面は底部端部にまで縦方向の篋削りが及ぶ。



335図 2号住居址出土土器



336図 3号住居址出土土器



337図 4号住居址出土土器

第IV章 遺構と遺物

黄橙色を呈す。

13. 羽釜。口縁部は僅かに外反気味に直立する。鏝は貼り付け。胴部は上半に緩やかな膨らみを持たせる。

口縁部は内外面とも横撫で。胴部外面は指撫で、内面は横方向の篋撫で。黄橙色を呈す。

14. 羽釜口縁部破片。口縁部は外反し、鏝は比較的しっかりした作りで貼り付けられる。轆轤整形（右回転）橙色を呈す。

15. 大甕肩部破片。轆轤整形。

5号住居址（338図1～6）

1. 土釜。口縁部は短く外傾する。頸部は括れ、胴部は膨らみを持たせる。口縁部は内外面とも横撫で。胴部外面は縦→斜め方向の篋削り、内面は横方向の篋撫で。橙色を呈す。

2. 土釜。1と同様な器形を呈す。僅かに胴部中位の膨らみが1に比して緩やか。外面は縦方向の篋削り。内面は横方向の篋撫で。にぶい橙色を呈すが還元炎焼成であろう。

3. 羽釜口縁部破片。口縁部は僅かに内傾する。鏝は撫でにより丁寧に貼り付けられる。口縁部、胴部とも横方向の撫で。橙色を呈す。

4. 羽釜。1/2残存。口縁部は傾く。口唇部と鏝も凹凸があり、全体に雑な作り。内傾する口縁部から鏝下位まで横撫で。胴部は縦方向を基調とした篋削り。内面は横撫で。鈍い褐色を呈す。

5. 羽釜。1/2残存。4と同様に口縁部は傾くが鏝の仕上などは丁寧な作りである。口縁部は内傾し、鏝は貼り付けで比較的突出する。胴部は上半から中位にかけて膨らむ。口縁部から鏝下位まで幅を持たせて丁寧な横撫で。胴部は斜位の篋削り。にぶい褐色を呈す。

6. 羽釜。口縁部は短く内傾し、鏝は小型で貼り付け、上位は丁寧に撫でるが下位は雑。胴部は緩やかに膨らむ。口縁部から鏝下位まで内外面とも横撫で。胴部外面は篋削り後雑な撫で、内面は横方向の篋撫で。

6号住居址（339図1～3）

1. 坏。口縁部は僅かに外傾し、口唇部は丸みを帯びる。稜を持ち、体部は比較的深い。口縁部は横撫で、体部は篋削り後撫で。内面も丁寧な撫で。橙色を呈す。

2. 甕。口縁部は外反し、胴部は中位に膨らみを持た

せる。口縁部から頸部は内外面とも横撫で。胴部外面は篋削り後、幅狭の篋撫でが丁寧に施される。内面は横、斜めの篋撫で。にぶい橙色を呈す。

3. 甕。ほぼ完存。長胴である。口縁部は外反し、胴部は緩やかな丸みを帯びる。口縁部内外面とも横撫で。胴部外面は縦方向の篋削り後雑な撫で。内面は横方向の篋撫で。にぶい橙色を呈す。

7号住居址（340図1～9）

1. 坏。土師質土器。轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。口唇部は僅かに外反する。浅黄橙色を呈す。

2. 坏。土師質土器。轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。口唇部はやや厚く、丸みを帯びる。褐色

3. 坏。土師質土器。轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。口唇部はやや厚く丸みを帯びる。底部は内彎気味に立ち上がる。浅黄橙色を呈す。

4. 坏。土師質土器。轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。口唇部は厚く、全体にポツリした感じである。底部の立ち上がりを持つ。鈍い褐色を呈す。

5. 坏。土師質土器。轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。口縁部は緩やかに外反し、体部中位に僅かな膨らみを持つ。浅黄橙色を呈す。

6. 坏。土師質土器。轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。口唇部は若干肥厚し、外反気味である。体部中位に僅かな膨らみを持たせる。墨書が内外面に施され、「米」か。浅黄橙色を呈す。

7～9. 坏。土師質土器。いずれも墨書が施される。おそらく「米」であろう。9は判然としない。

8号住居址（341図1～5）

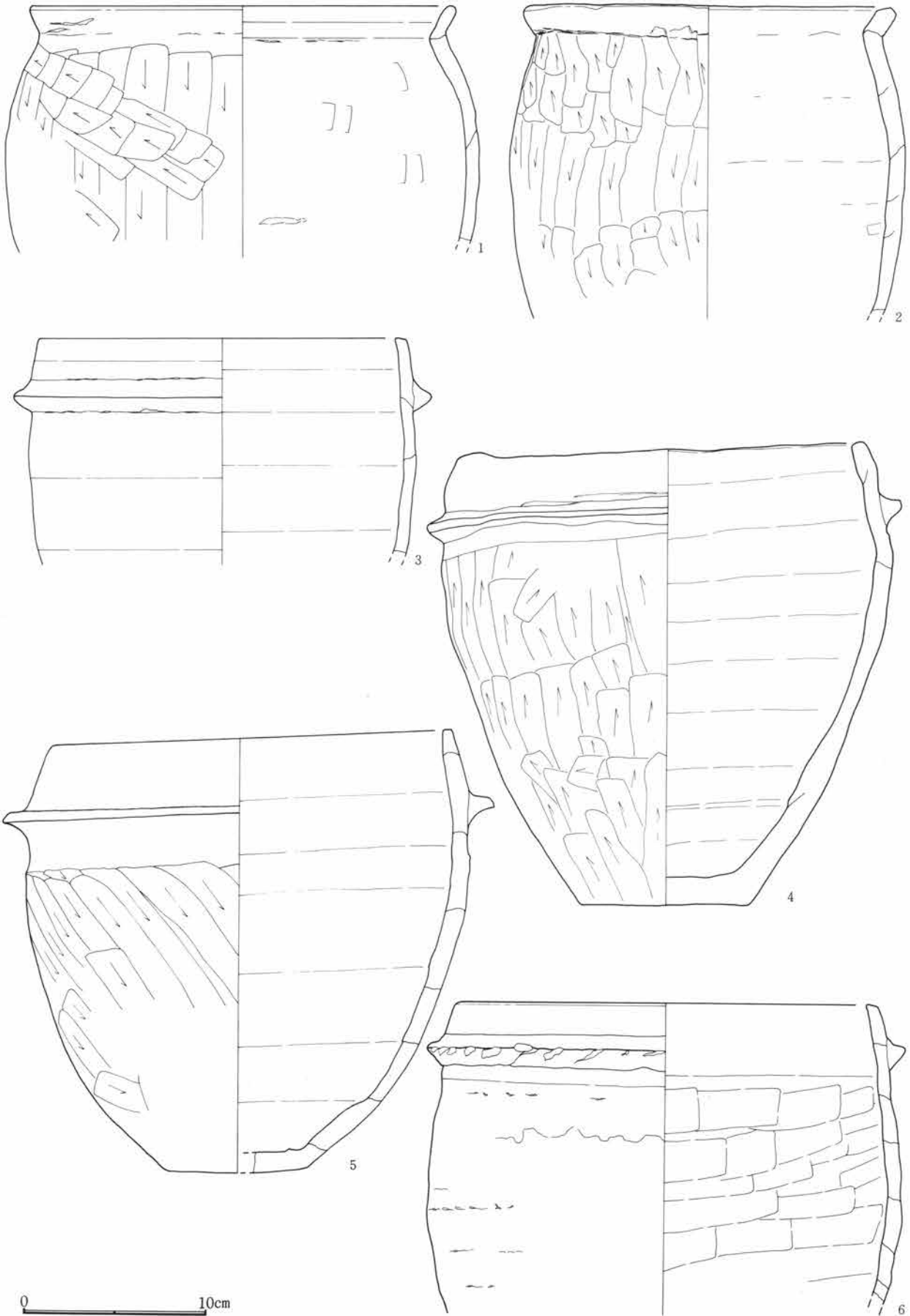
1. 坏。土師器。口縁部は大きく外傾し、中位に撫でによる稜を持つ。体部にも稜を持ち、体部は浅い。口縁部は横撫で、体部は篋削り。鈍い橙色を呈す。

2. 坏。土師器。口縁部は外傾し、中位に撫でによる薄い稜を持つ。体部の外稜は明瞭ではなく、体部は浅い。口縁部は横撫で、体部は篋削り。鈍い褐色を呈す。

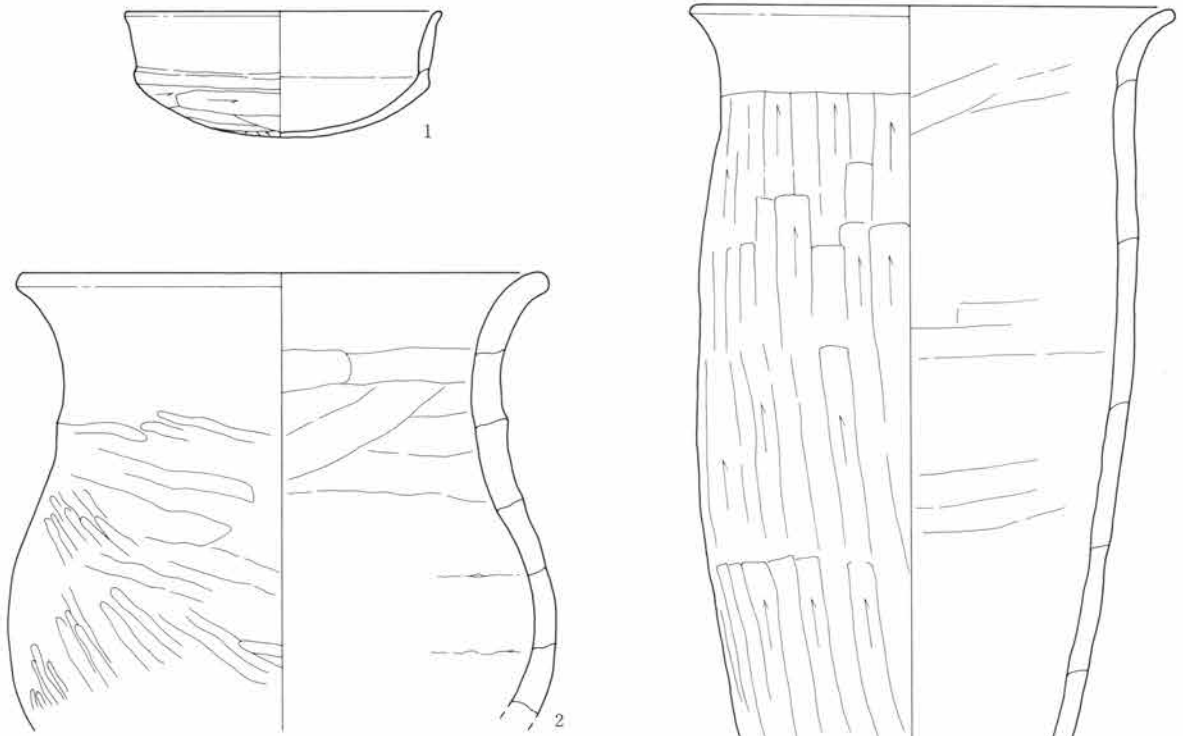
3～5. 坏口縁部破片。いずれも口縁部の小破片である。橙色を呈す。

9号住居址（342図1～6）

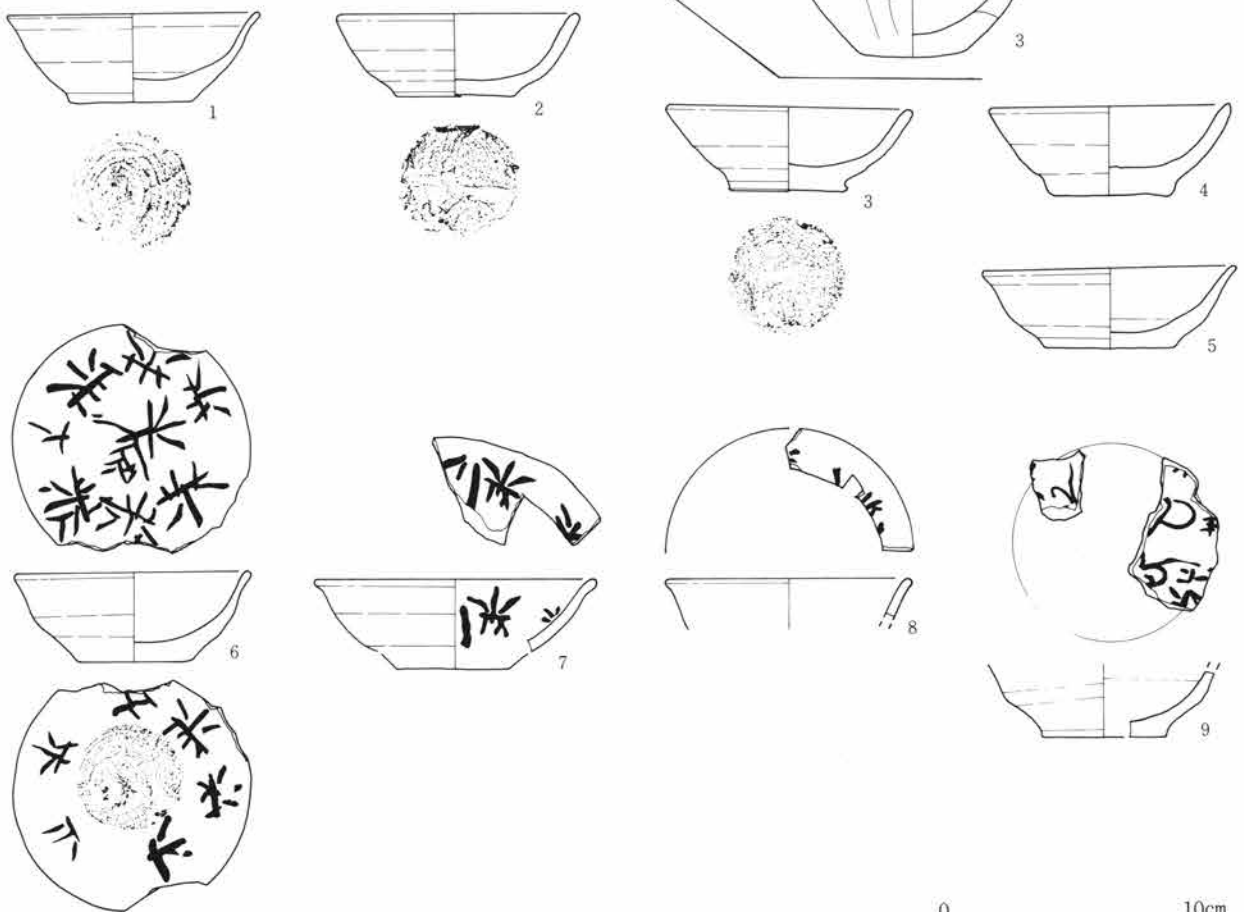
1. 坏。土師質土器。轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。歪曲した器形。口縁部は丸みを帯び、僅かに



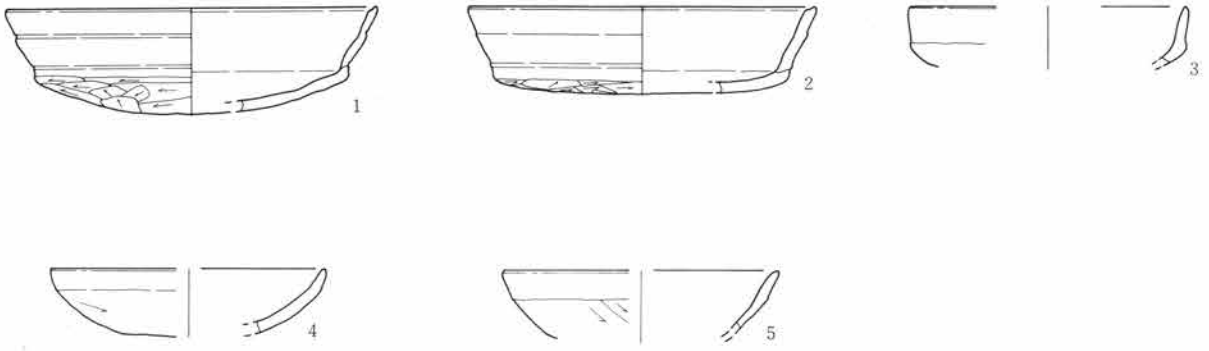
338図 5号住居址出土土器



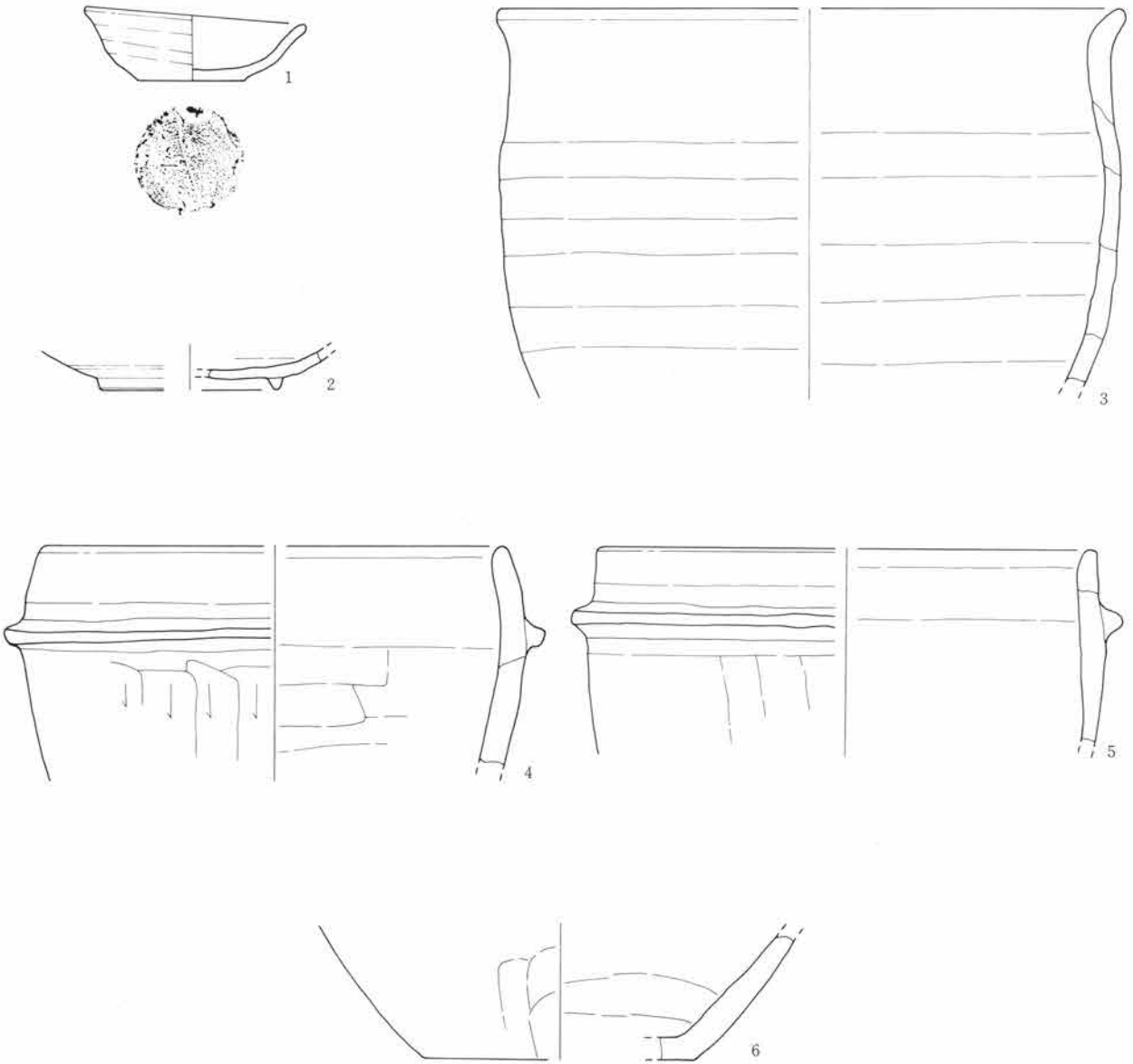
339図 6号住居址出土土器



340図 7号住居址出土土器



341図 8号住居址出土土器



342図 9号住居址出土土器

0 10cm

第IV章 遺構と遺物

外傾する。体部中位に膨らみを持たせる。浅黄橙色。

2. 椀。灰釉である。高台部のみの残存。内稜を持つ。
3. 土釜口縁部破片。口縁部は外反し、胴部は緩やかな膨らみを持つ。口縁部内外面とも横撫で。胴部も横撫でだが、内面は篋撫で。鈍い褐色を呈す。
4. 羽釜口縁部破片。口縁部は内傾し、丸みを帯びる罫は短く貼り付け。口縁部から罫下位まで横撫で、胴部外面は縦方向の篋削り、内面は横方向の篋撫で。
5. 羽釜口縁部破片。直立気味の口縁部。罫は貼り付け。口縁部から罫下位まで横撫で。胴部外面は縦方向の篋削り。内面は篋撫で。褐灰色を呈す。
6. 甕底部破片。外面は縦、内面は横方向の篋撫で。

12号住居址 (343図1・2)

1. 椀。轆轤成形(右回転)。灰褐色を呈す。
2. 甕口縁部破片。「コ」の字状口縁。口縁部内外面は横撫で。指頭押圧残る。暗褐色を呈す。

13号住居址 (344図1~7)

1. 坏口縁部破片。轆轤成形(右回転)。口縁部は僅かに外反する。明褐灰色を呈す。
2. 椀底部。轆轤成形(右回転)。付高台。褐灰色。
3. 椀底部。轆轤成形(右回転)。付高台。底面は薄く、歪みがある。褐灰色を呈す。
4. 椀底部破片。轆轤成形(右回転)。付高台。厚手でやや軟質。鈍い橙色を呈す。
- 6・7. 大型の甕胴部破片。6、外面平行叩き目、内面当て目。7、内面青海波文様の当て目。

14号住居址 (345図1~346図20)

1. 坏。土師器。僅かに内彎気味に立ち上がる。口唇部は鋭い。口縁部は横撫で、体部は篋削り後撫で。鈍い褐色を呈す。
2. 坏。土師器。薄手で器面の凹凸多い。口縁部は横撫で、体部は雑な撫で。浅黄橙色を呈す。
3. 坏。土師器。薄手で口唇部は鋭い。口縁部は横撫で、体部は篋削り後撫で、底面は篋削り。黒褐色。
4. 坏底部。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。光沢を持つ。黒褐色を呈す。
5. 坏口縁部破片。灰釉である。施釉は漬け掛け。
6. 椀口縁部破片。酸化炎焼成。器肉は薄く、口縁部は緩やかに外反する。内外面とも丁寧に研磨する。鈍

い橙色を呈す。

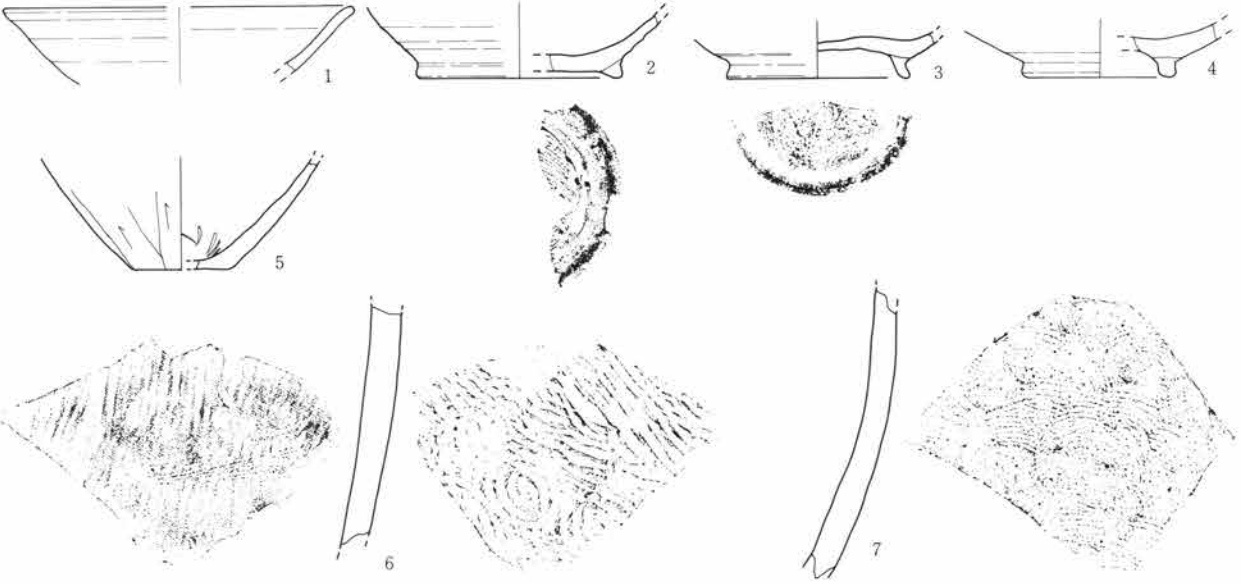
7. 椀底部破片。灰釉である。小型の高台で器肉は著しく薄い。施釉は漬け掛け。
8. 椀底部。轆轤成形(右回転)。付高台。褐灰色。
9. 椀底部破片。轆轤整形。付高台。鈍い褐色を呈す。
10. 椀。轆轤整形後丁寧な撫で。しっかりした高台が付く。内面黒色研磨。外面橙色を呈す。
11. 椀底部破片。轆轤成形。付高台。褐灰色を呈す。
12. 蓋つまみ部分。轆轤成形。褐灰色を呈す。
13. 甕。「コ」の字状口縁。口唇部に浅い凹線。口縁部内外面及び頸部は強い横撫でを施し、口縁部中位には撫では及ばない。胴部は横方向の篋削り、内面胴部は篋撫で。鈍い褐色を呈す。
14. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部内外面は強い横撫で、胴部は横方向の篋削り、内面胴部は篋撫で。
15. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部内外面は強い横撫で、中位には及ばない。胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。
16. 甕底部。「コ」の字状口縁の甕底部であろう。外面は縦方向の篋削り、内面は篋撫で。褐色を呈す。
17. 小型甕口縁部破片。轆轤成形。薄手で各端部は鋭い。褐灰色を呈す。
- 18~20. 大型甕胴部破片。外面は平行叩き目。内面には当て目が残る。

15号住居址 (347図1~349図37)

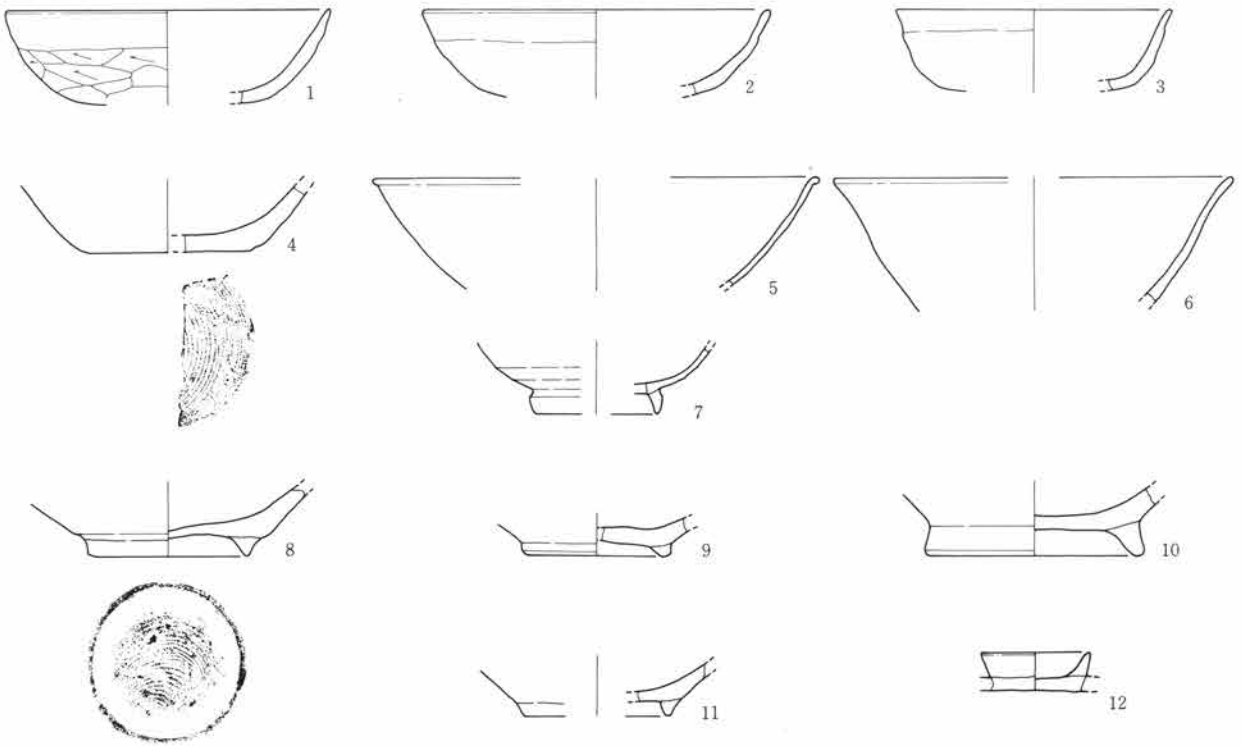
1. 坏。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。口唇部は肥厚し、口縁部は外反する。体部は丸みを帯び、丁寧に撫でられている。明褐灰色を呈す。
2. 坏口縁部破片。轆轤成形(右回転)。薄手で口縁部は若干外反する。明褐灰色を呈す。
3. 坏口縁部破片。口縁部は僅かに内彎し、体部も緩やかな丸みを帯びる。口縁部は横撫で、体部は篋削り。鈍い橙色を呈す。
4. 坏口縁部破片。轆轤成形。口唇部は僅かに外反する。明褐灰色を呈す。
5. 坏口縁部破片。轆轤成形。大きく外傾する。轆轤撫でによる緩い段を持つ。灰褐色を呈す。
6. 坏口縁部破片。轆轤成形。口唇部は極僅かに外反し、体部は膨らみを持つ。灰白色を呈す。
7. 坏。轆轤成形(右回転)。口縁部下位に轆轤撫でに



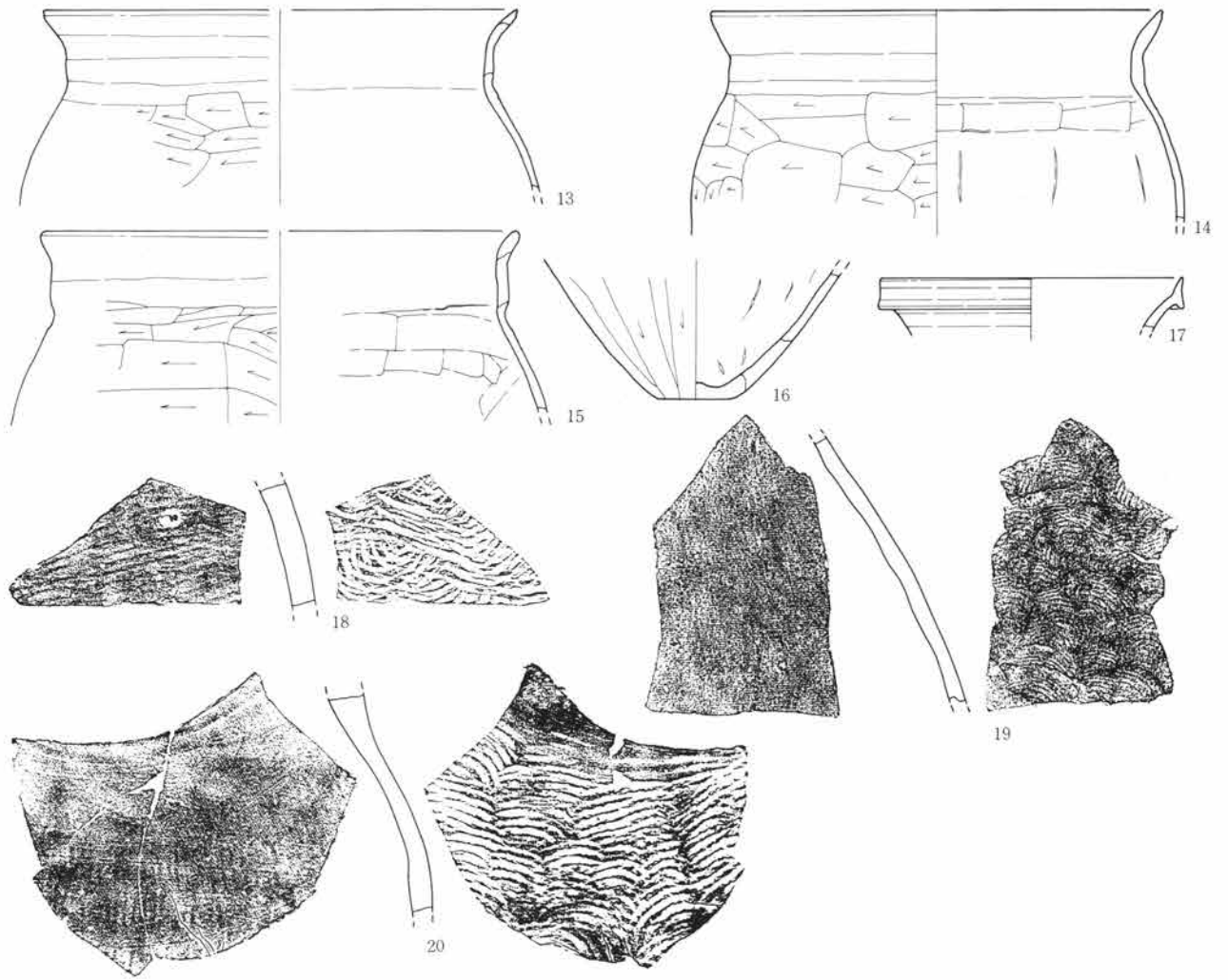
343図 12号住居址出土土器



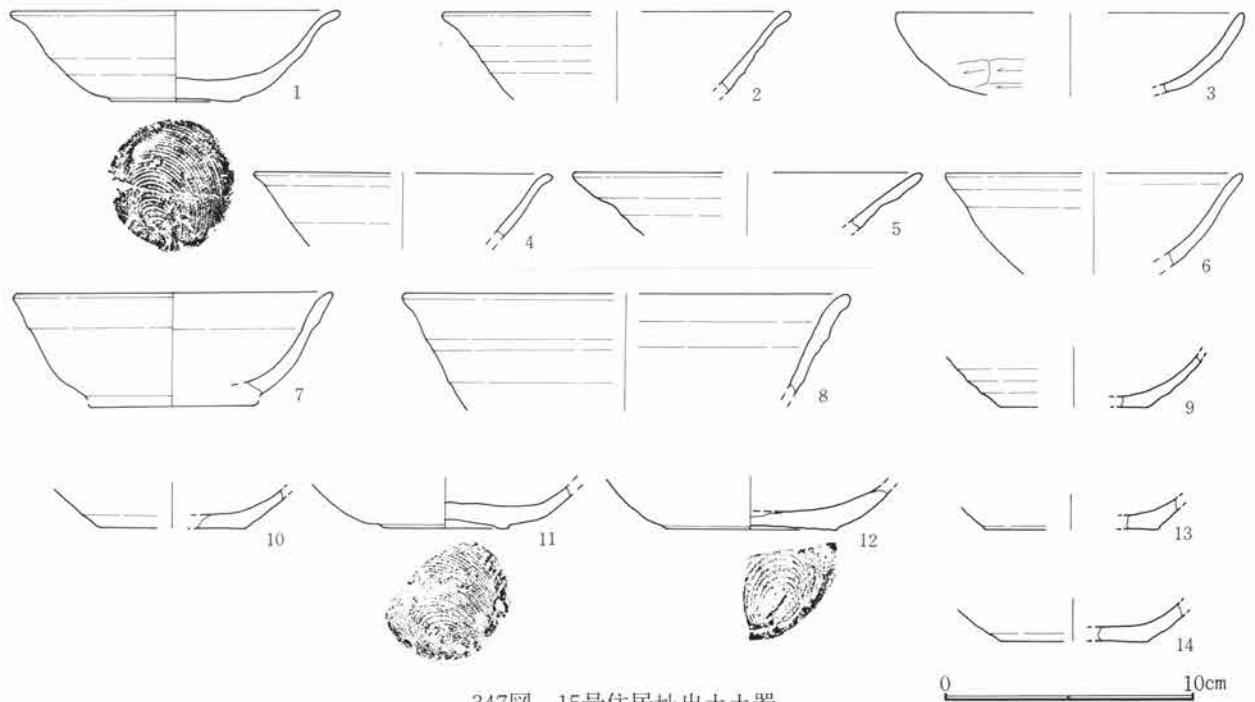
344図 13号住居址出土土器



345図 14号住居址出土土器



346図 14号住居址出土土器



347図 15号住居址出土土器

よる浅い段を持つ。体部は緩かなや膨らみを持つ。鈍い橙色を呈す。

8. 坏。口径は大きく18cmを測る。轆轤成形(右回転)口唇部は肥厚し、僅かに外反する。体部は直線的で身深である。褐色を呈する。

9. 坏底部破片。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。薄手で褐灰色を呈す。

10. 坏底部破片。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。薄手で褐灰色を呈す。

11. 坏底部。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。体部下半から腰部にかけて丸みを帯びる。底面は上げ底。明褐灰色を呈す。

12. 坏底部破片。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。やや軟質で灰褐色を呈す。

13. 坏底部破片。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面は丁寧に黒色研磨される。外面も黒色。

14. 坏底部破片。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。明褐色を呈す。

15. 碗口縁部破片。轆轤成形(右回転)。口唇部は僅かに外反する。口縁下には轆轤撫でによる段がある。褐灰色を呈す。

16. 碗底部破片。轆轤成形(右回転)。付高台。やや軟質で鈍い橙色を呈す。

17. 碗底部破片。轆轤成形(右回転)。付高台。高台端部はややめくれ上る。やや軟質で鈍い橙色を呈す。

18. 碗底部破片。轆轤成形(右回転)。付高台。短い高台と体部が直線的に繋がる。やや軟質で鈍い褐色。

19. 碗底部破片。轆轤成形。高台欠損。灰褐色を呈す。

20. 碗底部破片。轆轤成形。付高台。軟質で橙色。

21. 碗底部破片。轆轤成形。付高台。軟質で褐灰色。

22. 碗口縁部破片。灰釉である。口唇部は丸みを帯び、体部は緩やかに膨らむ。施釉は漬け掛け。

23. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部内外面は横撫で、胴部は横方向の篋削り、内面胴部は横方向の篋撫で。

24. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部内外面は横撫で、胴部は横、斜めの篋削り、内面胴部は篋撫で。

25. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部は外傾する。口縁部内外面は横撫で、胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。

26. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部内外面は横撫で、胴

部は篋削り、内面胴部は強い篋撫で。

27. 甕。口縁部は緩やかに外反し、胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部内外面は横撫で、胴部外面は縦方向の篋削り、内面は横方向の篋撫で。浅黄橙色を呈す。

28. 甕。「コ」の字状口縁。口縁部内外面は横撫で、胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。

29. 甕。口縁部は短く外傾し、内外面は横撫で。胴部外面は縦方向の篋削り、内面は横方向の強い篋撫で。

30. 小型の甕口縁部破片。口縁部は緩やかに外反し、内外面とも横撫で。内面に炭化物付着。黒色を呈す。

31. 羽釜。口唇部は僅かに突出する。口縁部は内傾し、鐙は大きく突出し貼り付け。胴部上位に緩やかな膨らみを持たせる。口縁部から鐙下位には丁寧な横撫で。胴部外面は縦方向の篋削り、内面は横方向の撫で。褐灰色を呈す。

32. 大甕口縁部破片。轆轤成形。各端部は鋭い。暗灰色を呈す、内面は褐色。

33～35. 大甕の胴部破片。外面に平行叩き目(33)、内面に青海波文様の当て目(34)が残る。

36. 37. 大甕底部破片。36、黄灰色。37、褐灰色を呈す。

16号住居址(350図1)

1. 坏底部。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。暗褐色を呈す。

17号住居址(351図1～6)

1. 坏。轆轤成形(右回転)。口縁部は外反し、体部は緩やかな膨らみを持たせる。やや軟質で橙色を呈す。

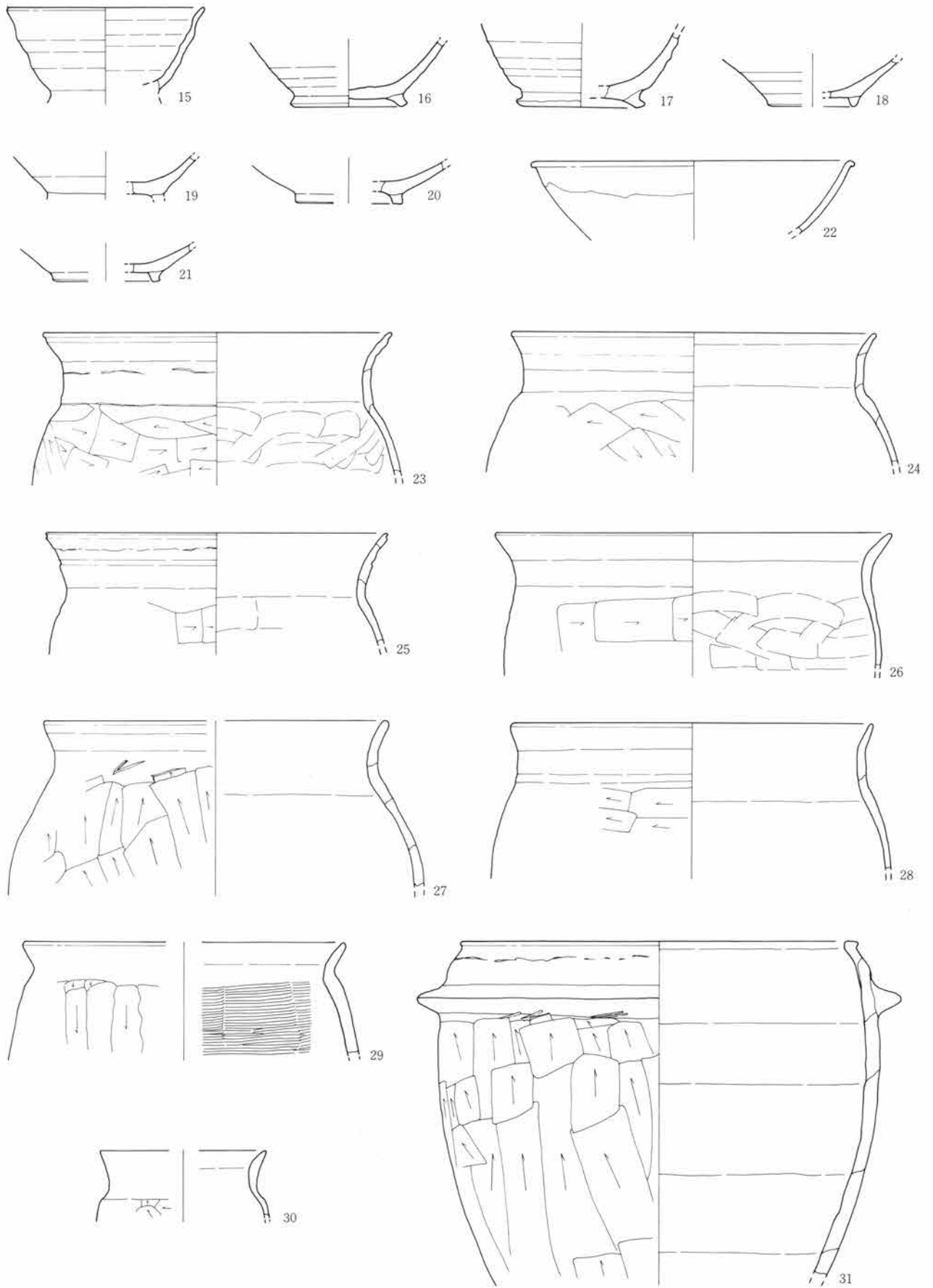
2. 坏底部破片。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り後撫で。器肉は厚く、やや軟質で橙色を呈す。

3. 甕。「コ」の字状口縁部破片。上位は大きく外傾する。口縁部内外面は横撫で。暗褐色を呈す。

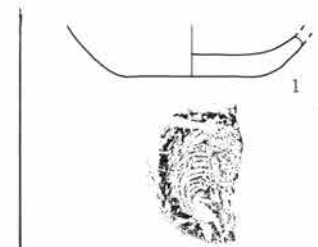
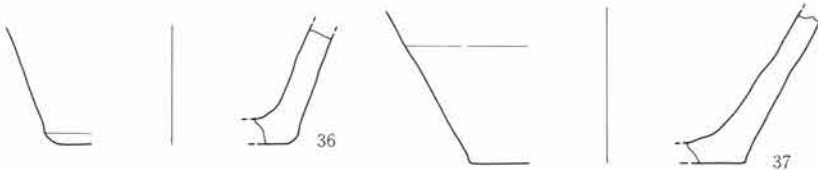
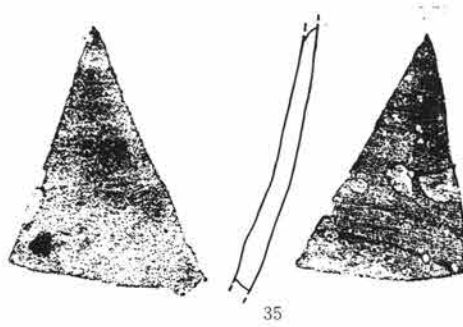
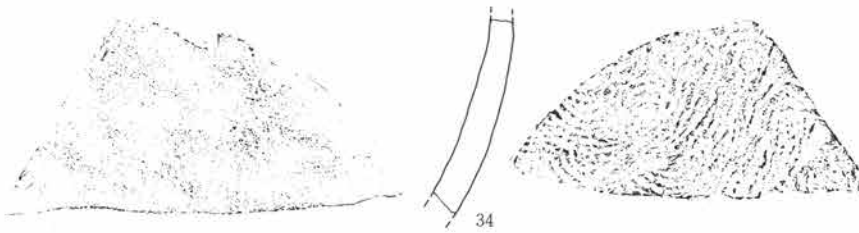
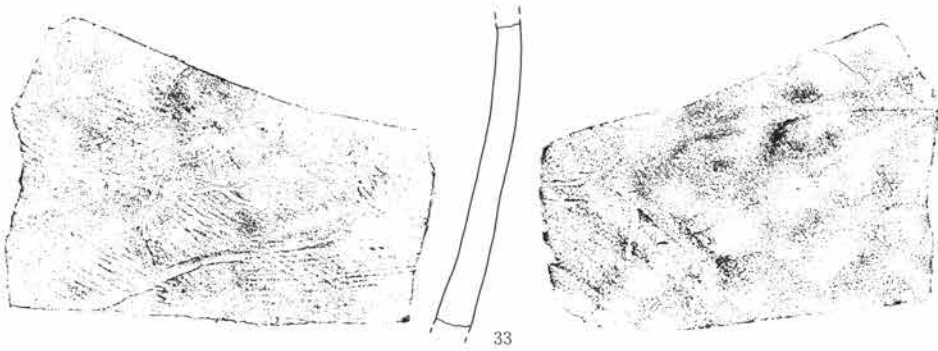
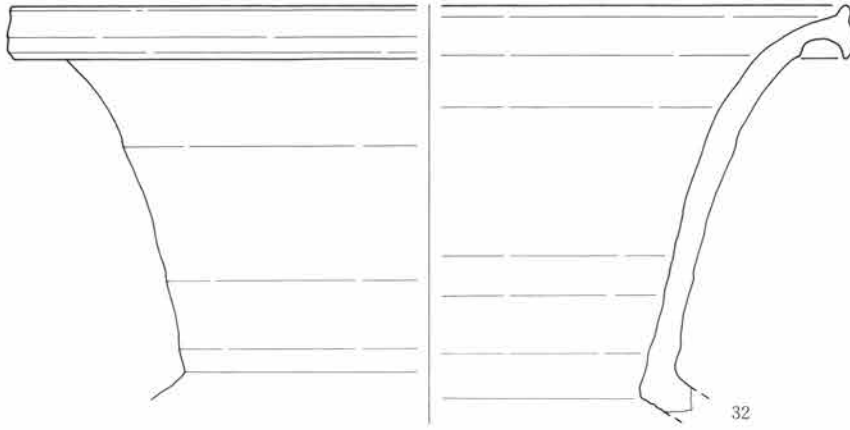
4. 羽釜。口縁部は僅かに内傾し、鐙は短く貼り付け。胴部は球胴形に近い。口縁部から鐙下位にかけて強い横撫で。胴部外面上半は篋削り後撫で、下半は縦方向の篋削り。内面は上半は横、斜めの篋撫で、下半は縦方向の篋撫で。褐色を呈す。

5. 土釜。口唇部は肥厚し、口縁部は外反する。胴部は上位に緩やかな膨らみを持たせる。口縁部内外面は横撫で。胴部外面は縦方向の篋削り、内面は横方向の

第IV章 遺構と遺物



348図 15号住居址出土土器



350図 16号住居址出土土器

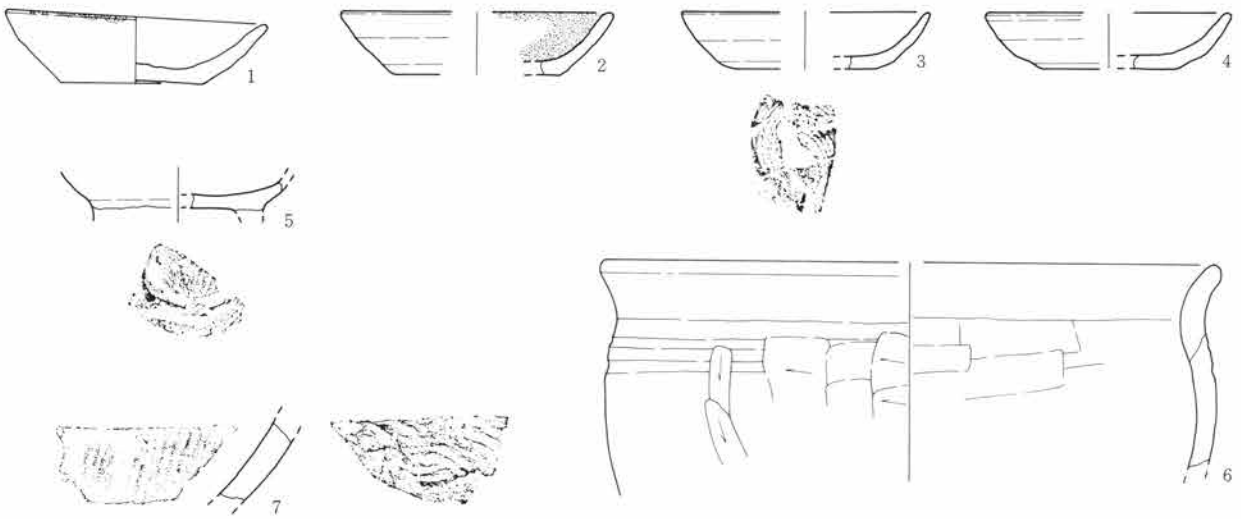
0 10cm

349図 15号住居址出土土器

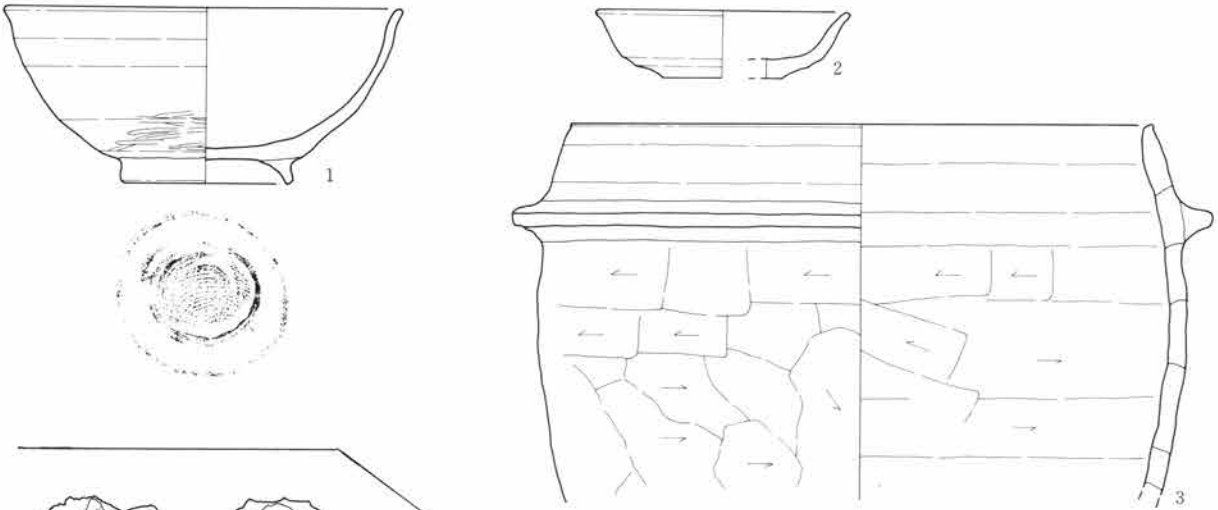


0 10cm

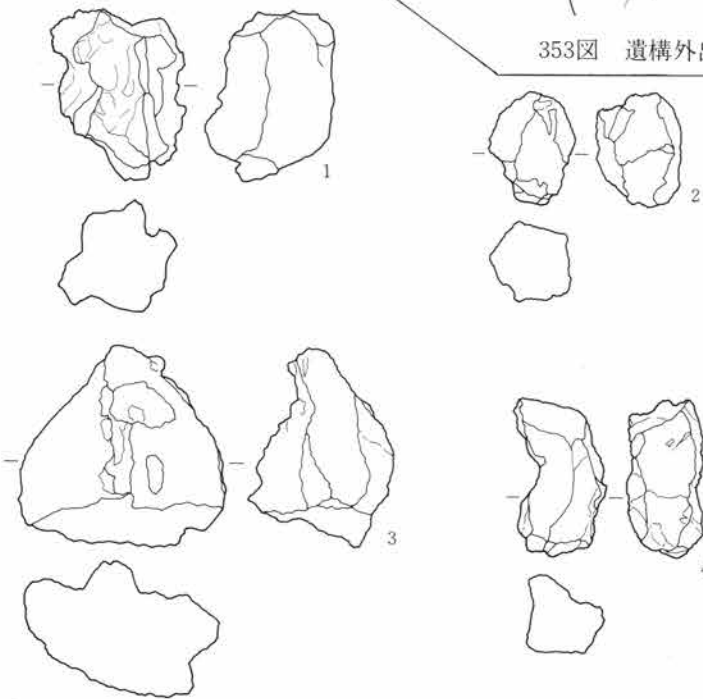
351図 17号住居址出土土器



352図 19号住居址出土土器

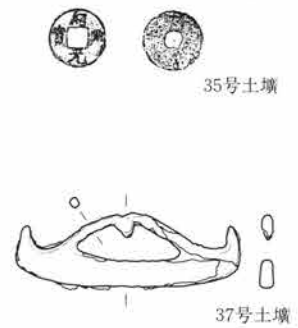


353図 遺構外出土土器



0 10cm

354図 7号住居址出土鉄滓



355図 土壇出土遺物(1/2)

撫で。胴部外面は縦方向の篋削り、内面は横方向の撫でと指頭押圧が残る。鈍い黄橙色を呈す。

6. 土釜。口縁部は強く外反し、胴部は大きく膨らむ兆しを見せる。口縁部内外面は横撫で、屈曲部外面は強い横方向の篋撫でが施される。胴部外面は縦方向の篋削り。内面は横方向の丁寧な篋撫で。褐色を呈す。

19号住居址 (352図 1～7)

1. 坏。土師質土器。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。口唇部は丸みを帯びる。内面に油煙付着。明黄橙色を呈す。

2. 坏。土師質土器。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。口唇部は丸みを帯びる。黄橙色を呈す。

3. 坏。土師質土器。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。口唇部は丸みを帯びる。やや薄手で浅い。

4. 坏。土師質土器。轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。口唇部は丸みを帯びる。灰黄褐色を呈す。

5. 椀底部破片。轆轤成形(右回転)。高台部欠損。

6. 土釜口縁部破片。口縁部は外反し、内外面とも横撫で。胴部外面は篋削り後篋撫で、内面は横方向の篋撫で。鈍い橙色を呈す。

7. 大甕胴部破片。平行叩き目残る。

遺構外出土土器 (353図 1～3)

1. 椀。轆轤成形。付高台。全体に薄手でしっかりした作り。糸切り後に線刻をする。内外面とも黒色で丁寧に研磨し、特に外面体部下半に顕著である。他の椀類とは異系統であろう。

2. 坏。土師質土器。轆轤成形(右回転)底部は回転糸切り。口唇部は丸みを帯び、僅かに外反する。浅黄橙色を呈する。

3. 羽釜。口縁部は内傾し、内外面とも強い横撫で。鏝は比較的しっかり貼り付けられ、突出する。胴部外面は篋削り後、横、不定方向の篋撫で、内面は横方向の篋撫で。鈍い褐色を呈す。

第4節 中世

1. 館濠 (356～357図)

中世の遺構としては調査区西側の村道拡幅のための突出部で検出された館濠があげられる。遺跡中央を走る2号溝と1号溝(全体図参照)はこの濠に伴い水利的な役割を果たしていたのであろう。館と思われる遺構は調査区外に確認され(356図)、北側と西側を天竜川、南側を現在は水田に利用されている谷によって区画され、地形を巧みに利用したものである。館の規模は長軸約140m、短軸約44mを測る南北に細長い形状である。構造は自然地形に沿って北から1～3郭に分割され、中央の第2郭が広く、おそらく主郭となろう。第1郭と2郭の間は溝状に落ち込むがやや盛り上がる箇所があり土橋の存在も予想される。

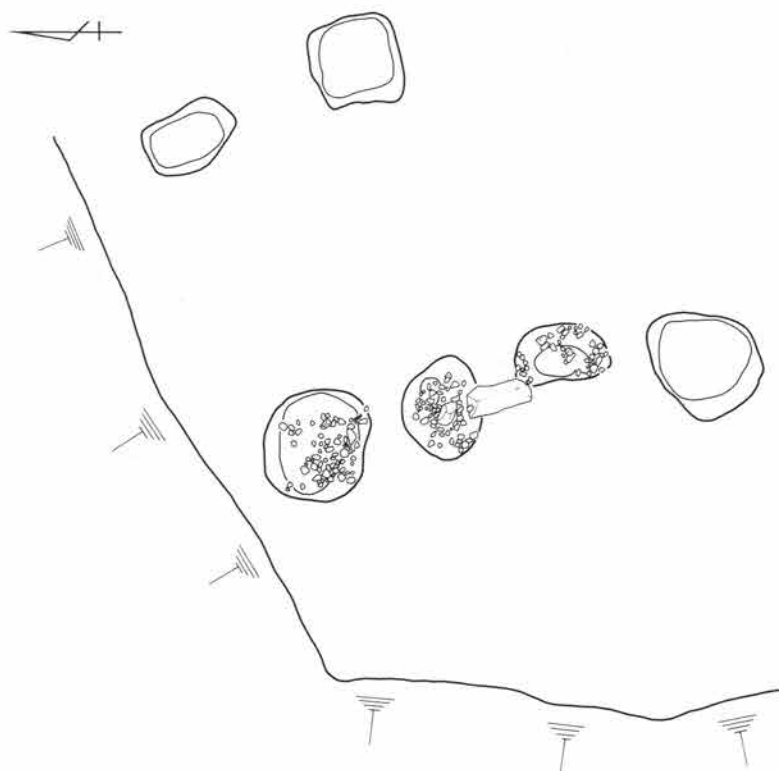
濠はこの館と調査区本線部分の間の畑地部分で検出された。おそらく濠埋没後に谷となり畑や水田に利用されたのであろう。館の東側を巻くように蛇流し、北側を天竜川の崖に接し、南川は浅い谷に流れ込むのであろう。この濠と天竜川、南側の浅い谷によって館は独立する。濠の規模は確認面で、最大幅約18.0m、底部の最小幅は約12.4mである。最深部と確認面との比高差は4.8mを測る。断面形は数段の狭いテラス状の肩を設け中位より急激に落ち、底面は薬研堀で水流のためか小穴が多い。断面の土層の観察によると上面は比較的砂礫層が多く、埋没過程での小流路を物語る。また、下位の土層は水による影響である酸化した層が看取されず、第1次埋没過程では水は流れてはいなかったのであろう。おそらく当時も恒常的な蓄水は行われておらず、急斜面のため雨などの際、水流が激しく底面の小穴を形成したのであろう。

付属施設としては前述した1、2号溝が本線部分で確認され、濠に直交するように注ぐ。その他、2号溝が接する南側に3基の集石遺構が検出された(357図)。等間隔に並び濠と平行することから、橋状遺構の橋脚を支える地業石の類ではなからうか。対岸の部分が調査区外のため判然としないが、濠を渡る施設として土橋以外にも木橋の存在は充分考えられ、また濠と2号溝の交わる部分であり、濠自体もさほど広くない箇所



356図 館濠

0 20m



357図 橋脚遺構

0 2m

第IV章 遺構と遺物

であることからこの遺構が橋脚に伴うものとしての可能性は高い。

出土遺物は、縄文時代中期の土器、石器が多数出土したが、該期を想起させる遺物は発見できなかった。従って、本館址・濠の詳細な時期は特定できないが、本遺跡の周辺は三原田城、八崎城、白井城址といった戦国時代所産の城址が各台地などの要所に築造されており、本館址も当該時期のものと考えられよう。

本館址・濠は今回の調査で新しく発見された城館址であり、従来の遺跡地図などには記されてはいなかった。当地域の中世城館址の存在は中世史とりわけ上杉氏の動向に深く関わっており、今回の館址の発見は今後当地域の中世史研究に三原田城、八崎城と併せて好資料を提供することになる。

2. 土壌 (358図)

中世の土壌は、古墳～平安時代の住居址と同様にF P面で検出した。いずれも、群としてまとまらず、土壌の性格などは特定できない。

35号土壌；調査区中央やや北西よりに検出された。36号土壌と重複しており、調査当初は18号住居址として名称して調査されたが、その後中世の土壌とした。平面形は方形を基調とした不整形を呈し、浅く、壙底面は凹凸を持つ。また、壙底面には小ピットが5基検出されたが、これらも浅く、柱穴などの施設としての機能

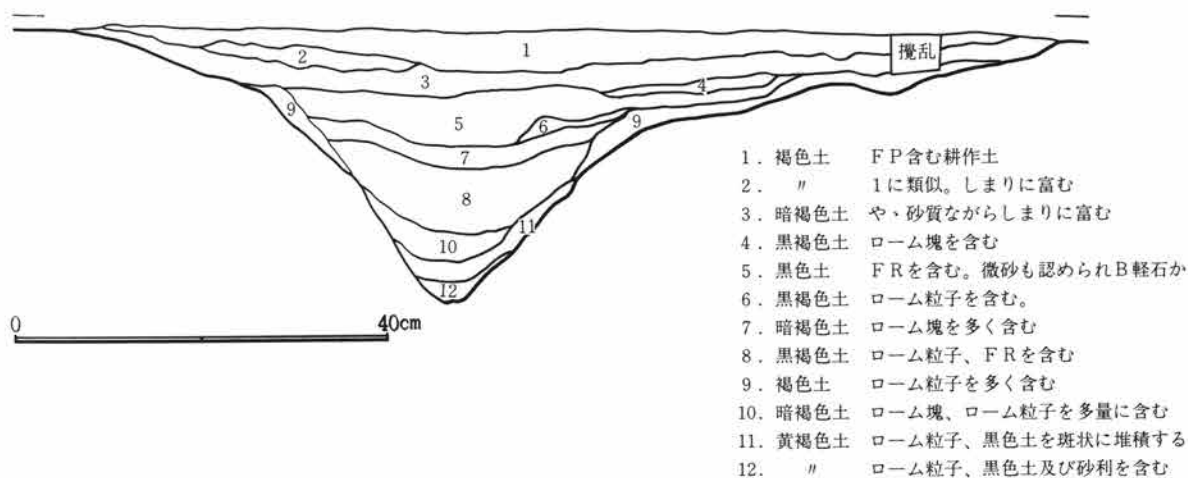
はなさないだろう。土層は、地山のF Pを混入した褐色土が主体に確認されたが、深度が浅いため埋没過程などは観察できなかった。遺物は古銭「開元□□」が出土した。「開元通寶」であろう (355図)。

36号土壌；35号土壌の南に重複して検出された。楕円状を呈す兆しを見せるが、35壙と同様に浅く、凹凸を持つ壙底面である。遺物は出土しなかった。

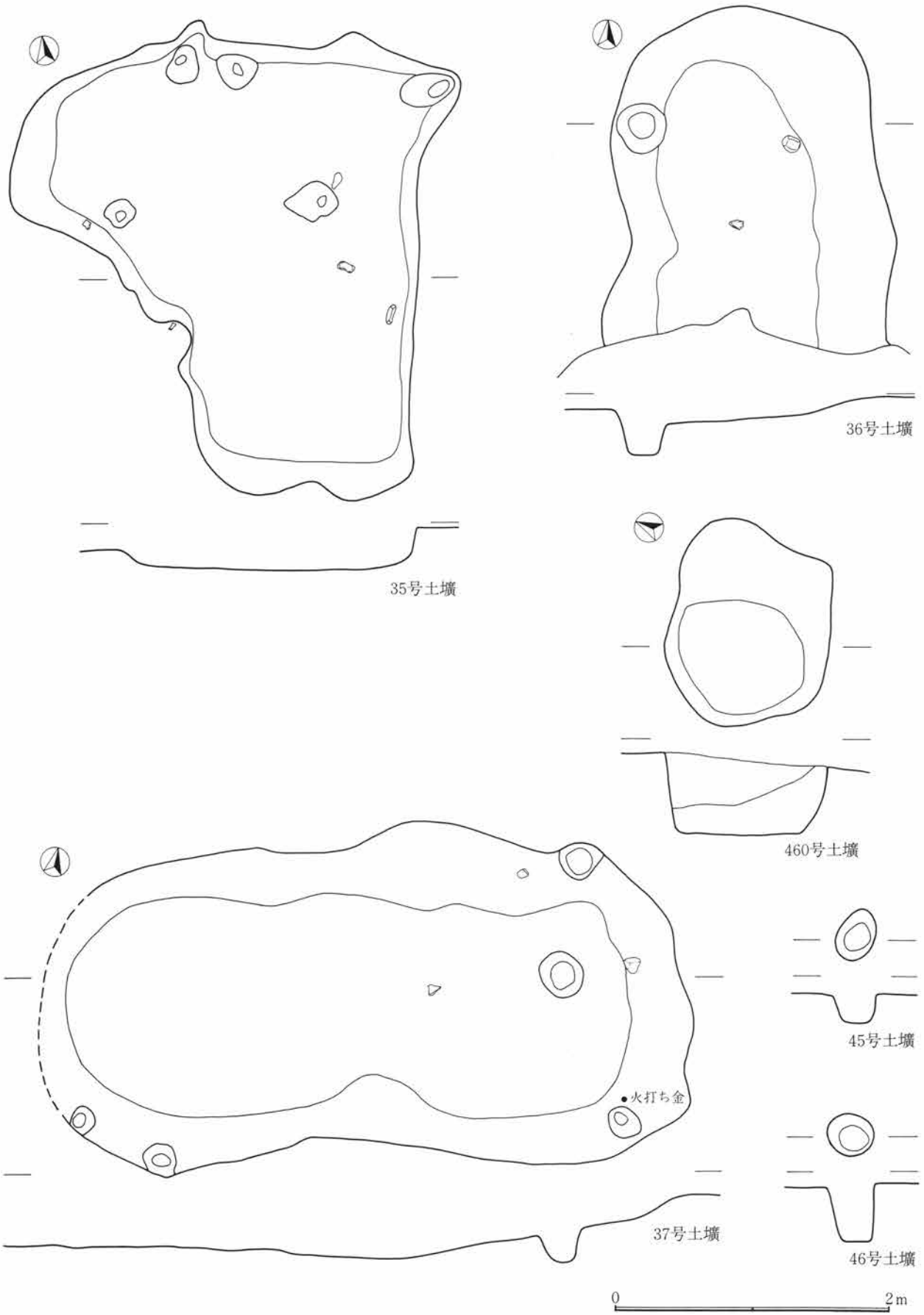
37号土壌；35号土壌北にやや距離を置いて検出された。長軸を東西に持つ不整形楕円状を呈し、断面形は浅い皿状である。壙底面東寄りに小ピットが検出されたが、性格は特定できない。土層はしまりの乏しい暗褐色土を主体に確認した。遺物は火打ち金が出土している (355図)。

460号土壌；本土壌はローム面で確認された。縄文時代の住居址である28号住居址南壁に重複して検出された。不整形円形を呈し、掘り込みはしっかりしている。壙底面は平坦で、壁の立ち上がりも直立に近い。土層は、F Pを多量に混入する暗褐色土が主体で、周辺の中世史研究に三原田城、八崎城と併せて好資料を提供することになる。

45・46号土壌；37号土壌の南側に散在して検出された小ピットである。周辺にも同様なピットが検出されたが、柵列、建物跡などのような規則性は無い。



358図 館濠北壁土層図



359図 古墳時代以降の土壇

第IV章 遺構と遺物

表2 土壌計測表

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
1	56C21	A 3 d	130×105×53	
2	56~57C23	C 3 d	126×90×34	
3・5	57~58C21	C 1 a	192×58×35	深鉢3浅鉢4
4	60C22	A 3 c	98×90×43	
5	欠番			
6	58C21~22	A 1 d	107×95×53	
7	59C21~22	A 4 d	110×92×66	深鉢1
8	59C20~21	C 2 a c	160×111×86	浅鉢1
9	58C20	A 4 d	100×85×28	
10	58C22	A 1 b	100×95×106	
11	59C20	A 3 e	135×-×36	
12	41~42B30	A 4 a	88×64×15	深鉢1
13	欠番			
14	56C19	A 1 c d	105×93×40	
15	56~57C17~18	A 1 b	83×70×66	
16	57C17~18	A 1 b d	103×95×87	
17	57~58C17	A 1 b d	123×110×80	深鉢1
18	58~59C17~18	A 3 a b	115×90×37	深鉢2
19	59C17~18	C 2 a b	105×86×56	深鉢1 浅鉢6鉢1
20	59C18~19	A 1 d	80×78×55	
21	60~61C17~18	A 1 a	70×58×100	
22	60C19	A 3 d	60×48×40	深鉢2
23	58C18~19	E 1 e	45×45×50	
24	57~58C19	E 2 e	49×40×30	
25	欠番			
26	〃			
27	〃			
28		A 4 e	93×72×25	
29		A 4 d	118×106×28	鉢1
30		A 3 a	96×82×40	深鉢2
31		A 4 e	86×82×19	
32		E 2 e	60×57×43	
33	欠番			
34	37C16~17	C 1 b	125×90×12	
35	58~60C2830	-	315×215×26	平安
36	59~60C30~31	-	-×190×20	平安
37	59~61C42~43	-	472×205×36	平安、浅鉢1
38	36~37C08~09	C 1 e	177×145×6	
39	40C00	E 2 e	65×65×20	
40	46~48B09~11	B a	-×-×35	深鉢12浅鉢5 盤台1
41	45~47B09~11	B b d	365×341×46	20住と重複
42	48~49B09~10	B d	262×220×44	〃
43	39B38	C 3 e	120×80×40	
44	38~39B38~39	C 1 e	145×38×38	
45	60C41~42	-	38×30×33	
46	60C41	-	35×32×40	
47	65B42	E 2 e	38×14×12	
48	62B37	A 2 e	200×180×38	
49	45~46B36~37	E 2 e	67×56×42	
50	56B42	C 1 e	72×54×40	
51	53~54B41~42	E 2 d	65×54×33	
52	54B41	E 1 e	38×36×48	
53	35C17~18	A 3 a b	144×115×22	浅鉢1
54	34~35C16~17	A 4 e	125×120×41	
55	35~36C16~17	C 1 e	170×120×16	
56	36~37C16~17	C 1 e	200×138×19	
57	37C16	A 4 e	120×108×23	
58	37~38C16~17	A 4 d	105×-×22	
59	37~38C16~17	A 4 e	123×-×39	
60	35~36C15	A 3 e	144×136×57	

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
61	36C14~15	C 1 e	102×82×18	
62	38~39C14~15	C 1 e	211×140×20	
63	34~35C13	A 4 e	170×147×38	
64	35~36C13~14	B e	305×240×21	
65	36~37C12~13	A 4 e	142×140×28	
66	35C12	E 1 e	(130)×90×45	
67	36C11	B e	205×175×15	
68	36~37C10~11	A 4 e	143×70×10	
69	35~36C10	A 4 e	130×108×12	
70	35C08~09	A 4 e	142×125×20	
71	36~37C09	A 4 e	105×90×11	
72	37~38C08	C 3 e	140×117×17	
73	37~38C07	C 3 e	150×110×17	
74	38C06~07	C 3 e	140×112×35	
75	37~38C05~06	C 3 e	205×179×13	
76	37~39C03~05	B e	256×240×15	
77	36C03~04	A 3 a b	157×145×46	深鉢1
78	34~35C03	C 3 e	110×-×34	
79	36~37C02~03	B e	200×195×20	
80	37C02~03	B e	220×190×21	
81		C 1 e	-×170×38	
82	36~37B49C00	C 1 e	-×160×27	
83	38~39C00~01	A 1 e	188×170×86	
84	39~40B49	C 3 e	156×105×20	
85	37B48~49	C 1 e	144×120×16	
86	36~37B48	A 4 e	132×110×32	
87	35~36B48~49	C 1 e	155×74×27	
88	34~35B46~47	A 2 a b	163×125×38	深鉢1
89	35~36B46~47	C 1 e	172×118×60	
90	37B46~47	C 3 e	100×84×10	
91	37B45~46	C 1 a b	216×125×34	浅鉢1
92	38~39B45~46	C 3	134×92×28	
93	41~42B45~46	C 3 d	152×150×26	
94	38B43~44	A 3 a	150×135×15	深鉢2
95	39~40B43~44	A 3 b	(270)×130×45	
96	37~38B42	C 3 e	92×73×52	
97		C 3 e	65×55×50	
98	38B41~42	C 3 e	159×60×11	
99	38B41	C 3 e	74×58×15	
100	38~39B41~42	C 3 e	147×119×16	
101	39B41	C 3 d	92×76×15	深鉢2
102	40B42~43	B e	205×165×33	
103	40B41	A 4 d	139×130×19	
104	40B40	C 3 e	96×83×16	
105	53B42	E 2 e	28×26×28	
106	53B40	E 2 e	46×31×32	
107	38B39	A 4 e	67×66×20	
108	38~39B38	C 3 d	115×114×37	
109	39~40B37~38	C 1 e	107×75×30	
110	39~40B37	A 3 a	131×123×35	深鉢1
111	40~41B34~35	A 1 d	377×230×130	
112	38B32~33	A 4 e	74×73×28	
113	39~40B33	C 1 e	141×101×20	
114	40B32~33	A 4 d	94×81×8	
115	38~39B31~32	C 1 e	198×117×20	
116	38~39B30~31	C 3 e	127×74×21	
117	40~41B31	A 4 e	82×82×11	
118	39~40B30~31	A 3 d	100×90×60	
119	59B43~44	E 1 d	46×46×48	
120	37~38B37~38	C 1 e	164×67×38	

遺構計側表

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
121	39B36~37	A 4 e	120×115×40	
122	38~39B36	C 1 d	106×82×11	
123	38B36	C 3 e	89×86×8	
124	38~39B33~34	A 3 a b	107×100×65	深鉢2
125	38~39B32~33	A 3 a b	111×86×54	深鉢2
126	40~41B35	A 1 a b	101×96×94	深鉢1浅鉢1
127	39~40B29~30	A 3 d	108×106×47	
128	39~40B28	A 3 e	—×113×53	
129	39B28~29	A 3 b d	—×115×46	
130	38B30	C 3 d	184×122×50	深鉢1
131	38~39B30	A 4 d	105×—×40	
132	40B31	C 1 e	112×87×23	
133	37B28~29	A 3 a	131×112×26	深鉢2
134	38~39B27	A 4 b d	104×96×32	
135	41B29	A 1 a b	86×60×50	深鉢2
136	39~41B27~28	C 2 b d	240×105×62	25住と重複
137	41~42B26	A 1 a	117×103×66	深鉢1
138	36~37B27	A 4 d	90×87×30	
139	57B43	E 2 e	53×42×40	
140	38B26~27	A 3 e	108×98×37	
141	38B25~26	A 3 e	130×106×30	27住と重複
142	40~41B44~45	A 3 a b	131×96×58	深鉢1浅鉢1
143	40~41B44	C 1 e	157×93×10	
144	41~42B42~43	C 1 e	150×135×8	
145	41B40	C 1 e	133×93×17	
146	41~42B36~37	C 3 e	155×150×35	
147	61B15~16	A 3 e	—×132×57	
148	60~61B16	C 3 d	155×140×33	
149	60B16~17	C 3 d	66×64×34	
150	60B16~17	A 4 b	111×90×23	
151	56~57B18~19	A 3 a	115×109×65	深鉢1
152	57~58B18~19	A 3 a b	105×95×61	浅鉢1
153	58~59B18~19	A 3 b d	149×135×63	
154	59B18	C 2 a	169×117×59	深鉢1
155	56B19~20	A 3 d	115×111×42	深鉢1
156	55~56B20	A 3 d	136×(125)×37	
157	54~55B20	A 3 a	136×131×42	深鉢1
158	54~55B20~21	A 3 e	—×93×34	
159	54B21	A 4 e	—×95×22	
160	54B20~21	E 1 d	51×—×77	
161	53B22	A 3 d	96×94×30	
162	56~57B23	C 3 e	132×95×20	
163	56~57B22~23	C 1 d	159×97×30	
164	57B22~23	E 2 e	65×65×26	
165	57B22	A 4 b d	80×70×39	
166	58B20~21	A 3 d	115×96×48	深鉢2
167	37B24	A 3 d	128×102×53	26住と重複
168	60~61B19~20	C 1 b	140×101×36	
169	59~60B25~26	C 1 e	180×127×12	
170	58B24	A 4 e	75×67×16	
171	56~57B24~25	C 1 d	170×121×18	
172	56B25~26	A 3 d	89×87×32	
173	55~56B25	A 4 d	94×68×25	
174	53~54B25	C 3 e	124×105×31	
175	57B26	A 4 d	95×93×19	
176	60~61B41	E 2 e	56×54×32	
177	63B44	C 1 e	126×50×9	
178	57~58B28	C 3 e	138×119×15	
179	59B28	A 4 e	117×114×21	
180	58B29	C 1 b	184×145×30	
181	57~58B29~30	C 3 e	88×79×14	
182	59~60B30	A 4 e	160×127×26	

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
183	59B30~31	C 3 e	—×67×43	
184	57~58B30~31	A 4 a b	130×125×45	深鉢1
185	60~61B31	C 1 e	214×136×59	
186	56~57B29~30	C 3 e	106×70×15	
187	55~56B31~32	C 3 b d	263×118×24	
188	54B30~31	C 1 e	136×108×10	
189	53~54B31~32	C 3 e	143×80×13	
190	52B30	C 3 d	72×68×20	
191	53B28~29	A 3 c d	160×155×61	
192	55B19~20	C 3 e	131×80×25	鉢1
193	51~52B17	C 1 d	218×—×42	深鉢2
194	64B44~45	E 2 e	42×33×24	
195	63~64B43	E 1 e	35×35×60	
196	63B42	E 2 e	38×35×17	
197	47B19~20	A 3 d	147×138×40	
198	50B19	C 2 a b	125×83×40	深鉢2
199	65B45	E 1 e	47×38×60	
200	43~44B23	C 1 e	110×100×22	
201	43~44B24~25	A 4 e	80×68×20	201・203堀 浅鉢1
202	64B44	E 1 d	42×35×43	
203	49B26	A 1 d	90×84×33	
204	49B26~27	A 1 a	78×78×29	深鉢1
205	48~49B27	A 4 e	82×75×13	
206	46B26	A 4 e	64×53×12	
207	46B25~26	C 3 d	86×64×30	
208	45~46B26~27	A 4 a	123×115×18	浅鉢1
209	44~45B26~27	A 3 e	—×121×25	
210	44~45B27	C 3 d	107×81×22	
211	44B27	A 4 e	71×65×5	
212	42~43B26~27	C 1 e	137×92×11	
213	42~43B27	C 3 d	109×73×48	
214	42B28~29	A 3 a b	133×124×42	深鉢1 突起1
215	42~43B28	C 3 e	—×72×18	
216	43B28	C 1 e	123×87×20	
217	42~43B29	A 3 b	88×75×43	
218	43B30	A 3 b d	106×101×57	
219	43B29~30	—	128×—×40	
220	45B28~29	A 3 a b	103×101×57	深鉢1
221	45B28~29	A 4 e	—×100×26	
222	47B27	E 2 e	39×38×20	
223	47~48B27~28	A 3 b	91×86×51	
224	50B27~28	A 2 a b	90×84×56	深鉢2浅鉢2
225	50B29	E 2 e	53×44×24	
226	49~50B28	A 1 e	89×82×55	
227	48~49B29	C 3 d	141×110×31	深鉢2
228	48B28	A 1 b	110×108×60	
229	47~48B28~29	C 1 b	175×115×44	
230	47B29	A 4 e	118×106×38	
231	45B30~31	A 4 d	86×83×25	
232	45B31~32	A 1 a b	105×105×50	深鉢1
233	44~45B31	A 4 d	96×—×19	
234	44~45B31~32	A 3 b d	105×102×32	浅鉢1
235	44B31	C 3 e	116×—×37	
236	44B31	A 4 a	100×86×21	深鉢1
237	43~44B30~31	A 3 e	75×72×17	
238	} 43~44B31	C 3 e	—×70×15	
239		C 3 e	—×50×23	
240	43B31~32	A 4 e	75×73×17	
241	42~43B32~33	C 3 d	146×113×42	
242	} 43~44B34~35	C 3 e	—×101×34	
243		C 3 e	—×106×38	
244	46B34~35	A 4 a b	84×83×47	深鉢1

第IV章 遺構と遺物

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
245	46B33~34	A 1 d	152×148×102	
246	47B31~32	C 1 e	141×90×24	
247	48B32	A 4 e	92×87×25	
248	49B32~33	A 3 d	140×113×40	
249	54B37~38	E 2 d	37×34×11	
250	49~50B32	A 3 d	88×81×27	
251	50B31~32	A 3 d	85×70×21	
252	51B31	E 2 e	69×52×17	
253	54~55B29	- b	-×150×30	
254	43~44B29	C 3 b d	97×76×38	
255	59~60B32~33	B a b	203×197×45	深鉢1
256	65B44	E 1 e	50×48×40	
257	66B44	E 1 e	42×36×32	
258	46~47C25	C 3 d	116×108×38	
259	45~46C25	C 3 d	90×84×46	
260	66B43	E 2 e	54×46×7	
261	65B42	E 2 e	52×42×30	
262	57B34	C 3 e	95×90×35	
263	56B34	C 3 e	101×-×15	
264	55~56B34	C 3 e	-×90×20	
265	44~45C27	E 1 e	202×120×13	
266	62~63B35	A 4 e	104×89×16	
267	62~63B35~36	C 1 e	167×135×24	
268	62~63B36~37	A 3 e	122×-×40	
269	61~62B36~37	C 3 e	148×121×29	
270	60B36	A 3 d	119×88×57	
271	60B37~38	A 4 d	113×100×30	
272	59~60B39	A 4 d	117×90×18	
273	59~60B37~38	C 1 b	260×116×34	
274	58~59B36	C 1 e	167×124×30	
275	57~58B35~36	A 3 e	141×135×45	
276	64~65B42~43	A 4 e	84×79×27	
277	58B37	C 3 e	129×111×50	
278	57~58B38	C 1 b	165×142×21	
279	58~59B39	A 3 a b	136×124×31	浅鉢1
280	55~56B38	C 1 e	166×120×18	
281	56~57B36~37	A 1 a b	102×87×37	深鉢1
282	55~56B36	A 3 a b	97×88×29	深鉢1
283	55~56B35~36	A 4 b	91×72×20	
284	54B35	C 3 d	130×83×13	
285	52~53B35~36	A 3 d	180×136×50	
286	51~52B36~37	C 3 e	160×113×13	
287	52B37	C 3 e	128×107×24	
288	54B38~39	C 3 e	104×67×22	
289	48~49B38~39	C 3 d	140×94×15	
290	50~51B37~38	C 1 d	173×104×23	
291	48B36~37	A 3 a	146×130×35	深鉢1
292	47~48B35~36	A 4 a	106×86×46	深鉢2
293	47~48B36~37	C 3 d	126×-×35	
294	47~48B36~37	A 3 a b	124×115×44	深鉢1
295	45B37	A 4 e	83×82×38	
296	45B37	A 3 e	121×105×23	
297	44B38	C 3 e	82×50×20	
298	44~45B42~43	C 1 e	200×96×23	
299	46~47B40~41	A 1 a b	148×144×110	深鉢3浅鉢2
300	47B40	A 4 e	115×87×20	
301	48B40~41	E 2 e	62×46×14	
302	48~49B40	A 4 d	140×114×33	
303	45~46B43	C 3 e	174×102×46	
304	46~47B42~43	C 3 e	130×95×27	
305	48B42~43	C 3 e	175×94×30	
306	42~43B43~44	C 1 e	148×108×23	

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
307	46~47B44	E 2 e	70×60×22	
308	47B44~45	A 4 e	105×95×23	
309	50~51B41~42	A 4 e	90×82×11	
310	50B39~40	C 2 a b	115×89×71	深鉢3
311	52B40~41	A 4 e	117×96×15	
312	68B47	E 1 e	54×40×48	
313	53B40	A 3 c d	90×83×34	
314	54B40~41	A 3 b d	107×101×35	
315	54~55B41~42	E 2 e	47×45×18	
316	53~54B44	A 3 d	107×104×29	
317	55B41	A 3 b	117×87×40	
318	55~56B42~43	A 4 d	128×104×23	1号大石
319	56B41	E 2 e	56×50×15	
320	57B41	A 4 e	123×114×16	
321	59~60B42	C 3 e	87×75×21	
322	68B45	E 2 e	50×48×14	
323	68B45	E 2 e	43×40×27	
324	60~61B43~44	B d	195×192×55	浅鉢1
325	61B40~41	C 1 e	145×98×27	
326	62B43~44	C 3 e	100×98×42	
327	62~63B44	C 3 e	83×57×40	
328	63B43~44	C 3 e	145×114×20	
329	67B45	E 1 e	50×44×57	
330	63B42	C 3 d	109×67×20	
331	63~64B41	A 4 e	110×85×28	
332	64~65B41~42	A 2 b d	131×116×70	深鉢1
333	64B42~43	A 2 b d	136×114×84	深鉢1
334	67B41~42	A 3 d	83×75×31	
335	67B42~43	A 3 d	103×93×26	
336	66~67B43	A 3 e	120×111×20	
337	67B43~44	E 2 d	40×36×35	
338	68B43~44	A 1 c d	126×111×49	
339	69B46	E 2 e	77×62×13	
340	69B46~47	E 2 e	51×40×15	
341	68B46	A 1 b d	98×90×57	浅鉢1突起1
342	69B46	A 1 a b	98×80×39	深鉢3
343	68~69B46~47	A 1 a b	110×103×50	深鉢2
344	67~68B46	A 2 e	78×75×52	
345	68~69B47~48	A 1 b d	93×76×44	
346	67~68B47~48	C 3 e	81×80×13	
347	68B48	E 2 d	60×31×23	
348	69~70B49	A 2 b d	114×101×48	
349	66~67B47	A 4 a	88×80×18	深鉢1
350	欠番			
351	65B45	A 4 e	135×102×29	2号大石
352	66B48~49	A 4 a	78×77×16	深鉢2
353	66B49	A 4 e	86×80×26	
354	64~65B48~49	A 4 e	107×96×18	
355	64~65B48	A 2 d	106×91×54	
356	64B47	C 3 d	-×50×17	浅鉢1 357重複
357	63~64B46~47	A 3 a b	110×107×50	深鉢2 356重複
358	62~63B45~46	A 3 e	114×102×34	
359	65B49	E 2 e	38×34×13	
360	61B45	C 1 e	127×105×30	
361	61B46	A 4 a b	94×94×20	深鉢3
362	60B45~46	C 3 b	109×85×22	
363	59B46	C 3 e	92×92×25	
364	59B47~48	C 3 e	81×54×40	
365	59~60B48	E 2 d	62×55×17	
366	(58B46)	E 2 e	37×31×42	
367	65~66B48	E 2 e	54×44×41	
368	60B47	E 2 e	25×24×17	深鉢1

遺構計側表

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
369	55~56B44~45	A 3 a b	81×66×28	浅鉢1
370	55B44~45	A 1 e	93×85×40	
371	53C00	A 4 e	80×70×66	
372	55C00	A 4 b	115×91×20	
373	55~56B48	A 1 d	139×125×64	
374	54B49C00	A 1 d	128×116×53	
375	53~54B49	C 1 e	165×91×22	
376	54B48~49	A 4 e	90×72×26	
377	53~54B47~48	C 3 e	77×66×16	
378	53B47~48	A 3 a	122×96×32	深鉢2浅鉢1
379	53B46~47	C 3 e	93×82×49	
380	48~49B46	C 1 e	245×110×10	
381	48~49B44~45	A 3 e	138×114×40	
382	51~52B45	E 2 e	70×65×25	
383	51~52B47~48	C 1 e	190×162×40	
384	51~52B48~49	C 1 e	176×100×14	
385	49B48	A 4 e	144×115×25	
386	66B47~48	E 2 e	33×25×23	
387	50B46~47	A 4 e	128×90×18	
388	48B48	C 3 e	124×105×23	
389	47B45~46	C 3 e	141×85×14	
390	44~45B47	C 3 e	75×73×28	
391	43~44C01~02	C 1 e	131×109×17	
392	44~45C03	A 4 e	140×134×42	
393	47B49C00	C 3 e	110×72×32	
394	49B49	A 4 e	125×110×10	
395	49~50B49C00	A 4 b d	190×163×18	
396	49C00~01	A 4 e	117×99×18	
397	51~52B49C00	C 3 e	80×55×16	
398	}52~54C00~02	C 1 e	—×140×15	
399		C 1 e	—×165×15	
400	53~54C01~02	A 4 b d	127×117×16	
401	54C02~03	E 2 e	54×52×30	
402	54~55C02	A 1 b d	112×100×69	深鉢1
403	55C01~02	A 2 b d	122×90×78	
404	54~55C02~03	A 1 e	136×95×70	
405	63~64B47~48	E 1 e	34×34×57	
406	55~56C04	A 4 b d	144×138×32	
407	57C04	E 2 d	56×50×26	
408	58~59C04~05	A 1 b d	112×102×41	
409	59~60C04~05	A 4 d	100×92×6	
410	59~60C03~04	C 2 e	115×85×58	
411	58~59C03	C 3 e	91×72×8	
412	60~61C02~03	C 3 e	90×81×18	
413	61C01~02	A 3 e	95×90×25	
414	60~61C03	C 2 a b	160×120×63	深鉢1
415	61C04	A 3 e	95×82×34	
416	62C04	A 3 d	100×89×20	
417	62~63C04	A 3 e	86×80×8	
418	62C03	C 1 e	108×70×30	
419	63C03	A 3 b d	93×89×37	深鉢1
420	63C02	A 3 e	95×82×57	
421	63C02~03	A 4 b	63×57×16	
422	62~63C01	A 3 e	107×100×13	
423	65B46	E 2 e	34×33×13	
424	64C01	A 1 d	118×98×48	
425	64~65C01~02	A 4 a b	83×81×20	深鉢1
426	65C02	A 3 d	94×90×23	
427	65C02~03	A 3 e	98×94×32	
428	65C02~03	A 4 a	108×94×23	
429	65~66C02~03	A 4 a b	102×100×17	浅鉢1
430	65~66C01~02	C 2 b d	188×112×37	

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
431	65~66C01	A 4 e	76×70×13	
432	65~66B44~C00	A 2 b d	97×93×50	
433	66~67C00	A 2 d	120×95×42	深鉢1
434	68C00	A 4 e	71×61×30	
435	68C00~01	A 1 e	96×84×31	
436	68~69C00	A 1 d	144×111×60	
437	69C00~01	A 3 e	74×70×17	
438	55C05	A 4 e	103×100×8	
439	55~56C05	A 4 e	92×90×16	
440	51~52C05	A 4 e	131×123×20	
441	49C06	A 2 e	95×80×52	
442	46C06~08	C 2 e	345×151×23	
443	46C05~06	E 2 e	45×42×17	
444	欠番			
445	44~45C05~06	D e	194×110×120	陥し穴
446	43C08~09	D e	171×97×116	
447	45C12	C 3 e	92×83×15	
448	51C11	C 1 e	120×81×53	
449	欠番			
450	55C09	C 1 e	110×86×27	
451	50B38	A 4 e	103×97×18	深鉢1
452	50~51B36	C 1 e	147×115×21	
453	44B43	C 3 e	60×41×50	
454	47B41	A 2 a	101×100×67	深鉢2
455	欠番			
456	44~45B45~46	C 1 e	170×113×45	
457	63B46	E 1 e	46×37×61	
458	62B47~48	E 1 e	36×34×67	
459	60~61B13~15	B d	288×245×36	浅鉢1
460	56~57B14~15	—	148×115×70	中近世土壌
461	58~59B14	A 1 a b	95×86×77	深鉢1 32住上重複
462	58B48	E 1 e	40×37×55	
463	49~50B23	A 3 a b	110×102×33	深鉢2
464	48B23~24	A 3 a b	109×100×31	深鉢1
465	47B23~24	A 3 d	126×108×42	
466	47~48B22~23	C 1 a b	—×120×17	浅鉢1
467	}48~49B22~23	A 3 d	100×—×29	
468		A 3 b d	92×—×45	浅鉢1
469	57C05	E 2 e	67×53×35	
470	56B19	A 3 a	121×113×49	深鉢2
471	60~61B47~48	E 1 e	44×38×70	
472	50B37	E 2 e	83×62×45	
473	63B41~42	E 1 e	50×44×52	
474	48~50B36~37	B e	491×356×15	
475	47B34	E 2 d	65×55×23	
476	50~51B29	E 2 d	60×44×37	
477	53B38	E 1 e	44×36×98	
478	61B14~15	C 3 e	97×—×—	
479	61~62B16~18	A 3 a c	244×143×80	深鉢2
480	58~59B16	A 3 d	170×130×45	
481	59B20~21	A 2 a b	110×74×46	深鉢1
482	60B21	A 1 d	87×78×27	
483	欠番			
484	52~53B18	C 1 a b	149×112×31	深鉢2浅鉢1
485	欠番			
486	50B25~26	A 3 b	107×102×38	
487	56B44	E 1 e	48×48×50	
488	60B46	E 1 e	42×41×57	
489	58B46	E 1 e	36×35×52	
490	54B33~34	A 4 e	99×77×15	
491	欠番			
492	44B30	C 1 e	151×116×37	

第IV章 遺構と遺物

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
493	47B38~39	A 2 b	115×98×50	
494	60~61B41	E 2 d	56×40×32	
495	55~56B48	E 2 d	73×41×36	
496	57B45	E 2 e	48×46×21	
497	60~61B41	E 1 e	80×51×27	
498	64B44	C 1 d	44×-×38	
499	64B44	C 1 e	38×-×38	
500	60~61C12	C 1 e	129×78×27	
501	61C12~13	E 1 e	52×48×70	
502	61C13	E 1 e	51×41×47	
503	62C13	A 4 e	85×83×27	
504	62C13	E 1 e	59×58×62	
505	62C15	A 1 e	89×-×50	
506	61~62C15	A 1 e	-×78×57	
507	61C14~15	E 1 e	59×57×56	
508	61C14	A 4 e	100×91×40	
509	60C13	E 1 e	53×42×127	
510	59~60C13	A 2 b d	108×97×74	511重複
511	58~59C13~14	C 1 e	202×168×28	510重複
512	60C13	A 1 a b	112×93×101	深鉢1
513	59~60C13~14	A 1 a	117×103×47	深鉢1
514	60C15~16	A 3 e	103×84×60	
515	60~61C17	E 2 d	46×40×13	
516	60C16	E 2 e	30×-×20	
517	60C16	E 1 e	50×-×72	
518	60C16	E 1 e	59×57×46	
519	59~60C15	E 1 e	27×26×48	
520	59C15~16	C 3 e	124×-×16	
521	58C17	E 2 e	25×17×23	
522	58~59C15~16	E 1 e	87×57×66	
523	58~59C15	A 4 d	152×137×36	
524	59C15	A 2 d	86×72×47	
525	59C17	E 1 e	20×9×32	
526	57~58C15~16	C 1 e	245×146×33	
527	} 56~57C14~15	C 3 e	76×-×20	
528		C 1 e	310×-×35	
529		C 3 e	80×-×25	
530	55C14	A 2 a b	130×119×66	深鉢1
531	57C14~15	A 4 d	87×86×18	
532	56~57C14	C 3 e	82×70×30	
533	54~55C14~15	A 1 a	99×98×40	深鉢2
534	56C14	E 2 e	30×26×19	
535	56~57C15~16	C 3 e	155×129×65	
536	54~55C16~17	C 1 e	256×131×25	
537	55~56C15	E 2 e	28×18×13	
538	55C15	E 2 e	31×29×30	
539	55C16	E 2 e	36×33×36	
540	56~57C16	E 2 e	29×20×29	
541	55~56C18	A 1 b d	135×109×77	深鉢1
542	54C15	E 2 e	39×37×22	
543	54C15	E 2 e	38×27×30	
544	54C15	E 1 d	37×35×38	
545	54C15	E 1 e	47×37×40	
546	53C16	E 2 e	38×30×25	
547	52C15	A 4 e	104×86×27	
548	52~53C16	C 3 e	61×58×45	
549	51~52C16	C 1 e	166×121×45	
550	51C16	E 1 e	35×32×37	
551	56B45	E 2 e	46×32×17	
552	52C17	E 2 e	48×27×38	
553	51C17	E 1 e	43×28×44	
554	51C17	E 1 e	31×16×35	

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
555	51C17	E 2 e	35×29×16	
556	51C17	E 1 e	26×25×27	
557	49C17	E 1 e	61×60×34	
558	50C18	A 1 d	126×118×48	浅鉢1
559	50~51C18~19	C 1 e	193×105×20	
560	52~53C17~18	C 3 e	187×187×20	
561	53C17	E 2 e	30×19×22	
562	54C18	C 3 e	82×67×14	
563	53~54C19	A 1 a b	102×92×60	深鉢2
564	52~53C19	A 4 e	175×121×28	
565	52C19	E 2 e	60×55×25	
566	52~53C20	C 3 e	85×-×20	
567	48~49C18	C 3 e	140×90×40	
568	49C19	E 2 e	29×24×9	
569	49C19	E 1 e	36×34×51	
570	48C19	E 1 e	28×23×31	
571	49C19	E 2 e	39×25×16	
572	50C20	C 3 e	70×55×42	
573	49C20	A 4 b	102×94×35	
574	49C20	E 2 e	27×19×20	
575	49C20~21	A 1 e	98×84×35	
576	47~48C20	E 2 e	31×23×25	
577	46~47C21~22	C 1 d	162×116×36	
578	47~48C18~19	A 3 e	106×95×17	
579	47C18~19	A 3 e	135×-×22	
580	44C20	A 3 c	110×84×16	
581	43~44C20~21	C 3 d	-×98×11	
582	52~53B49	C 1 e	62×42×13	
583	46~47C22~23	C 1 d	180×123×37	
584	48C21	E 2 e	31×22×15	
585	48C21~22	A 1 a b	100×93×56	深鉢10浅鉢1
586	48~49C22~23	A 4 e	80×67×36	
587	49~50C23	A 4 e	60×55×34	
588	49C23	C 3 e	80×56×13	
589	49C24	A 3 e	120×105×40	
590	50~51C21	A 3 e	75×74×20	
591	49~50C22	A 3 e	75×69×40	
592	51~52C22~23	A 4 e	141×132×55	
593	51~52C22	C 3 e	86×52×8	
594	52C22	A 4 e	74×69×14	
595	52~53C22	C 3 e	69×47×28	
596	55C20	E 2 e	42×35×15	
597	51C23	E 2 e	32×26×26	
598	51C23~24	A 1 a b	110×100×56	袖珍1 599重複
599	51C24	A 3 e	120×-×32	598重複
600	51C24~25	A 3 a b	117×107×35	深鉢1袖珍1
601	55~56C19	A 1 e	142×79×71	
602	欠番			
603	56C21~22	A 1 d	92×75×50	
604	54C21	E 2 e	35×29×20	
605	54C21	E 2 e	54×50×10	
606	53C21	E 2 e	77×45×31	
607	53C21~22	E 2 e	48×38×9	
608	53C23	E 2 e	38×29×15	
609	53C24	E 2 e	31×26×15	
610	53C24	E 1 e	33×30×65	
611	54C24	A 4 e	63×46×16	
612	54~55C24	E 2 d	37×27×38	深鉢1
613	54B47~48	C 1 e	150×72×15	
614	59C03	A 4 d	58×55×12	
615	58C03	A 4 e	46×46×11	
616	54C25	C 3 e	88×57×20	

遺構計側表

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
617	63C04	E 2 e	44×35×21	
618	53~54C27	C 1 e	215×155×19	
619	62C03	E 2 e	50×32×12	
620	51~52C26	C 3 e	90×48×21	
621	50~51C26~27	C 1 e	137×115×6	
622	51~52C26~28	C 1 e	309×141×32	
623	64C00	E 1 e	45×40×31	
624	54~55C24	A 3 e	108×72×38	
625	49C26~27	A 3 a c	93×91×34	深鉢1
626	49~50C26~27	A 4 e	72×63×42	
627	49~50C26	E 2 b	46×41×25	
628	49C26	A 4 d	62×51×20	
629	49C25~26	A 4 e	60×56×30	
630	49C25~26	E 2 e	54×44×25	
631	48C26	A 4 a b	122×120×20	深鉢2
632	49C24~25	C 3 e	56×45×11	深鉢2
633	63B49	E 2 e	56×54×22	
634	46~47C26	A 4 d	113×107×43	
635	欠番			
636	43~44C35	C 1 d	192×122×9	
637	42~43C31~32	C 1 e	120×70×26	
638	45C26~27	A 4 c d	100×85×18	
639	46B32	E 1 e	52×36×16	
640	45C25~26	C 1 e	190×107×18	
641	49B29	E 2 e	60×45×35	
642	} 46~47C24~25	A 4 e	90×—×28	
643		C 1 e	—×104×33	
644	47C24	C 3 e	97×95×18	
645	47C23	A 3 a c	135×—×35	546重複 深鉢3
646	46~47C23	A 3 a b	111×—×38	645・828重複
647	46C23	C 1 e	125×97×31	
648	45~46C25~26	C 1 d	127×96×21	
649	45C23~24	C 3 d	97×92×17	
650	45C23~24	A 4 b	74×63×26	
651	44~45C24~26	C 1 d	277×124×20	
652	44C24~25	A 3 d	107×99×25	
653	45C40~41	C 3 b	81×80×18	
654	46C40~41	C 3 b	132×106×14	
655	43~44C23	A 2 c d	120×110×71	
656	46~47C40	E 2 e	56×43×22	
657	43C21~22	A 3 b	113×102×40	深鉢1
658	56C16	E 2 e	46×28×8	
659	41C22	E 2 e	72×55×20	
660	41C23	E 2 d	42×38×15	深鉢1
661	46C47~48	A 4 d	110×100×4	深鉢1
662	41C24	E 2 e	68×54×38	
663	40~41C24~25	A 1 c d	230×162×68	
664	41C25~26	A 3 c d	110×110×58	
665	49C29	C 3 d	83×70×11	
666	46C48	E 2 e	41×39×15	
667	52C30~31	C 3 e	102×75×25	
668	53~54C30	C 1 e	118×93×11	
669	50C17	E 2 e	35×30×16	
670	55~56C24	A 1 e	114×87×55	
671	53~54C31~32	C 1 e	—×115×14	
672	54C32	C 1 e	—×100×22	
673	50C19	E 2 e	46×40×10	
674	57~58C31	C 1 e	147×124×33	
675	57C32~33	E 2 e	73×67×40	
676	53C16	E 2 e	44×32×30	
677	55~56C34~35	C 1 e	95×67×22	
678	54~55C35~36	C 3 e	207×109×24	

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
679	54C35	E 1 e	41×41×39	
680	54C15	E 2 e	46×38×22	
681	57C36	C 3 e	91×76×34	
682	58C36~37	C 3 e	90×75×16	
683	58C36~37	C 3 e	133×—×24	
684	58~59C36~37	A 4 e	92×75×22	
685	59C39~40	C 1 e	236×138×32	
686	53C15	E 1 e	36×30×41	
687	60C40	C 3 e	97×74×15	
688	54C22	E 1 e	36×27×55	
689	53C20~21	E 1 e	30×28×42	
690	47D00	E 2 e	43×33×9	
691	56C40	A 1 e	95×85×77	
692	55~56C40~41	A 3 e	141×134×62	
693	55~56C42	A 2 e	126×112×68	
694	56~57C42	A 1 e	146×122×59	
695	47C42~43	A 4 e	82×76×20	
696	53C20	A 4 e	96×—×20	
697	52C19	C 3 e	—×58×26	
698	58~59C40~41	C 1 e	203×121×44	
699	44~45C42~43	C 1 e	151×99×53	
700	55~56C43~44	C 1 e	223×135×42	
701	57~58C43~44	C 1 e	145×137×23	
702	54~55C18	C 1 e	106×42×11	
703	54C18	E 2 e	32×25×11	
704	52C20	E 2 e	25×25×22	
705	45C43	C 3 e	95×89×20	
706	43~44C44	A 3 e	112×84×58	
707	46~47C44~45	C 1 e	116×85×30	
708	52C20	E 2 e	30×28×28	
709	52C19~20	E 2 e	38×36×16	
710	50D00	E 2 e	43×36×15	
711	50D01	E 2 e	57×47×6	
712	50~51C22	C 3 e	64×34×62	
713	50C22	E 2 e	28×24×15	
714	48~49C22	E 2 e	42×35×16	
715	49C21	E 1 e	42×37×51	
716	48C20	E 2 e	38×30×21	
717	49~50D02	E 2 e	43×38×13	
718	49D02~03	E 2 e	48×38×12	
719	50C20	E 1 e	47×34×60	
720	47C33~34	C 1 e	124×96×25	
721	49~50C34	A 4 e	119×106×21	
722	50C20	E 2 e	46×32×17	
723	53~54C32~33	C 1 e	210×118×27	
724	43~44C23~24	A 3 a c	137×134×33	深鉢4浅鉢2
725	54~55B18~19	A 3 e	143×133×38	
726	55B21~22	A 2 e	100×87×40	
727	55~56B21	A 4 e	—×108×38	
728	57~58B17	A 4 e	108×90×18	
729	51~52B19~20	A 1 a	100×90×48	深鉢1
730	64~65C08~09	A 4 e	109×97×27	
731	64~65C09	C 3 e	—×33×7	
732	65C11	A 3 e	106×103×50	
733	65C11	E 2 e	60×—×40	
734	64~65C10	A 3 a c	106×—×72	深鉢3 735・ 737重複
735	64~65C09~10	C 3 e	—×—×6	734・736重複
736	65~66C10	C 2 a	176×102×48	深鉢2 735重複
737	64C10	A 2 b d	82×80×57	734重複
738	61C11	A 2 a b	96×85×58	深鉢3浅鉢1
739	63~64C11~12	A 3 a b	174×109×50	深鉢2
740	63~64C10~11	A 3 a	(240)×160×74	深鉢2

第IV章 遺構と遺物

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
741	60~61C10~11	A 1 e	98×90×70	
742	60C09	C 3 d	140×—×40	
743	59~60C10	A 3 d	110×—×48	
744	59~60C10~11	A 1 a b	—×91×72	深鉢2器台1
745	59~60C11	A 2 b d	111×—×64	
746	57C11	A 1 d	120×102×73	
747	50~51C12~13	D e	222×170×56	陥し穴
748	59~60C09~10	C 3 e	(94)×(85)×42	
749	61C10~11	A 4 e	90×87×37	
750	67C03	A 1 a	75×—×18	深鉢1
751	67C03	E 2 d	58×55×16	
752	66C03	E 1 e	60×48×75	
753	66~67C05	E 2 d	65×58×27	
754	65C05	E 1 e	48×47×76	
755	64~65C05	A 4 d	95×93×21	
756	65C06	E 2 d	60×55×30	
757	67C07~08	E 2 d	75×65×18	
758	62~63C10~11	A 3 d	100×91×56	36住と重複
759	69~70C07~08	D e	125×117×67	陥し穴
760	42C19~20	A 4 e	106×—×43	762重複
761	41~42C19~20	A 3 a b	97×—×39	深鉢3 762重複
762	41~42C19~20	A 2 a	105×—×45	深鉢1 761・ 760重複
763	42C18	A 3 a c	106×92×30	深鉢1
764	41~42C18	C 3 e	90×68×30	
765	40~41C19~20	A 3 e	80×75×27	
766	41C21	A 1 b	75×72×50	
767	40~41C21	A 2 c d	145×135×65	深鉢1
768	42C20~21	A 4 e	72×48×23	
769	43~44C16~17	A 1 c d	113×110×40	深鉢1
770	44C16	E 1 e	52×47×61	
771	43~44C17~18	C 1 e	118×95×8	
772	49~50D03~04	C 1 e	156×68×20	
773	50~51C19	E 2 e	51×50×14	
774	46C21	E 2 e	28×26×31	
775	47~48C22	E 2 e	37×30×26	
776	47C21	E 1 e	48×41×55	
777	48~49C21	E 2 e	55×41×22	
778	47C19	E 2 e	28×23×48	
779	50~51C25	E 2 e	34×25×10	
780	50C25	E 2 e	43×41×22	
781	50~51C25	C 1 e	98×64×9	
782	51~52C24	E 2 e	30×25×27	
783	52C22~23	C 3 e	83×78×12	
784	51C24	E 2 e	28×20×35	
785	50C24	E 2 e	37×28×18	
786	50C24	E 2 e	26×24×30	
787	48D08~09	D e	110×56×70	陥し穴
788	50C24	E 2 e	30×29×29	
789	48C25	C 3 e	108×57×16	
790	48C23	E 1 e	55×43×56	
791	48C23	C 3 e	71×51×18	
792	49C23	E 2 e	31×25×10	
793	64C06~07	E 1 e	48×40×63	
794	50~51D11	A 4 e	152×128×22	
795	47~48D12~13	C 3 e	56×56×30	
796	42~43C18~19	E 2 e	—×46×23	
797	40~41C20	E 2 e	44×38×17	
798	55~56C21	E 2 e	29×26×27	
799	53C23	E 1 e	25×20×62	
800	53~54C24	E 2 e	36×34×12	
801	54C24	E 2 e	51×41×30	
802	54C24	E 2 e	57×47×36	

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
803	54C23	E 2 e	60×38×15	
804	53~54C23	C 3 e	170×125×17	
805	53C23	E 2 e	56×32×25	
806	54C25	E 2 e	53×32×45	
807	54C28	E 2 e	38×37×15	
808	53C28	E 2 e	27×23×29	
809	52C27	E 2 e	31×29×27	
810	56C25~26	E 2 e	65×57×15	
811	55C26	E 2 e	49×47×15	
812	54~55C25~26	E 2 e	47×45×25	
813	55C25	C 3 e	75×60×16	
814	55C25	E 2 e	54×50×26	
815	55C25	E 2 e	40×37×23	
816	55C25	C 3 e	77×36×20	
817	55C24	C 3 e	81×60×8	
818	55~56C24	E 2 e	37×26×25	
819	55C23~24	E 2 e	41×31×38	
820	55C23	E 1 e	31×24×40	
821	55C23	E 2 e	43×40×13	
822	55C23	E 1 e	35×28×37	
823	55C23	E 2 e	42×—×13	
824	43~44C34	C 3 e	80×66×44	
825	44C32~33	A 4 e	106×95×19	
826	45~46C24~25	C 3 e	(91)×75×8	
827	45C24~25	C 3 e	—×—×13	
828	47~48C23	A 3 e	108×90×37	646重複
829	46C23	E 2 e	54×45×25	
830	55C39	C 3 e	64×63×17	
831	59~60C39~40	A 4 e	87×82×11	
832	45C34	C 2 e	135×116×31	
833	49~50C33	A 4 e	163×149×16	
834	48C30~31	E 2 e	36×36×33	
835	66C09	A 4 e	73×63×12	
836	65~66C07~08	E 1 e	57×51×90	
837	65C07	E 1 e	36×29×65	
838	64C11~12	C 3 e	92×—×48	
839	64~65C11	C 3 e	80×58×17	
840	64C10	A 4 e	69×67×22	
841	64C10	E 1 e	66×55×59	
842	63~64C09~10	E 2 e	50×41×15	
843	56C11	E 1 e	36×27×43	
844	56C10	E 2 e	50×35×31	
845	55C10	E 2 e	34×31×35	
846	50~51C13	C 3 e	95×82×10	
847	49~50C13	C 1 e	143×122×18	
848	41~42C20	A 4 e	74×65×7	
849	41C20	E 2 e	32×26×21	
850	41C20	E 2 e	65×40×42	
851	43C19	C 3 e	—×81×44	
852	42~43C18~19	C 3 e	—×102×29	
853	42C19	E 2 e	39×32×16	
854	42C19	E 2 e	36×31×24	
855	43C16~17	E 1 e	57×52×84	
856	60C10	E 1 e	31×29×44	
857	53C14	E 2 e	28×28×10	
858	54C13	E 2 e	30×29×35	
859	53C13	C 3 e	59×42×12	
860	50~51C36~37	A 4 e	123×120×13	
861	51~52C33~34	A 4 e	105×97×40	
862	49~50C16	A 4 e	69×57×45	
863	49C15~16	E 1 e	53×45×81	
864	50C15	E 1 e	60×55×73	

遺構計測表

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
865	51C15	E 2 e	43×38×11	
866	51C15	E 2 e	37×32×20	
867	51C15	C 3 e	80×75×28	
868	51C14	E 2 e	57×44×23	
869	51C14	E 2 e	33×32×10	
870	50~51C14	E 2 e	51×45×20	
871	51B37	E 2 e	47×32×20	
872	49~50B34~35	E 2 e	37×32×27	
873	50B34	E 2 e	27×24×16	
874	49B33	E 2 e	24×21×10	
875	49B33	C 3 e	54×36×22	
876	57B45	E 1 e	42×36×36	
877	36~37C31~32	B a	213×190×20	浅鉢1
878	36~37C32~33	C 3 e	123×-×29	
879	34~35C33~34	C 1 e	193×136×36	

番号	位置	形状	規模(cm) 長×短×深さ	遺物等備考
880	38~39C32~33	B e	187×167×10	
881	35~36C35~36	C 3 e	284×126×41	
882	36C34	C 3 e	76×50×17	
883	39~41D46~47	A 4 e	130×-×21	
884		C 1 e	-×115×15	
885	39C46	E 2 e	65×-×20	
886	38~39D16~17	A 3 e	99×98×36	
887	37~38D17	A 3 e	125×123×70	
888	37D17~18	D d	129×75×78	陥し穴
889	57~58D39~40	A 4 e	120×112×28	
890	52~53D41~42	A 3 e	185×175×76	
891	54D40~41	A 3 e	141×140×17	
892	60~61D37~38	A 3 e	120×120×17	
893	46B06~07	A 3 a	139×128×41	深鉢1浅鉢1 21住と重複
894	47C27	A 2 a	124×91×75	深鉢1 34住と重複

表3 住居址計測表

番号	位置	形状	規模(cm) 長・短・深さ	重複遺構	遺存状態	遺物	時期
1号住居址	60~61C23~27	円形	400×-×70	北に円形の遺構	良好	土器13、石鏃2、打製石斧7	縄文中期
2	62~64C12~14	隅丸長方形	354×310×64		良好	坏1、甕6	平安時代
3	53~55C21~23	隅丸長方形	440×334×46		良好	土釜1、羽釜4	平安時代
4	49~51C35~37	隅丸長方形	504×390×43		良好	坏4、塊6、羽釜2	平安時代
5	56~59B29~32	隅丸長方形	460×346×555		良好	土釜2、羽釜4	平安時代
6	39~43B15~18	方形	504×-×60		不良	坏1、甕2	古墳時代
7	52~54B14~16	方形	412×392×49	33住	やや不良	坏9	平安時代
8	54~58B10~14	方形	(740)×(680)×76	10住	不良	坏5	古墳時代
9	51~54B9~12	——	(480)×(460)×25.5		不良	坏1、塊1、土釜1、羽釜2	平安時代
10	54~58B10~14	——	(514)×(460)×24		不良		平安時代
11	49~51B15~17	——	(450)×(440)×44.8	8住	不良		平安時代
12	39~42D19~21	長方形	420×310×24.5		やや良好	坏1、甕1	平安時代
13	56~58C49~D02	隅丸長方形	380×320×61.1		良好	坏1、塊3、甕1	平安時代
14	57~59C43~45	隅丸長方形	466×410×36.2		良好	坏6、塊5、甕5	平安時代
15	56~58C40~42	隅丸長方形	474×340×36.0		良好	坏14、塊8、甕11、羽釜1	平安時代
16	36~37C48~50	長方形	440×-×33.0		やや良好	坏1	平安時代
17	49~52D05~07	隅丸長方形	420×330×65.0		良好	坏2、甕1、羽釜1、土釜2	平安時代
18 欠番	——	——	——	——	——	——	——
19	59~61C43~45	隅丸長方形	380×280×32.0		良好	坏4、塊1、土釜1	平安時代
20	49~53C05~08	不整円形	550×520×36.0	22住、北壁に土壌	良好	土器37、石鏃4、石匙1、打製石斧36	縄文中期
21	46~49B07~09	円形	556×510×113.5	40~42、893号土壌	やや良好	土器48、石鏃2、打製石斧45	縄文中期
22	49~53C05~08	不整円形	600×-×84.0	20住	良好	土器1、石鏃1、石匙1	縄文中期
23	38~40B22~24	不整円形	470×410×37.0		良好	土器13、打製石斧4、磨石凹石1	縄文中期
24	57・58C26・27	円形	334×324×22.0		良好	土器2、打製石斧5	縄文中期
25	40~42B27~29	円形	460×440×72.0	135、136号土壌	良好	土器5、打製石斧4	縄文中期
26	35~38B23~26	円形	450×-×37.5	27住、167号土壌	やや良好	土器5、打製石斧5、磨石凹石1	縄文中期
27	35~38B23~26	円形	370×-×38.5	26住、141号土壌	やや良好	打製石斧4、敲石1、磨石凹石1	縄文中期
28	56~58B15~17	隅丸方形	(496)×(440)×23.5	32住、460号土壌	やや不良	土器5、打製石斧1、磨石凹石2	縄文中期
29	49~51B20~23	円形	484×426×46.0	南壁に土壌	良好	土器1、打製石斧5、磨製石斧1	縄文中期
30	57~58D28~29	円形	368×334×25.0		良好		縄文中期
31	55~57D09~10	円形	390×332×59.0		良好		縄文中期
32	57~59B14~15	円形	(360)×(344)×34.0	28住、461号土壌	不良	土器1、打製石斧5	縄文中期
33	51~53B14~16	小判形	432×324×41.0	7住	不良	打製石斧3	縄文中期
34	46~48C29~30	円形	468×450×58.0	894号土壌	良好	土器16、石鏃3、打製石斧9	縄文中期
35	56~58C27~30	楕円形	586×470×52.0		良好	土器6、打製石斧8、石皿1	縄文中期
36	62~64C10~11	不整楕円形	420×360×29.0	758号土壌	良好	土器3、石鏃2、打製石斧1	縄文中期

第IV章 遺構と遺物

表4 縄文時代住居址土層註

1号住居址 L=268.50m		2 暗褐色土 S P粒、ローム粒含む。しまりはやや乏しい
1 暗褐色土	ローム粒を多く含む。しまりはやや乏しい	3 // ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい
2 黒褐色土	ローム粒を斑状に混入する。しまりは良好	4 黒褐色土 黒色土塊主体。ローム塊を斑状に含む
3 黒色土	ローム粒、炭化物を含む。しまりは乏しい	
4 黒褐色土	炭化物、ローム塊を含む。//	
5 暗褐色土	ローム塊を主体とする。しまりはやや乏しい	
20号住居址 L=264.10m		30号住居址 L=273.10m
1 黒色土	包含物少なく均質。	1 暗褐色土 小礫を含む。粘性、しまりは乏しい
2 黒色土	S P粒多く含みやや明るい。遺物を包含する	2 黒褐色土 S P粒、砂粒、焼土粒を含む。しまりは良好
3 暗褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい	3 褐色土 ローム塊、炭化粒を少量含む
4 褐色土	ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい	4 // ローム塊を多く含む。S P粒、炭化粒を極微量含む
		5 // ローム粒を多く含む。不均質でしまりは乏しい
21号住居址 L=263.70m		6 暗褐色土 ローム粒、砂粒含む。砂質でしまりは乏しい
1 黒色土	S P粒少量含む。しまりは乏しい	7 // 炭化粒含む。しまりはやや乏しい
2 //	S P粒を多量に含む。しまりはやや乏しい	8 // 砂粒多く含み砂質、やや明るい
3 黄褐色土	ローム塊主体。壁崩壊土か	9 褐色土 ローム粒多量に含む。粘性、しまりは良好
4 暗褐色土	S P粒を少量含みやや暗い。しまりは良好	10 // 9に類似。しまりはやや乏しい
5 //	褐色土塊を多く含む。しまりはやや乏しい	11 // 9に類似。礫を含む
6 黄褐色土	ローム塊を主体とする	
7 //	ローム粒を多量に含む。しまりはやや乏しい	31号住居址 L=271.30m
22号住居址 L=263.70m		1 黒褐色土 黒味を帯びる。礫を含みしまりは乏しい
1 黒褐色土	包含物少なく均質。しまりは良好	2 暗褐色土 砂礫、炭化粒を少量含む。しまりはやや乏しい
2 //	S P粒を多量に含む	3 黒褐色土 大型の礫、炭化物を多く含み、しまりは良好
3 暗褐色土	ローム粒を多く含む。しまりは乏しい	4 暗褐色土 ローム塊を少量含む。粘性、しまりは乏しい
4 明褐色土	ローム粒を主体とする。しまりはやや良好	5 // 砂粒を少量含む。粘性、しまりは良好
23号住居址 L=267.50m		6 黒褐色土 砂粒、炭化粒を少量含む。しまりは良好
1 黒褐色土	ローム粒、炭化粒を少量含む。しまりは乏しい	7 // 礫を少量含みやや明るい。しまりはやや乏しい
2 暗褐色土	ローム粒、炭化物を含む。しまりはやや乏しい	8 // ローム塊、炭化粒を少量含む。しまりは良好
3 黄褐色土	ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい	9 // 炭化粒含む。しまりは良好
24号住居址 L=268.50m		10 黒褐色土 砂粒、ローム粒、炭化物を微量含む。均質
1 黒色土	ローム粒、炭化物を含む。しまりは乏しい	32号住居址 L=266.10m
2 黒褐色土	ローム塊、炭化物を多く含む。しまりは乏しい	33号住居址 L=265.80m
3 黄褐色土	ローム塊主体の層。しまりは良好	1 暗褐色土 S P粒を多量に含む。しまりは良好
4 暗褐色土	ローム粒を多量に含む。しまりはやや乏しい	2 // ローム塊多量に含む。しまりはやや良好
25号住居址 L=268.20m		34号住居址 L=269.30m
1 暗褐色土	炭化物を少量含む。しまりは乏しい	1 黒褐色土 礫、S P粒、炭化物、小型のローム塊を含む。
2 //	ローム粒少量含む。粘性、しまりは良好	2 暗褐色土 S P粒、大型のローム塊を多く、炭化物を少量含む
3 褐色土	ローム粒を多量に含む。やや砂質	3 // S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは良好
26・27号住居址 L=267.90m		4 // S P粒、ローム塊を多く、炭化物を少量含む。
1 暗褐色土	S P粒少量含む。しまりは良好	5 // S P粒、ローム塊、大型の炭化物を少量含む。
2 黒褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好	6 // S P粒、少量のローム粒を含み暗い。
3 //	ローム粒を多く含みやや明るい。しまりは乏しい	7 黒褐色土 S P粒、ローム塊を少量含みやや明るい。しまりは良好
4 暗褐色土	S P粒、黒色土塊を含む。しまりは乏しい	8 黄褐色土 S P粒を多量に含む。しまりはやや乏しい
5 褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりはやや乏しい	9 // S P粒、ローム粒、黒色土塊を含む。しまりは良好
28号住居址 L=266.10m		35号住居址 L=268.70m
1 暗褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい	1 黒色土 S P粒を少量、黒褐色土塊を混入。しまりは良好
2 //	焼土、炭化粒を含む。粘性弱くしまりは良好	2 黒褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む
3 //	ローム塊含む。粘性、しまりは良好	3 // ローム塊を含む。しまりは乏しい
4 黒褐色土	S P粒、炭化粒を含む。しまりは良好	4 // S P粒を多量に含む。しまりはやや乏しい
5 黄褐色土	不均質。S P粒混じりのローム塊が点在	5 褐色土 ローム粒を多量に含む。しまりはやや乏しい
6 暗褐色土	極微量の炭化粒含む。しまりは良好	
7 //	S P粒を多く含む。しまりは乏しい	36号住居址 L=267.30m
8 //	S P粒、焼土粒を多く含む。しまりは良好	1 黒褐色土 S P粒、炭化物を含む。粘性弱、しまりは良好
9 //	8層に類似。やや明るい	2 // 焼土塊含む。しまりは良好
10 黄褐色土	ローム塊を主体とする	3 暗褐色土 炭化物、焼土粒を少量含む。しまりはやや良好
29号住居址 L=267.00m		4 // 小型のローム塊を含む。しまりはやや乏しい
1 黒褐色土	S P粒を多量にローム粒を少量含む	5 // 均質。ローム粒を少量含む。
		6 // ローム塊を多量に含む。しまりは良好
		7 // S P粒、ローム粒を少量含む。しまりはやや良好
		8 黄褐色土 ローム塊を主体とする。やや暗い
		9 暗褐色土 ローム塊を少量含む。しまりはやや乏しい
		10 黄褐色土 ローム粒、暗褐色土塊を含む。しまりは良好

表5 土層土層註

1号土層 L=268.30m	1 黒褐色土 ローム粒、炭化物を少量含む	2 //	炭化物を多く含む	3 //	SP粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい	4 //	ローム粒、炭化物を含みやや明るい	5 褐色土	大型のローム塊を多量に含む	
2号土層 L=268.50m	1 黒色土	炭化物を少量含む	2 黒褐色土	ローム塊、炭化物を微量含む	3 //	ローム塊を多く含む。しまりは良好				
3, 5号土層 L=268.40m										
4号土層 L=268.30m	1 黒色土	ローム粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい	2 黒褐色土	円礫を多く、ローム粒、炭化物を少量含む	3 //	炭化物を多量に含む				
6号土層 L=268.20m	1 黒褐色土	ローム粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい	2 暗褐色土	ローム塊を含む。しまりはやや乏しい	3 黒褐色土	ローム粒少量含む	4 //	ローム塊、炭化物を含む	5 暗褐色土	褐色土塊を含む。しまりは良好
7号土層 L=268.10m	1 褐色土	ローム粒、炭化物を少量含む	2 //	ローム塊、炭化物を含む。しまりはやや乏しい						
8号土層 L=268.10m	1 黒褐色土	炭化物を少量含む。しまりは良好	2 暗褐色土	小型のローム塊を含む。しまりは乏しい	3 黒褐色土	ローム粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい	4 褐色土	ローム粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい	5 褐色土	ローム塊を含む
	6 暗褐色土	ローム粒を多く含む	7 黄褐色土	ローム粒主体の層						
9号土層 L=268.00m	1 黒色土	炭化物を少量含む。しまりは乏しい	2 黒褐色土	ローム粒、炭化物を少量含む	3 黄褐色土	ローム塊主体の層				
10号土層 L=268.20m	1 黒褐色土	ローム粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい	2 //	ローム粒、炭化物を少量含む。しまりは良好	3 暗褐色土	SP粒、小型のローム塊を含む	4 黒褐色土	大型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい		
11号土層 L=268.20m										
12号土層 L=265.90m	1 黒褐色土	SP粒、ローム粒を含む。しまりは良好	2 暗褐色土	ローム塊を多く含む。しまりは乏しい						
14号土層 L=268.20m										
15, 16号土層 L=268.10m	1 黒褐色土	SP粒、炭化物を若干含む	2 //	1に類似。SP粒を多く含む	3 黄褐色土	SP粒、ローム粒主体	4 黒色土	SP粒、炭化物を含む		
5 褐色土	SP粒、ローム塊を含む									
17号土層 L=268.10m	1 黒色土	ローム粒、炭化物を少量含む	2 黒褐色土	SP粒、ローム塊を若干含む	3 黄褐色土	ローム粒を多く含む				
18号土層 L=267.80m										
19号土層 L=267.90m	1 黒褐色土	ローム粒、炭化物を若干含む	2 //	1に類似。やや暗い	3 //	遺物、炭化物を多く含む	4 //	3に類似。やや暗い	5 褐色土	ローム粒を多量に含む
20号土層 L=267.90m										
21号土層 L=268.10m	1 褐色土	ローム粒、炭化物を若干含む	2 //	1に類似する。やや明るい	3 //	ローム塊、炭化物を含む	4 黄褐色土	SP粒、ローム塊を多く含む		
22号土層 L=268.10m			23号土層 L=268.10m							
24号土層 L=268.10m			28号土層 L=265.70m							
29号土層 L=265.70m			30号土層 L=265.70m							
31号土層 L=265.70m			32号土層 L=265.70m							
34号土層 L=268.70m			35号土層 L=268.50m							
36号土層 L=268.50m			37号土層 L=269.80m							
38号土層 L=268.50m			39号土層 L=268.30m							
40~42号土層 L=264.0m	1 黒色土	ローム粒、炭化粒を若干含む	2 黒褐色土	ローム塊、炭化粒を少量含む	3 //	ローム塊が斑状に堆積する				
43号土層 L=267.90m			44号土層 L=268.70m							
45号土層 L=269.60m			46号土層 L=269.50m							
47号土層 L=266.10m										
48号土層 L=267.80m	1 暗褐色土	SP粒を多く含む	2 黄褐色土	ローム塊を含む	3 暗褐色土	SP粒、ローム塊を多く含む	4 //	SP粒を多量に含む		
49号土層 L=266.40m	1 暗褐色土	少量のSP粒、炭化物を含む	2 //	SP粒、ローム塊を多く含む	3 黄褐色土	ローム塊主体の層				
50号土層 L=267.00m			51号土層 L=267.10m							
52号土層 L=267.10m										

第IV章 遺構と遺物

53号土壌 L=258.70m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒色土 | 均質な層。ややしまりに乏しい |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 3 | 黄褐色土 | ローム塊を多く含む |

54号土壌 L=268.70m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒色土 | 均質な層。軟質 |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム粒を微量含む |
| 3 | 暗褐色土 | ローム粒、黒色土塊を混入する |
| 4 | 黄褐色土 | ローム粒を多量に含む |

55号土壌 L=268.90m

56号土壌 L=268.40m

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を含む |
| 2 | 黄褐色土 | ローム粒を主体にする |

57号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 黒色土 | 均質でややしまりに乏しい |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を含む |
| 3 | 黄褐色土 | ローム粒を多量に含む |

58号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒色土 | ローム粒を極微量含む |
| 2 | 暗褐色土 | ローム塊、黒色土塊が混在する |
| 3 | 黄褐色土 | ローム塊主体 |

59号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|--------------------|
| 1 | 黒色土 | 包含物少ない均質な層 |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 3 | 暗褐色土 | ローム塊を多く含む |
| 4 | 黄褐色土 | ローム粒を主体としややしまりに乏しい |

60号土壌 L=286.70m

61号土壌 L=268.70m

62号土壌 L=268.60m

63号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒色土 | 均質で包含物少ない |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 3 | 暗褐色土 | ローム塊を多く含む |

64号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を多く含む |

65号土壌 L=268.60m

66号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 暗褐色土 | ローム塊、黒色土塊を含む |
| 3 | 黄褐色土 | ローム粒を主体とする |

67号土壌 L=268.60m

68号土壌 L=268.60m

69号土壌 L=268.60m

70号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 黄褐色土 | ローム塊を多量に含む |

71号土壌 L=268.50m

72号土壌 L=268.50m

73号土壌 L=268.50m

74号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を少量含む。しまりは乏しい |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム塊を多く含む |
| 3 | 〃 | S P粒、ローム粒を多量に含みやや明るい。しまりは良好 |

75号土壌 L=268.50m

76号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 褐色土 | S P粒、ローム粒を含む |
| 3 | 暗褐色土 | ローム塊を多く含む |

77号土壌 L=268.40m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒色土 | 均質で包含物は少ない |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 3 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を含む |
| 4 | 褐色土 | ローム粒を多く含む |

78号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒、黒色土塊を含む |
| 3 | 黄褐色土 | ローム粒主体の層 |

79号土壌 L=268.50m

80号土壌 L=268.40m

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム粒、黒色土塊を含む |
| 2 | 黄褐色土 | ローム粒主体の層 |

81号土壌 L=268.50m

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 黒色土 | 均質な層。包含物は少ない |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒、黒色土塊を含む |
| 3 | 黄褐色土 | ローム塊主体の層 |

82号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|-----------|
| 1 | 黒色土 | S P粒を少量含む |
| 2 | 黒褐色土 | ローム粒を少量含む |
| 3 | 暗褐色土 | ローム粒を多く含む |
| 4 | 黄褐色土 | ローム粒主体の層 |

83号土壌 L=268.30m

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 黒褐色土 | 少量のローム粒を含む |
| 2 | 黒色土 | S P粒、ローム塊を含む |
| 3 | 暗褐色土 | ローム粒、黒色土塊を含む |
| 4 | 黄褐色土 | ローム粒主体の層 |

84号土壌 L=268.30m

85号土壌 L=268.20m

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を含む |
| 2 | 黄褐色土 | ローム塊主体の層 |

86号土壌 L=268.20m

- | | | |
|---|------|-----------|
| 1 | 黒褐色土 | ローム塊を多く含む |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒を含む |
| 3 | 黄褐色土 | ローム粒主体の層 |

87号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を含む |
| 2 | 黄褐色土 | ローム粒主体の層 |

88号土壌 L=267.50m

- | | | |
|---|------|----------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を多く含む |
|---|------|----------------|

土 層 註

2	暗褐色土	大型のローム塊を含む
3	〃	やや明るい。ローム塊を多く含む
4	褐色土	ローム粒を含みややしまりに乏しい

89号土壌 L=268.50m

1	黒色土	ローム塊を含む
2	黒褐色土	少量のSP粒を含む
3	暗褐色土	ローム粒を多く含む

90号土壌 L=268.30m

91号土壌 L=268.60m

1	黒褐色土	SP粒、ローム粒を含む
2	黒色土	大型のローム塊を含む。やや明るい
3	褐色土	ローム粒を多く含む。しまりは乏しい

92号土壌 L=268.40m

1	黒褐色土	SP粒、ローム粒を少量含む
2	暗褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む
3	褐色土	ローム粒主体の層

93号土壌 L=268.10m

1	黒色土	包含物の少ない均質な層
2	黒褐色土	ローム粒を多く含む
3	褐色土	しまりの乏しい層
4	黄褐色土	ローム塊主体の層

94号土壌 L=268.60m

1	暗褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む
2	褐色土	ローム粒を多量に含む
3	黄褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む

95号土壌 L=268.50m

96号土壌 L=268.60m

1	黒褐色土	SP粒を多量に含む
2	暗褐色土	均質で、粘性・しまりともに良好
3	黄褐色土	硬質ローム塊
4	褐色土	ローム漸移層

97, 98号土壌 L=268.60m

1	褐色土	ローム粒を多量に含む
2	〃	ローム塊を含む
3	黄褐色土	ローム塊を多量に含む
4	黒褐色土	やや暗く、ローム粒を多量に含む

99号土壌 L=268.60m

1	黒色土	均質な層。しまりも良好
2	暗褐色土	ローム粒を含む
3	黄褐色土	ローム塊主体の層

100号土壌 L=268.60m

1	黒褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む
2	暗褐色土	ローム粒を多く含む

101号土壌 L=268.60m

1	黒色土	少量のSP粒を含む
2	黄褐色土	ローム粒主体の層

102号土壌 L=268.50m

1	黒褐色土	少量のローム粒を含む
2	暗褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む
3	黄褐色土	ローム粒主体の層

103号土壌 L=268.50m

1	黒色土	SP粒、ローム粒を微量含む
2	褐色土	ローム粒主体の層

104号土壌 L=268.50m

1	黒色土	SP粒、ローム粒を微量含む
2	褐色土	ローム粒主体の層

105号土壌 L=267.20m

106号土壌 L=267.10m

107号土壌 L=268.50m

1	黒色土	SP粒、ローム粒を含む
2	黒褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む
3	黄褐色土	ローム塊主体の層

108号土壌 L=268.50m

1	黒褐色土	SP粒、ローム粒を含む
2	暗褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む
3	〃	ローム粒を多く含む
4	黄褐色土	ローム塊
5	褐色土	ローム粒主体の層

109号土壌 L=268.60m

110号土壌 L=268.60m

111号土壌 L=268.40m

1	黒色土	ローム粒を少量含む
2	黒褐色土	ローム塊を多く含む
3	褐色土	SP粒、ローム粒を少量含む
4	黒褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む
5	暗褐色土	SP粒、ローム粒を多量に含む。しまり良好
6	褐色土	ローム塊が斑状に堆積する
7	黄褐色土	ローム塊
8	褐色土	ローム粒主体の層
9	黄褐色土	大型のローム塊を多量に含む
10	〃	ローム塊と暗褐色土塊の斑状堆積

112号土壌 L=268.60m

1	黒色土	SP粒、ローム粒を少量含む
2	暗褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む
3	黄褐色土	ローム塊主体の層

113号土壌 L=268.40m

1	黒褐色土	SP粒、ローム粒を少量含む
2	〃	ローム塊を含む

114号土壌 L=268.30m

1	黒褐色土	SP粒、ローム塊を少量含む
2	暗褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む

115号土壌 L=268.50m

116号土壌 L=268.50m

117号土壌 L=268.40m

118号土壌 L=268.50m

1	黒褐色土	SP粒、炭化物を含む
2	暗褐色土	ローム塊を多く含む
3	黒褐色土	1に類似するが混入物は無く緻密
4	褐色土	ローム粒子を多く含む

119号土壌 L=266.60m

120号土壌 L=268.80m

121号土壌 L=268.60m

122号土壌 L=268.60m

123号土壌 L=268.70m

第IV章 遺構と遺物

124号土壌 L=268.60m

- | | | |
|---|------|---------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒を少量含む。ややしまりに乏しい |
| 3 | 〃 | S P粒、小型のローム塊を少量含む |

125号土壌 L=268.50m

- | | | |
|---|------|-------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒を少量含む |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を多量に含む。しまりに乏しい |
| 3 | 〃 | 2に類似。やや暗い |

126号土壌 L=268.40m

- | | | |
|---|------|-------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒を微量含む。しまりに乏しい |
| 2 | 〃 | S P粒を少量含む |
| 3 | 暗褐色土 | ローム塊を含む |
| 4 | 黒褐色土 | S P粒を多く含む |
| 5 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を多く含む |

127号土壌 L=268.40m

- | | | |
|---|------|-----------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒を少量含む |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム塊を多量に含む |
| 3 | 黄褐色土 | ローム塊を主体とする |
| 4 | 暗褐色土 | 2に類似するがやや暗い |

128, 129号土壌 L=268.20m

- | | | |
|---|------|-----------------|
| 1 | 黒色土 | S P粒を若干含む |
| 2 | 〃 | S P粒を含む |
| 3 | 〃 | 2に類似。やや暗い |
| 4 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を多量に含む |
| 5 | 黒褐色土 | S P粒を多く含む |
| 6 | 黄褐色土 | ローム塊である |
| 7 | 黒褐色土 | ローム塊を多く含む |
| 8 | 暗褐色土 | ローム粒を多く含む |

130号土壌 L=268.50m

- | | | |
|---|------|-----------|
| 1 | 黒色土 | 腐食土。攪乱層か |
| 2 | 黒褐色土 | S P粒を多く含む |

131号土壌 L=268.50m

- | | | |
|---|------|-----------|
| 1 | 黒褐色土 | ローム粒を若干含む |
| 2 | 〃 | S P粒を含む |

132号土壌 L=268.50m

- | | | |
|---|------|-------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒を少量含む。しまりに乏しい |
| 2 | 〃 | ローム塊を含む。やや粘質 |

133号土壌 L=268.20m

- | | | |
|---|------|------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム塊を含む。ややしまりに乏しい |
| 2 | 黄褐色土 | 小型のローム塊を主体とする |

134号土壌 L=268.00m

- | | | |
|---|------|-----------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒を多く含む |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒を多く含む |

135号土壌 L=268.30m

136号土壌 L=268.10m

137号土壌 L=268.00m

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム粒を含み、明るい |
| 2 | 〃 | S P粒を少量含む |
| 3 | 〃 | S P粒、ローム塊を含む |
| 4 | 黄褐色土 | ローム粒を主体とする |

138号土壌 L=268.00m

- | | | |
|---|------|-----------|
| 1 | 暗褐色土 | 混入物少なく、均質 |
| 2 | 〃 | やや暗い |

139号土壌 L=266.70m

140号土壌 L=268.00m

- | | | |
|---|------|---------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を微量含む |
| 2 | 〃 | 小型のローム塊を少量含む |
| 3 | 暗褐色土 | ローム塊を多く含む。ややしまりに乏しい |

141号土壌 L=268.00m

- | | | |
|---|------|---------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好 |
| 2 | 暗褐色土 | 小型のローム塊を少量含む |
| 3 | 黒褐色土 | 大型のローム塊を多く含む |

142号土壌 L=268.30m

143号土壌 L=268.30m

144号土壌 L=268.30m

145号土壌 L=268.30m

146号土壌 L=268.30m

147号土壌 L=265.90m

- | | | |
|---|------|-------------|
| 1 | 黒色土 | ローム塊を少量含む |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒を多く含む |
| 3 | 〃 | S P粒の混入が目立つ |

148号土壌 L=265.90m

- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 暗褐色土 | 均質。包含物少ない |
| 2 | 〃 | ローム粒を含む |
| 3 | 〃 | S P粒、ローム塊を含む |
| 4 | 褐色土 | 3に類似する |

149号土壌 L=265.90m

- | | | |
|---|------|-------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 均質。包含物少ない |
| 2 | 〃 | 小型のローム塊を含みしまりに乏しい |

150号土壌 L=266.00m

- | | | |
|---|------|-----------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 褐色土 | やや明るい。S P粒を多く含む |

151号土壌 L=266.20m

- | | | |
|---|------|-------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を含む |
| 2 | 〃 | S P粒、炭化物を多く含む |
| 3 | 〃 | 1に類似。小型のローム塊を多く含む |
| 4 | 褐色土 | ローム粒を多く含む |
| 5 | 暗褐色土 | ローム粒を多く含む |

152号土壌 L=266.20m

- | | | |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 黒褐色土 | 炭化物を含む。やや軟質 |
| 3 | 褐色土 | ブロック状堆積を呈す。ローム粒を主体とする |
| 4 | 〃 | やや明るい。小型のローム塊を含む |

153号土壌 L=266.30m

- | | | |
|---|------|-------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 〃 | S P粒を少量含む |
| 3 | 褐色土 | 漸移層ブロック主体 |
| 4 | 黒褐色土 | S P粒を少量、ローム粒を多く含む |
| 5 | 褐色土 | 3より明るい。ローム粒主体 |
| 6 | 暗褐色土 | ローム塊を多く含みしまりは乏しい |

154号土壌 L=266.30m

- | | | |
|---|------|----------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を少量含む |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム粒を多く含む。やや明るい |
| 3 | 〃 | 包含物少なく均質 |
| 4 | 〃 | ローム粒を多く含む |
| 5 | 暗褐色土 | S P粒を多く含む |

155号土壌 L=266.40m

- 1 黒褐色土 小型のローム塊を少量含む
- 2 // 1よりやや暗い
- 3 暗褐色土 S P粒を多く含む
- 4 // S P粒を少量、ローム粒を多量に含む

156号土壌 L=266.50m

- 1 暗褐色土 包含物少ない
- 2 黒褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む
- 3 暗褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む

157号土壌 L=266.50m

- 1 暗褐色土 S P粒を少量含む
- 2 // S P粒を多く含む
- 3 // 包含物少ない均質な層
- 4 黒褐色土 S P粒を多く含む
- 5 黒褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む

158号土壌 L=266.50m

- 1 暗褐色土 S P粒を微量含む
- 2 黒褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む
- 3 // ローム粒を多く含む

159号土壌 L=266.60m

- 1 暗褐色土 S P粒を若干含む
- 2 // S P粒、ローム粒を含む

160号土壌 L=266.60m

161号土壌 L=266.80m

- 1 暗褐色土 包含物少ない均質な層
- 2 // 1に類似する。ローム塊を含む
- 3 黒褐色土 S P粒を多く含む

162号土壌 L=266.60m

- 1 暗褐色土 S P粒を少量含む
- 2 // S P粒を少量、ローム塊を多量に含む

163号土壌 L=266.50m

- 1 暗褐色土 S P粒を少量含む
- 2 // S P粒を少量、ローム粒を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム粒主体の層

164号土壌 L=266.10m

- 1 暗褐色土 ローム粒を含む
- 2 // ローム粒を多量に含む

165号土壌 L=266.60m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む
- 2 暗褐色土 S P粒を少量、ローム粒を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム粒主体の層

166号土壌 L=266.40m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム粒を微量含む
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む
- 3 // ローム粒を多く含む

167号土壌 L=267.50m

- 1 暗褐色土 ローム粒を多く含む
- 2 // やや暗い。小型のローム塊を含む
- 3 褐色土 ローム粒主体の層

168号土壌 L=266.10m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム粒を含む

- 2 暗褐色土 小型のローム塊を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム塊主体の層

169号土壌 L=266.50m

170号土壌 L=266.60m

- 1 暗褐色土 包含物少ない均質な層
- 2 // ローム粒を多く含みやや明るい

171号土壌 L=266.70m

172号土壌 L=266.70m

- 1 黒褐色土 S P粒を少量含む
- 2 // S P粒、ローム粒を含む
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む

173号土壌 L=266.80m

- 1 暗褐色土 包含物少なく均質
- 2 // ローム粒を多く含む
- 3 褐色土 ローム粒主体の層

174号土壌 L=266.90m

- 1 暗褐色土 小型のローム塊を多く含む
- 2 // 小型のローム塊を主体とする
- 3 褐色土 ローム塊主体の層

175号土壌 L=266.70m

- 1 暗褐色土 S P粒を少量含む
- 2 黄褐色土 ローム塊主体の層。やや暗い

176号土壌 L=266.50m

177号土壌 L=266.30m

178号土壌 L=266.70m

179号土壌 L=266.60m

- 1 暗褐色土 小型のローム塊を含む
- 2 // ローム塊を多量に含む

180号土壌 L=266.70m

- 1 暗褐色土 小型のローム塊を含む
- 2 // S P粒、ローム塊を含む
- 3 褐色土 ローム粒を多く含む

181号土壌 L=266.70m

- 1 黒褐色土 包含物の少ない均質な層
- 2 // やや暗い

182号土壌 L=266.60m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム粒を多く含む
- 2 // S P粒、小型のローム塊を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム塊主体の層

183号土壌 L=266.60m

184号土壌 L=266.70m

- 1 暗褐色土 S P粒を多く含む
- 2 褐色土 1に類似しローム粒を含む
- 3 黄褐色土 ローム粒主体の層

185号土壌 L=266.50m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を多量に含む
- 2 // 1に類似。S P粒の量が多い
- 3 黄褐色土 ローム塊主体の層
- 4 暗褐色土 ローム粒を多く含みやや明るい

第IV章 遺構と遺物

5 暗褐色土 4に類似。SP粒含む	2 暗褐色土 小型のローム塊を多く含む
186号土壌 L=266.80m	207号土壌 L=267.50m
1 暗褐色土 小型のローム塊を含む	208号土壌 L=267.60m
2 黄褐色土 ローム塊主体の層	1 暗褐色土 炭化物を多量に含む
187号土壌 L=266.90m	2 // SP粒、炭化物を含む
1 暗褐色土 SP粒、ローム粒を含む	3 黄褐色土 SP粒、ローム粒を多量に含む
2 褐色土 ローム粒を多量に含む	4 // ローム粒を主体とする
188号土壌 L=267.00m	209号土壌 L=267.50m
189号土壌 L=267.10m	1 黒褐色土 SP粒、ローム粒を含む
1 暗褐色土 ローム塊を含む	2 暗褐色土 ローム粒を多く含む
2 // 1より暗くSP粒を含む	3 褐色土 ローム塊を少量含む
190号土壌 L=267.20m	210号土壌 L=267.60m
1 暗褐色土 SP粒を少量含む	1 暗褐色土 SP粒、炭化物を微量含む
2 黄褐色土 ローム粒、暗褐色土塊を含む	2 // SP粒を多く含む
191号土壌 L=267.10m	3 黄褐色土 ローム塊
1 黒褐色土 SP粒を微量含む	211号土壌 L=267.70m 212号土壌 L=267.70m
2 黒色土 SP粒を少量含む	213号土壌 L=267.80m
3 暗褐色土 SP粒、ローム粒を多く含む	1 黒褐色土 SP粒、炭化物を多く含む
192号土壌 L=266.50m	2 // 包含物少なく、均質である
1 暗褐色土 やや暗い。包含物少ない均質な層	214号土壌 L=267.90m
2 黒褐色土 SP粒、ローム粒を少量含む	1 暗褐色土 SP粒を多量に、ローム塊、炭化物を含む
3 暗褐色土 ローム塊を含む	2 // 1に類似。やや暗い
193号土壌 L=266.30m	215号土壌 L=267.70m
1 暗褐色土 SP粒、ローム粒を含む	1 暗褐色土 SP粒微量、ローム塊を多量に含む
2 // SP粒を多く含む	2 黄褐色土 ローム粒、暗褐色土塊を含む
3 褐色土 ローム塊を含む	3 // ローム塊主体の層。しまりは乏しい
194号土壌 L=266.30m 195号土壌 L=266.30m	216号土壌 L=267.80m
196号土壌 L=263.50m	1 暗褐色土 SP粒を多量に含む
197号土壌 L=266.70m	2 黄褐色土 小型のローム塊を主体とする
1 黒褐色土 焼土、炭化物を微量含む	217号土壌 L=268.00m
2 // SP粒、ローム塊を含む	1 黒褐色土 SP粒、ローム塊、炭化物を含む
198号土壌 L=266.60m 199号土壌 L=266.10m	2 // ローム塊を多く含む
200号土壌 L=267.40m 201号土壌 L=267.50m	3 // 2に類似。やや明るい
202号土壌 L=266.20m	4 // SP粒を多量に含む
203号土壌 L=267.40m	218, 219号土壌 L=268.00m
1 暗褐色土 SP粒を多量に含む	1 暗褐色土 SP粒を多く含みやや暗い
2 黒褐色土 SP粒、炭化物を少量含む	2 // 1に類似。SP粒やや少ない
3 // SP粒を微量、炭化物を多く含む	3 // SP粒少量、ローム粒を多く含む
4 // ローム粒を多量に含みやや明るい	4 // SP粒、ローム粒を含む
204号土壌 L=267.40m	5 // SP粒を多く含む
1 暗褐色土 SP粒を少量含む	6 黒褐色土 ローム塊を多く含む
2 // SP粒、ローム粒を少量含む	220号土壌 L=267.80m
3 // ローム粒を多く含みやや明るい	1 暗褐色土 SP粒を含む
205号土壌 L=267.50m	2 褐色土 ローム粒主体の層
206号土壌 L=267.50m	3 // SP粒を多量に含む
1 暗褐色土 SP粒を微量含む	4 // ローム粒を多量に含む
	5 黒褐色土 炭化物、遺物を多く含む
	6 暗褐色土 ローム粒を多く含む
	221号土壌 L=267.80m
	1 黒褐色土 SP粒を少量含む
	2 暗褐色土 ローム塊を含む

3 暗褐色土	ローム粒を多量に含む	234号土壌 L=267.90m	1 黒褐色土	S P粒、炭化物を含む
222号土壌 L=267.50m		2 //	S P粒を微量含む	
223号土壌 L=267.50m		3 暗褐色土	ローム粒を多量に含む	
1 黒褐色土	S P粒を少量含む	236号土壌 L=267.90m	1 黒褐色土	S P粒を少量含む
2 //	S P粒、ローム粒を含む	2 暗褐色土	ローム粒を少量含む	
3 //	S P粒、炭化物を少量含む	3 褐色土	ローム粒を多く含む	
4 //	ローム粒を含み3よりやや明るい	237号土壌 L=268.00m	1 暗褐色土	S P粒を少量含む
224号土壌 L=267.30m		2 //	S P粒、ローム塊を含む	
1 黒褐色土	S P粒を少量含む	3 黄褐色土	ローム塊を多量に含む	
2 //	炭化物を含みやや暗い	238, 239号土壌 L=268.00m	1 暗褐色土	ローム塊を含む
3 //	S P粒を多く含む	2 //	S P粒、ローム塊を含む	
4 //	包含物少なくやや明るい	3 黄褐色土	ローム塊主体の層	
225号土壌 L=267.40m		240号土壌 L=268.00m	1 暗褐色土	S P粒を微量含む
1 暗褐色土	S P粒、ローム塊を含む	2 黄褐色土	小型のローム塊を多く含む	
2 //	ローム粒を多量に含む	241号土壌 L=267.50m	1 暗褐色土	S P粒、ローム粒を含む
226号土壌 L=267.40m		2 //	ローム粒を多量に含む	
1 黒褐色土	S P粒を含む	242, 243号土壌 L=268.00m	1 暗褐色土	S P粒を微量含む
2 //	S P粒を少量含みやや暗い	2 //	ローム粒を多く含み粘性強い	
3 //	ローム粒、炭化物を含む	244号土壌 L=267.80m	1 暗褐色土	ローム塊を微量含む
4 褐色土	ローム粒を多量に含む。壁崩壊土	2 黒褐色土	炭化物を少量含む	
5 暗褐色土	S P粒、ローム塊を多量に含む	3 //	S P粒、ローム粒を少量含む	
227号土壌 L=267.50m		245号土壌 L=267.80m	1 黒褐色土	S P粒を多量に含む
1 暗褐色土	ローム粒を多く含み明るい	2 //	S P粒、炭化物を少量含む	
2 //	1に類似。ローム塊が斑状に堆積する	3 //	S P粒を微量含む	
228号土壌 L=267.50m		4 //	S P粒を多量に含む	
1 暗褐色土	S P粒、炭化物を少量含む	5 //	4に類似。ローム粒を少量含む	
2 黒褐色土	S P粒、炭化物を多く含む	6 暗褐色土	S P粒ブロックを多く含む	
3 //	ローム塊を含みやや明るい	246号土壌 L=267.70m	1 暗褐色土	S P粒、ローム塊を少量含む
4 黄褐色土	ローム粒、ローム塊を主体とする。壁崩壊土	2 //	S P粒、ローム粒を含む	
5 黒褐色土	ローム粒を多量に含み、明るい	247号土壌 L=267.70m	1 暗褐色土	ローム塊を含む
229号土壌 L=267.50m		2 黄褐色土	小型のローム塊を多量に含む	
1 暗褐色土	ローム粒を含む	248号土壌 L=267.60m	1 黒褐色土	S P粒、炭化粒を含む
2 //	S P粒、ローム塊、炭化物を含む	2 //	S P粒を含む。やや暗い	
3 褐色土	小型のローム塊を含む	3 暗褐色土	漸移層ブロック。しまりは良好	
4 暗褐色土	ローム粒を微量含む	4 //	S P粒、ローム粒を多く含む	
230号土壌 L=267.60m		5 //	S P粒を多量に含む。しまりは乏しい	
1 暗褐色土	S P粒、ローム塊を少量含む	249号土壌 L=266.20m		
2 //	ローム粒主体の層	250号土壌 L=267.50m	1 暗褐色土	炭化粒を含む
3 黄褐色土	大型のローム塊			
4 褐色土	ローム粒を多量に含む			
231号土壌 L=267.80m				
232号土壌 L=267.80m				
1 黒褐色土	炭化物を多量に含む			
2 //	包含物少ない均質な層			
3 //	S P粒、ローム塊を多量に含む			
233, 235号土壌 L=267.90m				
1 黒褐色土	ローム塊を含む			
2 暗褐色土	ローム粒を多量に含む			
3 黄褐色土	ローム粒主体の層			
4 黒褐色土	S P粒を少量含む			
5 暗褐色土	ローム塊を多量に含む			

第IV章 遺構と遺物

2 暗褐色土 S P粒、炭化粒を含む	273号土壌 L=266.70m
3 褐色土 ローム粒を多く含む	1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む
	2 // ローム粒を多く含み、やや明るい
251号土壌 L=267.40m	274号土壌 L=266.70m
1 暗褐色土 包含物少なく均質	1 暗褐色土 小型のローム塊を含む
2 黒褐色土 包含物少なく均質	2 黄褐色土 ローム粒、ローム塊を主体とする
3 暗褐色土 大型のローム塊を含む	
252号土壌 L=267.40m	275号土壌 L=266.80m
	1 暗褐色土 少量のS P粒、多量のローム粒を含む
253号土壌 L=267.00m	2 黄褐色土 ローム塊主体の層
1 暗褐色土 小型のローム塊を多く含む	3 褐色土 S P粒、小型のローム塊を含む
2 黄褐色土 ローム塊主体の層	
254号土壌 L=267.00m	276号土壌 L=266.20m
1 暗褐色土 ローム粒を多く含む	277号土壌 L=266.70m
2 // 1に類似。S P粒を含む	1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む
3 黒褐色土 S P粒を多量、ローム塊を含む	2 // S P粒を多量に含む
4 // S P粒を多量に含む	3 // 包含物少なく均質
255号土壌 L=266.50m	278号土壌 L=266.70m
1 暗褐色土 S P粒を多く含む	1 暗褐色土 S P粒を多く含む
2 // S P粒を多く、ローム粒を少量含む	2 黄褐色土 S P粒、小型のローム塊を含む
3 // S P粒少量、ローム塊を多く含む	
256号土壌 L=266.10m	279号土壌 L=266.60m
257号土壌 L=265.95m	280号土壌 L=266.90m
258号土壌 L=268.90m	281号土壌 L=266.50m
259号土壌 L=268.90m	1 黒褐色土 S P粒を少量含む
260号土壌 L=265.90m	2 // S P粒、ローム塊、炭化物を含む
261号土壌 L=266.00m	282号土壌 L=267.00m
262号土壌 L=266.80m	1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む
263, 264号土壌 L=266.90m	2 // S P粒、ローム塊、炭化物を多く含む
265号土壌 L=269.30m	283号土壌 L=267.00m
266号土壌 L=266.40m	1 暗褐色土 S P粒を微量含む
1 暗褐色土 S P粒を多く含む	2 // ローム粒を多く含みやや明るい
2 黄褐色土 小型のローム塊を主体とする	284号土壌 L=267.20m
267号土壌 L=266.40m	285号土壌 L=267.40m
1 褐色土 小型のローム塊を含む	1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む
2 暗褐色土 ローム粒を含む	2 // S P粒、ローム塊を多量に含む
268号土壌 L=266.40m	3 // S P粒を多量に含む
1 暗褐色土 S P粒を少量含む	4 褐色土 ローム粒主体の層。おそらく別種の遺構覆土
2 // S P粒を多く含む	286号土壌 L=267.40m
3 // ローム塊を多く含む	287号土壌 L=267.30m
269号土壌 L=266.50m	1 暗褐色土 砂礫、炭化物を少量含む
1 暗褐色土 S P粒、ローム粒を含む	2 褐色土 S P粒微量含む
2 // ローム粒を多く含む	288号土壌 L=267.00m
270号土壌 L=266.60m	1 黒褐色土 S P粒を多量に含む
1 暗褐色土 S P粒を少量含む	2 // S P粒、ローム粒を含みやや明るい
2 // S P粒、炭化物を含む	3 黄褐色土 S P粒、ローム粒を主体とする
3 // S P粒を多量に、炭化物少量含む	289号土壌 L=267.40m
271号土壌 L=266.60m	1 暗褐色土 小型のローム塊を含む
1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む	2 黄褐色土 ローム塊主体の層
2 // ローム粒を多く含む	290号土壌 L=267.40m
272号土壌 L=266.60m	1 暗褐色土 S P粒少量含む
1 暗褐色土 S P粒を少量含む	2 // ローム粒を多く含む
2 黄褐色土 小型のローム塊を多く含む	

3 黄褐色土 小型のローム塊を主体とする

291号土壌 L=257.80m

292号土壌 L=267.70m

- 1 黒褐色土 S P粒を微量含む
- 2 // 小型のローム塊を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム塊

293号土壌 L=267.70m

- 1 暗褐色土 S P粒、大型の炭化物を含む
- 2 // 少量のS P粒を含む
- 3 // ローム塊主体の層。炭化物を含む

294号土壌 L=267.70m

295号土壌 L=267.80m

- 1 暗褐色土 S P粒、炭化物を少量含む
- 2 褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む

296号土壌 L=267.90m

- 1 暗褐色土 S P粒を微量含む
- 2 // 多量のローム塊、少量の炭化物を含む
- 3 黄褐色土 ローム塊主体の層

297号土壌 L=268.00m

298号土壌 L=267.60m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む
- 2 // ローム粒を多く含む
- 3 黄褐色土 ローム塊を多量に含む

299号土壌 L=267.70m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を多く含む
- 2 // 包含物少なく均質
- 3 褐色土 ローム塊。壁崩壊土
- 4 暗褐色土 小型のローム塊を多く含む
- 5 黒褐色土 包含物少なく均質。やや暗い。遺物の出土が顕著

300号土壌 L=267.80m

- 1 暗褐色土 S P粒を少量含みやや暗い
- 2 // S P粒、ローム粒を少量含む
- 3 // 包含物少なく均質。やや明るい

301号土壌 L=267.70m

- 1 暗褐色土 S P粒、炭化物を少量含む
- 2 // S P粒、ローム塊を多量に含む

302号土壌 L=267.60m

- 1 暗褐色土 炭化物を多く含む
- 2 // S P粒を多く、ローム塊少量含む
- 3 黄褐色土 ローム塊主体の層
- 4 黒褐色土 S P粒を極微量、炭化物を多く含む

303号土壌 L=267.70m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム塊を含む
- 2 黄褐色土 ローム塊主体の層
- 3 暗褐色土 S P粒を少量含む

304号土壌 L=267.70m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む
- 2 // S P粒を多量に含む

305号土壌 L=267.60m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む
- 2 // ローム塊を含む

306号土壌 L=267.60m

- 1 黒褐色土 S P粒を少量含みやや明るい
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム塊を多量に含む
- 3 褐色土 大型のローム塊を含む

307号土壌 L=267.60m

- 1 暗褐色土 S P粒少量含む
- 2 // やや明るい
- 3 // S P粒多く含む

308号土壌 L=267.60m

- 1 暗褐色土 S P粒を微量含む
- 2 褐色土 暗褐色土塊が斑状に堆積する

309号土壌 L=267.40m

- 1 暗褐色土 S P粒を少量含む
- 2 黄褐色土 ローム塊主体の層

310号土壌 L=267.50m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム塊を含む
- 2 暗褐色土 やや暗い。ブロック状の堆積
- 3 黒褐色土 S P粒、暗褐色土塊、炭化物を含む
- 4 暗褐色土 S P粒、ローム塊を含む
- 5 黒褐色土 S P粒、やや大型の炭化物を少量含む
- 6 暗褐色土 S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい

311号土壌 L=267.30m

- 1 暗褐色土 S P粒を微量含む
- 2 // ローム塊を多く含む

312号土壌 L=266.10m

313号土壌 L=257.30m

- 1 黒褐色土 礫が集中する。ローム粒を含みしまりに乏しい
- 2 褐色土 ローム粒主体の層
- 3 黒褐色土 礫が集中する。炭化物を含む
- 4 暗褐色土 小型のローム塊を含む
- 5 // ローム粒を多量に含みしまりに乏しい
- 6 黒褐色土 ローム粒、炭化物を含む
- 7 暗褐色土 大型の炭化物、ローム粒を含む。しまりは良好
- 8 褐色土 ローム粒、炭化物を多く含む

314号土壌 L=267.00m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む
- 2 黒褐色土 S P粒を多量に含む
- 3 // 2に類似。やや明るい

315号土壌 L=267.00m

316号土壌 L=267.20m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム塊、少量の炭化物を含む
- 2 // ローム塊、炭化物、微量のS P粒を含む
- 3 褐色土 ローム塊主体の層

317号土壌 L=266.90m

- 1 黒褐色土 S P粒を少量含む
- 2 // S P粒、炭化物を含む
- 3 // S P粒、ローム塊を含む

第IV章 遺構と遺物

318号土壌 L=266.80m (1号大石)

- | | | |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 包含物少なく均質 |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊、炭化物を含む。やや暗い |
| 3 | 〃 | ローム粒を多く含む |
| 4 | 褐色土 | ローム粒主体の層 |

319号土壌 L=267.80m

- | | | |
|---|------|------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒を多量に含む |
| 2 | 黄褐色土 | ローム塊を含む |

320号土壌 L=267.70m

- | | | |
|---|------|-----------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒を微量含む |
| 2 | 暗褐色土 | ローム塊を多く含む |

321号土壌 L=267.50m

- | | | |
|---|------|--------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を含む。やや明るい |
| 2 | 黄褐色土 | ローム塊 |
| 3 | 黒褐色土 | ローム粒を少量含む。しまりに乏しい |
| 4 | 褐色土 | S P粒、ローム塊を多く含む |

322号土壌 L=266.00m

323号土壌 L=266.00m

324号土壌 L=267.50m

- | | | |
|---|------|-----------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、大型の炭化物を含む |
| 2 | 〃 | 炭化物を少量含む。しまりに富む |
| 3 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を多く含む |
| 4 | 〃 | S P粒、ローム塊を含む。暗い |
| 5 | 黄褐色土 | 根の影響 |

325号土壌 L=267.50m

- | | | |
|---|------|---------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 包含物少なく均質だが、バサバサしている |
| 2 | 〃 | ローム塊を含む |
| 3 | 黄褐色土 | ローム塊主体の層 |

326号土壌 L=266.50m

327号土壌 L=266.50m

328号土壌 L=267.40m

329号土壌 L=266.10m

330号土壌 L=267.40m

- | | | |
|---|------|------------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム粒を含む |
| 2 | 黄褐色土 | 小型のローム塊を含む |
| 3 | 〃 | ローム塊主体の層 |

331号土壌 L=266.30m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を少量含む。しまりはやや乏しい |
| 2 | 黄褐色土 | 小型のローム塊を含む。しまりはやや乏しい |

332号土壌 L=266.50m

- | | | |
|---|------|----------------------|
| 1 | 黄褐色土 | ローム塊 |
| 2 | 黒褐色土 | S P粒を微量含む。しまりは良好 |
| 3 | 褐色土 | ローム塊主体の層。壁崩壊土。しまりは良好 |
| 4 | 黒褐色土 | 1に類似。やや明るくしまりは良好 |
| 5 | 暗褐色土 | ローム塊。壁崩壊土。しまりは良好 |
| 6 | 黄褐色土 | ローム粒主体の層。ややしまりは良好 |

333号土壌 L=266.50m

- | | | |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 包含物少なく均質。しまりは良好 |
| 2 | 黄褐色土 | ローム塊主体。壁崩壊土。しまりはやや乏しい |
| 3 | 黒褐色土 | ローム粒を多く含む。ややしまりに乏しい |
| 4 | 暗褐色土 | ローム粒を多量に含む。しまりはやや乏しい |

334号土壌 L=265.90m

- | | | |
|---|------|-------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 少量のS P粒、炭化物、多量のローム塊を含む。 |
| 2 | 黒褐色土 | S P粒、少量のローム塊、炭化物を含む。 |

3 黒褐色土 S P粒を多量に含む。しまりは良好

4 暗褐色土 大型のローム塊、黒色土塊を含む。しまりは乏しい

335号土壌 L=265.90m

- | | | |
|---|------|-------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、多量のローム塊を含む。しまりは乏しい |
| 2 | 〃 | S P粒、炭化物を多く含む。しまりはやや乏しい |
| 3 | 黒褐色土 | ローム塊を多く含む。しまりに乏しい |
| 4 | 暗褐色土 | S P粒が斑状に堆積する。しまりは良好 |

336号土壌 L=266.00m

- | | | |
|---|------|--------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒を少量含む。しまりは良好 |
| 2 | 〃 | ローム塊を多く含む。しまりはやや良好 |

337号土壌 L=265.90m

338号土壌 L=265.90m

- | | | |
|---|------|----------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒を多く含む。しまりは乏しい |
| 2 | 〃 | S P粒を少量含む。ややしまりに乏しい |
| 3 | 褐色土 | ローム塊主体の層。しまりは良好 |
| 4 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい |
| 5 | 〃 | 礫を多量に含む |
| 6 | 〃 | ローム塊を多量に含みしまりに乏しい |

339号土壌 L=265.90m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい |
| 2 | 黄褐色土 | ローム塊主体の層。炭化物を微量含む。しまりは良好 |

340号土壌 L=265.90m

341号土壌 L=266.00m

- | | | |
|---|------|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい |
| 2 | 〃 | S P粒、炭化物を多く含みしまりは乏しい |
| 3 | 褐色土 | ローム塊主体の層 |
| 4 | 黒褐色土 | S P粒、大型のローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい |

342号土壌 L=265.90m

- | | | |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい |
| 2 | 〃 | 炭化物を多く含む。しまりは乏しい |
| 3 | 〃 | 包含物少なく均質。しまりは良好 |
| 4 | 〃 | 大型のローム塊を多く含む。しまりはやや良好 |

343号土壌 L=266.00m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 多量のS P粒、少量の炭化物を含みしまりに乏しい |
| 2 | 褐色土 | ブロック状に堆積する |
| 3 | 黒褐色土 | S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは乏しい |
| 4 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を多く含む |
| 5 | 黄褐色土 | ローム塊主体の層 |

344号土壌 L=266.10m

- | | | |
|---|------|---------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、炭化物を多く含む。しまりは乏しい |
| 2 | 〃 | S P粒、炭化物を少量、ローム粒を多く含む |
| 3 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒、炭化物を少量含む。しまりは良好 |
| 4 | 〃 | S P粒、ローム粒を少量含む。しまりは良好 |
| 5 | 褐色土 | ローム塊、炭化物を含む。しまりは良好 |

345号土壌 L=266.0m

- | | | |
|---|------|-------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を多量に含みしまりに乏しい |
| 2 | 黒褐色土 | S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは乏しい |
| 3 | 〃 | S P粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい |
| 4 | 暗褐色土 | S P粒、炭化物を多く含む。しまりは良好 |

346号土壌 L=266.00m

347号土壌 L=266.00m

348号土壌 L=265.90m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 黄褐色土 | ローム塊、大型の炭化物を含む。しまりは乏しい |
| 2 | 黒褐色土 | S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい |
| 3 | 〃 | S P粒、小型の炭化物を少量含む黒味を帯びる |
| 4 | 〃 | やや大型の炭化物を多く含む。しまりは乏しい |
| 5 | 暗褐色土 | ローム塊を多く含む。炭化物は少量認められる |
| 6 | 褐色土 | S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい |

349号土壌 L=265.90m

351号土壌 L=267.10m (2号大石)

- | | | |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 小型のローム塊を多く含む。しまりは良好 |
| 2 | 〃 | S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好 |
| 3 | 〃 | ローム塊を多く含むやや暗い。しまりは良好 |
| 4 | 〃 | ローム塊を多く含むやや明るい。しまりは良好 |

352号土壌 L=266.30m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒を少量含む。しまりは良好 |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい |

353号土壌 L=266.30m

- | | | |
|---|------|----------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒を少量含む。しまりは良好 |
| 2 | 暗褐色土 | 包含物少なく均質。しまりは良好 |
| 3 | 褐色土 | ローム塊を多量に含む。しまりはやや乏しい |

354号土壌 L=266.40m

- | | | |
|---|------|---------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、小型のローム塊を少量含む。しまりは良好 |
| 2 | 〃 | S P粒、小型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい |

355号土壌 L=266.30m

- | | | |
|---|------|-------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、炭化物を多量に含む。しまりは乏しい |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい |
| 3 | 褐色土 | ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい |

356, 357号土壌 L=266.40m

- | | | |
|---|------|-----------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、炭化物を多く含む。しまりは良好 |
| 2 | 〃 | 多量のS P粒、微量の炭化物を含む。しまりはやや乏しい |
| 3 | 〃 | S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい |
| 4 | 暗褐色土 | S P粒を多く、小型のローム塊を少量含む |
| 5 | 褐色土 | S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい |

358号土壌 L=266.40m

359号土壌 L=266.40m

360号土壌 L=266.40m

361号土壌 L=266.50m

- | | | |
|---|------|---------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好 |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム塊を多く、炭化物を微量含む。しまりはやや乏しい |
| 3 | 褐色土 | ローム粒主体の層。炭化物を少量含む |
| 4 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好 |
| 5 | 褐色土 | 大型のローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい |

362号土壌 L=266.50m

- | | | |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム粒を少量、炭化物を微量含む |
| 2 | 褐色土 | ローム粒、黒色土塊を含む。斑状の堆積 |
| 3 | 黒褐色土 | S P粒、ローム塊を含む。やや明るい |

363号土壌 L=266.70m

364号土壌 L=266.70m

365号土壌 L=266.70m

366号土壌 L=266.70m

367号土壌 L=266.30m

368号土壌 L=266.60m

369号土壌 L=267.10m

- | | | |
|---|------|-------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、炭化物を多く含む。しまりは良好 |
| 2 | 〃 | S P粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい |
| 3 | 褐色土 | S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい |

370号土壌 L=267.10m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒、炭化物を含む。しまりは乏しい |
| 2 | 〃 | S P粒、小型のローム塊を含む。しまりは乏しい |
| 3 | 褐色土 | S P粒、ローム塊を多く含む。粘性はある |

371号土壌 L=267.30m

372号土壌 L=267.10m

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 黒褐色土 | 大型の礫を中央に含む。S P粒、炭化物は少量含まれる。粘性に富み、しまりは良好 |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を含む。しまりは良好 |

373号土壌 L=267.00m

- | | | |
|---|------|-------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒、ローム粒を多量に含む。やや明るい |
| 3 | 褐色土 | S P粒、ローム粒を少量含む。しまりは乏しい |
| 4 | 黄褐色土 | ローム粒主体の層 |

374号土壌 L=267.20m

- | | | |
|---|------|------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ローム塊を少量含む。しまりは良好 |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい |

375号土壌 L=267.10m

- | | | |
|---|------|---------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を含む。しまりは良好 |
| 2 | 黄褐色土 | ローム粒主体の層 |

376号土壌 L=267.10m

- | | | |
|---|------|---------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 少量のローム塊、多量の炭化物を含む。 |
| 2 | 〃 | 大型のローム塊を多く含む。しまりは良好 |

377号土壌 L=267.10m

- | | | |
|---|------|-----------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは良好 |
| 2 | 黄褐色土 | ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい |

378号土壌 L=267.30m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、炭化物を少量含む、多くの遺物を包含する |
| 2 | 黄褐色土 | S P粒、ローム塊主体の層。しまりは良好 |

379号土壌 L=267.20m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、小型のローム塊、炭化物を含む。 |
| 2 | 〃 | S P粒、ローム塊を少量含む。粘質でしまりは良好 |
| 3 | 褐色土 | S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい |

380号土壌 L=267.10m

381号土壌 L=267.20m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | S P粒、大型のローム塊を少量含む。しまりは良好 |
| 2 | 〃 | 小型のローム塊を含む |
| 3 | 黄褐色土 | 小型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい |

382号土壌 L=268.30m

383号土壌 L=267.30m

- | | | |
|---|------|--------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | S P粒、暗褐色土塊、炭化物を少量含む |
| 2 | 暗褐色土 | S P粒を微量含む。しまりはやや乏しい |
| 3 | 褐色土 | S P粒、小型のローム塊を少量含む。しまりは良好 |

384号土壌 L=267.30m

第IV章 遺構と遺物

385号土壌 L=267.50m

- 1 暗褐色土 ローム粒を多く含む。やや明るい
- 2 褐色土 ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい

386号土壌 L=266.20m

387号土壌 L=267.40m

388号土壌 L=267.60m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む
- 2 // 1に類似する。やや明るい

389号土壌 L=267.60m

390号土壌 L=267.80m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む
- 2 黄褐色土 小型のローム塊を主体とする

391号土壌 L=267.70m

392号土壌 L=267.80m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む
- 2 暗褐色土 大型のローム塊を多く含む
- 3 // S P粒、ローム粒、大型のローム塊を含む。明るい

393号土壌 L=267.70m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む
- 2 // 包含物少なく均質

394号土壌 L=267.50m

395号土壌 L=267.50m

- 1 黒褐色土 ローム塊を含む。しまりは乏しい
- 2 暗褐色土 ブロック状に堆積する。S P粒、ローム塊を含む
- 3 // ローム塊を含みS P粒は含まない

396号土壌 L=267.50m

397号土壌 L=267.40m

398, 399号土壌 L=267.30m

400号土壌 L=267.20m

- 1 暗褐色土 大型の礫、炭化物を含む。しまりはやや乏しい
- 2 // S P粒、ローム塊を含む

401号土壌 L=267.30m

402号土壌 L=267.20m

- 1 暗褐色土 礫、S P粒、炭化物を多く含む暗い。しまりは乏しい
- 2 // 礫、S P粒を少量含む。しまりは乏しい
- 3 // S P粒、ローム塊、炭化物を含み明るい。
- 4 黒褐色土 S P粒、小型のローム塊を少量含む。しまりは乏しい
- 5 褐色土 S P粒、ローム塊を含む。しまりはやや乏しい
- 6 // S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは良好
- 7 // ローム塊を多く含むやや暗い。しまりは良好

403号土壌 L=267.10m

- 1 暗褐色土 多量のS P粒、少量の炭化物を含む。しまりは乏しい
- 2 黒褐色土 S P粒とやや大型の炭化物を少量含む
- 3 暗褐色土 S P粒を少量含む。しまりは良好
- 4 黒褐色土 微量のS P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい
- 5 暗褐色土 ローム塊、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 6 // S P粒を含みやや暗い。しまりは乏しい
- 7 // S P粒、炭化物を含みやや暗い。しまりは乏しい
- 8 褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい

404号土壌 L=267.20m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を多量に含む
- 2 褐色土 ローム塊
- 3 暗褐色土 ローム塊、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 4 褐色土 ローム粒主体の層
- 5 黒褐色土 S P粒、炭化物を含み黒味を帯びる
- 6 // ローム粒、炭化物を微量含む。しまりは乏しい
- 7 // S P粒、炭化物を少量含む
- 8 黄褐色土 大型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい

405号土壌 L=266.40m

406号土壌 L=267.20m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム塊を含む。しまりはやや乏しい
- 3 // ローム粒主体の層
- 4 黄褐色土 ローム塊と暗褐色土塊を斑状に堆積する

407号土壌 L=267.10m

- 1 暗褐色土 微量の炭化物を含む。しまりは乏しい
- 2 // ローム塊を含む。しまりは乏しい
- 3 黄褐色土 ローム塊を含む。しまりは良好

408号土壌 L=267.00m

- 1 黒褐色土 礫を多く含む。しまりは乏しい
- 2 // S P粒、焼土粒を含む。しまりは乏しい
- 3 // S P粒、ローム粒を多く含む。しまりは乏しい
- 4 暗褐色土 ローム塊、炭化物を多く含む。しまりは良好

409号土壌 L=267.00m

410号土壌 L=266.90m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい
- 2 // ローム塊を少量含む。しまりはやや乏しい
- 3 // S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは良好
- 4 // S P粒、小型のローム塊を少量含む。しまりは乏しい
- 5 暗褐色土 S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい

411号土壌 L=267.00m

412号土壌 L=266.80m

413号土壌 L=266.60m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは良好
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
- 3 // S P粒を含みやや暗い。しまりは乏しい

414号土壌 L=266.80m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む。しまりはやや乏しい
- 2 褐色土 ローム塊主体の層。やや暗くしまりは良好
- 3 黒褐色土 S P粒、炭化物を多く含む。しまりは良好
- 4 // やや明るい。しまりは乏しい
- 5 褐色土 ローム塊、少量の炭化物を含む。しまりは乏しい
- 6 // S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい

415号土壌 L=266.80m

416号土壌 L=266.70m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい
- 3 褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい

417号土壌 L=266.80m

418号土壌 L=266.70m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好

土 層 註

- 2 黒褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む
- 3 // 多量のS P粒、少量のローム塊、炭化物を含む。しまりはやや乏しい

419号土壌 L=266.70m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
- 2 // S P粒、ローム塊を含みややや明るい。しまりは乏しい
- 3 暗褐色土 ローム粒主体の層
- 4 褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい

420号土壌 L=266.60m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を多く含む。しまりは乏しい
- 2 // S P粒を多く含みややや明るい。しまりは乏しい
- 3 // S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい
- 4 // 多量のS P粒、少量の炭化物を含みやや黒味を帯びる
- 5 暗褐色土 S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい
- 6 // S P粒、ローム塊を含みややや暗い
- 7 黒褐色土 S P粒、大型のローム塊を含む。しまりは乏しい

421号土壌 L=266.60m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは良好
- 2 暗褐色土 大型のローム塊を含む

422号土壌 L=266.50m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム粒を含む

423号土壌 L=266.30m

424号土壌 L=266.60m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい
- 2 // S P粒、ローム粒、炭化物を含む。しまりは乏しい
- 3 // S P粒、微量のローム塊を含む
- 4 褐色土 S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい

425号土壌 L=266.50m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 2 // S P粒、遺物を含みややや明るい。しまりは乏しい

426号土壌 L=266.50m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム塊を含む。しまりはやや乏しい
- 2 // S P粒、ローム粒を少量含む
- 3 暗褐色土 S P粒を極微量含む
- 4 黄褐色土 ローム粒主体の層
- 5 // ローム塊主体の層。しまりは乏しい

427号土壌 L=266.60m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
- 2 // S P粒を少量含みややや明るい。しまりはやや乏しい
- 3 // ローム粒を少量含む。しまりは良好
- 4 褐色土 ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい
- 5 黄褐色土 ローム塊主体の層。しまりは乏しい

428号土壌 L=266.50m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
- 2 // 大型のローム塊を含む。しまりは乏しい

429号土壌 L=266.50m

- 1 黒褐色土 ローム塊、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 2 黄褐色土 ローム塊、炭化物を含む。しまりは良好

430号土壌 L=266.40m

- 1 黒褐色土 礫、S P粒を少量含む。しまりは良好
- 2 // S P粒を多量に含みややや明るい。しまりは良好

- 3 褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい
- 4 // S P粒を多く含み明るい
- 5 // ローム粒

431号土壌 L=266.50m

- 1 暗褐色土 ローム塊を含む。しまりは良好
- 2 黄褐色土 ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい

432号土壌 L=266.30m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 2 黄褐色土 ローム塊主体の層
- 3 黒褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい
- 4 // S P粒、ローム粒を含み明るい。しまりは乏しい
- 5 褐色土 ローム塊主体の層。S P粒を含みしまりは良好

433号土壌 L=266.30m

- 1 黒褐色土 S P粒、遺物を含む。しまりは乏しい
- 2 // S P粒を多く、ローム粒を少量含む。しまりは乏しい
- 3 // S P粒、ローム塊を多く、炭化物を少量含む。しまりは乏しい

434号土壌 L=266.20m

435号土壌 L=266.10m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい
- 2 // S P粒、ローム塊を含み暗い。しまりはやや乏しい
- 3 黄褐色土 ローム塊主体の層。しまりは乏しい
- 4 暗褐色土 S P粒を多量に含む。しまりは乏しい

436号土壌 L=266.00m

- 1 黒褐色土 多量のS P粒、少量の炭化物を含む。しまりは乏しい
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい
- 3 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 4 // S P粒、ローム塊、炭化物を多く含む
- 5 黄褐色土 多量のローム塊、微量の炭化物を含む。しまりは良好

437号土壌 L=266.00m

- 1 黒褐色土 ローム塊、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 2 暗褐色土 S P粒を多量に含む。しまりはやや乏しい
- 3 黄褐色土 小型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい

438号土壌 L=267.30m

439号土壌 L=267.30m

440号土壌 L=267.50m

441号土壌 L=267.70m

- 1 黒褐色土 包含物少なく均質。しまりは良好
- 2 // S P粒、炭化物を少量含む
- 3 // S P粒を多く、ローム粒を少量含む。しまりはやや乏しい
- 4 暗褐色土 ローム塊を含みややや暗い。しまりは乏しい
- 5 褐色土 ローム粒、黒褐色土塊を含む

442号土壌 L=267.80m

443号土壌 L=267.80m

445号土壌 L=267.90m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を極微量含む。比較的均質
- 2 // S P粒、ローム塊、炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 小型のローム塊、黒褐色土塊を斑状に堆積する。粘性はあるがしまりは乏しい
- 4 黒褐色土 多量のローム塊、少量の炭化物を含む。
- 5 褐色土 暗褐色土～黒褐色土塊のブロック状堆積。しまりは著しく乏しい
- 6 // ローム塊、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい

第IV章 遺構と遺物

7 褐色土	多量のSP粒、大型の炭化物を含む。しまりは乏しい	463号土壌 L=267.00m	1 黒褐色土	炭化物を少量含む。しまりは乏しい
8 黒褐色土	SP粒を極微量含む。比較的均質だがしまりは乏しい		2 暗褐色土	ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
9 黄褐色土	ローム粒主体の層。しまりは乏しい			
<hr/>				
446号土壌 L=268.00m		464号土壌 L=267.30m	1 黒褐色土	SP粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい
1 黒褐色土	SP粒、炭化物を少量含む。比較的均質	2 暗褐色土	SP粒、ローム粒を多く含む。しまりは乏しい	
2 //	SP粒少量、炭化物を多く含みやや黒味を帯びる	3 褐色土	小型のローム塊を主体とする。しまりは良好	
3 //	ローム粒を含みやや明るい。しまりは乏しい			
4 暗褐色土	多量のローム粒、少量の炭化物を含む。しまりは良好	465号土壌 L=267.20m		
5 黒褐色土	SP粒、炭化物を多く含む。しまりは良好	466, 468号土壌 L=267.30m	1 黒褐色土	SP粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
6 暗褐色土	SP粒を多く含みやや暗い。しまりは乏しい	2 //	ローム粒を多く含み明るい。しまりは乏しい	
7 黒褐色土	SP粒、ローム粒を少量含む。しまりはやや乏しい	3 //	ローム塊、炭化物を少量含む	
8 暗褐色土	ローム塊、大型の炭化物を多く含む。しまりは乏しい	4 暗褐色土	SP粒、ローム粒を多く含む	
9 //	大型のローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい			
10 //	大型のローム塊を多量に含む。しまりは乏しい	467号土壌 L=267.30m		
11 黒褐色土	包含物少なく均質。ブロック状の堆積。しまりは良好	469号土壌 L=267.10m	1 黒褐色土	包含物少なく均質。しまりは著しく乏しい
12 暗褐色土	ローム粒を主体とする。しまりは乏しい	2 暗褐色土	ローム塊を多く含む。しまりは乏しい	
		3 黄褐色土	ローム塊を主体とする	
447号土壌 L=268.00m	448号土壌 L=267.70m	470号土壌 L=256.50m	1 暗褐色土	SP粒、ローム粒を少量含む。しまりはやや乏しい
		2 //	SP粒、ローム塊を多量に含む	
450号土壌 L=267.40m		3 //	小型のローム塊を多く含み明るい。しまりは乏しい	
451号土壌 L=267.50m		4 褐色土	ローム粒主体の層	
1 暗褐色土	小型のローム塊を含む	471号土壌 L=266.60m	472号土壌 L=267.50m	
2 //	ローム粒を多く含みやや明るい	473号土壌 L=266.40m	474号土壌 L=267.70m	
		475号土壌 L=267.80m	476号土壌 L=267.40m	
452号土壌 L=267.50m		477号土壌 L=267.10m	479号土壌 L=256.10m	
1 暗褐色土	SP粒を少量含む	480号土壌 L=266.00m	1 黒褐色土	SP粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい
2 //	SP粒、ローム粒を多く含み明るい	2 暗褐色土	SP粒、ローム粒、炭化物を含む	
		3 //	ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい	
453号土壌 L=267.90m		4 黄褐色土	ローム塊主体の層	
1 暗褐色土	SP粒を含みしまりは著しく乏しい	481号土壌 L=266.30m		
2 //	ローム粒を含みやや明るい	482号土壌 L=266.30m	1 暗褐色土	ローム粒、褐色土塊を含む。しまりは良好
		2 黄褐色土	SP粒、ローム塊を含む。ややしまりは乏しい	
454号土壌 L=267.70m		484号土壌 L=266.30m		
1 暗褐色土	SP粒を多量に含み暗い	486号土壌 L=266.80m	1 黒褐色土	SP粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
2 //	SP粒を多量に含みやや明るい	2 //	ローム塊、炭化物を含む。しまりはやや乏しい	
3 //	SP粒、ローム塊を含む	3 褐色土	ローム塊、ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい	
4 //	SP粒、ローム粒を多量に含み明るい	4 黄褐色土	ローム塊主体の層。壁崩壊土か	
5 褐色土	小型のローム塊を多く含む	487号土壌 L=267.00m	488号土壌 L=266.60m	
		489号土壌 L=266.80m		
456号土壌 L=267.80m		490号土壌 L=267.00m	1 暗褐色土	SP粒、ローム粒を含む。しまりはやや乏しい
1 暗褐色土	SP粒、小型のローム塊を多く含む			
2 //	ローム粒を多く含み明るい			
457号土壌 L=266.40m	458号土壌 L=266.60m			
459号土壌 L=265.60m				
1 暗褐色土	SP粒、ローム粒を少量含む。しまりは良好			
2 //	SP粒、ローム粒を多く含む。しまりはやや乏しい			
460号土壌 L=266.60m				
461号土壌 L=265.90m				
1 黒褐色土	SP粒を極微量含む。比較的均質でしまりは良好			
2 //	SP粒、ローム塊を少量含みやや暗い			
3 //	SP粒、ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい			
4 褐色土	ローム粒主体の層。しまりは良好。壁崩壊土か			
5 暗褐色土	小型のローム塊、炭化物を多く含む。しまりは乏しい			
6 暗褐色土	大型のローム塊を多く含む			
462号土壌 L=266.80m				

2	暗褐色土	S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい
3	〃	S P粒、炭化物を微量含む。しまりは良好
492号土壌 L=267.90m		
493号土壌 L=267.80m		
1	黒褐色土	S P粒、炭化物を微量含む。しまりは乏しい
2	暗褐色土	S P粒を少量含む。しまりは乏しい
3	〃	ローム粒、暗褐色土塊を斑状に堆積する
4	〃	S P粒を多量に含む。しまりは良好
494号土壌 L=266.40m 495号土壌 L=267.00m		
496号土壌 L=266.90m		
497号土壌 L=266.60m		
1	黒褐色土	S P粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい
2	暗褐色土	S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい
3	黄褐色土	S P粒を多量に含む。しまりは乏しい
498, 499号土壌 L=266.00m		
1	黒褐色土	S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
2	黄褐色土	ローム塊主体
3	黒褐色土	S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい
4	〃	S P粒を多量に含む。しまりは乏しい
5	〃	包含物少なく均質。しまりは良好
6	黄褐色土	ローム粒、黒色土塊を含む。しまりは乏しい
500号土壌 L=267.30m 501号土壌 L=267.30m		
502号土壌 L=267.30m		
503号土壌 L=267.20m		
1	黒褐色土	S P粒、ローム粒、炭化物を含む。しまりは良好
2	暗褐色土	ローム粒を多く、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
3	黄褐色土	S P粒、ローム粒を多量に含む
504号土壌 L=267.20m		
1	暗褐色土	S P粒、ローム粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
2	暗褐色土	S P粒を多量に含む。しまりはやや良好
3	黒褐色土	S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
4	黄褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい
505, 506号土壌 L=267.30m		
1	暗褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好
2	黄褐色土	S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
3	暗褐色土	S P粒を微量含む。しまりは良好
4	褐色土	S P粒を多量に含む。しまりは乏しい
5	褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい
507号土壌 L=267.30m		
1	暗褐色土	S P粒を微量含む。しまりは良好
2	〃	S P粒を少量、炭化物を微量含む
3	〃	S P粒、ローム粒、炭化物を少量含む
4	褐色土	ローム粒を多く含む
508号土壌 L=267.40m		
1	暗褐色土	S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは良好
2	〃	S P粒、ローム塊、炭化物を多く含みやや明るい
3	黄褐色土	ローム粒主体の層。壁崩壊土
4	褐色土	S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい
509号土壌 L=267.40m		

510号土壌 L=267.50m		
1	暗褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好
2	黒褐色土	S P粒を多く含む。しまりは乏しい
3	〃	包含物少なく均質。しまりはやや乏しい
4	暗褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好
5	黄褐色土	S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
511号土壌 L=267.50m		
1	暗褐色土	炭化物を含む。しまりは良好
2	褐色土	漸移層主体の層
3	〃	ローム粒主体の層。しまりは乏しい
512号土壌 L=267.50m		
1	暗褐色土	S P粒、ローム粒、炭化物を含む。しまりは良好
2	黒褐色土	S P粒を多く含む。しまりはやや乏しい
3	〃	S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい
4	黒色土	包含物少なく均質
5	暗褐色土	S P粒、ローム粒、漸移層塊を含む。しまりは良好。壁崩壊土か
513号土壌 L=267.50m		
514号土壌 L=267.50m		
1	黒褐色土	S P粒を少量含む。しまりは良好
2	〃	S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好
3	暗褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい
4	〃	ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい
515号土壌 L=267.60m 516号土壌 L=267.50m		
517号土壌 L=267.30m		
1	黒褐色土	S P粒、ローム塊、少量の炭化物を含み黒味を帯びる。しまりはやや乏しい
2	〃	S P粒、ローム塊、炭化物を多量に含む。
3	褐色土	ローム粒、黒色土塊の斑状堆積。S P粒、炭化物を含む。しまりは良好
4	黄褐色土	ローム粒主体の層。壁崩壊土か
518号土壌 L=267.30m		
1	暗褐色土	S P粒を少量含みやや暗い。しまりは乏しい
2	〃	S P粒、小型のローム塊を含む
3	〃	S P粒、小型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい
4	黄褐色土	ローム塊主体の層。やや暗くしまりは乏しい
519号土壌 L=267.60m 520号土壌 L=268.70m		
521号土壌 L=268.70m		
522号土壌 L=267.70m		
1	黒褐色土	S P粒、炭化物を多く含む
2	〃	S P粒、ローム塊、炭化物を多く含む
3	〃	S P粒、大型のローム塊を含む。しまりはやや良好
4	暗褐色土	S Pブロックを多く含む。しまりは乏しい
5	褐色土	別種の小ピット土層。S P粒少量含む
523号土壌 L=267.70m		
1	暗褐色土	S P粒、小型のローム塊を少量含む。しまりは良好
2	褐色土	大型のローム塊を多く含む。しまりはやや良好
524号土壌 L=267.70m		
1	黒褐色土	砂粒、焼土を少量含み黒味を帯びる。しまりは良好
2	〃	包含物少なく均質。黒味を帯びる
3	〃	大型のローム塊、炭化物を含む。しまりはやや乏しい
4	〃	S P粒、ローム塊を多量に含みやや明るい。しまりは

第IV章 遺構と遺物

乏しい	
525号土壌 L=267.60m	541号土壌 L=267.90m
526号土壌 L=267.80m	542号土壌 L=267.90m
1 暗褐色土 小型のローム塊を少量含み明るい。しまりは良好	1 黒褐色土 S P粒を微量含むが均質でしまりは良好
2 褐色土 ローム粒主体の層。S P粒を少量含む	2 黄褐色土 黒色土塊を斑状に含む
3 黄褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは良好	3 //
527~529号土壌 L=267.80m	543号土壌 L=267.90m
1 暗褐色土 S P粒を微量含む。均質でしまりは良好。527墳覆土	544号土壌 L=267.90m
2 黒褐色土 S P粒、炭化物を含む。しまりは良好。529墳覆土	545号土壌 L=267.90m
3 //	546号土壌 L=268.00m
4 //	547号土壌 L=268.00m
5 黄褐色土 S P粒を多量に含む。炭化物は微量。528墳覆土	1 黒褐色土 S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好
6 褐色土 ローム粒主体の層。しまりは良好	2 暗褐色土 S P粒、ローム粒を多量に含む。しまりはやや良好
530号土壌 L=267.80m	548号土壌 L=268.00m
1 黒褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を微量含む。しまりはやや乏しい	1 暗褐色土 しまりが著しく乏しい。木痕か
2 黄褐色土 ローム塊主体の層。しまりは乏しく壁崩壊土か	2 //
3 黒褐色土 包含物少なく均質。しまりは良好	549号土壌 L=268.10m
4 黄褐色土 ローム塊主体の層。炭化物を微量含み壁崩壊土か	1 暗褐色土 S P粒を微量含む。しまりは乏しく、別種の遺構覆土か
531号土壌 L=267.70m	2 褐色土 ローム粒主体の層。別種の遺構覆土
1 暗褐色土 砂粒、小型のローム塊、少量の炭化物を含む。しまりは良好	3 暗褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい
2 褐色土 小型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい	4 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
532号土壌 L=267.70m	5 //
1 黒褐色土 砂粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい	6 黄褐色土 S P粒、黒色土塊を含む。斑状を呈す
2 暗褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい	550号土壌 L=268.10m
3 //	551号土壌 L=267.00m
533号土壌 L=267.80m	552号土壌 L=268.10m
1 暗褐色土 S P粒、ローム塊、少量の炭化物を含み暗い。しまりはやや乏しい	554号土壌 L=269.10m
2 黒褐色土 ローム塊、炭化物を多く含む。しまりは乏しい	555号土壌 L=268.20m
3 暗褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む。しまりはやや良好	556号土壌 L=268.20m
4 //	557号土壌 L=268.20m
5 黄褐色土 S P粒を多量に含みやや暗い。しまりは乏しい	558号土壌 L=268.30m
534号土壌 L=267.70m	1 暗褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい
535号土壌 L=267.80m	2 //
1 黒褐色土 砂粒、炭化物を少量含む。しまりは良好	3 //
2 褐色土 小型のローム塊を主体とする。しまりは良好	4 褐色土 大型のローム塊を主体とする。しまりはやや乏しい
3 黒褐色土 S P粒、小型のローム塊を少量含む。しまりは良好	5 暗褐色土 S P粒、炭化物を含む。S P粒はブロック状堆積
4 暗褐色土 S P粒、大型のローム塊を多量に含む。しまりはやや乏しい	6 褐色土 ローム粒を少量含む。しまりは乏しい
5 褐色土 S P粒、ローム塊を多量に含む。壁崩壊土か	7 黄褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい
6 //	559号土壌 L=268.20m
7 黄褐色土 ローム塊	560号土壌 L=268.10m
536号土壌 L=268.00m	561号土壌 L=267.90m
1 黒褐色土 S P粒、ローム粒を微量含む。しまりは良好。別種の遺構覆土か	562号土壌 L=268.10m
2 暗褐色土 S P粒を含む。しまりは良好	563号土壌 L=268.20m
3 //	1 黒褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは乏しい
537号土壌 L=267.90m	2 //
538号土壌 L=267.90m	3 //
539号土壌 L=267.90m	4 暗褐色土 包含物少なく均質。壁崩壊土か
540号土壌 L=267.80m	5 黒褐色土 S P粒を多量に、小型のローム塊を少量含む。しまりは乏しい
	6 暗褐色土 大型のローム塊を主体とする。壁崩壊土か
	564, 565号土壌 L=268.20m
	1 黒褐色土 S P粒を微量含む。しまりは乏しい
	2 暗褐色土 S P粒、ローム塊を含む。しまりは良好

3 黄褐色土	ローム塊主体の層		
566号土壌 L=268.30m			
1	暗褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい	
2	黒色土	包含物少なく均質。しまりは著しく乏しく木痕か	
567号土壌 L=268.20m			
1	黒褐色土	ローム粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい	
2	〃	ローム粒を少量含み黒味を帯びる。しまりは乏しい	
3	〃	ローム粒を含む。しまりは乏しい	
4	暗褐色土	S P粒、ローム塊を多く含む。しまりはやや良好	
5	黄褐色土	ローム塊。やや暗い	
6	褐色土	ローム粒主体の層。しまりは良好	
568号土壌 L=268.30m	569号土壌 L=268.30m		
570号土壌 L=268.40m	571号土壌 L=268.30m		
572号土壌 L=268.40m			
573号土壌 L=268.40m			
1	黒褐色土	S P粒、ローム塊を多量に、炭化物を少量含む。しまりは乏しい	
2	褐色土	大型のローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい	
574号土壌 L=268.50m			
575号土壌 L=268.50m			
1	暗褐色土	S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい	
2	〃	ローム粒を多く含む。しまりはやや乏しい	
3	褐色土	ローム塊を少量含む。しまりは良好	
576号土壌 L=268.50m	577号土壌 L=268.50m		
578号土壌 L=268.50m	579号土壌 L=268.50m		
580, 581号土壌 L=268.60m			
1	黒褐色土	S P粒、炭化物を少量含む。円礫も多く出土。580層覆土	
2	〃	S P粒、ローム塊を少量含む。しまりはやや乏しい。581層覆土	
582号土壌 L=267.20m			
583号土壌 L=268.70m			
1	暗褐色土	S P粒、大型のローム塊、少量の炭化物を含む。しまりは乏しい	
2	〃	S P粒、小型のローム塊を含む。しまりはやや良好	
3	黒褐色土	S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは良好	
4	暗褐色土	S P粒、ローム塊を含む。しまりはやや乏しい	
5	褐色土	ローム塊主体の層	
584号土壌 L=268.60m			
585号土壌 L=268.50m			
1	黒褐色土	S P粒、暗褐色土塊を少量含む。しまりはやや良好	
2	暗褐色土	ローム粒、炭化物を少量含み暗い。しまりは乏しい	
3	黒褐色土	S P粒、小型のローム塊、炭化物を多く含む	
4	暗褐色土	S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい	
5	黒褐色土	S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは乏しい	
6	暗褐色土	大型のローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい	
586号土壌 L=268.60m			
1	暗褐色土	ローム塊を含む。しまりは極めて乏しく木痕等の攪	
		乱層か	
2	暗褐色土	S P粒、炭化物を少量含みやや暗い。しまりは良好	
3	褐色土	S P粒、大型のローム塊を含む。しまりは乏しい	
4	黄褐色土	大型のローム塊主体の層。しまりは乏しい	
587号土壌 L=269.10m	588号土壌 L=268.50m		
589号土壌 L=268.70m			
1	黒褐色土	包含物少なく均質。しまりは良好	
2	暗褐色土	帯状を呈す。S P粒、ローム粒を含み明るい	
3	〃	S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好	
4	黄褐色土	S P粒を多量に含む。しまりは乏しい	
590号土壌 L=268.40m			
1	暗褐色土	S P粒を少量含む。しまりは乏しい	
2	〃	大型のローム塊を含む。しまりはやや乏しい	
591号土壌 L=268.50m			
1	黒褐色土	S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい	
2	褐色土	ローム塊主体の層。しまりは乏しい	
3	黒褐色土	S P粒、ローム塊、炭化物を多く含む。しまりはやや乏しい	
592号土壌 L=268.40m			
1	黒褐色土	S P粒、ローム塊を含みやや明るい。しまりは良好	
2	暗褐色土	砂粒、小型のローム塊を含む	
3	褐色土	ローム塊主体の層。しまりは良好	
4	暗褐色土	ローム塊、炭化物を少量含む。しまりは乏しい	
5	〃	大型のローム塊を含む。しまりは乏しい	
593号土壌 L=268.30m	594号土壌 L=268.40m		
595号土壌 L=268.40m			
1	暗褐色土	S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい	
2	〃	S P粒、ローム粒を少量含む。しまりは良好	
3	黄褐色土	ローム塊主体の層。やや暗い	
596号土壌 L=268.10m	597号土壌 L=269.00m		
598号土壌 L=268.60m			
1	黒褐色土	S P粒、ローム粒を少量含む	
2	〃	ローム粒を多く含む	
3	褐色土	ローム粒を主体とする	
4	暗褐色土	ローム塊、炭化物を含む	
5	黄褐色土	ローム粒主体とする	
6	黄褐色土	ローム塊を多く含む	
599号土壌 L=268.50m			
1	暗褐色土	ローム粒を少量含む	
2	〃	均質。しまりは良好	
3	褐色土	ローム粒を多く含む	
600号土壌 L=268.60m			
1	黒褐色土	S P粒、ローム粒、遺物を多く含む。しまりはやや乏しい	
2	〃	S P粒を多く含む。しまりは乏しい	
3	暗褐色土	S P粒を少量、ローム塊を多く含む	
4	〃	ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい	
5	褐色土	ローム粒主体の層。壁崩壊土か	
601号土壌 L=268.00m			
1	黒褐色土	S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは良好	
2	〃	ローム粒を含む、しまりはやや乏しい	
3	〃	ローム塊、炭化物を少量含む。しまりは良好	

第IV章 遺構と遺物

603号土壌 L=268.30m		638号土壌 L=269.10m	
1	黒褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を多く含む。しまりは乏しい。別種の遺構覆土か	1	黒褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む。下端に礫を置く。しまりは乏しい
2	暗褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりはやや良好	2	暗褐色土 S P粒、ローム粒、黒色土塊を含む。
3	褐色土 S P粒、炭化物を少量、大型のローム塊を含む。しまりは乏しい	3	// ローム塊を多く含む。しまりはやや良好
4	黒褐色土 ローム塊を少量含みやや明るい。しまりは乏しい	639号土壌 L=267.70m	
5	黄褐色土 ローム塊を多く含みやや暗い。しまりは乏しい	640号土壌 L=268.00m	
604号土壌 L=268.20m		605号土壌 L=268.30m	
606号土壌 L=268.30m		607号土壌 L=268.30m	
608号土壌 L=268.40m		609号土壌 L=268.50m	
610号土壌 L=268.60m		611号土壌 L=268.50m	
612号土壌 L=268.50m		613号土壌 L=267.10m	
614号土壌 L=266.90m		615号土壌 L=267.00m	
616号土壌 L=268.50m		617号土壌 L=266.70m	
618号土壌 L=268.70m		619号土壌 L=266.70m	
620号土壌 L=268.80m		621号土壌 L=268.80m	
622号土壌 L=268.90m		623号土壌 L=266.40m	
624号土壌 L=268.40m			
1	黒褐色土 ローム塊を含む。しまりは乏しい。別種の土壌覆土		
2	暗褐色土 S P粒、炭化物を含む。しまりは乏しい		
3	// ローム塊、炭化物を多く含む。しまりは乏しい		
4	// S P粒を多く、ローム粒を含む。しまりは乏しい		
625号土壌 L=268.90m			
1	黒褐色土 S P粒を極微量含む。比較的均質		
2	褐色土 ローム塊主体の層。やや暗い		
3	暗褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは良好		
626号土壌 L=268.90m		627号土壌 L=268.80m	
628号土壌 L=268.80m		629号土壌 L=268.80m	
630号土壌 L=268.80m			
631号土壌 L=268.90m			
1	暗褐色土 ローム塊を多く含む		
2	// ローム塊を主体とする		
632号土壌 L=269.20m		633号土壌 L=266.50m	
634号土壌 L=269.00m			
635号土壌 L=269.40m			
1	暗褐色土 S P粒を少量含む。しまりは良好		
2	// S P粒を極微量含みやや明るい。しまりは良好		
636号土壌 L=269.80m		637号土壌 L=268.50m	
1	黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい		
2	暗褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む。しまりは乏しい		
639号土壌 L=267.70m		640号土壌 L=268.00m	
1	黒褐色土 S P粒を微量含む。しまりは良好		
2	暗褐色土 S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい		
641号土壌 L=267.40m		642, 643号土壌 L=267.50m	
644号土壌 L=268.80m			
645, 646号土壌 L=268.70m 1~4:646墳/5~8:645墳			
1	黒褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは良好		
2	// S P粒、大型のローム塊を含む		
3	暗褐色土 ローム塊を多く含む		
4	黒褐色土 ローム粒を多く含む。しまりは乏しい		
5	// 遺物の集中。S P粒を微量含む。しまりは乏しい		
6	// 礫、S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい		
7	// ローム粒を少量含む。しまりは乏しい		
647号土壌 L=268.70m			
1	黒褐色土 S P粒、焼土粒を少量含む。しまりは乏しい		
2	暗褐色土 ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい		
648号土壌 L=269.00m			
649号土壌 L=268.90m			
1	黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい		
2	暗褐色土 ローム粒、暗褐色土塊の斑状堆積。しまりは乏しい		
650号土壌 L=268.80m			
1	暗褐色土 ローム粒、微量の炭化物を含む。しまりは乏しい		
2	// ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい		
3	黄褐色土 ローム塊		
651号土壌 L=269.00m			
1	黒褐色土 S P粒を微量含む。しまりは乏しい		
2	暗褐色土 S P粒、ローム粒を多く含む。しまりは乏しい		
3	// ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい		
652号土壌 L=269.00m			
1	黒褐色土 S P粒を微量含む。しまりは乏しい		
2	暗褐色土 S P粒、ローム粒を多く含む。しまりは乏しい		
653号土壌 L=271.00m		654号土壌 L=271.00m	
655号土壌 L=268.80m			
1	黒褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を含む。しまりは乏しい		
2	暗褐色土 S P粒、ローム粒を含み明るい。しまりは乏しい		
3	暗褐色土 ローム塊、黒褐色土塊を斑状に堆積する。しまりはやや乏しい		
656号土壌 L=272.20m		657号土壌 L=268.70m	
658号土壌 L=267.80m		659号土壌 L=268.90m	
660号土壌 L=268.90m		661号土壌 L=271.40m	
662号土壌 L=269.20m			

土 層 註

663号土壌 L=269.20m

- 1 黒褐色土 小型の礫、円礫を含む。しまりは著しく乏しい
- 2 // 大型の円礫、小型の礫、少量のローム塊を含む。しまりは乏しい
- 3 // S P粒を少量含み黒味を帯びる。しまりはやや良好
- 4 // S P粒、ローム塊を含み明るい。しまりは乏しい

664号土壌 L=269.30m

- 1 黒褐色土 砂礫、S P粒、小型のローム塊を少量含む。しまりは乏しい
- 2 暗褐色土 大型のローム塊を含む。しまりはやや良好
- 3 黒褐色土 S P粒を少量、小型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい

665号土壌 L=269.00m

666号土壌 L=271.50m

667号土壌 L=268.90m

668号土壌 L=268.80m

669号土壌 L=268.20m

670号土壌 L=268.30m

- 1 暗褐色土 S P粒、ローム粒を含み暗い。しまりはやや乏しい
- 2 褐色土 ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい
- 3 // 大型のローム塊を主体とする。しまりは乏しい

671, 672号土壌 L=268.80m

- 1 暗褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム粒を少量含む。しまりは良好
- 3 黄褐色土 ローム塊主体の層
- 4 褐色土 S P粒、ローム粒を多く含む。しまりは乏しい。671 墳覆土

673号土壌 L=268.20m

674号土壌 L=268.50m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム粒、炭化物を含む
- 3 黄褐色土 ローム塊主体の層。しまりは乏しい
- 4 褐色土 漸移層を主体とする

675号土壌 L=268.60m

676号土壌 L=268.00m

677号土壌 L=268.70m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を微量含む。しまりは乏しい
- 2 黄褐色土 軟質ローム塊
- 3 暗褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは良好

678号土壌 L=268.80m

- 1 黒褐色土 ローム粒を多く含む
- 2 暗褐色土 ローム粒を主体とする
- 3 // ローム塊を含む

679号土壌 L=268.80m

680号土壌 L=268.20m

681号土壌 L=268.70m

682, 683号土壌 L=268.60m

684号土壌 L=268.50m

- 1 黒褐色土 S P粒、小型のローム粒を少量含む。しまりは良好
- 2 暗褐色土 S P粒を少量、ローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい
- 3 黄褐色土 ローム塊主体の層

685号土壌 L=268.60m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を多量に含む。しまりは良好
- 2 暗褐色土 S P粒を微量含む
- 3 黄褐色土 S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりはやや乏しい

686号土壌 L=268.00m

687号土壌 L=268.40m

688号土壌 L=268.40m

689号土壌 L=268.30m

690号土壌 L=271.50m

691号土壌 L=268.90m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
- 2 // S P粒、ローム粒を含む。しまりはやや乏しい
- 3 褐色土 軟質ローム塊を多く含む
- 4 黒褐色土 包含物少なく均質。しまりは良好

692号土壌 L=269.00m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 2 // S P粒、炭化物を極微量含む
- 3 暗褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
- 4 // S P粒、黒色土塊を含む。しまりは良好
- 5 黄褐色土 ローム粒、暗褐色土塊を含む。しまりは良好

693号土壌 L=269.00m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
- 2 黄色土 S P粒を主体とする
- 3 黄褐色土 漸移層塊を主体とする
- 4 黒色土 包含物少なく均質。しまりは良好

694号土壌 L=268.90m

- 1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
- 2 // S P粒、炭化物を微量含む。しまりは乏しい
- 3 暗褐色土 ローム粒、黒色土塊を含む。斑状堆積
- 4 褐色土 ローム粒を多量に含む。しまりは良好

695号土壌 L=271.00m

696号土壌 L=268.30m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい
- 2 暗褐色土 S P粒、ローム塊を含む。しまりは良好
- 3 黄褐色土 ローム粒主体の層。しまりは良好

697号土壌 L=268.30m

698号土壌 L=268.90m

- 1 暗褐色土 ローム塊、炭化物を含み明るい。しまりは良好
- 2 // 多量のローム塊、炭化物を含む。しまりは良好
- 3 // ローム塊と褐色土塊の斑状堆積
- 4 黄褐色土 ローム粒主体の層。しまりは良好

699号土壌 L=271.40m

700号土壌 L=269.20m

- 1 黒褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
- 2 暗褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
- 3 // 大型のローム塊を含みや明るい。しまりは乏しい
- 4 褐色土 ローム塊主体の層。しまりはやや良好

701号土壌 L=269.30m

- 1 暗褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
- 2 暗褐色土 大型のローム塊を含む。しまりはやや乏しい
- 3 褐色土 ローム塊主体の層

第IV章 遺構と遺物

702号土壌 L=268.10m	703号土壌 L=268.10m	732, 733号土壌 L=268.90m 1~4:732墳, 5~7:733墳
704号土壌 L=268.40m	705号土壌 L=271.30m	1 暗褐色土 S P粒を少量含みややや明るい。しまりは乏しい
706号土壌 L=271.70m	707号土壌 L=271.30m	2 黒褐色土 S P粒を多く含む。しまりは乏しい
708号土壌 L=268.30m	709号土壌 L=268.20m	3 暗褐色土 ローム粒を含みややや暗い。しまりは良好
710号土壌 L=270.50m	711号土壌 L=270.80m	4 黒褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
712号土壌 L=268.50m	713号土壌 L=268.50m	5 暗褐色土 漸移層塊を多く含む。しまりは良好
714号土壌 L=268.60m	715号土壌 L=268.50m	6 // 漸移層塊を少量含む。しまりは乏しい
716号土壌 L=268.50m	717号土壌 L=271.00m	7 褐色土 S P粒、ローム粒を多く含む。しまりは乏しい
718号土壌 L=271.20m	719号土壌 L=268.40m	734号土壌 L=257.00m
720号土壌 L=269.50m		1 黒褐色土 包含物少なく均質。黒味を帯びる
1 黒褐色土 S P粒を微量含む。しまりは乏しい		2 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む。しまりはやや良好
2 // S P粒を多く含む。しまりは乏しい		3 // S P粒、ローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい
3 暗褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む		4 // 礫、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
721号土壌 L=268.20m		5 褐色土 ローム塊を含む。壁崩壊土か
1 黒褐色土 S P粒を少量含む。しまりは良好		735号土壌 L=268.90m
2 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは良好		1 褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
722号土壌 L=268.40m	723号土壌 L=268.90m	736号土壌 L=268.90m
724号土壌 L=268.80m		1 暗褐色土 S P粒を少量含む。覆土中の遺物はこの層より出土
1 黒褐色土 S P粒を極微量含む。しまりは良好		2 褐色土 ローム塊主体の層。やや暗い
2 暗褐色土 ローム塊を少量含む。しまりはやや乏しい		3 暗褐色土 包含物少なく均質。極微量のS P粒を含む
725号土壌 L=268.40m		4 黄褐色土 S P粒を多量に含む。しまりはやや乏しい
1 暗褐色土 S P粒を含み明るい。しまりはやや乏しい		737号土壌 L=267.00m
2 // 小型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい		1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含み明るい。しまりは乏しい
3 黄色土 S P粒を主体とするブロック状の層		2 暗褐色土 S P粒、ローム粒を多く、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
4 暗褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい		3 褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは良好
726号土壌 L=268.60m		4 暗褐色土 ローム粒を極微量含み暗い。しまりは乏しい
1 黒褐色土 小型のローム塊を多く含む。しまりは乏しい		5 // ローム塊を多く含み黒味を帯びる。しまりは乏しい
2 // 包含物少なく均質。極微量のS P粒を含む		738号土壌 L=267.30m
3 暗褐色土 ローム塊を多く含む。壁崩壊土か		1 黒褐色土 S P粒を少量、炭化物を多く含む。しまりは乏しい
727号土壌 L=266.50m		2 // S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい
1 暗褐色土 小型のローム塊を含む。しまりは乏しい		3 暗褐色土 漸移層塊。しまりは良好。壁崩壊土か
2 // 小型のローム塊を多く含みややや明るい		4 黒褐色土 S P粒を多量に含む。しまりは乏しい
3 褐色土 ローム粒を多く含む。壁崩壊土か		5 褐色土 S P粒を多量に含む。しまりはやや良好
4 黒褐色土 S P粒、ローム塊を多く含む。別種の遺構覆土か		6 黄褐色土 S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい
728号土壌 L=268.10m		739号土壌 L=267.30m
1 黒褐色土 S P粒、ローム粒を含み明るい。しまりは良好		1 暗褐色土 焼土粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい
2 暗褐色土 ローム粒を多く含む。しまりはやや乏しい		2 // ローム塊を含みややや暗い
3 黄褐色土 S P粒、ローム塊主体の層		3 // 漸移層塊を主体とする。しまりは良好
729号土壌 L=268.60m		4 黒褐色土 ローム塊を微量、炭化物少量含む。遺物の出土が密である。しまりは乏しい
730, 731号土壌 L=268.80m 1, 2:731墳, 3~5:730墳		5 暗褐色土 ローム塊を含む。しまりは乏しい
1 暗褐色土 ローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい		4 黄褐色土 ローム塊主体の層
2 // 大型のローム塊を多く含み暗い。しまりは乏しい		7 褐色土 ローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい
3 // 小型のローム塊を含む。しまりは乏しい		740号土壌 L=267.10m
4 // S P粒、大型のローム塊を含む。しまりは乏しい		1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりはやや良好
5 褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい		2 暗褐色土 S P粒を少量、炭化物微量含む。しまりは乏しい
		3 // 大型のローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい
		4 // S P粒、少量のローム塊を含みややや暗い
		5 // S P粒、ローム塊を少量含む。しまりはやや乏しい
		6 // S P粒、ローム塊を多量に含みややや暗い、しまりは乏しい
		741号土壌 L=267.20m
		1 暗褐色土 S P粒、炭化物を含む。しまりはやや乏しい
		2 // S P粒を多量に、炭化物を極微量含む。
		3 // S P粒を多量に含み暗い。しまりは乏しい

土 層 註

4	//	包含物少なく均質。しまりは乏しい
5	//	S P粒をブロック状に含み暗い。しまりは乏しい

742号土壌 L=267.10m

1	暗褐色土	S P粒をブロック状に含む。しまりは乏しい
2	//	S P粒を少量含む。しまりはやや良好
3	褐色土	ローム塊主体の層。しまりはやや乏しい
4	暗褐色土	S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい

743号土壌 L=267.20m

1	黒褐色土	S P粒を少量含む。しまりはやや乏しい
2	暗褐色土	S P粒、ローム塊を多く含む。しまりは乏しい
3	//	S P粒、ローム粒を少量含む。しまりは乏しい
4	黒褐色土	ローム塊を少量含む。しまりはやや乏しい
5	黄褐色土	S P粒、ローム塊を主体とする。しまりは乏しい

744, 745号土壌 L=267.20m 1~7:744壌, 8~13:745壌

1	黒褐色土	S P粒、炭化物を多量に含む。しまりは乏しい
2	褐色土	S P粒を少量、ローム塊を多く含む。しまりは良好
3	暗褐色土	S P粒、炭化物を少量含む
4	//	ローム塊を多く、遺物、炭化物を少量含む
5	//	S P粒を多く、遺物、炭化物を少量含む
6	//	S P粒、ローム塊を少量含む。しまりはやや良好
7	//	S P粒を多量に含む。しまりはやや乏しい
8	黒褐色土	S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは良好
9	褐色土	S P粒、ローム塊を含む。しまりは良好
10	黒褐色土	ローム塊を少量含む。しまりはやや乏しい
11	//	S P粒を多量に含む。しまりはやや乏しい
12	//	S P粒、ローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい
13	暗褐色土	S P粒を多量に含みやや明るい。しまりは乏しい

746号土壌 L=267.10m

1	黒褐色土	S P粒を多く含む。しまりはやや乏しい
2	//	S P粒を極微量含む。しまりは乏しい
3	暗褐色土	S P粒、小型のローム塊を少量含む。しまりは乏しい
4	//	S P粒、小型のローム塊を含む。しまりは乏しい
5	黒褐色土	S P粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい
6	//	S P粒を多量に含む
7	//	S P粒を少量含む。しまりは良好

747号土壌 L=267.80m

1	黒褐色土	S P粒、暗褐色土塊を少量含む。しまりは良好
2	//	S P粒を微量含む。しまりは良好
3	//	S P粒を多く含む。しまりは良好
4	//	S P粒をブロック状に多く含む。しまりは良好
5	//	S P粒を少量含みやや明るい。しまりは良好
6	暗褐色土	S P粒、ローム粒を含む。しまりは良好
7	//	S P粒、ローム粒を微量含む
8	//	小型のローム塊を多く含む
9	//	ローム塊を少量含む。しまりは良好
10	黒褐色土	S P粒を少量含む。しまりはやや乏しい
11	//	包含物少なく均質。しまりは良好
12	暗褐色土	各土層の影響を受けている。しまりは乏しい。杭痕か

748号土壌 L=267.10m

1	暗褐色土	S P粒を少量含み均質。しまりは良好
2	//	S P粒を多く含む。しまりはやや乏しい
3	黒褐色土	包含物少なく均質。しまりは良好
4	黄褐色土	ローム塊
5	//	S P塊を主体とする

749号土壌 L=267.20m

1	暗褐色土	ローム塊、少量の炭化物を含む
---	------	----------------

2	//	やや大型のローム塊を含む
3	黒褐色土	S P粒、ローム塊、大型の炭化物を多く含む。しまりはやや乏しい
4	//	大型のローム塊を含む。しまりはやや乏しい
5	//	大型のローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい

750号土壌 L=266.50m

751号土壌 L=266.40m

752号土壌 L=266.50m

753号土壌 L=266.50m

754号土壌 L=266.60m

755号土壌 L=266.70m

756号土壌 L=266.70m

757号土壌 L=266.70m

758号土壌 L=267.00m

1	赤褐色土	36住炉の焼土塊層
2	暗褐色土	S P粒、炭化物を少量含みやや暗い。しまりは乏しい
3	//	S P粒、小型のローム塊、炭化物を含む。しまりはやや乏しい
4	//	ローム粒を多く含み明るい。しまりは乏しい
5	//	S P粒、大型の炭化物を多く含む。しまりは乏しい
6	//	S P粒、ローム粒を多く含む。しまりはやや良好

759号土壌 L=266.50m

1	黒褐色土	S P粒を微量含む。しまりは良好
2	//	S P粒を微量含みやや明るい。しまりは良好
3	暗褐色土	包含物少なく均質。しまりは良好
4	黒褐色土	包含物少なく均質。S P粒を微量含み黒味を帯びる
5	暗褐色土	ローム塊を主体とする。壁崩壊土か
6	//	ローム塊を斑状に堆積する。しまりは良好
7	黒褐色土	均質。S P粒を微量含む。しまりは良好
8	暗褐色土	包含物少なく均質。やや明るい
9	褐色土	均質。ブロック状の堆積
10	黄褐色土	ローム粒主体の層。壁崩壊土か
11	//	ローム粒主体の層。しまりは乏しい

760号土壌 L=268.30m

1	暗褐色土	S P粒を少量含みやや暗い。しまりは乏しい
2	褐色土	大型のローム塊を主体とする
3	暗褐色土	S P粒、小型のローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい
4	//	S P粒、ローム粒を多く含む。しまりは乏しい
5	黄褐色土	ローム塊主体の層
6	暗褐色土	S P粒、ローム塊を多量に含む。しまりは良好

761, 762号土壌 L=268.30m 1~4:761壌 5~8:762壌

1	黒褐色土	S P粒を極少量含む。しまりは良好
2	//	S P粒を含み黒味を帯びる。しまりはやや乏しい
3	暗褐色土	ローム粒を多く含む。しまりはやや良好
4	黒褐色土	ローム塊を多量に含む。しまりは乏しい
5	暗褐色土	ローム塊を少量含む。均質でしまりも良好
6	//	S P粒を含む。しまりはやや乏しい
7	//	ローム塊を含む。しまりは良好

763号土壌 L=268.20m

1	黒褐色土	S P粒を少量含む。しまりはやや乏しい
2	//	S P粒、ローム粒を含む。しまりは乏しい
3	黄褐色土	ローム塊
4	暗褐色土	S P粒、ローム粒を多量に含む。しまりは乏しい

764号土壌 L=268.20m

1	暗褐色土	ローム粒、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい
2	//	ローム粒を少量含みやや明るい。しまりは良好

第IV章 遺構と遺物

3 褐色土	S P粒、大型のローム塊、黒色土塊を含む。しまりは乏しい	800号土壌	L=268.50m	801号土壌	L=268.40m
765号土壌 L=268.30m		802号土壌	L=268.40m	803号土壌	L=268.30m
1 褐色土	ローム塊を多量に、炭化物を少量含む	804号土壌	L=268.30m	805号土壌	L=268.30m
2 黒褐色土	ローム塊を少量含む。しまりは良好	806号土壌	L=268.50m	807号土壌	L=268.90m
3 暗褐色土	ローム粒を多く含む。しまりはやや乏しい	766号土壌 L=268.30m			
767号土壌 L=268.50m		808号土壌	L=268.90m	809号土壌	L=268.80m
1 暗褐色土	S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい	810号土壌	L=268.40m	811号土壌	L=268.60m
2 //	S P粒、ローム塊を多量に含みやや明るい。	812号土壌	L=268.90m	813号土壌	L=268.50m
3 //	S P粒を多く含み黒味を帯びる。しまりは乏しい	814号土壌	L=268.50m	815号土壌	L=268.50m
768号土壌 L=268.30m		816号土壌	L=268.50m	817号土壌	L=268.30m
1 黒褐色土	礫、S P粒、炭化物を少量含む。しまりは乏しい	818号土壌	L=268.30m	819号土壌	L=268.30m
2 暗褐色土	ローム塊を多く含む。しまりは良好	769号土壌 L=267.90m			
3 黒褐色土	礫、S P粒、炭化物を多く含む。しまりは乏しい	820号土壌	L=268.30m	821号土壌	L=268.30m
4 暗褐色土	大型のローム塊を多量に含む。しまりは乏しい	822号土壌	L=268.30m	823号土壌	L=268.30m
5 褐色土	ローム粒を多く含む。壁崩壊土か	824号土壌	L=269.60m	825号土壌	L=269.40m
769号土壌 L=267.90m		826号土壌	L=268.90m	827号土壌	L=268.90m
1 暗褐色土	S P粒、ローム塊を少量含む。しまりは乏しい	828号土壌 L=268.70m			
2 //	包含物少なく均質	1 暗褐色土	S P粒、ローム塊を少量含む。しまりはやや良好		
3 //	ローム粒を多量、炭化物を少量含む。	2 //	ローム塊を多く含む。しまりは乏しい		
4 褐色土	ローム塊を多く含む。しまりはやや良好	3 //	大型のローム塊を多く含む。しまりは良好		
5 黄褐色土	ローム塊	4 //	S P粒、ローム粒を含みやや明るい		
770号土壌	L=267.80m	771号土壌	L=268.00m	829号土壌	L=268.80m
772号土壌	L=271.30m	773号土壌	L=268.30m	831号土壌	L=268.90m
774号土壌	L=268.60m	775号土壌	L=268.60m	833号土壌	L=269.30m
776号土壌	L=268.60m	777号土壌	L=268.60m	835号土壌	L=266.80m
778号土壌	L=268.50m	779号土壌	L=268.70m	837号土壌	L=266.80m
780号土壌	L=269.20m	781号土壌	L=268.70m	839号土壌	L=267.00m
782号土壌	L=268.60m	783号土壌	L=268.90m	841号土壌	L=267.00m
784号土壌	L=268.60m	785号土壌	L=268.60m	843号土壌	L=267.50m
786号土壌	L=268.60m	787号土壌	L=271.40m	845号土壌	L=267.50m
788号土壌	L=268.60m	789号土壌	L=269.40m	847号土壌	L=268.00m
790号土壌	L=269.20m	791号土壌	L=269.20m	849号土壌	L=268.40m
792号土壌	L=269.10m	793号土壌	L=266.80m	851号土壌	L=268.20m
794号土壌	L=270.90m	795号土壌	L=271.90m	853号土壌	L=268.20m
796号土壌	L=268.20m	797号土壌	L=268.40m	855号土壌	L=268.00m
798号土壌	L=268.10m	799号土壌	L=268.40m	857号土壌	L=267.90m
				830号土壌	L=268.90m
				832号土壌	L=278.00m
				834号土壌	L=269.20m
				836号土壌	L=266.80m
				838号土壌	L=266.80m
				840号土壌	L=267.10m
				842号土壌	L=267.00m
				844号土壌	L=267.40m
				846号土壌	L=268.00m
				848号土壌	L=268.40m
				850号土壌	L=268.40m
				852号土壌	L=268.20m
				854号土壌	L=268.30m
				856号土壌	L=267.20m
				858号土壌	L=267.80m

859号土壌 L=267.70m	860号土壌 L=269.30m
861号土壌 L=269.00m	862号土壌 L=268.10m
863号土壌 L=268.10m	864号土壌 L=268.10m
865号土壌 L=268.00m	866号土壌 L=268.00m
867号土壌 L=268.00m	868号土壌 L=268.00m
869号土壌 L=268.00m	870号土壌 L=268.00m
871号土壌 L=265.80m	872号土壌 L=267.50m
873号土壌 L=267.40m	874号土壌 L=267.50m
875号土壌 L=267.50m	876号土壌 L=266.90m

877号土壌 L=271.30m
1 暗褐色土 S P粒を少量含む。しまりは良好
2 黄褐色土 角礫、ローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい

878号土壌 L=271.30m
1 暗褐色土 砂粒を少量含みやや暗い。しまりは良好
2 黄褐色土 角礫を含む。しまりは良好

879号土壌 L=271.90m
1 暗褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
2 // ローム塊を多く含む。しまりは良好

880号土壌 L=271.10m

881号土壌 L=271.90m
1 黒褐色土 S P粒を極微量含む。しまりは良好
2 褐色土 ローム粒を多量に含む。しまりはやや乏しい
3 黒褐色土 S P粒を少量含む。しまりは良好
4 // S P粒、焼土粒を含む。しまりは良好
5 黄褐色土 ローム塊。しまりはやや乏しい。壁崩壊土か

882号土壌 L=271.50m
1 黒褐色土 ローム塊を多く含む。しまりはやや乏しい
2 暗褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい

883, 884号土壌 L=272.30m
1 暗褐色土 円礫、砂粒、ローム塊を多く含む。しまりは良好。883号土壌覆土
2 // 1に類似。円礫、砂粒、ローム塊を少量含む。884号土壌覆土
3 黄褐色土 ローム塊主体の層

表6 古墳・平安時代住居址土層

2号住居址 L=268.10m
1 黒色土 FP含む
2 淡褐色砂礫 FP主体、純層
3 黒色土 1よりややFP少ない
4 赤褐色土 焼土、炭化物、FP含む

2号住 竈 L=268.10m
1 黒色土 FP、FA塊を含む
2 // FP、炭化物含む
3 赤褐色土 焼土塊主体
4 褐色土 焼土化した漸移層

885号土壌 L=272.30m
1 黒褐色土 S P粒、炭化物を少量含む。しまりは良好
2 暗褐色土 S P粒、ローム塊を少量含む

886号土壌 L=274.10m
1 黒褐色土 S P粒を極微量含む。しまりは良好
2 // 1に類似。やや暗い
3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまりは乏しい
4 黄褐色土 大型のローム塊を含む。しまりは乏しい

887号土壌 L=274.30m
1 暗褐色土 円礫、S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい
2 // S P粒をブロック状に含む。しまりは良好
3 // S P粒、ローム塊を微量含む。しまりはやや乏しい
4 黒褐色土 S P粒、ローム塊、炭化物を少量含む。しまりはやや乏しい
5 褐色土 ローム塊を多く含み明るい。しまりは乏しい

888号土壌 L=274.30m
1 黒褐色土 砂粒、S P粒を少量含む。しまりは良好で粘質
2 // 円礫、S P粒、ローム塊を含む。しまりは乏しい
3 褐色土 ローム粒主体の層。しまりは乏しい
4 // 3に類似しやや暗い
5 黄褐色土 ローム塊を主体とし、小型の角礫を含む
6 暗褐色土 砂粒、ローム粒を少量含む
7 黄褐色土 礫、大型のローム塊を多く含む
8 褐色土 ローム粒を主体。しまりは乏しい

889号土壌 L=273.40m
1 暗褐色土 ローム塊を多く含みやや明るい。しまりは乏しい
2 黄褐色土 ローム塊。やや暗い
3 // ローム塊主体の層

890号土壌 L=273.60m
1 暗褐色土 礫を多く含み黒味を帯びる。しまりは良好
2 // 大型の礫が集中する。しまりは良好
3 褐色土 S P粒を微量、ローム粒を多量に含む。しまりはやや乏しい

891号土壌 L=273.70m
1 黒褐色土 砂礫、S P粒、暗褐色土塊を含む。しまりは良好
2 褐色土 ローム塊主体の層。しまりは良好

892号土壌 L=273.20m
1 暗褐色土 ローム塊を多く含む。しまりは乏しい

893号土壌 L=262.20m

894号土壌 L=269.00m

3号住居址 L=262.00m
1 黒色土 FP含む
2 黒褐色土 FP、ローム塊、焼土含む
3 黄褐色土 ローム粒、炭化物含む

3号住 竈 L=269.20m
1 赤褐色土 焼土塊
2 淡褐色土 FPを含む礫層
3 黒色土 FP、焼土を少量含む
4 黒褐色土 焼土、FP含む
5 暗褐色土 焼土化した漸移層

第IV章 遺構と遺物

4号住居址 L=270.50m

- 1 黒色土 FPを含む
- 2 淡褐色土 FP、FAを含む
- 3 黒褐色土 FPを少量含む
- 4 赤褐色土 FP、焼土、炭化物を含む

4号住 竈 L=270.50m

- 1 黒色土 FPを多量に含む。しまりは乏しい
- 2 橙褐色土 FP、焼土粒を少量含む
- 3 赤褐色土 焼土塊を多量に含む。崩壊土
- 4 黒褐色土 FP、炭化物混じりの灰を含む
- 5 // FP、焼土粒を少量含む
- 6 褐色土 ローム粒、灰を少量含む。しまりはやや良好

5号住居址 L=267.40m

- 1 黒色土 FPを含む
- 2 黒褐色土 灰色味を帯びる。FP、FA塊を含む
- 3 // FPを少量含む
- 4 // 粒子緻密。均質

5号住 竈 L=267.40m

- 1 黒褐色土 FP、焼土少量含む
- 2 赤褐色土 焼土層
- 3 // 焼土、灰を少量含む
- 4 黒褐色土 赤味を帯びる。焼土、灰、炭化物を含む
- 5 暗褐色土 漸移層塊を少量含む
- 6 // やや明るい

6号住居址 L=266.10m 竈 L=266.00m

- 1 赤褐色土 焼土化の進んだローム塊
- 2 黒褐色土 焼土、黒色土塊を含む
- 3 黒褐色土 黒色土塊を含む

7号住居址 L=265.60m

- 1 黒色土 FPを含む
- 2 // 炭化物、ローム粒を少量含む
- 3 黒褐色土 ローム塊を少量含む

7号住G-G', H-H' L=265.20m

- 1 赤褐色土 焼土、炭化物、鉄滓、FP含む
- 2 黒褐色土 ローム塊を含む
- 3 // ローム粒、FPを含む

7号住 貯蔵穴? E-E' L=265.20m

- 1 黒褐色土 ローム粒含む
- 2 // ローム塊含む
- 3 褐灰色土 灰層

8・10号住居址 L=265.50m

- 1 黒褐色土 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土 FP、ローム粒含む
- 3 褐色土 FP、少量のローム粒含む
- 4 暗褐色土 FP、ローム塊含む
- 5 黄褐色土 ローム塊を多量に含む

6 // ローム塊主体の層

9号住居址 L=264.90 土壌 L=264.90

- 1 黒色土 FP、炭化物を少量含む
- 2 黒褐色土 FP、ローム塊を少量含む
- 3 黄褐色土 ローム塊主体

11号住居址 L=266.00m

12号住居址 L=275.00m

- 1 黒色土 FPを含む
- 2 淡褐色土 FPを多量に含む砂礫層
- 3 黒色土 1に類似する。しまり良
- 4 黒褐色土 FP、ローム塊を少量含む
- 5 // ローム塊含む

13号住居址 L=270.70m

- 1 黒褐色土 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土 FP少量含む
- 3 // 極少量のFP含む。しまり不良

14号住居址 L=270.00m

- 1 黒色土 FPを含む
- 2 黒褐色土 小型のFPを含む
- 3 暗褐色土 FPを含まない

14号住 土壌 L=268.60m

- 1 黒褐色土 FP、炭化物含む
- 2 褐色土 やや明るく粘性を帯びる
- 3 黒褐色土 FPを少量含む
- 4 黒褐色土 FP、炭化物を含む

15号住居址 L=270.00m

- 1 黒色土 FPを含む
- 2 黒褐色土 小型のFPを含む
- 3 褐色土 FP、ローム粒を含む
- 4 暗褐色土 FPを含まない

16号住居址 L=273.70m 攪乱層に切られる

- 1 茶褐色土 耕作土
- 2 黒色土 FPを含む
- 3 暗褐色土 FP、ローム粒を少量含む
- 4 褐色土 ローム粒を主体とする

17号住居址 L=272.70m

- 1 黒色土 FPを含む
- 2 黒褐色土 小型のFPを含む。粘性強
- 3 暗褐色土 FPを極微量含む
- 4 黄褐色土 ローム粒を主体とする

19号住居址 L=270.00m

- 1 黒色土 大型のFPを含む
- 2 黒褐色土 小型のFPを含む

表7 石器計測表

石 鏃

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号
88 1	遺構外	黒耀	1.2	1.3	0.4	0.4	完形	273-1	88 20	濠内	黒安	2.2	1.4	0.4	1.0	片脚欠	273-20
88 2	〃	〃	1.5	1.1	0.4	0.4	〃	〃-2	88 21	36住	黒頁	2.3	1.4	0.3	1.0	完形	〃-21
88 3	57 壇	〃	1.2	1.7	0.3	0.4	脚端欠	〃-3	88 22	1住上	〃	2.3	1.5	0.5	1.4	先端欠	〃-22
88 4	479 壇	〃	1.2	1.3	0.3	0.4	先端脚欠	〃-4	88 23	341 壇	チ	2.4	1.7	0.5	1.7	片脚欠	274-23
88 5	408 壇	〃	1.8	1.1	0.4	0.5	脚端欠	〃-5	88 24	22住	黒耀	2.6	2.0	0.3	0.8	完形	〃-24
88 6	299 壇	チ	1.8	1.3	0.3	0.6	〃	〃-6	88 25	156 壇	〃	2.5	1.4	0.5	1.0	片脚欠	〃-25
88 7	369 壇	黒耀	1.8	1.3	0.5	0.7	完形	〃-7	88 26	7住	黒頁	2.5	1.7	0.4	1.3	先端欠	〃-26
88 8	遺構外	チ	1.9	1.3	0.4	0.9	〃	〃-8	88 27	1 壇	〃	2.9	1.5	0.4	1.0	片脚欠	〃-27
88 9	27 壇	〃	2.2	1.5	0.5	1.1	側縁欠	〃-9	88 28	34住	〃	3.1	1.2	0.5	1.4	完形	〃-28
88 10	20住	〃	2.0	1.5	0.5	1.0	完形	〃-10	88 29	77 壇	チ	3.1	1.4	0.4	1.5	脚端欠	〃-29
88 11	34住	黒安	2.0	1.7	0.3	0.7	脚端欠	〃-11	88 30	8住	黒頁	2.9	1.4	0.4	1.8	先端欠	〃-30
88 12	403 壇	黒頁	2.0	1.7	0.4	1.0	完形	〃-12	88 31	34住	チ	3.6	1.5	0.5	1.6	完形	〃-31
88 13	24 壇	チ	2.4	1.5	0.5	1.4	片脚欠	〃-13	88 32	20住	黒頁	2.7	1.6	0.4	1.6	〃	〃-32
88 14	20住	黒耀	1.9	1.2	0.3	0.5	完形	〃-14	88 33	濠内	〃	3.1	1.9	0.3	2.0	〃	〃-33
88 15	〃	黒頁	2.2	1.4	0.4	0.7	片脚欠	〃-15	88 34	1住	〃	3.7	2.3	0.6	4.8	〃	〃-34
88 16	遺構外	黒耀	2.6	1.3	0.5	1.0	脚端欠	〃-16	88 35	濠内	〃	3.5	1.8	0.6	3.2	〃	〃-35
88 17	131 壇	黒安	2.6	1.3	0.5	1.2	〃	〃-17	88 36	36住	黒耀	1.9	1.3	0.3	0.9	〃	〃-36
88 18	1住	黒頁	2.2	1.3	0.3	1.0	先端欠	〃-18	88 37	14住	黒頁	3.4	1.7	0.4	1.7	〃	〃-37
88 19	479 壇	チ	2.2	1.3	0.4	0.8	脚端欠	〃-19									

石 錐

89 1	127 壇	黒頁	3.7	1.3	0.6	3.4	側縁欠	275-1	89 8	893 壇	黒頁	4.1	3.4	1.1	11.2	上半欠	275-8
89 2	101 壇	〃	4.3	1.5	0.7	4.5	完形	〃-2	89 9	濠内	〃	5.6	5.8	1.5	43.8	完形	〃-9
89 3	21住	〃	4.1	2.2	0.5	3.5	上半欠	〃-3	89 10	〃	〃	5.0	3.7	0.8	10.4	〃	〃-10
89 4	濠内	〃	4.3	2.0	0.7	4.2	側縁欠	〃-4	89 11	〃	〃	4.7	3.5	0.8	10.0	〃	〃-11
89 5	遺構外	〃	4.7	1.8	0.8	3.4	完形	〃-5	89 12	484 壇	〃	4.9	4.2	1.5	27.5	側縁欠	〃-12
89 6	341 壇	〃	6.3	2.7	1.5	16.0	先端欠	〃-6	89 13	21住	〃	8.6	7.7	2.0	116.1	完形	〃-13
89 7	479 壇	〃	3.9	2.5	0.7	6.0	完形	〃-7									

ピエス・エスキーユ

89 1	403 壇	黒安	3.8	3.2	0.8	10.0	完形	276-1	89 3	193 壇	黒頁	8.6	4.3	1.3	67.0	完形	276-3
89 2	33住	黒頁	4.4	3.7	0.9	16.0	〃	〃-2	89 4	729 壇	黒耀	1.5	1.1	0.7	1.2	〃	〃

石 匙

89 1	42 壇	黒安	7.0	2.8	1.0	21.0	完形	277-1	89 4	20住	黒頁	2.9	4.9	0.9	8.1	完形	277-4
89 2	22住	黒頁	7.1	4.5	1.2	35.0	〃	〃-2	89 5	426 壇	〃	5.5	2.3	0.8	8.0	未製品	〃-5
89 3	155 壇	〃	4.7	4.3	1.0	14.0	刃部欠	〃-3	89 6	541 壇	チ	1.4	2.7	0.4	0.9	〃	〃-6

尖頭器状石器

89 1	421 壇	黒頁	8.4	4.3	1.5	62.0	上半欠	278-1	89 3	表採	黒頁	7.7	2.9	1.4	35.0	完形	278-3
89 2	濠内	〃	7.6	3.1	1.7	32.9	〃	〃-2									

石 核

90 1	767 壇	黒頁	4.4	10.4	4.3	162.0		279-1	90 13	744 壇	黒耀	3.6	2.7	1.8	16.7		280-13
90 2	114 壇	〃	10.1	6.8	3.6	250.0		〃-2	90 14	20住	黒頁	12.1	10.7	3.5	630.0		〃-14
90 3	361 壇	〃	7.3	6.3	4.9	310.0		〃-4	90 15	739 壇	〃	11.9	12.8	4.6	784.5		〃-15
90 4	25住	〃	9.4	5.5	4.2	230.0		〃-5	91 16	濠内	〃	6.5	4.5	2.0	79.9		
90 5	333 壇	〃	8.5	6.4	4.5	250.0		280-6	91 17	遺構外	〃	4.4	3.7	2.2	33.3		
90 6	遺構外	〃	4.9	4.7	2.4	77.0		279-3	91 18	343 壇	〃	6.7	4.2	2.3	68.4		
90 7	遺構外	〃	9.5	7.3	3.6	280.0		280-7	91 19	459 壇	〃	5.4	5.3	3.7	96.7		
90 8	34住	〃	5.6	5.9	2.8	84.1		〃-8	91 20	遺構外	〃	3.9	3.7	2.5	41.6		
90 9	425 壇	〃	10.2	7.5	3.0	212.8		〃-9	91 21	B区	〃	8.2	7.3	4.4	300.6		
90 10	739 壇	〃	8.8	7.7	3.1	280.0		〃-10	91 22	C区	〃	8.9	10.0	3.7	477.0		
90 11	〃	〃	12.4	8.2	4.1	390.0		〃-11	91 23	遺構外	〃	15.3	5.0	4.5	287.7		
90 12	333 壇	黒耀	2.3	1.9	1.8	6.0		〃-12	91 24	333 壇	〃	8.2	5.0	2.0	97.2		

第IV章 遺構と遺物

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号								
91	25	341	墳	黒	頁	6.8	5.9	2.6	99.6																
91	26	20	住	黒	頁	6.1	5.7	2.9	107.1																
91	27	10	墳	黒	安	6.9	4.3	2.5	73.9																
91	28	151	墳	黒	頁	7.0	4.7	8.7	85.0																
スクレイパー																									
92	1	20	住	黒	頁	6.2	11.6	1.8	113.0	完	形	281-1	93	57	遺構外	黒	頁	5.7	9.0	1.5	96.5	基部	欠		
92	2	318	墳	黒	頁	10.3	8.4	2.4	165.2	完	形	281-3	93	58	濠内	黒	頁	7.3	9.0	3.1	243.5	完	形		
92	3	598	墳	黒	頁	4.9	8.5	1.8	60.9	完	形	281-2	93	59	濠内	黒	頁	3.9	8.0	2.0	54.1	完	形		
92	4	34	住	黒	頁	5.8	3.0	0.9	17.3	完	形	281-4	93	60	遺構外	黒	頁	4.9	10.3	1.2	72.0	完	形		
92	5	1	住上	黒	頁	4.5	4.3	1.1	28.3	側	縁	欠	93	61	遺構外	黒	頁	4.5	5.0	1.0	28.9	半	欠		
92	6	1	住	黒	頁	3.6	6.0	1.2	26.6	完	形		93	62	濠内	黒	頁	4.0	7.8	1.6	60.9	完	形		
92	7	20	住	黒	頁	3.5	5.2	1.4	27.5	半	欠		93	63	遺構外	黒	頁	3.3	6.9	1.5	29.0	完	形		
92	8	1	住	黒	頁	3.5	7.1	1.5	33.0	完	形		93	64	遺構外	黒	頁	4.2	6.8	1.8	46.1	完	形		
92	9	1	住	黒	頁	2.7	5.4	1.0	13.9	完	形		93	65	濠内	黒	頁	2.0	3.9	0.7	6.6	半	欠		
92	10	21	住	黒	頁	5.1	7.2	2.1	74.3	完	形		93	66	濠内	黒	頁	3.8	4.8	1.4	25.4	側	縁	欠	
92	11	27	住	黒	頁	2.7	5.2	0.8	19.0	半	欠		93	67	濠内	黒	頁	5.6	7.4	2.3	85.1	完	形		
92	12	30	住	黒	頁	3.5	5.0	1.4	24.5	完	形		93	68	濠内	黒	頁	5.9	8.3	2.2	101.1	刃	部	欠	
92	13	1	墳	黒	頁	5.8	6.2	1.0	53.0	完	形		93	69	1	住上	黒	頁	5.2	10.2	1.6	71.2	完	形	282-11
92	14	184	墳	黒	頁	5.7	9.7	1.8	85.5	側	縁	欠	93	70	41	墳	点	頁	5.7	8.4	1.6	78.0	完	形	
92	15	224	墳	黒	頁	7.5	4.2	1.7	57.8	完	形	282-21	93	71	202	墳	灰	安	13.9	16.8	3.1	790.0	完	形	281-10
92	16	271	墳	黒	頁	5.0	4.2	1.2	30.0	基	部	欠	93	72	220	墳	黒	頁	3.7	8.9	1.0	26.7	完	形	
92	17	299	墳	黒	頁	2.7	9.3	0.9	22.9	完	形		93	73	294	墳	黒	頁	5.2	10.2	2.5	106.1	完	形	
92	18	313	墳	黒	頁	5.8	9.5	1.2	79.7	完	形		93	74	333	墳	黒	頁	3.8	9.4	2.2	94.5	完	形	
92	19	645	墳	黒	頁	4.9	9.5	1.2	78.6	完	形		93	75	遺構外	灰	安	3.6	9.1	1.1	43.7	側	縁	欠	
92	20	風倒木				8.7	13.1	2.3	319.3	完	形		93	76	濠内	黒	頁	6.0	10.0	1.6	96.3	完	形		
92	21	濠内				6.0	13.6	2.5	210.2	完	形		93	77	濠内	黒	頁	4.4	8.3	1.2	48.1	完	形		
92	22	濠内				5.3	10.3	2.0	98.1	完	形		93	78	B	区	黒	頁	3.9	5.0	1.5	30.5	半	欠	
92	23	濠内				4.0	7.9	1.3	50.4	完	形		93	79	濠内	黒	頁	4.8	2.7	0.9	14.8	完	形		
92	24	D	区	黒	頁	4.7	8.1	1.5	66.3	完	形		93	80	1	住	黒	頁	6.1	8.9	1.1	76.1	完	形	282-13
92	25	濠内				7.9	3.2	1.5	43.6	完	形		93	81	631	墳	黒	安	8.1	7.9	2.5	140.7	完	形	282-12
92	26	濠内				7.8	2.8	1.2	36.9	完	形		93	82	29	住	黒	頁	5.1	6.2	2.0	50.8	完	形	
92	27	135	墳	黒	頁	5.3	8.4	2.2	82.2	側	縁	欠	281-5	93	83	342	墳	珪	頁	6.1	5.8	2.2	89.0	半	欠
92	28	125	墳	黒	頁	3.2	8.3	1.3	31.4	完	形	281-6	93	84	濠内	黒	頁	3.9	5.6	1.6	36.2	刃	部	欠	
92	29	20	住	黒	頁	3.2	5.4	1.2	19.1	完	形	281-7	93	85	6	住	黒	頁	5.1	8.1	1.0	41.0	完	形	
92	30	289	墳	黒	頁	6.4	10.5	1.9	94.5	完	形	281-8	93	86	464	墳	黒	頁	3.7	4.7	0.8	12.5	刃	部	欠
92	31	1	住	黒	頁	6.3	7.1	1.6	68.8	完	形	281-9	94	87	29	住	黒	頁	6.9	7.4	2.0	105.0	完	形	282-15
92	32	1	住上	黒	頁	4.9	7.9	1.3	38.5	完	形		94	88	35	住	砂	岩	4.6	5.0	1.0	25.3	完	形	
92	33	20	住	黒	頁	4.0	7.9	1.8	64.6	完	形		94	89	744	墳	黒	頁	6.5	8.0	2.6	134.6	完	形	
92	34	1	住	黒	頁	4.8	8.2	1.1	45.5	完	形		94	90	402	墳	黒	頁	6.6	7.0	2.1	77.9	完	形	
92	35	21	住	黒	頁	4.5	11.5	1.5	49.1	完	形		94	91	遺構外	黒	頁	3.3	5.8	1.1	24.5	完	形		
92	36	1	住	黒	頁	4.2	3.5	1.1	21.3	半	欠		94	92	20	住	黒	頁	6.6	7.5	1.8	75.5	完	形	282-14
92	37	1	住	黒	頁	4.5	6.7	1.0	31.5	完	形		94	93	1	住上	黒	頁	3.6	3.3	1.0	12.9	半	欠	
92	38	1	住	黒	頁	5.8	9.0	1.7	80.0	完	形		94	94	濠内	黒	頁	5.6	7.8	1.5	63.0	完	形		
92	39	1	住	黒	頁	5.7	10.0	2.0	111.5	完	形		94	95	21	住	黒	頁	5.8	6.1	3.0	78.5	完	形	282-16
92	40	1	住上	灰	安	4.3	6.9	1.7	41.3	刃	部	欠	94	96	25	住	黒	頁	6.7	7.8	3.0	123.8	完	形	282-17
92	41	1	住上	灰	安	3.3	4.0	1.2	17.9	半	欠		94	97	遺構外	黒	頁	4.9	6.8	1.1	27.5	完	形		
93	42	8	墳	黒	頁	3.7	3.8	1.1	18.1	完	形		94	98	41	墳	細	安	6.1	11.9	1.2	74.1	完	形	282-18
93	43	135	墳	黒	頁	9.0	3.0	1.4	38.2	完	形		94	99	742	墳	黒	頁	4.9	9.5	1.7	73.4	完	形	282-19
93	44	153	墳	黒	頁	6.5	9.8	2.0	112.9	完	形		94	100	17	墳	黒	頁	2.9	8.8	1.0	37.3	完	形	
93	45	157	墳	黒	頁	4.0	6.8	1.2	32.4	完	形		94	101	758	墳	黒	頁	8.5	2.6	1.2	26.2	完	形	
93	46	1	住	黒	頁	4.3	8.0	2.1	53.3	完	形		94	102	163	墳	黒	頁	3.7	7.2	1.3	21.5	完	形	
93	47	210	墳	黒	頁	6.1	9.3	1.9	118.8	完	形		94	103	29	墳	黒	頁	3.1	5.9	1.2	24.7	完	形	
93	48	331	墳	黒	頁	5.2	8.1	3.3	108.8	基	部	欠	94	104	127	墳	黒	頁	4.1	4.8	1.7	41.3	半	欠	
93	49	407	墳	黒	頁	2.3	5.0	1.7	26.9	半	欠		94	105	D	区	黒	頁	3.0	3.3	0.9	10.6	完	形	
93	50	424	墳	黒	頁	4.2	6.0	0.9	19.3	完	形		94	106	濠内	黒	頁	2.8	7.8	1.4	33.5	完	形		
93	51	454	墳	黒	頁	3.8	5.2	0.9	23.7	基	部	欠	94	107	濠内	黒	頁	3.4	7.0	1.3	33.1	完	形		
93	52	1	住	黒	頁	4.5	6.1	1.0	24.8	完	形		94	108	濠内	黒	頁	3.8	9.3	1.4	57.9	完	形		
93	53	466	墳	黒	頁	4.6	11.2	1.6	94.8	完	形		94	109	遺構外	黒	頁	4.6	9.5	2.1	117.3	側	縁	欠	
93	54	1	住	細	安	4.8	8.7	1.5	70.3	側	縁	欠	94	110	20	住	黒	頁	9.8	5.8	1.2	83.2	完	形	282-20
93	55	648	墳	黒	頁	4.3	6.5	1.5	37.1	完	形		94	111	224	墳	黒	頁	11.9	7.6	2.7	260.0	完	形	282-21
93	56	745	墳	黒	頁	4.8	7.2	1.0	42.4	側	縁	欠	94	112	406										

石器計測表

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号
94 113	1住上	黒頁	5.0	8.6	2.6	128.7	完形		95 161	378 墳	黒頁	2.5	7.2	1.2	22.5	下半欠	
94 114	20 住	〃	6.7	10.5	3.2	170.8	半欠		95 162	740 墳	〃	3.6	5.8	1.6	32.1	完形	
94 115	〃	〃	4.5	8.3	1.4	47.2	完形		95 163	〃	〃	3.0	7.4	1.1	21.3	基部欠	
94 116	21 住	〃	5.3	7.5	2.1	82.8	半欠		95 164	遺構外	〃	2.5	7.1	1.3	25.8	完形	
94 117	〃	〃	5.0	6.7	2.3	75.3	〃		95 165	濠内	〃	2.4	5.0	0.6	9.9	〃	
94 118	25 住	〃	7.1	11.1	2.7	260.0	基部欠		95 166	遺構外	〃	0.3	4.3	1.1	13.0	下半欠	
94 119	294 墳	〃	4.2	7.0	1.4	37.4	完形		95 167	濠内	〃	3.3	7.8	2.1	60.8	基部欠	
94 120	119 墳	〃	4.5	8.8	1.5	60.4	〃		95 168	〃	〃	6.9	2.4	1.3	23.7	完形	
94 121	333 墳	〃	5.9	9.0	1.7	105.1	〃		95 169	遺構外	〃	8.9	3.1	2.1	49.9	〃	
94 122	348 墳	〃	6.0	8.5	0.8	33.7	〃		95 170	B区	〃	7.2	3.0	1.1	20.7	〃	
94 123	369 墳	〃	5.7	7.7	1.4	55.7	〃		95 171	遺構外	子	1.4	2.2	0.4	1.4	〃	
94 124	466 墳	〃	5.0	10.8	3.0	151.7	〃		95 172	〃	黒頁	2.5	2.7	0.8	6.1	〃	
94 125	734 墳	〃	4.3	9.5	2.1	56.7	〃		95 173	34 住	〃	7.6	7.8	2.0	139.0	〃	283-27
94 126	740 墳	〃	3.8	8.2	1.2	47.3	〃		95 174	21 住	〃	5.6	6.6	1.7	56.9	〃	
94 127	〃	〃	4.9	9.3	1.7	104.3	基部欠		95 175	〃	〃	4.8	7.8	1.2	51.1	先端欠	
94 128	濠内	〃	13.1	4.3	2.6	148.5	完形		95 176	24 住	〃	6.3	10.7	3.3	190.8	完形	
94 129	遺構外	〃	5.3	8.1	1.2	47.1	基部欠		95 177	20 住	〃	6.5	8.8	1.3	67.0	〃	283-28
94 130	〃	〃	6.6	10.2	3.1	220.0	完形		95 178	濠内	〃	5.7	6.5	1.7	55.3	〃	
94 131	〃	〃	5.0	8.2	1.6	68.8	〃		95 179	35 住	〃	5.4	6.3	2.3	91.6	〃	283-29
95 132	D区	〃	4.9	9.0	2.4	104.8	〃		95 180	〃	〃	4.0	5.8	1.4	31.7	側縁欠	
95 133	濠内	〃	5.6	9.2	1.2	77.3	〃		95 181	遺構外	黒安	4.9	5.5	1.8	45.4	完形	
95 134	〃	〃	6.5	7.6	1.5	71.2	先端欠		95 182	〃	黒頁	5.2	6.0	0.9	41.1	側縁欠	
95 135	B区	〃	4.8	7.8	2.1	72.1	完形		95 183	〃	〃	4.5	4.3	1.5	32.4	完形	
95 136	遺構外	〃	4.0	6.0	1.3	33.1	下半欠		95 184	20 住	〃	4.9	5.7	1.5	39.5	〃	283-31
95 137	20 住	〃	3.3	6.7	1.2	19.2	完形	283-23	95 185	7 墳	〃	5.9	6.5	2.1	80.0	刃・半欠	〃-30
95 138	21 住	〃	5.5	3.5	1.2	19.4	〃	〃-24	95 186	248 墳	〃	3.2	2.2	0.6	4.6	完形	〃-32
95 139	341 墳	〃	5.6	3.8	1.5	36.4	〃	〃-25	95 187	126 墳	〃	6.5	9.1	2.3	125.8	〃	〃-33
95 140	419 墳	〃	6.9	3.8	1.4	33.0	〃	〃-26	95 188	24 住	黒安	4.1	4.8	1.3	28.2	上半欠	
95 141	1 住	〃	3.8	5.0	1.9	36.3	〃		95 189	〃	黒頁	3.2	5.5	1.8	35.0	側縁欠	
95 142	〃	〃	4.0	8.0	1.8	55.3	〃		95 190	35 住	〃	6.2	7.1	2.1	107.0	完形	
95 143	〃	〃	3.4	7.5	0.8	18.2	基部欠		95 191	16 墳	〃	4.9	6.6	1.2	36.7	〃	283-34
95 144	1 住	〃	3.5	6.7	1.1	30.0	完形		95 192	408 墳	〃	5.6	6.6	0.9	40.9	〃	
95 145	20 住	〃	3.8	8.6	2.1	69.8	〃		95 193	484 墳	〃	4.1	3.2	1.2	17.2	〃	
95 146	〃	黒安	3.4	5.9	0.7	18.5	〃		96 194	21 住	〃	4.8	8.6	3.3	125.5	半欠	
95 147	〃	黒頁	4.5	4.9	1.3	34.0	基部欠		96 195	10 墳	〃	4.5	11.2	2.1	105.5	完形	
95 148	21 住	〃	2.2	4.8	1.2	12.6	下半欠		96 196	4 墳	〃	2.0	5.1	0.6	6.0	〃	
95 149	〃	〃	3.5	5.8	1.0	20.0	先端欠		96 197	213 墳	〃	4.0	8.5	1.2	47.0	側縁欠	
95 150	〃	黒安	5.5	3.8	1.1	21.5	基部欠		96 198	227 墳	珪頁	3.5	4.5	0.6	10.7	刃部欠	
95 151	〃	黒頁	3.4	7.9	1.0	31.6	完形		96 199	22 住	黒耀	2.3	2.3	0.8	3.2	下半欠	
95 152	27 住	〃	3.7	7.3	0.9	16.4	上半欠		96 200	463 墳	黒頁	3.7	3.7	0.6	11.8	上半欠	
95 153	35 住	〃	2.3	4.1	0.6	7.6	完形		96 201	濠内	〃	5.2	6.7	1.1	55.1	完形	
95 154	〃	〃	3.7	7.4	1.2	26.8	先端欠		96 202	〃	黒安	3.6	4.8	1.2	19.5	下半欠	
95 155	〃	〃	2.1	6.7	0.6	10.2	完形		96 203	〃	黒頁	4.0	7.3	1.5	60.2	完形	
95 156	202 墳	〃	2.6	5.7	0.9	18.8	側縁欠		96 204	〃	〃	3.9	4.2	1.0	20.3	〃	
95 157	213 墳	〃	2.0	5.4	0.8	10.0	完形		96 205	〃	〃	6.0	4.1	1.1	33.0	〃	
95 158	299 墳	〃	3.5	4.0	0.8	16.8	下半欠		96 206	〃	珪頁	2.7	4.1	1.5	15.8	上半欠	
95 159	332 墳	〃	4.4	7.5	1.3	48.5	〃		96 207	濠内	黒頁	2.4	3.5	0.9	9.8	胴のみ	
95 160	〃	〃	3.1	6.8	1.3	29.1	上半欠										

加工痕のある剥片石器

96 1 21	住	黒頁	5.1	9.6	3.5	158.7	完形	284-1	96 13 21	住	黒頁	5.8	3.0	1.8	28.0	完形	
96 2 23	住	輝緑	4.7	11.4	1.9	117.2	〃	〃-2	96 14	〃	〃	4.0	4.9	1.7	30.5	半欠	
96 3 127	墳	黒頁	2.6	3.6	0.8	5.9	〃	〃-3	96 15	〃	〃	6.2	3.5	1.3	33.3	完形	
96 4 248	墳	〃	4.4	6.7	1.0	23.0	〃	〃-4	96 16	〃	〃	4.0	2.4	1.0	11.3	〃	
96 5 480	墳	〃	3.2	4.8	1.0	13.4	〃	〃-5	96 17	22 住	〃	5.1	6.5	1.4	60.4	〃	
96 6 1 住	〃	〃	5.4	4.2	1.6	49.9	半欠		96 18	23 住	〃	5.9	3.0	1.3	28.6	半欠	
96 7 〃	〃	〃	4.2	4.5	1.6	27.0	完形		96 19	26 住	〃	3.6	3.1	0.8	15.1	〃	
96 8 1住上	〃	〃	4.3	2.2	1.0	9.7	〃		96 20	27 住	〃	9.0	3.9	2.1	80.1	完形	
96 9 〃	〃	〃	9.7	6.7	1.6	124.3	〃		96 21	〃	〃	4.5	5.0	1.4	36.7	半欠	
96 10 〃	〃	〃	5.7	2.9	0.9	14.5	側縁欠		96 22	34 住	〃	6.8	4.5	0.8	22.6	完形	
96 11 20 住	〃	〃	3.7	3.0	1.0	12.3	半欠		96 23	〃	〃	4.6	4.5	0.8	21.1	側縁欠	
96 12 〃	〃	〃	5.5	2.7	0.9	15.2	刃部欠		96 24	126 墳	〃	5.7	2.7	0.8	13.5	完形	

第IV章 遺構と遺物

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号
96	25 403	墳 黒 頁	5.5	2.9	0.5	9.9	側縁欠		97	88 34	住 黒 頁	4.9	5.3	1.0	32.4	完 形	284-19
"	26 B	区 "	7.3	5.4	1.7	160.9	完 形		"	89 1	住 "	5.7	2.7	1.0	18.9	側縁欠	"-20
"	27	濠内 "	8.2	4.9	1.9	96.4	"		"	90 21	住 "	3.7	2.2	0.8	7.2	完 形	"-21
"	28	" "	6.1	6.9	1.5	78.7	半 欠		"	91 "	" "	3.9	2.8	0.6	10.5	"	285-22
"	29	遺構外	9.1	3.8	2.1	73.6	完 形		"	92 24	住 "	7.4	3.8	1.7	49.1	基部欠	"-23
"	30	" "	2.6	3.3	1.1	8.0	側縁欠		"	93 130	墳 珪 頁	4.3	2.3	1.1	11.6	完 形	"-24
"	31 23	住 "	6.7	7.5	1.9	89.0	完 形	284-6	"	94 1	住 黒 頁	3.9	3.4	1.9	21.4	"	
"	32 8	墳 "	6.9	6.9	2.0	88.1	"	"-7	"	95 20	住 "	4.6	3.9	0.7	14.2	"	
"	33 187	墳 "	5.0	9.9	1.4	54.1	"	"-8	"	96 "	" "	3.7	2.5	0.8	9.1	基部欠	
"	34 419	墳 "	4.5	7.3	1.0	38.7	"	"-9	"	97 "	" "	5.3	3.0	1.7	26.6	先端欠	
"	35 1	住上 黒 安	6.6	9.8	2.2	119.2	刃部欠		"	98 "	" "	4.8	2.4	1.8	24.1	完 形	
"	36 29	住 黒 頁	5.6	6.1	2.2	64.3	完 形		"	99 "	" "	5.5	3.8	1.1	22.3	基部欠	
"	37 20	住 "	6.4	8.2	2.2	116.7	刃部欠		"	100 21	住 "	6.9	3.2	0.6	14.7	完 形	
"	38 21	住 "	3.9	7.3	1.2	30.2	"		"	101 "	" "	2.2	3.1	0.7	8.0	上半欠	
"	39	" "	5.1	5.5	1.5	41.7	完 形		"	102 "	" "	5.0	3.8	1.2	33.5	先端欠	
"	40 25	住 "	4.8	7.1	2.0	58.0	"		"	103 "	" "	2.6	2.5	0.7	5.9	完 形	
"	41 26	住 "	3.3	4.2	0.6	8.8	"		"	104 22	住 "	4.1	2.6	0.7	8.3	側縁欠	
"	42 41	墳 "	3.8	6.0	0.9	22.6	"		"	105 25	住 "	3.6	2.5	1.1	8.7	上半欠	
"	43 101	墳 "	4.1	5.3	0.8	20.9	刃部欠		"	106 34	住 細 安	3.3	3.2	1.1	12.2	下半欠	
"	44 111	墳 灰 安	9.7	4.8	1.8	76.5	完 形		"	107 463	墳 黒 頁	6.6	3.2	1.5	28.1	完 形	
"	45 151	墳 黒 頁	4.8	5.5	2.1	33.1	側縁欠		"	108	遺構外 子	2.3	1.2	0.6	1.8	基部欠	
"	46 163	墳 "	4.3	6.0	0.8	25.5	半 欠		"	109 1	住上 黒 頁	8.3	5.9	1.7	97.2	完 形	285-25
"	47 333	墳 "	4.2	6.8	1.8	51.1	"		"	110 20	住 "	8.9	5.3	2.5	138.5	先端欠	"-26
"	48 342	墳 "	6.4	4.1	1.4	37.2	完 形		"	111 "	" "	6.8	5.8	2.6	107.9	完 形	"-27
"	49 408	墳 "	5.9	8.0	1.4	93.7	"		"	112 21	住 "	9.8	7.3	1.5	103.6	"	"-28
"	50 541	墳 輝 緑	4.7	12.7	2.5	164.6	"		"	113 244	墳 "	10.2	6.1	2.0	97.0	"	"-29
"	51 737	墳 黒 頁	5.1	10.2	3.6	145.8	"		"	114 1	住 "	7.5	4.9	2.2	82.7	先端欠	
"	52 B	区 "	9.2	4.9	2.6	134.9	"		"	115 20	住 "	5.9	4.2	1.1	42.1	完 形	
"	53	遺構外 黒 安	4.3	5.9	1.5	35.2	側縁欠		"	116 25	住 黒 安	10.8	4.7	1.6	83.5	"	
"	54	" 黒 頁	4.2	5.1	0.7	14.4	完 形		"	117 21	住 黒 頁	7.6	5.6	1.6	83.9	"	
97	55	濠内 変質玄	8.8	12.5	2.5	249.7	"		"	118 26	住 "	5.8	3.7	1.6	41.9	基部欠	
"	56	遺構外 黒 頁	9.1	10.6	3.3	235.9	"		97	119 19	墳 "	8.8	3.9	2.0	61.2	完 形	
"	57	濠内 "	5.3	4.5	1.1	30.3	"		"	120 136	墳 "	4.1	4.3	1.1	23.7	先端欠	
"	58	" "	3.9	9.4	2.3	117.6	"		"	121 227	墳 "	4.1	4.2	1.1	15.6	側縁欠	
"	59 34	住 "	5.3	7.2	2.1	60.1	"	284-10	98	122 249	墳 "	10.6	5.7	3.2	163.5	基部欠	
"	60	濠内 "	8.3	5.3	2.1	114.8	"		"	123 429	墳 "	5.6	5.7	1.2	39.2	上半欠	
"	61 361	墳 "	4.3	9.1	0.9	51.5	"	284-11	"	124 738	墳 "	7.8	2.9	2.2	47.4	完 形	
"	62 436	墳 "	4.3	4.3	1.0	20.0	"	"-12	"	125 1	住上 "	11.1	6.6	1.7	93.4	"	
"	63 77	墳 "	7.1	5.2	1.5	59.8	側縁欠		"	126	遺構外 "	10.0	5.3	3.3	193.1	"	
"	64 236	墳 "	5.1	3.3	1.0	21.6	端部欠		"	127 "	灰 安	7.1	5.4	2.4	69.9	側縁欠	
"	65 361	墳 "	6.5	6.7	1.7	84.0	半 欠		"	128	濠内 黒 頁	8.3	5.8	2.4	149.8	完 形	
"	66 373	墳 "	3.7	3.3	0.5	8.8	完 形		"	129 "	" "	9.3	3.9	2.6	80.2	"	
"	67 416	墳 "	7.7	4.0	1.9	71.9	端部欠		"	130 "	黒 安	6.5	4.0	1.1	30.1	先端欠	
"	68 425	墳 "	7.8	2.5	1.2	28.1	基部欠		"	131 118	墳 黒 頁	8.9	9.8	3.3	174.5	完 形	285-30
"	69	" "	4.4	2.8	1.3	14.5	半 欠		"	132 30	住 点 頁	4.0	5.2	1.7	32.0	下半欠	"-32
"	70	遺構外 "	3.2	2.7	0.8	6.3	上半欠		"	133 21	住 黒 安	5.3	5.5	1.2	33.6	"	285-31
"	71 1	住上 "	5.9	7.3	1.5	58.6	完 形	284-13	"	134 25	住 黒 頁	5.8	7.1	1.4	55.5	基部欠	"-33
"	72 33	住 "	6.2	3.5	1.1	16.9	"		"	135 20	住 "	5.1	5.5	1.0	29.6	完 形	
"	73 21	住 "	5.6	5.3	2.1	57.6	"	284-14	"	136 21	住 "	5.7	7.7	1.4	54.7	"	285-34
"	74 756	墳 "	5.6	7.2	1.8	55.4	"	"-15	"	137 125	墳 "	11.5	14.2	3.0	530.0	側縁欠	"-35
"	75 25	住 "	9.9	8.7	3.1	230.0	"	"-16	"	138 1	住 "	4.0	1.7	1.3	12.2	胴のみ	
"	76 21	住 "	5.8	6.0	1.5	36.8	"		"	139 "	" "	5.2	3.8	1.3	23.7	完 形	
"	77 114	墳 "	6.3	6.3	2.1	48.4	"		"	140 20	住 "	8.0	5.0	1.9	83.0	上半欠	
"	78 299	墳 "	7.3	5.8	1.6	101.8	端部欠		"	141 20	住 "	7.1	2.8	1.5	25.4	完 形	
"	79	" "	4.5	3.2	0.8	15.9	半 欠		"	142 21	住 子	4.0	3.4	1.2	16.0	"	
"	80	" "	5.3	6.8	1.1	36.3	完 形		"	143 "	黒 頁	5.9	2.8	1.5	19.5	"	
"	81 316	墳 "	8.4	6.5	2.7	150.0	側縁欠		"	144 "	子	4.0	2.1	1.3	10.1	基部欠	
"	82	濠内 "	3.2	4.7	1.4	31.9	完 形		"	145 "	黒 頁	3.8	3.0	1.4	16.1	半 欠	
"	83 124	墳 変質玄	8.9	9.4	2.3	189.8	端部欠		"	146 24	住 "	8.8	4.3	1.0	18.6	基部欠	
"	84 1	住上 黒 頁	5.2	6.2	0.8	20.3	完 形	284-17	"	147 "	黒 曜	2.9	1.9	0.6	3.4	半 欠	
"	85 31	住 珪 頁	6.0	5.3	2.0	67.5	完 形	"-18	"	148 28	住 黒 頁	6.0	5.3	1.9	85.5	上半欠	
"	86 403	墳 黒 頁	5.2	5.7	1.3	37.5	半 欠		"	149 34	住 "	3.7	2.7	0.9	7.6	刃のみ	
"	87 425	墳 "	5.3	5.6	0.7	21.6	完 形		"	150 35	住 "	5.8	5.0	1.3	37.1	下半欠	

石器計測表

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号
98 151	35	住黒頁	4.8	2.5	1.2	14.9	半欠		98 170	429	墳黒頁	3.7	2.5	0.6	5.4	刃のみ	
98 152	7	墳珪頁	8.5	6.6	1.5	43.9	完形		98 171	403	墳	4.2	4.4	0.5	11.3	下半欠	
98 153	10	墳黒頁	6.2	4.2	1.9	46.4	半欠		98 172	407	墳	3.4	2.5	1.1	9.4	半欠	
98 154	19	墳	5.5	3.5	1.3	27.7	〃		98 173	408	墳	3.7	1.8	0.8	5.2	完形	
98 155	41	墳	6.9	3.4	1.5	37.4	上半欠		98 174	414	墳	6.5	4.4	1.1	29.8	〃	
98 156	193	墳	4.3	2.5	1.0	11.4	半欠		98 175	425	墳雲石	9.1	3.5	1.5	74.9	半欠	
98 157	204	墳	5.0	3.4	0.6	10.4	完形		98 176	430	墳珪頁	4.1	2.1	1.7	7.3	完形	
98 158	299	墳黒曜	3.0	2.0	0.9	4.1	〃		98 177	464	墳黒頁	5.5	4.1	2.0	50.6	半欠	
98 159	〃	チ	3.0	2.4	0.8	6.2	〃		98 178	479	墳灰安	10.2	3.2	2.3	68.2	基部欠	
98 160	〃	黒頁	2.2	2.2	0.6	2.8	〃		98 179	481	墳黒頁	1.9	1.9	0.6	2.5	刃のみ	
98 161	〃	〃	3.5	2.0	1.0	6.3	刃のみ		98 180	484	墳黒頁	3.9	2.3	1.2	15.6	基部欠	
98 162	333	墳	5.4	3.5	1.1	26.5	半欠		98 181	〃	〃	2.6	2.1	0.6	4.3	刃部欠	
98 163	338	墳黒曜	2.7	1.2	0.7	2.1	上半欠		98 182	598	墳	3.1	2.7	1.0	8.7	半欠	
98 164	〃	黒頁	8.3	3.3	2.0	48.8	裏面欠		98 183	729	墳	6.9	3.0	2.0	51.8	〃	
98 165	355	墳	6.0	5.6	0.8	23.7	完形		98 184	738	墳	4.7	2.5	0.6	8.3	上半欠	
98 166	342	墳黒曜	1.9	1.5	0.6	2.0	下半欠		98 185	744	墳	3.7	2.7	0.9	9.0	刃のみ	
98 167	357	墳黒頁	1.9	2.2	0.6	4.6	刃のみ		98 186	753	墳黒曜	2.2	1.5	0.7	1.8	完形	
98 168	〃	〃	2.7	2.8	0.8	8.1	半欠		98 187	40	墳	2.3	1.5	0.5	1.6	〃	
98 169	361	墳	9.8	3.2	2.8	59.3	刃のみ										

使用痕のある剥片石器

99 1	35	住黒頁	7.9	11.3	1.7	145.2	完形	286-1	99 42	21	住黒頁	5.2	7.1	1.2	54.9	側縁欠	
99 2	19	墳	5.5	9.6	1.2	54.3	〃	〃-2	99 43	22	住	2.6	4.2	1.0	8.7	完形	
99 3	229	墳	7.2	10.7	1.6	116.8	〃	〃-3	99 44	23	住	4.9	7.3	1.2	43.1	〃	
99 4	248	墳	3.7	7.2	1.2	22.7	〃	〃-4	99 45	24	住	2.8	6.3	1.0	10.3	〃	
99 5	345	墳	5.2	8.3	2.0	73.1	〃	〃-5	99 46	26	住	3.4	5.8	1.2	18.8	〃	
99 6	334	墳	3.1	4.3	0.6	7.9	〃	〃-6	99 47	34	住	5.7	8.0	1.6	67.4	〃	
99 7	21	住	3.3	8.0	1.1	23.4	完形		99 48	36	住	4.9	6.8	1.2	32.5	側縁欠	
99 8	21	住	4.3	7.9	1.4	41.6	側縁欠		99 49	22	住	3.7	7.0	0.6	12.9	完形	
99 9	23	住	9.3	11.2	3.3	300.4	完形		99 50	2	墳	4.0	5.4	1.1	24.3	〃	
99 10	23	住	1.8	4.2	0.7	6.2	完形		99 51	19	墳細安	5.5	5.4	0.9	33.9	側縁欠	
99 11	24	住	2.8	5.6	1.0	11.2	〃		99 52	36	墳黒頁	6.6	9.3	1.7	88.6	半欠	
99 12	25	住	4.0	6.7	1.2	25.4	側縁欠		99 53	41	墳	4.5	7.5	0.6	25.6	完形	
99 13	26	住	4.6	6.6	1.2	32.9	完形		99 54	〃	〃	3.5	6.7	1.6	21.7	〃	
99 14	28	住	4.2	5.4	0.8	16.7	〃		100 55	77	墳	6.6	7.5	1.8	64.8	側縁欠	
99 15	35	住	4.4	8.2	1.0	43.4	刃部欠		99 56	130	墳	4.4	8.9	1.5	41.9	完形	
99 16	8	墳	5.1	6.5	1.3	28.6	完形		99 57	131	墳	3.8	6.0	1.0	18.8	〃	
99 17	19	墳	4.4	11.8	1.6	75.3	〃		99 58	146	墳	4.9	7.2	1.7	25.1	基部欠	
99 18	41	墳	5.5	7.4	0.9	41.3	〃		99 59	175	墳	3.6	5.3	1.0	17.6	完形	
99 19	214	墳	4.3	8.5	1.6	52.3	〃		99 60	204	墳	3.8	5.6	0.8	13.0	半欠	
99 20	299	墳	2.1	6.0	0.4	6.5	完形		99 61	224	墳	5.7	8.8	0.8	33.5	完形	
99 21	416	墳	5.4	5.8	3.1	68.9	半欠		99 62	〃	ホ	5.0	7.4	1.2	64.4	〃	
99 22	524	墳黒安	4.4	5.3	1.3	28.0	完形		99 63	251	墳黒頁	6.2	7.1	1.6	63.6	〃	
99 23	750	墳細安	7.3	9.1	2.2	127.7	〃		99 64	284	墳	3.7	3.2	1.1	11.2	側縁欠	
99 24	遺構外	黒頁	3.7	5.3	0.9	14.1	〃		99 65	291	墳	3.5	4.3	0.9	12.2	完形	
99 25	風倒木	〃	5.8	9.6	2.0	115.8	〃		99 66	313	墳黒曜	1.3	1.6	0.5	0.9	〃	
99 26	6	住	6.1	7.2	1.5	68.6	〃		99 67	〃	点頁	3.6	7.6	1.3	26.6	〃	
99 27	濠内	〃	5.8	7.5	1.9	76.0	〃		99 68	342	墳黒頁	4.0	9.1	0.9	26.2	〃	
99 28	風倒木	〃	5.6	7.0	2.6	97.6	〃		99 69	409	墳	3.1	6.4	1.2	28.5	〃	
99 29	遺構外	細安	5.9	12.7	2.6	204.7	側縁欠		99 70	432	墳	5.0	6.6	1.2	42.7	〃	
99 30	濠内	黒頁	6.1	10.0	2.0	113.1	〃		99 71	454	墳	3.5	7.6	0.7	19.2	〃	
99 31	14	住	4.4	5.7	1.1	29.4	半欠		99 72	484	墳	3.4	3.4	0.9	8.3	〃	
99 32	遺構外	〃	4.3	7.7	1.4	50.1	側縁欠		99 73	遺構外	〃	3.6	5.5	1.2	19.3	側縁欠	
99 33	濠内	〃	3.8	5.8	1.2	22.1	基部欠		99 74	表採	〃	5.7	9.7	2.2	94.8	完形	
99 34	遺構外	〃	2.9	3.9	0.8	6.3	刃のみ		99 75	遺構外	〃	7.3	10.4	1.3	84.0	刃部欠	
99 35	29	住	4.8	6.3	1.2	31.5	完形	286-7	99 76	濠内	〃	5.5	7.8	0.9	37.3	完形	
99 36	224	墳	5.8	7.0	0.8	31.6	〃	〃-8	99 77	〃	〃	8.3	10.0	1.7	135.4	〃	
99 37	〃	〃	9.1	7.3	0.6	55.8	〃	〃-9	99 78	〃	〃	6.1	7.3	1.6	79.0	〃	
99 38	333	墳	5.3	9.6	1.5	70.8	〃	〃-10	99 79	〃	〃	5.0	8.8	2.0	74.9	側縁欠	
99 39	433	墳	5.7	6.8	0.9	43.5	〃	〃-11	99 80	〃	〃	6.1	7.3	1.2	54.4	完形	
99 40	1	住	5.2	8.1	1.2	43.9	〃		99 81	4	住	3.9	7.7	1.9	55.1	〃	
99 41	21	住	4.8	4.6	1.0	28.5	側縁欠		99 82	濠内	〃	3.7	7.8	0.7	19.6	〃	

第IV章 遺構と遺物

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号						
100	83	濠内黒頁	6.6	10.0	2.4	131.5	完形		101	146	468	壊黒安	4.6	2.0	1.1	9.8	上半欠						
	//	84	470	壊	//	6.6	7.2	2.0	72.6	半欠	286-12		//	147	470	壊黒頁	5.2	3.2	0.8	14.2	完形		
	//	85	585	壊	//	7.0	8.2	2.0	91.5	完形	// -13		//	148	563	壊	//	6.8	3.3	1.3	21.2	//	
	//	86	41	壊	//	5.1	6.3	0.8	14.7	//			//	149	585	壊	//	6.5	5.3	2.3	40.0	//	
	//	87	294	壊	//	5.6	5.1	2.0	25.7	//			//	150	//	//	//	5.1	3.2	0.6	10.6	//	
	//	88	636	壊	//	5.4	6.7	0.9	30.9	半欠			//	151	636	壊	//	3.2	3.5	1.1	10.7	上半欠	
	//	89	遺構外	灰安	4.8	5.6	1.5	36.9	完形				//	152	734	壊	//	6.2	3.2	0.7	14.4	完形	
	//	90	//	黒頁	3.6	5.2	1.5	19.9	半欠				//	153	遺構外	//	6.4	4.7	1.0	21.2	//		
	//	91	風倒木	//	13.3	14.4	3.7	689.9	完形				//	154	//	//	5.3	4.0	1.0	21.7	//		
	//	92	25	住	//	5.0	5.4	1.2	27.0	//	286-14		//	155	//	黒曜	2.2	1.7	0.4	1.2	//		
	//	93	34	住	//	4.0	7.4	1.4	35.7	刃部欠			//	156	29	住黒頁	9.5	5.8	1.4	84.6	//	287-31	
	//	94	21	住	//	4.9	6.9	1.2	38.7	完形			//	157	130	壊	//	9.2	6.1	2.3	114.2	//	// -32
	//	95	遺構外	//	6.7	8.0	0.7	33.3	//				//	158	333	壊	//	9.5	6.9	1.9	105.1	//	// -33
	//	96	B	区	//	2.2	5.1	1.1	12.3	//			//	159	663	壊	//	11.2	6.2	2.7	144.8	//	// -34
	//	97	21	住	//	5.9	7.5	1.9	76.0	//	286-15		//	160	163	壊	//	9.0	5.0	1.2	70.1	//	
	//	98	23	住	//	6.2	8.7	1.9	81.0	//			//	161	29	住	//	11.8	7.0	2.7	178.4	//	
	//	99	35	住	//	4.2	4.8	1.5	29.1	//			//	162	20	住	//	7.2	3.5	1.2	27.2	//	
	//	100	//	//	//	7.8	7.3	1.2	63.9	//	286-16		//	163	//	//	5.1	4.8	0.9	23.1	//		
	//	101	26	住	//	5.4	6.3	2.1	73.1	//	// -17		//	164	21	住	//	9.5	3.8	2.1	72.3	//	
	//	102	遺構外	//	5.5	4.7	1.3	21.6	//				//	165	//	//	5.9	5.0	1.4	47.3	下半欠		
	//	103	24	住	//	5.9	5.7	1.2	23.0	//	286-18		//	166	//	//	6.1	5.3	1.1	42.3	完形		
	//	104	26	住	//	5.8	7.1	0.8	29.3	//			//	167	//	//	6.0	4.7	0.8	23.0	//		
	//	105	1	住上	//	5.2	5.8	1.6	36.0	//			//	168	//	//	7.6	3.2	1.0	27.2	//		
	//	106	濠内	//	5.0	6.4	1.5	37.1	//				//	169	//	//	6.8	4.3	1.2	30.2	//		
101	107	20	住	//	6.9	7.5	1.2	58.2	//	286-19		//	170	23	住	//	6.9	4.8	1.3	36.3	側縁欠		
	//	108	293	壊	//	5.9	6.4	1.3	41.7	//	// -20		//	171	34	住	//	6.8	5.8	1.1	46.3	完形	
	//	109	744	壊	//	5.2	4.8	1.5	31.7	//	// -21		102	172	1	壊	//	9.1	5.7	2.8	155.8	先端欠	
	//	110	21	住	//	7.3	9.5	2.4	75.4	//			//	173	4	壊	//	8.8	5.1	1.5	50.0	完形	
	//	111	29	住	//	3.2	3.7	1.0	10.5	//			//	174	27	壊	//	7.2	5.8	1.3	70.4	側縁欠	
	//	112	30	住	//	4.0	4.6	0.8	17.0	//			//	175	111	壊	//	4.5	5.0	1.8	48.9	胴のみ	
	//	113	35	住	//	7.2	7.3	1.0	47.1	刃部欠			//	176	337	壊	//	8.4	4.8	1.0	42.4	完形	
	//	114	2	壊	//	9.1	8.8	2.1	101.0	側縁欠			//	177	395	壊	//	7.3	6.0	1.9	75.5	//	
	//	115	//	//	//	5.8	8.7	2.3	78.4	//			//	178	530	壊	//	9.0	6.3	2.0	104.1	//	
	//	116	403	壊	//	4.7	5.6	1.9	35.7	完形			//	179	744	壊	//	4.0	4.6	0.4	13.1	上半欠	
	//	117	1	住珪頁	5.0	4.3	0.8	16.4	//	287-22			//	180	遺構外	ホ	7.3	4.5	0.9	38.7	基部欠		
	//	118	20	住黒頁	5.5	7.5	1.5	45.0	//	// -23			//	181	//	黒頁	8.0	3.6	1.7	52.9	胴のみ		
	//	119	//	//	5.7	5.4	1.6	44.1	//	// -24			//	182	//	//	7.5	4.6	1.8	55.2	完形		
	//	120	20	住	//	6.2	5.1	1.0	32.4	側縁欠			//	183	//	//	10.3	4.9	2.0	79.4	//		
	//	121	21	住	//	7.3	7.4	0.9	39.7	完形			//	184	濠内	//	9.4	2.5	1.6	42.1	//		
	//	122	26	住	//	4.5	4.8	0.9	19.9	//			//	185	//	//	7.3	4.5	1.1	39.3	//		
	//	123	20	住黒曜	3.0	2.0	0.6	3.1	//	287-25			//	186	25	住	//	7.4	6.4	1.4	56.2	//	287-35
	//	124	29	住黒頁	7.5	2.8	1.1	22.2	//	// -29			//	187	251	壊	//	7.2	7.0	2.1	90.6	//	// -36
	//	125	77	壊	//	5.5	2.9	0.6	12.5	//	// -27		//	188	32	住	//	6.9	8.4	1.7	69.6	//	
	//	126	136	壊	//	5.2	3.1	0.9	16.9	//	// -26		//	189	21	住	//	5.7	5.9	2.3	59.5	//	
	//	127	479	壊	//	7.1	4.2	1.0	30.5	//	// -30		//	190	202	壊	//	5.7	5.1	1.1	31.7	//	
	//	128	濠内	//	5.1	3.3	0.9	13.5	//	// -28			//	191	338	壊	//	7.8	10.8	2.0	157.7	//	
	//	129	29	住	//	5.5	4.3	6.2	34.4	//			//	192	403	壊	//	4.4	5.1	1.4	32.2	//	
	//	130	1	住黒安	5.0	3.6	0.8	20.6	先端欠				//	193	408	壊	//	7.8	7.5	2.8	160.8	基部欠	
	//	131	//	黒頁	5.5	4.2	1.3	23.3	完形				//	194	614	壊	//	7.0	8.0	1.1	67.2	完形	
	//	132	20	住	//	5.8	2.2	1.0	12.6	//			//	195	634	壊	//	8.1	9.6	3.0	162.9	//	
	//	133	21	住黒頁	5.1	2.6	0.9	11.8	//				//	196	//	//	4.6	8.7	1.4	42.3	//		
	//	134	//	//	5.2	2.8	0.9	17.2	//				//	197	遺構外	//	6.8	7.0	1.9	70.2	先端欠		
	//	135	25	住	//	3.5	3.5	1.0	11.8	//			//	198	//	//	4.8	7.2	1.2	27.7	完形		
	//	136	10	壊	//	5.5	1.8	1.1	12.7	先端欠			//	199	21	住	//	6.0	7.6	1.4	60.5	側縁欠	287-37
	//	137	166	壊	//	4.5	2.7	0.9	9.1	完形			//	200	36	住	//	8.5	7.5	1.7	85.1	完形	
	//	138	191	壊	//	7.0	4.1	0.9	18.9	//			//	201	20	住	//	4.5	4.4	0.8	12.5	//	
	//	139	332	壊	//	6.8	4.0	1.3	35.3	//			//	202	21	住	//	5.8	5.7	1.8	66.5	//	
	//	140	//	//	5.4	3.7	1.0	22.2	//				//	203	23	住	//	5.8	7.9	3.3	142.2	//	
	//	141	333	壊黒安	6.3	2.2	1.0	14.3	//				//	204	41	壊	//	4.7	6.4	0.8	31.7	//	
	//	142	338	壊黒曜	3.3	1.6	0.8	3.0	//				//	205	126	壊	//	7.1	7.5	2.4	150.8	//	
	//	143	341	壊黒安	2.5	1.6	0.7	4.1	//				//	206	293	壊	//	6.5	8.1	3.8	148.0	半欠	
	//	144	348	壊黒頁	6.8	2.7	1.1	19.1	//				//	207	241	壊	//	4.8	5.7	1.2	28.9	側縁欠	
	//	145	463	壊	//	4.7	2.9	1.2	12.4	//			//	208	33	住	//	2.6	3.8	1.2	13.4	完形	

石器計測表

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号		
102	209	20 住黒頁	4.0	7.3	1.8	54.5	半欠		103	222	36 住黒頁	4.5	6.1	1.7	37.8	基部欠			
	//	210 //	4.3	9.3	3.0	87.7	先端欠			//	223	284 墳黒安	3.2	4.2	1.1	18.7	刃部欠		
	//	211 // 黒安	5.9	11.5	3.5	198.3	完形			//	224	333 墳灰安	13.3	14.4	4.7	1037.6	完形		
	//	212 21 住黒頁	4.1	5.8	2.0	39.7	//			//	225	332 墳黒頁	6.4	7.0	2.0	56.7	//		
	//	213 //	4.2	4.2	2.1	27.1	半欠			//	226	459 墳	1.8	2.1	0.5	1.7	側縁欠		
	//	214 //	3.5	3.4	0.9	8.2	完形			//	227	468 墳黒曜	2.3	2.0	0.8	3.3	胴のみ		
	//	215 //	2.0	5.7	1.0	8.9	側縁欠			//	228	464 墳黒頁	3.8	5.9	1.2	20.9	完形		
	//	216 25 住	5.9	6.6	3.3	102.6	基部欠			//	229	479 墳	5.4	7.0	0.7	26.6	//		
	//	217 //	3.4	5.3	1.5	17.0	完形			//	230	遺構外	//	4.4	8.0	1.7	54.2	//	
	//	218 26 住	2.2	5.3	1.4	14.9	//			//	231	濠内	//	2.0	5.5	1.3	11.2	刃のみ	
	//	219 //	2.6	4.1	0.7	6.9	半欠			//	232	//	//	4.9	4.2	1.7	34.2	上半欠	
103	220	33 住	4.4	5.8	1.2	34.7	完形			//	233	//	//	2.7	5.2	1.4	16.1	刃のみ	
	//	221 34 住	3.0	5.7	1.4	24.6	//												
装飾品																			
103	1	遺構外 変 蛇	5.6	3.4	0.7	17.7	半欠	288-1	103	3	758 墳 淡 石	6.0	3.2	1.2	38.0	未製品	288-3		
	//	2 21 住 かん	4.0	2.5	2.6	38.5	完形	//-2											
磨製石斧																			
103	1	遺構外 変 蛇	6.2	3.2	1.1	44.2	完形	298-1	103	6	893 墳 変 玄	9.2	5.9	3.9	330.0	胴のみ			
	//	2 29 住 変 蛇	4.4	2.7	1.0	20.1	頭部欠	//-4		//	7	遺構外	//	16.4	4.8	3.7	450.0	刃部欠	298-7
	//	3 1 住上 輝 緑	6.4	3.6	1.8	71.0	頭部欠	//-2		//	8	濠内 緑 片	13.9	3.0	1.8	112.0	裏面欠		
	//	4 // 変はん	9.4	5.6	2.9	240.0	//	//-5		//	9	遺構外 変 玄	14.9	4.3	2.9	220.0	側縁欠	298-6	
	//	5 表 採 変 玄	11.2	6.2	2.6	340.0	頭・刃欠	//-3											
打製石斧 完形個体数 262 欠損個体数 195 総数 457																			
104	1	20 住黒頁	4.2	2.2	0.8	6.9	完形	289-2	104	35	27 住黒頁	7.3	3.4	1.6	43.4	完形	289-35		
	//	2 34 住	4.1	2.3	0.7	8.1	//	//-1		//	36	濠内	//	8.2	3.2	1.1	33.5	//	//-36
	//	3 //	4.8	2.1	0.5	7.2	//	//-3		//	37	表採	//	8.2	3.1	1.0	30.4	//	290-37
	//	4 20 住	4.7	2.5	0.7	9.2	//	//-4		//	38	27 住黒安	7.0	3.0	0.9	23.5	//	//-38	
	//	5 236 墳	4.8	2.2	1.1	9.3	//	//-5		//	39	20 住黒頁	7.8	3.3	1.3	40.7	//	//-39	
	//	6 1 墳	4.3	1.9	0.6	5.4	//	//-6		//	40	//	//	8.3	3.7	1.4	45.5	//	//-40
	//	7 342 墳	4.8	2.3	0.7	6.1	//	//-7		//	41	612 墳	//	8.2	2.8	1.2	38.1	//	//-41
	//	8 25 住	5.3	2.6	0.7	11.1	//	//-8		//	42	648 墳	//	7.2	3.6	1.5	41.7	//	//-42
	//	9 648 墳	6.2	2.0	1.1	12.2	//	//-9		//	43	21 住	//	7.7	3.2	1.3	42.6	//	//-43
	//	10 27 住	5.9	2.6	1.3	21.1	//	//-10		//	44	1 住	//	7.6	3.3	1.1	32.4	//	//-45
	//	11 17 墳	5.6	2.9	0.8	13.0	//	//-11		//	45	21 住	//	8.6	4.0	0.9	37.9	//	//-44
	//	12 20 住	6.2	2.4	1.0	18.3	//	//-12		//	46	//	//	7.7	3.2	1.0	32.9	//	//-46
	//	13 408 墳	5.2	2.5	1.1	14.9	下半欠	//-13		//	47	25 住	//	9.7	3.4	0.8	34.3	//	//-47
	//	14 248 墳	6.2	2.4	0.8	14.5	完形	//-14		//	48	333 墳	//	9.0	3.5	1.4	47.0	//	//-48
	//	15 333 墳	5.4	2.4	1.0	17.2	下半欠	//-15		//	49	190 墳	//	10.0	4.7	1.5	69.7	//	//-51
	//	16 21 住	6.5	2.6	1.2	21.0	完形	//-16		//	50	130 墳	//	7.5	3.8	1.7	51.7	//	//-49
	//	17 465 墳	6.4	2.7	1.3	23.3	//	//-17		//	51	724 墳	//	8.0	3.6	1.5	52.9	//	//-50
	//	18 1 住上	6.1	3.2	1.0	21.2	//	//-18		//	52	28 住	//	9.0	4.2	1.6	50.4	剝落有	//-52
	//	19 20 住	5.4	3.1	1.3	22.2	//	//-19		//	53	157 墳	//	8.6	4.4	1.1	44.3	完形	//-53
	//	20 136 墳	6.3	3.5	1.2	24.4	頭部欠	//-20		//	54	332 墳	//	10.1	3.5	1.7	72.6	//	//-54
	//	21 118 墳	7.2	2.7	1.3	25.8	完形	//-21		//	55	29 住	//	9.9	4.1	1.8	76.0	//	//-55
	//	22 7 墳	7.0	2.8	1.4	30.2	//	//-22		//	56	// 細 安	8.3	4.3	1.0	46.6	//	//-56	
	//	23 34 住	6.8	2.7	1.1	24.0	//	//-23		//	57	21 住黒頁	9.5	4.3	1.8	81.1	//	//-57	
	//	24 8 墳	7.0	3.5	1.1	29.3	//	//-24		//	58	16 墳	//	7.3	4.3	1.2	35.8	//	//-58
	//	25 表 採 点 頁	6.8	3.3	1.0	24.0	//	//-25		//	59	198 墳	//	9.6	3.6	1.6	48.4	//	//-59
	//	26 35 住黒頁	7.4	2.9	1.2	26.0	//	//-26		//	60	737 墳	//	8.9	3.5	1.6	46.1	//	//-60
	//	27 //	8.4	3.1	0.9	28.2	//	//-27		//	61	148 墳	//	10.4	3.6	1.8	48.5	//	291-61
	//	28 530 墳	7.8	2.9	0.9	18.1	刃裏欠	//-28		//	62	32 住	//	9.7	3.9	2.5	72.7	//	//-62
	//	29 21 墳	4.2	2.7	1.3	16.7	下半欠	//-29		//	63	33 住	//	9.5	4.0	2.2	85.9	//	//-63
	//	30 29 住	3.7	2.3	0.9	8.5	//	//-30		//	64	21 住	//	9.0	2.2	1.3	26.9	縦半欠	//-64
	//	31 23 住	3.0	3.2	0.6	8.4	上半欠	//-31		//	65	34 住	//	6.0	3.3	1.9	35.4	頭部欠	//-65
	//	32 21 住	6.0	3.3	1.2	23.7	完形	//-32		//	66	27 住	//	5.0	4.2	1.2	30.2	//	//-66
	//	33 1 住	6.3	3.4	1.1	29.0	//	//-33		105	67	348 墳	//	7.2	4.5	1.7	56.1	完形	//-67
	//	34 表 採	7.2	3.6	1.4	32.4	//	//-34		//	68	361 墳	//	7.7	4.6	1.7	60.2	//	//-68

第IV章 遺構と遺物

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号
105	69 378	壇 黒頁	8.4	3.8	1.1	46.6	完 形	291-69	106	132 402	壇 黒頁	13.0	5.9	2.3	188.5	完 形	295-132
	70 463	壇	7.5	4.4	1.1	37.2		// -70		133 463	壇	14.2	5.7	2.5	230.0		// -133
	71 655	壇	9.0	3.9	2.0	73.6		// -71		134 20	住	13.6	7.2	2.7	300.0		// -134
	72 20	住	8.1	4.5	1.6	72.5		// -72	107	135 34	住	5.2	3.1	0.9	15.4		// 296-135
	73 110	壇	10.7	4.5	2.0	105.4		// -73		136 645	壇	5.7	3.4	0.8	14.1		// -136
	74 1住上		9.2	5.0	1.5	73.8		// -74		137 125	壇	6.4	4.0	0.9	24.0		// -137
	75 1住		8.8	4.5	1.2	69.4		// -75		138 表採		6.4	4.3	1.2	39.0		// -138
	76 893	壇 輝緑	9.3	4.5	1.8	91.8		// -76		139 378	壇	7.8	5.0	1.1	42.6		// -139
	77 468	壇 黒頁	9.7	4.0	1.1	50.9	裏・頭欠	// -77		140 459	壇	8.3	5.1	1.6	52.4	刃部欠	// -140
	78 1住上		10.3	4.2	2.1	85.4	完 形	// -78		141 20	住	9.2	5.0	1.9	79.7	完 形	// -141
	79 1住		8.9	4.0	1.8	82.2		// -79		142 24	住	7.3	4.4	2.0	51.3		// -142
	80 29	壇	10.0	4.5	2.7	68.8		// -80		143 29	住	6.8	4.9	1.3	41.4		// -143
	81 151	壇	9.5	4.3	1.6	63.1	刃部欠	// -81		144 403	壇	9.4	5.4	1.8	85.9		// -144
	82 645	壇	10.8	4.2	1.4	86.5	完 形	// -82		145 524	壇	10.2	5.6	1.1	65.8	裏・頭欠	// -145
	83 2壇		9.2	5.0	1.4	58.0		// -83		146 33	住	8.9	5.8	1.8	71.9	完 形	// -146
	84 156	壇	9.8	4.3	1.7	77.3		// -84		147 484	壇	10.2	6.1	1.9	155.5		// -147
	85 197	壇	12.1	4.5	1.7	96.2		292-85		148 21	住	10.5	6.3	1.7	110.9		// -148
	86 357	壇	12.5	4.6	1.8	115.4		// -86		149 479	壇	10.2	5.5	1.8	90.0	刃部欠	// -149
	87 20	住	11.6	4.6	2.1	113.9		// -87		150 21	住	10.2	6.7	2.0	120.4	完 形	// -150
	88 14	壇	12.3	4.6	1.7	110.2		// -88		151 1住上		11.9	5.7	2.6	153.1		// -151
	89 740	壇	9.8	4.3	1.7	81.3		// -89		152 510	壇	10.7	4.9	2.4	105.1		// -152
	90 463	壇	11.0	4.2	1.8	100.0		// -90		153 20	住	6.2	6.3	1.7	43.6		// -153
	91 459	壇	11.3	3.9	1.4	84.6		// -91		154 533	壇	8.3	7.1	2.0	91.3		298-154
	92 484	壇	11.6	4.5	1.8	104.7		// -92		155 21	住	10.6	9.0	2.3	172.6		// -155
	93 16	壇 細安	11.1	4.7	1.3	68.9		// -93		156 36	住	9.7	7.7	2.4	185.0	刃部欠	// -156
	94 585	壇 黒頁	11.1	4.9	1.5	94.7	裏面欠	// -94		157 表採		17.3	16.2	3.8	1350.0	頭部欠	// -157
	95 738	壇	11.0	4.6	2.5	137.3	完 形	// -95	108	158 濠内		3.9	1.8	0.4	2.9	完 形	
	96 1住	灰安	8.3	5.0	1.9	96.8	上半欠	// -96		159 20	住	3.4	1.7	0.5	4.4		
	97 26	住	9.3	4.5	2.2	110.6	頭部欠	// -97		160 濠内		4.8	1.9	0.5	6.0		
	98 294	壇 黒頁	9.6	4.6	2.3	85.6	完 形	// -98		161 1住上		5.4	2.3	0.9	10.7		
	99 126	壇	8.6	4.8	2.1	101.4		// -99		162 濠内		5.1	2.7	0.9	17.3		
	100 738	壇	11.0	4.6	2.6	136.5		292-100		163 20	住	4.2	2.2	0.6	4.7	頭部欠	
	101 655	壇	10.4	5.1	1.7	100.1		// -101		164 表採		5.0	2.5	1.0	12.9	完 形	
	102 134	壇	10.4	5.7	2.1	126.6		293-102		165 21	住	4.7	2.7	1.0	15.9		
	103 21	住 灰安	9.8	5.7	1.7	103.3		// -103		166		3.5	2.6	1.1	9.9	下半欠	
	104 21	住 黒頁	6.4	5.1	2.0	70.1	上半欠	// -105		167		5.3	2.7	1.5	20.5	胴のみ	
	105 18	壇	6.8	4.7	1.5	48.9		// -106		168 濠内		5.5	2.9	0.6	13.6	完 形	
	106 24	住 黒頁	11.4	5.0	2.4	171.6	完 形	// -104		169		5.5	2.6	0.8	15.1	頭部欠	
	107 20	壇	12.6	5.3	2.2	158.5		// -107		170 213	壇	5.9	3.4	1.1	37.5	完 形	
106	108 495	壇	10.7	5.3	2.4	142.2	頭部欠	// -108		171 193	壇	5.4	3.2	1.1	25.5		
	109 20	住	11.0	4.5	2.4	126.2	完 形	// -110		172 濠内		6.5	2.9	1.3	25.7		
	110 645	壇	12.0	4.9	2.8	172.0		// -111		173		6.7	2.2	1.2	19.7		
	111 636	壇	12.0	4.3	1.8	95.2		// -109		174		5.9	2.5	1.0	17.8		
	112 35	住	13.7	6.2	2.6	270.0		// -112		175		5.7	2.6	1.2	19.2	刃部欠	
	113 432	壇 細安	10.4	5.8	2.1	140.0		// -114		176 20	住	6.0	1.9	1.2	13.5	完 形	
	114 163	壇 灰安	12.6	6.2	2.5	240.0		// -113		177 表採		5.5	2.7	1.2	20.5	頭部欠	
	115 541	壇 輝緑	16.0	6.9	3.2	520.0		294-116		178 135	壇	6.7	2.8	1.1	29.0	完 形	
	116 20	住 黒頁	14.4	5.3	2.5	230.0		// -115		179 468	壇	6.7	3.3	1.2	34.0		
	117 23	住 変質玄	11.5	6.1	2.1	121.6		// -117		180 濠内		7.5	3.1	1.9	50.5		
	118 20	住 黒頁	13.3	6.5	2.5	195.6		// -118		181 21	住	7.4	3.2	1.2	32.8		
	119		15.3	6.7	1.9	197.0		// -120		182 濠内		6.4	3.6	1.7	48.0		
	120 32	住	13.6	7.1	2.3	189.7		// -119		183 表採 珪頁		6.5	3.4	1.5	32.2		
	121 26	住	19.4	7.7	3.3	450.0	側縁欠	// -121		184 1住上 黒頁		7.3	3.5	1.2	35.6		
	122 332	壇	11.9	4.6	3.2	156.2	完 形	// -122		185 B区		7.5	3.6	1.5	44.6		
	123 126	壇 灰安	11.2	5.2	2.8	155.0		// -123		186 表採		8.0	3.2	1.3	41.8		
	124 510	壇 黒頁	10.7	5.4	3.8	150.3		295-124		187 濠内 変質玄		7.5	3.4	1.4	51.1		
	125 23	住	11.2	5.2	3.9	230.0	下半欠	// -126		188		7.9	3.3	1.2	31.5		
	126 172	壇	12.9	4.1	1.8	92.0	完 形	// -127		189 7住		7.8	3.3	1.3	35.1		
	127 C区	灰安	16.1	6.4	3.7	380.0		// -125		190 濠内		5.6	3.3	1.4	25.2	上半欠	
	128 299	壇 黒頁	10.7	4.8	2.3	125.6		// -128		191 214	壇	1.8	3.0	0.5	4.0	刃のみ	
	129 740	壇	12.9	6.1	3.2	250.0		// -130		192 21	住	3.3	2.2	0.7	6.7	上半欠	
	130 24	住	10.3	4.9	2.5	107.5		// -129		193 濠内		2.7	2.2	0.5	3.9		
	131 343	壇	7.5	6.4	2.7	116.4	上半欠	// -131		194 表採		3.6	2.5	0.8	9.7		

石器計測表

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号
108	195	B区黒頁	3.5	3.8	1.2	20.7	刃のみ		109	258	濠内黒頁	9.9	4.7	2.3	99.3	完形	
	196	濠内	5.7	3.9	1.2	19.6	頭部欠			259	B区	10.1	4.9	1.4	70.2	裏面欠	
	197	21住	4.0	3.5	1.2	21.1	下半欠			260	濠内	10.1	4.2	2.1	102.8	完形	
	198	濠内	3.9	3.2	0.8	13.0	上半欠			261	1住上	10.4	4.5	1.9	112.1		
	199	21住	3.4	2.9	0.6	9.5	下半欠			262	濠内	11.0	4.4	1.9	114.1		
	200	20住	4.0	2.5	1.4	9.3				263	黒頁	10.5	4.6	1.8	97.4		
	201	21住	2.6	2.3	0.7	5.4	頭のみ			264	C区	10.7	4.5	1.3	63.5	裏面欠	
	202	213墳	3.4	2.4	1.0	10.3				265	濠内	9.7	4.4	1.6	88.6	完形	
	203	B区	3.8	3.0	1.3	16.0	上半欠			266	4住	10.8	4.6	1.9	108.8		
	204	表採	7.6	3.6	1.5	58.5	完形			267	濠内黒頁	10.8	4.3	2.1	91.9		
	205	20住	8.0	3.6	2.1	70.3				268	細安	10.0	4.9	1.5	87.4	頭部欠	
	206	濠内	7.6	3.8	1.8	52.0				269	風倒木黒頁	10.2	4.2	2.2	95.0	完形	
	207	20住	7.6	3.5	2.0	58.4				270	645墳	10.6	4.0	2.6	131.9		
	208	21住	8.7	3.8	1.1	51.1				271	濠内	10.4	4.5	2.4	118.2		
	209	34住	8.4	4.1	1.3	53.3				272		9.9	4.6	2.0	105.3		
	210	35住	9.1	3.8	1.2	51.6				273	342墳	11.0	4.3	2.0	120.0		
	211	B区	9.3	3.8	1.2	41.4				274	濠内	10.3	4.1	1.5	75.4		
	212	表採砂	9.8	3.7	1.5	74.0				275		11.0	4.3	1.8	100.6		
	213	20住黒頁	7.9	3.1	1.5	45.5				276		11.1	3.9	2.0	111.9		
	214	濠内	9.0	3.4	1.3	51.5				277	細安	9.7	4.4	1.7	96.9	刃部欠	
	215		9.8	3.0	1.4	45.1				278	20住黒頁	10.8	4.3	1.7	95.1	完形	
	216		9.4	3.3	2.1	69.3				279	濠内	10.3	4.8	2.5	157.7	刃部欠	
	217		9.5	4.2	1.3	58.1				280	D区	10.3	3.9	1.6	67.0	完形	
	218	332墳	8.7	3.5	1.6	46.7				281	20住	10.4	3.9	2.1	111.6		
	219	濠内	9.2	3.2	1.3	44.5				282	B区	11.0	3.7	1.6	74.1		
	220	表採	9.0	4.2	1.4	60.6				283	7住	11.0	5.4	2.5	170.8	頭部欠	
	221		8.7	3.9	1.2	54.0				284	B区	9.0	4.9	1.6	101.2	刃部欠	
	222	603墳	10.3	4.0	1.6	78.0				285	20住	5.5	3.9	1.3	32.8	下半欠	
	223	表採	9.0	4.2	1.8	59.6				286	B区	5.6	3.9	1.5	42.0		
	224		8.6	3.9	1.4	54.7				287	濠内	4.3	3.5	1.5	23.5	頭のみ	
	225	濠内	9.5	3.2	1.5	55.5				288	224墳	5.5	4.7	1.1	25.1	下半欠	
	226		9.7	3.7	2.0	83.2				289	1住	4.9	3.4	1.5	27.8		
	227		9.2	4.7	1.3	74.2				290	表採	4.5	3.9	1.2	29.3	頭のみ	
	228		9.0	5.0	1.5	97.7				291	1住上	5.3	3.4	1.1	16.5		
	229	表採	8.6	4.1	1.7	74.8			110	292	濠内	3.5	4.2	1.2	20.5		
	230	29住	9.1	3.9	1.6	66.2				293	35住	4.3	3.9	1.9	38.4		
	231	濠内	9.0	4.6	1.9	89.7				294	表採	4.6	3.9	0.9	22.8		
	232		9.7	3.9	1.5	64.5				295	濠内	6.2	3.7	1.4	42.2	下半欠	
	233	20住	9.4	4.2	1.9	66.2				296	20住	4.9	4.2	1.4	34.5	頭のみ	
	234	濠内	9.7	3.9	2.1	90.6				297	B区	5.2	3.9	1.5	41.1	下半欠	
	235		9.4	4.0	2.1	90.3				298		6.9	3.7	1.5	42.6		
	236		9.4	4.8	1.2	58.0	裏面欠			299	濠内	6.7	3.5	1.5	50.3		
	237	402墳	9.6	3.8	1.5	57.2	完形			300	762墳	5.8	4.4	1.4	40.8		
109	238	濠内黒安	9.6	3.7	1.5	68.8				301	表採	6.7	4.7	1.3	48.2		
	239	黒頁	9.2	4.0	2.2	91.5				302	C区	6.8	4.0	2.2	70.2		
	240		9.3	4.2	1.6	75.3				303	21住	8.2	4.1	5.6	54.5	刃部欠	
	241		9.3	4.1	2.2	92.5				304	20住	8.9	4.7	1.9	94.2		
	242	20住	10.0	3.5	1.2	43.8				305	484墳	7.7	4.1	2.3	94.3	下半欠	
	243	表採	10.5	4.6	1.1	60.3				306	表採	7.5	3.8	2.4	81.1		
	244	1住上	9.6	4.3	1.3	70.9				307	1住上	7.8	4.5	1.6	75.7		
	245	21住	10.0	5.0	1.8	99.0				308	34住	6.1	4.0	1.7	53.3		
	246	表採	9.9	4.6	1.9	79.8				309	B区	5.8	4.0	1.6	45.1		
	247	濠内	9.7	4.4	2.5	122.7				310	濠内	5.8	4.0	1.5	42.1		
	248	表採	10.2	3.5	1.3	65.0				311	濠内	6.5	3.3	1.5	45.7	下半欠	
	249	濠内	9.9	4.8	1.6	85.9				312	20住	5.4	3.8	1.5	41.3		
	250		9.7	4.2	1.7	77.1				313	313墳	7.5	4.8	1.7	77.5		
	251		9.8	4.8	2.1	122.2				314	B区	8.1	4.6	1.9	76.3		
	252		10.0	4.5	1.6	82.2				315	163墳	6.7	3.7	1.4	46.9		
	253	224墳	11.0	4.0	1.1	55.8				316	濠内	6.9	3.7	1.3	40.7		
	254	24住	10.2	4.7	1.5	98.2				317	21住	9.5	4.4	1.8	79.1		
	255	C区	10.1	4.6	1.2	74.9				318	濠内	9.2	4.4	2.1	91.0		
	256	1住上細安	11.0	4.0	2.0	111.6				319	408墳	4.5	4.3	1.5	33.5		
	257	濠内黒頁	10.0	4.0	2.5	144.3				320	濠内	9.1	4.8	2.7	144.2		

第IV章 遺構と遺物

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号		
110 321	20	住黒頁	5.8	4.1	1.6	48.1	下半欠		111 384	濠内黒頁	9.0	4.7	1.6	77.3	胴のみ				
〃 322	濠内	〃	7.9	4.7	1.8	84.2	〃		〃 385 332	墳	〃	6.2	3.8	1.9	49.4	〃			
〃 323	484	墳	8.1	4.4	1.6	68.6	〃		〃 386 34	住	〃	9.2	4.3	2.1	97.1	〃			
〃 324	表採	〃	9.0	3.6	2.2	66.7	〃		〃 387 20	住	〃	8.8	4.7	2.6	116.2	〃			
〃 325	4	住灰安	9.2	4.7	2.1	113.8	〃		〃 388	表採珪頁	7.4	4.2	2.1	85.0	〃				
〃 326	濠内黒頁	〃	6.4	4.2	1.8	44.4	〃		〃 389 20	住黒頁	6.5	3.9	2.1	56.1	〃				
〃 327	334	墳	8.0	4.1	2.0	72.1	〃		〃 390	濠内	〃	11.5	3.8	2.2	111.4	完形			
〃 328	表採	〃	8.0	3.7	1.3	55.0	〃		〃 391	〃	〃	13.4	5.1	1.6	132.0	〃			
〃 329	濠内	〃	7.5	4.6	1.9	67.8	〃		〃 392	〃	〃	12.5	4.5	2.0	152.3	〃			
〃 330	9	住細安	7.1	4.5	1.7	68.8	〃		〃 393	C区	〃	11.9	5.0	1.8	130.1	〃			
〃 331	20	住	4.9	4.4	2.0	45.4	頭のみ		〃 394	濠内	〃	13.0	5.3	3.5	276.5	〃			
〃 332	表採灰安	6.1	4.7	2.0	72.0	〃			〃 395	〃	〃	13.5	4.2	2.8	186.8	〃			
〃 333	21	住黒頁	7.8	5.2	2.3	143.4	下半欠		〃 396 21	住	〃	9.3	4.9	2.6	158.7	下半欠			
〃 334	濠内	〃	10.1	5.1	2.7	142.1	〃		〃 397	〃	〃	8.2	4.2	1.8	107.3	〃			
〃 335	20	住	7.8	3.9	1.9	39.8	〃		〃 398	濠内輝緑	7.4	5.5	2.7	131.2	〃				
〃 336	333	墳	5.3	3.5	1.1	23.3	上半欠		〃 399 343	墳灰安	10.8	5.7	3.5	274.9	胴のみ				
〃 337	58	墳	5.3	3.6	0.7	19.5	〃		112 400 135	墳黒頁	6.1	6.2	1.0	62.6	刃のみ				
〃 338	21	住	5.1	4.9	1.6	47.6	〃		〃 401	濠内	〃	5.3	5.7	1.8	66.8	〃			
〃 339	4	住	5.4	4.2	1.1	36.8	〃		〃 402	〃	〃	6.6	6.3	1.8	107.8	〃			
〃 340	濠内	〃	4.8	4.2	1.4	37.3	〃		〃 403	〃	灰安	8.7	6.3	1.6	127.7	上半欠			
〃 341	C区	〃	5.5	3.9	1.2	30.6	〃		〃 404 21	住黒頁	10.9	5.2	2.8	160.4	〃				
〃 342	濠内	〃	4.7	3.4	1.5	22.9	刃のみ		〃 405	〃	〃	8.3	7.0	3.6	239.0	〃			
〃 343	〃	珪頁	4.3	4.1	1.2	22.7	〃		〃 406 32	住	〃	8.7	6.1	3.3	179.5	〃			
〃 344	〃	黒頁	5.4	3.4	1.5	28.4	〃		〃 407	〃	灰安	8.8	6.1	2.3	184.8	〃			
〃 345	333	墳	7.2	3.5	1.4	44.5	上半欠		〃 408	濠内黒頁	9.3	5.8	2.7	177.8	〃				
〃 346	41	墳	6.3	3.7	1.5	42.9	〃		〃 409	〃	〃	5.7	3.3	0.7	17.4	頭部欠			
〃 347	332	墳	5.4	4.0	1.8	33.8	〃		〃 410	〃	〃	5.9	3.2	1.2	28.9	完形			
〃 348	20	住	7.0	4.6	1.2	51.3	〃		〃 411	B区	〃	7.1	3.4	1.1	27.1	〃			
〃 349	濠内	〃	5.0	4.2	1.2	38.2	〃		〃 412	濠内	〃	5.0	2.8	1.4	21.3	頭部欠			
〃 350	〃	〃	7.0	4.3	1.7	62.5	〃		〃 413	〃	〃	7.1	4.3	1.8	41.7	完形			
〃 351	1住上	〃	9.8	4.3	1.4	66.6	裏・頭欠		〃 414	〃	〃	7.5	3.6	1.4	43.1	〃			
〃 352	表採	〃	5.7	4.1	1.9	50.5	上半欠		〃 415	〃	〃	6.9	4.0	1.5	50.8	〃			
〃 353	濠内	〃	4.9	4.0	1.5	38.1	〃		〃 416	〃	〃	8.3	3.6	1.2	39.9	〃			
111 354	1	住	7.3	5.0	2.0	82.7	〃		〃 417	〃	〃	7.6	3.3	1.3	35.5	〃			
〃 355	濠内	〃	7.6	5.4	1.6	92.2	〃		〃 418	〃	〃	7.9	5.0	1.1	32.9	〃			
〃 356	9	住	9.6	3.9	1.6	45.9	頭部欠		〃 419	〃	〃	7.5	4.4	2.3	81.0	〃			
〃 357	B区	〃	7.7	4.9	1.7	81.5	上半欠		〃 420 41	墳	〃	8.0	5.4	2.2	88.0	〃			
〃 358	345	墳	6.4	4.7	1.7	56.1	〃		〃 421	濠内	〃	8.8	3.9	1.3	44.9	〃			
〃 359	濠内	〃	7.3	3.5	1.5	53.0	〃		〃 422	表採	〃	9.3	4.2	1.3	59.1	〃			
〃 360	1住上	〃	6.3	4.2	1.9	59.1	〃		〃 423 24	住	〃	7.9	4.8	1.6	55.7	〃			
〃 361	21	住	6.4	3.8	1.6	35.5	刃のみ		〃 424	濠内	〃	9.3	5.8	1.3	76.0	〃			
〃 362	341	墳	8.7	4.7	1.3	71.0	上半欠		〃 425	〃	珪頁	9.4	5.3	1.8	64.3	刃部欠			
〃 363	21	住灰安	8.4	4.4	2.1	95.3	〃		〃 426 724	墳輝緑	10.3	4.9	1.8	89.8	完形				
〃 364	〃	黒頁	7.4	4.3	2.0	72.1	〃		〃 427	濠内黒頁	5.4	4.3	1.2	38.4	下半欠				
〃 365	濠内	〃	6.2	4.3	1.8	59.6	〃		〃 428 33	住灰安	8.7	6.9	1.9	123.4	完形				
〃 366	〃	細安	5.5	4.1	1.7	51.8	〃		〃 429 6	住黒頁	10.7	5.6	2.1	123.9	〃				
〃 367	〃	黒頁	4.8	5.6	2.1	66.6	〃		〃 430	濠内	〃	11.7	5.7	2.4	153.0	〃			
〃 368	332	墳	7.0	4.2	2.1	72.3	〃		〃 431 35	住	〃	10.7	4.3	1.9	95.6	〃			
〃 369	濠内	〃	7.2	4.9	2.1	76.9	〃		〃 432	C区	〃	9.1	4.5	2.0	82.9	刃部欠			
〃 370	〃	灰安	7.8	4.9	1.9	94.0	〃		〃 433 20	住	〃	9.2	4.6	1.6	63.1	〃			
〃 371	〃	黒頁	7.2	5.5	2.6	105.7	〃		〃 434 1	住上	〃	7.9	4.3	1.7	64.7	〃			
〃 372	21	住	6.4	4.6	2.0	65.4	〃		〃 435	濠内	〃	9.8	4.3	1.2	58.5	〃			
〃 373	C区	灰安	7.8	4.5	2.6	103.6	上半欠		〃 436 403	墳	〃	9.6	5.8	2.0	125.4	頭部欠			
〃 374	濠内黒頁	8.8	3.9	1.9	64.7	〃			〃 437	濠内文斑	10.1	5.1	2.0	105.8	〃				
〃 375	332	墳灰安	9.2	4.5	2.0	116.5	頭部欠		〃 438 21	住黒頁	9.4	5.9	2.4	114.5	刃部欠				
〃 376	26	住黒頁	7.9	4.7	1.7	86.3	上半欠		〃 439	122	墳	〃	10.5	4.2	2.1	97.7	〃		
〃 377	B区	〃	8.8	4.7	2.1	97.8	〃		〃 440	濠内石閃	11.3	6.0	2.0	148.1	〃				
〃 378	4	住	10.1	4.7	2.3	119.2	頭部欠		〃 441	〃	黒頁	12.1	6.0	2.0	145.5	完形			
〃 379	C区	砂	9.3	4.9	3.2	163.8	上半欠		113 442	表採	〃	12.9	7.8	2.5	219.6	〃			
〃 380	20	住黒頁	7.6	4.1	2.4	81.4	下半欠		〃 443	濠内	〃	11.5	5.7	3.3	208.2	〃			
〃 381	濠内	〃	6.7	3.4	1.5	46.7	〃		〃 444	〃	〃	12.6	5.2	3.1	195.8	〃			
〃 382	214	墳	5.8	3.4	1.1	31.2	胴のみ		〃 445	〃	〃	11.8	6.3	2.6	193.5	〃			
〃 383	濠内細安	7.0	4.1	1.1	39.4	〃			〃 446 21	住黒安	8.1	5.4	2.1	115.1	上半欠				

石器計測表

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号
113	447	濠内黒頁	10.9	7.0	2.4	174.5	完形		113	453	21住黒頁	6.1	4.7	1.6	47.5	上半欠	
	448	21住	6.5	4.8	1.5	45.3	刃のみ			454	35住	3.9	4.3	1.2	15.0	頭のみ	
	449	濠内	8.5	5.3	1.7	80.4	裏・刃欠			455	21住	5.1	3.8	1.4	26.8		
	450		9.6	7.4	2.2	133.9	頭部欠			456	465墳灰安	6.8	5.0	2.0	99.4	胴のみ	
	451		6.5	4.2	1.3	48.4				457	3住細安	5.3	5.0	2.5	80.7		
	452	表採	7.0	5.9	1.6	68.2	上半欠										

石皿

113	1	766墳石	37.7	23.9	8.5	11350.0		299-2	114	33	B区粗安	17.1	26.3	7.5	3750.0		305-33	
	2	464墳粗安	39.7	26.1	11.0	14250.0		// -1		34	B区	17.6	18.0	8.0	3200.0		// -34	
	3	21住	24.9	22.3	7.8	6600.0		// -3	115	35	91墳	31.7	41.2	13.9	21200.0		306-35	
	4	73墳	24.2	27.3	7.2	7600.0		// -4		36	濠内	30.4	24.7	7.6	7600.0		// -36	
	5	466墳	38.3	30.2	11.5	18900.0		300-5		37	228墳	21.0	32.4	9.1	6600.0		// -37	
	6	20住石	33.5	28.2	9.0	11700.0		// -8		38	5墳	16.5	27.3	11.9	4850.0		307-38	
	7	遺構外粗安	30.2	22.5	7.8	8950.0		// -6		39	515墳	20.0	19.3	13.1	6000.0		// -39	
	8	466墳石	16.7	24.1	7.0	4600.0		// -7		40	17墳	22.0	19.5	5.9	3540.0		// -40	
114	9	1墳粗安	19.7	21.0	8.9	5400.0		301-9		41	432墳溶凝	19.2	24.1	7.2	3700.0		// -41	
	10	16墳	13.2	22.0	7.5	4250.0		// -10		42	1住上粗安	11.9	22.0	7.5	2090.0		// -42	
	11	遺構外	15.9	18.6	2.1	1040.0		// -11		43	461墳	13.3	22.0	7.8	2920.0		// -43	
	12	152墳	19.6	9.6	6.4	1800.0		// -12		44	20住	18.1	20.7	5.2	1940.0		308-44	
	13	510墳	19.3	10.0	7.6	1890.0		// -13		45	493墳	16.9	22.6	8.0	3610.0		// -45	
	14	36住石	15.3	25.0	13.5	7900.0		// -14		46	遺構外	13.3	24.2	5.6	2210.0		// -46	
	15	濠内粗安	13.6	12.9	6.6	1250.0		302-15		47	20住	11.4	22.4	7.5	2900.0		// -47	
	16	遺構外	9.8	17.9	5.5	1475.0		// -16		48	遺構外	11.1	14.5	4.5	1090.0		// -48	
	17		14.8	20.1	8.5	3230.0		// -17		49	739墳	14.1	19.7	6.4	2135.0		// -49	
	18	25住	28.0	21.6	6.7	4065.0		// -18		50	遺構外	12.6	19.5	6.5	1890.0		// -50	
	19	遺構外	30.6	24.7	7.3	5700.0		303-19		51		緑片	19.3	15.0	5.1	1910.0		309-51
	20	88墳点	28.9	16.0	3.4	3100.0		// -20		52	372墳粗安	15.6	14.9	7.0	2760.0		// -52	
	21	10墳緑片	28.1	10.3	5.8	1905.0		// -21		53	遺構外	10.9	20.1	8.5	2200.0		// -53	
	22	244墳粗安	25.9	16.9	8.3	3870.0		// -22		54		24.8	15.6	6.3	2465.0		// -54	
	23	408墳	15.9	18.4	6.3	2130.0		// -23		55	150墳	23.5	13.7	4.8	2100.0		// -55	
	24	21住	20.8	26.7	8.2	5400.0		304-24		56	466墳	24.0	13.9	7.5	2530.0		// -56	
	25	420墳	16.2	23.4	7.5	2730.0		// -25		57	461墳	12.7	11.7	6.5	1250.0		// -57	
	26	遺構外	19.2	16.1	6.9	2100.0		// -26		58	126墳	10.1	13.9	5.3	890.0		// -58	
	27		20.7	15.3	6.0	2100.0		// -27		59	21住砂	13.0	11.1	4.6	700.0		// -59	
	28		21.7	18.5	7.0	3600.0		// -28		60	664墳粗安	9.9	8.9	3.7	460.0		310-60	
	29	406墳	11.4	17.4	5.7	1340.0		// -30		61	21住	8.4	7.4	6.5	480.0		// -62	
	30	遺構外	15.3	13.6	5.9	1320.0		// -29		62	35住	9.0	11.1	5.6	530.0		// -61	
	31	20住	33.0	26.7	10.0	12400.0		305-31		63	20住	7.5	6.8	4.6	260.0		// -63	
	32	遺構外	16.5	30.1	11.3	6100.0		// -32		64	10墳粗安	9.1	10.6	5.5	806.7		// -64	

石棒

116	1	95墳ひん	32.0	12.8	10.4	7600.0		311-1	116	6	濠内粗安	18.1	12.7	10.1	2640.0		312-7
	2	627墳粗安	25.3	14.7	13.1	6400.0		// -2		7	573墳輝緑	18.6	11.6	9.2	3420.0		// -8
	3	28住石	27.3	10.3	8.6	4800.0		// -3		8	10墳粗安	13.7	11.4	11.6	1910.0		// -10
	4	29住	40.4	14.6	12.6	11850.0	下半欠	312-4		9	60墳石	17.5	14.6	9.4	3850.0	胴のみ	// -9
	5	20住粗安	24.8	11.1	6.7	2920.0	完形	// -6		10	21住	9.3	11.7	9.0	1560.0		// -11

磨石・敲石

117	1	743墳砂	3.7	3.5	2.1	39.9	完形	313-1	117	12	11墳変質玄	10.4	7.0	4.3	500.0	完形	313-8
	2	151墳粗安	6.3	5.9	3.4	180.0		// -2		13	遺構外粗安	13.9	5.9	2.7	246.0		//
	3	160墳	6.6	6.5	4.2	270.0		// -3		14	224墳	10.1	5.4	2.4	192.5		//
	4	遺構外	6.3	5.4	2.3	118.3		//		15	23住	9.5	6.2	3.0	262.9		//
	5	20住	6.6	6.4	2.2	132.9		//		16	遺構外	10.3	6.5	3.3	254.5		//
	6	13住珪	4.9	4.2	3.2	95.1		//		17	9住	7.2	5.8	3.9	187.1	1/2欠損	//
	7	20住粗安	9.5	9.9	4.3	610.0		313-4		18	234墳	8.5	4.9	3.5	206.9	完形	//
	8	28住	12.3	11.5	3.8	840.0		// -5		19	727墳溶凝	11.0	6.7	3.5	390.0		313-9
	9	遺構外閃緑	11.9	10.2	4.2	817.0		//		20	9墳粗安	10.2	8.0	4.5	550.0		// -10
	10	769墳砂	8.6	5.2	2.1	150.0		313-6		21	17墳石	11.0	8.2	3.7	550.0		// -11
	11	19墳頁	8.5	4.8	3.4	220.0		// -7		22	670墳粗安	11.5	8.2	4.2	630.0		// -12

第IV章 遺構と遺物

図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号	図版番号	遺構	石材	長さ	幅	厚さ	重量	遺存	図一番号		
117	23	4	住粗安	9.3	7.3	5.5	542.2	完形	118	71	541	墳粗安	7.5	6.8	4.4	302.5	半欠		
	24	遺構外	ひん	15.0	7.2	4.0	641.2			72	20	住	12.5	6.0	3.5	424.3	完形		
	25	5	住	10.0	8.3	4.9	527.0			73	遺構外		12.1	5.2	3.8	406.1			
	26	581	墳石閃	9.8	8.1	3.3	365.0			74	35	墳砂	11.9	4.5	2.7	230.0			
	27	濠内		10.5	7.9	3.6	509.4			75	濠内	変質玄	11.6	5.4	2.9	287.3			
	28	598	墳粗安	10.0	8.3	5.5	660.0	下半欠		76		粗安	13.4	6.0	2.8	386.7			
	29	464	墳石閃	12.3	9.2	3.8	665.0	完形		77	154	墳	14.8	6.3	4.0	580.0			
	30	濠内粗安	12.7	13.6	5.3	856.3			78	21	住砂	14.3	5.6	5.2	518.1	側面欠			
	31			13.5	7.5	3.6	585.5			79	214	墳輝緑	5.8	5.9	4.8	215.0	半欠		
	32	35	住粗安	9.5	8.0	6.5	698.8			80	35	墳ひん	5.2	5.8	3.3	179.5	胴のみ		
	33	1	住	12.0	6.7	3.4	393.2			81	652	墳	14.2	8.0	4.3	680.0	完形	315-32	
	34	遺構外		10.3	6.9	3.9	456.2			82	20	住石閃	15.1	7.5	5.1	832.8			
	35	濠内石閃	11.7	6.9	5.0	615.0			83	遺構外	石斑	12.3	7.8	4.5	602.7				
	36	728	墳粗安	11.0	7.3	3.9	500.0		313-13	84		輝緑	13.7	6.7	5.9	802.8			
	37	244	墳	12.1	9.3	4.5	740.0		14	85			12.6	7.4	5.4	808.6	下半欠		
	38	758	墳	12.0	8.0	3.6	480.0		15	86	224	墳石閃	12.0	8.6	4.1	710.0	完形	315-33	
	39	155	墳	9.2	7.5	5.1	520.0		16	87	遺構外粗安	12.6	10.0	6.2	1100.0		34		
	40	281	墳石閃	10.4	7.2	4.0	460.0		17	88			10.5	8.0	5.6	566.6			
	41	28	住粗安	10.4	7.5	5.1	590.0		18	89	495	墳	10.8	9.7	8.0	990.0			
	42	645	墳	10.6	9.1	4.9	580.0		19	90	134	墳黒頁	13.2	5.5	3.0	440.0		315-35	
	43	94	墳	11.2	8.5	4.2	610.0		20	91	遺構外		12.5	5.0	3.3	364.4			
	44	224	墳石閃	7.8	5.7	5.5	640.0			92	16	墳黒片	13.6	3.2	1.4	104.0		316-36	
	45	21	墳粗安	11.1	7.8	5.3	720.0			93	36	住	12.0	4.1	1.6	99.5	半欠		
	46	21	住石閃	10.6	8.4	4.0	546.5			94	遺構外	緑片	16.7	3.3	1.8	160.0	完形		
	47	432	墳	11.1	8.2	4.7	710.0			95	738	墳	10.0	3.5	1.2	64.5	半欠		
	48	20	住	9.2	5.8	3.8	350.9	下半欠		96	22	住黒片	8.1	2.5	1.5	43.4			
	49	21	住	11.0	7.6	4.8	609.4	完形		97	遺構外	砂	15.7	7.5	2.0	220.0	端部欠	316-37	
	50	遺構外粗安	10.3	7.4	4.5	610.1	下半欠		98	758	墳粗安	5.2	4.7	1.7	58.0	完形	38		
	51	128	墳	9.1	8.2	4.1	400.0	半欠		99	744	墳	4.8	5.8	3.8	117.0		39	
	52	728	墳	8.0	9.1	4.3	486.9			100	463	墳	8.1	5.4	2.1	101.6	半欠		
	53	20	住	8.8	9.8	4.7	535.5			101	20	住軽石	8.7	7.3	3.4	83.6	完形		
	54			8.8	8.1	5.1	542.7			102	1	住上輝緑	11.8	11.2	3.9	890.0	側面欠	316-40	
	55	1	住	4.7	7.1	4.3	181.9	胴のみ		119	103	332	墳細安	16.7	10.9	3.8	1140.0	完形	
	56	421	墳溶凝	5.6	8.0	3.7	191.6	半欠		104	727	墳粗安	11.6	10.1	4.3	853.6	半欠		
	57	1	住粗安	13.8	11.2	6.1	1330.0	完形	314-21	105	24	住石閃	24.1	12.6	7.3	3200.0	完形	316-41	
118	58	600	墳	13.8	9.7	4.5	1010.0		22	106	136	墳	29.8	16.2	8.3	6350.0		42	
	59	20	住石閃	14.0	9.1	3.2	623.3		23	107	600	墳	21.2	14.9	5.1	2360.0		43	
	60	218	墳流紋	13.6	8.8	4.6	810.0		24	108	142	墳	43.2	22.6	10.1	15100.0		44	
	61	5	住粗安	14.3	10.1	5.4	1110.8			109	36	住粗安	14.8	18.0	9.7	3820.0	縁辺欠	317-46	
	62	23	住ひん	12.3	7.5	3.6	490.0		314-25	110	124	墳石閃	16.7	17.5	10.4	3950.0	半欠	45	
	63	400	墳粗安	18.2	11.4	7.0	1580.0		26	120	111	421	墳	15.3	12.5	12.0	4500.0	縁辺欠	47
	64	238	墳	21.8	15.8	10.2	3760.0	端部欠	315-27	112	400	墳	17.1	16.2	12.3	4850.0		48	
	65	21	住	13.7	7.4	5.2	820.0	完形	28	113	濠内		15.2	8.1	5.5	943.5	半欠		
	66	27	住ひん	13.1	6.4	5.1	870.0	上端欠	29	114	480	墳閃緑	14.1	11.8	4.8	1295.0			
	67	4	墳溶凝	17.2	7.7	5.5	1200.0	完形	30	115	414	墳粗安	14.7	11.3	5.4	968.4	完形		
	68	299	墳石閃	14.4	6.7	6.0	910.0	上端欠	31	116	429	墳	15.5	11.0	7.9	1280.0	半欠		
	69	387	墳粗安	10.8	6.4	4.7	595.0	下半欠		117	408	墳	18.5	8.8	8.2	1295.0	完形		
	70	498	墳石閃	10.8	7.6	4.1	610.0	半欠		118			10.3	10.9	5.9	710.0	半欠		
丸石																			
120	1	遺構外	石閃	6.1	5.9	5.0	240.0	完形	318-1	120	2	21	住ひん	17.7	18.5	15.5	7100.0	完形	318-2

第8表 縄文土器片拓影図観察表

228図 第1号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	幅広のC字状半截竹管文による区画中位には同一工具による円形刺突文が回転押圧される。	I群
2	覆土	深鉢胴部	①石英・細砂粒②堅緻③橙色	C字状の小型半截竹管文が密接に連続する。円形状のモチーフを描くのであろう。	I群
3	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	口唇部僅かに外傾。口唇端部、頸部の屈曲部に刻みを施す。	II群
4	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②普通③にぶい褐色	半截竹管による平行沈線を横位施文後小型半截竹管文を重ねる円形の刺突孔が穿たれるが補修孔の未完通のものであろう。	II群
5	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	口縁直下に粘土紐貼付後指頭による深い押圧を連続する。	II群
6	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③橙色	R L縄文を横位、斜位に疎らに施文。	II群
7	覆土	小型の深鉢底部直上	①雲母・石英②やや軟質③にぶい橙色	細沈線による方形区画下端であらう。上位区画には半円形のモチーフが横位に連続する。地文は横位LR縄文。	VI群
8	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②普通③にぶい褐色	口唇部端部に円形の連続刺突文を施し、口縁部文様帯は1条の結節沈線と隆線で楕円区画を配するのであろう。	III群
9	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②やや軟質③にぶい橙色	口唇部は肥厚し端部は尖る。口唇部直下に1条の結節沈線が沿い、口縁部文様帯は縦位の結節沈線に充填される。	III群
10・11	覆土	深鉢扇状把手	①雲母・粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	10、縁辺、垂下隆線上に刻みを施し、2列の結節沈線が周縁を沿う。11、横位隆線との接点が鼻高状になる。	III群
12	覆土	深鉢突起	①雲母・粗砂粒②軟質③褐色	山形状突起。突起より隆線が垂れ下がる。他は無文。	III群
13・14	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②普通③にぶい橙色	口縁部下に幅広の爪形列を横位施文する。14は口唇端部に赤色塗彩される。	III群
15	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	縦位の結節沈線が数条施される。地文にLR縄文。	III群
16	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②脆弱③にぶい黄褐色	波状口縁を呈する。口縁部文様帯は刻みを施す隆線によって画され、半楕円状区画の交互配列か。区画内は3本1組の小型半截竹管による結節沈線が沿う。	III群
17~19	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②軟質③黒褐色～灰褐色	同一個体横位隆線が胴部を分帯し上位隆線は突起に発達する。各隆線とも幅広のキャタピラ文が沿い、隆線間にはペン先状刺突文、波状沈線が横位施文される。	III群
20	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい橙色	隆線により、方形区画され、隆線に沿ってキャタピラ文、平行沈線文が施される。区画中位にはペン先状刺突文が見られる。	III群
21	覆土	深鉢頸部	①雲母・細砂粒②堅緻③橙色	口縁より垂下する隆線には指頭押圧がなされ、頸部隆線と接し区画を配する。隆線には異種の小型半截竹管による結節沈線が沿い、区画中位を結節沈線が施される。	III群
22	覆土	深鉢胴部	①雲母・粗砂粒②堅緻③にぶい橙色	深い刻みを施す隆線によって多段に分帯され、更に垂下隆線、沈線によって区画される。隆線には幅広のキャタピラ文、ペン先状刺突文が沿い、円形の刺突文も刻まれる。	IV群
23	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	口唇部直下に細隆線、沈線、ペン先状刺突文を平行させる。	IV群
24	覆土	深鉢胴部	①石英・細砂粒②軟質③橙色	平行沈線下に小区画が配される。区画内は三叉文と刺痕列が施される。	IV群
25~28	覆土	突起	①細砂粒②堅緻③25、褐色26~28、にぶい橙色	25、環状突起より隆線が派生し、平行沈線が沿う。26、双環状突起の一方が隆帯に発達する。27、横位の隆帯に環状突起が付される。28、直立する。上面は双環状をなす。	V群
29・30	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③にぶい褐色	波状縁を呈し、口縁部は狭い無文部を設ける。口縁下には隆線、太めの沈線が平行する。口縁部文様帯は隆線が弧状のモチーフを描くのであろう。30の口唇部は沈線が走り、隆線下位には刻み目列が施される。	V群
31	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③橙色～灰褐色	口縁部に狭い無文部が設けられ、その下位に太めの沈線が横走する。沈線には小型半截竹管の連続が看取される。	V群
32	覆土	深鉢頸部	①雲母・粗砂粒②普通③にぶい褐色～灰褐色	頸部隆線の両脇には太めの沈線が沿い、胴部は隆線が弧状のモチーフを描き、三角区画を画する。区画内は、刻み目が充填され、中位には三叉文が沈刻される。29・30と同一個体か。	V群
33~35	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③黒褐色～褐灰色	同一個体。地文はLR縄文。横位隆線で分帯され、太めの沈線が縦位に充填される。	V群
36・37	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線が波状文を描き太めの沈線が沿う。36、短沈線を施す。	V群
38	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	LR縄文を地文とし、太めの沈線でV字状モチーフを沈刻する	V群
39・40	覆土	浅鉢口縁部	39①雲母・砂粒②堅緻③橙色 40①砂粒②軟質③橙色	39、口縁部下位には隆帯の欠落痕跡有り。内面研磨。 40、内面は研磨されていない。	VII群

第四章 遺構と遺物

229図 1号住居址上層

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備考
1	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	器肉は薄い。LR・RL縄文の結束第1種	I群
2・3	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 橙色	同一個体。0段3条LR縄文を地文とする。口唇部内面に隆線による内稜を持たせる。	I群
4	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい黄橙 色	半截竹管による平行沈線が横位に走り、同沈線によって方形、円形の区画が配される。方形区画内は、無節縄文「r」が施され、沈線に沿って刺痕列が刻まれる。円形の区画内は、小型のペン先状刺突文が充填される。	II群
5	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい黄橙色	横位隆線に幅広の結節沈線が沿う。下位の結節沈線は、鋸歯状を呈し、一端が垂下する兆しを見せる。地文はLR縄文。	VI群
6	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	口唇部に刻みを施し、口縁部文様帯として、細隆線による楕円区画を配するのであろう。隆線には1条の結節沈線が沿う。	III群
7	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②軟質③浅黄橙 色	頸部隆線によって口縁部文様帯を画し1条の結節沈線が沿う。隆線下位にはV字状の貼付が認められる。	III群
8	覆土	深鉢口縁部 突起	①雲母・粗砂粒②普通③褐色	刻みを施すC字状の突起。垂下隆線にも刻みが施され、この隆線は口縁部文様帯を画するのであろう。口唇部、隆線に2本1組の結節沈線が沿い、波状沈線も施される。	III群
9	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②普通③明黄褐 色	口縁部より垂下した隆線が分岐し頸部隆線に接する。隆線には2本1組の結節沈線が沿う。	III群
10	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	押圧を施す垂下隆線と、横位の刻み目列、結節沈線が施される	III群
11	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②普通③にぶい 橙色	横位細隆線に刻み目列が沿う。	III群
12	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③橙色	雑な撫でにより器面を整形後細隆線を垂下させる。	III群
13	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 橙色	垂下隆線と先端が分岐する半截竹管状工具による結節沈線が横位・斜位に施される。	III群
14・15	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	同一個体。15、突起を付すのであろう。頸部で「く」字状に屈曲する。頸部に幅広の半截竹管文が横位に引かれる。	III群
16～18	覆土	深鉢口縁部	①16・17砂粒 18細砂粒②16 軟質 17・18堅緻③暗褐色	口縁部文様帯の区画隆線に細かいペン先状の刺突文、キャタピラ文を施す。16、内面に爆付着。17、口縁径は小さい。18、隆線の上に刻みを施し、波状縁を呈する。	IV群
19	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	口唇下に半截竹管による平行沈線を引き、同沈線による三角稜文の交互配列を連続する。枠内は、小型の半截竹管文が沿い、枠隅には三叉文が沈刻される。	IV群
20・21	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②20軟質、21普通③ 20にぶい黄褐色、21褐色	胴部の横帯区画隆線にキャタピラ文、ペン先状刺突文が沿う。20は鋸歯状の波状文が横位施文される。21、隆線が上位に伸び、区画文が配されるのであろう。	IV群
22～24	覆土	深鉢胴部	①砂粒②22・23堅緻 24軟質 ③22・24橙色、23暗褐色	胴部区画文。22・24、垂下隆線を区画線とし、粗いキャタピラ文を沿わせる。22・23は三角形の区画、24は方形の区画を配するのであろう。	IV群
25	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③橙色	小型の半截竹管文、三叉文、縦位の沈線文が施される。	IV群
26	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位隆線より、派生した円環状のモチーフ。隆線には、小型の刻みが施される。	IV群
27	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③にぶい橙 色	隆帯による楕円状のモチーフが垂れ下がり、半截竹管状工具腹面による沈線が縦位に施される。下位には横位隆線が走る。	IV群
28～30	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②28軟質、29・30堅 緻③28にぶい橙色、29・30褐 色	平行沈線を施す。28は隆線と縦位沈線。29は横位。30は隆線上に「C」字状の刻みを施す。	IV群
31・32	覆土	深鉢胴部	①雲母、砂粒②普通③赤橙色	同一個体。半截竹管による平行沈線で横帯区画される。沈線に沿って小型半截竹管の刺痕列が沿い、中位には刺突による鋸歯状の波状文が平行する。	IV群
33・34	覆土	深鉢胴部	①砂粒②33やや軟質、34堅緻 ③暗褐色	隆線とそれに沿う平行沈線で区画され、区画内は刺突文が施される。	IV群
35・36	覆土	35深鉢胴部 36深鉢腰部	①雲母、砂粒②堅緻③にぶい 橙色	地文にRL縄文を横位に施し、35は2条の沈線で波状文を描き36は垂下隆線が施される。	VI群
37・38	覆土	37深鉢頸部 38深鉢口縁	①砂粒②やや軟質③37黒褐色 38暗褐色	細縄文を施す。37はLR縄文を縦位、横位に。38は口唇部端部に施す。	V群
39・40	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②脆弱③黒褐色	地文はRL縄文。沈線、ペン先状刺突文を施す。39は、ペン先状刺突文を横位施文し、横帯区画する。また、V字状に下がるモチーフを配列する。	V群
41・42	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③暗褐色	地文に細縄文を施す。41は太めの沈線で縦位の区画を構成する。42は隆帯、隆線の脇を平行沈線が沿い、円弧を描く。	V群
43	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部は尖る。地文に縄文を施し、隆線で区画文を配する。隆線に太めの沈線が沿い、区画中位には短沈線が施される。	V群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
44・45	覆土	深鉢胴部	①雲母、細砂粒②堅緻③褐色	44、胴部に付せられる弧状の隆帯。45、円環状のモチーフ。太めの沈線が沿う。45には2個の刻みが刻まれる。	V群
46～49	覆土	深鉢突起	①46・49細砂粒、47・48粗砂粒②堅緻③46・48橙色、47暗褐色、49にぶい橙色	46、口縁下の双環状突起。2条の横位沈線が施される。47、胴部環状突起。隆線上に付され、周縁を刻みが施され、平行沈線が沿う。48、波状縁波頂部。隆帯が垂下し、横位沈線と小型半截竹管の押し引が平行する。49、滑車状の突起。	V群

230図 1号住居上層及び20号住居

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
50・51	覆土	深鉢口縁部突起	①砂粒②50やや軟質 51堅緻③にぶい赤褐色	50、半円状突起内に渦巻のモチーフを描く。突起下より派生する沈線は口唇部に沿うのであろう。51、山形状の突起。口唇部は内折し、鋭い内稜を持つ。波頂部より垂下する隆線と突起縁辺に沿って沈線が施され、中位には波状文がペン先状の刺突で描かれる。	V群
52～55	覆土	深鉢口縁部	①52・53砂粒 54・55粗砂粒②普通③褐色	波状縁、ないしは突起を付す。52・53、口唇部より隆線が斜位に派生し、沈線が沿う。53はペン先状の刺突文が施される。54・55、口唇下に1条の隆線が沿う。	V群
56	覆土	深鉢胴部下 半～腰部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	隆帯による円環状のモチーフを描き、隆線が垂下する。隆線には太めの沈線が沿い、三叉文、連続三叉文に発達する。モチーフの内側は、沈線とペン先状刺突文で同心円文を描く。	V群
57	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③黒色	太めの沈線と同一工具による三叉文が施される。	V群
58	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	2条の沈線が弧を描き、同様な波状沈線が描かれる。	V群
59	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③赤褐色	隆線がV字状のモチーフを描き平行沈線が数条沿う。	V群
60～62	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	垂下隆線と沈線。60・61はペン先状刺突文が連続する。62のモチーフは縦位配列であろう。	V群
63～66	覆土	浅鉢口縁部	①63～65細砂粒、66砂粒②堅緻③63・65にぶい橙色、64赤褐色、66明赤褐色	63・64、口唇部内面に平坦面を持つ。63は内稜が突出する。65口唇部端部は尖る。66は浅鉢頸部。「く」字状に屈曲し、刻みを持つ頸部隆線上位には平行沈線が沿う。63・64・66の内外面は研磨される。65、外面はやや雑な横撫で調整。	VII群
67～69	覆土	深鉢底部	①雲母②67・68軟質、69堅緻③67・69褐色、68明褐色	無文で、底面は平滑である。内面は雑な撫でを施し、67は煤が付着する。	VII群

231図 20号住居

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1・2	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③1褐色 2淡黄色	つまみ状突起を口唇下に付し、集合沈線を地文に持つ。1は口唇部端部に刻みを施す。	I群
3	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②普通③にぶい赤褐色	平縁。口唇部は僅かに外傾し、その下位には縦方向の刺突が連続する。口縁部は横位隆線によって2段に分帯され、上位のものは、三角印刻の交互配列によって蛇行文が作りだされ、円形の刺突文が施される。下位は、横位隆線より派生した円形の小突起が頸部隆線に接し、区画を構成する。区画内は、綾杉文が充填され、中間に沈線が横走する。	II群
4	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	無節縄文Iを地文とし、円形貼付文を口唇下に付す。補修孔が穿たれる。	II群
5	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③褐色	R L・L R縄文結束第1種を横位に施す。	II群
6	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③褐色	結節縄文R Lの縦位施文	II群
7	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい黄褐色	地文に結節縄文R Lを縦位に施し、隆線をV字状に貼り付け、隆線上を棒状工具で強くなぞり、沈線文とする。	II群
8・9	覆土	深鉢口縁部	①8砂粒、9雲母②堅緻③8にぶい褐色、9にぶい黄褐色	8、突起を付し、口縁部文様帯を分割する。単列の結節沈線が沿い、中位を同結節沈線で波状文が施される。9、口唇部端部に刻みを施す。	III群
10～12	覆土	深鉢口縁部 波状縁	①雲母・砂粒②堅緻③10にぶい赤褐色、11にぶい橙色、12明赤褐色	10・12、口縁部文様帯内は無文。下位は結節沈線で、波状文が描かれる。12、口唇部端部に刻み目列が施される。11、口唇部、口縁部に単列の結節沈線が施される。波底部下に剝落しているが突起が付されるのであろう。	III群
13～15	覆土	深鉢口縁部	①13、14雲母、15細砂粒②13軟質、14、15堅緻③13黄褐色、14、15灰褐色	口縁部文様帯内に横位の刻み目列が施される。13は単列の結節沈線が沿う。15、口唇部に刻みを施す。	III群
16・17	覆土	深鉢口縁部	①雲母、砂粒②16軟質、17普通③16にぶい褐色、17褐色	口縁部文様帯内に斜位の結節沈線が充填される。16、口縁上に突起が付される。17、頸部隆線に刻みが施され、単列の結節沈線が区画に沿う。	III群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
18~20	覆土	突起	①砂粒・雲母 20粗砂粒②堅緻③18にぶい橙色 19にぶい赤褐色 20暗褐色	18、背の低い口状の突起。平面形は楕円を呈し、刺突文を充填する。突起内面、口唇部に2列の結節沈線が施される。19・20、扇状把手縁辺を2本1組の結節沈線が沿い、20は二重円のモチーフを描く。	III群

232図 20号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
21~25	覆土	深鉢突起	①粗砂粒・雲母、25細砂粒②21・24軟質、他は堅緻③21・22褐色、23暗褐色、24黄褐色 25暗赤褐色	21、扇状把手。区画内は半截竹管による沈線が沿う。22・23、山形の突起。波頂部より隆線が垂下し縁辺に刻みが施される。24、突起下部。鼻高状で橋状把手となる。25、頸部隆線と接する箇所が盛り上がり、区画内を2本1組の結節沈線が沿う。	III群
26~29	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③26・27・29にぶい褐色、28黒褐色	口縁部文様帯内に結節沈線を沿わせる。26、単列。内面にも刺突文と単列の結節沈線が施される。27~29、2本1組の工具による施文。27は中位に波状文が横位施文される。	III群
30	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	平縁を呈す。口唇部より、隆線が渦を巻いて垂れ、口唇部、隆線に沿って2本の結節沈線が沿う。	III群
31	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②普通③にぶい橙色	口唇部に深い刻みを連続し、口縁部を2列の結節沈線が沿う。結節沈線は異種工具で施されるが1組の同時施文である。	III群
32・33	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②32軟質、33堅緻③32黒褐色、33褐色	口縁部文様帯内に沈線を沿わせる。32、半截竹管の腹面による平行沈線が施される。33、隆線で区画し3条の平行沈線が沿う。	III群
34	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③灰褐色	口唇部内外面に赤色塗彩。口唇部に刻みを連続させ、口縁部文様帯を細隆線で区画する。区画内は3列の結節沈線が沿い、中位は斜位の結節沈線が施される。	III群
35	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい橙色	波状縁を呈す。口唇部端部に浅い刻みを連続させ、口唇部に沿ってC字状の小型半截竹管文が沿う。	III群
36~38	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒、38細砂粒②36軟質、37・38堅緻③36橙色、37・38暗赤褐色	つまみ状の小突起。36、突起が口縁部文様帯を画する。区画内には、2列の結節沈線が沿う。37、双波状の突起。粘土紐を心棒とする。38、突起より垂下した隆線で口縁部文様帯を画し、区画内は無文である。	III群
39・40	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	頸部隆線と口縁、胴部に施される横位波状文。半截竹管を工具とした沈線で描かれる。	III群
41	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	細隆線が垂下し、おそらく波状を呈するのであろう。隆線には細沈線が沿う。	III群
42	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい赤褐色	縦位の平行沈線による区画。区画内は斜位の結節沈線が施される。	III群
43・44	覆土	深鉢胴部	①雲母・粗砂粒②堅緻③にぶい橙色	細隆線が蛇行垂下する。横位の刻み目列が施される。	III群
45~47	覆土	45深鉢口縁 他は胴部	①雲母・砂粒②堅緻③45褐色、46にぶい橙色、47灰褐色	横位の刻み目列。45は口唇部直下に施される。47、胴部隆線が弧を描く。	III群
48	覆土	深鉢胴部	①雲母②軟質③橙色	指頭によるヒダ状圧痕が施される。	III群
49	覆土	深鉢底部	①雲母②堅緻③褐色	胴部垂下隆線と刻み目列。底面には網代痕が残る。	III群
50・51	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②普通③にぶい褐色	頸部の横位隆線。50、隆線上位に単列の結節沈線が施され、隆線下位にはヒダ状圧痕が施される。51は横撫で調整。無文。	III群
52	覆土	深鉢胴部	①雲母②やや軟質③橙色	垂下隆線とヒダ状圧痕。隆線には指頭による押圧が施される。	III群
53・54	覆土	深鉢胴部	①53雲母・砂粒、54細砂粒②普通③にぶい赤褐色	53、垂下隆線と2条1組の波状沈線が横位施文される。54、隆線で楕円状の区画を配し、区画内には沈線による不整の楕円文が描かれる。	III群
55	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒・少量の雲母②普通③褐色	口唇部に突起を付すのであろう。刻みを持つ隆線が貼り付けられ、盛り上がる。口縁部文様帯は頸部隆線で画され、隆線には2条のペン先状刺突文が沿う。区画内は斜位の結節沈線が充填される。	III群
56	覆土	深鉢腰部	①雲母・砂粒②軟質③にぶい褐色	2条の細隆線を平行させ、腰部に1文様帯を構成する。文様帯内は、楕円区画され、区画内は斜位の結節沈線が充填される。	III群

233図 20号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
57	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③にぶい褐色	瘤状の小突起を付し、浅い沈線を斜位に突起に施す。口唇下に先端の丸いペン先状刺突文を沿わせ縦位の沈線を充填させる。	IV群
58	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	ペン先状刺突文を横位に幾条も平行させる。	IV群
59	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③赤褐色	三角枠と半楕円枠の交互配列であろう。枠内はペン先状刺突文が沿う。	IV群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
60	覆土	深鉢頸部～胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	頸部下に配される小区画文。隆線で区画され、幅広のキャタピラ文が沿う。区画内をベン先状刺突文が渦巻文を描く。	IV群
61	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	突起を付すのであろう。突起下に幅広のキャタピラ文を横位施文する。口縁部文様帯は無文で、頸部隆線下はキャタピラ文とベン先状刺突文が平行する。	IV群
62	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③褐色	口縁部文様帯を垂下隆線で区画し、2条の半截竹管による平行沈線で楕円状の区画を構成する。区画内は斜位の沈線と、刺痕列が施される。	IV群
63	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部、頸部隆線に刻みを施し、口縁部文様帯には平行沈線の波状文が横位施文される。頸部隆線以下には斜位の結節沈線が充填される。	III・IV群
64～70	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色、67橙色	平行沈線と刺痕列。(65・66・70)、(68・69)は同一個体。64、平行沈線による縦位区画か。区画内に刺痕列が施される。65・66・70、刺痕はC字状の半截竹管。区画中に円形の刺突文が施される。70には環状の突起と横走隆線。67、方形区画内を平行沈線によって弧状に区画する。刺痕は刺突文。68・69、やや厚手の器肉を呈す。刻みを施す横走隆線が環状突起に接し、平行沈線が隆線に沿う。平行沈線は縦位の区画も構成し、方形区画を作る。刺痕は小型の半截竹管。68、突起下は隆線が分岐し、中に縦位の波状沈線文が施される。	IV・V群
71・73	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③にぶい橙色	半截竹管腹面による平行沈線とそれに沿う半截竹管の押し引きを施す。空白部には三叉文を沈刻する。	IV群
72	覆土	深鉢頸胴部	①砂粒②軟質③暗褐色	頸部隆線下に区画文が配され、区画内は3種の竹管の押し引き文が沿う。区画中位には三叉文が沈刻されるが、その周縁には連続刺突文が3条沿う。	IV群
74	覆土	深鉢口縁部	①雲母②普通③橙色	口唇部は内側に突出し、口縁部に刻みを施す隆線が貼り付けられる。おそらく波状文を描くのであろう。	IV群
75～78	覆土	深鉢口縁部 78頸部	①細砂粒、77粗砂粒②やや軟質、77堅緻③暗褐色	口縁部の平行沈線。工具は半截竹管の腹面による。75、縦位沈線が充填される。76、突起が付される。77、波状縁。78、頸部以下は無文帯を設ける。	IV群
79～81	覆土	深鉢口縁部	①砂粒、81細砂粒②79軟質、80・81普通③79にぶい橙色、80褐色、81橙色	口縁部に無文帯を設け、頸部隆線に刻みなどの装飾を施し、頸部以下に平行沈線を施す。79、C字状の半截竹管状工具による押し引き。頸部隆線以下は平行沈線が4条横走し、その下位には刺痕列を施したおそらく区画文が配されるのであろう。区画内は連続三叉文が施される。81、頸部隆線に沈線をトレースし連鎖状文の効果を出す。	IV群
82・83	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③にぶい褐色	同一個体。突起を付すのであろう。隆帯が突起より斜位に派生し、半截竹管による平行沈線が幾条も沿う。区画を構成するのであろうが形状は不明。平行沈線の内側に小型半截竹管文を連続し、中位には三叉文を沈刻する。	IV群
84	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	波状縁を呈し、平面的な橋状把手を付すか？。口唇部に隆帯を貼り付け、肥厚させる。口唇下に三叉文を沈刻し、三叉文のカーブに沿って平行沈線を施す。	IV群
85・86	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③褐色	蛇行隆線とそれに沿う平行沈線。85の隆線は円形に区画すると思われる。区画内は刺突文を充填させる。	IV群
87・88	覆土	深鉢胴部	①87粗砂粒、88砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線による方形ないしは菱形の区画文。隆線には平行沈線が沿い、87は区画隅に三叉文、88は結節沈線を施す。	IV群
89	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	平行沈線による方形区画文。区画隅には三叉文が沈刻され、区画内は斜位の平行沈線が充填される。区画下位は平行沈線が幾条も横走する。	IV群
90	覆土	深鉢胴部下半	①細砂粒②普通③にぶい橙色	三角形の突起を垂下隆線末端に付す。隆線には平行沈線が2条沿い、空白部も垂下沈線が施される。	IV群
91～95	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻、95軟質③暗褐色、95橙色	垂下隆線とそれに沿う平行沈線。91の平行沈線は横区画する。92、2本1組の刺突文列、平行沈線が横走する。93、縦位沈線間の一部に細い結節沈線が施される。94、隆線に刻みを施す。	IV群

234図 20号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
96	覆土	突起	①粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	円環を3方に配す中空状の突起。突起直下には隆線で区画が設けられ、区画内は刺突文を充填する。	V群
97	覆土	突起	①雲母・砂粒②堅緻③橙色～黒褐色	板状の突起。欠落の為形状は判然としなない。突起頂部は刻みが施され、直下には隆線が貼り付けられる。隆線には棒状工具による沈線が難に施される。	III群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
98	覆土	突起	①細砂粒②軟質③橙色	線状突起。頂部より鼻高の隆帯が垂下し頸部隆線と接す。隆帯には浅い刻みが施され、2列1組の小型半截竹管文が横位に施される。隆帯で画された口縁部文様帯内は平行沈線が口唇部、頸部隆線に沿い、縦位の平行沈線が充填される。	IV群
99	覆土	深鉢突起	①粗砂粒②やや軟質③にぶい 橙色～暗褐色	口縁上の突起と繋る環状突起。口縁部文様帯は突起によって画され、区画内は、2本1組の結節沈線が沿う。頸部隆線には刻みが施される。	V群
100	覆土	深鉢突起	①細砂粒②堅緻③にぶい 橙色	口縁部に付せられた円環状突起。口唇部から延びた隆線が突起に接し、この隆線上にはための沈線が1条沿う。	V群
101	覆土	深鉢胴部突起	①砂粒②堅緻③にぶい 褐色	胴部に付せられた渦巻状突起。突起両脇より刻みを持つ隆線が上部に延びる。隆線に沿って平行沈線が施される。	V群
102	覆土	突起	①細砂粒②軟質③にぶい 橙色	口縁部に付される双環状突起。内外面に設けられる。縁辺には刻みが施される。	V群
103・104	覆土	突起	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	同一個体。口縁部に付せられるハート形の突起。正位ではなく斜位。口唇部に沿って沈線が施される。	V群
105	覆土	突起	①細砂粒②堅緻③にぶい 褐色	環状突起に隆線が発達した弧状の隆帯が接す。	V群
106・107	覆土	106口縁部 107胴部	①雲母・砂粒②堅緻③106褐色 107にぶい 橙色	大型の環状突起。106、地文にRL縄文を施し、突起にための沈線が沿う。107、突起には刻みが施され、隆線、突起に半截竹管による平行沈線が沿う。	V群
108	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③暗褐色	波状縁を呈す。口唇部直下に小型半截竹管の押し引きが2条沿い、同様の半截竹管文が垂下する。地文はLR縄文を横位、縦位に施す。また、三叉文、2個の短沈線も施される。	V群
109	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③黒褐色	波状縁を呈す。口唇部より斜めに垂下した隆線が頸部隆線に接す。口唇部、隆線に沿ってための沈線が施される。	V群
110	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③暗褐色	隆線と弧状の隆帯に沿ったための沈線および短沈線が施される。RL縄文を地文とする。	V群
111	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい 橙色	口縁部は内傾し、内傾部分に隆線による波状文が貼り付けられる。内面は丁寧な研磨。	VII群
112	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい 褐色	口唇部は僅かに外傾し、口縁部はほぼ直立する。口縁部文様帯は隆線をX字状に貼り付け、楕円区画の配列で構成される。	VII群
113	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい 橙色	横位隆帯に押圧が施される。隆帯上位には平行沈線が沿う。	VII群
114～116	覆土	深鉢口縁部	①114粗砂粒、115雲母、116細砂粒②堅緻③114橙色、115・116暗褐色	無文の深鉢口縁。平縁を呈する。114、隆線の剥落痕有り。115、口唇下に浅い凹線を巡らす。116、外面の調整やや雑。	VII群
117～125	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒、121粗砂粒②堅緻③117～119暗褐色、120・122～125橙色、121にぶい 褐色	無文の浅鉢。118～120以外は内面の研磨が顕著。121の内稜は鋭い。122・123、波状縁を呈する。	VII群
126・127	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③暗褐色	同一個体。小型深鉢。頸部で屈曲し、口縁部は外傾する。口唇部上に小突起を付すと思われる。無文。	VII群
128	覆土	有孔鈔付土器	①砂粒②軟質③橙色	口唇部欠損。口縁部直下に細隆線を巡らし、隆線上位に孔を連続させる。	IV群

235図 21号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③暗褐色	波状口縁を呈し小突起を波頂部に付す。地文にRL縄文を施す。	II群
2	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい 橙色	器肉は薄く、波状口縁を呈す。口唇部に隆帯を貼り付け、沈線をトレースする。地文はRL縄文を口唇部に縦位・横位に施す。	II群
3	覆土	深鉢胴部	①雲母少量・細砂粒②堅緻③にぶい 黄褐色	器肉は薄い。半截竹管腹面による平行沈線を横位施文し、狭い文様帯を作る。文様帯内は縦位、斜位の沈線を疎らに施す。	II群
4	覆土	深鉢口縁部	①繊維・砂粒②普通③褐色	0段多条RL縄文の横位・縦位施文での羽状縄文。	I群
5	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③にぶい 橙色	口縁部の器肉は薄く、口唇部は僅かに内彎する。結束第1種LR縄文の縦位・横位施文。	II群
6	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③褐色	RL縄文を疎らに施文する。	II群
7	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 橙色	半截竹管腹面による沈線で画された区画文。区画内も平行沈線がX字状に描かれ空白部は細沈線による格子目文が施される。	II群
8・9	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③8にぶい 褐色 9暗褐色	扇状把手を付す口縁部。単列の結節沈線が施される。8、口唇端部にも結節沈線が連続し、口縁部文様帯内は鋸歯状の波状文を描く。9、緩い波状文を節の長い結節沈線で描く。	III群
10	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②堅緻③褐色	口縁部は短く外傾。下位で屈曲し、緩やかに内彎する。口唇部上に把手、突起が付されるのであろう。内面に円形竹管による結節沈線が施される。口縁部の外傾部分に2条の結節沈線が平行し、幅狭の文様帯を画する。文様帯内は鋸歯状の波状文が横走するのであろう。内彎部分には隆帯の貼り付け文、結節沈線による渦巻文、波状文などが施される。	III群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
11~16	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③11・12にぶい橙色、13・14暗褐色、15・16褐色	口縁部文様帯内に単列の結節沈線を沿わせる。11、波状緑。結節沈線で波状文を描く。12、緩やかな波状緑。小型半截竹管の結節沈線を沿わせるが、口唇部に棒状工具による結節沈線が施される。13、平緑。頸部隆線で口縁部文様帯が画され、文様帯内は半円形のモチーフ、斜位の結節沈線が施される。口唇端部は隆線貼り付けによる隙間が沈線化する。14、やや節の長い結節沈線。口唇端部～内面にかけて蛇行文が施される。15、おそらく隆線で区画される口縁部文様帯。区画内は14と同様な斜位の結節沈線が施される。	III群
17・18	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	17、口唇部直下に細隆線が貼り付けられ、上に結節沈線が沿う。隆線下位には沈線による波状文が描かれる。18、口縁部は外傾し、屈曲部に1条の結節沈線が横走する。下位には2条の結節沈線で波状文が施される。	III群
19・20	覆土	深鉢頸部	①雲母・粗砂粒②堅緻③20褐色、21にぶい黄褐色	頸部隆線に沿う1条の結節沈線。19、頸部隆線より胴部に垂下する隆線が派生し、幅広の結節沈線が沿う。20、頸部隆線に交互刺突が刻まれ、半截竹管による結節沈線が深く施される。	III群
21	覆土	深鉢突起	①雲母・粗砂粒②堅緻③にぶい橙色	欠損しているが双波状の山形突起。波頂部のV字状貼り付けより垂下した隆線が頸部隆線と接し盛り上る。隆線、突起縁には刻みが刻まれ、内側を先端が2股の半截竹管状工具による結節沈線が沿う。	III群
22	覆土	深鉢突起	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	山形状突起。口縁部は内彎し頸部内面には稜を設ける。波頂部より垂下した刻みを持つ隆線が頸部で分岐し、そのまま頸部隆線となる。口唇部、隆線には先端M字状の工具による半截竹管文とペン先状刺突文2種の押し引き文が沿う。隙間には三角文が沈刻される。頸部隆線以下は、平行沈線文と口縁部と同様な半截竹管文が連続する。	III群
23	住居址周辺	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③灰褐色	波状口縁を呈す。2本1組の結節沈線を口唇部、頸部隆線に沿わせ、おそらく凸状の区画を配するのであろう。	III群
24	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③褐灰色	ほぼ直立する口縁部。隆帯を垂下させ、半楕円の小区画文を連続する。口唇部、区画内は2本1組の結節沈線が沿う。	III群
25~30	覆土	深鉢口縁部 29は頸部	①雲母・砂粒、26雲母含まず ②堅緻③25・28にぶい橙色、 26・27・29・30暗褐色	口縁部に複列の結節沈線を施す。25、波状緑。2条の波状沈線文が施され、結節沈線は波状文を中位に描く。26、隆線で凸状に区画される口縁部文様帯。区画内は、2本1組の結節沈線が沿う。中位を同様な結節沈線で波状文を描く。27は2列。28は3列の結節沈線が沿い、口唇部に刻みを施す。29、頸部隆線に円環状隆線が接す。モチーフの外側には2列の結節沈線が沿う。30、Y字状に貼り付けられた隆線が口縁部文様帯を画し、区画内に2列の結節沈線が沿い、中位に波状文が横位施文される。	III群
31~33	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒、31は雲母含まず ②堅緻③31にぶい褐色、 32・33褐色	結節沈線を充填する。31、楕円状の区画に縦位の結節沈線を充填する。結節沈線間に小型の円形刺突文を施す。32、隆線が貼り付けられ、隆線に数条の結節沈線が沿う。33は、刻みを持つ垂下隆線に結節沈線、波状沈線が沿う。	III群
34~36	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒、36粗砂粒②堅緻③34橙色、35褐色、36暗褐色	口縁部文様帯内の区画に沈線を沿わせる。34・35、楕円状の区画内に、横位波状沈線を施す。36、斜位の沈線で三角形の交互配列。三角の隅は沈刻される。	III群
37・38	覆土	37深鉢胴部 38胴部	①雲母・砂粒②堅緻③36褐色 37暗褐色	胴部の横位波状沈線。37、横位隆線両脇に、半截竹管による平行沈線が沿い、波状沈線が中位を走る。38、口唇部直下に波状沈線が施文され、胴部に続くのであろう。	III群
39~41	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②普通③褐色	つまみ状突起。40・41は粘土紐を芯棒としている。	III群

236図 21号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
42・43	覆土	深鉢口縁部 把手	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	同一個体。大型の把手で、波頂部より高い隆帯が垂下する。頸部には細隆線が巡る。	III群
44	覆土	深鉢口縁部 把手	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	小型の扇状把手。無文で、隆線によって口縁部文様帯を区画する。指頭圧痕が看取される。	III群
45	覆土	鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線によって狭い口縁部文様帯を画する。突起は上半部が欠損しているが、双波状をなすのであろう。内面の研磨は丁寧である。	III群
46	覆土	深鉢口縁部 突起	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	尖鋭な突起。先端は双波状に分かれる。頂部より、Y字状に隆線が垂下し、頸部隆線に接し、口縁部文様帯を凸状に区画する。口縁部文様帯には横位の刻み目列が施される。	III群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
47	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②軟質③橙色	平縁を呈す。口唇部と頸部隆線に2本1組の結節沈線が沿い、口縁部文様帯内は横位刻み目列が施される。	III群
48	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②堅緻③にぶい橙色	横位隆線に1条の結節沈線が沿う。隆線以下は指頭圧痕が施される。	III群
49	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②堅緻③にぶい橙色	器内は薄い。弧を描きながら垂下する隆線と深い指頭圧痕が施される。	III群
50	覆土	深鉢底部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	底部端部は僅かに突出する。器面全体を丁寧に研磨し、垂下隆線の末端が垂れる。	III群
51	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③暗褐色	口縁部文様帯に突起を付す。突起右側縁には角押文で渦巻を描く。口縁部文様帯内は2列の角押文が沿う。突起下端より2本の隆線が分岐垂下し、中間を縦位の波状文が施される。頸部隆線以下は横位の波状文が描かれる。	III群
52	覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②普通③にぶい橙色	頸部で屈曲し、体部は無文である。口縁部文様帯に隆線がV字状に貼り付けられ、区画を構成するのであろう。区画内は2本1組の角押文が施される。	III群
53	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③にぶい褐色	突起頂部より垂下した隆線が頸部隆線に接し、区画を構成する。区画内は、小型の半截竹管文とややだれたベン先状刺突文が沿う。	III群
54	覆土	深鉢把手	①雲母・細砂粒②堅緻③橙色	扇状把手で扇部分欠損。中位を隆帯が垂下し、刻みが施される。口唇部、把手頂部には2本の結節沈線が施される。	III群
55	覆土	深鉢頸部	①雲母・粗砂粒②堅緻③橙色	突起頂部より垂下した刻みを施す隆線が頸部隆線と接し、区画をなす。接点は著しく盛り上がる。区画内は、先端を分岐した半截竹管状工具が沿う。	III群
56	覆土	深鉢突起	①雲母・細砂粒②堅緻③黒褐色	突起頂部のみ残存。頂部より押圧を施した隆線が垂下し、小型の半截竹管文が沿う。	III群
57	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③暗褐色	平行する隆線間を楕円区画し、区画内を1条の角押文が沿う。	III群
58	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③褐色	平縁を呈し、捻りを加えた小突起で口縁部文様帯を区画する。区画内は縦位の結節沈線が充填され、頸部隆線下には1条の沈線が沿い、胴部は沈線で綾文が施される。	IV群
59・60	覆土	深鉢口縁部	①59細砂粒 60粗砂粒②堅緻③暗褐色	口縁部文様帯を三角枠の交互配列で画する。枠内にはベン先状刺突文が沿い、59は円形刺突文と三叉文が沈刻される。	IV群
61	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	刻みを持つ隆線が垂下し、幅広のキャタピラ文が密接に連続する。ベン先状刺突文も密接に施され、切れ長の三叉文も沈刻される。	IV群
62～65	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②62～64やや軟質、65堅緻③62・64黄褐色、63にぶい褐色、65黒褐色	口縁部に横位のキャタピラ文やベン先状刺突文を施す。62・64は平行沈線が施される。63の口唇部は内彎する。	IV群
66～68	覆土	深鉢胴部	①66・68粗砂粒、67細砂粒②堅緻③66・68にぶい褐色、67褐色	横位のキャタピラ文、ベン先状刺突文を施す胴部破片。66は隆線に沿って大きめのベン先状刺突文が施される。67はベン先状刺突文が数条走る。68のキャタピラ文はやや疎らである。	IV群
69	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	隆線が縦方向に垂下し、その上を更に細隆線で蛇行文を描く。	IV群
70・71	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい褐色	同一個体。細隆線が弧を描き、半截竹管による平行沈線が沿う。沈線間には、浅い刻みが施される。	IV群
72	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③褐色	横位隆線に小突起が付され、幅広のキャタピラ文が沿う。上位には沈線による波状文が横位施文される。	IV群
73	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	平縁を呈し、口唇部に突起を付すのであろう。口唇端部には刻みが施され、口縁部文様帯内はやや疎らなキャタピラ文が縁取り、中位は沈線による楕円文が描かれる。	IV群
74～76	34住居周辺 他は覆土	深鉢胴部	①74砂粒、75・76粗砂粒②堅緻③74・75暗褐色、76褐色	平行沈線に刺痕列が沿う。74は方形の区画。75・76は三角形の区画内にD字状の刺痕列が施される。	IV群
77	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③にぶい褐色	垂下する半截竹管により、器面を縦位に分割し、棒状工具による刺突文とキャタピラ文を縦位に施し、空間を充填する。	IV群
78	覆土	深鉢頸部	①砂粒②堅緻③褐色	垂下隆線によって、等分割された器面に、円形刺突文、平行沈線文が充填される。	IV群
79	覆土	深鉢胴部	①多量の石英②軟質③にぶい褐色	垂下隆線と、蛇行隆線が平行し、空白部は沈線で波状文や縦位沈線文を描く。	IV群
80	覆土	深鉢胴部	①少量の雲母・細砂粒②普通③褐色	垂下隆線の末端は盛り上がり、細沈線が沿う。隆線で分割された空白部は更に横位の沈線群で区画され、区画内に三叉文を交互に沈刻することにより蛇行文の効果を出す。	IV群
81	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③褐色	やや薄手の器内を呈し、口縁下に横位の小型半截竹管文が連続する。	IV群
82	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③暗褐色	渦巻状の小突起を横位に付し、大型の孔を穿つのであろう。	IV群
83	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	細隆線によって幅狭の文様帯を作り、隆線の接するX字状の接	IV群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
				点は盛り上がり小突起となる。隆線には半截竹管による平行沈線が沿い、小型半截竹管文も平行して施される。	

237図 21号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
84	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	器肉は薄い。横位隆線で多段の文様帯を設け、沈線による波状文や斜位の沈線文を充填する。また、隆線上位には、小型半截竹管文が沿う。	IV群
85	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 橙色	横位沈線を平行に重ね、その上から小型のキャタピラ文をトレースする。	IV群
86	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい 橙色	隆帯に沿うための沈線と小型半截竹管文。やや器面は荒れる。	IV群
87	覆土	深鉢底部	①粗砂粒②堅緻③橙色	垂下する平行沈線に爪形状の刺痕列が沿う。蛇行隆線が垂れる。	IV群
88	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい 褐色	横位隆線の下部に小型半截竹管文と沈線が沿う。以下の文様は縦位の沈線が充填される。	IV群
89	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②堅緻③褐色	半截竹管の腹面を工具とした沈線と、小型半截竹管文が横位施文される。	IV群
90	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③橙色	隆帯による区画隅。隆帯には刻みが施され、細沈線が沿う。	IV群
91	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	口唇下に2条の平行沈線が横位に施され、下部には沈線による波状文が描かれる。	IV群
92	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	口縁部は無文。頸部に数条の平行沈線が横位に走る。	IV群
93	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	口唇部を撫で、小楕円状の面を作り連続するのであろう。口唇下は、平行沈線と鋸歯状の波状文が描かれる。	IV群
94	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③黒褐色	横位隆線とそれに沿う平行沈線。隆線には刻みが施される。下部端部に沈線による波状文の一端が認められる。	IV群
95~97	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③95・96にぶい 橙色、97褐色	半截竹管による平行沈線が横位に施される。95、下部に三叉文と、刺突文が施される。96、半截竹管腹面を使用したペン先状刺突文が斜位に施される。97、上位に縦位沈線が充填される。	IV群
98~100	覆土	深鉢胴部	①98・99砂粒・微量の雲母 100粗砂粒②98・99堅緻、100 普通③98橙色、99・100褐色	沈線と三叉文。98、横位隆線に沿う平行沈線と斜位の沈線で小区画をなし、区画隅に三叉文を沈刻する。99、U字状に垂れ下がる隆線と平行沈線で画された空白部に縦位の連続三叉文が刻まれる。100、平行沈線による方形区画が配され、区画隅には三叉文が彫り込まれる。	IV群
101	覆土	深鉢胴部	①雲母②堅緻③褐色	浅い沈線の横位施文後、縦位の沈線が数条施される。	IV群
102	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③にぶい 橙色	垂下隆線で区画された一方は無文で片一方は縦位、斜位の沈線が充填される。	IV群
103~107	覆土	103深鉢口縁 深鉢胴部	①103細砂粒、他は粗砂粒② 103・105堅緻、他は軟質③ 103・106・107淡黄褐色、104 明赤褐色、105褐色	環状突起。103、薄手で口唇部はやや突出し刻みを施す。104、双環状突起で一方がだれる。105、隆線に沿って大きめのペン先状刺突文が施される。106横位隆線に交互の刻みが施される。107弧を描きながら落ちる隆線の先端が円環状の小突起となる。隆線に1条の沈線が沿う。	V群
108・109	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③108黒褐色、 109にぶい 橙色	器肉は厚く、縄文を施す。108、横位LR縄文。109は縦位と横位LR縄文が乱雑に施される。	IV群
110	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②軟質③にぶい 橙色	口唇部は突出し凹面を持ち、端部には刻みを施す。隆線が斜位に貼り付けられための沈線が沿う。	V群
111~113	覆土	深鉢	①粗砂粒②堅緻③暗褐色	同一個体。口唇部は受け口状で外傾。横位隆線はおそらく頸部に付される。以下は弧状の隆線と沈線、2本1組の短沈線、三叉文が施される。地文に縄文が施されるが判然としない。	V群
114~117	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	ための沈線で文様が描かれる。やや厚手の器肉を呈す。114、2本1組の沈線が縦位、横位に施され、短沈線も縦位に描かれる。114、底部直上。乱雑な垂下沈線が施される。116、沈線が弧を描き、幅広の沈線間を交互の刺突で描出した小波状文が描かれる。117、垂下隆線にやや細めの沈線が沿い、空白部はための沈線で意匠文が描かれるのであろう。	V群
118	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③橙色	垂下する隆線が弧を描き、おそらく波状文を描くのであろう。	VII群
119~125	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③119・120・ 123橙色、121・122・124褐色、 125暗褐色	浅鉢破片。内外面とも丁寧な研磨を施す。119は口唇部欠損後疑口縁。120、薄手で小波状突起を付す。121、頸部隆線に刻みを施す。122、口唇部直下はやや雑な研磨。123、口唇部端部に面を持ち、蛇行隆線が横位に貼り付けられる。124、内面に2本1組の結節沈線が施される。125、富士山形の波状口縁波頂部。上端には棒状工具による刻みが施される。	VII群

第IV章 遺構と遺物

238図 22号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	2条の細微隆線が横位に貼り付けられ、下位には斜位に施される。微隆線には半截竹管腹面による連続刺突文が施される。	I群
2	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②普通③にぶい 橙色	口唇部端部に刻みが施され、口縁部文様帯は隆線による楕円区画。区画内は1条の結節沈線が沿う。	III群
3	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黄褐色	小型の柱状の突起を付す。口唇部突起に1条の結節沈線が沿う。	III群
4	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい 橙色	横位隆線の上位に1条の結節沈線が沿う。下位は無文。	III群
5	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③にぶい 褐色	押圧を施した隆線が蛇行し、胴部は横位の刻み目列が施される。	III群
6	覆土	深鉢胴部	①砂粒・雲母②堅緻③橙色	やや薄手。横位刻み目列が施される。	III群
7	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②普通③にぶい 橙色	渦巻状の突起を付し、隆線による三角枠の交互配列。隆線には2本1組の結節沈線が沿う。	III群
8	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②軟質③にぶい 橙色	口唇部のみ残存。端部に刻みが施され、下がる事から、突起・把手が付されるのであろう。口唇部に沿って、小型のキャタピラ文が施される。	IV群
9	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②軟質③淡黄褐色	器面は摩擦して判然としなない。垂下隆線とそれに沿う沈線、小型の半截竹管文が看取される。	IV群
10	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③暗褐色	口唇部に隆線がV字状に付され、下端より蛇行垂下する。他は無文。	IV群
11・12	覆土	深鉢底部	①11細砂粒、12雲母・粗砂粒 ②11やや軟質、12堅緻③褐色	11、底端部は僅かに張り出す。縦位LR縄文が施される。12は無文。丁寧に撫でられる。	11、IV群 12、VII群

239図 23号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 褐色	口唇部端部に結節沈線が1条巡る。幅狭の口縁部文様帯で、隆線による楕円区画文を配する。区画内は円形竹管による結節沈線が1条沿い、口縁部文様帯下位には深い沈線が1条巡る。	III群
2	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	口縁部文様帯は2条の結節沈線が施され、区画文を構成すると思われる。	III群
3	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②普通③橙色	波状口縁で波頂部を欠損する。波頂部より垂下した隆線が頸部隆線と接し、口縁部文様帯を画する。区画内は2本1組の結節沈線が沿い、∩字状のモチーフが描かれる。	III群
4	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口縁部文様帯は頸部の横位隆線で画される。隆線には押圧が施され、文様帯内は櫛歯状工具による波状文が施される。	III群
5・6	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒、5雲母②堅緻③5 褐色、6にぶい 橙色	無文の口縁部文様帯。5は細隆線による楕円区画。頸部隆線には僅かであるが押圧が施される。6、隆線による区画文を配列する。つまみ状の突起が口縁部文様帯を画する。	III群
7	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③黒褐 色	口縁部に隆線がV字状に貼り付け、口縁部文様帯を画する。隆線に沿って細い結節沈線が2条施される。	III群
8・9	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②やや軟質③ 黒褐色	2条の隆線が平行して弧を描き、隆線間には2条の波状沈線文が施される。隆線外には横位刻み目列が施される。	III群
10	覆土	深鉢頸部	①細砂粒②堅緻③黒褐色	粘土紐を芯棒とした突起を付す。粘土紐には2枚の粘土板を重ね、つまみ状の突起とする。	III群
11	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②普通③赤褐 色	波状突起の波頂部。波頂部に刻みが施され、隆線が垂下する。口縁部文様帯内は結節沈線が沿い、縦位の結節沈線が3条施される。	III群
12	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 橙色	8・9と同様に、隆線間に挟まれた2条の波状沈線。隆線外は半截竹管を使用した結節沈線が沿う。	III群
13	覆土	深鉢頸部	①雲母・細砂粒②堅緻③褐色	頸部隆線と隆線による楕円区画。区画内は2条の結節沈線が沿い、中位には波状文が横位に描かれる。	III群
14・15	覆土	深鉢胴部	①雲母・粗砂粒②堅緻③にぶい 橙色	同一個体。隆線が垂下し、横位の小波状沈線文が数条施される	III群
16	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 橙色	押圧を施す隆線がY字状に垂下し、上位の分岐部分に結節沈線が沿う。横位の刻み目列も施される。	III群
17	覆土	深鉢胴部	①雲母・粗砂粒②堅緻③橙色	瘤状の小突起から隆線が弧状に垂下する。	III群
18	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②堅緻③褐色	横位隆線に小型のキャタピラ文と沈線が沿う。	III群
19	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③褐色	隆線で方形区画され、隆線に沿ってキャタピラ文、ペン先状刺突文が施される。	III群
20	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③暗褐色	横位隆線に疎らな刻みが施される。	IV群
21	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい 橙色	平行沈線で小区画され、区画内は刺痕列が沿い中位に三叉文が施される。	IV群
22	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③暗褐色	浅い刻みを付す隆線が弧を描き、ペン先状刺突文が沿う。下位にはペン先状刺突文が横位に施され、波状文を描く。	IV群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
23	覆土	深鉢腰部	①細砂粒②軟質③橙色	隆線による楕円区画配列。	IV群
24	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③にぶい褐色	垂下沈線と斜位の沈線。いずれもやや太めの工具。	IV群
25	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②軟質③橙色	環状突起と横位隆線に沿って沈線が施される。地文LR縄文が僅かに看取される。	V群
26	覆土	深鉢口縁部突起	①粗砂粒②軟質③橙色	三角形の突起。縁辺に沿って2重に沈線が施され、中に三叉文が沈刻される。	V群
27	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部に刻みを施し、薄い円形の突起を付す。	V群
28	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	口縁部に1条の沈線が巡り、下に斜位の沈線が充填される。	IV群
29	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③黒褐色	口縁部下に1条のベン先状刺突文が巡り、隆線が斜位に落ちる。	V群
30	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③黒褐色	口唇部下に沈線が巡り、隆線が斜位に付せられる。空白部には三叉文と円形の刺突文が施される。	V群
31・32	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③にぶい褐色	横位隆線とV字状の隆線。Vに画された空白部には2条の沈線が沿い、三叉文が沈刻される。	V群
33	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	中央に沈線をトレースした隆帯が蛇行垂下する。隆帯に沿ってベン先状刺突文が数条沿う。	IV群
34	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②軟質③暗褐色	横位隆線とそれに沿うための沈線。	V群
35	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③褐色	細沈線で小区画され、2本1組の短沈線が刻まれる。	V群
36	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	細縄文LRを施す。	IV群
37~40	覆土	浅鉢口縁部	①37雲母、他は細砂粒②堅緻③38褐色、他はにぶい褐色	37、口唇部に刻みを施す低い突起を付す。39、口唇部は尖る。40、口唇部に面を持つ。	VII群
41	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③赤褐色	口唇部端部に赤色処理僅かに残る。2種類の刻みを施す。	VII群

240図 24号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	4 墳覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	垂下隆線とそれに沿う細沈線。および横位刻み目列。	III群
2	4 墳覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	平行する隆線に挟まれたやや狭い文様帯。隆線をX字状に付し楕円区画を呈する。区画内は無文のもと、2本1組の結節沈線が沿うものがある。	III群
3	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③褐色	三角形の小突起より隆線が派生し、半截竹管腹面を使用した平行沈線が沿う。	V群

241図 25号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③暗褐色	中位で緩やかに括れ、上半は外反する器形。縄文のみ施文。縦位RL縄文。	I群
2	覆土	深鉢胴部	①雲母・粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	縦位RL縄文を地文とし、2条の角押文が垂下する。	VI群
3	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇下、頸部に半截竹管を分岐した結節沈線が横位に巡る。口縁部文様帯は、縦位・斜位の結節沈線が充填される。	VI群
4	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②軟質③にぶい褐色	隆線で方形区画をし口縁部文様帯を構成する。頸部も横位隆線で画されるが、口縁部、頸部とも無文である。	III群
5	覆土	深鉢頸部	①雲母・粗砂粒②堅緻③暗褐色	頸部隆線が横位に巡り、欠損しているが橋状把手が口縁部に付せられるのであろう。把手に沿って、細い結節沈線が施される。	III群
6・7	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③6黒褐色、7褐色	口唇部肥厚し、口唇下に2条の半截竹管腹面による密接な押し引きが横位に巡る。	IV群
8・9	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③褐色	口唇部上に半円状の小突起を付し、口縁部の環状突起に繋る。環状突起上端より隆線が派生し、幅狭の文様帯を画する。突起、隆線に沈線が沿う。縄文は縦位・斜位のLR。	V群
10	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③暗褐色	口唇下に平行する隆帯が突出し、突起に発達する。隆帯下位は小楕円状モチーフと円形モチーフが交互に配列する。	V群
11	覆土	浅鉢頸部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	頸部は屈曲し、刻みを付す隆線で口縁部文様帯を画する。口縁部文様帯は10と同様に円形モチーフと楕円モチーフが半肉浮彫的手法で施される。	V群
12	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	垂下隆線に1条の沈線が沿う。空白部は沈線が幾条も弧状に描かれる。	V群
13・14	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③暗褐色	同一個体。垂下沈線が充填される。沈線間が幅広の箇所があり斜位の刻みが施される。	V群
15	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	太めの沈線を充填し、刺突文を付す。	V群
16	覆土	深鉢頸部	①細砂粒②堅緻③褐色	頸部に沈線が巡り、口縁部文様帯は、3条の半截竹管腹面を使用した沈線が縦位に施される。	V群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
17	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③橙色	垂下隆線と横位隆線で方形区画する。区画内は横位隆線に沿って2、3条の沈線が施され、上位には二重円のモチーフが描かれる。	V群
18	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③赤褐色	17と同様に方形区画され、1、2条の沈線が沿う。区画内、隆帯上にはLR縄文が施される。	V群
19	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③褐色	垂下沈線と縦位波状沈線文、縦位の半楕円文が沈線で描かれる。地文は横位LR縄文。	V群
20	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	瘤状の突起。中位に沈線が刻まれる。他は無文。	VII群
21~23	覆土	浅鉢口縁部	①21・23砂粒、22粗砂粒②21・23堅緻、22軟質③21・23にぶい褐色、22橙色	21、頸部に浅い沈線が巡る。22、外面は雑な撫で。23、隆帯で区画文が画される。口唇部内面は突出し、やや雑な研磨。	VII群

242図 26号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢腰部	①細砂粒②やや軟質③橙色	垂下隆線の脇を細沈線で矢羽状に充填する。	I群
2	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	半截竹管の交互回転により平行波状沈線文が横位施文される。地文は横位RL縄文。	VI群
3	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	沈線で多重の楕円状区画文を描き、中位を沈線で矢羽状に充填する。地文はRL細縄文。	VI群
4	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線の脇をやや疎なキャタピラ文が沿い、上位には横位刻み目列が施される。	III群
5	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②軟質③淡黄褐色	口縁部は著しく外傾する。口唇部に交互の刺突を施し、鋸歯状の効果を出す。頸部細隆線以下に半截竹管による爪形状の刻みが横位に走る。	IV群
6	覆土	深鉢頸部	①細砂粒②軟質③橙色	刻みを施す頸部隆線が横位に走り胴部文様帯と画する。隆線下位は細沈線が沿う。	IV群
7	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③橙色	胴部下半。沈線で波状文を描き、横位平行沈線が数条施される	IV群
8	覆土	深鉢口縁部突起	①細砂粒②やや軟質③橙色	嘴状の突起。上方に突出する。突起に沿って沈線が施され、三角形を呈す。突起下端より隆線が垂下し、口縁部文様帯を画するのであろう。同様に沈線が沿う。	V群
9	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②普通③暗褐色	口縁部に弧状の凹面を持つ突起が付され、隆線も弧を描く。空白部には三叉文、2本1組の短沈線が沈刻される。	V群
10	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③褐色	垂下沈線が器面を分割し、区画内は三角文、2本1組の短沈線が施される。	V群
11	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③橙色	隆線がU字状に垂れ、おそらく波状文を描くのであろう。隆線に沿って、雑な沈線が施される。	V群

243図 27号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい褐色	半截竹管による平行沈線が施され、沈線に対して三角文が鋸歯状に沈刻される。	II群
2	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	薄手の器肉を呈す。口唇下に小突起が付されるのであろう。口唇部、突起に沿って浅いペン先状刺突文が施される。	IV群
3	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③赤褐色	頸部の横位波状沈線文と胴部文様帯と画する隆線。隆線下位には沈線文が施される。	III群

244図 28号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②普通③暗褐色	口唇部上に突起を付す。口唇部と頸部隆線を橋状把手で繋ぎ、口縁部文様帯は2本1組の結節沈線が施される。頸部に波状沈線が巡る。	III群
2	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	地文にRL縄文を施し、ペン先状刺突文が横走するが、何等かのモチーフを描くのであろうか。	VI群
3	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③褐色	口唇下に2条の沈線とペン先状刺突文が平行する。	IV群
4	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③褐色	隆線が2条付され、その間に幅広のペン先状刺突文で埋める。隆線には平行沈線が沿い、空白部には三叉文が沈刻される。	IV群
5	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②普通③にぶい褐色	隆線が横位に付され、胴部文様帯を横帯文区画するのであろう。上位の文様帯は隆線による楕円状の区画で、区画内は縦位の沈線が充填される。下位は同様に楕円状の区画が配されるが区画内は無文である。	IV群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
6	炉内 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②軟質③赤褐色	環状突起を付す。突起頂部には沈線状の刻みを施し、口唇部、突起に沿って小型半截竹管文が沿う。環状突起下位には瘤状の突起が付され、両者より隆線が派生する。	V群
7・8	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	口唇下に2条の小型半截竹管文が沿う。7は弧状の動きを呈するが判然としない。8、突起、隆線が付せられたのか剥落痕がある。	V群
9	住居址付近 覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③褐色	螺旋状の突起を付し、隆線が巴状に派生する。突起、隆線に沿って平行沈線が施される。	V群
10・11	10、炉内 11、覆土	深鉢胴部	①砂粒②10やや軟質、11堅緻 ③10橙色、11褐色	隆線による円形状区画と区画内に充填される刺突文。	V群
12	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	半截竹管による垂下隆線に腹面を使用した沈線が沿い、空白部は沈線が弧状の動きをする。	V群
13~15	14・15炉内 覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②堅緻③13褐色、14・15橙色	隆線と太めの沈線が施される。13、円形のモチーフを中心とした意匠文が描かれる。14、地文の縄文は縦位RL。15、2本1組の短沈線が刻まれる。	V群
16	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	厚手の器肉を呈す。隆線は垂下蛇行する兆しを見せる。沈線は疎らに2条沿う。	V群
17	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	口唇部は肥厚し、内面にやや突出する。内外面とも丁寧に研磨する。	VII群

245図 29号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	V字状の隆線を貼り付け、2本1組の結節沈線が沿う。	III群
2	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③褐色	隆線による三角区画。隆線には疎らなキャクピラ文が沿う。	IV群
3	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	平行沈線が垂下し、空白部にはペン先状刺突文による菱形のモチーフが縦位に配列する。	IV群
4	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③にぶい橙色	沈線で小区画され、幅広の爪形文が刺痕列状に沿う。中位には三叉文が沈刻される。	IV群
5	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③黒褐色	平行沈線が横位に施される。上位のものは先端分岐の工具で押し引く。	IV群
6	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③にぶい橙色	縦位の平行沈線が3本1組で施される。	IV群
7	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③褐色	口唇部より隆線がV字状に派生し、太めの沈線が沿う。	V群
8	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③褐色	口唇下にやや太めの沈線が2条沿う。沈線下位にはペン先状刺突文が平行すると思われる。	IV群
9	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②堅緻③褐色 ~黒褐色	環状突起を付し、隆線が2方向に派生する。隆線に沿って複列の結節沈線が施される。	V群
10	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	隆線が渦巻を描き、末端は瘤状の小突起となる。隆線に沿って沈線が施される。	V群
11	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③褐色	横位隆線で横帯文区画される。上位の文様帯は環状突起を付し隆帯が巴状に派生する。隆帯と横位隆線間は斜位の沈線群が埋められる。横位隆線には平行沈線が沿い、下位の文様帯は波状沈線文が横位に施される。	V群
12~14	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③13褐色、14 黒褐色、15褐色	太めの沈線を施す。12、横位隆線に沿う。13、沈線間が幅広く、何等かのモチーフか。14、横位隆線より斜位の隆線が派生する。	V群
15	覆土	深鉢腰部	①細砂粒②堅緻③赤褐色	平行沈線が垂下、弧状の動きをする、破片端部に三叉文の痕跡が有る。	IV群

30号住居址……出土土器無し

246図 31号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1・2	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③黒褐色	同一個体。横位隆線と沈線が施される。2は垂下沈線が看取される。地文は横位、斜位のRL縄文。	V群

247図 32号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	刻みを付す隆線と太めの沈線。沈線は弧を描き、円形のモチーフに繋がる。2本1組の短沈線、三叉文が施される。	V群
2	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③褐色	半截竹管腹面を使用した平行沈線と隆線が弧を描く。	V群
3	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	厚手の器肉を呈す。無文。	

第IV章 遺構と遺物

247図 33号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
4	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	頸部隆線上端に渦巻状の小突起を付す。隆線下位は波状沈線文、ヒダ状圧痕が横位に施される。	Ⅲ群

248図 34号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1～3	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	地文に横位RL縄文を施し、貼付文を付す。1、垂下隆線と円形の貼付文。2、楕円状の貼付文。3、隆線による横位波状文。	I群
4	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③黒褐色	無節縄文1を施し、口唇部端部にまで及ぶ。補修孔か、未完孔の小穴が付される。	I群
5	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	小型半截竹管の押し引き文が施され、円形の貼付文も付される。	I群
6・7	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	双波状突起を付す。腹面使用の細沈線で、横位山形文が描かれる。	I群
8	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	口縁部は外傾し、直下に腹面使用の平行沈線が3条巡り、沈線間を小型半截竹管の押し引き文が埋められる。胴部は沈線がクランク状の動きを呈す。地文は横位RL縄文。	Ⅱ群
9	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③橙色	口唇部は尖る。口縁部は横位LR縄文を施し、口縁下は2条の角押文が巡る。	Ⅵ群
10	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口唇下に2条の結節沈線が施され、口縁部文様帯は1条の結節沈線が描かれる。	Ⅲ群
11	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③暗褐色	扇状把手。縁辺に刻みを施し、2本1組の結節沈線が口唇部に沿う。隆線左側に、浅い爪形文が縦位に認められるが、工具の当り目であろうか。	Ⅲ群
12～15	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③12・15暗褐色、13褐色、14褐色	口縁部文様帯の楕円状区画。区画内は無文。12、2本1組の結節沈線が楕円を描く。13、Y字状の隆線が区画をなし、2本1組の結節沈線が沿う。14、区画内は沈線が沿う。	Ⅲ群
16	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	波状縁。複列の結節沈線が沿い横位波状沈線文が施される。補修孔が穿たれる。	Ⅲ群
17	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	隆線が波状を呈し、2本1組の結節沈線が沿う。	Ⅲ群
18	覆土	深鉢胴部	①雲母②普通③にぶい褐色	隆線がX字状に付され、接点は小突起となる。隆線下位は押圧を施し、沈線が沿う。	Ⅲ群
19	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	頸部隆線で画された口縁部文様帯に斜位の結節沈線が施される。	Ⅲ群
20	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②軟質③褐色	横位隆線に沿うキャタピラ文。上位の文様は3条の結節沈線による波状文。	Ⅲ群
21・22	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	横位刻み目列を口縁部に施す。21、2個1対の突起を付し、刻みを施す隆線をV字状に貼り付ける。22、口唇部端部にまで刻み目が及ぶ。	Ⅲ群
23～26	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③23・24褐色、25褐色、26暗褐色	横位刻み目列。23、幅広の工具を使用。24、深く、等間隔に施す。25・26、押圧を施す垂下隆線が付せられる。	Ⅲ群
27	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	粘土紐を芯棒とした突起を付し、3枚の粘土帯を巻く。	Ⅲ群
28	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黄褐色	扇状把手頂部。縁辺に刻みを施し、把手内は2本1組の結節沈線が沿う。	Ⅲ群
29	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②普通③褐色	垂下隆線が付される。上端には横位刻み目列が施される。	Ⅲ群
30・31	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	無文の口縁部文様。30、小波状縁を呈し、隆線の区画がされる。31、波状縁を呈し、突起が付される。口縁下に1条の浅い沈線が巡る。	Ⅲ群
32	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	垂下隆線に沿う浅い沈線。あるいは縦位の撫で痕か。	Ⅲ群
33	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③にぶい褐色	渦巻状の突起を付す。隆線によって口縁部文様帯が画され、区画内はベン先状刺突文が施される。	Ⅳ群
34	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②普通③褐色	柱状の突起が口縁部文様帯を区画する。突起は横位のベン先状刺突文で密に飾られ、区画内はキャタピラ文が沿い、三叉文が沈刻される。	Ⅳ群
35	覆土	突起	①粗砂粒②やや軟質③褐色	円盤状の突起。縁辺に刻み、三叉文を沈刻する。突起内は、同心円状に刻みを施す隆線・ベン先状刺突文が施される。	Ⅳ群
36	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部にキャタピラ文が沿い、ベン先状刺突文で区画される。中位には沈刻文が刻まれる。	Ⅳ群
37～39	覆土	深鉢頸部	①37細砂粒、38粗砂粒、39砂粒②39軟質、他は堅緻③39褐色、他はにぶい褐色	キャタピラ文・ベン先状刺突文が沿う頸部隆線。37、隆線は突出し、突起となるか。38、大きめのベン先状刺突文が沿う。39、隆線の両脇にキャタピラ文が沿い、上位にはベン先状刺突文が横位施文される。	Ⅳ群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
40・41	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	隆線に小型のキャタピラ文が沿う。40、平行沈線、ペン先状刺突文が沿い、三叉文が沈刻される。41、口縁部下位の破片か。ペン先状刺突文が密接に施文され、円形刺突文と三叉文が刻される。	IV群
42~44	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③42暗褐色、43褐色、44橙色	横位の連続三叉文と幾条ものペン先状刺突文。42、キャタピラ文が上位に施される。44、下位のペン先状刺突文は弧を描く。	IV群
45・46	覆土	45深鉢口縁 46深鉢胴部	①粗砂粒②45堅緻、46普通③橙色	キャタピラ文と大きめのペン先状刺突文。45、口唇部に沿ってキャタピラ文、ペン先状刺突文が沿う。下位は三叉文と蛇行するペン先状の刺突文が施される。46、横位沈線や、波状沈線が施される。	IV群
47~49	覆土	深鉢胴部	①砂粒、49粗砂粒②堅緻、48軟質③にぶい橙色	楕円枠を構成する隆線に沿うキャタピラ文、ペン先状刺突文。47、垂下隆線が接する。48、楕円枠状文が配され、上位には円～縦位楕円枠が設けられる。横位楕円枠中位には平行沈線が施される。49、剥落しているが大型の楕円枠であろう。中位には横位ペン先状刺突文が鋸歯状文を描く。	IV群
50	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③極暗褐色	ペン先状刺突文が斜位・横位に施される。	IV群
51	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③橙色	横位隆線に渦巻状の小突起を付す。隆線上位には幅広のキャタピラ文が沿い、沈線も同様の動きを呈す。下位は三叉文が交互に配し横位蛇行文が沈刻され、刺痕列が沿う。	IV群
52・53	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③52橙色、53褐色	平行沈線による方形小区画文。52、区画内は斜位のペン先状刺突文が充填される。53は平行沈線が充填される。	IV群

249図 34号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
54・55	床直上 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③橙色	双環状突起を口唇部上に付し、下端より橋状把手が口縁部文様帯中位にまで伸びる。口縁部文様帯は横位隆線で横帯文区画され、平行沈線による小区画文が配列するのであろう。胴部文様帯も横位隆線で分帯され、末端を小突起にする隆線が付せられる。口縁部・胴部文様帯とも区画内は刺痕列が沿う。	IV群
56・57	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③褐色	縦位平行沈線と刺痕列。57は雑な施文で、三叉文の一端が取られる。	IV群
58	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②普通③にぶい橙色	環状突起を付し、口唇部、突起縁辺に刻みを施す。口縁部文様帯は突起、平行沈線で画され小型半截竹管文が沿う。	IV群
59・60	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②59軟質、60堅緻③59橙色、60褐色	口唇下の小型半截竹管文。59は平行沈線が沿う。60、1条の沈線が平行する。	IV群
61・62	覆土	深鉢頸部	①砂粒②やや軟質③褐色	爪形状の半截竹管文を施した三角枠文。61は双波状区画。頸部文様帯は無文。62は頸部隆線に刻みを施す。	IV群
63・64	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③橙色～黒褐色	同一個体。柱状突起と頸部隆線で画された口縁部文様帯。区画内はキャタピラ文が沿う。頸部は無文。	III群
65	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③黒褐色	横位隆線に突起を付し、縦位に爪形文・ペン先状刺突文が施される。空白部には沈線で文様が描かれるが判然としない。	IV群
66	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②軟質③橙色	平行沈線による方形区画。区画内はキャタピラ文が沿い、キャタピラ文の内側を棒状工具による押し引き文が沿う。	III群
67	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②軟質③暗褐色	66と同一個体か。平行沈線による区画と内側を沿う爪形文。区画中位は波状沈線が横位に施される。	III群
68・69	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③橙色	同一個体。横位隆線に分帯された狭い文様帯内に隆線による楕円枠が配される。枠内は爪形文、沈線が沿う。横位隆線も爪形文、沈線、ペン先状刺突文が沿う。	IV群
70	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③橙色	隆線による楕円枠状文。枠内は平行沈線が沿い、横位の小型爪形文が施される。	IV群
71	覆土	深鉢胴部	①砂粒②脆弱③橙色	横位隆線が付され、隆線下位にキャタピラ文・ペン先状刺突文、平行沈線が施される。	IV群
72	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③にぶい橙色	隆線による楕円枠に垂下沈線が接する。枠内は無文。垂下沈線、横位隆線に沿って小型の爪形文、沈線が施される。	III群
73	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	隆線の末端が瘤状の小突起となり、横位隆線の先端で止る。隆線には刻みが施され、腹面使用の平行沈線が幾条も沿う。	IV群
74	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	腹面使用の平行沈線が弧を描き、横位沈線とともに小区画をなす。沈線には爪形文が沿い、中位には三叉文？が沈刻される。	IV群
75	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③橙色	蛇行隆線が逆S字を描く。隆線には刻みが施される。	IV群
76・77	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	刻みを施す横位隆線に分帯され、隆線上位には爪形文が、下位には横位平行沈線が沿う。平行沈線下位には縦位の平行沈線が施され、横位→縦位→横位隆線の順番であろう。	IV群

第四章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
78	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	横位だが緩い弧を描く隆線に沿って沈線が施される。隆線下位には波状沈線文が横位施文される。	IV群
79	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③橙色	垂下沈線と縦位の波状沈線文が施される。弧を描く沈線も施される。	IV群
80	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	地文は横位LR縄文が施され、やや太めの沈線文が描かれる。	IV群
81	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③橙色	横位隆線に太めの沈線が沿う。隆線上位は横位RL縄文を地文とし、沈線が描かれる。	V群
82	覆土	深鉢突起	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	嘴状の突起。上方に突出する。突起は無文だが、下端に沈線が2条看取される。	V群
83	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	横位隆線に環状突起が付す。突起、隆線に数条の沈線が沿い隆線下位には横位波状沈線が施される。	V群
84	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	緩い波状口縁を呈し、口唇部は内外に突出する。口唇部に接して、環状突起が付され、太めの沈線が2条沿う。その他2本1組の短沈線も施される。口縁部文様帯は頸部隆線で画され、隆線下位の胴部文様帯は縦位沈線が幾条も施される。	V群
85	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③暗褐色	横位隆線に沿って2条の太めの沈線が施される。地文の縄文は隆線にまで達している。	V群
86	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	口縁部は外傾し、内稜を持つ。撫でによる凹面を持つ弧状突起を付し、口唇部、突起に沿って小型半截竹管文、沈線を施す。破片下端にも横位の小型半截竹管文が施され、おそらく口縁部文様帯を画するのであろう。	V群
87	覆土	深鉢頸部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	波状口縁を呈する。波頂部より垂下した隆線の上に沈線がトレースし、また、隆線にも沈線が沿う。	V群
88~90	覆土	深鉢胴部	①88雲母 他は細砂粒②堅緻③褐色	垂下隆線とそれに沿う沈線。88は腹面使用の沈線。89、隆線がU字状モチーフを描く。90、沈線間が広く、横位沈線も施される。	V群
91	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	凹面を持つ隆帯が垂下し、相対称となり、接点が突起となる。隆帯に沿って沈線が施される。	V群
92	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	口唇部に刻みを施す。内面の研磨は丁寧だが、外面は調整されていない。	VII群
93	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	双波状口縁を呈する。内面は丁寧に研磨。外面は指頭押圧が施される。	VII群
94	覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部外面に突出する。内外面とも丁寧な研磨。	VII群

250図 35号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	肋骨文だけが円形刺突文は施されない。	I群
2	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③褐色	0段3条のLR縄文を施す。	I群
3	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③褐色	横位RL縄文を地文とし、円形の貼付文を付す。	I群
4	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	平行沈線による集合沈線を地文とし貼付文を付す。	I群
5	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③にぶい褐色	指頭によるつまみであろうか、2個1組の刺突文が縦位に施される。	I群
6	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	平行沈線による集合沈線が羽状モチーフを描く。	I群
7・8	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③7褐色、8淡黄褐色	半截竹管腹面使用の沈線が横位に施され、地文として集合沈線化する。横位沈線下は矢羽状の沈線群が縦位に施され、横位・縦位の境界には三角印刻される。	I群
9	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	口縁部文様帯を区画する突起を付す。突起には刻みが施され、区画内は平行沈線を沿う。	III群
10	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②普通③暗褐色	扇状把手。縁辺に深い刻みを施す。把手内は無文。	III群
11	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	扇状把手。縁辺に刻みを施し、把手内面に2本1組の結節沈線を施す。	III群
12	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②脆弱③にぶい褐色	扇状把手。縁辺に疎らな刻みを施し、把手内は2本1組の結節沈線が施される。	III群
13	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	緩い波状縁を呈す。頸部隆線で口縁部文様帯を画し、撫でを加えた隆線で口縁部文様帯を楕円区画する。隆線には刻みが施され、区画内は横位刻み目列が施される。	III群
14	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	隆線に沿って沈線が施され、沈線は斜位・縦位にも描かれ、小区画をなすか。	V群
15	覆土	深鉢頸部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	押圧を施した横位隆線と平行沈線	III群
16	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	幅狭の口縁部文様帯を持ち、胴部文様帯とも斜位の沈線が施される。	III群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
17~20	覆土	17深鉢口縁 深鉢胴部	①雲母・粗砂粒②堅緻③17・18・20暗褐色、19橙色	横位刻み目列を施す。17、波状縁を呈し、口唇部にも刻みを施す。18・19、2段の刻み目列。19は刻み目列間に1条の結節沈線が施される。19・20垂下隆線に押圧が施される。	III群
21・22	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	同一個体。横位隆線の両脇に沈線が沿い、下位には波状沈線が横位に施される。	III群
23	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	口縁部は若干外傾し、屈曲部に2条の腹面使用の平行沈線が巡る。横位沈線より垂下沈線が派生し、おそらく小区画をなすのであろう。区画内は三叉文、刺突文が充填される。	IV群
24~29	覆土	24深鉢口縁 深鉢胴部	①24細砂粒、他は砂粒②堅緻③24にぶい褐色、25・28・29褐色、26・27橙色	沈線による文様描出。主に弧を描く沈線が主体。24、口唇下に平行沈線が数条巡る。25、弧を描く沈線で小区画され、区画内は平行沈線とペン先状刺突文が斜位に施される。26、垂下沈線、横位沈線の他、冂字状のモチーフを描く。27、平行沈線で木葉状のモチーフが描かれ、上位にはペン先状刺突文が斜位に施される。28、横位隆線下に平行沈線と弧を描く沈線が施される。29、平行沈線で小区画され、連続三叉文が沈刻される。	IV群
30	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③橙色	垂下沈線、弧状沈線、横位沈線が各所に施され、小区画を構成する。区画内は無文が主だが、三叉文等が沈刻される区画もある。	IV群
31	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位波状沈線が雑に施される。	III群
32	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③暗褐色	やや厚手の器肉を呈す。RL縄文を多方向に施文する。	IV群
33	覆土	深鉢突起	①砂粒②やや軟質③橙色	大型の双環状突起。内面は剥落している。	V群
34	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	弧状の隆帯に交互の刻みが付される。隆帯には2条のための沈線が沿う。	V群
35	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	隆線、ペン先状刺突文で三角形の区画を画し、中位に三叉文を刻する。	V群
36	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	隆線が2条接する。破片上位にはRL縄文が看取される。	V群
37~39	覆土	浅鉢口縁部	①37雲母・砂粒、他は砂粒②堅緻③37黒褐色、他は褐色	37、口唇部剥落後疑口縁。外面はやや雑な研磨。38、内外面とも丁寧な研磨。39、外面はやや雑な研磨。	VII群

251図 36号住居址

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	結節縄文の縦位回転施文。	II群
2	覆土	深鉢口縁部	①雲母②やや軟質③黒褐色	大型の扇状把手。縁辺、垂下隆線に刻みが施され、口唇部に角押文が1条沿う。	III群
3	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	波頂部が双波状になる山形状把手。波頂部より、長楕円形突起が垂下し、頸部隆線に接す。突起には2条の結節沈線が施される。口唇部には沈線、波状沈線が平行し、隆線・突起には複列の結節沈線が沿う。	III群
4	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線に沿って幅広の半截竹管状工具による結節沈線が施される。	III群
5	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	やや薄手の器肉を呈す。細隆線による多段分帯。隆線に沿って浅い沈線による波状文が描かれる。	III群
6	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③極暗褐色	著しい波状縁を呈す。隆線による楕円・円状の区画。隆線には刻みが施され、区画内は1条の角押文が沿う。	III群
7	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②堅緻③橙色	幅広の横位刻み目列を施す。	III群
8	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②脆弱③淡黄褐色	V字状の隆線が貼り付けられ、小型の爪形文が施される。	III群
9	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線に幅広のキャタピラ文が疎らに沿う。上位には波状沈線文が横位に施される。	III群
10・11	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③褐色	緩い波状縁を呈し、内彎する。比較的径は小型。口縁部文様帯では渦巻状の隆線の末端が突起となる。胴部も隆線が弧を描き、平行沈線、蓮華文が沿う。	IV群
12	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	口唇下に腹面使用の沈線が巡り、同様の沈線が弧を描く。地文の縄文は口唇部端部にまで及ぶ。	IV群
13	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	口唇部と平行する腹面使用の平行沈線で幅狭の文様帯を画し、2個1組の刻み、三角文が刻まれる。	IV群
14	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	口唇下に沈線を巡らし、太めの沈線が充填される。	V群
15~17	覆土	深鉢胴部	①15・16細砂粒、17粗砂粒②堅緻③15黒褐色、16・17にぶい褐色	地文に縄文を施す。15、隆線をV字状に付し、RL縄文を施す。16・17、垂下隆線に沈線が沿い、縦位波状沈線文が施される。16の隆線には縄文が及ぶ。	V群
18	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい褐色	無文帯下平行沈線が巡り、小型半截竹管文が施される。	IV群
19	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③橙色	垂下隆線に腹面使用の平行沈線が沿い、空白部には半截竹管交互回転による縦位波状文が施される。	IV群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
20・21	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③20暗褐色 21黒褐色	20、横位隆線が巡り、地文は横位RL縄文。21、頸部。細縄文LRが斜位・縦位に施される。	
22	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③褐色	波状口縁を呈し、波頂部は突起となる。口唇部には3個の刻みが付される。口縁部文様帯は細隆線が施され、隆線の内側に太めの沈線が沿う。	V群
23	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③黒褐色	横位沈線下沈線によって三叉文が描かれ、三叉文には同様の沈線が沿う。	V群
24～27	覆土	深鉢胴部 26深鉢腰部	①砂粒②堅緻③24・25橙色、 26・27にぶい褐色	縦位の太めの沈線。24・25、垂下隆線に沿って沈線が充填される。26、U・∩字状のモチーフを描く。27、隆線がU字状のモチーフを描き、沈線が沿う。	V群
28	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	無文。緩やかに内彎し、頸部では横無で痕が著しい。	
29～32	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	29、外面は研磨されない。30～32、内外面とも丁寧に研磨する。	VII群
33	覆土	浅鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③褐色	双波状口縁を呈する。外面の研磨はやや雑である。	VII群
34・35	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③33褐色、 34黒褐色	小型の深鉢で、無文。34、外面は無でのみの雑な作り。35、口唇部に隆線が貼り付けられるが、他は横無でのみ。	VII群

252図 土壌出土土器拓影(1・3・5～9号土壌)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	1 墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	0段多条RLと0段3条LRの羽状縄文を施す。	I群
2・3	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②2軟質 3堅緻③橙色	隆線で区画された口縁部文様帯内を単列の結節沈線が沿う。3は円環状突起が付され、把手内は複列の結節沈線が施される。	III群
4	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口唇部・頸部に沿って2本1組の結節沈線が施され、口縁部文様帯中位には波状沈線文が横位施文される。	III群
5	覆土	深鉢頸部	①細砂粒②普通③黄褐色	頸部隆線にX字状の隆線が付される。胴部は横位刻み目列が施される。	III群
6	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	隆線に沿って平行沈線が施され、横位波状沈線文が描かれる。	III群
7	覆土	深鉢突起	①細砂粒②堅緻③暗褐色	尖鋭な突起。小型半截竹管文が沿う。	III群
8	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	浅い平行沈線施され、角押文で楕円枠を描く。枠内は縦位の結節沈線が充填される。	III群
9	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②脆弱③淡黄褐色	波状縁を呈し、小突起を付す。隆線による三角枠の配列で枠内はベン先状刺突文が施される。	IV群
10	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	波状縁を呈し、波頂部より頸部隆線へ蛇行した橋状把手が付される。隆線、把手には刻みが施され、口縁部文様帯は腹面使用の平行沈線、小型半截竹管文が横位施文される。	IV群
11	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	双波状突起。一方が長いアンバランスな突起である。突起内は半肉浮彫的手法による三叉文、渦巻文が沈刻される。	IV群
12・13	覆土	深鉢口縁部 胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	同一個体。口縁部は無文である。頸部隆線が付され、胴部は縦位区画を基本とした方形区画文が配される。区画は腹面使用の平行沈線が主で、区画内は刺痕列が沿う。	IV群
14	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	12・13と同様で、方形区画内に刺痕列が沿う。	IV群
15・16	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③15暗褐色、16 橙色	平行沈線を主とする。15、縦位→横位沈線。16、やや雑な横位施文。	IV群
17	覆土	浅鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③褐色	外反する口縁部。内面は研磨するが、外面は無調整。	VII群
18	3 墳	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	横位隆線が付され、突起に発達する。隆線には小型半截竹管文と太めの沈線が沿う。	V群
19	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	隆線が垂下し、浅い沈線が斜位に充填される。上位には波状沈線文が横位施文される。	III群
20・21	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③淡黄褐色	同一個体だが、20は隆線の片側にキャタピラ文が沿い、21は両側に沿う。沈線は腹面使用。	IV群
22～24	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	同一個体であろう。環状突起より隆線が派生し、太めの沈線が1条沿う。短沈線も施され、地文は横位・斜位のRL縄文。	V群
25	5 墳 覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③褐色	波状縁を呈し、頸部隆線で口縁部文様帯を画す。文様帯内は刻みを密接に施す隆線が長楕円形の動きを呈し、ベン先状刺突文が密接に沿う。空白部には三叉文が沈刻され、ベン先状の刺突による鋸歯状文も横位施文される。頸部は無文である。	IV群
26	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	口縁部は外傾し、著しい内稜を持つ。口縁下には小型半截竹管文が平行し、三叉文の外縁を沈線。小型半截竹管文が沿う。	V群
27	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③赤褐色	横位隆線と垂下隆線で方形の区画を構成する。区画内は平行沈線が沿い、中位には半截竹管の回転による縦位波状文が施される。	IV群
28	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	凹面を持つ弧状突起と環状突起。突起より隆線が派生し、これらに太めの沈線が沿う。	V群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
29	6 墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③褐色	口唇下に1条のベン先状刺突文が沿う。	IV群
30	覆土	深鉢頸部	①砂粒②やや軟質③橙色	横位隆線に斜位の隆線が接し、区画を呈する。区画内はベン先状刺突文が沿う。横位RL縄文を地文とする。	IV群
31	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	狭い無文部を持ち、隆線が縦位に付され、下端には浅い横位沈線が施される。	IV群
32	7 墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②堅緻③暗褐色	山形状の波状突起。波頂部は双波状を呈するか。波頂部より、押圧を施した隆線が垂下し2本1組の結節沈線が沿う。	III群
33	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③極暗褐色	尖鋭な突起を波頂部とした波状縁を呈す。波頂部より隆線が垂下し、末端は小突起となる。口唇部、口縁部文様帯中に刻み目列が施される。	III群
34	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 橙色	柱状の突起を付す。突起上端は円形を呈する。突起には粘土紐が巻かれ撫でが加わる。	III群
35	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③黄橙色	横位平行沈線に刺痕列が沿い、連続三叉文と同形刺突文が沈刻される。	IV群
36	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③褐色	斜位の隆帯が付され、横位平行沈線、斜位の結節沈線が空間を埋める。隆帯上面には細い結節沈線が2条トレースされる。	IV群
37	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③橙色	横位RL縄文が施される。	
38	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	円形の滑車状突起。中位は径1.5cm程度の孔が穿たれる。下端に斜位のベン先状刺突文が施される。	V群
39	8 墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③橙色	刻みを施す小突起を付す。突起より隆線が派生し、口縁部文様帯を小区画する。区画内はベン先状刺突文が沿い中位には三叉文が刻まれる。	IV群
40	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	隆線がV字状に付され、隆線下には縄文が施される。	V群
41	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	口縁部は外傾し、口縁下は2条の沈線が巡る。	V群
42	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	LR縄文を地文とし、太めの沈線が施される。	V群
43	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③にぶい褐色	口唇部は内折する。LR縄文を斜位に施すが難な作りである。	IV群
44	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③橙色	RL縄文を斜位に施す。	IV群
45	9 墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 褐色	平線を呈する口唇部端部には深い刻みを施す。口縁部文様帯は突起で区画され、2条の幅広の結節沈線で楕円状文を描く。	III群

253図 土壇出土土器拓影 (10・14・16・18・19・21・22・29・33号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	10 墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	波状口縁。波頂部より隆線が垂下し、頸部隆線に接す。口唇部、隆線に沿って1条の結節沈線が施される。	III群
2	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位隆線の両脇を疎らなキャタピラ文が沿う。下位にはベン先状刺突文も施される。	IV群
3	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③極暗褐色	横位隆線と垂下隆線で胴部を方形区画する。横位隆線上位には小型半截竹管文が平行し、区画内は太めの沈線が沿う。	V群
4・5	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 褐色	同一個体。双環状突起を付す。突起左はだれる。突起より隆線が派生し、2条の太めの沈線が沿う。地文の縄文は縦位LR。	V群
6	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③にぶい 橙色	波状縁を呈す。隆帯が口唇部に沿い、口唇部と隆帯間は深い沈線が施される。隆帯下の縄文は横位LR。	VI群
7	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	口唇部に押圧を施す、横位隆帯を付す。	III群
8	12 墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	波状縁を呈し、口縁下は腹面使用の平行沈線が横位施文される。	V群
9・10	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい 褐色	沈線に沿う刺痕列。9、浅い沈線で方形区画される。10、弧を描く隆線に沿う沈線。	IV群
11	13 墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい 褐色	横位隆線の両脇を1条の角押文が沿う。	III群
12	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	突起を付すのであろう。口縁下に腹面使用の平行沈線が巡る。	V群
13	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい 褐色	環状突起が付され、突起を中核に隆線が巴状に派生する。隆線には太めの沈線が沿い、小型半截竹管文も施される。	V群
14	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③褐色	口唇下は欠損するが、横位沈線が施されるのであろう。隆線が斜位に垂下し、太めの沈線が沿う。	V群
15	14 墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	横位平行沈線の低位に集合沈線が斜位に充填される。沈線は腹面使用。	
16	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 褐色	隆線に沿って強い撫で痕が残る。横位刻み目列も施される。	III群
17	覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	口縁部若干反する。無文で内外面とも丁寧に研磨する。	VII群
18	16 墳 覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 褐色	波状口縁を呈す。口唇部端部に爪形の刻みを施し、緩い外稜を持つ。口唇部に赤色塗彩残る。	VII群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
19	18墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②やや軟質③褐色	横位刻み目列が口唇部上部部に施される。	Ⅲ群
20	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	橋状把手。把手側面にも平行沈線、小型のペン先状刺突文が施される。	Ⅳ群
21	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③黒褐色	横位と斜位の隆線。隆線上位は太めの沈線、小型半截竹管文が施される。	Ⅴ群
22	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③橙色	隆線が2条平行して垂下し、外側を沈線が沿う。	Ⅴ群
23・24	19墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい褐色	L R・R Lの結節縄文。結束第1種で、一端をZ、他方をS字状に結ぶ。	Ⅱ群
25	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	波状垂下する隆線に半截竹管状工具による結節沈線が沿う。	Ⅲ群
26	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	押圧を施す隆線が弧を描く。押圧は縦位になると刻みとなる。	Ⅲ群
27	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③褐色	横位刻み目列が口唇部上部部に施される。左端に隆線が付される。	Ⅲ群
28	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③黒褐色	外反する胴部器形。浅い横位刻み目列が施される。	Ⅲ群
29・30	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	同一個体。隆線による方形区画。区画内は疎らな截痕列が沿う。	Ⅳ群
31	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	縦位R L縄文を地文とし、太めの沈線が描かれる。	Ⅴ群
32	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	幅広の口唇部上部部に双円形の突起を付す。突起縁辺には刻みが施され、三叉文が交互に沈刻される。内外面とも丁寧な研磨。	Ⅳ群
33~35	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	隆線に環状突起が付される。33、突起縁辺に2条の沈線が施される。34、突起に短沈線が刻まれ、沈線が沿う。35、隆線に太めの沈線が沿い、R L縄文が施される。	Ⅴ群
36	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線と垂下隆線によって区画し、区画内は三叉文や短沈線が施される。また、隆帯による円形突起が付され、隆線が派生する。垂下隆線には先端の丸いペン先状刺突文が沿う。縦位R L縄文を地文とする。	Ⅴ群
37	21墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②普通③暗褐色	横位平行沈線で分帯し、縦位の沈線で小区画する。右下端で沈線が弧を描く。	Ⅳ群
38	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②軟質③褐色	弧を描く隆線にペン先状刺突文が沿う。剥落しているが突起も付される。	Ⅳ群
39	22墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部上部部は尖り、若干突出する。口縁部文様帯は2本1組の結節沈線が楕円状に描かれる。	Ⅲ群
40	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	隆線下に腹面使用の平行沈線が沿い、地文の縄文部分を挟んで同様に沈線が描かれる。	Ⅴ群
41・42	29墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③暗褐色	同一個体で口唇部上に突起を付す。口唇部に刻みが施され、突起より斜位に隆線が垂下する。口唇部、隆線に沿って平行沈線、爪形状の刻み目が施される。	Ⅲ群
43	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	無文の口縁部。内外面とも丁寧な研磨。	Ⅶ群
44	33墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③赤褐色	刻みを付す隆線に沿って2条のペン先状刺突文が施される。三叉文も沈刻される。	Ⅳ群

254図 土壇出土土器拓影 (40・42・51・93・101・108・110・124~127号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	40墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③暗褐色	頸部にうすい隆線が横位に付され、爪形状の刻みが施される。	Ⅳ群
2	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	深い爪形状の刻みが器面全体を埋める。	Ⅰ群
3	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位平行沈線と爪形状が施される。	Ⅰ群
4	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	S字状の結節のL R縄文。結束第1種。	Ⅱ群
5	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③褐色	平行沈線で方形区画され、区画内は斜位の沈線が充填される。区画隅は三角印刻される。	Ⅱ群
6	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	おそらく扇状把手左側。把手内、区画内は2本1組の結節沈線が施される。	Ⅲ群
7	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③赤褐色	刻みを付す平縁を呈する。隆線によって楕円区画され、2列の結節沈線が沿う。	Ⅲ群
8	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	扇状把手右側。把手内、区画内は2本1組の結節沈線が沿う。	Ⅲ群
9	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	押圧を施した隆線が垂下する。他は無文。	Ⅲ群
10	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③にぶい褐色	口唇部上部部に刻みを施し、沈線が横位に平行する。口縁部文様帯は斜位の沈線が4条施される。	Ⅲ群
11	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③にぶい褐色	隆帯による縦位楕円状区画が配される。下端は突出する。隆帯には腹面使用の平行沈線が沿い、横位沈線とともに小区画が画される。区画内は2本1組の結節沈線と三叉文が施される。	Ⅲ群
12	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③赤褐色	横位隆線に小型のキャタピラ文が沿い、上位には2本1組のペン先状刺突文が斜位に施される。また、三叉文も刻まれる。	Ⅳ群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
13	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	腹面使用の平行沈線が横位、弧状に充填される。	V群
14	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	波状突起を付す。内面の研磨は丁寧だが、外面は雑である。	VII群
15	覆土	深鉢把手	①粗砂粒②軟質③橙色	橋状把手の把手部分。雑な作り。	
16	42墳 覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	頸部隆線に橋状把手が付される。把手には隆線による蛇行文が貼り付けられ、隆線に沿って末端を渦巻状にする1条の角押文が施される。	III群
17	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②普通③褐色	波状口縁波頂部直下。波頂部より垂下した押圧を施す隆線が頸部隆線に接し、隆線に沿って腹面使用の結節沈線が施される。結節沈線は2種類使用される。	III群
18	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	縦位の結節沈線が幾条も充填される。	III群
19	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	垂下隆線と頸部隆線が接し、口縁部文様帯は単列の結節沈線が沿い、斜位結節沈線が充填される。	III群
20	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③赤褐色	刻みを付す口唇部に小突起を設ける。口縁部には浅い結節沈線が横位施文される。	III群
21	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい褐色	垂下隆線に2条のペン先刺突文と沈線が沿う。	IV群
22	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	口唇部に腹面使用の平行沈線が沿い、U字状のモチーフを描くと思われる。地文はLR縄文。	IV群
23	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	無節縄文rを施す。	IV群
24	51墳 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③にぶい褐色	胴部に付せられる環状突起。2枚の粘土板を合せ直立させる。一方には孔は設けられない。	V群
25	93墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	刻みが沿う隆線が付され、横位刻み目列が密に施される。	III群
26	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③褐色	横位隆線と平行沈線にキャタピラ文、ペン先状刺突文が沿う。	IV群
27	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	半円状の小突起。頂部に3個の刻みを付す。突起内は無文。	IV群
28	101墳 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③褐色	横位隆線にペン先状刺突文、キャタピラ文、半截竹管の刺突が沿う。	IV群
29	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	横位と斜位の平行沈線で三角形の小区画がされ、区画内は刺痕列が沿う。	IV群
30	103墳 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③黒褐色	やや雑な結節沈線が施される他は無文。	III群
31	108墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③にぶい褐色	器肉薄く小型の口縁径を呈す。小型の環状突起を付し、横位ペン先状刺突文が2条口唇部に沿う。	IV群
32	110墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	太めの沈線が垂下し、縦位RL縄文が施される。	V群
33	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③黒褐色	横位結節沈線が幾条も施される。	III群
34	111墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	山形状把手か。口唇部、隆線に沿って1条の結節沈線が施され、口縁部文様帯は斜位の結節沈線が充填される。	III群
35	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③黒褐色	横位隆線が付せられる。	III群
36	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	腹面使用の平行沈線が垂下し、小区画内は小型の刺突文と三叉文が埋められる。	IV群
37	118墳 覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③褐色	平縁を呈し、口唇部、頸部隆線に1条の角押文が施される。口縁部文様帯中位は無文。	III群
38	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位刻み目列が多段に施される。	III群
39	124墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	平縁を呈し、器肉は薄い。やや節の長い2本1組の結節沈線が波状文を描く。	III群
40	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線に太めの沈線が4条沿う。隆線は弧を描く。	V群
41	125墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	口縁は内傾し、頸部は屈曲する。頸部に沿って3条の平行沈線が横走し、屈曲部より、4条の平行沈線が垂下する。	IV群
42・43	覆土	深鉢口縁部 深鉢胴部	①砂粒②堅緻③42暗褐色、43にぶい褐色	環状突起と凹面を持つ弧状突起。太めの沈線が沿い、短沈線が施される。	V群
44~49	覆土	深鉢胴部 49深鉢底部	①細砂粒②やや軟質③44・45・47・48褐色、46・49褐色	隆線と太めの沈線。44・45、47・49は同一個体の可能性有り。49、垂下隆線が底部端部にまで及ぶ。	V群
50	126墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい褐色	小楕円状の貼付を付し、地文に横位・縦位RL縄文を施す。	I群
51	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	円形の小突起。半截竹管による押し引きが丁寧に施される。	IV群
52	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③暗褐色	横位隆線下位に縦位の太めの沈線が施される。	V群
53	127墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	小型の扇状把手。把手縁辺、蛇行隆線に深い刻みを施す。把手内は無文である。	III群
54	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	ヒダ状圧痕施文後横、位隆線を貼り付け刻みを付す。	III群
55	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	幅広の横位刻み目列が口縁部に施される。	III群
56	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	波状縁を呈し、器肉は薄い。口唇部は無文で刻みを付す横位細隆線が施される。隆線直下には結節沈線が1条沿い、口縁部文様帯は斜位の結節沈線が交互に施される。	III群

第IV章 遺構と遺物

255図 土壇出土土器拓影 (129~131・135・138・151・152・154・156・157・160・161・165~167・171号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	129壇 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	2条の垂下沈線と弧を描くベン先状刺突文。地文は縦位LR縄文。	V群
2	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	腹面使用の平行沈線が小区画を呈し、節の長い刺突文が斜位に充填される。	IV群
3	130壇 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	地文RL縄文に横位平行沈線が施される。	IV群
4・5	覆土	深鉢突起	①砂粒②普通③褐色	渦巻状突起。4は小型、5は大型で口唇部に沿ってキャタピラ文が施される。	IV群
6	131壇 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	横位刻み目列が施される。	III群
7	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	垂下隆線が付される。	III群
8	135壇 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	腹面使用の横位沈線、斜位沈線で三角区画を構成し、刺痕列が沿う。	IV群
9	覆土	浅鉢口縁部	①粗砂粒②軟質③褐色	波状口縁浅鉢。内外面とも丁寧に研磨するが、外面やや磨滅する。	VII群
10	138壇 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線に2本1組の結節沈線が沿い、下に歯齒状工具による波状沈線文が描かれる。	III群
11	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	頸部に平行して1条の小型半截竹管文が横走し、下位はやや太めの沈線以小モチーフが描かれる。	V群
12	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③褐色	細縄文RLを施す。	IV群
13・14	151壇 覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③褐色	LR・RL結節縄文を疎らに施す。	II群
15	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	腹面使用の平行沈線で小区画を呈し、内面を半截竹管刺突による鋸歯状痕列が沿う。細縄文RL。	IV群
16	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	板状の突起で孔を穿つ。爪形文を施した細隆線が弧状、円形に付され、腹面使用の平行沈線が沿う。また、半截竹管交互回転による波状文や三叉文が沈刻される。内稜は強く、丁寧に研磨を施す。	IV群
17	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	滑車状の小突起を付す。中位には孔が穿たれ、直下には2条の沈線、隆線が施される。	V群
18・19	覆土	深鉢口縁部 深鉢頸部	①雲母・砂粒②普通③褐色	口唇部は尖り、口縁部と頸部に横位隆線を付す。隆線には2条の角押文が沿う。口縁部文様帯、胴部文様帯とも縦位・横位RL縄文を施し、垂下沈線、横位波状沈線文を描く。	VI群
20	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③褐色	円環状の突起。器面は磨滅している。小型のキャタピラ文が縁辺を飾る。	V群
21	152壇 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	上端に孔が穿たれる。横位LR縄文が施される。	IV群
22	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	RL縄文を地文とし、角押文が垂下、弧状に相対する。	VI群
23	154壇 覆土	深鉢腰部	①砂粒②堅緻③褐色	底部直上。無文で平滑に研磨する。	
24	156壇 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	双環状の突起を付す。突起より刻みを持つ隆線が派生し平行沈線、刺痕列が沿う。突起内はベン先状刺突により渦巻文が描かれる。内面は縦位研磨。	IV群
25	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	横位隆線上位はベン先状刺突文、下位は太めの沈線が沿う。地文の縄文は斜位RL。	V群
26	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③褐色	横位平行沈線上位に刻み目列が密に施される。	III群
27	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	横位刻み目列が施される。	III群
28	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②普通③暗褐色	隆線が付され、太めの沈線が沿う。	V群
29	157壇 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	押圧を施す横位隆線に2種類の刻み目列が平行する。	III群
30	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	口縁部の突起。曲隆線が派生するのであろう。内面は沈刻文が刻まれ、丁寧に研磨される。	V群
31~33	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③30暗褐色、 31・32褐色	曲隆線を付し、太めの沈線が沿う。30、コイル状の小突起を隆線に付す。32、腰部直上。横位隆線に太めの沈線が沿う。33、太めの沈線は深く切り込み、隆線には小突起が付される。	V群
34	160壇 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	腹面使用の平行沈線が2条1単位で垂下する。空白部も同様の沈線が弧を描く。	IV群
35	161壇 覆土	深鉢突起	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	環状突起。やや斜位に付される。一方の縁辺は隆線と沈線で振りの効果を出す。	V群
36	165壇 覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③褐色	器面はやや磨滅。横位隆線に太めの平行沈線が沿う。隆線以下は無文。	V群
37	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位波状沈線文以下にLR・RL縄文が羽状に施される。	VI群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
38	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③暗褐色	3個の刻みを頂部に付す半円状の小突起。突起内は卵状に隆線が付され、内核を持つ。	V群
39・40	166墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③39黒褐色、40に ぶい橙色	太めの沈線を施す。39、LR縄文を地文とする。40、隆線に太めの沈線が沿い、三角文が沈刻される。	V群
41	167墳 覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③にぶい 褐色	交互の刻みを付す隆線が楕円枠を画し、区画内は角押文が沿う。	IV群
42	171墳 覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②軟質③橙色	口唇部端部に刻みを施し、平坦な突起を付す。	VII群
43	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②普通③橙色	口縁下に横位刻み目列が施される。	III群
44	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい 褐色	横位隆線上位に隆線による長楕円枠が配され、以下はY字状の垂下隆線に押圧が施され、胴部は横位刻み目列が施される。楕円枠内は結節沈線が横位施文される。	III群
45	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口唇部は僅かに突出し、平坦面を築く。内外面とも丁寧な研磨を施す。	VII群

256図 土壇出土土器拓影 (172・173・191・193・197・198・210・213・214号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	172墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	頸部隆線に刻みを施し、口唇部、隆線に1条の結節沈線が沿う。	III群
2	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	頸部隆線にX字状の隆線が付される。頸部文様帯は横位波状沈線文が施され、胴部上半は沈線が隆線に沿い下位で弧を描く。	III群
3	173墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②やや軟質③赤 褐色	楕円区画末端の小突起。沈線が弧を描き、捩りの効果を出す。	IV群
4	191墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	薄手の器肉を呈す。平縁で、口唇部に沿って平行沈線が横走り、口縁部文様帯は細沈線による斜位の格子目文が充填される。	II群
5・6	覆土	深鉢底部	①砂粒②やや軟質③褐色	ミニチュア土器。端部は突出し、張り出す。内面は丁寧に撫でられている。	
7・8	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③7黒褐色、 8橙色	太めの沈線を施す。7、弧を描く隆線に沿う。8、垂下沈線を基本とし、三叉文と接続し意匠文を沈刻する。	V群
9・10	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	同一個体。口縁部は緩やかに外傾し、胴部上半で僅かに膨らむ。結束第1種のLR・RLで結節縄文が横位施文される。	II群
11~13	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③橙色	結節縄文をS字とZ字状に結束する第1種。	II群
14	193墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	小型の横位刻み目列が比較的密に施される。	III群
15	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③橙色	横位隆線に角押文が沿う。	IV群
16	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	無文の口縁部。内外面とも丁寧に研磨する。	
17	覆土	深鉢底部	①粗砂粒②堅緻③褐色	底部小破片。底面も撫でられる。	IV群
18	197墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	口唇部に沿って1条の結節沈線が横走り、口縁部文様帯では弧を描く。	III群
19	覆土	深鉢把手	①砂粒②やや軟質③暗褐色	やや細身の橋状把手。隆線を半円状に付す。	
20	198墳 覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③暗褐色	口唇部端部に円形刺突文が連続する。口縁部文様帯は1条の結節沈線が描かれ、何等かの把手・突起が付される。	III群
21	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②軟質③褐色	頸部隆線には刻みが施され、口唇部、隆線に沿って2本1組の結節沈線が平行する。	III群
22	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③暗褐色	口唇部、頸部隆線に1条の結節沈線が横位施文され、口縁部文様帯内は、縦位、波状結節沈線文が埋められる。	III群
23	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③にぶい褐色	蛇行隆線に2・3条の結節沈線が沿う。	III群
24	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	波状に延びた突起。2段の突起であり、V字状の隆線で結ばれる。突起には2個の深い刻みが施される。突起内面には刻みより派生した沈線が施され、八字状のモチーフを描く。口縁部には2本の細沈線が恐らく区画に沿って施される。	III群
25	203墳 覆土	深鉢口縁部 突起	①粗砂粒②軟質③褐色	直立する円盤状の突起。突起頂部は太く渦を巻く。突起下は隆線が口唇部に沿って波状に垂下する。	V群
26~28	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③26褐色、 28褐色	太めの沈線が弧を描く。26・27は地文に縄文を施す。28は3条の沈線が円弧を描く。	V群
29・30	覆土	深鉢底部	①粗砂粒②軟質③にぶい褐色	同一個体。太めの沈線が幾条も垂下する。	V群
31~33	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	内外面の研磨は丁寧。31、平縁。32、波状縁。33、口縁部欠損。	VII群
34	207墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	腹面使用の平行沈線で小区画がされ、小型のキャタピラ文が沿う。中位には三叉文が沈刻される。	IV群
35・36	210墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	同一個体。隆線による三角区画と楕円区画。ペン先状刺突文が横位施文され、区画内、隆線には疎らなキャタピラ文が沿う。	IV群
37	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	やや太めの沈線が縦位に幾条も施される。	V群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
38	213墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③にぶい褐色	地文の縄文は横位R L。太めの沈線で長楕円状の小モチーフを描く。	V群
39	覆土	有孔頸付頸部	①細砂粒②普通③橙色	頸部隆線に下方から孔が付される。双環状の小突起が付され、細隆線には刻みが施される。	IV群
40	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③赤褐色	赤色塗彩される。大型の突起が付され、孔も設けられる。	VII群
41	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③暗褐色	無文の口縁部。外面は雑な整形だが、内面は丁寧に研磨する。	VII群
42	覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	口縁部は外傾し、体部は緩やかに膨らむ。内稜も著しい。	VII群
43	覆土	深鉢底部	①細砂粒②堅緻③橙色	器内は薄く、底面には網代痕が残る。	VII群
44	214墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②堅緻③暗褐色	波状縁を呈し、器内は薄い。口縁部文様帯は口唇部に沿って1条、以下、節の長い2本1組の結節沈線が施される。	III群
45	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③淡黄褐色	刻みを施す隆線が円を描き、爪形文が内部を沿う。	IV群
46	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③褐色	垂下隆線に平行沈線、小型半截竹管文、ペン先状刺突文が沿い区画をなす。区画内はペン先状刺突文による波状文が横位に施される。	IV群
47	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	波状口縁を呈す。内外面とも丁寧に研磨される。	VII群

257図 土壌出土土器拓影 (220・224~227・231~234・245・250・251・254・255・258・270・284・285・290・292~294号土壌)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1・2	220墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	同一個体。口唇部端部に平坦面を持ち、頸部隆線で口縁部文様帯を画す。口縁部文様帯内は隆線をV字状に貼り付け、区画を構成する。隆線には刻みを、区画内には2本1組の結節沈線が施される。	III群
3	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②堅緻③灰褐色	隆線による楕円、円状の区画が配され、区画と口唇部の間は横位蛇行隆線が付される。隆線には沈線が沿う。	III群
4・5	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③橙色	太めの沈線を施す。4、垂下隆線に沿って施される。5、地文に縄文が施され、縦位の∩字状モチーフが描かれる。	V群
6	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	剝落しているが、突起が付される。おそらく小型の扇状把手か。	III群
7	覆土	浅鉢頸部	①砂粒②堅緻③褐色	内面は丁寧に研磨。外面はやや雑。	VII群
8	覆土	深鉢底部	①雲母・砂粒②普通③橙色	底面は丁寧に撫でられ平滑である。	VII群
9	224墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②堅緻③暗褐色	頸部隆線で口縁部文様帯を画し、口唇部より斜位に垂下した隆線で区画をする。区画内は2本1組の結節沈線が沿う。	III群
10	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②普通③黒褐色	薄い器内を呈す。口唇部、隆線に刻みを付し、口縁部文様帯内は斜位の沈線が充填される。	III群
11	227墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	波状垂下する隆線に平行沈線が沿う。	III群
12	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	口唇部は突出し、腹面使用の平行沈線が沿い、楕円枠を描く。枠内は2条のペン先状刺突文が横位施文される。	IV群
13	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位平行沈線とペン先状刺突文。ペン先状刺突文は鋸歯文を描く。	IV群
14	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②軟質③褐色	横位と縦位の腹面使用の平行沈線が施される。	IV群
15	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③にぶい橙色	隆線による区画。区画内は沈線が沿い、太めの沈線によって文様が描かれる。	V群
16	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③暗褐色	L R縄文が斜位に施される。	IV群
17・18	231墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	口唇部に平行沈線が沿い、以下は三叉文や平行沈線による波状文が施される。波状文に囲まれた空白部は小突起となる。	IV群
19	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②軟質③褐色	隆線に沿って、太めの沈線が弧を描き、また横位にも描かれる。地文は横位L R縄文。	V群
20・21	232墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③褐色	縄文を施す。20、小型の深鉢で、縄文施文後撫でる。21、強く外傾する口縁部。横位R L縄文。	IV群
22	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい褐色	垂下隆線に太めの沈線が幾条も沿う。	V群
23	233墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	半円状の突起。縁辺に刻みを施し、中心を隆線が蛇行垂下する	IV群
24	234墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③黒褐色	向いあう隆線の内側を沈線が1条沿う。	III群
25	245墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	横位波状沈線文と1条の結節沈線が施される。	III群
26	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③橙色	横位隆線下に隆線が円を描く。他は無文。	III群
27	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	横位、蛇行隆線に腹面使用の平行沈線、小型キャタピラ文、ペン先状刺突文が沿う。	IV群
28	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐灰色	内面研磨。口唇部に沿って、爪形状の刻みが施され、太めの沈線で∩・C字状のモチーフを描く。	IV群
29	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	横位隆線下に縦位L R縄文が施される。	IV群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
30	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③淡褐色	口唇部と頸部隆線に剥落痕が有り、おそらく橋状把手が付されたのであろう。口縁部文様帯は腹面使用の平行沈線が横走り、頸部以下は縦位と横位の施文。	VI群
31	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	波状口縁を呈し、内稜を2段持つ。内外面とも丁寧に研磨する。	VII群
32	250墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	隆線で縁取られた小突起。円形の貼り付けが付される。	V群
33	251墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	菱形の小モチーフが沈刻され、2条の結節沈線も施される。	III群
34	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③褐色	隆線下キャタピラ文と結節沈線が横位施文される。	IV群
35	254墳 覆土	浅鉢口縁部	①粗砂粒②普通③黒褐色	口縁部に断面三角の隆線が横位に付され、沈線が下位を沿う。胴部の縄文は横位RL。	V群
36~38	255墳 覆土	36深鉢口縁 深鉢胴部	①粗砂粒②軟質③にぶい橙色	同一個体。薄手の器肉を呈す。口縁部に斜位、胴部下半に縦位に2本1組の結節沈線が施される。	III群
39	258墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	つまみ状突起。2段に作られる。下端より隆線が分岐し斜位に垂下する。	III群
40	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	無文の胴部破片。	
41	270墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	縦位キャタピラ文と沈線。横位刻み目列が施される。	III群
42	284墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部端部に深い沈線を横走させ、口唇下はキャタピラ文、ペン先状刺突文が平行する。	IV群
43	覆土	深鉢底部	①粗砂粒②軟質③にぶい褐色	腹面使用の斜位平行沈線にやや大きめのペン先状刺突文が沿う	IV群
44	285墳 覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③橙色	口縁部は無文。以下平行沈線が横位に数条施される。器面は荒れている。	IV群
45	290墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③にぶい橙色	口唇下に平行沈線が沿い、以下ペン先状刺突文による鋸歯状文が施される。	IV群
46	292墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③暗褐色	隆線が円弧を描き、太めの沈線が沿う。中位には円形の刺突文が付される。	V群
47	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	器肉は薄い。3段のつまみ状突起。突起によって画された区画には1条の結節沈線が沿う。	III群
48	覆土	浅鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	浅鉢頸部以下。疑口縁を呈す。隆線が付される兆しがある。	VII群
49	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③淡黄褐色	斜位LR縄文を施す。	
50	293墳 覆土	浅鉢頸部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	刻みを付す頸部隆線で口縁部文様帯を画す。口縁部文様帯内は太めの沈線で、渦巻文などを意匠する。	V群
51	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい橙色	地文横位RL縄文に太めの沈線が波状文を描く。	V群
52	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	やや厚手の器肉を呈す。横位隆線上位に太めの沈線が沿う。	V群
53	294墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②軟質③橙色	内彎する口縁部に突起が付されるのであろう。三叉文が沈刻され、キャタピラ文、ペン先状刺突文が密接に施文される。	IV群
54	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③褐色	波状突起を設け、橋状把手に接続する。把手には太めの沈線が1条垂下する。口縁部文様帯は沈線が沿い、爪形状の刺突痕が施される。	IV群
55	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②軟質③暗褐色	半円状の突起。中位に孔を穿つ。突起頂部、孔の縁辺には刻みが施される。突起下端には半截竹管の回転による半円状の刺突が連続する。	IV群
56	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③橙色	垂下隆線に太めの沈線が沿う。空白部も太めの沈線が乱雑に垂下し、先端の丸いペン先状刺突文も施される。	V群

258図 土壇出土土器拓影 (299・302・310・313・314・316・318・324・330・332~335号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	299墳 覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	波状垂下する断面三角の隆線が付せられる。	III群
2	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	平行沈線で横位波状文と垂下沈線が施される。	III群
3	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	横位刻み目列が施される。	III群
4	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	双環状の小突起を付す。頂部は波状になり、下端より隆線が落ち、頸部隆線に接す。	IV群
5	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	双環状突起を付す。突起下端より隆線が派生し、腹面使用の平行沈線とキャタピラ文が沿う。突起、隆線には刻みが施される。	IV群
6	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③褐色	口縁下に横位隆線が付され、ペン先状刺突文が沿う。直下にやや太めの沈線が施される。	V群
7	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	横位隆線によって横帯文区画される。楕円枠が配される文様帯と横位ペン先状刺突文が施される文様帯の構成であろう。	IV群
8	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	横位腹面使用の平行沈線と同一工具による押し引文。内面は丁寧に研磨する。	IV群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
9	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③褐色	太めの沈線が横位、縦位に施される。	V群
10	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③橙色	垂下隆線が平行し外側を2条の沈線が沿う。空白部にも雑な沈線が施される。	V群
11・12	覆土	深鉢胴部	①11雲母・砂粒、12細砂粒②堅緻③11黒褐色 12橙色	隆線に沿う太めの沈線。11、横位隆線と弧を描く隆線が接し、丁寧に太めの沈線が沿う。12、隆線が相対するように付けられ、沈線がやや雑に沿う。内面は研磨。	V群
13	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	横位RL縄文を地文とし、垂下沈線が施される。	V群
14	覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	恐らく波状口縁を呈す。内面は磨滅しているが外面の研磨は丁寧。	VII群
15	302墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③橙色	口唇部は剥落するが肥厚する。斜位の沈線が施される。	V群
16	310墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	やや外反する口縁部。縦位LR縄文が口唇部端部にまで及ぶ。内面は丁寧な研磨。	I群
17	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	波状口縁を呈す。腹面使用の平行沈線が縦位に施される。	IV群
18	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	隆線に沿って腹面使用の平行沈線が施される。連続三叉文が沈刻される。	IV群
19	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	環状突起と弧状突起が付される。突起より隆線が派生し、太めの沈線が沿う。円形の刺突文も刻まれる。	V群
20	313墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②やや軟質③褐色	ザラついた器面に垂下隆線が付される。横位刻み目列が施される。	III群
21	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②普通③赤褐色	腹面使用の平行沈線が垂下し、小区画をなす。区画には刺痕列が沿い、三叉文が沈刻される。	IV群
22	314墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③橙色	浅い沈線、爪形状文が弧を描く。地文は、横位RL縄文を施す。	IV群
23	316墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	押圧を持つ横位隆線に角押文が沿う。角押文は斜位にも施され、内側を細結節沈線が沿う。	III群
24	318墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③橙色	渦巻状の双環状突起が付され、下端には円形の小突起が付される。横位隆線、突起にはキャタピラ文と腹面使用の平行沈線が沿い、平行沈線によって小区画された内部は刺痕列や三叉文が施される。	IV群
25	324墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	2本1組の結節沈線が横位に施される。爪形状の刻みが1個看取されるが、疎らな刻み目列が施文されるのであろう。	III群
26	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線が付され、下位の文様帯には腹面使用の平行沈線で波状文が描かれる。	III群
27	330墳	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③黒褐色	尖鋭な突起を付す。頂部より隆線が垂下し、細沈線が施される	III群
28	332墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	頂部に刻みを付す山形状の突起。頂部下につまみ状の小突起が付され、刻みを付す隆線が垂下する。	III群
29	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②普通③淡黄褐色	横位隆線に2本1組の結節沈線が沿う。結節沈線施文後隆線に押圧を施す。	III群
30	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②普通③褐色	環状突起を付し、口唇にキャタピラ文が沿う。口縁部文様帯は斜位のベン先状刺突文が充填される。	IV群
31	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	形状は不明だが突起が付される。口唇下に隆線が横位に貼り付けられ、また弧状の隆帯も看取される。隆線、隆帯には太めの沈線とベン先状刺突文が沿う。	V群
32・33	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③32褐色、33暗褐色	平行沈線と刺痕列。中位には三叉文が刻まれる。32、腹面使用の平行沈線に刺痕列が沿う。33、平行沈線に小型の刺痕列が沿う。	IV群
34	覆土	深鉢底部	①砂粒②やや軟質③橙色	横位隆線に斜位の隆線が付せられる。隆線下は無文。	
35	覆土	深鉢底部	①砂粒②堅緻③褐色	腹面使用の平行沈線が垂下し、沈線間にはベン先状刺突が施される。	IV群
36	覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	内面は丁寧だが、外面はやや雑。	VII群
37	333墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	波状縁を呈し、口唇部は刻みを付す。斜位の2本1組の結節沈線が施されるのであろう。	III群
38	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②堅緻③淡褐色	柱状突起だがおそらく扇状把手の下部であろう。縁辺に2本1組の結節沈線が沿い、中位にも施される。	III群
39	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	口唇部に沿って3条1組の細沈線が施される。	III群
40	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③にぶい褐色	波状小突起を付す。頂部より押圧を施す隆線が垂下し、口唇部に沿って幅広い刻み目列が施される。	III群
41	覆土	深鉢口縁部	①雲母・粗砂粒②普通③褐色	扇状把手。縁辺に刻みが付され、2本1組の結節沈線が沿う。	III群
42・43	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	幅狭の文様帯に隆線による楕円文、蛇行文が付される。42、2条の隆線で画される。隆線には横位波状沈線が沿い、斜位の結節沈線も施される。43、隆線外側に1条の結節沈線が沿う。	III群
44	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線に刻みを付し、上位には横位刻み目列が施される。	III群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
45	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	隆線がX字状に付され、おそらく楕円枠配列。隆線に沿って先端M字状のキャタピラ文とペン先状刺突文が施される。	IV群
46	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位隆線の両側に平行沈線が沿う。	IV群
47	覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	波状縁を呈し、内面は丁寧に研磨、外面は無でのみ。	VII群
48	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	大型の波状口縁を呈し、器肉は薄い。波頂部より隆線が垂下し外面は雑に撫でられる。	VII群
49	334墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	篋状工具による横位刻み目列が施される。	III群
50	335墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	平行沈線が垂下し、縦位の波状沈線文が施される。	III群

259図 土壇出土土器拓影 (338・341～343・347～349・355～357・361号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	338墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	器肉は薄い。斜位LR縄文を地文とし、円形の貼付文を付す。	I群
2	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③暗褐色	口唇部端部は尖る。口唇部に沿って横位平行沈線が施される。	IV群
3	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	口縁部に隆線を逆V字状に付し、口唇部、隆線に小型のキャタピラ文が沿う。	IV群
4	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	無文の口縁部破片。外面は雑な調整。	
5	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③極暗褐色	器肉は薄く、小型の鉢か。口唇下撫でによって僅かに括れる。	
6	341墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	口唇部端部に刻みを連続し、口縁部にY字状隆線を付す。隆線には押圧が施され、口唇部に刻み目が沿う。	III群
7	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	口唇部端部は欠損。口縁部文様帯は隆線がV字状に付され、楕円状の区画がなされる。区画内はキャタピラ文が沿う。	III群
8	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	横位波状沈線文が施される。	III群
9	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	垂下降線に大型のペン先状刺突文が沿い、横位波状沈線文が雑に施される。	III群
10	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	垂下降線と横位刻み目列が施文される。	III群
11	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	口唇部上に突起が付される。口縁部文様帯内は隆線がX字状に貼り付けられ、楕円枠を画する。枠内は腹面使用の平行沈線と爪形状の刻み目が沿う。	III群
12～14	覆土	深鉢口縁部 14深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③12・14 暗褐色、13橙色	口唇部や隆線に沿ってやや大きめのペン先状刺突文が施される。12・14、は同一個体で横位波状文が施される。13、口唇部より分岐垂下する隆線に先端M字状の刺突文が沿う。	III群
15	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位隆線より垂下降線が派生し、区画内を疎らなキャタピラ文が沿う。区画内は腹面使用の平行沈線が施される。	III群
16	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	口唇部は突出し、斜位に分岐する隆線に沿って結節沈線、沈線が施される。	III群
17・18	覆土	浅鉢頸部	①砂粒②17軟質、18堅緻③17 橙色、18黒褐色	口縁部下位の文様帯でための沈線を主とする。17、口縁部より垂下した隆線が頸部隆線と接し、半円状の区画を呈す。区画に沿ってための沈線が施され、中位に円形の刺突文が付される。18、縦位のための沈線を主とし、円形の刺突文などが刻まれる。地文にRL縄文が施される。	V群
19	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい褐色	ための沈線が垂下し、弧を描く。円形の刺突文も付される。	V群
20	覆土	突起	①細砂粒②堅緻③褐灰色	内外面とも渦巻状の突起を中心として、蝸牛状の形態を取る。口唇部下には、平行沈線が施される。	
21	342墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	腹面使用の平行沈線を縦位に充填する。	IV群
22	343墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	341墳9と同一個体であろう。垂下降線が付され、雑な波状沈線文が横位施文される。隆線の右側はペン先状刺突文が沿う。	III群
23	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	突起が付されるのであろう。口唇下に平行沈線が横走し、爪形状の刻み目列と半円形の刺突で連文を連続する。	IV群
24	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線にための沈線とペン先状刺突文が沿う。隆線下位は弧状隆帯にための沈線が沿い、短沈線が縦位に施される。	V群
25	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	LR細縄文にための沈線が横位に施される。	IV群
26	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③赤褐色	赤色塗彩される。横位隆線が弧を描き一部が突出し突起となる。	IV群
27	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	突出する環状突起。突起両脇には孔が穿たれる。縁辺に爪形状の刻みが施され、左側は弧状沈線、右は円形の刺突が付される。	V群
28	347墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③にぶい橙色	緩い波状縁を呈す。口縁部には横位隆線が付せられ、やや雑な平行沈線が沿う。	IV群
29	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい橙色	28と同一個体か。横位隆線と垂下降線の接点が小突起状となる。横位隆線下位は縦位の平行沈線が雑に施される。	IV群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
30	348墳 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③にぶい橙色	隆線が弧状に付せられ、全体に丁寧な撫でが施される。おそらく楕円状の区画か。	IV群
31	349墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	小波状突起を付す。縁辺に刻みを付し、口縁部の隆線にはキャタピラ文が沿う。	IV群
32	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	縦位LR縄文を地文としための沈線が縦位・斜位に施される。	V群
33	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	器内はやや厚い。弧状の垂下沈線が描かれる他は無文。	V群
34	335墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	口唇部に幅広の隆帯を垂直に付し、環状突起に繋る。隆帯には刻みが施される。	V群
35	覆土	深鉢頸部	①砂粒②軟質③にぶい橙色	双環状の小突起。頸部隆線は波状を描き、突起に接す。突起、隆線で画された口縁部文様帯区画はための沈線が沿い、地文に細縄文が施される。	V群
36	覆土	浅鉢頸部	①細砂粒②堅緻③褐色	外面は縦方向の撫で、内面は横研磨。	VII群
37	356墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③暗褐色	隆線による三角区画交互配列を設ける口縁部文様帯。頸部隆線との接点は瘤状の小突起となる。隆線にはキャタピラ文、ペン先状刺突文が沿い、中位には三叉文が沈刻される。	IV群
38	357墳 覆土	深鉢把手	①砂粒②堅緻③褐色	やや薄めの橋状把手破片。粘土紐が貼り付けられ、波状文を描き、円形文となる。作りはやや雑。	III群
39	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	垂下波状隆線の端部。小突起状となる。	III群
40	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	2条の隆線に挟まれた文様帯に横位刻み目列が施される。下端の隆線には沿うように施される。	III群
41	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③にぶい橙色	垂下隆線に2条の腹面使用の平行沈線が沿い、平行沈線で小区画される。区画内は斜位の結節沈線が充填される。	III群
42	361墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	腹面使用の平行沈線が横位施文され、下位を小型の刺突文でU字状のモチーフを描く。	IV群
43	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線と円弧状の隆線で楕円枠を画する。下位のは幅狭で頸部文様帯であろう。隆線には節の長い2本1組の結節沈線が沿う。	III群
44	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	口縁部の垂下隆線と頸部隆線が接する箇所。隆線には2本1組の結節沈線が沿う。	III群
45	覆土	深鉢胴部	①雲母・粗砂粒②普通③にぶい褐色	胴部に付せられる大型渦巻状突起の一部。2本1組の結節沈線が縁辺を沿う。	III群
46・47	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③46褐色、47暗褐色	縦位の刻み目列と波状沈線文。46は隆線に刻み目列が沿い、47は横位波状沈線文も施される。	III群
48	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③暗褐色	断面三角の隆線で菱形区画を作り、区画内を平行沈線が幾条も沿う。	III群

260図 土壇出土土器拓影 (365・373・374・378・400・402・403・406~408・414・419・425・426・428~430・432号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	365墳 覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	横位と斜位の結節沈線で口縁部文様帯区画を画する。区画内は1条の結節沈線が沿う。	III群
2	373墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	RL縄文を斜位に施す。内面研磨。	IV群
3	374墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	波状縁を呈す。隆線がV字状に付され、楕円枠を画する。頸部隆線との接点は小突起となる。区画内は2本1組の結節沈線が沿う。	III群
4	378墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい褐色	刻みを付す隆線が弧を描き、腹面使用の平行沈線とキャタピラ文が沿い小区画をなす。区画内は平行沈線と爪形状の刻み目が縦位に施される。	IV群
5	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	双環状突起。中位を細沈線が垂下する。	V群
6	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③淡褐色	腹面使用の横位と斜位の平行沈線が施される。	
7	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③赤褐色	下端を渦巻状の処理をする垂下隆帯に細沈線と爪形状の刻み目が沿う。	IV群
8	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	小波状突起を付し、突起内面は環状突起を表わす。地文は細縄文が施され、弧状突起にための沈線が沿い、沈線間は刺突文が埋められる。連続短沈線が横位に施される。	V群
9	400墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口唇部端部に刻み目列。逆位施文である。口縁部に隆線が付され、2本1組の結節沈線が沿う。区画内は縦位の結節沈線が施される。	III群
10	402墳 覆土	浅鉢頸部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	口縁部の隆線には刻み目が、頸部隆線には半円状の刺突文が沿う。頸部隆線以下は無文。内面研磨。	IV群
11	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	波状口縁波底部の柱状突起であるが著しく突出し、巻くような形態を呈する。頸部隆線には交互刺突が付され、口縁部文様帯内は2本1組の結節沈線が沿う。	III群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
12	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②軟質③橙色	大型の山形状の波状口縁。波頂部は渦巻状の小突起が2対配され、突起間を隆線で繋ぐ。	VII群
13	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	隆帯が付され、2条1組の太めの沈線が垂下する。	V群
14	403墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	平縁を呈す。隆線によって、おそらく三角区画の交互配列を構成する。区画内は幅広の半截竹管状工具腹面使用の結節沈線が沿う。	III群
15	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③褐色	細隆線による横位菱形区画。区画内を太めの沈線が沿い、中位を2条の大きめの結節沈線が横位施文される。	V群
16	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	横位RL縄文を地文とし、太めの沈線が施される。	V群
17	覆土	浅鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③褐色	双波状口縁を呈する。口唇部は僅かに突出する。内面丁寧な研磨。	VII群
18	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③淡橙色	三叉文と円形文が沈刻され、太めの沈線が囲む。	V群
19	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位隆線が付される。内面研磨。	IV群
20・21	406墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②20軟質 21堅緻③20褐色 21黒褐色	太めの沈線が突起、隆線に沿う。20、円環状突起が付され、弧状隆帯が派生する。21、垂下隆線に2条の太めの沈線が沿う。	V群
22	407墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	波状縁を呈し、口唇部端部に刻み目列を施す。口縁部、頸部の屈曲部に幅広の刻み目列が横位施文される。	III群
23	408墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	扇状把手。縁辺に刻みが付され、内側を相対するように1条の角押文が施される。	III群
24	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③にぶい褐色	扇状把手の右端。隆線には刻みが付され、口縁部文様帯は横位の角押文が2条施される。	III群
25	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③黒褐色	腹面使用の平行沈線が垂下し、小区画をなすのであろう。区画内は三叉文と刺突文が埋められる。	IV群
26	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	腹面使用の平行沈線で小区画され、区画内は斜位の平行沈線が充填される。	III群
27~29	414墳 覆土	深鉢頸部	①砂粒②やや軟質③褐色	同一個体。縦位沈線で大区画し、更に横位ペン先状刺突文で区画文を構成する。区画内はペン先状刺突文が何等かのモチーフを描く。	IV群
30	419墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	横位隆線と斜位隆線が接する。隆線には太めの沈線が沿い、空白部は短沈線が斜位に充填され、これが地文となり、腹面使用平行沈線が施される。	V群
31	425墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	細沈線による鋸歯状波状文がおそらく多段横位に施文される。	III群
32	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	無節1縄文が施され、下端は撫で消される。内面研磨。	IV群
33	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線が分岐し、太めの沈線が沿う。	V群
34	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③赤褐色	横帯文区画される胴部文様帯である。隆線で分帯され、無文部を持つ。文様は半肉浮彫的手法による蛇行文、三叉文などが施される。	IV群
35	覆土	浅鉢頸部	①砂粒②堅緻③褐色	頸部直上に隆線による蛇行文が横位に貼り付けられる。内外面とも横研磨。	VII群
36	426墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇下に平行沈線を巡らし、縦位平行沈線とともに小区画を構成する。区画内は細沈線による格子目文が埋められる。	II群
37	428墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	2条の沈線が平行し弧を描く。連続三角文が沈刻され、破片端部には結節縄文の結束部が看取される。	II群
38	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③暗褐色	波状縁を呈し、口唇部端部に刻みを施す。	IV群
39	覆土	深鉢底部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	器内は薄い。外面は丁寧に撫でられ平滑である。	
40	429墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③褐色	腹面使用の細隆線が集合する。隆線は連続刺突文が密接に施される	II群
41	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	横位隆線に太めの沈線が沿い、地文は細縄文が施される。	V群
42	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③淡褐色	刻みを施す隆線が弧状に付され、平行沈線とペン先状刺突文が沿う。	IV群
43	430墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	垂下隆線が2条付され、1条は直線、一方は弧を描く。横位刻み目列が施される。	III群
44	覆土	浅鉢体部	①粗砂粒②堅緻③褐色	横位隆線が付される。内外面とも丁寧な研磨を施す。	VII群
45	432墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線に腹面使用の平行沈線が2条沿い、上位に小型のキャタピラ文が施される。	IV群
46	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	赤色塗彩。内外面とも丁寧な研磨を施す。	
47	覆土	深鉢底部	①砂粒②脆弱③暗褐色	大きく開く底部形態を呈す。器面は荒れている。	

第IV章 遺構と遺物

261図 土壌出土土器拓影 (433・436・454・455・459・461・463~465・467・468・470・475号土壌)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	433墳 覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②軟質③淡橙色	口縁部内傾し頸部の屈曲部と口唇部端部に刻みを施す。口縁部文様帯は楕円状区画され、2本1組の結節沈線が施される。	III群
2~4	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色~にぶい褐色	太めの沈線を主な描出技法とする。2、U字状モチーフ等を描く。3、横位隆線に沿い、縦位にも施される。4、垂下沈線を主体とし、∏字状のモチーフを描く。	V群
5	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	横位隆線が分岐し、下位に太めの沈線と先端の丸いペン先状刺突文が施される。	V群
6・7	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	同一個体。腹面使用平行沈線が横位施文され、同平行沈線が3条垂下する。地文は横位LR縄文が施される。	IV群
8	覆土	深鉢頸部	①砂粒②やや軟質③褐色	波状線を呈するのであろうか。頸部隆線上位に細隆線で半円状のモチーフを斜位に連続する。	III群
9	436墳 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③褐色	腹面使用の平行沈線で縦位波状文を描く。	III群
10	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	横位平行沈線以下縦位平行沈線が充填される。	IV群
11	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい橙色	垂下隆線に腹面使用平行沈線が沿い、また太めの沈線も平行して垂下する。	V群
12	454墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③橙色~黒褐色	小型の半截竹管状工具による密接な押し引きで、横位、円弧の文様を描く。破片下端には沈刻文が看取される。	II群
13	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	隆線による楕円状区画。区画内は2本1組の結節沈線が沿う。	III群
14	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	平行沈線に挟まれた狭い文様帯に横位波状沈線文が施される。下位の文様帯は沈線で別種の文様を描かれる。	IV群
15	覆土	深鉢頸部	①粗砂粒②軟質③褐色	隆線で口縁部文様帯、胴部文様帯と画する。ペン先状刺突文が沿い、胴部隆線上位には腹面使用の沈線が縦位に施される。	IV群
16	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	15と同一個体か。口唇部上に延びた隆線が非対象な突起に発達する。隆線は頸部隆線に接し、振りを加えた小突起となる。口縁部文様帯内は、隆線が弧を描き、ペン先状刺突文が沿い、腹面使用の平行沈線が縦位に充填される。	IV群
17	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部は外傾し、口縁部文様帯に双環状突起を付す。突起上端より隆線が派生し、両脇を角押文が沿う。空白部は三叉文と円形刺突文が沈刻される。	V群
18	覆土	深鉢底部	①砂粒②やや軟質③淡黄褐色	3条の垂下沈線が端部まで達する。端部は丸みを帯びる。	IV群
19	455墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③褐色	押圧を刻む横位隆線に腹面使用の平行沈線が3条沿う。平行沈線下位に狭い文様帯を設け、連続三角文が沈刻される。	IV群
20	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	横位沈線下位に細沈線が矢羽状に施される。	IV群
21	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	口唇部僅かに内彎し、浅い沈線が横走する。以下縦位の細沈線が疎らに施される。	IV群
22	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	器肉は厚い。横位隆線に垂下隆線が接す。	
23	459墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部は外傾し、口縁部文様帯に隆線が斜位に付せられる。隆線には交互刺突を施した沈線が沿う。	V群
24	覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③褐色	凹線に沿って三角形の沈刻文が交互に施される。	V群
25	461墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③暗褐色	円環状の突起。中位の孔は貫孔し、内外面とも爪形状の刻みを施す。三叉文が沈刻され、突起下端より太めの沈線が数条垂下する。	V群
26	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②脆弱③褐色	横位細隆線を両脇を角押文が沿う。	III群
27	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	縁辺に刻みを施し、半肉浮彫的手法により円形文を2個1対施す。円形文の中位には1.3cm程度の双孔を穿つ。内外面丁寧な研磨。	IV群
28	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線が接し、2条のペン先刺突文が沿う。地文の縄文は縦位LR。	V群
29・30	覆土	深鉢頸部	①砂粒②脆弱③暗褐色	1条の頸部隆線以下に、キャタピラ文、ペン先状刺突文が剥落しているが弧を描く隆線に沿って施される。	V群
31	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②脆弱③極暗褐色	大型の双環状突起。中空状になる。縁辺を刻み、周縁を短沈線で飾り丁寧に仕上げている。内面も隆線が同心円状に付され、刻み目や波状沈線文が施される。	V群
32	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②普通③褐色	無文の口縁部破片。径は小型で雑な作り。	
33	463墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	口唇部は僅かに外傾し、端部は角張る。口縁部、胴部に横位刻み目列が逆位に施文される。	III群
34	464墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位・斜位に沈線が描かれ、1条の波状沈線文が描かれる。	V群
35	465墳 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③褐色	横位隆線の両脇に大型のペン先状刺突文が沿う。地文の縄文は横位RL。	IV群
36	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	口縁部に細隆線を横位に付し、以下無節縄文1を施す。	

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
37	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	横位隆線の両脇に太めの沈線が沿い、短沈線などが描かれる。	V群
38	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	垂下沈線と斜位の矢羽状沈線文。地文は縦位RL縄文。	V群
39	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	幾条もの太めの沈線でΠ字状のモチーフを描く。	V群
40	覆土	浅鉢頸部	①雲母・粗砂粒②堅緻③橙色	孔を穿つ。内面丁寧な研磨。外面は撫でのみ。	VII群
41	467墳 覆土	深鉢胴部	①繊維・砂粒②普通③褐色	0段多条の横位RL縄文を施す。	I群
42	468墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	平行沈線が垂下し、空白部にはペン先状刺突文による意匠文が描かれる。232墳に同一個体。	IV群
43	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	小型の円形突起。周縁を滑車状にし、上端部は欠損している。内外面とも突起中に円形刺突文を配し、同心円状に沈線で囲む。突起より2条の細隆線が垂下する。器内は薄い。	
44	470墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③黒褐色	貫孔していないが、461墳25と同様な突起。	V群
45	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	太めの沈線が縦位、弧状に描かれる。円形刺突文も施す。	V群
46	覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③赤褐色	赤色塗彩が一部に残る。波状縁を呈し、内外面とも丁寧に研磨。	VII群
47	475墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③橙色	垂下隆線が付される。内面煤付着。	III群

262図 土壇出土土器拓影 (476・479・481~484・494・498・510・512・515・523・528・530・531・541・544・558・577・581・583号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	476墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	扇状把手。縁辺に刻みを付し、隆線、口唇部に沿って1条の結節沈線が沿う。	III群
2	479墳 覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②普通③暗褐色	口縁部外傾し、内稜を持つ。内外面とも雑な撫でを施す。	VII群
3	481墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	横位隆線と弧状隆線が付され、沈線とペン先状刺突文が沿う。空白部には4条の横位沈線が看取される。	IV群
4	482墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	腹面使用の垂下沈線と、三叉文で区画文を画する。区画内は刺突文が充填される。	IV群
5	覆土	深鉢胴部	①雲母・細砂粒②堅緻③橙色	小型の双環状突起。隆線が渦を巻く。	V群
6	483墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②軟質③橙色	横位隆線に腹面使用の平行沈線が沿う。	IV群
7	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③にぶい褐色	口唇部は肥厚し、口縁部は無文である。	IV群
8	484墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線に1条の角押文が沿う。隆線上位にはヒダ状圧痕が施される。	III群
9	覆土	浅鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③褐色	口縁部文様帯を隆線で区画し、円環状の突起が付される。区画に爪形状の刻みが沿い、横位にペン先状刺突文が施される。	IV群
10	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	ほぼ直立する口縁部形態を呈す。内外面とも撫でを施す。	
11	494墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②やや軟質③褐色	弧を描く隆線の両脇をキャピラ文、ペン先状刺突文が沿い、上位には半円状の刺突文が連続する。	IV群
12	498墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	細隆線が弧状に付され、横位刻み目列が施される。	III群
13	510墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	横位隆線下位に2本1組の結節沈線が施され、波状に垂下する。ヒダ状圧痕も刻まれる。	III群
14	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	腹面使用の平行沈線が対角的に斜位に施され、刺痕列が沿う。	IV群
15	512墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③橙色	波状口縁を呈し、波頂部には突起を付すのであろう。口縁部は内彎する。波頂部直下には、弧状突起と環状突起が付けられる。突起の下端より隆線が派生し、また太めの沈線もそれに沿う。斜位の太めの沈線も看取される。	V群
16	515墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③橙色	平行沈線に小型の爪形状刺痕列が沿う。	IV群
17	523墳 覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	欠損しているが橋状把手を付す。口縁部文様帯は2条の平行沈線で囲まれる。	III群
18・19	528墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③橙色	18、斜位RL縄文。19、斜位LR縄文を施す。	IV群
20	530墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	器内は薄い。垂下隆線に平行沈線と爪形状の刻みが沿い、空白部は平行沈線と刺痕列で小区画される。	IV群
21	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	波状口縁波頂部。あるいは突起か。頂部より2条の刻みを施す隆線が垂下し、口唇部、隆線に太めの沈線が沿う。内外面とも丁寧な研磨を施す。	V群
22~24	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②脆弱③極暗褐色	同一個体。口縁部文様帯を頸部隆線で画する。双環状突起を付し、太めの沈線が沿う。地文の縄文は横位RL。	V群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
25	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	波状口縁波底部。Y字状に隆線が垂下し、頸部隆線とともに刻みを付し口縁部文様帯を区画する。区画内は細沈線が幾条も沿う。	III群
26	531墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③黒褐色	口唇部下に3種の刺突文が平行する。小型の刻み目状のもの、ペン先状刺突文、結節沈線波状文。	IV群
27	541墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③淡褐色	L R・R L結節縄文。結束第1種。	II群
28	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	口唇部は肥厚し、結節沈線が沿う。結節沈線は楕円状の動きを呈する。	III群
29	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	腹面使用の平行沈線で円環状のモチーフ等意匠文を描き、刺痕列が飾る。	IV群
30	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③にぶい褐色	横位隆線と楕円を描く平行沈線。楕円内は小型の爪形状刻みが横位に施文される。	IV群
31	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③黒褐色	口縁部に突起・把手を付す。口唇部に浅い刻みが連続し、直立する口縁部は突起部を中心として三叉文や小型の半截竹管文が施される他は無文である。胴部上半には浅い沈線が看取される。	IV群
32	544墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	縦位区画文。平行沈線で区画され、区画内をキャタピラ文が沿う。	IV群
33	558墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	腹面使用の小型平行沈線による押し引き文が横位、斜位に充填される。三角形の空白部には縦位の条線が施される。	I群
34	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	頸部隆線下に半截竹管状工具による2本1組の結節沈線が沿い、同工具による結節沈線が斜位に充填される。	III群
35	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	口唇下にキャタピラ文、ペン先状刺突文が沿い、三叉文や円形刺突文をキャタピラ文、ペン先状刺突文が囲む。内外面丁寧な研磨。	IV群
36	覆土	浅鉢頸部	①砂粒②普通③暗褐色	口縁部欠損するが著しく外傾。頸部隆線は尖り、下位にキャタピラ文、ペン先状刺突文が沿う。内外面丁寧な研磨。	IV群
37	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③黒褐色	無文の口縁部。緩やかに内彎し、内面丁寧な研磨。	
38	577墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③橙色	口唇部は僅かに肥厚し、平行沈線が沿う。	IV群
39	581墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	扇状把手。縁辺、隆線に刻みを付し、把手内には2本1組の結節沈線がV字状モチーフを描く。	III群
40	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	弧を描く隆線に太めの沈線が沿い、キャタピラ文と刻み目が施される。	V群
41	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	円環状突起。一方が剥落しているため全容は判然としない。太めの沈線が沿う。	V群
42	583墳 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③褐色	横位隆線に太めの沈線が沿い、内部を爪形状の刻み、ペン先状刺突文が沿う。	IV群

263図 土壇出土土器拓影 (585・598・612・628・631・638・645・648・649・651・652・655・660・661・663~665・724・734・737号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	585墳 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③にぶい 橙色	押圧を施す隆線がV字状に付せられる。	III群
2	覆土	深鉢口縁部	①雲母・細砂粒②堅緻③褐色	波状口縁を呈し、口縁部は内彎する。口唇部には1条の隆帯が貼り付けられ、C字状の半截竹管文が連続する。口縁部には、幅広の隆帯が縁辺に半截竹管文を施し波状モチーフを描く。その他、半截竹管による沈線で花卉のような意匠文が描かれ、直下には三叉文も沈刻される。意匠文の中位、波状隆帯の波頂部には円形刺突文が押される。外面には赤彩処理が施され、非常に美麗な土器である。	IV群
3	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③褐色	隆線による三角枠交互配列。隆線には深い沈線とキャタピラ文が沿う。中位は三叉文や垂下するキャタピラ文が施される。	IV群
4	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	隆線が弧状に付せられ、キャタピラ文が沿う。キャタピラ文は縦位に施文されるものも有り垂下沈線、隆線に沿うものであろうか。	IV群
5	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②軟質③暗褐色	内稜を持つ。口縁部文様帯は隆線にとる2段の楕円枠が重畳し、上位のものは沈線、下位のはペン先状刺突文が沿う。	IV群
6	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線が付され、沈線、ペン先状刺突文が沿う。	IV群
7	覆土	深鉢頸部	①細砂粒②普通③褐色	屈曲する頸部。胴部は丸みを帯びる。頸部下と胴部中位に幅広の平行沈線が横位に施される。	IV群
8	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	2条の隆線が垂下し、隆線間は無文である。外側は太めの沈線が垂下し、横位沈線も施される。	V群

番 号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
9	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	内彎する口縁の小型深鉢。横位RL縄文を施す。	IV群
10	598墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	断面三角の横位隆線に浅い沈線が沿い、小型の刺痕列が沿う。	IV群
11	612墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	無節縄文rを地文とし、縦位のペン先状刺突文が施される。	IV群
12	628墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	横位隆線上位に1条の角押文が沿う。沈線文も施される。	IV群
13	631墳 覆土	深鉢突起	①雲母・細砂粒②堅緻③褐色	扇状把手の垂下降帯部分。刻みを付し、側縁に2本1組の結節沈線が施される。	III群
14	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	キャタピラ文、ペン先状刺突文が交互に施され、弧を描く。隙間には三叉文が沈刻される。ペン先状刺突文は2条1組。	IV群
15	638墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	平行沈線で方形の区画文を画する。区画内は細沈線による格子目文が充填され、隅には三叉文が沈刻される。	II群
16	645墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	波状隆線が垂下する。内面に煤付着。	III群
17	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	剝落しているが双環状突起が付される。突起には刻みが付され、隆線が派生する。隆線、突起に沿って平行沈線と刺痕列が施される。	IV群
18	648墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③暗褐色	弧を描く隆線に太めの沈線が沿う。太めの沈線による波状文が横位、縦位に施される。	V群
19	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	環状突起。隆線が直角に派生し、腹面使用の平行沈線が沿う。	V群
20	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	緩い波状縁を呈す。内外面丁寧な研磨を施す。	VII群
21	覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	鎖状の押圧を施す隆線が横位に付せられ、細沈線が平行する。	III群
22・23	649墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②脆弱③橙色	横長の環状突起を口唇上に付す。口縁部に横走隆線を付し、狭い文様帯を画する。RL縄文を施す。	V群
24	651墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	器内はやや薄い。刻みを施す隆線が弧を描き、2条の沈線が沿う。	III群
25	652墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口唇部端部に刻みが密接に施される。口縁径は小さく、内面は丁寧な研磨。	
26	655墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	細沈線による木葉状のモチーフ。中に垂下沈線が看取され、文様割付けかによるものか。	I群
27	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③にぶい褐色	波状縁を呈す。0段多条のRL縄文を施し、口唇部端部にまで及ぶ。	I群
28	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	口縁部は緩やかに内彎する。口唇部と頸部隆線で口縁部文様帯を画する。口唇部には小型の刻みを走らせる。口縁部文様帯では、2本1組の結節沈線が、隆線に沿い、半楕円の連続による波状文を描く。	III群
29	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	双波状突起を付す。縁辺に刻みを付し、2本1組の結節沈線が沿う。	III群
30	覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	刻みを付す頸部隆線に2本1組の結節沈線が沿う。	III群
31	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②普通③橙色	平行沈線が弧を描き、爪形状の刺痕列が沿う。	IV群
32	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	波状隆線が垂下する。波状はやや小型である。	III群
33	660墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	小突起を口唇部に付す。突起および口唇下に角押文が横位施文され、下位には波状文が描かれる。空白部には三叉文が沈刻される。	IV群
34	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	無節縄文rを地文とし、太めの沈線が描かれる。	V群
35	覆土	浅鉢頸部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	頸部屈曲部上位に平行沈線が横位に施文される。内面丁寧な研磨。外面は雑な調整。	VII群
36	661墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	弧状の垂下降線と横位刻み目列。刻み目列は刺突状である。	III群
37	663墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	横位平行沈線下位に縦位の短沈線が連続する。やや雑な施文。	V群
38	664墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	LRと0段多条のRL縄文の羽状縄文。内面丁寧な研磨。	I群
39	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	細隆線剝落。平行沈線文を地文とし、隆線が同心円に付せられる。	II群
40	覆土	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③褐灰色	波状口縁を呈する。口縁部は狭い無文帯を持ち、指によって撫でられる。直下の隆帯は、太めの刻みが斜位に施される。隆帯下には2条の沈線が沿い、以下2条の沈線で胴部が分帯されるようである。沈線間は、節の長い2本1組の結節沈線が斜位に施される。地文は縦位RL縄文。やや厚手の器肉。	VI群
41	665墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③黒褐色	口唇部下より細沈線が横位、斜位に施される。	I群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
42	724墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③黒褐色	垂下隆線に平行沈線が沿う。縦を基本とした小区画文で区画内は細縄文が施される。内外面とも丁寧な研磨。	IV群
43	覆土	深鉢頸部	①砂粒②堅緻③暗褐色	腹面使用の横位平行沈線下に縦位の沈線が充填される。	IV群
44	734墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	口縁部は外傾し、口唇下に3条の平行沈線が横位に施される。	IV群
45	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③橙色	平行沈線が垂下し、刺痕列様の刻み目が沿う。器面は荒れる。	IV群
46	737墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②普通③黒褐色	無文の口縁部破片。口唇部は肥厚する。内面丁寧な研磨。	

264図 土壇出土土器拓影 (738~740・742~746・750・751・755・757・758・761・762・767・769・877・888号土壇)

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	738墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	胴部上半、外反する。爪形状の深い横位刻み目列が施される。	III群
2	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③淡黄褐色	横位隆線に大小2種の角押文が沿う。上位には三叉文が沈刻される。	IV群
3	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	垂下する平行沈線に刺突状の刺痕列が沿う。空白部には沈刻文が刻まれる。	IV群
4	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	環状突起と垂下隆線。太めの沈線が沿い、短沈線や波状沈線文が施される。	V群
5	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	滑車状突起。中に孔が穿たれる。	V群
6	覆土	深鉢胴部	①砂粒②脆弱③褐色	太めの沈線で三角形を描く。	V群
7	739墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	波状縁を呈し、凸状の口縁部文様帯区画を構成する。細隆線に2本1組の結節沈線が沿う。	III群
8	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②普通③暗褐色	波状縁を呈し、小型のキャタピラ文、ペン先状刺突文が施される。	IV群
9	740墳 覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	隆線が弧状に付され、浅い雑な垂下沈線が施される。	III群
10	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③黒褐色	横位隆線にキャタピラ文、ペン先状刺突文が沿う。	IV群
11	覆土	深鉢底部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	大きく開く底部形態。内面は丁寧な研磨。	III群
12	742墳 覆土	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	刻みを付す頸部隆線と小突起で口縁部文様帯を画する。区画内は腹面使用の平行沈線が沿い、小型の角押文が沿う。頸部隆線下に1条の角押文が横位施文される。	IV群
13	743墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい橙色	垂下隆線の両脇を太めの沈線が沿う。地文の縄文は横位RL。	V群
14	744墳 覆土	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	垂下沈線に疎らな刺痕列が沿う。連続三叉文も沈刻される。	IV群
15	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③黒褐色	太めの沈線が弧を描き、短沈線が2本付される。	V群
16	覆土	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③赤褐色	口唇部僅かに突出する。内外面とも丁寧な研磨。	VII群
17・18	745墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	同一個体。垂下隆線に太めの沈線が2条沿い、同沈線が横位、波状に施される。	V群
19	覆土	深鉢底部	①砂粒②やや軟質③橙色	器面は荒れる。内面は丁寧な無で。底面は雑。	
20	746墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②脆弱③黒褐色	腹面使用の横位平行沈線で胴部文様帯を多段に分帯する。器面の剝落が激しく判然としないが、三叉文と刺痕列が施される。	IV群
21	750墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	波状口縁を呈し橋状把手を持つ。把手の位置からも双波状口縁を呈するのかも知れない。把手の上下より隆線が横位に派生し、口縁部文様帯を画するのであろう。口唇部、橋状把手縁、隆線には刻みが施され、文様帯内は2本1組の刺突状の結節沈線が斜位に充填される。頸部にも同様の結節沈線が看取される。	III群
22	751墳 覆土	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③黒褐色	口唇部は僅かに突出し、内面端部に浅い刻みが連続する。	VII群
23	755墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③褐色	口唇部端部に深い刻みを施す。隆線が付されるのであろうか。破片右側縁が盛り上がる。	IV群
24	757墳 覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	横位沈線下に3条の沈線が斜位に施される。波状文か。	III群
25	758墳 覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	扇状把手。縁辺、把手頂部、垂下隆線に沿って1条の結節沈線が施される。縁辺は結節沈線施文後刻みを付す。	III群
26	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口唇部は僅かに突出し、斜位の隆線が付され、ペン先状刺突文、太めの沈線が沿う。	V群
27	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③淡褐色	横位隆線上位は櫛歯状工具による波状沈線文、下位は同工具による平行沈線が施される。	III群
28	761墳 覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②軟質③橙色	内彎する口縁部形態。無文で比較的雑な作り。	

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
29	762墳 覆土	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	頸部隆線上に細い2本1組の結節沈線が施される。	III群
30	覆土	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③里褐色	垂下する2条の角押文と波状文。	VI群
31	767墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	横位LR縄文が施され、下端にS字状の結束部が看取される。	II群
32	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい橙色	斜位の条線を地文とし、楕円状の貼付文を付す。	I群
33	覆土	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	円盤を内外面より張り合せ、外面は楕円、内面は円形の突起形態を呈する。突起中位は3×1.5cm程度の孔が貫通する。孔の外縁は結節沈線が施され、突起縁辺には刻みが施される。特に外面の刻みは2～3個を1組としてまばらに刻まれ、図右上には大型の刻みが1個施される。	III群
34	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	沈線が垂下し、区画内をキャタピラ文が密接に沿う。区画中位と隅には三叉文などの沈刻文が刻まれ、小型のキャタピラ文が小波状文を描く。	IV群
35	覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③暗褐色	腹面使用の横位平行沈線の両脇を爪形状の刻みが沿う。	IV群
36	覆土	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	3条1組の腹面使用の平行沈線が垂下する。	IV群
37	覆土	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	波状口縁を呈す。波頂部に3個の深い刻みを付し、口唇端部には浅い刻みと刺突文が連続する。内外面に煤付着。	VII群
38	769墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	C字状の半截竹管文で三角形の幾何学文様を描く。	I群
39	覆土	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	結節浮線文が横位、斜位に付せられる。地文に横位条線を施す。	I群
40	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	矢羽状沈線文を地文とし、結節浮線文を垂下させる。	I群
41～43	877墳 覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③41褐色、42暗褐色 43橙色	平行沈線を横位、斜位に施す。42は地文に浅い条線が斜位に施される。	I群
44	覆土	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	器肉は薄い。波状口縁を呈し、橋状把手を付す。把手は、突起中央から頸部の細隆線と繋ぐ。把手縁辺、口唇部と頸部の隆線には刻みが施される。把手にはベン先状刺突文も施される。口縁部文様帯は無文である。胴部文様帯は、把手直下に2条の半截竹管による沈線が垂下し、恐らく方形の縦位区画が構成されるのであろう。区画内は、幅広の半截竹管文、2条のベン先状刺突文が交互に施される。	IV群
45・46	覆土	深鉢胴部	①砂粒②普通③45にぶい褐色、46橙色	刻みを付す横位隆線と幅広のキャタピラ文。45、頸部には、半截竹管による平行沈線が横位施文される。隆帯の両脇に幅広のキャタピラ文が沿う。46、平行沈線が施され、上位と隆線下位には半截竹管状工具による刺突文の連続が横位に施される。	IV群
47	覆土	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	平行沈線で円環状モチーフを描き、周縁を爪形状の刺痕列が沿う。三叉文も沈刻される。	IV群
48	888墳 覆土	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位RL縄文を地文とする。器肉は薄い。	I群

265図 遺構外土器拓影 第I～III群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1・2	攪乱層	1 深鉢口縁 2 深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	横位平行沈線。1、口唇部内傾する。地文はRL縄文。2、腹面使用の平行沈線。地文はLR縄文。	I群
3～5	濠内	3 深鉢口縁 5 深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色、 3のみ褐色	横位の半截竹管による爪形文。3、器面磨滅。爪形文間に刺突文が施される。4・5、弧状の爪形文も施される。5は密接に施文される。	I群
6～10	6・7表採 8・104住 9、B区	6 深鉢口縁 7・9・10 深鉢胴部 8 深鉢底部	①細砂粒、9砂粒②6やや軟質、 7・9・10堅緻、8軟質 ③6にぶい褐色、7・9褐色、 8橙色、10褐灰色	細沈線を地文とする。6、楕円状の貼付文を口唇下に付す。6・7、縦位矢羽状モチーフを施す。8、端部張り出す。矢羽状モチーフを底部端部まで施す。9、縦位集合沈線と矢羽状モチーフ。10、腹面使用の集合平行沈線が弧を描く。	I群
11～14	11・12濠内 13・144住	11・14深鉢 口縁部 12・13深鉢 胴部	①細砂粒、13砂粒②堅緻③ 11・13褐色、12橙色、14にぶ い橙色	結節浮線文を施す。11、横位、斜位に交互に施される。12、矢羽状に付され、地文に横位条線が施される。13、横位に付され、下位は弧を描く。14、波状線を呈す。3条1組の浮線文が弧、三角のモチーフを描く。	I群
15	表採	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	0段3条のRL、LR縄文が横位に施され、貼付文が付される。	I群
16	4住	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	地文に縄文を施し、蛇行文が貼付される。	I群
17	表採	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	小型の爪形状刻み目が横位に充填される。	I群
18・19	18表採 19B区	18深鉢口縁 19深鉢胴部	①細砂粒②18普通、19堅緻③ 18にぶい橙色、19褐色	格子目文。18、口唇下に横位平行沈線が施され、以下格子目文が充填される。19、大きめの格子目文。	II群
20	40C10	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	口縁部に三角印刻文が多段に沈刻される。	II群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
21~24	21・24濠内 22 4 住 23表採	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色、24暗褐色	S字状結束の横位LR・RL結節縄文。	II群
25	4 住	深鉢底部	①砂粒②堅緻③橙色	端部は極端に張り出す。腹面使用の平行沈線が縦位の木葉状モチーフを描く。	II群
26	濠内	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	口唇部外傾し、口縁部は屈曲する。口唇下に1条の凹線が横走り、刻み目列が沿う。屈曲部以下は腹面使用の平行沈線が横位に施される。	II群
27	60C30	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	口唇部は肥厚し、2段の刻み目列が横位に施される。口唇下も刻み目列が沿い、以下平行沈線が斜位に施される。	II群
28	45C30	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③橙色	口唇部内外面とも著しく突出する。口唇部より隆帯が垂下し、凹線が沿う。地文に櫛歯状工具による刺突文が充填され、口唇部端部には凹線が施される。	II群
29	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③灰褐色	波状縁を呈し口唇部端部には角押文。口唇部、隆線に沿って1条の結節沈線が施される。	III群
30	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②普通③褐色	柱状の突起を付し、無文の口縁部文様帯を画する。口唇部端部には角押文が沿い、交互の刻みも口唇部に施される。内面にも角押文が施文される。	III群
31	B区	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい褐色	口唇部端部にペン先状の刺突文が刻まれ、口唇部に同工具による角押文が沿う。内面には薄い稜を持つ。	III群
32	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	小型の口状把手を付す。口唇部、頸部隆線に沿って結節沈線が施される。	III群
33	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	尖鋭な柱状突起を付し口縁部文様帯を区画する。口唇部、口縁部には1条の結節沈線が施される。	III群
34	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	把手、突起が付される。形状不明。口縁部文様帯内は1条の結節沈線が沿い、斜位にも施される。	III群
35・36	濠内	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐灰色	波状突起波頂部。35、双波状を呈す。隆線が垂下し、1条の結節沈線が沿う。36、縁辺に刻みを付し、Y字状隆線が垂下し1条の角押文が沿う。	III群
37	50B10	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口唇部と直下に横位隆線が付され、押圧が施される。隆線には太めの結節沈線が沿い、以下も結節沈線が横位、縦位、斜位に施される。	III群
38	B区	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②やや軟質③淡褐色	隆線で楕円状区画を画し、1条の結節沈線が沿う。区画内は斜位の結節沈線が充填される。	III群
39・40	39濠内 40表採	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	39、口唇部に1条の結節沈線が沿う。40、頸部隆線にも沿い、楕円状の区画を描くか。	III群
41	B区	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	口唇部端部に沈線が沿い、口縁部には結節沈線が1条施される。	III群
42	B区	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	波状突起。粘土帯を巻いた柱状突起が垂下し角押文が沿う。	III群
43	50B10	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	波状突起。剥落しているが橋状把手を付す。頸部隆線には刻みが施され、口縁部文様帯内は横位の角押文が施文される。	III群
44・45	表採	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	同一個体。波状突起であろう。突起、口縁部とも内彎する。突起外縁を隆線が沿い、その内側を角押文が沿う。空白部には、沈線による波状文が施される。突起直下にも角押文と波状沈線が横位に施される。	III群

266図 遺構外土器拓影 第III群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	45C30	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	波状口縁、波頂部欠損。垂下隆線と頸部隆線で口縁部文様帯を区画し、1条の結節沈線が沿う。区画内は斜位の結節沈線で三角形モチーフを連続する。	III群
2・3	2 表採 3 濠内	2 深鉢胴部 3 深鉢底部	①2 雲母、3 砂粒②堅緻③ 2 褐色、3 褐色	垂下波状隆線の両脇に1条の結節沈線が沿う。2、指頭押圧が施される。3、円形状工具による結節沈線である。	III群
4	B15	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線下に1条の角押文が沿う。	III群
5	濠内	深鉢頸部	①砂粒②堅緻③暗褐色	頸部隆線の両脇に角押文が沿う。口縁部文様帯にも施され、複列の効果を出す。	III群
6	表採	深鉢頸部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	頸部隆線に刻みが付され、口縁部文様帯は楕円状の区画がされる。頸部隆線に沿って結節沈線が施される。	III群
7	B15	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③褐灰色	頸部隆線にY字状隆線付される。頸部隆線上位には1条の角押文が沿う。	III群
8	濠内	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	頸部隆線上位に結節沈線が沿い、口縁部文様帯は2条の垂下結節沈線が施される。隆線以下は横位波状沈線文が施される。	III群
9	B15	深鉢頸部	①砂粒②堅緻③褐色	頸部隆線に浅い刻みが施される。口縁部文様帯は隆線で画され、1条の太めの結節沈線が沿う。	III群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
10	45 C 30	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	口唇部と頸部屈曲部に沿って1条の角押文が施され、中位を同工具で波状文が描かれる。	Ⅲ群
11~14	11・12 B 15 13・14 濠内	深鉢口縁部	①11・14砂粒、12・13雲母・砂粒②11~13堅緻、14やや軟質③11橙色、12・13褐色、14にぶい橙色	頸部隆線に画された口縁部文様帯内に横位波状文が描かれる。11、2本1組の結節沈線で描く。12、1条の結節沈線でややだれた施文。口唇部端部に刻みを、頸部隆線下に横位沈線が施される。13、斜位の結節沈線を対称に充填する。刻み目列が施される。14、角押文で描かれ、多段に施文される。	Ⅲ群
15	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	口縁部に粘土帯を貼り付け段を設け、口縁部文様帯とする。口唇部に浅い沈線を横走させ、斜位の沈線文を充填する。	Ⅲ群
16	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	波状突起を付す。口唇下に腹面使用の平行沈線を横位施文する。中位には横位結節沈線が施される。	Ⅲ群
17	表採	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線で口縁部文様帯を楕円状区画する。区画内は斜位の平行沈線が対称に連続する。	Ⅲ群
18	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②やや軟質③極暗褐色	楕円状・凸状の口縁部文様帯区画。細沈線が数条沿い、中位は横位刻み目列が施される。	Ⅲ群
19	45 C 30	深鉢口縁部	①砂粒②普通③褐色	小波状突起を口唇部に付す。突起より垂下した隆線が口縁部文様帯を方形区画し、腹面使用の平行沈線が沿い、中位をだれた波状沈線文が横位施文される。	Ⅲ群
20	60 C 30	深鉢把手	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	波頂下に橋状把手を付す。把手より隆線が派生し口縁部文様帯を画する。腹面使用の平行沈線が沿い中位は波状沈線文が横位に施される。	Ⅲ群
21	7 住	深鉢口縁部	①粗砂粒②軟質③にぶい橙色	口縁部は外傾し屈曲下に浅い沈線が沿い波状沈線文が施される。	Ⅲ群
22・23	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③22暗褐色、23褐色	凸状、楕円状区画内に沿う2本1組の結節沈線。22、波状口縁を呈し、区画中位を横位波状沈線文が施される。23、平縁。楕円区画する隆線は太い。	Ⅲ群
24~26	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③24・26橙色、25褐色	扇状把手。縁辺に刻みを施し、右端より隆線が蛇行垂下する。24、把手内に沈線でV字状モチーフを描く。隆線、口唇部に沿って太めの2本1組の結節沈線が沿う。25、把手内に2本1組の結節沈線でV字状モチーフを描く。26、2本1組の結節沈線が沿う。中位には4条の結節沈線が垂下し、左方には波状沈線が施される。	Ⅲ群
27	4 住	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	波状突起の波頂部欠損。波頂部より隆線が蛇行垂下し、頸部隆線と接す。隆線には複列の結節沈線が沿う。	Ⅲ群
28・29	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	隆線による大型の楕円状区画。区画内は複列の結節沈線が沿う	Ⅲ群
30~32	30 4 住 濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒、32粗砂粒②堅緻、32軟質③褐色、32橙色	口縁部文様帯内2本1組の結節沈線が沿い、波状文が描かれる。30、波状縁を呈し、凸状区画。斜位の2本1組の結節沈線が対称に連続する。31、波状文はやや丸みを帯び、2本1組の結節沈線で描かれる。32、平縁。波状文は途中で2本から1本になる。	Ⅲ群
33・34	B 15	深鉢口縁部	①粗砂粒②軟質③橙色	同一個体。楕円状区画内を2本1組の結節沈線が沿い、中位に横位刻み目列が施される。	Ⅲ群
35	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口唇下に2本1組の結節沈線が沿い、横位刻み目列が施される。	Ⅲ群
36	B 15	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	波状縁を呈す。口唇部端部に刻みを付し、2本1組の結節沈線が沿う。波状沈線文が2段施される。	Ⅲ群
37	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	つまみ状突起を口唇部に付す。突起下端より隆線が1条派生し、突起中位より2条の結節沈線が弧を描き垂下する。	Ⅲ群
38	B 15	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	小型の柱状突起。区画に沿って、2本1組の結節沈線が施され、横位結節沈線も看取される。	Ⅲ群

267図 遺構外土器拓影 第Ⅲ群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1・2	濠内	深鉢口縁部	①1雲母・細砂粒、2砂粒②1堅緻、2軟質③1にぶい褐色、2褐色	口縁部文様帯に沿う複列の結節沈線。1、口唇部は僅かに外傾し、2本1組の結節沈線が沿う。楕円状の区画を描く。2、節の長い結節沈線が施され、結節沈線間も間隔がある。	Ⅲ群
3	80 B 40	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	頸部隆線に複列の結節沈線が沿う。楕円状区画を隆線で画し、区画内は複列の結節沈線が沿い、中位を波状沈線が横位施文される。	Ⅲ群
4・5	4 濠内 5 4 住	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	おそらく楕円状区画。区画内に2本1組の結節沈線が沿う。	Ⅲ群
6	B 15	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	隆線がV字状に付され2本1組の結節沈線が沿う。横位刻み目列も施される。	Ⅲ群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
7	濠内	深鉢頸部	①雲母・砂粒②普通③黒褐色	頸部の狭い文様帯。1条の結節沈線が長楕円区画内を沿い、斜位の結節沈線が施される。横位隆線下には指頭押圧が施される。	Ⅲ群
8	濠内	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③橙色	横位隆線下にY字状隆線が垂下し、2条の結節沈線が沿う。地文に縄文が施される。	Ⅲ群
9	濠内	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	垂下隆線に2本1組の結節沈線が沿う。やや雑な施文。	Ⅲ群
10	B15	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③橙色	2条の角押文が垂下する。他は無文。	Ⅲ群
11	45C30	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③淡橙色	弧状隆線に複列の結節沈線が沿う。	Ⅲ群
12	B15	浅鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③黄褐色	非対称な双波状突起を付す。突起は口縁部文様帯を区画し、区画内は角押文が施される。	Ⅲ群
13	表採	浅鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③橙色	頸部屈曲で口縁部文様帯を画する。口縁部文様帯は小型のキャタピラ文と2条の角押文が区画を沿い、斜位に充填される。	Ⅲ群
14	濠内	浅鉢口縁部	①粗砂粒②普通③褐色	頸部の屈曲で口縁部文様帯を画する。口唇下に2条の沈線を横走させ、交互刺突を施す。縦位の結節沈線が充填される。	Ⅲ群
15	表採	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	口縁部文様帯を柱状突起で区画する。区画内は6～7条の小波状沈線が横位施文される。	Ⅲ群
16	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③黒褐色	口唇下に5条の細結節沈線が平行する。櫛歯状工具か。	Ⅲ群
17	30C50	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	器肉は薄い。隆線によって楕円状区画され、太めの沈線が沿う。区画内は太めの沈線が弧状に施され、空白部には刺突文が充填される。	Ⅲ群
18	表採	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③淡橙色	口唇下に2本1組の結節沈線が沿い、斜位に充填される。半截竹管状工具を使用。	Ⅲ群
19	濠内	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	横位隆線で多段に分割される。上位の文様帯は剥落しているが隆線による楕円状区画。区画内は斜位の結節沈線が充填。下位の文様帯は横位隆線下に3条の結節沈線が沿い、上位2条には交互刺突が施される。その他、結節沈線による円環状モチーフや三叉文が沈刻される。	Ⅲ群
20・21	濠内	深鉢頸部	①雲母・砂粒②普通③暗褐色	長楕円状区画を配す頸部文様帯。20、隆線による蛇行文を貼り付ける。隆線下に波状沈線文を沿わせ、指頭押圧痕が施される。21、頸部隆線下に波状沈線文が施され、指頭押圧痕も看取される。	Ⅲ群
22・23	50B10	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	ヒダ状の指頭押圧痕が多段に施される。	Ⅲ群
24～26 28	24 50B10 25 7住 26・28濠内	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	波状垂下隆線と横位刻み目列。24、ヒダ状の指頭押圧痕。器面はやや荒れている。25、爪形状の刻み目列。26、小突起を付し、爪形状の刻み目列が施される。28、やや広めの刻み目列。	Ⅲ群
27	7住	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	深めの横位刻み目列を施す。	Ⅲ群
29・30	29表採 3045C30	深鉢口縁部	①29雲母・砂粒、30細砂粒②堅緻③褐色	口縁部下に横位刻み目が施される。29、口縁部中位に施される。30、口唇部直下に深く施される。	Ⅲ群
31	7住	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	浅い幅広の横位刻み目列が施される。	Ⅲ群
32～34	33 4住 32・34 B15	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③32橙色、33褐色、34黄褐色	垂下隆線と横位刻み目列。32、小型の爪形状刻み目列。33、やや幅広の刻み目。34、垂下隆線の両脇に結節沈線が沿う。刻み目列は2段配される。	Ⅲ群
35	濠内	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	横位刻み目列を多段に施文後、結節波状沈線文が刻み目列間を横位施文される。	Ⅲ群
36	4住	深鉢頸部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	垂下隆線と頸部隆線が接す。隆線には細かい押圧が付き、1条の結節沈線が沿う。口縁部文様帯区画内、頸部隆線下には横位刻み目列が施される。	Ⅲ群
37	B15	深鉢頸部	①雲母・砂粒②普通③橙色	垂下隆線が頸部隆線と接し盛り上がる。垂下隆線には押圧が付き、口縁部文様帯には刻み目列が施される。	Ⅲ群
38	濠内	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	横位隆線上位に結節沈線が沿い、下位には横位刻み目列が施される。	Ⅲ群
39	濠内	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	横位刻み目列が密接に施文され、2条の結節沈線が垂下する。	Ⅲ群
40	表採	深鉢底部	①砂粒②やや軟質③褐色	垂下隆線が端部直上で止り、横位刻み目列が施される。	Ⅲ群
41	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	剥落しているがY字状垂下隆線が付き、他は無文。	Ⅲ群
42	濠内	深鉢口縁部	①砂粒②普通③にぶい褐色	小型の柱状突起が2個1対配される。器面は磨滅。	Ⅲ群
43・44	濠内	深鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③にぶい橙色	器面は荒れ、無文の口縁部文様帯を細隆線で画する。43、小波状口縁を呈し、口縁部文様帯は柱状突起で画される。44、口縁部は強く外傾する。	Ⅲ群
45	60C30	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③暗褐色	器肉は薄い。口唇部は僅かに突出し、隆線が大きく波状に付される。	Ⅲ群
46・47	表採	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐灰色	押圧を施す隆線が垂下する。	Ⅲ群

268図 遺構外土器拓影 第IV群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	表採	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③黒褐色	口唇下にベン先状刺突文と先端が分岐した半截竹管文を横位施文し、以下腹面使用の平行沈線が弧を描く。	IV群
2	B15	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	内傾する口縁部下にベン先状刺突文が横位施文され、同工具による鋸歯状波状文も施される。	IV群
3	50 B20	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	楕円枠配列の口縁部文様帯。爪形状の刻み目列が沿い、中位を2条のベン先状刺突文が横位に施される。	IV群
4	濠内	深鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③橙色	口唇部と頸部に沿って1条のベン先状刺突文が施される。中位を同工具による波状文が横位施文される。	IV群
5	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	口縁部は強く外傾し突起が付され、波状縁を呈す。口縁下に角押文と沈線が平行する。	IV群
6～8	6 濠内 7 45C30 8 4住	深鉢胴部	①砂粒、8 雲母②堅緻③橙色、 8 暗褐色	横位ベン先状刺突文。6、横位隆線に沿って施される。7、沈線と交互に横走る。8、小型のキャタピラ文以下も幾条も多段に施文される。	IV群
9	濠内	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐色	波状突起。振りの効果か。ベン先状刺突文を螺旋状に施し、突起より隆線が垂下する。	IV群
10	濠内	深鉢口縁部	①砂粒②普通③暗褐色	渦巻状突起を付す。刻みを付す隆線が派生し、キャタピラ文、ベン先状刺突文が沿う。	IV群
11	濠内	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③褐色	波状縁を呈し、口唇部にキャタピラ文、ベン先状刺突文が沿う。やや雑な三叉文も沈刻される。	IV群
12	4住	深鉢頸部	①砂粒②堅緻③褐色	隆線による三角区画下端。瘤状小突起となる。隆線にはベン先状刺突文が沿い、中位には三叉文が沈刻される。	IV群
13	45C30	深鉢頸部	①砂粒②軟質③褐色	隆線による三角区画。斜位の隆線も付され、小区画も内包する。ベン先状刺突文が沿う。	IV群
14	濠内	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	橋状把手。縁辺を密接な刻みで飾り、腹面使用の平行沈線が縦位に施される。	IV群
15・16	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	口唇部は著しく突出し、上面に凹面を持つ。口縁部に隆線が付され、隆線の両脇に小型の刻みが施される。	IV群
17	B15	深鉢口縁部	①細砂粒②軟質③褐色	口縁部に無文帯を持ち、下端に小突起を付す。以下隆線が弧状に付され、小型爪形状刻み目、平行沈線が施される。	IV群
18～20	18濠内 19、B15 20表採	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③18暗褐色、 1920褐色	横位隆線にキャタピラ文が沿う。18、横位隆線下の隆線で波状文が描かれ、キャタピラ文、ベン先状刺突文が施される。19、隆線に刻みが付される。先端M字状の刺突文も施される。20、2条の隆線が平行し、刻みが付される。隆線の上位にキャタピラ文が沿う。	IV群
21	濠内	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	器肉厚く胴径は小さい。隆線が連続弧状に付され密接なキャタピラ文、ベン先状刺突文が沿う。	IV群
22	50 B10	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	器肉は厚い。隆線による小型の円形モチーフ。刻みが付され、周縁をベン先状刺突文で飾る。弧状の隆線には平行沈線も沿う	IV群
23	B15	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	平行沈線による濠内胴部多段分帯。やや疎らなキャタピラ文と中位に刺突による波状文が横位に施文される。	IV群
24・25	濠内	深鉢底部	①砂粒②堅緻③褐色	横位隆線を付した底部。24、隆線上位にキャタピラ文が沿う。25、爪形状の刻み目を隆線に付し、上位を平行沈線が沿う。	IV群
26	濠内	深鉢底部	①砂粒②堅緻③褐色	「く」の字状に屈曲し屈折底の印象を得る。屈曲部上位にキャタピラ文、ベン先状刺突文が横位に施される。	IV群
27	表採	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位隆線によって分帯され、上位は隆線が弧を描き、下位は雑な楕円枠状文配列。隆線にはキャタピラ文が沿う。	IV群
28	表採	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③赤褐色	2種類の刻みを施す縦位隆線下に環状突起が付される。隆線には平行沈線が沿い、更に横位平行沈線で小区画がされ、刺痕列、三叉文が施される。	IV群
29	60 B10	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	横位、縦位隆線による方形区画。区画には疎らなキャタピラ文、ベン先状刺突が沿い、中位をベン先状刺突文による縦位波状文が配される。	IV群
30・31	30濠内 3150 B10	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③30褐色、 31褐色	縦位隆線に刻み目列と沈線が沿う。30、空白部に斜位の沈線が看取される。31、刺突状の刻み目列。	IV群
32	50 B10	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	垂下隆線で画された区画内を横位の平行沈線と小型のキャタピラ文で埋める。	IV群
33・34	33 B15 3480 B40	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③33にぶい褐色、 34褐色	刻みを付す隆線がU字状に付せられる。33、腹面使用の平行沈線が隆線に沿い、ベン先状刺突文も施される。34、小型半截竹管の押し引きが隆線に沿う。	IV群
35	濠内	深鉢胴部	①細砂粒②軟質③褐色	垂下平行沈線と横位平行沈線で画された方形区画。区画内は地文の縄文が残る。	IV群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
36	48 C 30	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい橙色	幅広い腹面使用平行沈線が縦位に施され、沈線間を密接なキャタピラ文が施文される。	IV群
37	濠内	深鉢胴部	①砂粒②軟質③暗褐色	口唇下に腹面使用平行沈線が沿い、3条の同平行沈線が区画文を画す。区画内は爪形状の刺痕列が沿い、中位に円形の刺突文が刻まれる。	IV群
38	B15	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③にぶい橙色	平行沈線が二重に円弧を描き、外側を爪形状の刻みが施され、おそらく意匠文を配すのであろう。	IV群
39~42	濠内	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③にぶい褐色	同一個体。瘤状の小突起を付す垂下隆線が、縦位平行沈線とともに器面を縦位分割する。平行沈線は更に横位に設けられ、小区画を構成する。区画内は小型の刺突文が帯状に充填され、区画隅には三叉文が沈刻される。	IV群
43	C区東側道	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	縦位、横位平行沈線で方形の小区画文を設ける。区画内は刺痕列が沿い、中位の沈刻文外縁にも施される。	IV群
44	風倒木	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい橙色	隆線が弧状に付され、内側を腹面使用の平行沈線、キャタピラ文、ペン先状刺突文が沿う。	IV群
45	4住	深鉢口縁部	①粗砂粒②やや軟質③橙色	口縁部は強く外傾し、口唇下に三叉文が連続する。屈曲部に腹面使用平行沈線が横位に5条施され、以下は縦位平行沈線が充填される。	IV群
46~49	46 B 15 他は濠内	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻、48普通③46・49橙色、47・48暗褐色	口縁部に施された横位平行沈線。46、強く外傾する口縁部。平行沈線は腹面使用。47、口唇部は尖り、直立する口縁部。平行沈線は凹線。48、口唇部外傾し、平行沈線は凹線。49、波状縁を呈し、腹面使用の平行沈線が沿う。以下に弧を描く沈線も施される。	IV群
50	B15	深鉢頸部	①細砂粒②堅緻③褐色	横位隆線に突起が付される。隆線上位には腹面使用平行沈線が沿い、下位は斜位の平行沈線が連続し、横位平行沈線を切る。	IV群
51	45 C 30	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	断面三角の横位隆線上位に平行沈線と小型キャタピラ文が沿う。	IV群
52	C区	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③褐色	浅い沈線が縦位、弧状に施される。雑な施文。	IV群
53	50 B 10	深鉢腰部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	腹面使用の横位、斜位の平行沈線が施される。	IV群
54	50 B 10	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	横位の腹面使用平行沈線が施され、下位は三叉文、円形刺突文が沈刻され、平行沈線が円弧を描く。	IV群
55	濠内	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	平行沈線が垂下し、空白部に連続三叉文が横位に沈刻される。	IV群
56	濠内	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③褐色	横位沈線下、腹面使用の平行沈線でU字状モチーフが横位に連続し、モチーフ同志の間には三叉文が沈刻される。	IV群

269図 遺構外土器拓影 第IV・V群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1	50 B 10	深鉢胴部	①砂粒②普通③にぶい褐色	隆帯による円形状モチーフ。外縁を平行沈線が沿う。	IV群
2	濠内	深鉢胴部	①粗砂粒②普通③にぶい褐色	横位沈線下に配される円形モチーフ。沈線で描かれる。外縁、モチーフ内を波状沈線が沿う。中位は縦位の長楕円文が描かれる。	IV群
3	濠内	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③橙色	深い沈線で意匠文が雑に描かれる。	IV群
4	表採	深鉢口縁部	①砂粒②普通③淡褐色	口唇下に平行沈線が沿い、沈線間を小型のキャタピラ文が連続する。以下腹面使用平行沈線が垂下し、同工具による刺突が連続する。地文はLR縄文。	IV群
5	濠内	深鉢頸部	①細砂粒②堅緻③黒褐色	横位平行沈線下に小型のキャタピラ文が沿う。地文は無節縄文1を斜位に施す。	IV群
6	濠内	深鉢胴部	①粗砂粒②堅緻③暗褐色	横位RL縄文を地文とし、浅い沈線で渦巻状モチーフを描く。	IV群
7	濠内	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐灰色	渦巻状の小突起を付し、蛇行隆線が横位に派生する。	IV群
8	濠内	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③赤褐色	赤色塗彩僅かに残る。口縁下に隆帯を蛇行状に貼り付け、連続三叉文の効果を出す。	IV群
9	表採	浅鉢口縁部	①細砂粒②普通③にぶい褐色	隆帯を貼り付け丁寧に撫で三角形のモチーフを連続する。	IV群
10・11	1040 D 00 1155 D 20	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③橙色	厚手の器内を呈し、10、縦位RL縄文。11、斜位RL縄文を施す。	IV群
12・13	12 B 区 13濠内	深鉢胴部	①砂粒②普通③褐色	横位沈線下に施される縄文。12、横位LR縄文。13、横位隆線に平行沈線が沿い、縄文は横位、斜位のLR縄文。	IV群
14	濠内	深鉢口縁部	①砂粒②堅緻③褐灰色	波状口縁を呈す。口唇部に沿って細隆線が波状に付され、波頂部より押圧を施す隆線が垂下し、頸部隆線と接す。頸部隆線上端には半円形の刺突文が連続する。	VI群
15	55 D 20	深鉢底部	①砂粒②堅緻③橙色	縦位RL縄文を地文とし、3条の垂下沈線が施される。	VI群
16	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	波状縁を呈す。環状突起を口唇下に付し、隆線、口唇部に沿って太めの沈線が施される。	V群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
17	濠内	深鉢口縁部	①砂粒②やや軟質③橙色	波状線を呈す。口唇部より弧状の隆線が派生し、太めの沈線が沿う。地文の縄文は横位RL。	V群
18・19	濠内	深鉢口縁部	①砂粒②普通③18にぶい褐色、19暗褐色	口唇部下に太めの沈線が2条平行し、以下円形の刺突文、縦位短沈線が施される。	V群
20	濠内	深鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③にぶい橙色	隆線による楕円区画文。円弧の部分は突起状となる。隆線には太めの沈線が沿う。	V群
21・22	濠内	深鉢胴部	①雲母・砂粒②21軟質、22堅緻③21淡褐色、22褐色	隆線に沿う小型半截竹管文と太めの沈線。21、爪形状の刻みが密接に沿う。22、横位、垂下隆線に角押文が沿う。	V群
23・24	濠内	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	隆線に太めの沈線が沿う。23、垂下隆線に太めの沈線が沿い、横位沈線も施される。24、垂下、弧状隆線に2条沿う。	V群
25	7住	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③橙色	太めの沈線でU・冂字状のモチーフを描く。	V群
26	濠内	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③赤褐色	隆線上位は小型半截竹管文、下位は太めの沈線が2条沿う。	V群
27	濠内	深鉢胴部	①粗砂粒②やや軟質③褐色	垂下隆線と弧状隆線によって不規則区画される。隆線には腹面使用平行沈線が沿い、区画内は刺突文と三叉文が施される。	V群
28	表採	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	環状突起と凹面を持つ弧状突起。	V群
29	B区	深鉢胴部	①細砂粒②普通③にぶい褐色	環状突起に2個の刻みが付され、隆線が派生する。隆線には平行沈線が沿う。	V群
30	濠内	深鉢胴部	①砂粒②軟質③褐色	環状突起より隆線が垂下する。突起縁辺には刻みが付され、隆線には平行沈線が沿う。	V群
31	B区	突起	①細砂粒②堅緻③褐色	円環状突起。丁寧な作りで、中央に孔を穿つ。	V群
32	風倒木	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	双環状突起。縁辺に刻みを施す。	V群
33	濠内	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	双環状突起。一方がだれて、隆線が派生する。隆線にはベン先状刺突文が沿う。	V群
34~37	濠内	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③にぶい褐色	渦巻文を施す円形の突起を付し、直下に欠落している橋状把手を設ける。口唇部には、一条の太めの沈線が沿い、地文は横位LRを施す。口縁部文様帯は細隆線が付され、沈線文が描かれる。	V群
38	表採	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	弧状隆線と細隆線に太めの沈線が沿う。空白部で太めの沈線は三叉文を描く。地文の縄文は斜位RL。	V群

270図 遺構外土器拓影 第V~VI群

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
1・2	濠内	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③1にぶい褐色、2褐色	凹面を持つ弧状突起。1、環状突起より派生する弧状の隆線が2個連続する。隆線はそのまま横位隆線で胴部を分帯し、一部は小突起となるのであろう。空白部は太めの沈線が突起、隆線に沿い、短沈線による三角文やU字状のモチーフが描かれる。地文は横位LR縄文。2、器面は磨滅。地文は横位RL。	V群
3・4	濠内	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	隆線による方形区画。太めの沈線が沿い、地文に縄文を施す。3、縦位波状沈線文が施される。4、太めの沈線で三叉文が描かれる。	V群
5	濠内	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③にぶい褐色	太めの沈線が横走し、以下RL縄文が横位、縦位、斜位に施される。	V群
6・7	6濠内 7B区	深鉢胴部	①砂粒②堅緻③褐色	太めの沈線を主な描出技法とする。6、垂下沈線にU字状モチーフを描く。7、隆線に沿ってV字状モチーフを描き、中位は三叉文を刻む。	V群
8	50C22	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	横位蛇行隆線が付され、細隆線が分岐垂下する。太めの沈線が沿い、短沈線も施される。地文の縄文は縦位LRか。	V群
9	濠内	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③にぶい褐色	隆線が集合し、瘤状の小突起となる。隆線には太めの沈線が沿う。器面は磨滅。	V群
10	2溝	深鉢胴部	①細砂粒②堅緻③暗褐色	瘤状の小突起に沈線で刻みを付し、突起より派生した隆線が円環状のモチーフを描く。隆線には太めの沈線が沿い、同心円状のモチーフを描く。	V群
11	濠内	深鉢口縁部	①粗砂粒②堅緻③褐灰色	渦巻状の小突起を口唇部に付す。突起より隆線が垂下し、腹面使用の平行沈線が隆線、口唇部に沿う。	V群
12	4住	深鉢胴部	①砂粒②やや軟質③褐色	隆線が弧状に付され、細沈線が充填される。	V群
13・14	濠内	13深鉢底部 14深鉢胴部	①砂粒②13堅緻、14軟質③褐色	太めの沈線を多用する。13、太めの沈線が渦巻文を描く。幾条も重ね、小渦巻文とも接続し、複雑な様相を呈す。14、2条1組の隆線が縦位、弧状に付され、空白部を各種沈線文が充填される。器面は荒れている。	V群
15	C区	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③暗褐色	横位隆線に細沈線が沿い、RL縄文を地文とし、太めの沈線で円弧を描く。	V群
16	濠内	深鉢胴部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	細隆線が弧状に付され、腹面使用の平行沈線が両脇に沿う。LR縄文を地文とする。	V群

第IV章 遺構と遺物

番号	出土位置	器種・部位	①胎土 ②焼成 ③色調	文 様 等	備 考
17・18	1760 C 30 18濠内	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③褐色	僅かに外傾する浅鉢口縁部。17、内外面丁寧な研磨。18、外面雑な撫で。	VII群
19	45 C 30	浅鉢口縁部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	波状口縁波頂部。深い刻みを波頂部に付す。口唇部にも浅い刻みが連続する。外面、雑な撫で。	VII群
20～23	濠内	浅鉢口縁部	①細砂粒②堅緻③橙色	口縁部に幅広の平坦面を持つ浅鉢。内面丁寧な研磨。20は双波状口縁を呈す。23、内稜を2段持つ。	VII群
24	濠内	浅鉢口縁部	①砂粒②堅緻③にふい褐色	器面磨滅。口唇部は雑な作り。	VII群
25～27	濠内	深鉢胴部	①雲母、25細砂粒②堅緻③橙色	小型の深鉢口縁部。無文。24、内外面丁寧な研磨。25、雑な作り。26、内面丁寧な研磨、外面は撫で。	
28・29	4 住	浅鉢底部	①雲母・砂粒②堅緻③橙色	大きく開く底部立ち上がり。内面丁寧な研磨を施す。	VII群
30～35	濠内 32D区	31深鉢口縁 他は胴部	①細砂粒②堅緻③30・33褐灰色、他は橙色	後期の土器片。30、隆線に沿って円形刺突文を連続する。31、帯縄文を口縁部に設ける。32、薄い内稜を持つ。内面丁寧な研磨。33・35、器面荒れる。34、垂下沈線が平行する。	VII群

第V章 胎土分析

(株)第四紀地質研究所 井上 巖
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 山口逸弘

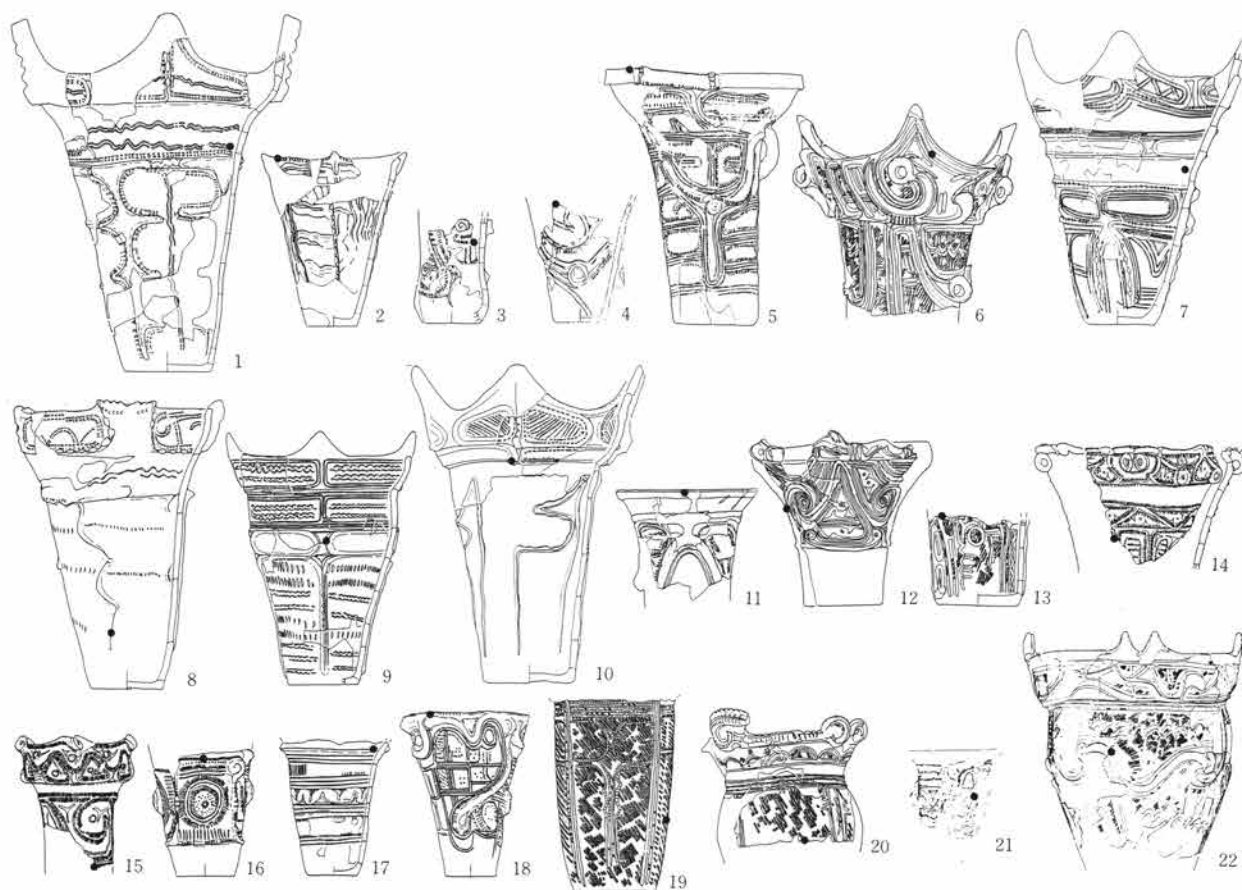
房谷戸遺跡では、縄文時代から中世に渡って良好な遺構、遺物が検出された。特に縄文時代中期前半の資料は県内でも有数のものであり、その出土土器は今後、種々の研究対象となろう。我々が通常、土器の観察を行う場合、縄文土器に関しては、器形、文様はその観察主体となり、胎土、焼成や色調はやや副次的な観察項目となっているのが現状である。しかし、我々は土器を扱う際に土器製作者とその背後を前提にするが、器形、文様の観察ではおよばない事例が多々ある。例えば、阿玉台式土器に混入する雲母類の存在と、雲母を媒介とした交易圏などを推論するときは通常の文様観察のみでは、観察者の主観が大きく影響し、他遺跡との比較に際しては客観性に欠ける。より客観性の高

い、各遺跡とも同一の科学的な分析が要求される。

房谷戸遺跡の縄文中期前半の土器群は阿玉台式、勝坂式など多数型式に渡り、その施文方法などに違いが認められ、また互いの型式の影響も認められる。ここで、異系統の製作者は同一の粘土混合比を意識したものであろうか、周辺の遺跡との対比、遠隔地の遺跡との対比などの課題を究明するため、(株)第四紀地質研究所に胎土の分析を依頼した。

なお、周辺の遺跡として、三原田遺跡の資料5点、遠隔地の遺跡として利根郡新治村新巻遺跡の資料2点を関係者の御好意をもって同時に分析対比させていただいた。記して感謝の意を表わしたい。

房谷戸遺跡資料20点は以下のとおりである。21、22は新巻遺跡のものである。●は資料採取場所である。資料選定にあたっては、各型式から数点を選び、また、肉眼で色調、胎土の特徴を備えた土器を選んだ。資料採取箇所は、完形土器から直接採取し、なるべく同一部位の採取を目途としたが、土器の残存状況、資料採取の際の段取りで以下ようになった。



胎土分析資料 (ドットは採取位置)

房谷戸遺跡出土土器胎土分析

(株)第4紀地質研究所 井上 巖

X線回折試験及び電子顕微鏡観察

1 実験条件

1-1 試料

分析に供した試料は第1表胎土性状表に示すとおりである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥した後に、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。

電子顕微鏡観察に供する遺物試料は断面を観察できるように整形し、φ10mmの試料台にシルバーペーストで固定し、イオンスパッタリング装置で定着した。

1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には理学電機製X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Taegert:Cu, Filter:Ni, Voltage:30Kv, Current:15 mA, Divergency:1°, Receiving Slit:0.15, Current Full Scale:800cps, Time Const:2 sec, Scanning Speed:

2°/min, Chart Speed:2 cm/min.

1-3 電子顕微鏡観察

土器胎土の組織、粘土鉱物及びガラス生成の度合いについての観察は電子顕微鏡によって行った。

観察には日本電子製T-20を用い、倍率は、35、350、750、1500、5000、の5段階で行い、写真撮影をした。

35~350倍は胎土の組織、750~5000倍は粘土鉱物及びガラスの生成状態を観察した。

2 実験結果の取り扱い

実験結果は第1表胎土性状表に示すとおりである。

第1表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組成が示してあり、左側には各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩の各々に記載される数字はチャートの中に現れる各鉱物に特有のピークの高さ(強度)をm/m単位で測定したものである。

電子顕微鏡によって得られたガラス量とX線回折試験で得られたムライト(Mullite)、クリストバーライト(Cristobalite)等の組成上の組み合わせとによって焼成ランクを決定した。

第1表 胎土性状表(房谷戸遺跡)

試料 No	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物(mm)								ガラス	備考	
			Mo-Mi-Hb	Mo-Ch-Mi-Hb	Mo	Mi	Hb	Ch	Kaol	clino	Qt	Pl			
房1	G	III~IV	⑦	⑳		14	3					165	40	細粒	粗粒 Qt, Pl 碎屑性ローム質粘土
2	G	III	⑦	⑳		10	2					148	35	中~細粒	細粒 Qt, Pl //
3	E	III~IV	⑥	⑳		3	5					108	111	細粒	粗粒 Qt, Pl ローム質粘土
4	I	//	⑪	⑳	2							22	90	//	中~細粒 Qt, Pl 碎屑性ローム質粘土
5	A	//	①	①	5	3	4	3				125	85	//	// ローム質粘土
6	K	//	⑭	⑳								132	190	//	細粒 Qt, Pl //
7	B	//	③	⑦	17	28	4	17				130	210	//	// //
8	H	//	⑧	⑳		28						180	68	//	粗粒 Qt, Pl //
9	J	//	⑬	⑭	10		29					102	79	//	細粒 Qt, Pl //
10	C	III	③	⑮	5	12	4					197	10	中粒	粗粒 Qt, Pl //
11	J	III~IV	⑬	⑭	3		18					183	107	細粒	細粒 Qt, Pl //
12	K	//	⑭	⑳								84	28	//	// 碎屑性ローム質粘土
13	I	//	⑪	⑳	3					20		35	57	//	// ローム質粘土
14	H	//	⑧	⑳		11						260	55	//	// 碎屑性粘土(均質)
15	J	//	⑬	⑭	5		16					110	140	//	// ローム質粘土
16	K	//	⑭	⑳								124	4	//	// //
17	F	//	⑦	⑨		20	5	10				215	123	//	// 碎屑性ローム質粘土
18	D	//	⑤	⑳			3					66	62	//	中粒 Qt, Pl ローム質粘土
19	G	//	⑦	⑳		8	7			19		240	150	//	粗粒 Qt, Pl 碎屑性ローム質粘土
20	K	//	⑭	⑳								250	15	//	細粒 Qt, Pl 碎屑性粘土(均質)
新21	F	III	⑦	⑨		10	7	7				101	111	中粒	中粒 Qt, Pl 碎屑性ローム質粘土
22	I	III~IV	⑪	⑳	3							80	107	細粒	// //

I Mu II Mu-Cr III Cr-glass IV glass V 原土 Mo モンモリロナイト Mi 雲母類 Hb 角閃石 Ch 緑泥石 Ka カオリナイト Ha ハロイサイト Au 普通輝石 Hy 紫蘇輝石 Qt 石英 Pl 斜長石 Mu ムライト Mo-Mi-Hb 三角ダイアグラム Mo-Ch-Mi-Hb 菱形ダイアグラム 房-房谷戸遺跡 新-新巻遺跡

2-1 組成分類

1) Mo-Mi-Hb 三角ダイアグラム

第1図に示すように三角ダイアグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。Mo、Mi、Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいい、別に検討した。三角ダイアグラムはモンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、のX線回折試験におけるチャートのピーク高を、パーセント (%) で表示する。

モンモリロナイトは $Mo / (Mo + Mi + Hb) \times 100$ でパーセントとして求め、同様にMi、Hb、も計算し、三角ダイアグラムに記載する。

三角ダイアグラム内の1~4はMo、Mi、Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示すとおりである。

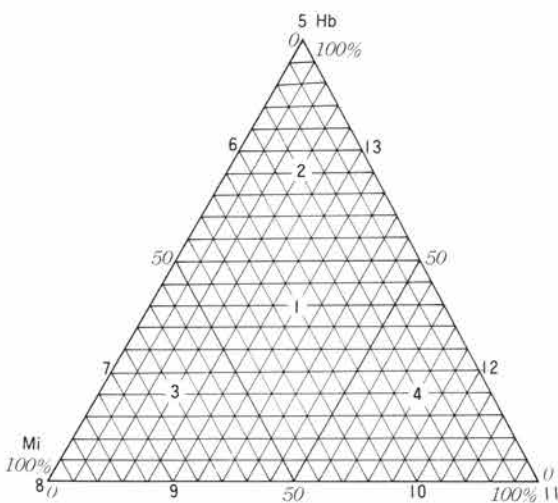
2) Mo-Ch、Mi-Hb 菱形ダイアグラム

第2図に示すように菱形ダイアグラムを1~19に区分し。位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

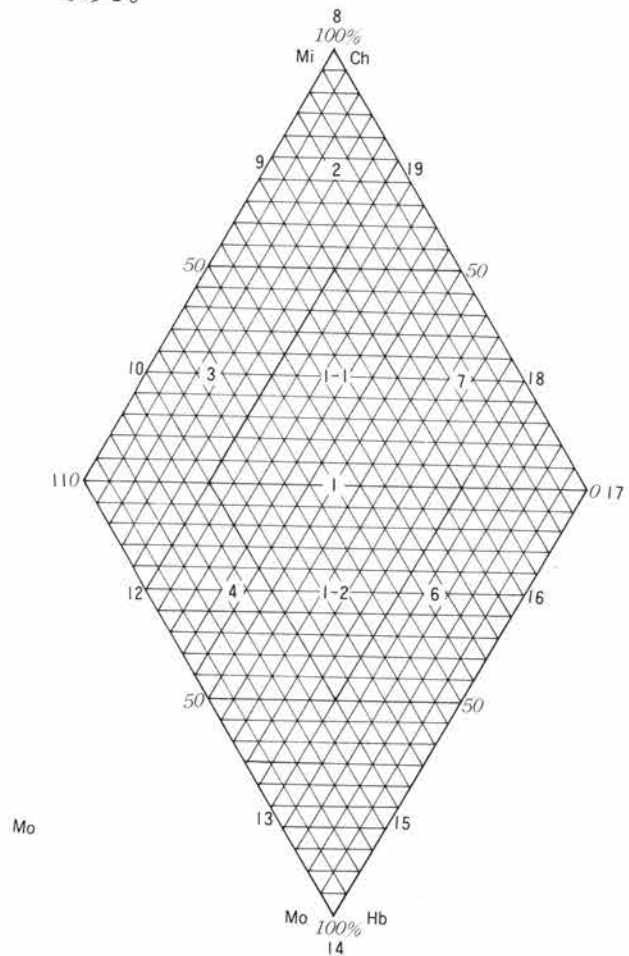
モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb) 緑泥石 (Ch) のうち、a) 3成分が含まれない、b) Mont、Chの2成分が含まれない、c) Mi、Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイアグラムは Mont-Ch、Mica-Hb の組み合わせを表示するものである。Mont-Ch、Mica-Hb のそれぞれのX線回折試験のチャートの高さを各々の組み合わせ毎にパーセントで表すもので、例えば、 $Mo / (Mo + Ch) \times 100$ と計算し、Mi、Hb、Ch、も各々同様に計算し、記載する。菱形ダイアグラム内にある1~7はMo、Mi、Hb、Ch、の4成分を含み、各辺は、Mo、Mi、Hb、Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第2図に示すとおりである。



第1図 三角ダイアグラム位置分類図



第2図 菱形ダイアグラム位置分類図

第V章 胎土分析

2-2 焼成ランク

焼成ランクの区分はX線回折試験による鉱物組成と、電子顕微鏡観察によるガラス量によって行った。

ムライト(Mullite)は、陶磁器など高温で焼かれた状態で初めて生成する鉱物であり、クリストバーライト(Cristobalite)はムライトより低い温度、ガラスはクリストバーライトより更に低い温度で生成する。

これらの事実に基づき、X線回折試験結果と電子顕微鏡観察結果から、土器胎土の焼成ランクI~Vの5段階に区分した。

- a) 焼成ランクI：ムライトが多く生成し、ガラスの単位面積が広く、ガラスは発泡している。
- b) 焼成ランクII：ムライトとクリストバーライトが共存し、ガラスは短冊状になり、面積は狭くなる。
- c) 焼成ランクIII：ガラスの中にクリストバーライトが生成し、ガラスの単位面積が狭く、葉状断面をし、ガラスのつながりに欠ける。
- d) 焼成ランクIV：ガラスのみが生成し、原土(素地土)の組織をかなり残している。ガラスは微小な葉状を呈する。
- e) 焼成ランクV：原土に近い組織を有し、ガラスは殆どできていない。

以上のI~Vの分類は原則であるが、胎土の材質、すなわち胎土の良悪によってガラスの生成量は異なるので、電子顕微鏡によるガラス量も分類に大きな比重を占める。このため、ムライト、クリストバーライトなどの組み合わせといくぶん異なる焼成ランクが出現することになるが、この点については第1表の右端の備考に理由を記した。

2-3 タイプ分類

タイプ分類は各々の土器胎土の組成分類に基づくもので、三角ダイアグラムの位置分類による組み合わせによって行った。同じ組成を持った土器胎土は、位置分類の数字組み合わせも同じはずである。

タイプ分類は、三角ダイアグラムの位置分類における数字の小さいものの組み合わせから作られるもの

で、便宜上、アルファベットの大文字を使用し、同じ組み合わせのものは同じ文字を使用し、表現した。

例えば、三角ダイアグラムのものは1と菱形ダイアグラムの1の組み合わせはA、三角ダイアグラムの2と菱形ダイアグラムの15はBという具合にである。なお、タイプ分類のA、B、Cなどは便宜上つけたものであり、今後試料数の増加に伴って統一した分類名称を与える考えである。

3. 実験結果

3-1 タイプ分類

土器胎土は第1表胎土性状表に示すように、第3図三角ダイアグラム、第4図菱形ダイアグラムの位置分類、焼成ランクに基づいてA~Kの11タイプに分類された。分析した土器胎土は22個であるが、22個に対して11タイプの胎土が検出されているのは明らかに多すぎる、このことは後に述べる石英と斜長石の相関でも明らかになることであるが、土器の種類ではなく土器を作った集団が異なっているためである。即ち、同一の形式の土器でも異なる集団が製作しているということで土器胎土のタイプの豊富さとよく一致している。

土器胎土の組成的な共通する鉱物は雲母類(Mica)と角閃石(Hb)である。これらは強度的にも高く特徴的であるが、特に雲母類の強度が高い。このことは土器の形式にもよるもので阿玉台式土器でこの傾向は顕著である。阿玉台式土器には雲母類を混和剤として混入しており、そのため雲母類の高い強度が検出されているものである。

電子顕微鏡観察によれば土器に使用されている素地土はローム質粘土と碎屑性ローム質粘土である。碎屑性粘土を使用しているのは房谷戸-14、20の2点で、共に均質な良質の粘土である。

土器胎土中に生成したガラスによる焼成ランクではガラスは細粒のものが多く、焼成ランクはIII~IVのものが大半を占め、中粒のガラスが生成している焼成ランクがIIIのものは房谷戸-2、10、21の3点で、全体として焼成温度は余り高くない。

次に土器胎土のタイプ分類について述べる。

Aタイプ…房谷戸5

Mont, Mica, Hb, Chの4成分を含む。

個体数は1個あるが、Bタイプの房谷戸7とは組成的によく似ているが強度が異なるためにタイプが分かれている

Bタイプ…房谷戸7

Mont, Mica, Hb, Ch の4成分を含む。
個体数は1個体と少ない。

Cタイプ…房谷戸10

Mont, Mica, Hb, の3成分を含み、Chに欠ける。個体数は1個体と少ない。

Dタイプ…房谷戸18

Hb 1成分を含み、Mont, Mica, Ch の3成分に欠ける。個体数は1個体と少ない

Eタイプ…房谷戸3

Mica, Hb の2成分を含み、Mont, Chに欠ける。Gタイプとは組成的によく似ているが雲母類(Mica)の強度が異なりそのためタイプが違っている。

Fタイプ…房谷戸17、21

Mica, Hb, Ch の3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Gタイプ…房谷戸1、2、19

Mica, Hb の2成分を含み、Mont, Ch

の2成分に欠ける。個体数は3個。Eタイプのものを含めると4個となり、Kタイプと同様に最も多いタイプとなる。

Hタイプ…房谷戸8、14

Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Ch の3成分に欠ける。

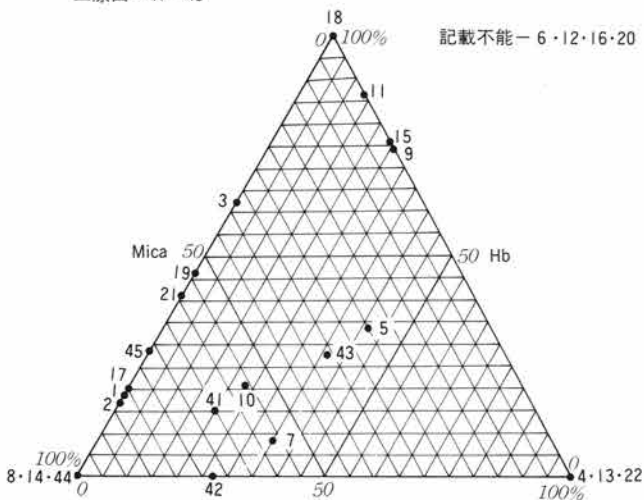
Iタイプ…房谷戸4、13、22

Mont 1成分を含み、Mica, Hb, Ch の3成分に欠ける。個体数は3個と幾分多い組成的にはKタイプに近いものと推察される。

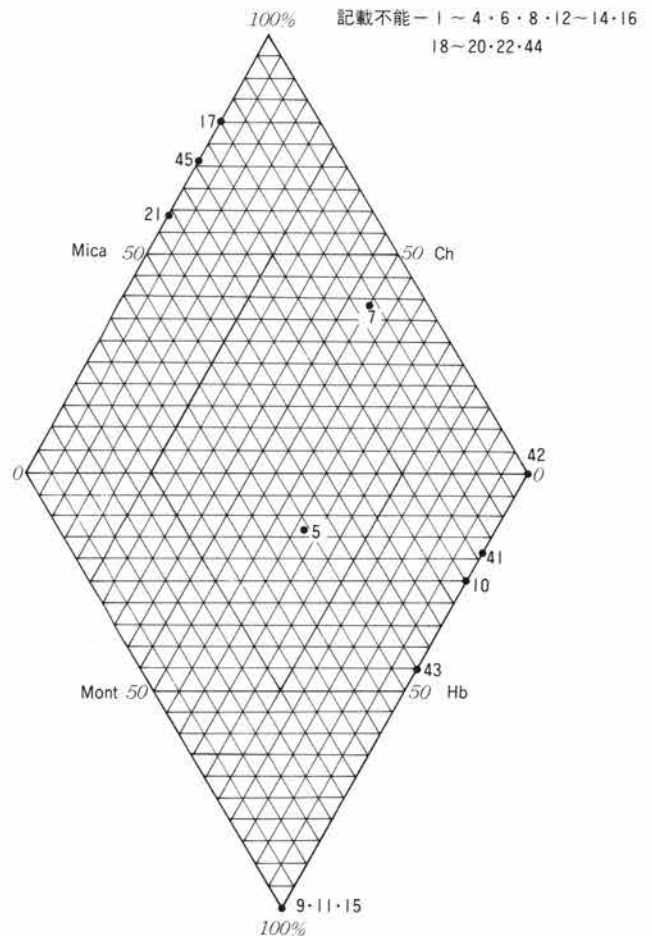
Kタイプ…房谷戸6、12、16、20

Mont, Mica, Hb, Ch の4成分に欠ける。アルミナゲル ($n\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot m\text{SiO}_2 \cdot i\text{H}_2\text{O}$) を主体とする粘土で構成され、個体数は4個体と多い。

房谷戸=1~20
新巻=21・22
三原田=41~45



第3図 Mo-Mi-Hb 三角ダイヤグラム位置分類図



第4図 Mo-Ch, Mi-Hb 菱形ダイヤグラム位置分類図

第V章 胎土分析

以上が房谷戸遺跡の土器のタイプ分類であるが、隣接する三原田遺跡でも昭和62年度に胎土分析をしており、その結果との対比を以下に行う。

A (1-1)	5 (勝坂)	
B (3-7)	7 (阿玉台)	
C (3-16)	10 (阿玉台)	<41>
D (5-20)	18 (勝坂)	<7,10,17,19,20,36,37>
E (6-20)	3 (勝坂)	
F (7-9)	17, 21 (勝坂)	<45>
G (7-20)	1, 2 (阿玉台) 19 (大木)	<40>
H (8-20)	8 (阿玉台) 14 (勝坂)	<35>
I (11-20)	4 (勝坂) 13, 22 (焼町)	<5,6,13,21,22,24,26>
J (13-14)	9, 11 (阿玉台) 15 (勝坂)	<2,3,9,31>
K (14-20)	6, 12 (焼町) 16 (勝坂) 20 (大木)	<1,4,8,11,14,16,18,25>

房谷戸遺跡の土器胎土の組成によるタイプ分類と土器の形式とを左側に、小文字は隣接する三原田遺跡の土器番号を記した。

この表から読み取れることは土器胎土のA～HのうちDタイプを除いたものは総て雲母類を含むものである。この中で、三原田遺跡の土器は三原田-35、40、41、45の4点である。三原田遺跡の三原田-42、43の2点も雲母類を含む土器は小数派であり、昭和62年度に分析した土器のうちでは40個のうち4点検出されているに過ぎない。三原田遺跡の基本的な素地土は雲母類を含まず、角閃石を含むか、両者を含まないローム質粘土で構成されている。

房谷戸遺跡の土器も基本的にはローム質粘土で構成されているが、雲母類の混入によって三原田遺跡の土器胎土の組成とは異なったものといえる。

表でも明らかなように三原田遺跡の土器が集中しているのはD、I、J、Kの4タイプであり、これらに属する房谷戸の土器は三原田遺跡の土器に使用されていたものと良く似た素地土を使っているといえる。

Dタイプを除くA～Hタイプに属する房谷戸遺跡の土器は阿玉台式土器と勝坂式土器が含まれている。房谷戸-19 (大木) 以外は総て前記の両タイプでありI

～Kの3タイプには阿玉台、勝坂、焼町、大木式の土器が含まれ、余り統一性がない。

組成的にみて雲母類、角閃石、緑泥石の3種類の鉱物が検出されているものは結晶片岩(黒雲母片岩)の組成と良く似ており、結晶片岩をすり潰して入れるように見受けられる。また角閃石の強度が10以上と大きいものもこの可能性があると推察される。

3-2 石英(Qt) - 斜長石(Pl)の相関について
土器胎土に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きなかわりがある。土器を製作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器製作上の固有の技術であると考えられる。

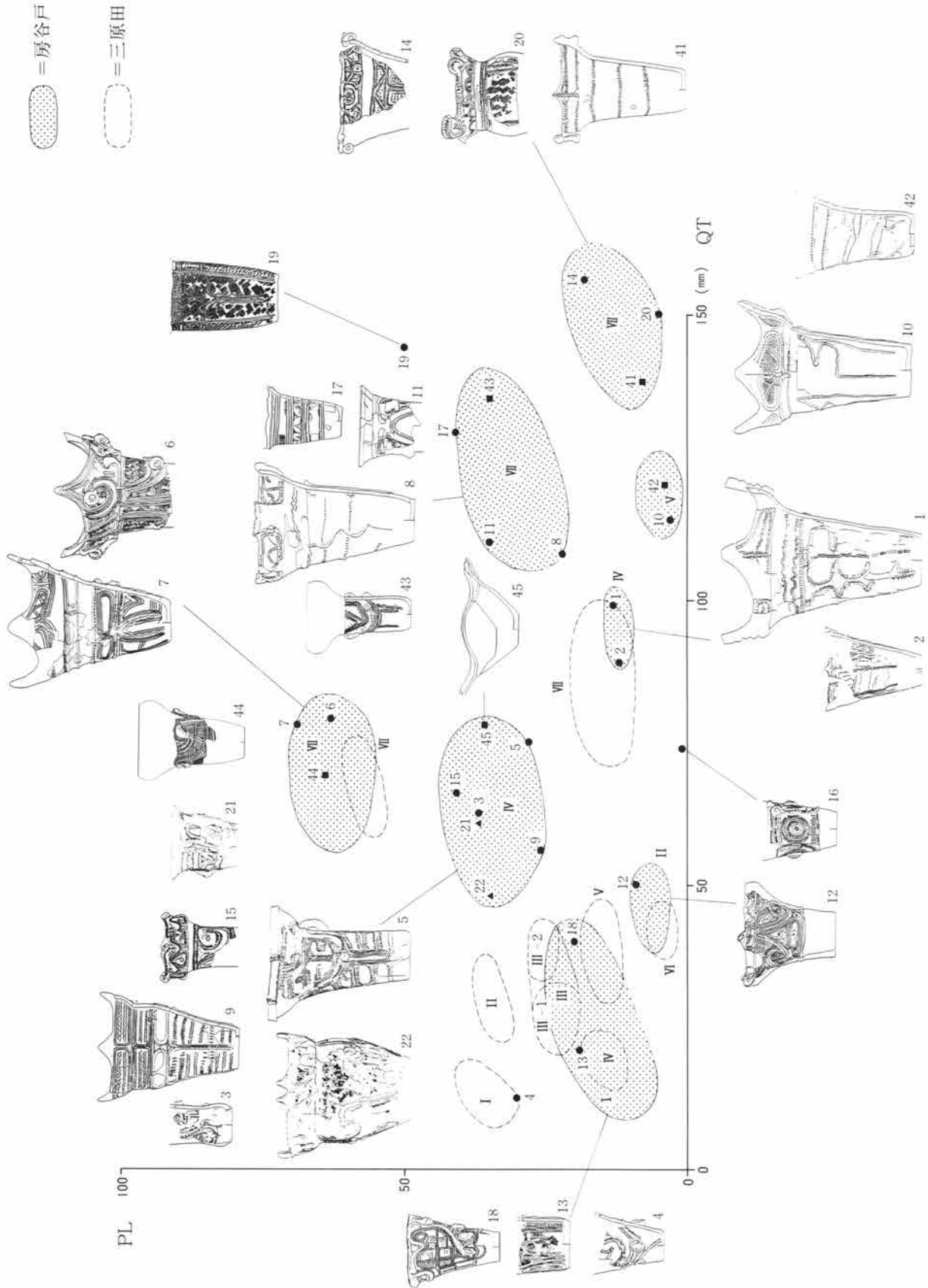
自然状態における各地の砂は個々の石英と斜長石の比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地域における砂は各々固有の石英-斜長石比を有しているといえる。この固有の比率を有する砂をどの程度粘土中に混入するかは前記のように各々の集団の有する固有の技術の一端である。

本遺跡より出土した土器の胎土および遺跡周辺の原土における石英と斜長石の相関を第5図に示す。

第5図には房谷戸遺跡と三原田遺跡の土器が記載してある。三原田-1～40は昭和62年度に分析した土器で三原田41～45は昭和63年度に分析した土器である。

出土土器はI～VIIIの8つのグループと“その他”に分類された。図を見ても明らかなように図全体に亘って土器が散らばっているような分散傾向が認められるが三原田遺跡の昭和62年度の分析ではこのような傾向は認められていない。しかし、昭和63年度の三原田遺跡の土器では房谷戸遺跡の土器と同じ分散傾向が認められる。これらに共通することはともに阿玉台式、勝坂式を分析の対象としていることである。

阿玉台式と勝坂式土器のうち雲母類を含むものは素地土であるローム質粘土に結晶片岩をすり潰して混入したものと推察される。すり潰して混入した結晶片岩の量が一定しなかったため、結晶片岩に含まれる石英と斜長石も一定しなかったことによって数値がバラバラになり生じた現象ではなからうか。



第5図 石英(Qt)一斜長石(Pl)相關圖

第V章 胎土分析

次に各グループについてのべる。

Iグループ…房谷戸13、18

石英は10～45、斜長石は15～25の範囲にあり、個体数は2個で分散傾向にある。房谷戸13(I)18(D)という土器でありこれらはいずれも雲母を含まない土器で三原田遺跡の中で最も多く検出されたタイプと同じものである。房谷戸4、13は三原田遺跡の昭和62年度分類におけるIVグループに近いものであり、房谷戸18は三原田遺跡のVグループに近いものである。

IIグループ…房谷戸12

石英は35～55、斜長石は0～10の範囲にあり、個体数は1個である。房谷戸12(K)は三原田遺跡のIVグループに近いもので、胎土のタイプもKタイプで、三原田のものと良く似ている。

IIIグループ…房谷戸3、5、9、15、

新巻21、22、三原田45

石英は45～80、斜長石は25～45の範囲にあり、個体数は7個と最も多いグループである。房谷戸3、5、21(勝坂)、三原田45の4点は雲母類を含むもの、房谷戸9(阿玉台)、15(勝坂)、22(焼町)の3点は雲母類を含まないもので構成される。このグループは勝坂式が優勢で、しかも雲母を含むものと含まないものが共存しているのが特徴である。三原田45はこのグループでは一つ離れており、単独のものである可能性がある。また、三原田28は単独でこのグループにはいるもので、類似性が伺われる。

IVグループ…房谷戸1、2

石英は90～105、斜長石は10～15の範囲にあり、個体数は2個と少ないが集中度がよい。房谷戸1、2は共にGタイプの阿玉台式土器である。このグループは三原田遺跡のVIIグループと重複するもので、関連性があるのかもしれない。

Vグループ…房谷戸10、三原田42

石英は110～125、斜長石は0～10の範囲にあり、個体数は2個と少ないが、集中度はいい。房谷戸10はCタイプの胎土であるが、三原田42はMont, Micaの成分を含むもので、胎土の組成としてはあまり似ていない。両者ともに阿玉台式土器である。

VIグループ…房谷戸14、20、三原田41

石英は130～160、斜長石は5～20の範囲にあり、個体数は3個で分散傾向にある。房谷戸14はHタイプで雲母を含む勝坂式、房谷戸20はKタイプで大木式、三原田41はCタイプで阿玉台式である。このように土器の形式と胎土が各々異なっていることから1つのグループに入れるのは難しいかも知れない。各々が独立したものである可能性が考えられる。

VIIグループ…房谷戸6、7、三原田44

石英は60～85、斜長石は55～70の範囲にあり、個体数は3個で比較的集中度は良い。房谷戸6はKタイプの焼町、房谷戸7はBタイプの阿玉台式、三原田44はCタイプの沈線截痕である。房谷戸7と三原田44はおもに雲母類と緑泥石の強度が高く、結晶片岩をすり潰して混入しているように見受けられ、組成的にもよく似ている。三原田遺跡のVIIIグループに属するように見受けられ、斜長石の強度が高い点などから判断して、関連性はあると推察される。

VIIIグループ…房谷戸8、11、17、三原田43

石英は105～140、斜長石は20～40の範囲にあり、個体数は4個と多いが、集中度が低く分散傾向にある。房谷戸8はHタイプの阿玉台式、房谷戸11はJタイプの阿玉台式、房谷戸17はFタイプの勝坂式、三原田43はMont, Mica, Hbの3成分を含みCタイプの組成とよく似ている土器(沈線截痕のある土器)で構成されている。土器の形式としては阿玉台式と勝坂式が優勢なグループであるが、雲母を含まないものと混在している。

その他…房谷戸4、16、19

この3点の土器は土のグループにも属さないもので、各々が1つのグループを代表していると考えられる。遺跡周辺の他の集団からもたらされた可能性が考えられる。房谷戸16はKタイプの勝坂式、房谷戸19はGタイプの大木式土器である。

以上の結果から推察して、IとIIのグループは三原田遺跡の土器と同じグループに入り、胎土の組成も三原田遺跡で多く検出されたタイプと一致し、また、IVグループは三原田遺跡のVIIグループ、VIIグループは三原田遺跡のVIIIグループ、三原田28は房谷戸遺跡のIIIグ

グループに属し、三原田遺跡との関連性が高いと判断された。三原田41～45は各々房谷戸遺跡のグループと同じ所に入っており、前記と同様に関連性が高いことを物語っているようである。

阿玉台式土器と勝坂式土器について言えばIVとVグループのみが阿玉台式土器で構成され、その他のグループは阿玉台式土器と勝坂式土器が共存している状況にあり、明確には分かれぬ部分があることは土器胎土で得られた結果と良く一致する。

VIとVIIグループは全体に分散傾向にあり、土器の形式もまちまち出、統一性がなく、これらは各々独立している。即ち、これらのグループに属する1つ1つが1つのグループを代表している可能性が考えられる。

今まで述べてきた石英と斜長石の相関からI～VIIIの8つのグループと“その他”に分類したが、これら1つ1つのグループが同時代における別々の集団を意味するのか、同一集団における時間の差を物語っているのかは土器の出土層準、器形などについての考古学的な検討が必要である。

4. まとめ

ア) 土器胎土A～Kの11タイプに分類された。22個の分析に対して11タイプというのは多すぎる。しかしこれらを混入した結晶片岩の混入比の違いによって生じたとすれば、雲母類、角閃石、緑泥石を含むもの、角閃石の強度の高いもの、雲母類の強度の高いものの3タイプは良く類似したものと推察される。このように考えてみると、土器胎土のタイプはA～C、E～Hは類似したタイプとなり、三原田遺跡で多く検出されたD、I、J、Kの4タイプと併せ5タイプ程度になるのではなからうか。実際には5タイプより多いと思われるが、大胆に仮説するとこのような傾向にあるということで5タイプで確定しているということではない。

イ) 三原田遺跡の土器胎土はローム質粘土、あるいは碎屑性ローム質粘土で構成され、房谷戸遺跡の土器もその多くはこの2タイプの土を使用している。特

にD、I、J、Kの4タイプは三原田遺跡の在り地あるいは在り傍の可能性が高い。

ウ) 房谷戸遺跡の土器22個体と三原田遺跡土器5個体(三原田41～45)の石英と斜長石の相関による分類では、I～VIIIの8つのグループと“その他”に分類された。全体としては分散傾向にあり、余り集中度はよくなく、グループ分けは難しかった。しかしこの分散傾向が1つの意味を持つものであるとすれば、その意味は在り地あるいは在り地周辺の原土を利用し、その素地土に結晶片岩をすり潰して入れたことによって生じた現象と推察するのが良いのではないか。その際の結晶片岩の混入比が比較的しっかりしていなかったことを意味しているのかも知れない。

エ) IとIIグループは三原田遺跡グループと同じ所に属するもので、胎土のタイプも三原田遺跡のものと同じし、更にIVグループは三原田遺跡のVII、VIIグループは三原田遺跡のVIIIグループと重複しており、また、三原田41～45もそれぞれ房谷戸の各グループに属しており、この2つの現象から推察して、房谷戸と三原田の両遺跡は相互に関連性を持っていたように見受けられる。

オ) 阿玉台式土器と勝坂式土器について言えば、阿玉台式はIVとVグループ阿玉台式のみのグループを形成しているが、その他のグループでは両者が、共存し明確には分けずらい状況にある。Dタイプを除くA～Hは雲母類を含む胎土であるが、これらは明らかに阿玉台式と勝坂式土器で構成されている。しかし、I～KとDタイプは阿玉台式と勝坂式及び焼町土器と大木式の土器が混在し、前記の現象と類似する傾向を見せている。阿玉台式と勝坂式土器の一部(雲母類を含まない土器)は素地土も良く似ており明確には分けにくい部分があるのではなからうか。

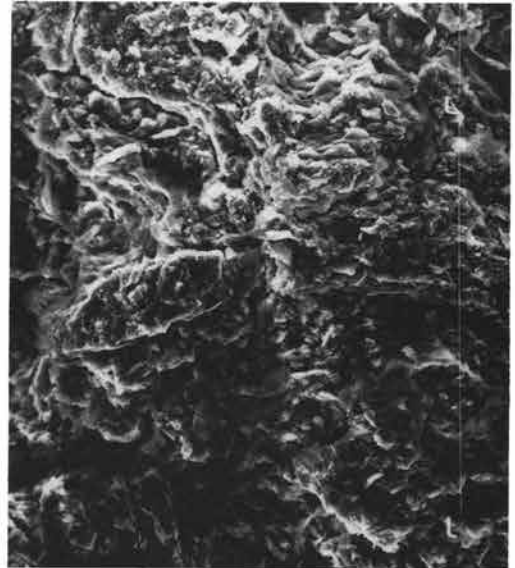
カ) 電子顕微鏡によるガラスの生成状況の観察では房谷戸遺跡の土器に生成しているガラスは全体に細粒で焼成ランクはIII～IVと比較的低く、三原田遺跡の土器と比べると若干低いように見受けられた。

第V章 胎土分析

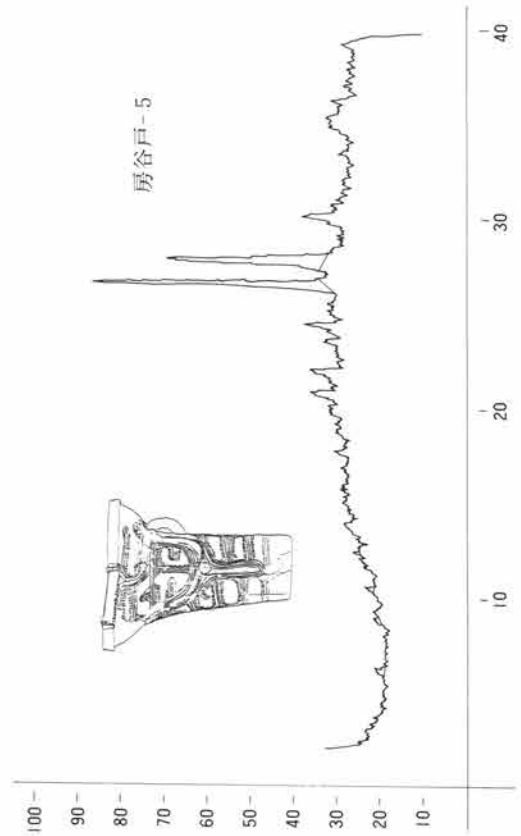
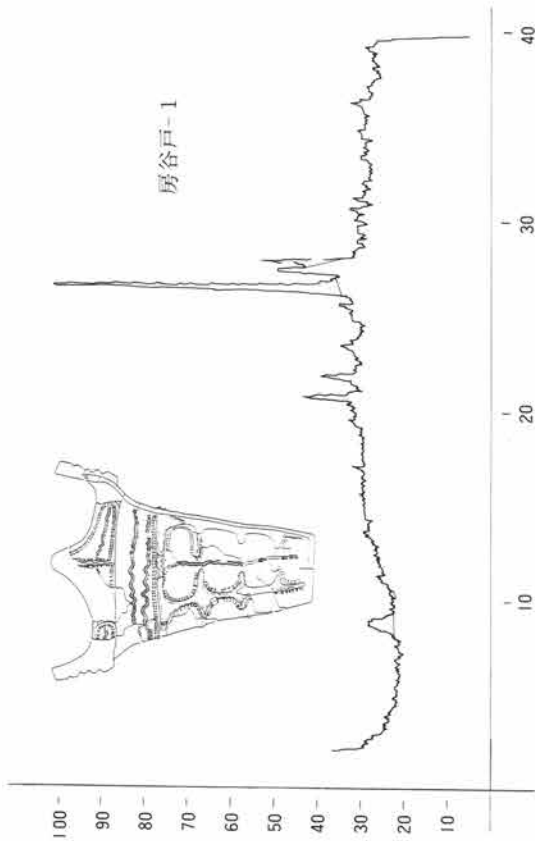
- 1 粗粒の石英、斜長石を混入する。碎屑性ローム質粘土 (clastic loamy clay) を混入
- 2 雲母類 (Mica) を混入
- 3 原土の組織を残す
- 4 マトリックスは、 $n\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot m\text{SiO}_2 \cdot l\text{H}_2\text{O}$ (アルミナゲル) + glass (ガラス)
- 5 ガラスは細粒で、焼成ランクはIII~IV



- 1 中〜細粒の石英、斜長石を混入する。ローム質粘土
- 2 原土の組織を残す
- 3 マトリックスは、Mont + glass
- 4 ガラスは細粒で、焼成ランクはIII~IV



電子顕微鏡写真



X線回析図型

第VI章 考 察

1 石器について

小稿では出土石器の器種組成を概括的にまとめると共に、各器種について若干の考えを述べておきたい。房谷戸遺跡内において出土した石器の総点数は遺構に伴うもの、伴わないものを含めて1,387点である。この中でいわゆる狩猟具として考えられる石鏃、および尖頭器は40点で比率にすると5.2%である。この数は近接する前代の三原田城遺跡、中畦、諏訪西遺跡等に比較すればその出土比率は極めて低い数字であると言える、また、これとは逆に打製石斧はその数が増加しており、大小の種類こそあるが形はかなり定形化しているものが多い。形態はいわゆる短冊形と撥形とされるものが主であり、両側縁がほぼ平行するか、やや下方が広がるものが多い。器厚はおおむね中央がやや厚くなっており両端が薄く仕上げられているが、基部は打面を一部残して作られているものも認められる。刃部はやや丸みを持った凸刃が多く、繰り返しの使用により刃部は磨滅の著しいものが見られる。

二次加工具である石皿、磨石類について見ると、石皿に関しては使用面が平らな台石と思われるものを含めて64点、磨石、(敲石)は123点でやはりその数は多い。石皿の遺構別出土数は、土坑、遺構外、住居の順に少なくなっている。(299図～310図)

土坑から検出された石皿については破損品が多く、完全な形のものはいわゆる少ない、また磨石類についても土坑からの出土が目立ち、粉碎具類の使用頻度の高さを窺わせている。

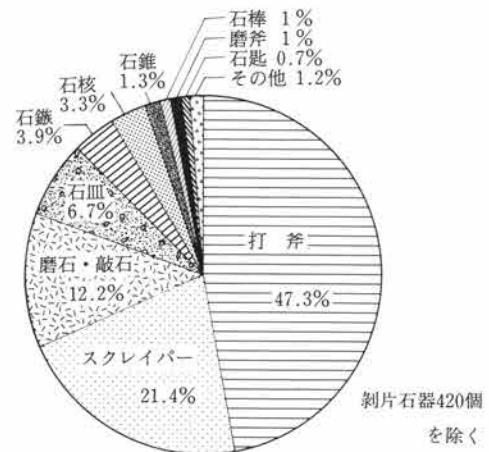
本遺跡で検出された住居址は18軒で土坑は約900基余りと相当数にのぼる。土坑については分布、形状、出土遺物などから判断してもその性格の特定ができないものも多い。

前期に多く見られる石鏃、石匙が減少傾向となり、代わって打製石斧、磨石類が多くなることは器種変化の中で、狩猟(動物性食料)、採集(植物性食料)の摂取バランスがうまく保たれていた時期であると言えよ

う。石器の機能分化もある程度の段階まで進み、定着した時期でもある。この中において土掘り具として考えられる打製石斧の占める位置は生産具、採集具としてよりも、穴を掘るといいうゆる土工具としての機能をより優先して考えたい。

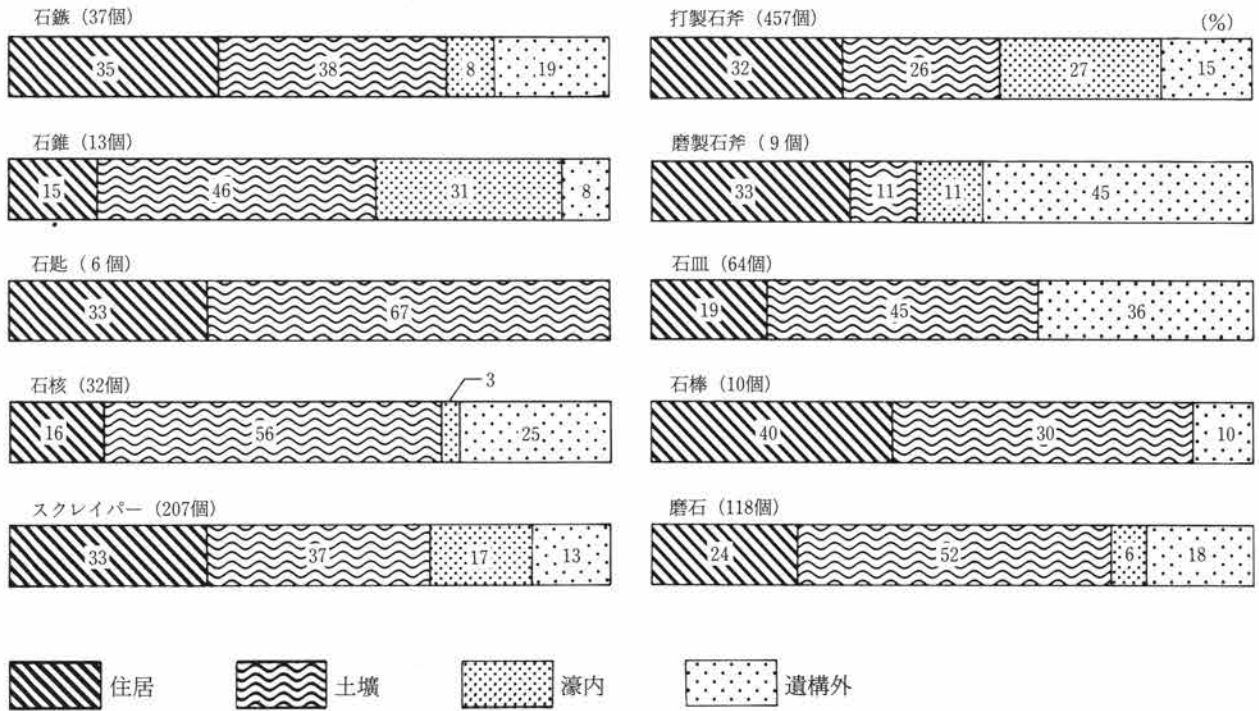
いわゆる中期的石器組成における石匙の出土数の減少傾向は顕著で、形態は縦型や両端が尖る木の葉状のものは極めて少なくなり、作り方も作りも粗製なものが多くなる。石材は黒色頁岩、安山岩を使用しているものが多い。こうした石匙の出土数の減少傾向は、中期の遺跡ではかなり一般的に見られ、時期が下る程その状況は顕著となる。このことの示す意味、背景については説明されなければならない部分も多いが、本来つまみ部を持っていたことが第一の形態的な特徴であったものが機能追及が先行したためにつまみを付ける意味が次第に失われてしまった結果、切るという機能のみが集約された為、スクレイパーという器種に取って変わられてしまったものと考えられる。換言すれば狩猟用の利器とされていたものが、狩猟採集経済の変化の中で、その占める位置があまり重要視されなくなったものと考えられる。このことと次に述べる加工具の増加、多様化は無関係ではないように思える。

二次加工具と言われる石皿、磨石類の出土比率は全体のおよそ20%を占めている。磨石類に関して見ると敲石、凹石として複数の機能を持つものも多く見られる。特に両端部、側縁に打痕を持つものが目立っている。また磨石として使用されたと考えられる磨面



1-第1図 器種別組成図

第VI章 考 察



1-第2図 遺構別器種組成図

は、比較的平坦な両面、側縁に見られるわけであるが、擦るという単一機能だけを有すものは極めて少ない。

早期、前期においてほぼ確立された石器組成が中期になり縄文期の成熟期を向かえ生産具として打製石斧が盛興し特徴的な位置を占めている。こうした背景から生まれた中期農耕論については賛否諸説あるが、この時期における石器組成の在り方は単に物量的な問題だけでは理解しがたく、その裏にある生産活動の具現化がなかなか進まないという歯痒さがある。石器研究の方法論、分析論は部分的には確立されてきていると言えるが、県内では時代的な流れを追って、作業が行われたことは少なく、この点については反省しなければならないことが多い。また集落の石器を細かく分析した報告も少ないために、他遺跡との比較検討も出来ないのが現状であろう。石器の分類についてはその作業行程の中でやや統一に欠ける点もあり普遍化が難しく、克服しなければならない問題も多い。

県内における縄文中期の集落遺跡の調査は僅かながら報告例が増えつつあるが、断片的なものも多く、一

集落を完掘した例はほとんど無い。このような中で時期はやや下るが、房谷戸遺跡の北西約300mに近接して位置する大環状集落、三原田遺跡の報告が待たれる。

今後の研究に期待されていることは、度々言われる事であるが遺跡毎の集約と分析、それに伴う地域、時間的な変化を的確につかんで行くことが必要で、より巨視的な方向でとらえ直してゆくことが重要であると考える。(小野)

<参考文献>

- 中畦・諏訪西遺跡 1986 事業団
- 三原田城遺跡・八崎城・八崎塚・上青梨古墳 1987 事業団
- 見立・大久保遺跡 1985 赤城村教育委員会
- 勝保沢中ノ山遺跡 1989 事業団
- 分郷八崎遺跡 1986 北橋村教育委員会
- 行幸山遺跡 1987 渋川市教育委員会

2 打製石斧について

1 はじめに

ここでは房谷戸遺跡の打製石斧について細かい観察及び法量分析を中心とする分析を行うことによりその傾向を掴むことを第一の目的とする。その上で、打製石斧の最も本質的な部分であり、ひいては縄文時代中期社会の性格にまでも深い関わりを持つであろうその機能・用途について若干の考究を行うことができればと思うものである。

その前に打製石斧の研究史について簡単に触れてみたいと思う。

2 研究略史

1886年『太古石器考』の中で神田考平氏は打製石斧を農具として解説を加えた。さらに1924年『諏訪史』第一巻の中で鳥居竜蔵氏は打製石斧を農具とする説を支持し、それに基づき縄文農耕についての可能性を述べた。形態分類については大野雲外氏が撥形、短冊形、法馬形の三つに分類した(大野1906、1907)。しかし、なんといっても打製石斧についての本格的な論考は大山柏氏が初めてであろう(大山1927)。彼が報告書の中で実践した短冊形、撥形、分銅形の三形態分類が大野氏の分類を踏まえていることは明らかであろう。この三形態分類は多くの研究者に大きな影響を与え、その後の報告書の中でなされている分類の基本となっているものである。また、大山氏は鳥居説を具体的に提唱し、民族例等を援用して打製石斧＝土掘り具とすることで縄文農耕の存在を主張した。その後、1940年代になると藤森栄一氏は縄文時代中期に八ヶ岳山麓の遺跡では石鏃が少なく、打製石斧が極めて多量に出土することなどに着目し、農耕が存在したであろうことを述べた(藤森1948)。ここでもやはり打製石斧と農耕の関連性が強調されたことは否めない。また、打製石斧の機能については土掘り具であろうとしながらも諏訪清陵高校の実験の結果をあげた上で打製石斧の多用途性を述べている(藤森1970)。この実験結果は打製石斧の機能・用途を考える上で非常に興味深いものであるので後段で改めて触れてみたいと思う。

こうした打製石斧と農耕を関連づけて行こうという

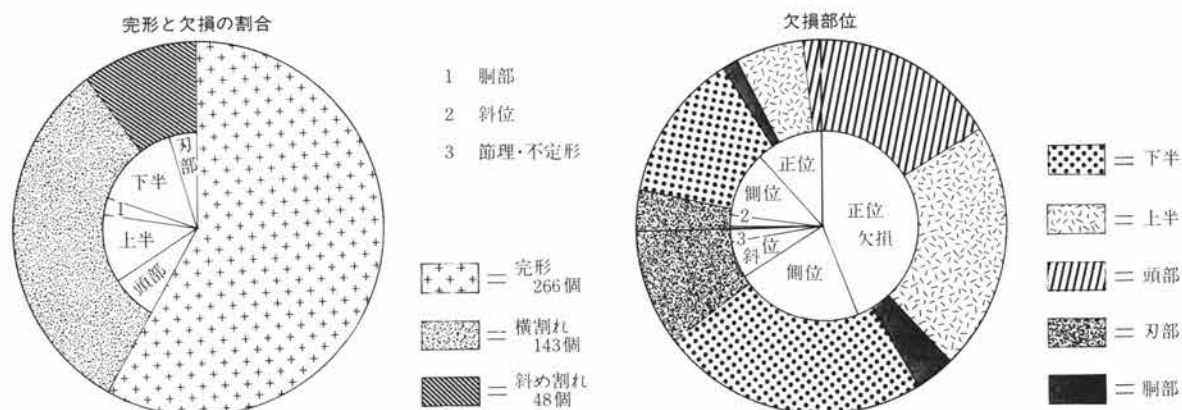
動きに対して農耕を否定しようとするものもあったが、打製石斧＝土掘り具とする説に反対する立場をとるものではなかった。そうしたことを黙認した上で縄文時代中期農耕の存否が論じられていたのである。

そうした状況のまま1970年代後半になると小林公明・武藤雄六氏らによって縄文中期の打製石器について分析・見直しが行われた(小林1977、武藤・小林1978)。それは弥生時代の石器の機能・用途推定をもとにそれらの石器を農作業の各段階に即応する農耕具として比定しようとするものであった。

しかし、その一方では縄文農耕から一旦離れて打製石斧自体に目を向けて、観察・検討することから論を進めようとする動きも盛んになってきた。打製石斧の製作技術論について論じたものとして、白石1970、中島1980、栗島1982、などがある。また、形態分類を細分化し、使用痕の観察及び側面形の状態から「土掘り具」と「伐採具」が存在することを想定したもの(白石他1970)もある。その他に、欠損品に注目して欠損の状態、割れ口、反り、などの諸属性の検討から論を進めようとしたもの(斉藤1974、小田1976、斉藤1978)などもある。小田1976は形態分類を基本的な三区分にとどめて総合的、有機的研究を行ったという点では評価できるものである。また、斉藤1978は打製石斧の頭部、胴部、刃部の三つの部分を細分し、その組み合わせにより形態分類を行った最初のものと言えよう。この分類方法はある意味では縄文時代中期に限らず、先土器時代から弥生時代に至るまで存在する石斧の形態分類に普遍化して用いることも可能であり非常に有効なものであると思われる。

ところで、そうした動きがあるなかで民俗学あるいは比較民族学といった分野から石斧の機能・用途を推定しようという試み(佐々木1971)もみられた。筆者もかつて打製石斧＝土掘り具とする説に疑問を持ち、むしろ土掘り具としては掘り棒の存在を考慮に入れるべきであることを主張したことがあった(松村1982、1983)。

その後、1983年に書かれた斉藤氏の論文(斉藤1983)は現在までの打製石斧についての総決算とも言えるものであり、研究史から分類、用途、製作工程、廃棄、



2-第1図 打製石斧百分率グラフ

分布にまで触れているものである。この中で氏は分類・属性分析基準の統一を呼掛けている。こうしたことの統一が図られれば全国的な時間的空間的統一、客観的な比較検討もできるようになるであろう。

また最近ではただ単に相関関係図を用いるだけでなく、クライスター分析を行うことにより属性分析を行おうとする新しい試みの論考(川本1986)もある。そのことにより石斧の用途推定を行おうとするものである。最近の報告書では相関関係図を用いた法量分析を行ったものや欠損部位について統計化したものなどが一般化してきている傾向がみられる。これはその遺跡の特徴を把握し他の遺跡と比較検討を行うには非常に都合がいいものである。しかし、形態分類については大山氏以来の三分類を基本としながらもそれぞれの遺跡で様々に行われているのでなかなか統一することが難しいものである。それがまたその遺跡の特徴となっていることも否めない。短冊もしくは撥形を呈し左右非対称のものが多い遺跡ではそれを一つの形態として認めざるを得ないであろう。房谷戸遺跡でもやはり左右非対称のものが目立った。

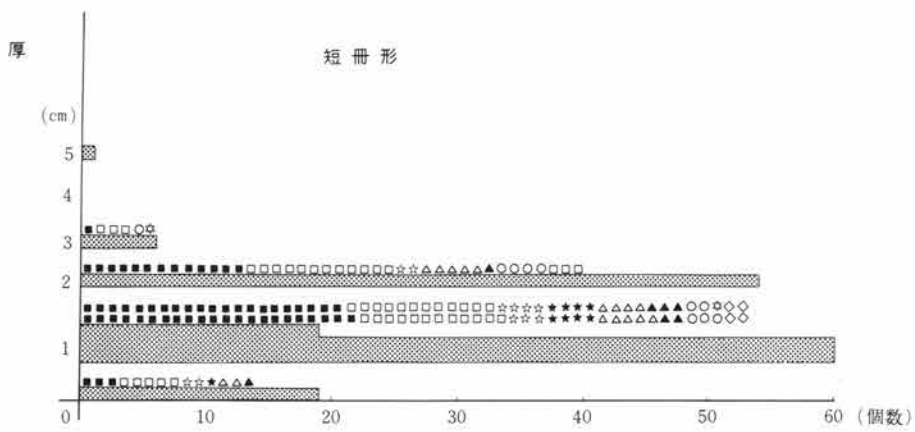
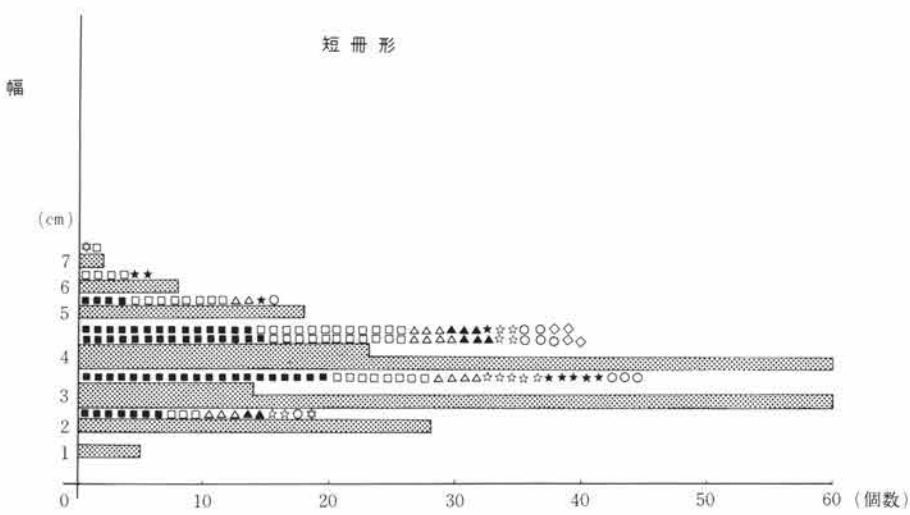
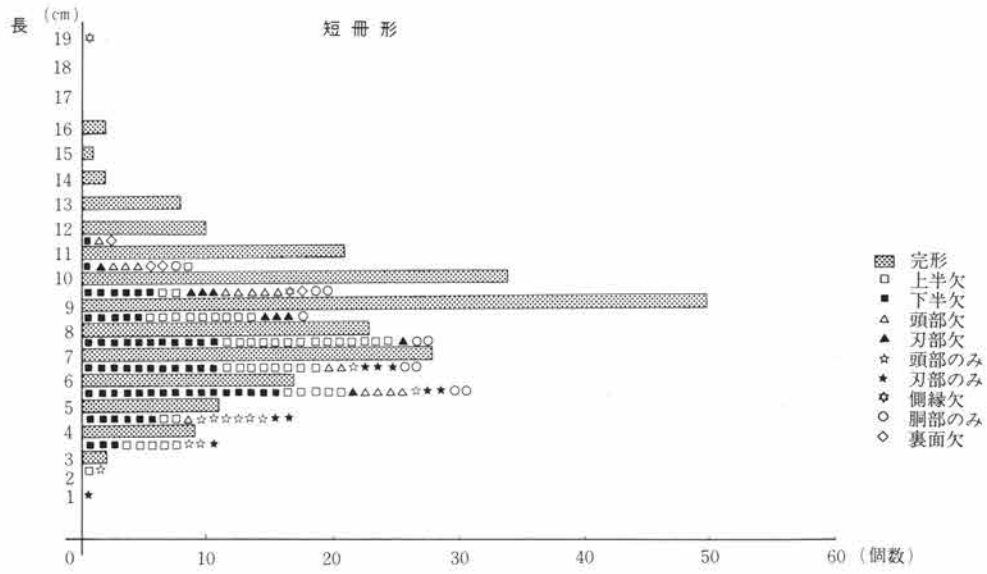
続いて房谷戸遺跡の打製石斧の諸属性についてグラフを用いて検討を加え、その次に関東地方のいくつかの遺跡をアトランダムに取上げて比較検討を行ってみたいと思う。そのことによりに房谷戸遺跡の打製石斧の特徴を良く把握し、さらに縄文時代中期という時代の関東地方に於ける打製石斧の果たした役割・位置を考える一助としたいと思う。

3 房谷戸遺跡の打製石斧について

石質：堆積岩質のものが多く、黒色頁岩を用いているものが全体の8割近くを占める。次いで多いのが比較的細粒の安山岩(色調は灰色が多い)である。片岩質のものは打製石斧の中には認められなかった。このことについては小形品、大形品を問わず同様な傾向であった。また、形態の違いによる石質の違いも確認することはできなかった。群馬県地域で極一般的にみられる石材が本遺跡の打製石斧にも用いられていた。

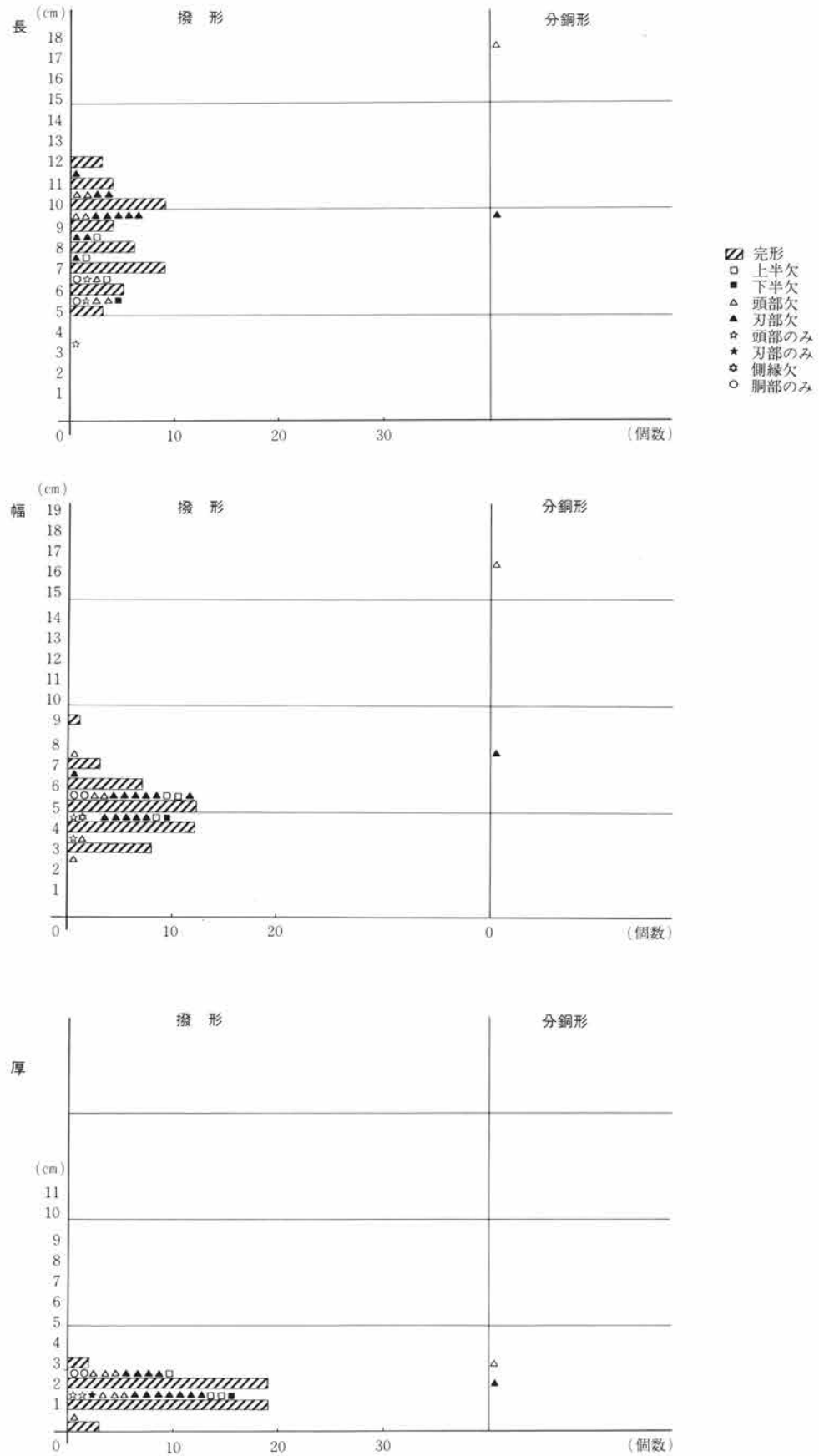
身の反りと素材：身の反るものは彎曲する側に自然面を残す場合がほとんどであった。それは素材が一つの礫ではなく剥片が利用されているところに基因するものと思われる。表裏両面に自然面を有するものは普通の遺跡ではある一定の割合いで入っているものであるが本遺跡の場合にはほとんどなかった。剥片利用のものの中で反るもの反らないものの両方が存在する。厚みも厚いもの薄いもの両方とも片面しか自然面を残していない。このことから必ずしも剥片を素材としているとは言えないが、その可能性が高いことは推定できる。157などはかなり大形の剥片素材を用いたものである。これにも若干ではあるが反りが認められる。

使用痕：使用痕とは使用中にできた使用の痕跡であることは言うまでもないことである。その意味では欠損も使用痕に含めて考えることもできる。しかし、必ずしも欠損は使用中に生じたものときめつけることも難しい。121のように製作途中で欠けてしまったために下半分を再加工してあらたに打製石斧を作り直しているものもある。しかし、多くのものの割れ方を観察す

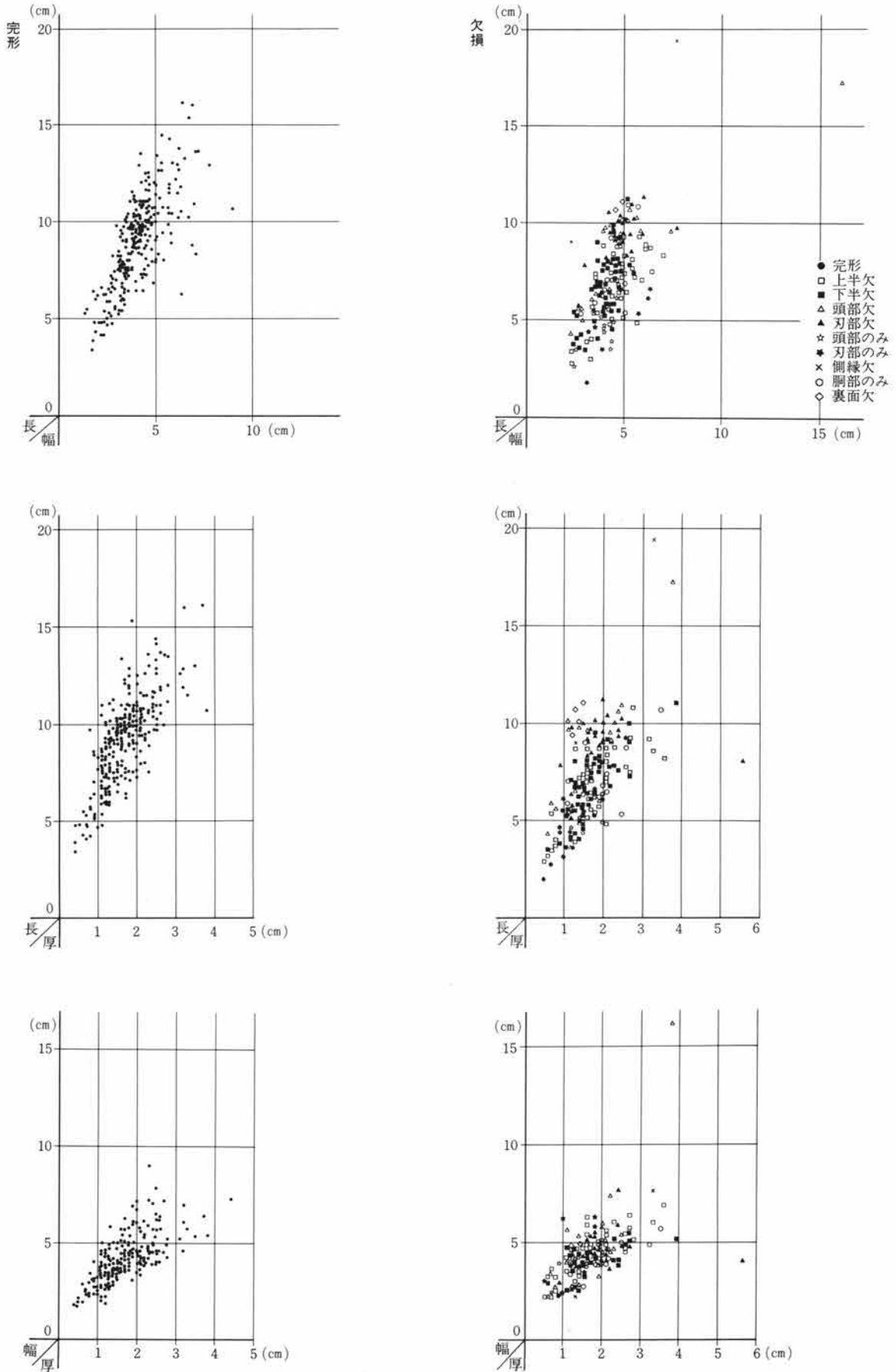


2-第3図 打製石斧法量分析グラフ(1)

第VI章 考 察



2-第3図 打製石斧法量分析グラフ(2)



2-第4図 打製石斧法量分布グラフ

ることによりある一定の傾向を讀取ることも可能であると考えられる。その一定の傾向の中に機能を推定する鍵の一端が内在されているものと思われる。つまり、欠損面に残るリングの方向を観察することにより、その石斧に加わった力の方向を知ることができ、同時にその石斧の運動方向をも知ることができるのである。もちろん欠損面に残る力の方向と反対の方向が運動の方向である（希にそうならないこともあるが、そのことを前提としておく）。

ここで実際に房谷戸遺跡の打製石斧について見てみると総点数457点、うち完形品266点、欠損品191点である。そのうち横割れ143点、斜め割れ48点であり横方向に割れているものが圧倒的に多い。欠損品について胴部より下と上に分けた場合にはその比率はほぼ同じである（2-第1図）。横割れのものについてそのリング方向を見てみるとそのほとんどが表もしくは裏から力が加わった結果割れてしまったことを示すものが多い。その場合には打点はなく、折りといったようなものが多い。また斜めに割れているものでも同様な割れかたを示すものが多い。このことはそれらの打製石斧が縦斧としてではなく、横斧として使用された可能性が高いことを示している。左右どちらかから力が加わったことにより欠損しているものは打点があるものが多い。これは縦斧として使用した結果欠損したものが多いのではなかろうかということは想定できるが、製作途中もしくは使用中に堅いものにぶつかったために欠損したものととも考えられるので難しい問題を含んでいる。

使用痕：使用痕にはただ単に摩滅痕あるいは光沢痕として残る場合と線状痕として残る場合がある。厳密な意味で欠損とは分けてここでは考えてみたい。前者は石質によっては刃部にも認められることがあるが、両側縁及び胴部に存在することが多い。線状痕として残る場合には、主に刃部から胴部にかけて認められることが多い。そして、自然面を有する側、つまり外彎し凸面をなす側に強く残る場合がほとんどであり、両側に残るものもある。このことにより石斧の主にとどちら側の面が対象物に接することが頻繁であったかを知ることができるであろう。本遺跡の打製石斧については表面がローリングを受けたり、風化したりで摩滅し

ているものが多く、使用痕の観察をするのが困難な場合が多い。しかし、いくつかの資料には石斧の運動方向及び対象物を推定させる線状痕が残っていた。大きく分けると石斧の長軸方向に対して平行して付くものとやや斜めに付くものがある。その両者を比較するとやや前者の方が多いようである。左右非対称の平面形がねじれたようなものに斜めに線状痕が付いているものが多いような傾向が認められる。このことは打製石斧の着柄方法とその使用方法に関係が深い。

法量：本遺跡出土の打製石斧の大きさにはかなりのバリエーションが認められた。その中でも157のように欠損品でも長さ17.3cm、幅16.2cm、厚さ3.8cm、重さ1,350.0gもある大形のものもある。長さは短冊形では7cmと9～10cmの間に、撥形では7cmと10cmの間にピークが位置する。幅は短冊形では3～4cmの間に、撥形では4～5cmの間に位置する。厚さは短冊形では1～2cmの間に、ほとんどのものは1cm前後のものが多い。撥形でも1～2cmのものが多い（2-第3図）。こうしてみると全体的な傾向としては短冊形も撥形もあまり変わらないようである。また、重量を見てみると遺跡全体の完形品の平均値は82.2gであり、最小品は6.1g、最大のもの520.0gである。欠損品は先に上げた1,350.0gものが最大である。法量分布グラフを見ると、そのなかでも長さや厚さの相関関係図（2-第4図）を見ると長さ7～8cm以下で厚さ2cm以下、長さ7～8cm以上11cm以下で厚さ1～2.5cm以下、長さ11cm以上厚さ1.5cm以上のものの三グループに分けることができる。特に完形品で長さ4～5cmほどで重さ10gにも満たない小形品の存在が目立った。これらの特別に小形の打製石斧の存在は群馬県三原田遺跡、下海老遺跡、埼玉県台耕地遺跡、東京都新堂遺跡、自由学園南遺跡その他の遺跡で確認されている。これらのものはしばしば非日常的な生活用具、あるいは祭祀に関連があるものというような解釈がなされることもあるが、こうした小形のものでも通常の打製石斧と製作技法は違う点は認められないし、石質についても同様である。刃部を見ると著しい使用の痕跡を残し、鈍く潰れているものもある。特に三原田遺跡例では線状痕が顕著に残るものが多い。

形についてもこれに近い傾向が見られる。

北塚屋遺跡（西井他1985）では長さは10cm前後に、幅は5cm前後に集中し、5cm以下のものが特に多い。厚さは2cm前後に集中し、1～2cmの間が特に多い。重さは50g以下、80～170g、170g以上の三グループに分けることができる。特に50～80gの間に集中する。

東京都自由学園南遺跡（小池他1983）ではほとんどのは長さ8～12cm、刃幅3～6cm、厚さ1.3～2.5cm、重量50～140gの間に入る。石斧総点数は729点で、完形品175点、欠損品554点で圧倒的に欠損品が多い。石斧は定形石器のほとんどを占める。その内刃部欠損品は49.4%、基部欠損品37.1%、胴部残存品13.5%であり、刃部が欠損しているものが圧倒的に多い。

ところで、東京都和田・百草遺跡群（多摩市教育委員会1986）では石器総点数2,216点、そのうち剥片類は76.92%で打製石斧は375点16.92%である。定形石器では打製石斧は73.39%でそのほとんどを占める。

同様に自由学園南遺跡では石器は総点数2,086点、うち打製石斧は729点であり、剥片・チップを除くと定形石器のほとんどを占める。

北塚屋遺跡では遺構出土石器の総点数は1,106点で、剥片・石核を除くと687点で、そのうち打製石斧は全体の39%、いわゆる石器類の中では62.9%を占める。

台耕地遺跡では中期と考えられるものは総点数5,515点で、うち剥片・チップは3,136点、打製石斧は1,852点である。打製石斧は全体の33.6%、いわゆる石器類の中では77.8%とそのほとんどを占める。この遺跡の場合、打製石斧と同様な石材の大形の剥片はほとんどなく、一覧表で剥片類とされたものは黒曜石やチャートの小形のものばかりである。

房谷戸遺跡の場合には剥片類及び使用痕を残す剥片が非常に多く、いわゆるスクレイパーも多い。しかし、定形的な石器類の中では打製石斧は47.3%を占め最も多い。

このように縄文時代中期における打製石斧の数はどの遺跡でも定形石器の中で一番多いのが普通であろう。しかし、遺跡内で石斧その他の石器が製作された事を示す剥片類が非常に多く出土している遺跡とそうでない遺跡があるようである。欠損品についても刃部

が残存しているもの、頭部が残存しているもの、胴部のみが残存しているものの割合を調べるとそれぞれの遺跡で若干の違いが認められるようである。

これまでいくつかの遺跡を概観してきたわけであるが、打製石斧の法量について簡単に整理してみるとこの遺跡でも大きく三つにグルーピングできるようである。そして密集するのは長さ10cm前後、幅5cm前後、厚さ2cm前後である。これがいわゆる中形のものであり、一般的に中期を代表する打製石斧であろう。これを境にしてこれよりも大きいものと小さいものに分けられるようである。ただこれらのグルーピングから著しく逸脱するもの、つまり特に小さいものや特に大きいものがだいたいどの遺跡でも一つか二つはあるものである。房谷戸遺跡のものは全般的にみるとやや小さく、さらに特に小さいものが多いようである。

5 着柄方法と機能・用途について

房谷戸遺跡の打製石斧についてはいくつかの特徴があり、短冊形でも両側縁がほぼ平行するものと左右どちらかに曲がるものがある。これは台耕地遺跡でも認められたものであり、同遺跡では一つの形態として分類している。この形態のものは長軸に対してやや斜めに線状痕が付くものが多いようである。これは着柄方法と密接に関係があるものと考えられる。両側縁がほぼ平行するものは器体に対してほぼ平行に線状痕が付くものとやや斜めに付くものがあったが、前者の方がやや多かった。また、側面形が表裏どちらかに彎曲するものについては彎曲して凸面をなす側に強く線状痕を残すものがあった。側面形があまり彎曲しないものでも比較的薄手のものと厚手のものがある。ちなみに幅対厚さの比率では1：0.40～0.45の間に入るものが96点あり、最も多い。そして、1：0.25～0.5までの間にほとんどのものが入る。1：0.5以上もあるかなり厚いものもあった。単純に厚さ2cm以上は135点であり、29.5%を占める。2.5cm以上は49点であり、10.7%を占める。大きき的には長さ4cmほどの非常に小形のもの、それよりもやや大きく7～8cmくらいまでのもの、それ以上10cm前後のもの、それよりも大形のもの、特に大形のものに分けることができた。

これらのことを一応再確認しておいてから着柄方法

及び機能・用途について考えてみたいと思う。今日の我々が打製石斧として分類しているものには様々なものが含まれているものと思われる。単純に大きさ一つを取り上げてみても極小さいものから極めて大きいものまで様々のものがあるわけであり、これらがすべて同じ機能・用途を果たしたとは考えにくい。さて、現状では打製石斧が土掘り具であるとする意見が大勢を占めている。一見、疑問の余地がないかのごとく考えられているが、果たして如何であろうか。打製石斧を見て土を掘る道具として適さないと感じるのは筆者だけであろうか。打製石斧よりもさらに有効な道具は他になかったのだろうか。今日残存していないものではあるが、掘り棒を想定することは困難であろうか。そのような考えを裏付ける興味深い実験データがあるので少し触れてみたい(藤森1970)。それによると打製石斧を柄につけて掘る場合と、何も付けずに棒で掘る場合では後者は前者の半分の労力ですむようである(ただし、土の掻き出しは手で行った場合である)。また、伐採具として使用した場合の実験データもあり、触れてみたい。大形で、刃が厚く、頑丈で幅広の打製石斧を使用しており、それによると直径10cmもある栗の立木さえも5分で切断したという。つまり、木を切ることも可能なのである。しかし、現実には伐採具として使用された痕跡を見出すのはかなり困難である。それは石材にもかなり影響されている。やはり、いわゆる極一般的な大きさのものの刃部を中心に認められる線状痕等の使用痕については土との接触を考える方がいいのではなからうか。すでに筆者は打製石斧の用途について除草具としての可能性があることを指摘したことがある(松村1982)。除草具としては、柄を付けた場合と直接手で持って使用する場合が考えられるが、一概に断定し難い。両側縁に顕著に認められる調整等も柄の装着のためばかりとは考えられない節もある。この場合、除草具=鎌ということではなく、草を取り除くのが目的である以上必ずしも直刃を有する必要は薄く、むしろ、抜根に対して強い形態を有する方が優先すると思われる。こうして再び打製石斧を眺め直してみると、除草具としての形状を十分に備えていることが認識できる。^(註1)山野での雑草類の繁茂、成長は著し

いものがあるし、集落も油断すれば、たちまち雑草に覆われるであろうことは想像に難くない。^(註2)従ってきわめて多量の除草具を必要としていたのである。中形の側面形が彎曲するものについては着柄方法はおそらく「く」の字状の柄を用いてその先に鋏状につけて使用されたものと想定される。それは刃部に残った使用痕が裏付けている。比較的側面形が直線的で身の薄いものは真直ぐな棒状の柄の先に鋏状に付けて使用されたものと推定される。ただし、柄擦れを示す線状痕を有する打製石斧は本遺跡の場合には一点も認められなかった。また、左右非対称のものについてはたまたまできたのではなくてある目的をもって意識的に製作したものではないかと考えられる節がある。この形態の石斧は「く」の字状の柄を用いて横斧状に付ける場合と縦斧状に付ける場合が考えられないだろうか。使用痕が長軸に対して斜めに付くことからするとどうも後者の場合が多いように見受けられる。また、欠損の仕方を見ると表裏どちらかから力が加わって折れているものが多く、しかもはっきりした打点を持たないということからすると鋏状もしくは鋏状に付けて浅く突刺してしゃくり上げるような使用方法が考えられるであろう。この辺からしても除草具として使用された可能性が高いものが多いことが推察がつく。

ところで、ほぼ中形と分類できる大きさを持つものの中でもあまり身が反らないでなおかつ肉厚のもの一群がある。こうしたものでも土との接触を考えざるを得ない使用痕を残すものも多いが、中にはそうした痕跡をまったく残さないものもある。着柄方法としては縦斧状と横斧状の二つが考えられるが、前者の場合長軸に対してやや斜めに線状痕が付くことが多く、後者の場合には長軸に対してほぼ平行して付くことが多い。また、刃先はいわゆる両刃の場合であればどちらにも使用することは可能であるが、片刃の場合には縦斧としては使い難い。欠損の仕方を見ただけでは縦斧と横斧の推定しかつかないが、こうしたことを考え合せると肉厚で身のあまり反らないもので土との接触を示すような使用痕が付いていないものは斧として使用された可能性が高いと考えられる(打製石斧の場合、石質により使用痕が残り易いものとそうでないものが

あるので一概に断定はできないが)。いままでは主に短冊形と撥形の打製石斧についてであったが、この次に分銅形の打製石斧について着柄方法とその機能・用途について考えてみたいと思う。鋏状もしくは鋤状の着柄方法というのは分銅形のものについてはまったくあてはまらず、身に対して真中に柄が直交するような方法を考えるのが妥当と思われる。また、民族例をみると直接手に持って使用する方法もあるようである。この形態のものについては本遺跡では、たまたま柄擦れ痕もしくは手擦れ痕を残すものは見当たらなかったが、一般的には、えぐれ部に光沢痕や線状痕を残すものが出土することが多い。このこともこうした使用方法の想定が正しいことを裏付けているものと考えられる。この場合には横斧のように長軸に対して平行に使用痕が付くことはほとんどなく、むしろ長軸に対して斜めに付く場合が普通であろう。このような形態をとるものでもその刃部に認められる使用痕の状態は他のものとほとんど変わることはなく、やはり土との接触を考えた方がいいものが多いように思われる。縄文時代中期に栃木県では分銅形のものが他の形態のものよりも圧倒的に多く、群馬県では短冊形や撥形のものがほとんどであり、分銅形はかなり少ないわけであり、当時群馬県と栃木県でそれほど大きな気候の違いや植生の違いがあったとは考えにくい。従って形態の多さの違いが必ずしも生活の違いを反映していると短絡的に考えることはできないであろう。身に対して柄を直角に付けて使用する場合には深く身を土に食込ませることは難しい。従って、土掘り具としては非常に不向きであると言わざるを得ない。しかし、土で擦れたような線状痕は認められるものが多いとすれば、この条件を満たす用途を想定すればまさに除草具として使用された可能性が高いと言えよう。また、本遺跡で分銅形として分類した中に途中で欠損している大形のものがある。これなどは重すぎてちょっと土掘り具としては使用不可能に近いと言える。これなどは刃部に土との接触によると考えられるような線状痕は認められず、おそらく重量でもって木を倒すような斧として使用されたのではなからうか。その他に本遺跡からは長さが4 cmほどの非常に小形のものも出土しており、こ

れらについてもよく見ると刃部に線状痕や刃潰れ等の使用痕を起こしているものもあり、実用品であったことがわかる。もう少し具体的に類例を集め、その欠損状態、使用痕（光沢痕、摩滅痕、線状痕、微細な刃潰れ等）を観察する必要があるだろう。その後もう一度この特に小形の一群については検討してみたいと思う。

6 今後の課題

本論では縄文時代中期に爆発的数でもって存在する打製石斧についてその遺跡内での他の石器に対して占める割合を出し、各遺跡間での諸属性対比を行うことにより、遺跡の特徴を掴むことを一つの目標としたわけである。それを行うことにより、同時に縄文時代中期の打製石斧の全体像を掴むことであった。(分析・まとめについては時間の制約と筆者の力量不足から十分なものはならなかった。)さらにその上で縄文時代中期に特徴的である打製石斧について機能・用途を考えてみることにした。かなり大まかかつ大胆にはあるがその機能・用途については推定を行ってみたわけであるが、それを裏付けるデータはまだ決して十分なものとは言えない。打製石斧に残された使用の痕跡、つまり欠損、刃潰れ、光沢痕、摩滅痕、線状痕等について十分な観察を行い、数量的に保証されたものとしていかなければならない。こうしたデータの積重ねがまだまだ必要と考えられる。しかし、報告書によってはこうした使用痕等についてまったく書いていないものも多く分析の対象となりえないものも多いのも事実である。それは石器の数量、石器一覧表や法量分布グラフについても同様であり、中にはこれらのことにまったく触れていない報告書もある。少なくとも法量分布グラフくらいは載せてもらいたいものである。そうでないと客観的比較検討はできない。形態分類については従来の短冊形、撥形、分銅形を踏襲している報告書が多く、筆者の個人的見解としては現在のところあまり細かく分け過ぎない方が打製石斧の特徴を掴むには都合がいいように思われる。むしろ、打製石斧の機能・用途を掴むには使用痕跡や器体に対する厚み・器体の反り等の観察、法量分析やクライスター分析を行うことなどが必要となってくるものと思われる。こうした報告書は最近増えてきてはいるがまだまだ少な

いと言わざるを得ない。これも今後の大きな課題である。こうしたことが報告書の中で一般的となってくれば縄文時代中期社会の実態を解明する緒にもなる打製石斧の機能やそれよりもっと具体的な何に使ったかという用途までも解明できるようになるのではなかろうか。

うか。それと同時に打製石斧と同じ石材を用いて途中まで同じ作りかたをする大形粗製石匙、大形スクレイパー、剝片類についても製作技法から使用痕に至るまで分析していく必要がある。この点に関しては今後に残された課題は大きいと言えよう。（松村和男）

- 注1 台湾紅頭嶼ヤミ族では1938年頃まで打製石器の農具を用いていた。その中でも除草具としてはピーラスと称する日本の縄文時代の分銅形の打製石斧に極めて類似した石器を使用していた(奥田他1941)。それは柄を付けずに手で握り、畑地を開墾する際に草(特に萱など)の根を取除くのに用いられていた。珪質砂岩製の方角状片刃の打製石斧は柄を付け、手斧のようにして、これもまた開墾の際に萱の根を取り除くのに用いられていたという。また、播磨では鉄製手斧鎌は雑草をかじきとったり、水田の稲の切り株を掘りおこしたりするのに使用していた(松本・加藤1968)。これは鉄製であり、しっかりした柄さえ付ければ開墾の際の除草具としても使用できるものであろう。
- 注2 焼畑農耕の移動の要因は一般的説明によると特に地力が衰えた為だと言われるが、最も焼畑の継続を困難にする原因は、雑草の繁茂である。焼畑における最も重要で、労力のかかる仕事は除草なのである。九州山地では、6月中旬から7月中旬に「一番草」、8月上旬から9月上旬に「二番草」といって年2回の除草を行うが、二回目の方が特に手間がかかるようである。それでも、畑地は毎年約10~20%雑草により狭められ、4年目の耕地で1年目の半分以下になってしまう。これほど雑草の力というものは強いものである。仮に、縄文時代に焼畑があったとしても、やはり雑草が最大の敵であったことは疑い得ないであろう。

引用参考文献

- 神田考平1886『太古石器考』
鳥居竜蔵1924『諏訪史』第一巻
大野雲外1906「石斧の形式について」『東京人類学会雑誌』21-24
大野雲外1907「打製石斧の形式について」『東京人類学会雑誌』22-25
大山柏1927「神奈川県新磯村字勝坂遺物包含地調査報告」『史前学研究会小報』第1号
藤森栄一1948「日本焼畑陸耕の諸問題」
藤森栄一1970『縄文農耕』学生社
小林公明1977「縄文中期八ヶ岳南麓における農具としての石器」『信濃』24-4
武藤雄六・小林公明他1978「曾利」長野県富士見町教育委員会
白石浩之1970「日野吹上遺跡」日野市吹上遺跡調査会
中島宏1980「伊勢塚・東光寺裏」埼玉県遺跡発掘調査報告書第26集
栗島義明他1982「南大塚遺跡」寄居町教育委員会
斉藤基生1974「平山橋遺跡」東京西線及び北八王子変電所遺跡調査会
斉藤基生他1978「貫井」小金井市文化財調査報告5 小金井市教育委員会
小田静夫1976「縄文中期の打製石斧」『ドルメン』10 JICC出版局
佐々木高明1971「稲作以前」日本放送出版協会
松村和男1982「<打製石斧>について」『下南原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第8集
松村和男1983「打製石斧について」『台耕地(Ⅰ)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第27集
斉藤基生1983「打製石斧研究の現状」『信濃』35-4
川本素行1986「打製石斧の分析」『古代』81 早稲田大学考古学会
多摩市教育委員会他1986「和田・百草遺跡群」多摩市埋蔵文化財調査報告10
多摩市教育委員会・多摩市遺跡調査会1985「和田・百草遺跡群、落川南遺跡」多摩市埋蔵文化財調査報告8
塚本師也他1987「稲荷塚・大野原」栃木県埋蔵文化財調査報告第84集(栃木県文化振興事業団)
松村和男1986「石器について」『下海老遺跡』群馬県教育委員会
西井幸雄他1985「北塚屋(Ⅱ)」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第48集
小池聡・成瀬晃司・山口剛志・千葉啓蔵1983「打製石斧について」『自由学園南遺跡』自由学園
奥田或・岡田謙・野村陽一郎1941「紅頭嶼ヤミ族の農業」『大南洋・文化と農業』太平洋協会編
鹿野忠雄1946「紅頭嶼ヤミ族と石器」『東南亜細亞民族学先史学研究』矢島書房
野村陽一郎1969「紅頭嶼ヤミ族の経済的および社会的構造に関する研究」『岐阜大学農学部農業経済学研究室研究業績』第1号
松本正信・加藤史郎1968「手斧鎌考」『考古学研究』15-1 考古学研究会
戸沢充則1979「縄文農耕論」『日本考古学を学ぶ』2 有斐閣選書
戸沢充則1983「縄文農耕」『縄文文化の研究』2 雄山閣
鈴木次郎1983「打製石斧」『縄文文化の研究』7 雄山閣
栗原文蔵1984「大野雲外論」『縄文文化の研究』10 雄山閣
宮坂光昭1982「縄文中期農耕論」『季刊考古学』1 雄山閣
麻生敏隆・木津博明・桜岡正信1986「上野国分寺・尼寺中間地域(Ⅰ)」群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会

3 房谷戸遺跡における縄文時代中期前半の土器様相

1. はじめに

房谷戸遺跡では縄文時代中期前半の遺構から、多量の遺物が出土した。出土土器は、限られた期間の居住を示唆するように、中期前半に集中する。

従来、本遺跡が占地する良好な洪積台地は、概して多時期にわたる居住がなされ、我々が調査によって手にすることができる資料も複合しており、遺構配置、遺物の帰属などに困難な作業を強いられるのが通常である。しかし、本遺跡は中期前半を主体とした集落であったらしく、また、後世の古墳時代などの遺構もF・P面での掘り込みのため、縄文時代の住居址、土壇などの遺存は良好であった。短期間の居住ではあるが、出土土器も豊富であり、個体として図示できた土器は400個体を超える。

このように、本遺跡は中期前半の好資料を呈示する極めて重要な遺跡で、出土土器の分析によって、当地域の該期土器様相を明らかにしなければならないだろう。しかし、本遺跡の該期土器群の特徴として、複数型式の混在が著しく、これまで試みられてきた関東地方の土器編年や研究では分析が困難なものが見られる。

ここでは、房谷戸遺跡出土の中期前半に比定される土器を集成し、各群（凡例参照）の特徴を説明し、当地域の該期土器様相を凡そではあるが明らかにしたい。

説明にあたり、各群別に土器を集め、土器面の分帯方法、区画方法、主体的な文様要素を主眼とした細別を試みた。但し、細かな文様要素までは分析が及ばなかった。また、伴出関係は良好なものに限り、文中で指摘を行った。出土状態などを加味すると、より確実な遺跡相が浮かびだされるが、紙数の都合もあり、遺構を含めた分析は機会を改めたい。説明はⅢ群～Ⅶ群に比定される土器に限るが、本遺跡の他、新治村新巻遺跡⁽¹⁾、月夜野町十二原遺跡Ⅱ⁽²⁾、赤城村三原田遺跡⁽³⁾、高崎市雨壺遺跡⁽⁴⁾より、数個体を抽出掲載し、参考資料とした。なお、これらの土器の縮尺は不統一である⁽⁵⁾。

2. 分類

Ⅲ群（第1～4図） 阿玉台式土器である。最近県内でも、多くの遺跡で出土例が報告されている。特に開発の集中した北毛地域をはじめ、利根川流域で濃密な分布を示すようである⁽⁶⁾。房谷戸遺跡でも出土量は多く、21号住居址、40号土壇にまとまった出土を見る。

1類 阿玉台Ⅰb式に比定されよう。単列の結節沈線を施し、口縁部は大きな波状を呈さず、平縁および平縁を維持し突起を付す。口縁部に内面施文するものは少ないが、この手法は、次代のⅡ式に至っても残存するようである。

2類 複列の結節沈線を施すⅡ式に比定されるが、15は1類14に見られた□状の突起を付し、Ⅰb式の要素を残す位置にある。Ⅱ式は二分される特徴が考えられているが、本類を取って分けるとすれば、頸部の文様帯を持たない16、18は新しい要素なのかもしれない。しかし、複列の結節沈線を隆線に沿わせる手法は本遺跡では主体であり、明確な二分は避ける。口縁部文様帯の強い意識、口縁形状は波状山形を呈するものと、扇状把手を持つものがある。頸部は無文帯ではなく施文し、胴部は1帯の文様帯が設けられる。口縁部の4単位に呼応するように胴部も同様な処理をする。但し、勝坂式に見られる区画による分割ではなく、垂下隆線一懸垂文によるものである。また、大型品の存在も特徴的である。群馬県内でも出土例は多く知られるが⁽⁷⁾、第1図では新巻遺跡出土の1のみを図示した。

3類 本類もⅡ式に比定される。文様要素が少なく、口縁部文様帯に強い分帯意識が反映されないもの。口縁部の突起も尖鋭な小突起が付される程度である。23、24は1図3に近似する。25、26は1図2と同類型であろう。25は複列の角押文を2段に施し、口縁部文様帯区画と考えられるが、隆線などによる強い意識ではなさそうである。29、30は押圧を施す垂下隆線を共通としたが、本類に限らず2、4類にも見られる。ただこの2個体は、沈線を主な施文とし、次に述べる4類にも共通する。

4類 勝坂式の影響を受けたⅢ群である。本類はいわゆる勝坂式と阿玉台式の中間形態ではなく、あくまで阿玉台式の属性を強く持ち、なお且つ東関東的な様

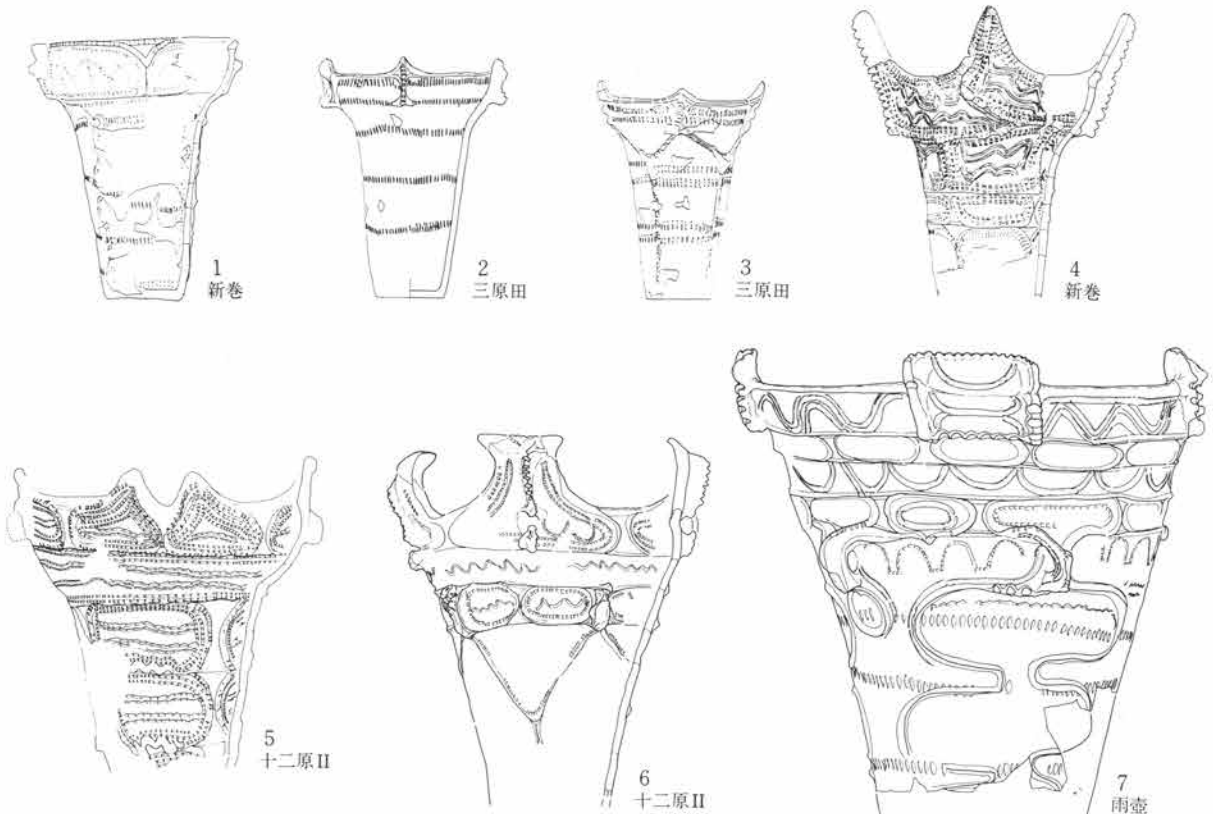
相ではなく、勝坂式的な様相を兼ね備えるものをまとめた。31の口縁部文様帯内に見られる瘤状の小突起、胴部文様帯では楕円状の区画が特徴的であり、2類20にも見られるように、当地域独自の区画であろう。32～34は胴部に楕円枠配列が設けられる。多段の文様帯を口縁部に持つ33などは勝坂式的様相といえよう。32は頸部に縦位沈線による方形の区画を設け、胴部文様帯にはし状のモチーフが配され、阿玉台式にない特徴である。31～35はこの他、隆線に沿う結節沈線が沈線化しており、新しい要素なのかもしれない。結節沈線で同様な分帯手法を見せるものとしては、この1群は1図4～6に有るように県内でも豊富に出土するようである。6は胴部の区画内の結節沈線が単列施文で口縁部の複列と手法を異にし、分析が難しい資料である。7は幅狭の文様帯が頸部に集中し、楕円区画が配される。□状の突起が付されるがII式であろう。

また、36は橋状把手を付し、特異な顔付きである。37は、本来は本類には包括はできないIII式であろう。38もIII式と思われ、勝坂式の影響を受けたものであろう。

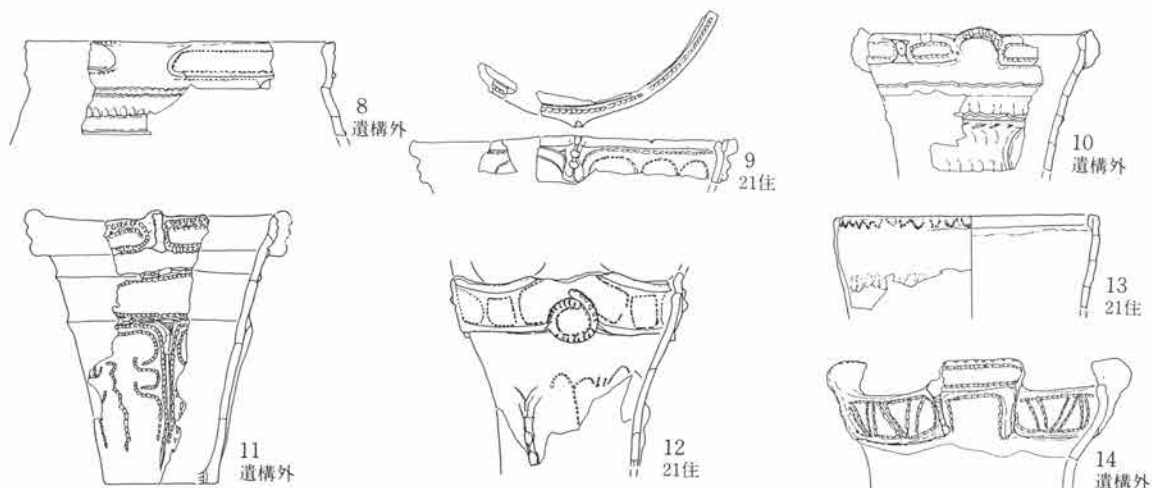
5類 この類には阿玉台式系統の土器であるが、他

に類例を見ず、時間幅はあるが一括して説明した。39は1帯の文様帯とも捉え得る隆線の貼付で結節沈線を充填する。耳状の突起や、1帯の文様帯などII式併行でも古手の顔付きではある。40は口縁部文様帯の分割は明確であり、垂下する隆線が分岐し、結節沈線を多用することから阿玉台式とも思われるが、胴部の2段の橋状把手、胴部文様帯の沈線による小区画など勝坂式的な様相もあり、両者の特徴を併せ持つ土器といえよう。40号土壌出土であり、19、21、28などと伴出している。41は、意匠文を施した本群である。40にも見られる細沈線などが特徴であり、隙間を三叉状に処理する手法などは後述するIV群2類の影響であろうか。42、43は縦位の太めの沈線による施文を主に行うものである。V群の影響か。44は横位沈線群による分帯で、中間を縦位結節沈線が充填されるため、III群に包括したが沈線による分帯はIV群2類に見られ分類は難しい。

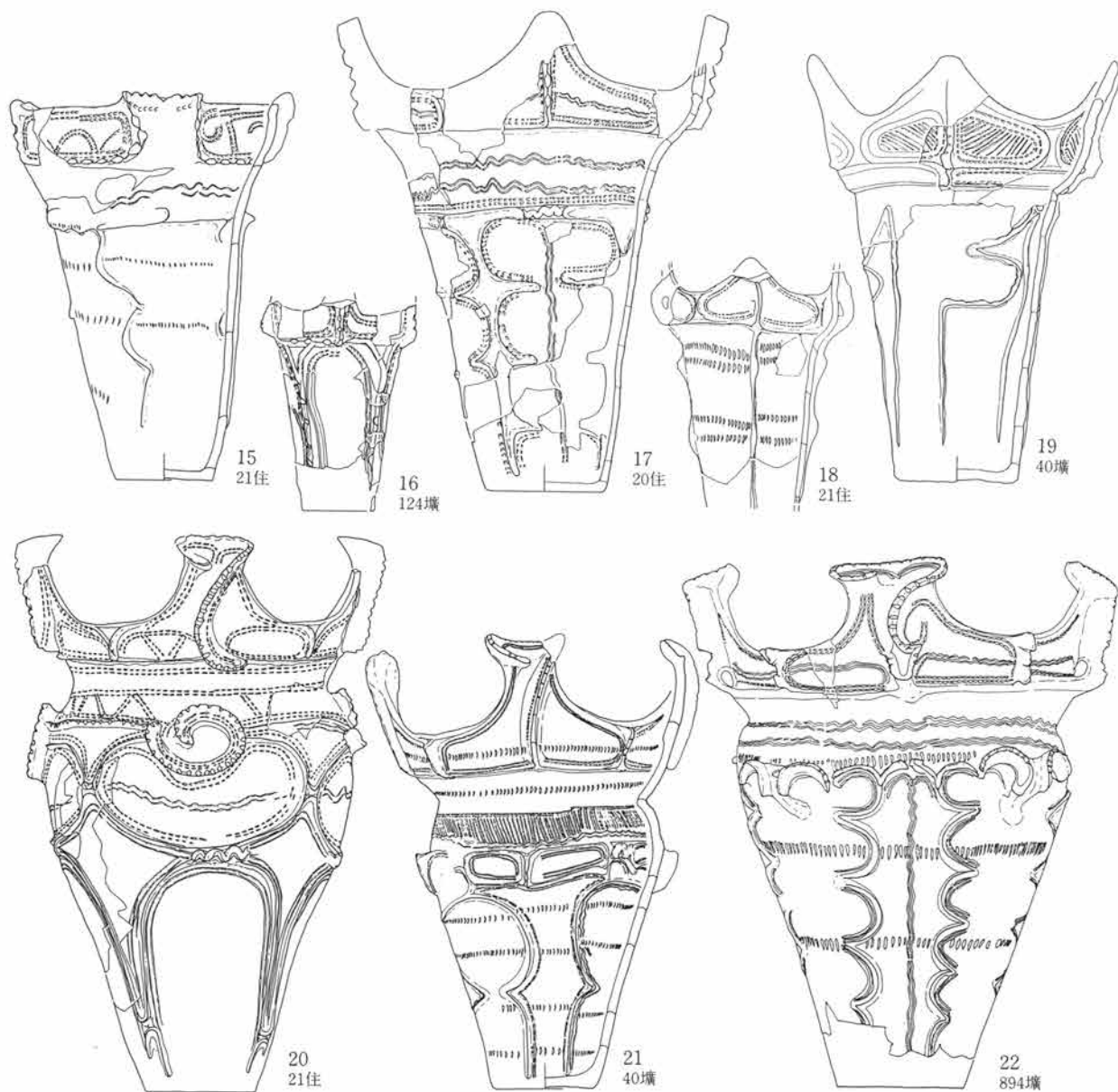
本類はこのように分類が困難なものを一括しているため、好資料が並ぶがそれゆえ、多くの問題点を内包している。阿玉台式土器については、西村編年⁽⁸⁾などによるが、近年各地で調査例が増加し、類例、近似例は広範囲に広がる。故に、当地域のように地方色の強い



3-第1図 県内の阿玉台式土器（III群）

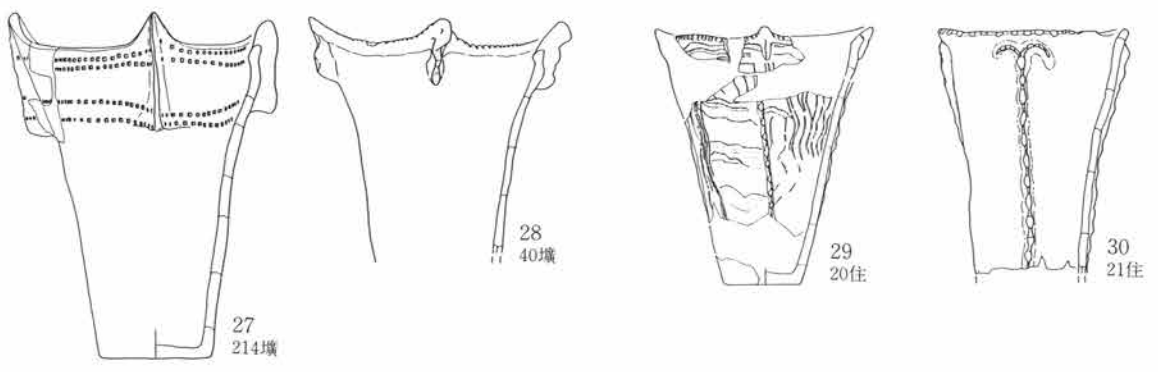
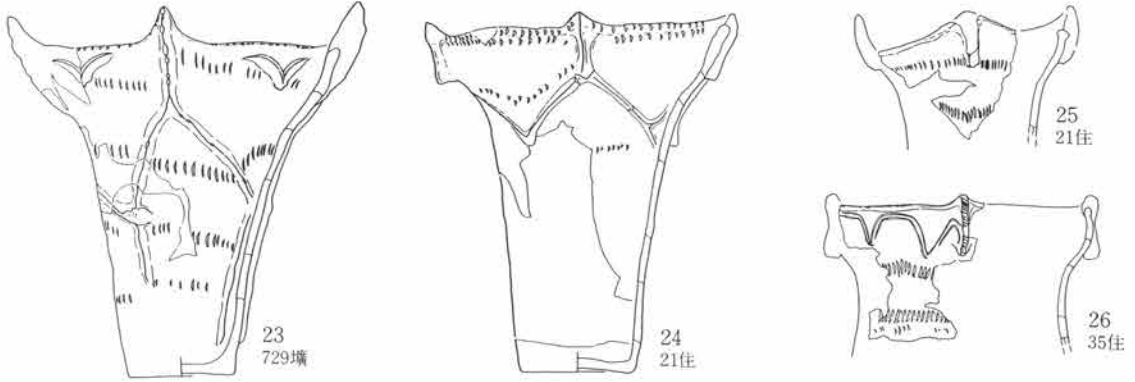


III群 I

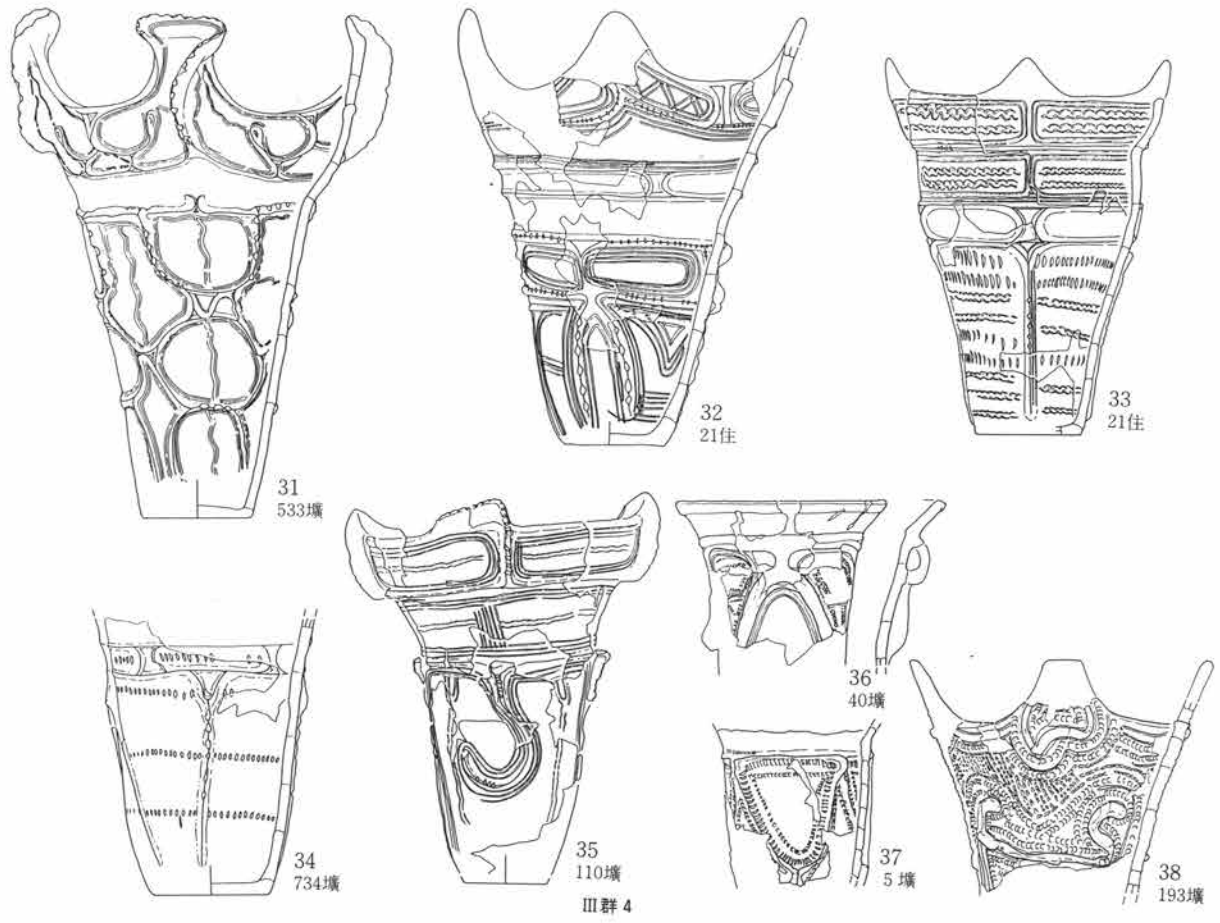


III群 2

3-第2図 III群土器

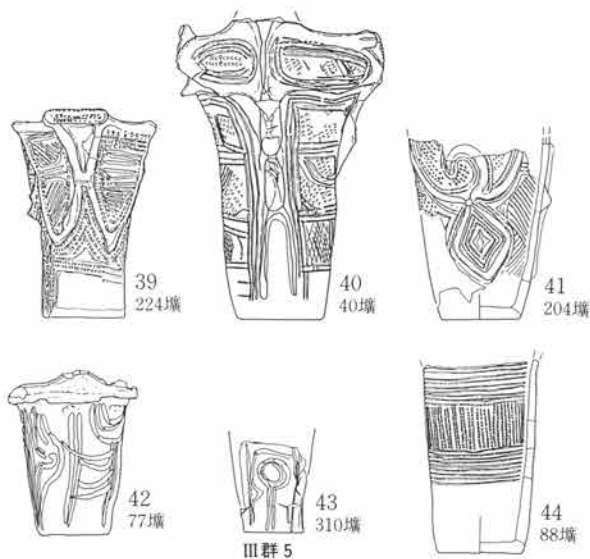


Ⅲ群 3



Ⅲ群 4

3-第3図 Ⅲ群土器



3-第4図 III群土器

阿玉台式土器が見受けられるのは当然である。これまでの編年案などを一歩進めた分析が必要であろう。従来は貝層の層序を重視し、各文様要素の変遷を加味した時間変遷が考えられていたが、今後、山麓部や丘陵部の阿玉台式土器の類例の増加により、視点を変えた論稿が必要であろう。本来ならば本項で試みなければならない群馬県における阿玉台式土器の変遷の提示については、房谷戸遺跡の対岸に位置する三原田遺跡における阿玉台式土器の様相、及び県内の未発表資料などを加えた資料の充実、また、IV群4・5類のような勝坂系の土器群の影響、後述するV群のような在地系の土器への影響などの分析を慎重に行わなければならない。残念ながら今回は本遺跡の阿玉台式土器の様相を述べる段階で考えをまとめた。

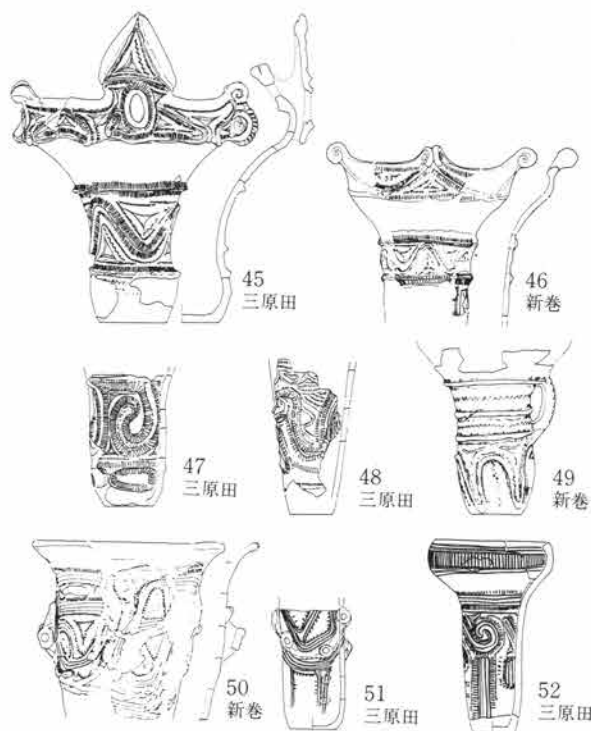
本遺跡における阿玉台式土器は、その出土量、大型の優品の存在などから、集落のある一時期の主体型式といえよう。その中核は阿玉台II式であるが、勝坂系の影響や在地独自の文様施文手法が見られ、従来の本型式の理解から逸脱する個体の存在もあろう。これは、本遺跡の地理的位置と他型式との存在時期が重複することなどが一因として考えられる。しかし、本遺跡の阿玉台式は波状4単位を維持するなど、あくまでも阿玉台式であり、他型式の影響は種々見られても文様分割、単位設定などに強い規制力を持ち、常にある一隅を占めていたのではないだろうか。阿玉台式土器の優

位は本遺跡において強力なものであったといえよう。

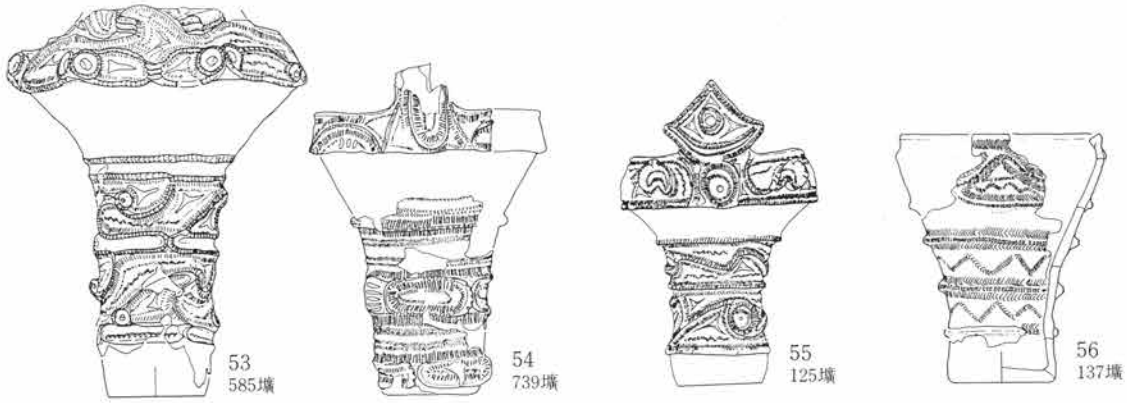
IV群(第5~7図) 勝坂式系の土器群である。敢えて、本型式に系統ともいえる“系”を付した理由は後述するとして、本群の出自は勝坂式であることは推定できよう。県内ではまとまった出土は比較的少ないが、該期の遺跡に数個体ずつの出土が見られる。その様相も地域によって若干異なり、古段階とされる新道式系を主体とする遺跡⁽¹⁰⁾や、勝坂3式に併行する井戸尻式系統を多く出土する地域⁽¹¹⁾もある。本遺跡は前者の古段階である新道式系統の勝坂式系の土器が多く出土しており、阿玉台I b、II式との伴出関係などに興味が集る。ここでは4段階に分類したが、時期的な序列は、1、2類が古段階の土器群、3類の一部と4類がやや新しい要素を具備する3式併行と考えられよう。

1類 新道式系統でキャタピラ文、ペン先状刺突文を多用するもの。

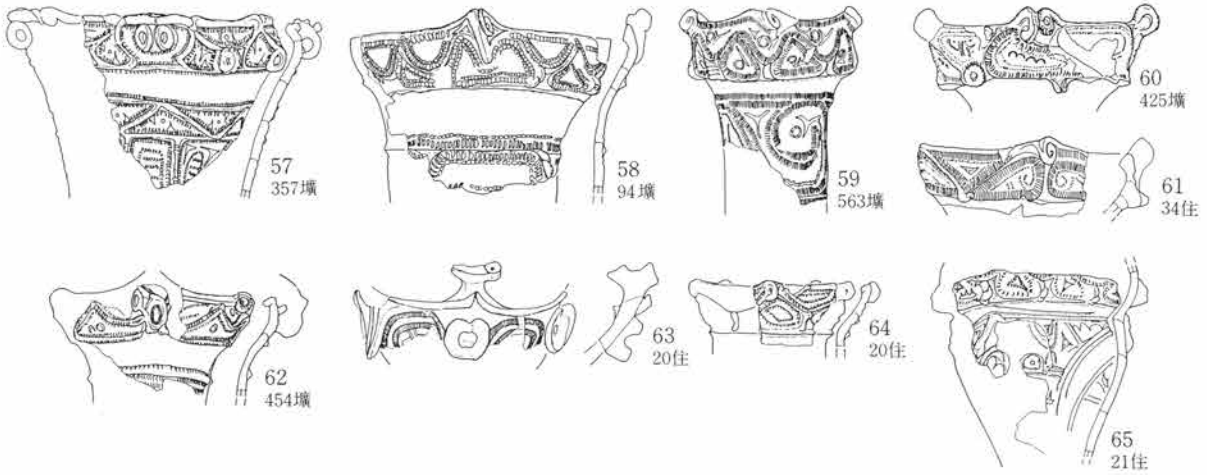
a(第6図53~56)；胴部文様帯を横帯文区画が主体とするもの。口縁部に突起を付す例が多く見受けられ、また、胴径が細く不安定な観を受けるもの(53~55)は特徴的である。56は口縁部文様帯に三角枠の交互配列を設け、胴部文様帯も山形状の波状文が簡素に施さ



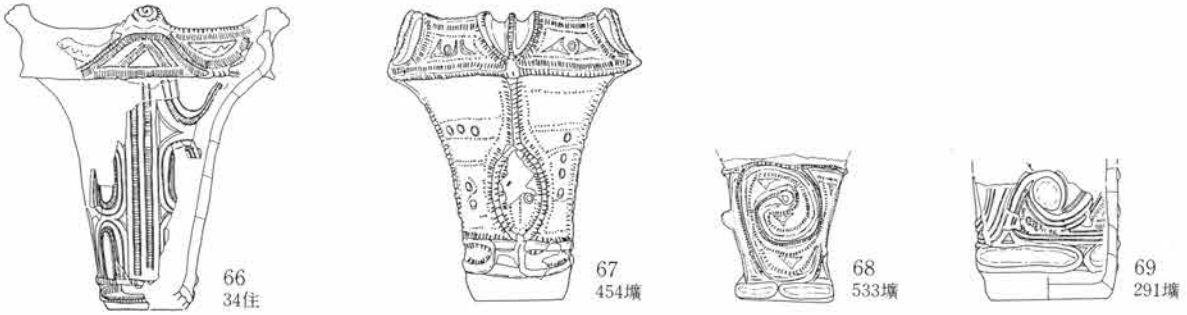
3-第5図 県内の勝坂系土器(IV群)



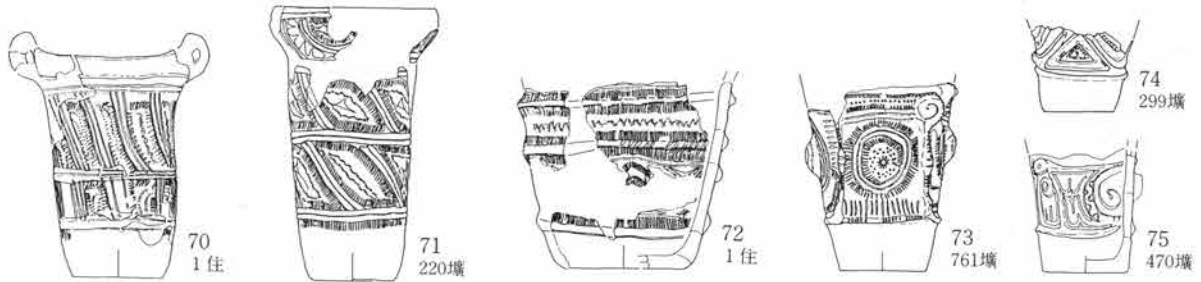
IV群 | a



IV群 | b



IV群 | c



IV群 | d

れることから2式的な要素を多く持つ。53は585号土壙の出土で、後述する126,150,167と伴出した。

b (57~65)；口縁部文様帯は三角枠と半楕円枠の交互配列を基本とし、59のように胴部文様帯が1帯になるものと思われるが、図示できるものは殆どが口縁部のみの残存なので判然としない。しかし、全体観は南関東的な影響が強く、純粋な勝坂式土器に近いといえよう。その中で63~65は系統の違う顔付きを呈しており、特に64は隆線脇に複列の角押文が施されることから、阿玉台式的な文様要素の共伴と考える。

c (66~69)；胴部文様帯が1帯の文様帯で設けられ、最下段に楕円枠を配列する幅狭の文様帯を設けるもの。66,67のように、頸部に文様帯を持たないものもあり、a, bとは分離をしたい。しかし、口縁部文様帯を頸部隆線で画す手法などは共通する要素といえよう。67は5単位の構成、68は2A+1Bという不規則な単位構成を取り、文様単位の規制は強くはなかったのではないだろうか。68は533号土壙でIII群の31と伴出する。d (70~75)；底部に無文部を設けるもの。頸部の無文部を阿玉台との相互影響とすれば、胴部下半に横位隆線や横位沈線で明確に分帯し、意識的な底部無文部を設けるこの一群は1類の特徴といえよう。故に1類a~cにも53,55,56,67,69などに底部無文部が見られる。胴部文様帯下端の強い分帯線が勝坂式の一特徴と考えられる。70,71は平行四辺形の区画が配列し、同系統のものである。72は横帯文区画、73は4単位区画の構成で、144と伴出している。74は三角区画の交互配列が胴部文様帯に設けられる。75は押し引き文を施さず、1類には包括されないともいえるが、底部の無文部が明瞭であり、後述するV群の影響を受けたIV群1類と考えた。

2類 IV群1類と対極をなすように一群を占める新道式系統の土器であり、⁽¹²⁾ 截痕列、刺痕列を文様要素として多用する。

a (76~83)；直線的な胴部形態を呈するもの。76は大型品で、口縁部に突出する幅狭の無文部を持ち、頸部~胴部に橋状把手を付す特異な形態を呈する深鉢である。胴部文様帯は方形を基調とした小区画が多段に重ねられるが、突起を中心とした隆線の動きも特徴的で

ある。20号住居址出土で、III群の17,29と伴出している。77~79は横帯文区画を多段に設ける。区画沈線に沿って截痕列が施され、半肉浮彫の手法で蛇行文が沈刻される。80~82は方形区画を基調とした胴部文様帯構成を取る。80は口縁部文様帯に縦位沈線が施される。77はIII群34と734号土壙で伴出する。78,81は738号土壙で88,158と伴出する。

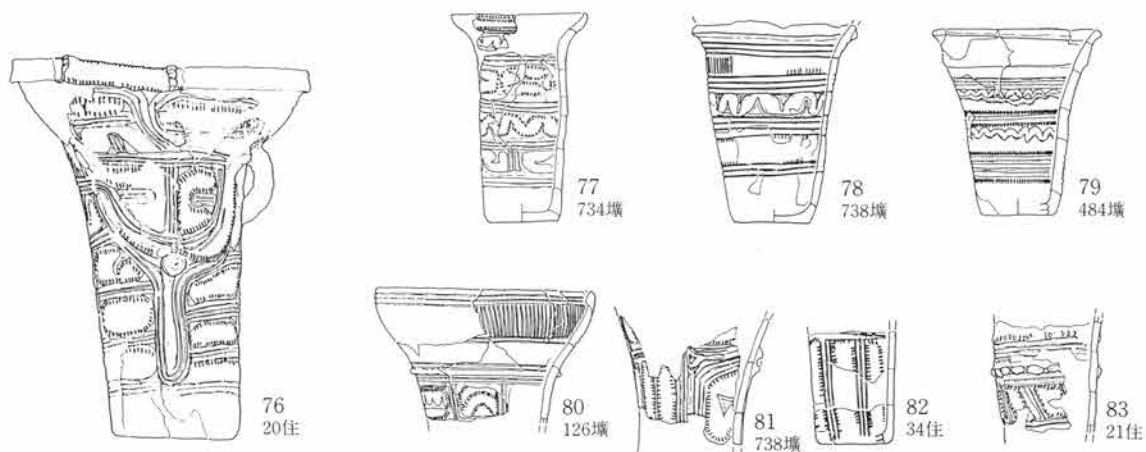
b (84~87)；胴部形態がaとはやや異にし、膨らみを持たせる。84は幅広の頸部無文部を持ち、胴部文様帯下端は蛇行隆線で画され、上端の横位隆線と橋状把手で繋ぐ。蛇行隆線下端より弧状の隆線が垂下する非常に特異な文様要素を持つ。85~87も横位隆線による強い分帯意識が無く、1類に見られる強調された胴部文様帯とは系統が別になるのであろう。

c (88~90)；この一群は本来は別類を設け説明を加えるべきであるが、個体数が少ないため敢えて2類とした。胴部を1帯の文様帯で構成し、蛇行垂下する隆線を主なモチーフとする意匠文系統の土器である。88は方形の小区画が胴部文様帯に組み込まれ、2類aと同様である。また、文様帯下端に明瞭な横位の区画線を設けない手法も特徴といえよう。

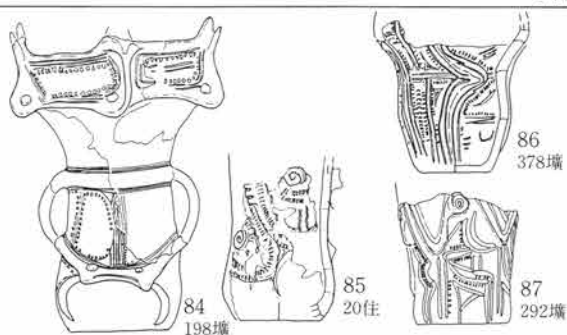
d (91~95)；直線的な胴部で、下半に横位の分帯線を設けない一群である。また、縦位の区画による単位を構成せず、胴部は1文様帯であろう。91,92は開き気味の立ち上がりを呈し円形の突起を付す、93~95は小型で直立的である。95は意匠文であろう。図裏面は円形モチーフが描かれる。

e (96~102)；直立する立ち上がりを呈し、胴部下半に横位沈線による分帯線が設けられる。96は胴部に3段の文様帯が設けられるが、最下段の文様帯は縦位沈線が施されるだけである。頸部の横位波状文はIII群2類に見られる要素であり、阿玉台式からの影響であろうか。97,98にも横位の波状文が施されるが大形の波状文であり、これは勝坂式に含まれるものであろう。99,100も横位沈線が施されるが、99は沈線下にU字状モチーフが描かれ、100の横位沈線下に幅広の無文部を設ける。これに対し101,102は底部近くに横位沈線が施され、この横位沈線による分帯意識は隆線のそれとは性格が違うようである。

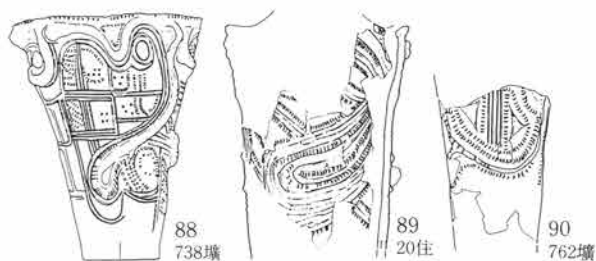
3 房谷戸遺跡における縄文時代中期前半の土器様相



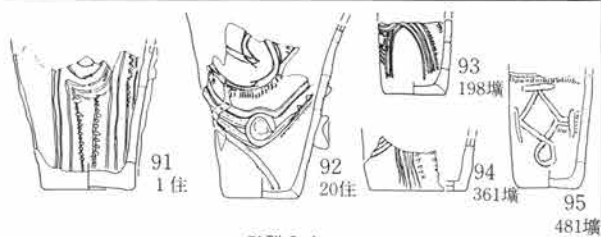
IV群 2 a



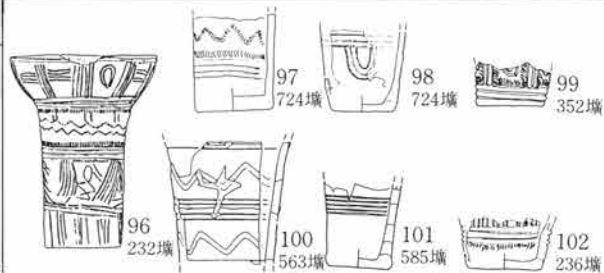
IV群 2 b



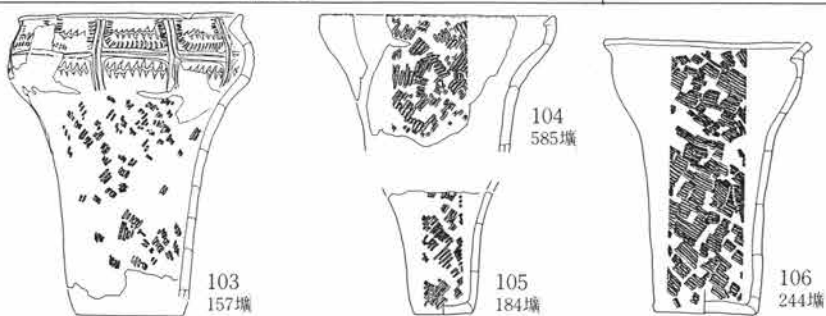
IV群 2 c



IV群 2 d



IV群 2 e



IV群 3



IV群 4

3-第7図 IV群土器

以上のようにIV群2類は、勝坂式系ではあるが、特徴的な文様要素を多く含む。若干のまとめは後述するが、本稿におけるIV群2類に対する配列にも未消化な部分が多く認められる。検証を蓄積し、再編する必要がある。

3類 縄文施文のもの。通常は縄文のみの施文が全面におよぶが、103のように口縁部文様帯を持つものもある。しかし、頸部隆線などが無く、強い分帯の効果は認められない。本類は勝坂式終末に多く見られる一群であるが、文様要素は少なく、縄文施文イコール勝坂式終末とは断定し難い。また、106などは同様な器形、施文が阿玉台式の終末にも見られ、本類は従来の勝坂式の判断は該当はしないと考えられよう。ここではとりあえず一括して取り扱ったが、本類の伴出資料などを吟味し、次代の加曽利E I式に関連する土器群を想起することもできるのではなかろうか。器形からの判断からは、口唇部が外傾する103、106などは終末期として捉えることができよう。

4類 本類は、3類と同様に縄文施文である。おそらく勝坂式最終末の一群であろう。109の胴部文様帯の区画手法は「三原田タイプ⁽¹³⁾」と呼ばれる一群の手法と類似するが、「三原田タイプ」のような立体的な加飾性は持たず、先行する要素を持つ。ともあれ本類は遺構内出土といえども単体の出土であり、今後類例資料の増加が望まれる一群である。

本遺跡の勝坂式系の土器群は、前述のとおり新道式系に併行するであろう1類、2類と終末段階の3類、4類がある。ここで、1、2類の類例資料として他遺跡の近似例を第5図に示した。45は1 a類と考えられよう。大形突起のありかたなど55と近い。46は1 b類に含まれる。胴部に数段の文様帯が設けられる。57に近似する。47は1 c類と考える。48は意匠文で2 c類に包括されよう。49は口縁部文様帯を欠損するがおそらく1 a類と思われるが大型の橋状把手を付す。50は2 a類であろう。51の突起を付す胴部下半の横位蛇行隆線は84に近い要素である。52は2類であるが、口縁部文様帯の縦位沈線群は80と同様で、胴部下半に横位沈線を設けない手法は2 c d類に求められよう。

このように類例を求めたが、本遺跡を始め対岸の三

原田遺跡などでも勝坂式の前半段階では同様な様相を呈す。すなわち、

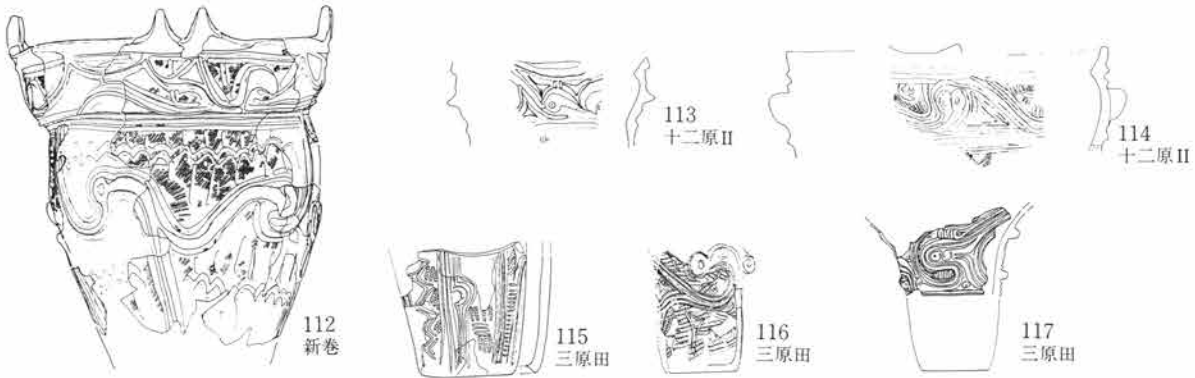
1. 前述のとおり小径で直立する胴部形態。
 2. 截痕列、刺痕列の多用。
 3. 大型の橋状把手の存在。
 4. 胴部下半の横位隆線、横位沈線による分帯意識。
- などが挙げられるが、1～3は特に当地域を中心とする群馬県北域及び長野県の東信地方に見られる特徴であり、南関東や長野県でも八ヶ岳山麓域を中心とする勝坂式土器とは顔付きが異なる。おそらく、当地域の特徴として捉えて差支えなかろう。

つまり、1 a類、1 c類、2類は当地域独自の勝坂式であり、従来の勝坂式概念では時間軸の設定などに混乱を生じる恐れを持つ資料である。このことが、本報告では、敢えて勝坂式系とやや曖昧な表現を取らざるを得なかった理由でもある。群馬県内で勝坂式土器を扱う際、分析、分類などに困難が予想されるが、それは勝坂式だけを抽出する作業のみに終始した場合により大きな混乱が生じるからである。阿玉台式、後述するV群土器との密接な関連を抜きにしては当地域の勝坂式の判断は難しく、我々の取るべき研究手段はいたずらな編年、細分作業ではなく、地道な類例資料の検索、そこから派生できる類型資料の同定などが先行しなければならない。

V群(第8、9図) 当地域独自の土器群で時期的な位置は中期前半に求められるが、その発生と消長は未だ判然としない。群馬県では当地域を中心として、利根川上流域⁽¹⁴⁾と吾妻川流域⁽¹⁵⁾、烏川流域⁽¹⁶⁾の山麓台地、丘陵部に分布するようである。隣接する県では長野県の諏訪盆地⁽¹⁷⁾、松本盆地周辺⁽¹⁸⁾と千曲川流域⁽¹⁹⁾など中信～北信⁽²⁰⁾、東信に類例が集中する。

本群は、塚田 光氏が『群馬県新治村新巻遺跡の中期土器⁽²¹⁾』において紹介した土器(第8図112)が同類型であり、この土器を「北関東の1系列」とされた佐藤達夫氏の指摘⁽²²⁾は現状の研究段階の基礎であり、今後本群の系譜などを捉える際の指標としたい。

また、本稿で4類とした土器群は「焼町土器⁽²³⁾」と設定された曲隆線文を主体とする土器群に近似する。しかし、「焼町土器」は長野県を中心とした分布が考えら



3-第8図 県内のV群土器

れ、野村氏も群馬県に類例を求められてはいるが、吾妻川流域や北信などに判然としない部分がある。それに伴って、文様要素も群馬県のそれは諏訪盆地、松本盆地の「焼町土器」と若干食い違う要素を内包し、再考する必要があるだろう。今後は、最近の群馬県の該期土器資料の増加を念頭において、V群の発生と消長、地域によっての他型式との共存と影響を課題とし、ここでは本遺跡出土土器を中心とした分類を試みた。

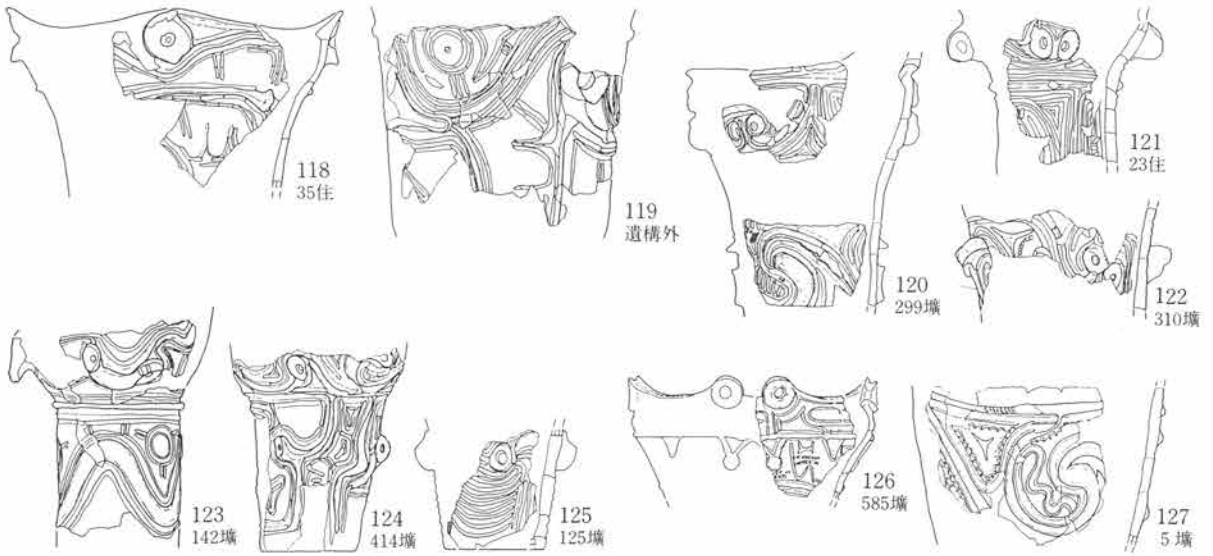
1類 環状突起や双環状突起を中心に隆線で繋ぎ、太めの沈線が沿う。地文はなく、太めの沈線は半截竹管の背面か棒状工具による施文である。118、119は他に比べやや加飾性に乏しい。120～122は双環状突起を中核とした施文で、太めの沈線が幾条も充填される。123～125は環状突起と弧状突起が接続する。123は胴部文様帯の分帯、円形モチーフの配列などが他のV群土器とは違い、勝坂式的な影響であろうか。126は円環状突起が口縁上に付されるが、この手法も多く見られるようである。127は弧状突起による巴状モチーフと隆線の区画方法で本類に包括したが、細部の文様要素は勝坂式的である。

2類 地文に縄文施文を施す一群である。地文としたが、おそらく隆線、突起などを貼付後の施文であり、隆線上に縄文が残るものもある。文様要素は1類と同様であるが、隆線に沿う太めの沈線は1・2条である。口縁部は平縁のものや波状縁のもの二者が見られるが、破片資料の観察では128のような波状縁のものが多いように見受けられた。口縁部文様帯は比較的幅広に設けられ、胴部文様帯も1文様帯で下半に横位隆線などの分帯線は持たない。基本的に口縁部文様帯と胴部

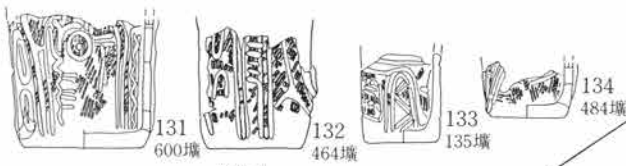
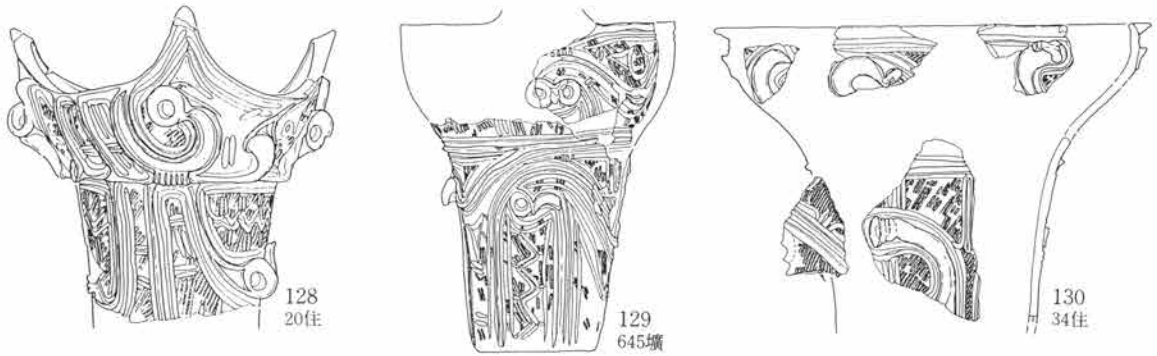
文様帯との文様要素の違いはなく、同様な要素で展開する。1・3類にも共通するが、頸部の横位隆線は顕著であり、口縁部文様帯の分帯意識は強い。しかし、縦位の区画線は多くは認められず、構造的な単位は把握し難い。胴部下半から底部の腰部にいたるまで、明瞭な分帯線は無く、131～134のように垂下隆線と沈線がおよぶのみである。これは、III群の阿玉台式、IV群の2b、2d類などに見られる手法で、本類はおそらく阿玉台式からの分帯手法の影響と考えられよう。

3類 縄文を施文するが、隆線、突起上に意識的に施文する一群である。2類と比べ全体的に施文方法などにやや退化した感があり、2類に後行するのだろうか。また、胴部に渦巻状のモチーフを多用するのもこの一群の特徴であろう。135は胴部の中位に横位隆線が付せられ、下半には縄文が施される。2類には見られなかった分帯手法である。136、137は完形ではないためやや判然としないが胴部文様帯は1帯の文様帯であろう。しかし、137の腰部に見られる横位沈線は分帯手法の名残りであろうか、雑な施文ではあるが注意を要する。本類は房谷戸遺跡では出土量は少ないが、高崎市大平台遺跡⁽²⁴⁾などで破片ではあるが多くの出土を見ることができる。V群土器のなかにあっても比較的新しい様相ではないだろうか。

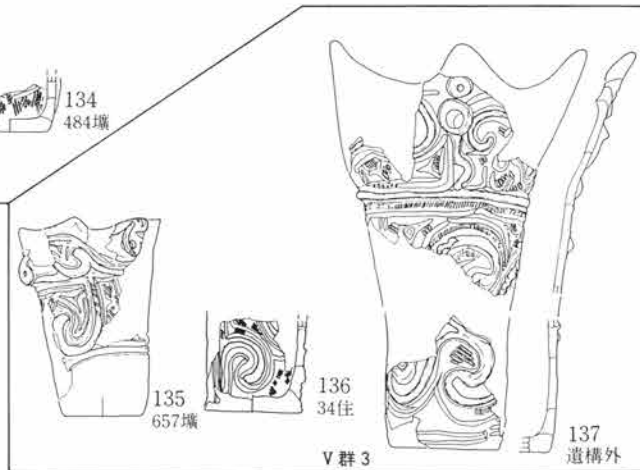
4類 縄文は施文されず、曲隆線と太めの沈線が主な文様要素であるが、沈線はより深く刻まれる傾向があり、環状突起などは小型化しているが、沈線が深いためより立体的な感を受ける。138、139とも28号住居址出土であり、伴出資料である。両土器とも口縁部文様帯が狭く、曲隆線を主体としたモチーフを主文様と



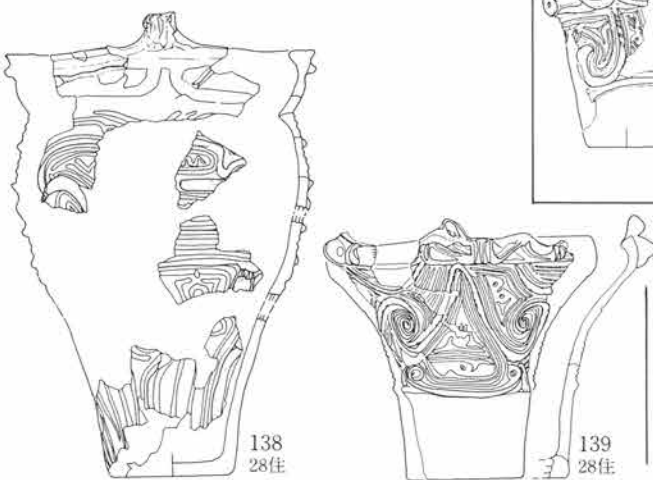
V群 I



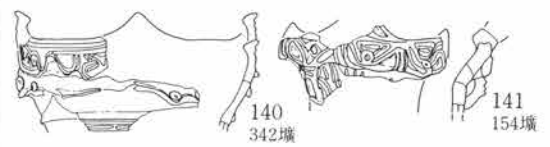
V群 2



V群 3



V群 4



V群 5

3-第9図 V群土器

する。しかし、138は胴部下半に分帯線が設けられず、反対に139には横位隆線が付せられ、以下は無文である。139は「焼町土器」に極めて近似する。

5類 V群に包括されるがやや異色の顔付きである。幅狭の口縁部文様帯を持ち、突起を中心とした波状縁を呈す。140は胴部に大型の円形状モチーフが描かれる。141は口縁部文様帯に区画文が配列される。

V群は完形資料こそⅢ・Ⅳ群に比して乏しいが、破片などの出土量まで見ると主要な遺構には必ず混入し、本遺跡の土器群のなかでは主体的な位置を占める。阿玉台式、勝坂式系土器とも類例は広く関東地方に求めることが可能であるが、本群は前述のとおり、群馬県以外では長野県の一部に認められるのみである。故に、本群は当地域独自の類型であり、在地の土器群として捉えたい。⁽²⁵⁾ 文様要素も説明のように特異なものであり、細かな要素では分類はできない。今回は縄文施文と無施文で概略程度に分類したが、分帯手法からは、おそらく1・2類は時期的な隔たりはないと考える。隆線に沿うための沈線の施文方法など特に差はない。3・4類はこれに後行するものと考えたいが、出土資料に乏しく判然としない。これに後行するものとして「焼町土器」的な曲隆線を多用する一群が存在するのであろう。

また、同様に分帯手法から1・2類は特に頸部の横位隆線による分帯意識が強く、これはⅢ群あるいはⅣ群1a～c類からの影響を考慮することができよう。また、胴部の横位区画線が主体的に設けられないことはⅢ群的といえよう。⁽²⁶⁾

伴出する土器から与え得る時期的な位置は、1・2類はⅢ群の阿玉台Ⅱ式、Ⅳ群1類・2類といった勝坂式系の前段階と伴出する傾向がある。3・4類は良好な伴出資料は認められないが、おそらく勝坂式後段階や阿玉台Ⅲ式期に併行すると思われる。このことは、「焼町土器」の提唱者である野村氏が設定された「焼町土器」の帰属時期としての藤内Ⅱ式～井戸尻式期に該当するのではなかろうか。⁽²⁷⁾ ここではとりあえず1・2類を本遺跡の主体時期である阿玉台Ⅱ式期に併行時期を求めたい。ただ、2類などはその顔付きから阿玉台Ⅲ式併行ではないかとの指摘も受けていることを加⁽²⁸⁾

筆しておく。

Ⅵ群 東北地方南部の大木式系と北陸地方⁽²⁹⁾の影響を受けたと思われる土器群である。

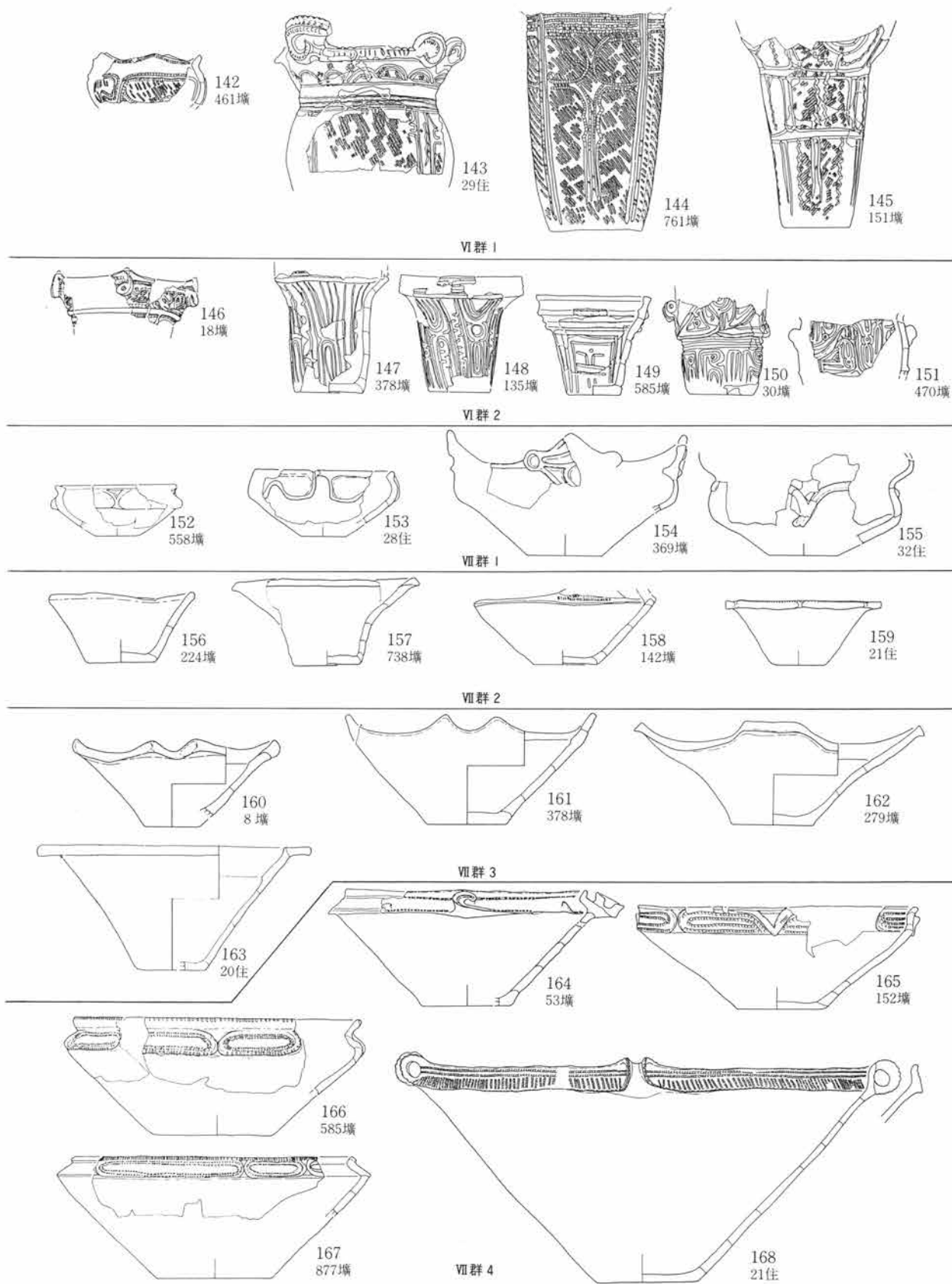
1類 出土量は少ないが大木式である。群馬県はその地理的位置を大きな要因として縄文時代の遺跡には少数ながらも大木式系の土器が混在するようである。しかし、そのありかたは未だ集成がされておらず、実像は明確ではない。今後、隣接する栃木、福島両県の大木式土器を比較検討して、群馬県内への影響を考えなければならないだろう。中期前半の大木式土器の他型式への影響は特に栃木県などで顕著であるが、群馬県内でもこの個性の強い土器群が、例えば阿玉台Ⅱ式に多大な影響を及ぼしたとすれば独特の気風を持つ土器が生じる可能性⁽³¹⁾があり、量的には少ないが、本遺跡における大木式土器の役割は無視はできない。142は7b式、143～145は8a式と捉えた。

2類 北陸地方の影響とも考え得る土器群である。しかし、三国山脈の北側に位置する該期遺跡の様相が不鮮明であり、今後の資料増加を望む。⁽³²⁾ 146は口縁部文様帯を持ち、文様要素もⅣ群である勝坂式的であるが、胎土が明らかに他の土器とは違い、色調も褐灰色を呈するため本群に入れた。147～151は胴部文様帯で縦位沈線を基調とする一群として捉えたが、厳密には北陸系統ではないだろう。しかし、147～149のような口縁部が直立する小型の深鉢は本遺跡及び周辺遺跡でも類例資料に乏しく、胴部の縦位沈線群の手法から取えて北陸系とした。150、151も施文方法などに北陸系の要素は見られるが胎土などは在地産と思われ、V群との関係に可能性を見出したい。

Ⅶ群 浅鉢を一括した。複数型式にまたがるが文様要素が少ないため、一括して群別した。しかし、文様、器形などから4類に細分し、浅鉢としての傾向は明示する。

1類 口縁部に隆線を貼付し、曲線的な文様とする1群。152以外は明瞭な分帯線はないが、貼付は口縁部に集中する。内外面とも丁寧な研磨を施し、胎土も緻密で精製された感がある。

2類 小型のもの。156、157は研磨は雑で、器形も不正形である。158も外面の研磨は雑である。159は内



3-第10図 IV・VII群土器

外面とも研磨は丁寧であり、口縁部の小突起も5単位を数えるやや異質な浅鉢である。

3類 中型の浅鉢であるが、波状縁のものと平縁のものがある。内外面とも研磨は丁寧であり、胎土の精製も著しい。平縁の浅鉢は概して、163のように口唇部に幅広の平坦面を持たせるのが特徴である。

4類 口縁部文様帯を持つ大型のもの。口縁部は平縁を基本とするが、その形態はバラエティーに富む。164のように内折して突起を付すもの。165、168は直立する。168は橋状把手を付す大型品である。167、168は内折するが口唇部は外傾し、口縁部文様帯は楕円枠の配列をなす。168以外は内外面とも丁寧な研磨を施す。本類の口縁部文様帯の要素は結節沈線を多用しているため、阿玉台式といえよう。

本遺跡の浅鉢の出土量は多く、破片を含めると深鉢の出土量に匹敵すると思われる。これは、浅鉢の使用頻度を多く見ることが妥当であり、日常の器としての機能を浅鉢に多く求めることができよう。加熱、煤の付着などの痕跡は少ないが、内外面の研磨と大きさなどから浅鉢の使用目的などを類推することは可能である。しかし、内容物の特定ができないままでは、不明点を多く残す結果が予想され、ここでは各類の帰属する群を指摘することに留めたい。

1類…隆線の貼付、胎土の精製がV群に類似する。

2類…文様要素が少ないため判然としないが、156は39と伴出し、157は88と伴出する。いずれも分析に困難を伴う土器であり、この2個体は異系統と捉えたい。158、159は勝坂式的で、おそらくIV群として考えてよいだろう。

3類…本遺跡で普遍的に出土する浅鉢であるが、III群かIV群に包括される。21号住居址出土土器のあり方を考えるとIII群として捉えられよう。

4類…前述したが口縁部文様帯の結節沈線施文は阿玉台式の特徴としてよいだろう。

3. V群土器について

以上のように、本遺跡出土の土器群を群別し、各群の特性を述べてきた。概略程度ではあるが、その凡そは捉える事ができよう。ここでは、各群のなかでも最も特徴的なV群として位置付けた土器群を再度取り上

げ、その性格を考えてみたい。

○新巻類型（V群1・2類）について

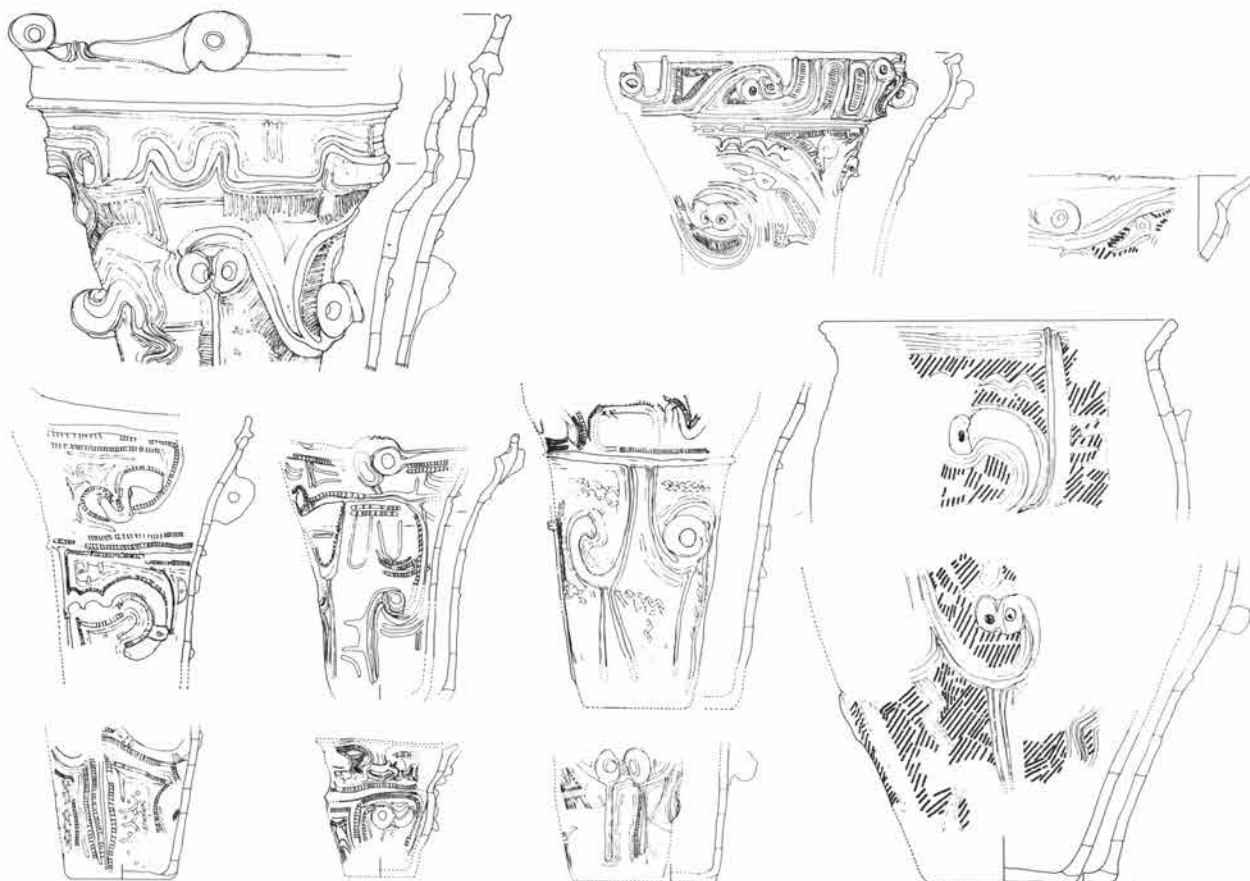
前述のように、本類はほぼ同時期併存する可能性が強く、文様要素も地文縄文の有無が相違点であり、他は近似する一群である。再度本類の特徴を挙げると

- a. 口縁部文様帯と胴部文様帯の強い分帯意識
- b. 胴部の分帯線は意識されず、縦位隆線や波状隆線が付せられ、縦位区画やパネル装飾と呼ばれる区画文が配列する構造ではない。
- c. 波状縁を呈するものが多く、平縁のものは円環、滑車状の突起を付す
- d. 環状突起、双環状突起、三叉文といった勝坂式的な要素も取り入れられる。
- e. 隆線、環状突起にはための沈線が沿い、所々には短沈線のアクセントが施される。

これらの文様要素は各々勝坂式や阿玉台式土器の要素に共通するものである。a～cは阿玉台式の文様構成であり、dは勝坂式的文様要素である。このことは阿玉台式と勝坂式の折衷的な土器との判断が考えられるが、本遺跡においては折衷的な土器はIII群5類やIV群2b類に求められ、V群1・2類は折衷的な様相よりも独自の様相として捉えるべき出土量を呈する。

本類の発生は現状の所、未確定要素が多い。しかし、a～cのような大きな要素が阿玉台式と共通しており、また分布も阿玉台式土器がやや優勢な利根川上流域の山間部や丘陵部に集中するようである。また、勝坂式的要素は口縁部文様帯や、胴部文様帯において細かな要素として施文されるようである。例えば、弧を描く隆線の内側の空白部に三叉文を沈刻する手法などがこれにあたるが、土器の全体観にとって細かな問題であり、隆線などによる大きな器面分割がより強い意識として設定施文されたと考えられないだろうか。

早計な結論かもしれないが、本類は阿玉台式土器からの影響を器形、器面分割などに大きく受け、細かな文様要素に勝坂式的な文様を採択したと考えられる。その分布は群馬県利根川上流域と吾妻川流域、長野県千曲川流域である東信地方に見られる。第11図は長野県東部町久保在家遺跡⁽³³⁾出土の土器であるが、本類に該当する資料として特筆されよう。これらの地域は近接



3-第11図 長野県東部町久保在家遺跡出土土器

する八ヶ岳山麓や利根川下流域の該期土器文化の影響を常に受け、本類もその影響下に発生した土器群として捉えたい。

帰属する土器型式は現在の研究段階では断定できず、また、新型式を設定するには量的にも、他型式への影響が少ないことから到底及ばない。しかし、何等かの名称を与える独特の気風を持つ一群であり、例えば「房谷戸V群1・2類」という呼称は他遺跡で良好な出土が見られた場合、不適當であろう。学史的に顧みても本類が最初に紹介された新巻遺跡が⁽³⁴⁾適當と思われ、「新巻類型」と呼びたい。

○V群3類について

次に1・2類に後行すると思われる3類を考えてみる。本類は縄文施文であり2類と同様な性格を持つかのように見えるが、胴部に垂下隆線などの懸垂文が設けられず、横位隆線や沈線と渦巻文が施され、2類とは明らかに胴部文様帯構成を異にする。しかし、口縁部文様帯の分帯意識などは1・2類と共通し、2類の系譜を引いた一群として今後類例資料を吟味する際に

注意を要する。

○焼町類型（V群4類）について

「焼町土器」に密接な関連を持つ一群として捉えた。「焼町土器」に関しては野村氏による詳しい分析と論述がなされているのでここでは省くが、⁽³⁵⁾曲隆線を主体とした文様施文であり、分布は長野県東～北域と群馬県に主体的な出土例を見ることができ、八ヶ岳山麓部においては勝坂式に属さない一群として注目を集めている土器群である。また、本項で1・2類とした土器群と分布が類似しており、同一の系譜にあるとも考えられているようである。しかし、ここで本類と1・2類を別類としたのは時期的な土器配列ではなく、口縁部文様帯の分帯意識、胴部文様帯に設けられる横位隆線のありかたなどが相違するためである。また、文様描出技法も本類は半肉浮彫的とも言える手法を用い1・2類の施文方法とに違いが見られる。胎土、色調、焼成も本類は橙色を呈し、堅緻な焼成状態である。製作者の出自によるものかどうかは不明だが、相違点としてあげておきたい。

これらの相違点から、4類は1・2類とは一線を画す土器群と考える。どちらかと言えば、VI群2類とした、北陸系の土器を想起する一群に近似するとも言えよう。今回は在地の土器群としてV群としてまとめたが、1・2類でも設定したように「焼町類型」⁽³⁶⁾の名称が適切と思われる。

1・2類を「新巻類型」、4類を「焼町類型」として設定したが、両類型とも分布が非常に似ており、また、既存の中期土器型式に類例を求められない共通点がある。しかし、前述のように「新巻類型」は阿玉台式土器を基本として発生した土器であり、「焼町類型」は勝坂式的な基本の上におそらく北陸系統の影響を受け発生したものであろう。V群としてまとめたが、両類型は文様の出自、分帯意識などに大きな相違点が認められ、系統を異にする土器群として考えることができよう。つまり、「新巻類型」と「焼町類型」の2者は系統的にも対時関係にあるため、本項で設定したV群は型式としては認められない要素を内包する。その時間軸を求める際には、「新巻類型」は阿玉台式に、「焼町類型」は勝坂式に系譜を求めざるを得ないようであるが、群馬県においては阿玉台式がやや優勢な位置にあるため、今後の作業としては、阿玉台式土器の利根川流域⁽³⁷⁾におけるありかたを捉えなおす必要がある。

4. おわりに

以上のように本遺跡の土器群の特徴を大別して述べてきたが、土器の配列は時間軸に沿った序列ではなく、各群が具備する特性を筆者なりに理解した結果である。この試みによって、房谷戸遺跡を中心とした赤城山西南麓の中期前半の土器様相がおぼろげではあるが理解できたと思う。しかし、本稿も1遺跡を中心とした出土土器の分析に終始しており、本遺跡の分析によって群馬県を中心とした該期土器様相が判別できる訳ではない。群馬県は他地域の影響が強く、隣接する文化圏との密接な繋がりが考えられ、それ故、一定地域の土器群の判別とその批判によって広範囲の土器文化圏⁽³⁸⁾を語ることは避けなければならない。

今回は出土土器の群別によって得られた、IV群2類、V群とした土器群を注目して述べたが、特にV群の「新巻類型」、「焼町類型」とした在地の土器群の様相を捉

えることが出来たと思う。この土器群が当地域にあって、どの様に発生し、消滅していくかその過程は、周辺の遺跡の報告と類例資料の積み重ねによって明らかにされていく問題である。力がおよばなかったが、阿玉台、勝坂式系の両型式に挟まれるように位置するこの2類型を提示することによって当地域の縄文時代中期前半の土器様相としておきたい。

時代や環境が用意する土器の型式や様式は、それが形成され、安定化し、様式化・秩序化されようとする時に、あらゆる土器製作者の内的な要素が介在する。例えばそれは、集落内の規制や土器文様に対する宗教的シンボリズムなどからの要求が考えられる。その中で、秩序化から消滅化に至る、細かな文様要素の消長などは我々が考えることができるかもしれない。しかし、一地域独自の土器特性は形成→秩序化に最も顕著に具現化するため、細かな文様要素よりも、土器の全体観、文様割付け、分帯意識にその特性を求めるべきではないだろうか。そのためには、土器製作者とその背後の世界観や精神生活などに対する深い思い入れが必要であろう。やもすれば非常に観念的な試論を展開しなければならず、実証的な考古学としての立場を忘れてしまう危険性が待ち受ける。この危険を避けるために我々のなすべき作業としては、あらゆる出土遺物に公平な視点を向け、実証を心がけた地道な基礎作業を確認していかなければならない。

このことを筆者自身への戒めとして、当地域の土器様相を多くの研究者に呈示していきたい。同学諸氏のご助言、ご叱責を得ることを切に望む。

第VI章 考 察

註

- 1) 塚田 光 「群馬県・新巻遺跡の中期縄文土器」 『下総考古学』1 下総考古学研究会 1964
- 山口逸弘 「新巻遺跡出土土器について」 『十周年記念論集』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 2) 菊池 実他 「三後沢遺跡・十二原遺跡II」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 3) 赤山容造 「三原田遺跡(住居編)」 群馬県企業局
- 赤山容造 「三原田遺跡」 『群馬県史 資料編1』 一原始・古代1— 1988
- 4) 坂井 隆他 「熊の堂III地区、雨壺遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
- 5) 第1図6に掲載した十二原II遺跡出土の深鉢は報告書には掲載されていない。遺構に伴わず風倒木出土のためだが、今回掲載することができた。また、7の雨壺遺跡の深鉢は報告書では展開図示のみされている。
- 6) 阿玉台式土器は利根川流域に分布することが広く知られるが、群馬県のあり方や下流域の栃木、千葉県の様相を比較検討が必要であろう。おそらく、資料は膨大なものになり、伴出資料などの解釈は複雑多岐に渡るだろう。しかし、この比較分析を行うことによって、利根川流域のみならず、阿玉台式土器の実態の解明に大きな成果を上げることができよう。流域の研究者の今後を期待したい。
- 7) 例えば、月夜野町宮地遺跡、赤城村見立大久保遺跡、三原田遺跡、中之条町壁谷遺跡、高崎市下佐野遺跡など
- 8) 能登 正衛 「阿玉台式土器編年的研究概要」 『早稲田大学文学研究科紀要18』 1972
- 能登 健 「阿玉台式土器」 『縄文土器大成2 中期』 講談社 1981
- 9) 壁谷遺跡の阿玉台式土器などは、広く知られていながら、未だ実測図が施されていない。資料の充実と共に実測図の整備なども必要であろう。
- 10) 本遺跡以外には新巻遺跡や三原田遺跡、深沢遺跡など
- 11) おそらく、大平台遺跡などの烏川流域に立地する遺跡が中部山岳地方の影響は大きいであろう。
- 12) 統一の取れていない用語であり、例えば赤山氏は沈線爪形文、沈線載痕文と名称付けている。
- 13) 「三原田タイプ」については型式設定の試みが現状のところなされていない。「三原田式」と呼称するには類例の増加と良好な組成が提示されなければならないだろう。
- 14) 新巻遺跡、深沢遺跡、十二原II遺跡など
- 15) 吾妻町郷原遺跡(能登他1985)が報告されている。吾妻川流域には濃密な分布が予想されているが、未発表資料が多く全容は明らかではない。
- 16) 前述の大平台遺跡の他に高崎市若田遺跡が知られるが、未報告である。
- 17) 岡谷市後田原遺跡(戸沢 1970)、諏訪市荒神山遺跡(伴他 1974)
- 18) 松本市雨堀遺跡(神沢他 1983)、松本市笹賀牛の川遺跡(中島他 1980)など
- 19) 東部町久保在家遺跡(小林他 1986)長門町大仁田遺跡など
- 20) 長野県北部の様相は判然としなが、北陸地方の影響を考える場合、無視できない地域である。
- 21) 塚田 光 「群馬県・新巻遺跡の中期縄文土器」 『下総考古学』1 下総考古学研究会 1964
- 22) 佐藤達夫 「土器型式の実態—五領ヶ台式と勝坂式の間—」 『日本考古学の現状と課題』 1974
- 23) 野村一寿 「塩尻市焼町遺跡第1号住居址出土土器とその類例の位置付け」 『中部高地の考古学III』 長野県考古学会 1984
- 24) 下城 正他 「大平台遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 25) 在地の土器という用語も適切ではない。地域独自の特徴を備えた土器群、独特の気風をもつ土器群という意味で使用した。
- 26) 一般に阿玉台式土器の胴部には横位分帯線は設けられない。特にI b式やII式は胴部一文様帯という分帯意識は強い。また、大木8 a式の胴部も横位分帯線は付せられず、V群1類と同様だが、群馬県内の阿玉台式土器の主体的な出土を考えると、本類の胴部分帯意識は阿玉台式的と捉えられよう。
- 27) 註23と同じ。
- 28) 勝坂式の影響を大きく受け、結節沈線の代わりに爪形文などが施される阿玉台III式の様相と、環状突起が付せられる本類は同時期の勝坂式からの影響とは考え難い。伴出資料からも阿玉台II式に併行すると考えられよう。
- 29) 主に新潟県の三国山脈沿いなどを当地域として考えたい。
- 30) 栃木県内出土の阿玉台式土器のあり方などはその好例であろう。
- 31) 実証例は無いが、縄文施文、著しい口唇内稜の発達などが阿玉台式土器に影響をし、V群的な土器が発生したとする考えには強い否定はできない。
- 32) 新潟県五丁歩遺跡などの刊行が待たれる。
- 33) 堀田雄二、小林真寿他 「不動坂遺跡群II・古屋敷遺跡群II」 長野県東部町教育委員会
- 34) 類型については多種の考え方があがるが、ここでは多数類型の複合と相互影響によって型式が存在し、1類型は1型式にはなり得ない事を明記しておく。故に、新巻類型を「新巻式」と呼ぶことは無い。
- 35) 註23と同じ。
- 36) 「焼町土器」と類似する土器群として理解が深まるように焼町土器から名称をとった。ここでの類型も註34と同様に考えた。
- 37) 註6と同様。利根川上流域において、阿玉台式土器が、どのように多数型式に相互影響を及ぼしたか、適確に捉える必要があろう。そのことは、複雑な中期土器型式の実態の一側面を表すことになる。
- 38) 限られた地域の土器様相を理解することによって、隣接地域の土器様相も、無批判に判断することは危険であろう。反対に、隣接地域の特徴を無視して編年作業などは行えないことは自明の理である。また、巨視的な文化を捉える場合、注意しなければならないのは、当時の気候、植生など自然科学的な様相も加味しなければならない。そのためには、発掘調査の段階から目的意識を付帯した調査を行わなければならない。

まとめにかえて

房谷戸遺跡は関越自動車道（新潟線）建設に伴う発掘調査によって世に知られることになった遺跡である。関越道は赤城山西～西南麓の山麓台地を横断する結果となり、これらの台地に占地する遺跡の調査が、昭和60年供用開始という制約のなかで、その調査進度を合理化することが急務となった。本遺跡も、この例に漏れず東側道部分を工事用道路として使用するため、その部分の調査が先行し、本線部分は後行調査となった経緯がある。このように、調査手順としては非常に困難な整理作業が伴う分割調査であり、またFP面、ローム上面、ローム下と複数枚に渡る文化層調査であったため、調査によって得られたデータも複雑多岐で量的にも多く、それらを未消化のまま、整理作業にはいるまでの数年間に、自分自身の考えの中で空白期を置いたことは未だ悔やまれる。

だが、出土遺物、検出遺構などは良好であり、特に先土器時代の石器群、縄文時代中期前半の遺構、遺物群は当地域ばかりではなく、関東地方においても屈指の好資料を内在した。今後、群馬県内で該期の調査を行う際には、必ずや参考になる遺跡であろう。

本報告書においてはこれらの内、先土器時代の石器群の報告を後刊とし、縄文時代中期、古墳時代後期、平安時代の遺構、遺物、および中世に比定される館濠に関して整理、報告をした。これらに関しては本文を参照して頂きたい。

整理作業も限られた日数と膨大な遺物量に挟まれ、細かな、数量的な分析にまで手が届かず、決して満足のいく報告書とはいえない。特に、縄文土器に関しては可能な限り展開図を作成したが、全ての完形土器に対しては行うことはできなかった。しかし、文様単位の特徴的なものなどは図示し得たので、今後、施文方法や文様構造研究などに役割を持たせることができよう。石器についてはその全てを実測できなかったが、写真図版と表組に掲載した。量的な把握はこれによって可能であろう。また、石器の全体観はVI章1、打製石斧についてはVI章2で述べたとおりである。

古墳・平安時代の住居址や遺物に関しては今回特にVI章では触れなかった。反省材料である。同様に縄文時代の遺構に対しても、時間と紙数の制約のため、言及できなかった。反省点とともに、機会を改めて、分析を加え紹介したい。

確かに常に苛酷な調査である。遺構、遺物の状態、配置、土色、測量、写真、自然科学的な同定分析、加えて調査区内の安全対策等々。我々は限られた期間と予算の範囲内であらゆる分野に目を向けなければ調査は進行しない。記録保存という言葉の中でもこのように多岐に亘る手段、方法が要求される。

その中で、我々は検出遺構・遺物に対し、背後に人間の歴史性を持たせ、また、現在の一般にその光景を周知させなければならない。多くの労力と意識が消費され、消耗し、時には軽薄な無関心や諦念ともいえる曖昧さが影響力を及ぼすであろう。しかし、それに流されることなく、地道な作業を蓄積し、強い意志力を継続することによって、時間の流れに遺構や遺物を置くことができる。我々の季節の中での命題としたい。

最後になったが、本遺跡の調査にかかわり多くの方達のご協力を得ることができた。特に地元の方達を中心にした皆様には酷暑、極寒、強風の中、発掘調査に参加していただき、大変心強く、また楽しい調査を行うことができた。御礼の言葉もない。機会があれば再会の喜びを共にしたいと願う。 (山口)

写 真 图 版



赤城山麓台地と蛇流する利根川



遺跡遠景（手前は三原田遺跡）



遺跡遠景（南から）



遺跡遠景（北西から）



1号住居址



遺物出土状態



20·22号住居址遺物出土狀態



同全景



21号住居址遺物出土狀態



同全景



23号住居址全景



24号住居址全景



25号住居址全景



26·27号住居址全景



28~32号住居址遺物出土状態



同全景



29号住居址遺物出土状态



同全景



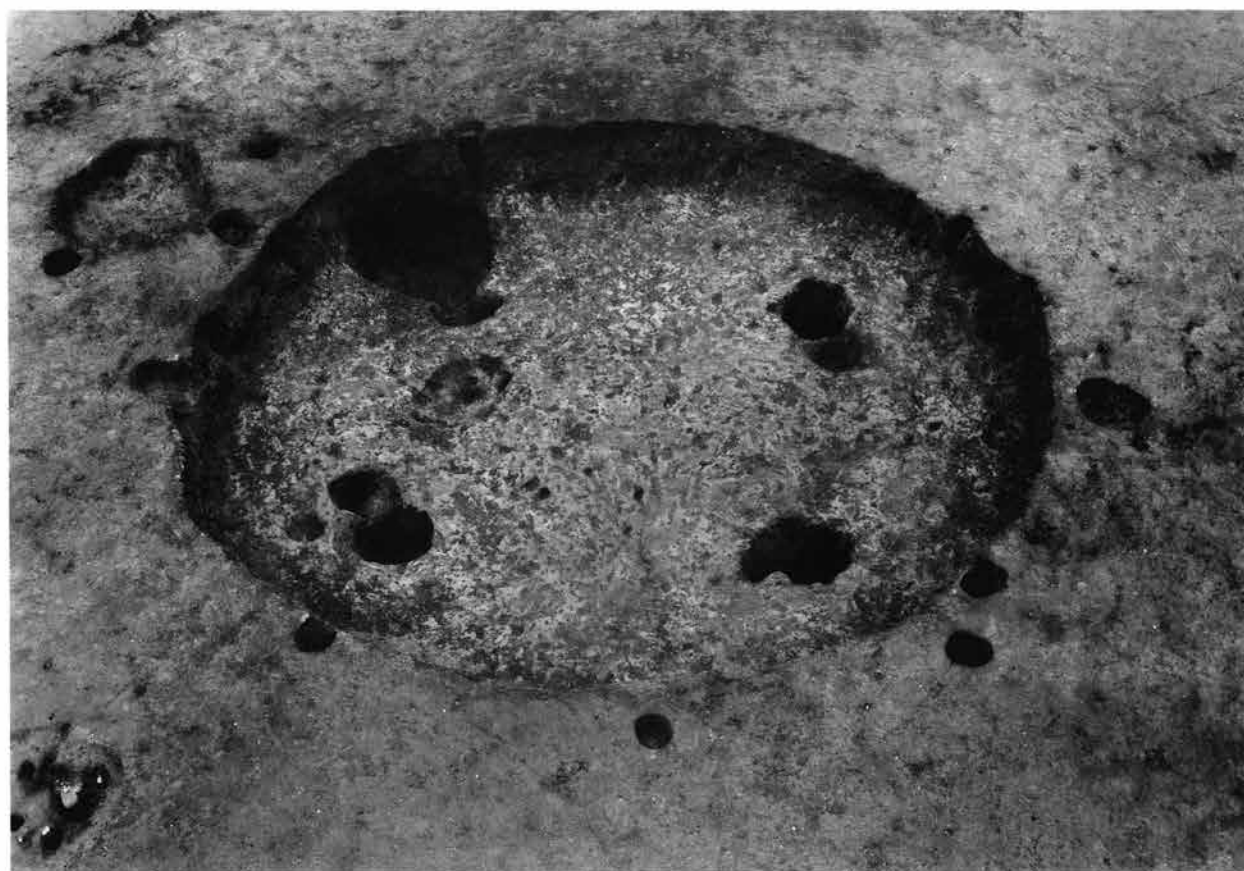
30号住居址全景



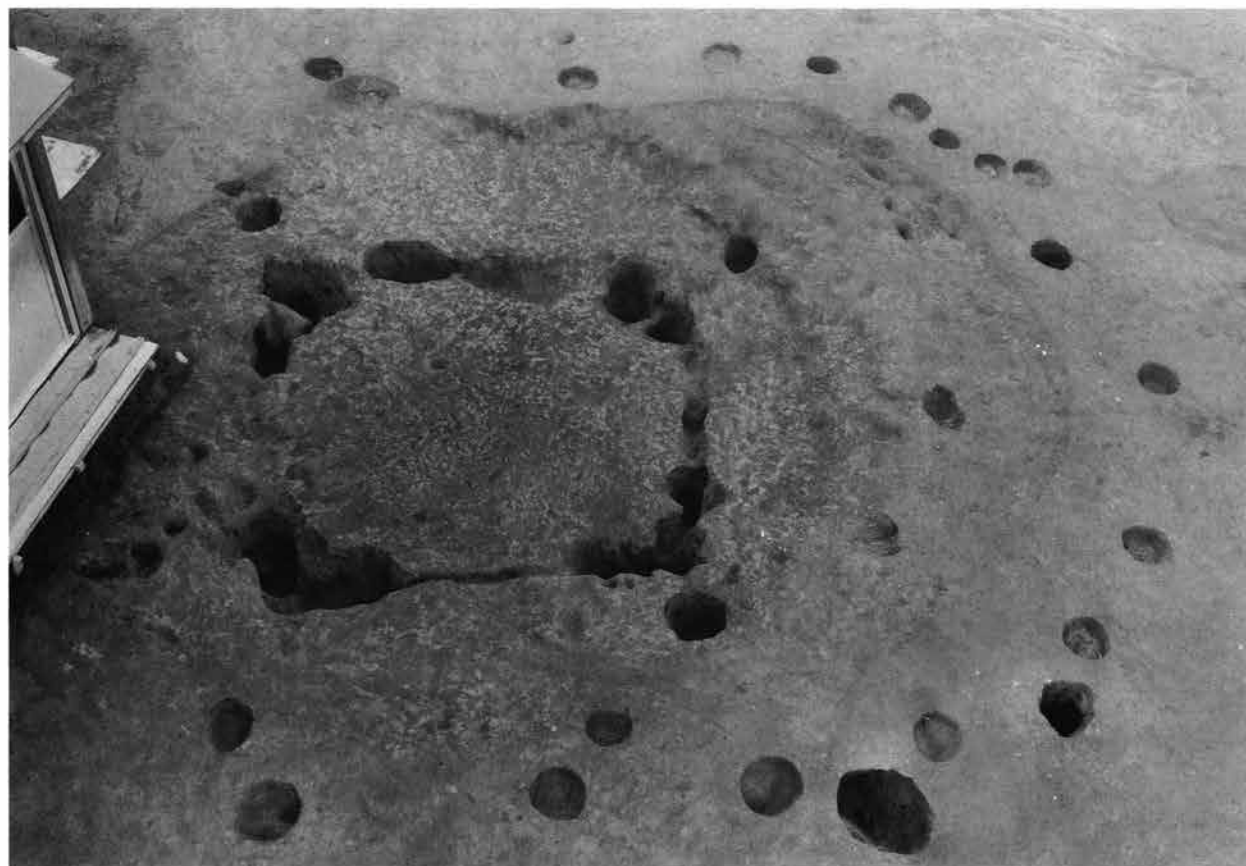
31号住居址全景



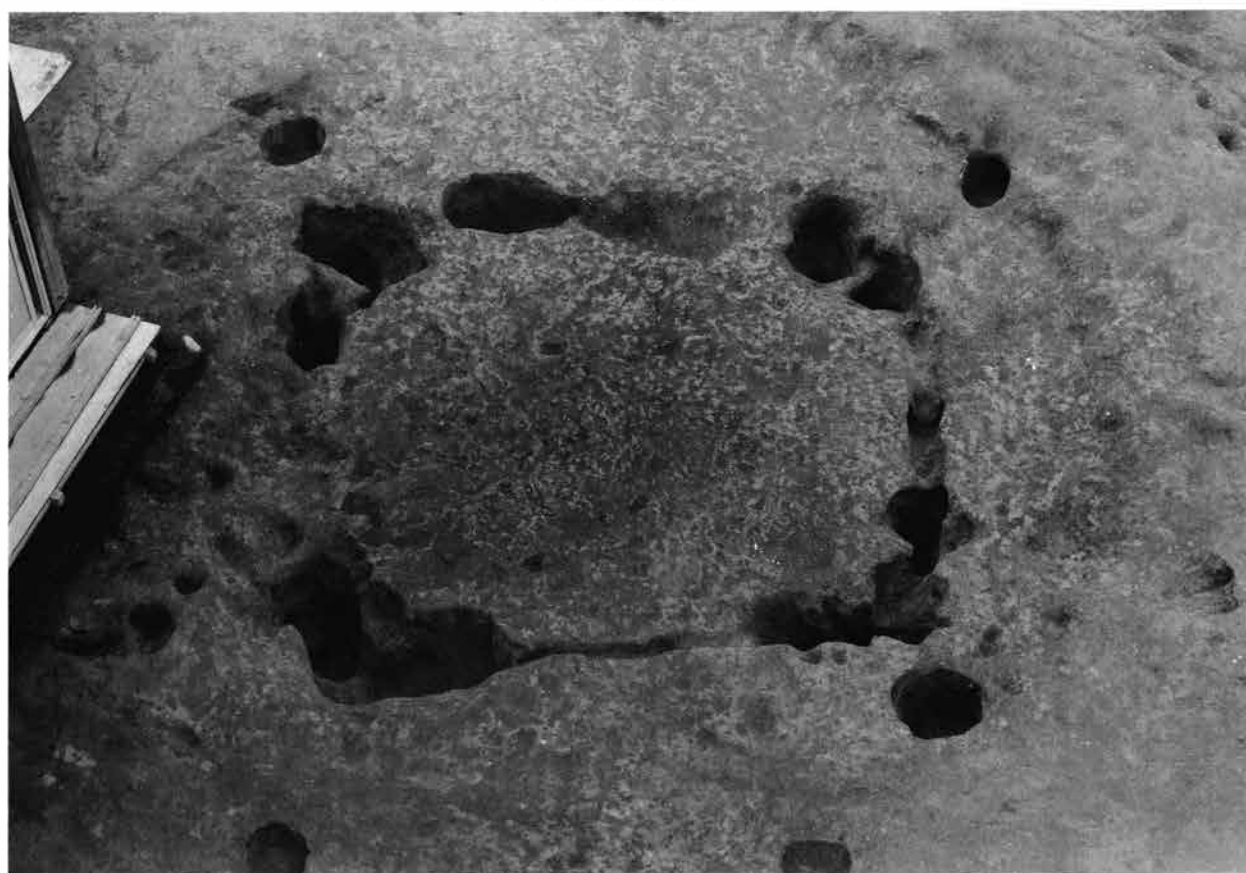
33号住居址全景



34号住居址全景



35号住居址全景



同中央部近接



36号住居址遺物出土狀態



同全景



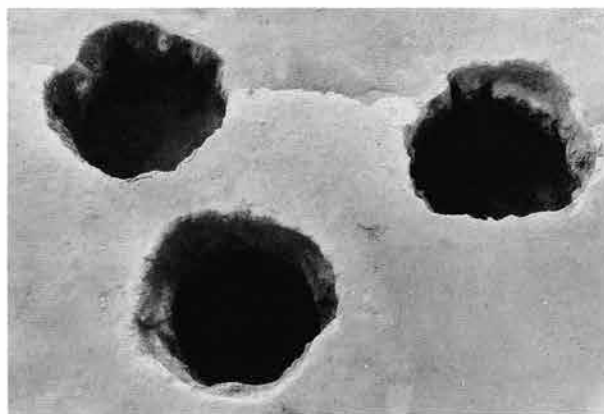
1号土坑



4号土坑



3·5号土坑



6·7·10号土坑



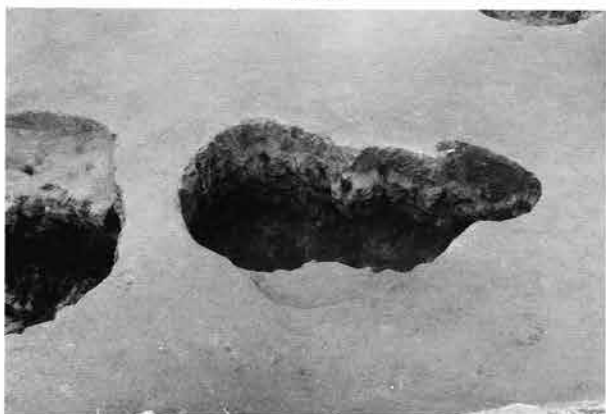
8号土坑



12号土坑



14号土坑



15·16号土坑



17号土坑



18号土坑



18~20·23·24号土坑



19号土坑



20号土坑



30号土壤



40~42号土壤



53号土坑



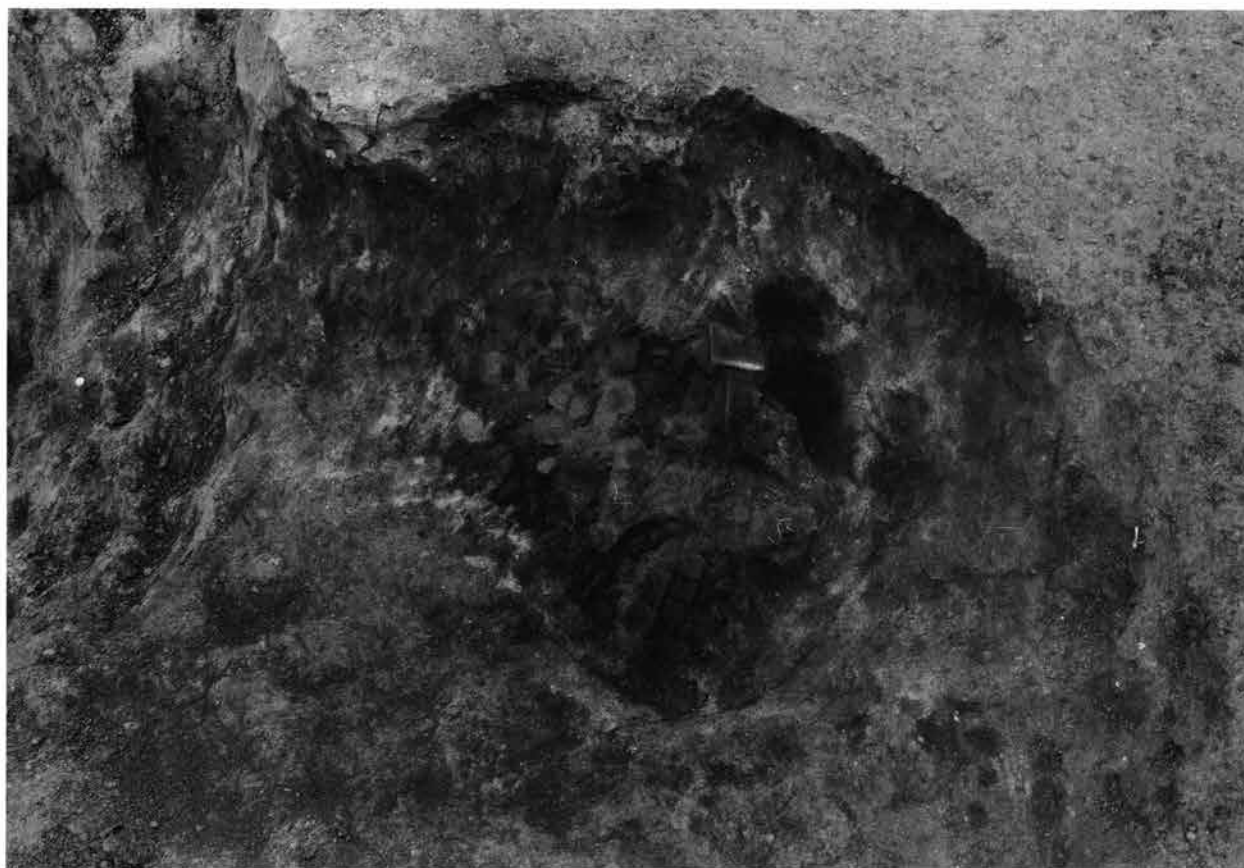
77号土坑



88号土坑



91号土坑



110号土坑



111号土坑



115号土坑



117·132号土坑



118号土坑



124号土坑



125号土坑



126号土坑



127号土坑



128·129号土坑



130号土坑



133号土坑



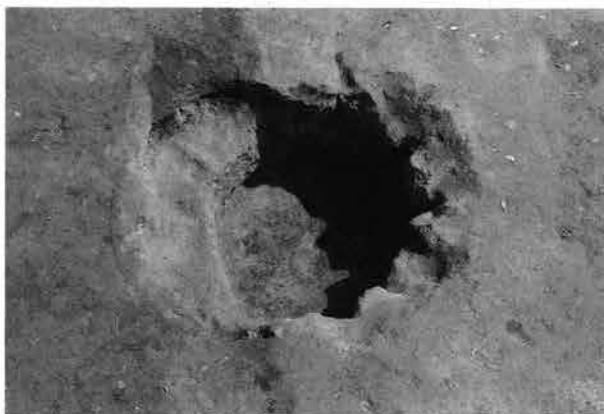
135号土壤



134号土壤



136号土壤



137号土壤



140号土壤



142号土坑



151号土坑



152号土壤



157号土壤



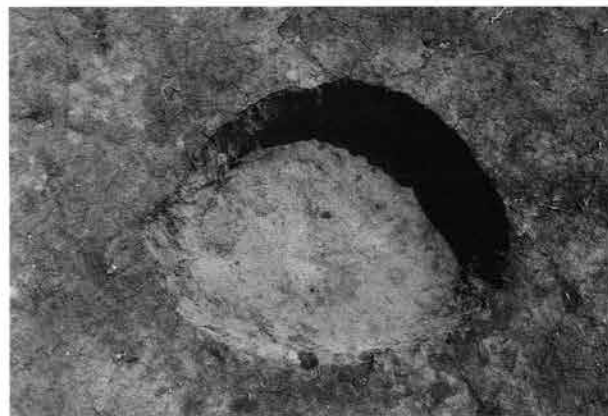
154号土坑



155号土坑



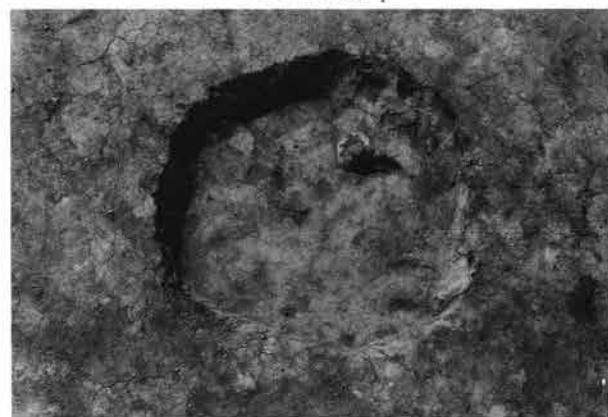
165号土坑



170号土坑



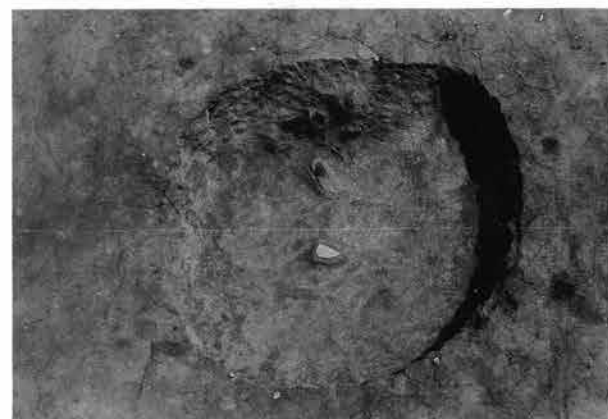
172号土坑



175号土坑



180号土坑



184号土坑



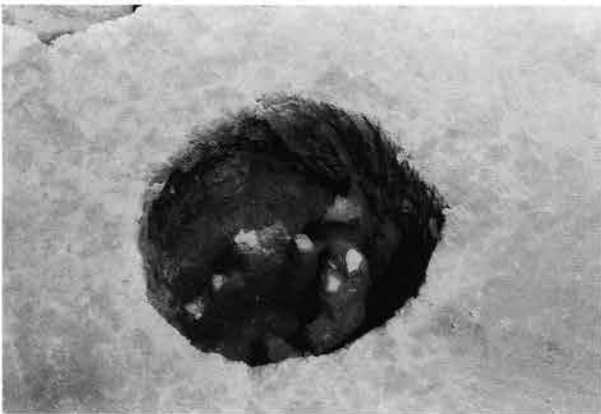
187号土坑



191号土坑



198号土坑



203号土坑



205号土坑



204号土坑



214号土坑



220·221号土坑



224号土坑



217号土壤



218·219·254号土壤



223号土壤



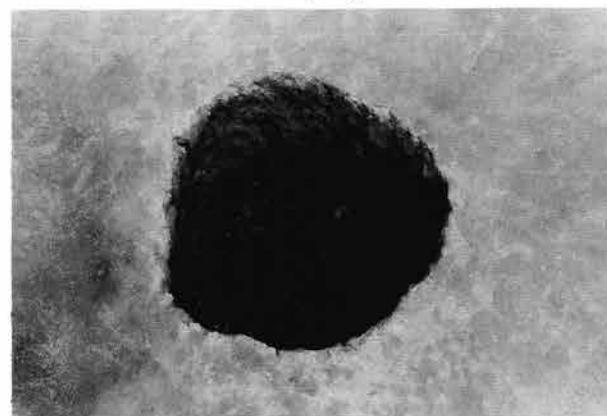
228号土壤



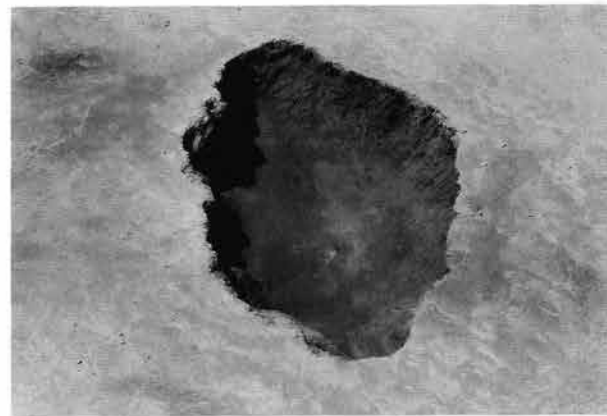
232号土壤



232号土壤



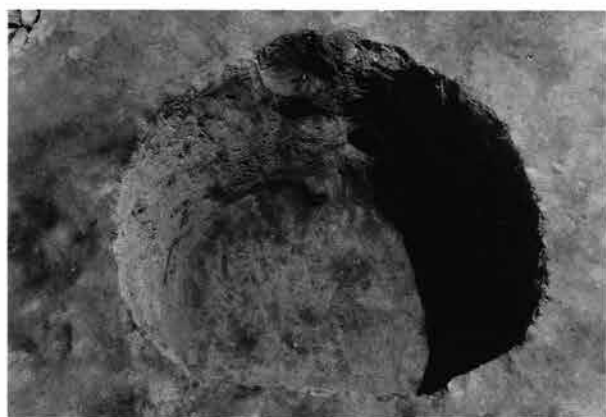
236号土壤



242号土壤



244号土壤



245号土壤



250号土壤



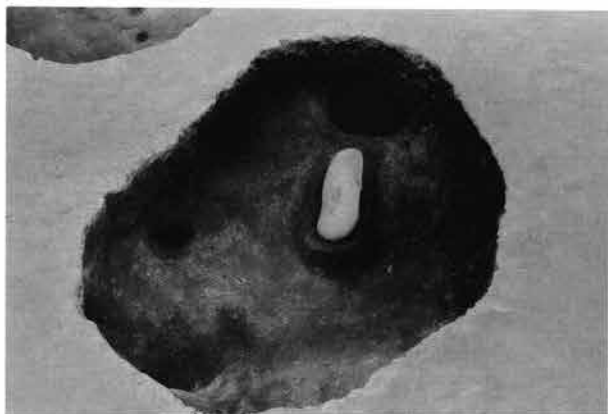
251号土壤



255号土壤



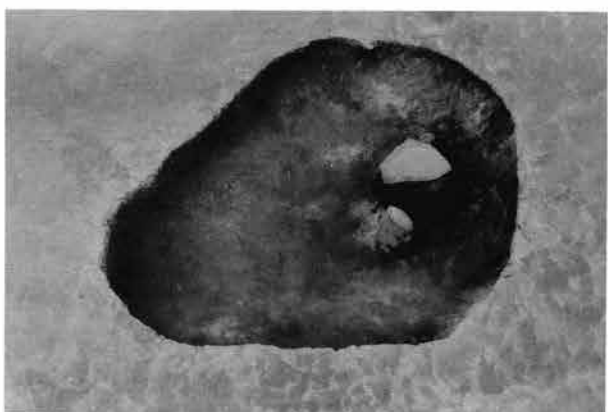
270号土壤



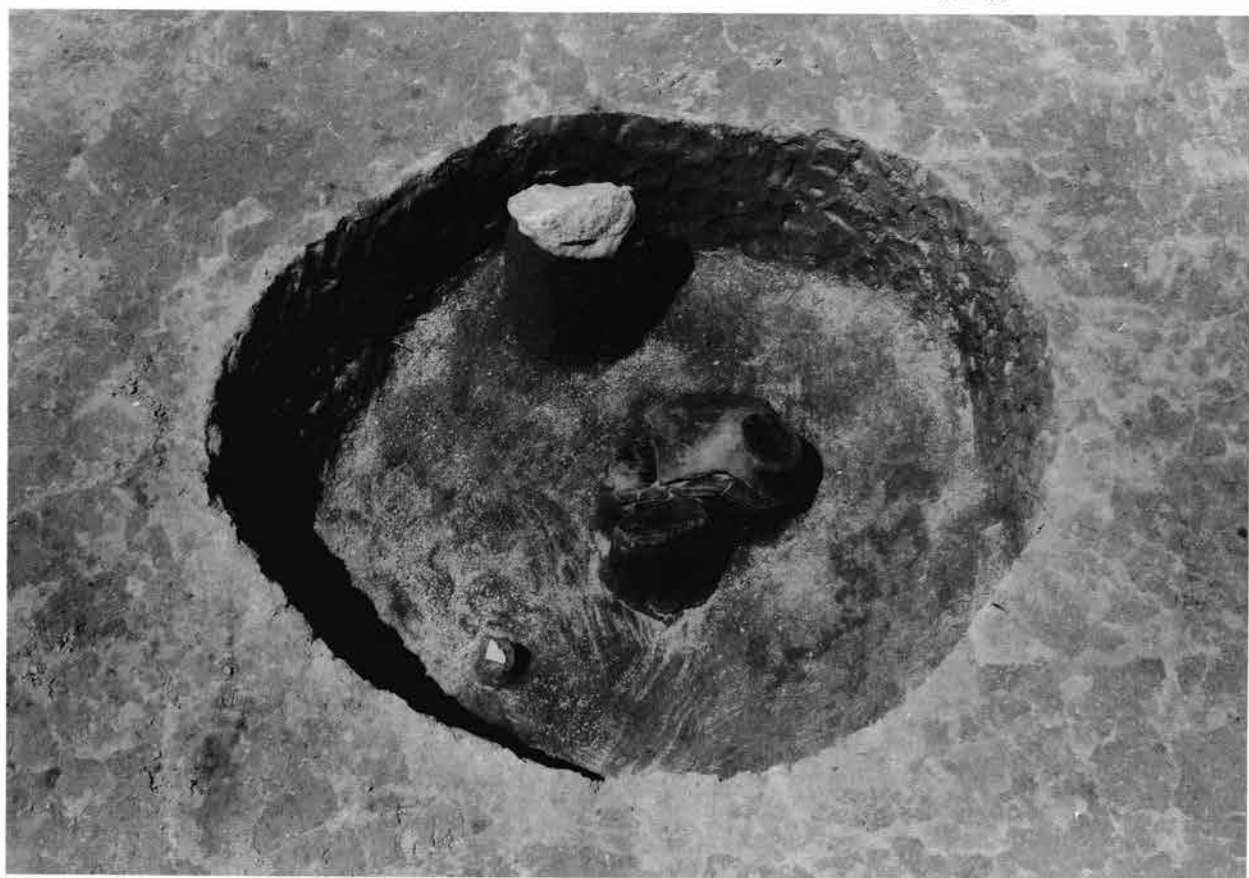
273号土壤



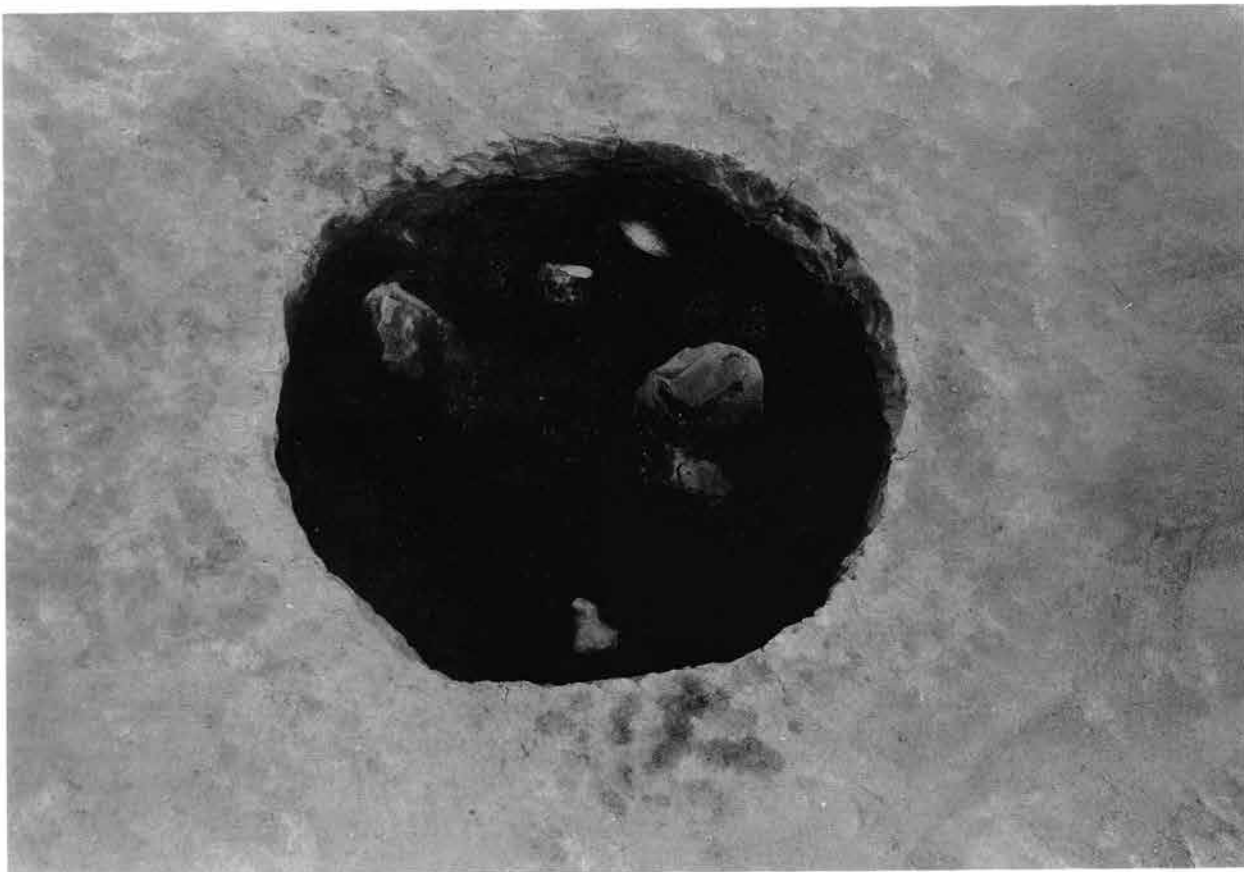
275号土壤



278号土壤



279号土壤



281号土坑



282号土坑



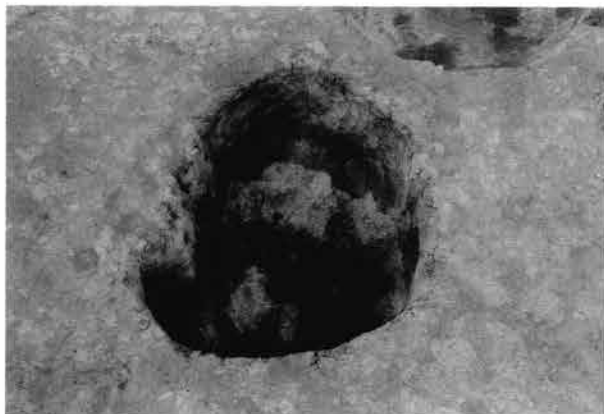
283号土壤



285号土壤



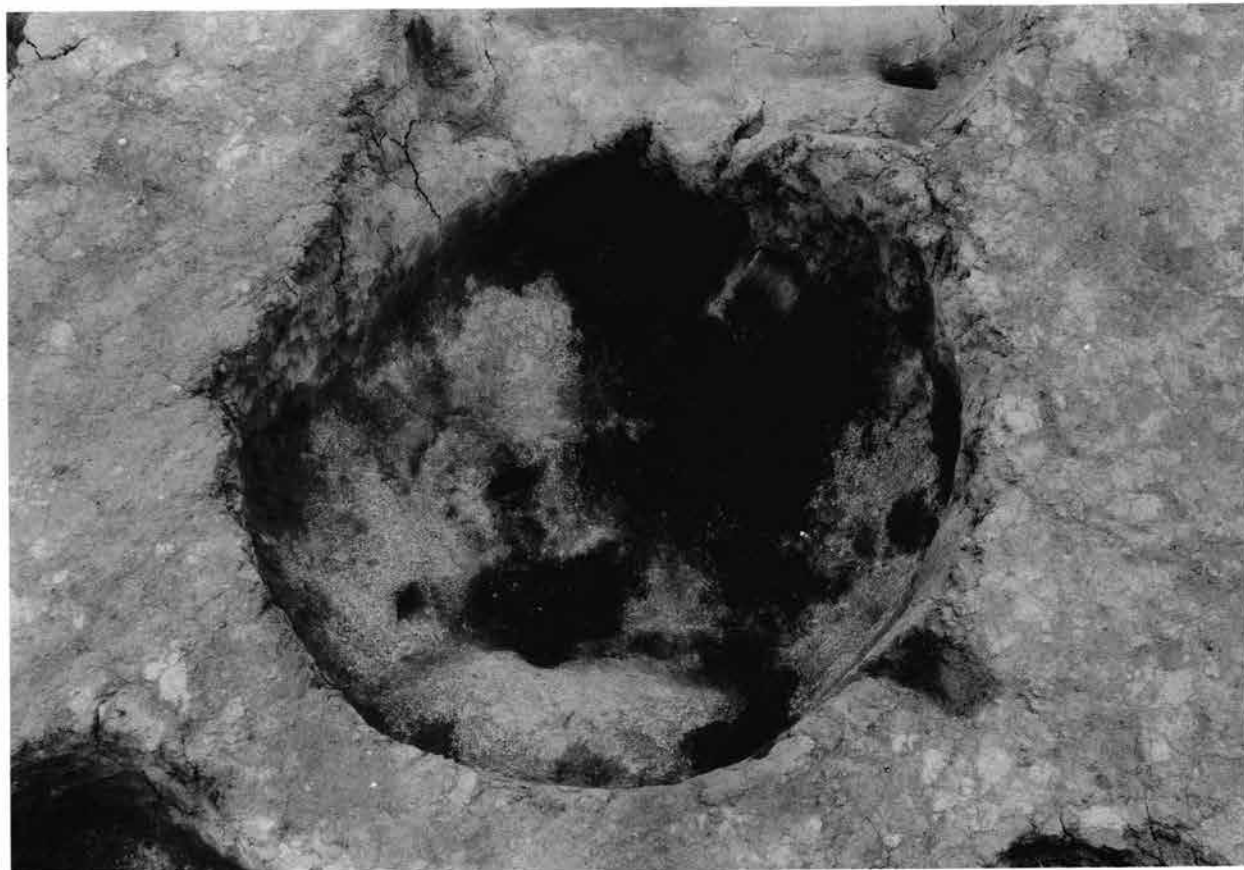
288号土壤



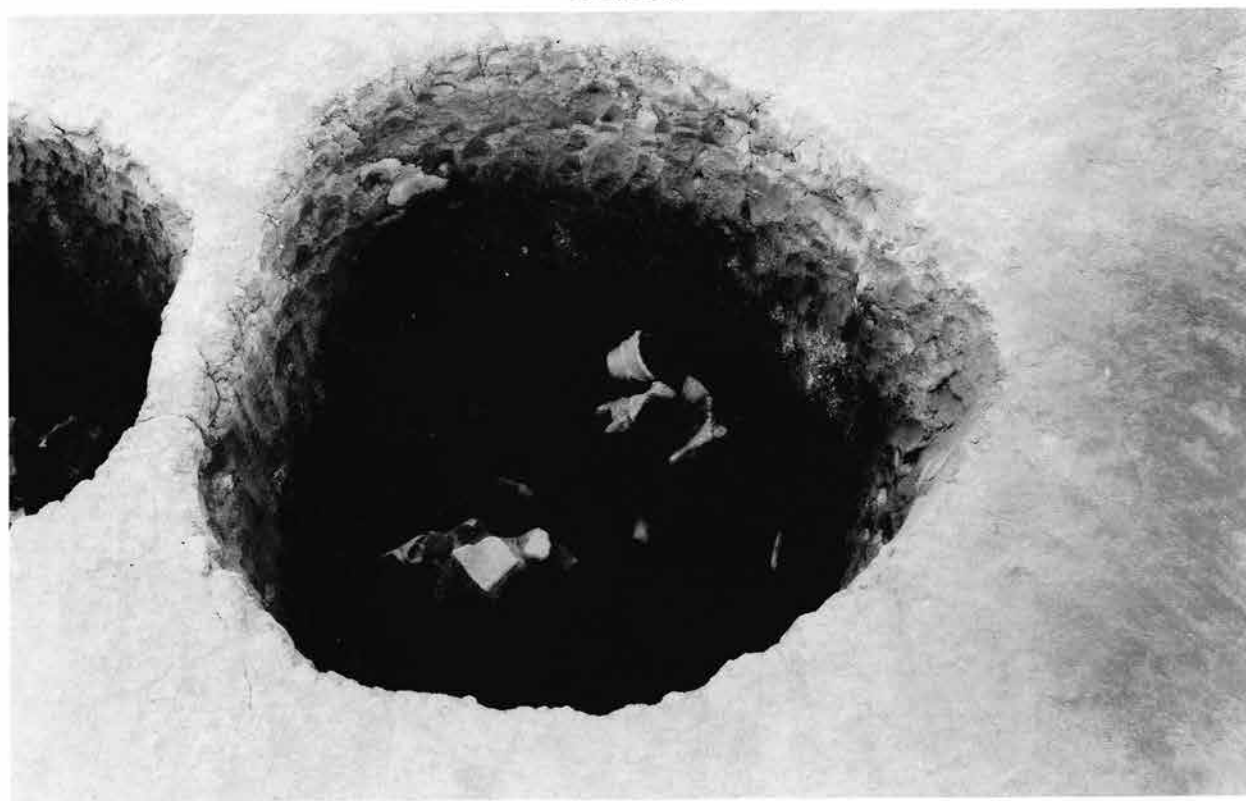
292号土壤



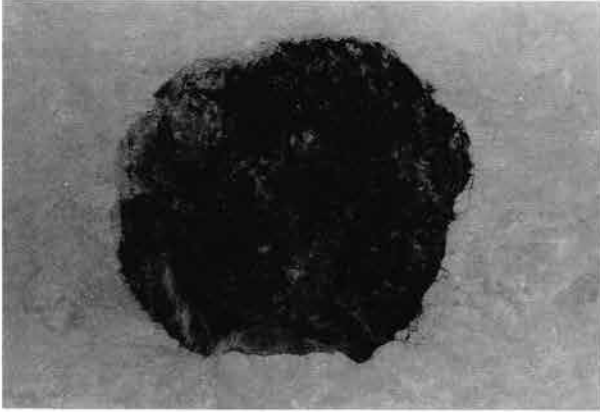
292号土壤



293号土坑



299号土坑



302号土壤



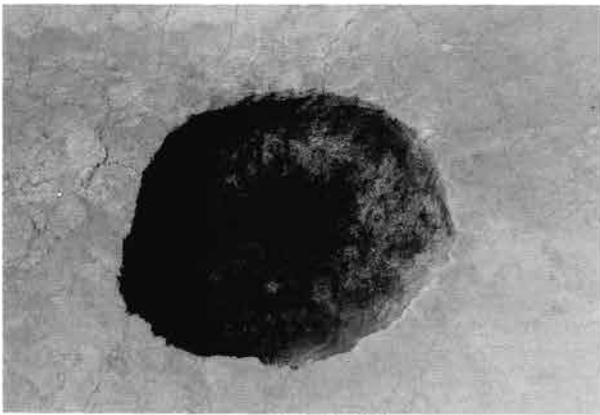
311号土壤



313号土壤



313号土壤完掘



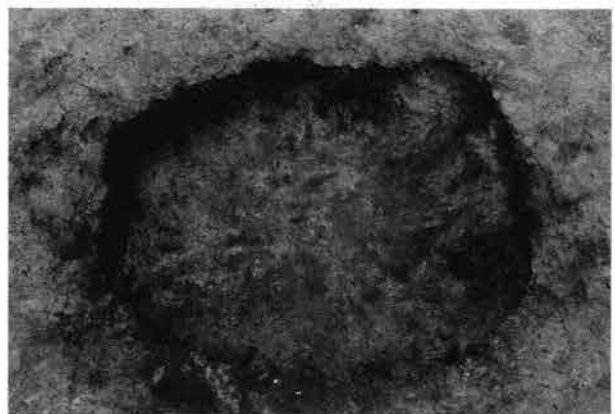
313号土壤土層



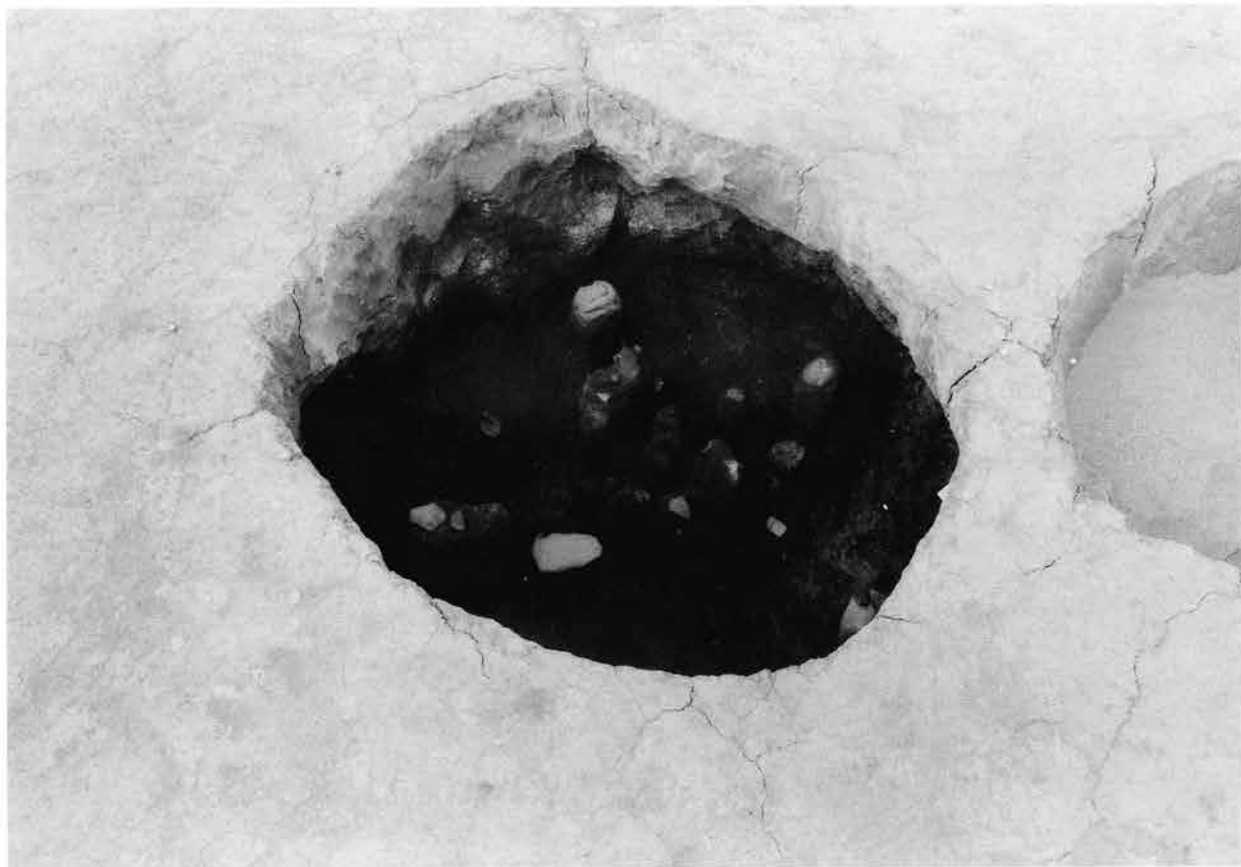
314号土壤



317号土壤



328号土壤



332号土壤



333号土壤



338号土壤



341号土壤



342号土壤



343号土壤



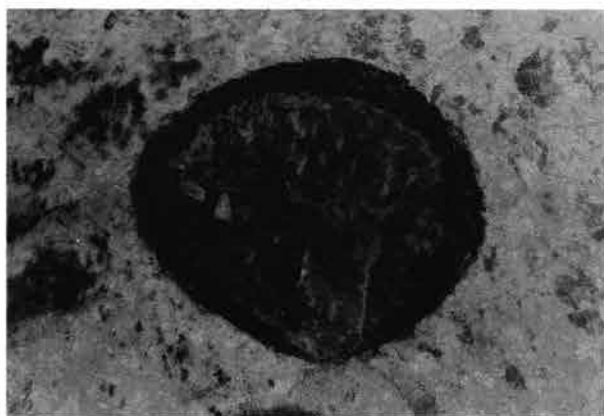
344号土壤



345号土坑



348号土坑



349号土坑



355号土坑



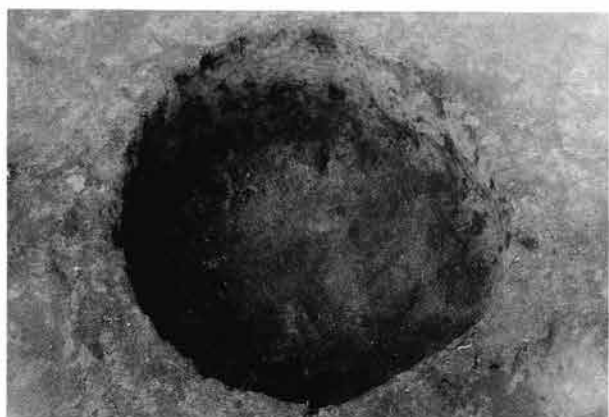
356·357号土坑



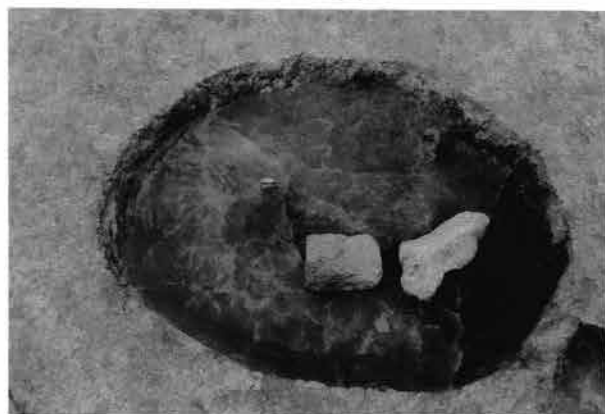
361号土坑



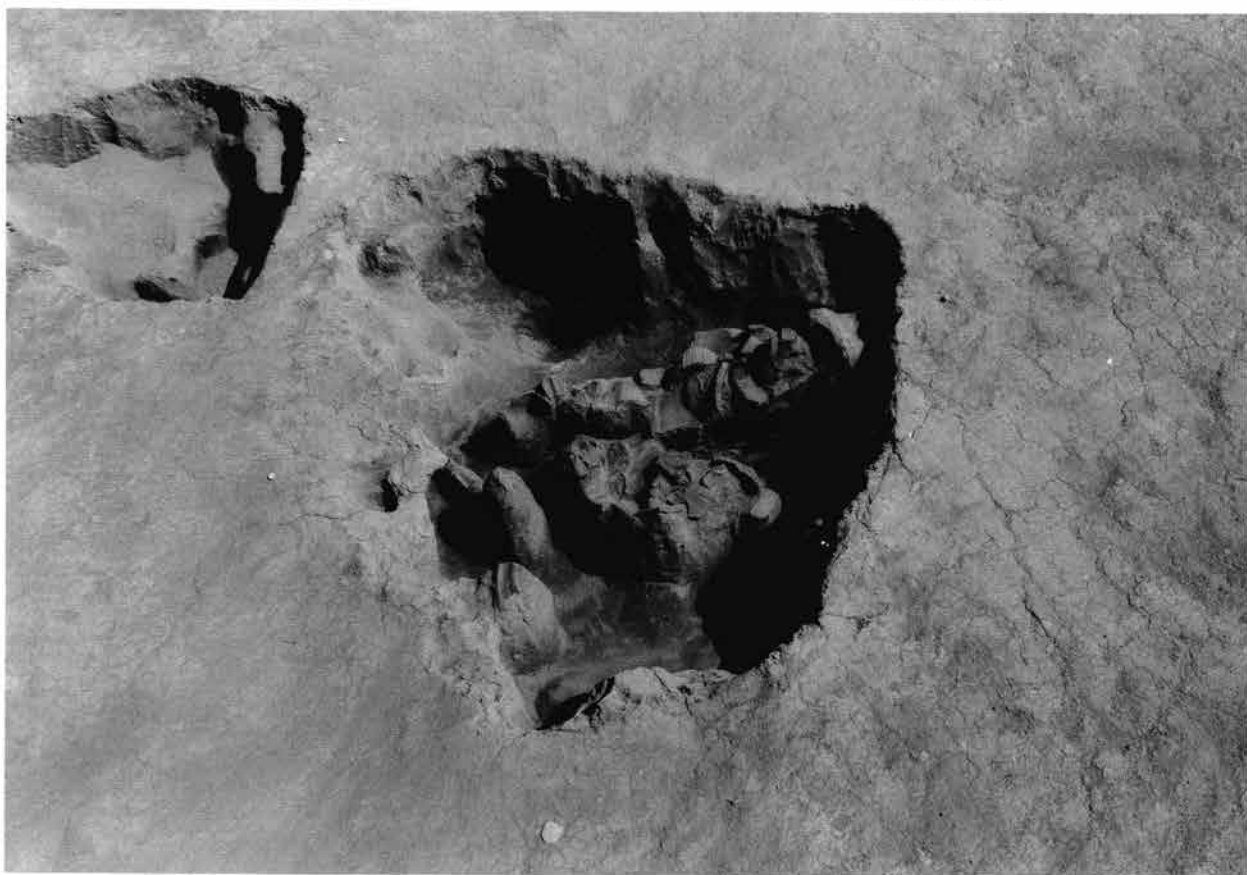
372号土坑



374号土坑



395号土坑



378号土坑



400号土壤



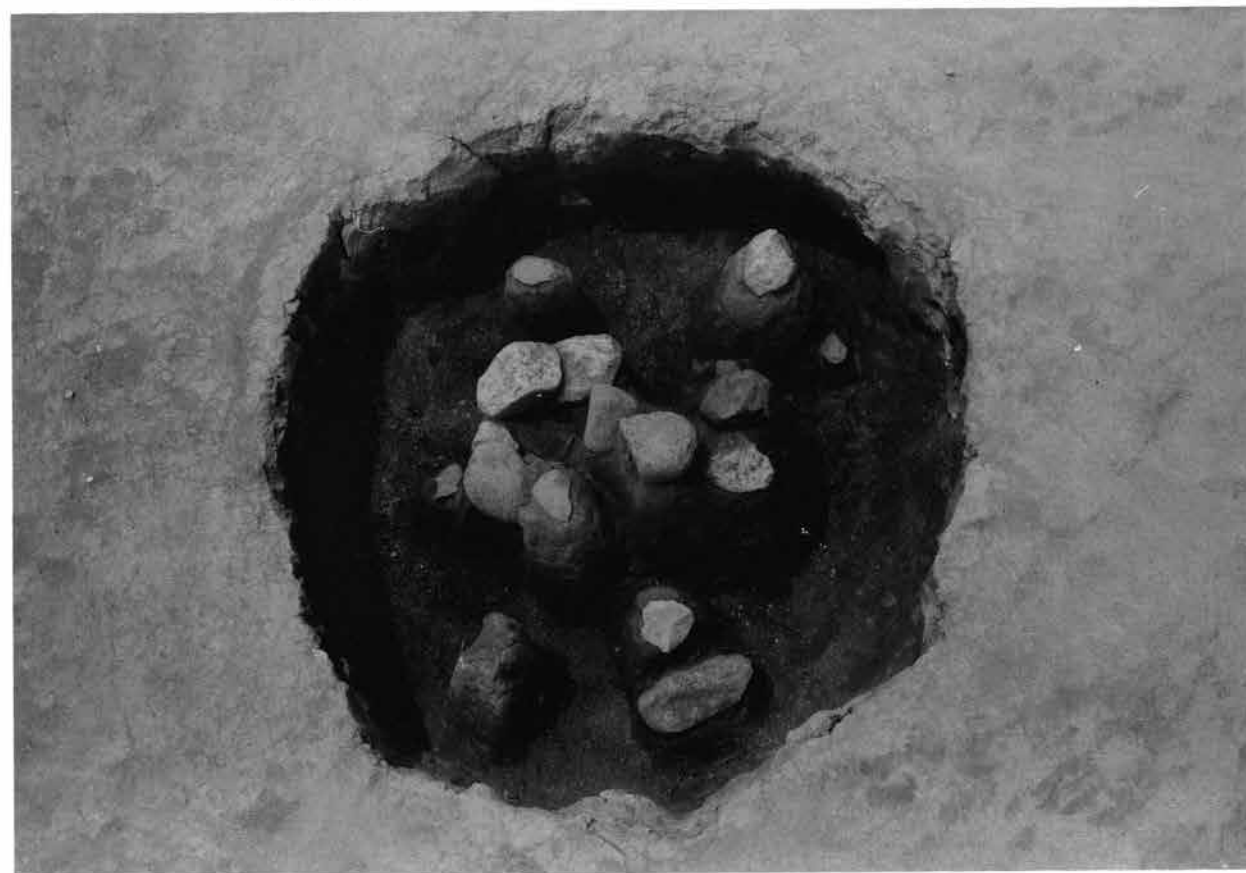
402号土壤



403号土壤



406号土壤



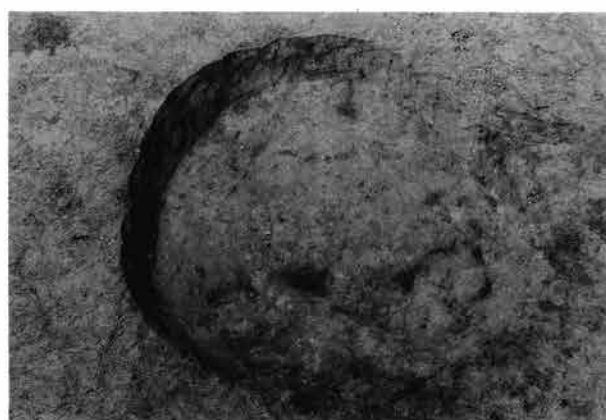
408号土壤



414号土坑



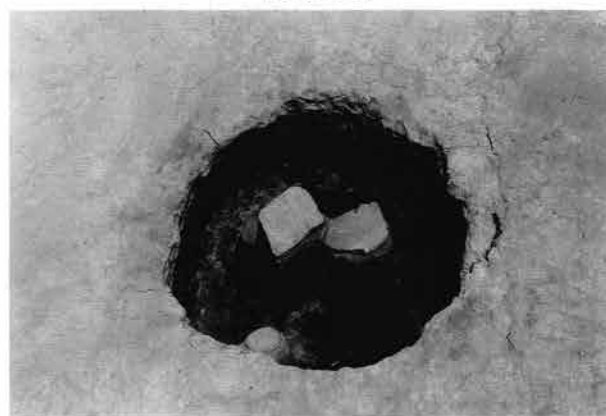
419号土坑



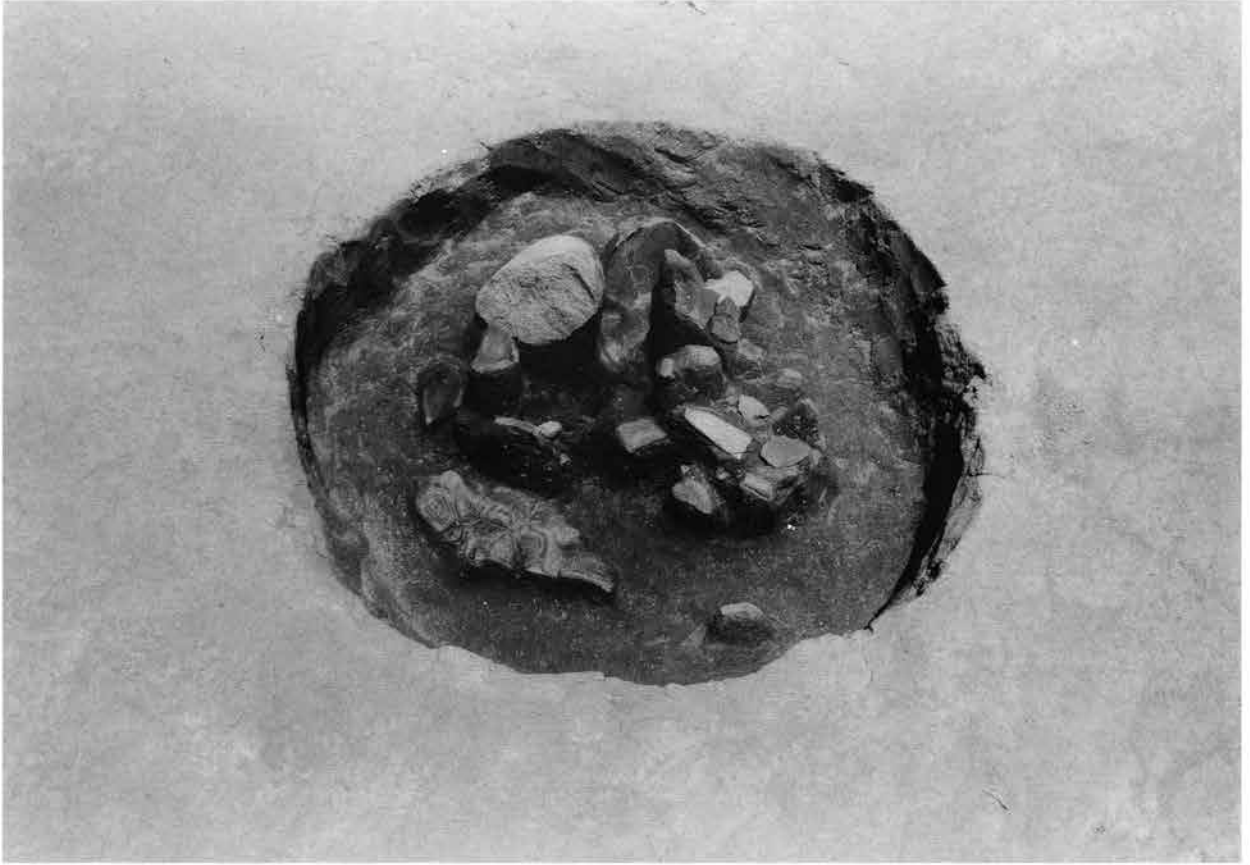
422号土坑



424号土坑



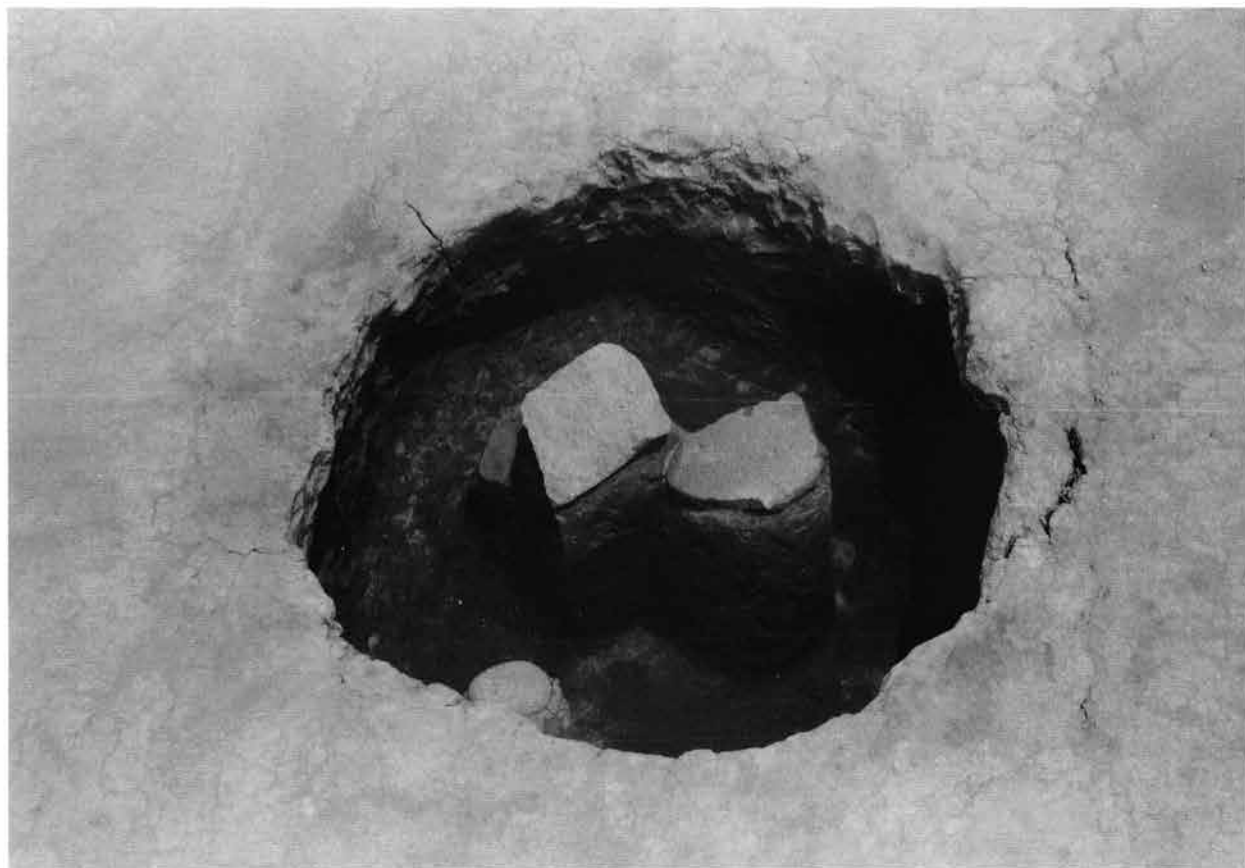
432号土坑



425号土壤



429号土壤



432号土壤



433号土壤



445号土壤



446号土壤



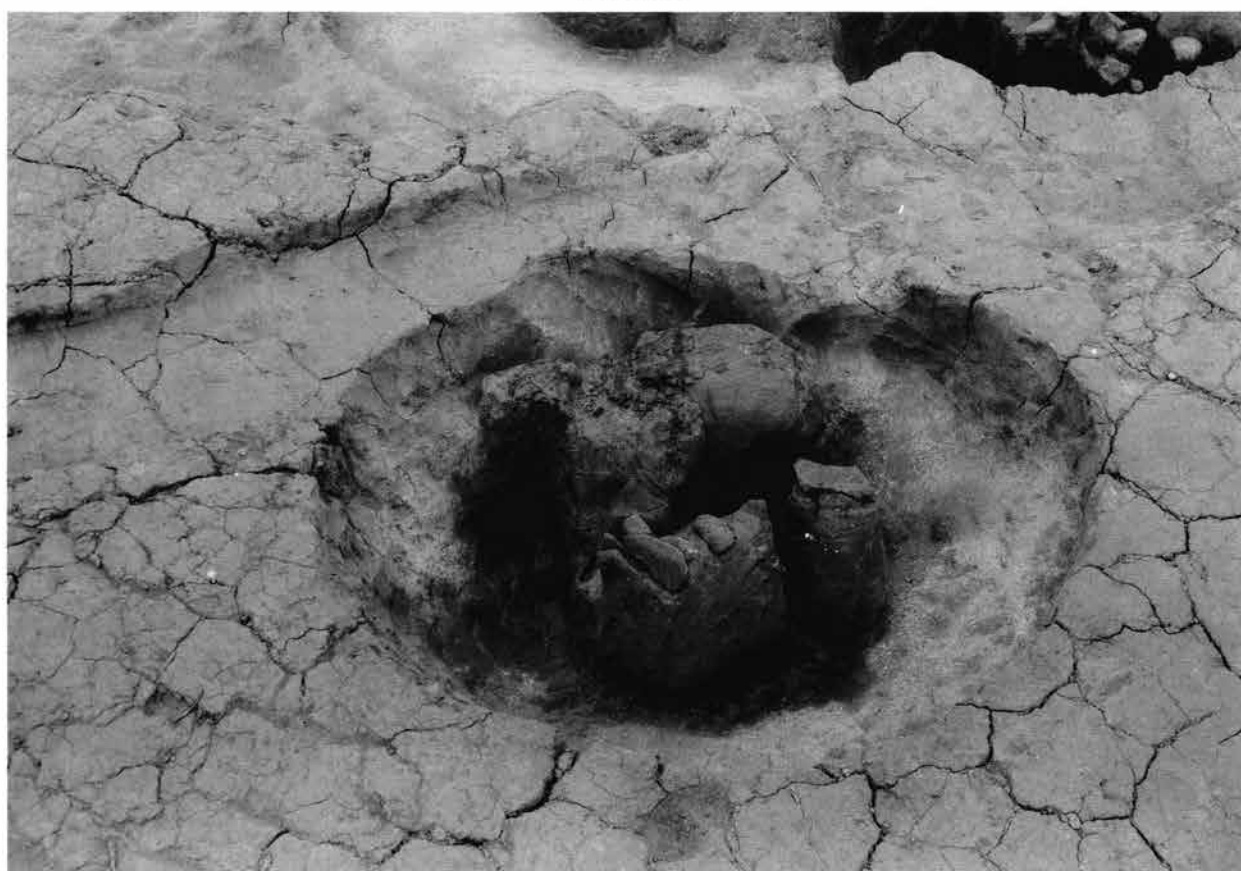
454号土坑



461号土坑



463号土坑



464号土坑



464·466~468号土坑



470号土坑



481号土坑



484号土坑



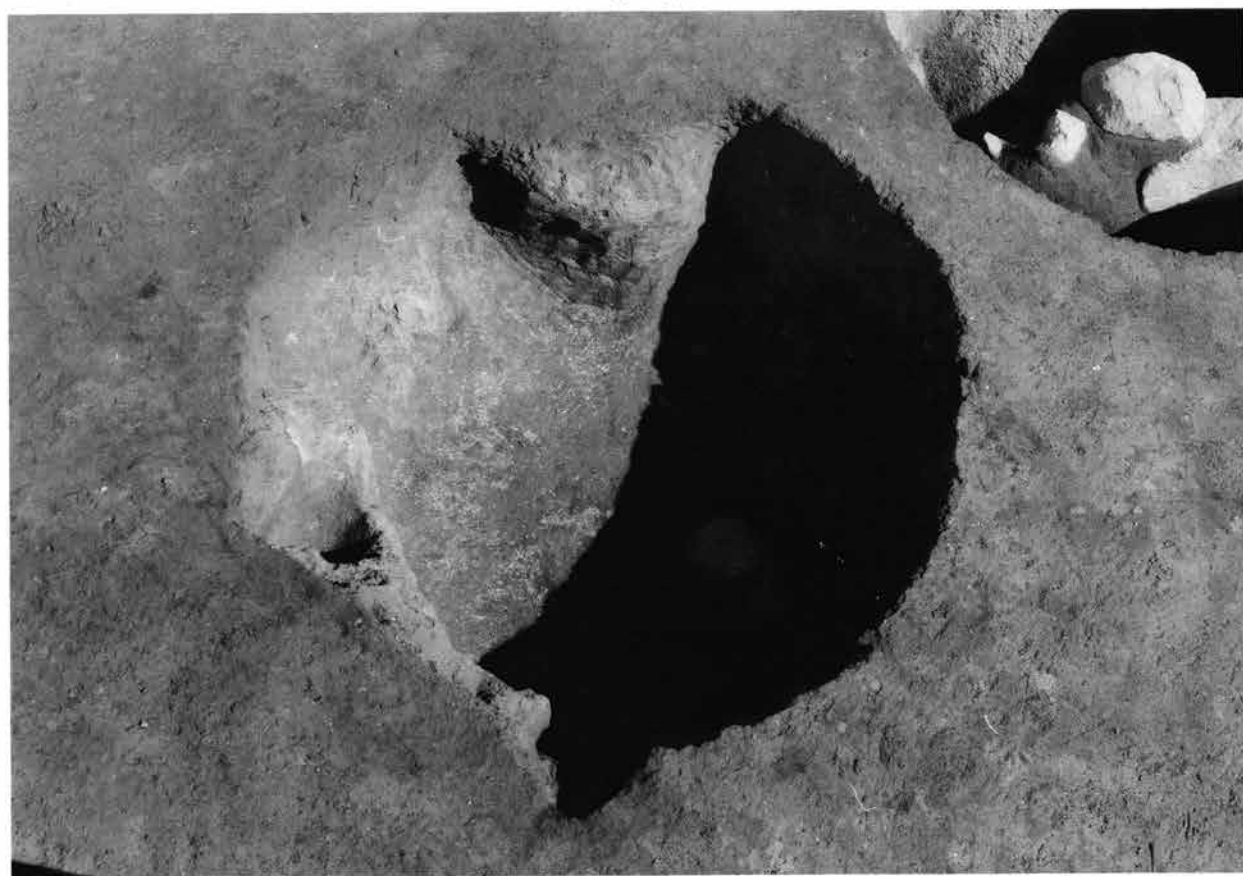
486号土坑



510号土坑



512号土坑



513号土坑



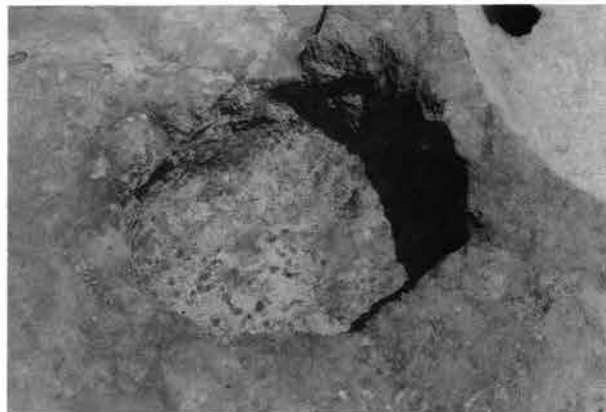
530号土坑



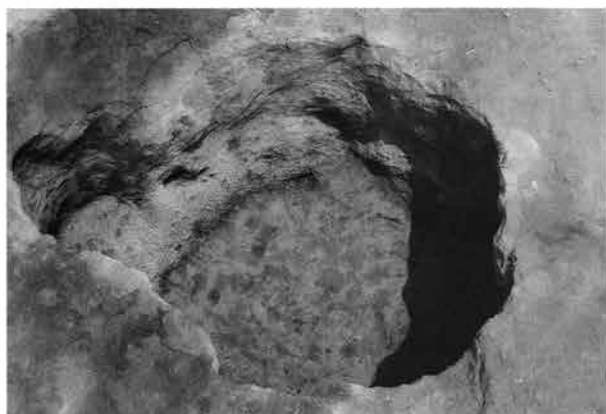
533号土坑



514号土壤



524号土壤



541号土壤



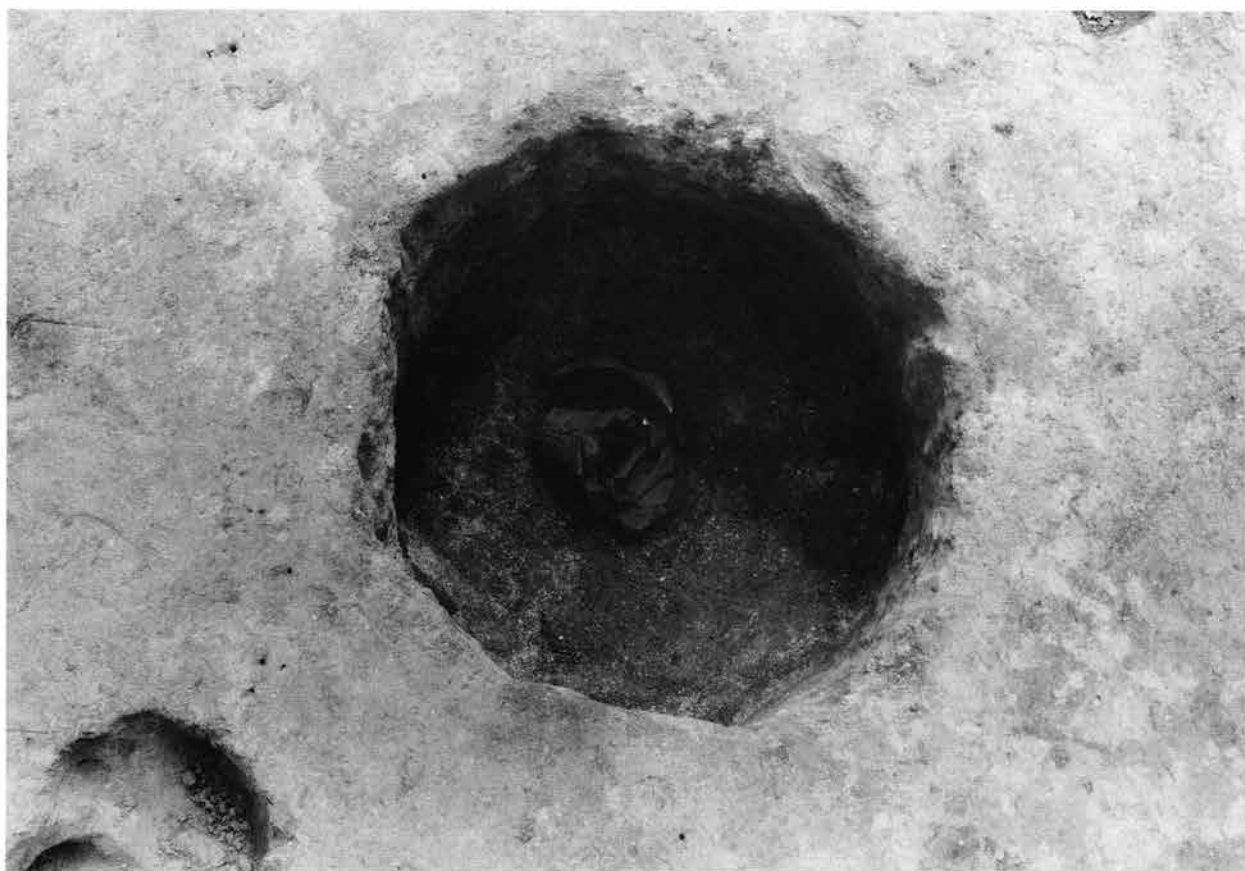
558号土壤



563号土壤



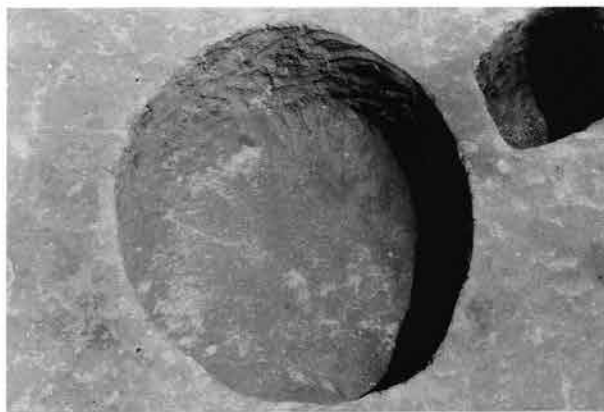
585号土壤



585号土壤



573号土壤



575号土壤



578·579号土壤



589号土壤



591号土壤



592号土壤



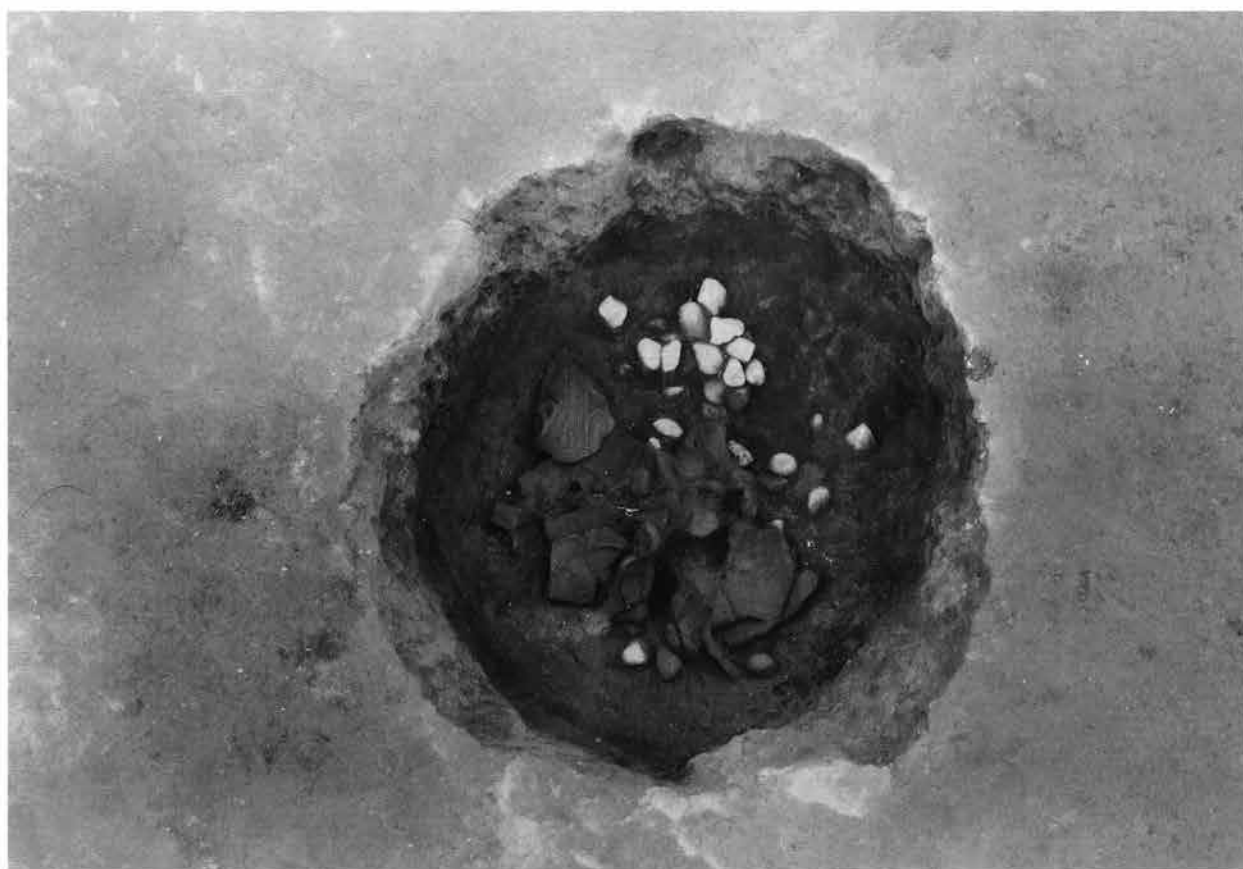
598号土壤



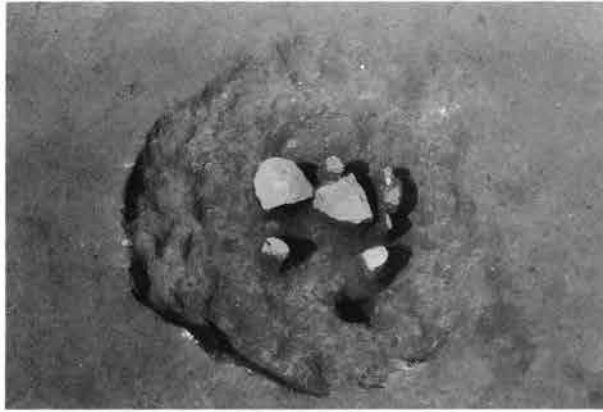
601号土壤



600号土壤



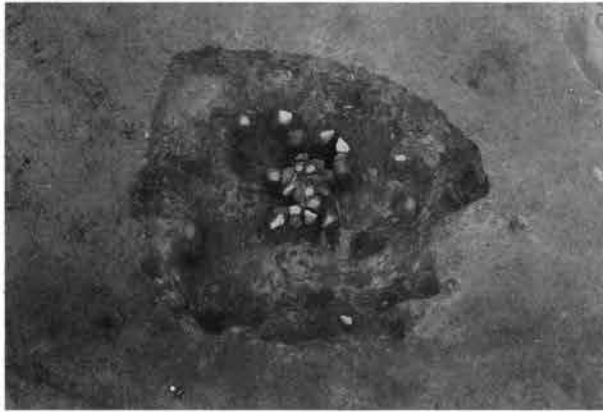
625号土壤



631号土壤



634号土壤



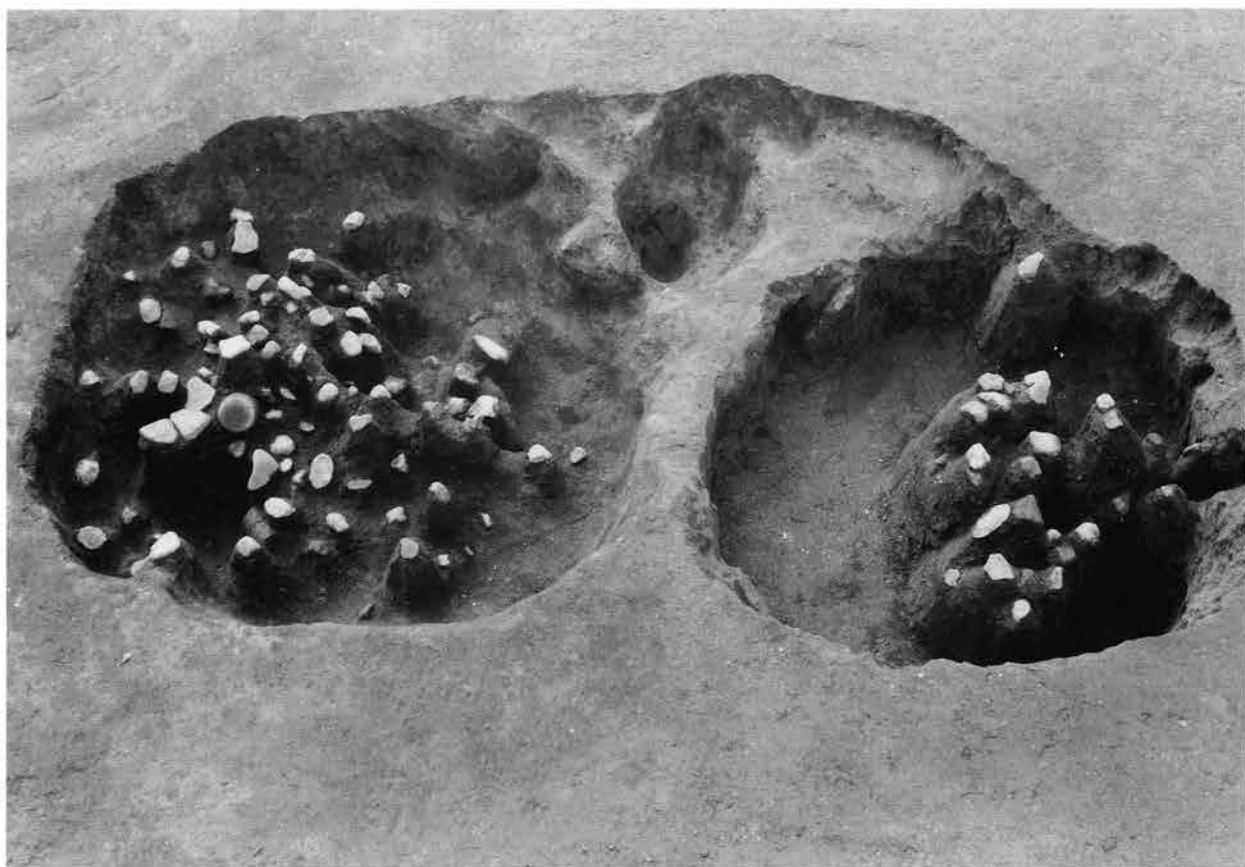
638号土壤



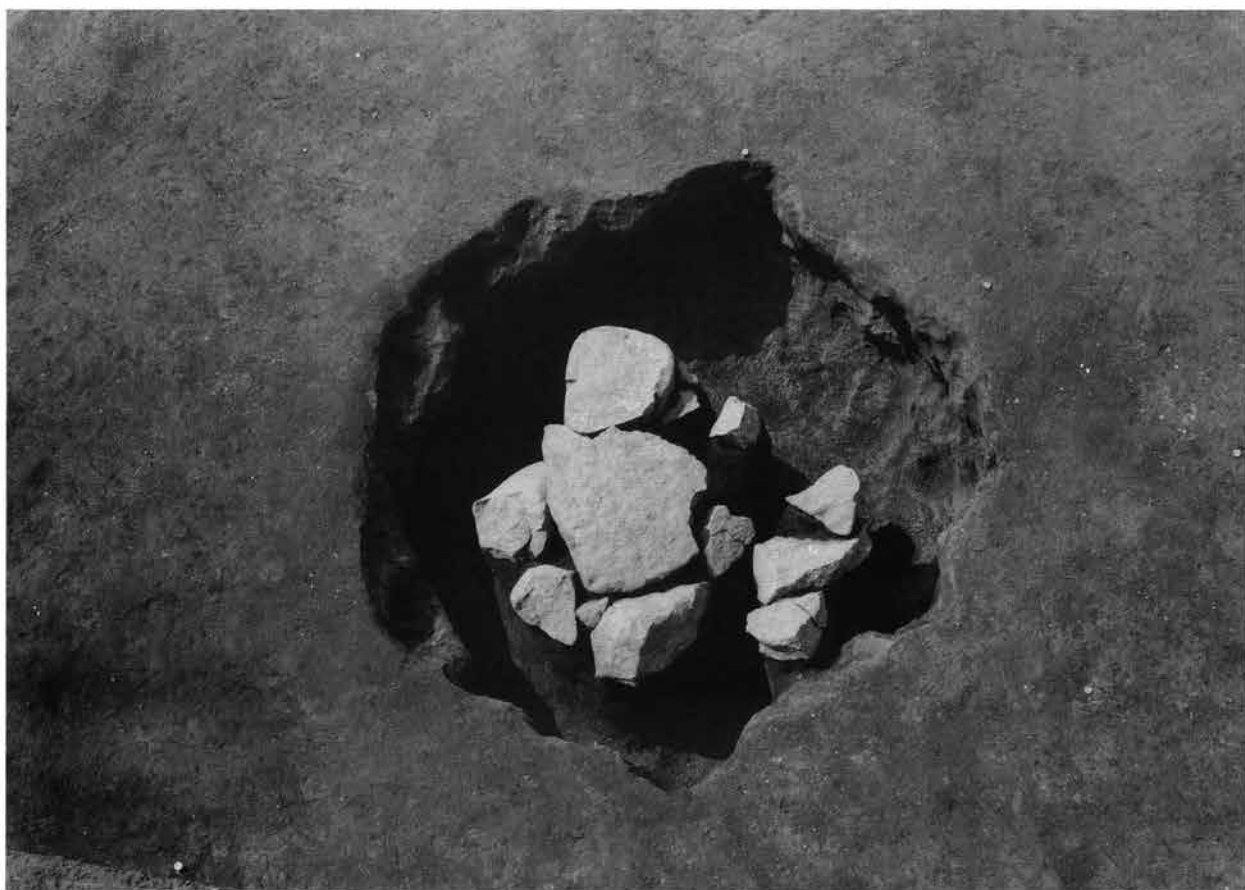
648号土壤



645号土壤



655·724号土壤



657号土壤



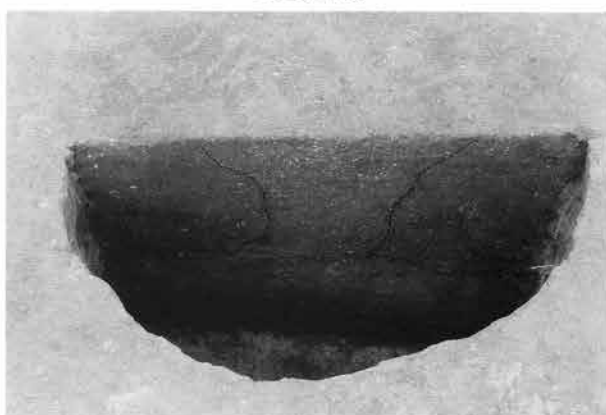
663号土壤



664号土壤



690号土壤



690号土壤土層



691号土壤



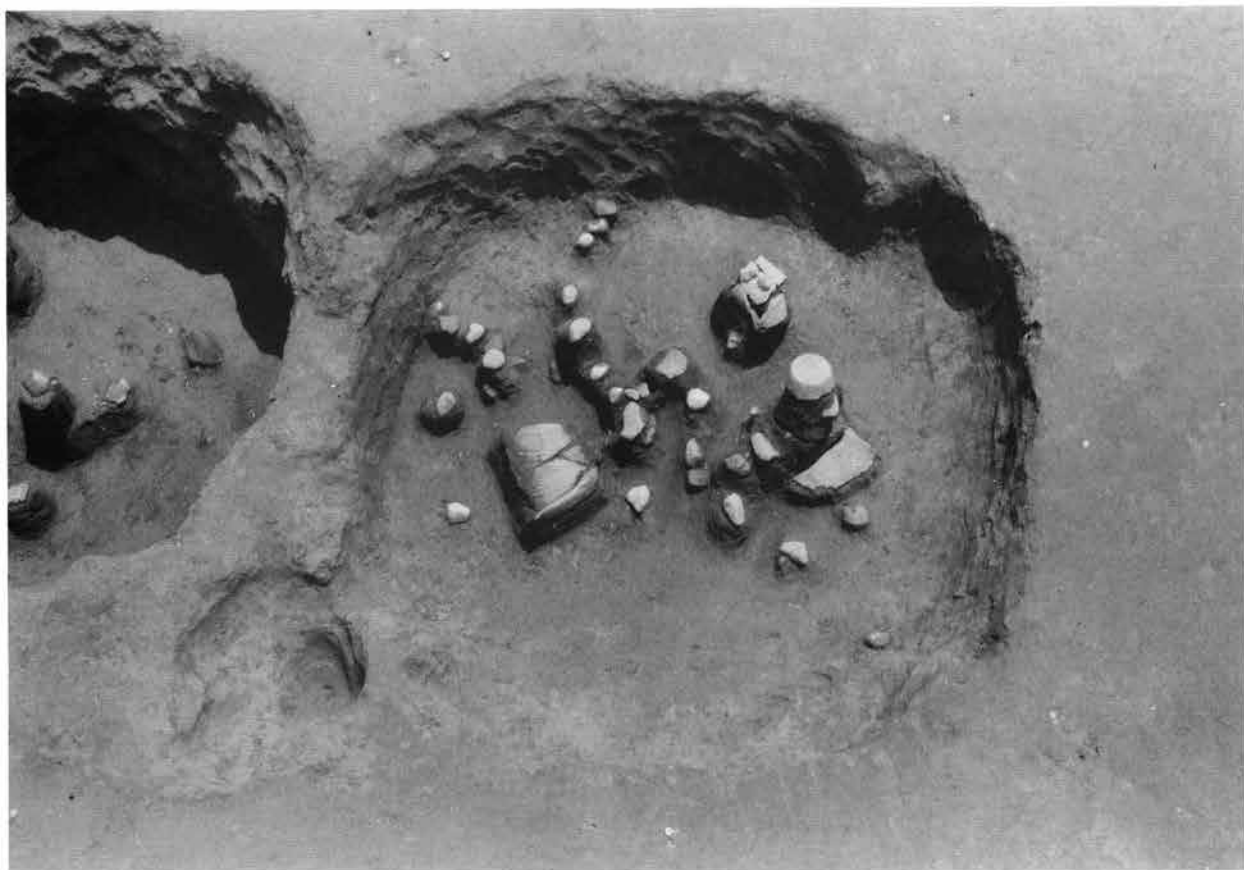
691号土壤土層



693号土壤



693号土壤土層



724号土坑



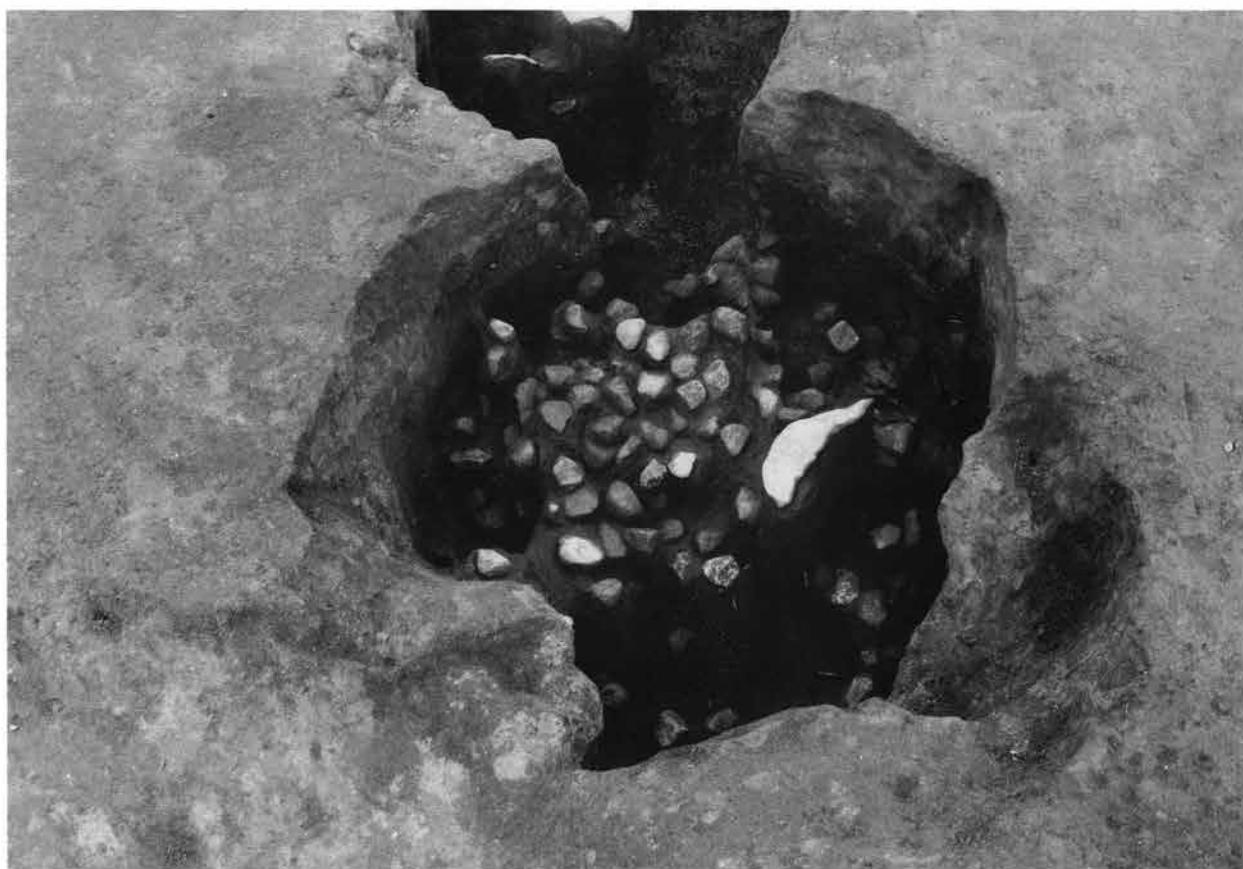
729号土坑



726·727号土壤



730号土壤



734号土壤



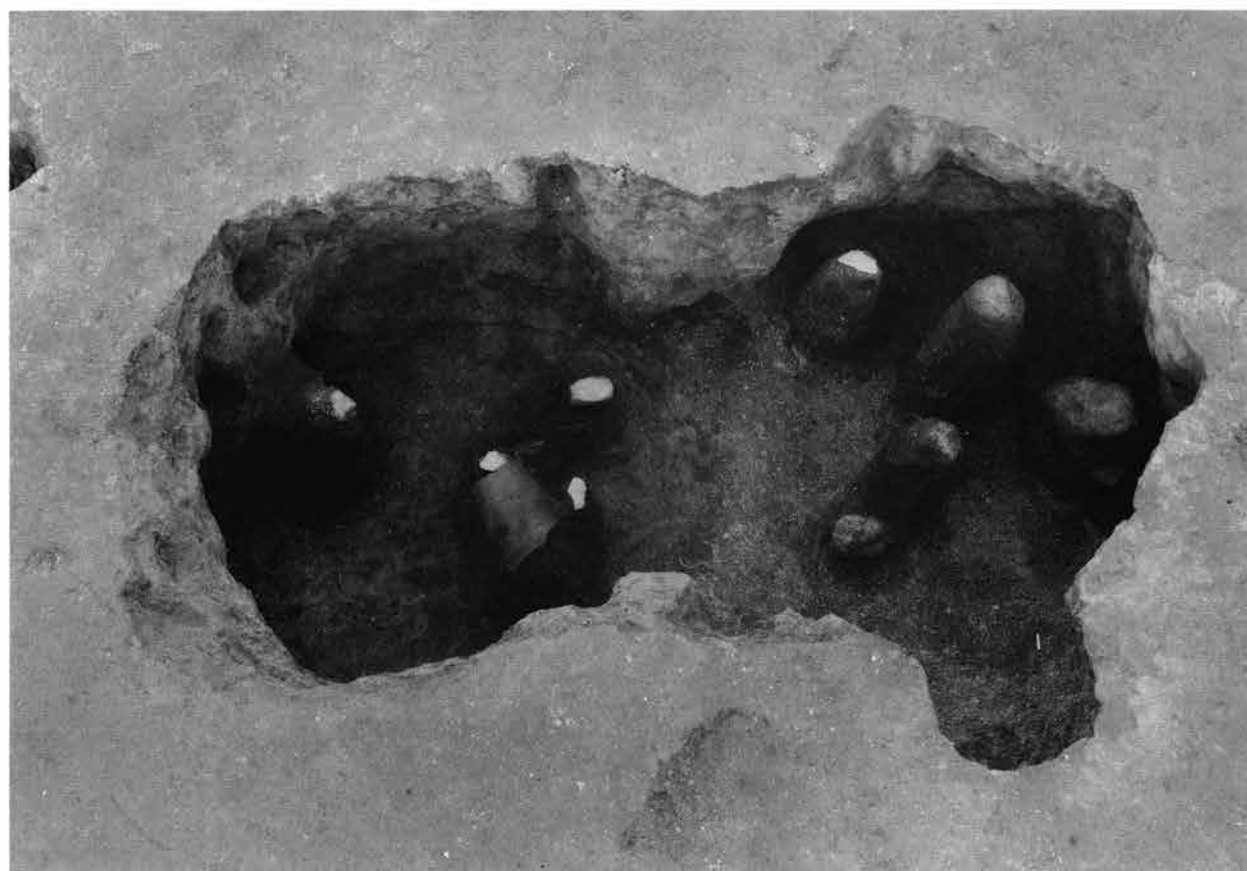
736号土壤



737号土壤



738号土坑



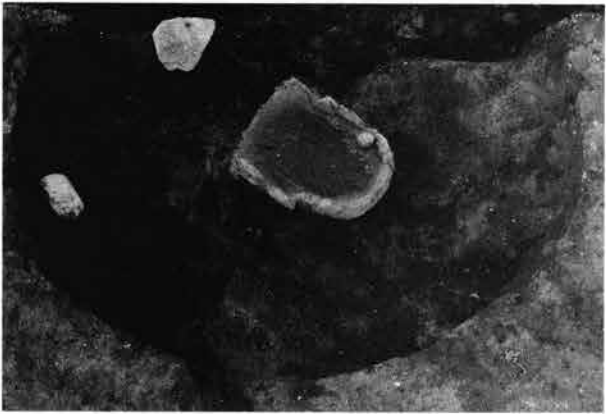
744·745号土坑



743号土坑



746号土坑



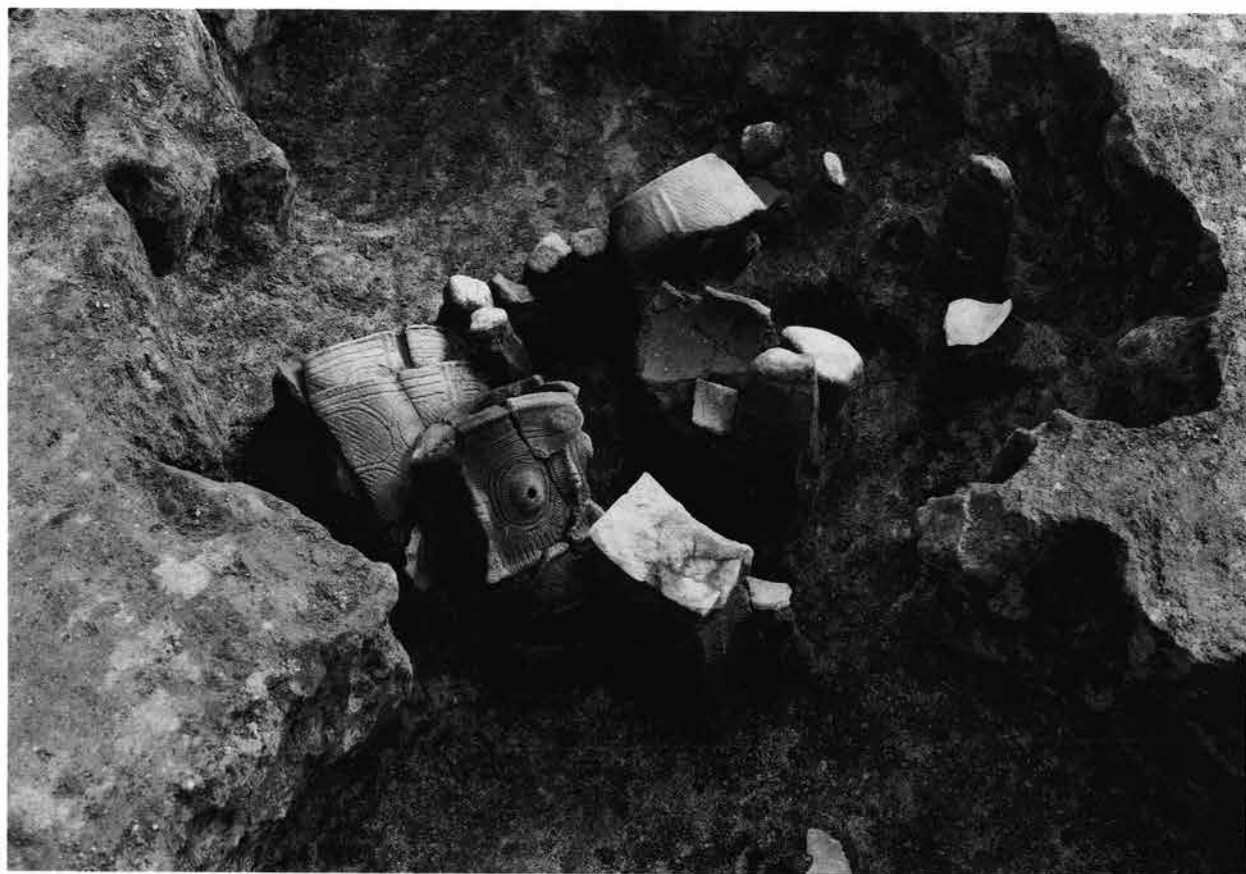
750号土坑



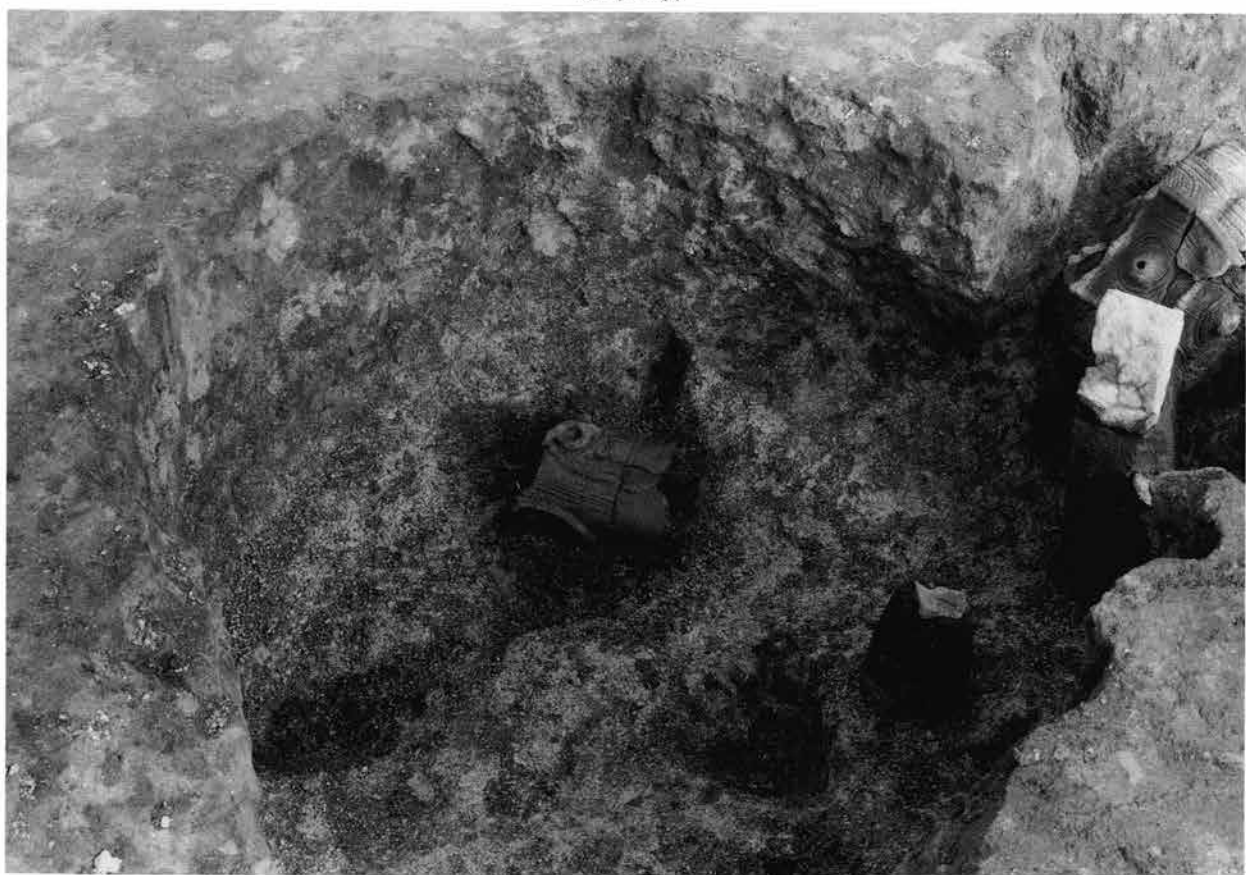
758号土坑



759号土坑



761号土坑



762号土坑



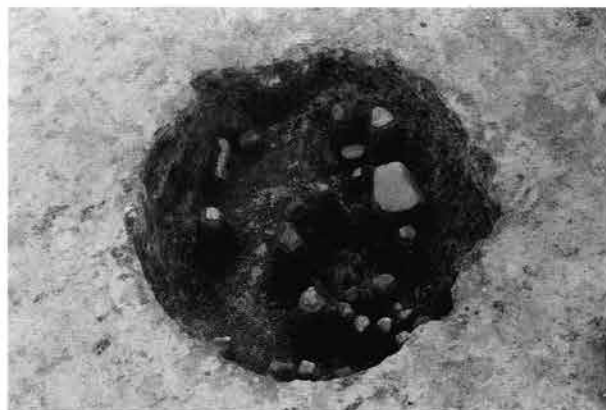
763号土壙



767号土壙



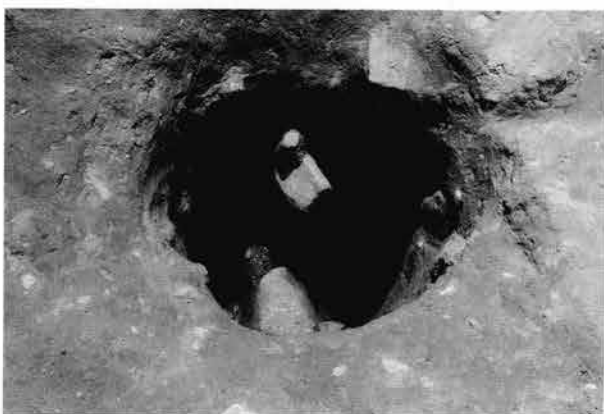
766号土坑



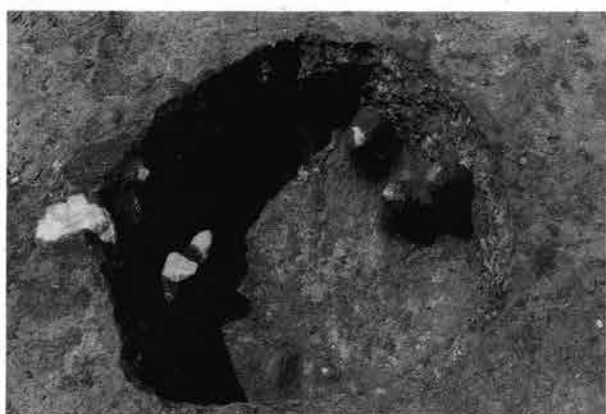
769号土坑



877号土坑



878号土坑



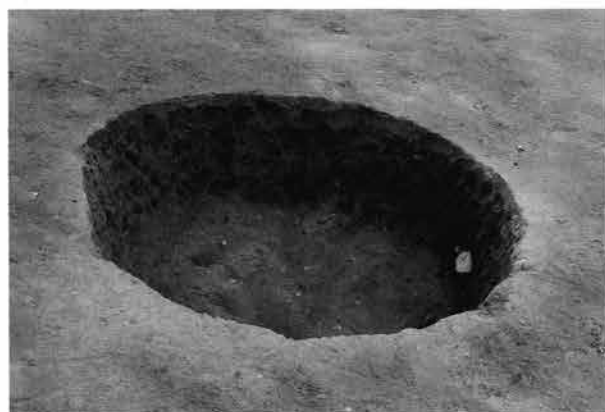
887号土坑



888号土壤



890号土壤



892号土壤



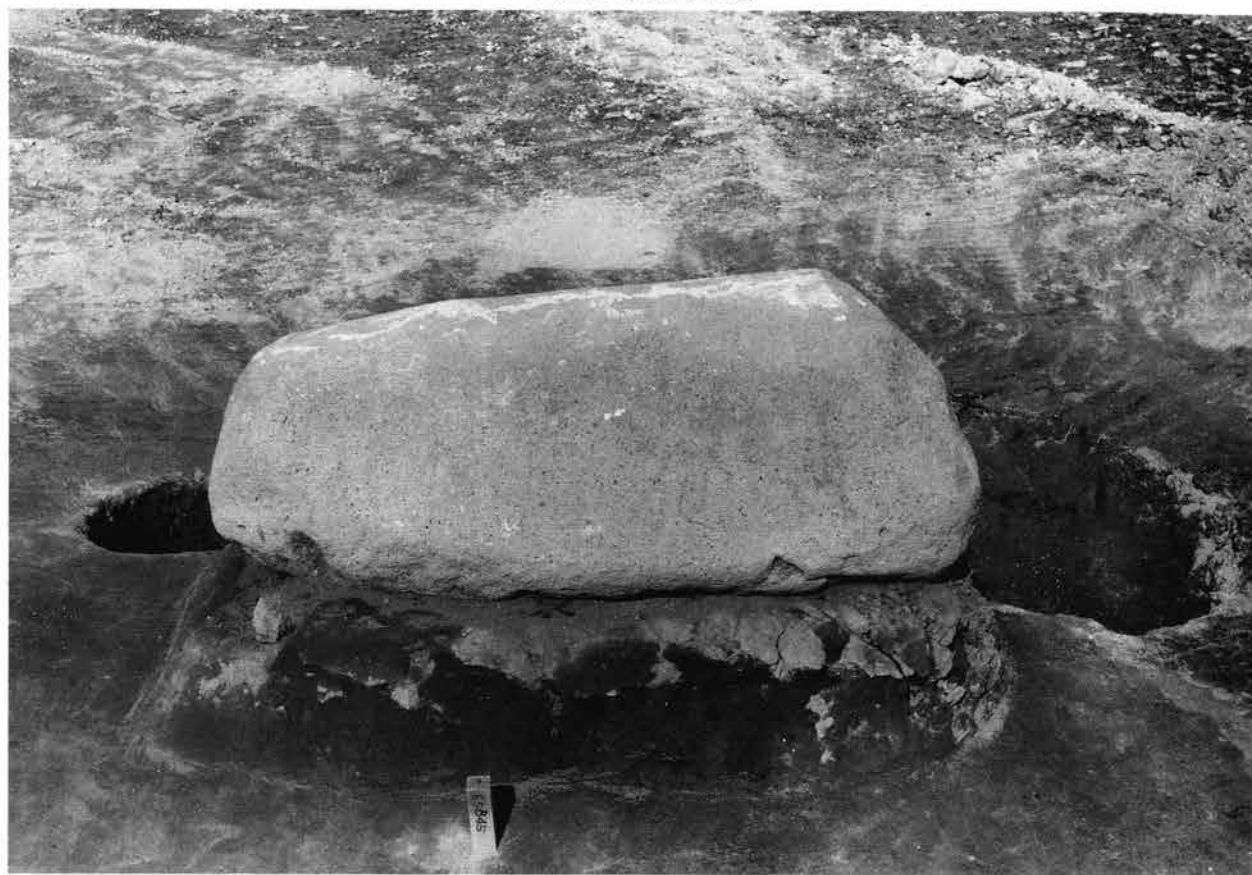
893号土壤



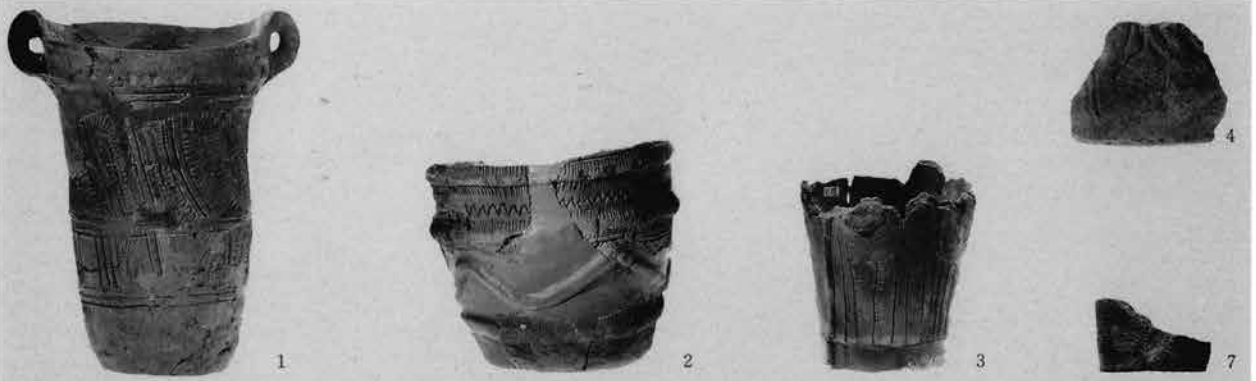
894号土壤



1号大石(318号土壤)



2号大石(351号土壤)



1号住居址出土土器

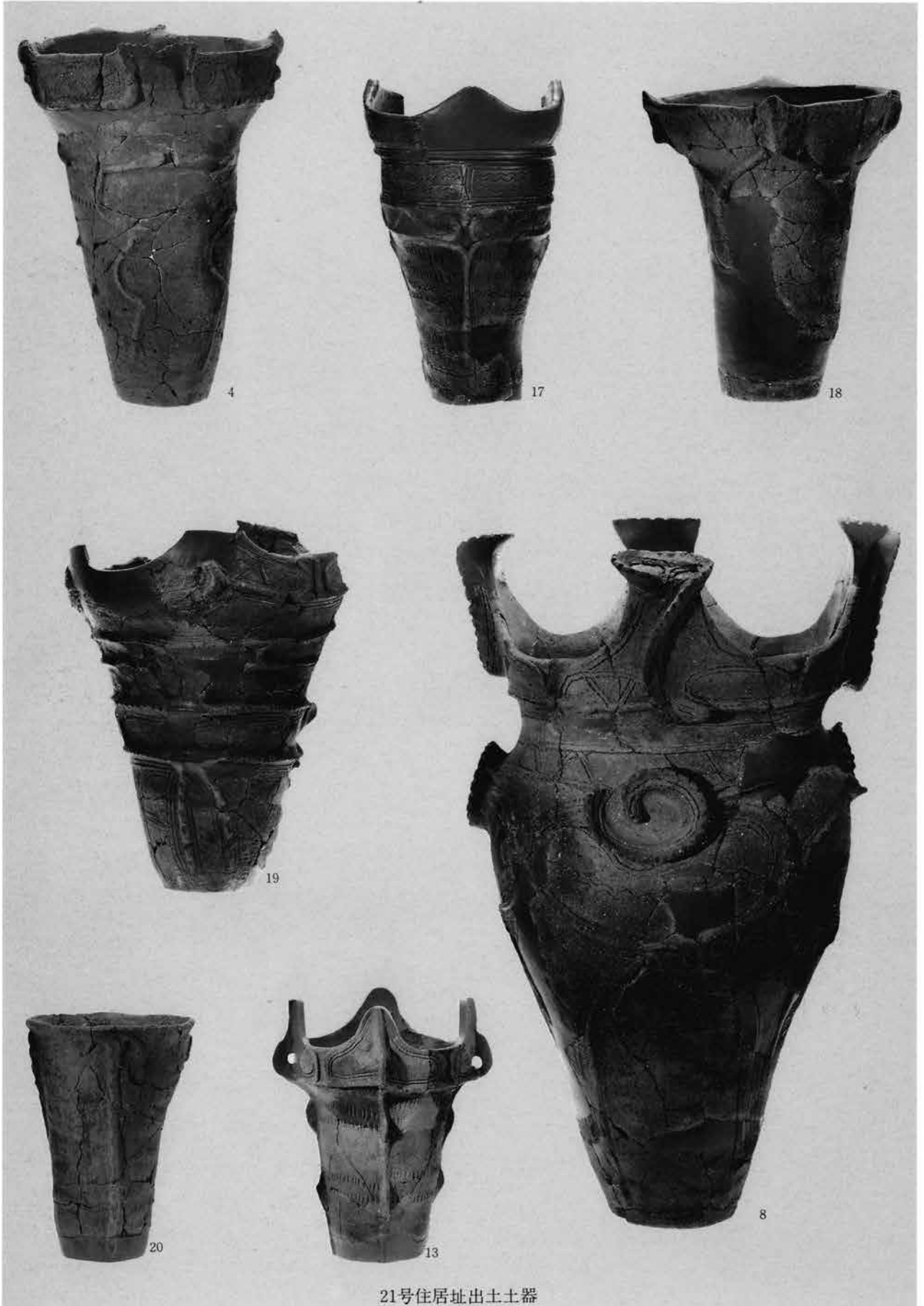


1号住居址上层出土土器

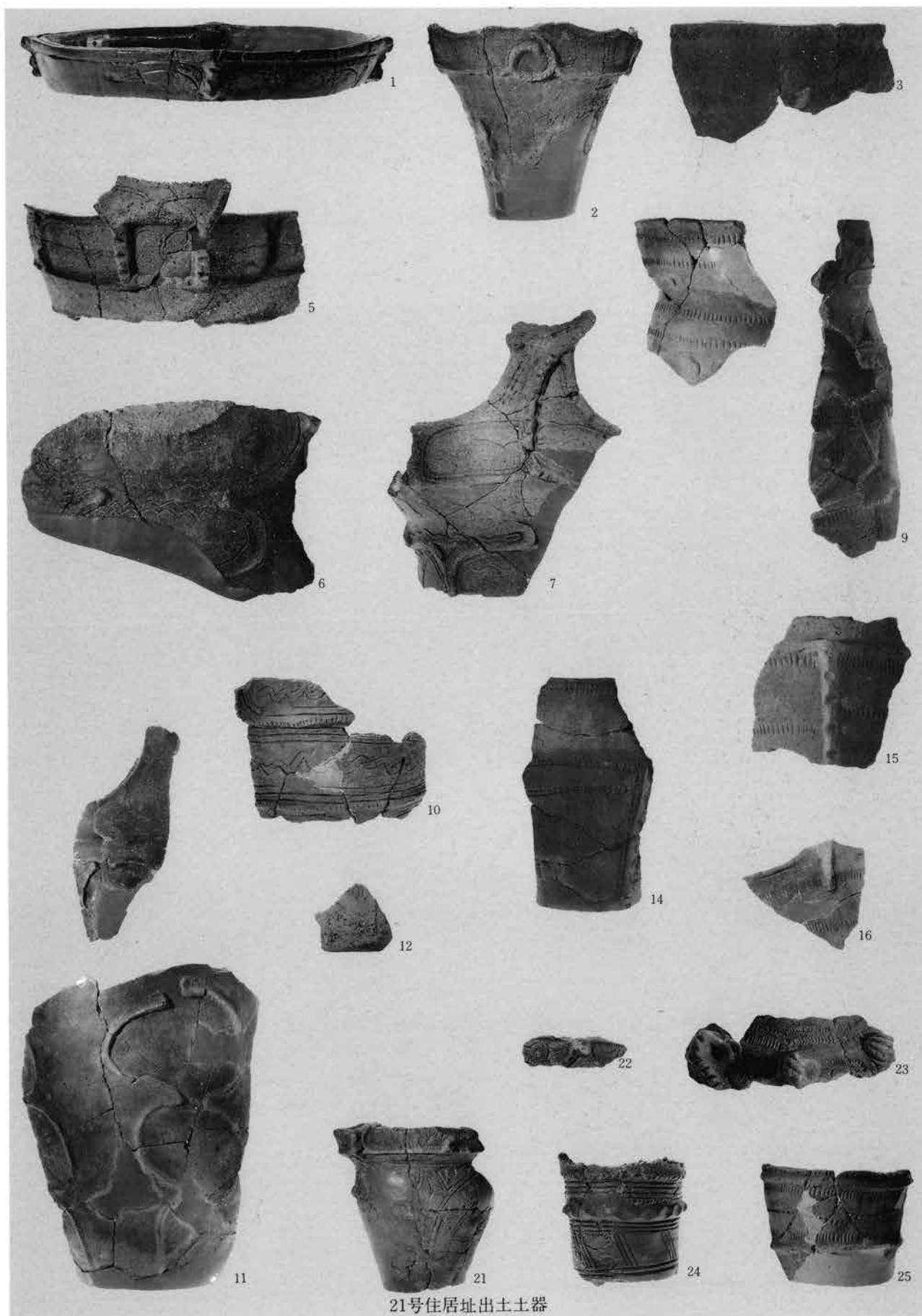


20号住居址出土土器





21号住居址出土土器



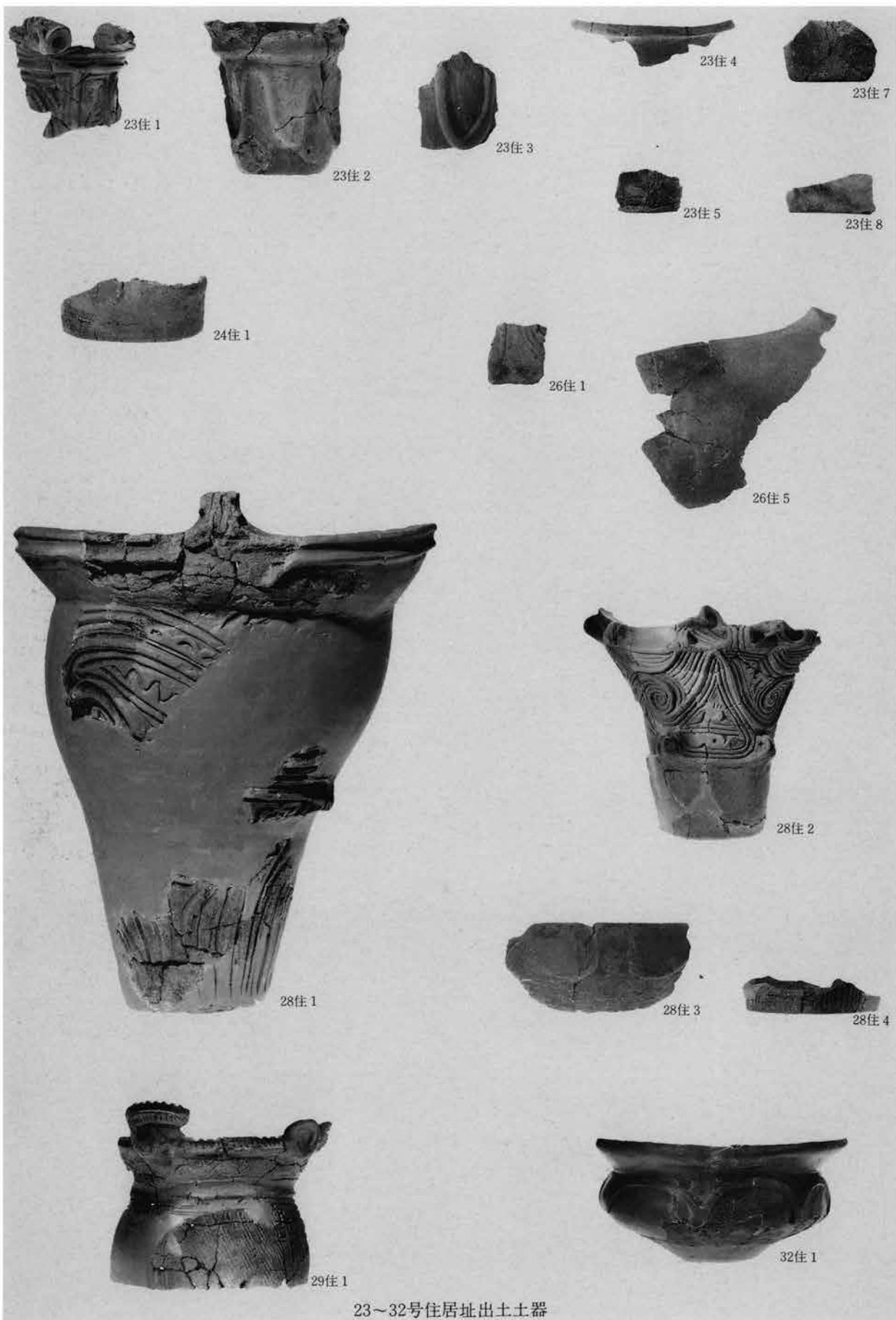
21号住居址出土土器

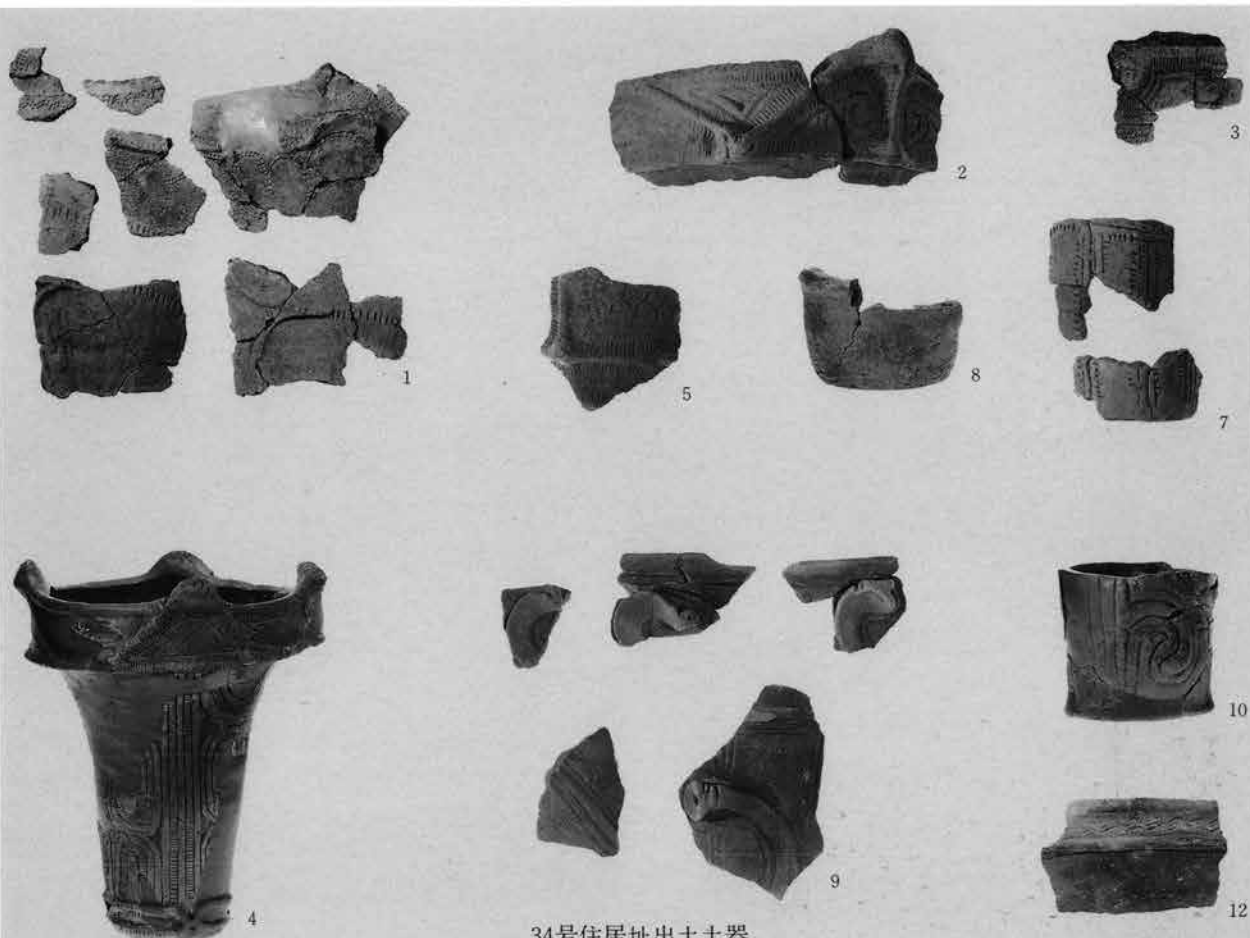


21号住居址出土土器



40号土坑出土土器





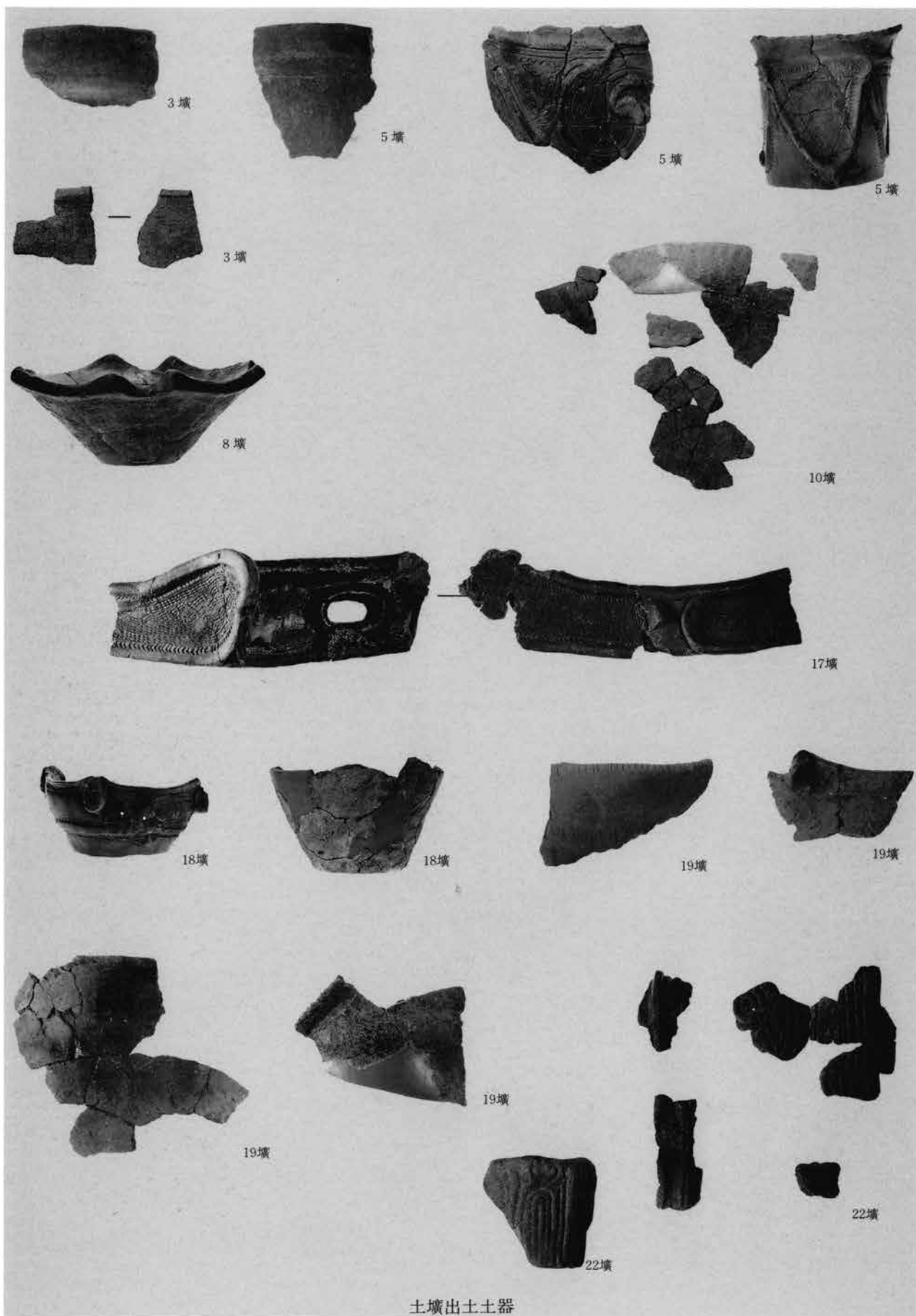
34号住居址出土土器



35号住居址出土土器

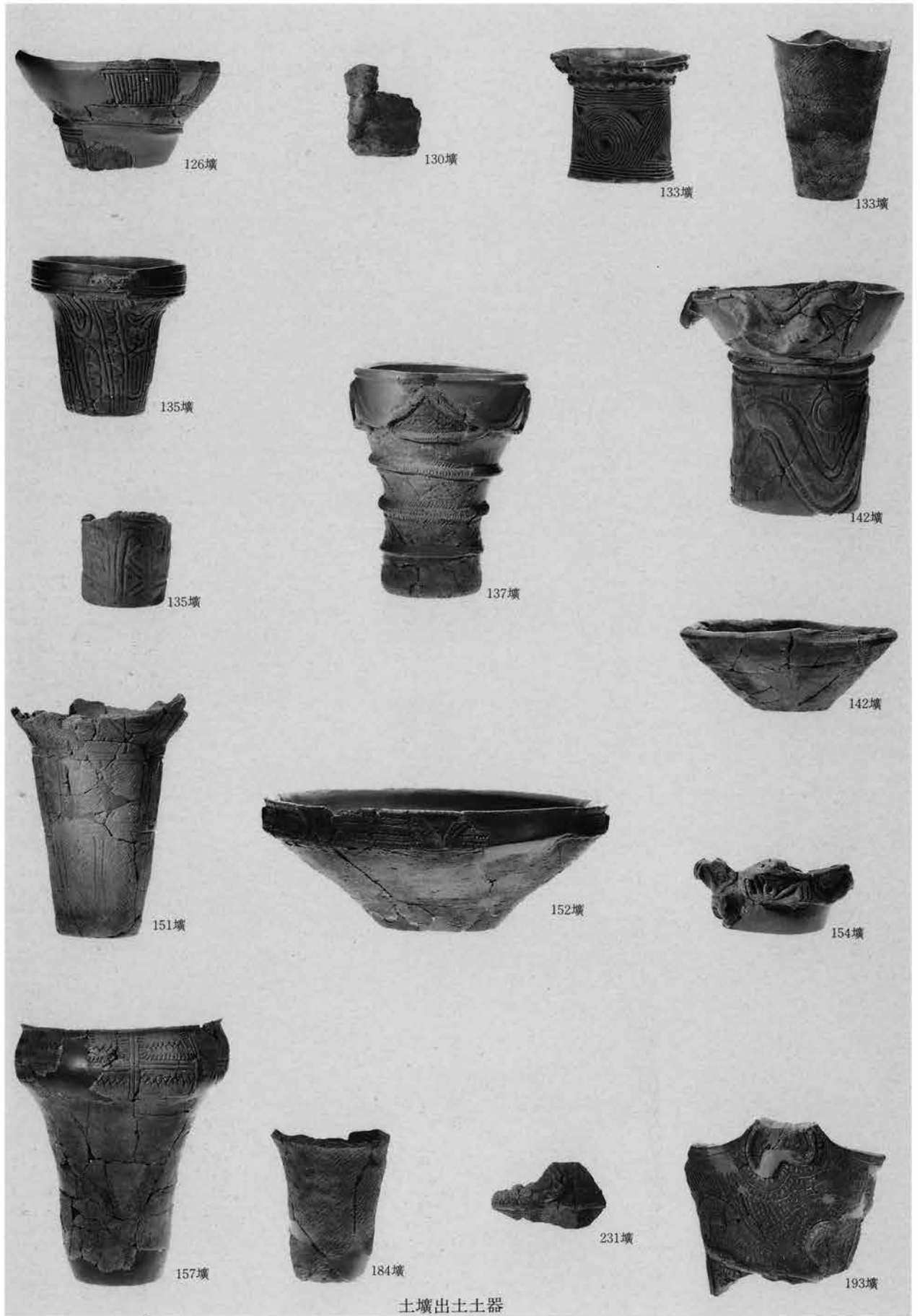


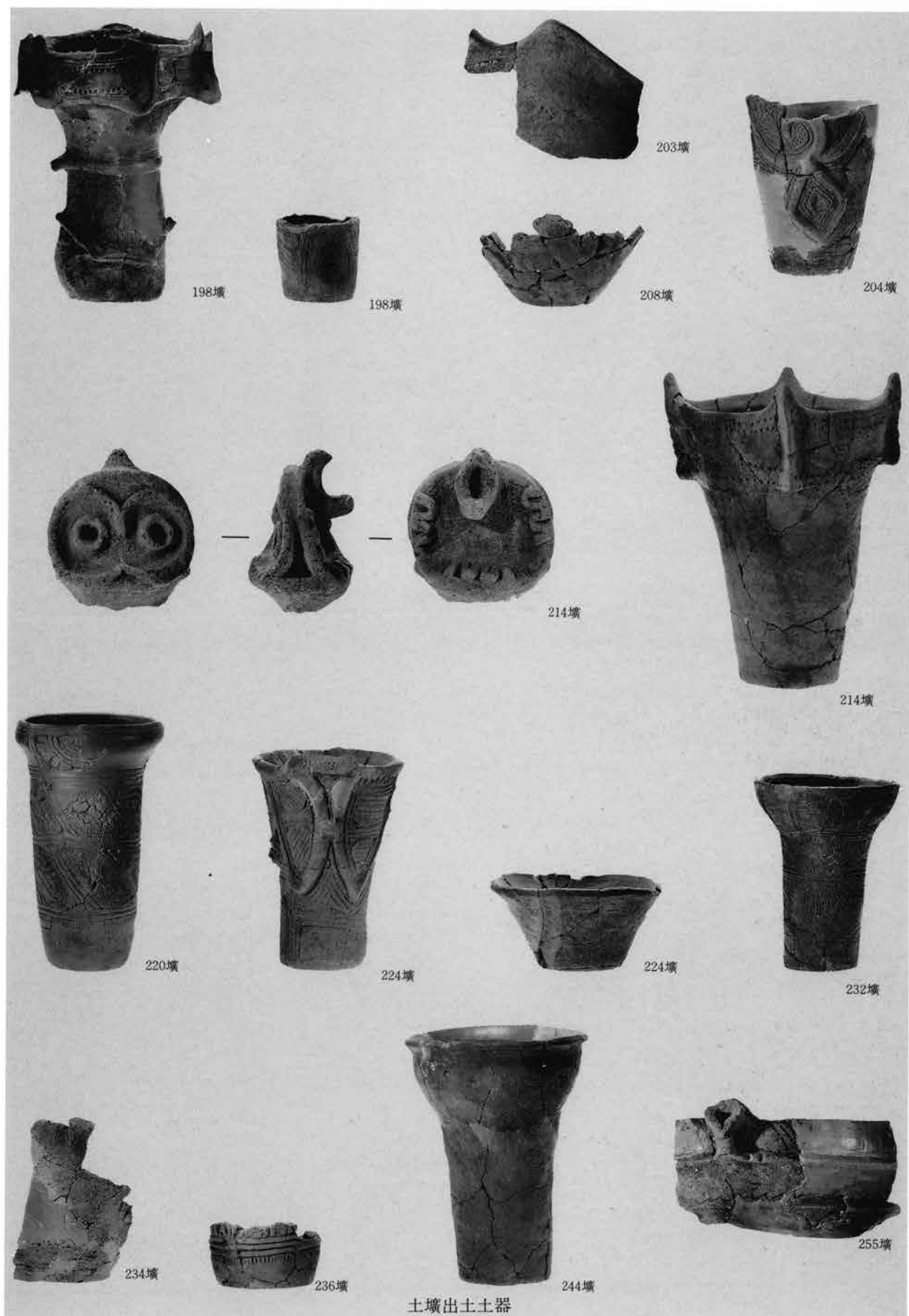
36号住居址出土土器

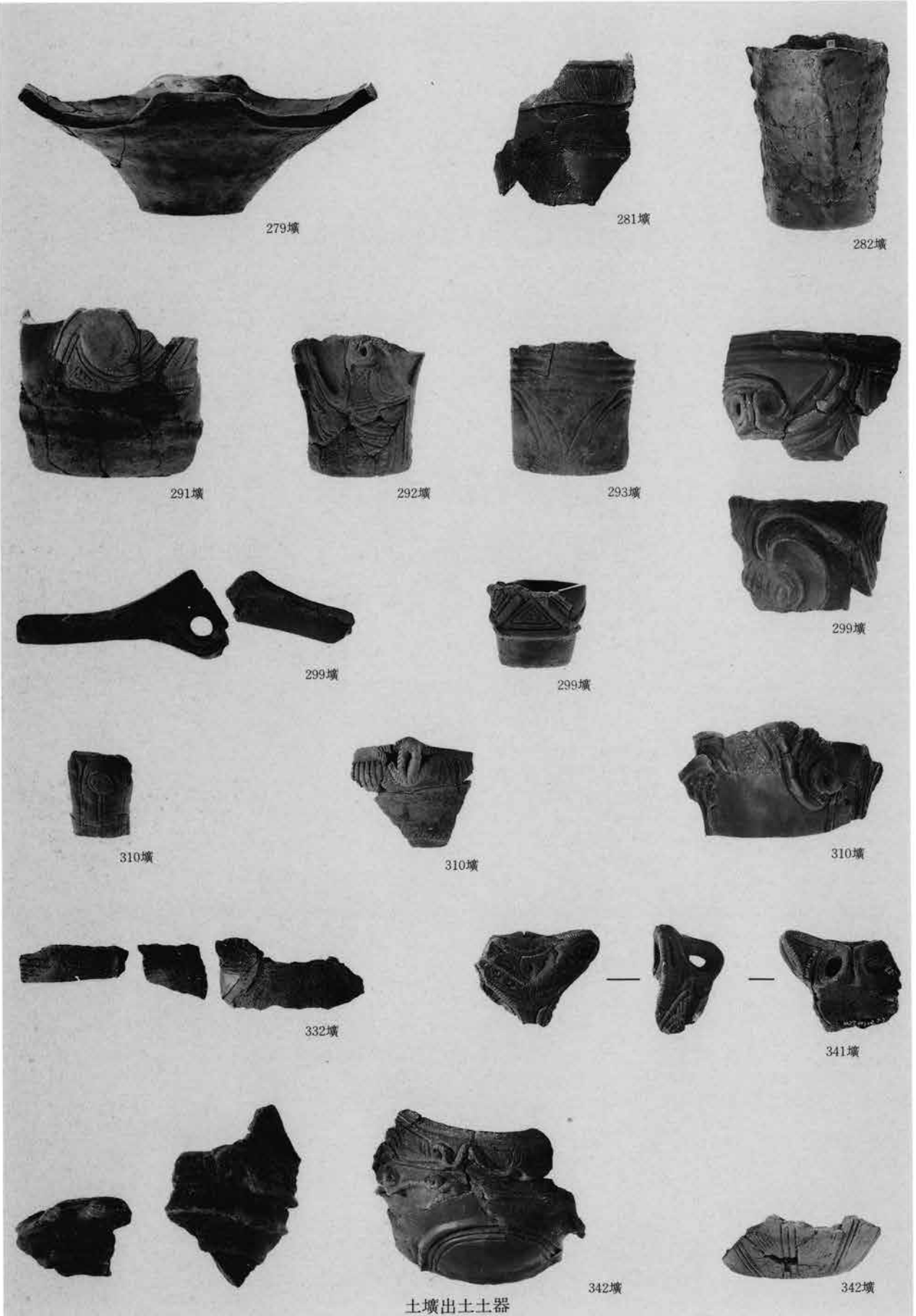


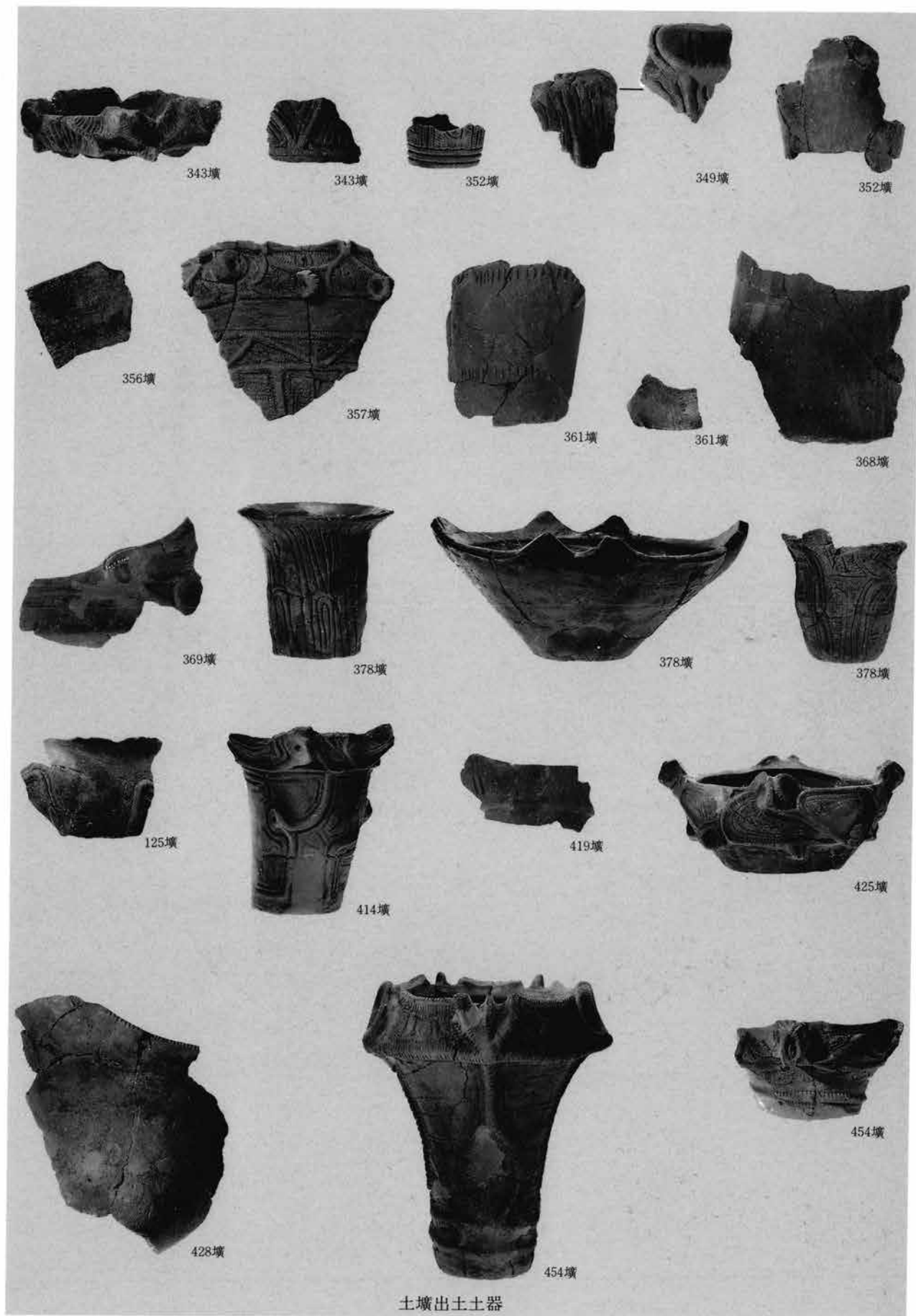


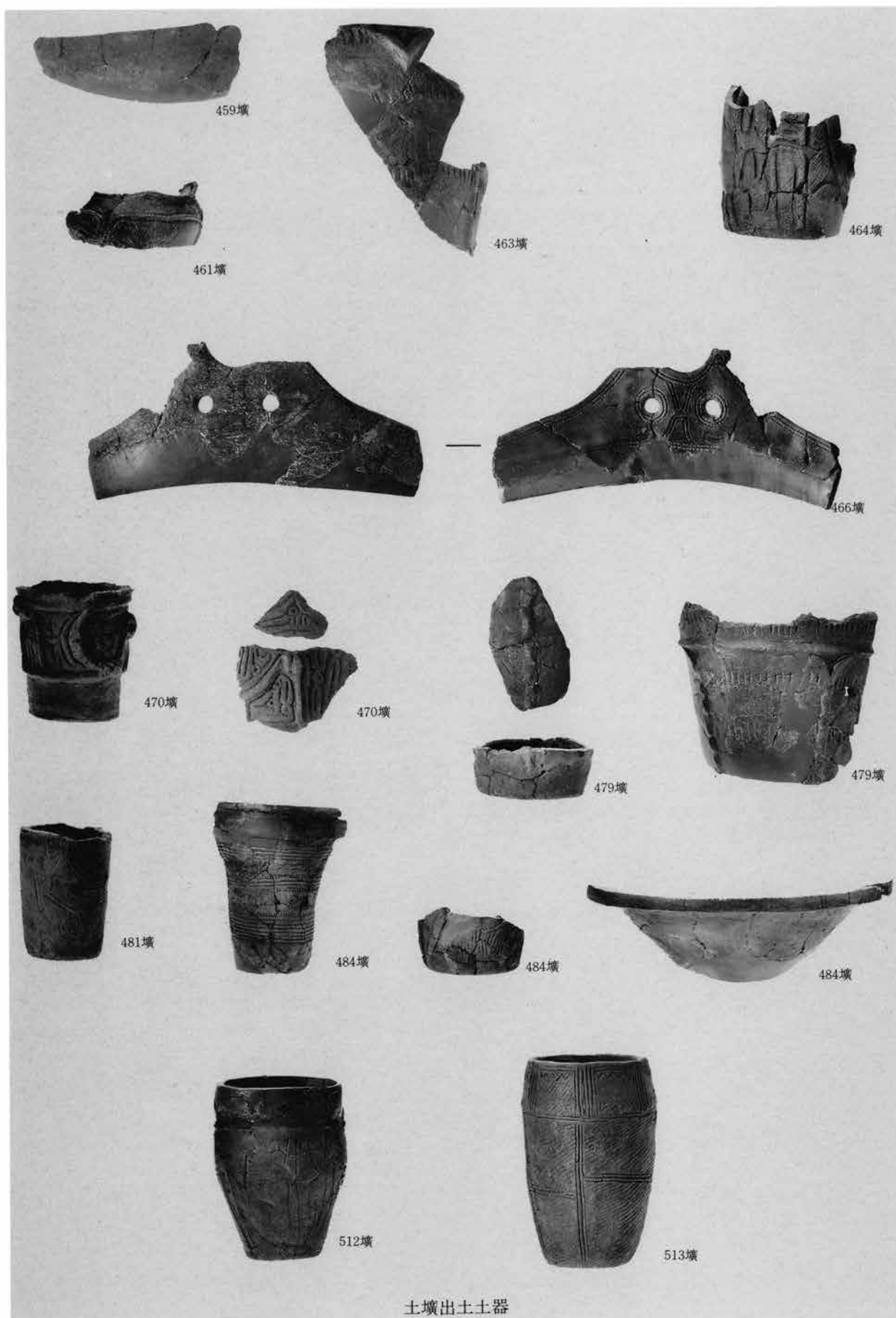
土壙出土土器





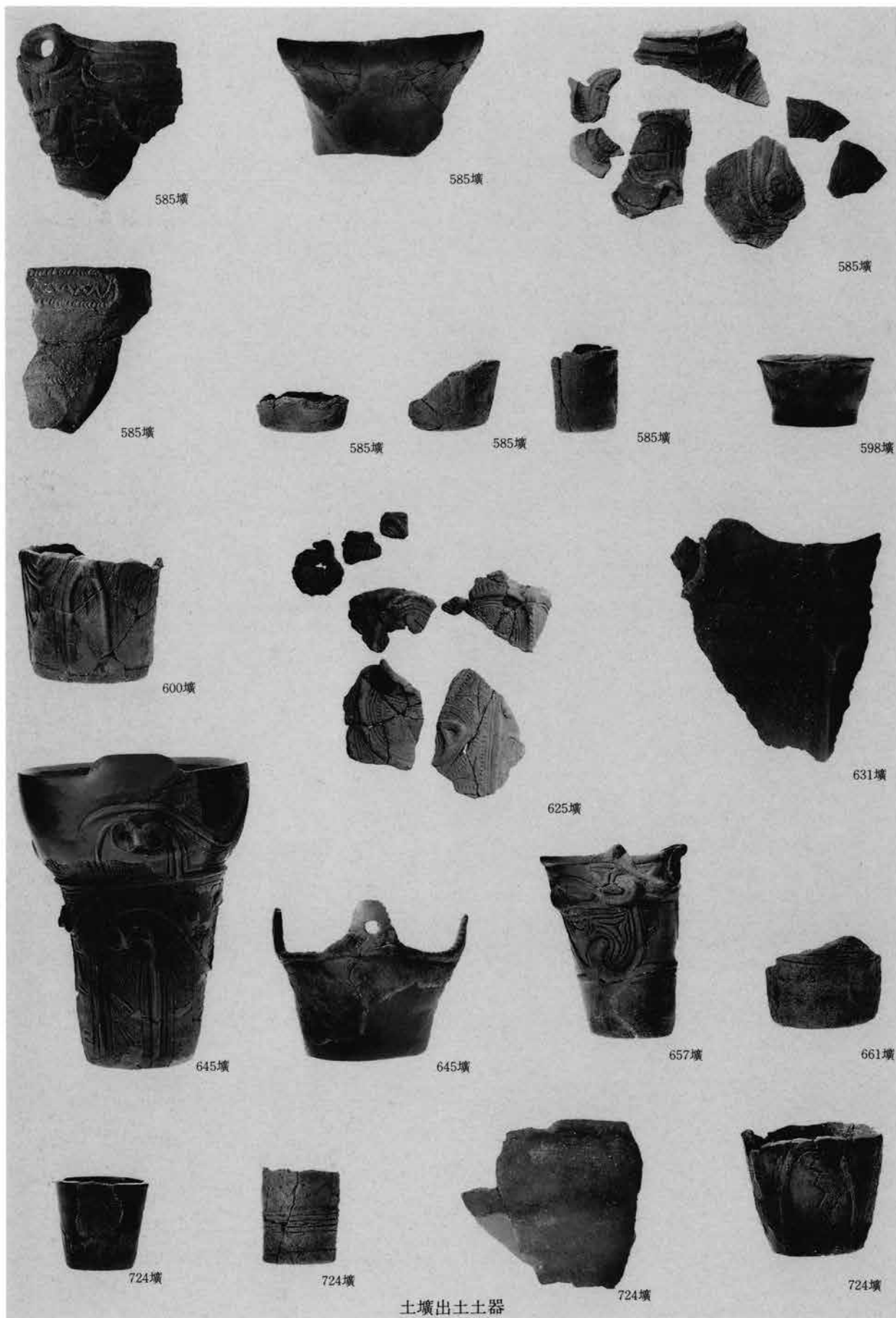








土壤出土土器



土坑出土土器

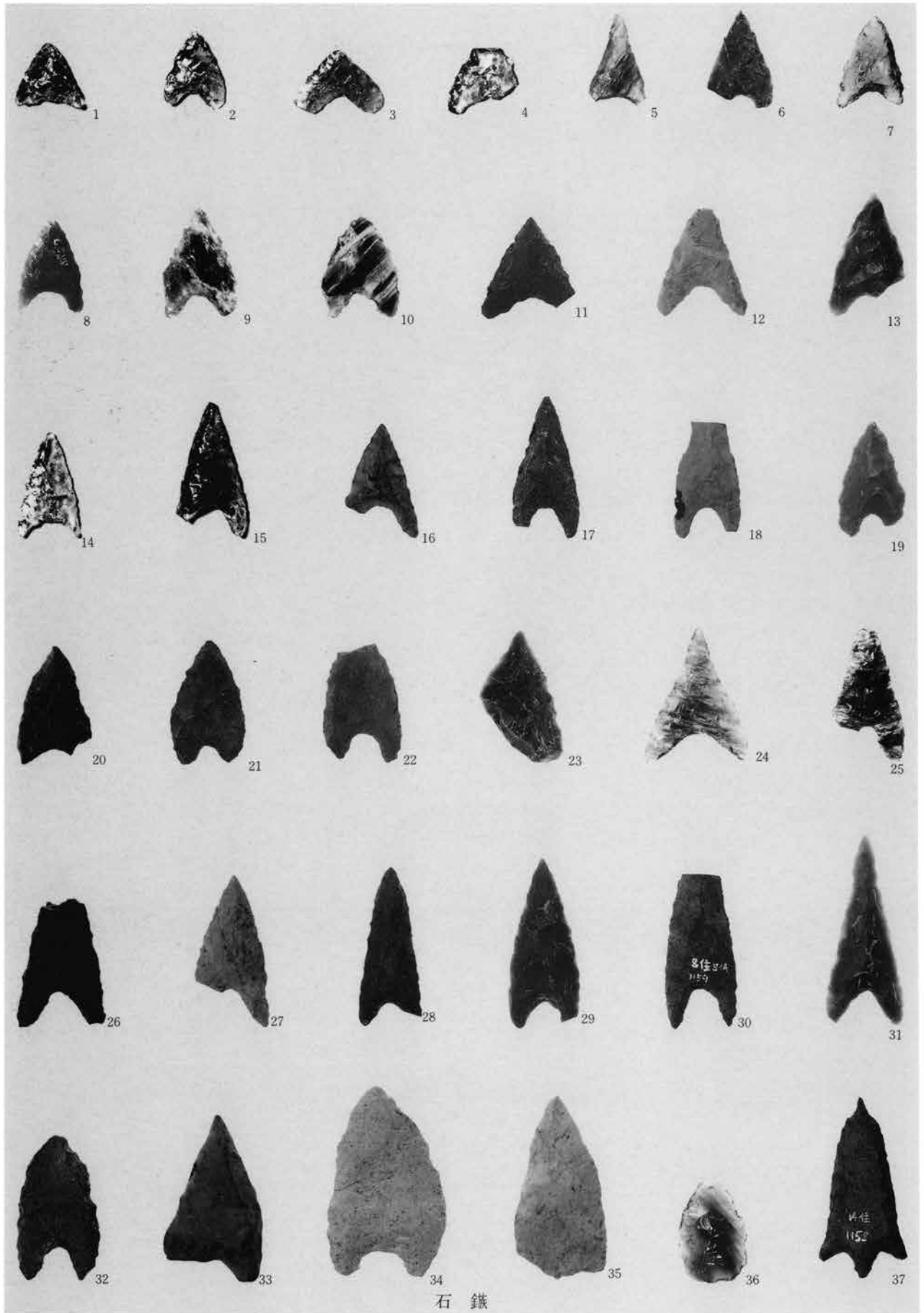




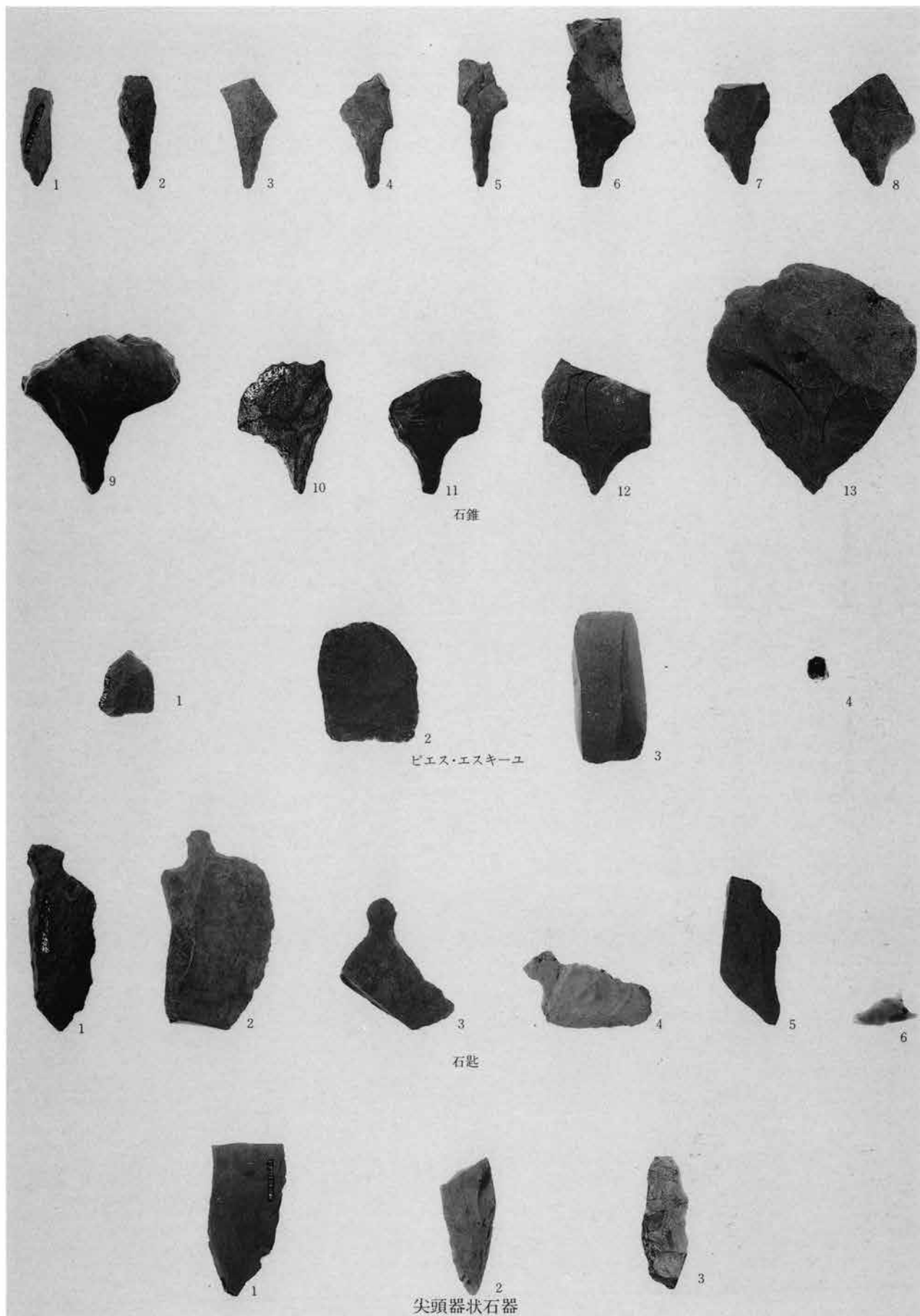
土壤出土土器

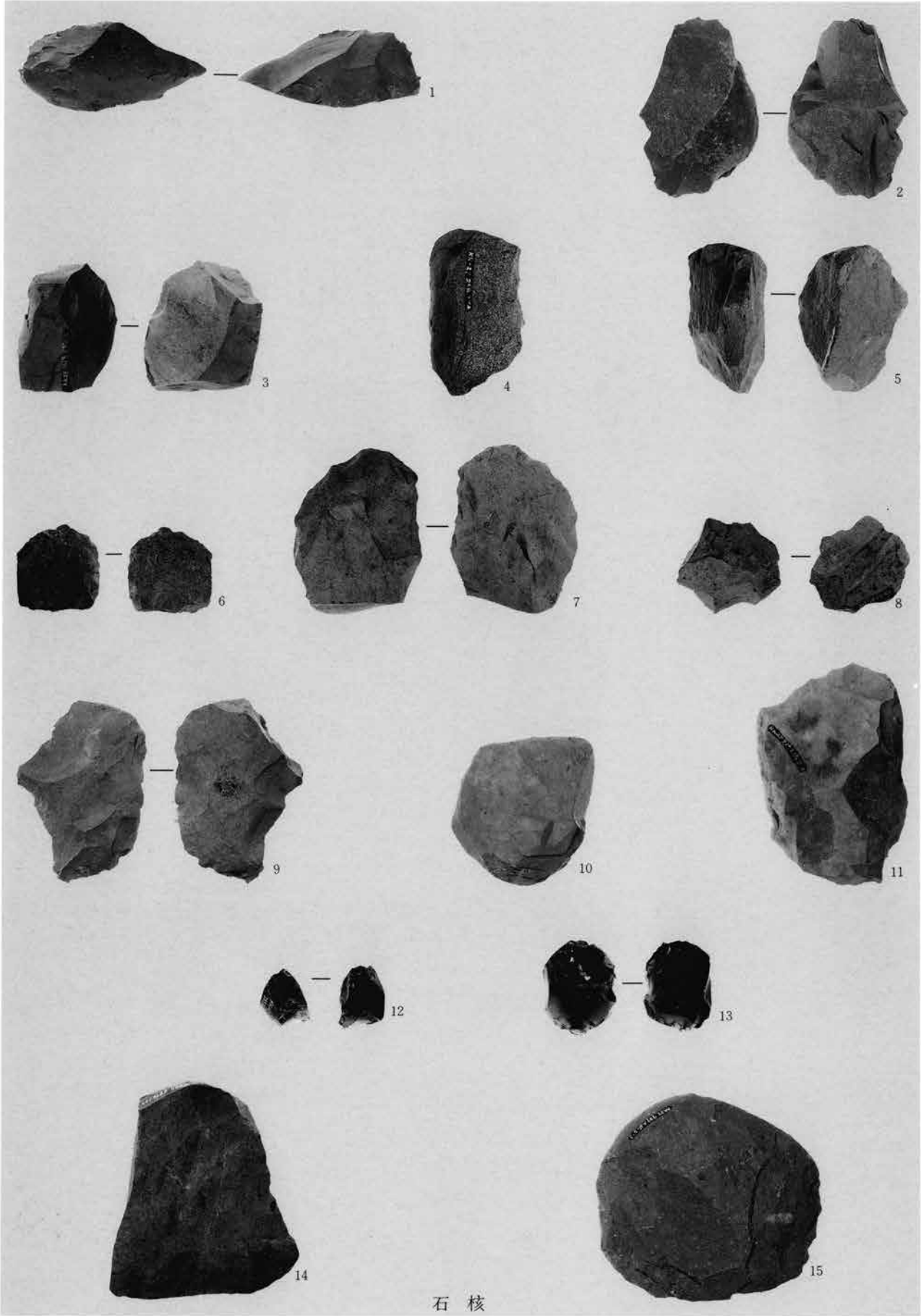


遺構外出土器

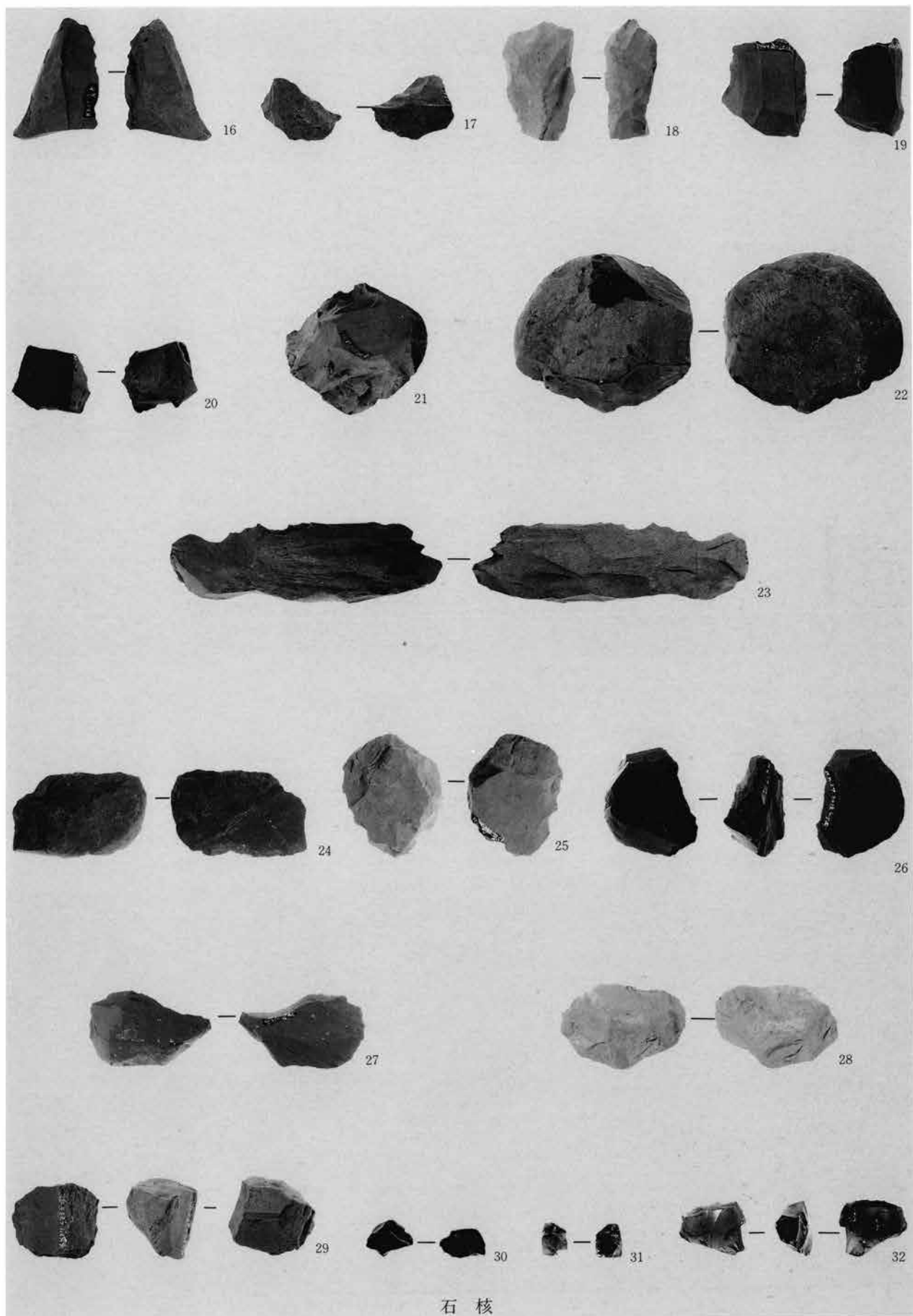


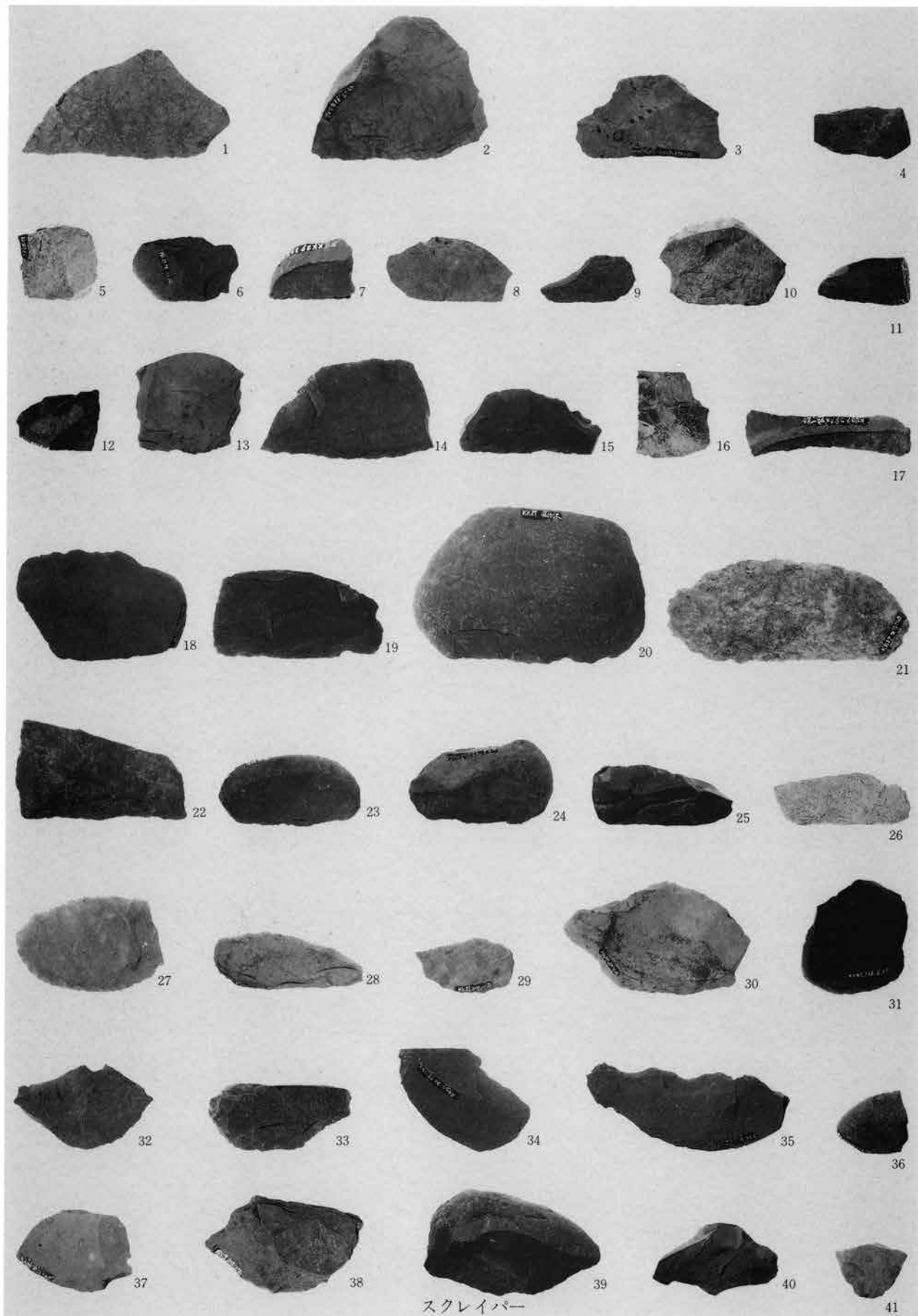
石 鏃

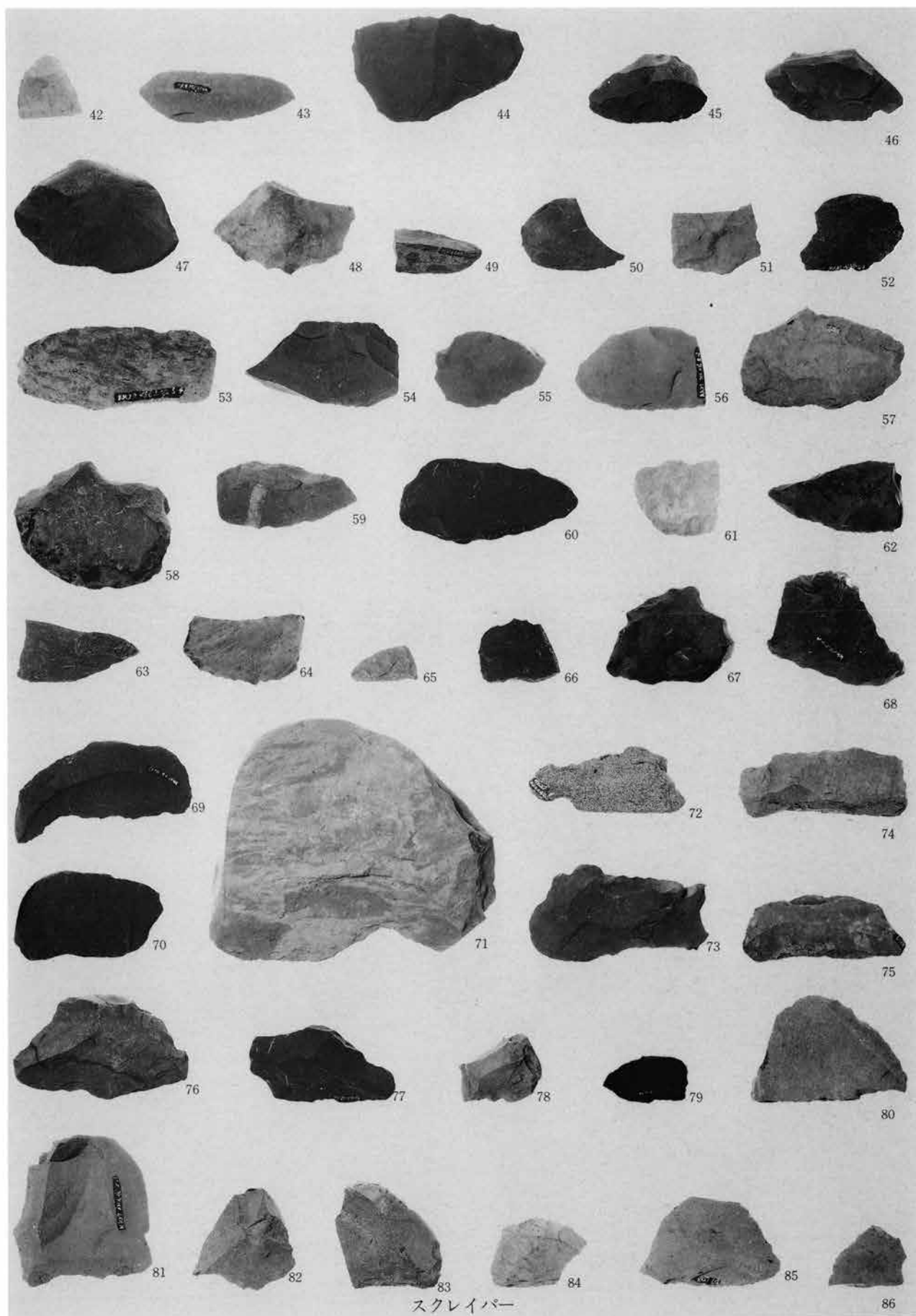


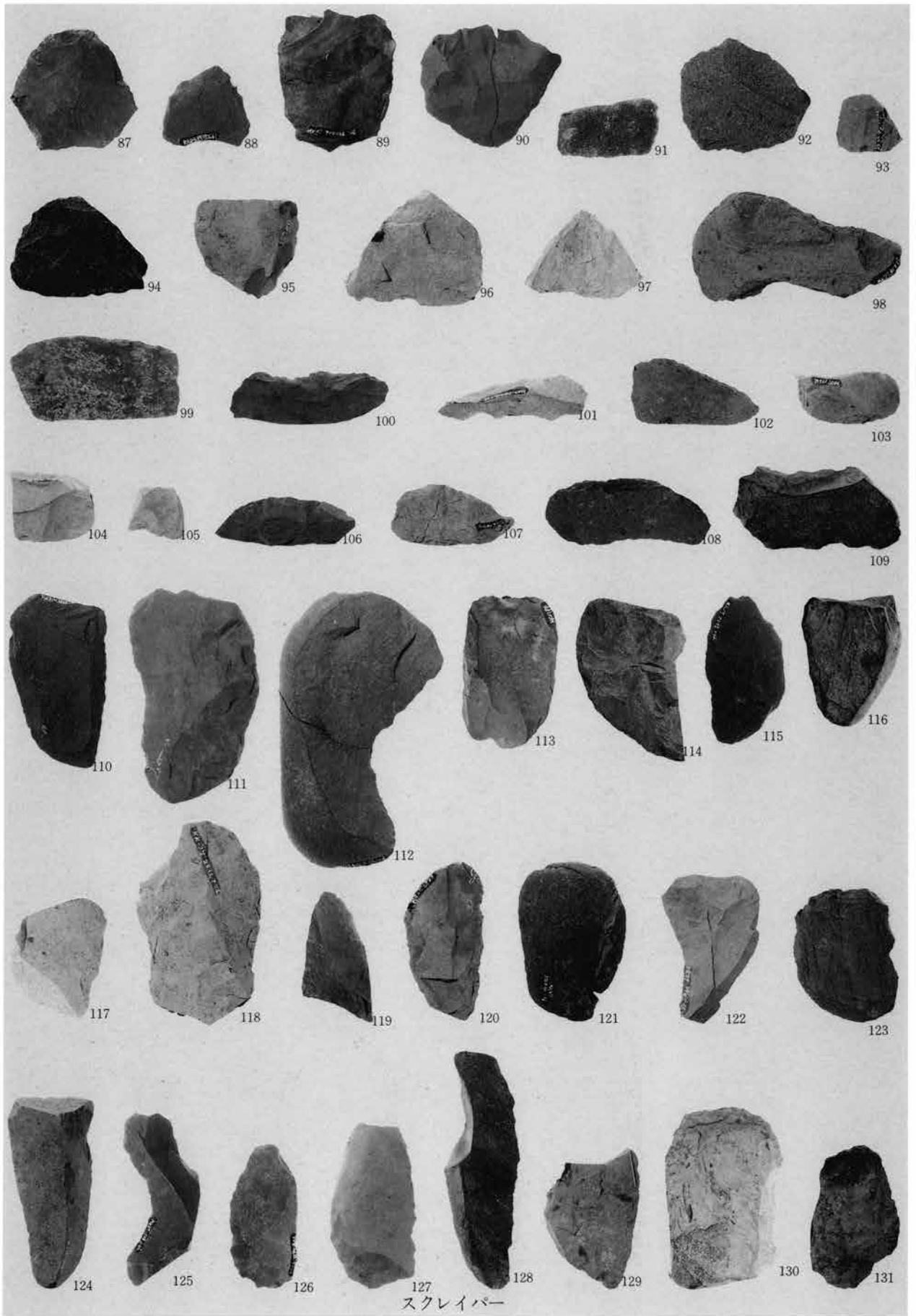


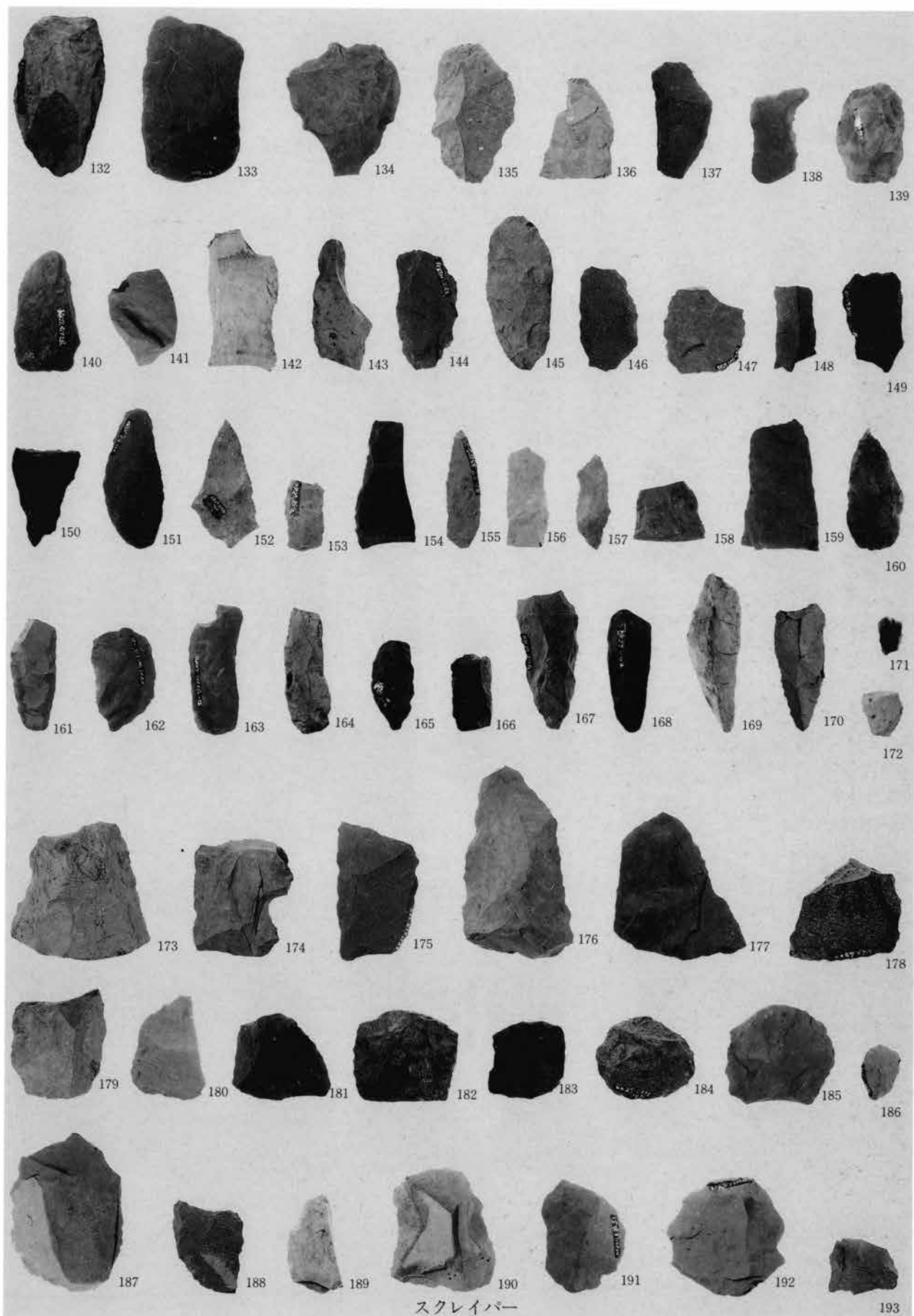
石核

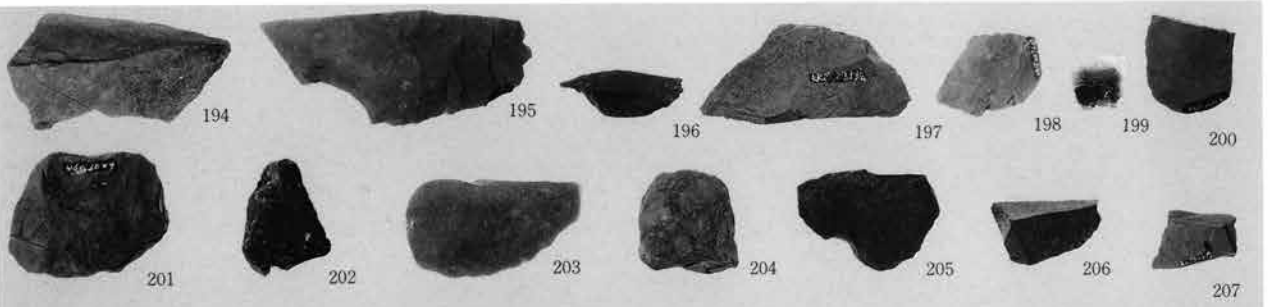




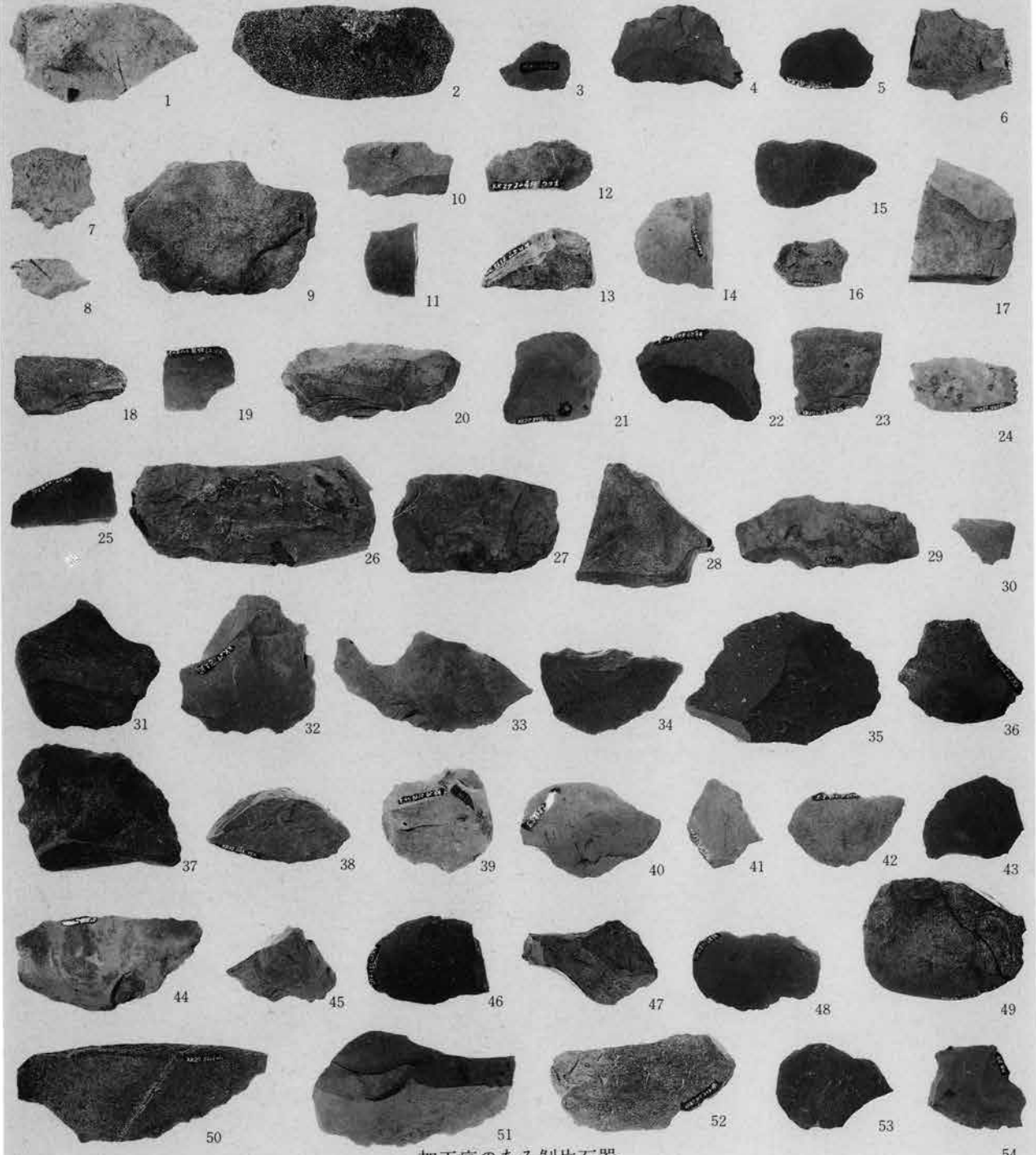




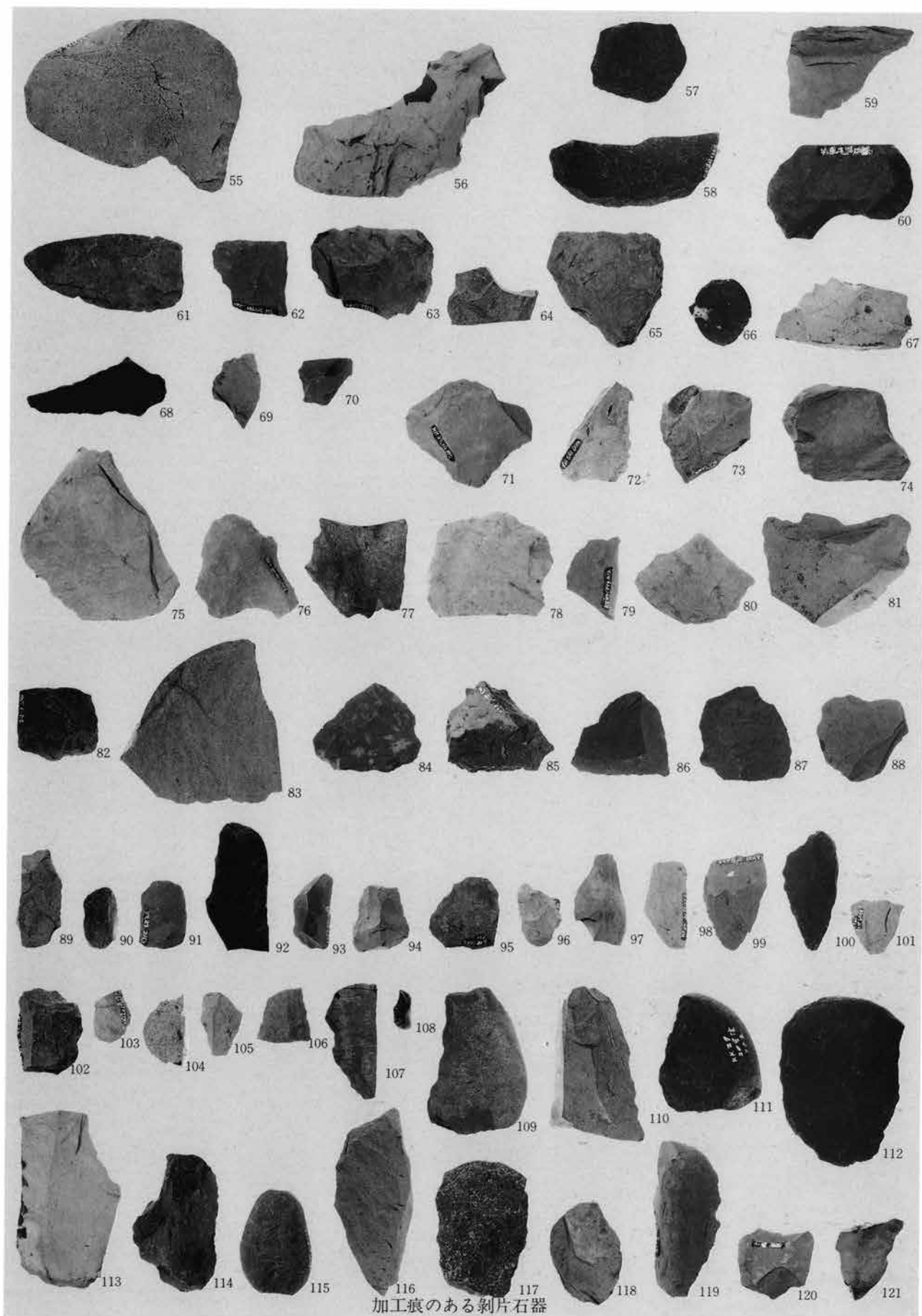




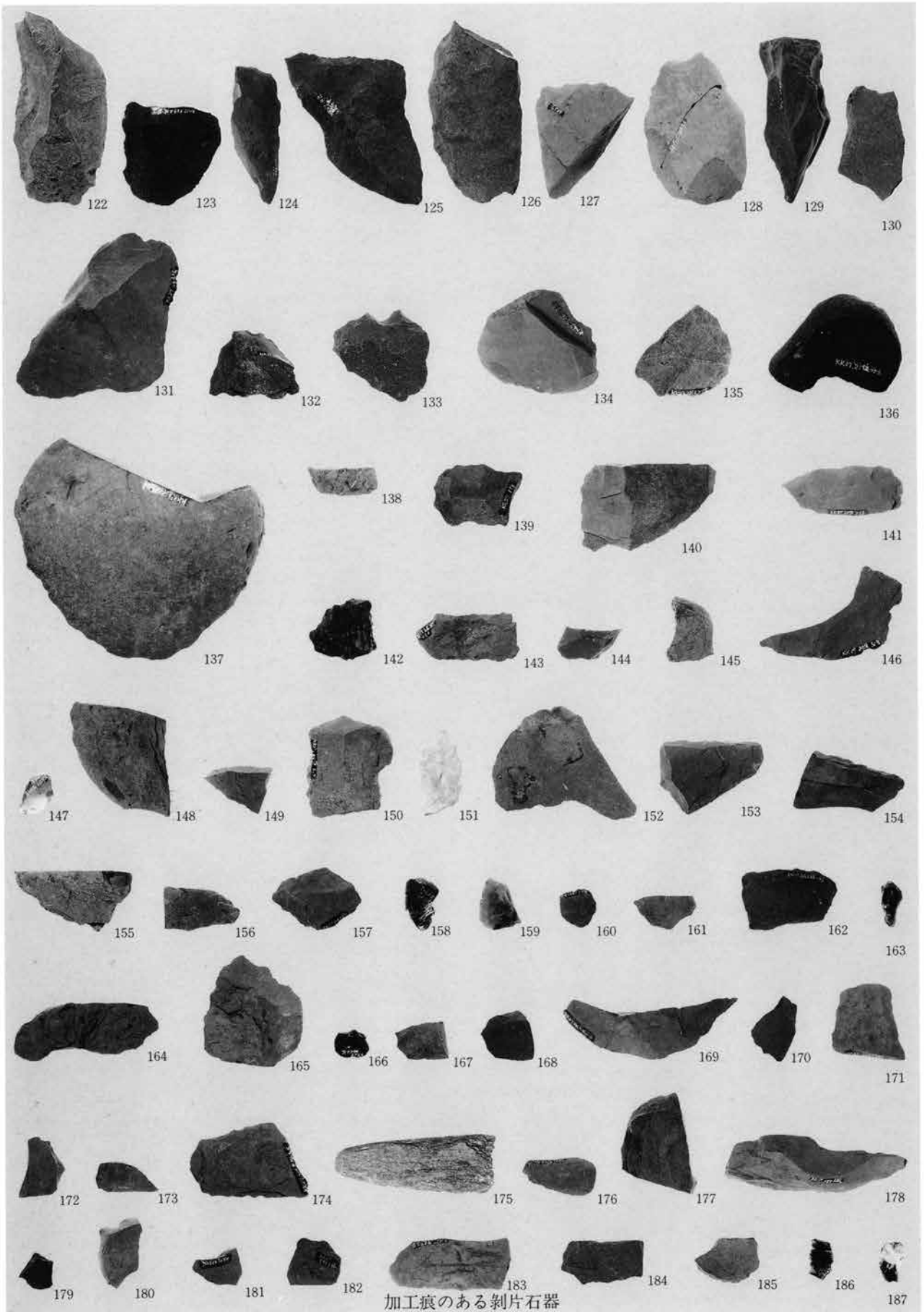
スクレイパー



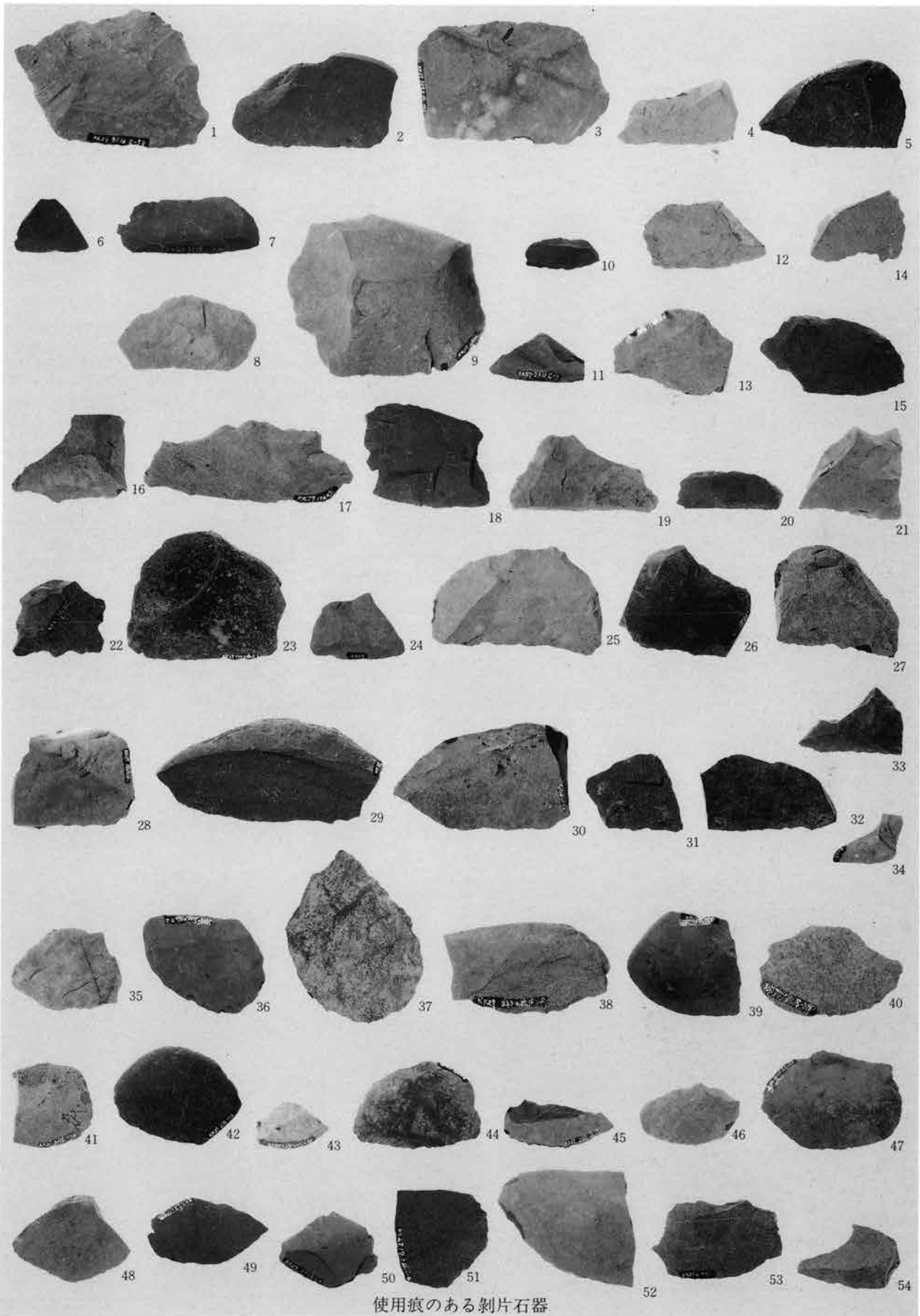
加工痕のある剥片石器



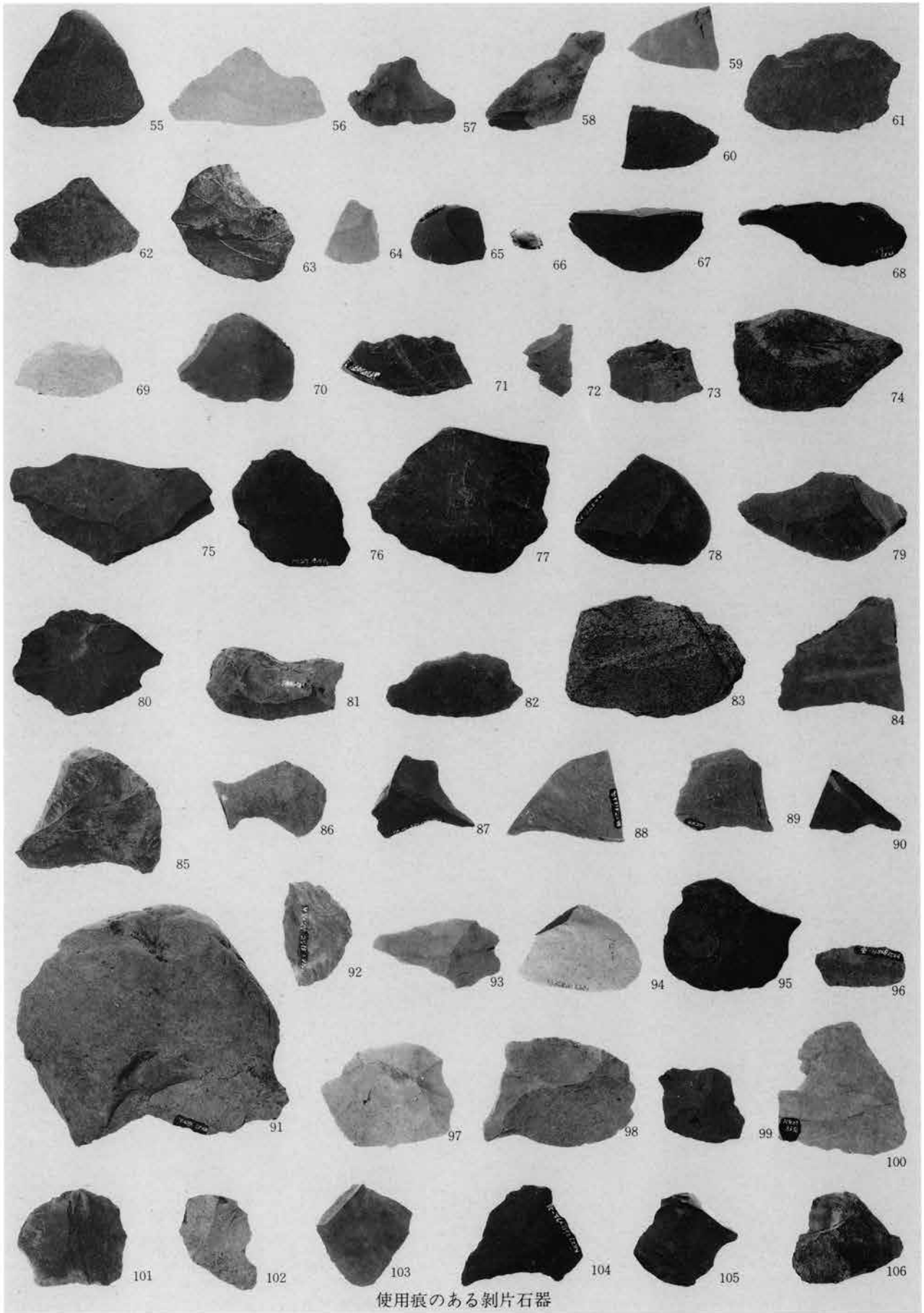
加工痕のある剥片石器

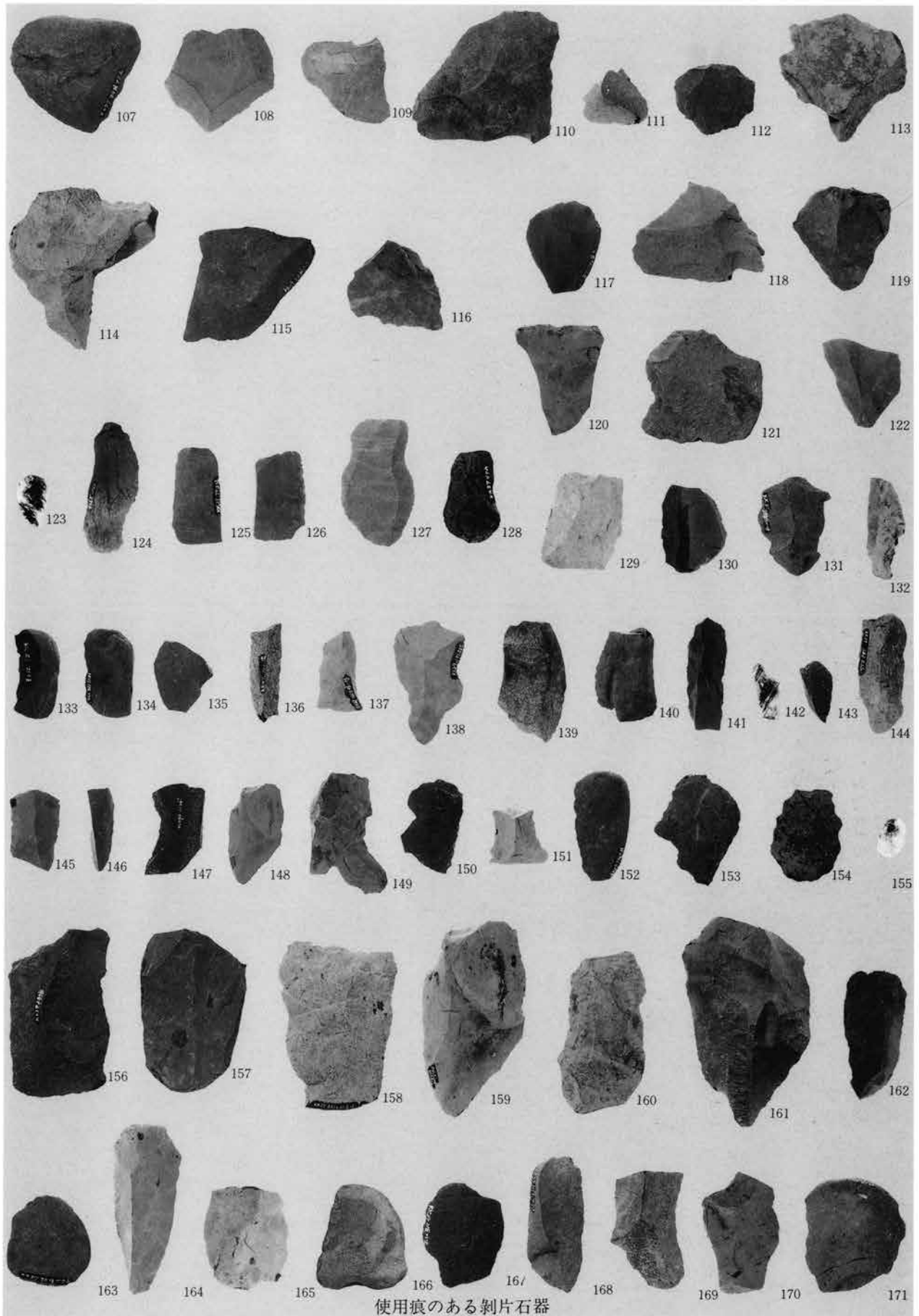


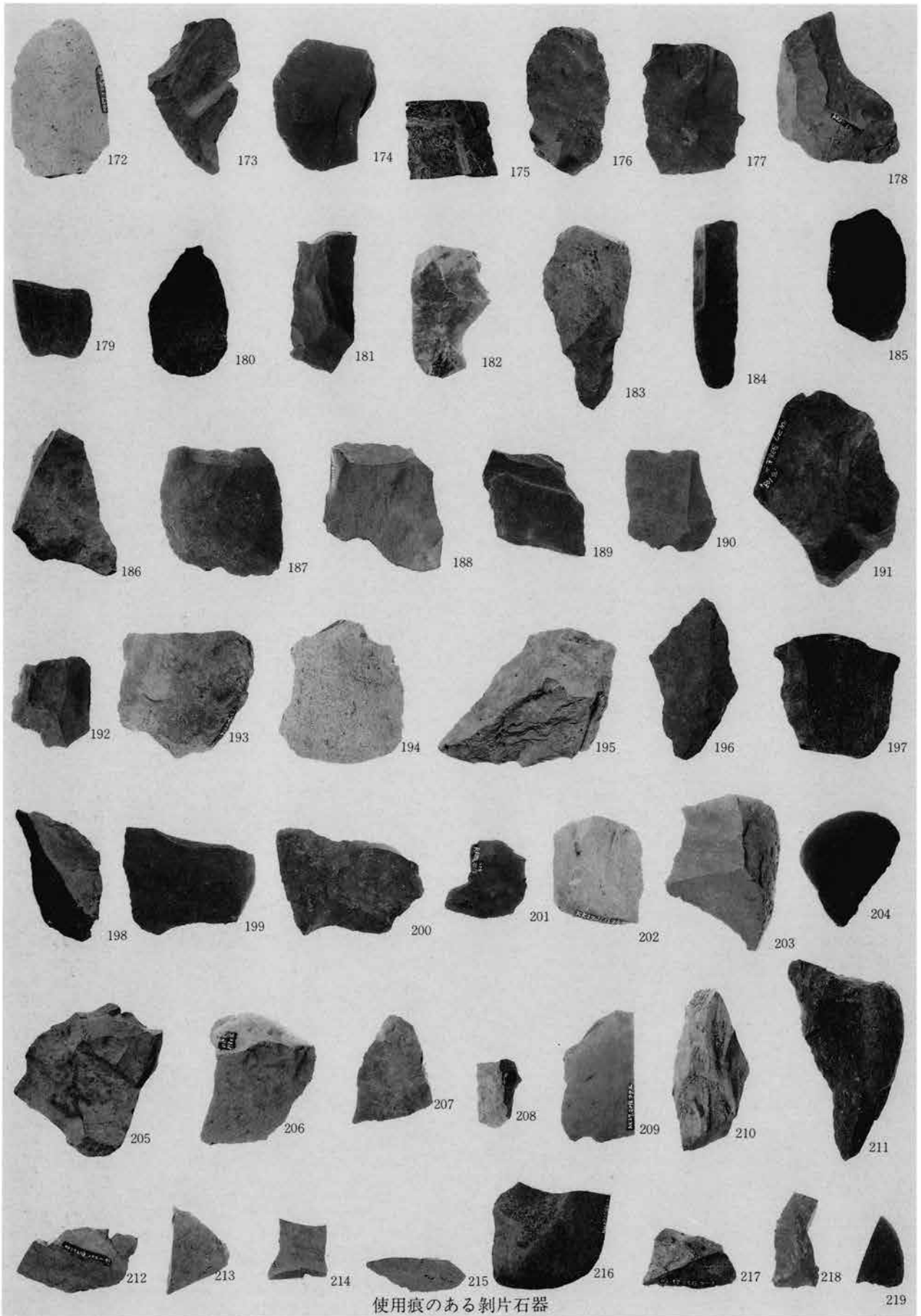
加工痕のある剥片石器



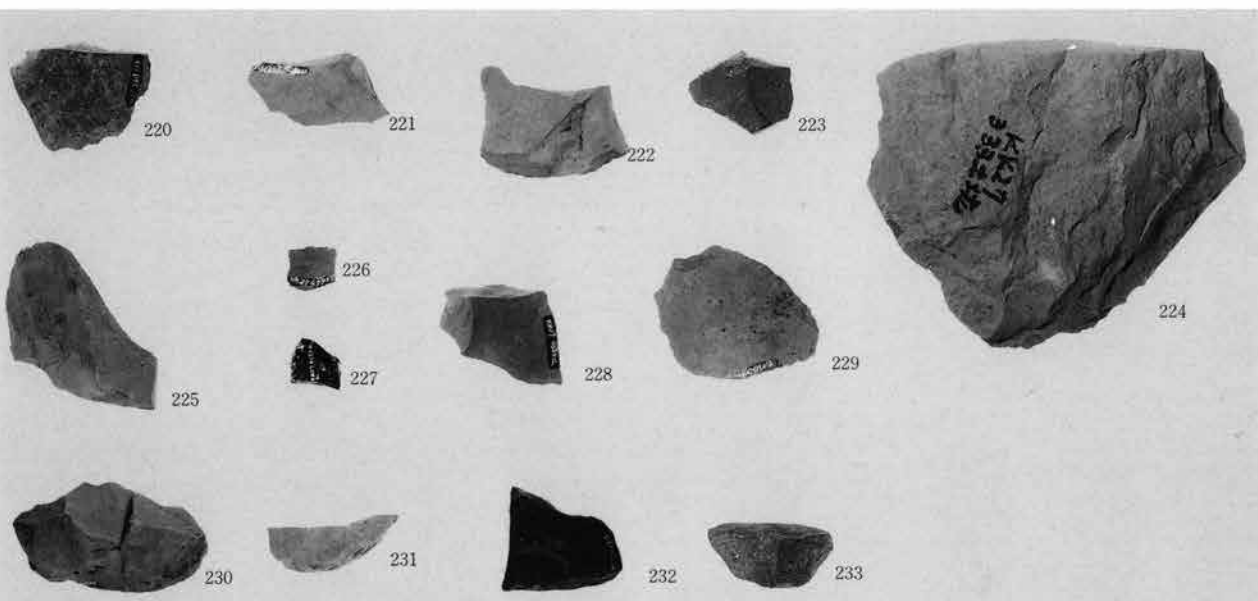
使用痕のある剥片石器



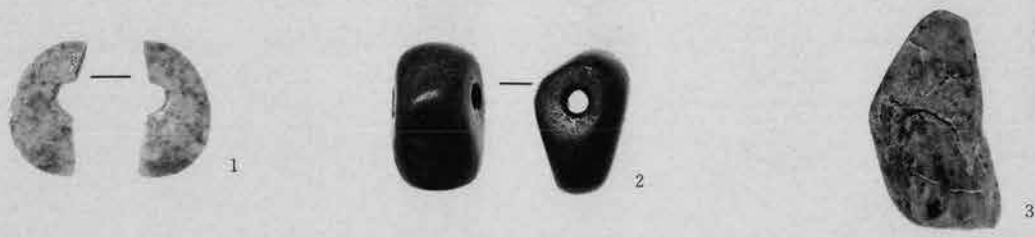




使用痕のある剥片石器



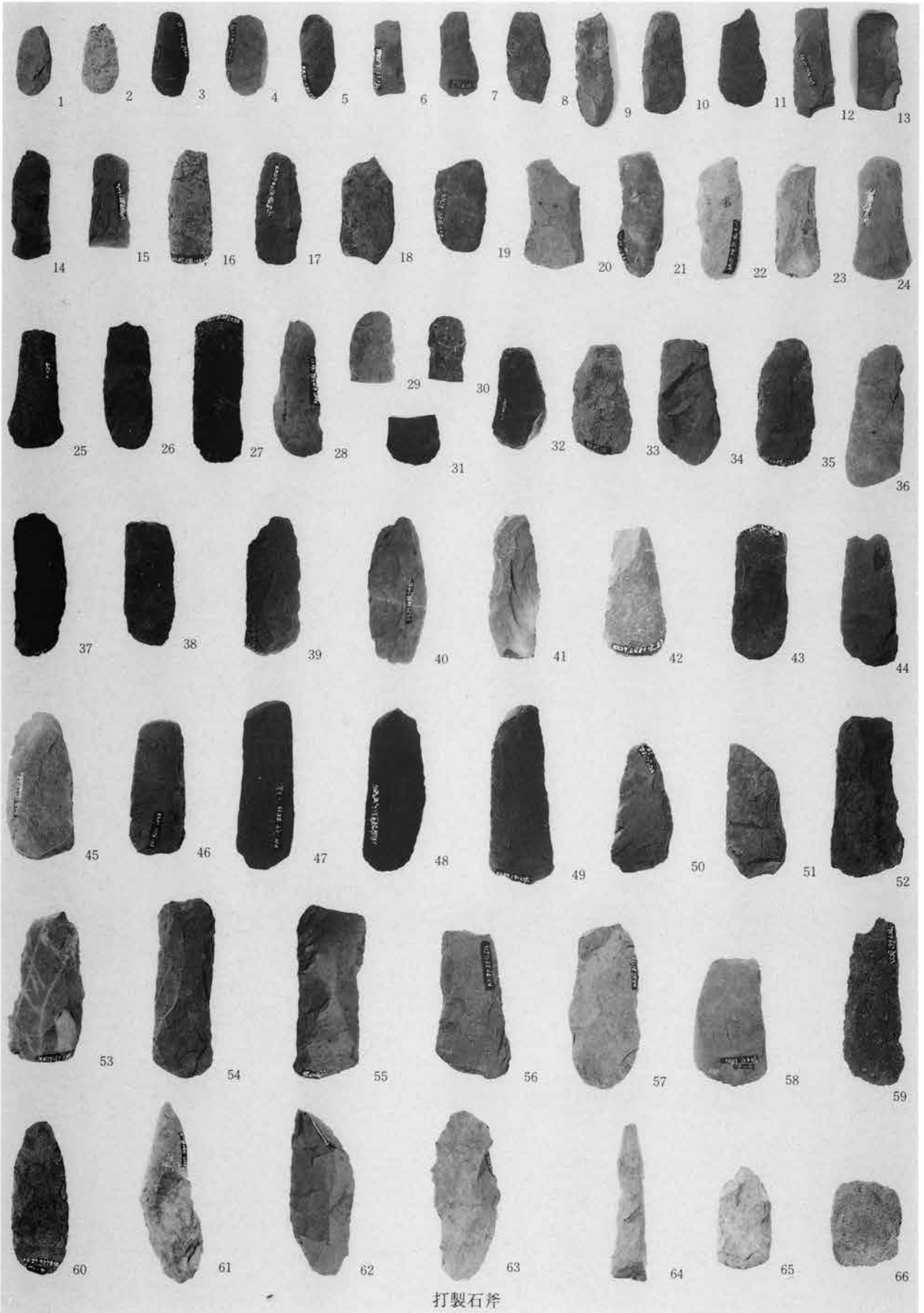
使用痕のある剥片石器



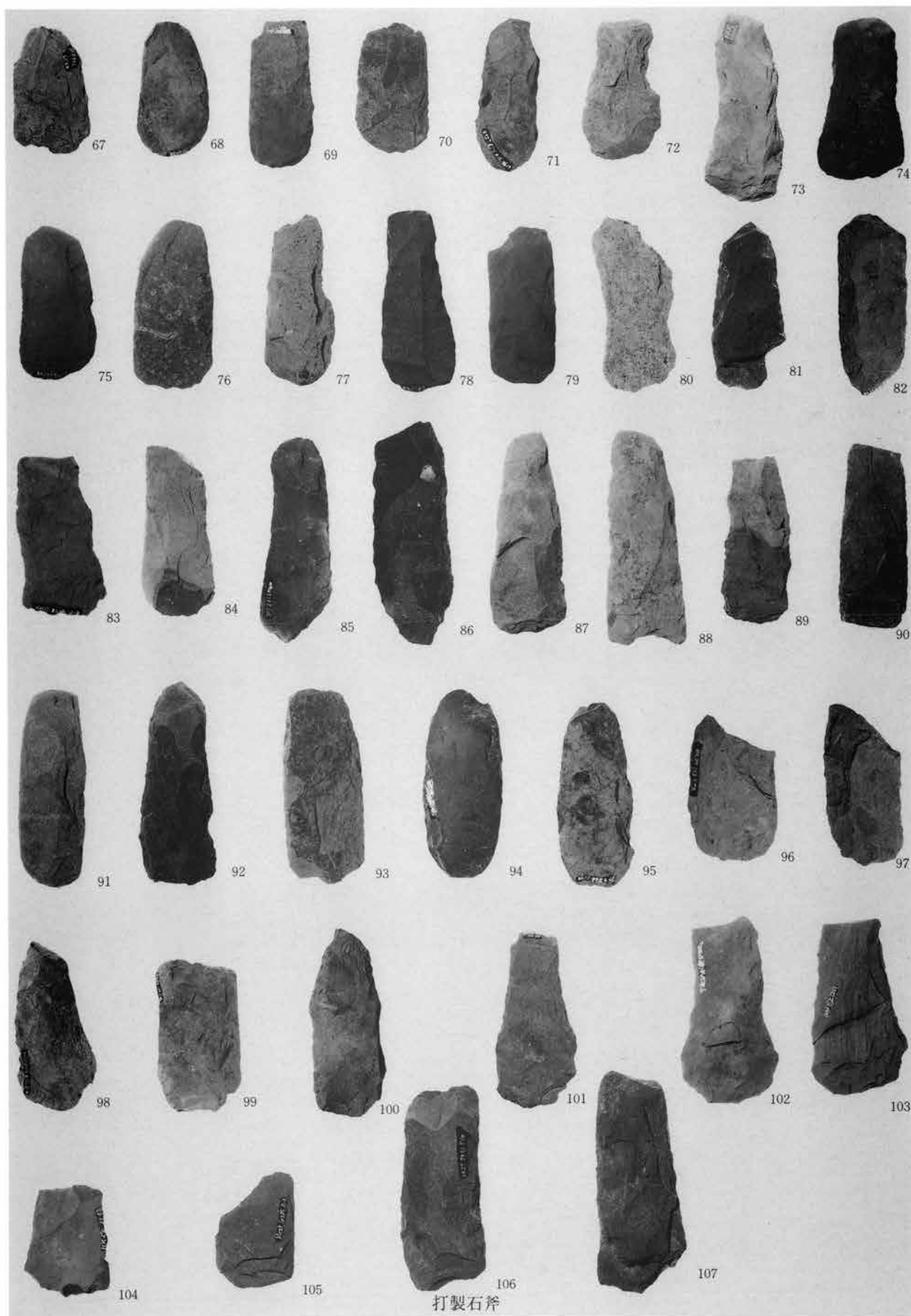
装飾品

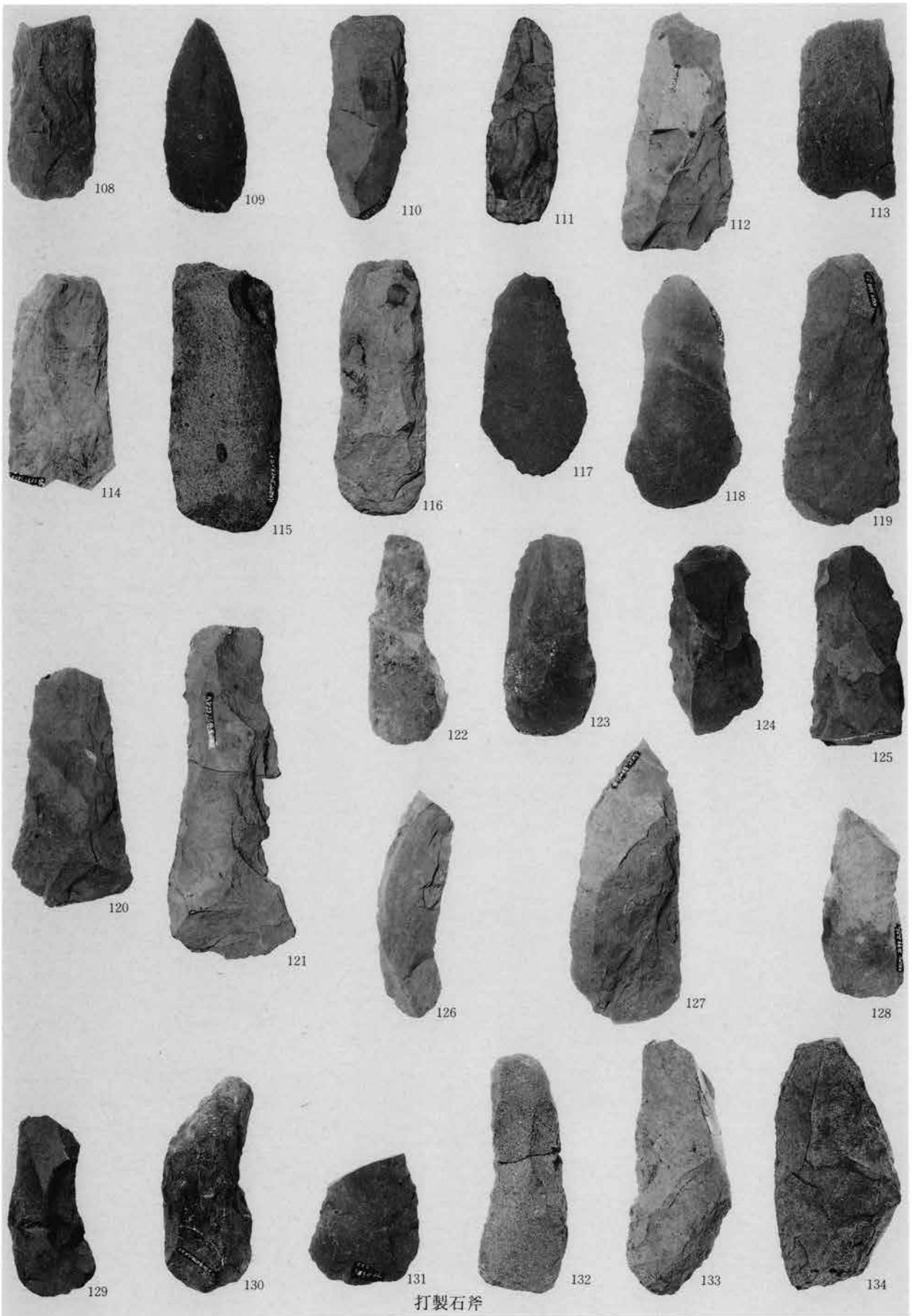


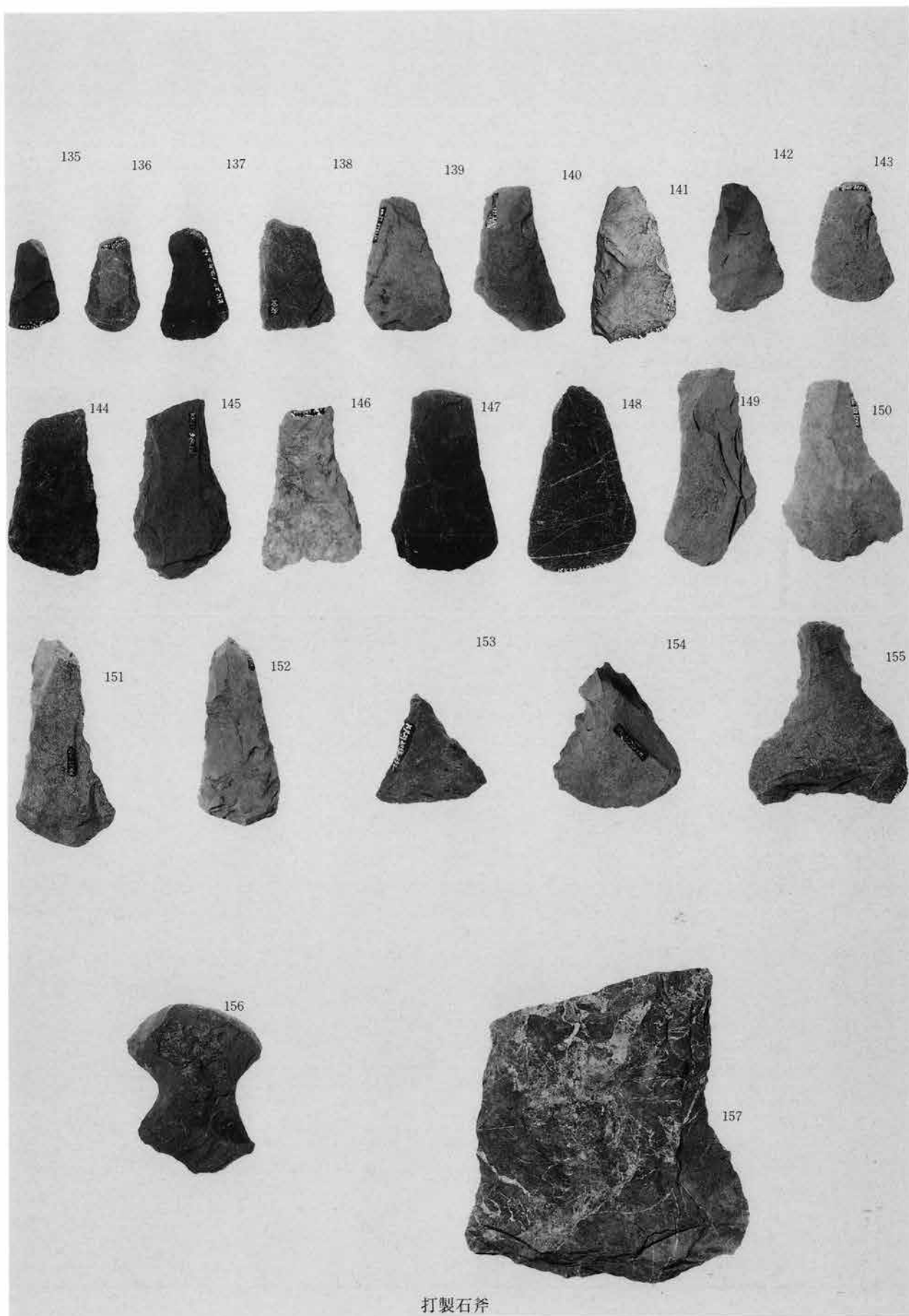
磨製石斧



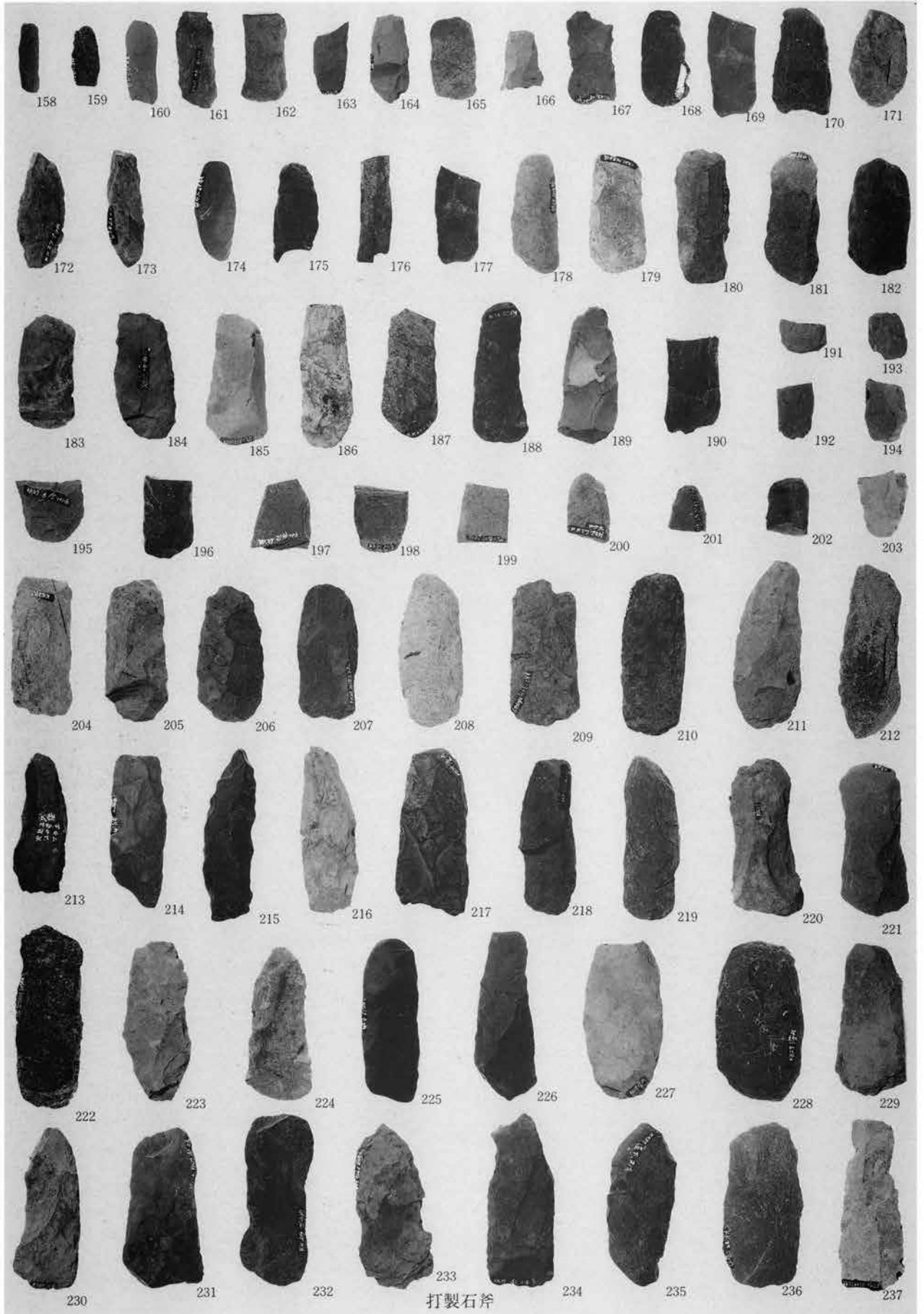
打製石斧

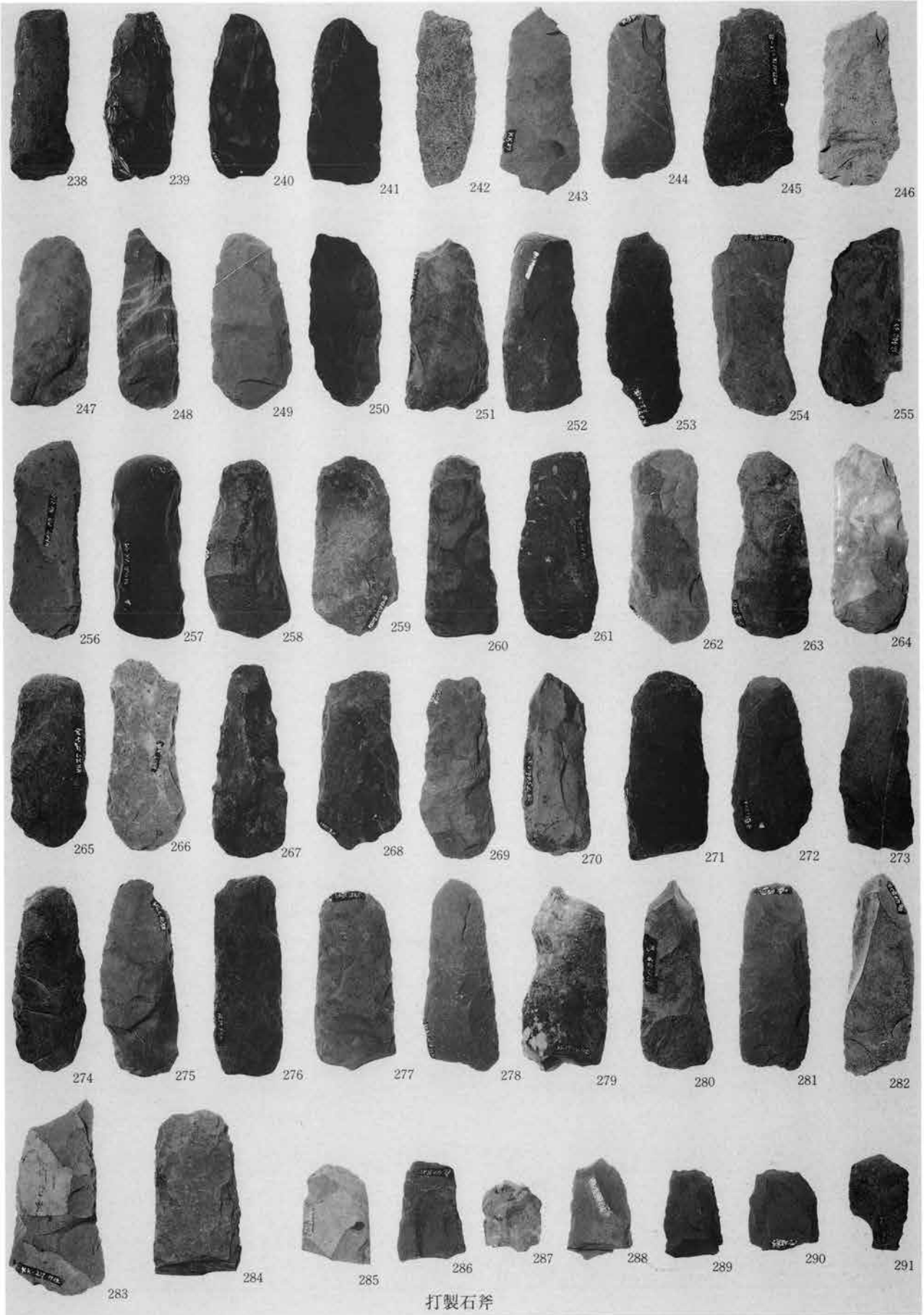


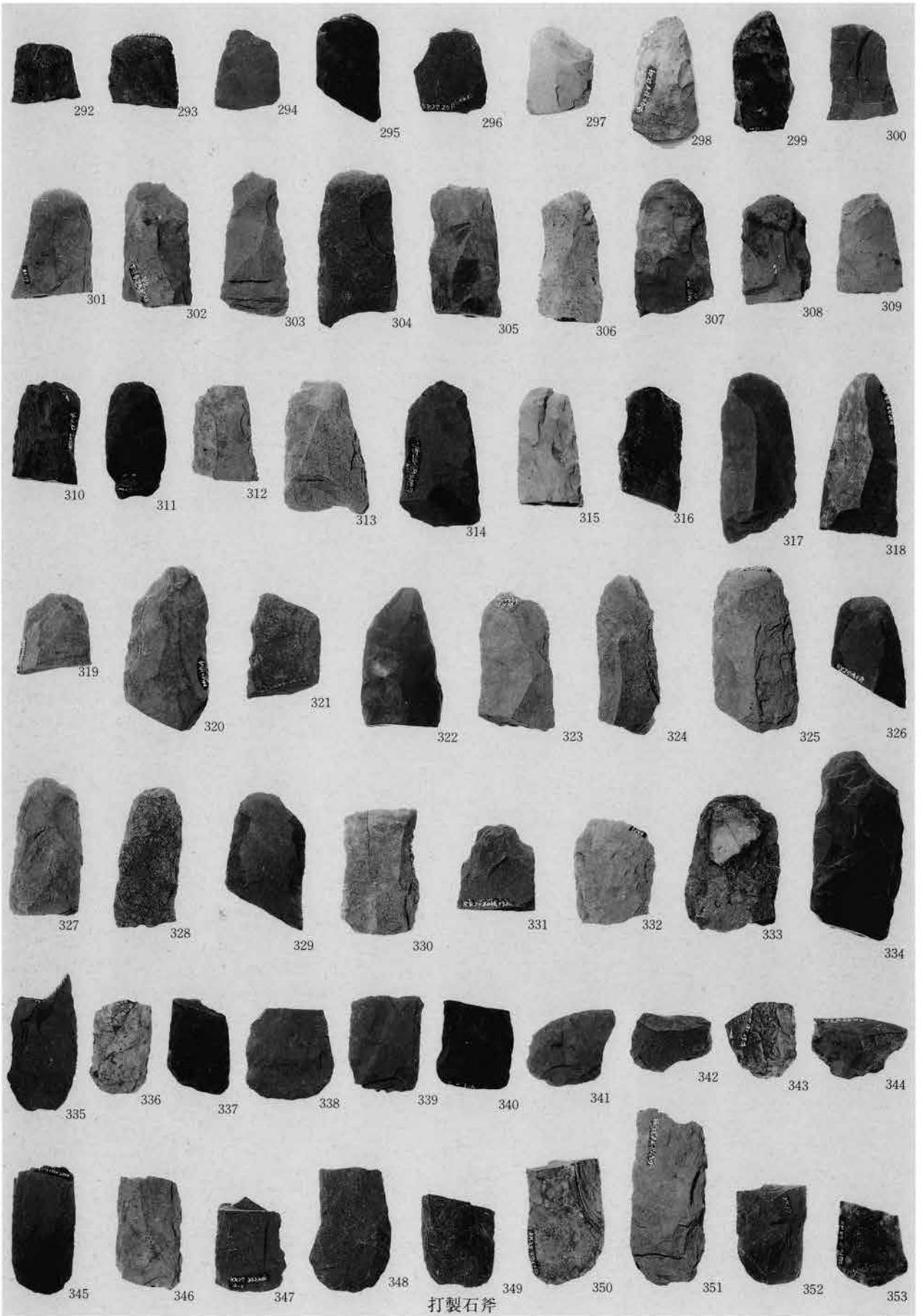


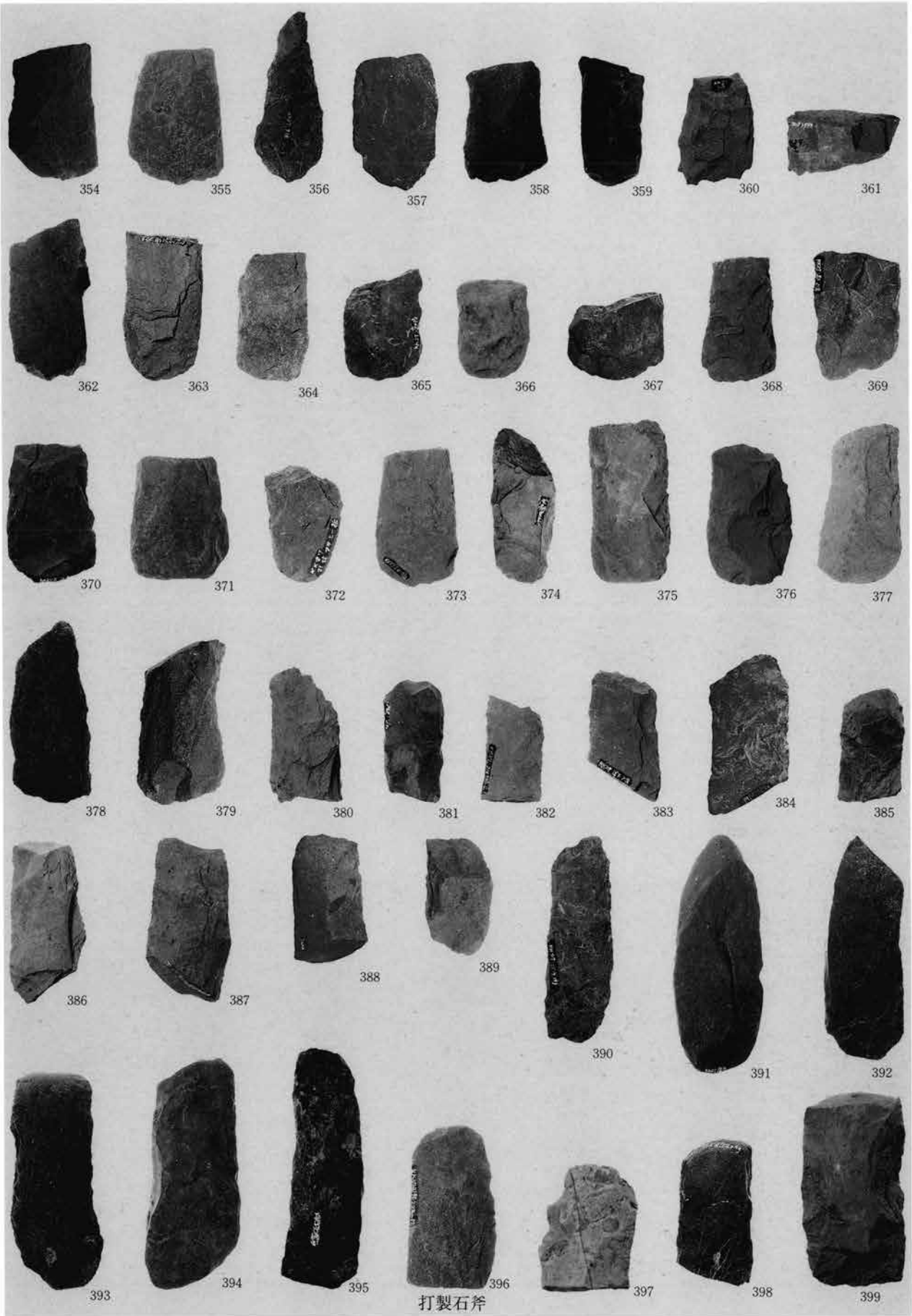


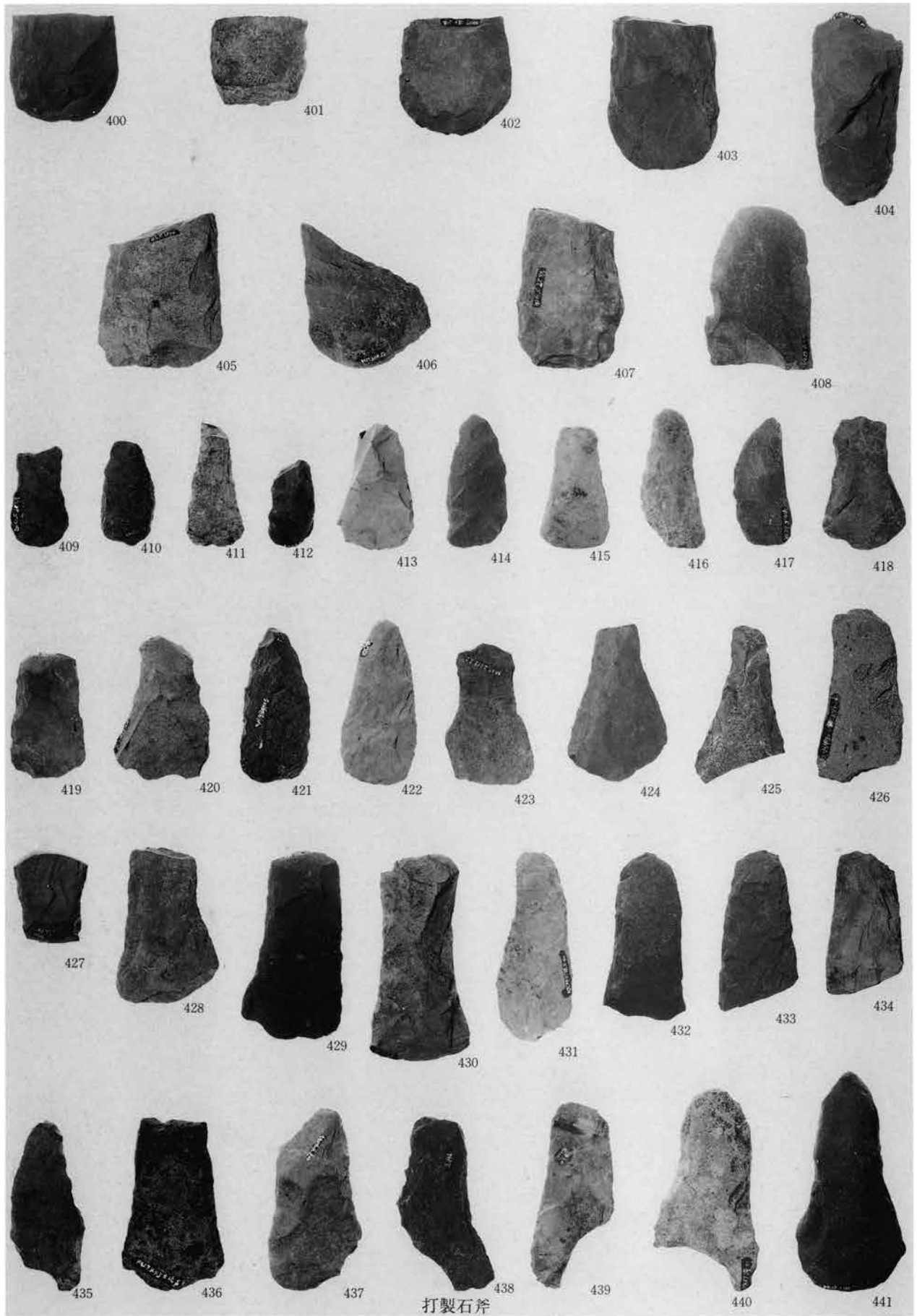
打製石斧

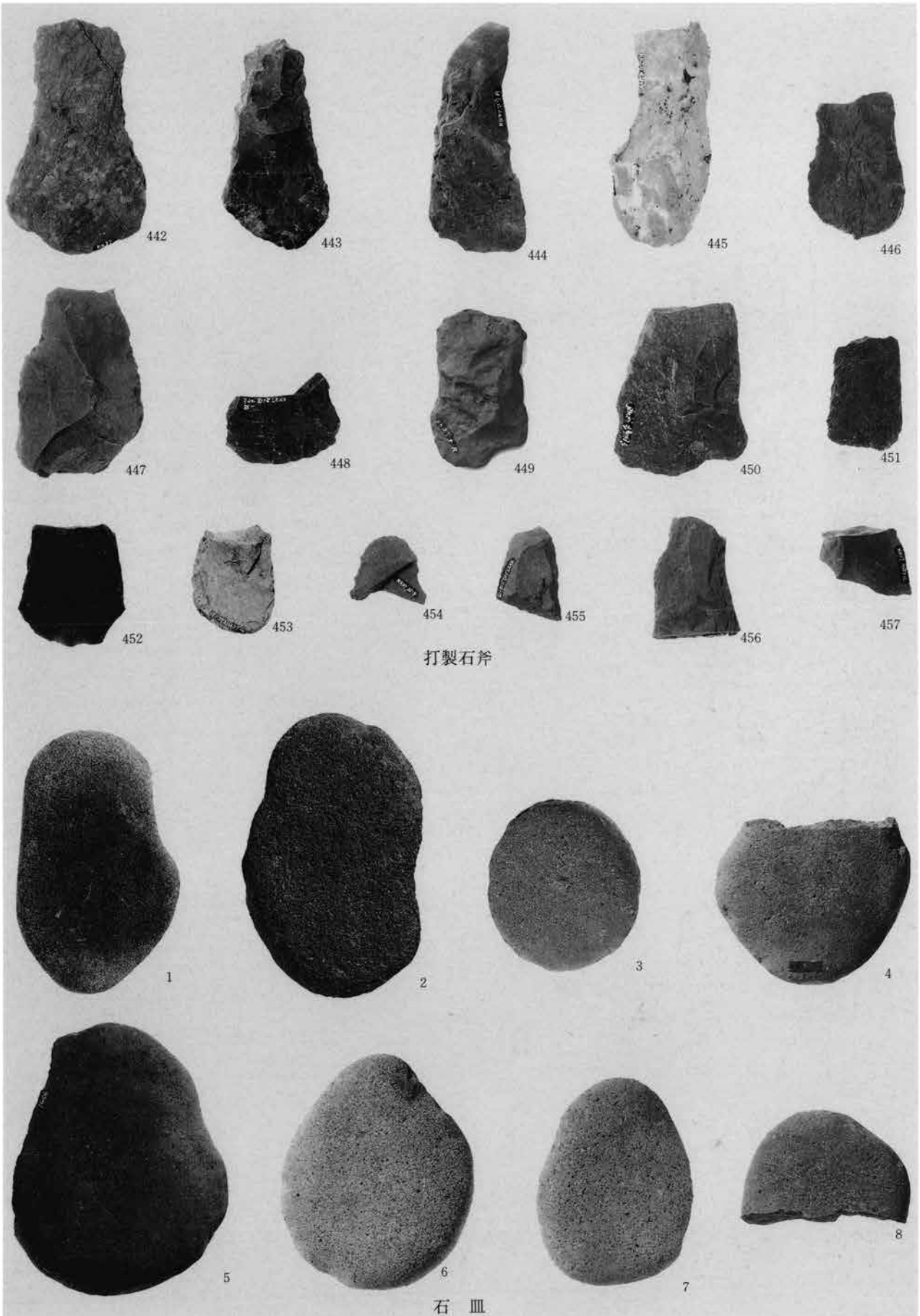


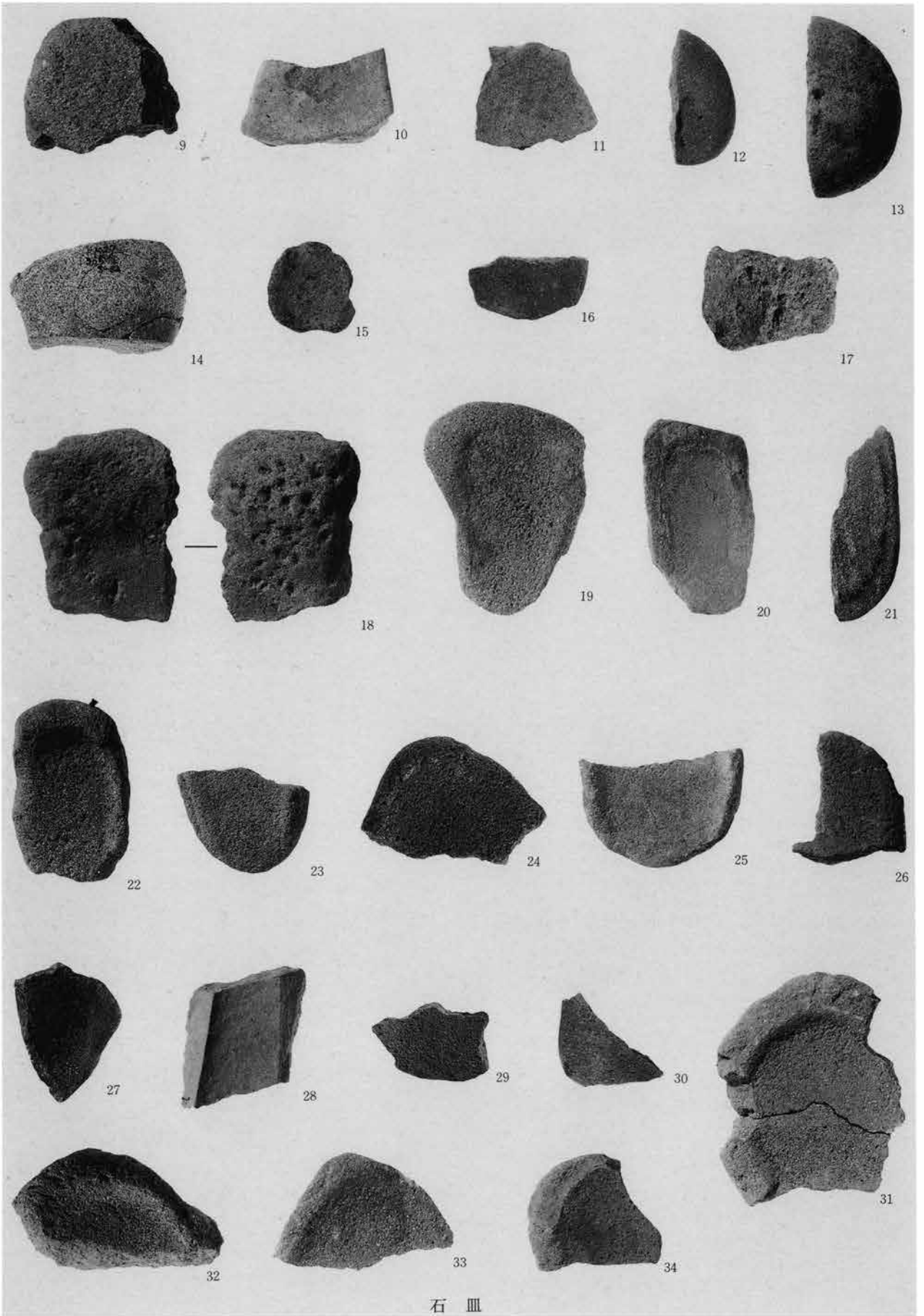


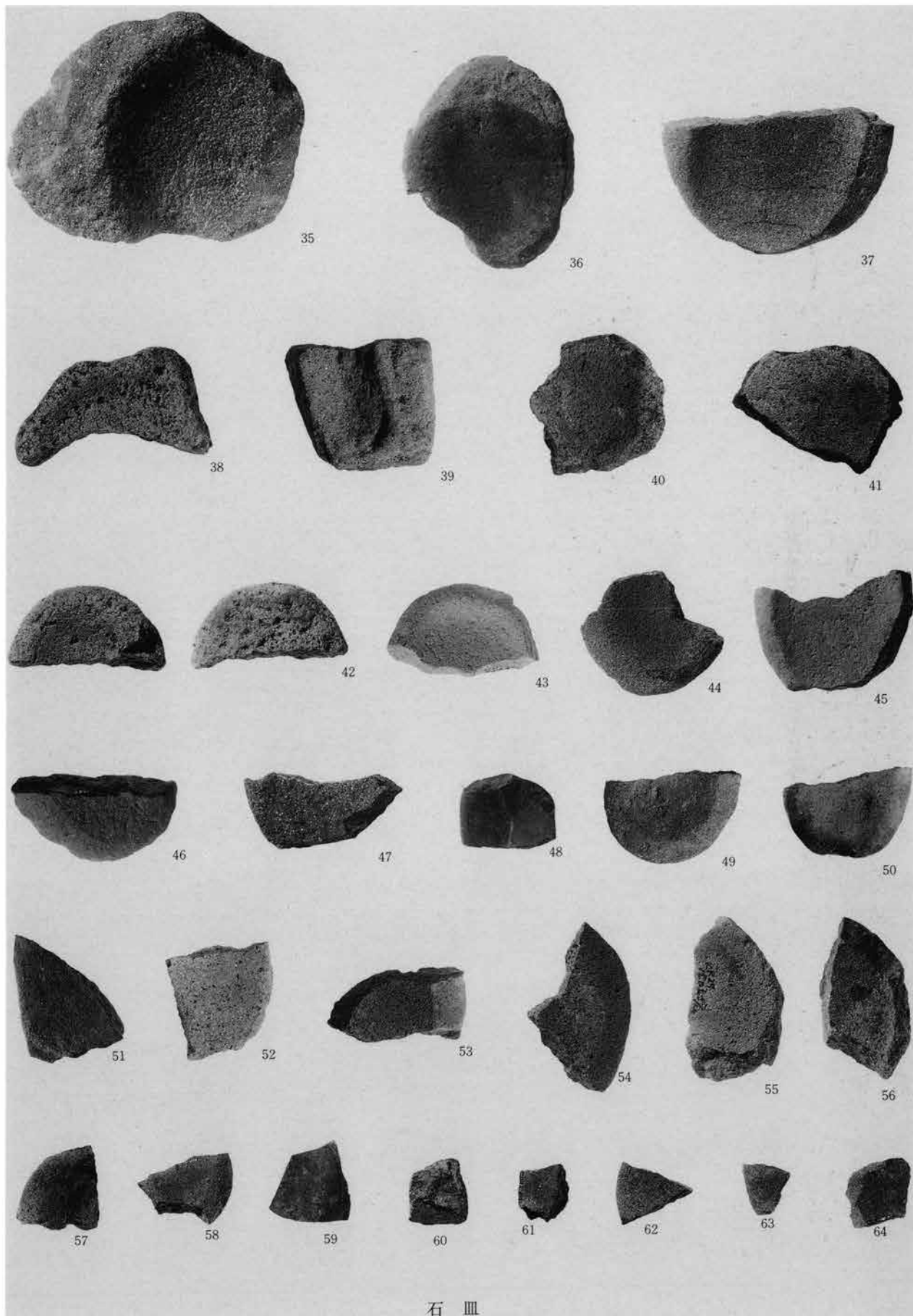




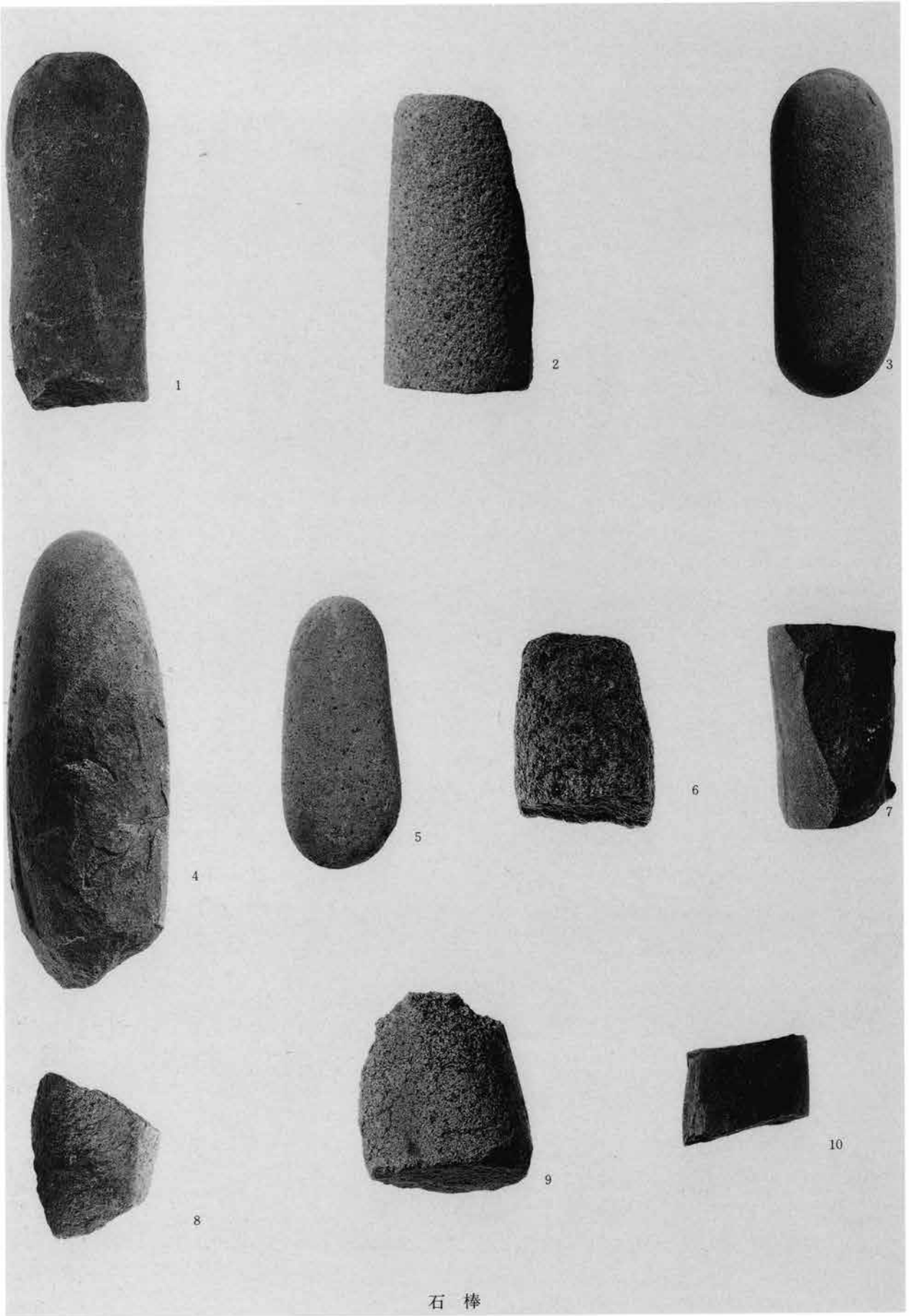




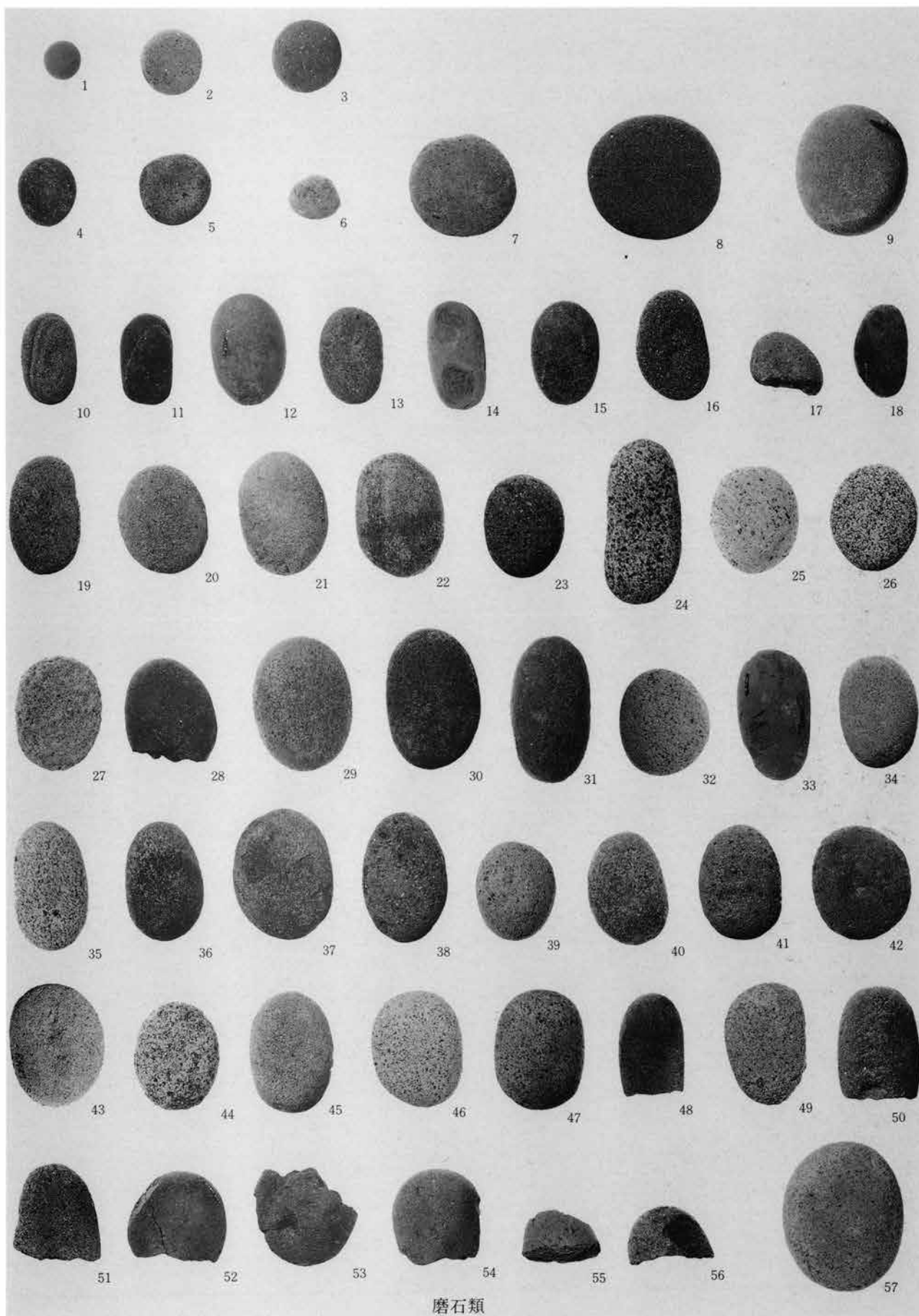


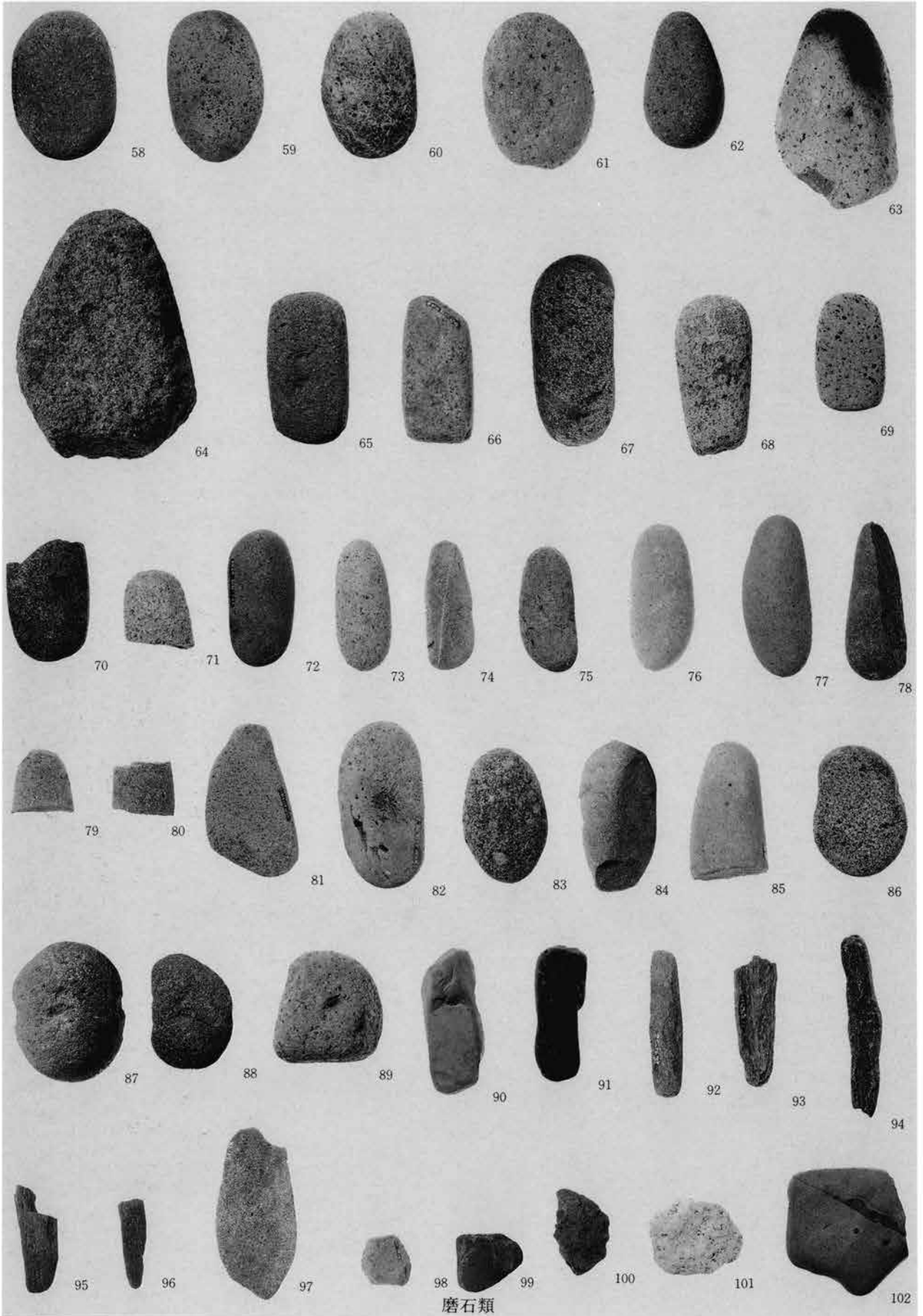


石 皿



石棒







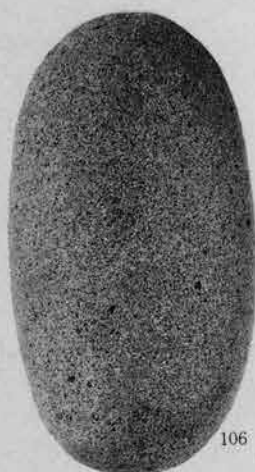
103



104



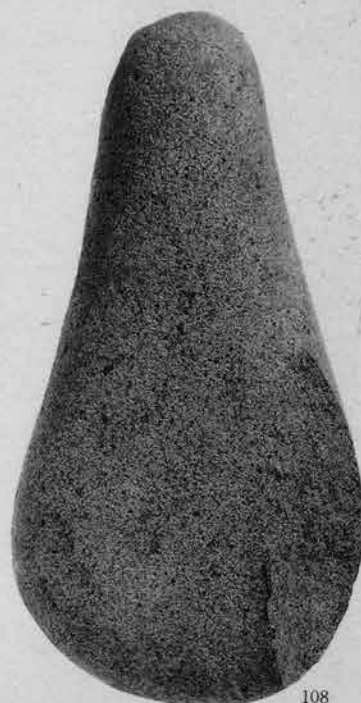
105



106



107



108

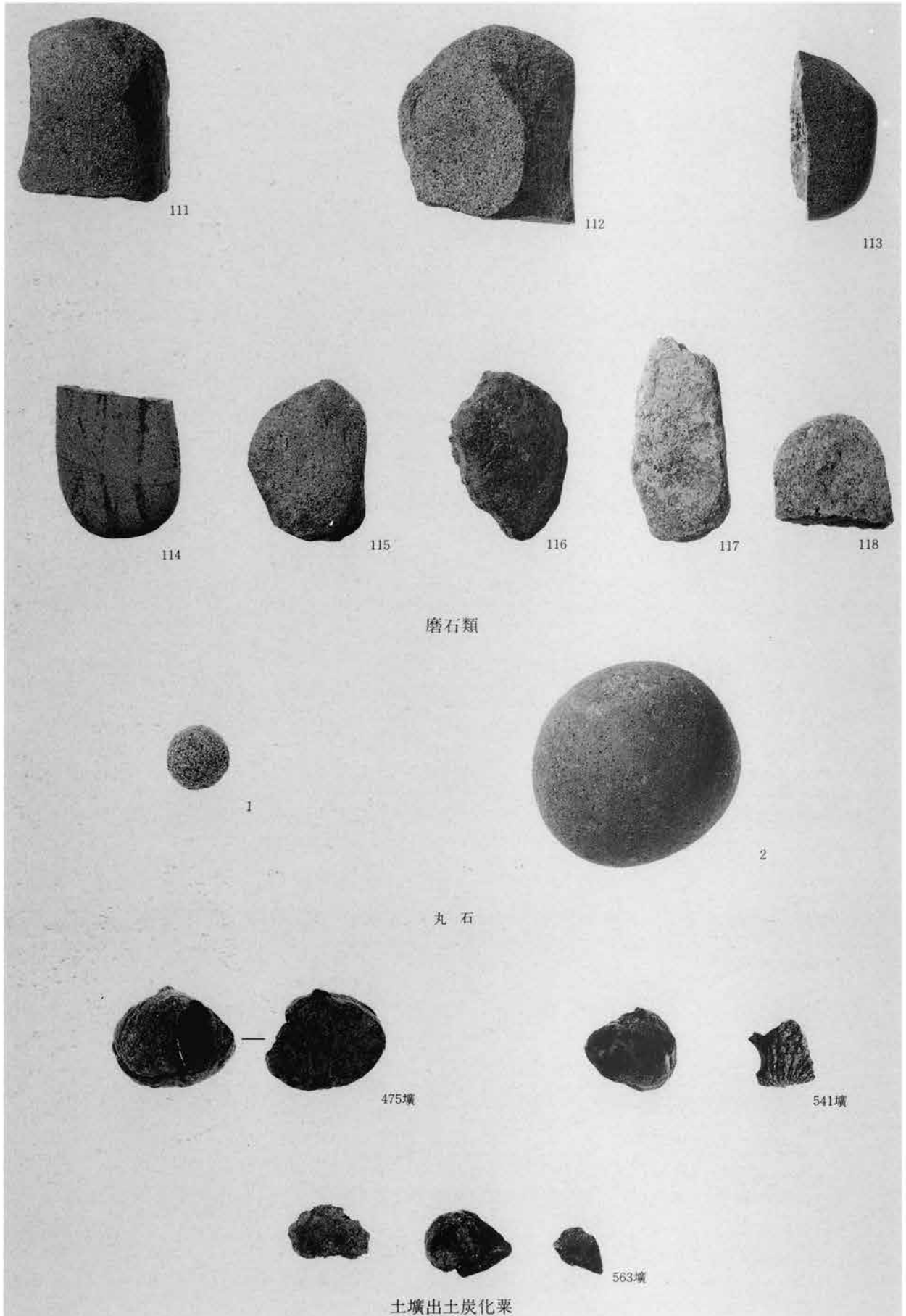


109



110

磨石類





2号住居址全景



3号住居址全景



4号住居址全景



5号住居址全景



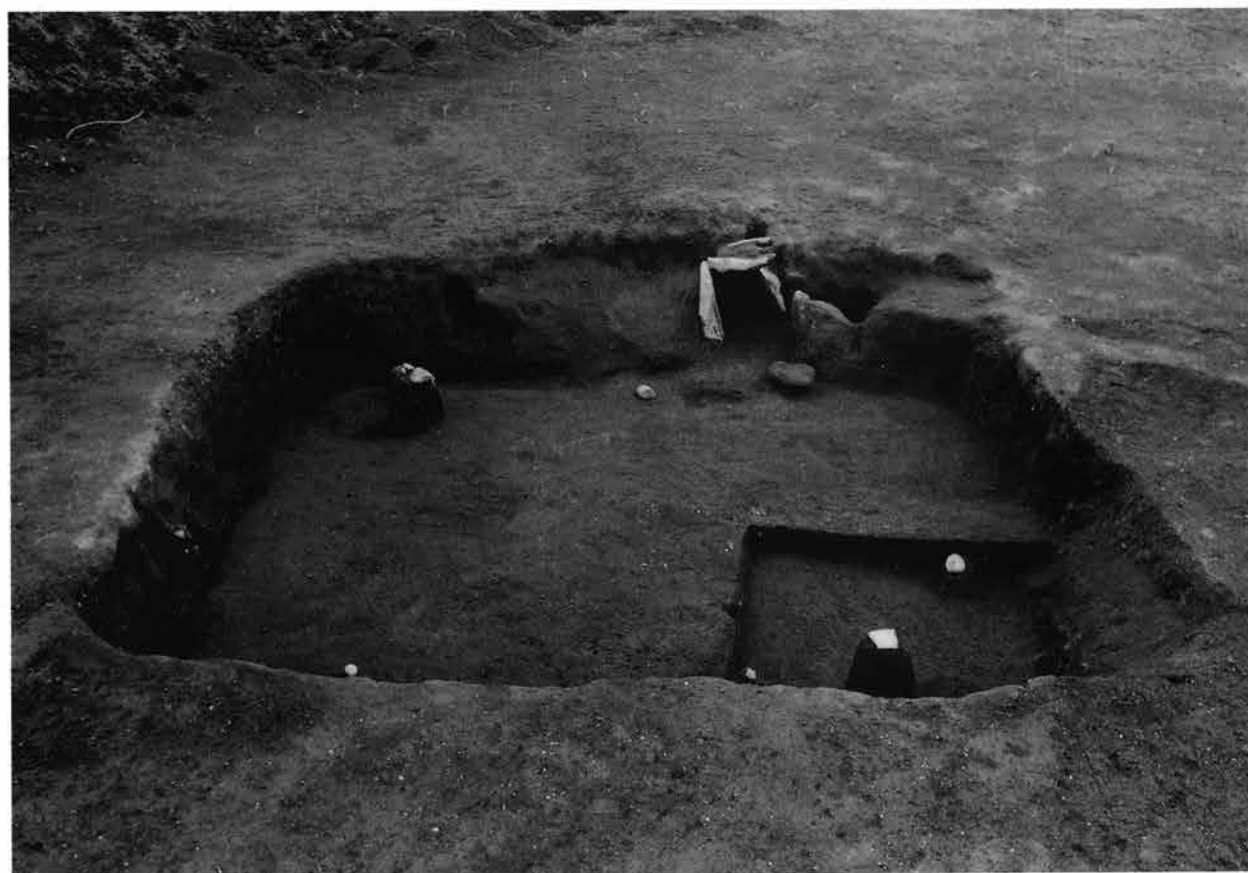
6号住居址全景



8・10号住居址全景



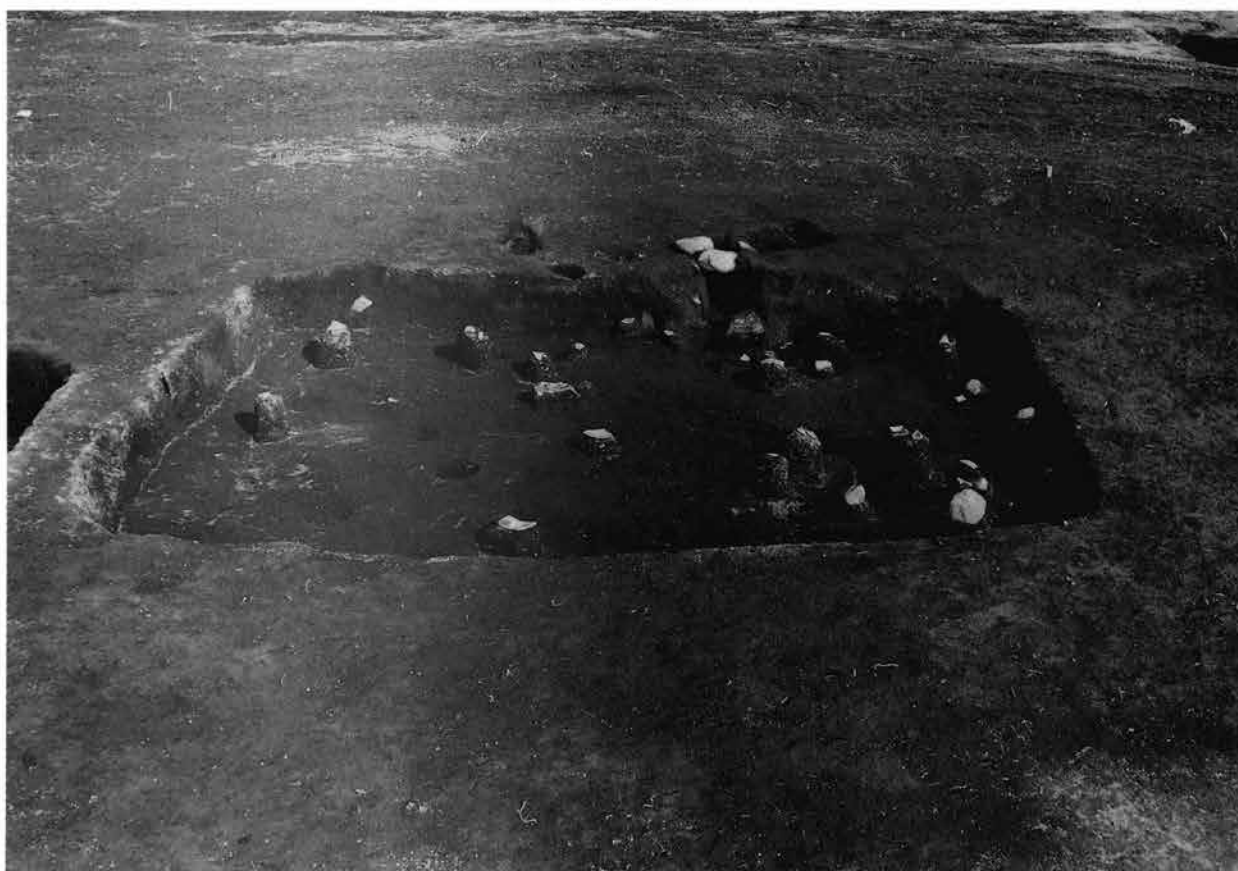
12号住居址全景



13号住居址全景



14号住居址全景



15号住居址全景



17号住居址全景



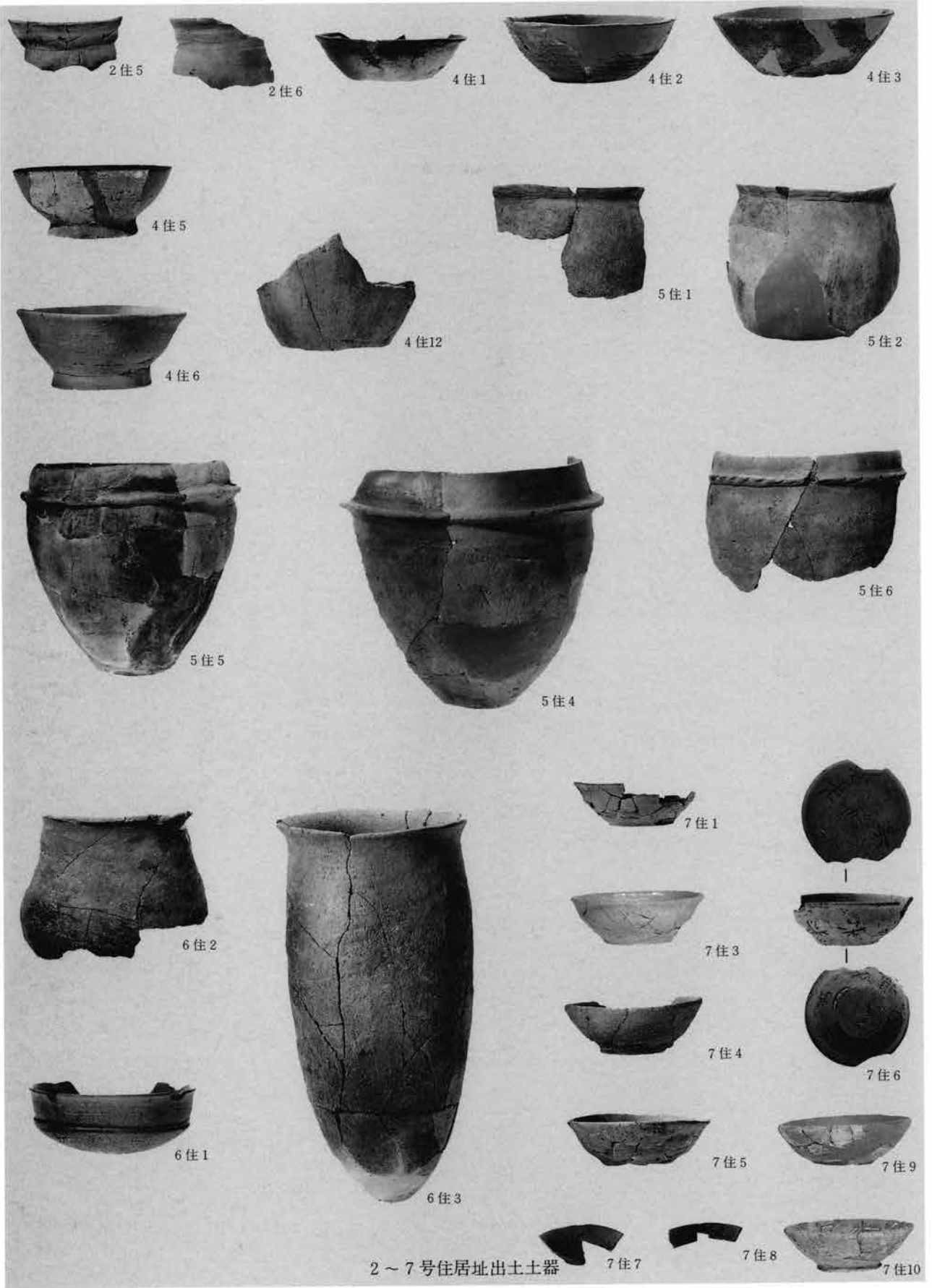
19号住居址全景



濠全景



濠全景





8住1



8住2



9住1



12住1



13住1



14住1



14住2



14住3



14住14



15住1



15住7



15住8



15住23



15住27



15住31



15住32



17住1



17住4



17住5



19住1



19住7



17住6



19住3

8~19号住居址出土土器



遺構外出土土器

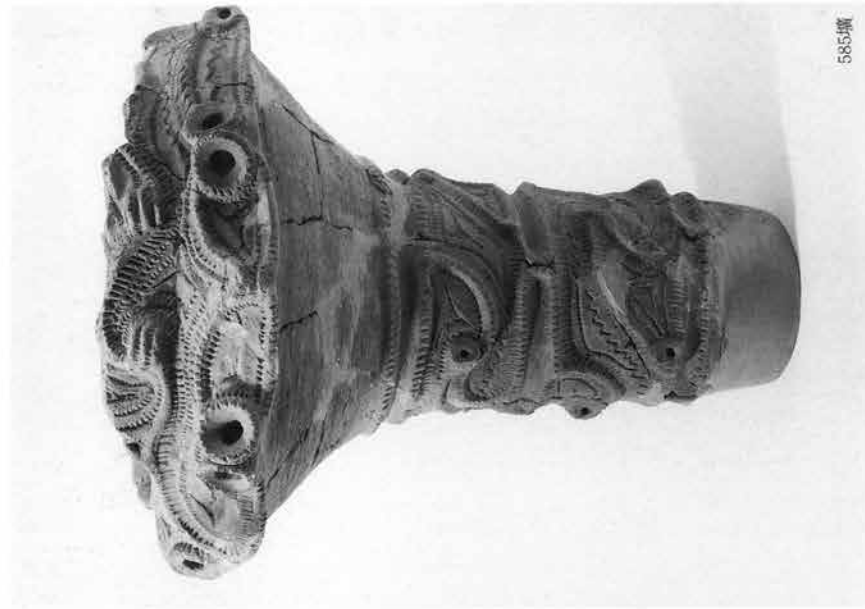


35墳



37墳

土壌出土遺物

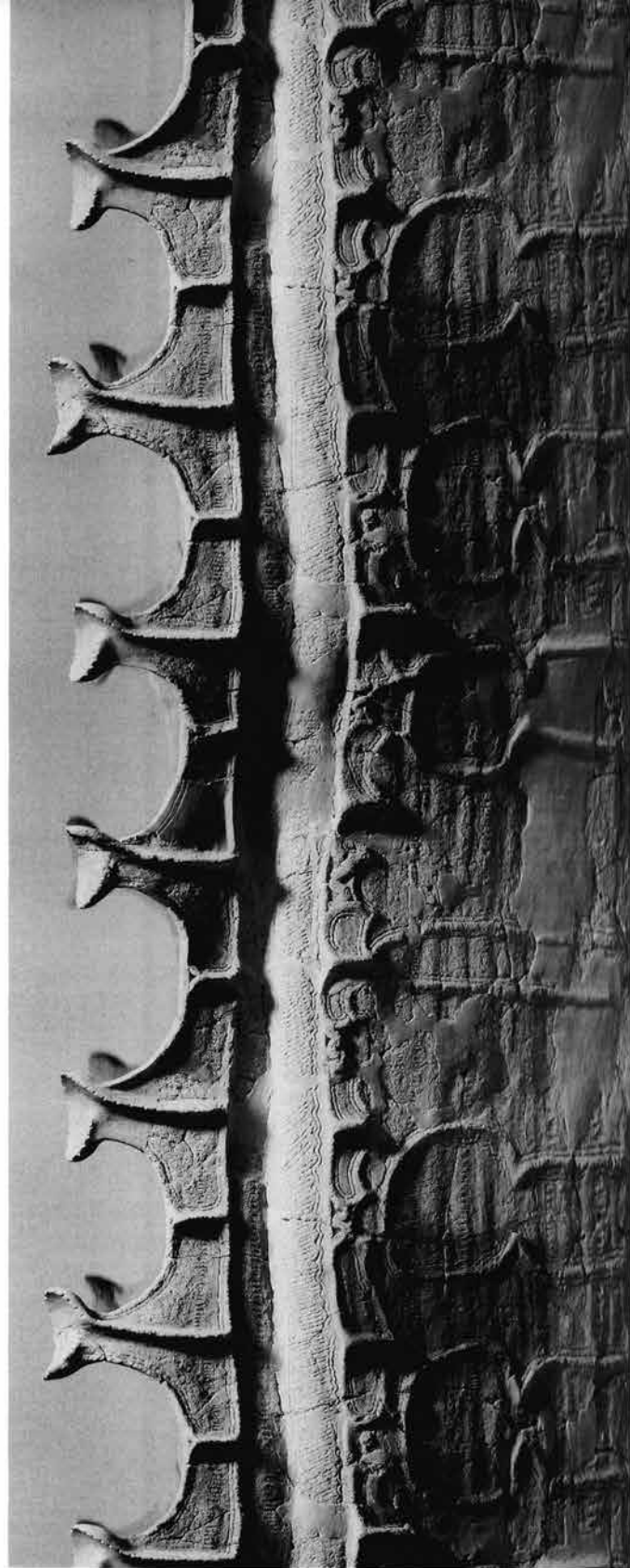
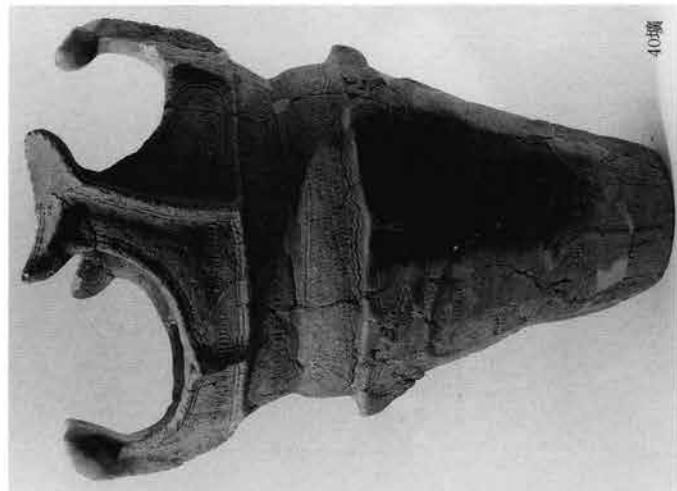


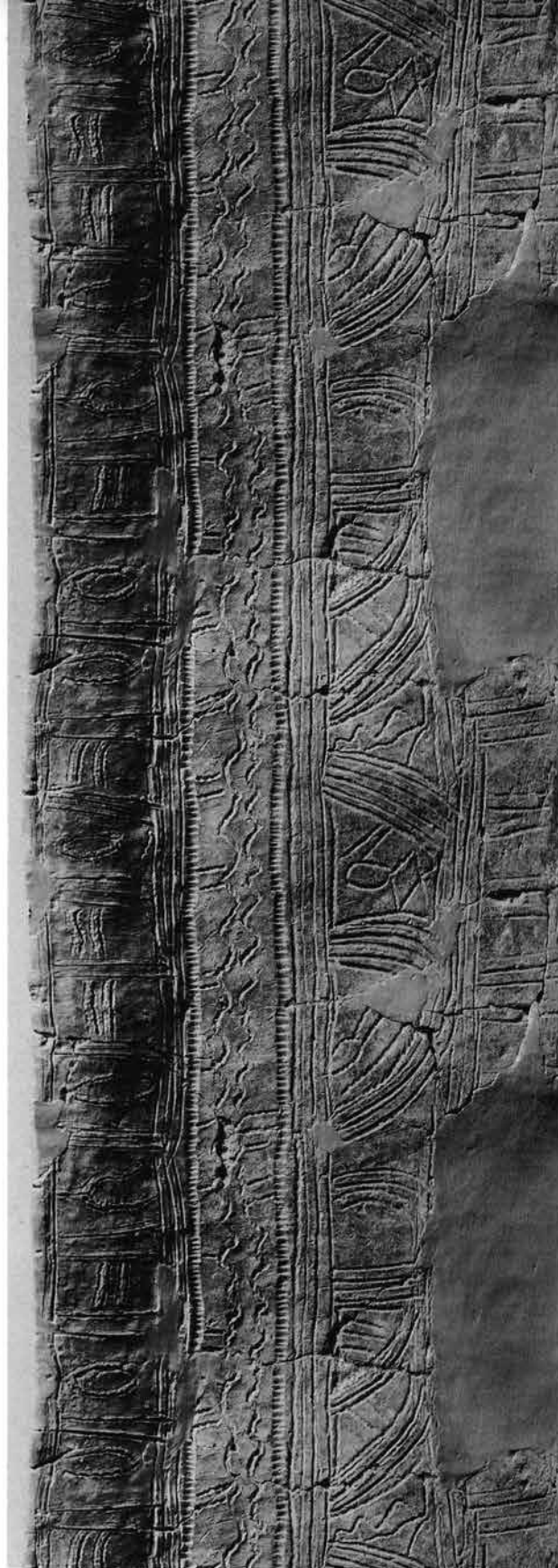
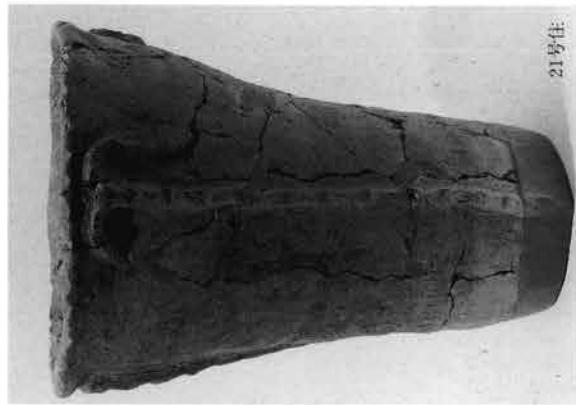


133罐

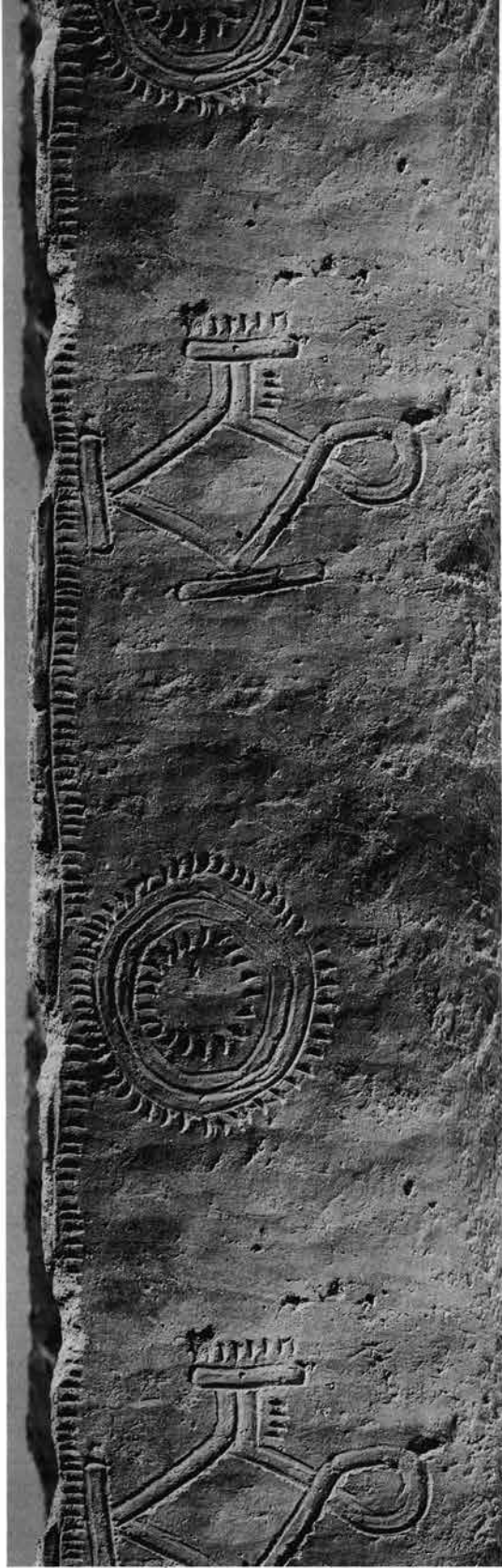


77罐









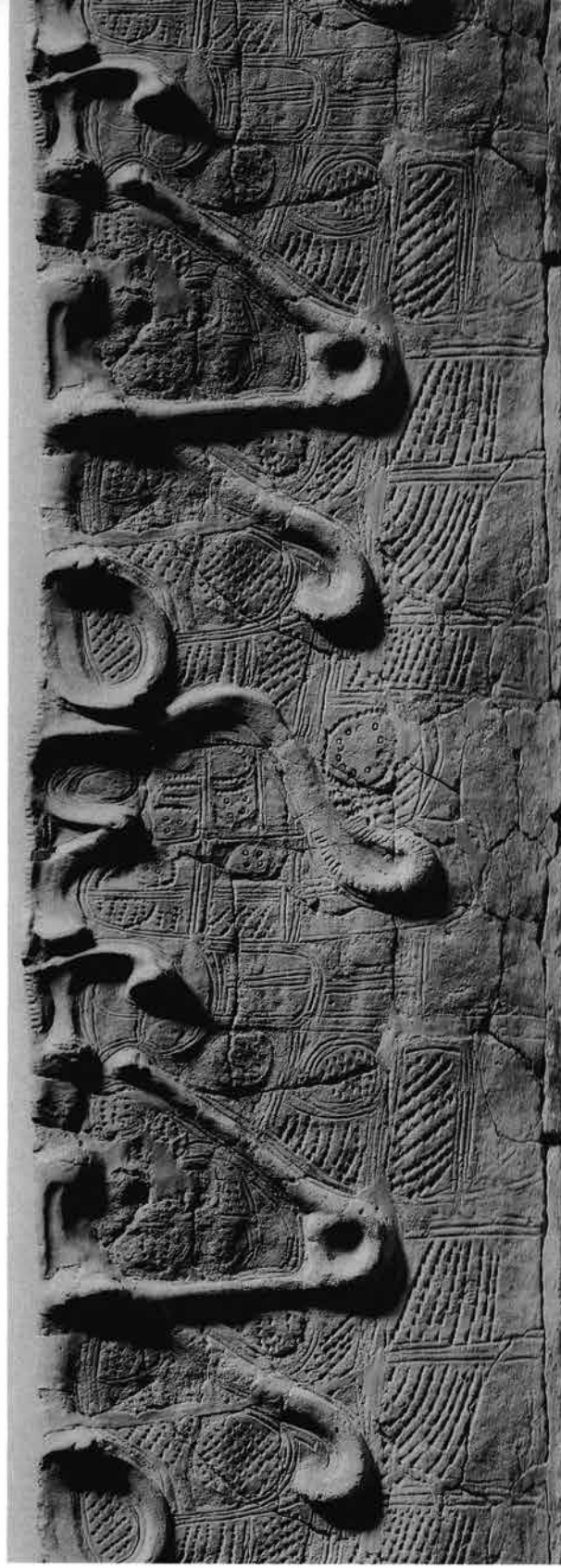


470號

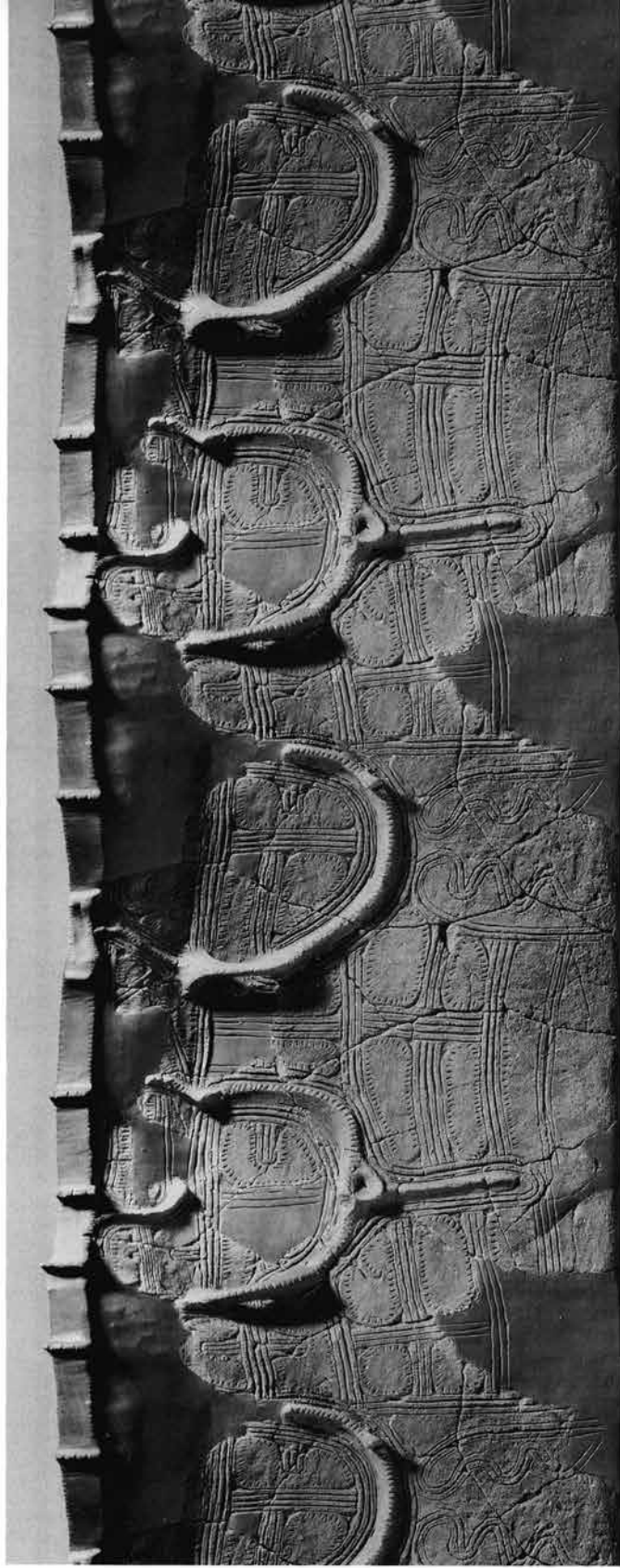
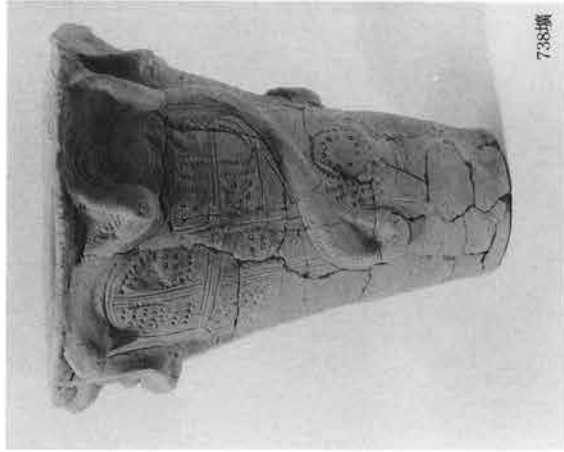


645號

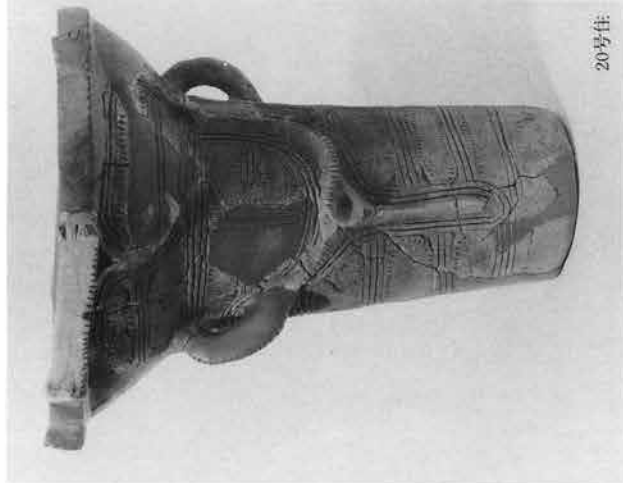




738城



20号住



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第95集

房谷戸遺跡 I

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第27集 —

平成元年9月25日 印刷

平成元年9月30日 発行

編集・発行／群馬県教育委員会

前橋市大手町1丁目1番1号

電話 (0272) 23-1111

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

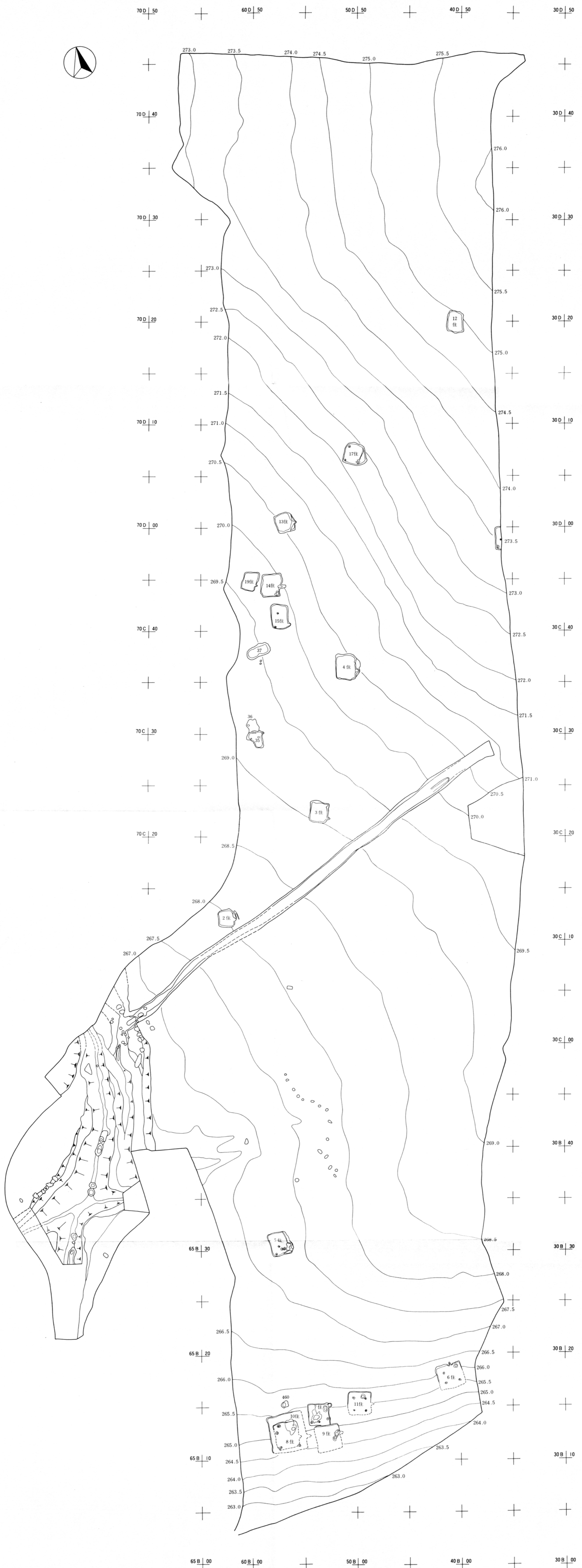
勢多郡北橋村下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社



付図 I 縄文時代遺構配置全体図



付図2 古墳～中世遺構配置全体図

0 20m



付図3 房谷戸館址